２０２５年度

星槎道都大学

授業計画（シラバス）

星槎道都大学
SEISA DOHTO UNIVERSITY

目　　次

1304001 数学入門　横山　哲也 ２Ｑ ・・・ 1
1401000 哲学　尾崎　有紀 １Ｑ ・・・ 3
2101001 情報基礎演習Ｉ (M-A)　薦田　勇智 前期 ・・・ 5
2101002 情報基礎演習Ｉ (S)　薦田　勇智 前期 ・・・ 7
2101003 情報基礎演習Ｉ (D)　薦田　勇智 前期 ・・・ 9
2101004 情報基礎演習Ｉ (A)　薦田　勇智 前期 ・・・ 11
2101005 情報基礎演習Ｉ (M-B)　薦田　勇智 前期 ・・・ 13
2101006 情報基礎演習Ｉ (M-C)　薦田　勇智 前期 ・・・ 15
3101101 基礎英語Ｉ (M-信濃)　信濃　吉彦 １Ｑ ・・・ 17
3101102 基礎英語Ｉ (M-岡島)　岡島　徳昭 １Ｑ ・・・ 19
3101103 基礎英語Ｉ (M-石田)　石田　暁子 １Ｑ ・・・ 21
3101104 基礎英語Ｉ (M-井坂)　井坂　肇 １Ｑ ・・・ 23
3101105 基礎英語Ｉ (SDA-西崎)　西崎　毅 １Ｑ ・・・ 25
3101106 基礎英語Ｉ (SDA-宮嶋)　宮嶋　達也 １Ｑ ・・・ 27
3101107 基礎英語Ｉ (SDA-横田)　横田　肇 １Ｑ ・・・ 29
3101108 基礎英語Ｉ (SDA-井坂)　井坂　肇 １Ｑ ・・・ 31
3201101 ﾄﾞｲﾂ語入門Ｉ (M)　河田　一郎 １Ｑ ・・・ 33
3201102 ﾄﾞｲﾂ語入門Ｉ (S・D・A)　河田　一郎 １Ｑ ・・・ 35
4101001 ｽﾎﾟｰﾂ総合 (M-A)　佐藤和・米野・岡田 前期 ・・・ 37
4101002 ｽﾎﾟｰﾂ総合 (M-B)　佐藤和・米野・岡田 前期 ・・・ 39
4101003 ｽﾎﾟｰﾂ総合 (M-C)　佐藤和・米野・岡田 前期 ・・・ 41
4101004 ｽﾎﾟｰﾂ総合 (S-A)　三嶋・天野 前期 ・・・ 43
4101005 ｽﾎﾟｰﾂ総合 (S-B)　三嶋・天野 前期 ・・・ 45
4101006 ｽﾎﾟｰﾂ総合 (DA-M)　石井　祐治 前期 ・・・ 47
4101007 ｽﾎﾟｰﾂ総合 (DA-W)　岡田　武志 前期 ・・・ 49
4101008 ｽﾎﾟｰﾂ総合 (D-B)　石井　祐治 前期 ・・・ 51
4101009 ｽﾎﾟｰﾂ総合 (A-B)　三嶋　康嗣 前期 ・・・ 53
5301001 基本製図　向井　正伸 前期 ・・・ 55
5401000 経営学総論　信濃　吉彦 １Ｑ ・・・ 57
5403000 経営組織論　猪尾　紀幸 ２Ｑ ・・・ 59
6200501 ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ演習 (M)　河野　善文 １Ｑ ・・・ 61
6200502 ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ演習 (S)　後藤　啓倫 １Ｑ ・・・ 63
6200503 ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ演習 (D)　三上　いずみ １Ｑ ・・・ 65
6200504 ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ演習 (A)　赤木　良子 前期 ・・・ 67
7023100 精神保健福祉の原理Ｉ　西野　克俊 １Ｑ ・・・ 69
7210001 専門演習ＩＡ　由水　伸 前期 ・・・ 71
7210002 専門演習ＩＡ　信濃　吉彦 前期 ・・・ 73
7210003 専門演習ＩＡ　河野　善文 前期 ・・・ 75
7210006 専門演習ＩＡ　岡島　徳昭 前期 ・・・ 77
7210008 専門演習ＩＡ　青山　浩之 前期 ・・・ 79
7210009 専門演習ＩＡ　石山　玄幸 前期 ・・・ 81
7210010 専門演習ＩＡ　天野　雅人 前期 ・・・ 83
7210011 専門演習ＩＡ　石井　祐治 前期 ・・・ 85
7210012 専門演習ＩＡ　篠原　諒介 前期 ・・・ 87
7210014 専門演習ＩＡ　小林　大州介 前期 ・・・ 89
7210064 専門演習ＩＡ　藤根　収 前期 ・・・ 91
7210065 専門演習ＩＡ　松下　守邦 前期 ・・・ 93
7210069 専門演習ＩＡ　吉江　幸子 前期 ・・・ 95
7210070 専門演習ＩＡ　西野　克俊 前期 ・・・ 97
7210071 専門演習ＩＡ　畠山　明子 前期 ・・・ 99
7210074 専門演習ＩＡ　堀川　厚志 前期 ・・・ 101
7210075 専門演習ＩＡ　宮崎　剛司 前期 ・・・ 103
7210076 専門演習ＩＡ　蛯名　美穂 前期 ・・・ 105
7210078 専門演習ＩＡ　吉澤　英里 前期 ・・・ 107
7305101 基礎ﾃﾞｻﾞｲﾝＩ　林　春生 ２Ｑ ・・・ 109
7383161 専門研究ＩＡ　北嶋　洋一 前期集中 ・・・ 111
7383164 専門研究ＩＡ　安田　祐造 前期集中 ・・・ 113
7383165 専門研究ＩＡ　林　春生 前期集中 ・・・ 115
7383166 専門研究ＩＡ　梅田　力 前期集中 ・・・ 117
7383168 専門研究ＩＡ　三上　いずみ 前期集中 ・・・ 119
7383170 専門研究ＩＡ　竹内　美帆 前期集中 ・・・ 121
7383171 専門研究ＩＡ　浩而　魅諭 前期集中 ・・・ 123
7383172 専門研究ＩＡ　堤　美穂子 前期集中 ・・・ 125
7503000 建築設計演習Ｉ　野村　和也 前期 ・・・ 127
7541000 建築表現Ｉ　君　興治 前期 ・・・ 129
7623061 建築研究Ｉ　安藤　淳一 前期集中 ・・・ 131
7623062 建築研究Ｉ　伊藤　裕康 前期集中 ・・・ 133
7623063 建築研究Ｉ　佐藤　善太郎 前期集中 ・・・ 135
7623064 建築研究Ｉ　佐々木　哲之 前期集中 ・・・ 137
7623066 建築研究Ｉ　長森　正 前期集中 ・・・ 139
7623067 建築研究Ｉ　小笠原　健 前期集中 ・・・ 141
7623068 建築研究Ｉ　君　興治 前期集中 ・・・ 143
7623069 建築研究Ｉ　向井　正伸 前期集中 ・・・ 145
7623071 建築研究Ｉ　赤木　良子 前期集中 ・・・ 147
9101100 教職論　木村　浩紀 １Ｑ ・・・ 149
T99999 テスト用講義１　テスト教員１ 前期 ・・・ 151
1305000 統計学入門 (M)　伊藤　裕康 ２Ｑ ・・・ 153
1305001 統計学入門 (SDA)　伊藤　裕康 ２Ｑ ・・・ 155
1404000 法学　青山　浩之 ２Ｑ ・・・ 157
3102101 基礎英語Ⅱ (M-信濃)　信濃　吉彦 ２Ｑ ・・・ 159
3102102 基礎英語Ⅱ (M-岡島)　岡島　徳昭 ２Ｑ ・・・ 161
3102103 基礎英語Ⅱ (M-石田)　石田　暁子 ２Ｑ ・・・ 163
3102104 基礎英語Ⅱ (M-井坂)　井坂　肇 ２Ｑ ・・・ 165
3102105 基礎英語Ⅱ (SDA-西崎)　西崎　毅 ２Ｑ ・・・ 167
3102106 基礎英語Ⅱ (SDA-宮嶋)　宮嶋　達也 ２Ｑ ・・・ 169
3102107 基礎英語Ⅱ (SDA-横田)　横田　肇 ２Ｑ ・・・ 171
3102108 基礎英語Ⅱ (SDA-井坂)　井坂　肇 ２Ｑ ・・・ 173
5402000 簿記論　岩立　顕一郎 ２Ｑ ・・・ 175
6101061 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ　竹内　美帆 前期 ・・・ 177
6101062 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ　後藤　啓倫 前期 ・・・ 179
6101063 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ　戸佐　晃一 前期 ・・・ 181
6101064 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ　米野　宏 前期 ・・・ 183
6101065 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ　佐藤　和裕 前期 ・・・ 185

6101068 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA　三嶋　康嗣 前期 ・・・ 187
6101069 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA　井坂　肇 前期 ・・・ 189
6101071 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA　石井　祐治 前期 ・・・ 191
6101072 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA　篠原　諒介 前期 ・・・ 193
6101074 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA　杉本　大輔 前期 ・・・ 195
6101075 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA　横田　肇 前期 ・・・ 197
6101076 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA　櫻井　美帆子 前期 ・・・ 199
6101077 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA　湯浅　頼佳 前期 ・・・ 201
6101078 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA　尾西　則昭 前期 ・・・ 203
6101079 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA　西崎　毅 前期 ・・・ 205
6101082 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA　宮嶋　達也 前期 ・・・ 207
6101085 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA　向井　正伸 前期 ・・・ 209
6101086 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA　佐藤　恵利 前期 ・・・ 211
6101087 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA　千葉　聡美 前期 ・・・ 213
6101089 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA　河田　一郎 前期 ・・・ 215
6101090 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA　大島　康雄 前期 ・・・ 217
6101093 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA　木村　浩紀 前期 ・・・ 219
6101094 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA　薦田　勇智 前期 ・・・ 221
6101095 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA　佐藤　雅一 前期 ・・・ 223
6101096 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA　塩﨑　大輔 前期 ・・・ 225
6101097 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA(再)　河田　一郎 前期 ・・・ 227
6101098 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA　安田　祐造 前期 ・・・ 229
6101100 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA　堤　美穂子 前期 ・・・ 231
6101101 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA　浩而　魅諭 前期 ・・・ 233
6101102 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA　赤木　良子 前期 ・・・ 235
6101103 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA　伊藤　裕康 前期 ・・・ 237
6101104 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA　岡田　武志 前期 ・・・ 239
6210101 ｷｬﾘｱ支援演習Ⅱ(M)　井坂　肇 前期 ・・・ 241
6210102 ｷｬﾘｱ支援演習Ⅱ(S)　後藤　啓倫 前期 ・・・ 243
6210103 ｷｬﾘｱ支援演習Ⅱ(D)　堤　美穂子 前期 ・・・ 245
6210104 ｷｬﾘｱ支援演習Ⅱ(A)　伊藤　裕康 前期 ・・・ 247
7021100 現代の精神保健の課題と支援Ⅰ　近藤　亜弥 ２Ｑ ・・・ 249
7714001 中小企業論　石山　玄幸 １Ｑ ・・・ 251
7718000 ｽﾎﾟｰﾂ心理学　佐藤　和裕 ２Ｑ ・・・ 253
7819000 ｲﾗｽﾄ漫画概論Ⅰ　竹内　美帆 前期 ・・・ 255
1113100 芸術へのｱﾌﾟﾛｰﾁ　梅田　力 ２Ｑ ・・・ 257
3103101 英語入門Ⅰ (M)　岡島　徳昭 ２Ｑ ・・・ 259
3103102 英語入門Ⅰ (S)　横田　肇 ２Ｑ ・・・ 261
3103103 英語入門Ⅰ (D・A)　宮嶋　達也 ２Ｑ ・・・ 263
3203101 中国語入門Ⅰ　孫　暢 ２Ｑ ・・・ 265
5206001 ﾃﾞｯｻﾝⅠ (A)　橘　春香 前期 ・・・ 267
5206002 ﾃﾞｯｻﾝⅠ (B)　橘　春香 前期 ・・・ 269
7212001 専門演習ⅡA　由水　伸 前期集中 ・・・ 271
7212002 専門演習ⅡA　信濃　吉彦 前期集中 ・・・ 273
7212003 専門演習ⅡA　河野　善文 前期集中 ・・・ 275
7212006 専門演習ⅡA　岡島　徳昭 前期集中 ・・・ 277
7212008 専門演習ⅡA　青山　浩之 前期集中 ・・・ 279
7212009 専門演習ⅡA　石山　玄幸 前期集中 ・・・ 281
7212010 専門演習ⅡA　天野　雅人 前期集中 ・・・ 283
7212011 専門演習ⅡA　石井　祐治 前期集中 ・・・ 285
7212012 専門演習ⅡA　篠原　諒介 前期集中 ・・・ 287
7212014 専門演習ⅡA　小林　大州介 前期集中 ・・・ 289
7212063 専門演習ⅡA　上原　正希 前期集中 ・・・ 291
7212064 専門演習ⅡA　藤根　収 前期集中 ・・・ 293
7212065 専門演習ⅡA　松下　守邦 前期集中 ・・・ 295
7212068 専門演習ⅡA　大島　康雄 前期集中 ・・・ 297
7212069 専門演習ⅡA　吉江　幸子 前期集中 ・・・ 299
7212070 専門演習ⅡA　西野　克俊 前期集中 ・・・ 301
7212071 専門演習ⅡA　畠山　明子 前期集中 ・・・ 303
7212074 専門演習ⅡA　堀川　厚志 前期集中 ・・・ 305
7212075 専門演習ⅡA　宮﨑　剛司 前期集中 ・・・ 307
7212076 専門演習ⅡA　蛯名　美穂 前期集中 ・・・ 309
7212079 専門演習ⅡA　吉澤　英里 前期集中 ・・・ 311
7302000 立体構成Ⅰ　梅田　力 前期 ・・・ 313
7305500 ｲﾗｽﾄﾚｰｼｮﾝ基礎Ⅰ　佐藤　正人 前期 ・・・ 315
7387161 専門研究ⅡA　林　春生 前期集中 ・・・ 317
7387162 専門研究ⅡA　上坂　恒章 前期集中 ・・・ 319
7387164 専門研究ⅡA　安田　祐造 前期集中 ・・・ 321
7387165 専門研究ⅡA　北嶋　洋一 前期集中 ・・・ 323
7387166 専門研究ⅡA　梅田　力 前期集中 ・・・ 325
7387168 専門研究ⅡA　三上　いずみ 前期集中 ・・・ 327
7387170 専門研究ⅡA　浩而　魅諭 前期集中 ・・・ 329
7545001 建築計画Ⅱ　安藤　淳一 ２Ｑ ・・・ 331
7557500 建築士のための基礎数学　横山　哲也 １Ｑ ・・・ 333
7625061 建築研究Ⅲ　安藤　淳一 前期集中 ・・・ 335
7625062 建築研究Ⅲ　伊藤　裕康 前期集中 ・・・ 337
7625063 建築研究Ⅲ　佐藤　善太郎 前期集中 ・・・ 339
7625064 建築研究Ⅲ　佐々木　哲之 前期集中 ・・・ 341
7625066 建築研究Ⅲ　長森　正 前期集中 ・・・ 343
7625067 建築研究Ⅲ　小笠原　健 前期集中 ・・・ 345
7625068 建築研究Ⅲ　君　興治 前期集中 ・・・ 347
7625069 建築研究Ⅲ　向井　正伸 前期集中 ・・・ 349
7625071 建築研究Ⅲ　赤木　良子 前期集中 ・・・ 351
7717000 ｽﾎﾟｰﾂ行政学　三嶋　康嗣 １Ｑ ・・・ 353
9103000 教育史　西崎　毅 ２Ｑ ・・・ 355
9106001 教育心理学 (S)　吉澤　英里 １Ｑ ・・・ 357
5303100 建築材料　小笠原　健 ２Ｑ ・・・ 359
6103063 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA　戸佐　晃一 前期 ・・・ 361
6103064 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA　米野　宏 前期 ・・・ 363
6103065 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA　佐藤　和裕 前期 ・・・ 365
6103068 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA　三嶋　康嗣 前期 ・・・ 367
6103069 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA　井坂　肇 前期 ・・・ 369
6103072 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA　篠原　諒介 前期 ・・・ 371
6103073 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA　後藤　啓倫 前期 ・・・ 373
6103074 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA　杉本　大輔 前期 ・・・ 375
6103075 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA　横田　肇 前期 ・・・ 377
6103076 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA　櫻井　美帆子 前期 ・・・ 379
6103077 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA　湯浅　頼佳 前期 ・・・ 381
6103078 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA　尾西　則昭 前期 ・・・ 383
6103079 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA　西崎　毅 前期 ・・・ 385

6103082 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA　宮嶋　達也 前期 ・・・ 387
6103083 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA　横山　哲也 前期 ・・・ 389
6103085 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA　向井　正伸 前期 ・・・ 391
6103086 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA　佐藤　恵利 前期 ・・・ 393
6103089 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA　大島　康雄 前期 ・・・ 395
6103095 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA　竹内　美帆 前期 ・・・ 397
6103096 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA　千葉　聡美 前期 ・・・ 399
6103097 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA　山　本　　一　彦 前期 ・・・ 401
6103099 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA　河田　一郎 前期 ・・・ 403
6103100 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA　木村　浩紀 前期 ・・・ 405
6103101 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA（再）　河田　一郎 前期 ・・・ 407
6103102 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA　薦田　勇智 前期 ・・・ 409
6103103 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA　石井　祐治 前期 ・・・ 411
6103104 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA　安田　祐造 前期 ・・・ 413
6103105 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA　塩﨑　大輔 前期 ・・・ 415
6103108 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA（米野）　米野　宏 前期集中 ・・・ 417
6203001 ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ（S・D・A）　山　本　　一　彦 前期 ・・・ 419
6203002 ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ（M）　山　本　　一　彦 前期 ・・・ 421
7004300 社会福祉の原理と政策Ⅰ　上原　正希 １Ｑ ・・・ 423
7037000 発達心理学Ⅰ　蛯名　美穂 １Ｑ ・・・ 425
7702000 ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ論　田中　修身 １Ｑ ・・・ 427
7710001 ｽﾎﾟｰﾂ社会学　戸佐　晃一 ２Ｑ ・・・ 429
9106002 教育心理学（MDA）　吉澤　英里 １Ｑ ・・・ 431
9110000 社会科・公民科教育法Ⅰ　松下　守邦 前期 ・・・ 433
3401000 日本語Ⅰ　髙橋　真弥 ２Ｑ ・・・ 435
5203001 平面構成Ⅰ　北嶋　洋一 前期 ・・・ 437
5208000 西洋美術史Ⅰ　竹内　美帆 １Ｑ ・・・ 439
5306100 建築環境Ⅰ　佐々木　哲之 １Ｑ ・・・ 441
7004400 社会福祉の原理と政策Ⅱ　上原　正希 ２Ｑ ・・・ 443
7214079 卒業論文（9月期卒）　大島　康雄 前期集中 ・・・ 445
7214081 卒業論文（9月期卒）　信濃　吉彦 前期集中 ・・・ 447
7330000 漫画Ⅰ　三上　いずみ 前期 ・・・ 449
7506000 建築史　赤木　良子 １Ｑ ・・・ 451
7846000 財務分析論　石山　玄幸 ２Ｑ ・・・ 453
1408000 環境学　西原　智昭 前期集中 ・・・ 455
5101101 ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの基盤と専門職　櫻井　美帆子 １Ｑ ・・・ 457
7041000 保育原理　吉江　幸子 １Ｑ ・・・ 459
7516000 建築計画Ⅰ　安藤　淳一 １Ｑ ・・・ 461
7580000 鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ構造　長森　正 ２Ｑ ・・・ 463
7721001 経営情報論　薦田　勇智 ２Ｑ ・・・ 465
7727000 ﾐｸﾛ経済学　河野　善文 ２Ｑ ・・・ 467
9107000 社会科・地理歴史科教育法Ⅰ　塩﨑　大輔 前期 ・・・ 469
9201000 生涯学習概論　藤根　収 １Ｑ ・・・ 471
1204000 政治学入門　後藤　啓倫 ２Ｑ ・・・ 473
3403000 日本語Ⅲ　髙橋　真弥 ２Ｑ ・・・ 475
5106000 心理学　吉澤　英里 ２Ｑ ・・・ 477
5109100 医学概論　宮﨑　剛司 １Ｑ ・・・ 479
5109101 医学概論（再）　宮﨑　剛司 前期集中 ・・・ 481
5205000 色彩環境論　安田　祐造 ２Ｑ ・・・ 483
5312000 建築施工　小笠原　健 ２Ｑ ・・・ 485
7043000 保育者論　吉江　幸子 ２Ｑ ・・・ 487
7305000 ﾃﾞｻﾞｲﾝ概論Ⅰ　北嶋　洋一 １Ｑ ・・・ 489
7712000 日本経済史　小林　大州介 ２Ｑ ・・・ 491
7733200 まちづくり論　松本　懿 ２Ｑ ・・・ 493
7825000 日本画　岡　惠子 前期 ・・・ 495
7828000 建築設備　君　興治 ２Ｑ ・・・ 497
5111100 高齢者福祉　櫻井　美帆子 ２Ｑ ・・・ 499
5207101 ﾃﾞｯｻﾝⅢ　西田　陽二 前期 ・・・ 501
5307000 建築構造力学Ⅰ　長森　正 ２Ｑ ・・・ 503
7280000 子どもの理解と援助　穴水　ゆかり ２Ｑ ・・・ 505
7555000 CAD演習Ⅱ　君　興治 前期 ・・・ 507
7572000 北国の建築と住まい　安藤　淳一 １Ｑ ・・・ 509
7826000 洋画　安田　祐造 前期 ・・・ 511
1402000 日本史　及川　琢英 １Ｑ ・・・ 513
5114100 障害者福祉　畠山　明子 １Ｑ ・・・ 515
5309000 建築法規Ⅰ　佐藤　善太郎 １Ｑ ・・・ 517
5407001 ｽﾎﾟｰﾂ経営管理論　天野　雅人 １Ｑ ・・・ 519
7309000 工芸実習Ⅰ　梅田　力 前期 ・・・ 521
7531100 図学(建築図学を含む)　赤木　良子 前期 ・・・ 523
9121001 教育方法論　藤根　収 ２Ｑ ・・・ 525
1206100 日本国憲法（M）　青山　浩之 ２Ｑ ・・・ 527
1206101 日本国憲法（S・D・A）　後藤　啓倫 ２Ｑ ・・・ 529
7288000 身体表現　尾西　則昭 ２Ｑ ・・・ 531
7566000 建築表現Ⅲ　君　興治 前期 ・・・ 533
7786001 ｽﾎﾟｰﾂ文化論　細川　光法 ２Ｑ ・・・ 535
9111000 美術科教育法Ⅰ　竹内　美帆 前期 ・・・ 537
9117100 道徳教育の指導法　佐藤　雅一 １Ｑ ・・・ 539
1208000 日本事情　佐藤　恵利 １Ｑ ・・・ 541
5310001 福祉環境計画論　佐々木　哲之 １Ｑ ・・・ 543
7006101 ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの理論と方法Ⅰ　櫻井　美帆子 １Ｑ ・・・ 545
7364000 彫刻Ⅰ　梅田　力 前期 ・・・ 547
7007101 ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの理論と方法Ⅱ　櫻井　美帆子 ２Ｑ ・・・ 549
7550000 建築法規Ⅱ　佐藤　善太郎 ２Ｑ ・・・ 551
7560000 ﾃﾞｻﾞｲﾝ概論　北嶋　洋一 １Ｑ ・・・ 553
7746000 ｺｰﾎﾟﾚｰﾄﾌｧｲﾅﾝｽ論　岩立　顕一郎 １Ｑ ・・・ 555
9115000 工芸科教育法Ⅰ　三上　いずみ 前期 ・・・ 557
7008100 ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの理論と方法(専門)Ⅰ　大島　康雄 １Ｑ ・・・ 559
7055000 特別支援教育総論　堀川　厚志 １Ｑ ・・・ 561
7331000 ﾋﾞｼﾞｭｱﾙﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ　田中　靖之 前期 ・・・ 563
7340000 ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ　赤木　良子 １Ｑ ・・・ 565
7520100 建築材料実験　長森　正 ２Ｑ ・・・ 567
7775100 ﾋﾞｼﾞﾈｽ英語　石田　暁子 １Ｑ ・・・ 569
7009100 ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの理論と方法(専門)Ⅱ　大島　康雄 ２Ｑ ・・・ 571
7056000 肢体不自由者の心理・生理・病理　坂上　俊樹 ２Ｑ ・・・ 573
7525001 都市計画　安藤　淳一 １Ｑ ・・・ 575
7751100 障がい者ｽﾎﾟｰﾂⅠ　荒井　秀樹 前期集中 ・・・ 577
7787001 ｽﾎﾟｰﾂﾋﾞｼﾞﾈｽ論　守屋　俊甫 前期 ・・・ 579
7318100 ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ　堤　美穂子 前期 ・・・ 581
9126000 保健体育科教育法Ⅰ　髙井　雅一 前期 ・・・ 583
7010100 地域福祉と包括的支援体制Ⅰ　畠山　明子 １Ｑ ・・・ 585

7510000 建築設計演習Ⅲ　野村　和也 前期 ・・・ 587
7752000 ｽﾎﾟｰﾂとﾍﾙｽｹｱ　三嶋　康嗣 １Ｑ ・・・ 589
7848000 公共ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論　山　本　　一　彦 ２Ｑ ・・・ 591
7061000 聴覚障害教育総論　室岡　弘明 ２Ｑ ・・・ 593
7318200 ﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ　林　春生 前期 ・・・ 595
7575000 建築構造力学Ⅲ　小笠原　健 １Ｑ ・・・ 597
5117000 福祉ｻｰﾋﾞｽの組織と経営　大島　康雄 １Ｑ ・・・ 599
7508000 住宅設計演習Ⅰ　君　興治 前期 ・・・ 601
5119100 刑事司法と福祉　西野　克俊 ２Ｑ ・・・ 603
7013100 ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ演習(専門)Ⅰ　上原　正希 前期 ・・・ 605
7821000 写真表現Ⅰ　林　春生 前期 ・・・ 607
7152000 ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ論　蛯名　美穂 １Ｑ ・・・ 609
7586000 建築法規Ⅲ　佐藤　善太郎 ２Ｑ ・・・ 611
7733500 ﾎﾃﾙﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論　五ノ井　壽一 １Ｑ ・・・ 613
7024100 精神保健福祉の原理Ⅱ　西野　克俊 ２Ｑ ・・・ 615
7336000 ｲﾗｽﾄﾚｰｼｮﾝⅠ　浩而　魅論 前期 ・・・ 617
9127001 教育相談(ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞを含む。)　蛯名　美穂 １Ｑ ・・・ 619
7589000 建築の職能と倫理　君　興治 １Ｑ ・・・ 621
9141000 教育とICT活用　由水　伸 前期集中 ・・・ 623
7331100 ｷｬﾗｸﾀｰﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ　三上　いずみ ２Ｑ ・・・ 625
7025100 ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの理論と方法(専門)Ⅲ　西野　克俊 １Ｑ ・・・ 627
7198000 ｽｸｰﾙｿｰｼｬﾙﾜｰｸ論　上原　正希 １Ｑ ・・・ 629
7367001 漫画Ⅲ　鴨　修平 前期 ・・・ 631
7556000 応用物理　伊藤　裕康 １Ｑ ・・・ 633
7852000 ﾋﾞｼﾞﾈｽﾘｻｰﾁⅡ　小林　大州介 １Ｑ ・・・ 635
7278000 子ども家庭支援論　杉本　大輔 １Ｑ ・・・ 637
7341000 ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ　安藤　淳一 ２Ｑ ・・・ 639
7379000 彫刻Ⅲ　国松・梅田力 前期 ・・・ 641
7855000 ｱﾝﾄﾚﾌﾟﾚﾅｰｼｯﾌﾟⅠ　阿部　裕樹 １Ｑ ・・・ 643
7856000 ｱﾝﾄﾚﾌﾟﾚﾅｰｼｯﾌﾟⅡ　阿部　裕樹 ２Ｑ ・・・ 645
7366001 工芸実習Ⅲ（ｶﾞﾗｽ工芸）　楠本　祐弘 前期 ・・・ 647
7366002 工芸実習Ⅲ（陶芸）　中島　知之 前期 ・・・ 649
7366003 工芸実習Ⅲ（版表現）　森迫　暁夫 前期 ・・・ 651
7366004 工芸実習Ⅲ（木工芸）　島田　晶夫 前期 ・・・ 653
7483000 保育内容演習Ⅰ(健康)　宮﨑　剛司 ２Ｑ ・・・ 655
7294000 乳児保育Ⅰ　吉江　幸子 ２Ｑ ・・・ 657
7542200 一級対策製図Ⅰ　君　興治 前期 ・・・ 659
7373000 東洋・日本美術史Ⅰ　苫名　真 １Ｑ ・・・ 661
7532200 一級建築士演習Ⅰ　君　興治 １Ｑ ・・・ 663
7786100 ｽﾎﾟｰﾂ原理　高井　雅一 １Ｑ ・・・ 665
7353000 映像表現Ⅰ　北嶋　洋一 前期 ・・・ 667
7532300 一級建築士演習Ⅱ　安藤　淳一 ２Ｑ ・・・ 669
7733300 体育史　尾西　則昭 １Ｑ ・・・ 671
7322200 ﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄﾃﾞｻﾞｲﾝⅢ　林　春生 前期 ・・・ 673
7792000 学校保健　天野　雅人 ２Ｑ ・・・ 675
7485000 保育内容演習Ⅲ(環境)　佐藤　慶知 ２Ｑ ・・・ 677
7542400 二級対策製図Ⅰ　向井　正伸 前期 ・・・ 679
7744000 経営分析論　石山　玄幸 １Ｑ ・・・ 681
7797000 生理学　黒川　泰任 ２Ｑ ・・・ 683
7768001 人的資源管理論　信濃　吉彦 ２Ｑ ・・・ 685
7799000 衛生学及び公衆衛生学　宮﨑　剛司 ２Ｑ ・・・ 687
7522200 二級建築士演習Ⅰ　向井　正伸 １Ｑ ・・・ 689
7805000 精神保健Ⅰ　近藤　亜弥 ２Ｑ ・・・ 691
7337100 ｲﾗｽﾄﾚｰｼｮﾝⅢ　佐藤　正人 前期 ・・・ 693
7522300 二級建築士演習Ⅱ　向井　正伸 ２Ｑ ・・・ 695
7789100 体つくり運動　是枝　亮 ２Ｑ ・・・ 697
7830000 技法・材料研究　安田　祐造 前期 ・・・ 699
7800100 器械運動　廣田　修平 １Ｑ ・・・ 701
7096000 自然地理学Ⅰ　鈴木　正章 前期集中 ・・・ 703
7604000 建築積算　佐々木　哲之 ２Ｑ ・・・ 705
7795201 陸上競技　石井　祐治 前期集中 ・・・ 707
7521100 施工管理技士演習Ⅱ　小笠原　健 １Ｑ ・・・ 709
7017100 ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ実習指導Ⅱ　大島　康雄 前期 ・・・ 711
7795100 球技Ⅰ(ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ)　天野　雅人 前期 ・・・ 713
7796100 球技Ⅱ(ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ)　天野　雅人 前期 ・・・ 715
7531000 図学　赤木　良子 前期 ・・・ 717
7802101 球技Ⅳ(ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ)　米野　宏 前期 ・・・ 719
7827000 造形論　浩而　魅論 前期 ・・・ 721
7026100 ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの理論と方法(専門)Ⅳ　西野　克俊 １Ｑ ・・・ 723
7355000 ｺﾝﾃﾝﾂﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ　上坂　恒章 前期 ・・・ 725
7844000 ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ　上坂　恒章 １Ｑ ・・・ 727
7804100 球技Ⅵ(ｻｯｶｰ)　木島　敦 前期 ・・・ 729
7845000 ｺﾝﾃﾝﾂﾃﾞｻﾞｲﾝ　堤　美穂子 ２Ｑ ・・・ 731
7116000 精神保健福祉援助演習Ⅰ　大島　康雄 １Ｑ ・・・ 733
7731000 ﾋﾞｼﾞﾈｽﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ論　猪尾　紀幸 ２Ｑ ・・・ 735
7118000 精神保健福祉援助演習Ⅱ　大島　康雄 ２Ｑ ・・・ 737
7130000 精神保健福祉援助実習Ⅰ　大島　康雄 前期集中 ・・・ 739
7169000 精神保健福祉援助実習Ⅱ　大島　康雄 前期集中 ・・・ 741
7812000 ｱｸﾞﾘﾋﾞｼﾞﾈｽ論　石山　玄幸 １Ｑ ・・・ 743
7593001 職業指導（Ｍ）　岩立　顕一郎 ２Ｑ ・・・ 745
7764000 ｺﾐｭﾆﾃｨ心理学　吉澤　英里 １Ｑ ・・・ 747
7782200 地域情報論　猪尾　紀幸 １Ｑ ・・・ 749
7282000 ｽｸｰﾙｿｰｼｬﾙﾜｰｸ演習　上原　正希 ２Ｑ ・・・ 751
7750000 ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ論　由水　伸 前期集中 ・・・ 753
7279000 社会的養護Ⅰ　杉本　大輔 ２Ｑ ・・・ 755
7486000 保育内容演習Ⅳ(言葉)　太田　俊一 ２Ｑ ・・・ 757
7132000 子どもの食と栄養　湯浅　頼佳 ２Ｑ ・・・ 759
7137000 障害児保育Ⅰ　坂上　俊樹 １Ｑ ・・・ 761
7319400 WEBﾃﾞｻﾞｲﾝⅢ　山腰　雅樹 １Ｑ ・・・ 763
7319500 WEBﾃﾞｻﾞｲﾝⅣ　山腰　雅樹 ２Ｑ ・・・ 765
7298000 子育て支援　杉本　大輔 ２Ｑ ・・・ 767
7146000 病弱教育　千葉　聡美 ２Ｑ ・・・ 769
7145000 知的障害教育Ⅱ　藤根　収 ２Ｑ ・・・ 771
7158000 発達障害等教育総論　堀川　厚志 １Ｑ ・・・ 773
7148002 特別支援教育実習(事前指導)(4年)　木村　浩紀 前期 ・・・ 775
7754000 国際経営論　信濃　吉彦 １Ｑ ・・・ 777
7761000 産業社会論　山　本　　一　彦 １Ｑ ・・・ 779
7143002 人文地理学Ⅰ　塩崎　大輔 １Ｑ ・・・ 781
7015100 ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ演習(専門)Ⅲ　杉本　大輔 前期 ・・・ 783
7175100 精神医学と精神医療Ⅰ　伊東　隆雄 前期 ・・・ 785

7029100 精神保健福祉援助演習Ⅲ　大島　康雄　１Ｑ ・・・ 787
7166000 精神保健福祉援助実習指導Ⅱ　大島　康雄 前期 ・・・ 789
7188000 日本政治史　後藤　啓倫　１Ｑ ・・・ 791
7186000 日本文化史　及川　琢英　２Ｑ ・・・ 793
7184000 社会思想史　後藤　啓倫　２Ｑ ・・・ 795
7834000 福祉士試験対策基礎講座Ⅰ　上原　正希 前期 ・・・ 797

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	数学入門 （科目ナンバリング：MAT071046　　）				
授業担当者 （所属・職名）	横山　哲也（非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　　横山　哲也　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

学生が教養力を身につけるために，「自然と環境」を幅広く学ぶための科目で、 大学で必要となる数学の基礎知識をしっかり身に付け、次に、高校の数学から大学の数学への橋渡しができる力を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP4に対応する。

到達目標

様々な分野で活躍する人材に求められる課題探求能力のうちの、基本的な数学知識の修得と思考能力の向上を図ることができる。さらに、それらのことを通して、数学において重要なのは答えではなく計算過程（思考過程の説明）であることを理解し習慣づけることができる。

授業全体の内容と概要

数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム（数理基礎）の関連授業科目。
数の計算から始まり，分数・因数分解・平方根・無理式・一次方程式・連立方程式・二次方程式・高次方程式・一次関数・二次関数・三角関数・集合・順列と組み合わせ・確率などについて、豊富な練習問題をこなすことによって、数学を解くことの実感と意味をつかむ。「SDG9.産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連科目。

授業の方法

最近は、学生が積極的に参加する形での授業が要望されている。そこで、本講義では、教科書に沿って板書により授業を進める中で、学生自らが習熟度の向上を実現させるために、積極的に質問や要望を述べることが求められる。また、学生が課題を提出した後に板書にて解説を行う。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・課題等の提出方法については授業中に支持するので、授業を欠席することのないよう留意すること。
・講義に対して積極的に取り組むこと。
・解らないところは積極的に質問すること。
・授業で求めている以上の習熟度の向上を望む場合には、申し出ること。適切に対応します。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

成績は、１1回以上の出席、レポート課題の提出と定期試験の結果を総合し絶対評価及び相対評価を併用して判定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	30%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基礎知識の修得	数学の基礎知識が完全に修得できた。	数学の基礎知識が修得できた。	数学の基礎知識がほぼ修得できた。	数学の基礎知識が大体修得できた。	数学の基礎知識が修得できなかった。
思考能力の向上	数学の思考能力が完全に向上した。	数学の思考能力が向上した。	数学の思考能力がほぼ向上した。	数学の思考能力が大体向上した。	数学の思考能力が向上しなかった。
計算過程（思考過程の説明）の習慣化	授業中に不明な点を全て解決し思考過程の習慣化ができた。	授業中に不明な点を質問等で全て解決し思考過程の習慣化ができた。	授業中に不明な点を質問等で解決し思考過程の習慣化ができた。	授業中に不明な点を解決して思考過程の習慣化が大体できた。	思考過程の習慣化ができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	数学入門 （科目ナンバリング：MAT071046　　）				
授業担当者 （所属・職名）	横山　哲也（非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　　横山　哲也　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『大学新入生のための数学入門（増補版）』	石村　園子	共立出版			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス。シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明及び基礎学力試験 科目を修了して「身に付く力」についての説明	基礎学力試験のための準備をする（９０分）	基礎学力試験問題を再度解く（９０分）
2	整数と計算	数の分類・性質と四則計算の基本を理解する（９０分）	教科書の問題を再度解く（９０分）
3	分数・小数・繁分数	教科書の問題を丁寧に解く練習をする（９０分）	教科書の問題を再度解く（９０分）
4	展開・因数分解	展開と因数分解における公式を覚え，教科書の問題を丁寧に解く（９０分）	教科書の問題を再度解く（９０分）
5	平方根	平方根の性質と計算方法を理解し，教科書の問題を丁寧に解く（９０分）	教科書の問題を再度解く（９０分）
6	分数式・無理式の計算	教科書の問題を丁寧に解く（９０分）	教科書の問題を再度解く（９０分）
7	一次方程式	一次方程式の解き方とその利用について理解する（９０分）	教科書の問題を再度解く（９０分）
8	連立方程式	連立方程式の解き方とその利用について理解する（９０分）	教科書の問題を再度解く（９０分）
9	二次方程式・高次方程式	二次方程式と高次方程式の解き方およびその利用について理解する（９０分）	教科書の問題を再度解く（９０分）
10	一次関数とグラフ	一次関数の性質を理解し，教科書の問題を丁寧に解く（９０分）	教科書の問題を再度解く（９０分）
11	二次関数	二次関数の性質を理解し，教科書の問題を丁寧に解く（９０分）	教科書の問題を再度解く（９０分）
12	三角関数	三角関数の性質を理解し，教科書の問題を丁寧に解く（９０分）	教科書の問題を再度解く（９０分）
13	集合	集合の性質を理解し，教科書の問題を丁寧に解く（９０分）	教科書の問題を再度解く（９０分）
14	順列と組み合わせ	順列と組み合わせの違いを理解し，教科書の問題を丁寧に解く（９０分）	教科書の問題を再度解く（９０分）
15	確率及び授業改善アンケートの実施	確率の意味を理解し，教科書の問題を丁寧に解く（９０分）	教科書の問題を再度解く（９０分）
16	６０分の試験終了後、残りの３０分で解説、フィートバックする 科目を修了して「身に付く力」についての検証	全内容の再確認及び理解を行う。（９０分）	総理解（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	哲学 （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	尾崎　有紀（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　尾崎　有紀　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

主に英米系の分析哲学においてこれまで論じられてきた主題と、哲学における議論の仕方についての知識を得る。このことにより、論理的思考力と表現力を高め、社会における幅広い問題について主体的に思索し、他者と意見を交わすために必要な多様な能力を身につける。この際、学生主体の学びを意識し、実践的に学習する。これらのことによって、大学生に求められる一般常識や態度を学習面・生活面で活用できるスチューデントスキル、また、学びを深めるために必要となる基本的な技能を学習面で活用できるスタディスキルを取得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ２に対応する。

到達目標

これまで哲学において論じられてきた主題と主要な考え方について説明することができる。論理的思考力と表現力に基づいたコミュニケーション能力によって、他者と協調することができる。大学生に求められる一般常識や態度を学習面・生活面で活用でき、また、学びを深めるために必要となる基本的な技能を学習面で活用できる。

授業全体の内容と概要

はじめに、英米系の分析哲学の議論について知る上で基礎となる、論理学について概説する。ここで、「前提」や「結論」、「演繹」や「帰納」などの、推論に関する基礎概念について解説する。これに基づいて、認識論や存在論、意味論、心の哲学などのトピックを紹介していく。この際、伝統的・古典的な主題を紹介することに加え、人工知能など現代的な主題との関連性を扱う。

授業の方法

授業は板書とパワーポイント資料を用いた講義形式で行う。また、確認テスト、グループワーク（１回）、レポート課題（１回）を実施する。確認テストとレポート課題については、フィードバックとして、回収後に解説と講評を行う。不測時における授業や補講等で、オンラインにて授業を実施する場合がある。また、欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業に関係のない私語を禁止する。レポートは、「関連文献が適切に押さえられているか」、「論理的な破綻がないか」、「オリジナルな考察が見られるか」、の３点から評価する。優先順位もこの順とする。講義で扱っていない内容や、自分の主観的な考えのみを書いたものには点数を与えない。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１2回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	０%	２０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
推論や論証に関する基礎概念の習得	推論や論証に関する基礎概念を深く理解でき、これらを用いて自ら論証の具体例をつくることができ、実践に応用することができた。	推論や論証に関する基礎概念を深く理解でき、これらを用いて自ら論証の具体例をつくることができた。	推論や論証に関する基礎概念をよく理解できた。	推論や論証に関する基礎概念を理解できた。	推論や論証に関する基礎概念を理解できなかった。
哲学的主題の理解	哲学的主題を深く理解でき、当該主題について自ら独創的な考察をすることができた。	哲学的主題を深く理解でき、当該主題について自ら批判的な考察をすることができた。	哲学的主題をよく理解できた。	哲学的主題を理解できた。	哲学的主題を理解できなかった。
現代的主題との関連づけ	哲学的な問題意識と現代的主題を深く関連付けることができ、現代的主題について考える新たな視点と自らの見解を得ることができた。	哲学的な問題意識と現代的主題を深く関連付けることができ、現代的主題について考える新たな視点を得ることができた。	哲学的な問題意識と現代的主題をよく関連付けることができた。	哲学的な問題意識と現代的主題を関連付けることができた。	哲学的な問題意識と現代的主題を関連付けることができなかった。
主体的に学習に取り組む態度	高い意欲と関心を持って積極的に授業に参加することができ、発言などを通じて自らの意見を表現し、他者と議論することができた。	高い意欲と関心を持って積極的に授業に参加することができ、発言などを通じて自らの意見を表現することができた。	意欲と関心を持って積極的に授業に参加することができた。	意欲と関心を持って授業に参加することができた。	意欲と関心を持って授業に参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	哲学 （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	尾崎　有紀（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　尾崎　有紀　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『省察』	ルネ・デカルト	筑摩書房	２００６年	978-4480089656	
2	『プロレゴメナ』	イマニュエル・カント	岩波書店	１９７７年	978-4003362631	
3	『言語哲学入門』	服部裕幸	勁草書房	２００３年	978-4326153695	
4	『哲学の道具箱』	ジュリアン・バッジーニ	共立出版	２００７年	978-4320005730	
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション・シラバスの説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおく（45分）	講義内容の復習（９０分）
2	哲学の例－確率の意味論－	主題について事前に調べておく（９０分）	授業内容の復習（９０分）
3	帰納法と「帰納法の正当化問題」	主題について事前に調べておく（９０分）	授業内容の復習（９０分）
4	演繹法と仮説演繹法	主題について事前に調べておく（９０分）	授業内容の復習（９０分）
5	多義性と概念的問題	主題について事前に調べておく（９０分）	授業内容の復習（９０分）
6	反駁	主題について事前に調べておく（９０分）	授業内容の復習（９０分）
7	知識の分類と認識論	主題について事前に調べておく（９０分）	授業内容の復習（９０分）
8	言語と存在論	主題について事前に調べておく（９０分）	授業内容の復習（９０分）
9	言語哲学と意味論（１）問題の端緒	主題について事前に調べておく（９０分）	授業内容の復習（９０分）
10	言語哲学と意味論（２）様々な意味論の問題点１	主題について事前に調べておく（９０分）	授業内容の復習（９０分）
11	言語哲学と意味論（３）様々な意味論の問題点２	主題について事前に調べておく（９０分）	授業内容の復習（９０分）
12	中間まとめ	これまでの授業内容について復習しておく（９０分）	授業内容の復習（９０分）
13	確率の意味論（１）	主題について事前に調べておく（９０分）	授業内容の復習（９０分）
14	確率の意味論（２）	主題について事前に調べておく（９０分）	授業内容の復習（９０分）
15	心の哲学	主題について事前に調べておく（９０分）	授業内容の復習（９０分）
16	まとめ 授業関連のフィードバックおよび科目を修了して『身に付く力』についての検証	これまでの授業内容について復習しておく（９０分）	授業内容の復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習Ⅰ（M-A） （科目ナンバリング：S0F061042　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　雅一（経営学科・専任講師）、由水　伸（経営学科・教授）、薦田　勇智（経営学科・専任講	研究室等所在	1号館2階（佐藤）・1号館2階（由水）・2号館7階（薦田）		
単位数	1　（単位認定責任者：　佐藤　雅一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

・インターネットを利用する際のセキュリティやマナーに配慮した利用法を学ぶ。
・Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｔｅａｍｓを利用したオンライン授業の受け方と、課題の回答方法について学ぶ。
・ＰＣによる文書作成の方法について理解し、適切なかたちで利用する方法を学ぶ。
・Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使ったプレゼンテーション資料の作成方法や効果的な説明法を学び、プレゼンテーション能力を磨く。
・「数理・データサイエンス」を理解する上で必要な基本的な素養を身につける。
・スチューデントスキル、スタディスキル、 アカデミックスキル等を修得することにより、大学生として生活面や学習面等で高校から大学への 円滑な移行と、入学後に必要となるPCスキルを身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ４に対応する。

到達目標

・ネット上のセキュリティやマナーを理解し、他の利用者に配慮しながら、安心安全に利用できる。（スチューデントスキル）
・Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｔｅａｍｓを利用したオンラインまたは対面の受講ができる。（スタディスキル）
・Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｗｏｒｄを使った文書作成を学び、他の講義や、レポート、卒業論文に活用できる。（アカデミックスキル）
・Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使って発表資料を対象者に応じて視覚的に分かりやすく、かつ効果的に説明できる。（アカデミックスキル）

授業全体の内容と概要

・本学のネットワークの利用法とマナーについて説明する。
・実習編前半では、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｗｏｒｄ使った、文書処理（定型文書やレポートの作成等）を学ぶ。
・実習編後半では、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使った、発表の組み立て、資料の準備、ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔの基本的な使い方などを学ぶ。
・本科目は、数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム（情報リテラシー）の関連授業科目である。
・本科目は、以下のＳＤＧｓ関連授業科目である。
「ＳＤＧｓ４．質の高い教育をみんなに」
「ＳＤＧｓ９．産業と技術革新の基盤をつくろう」

授業の方法

・ＩＣＴを活用した講義体制となる。
・解説・演習時は、大型モニターに教材（スライド資料等）を提示しながら行う。
・Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｔｅａｍｓを利用して課題提示、提出を求める。
・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・実習時は、大学に備え付けのＰＣの他、自己所有のノートＰＣ（Ｗｉｎｄｏｗｓ／Ｍａｃ）を使用してもよい。
・自己所有のノートＰＣを使用する場合は、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｏｆｆｉｃｅを使えるように準備すること。（大学から無償で提供）。
・課題作成については著作物等の盗用（剽窃）無きよう、十分配慮すること。
・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必須科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上。
・遅刻及び早退は２０分までを限度とし、特別な理由がない限りそれ以上の場合は欠席とみなす。
・課題提出期限を過ぎて提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	0%	５０%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ネット上のセキュリティとマナーの理解	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、自分が守るだけでなく周囲にも働きかけていた。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、より広い範囲で守っていた。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し、正しく守っていた。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し守っていた。	ネット上のセキュリティとマナーを守ろうとする意識が無かった。
Microsoft Teamsを利用した受講法	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができた。	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢があった。	ログインをして、必要なことはすべてできた。	ログインをして基本的な部分は利用できた。	利用する方法が分からなかった。
Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ Ｗｏｒｄ を使った文書作成	文字入力が速く、Ｗｏｒｄの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができた。	文字入力が速く、Ｗｏｒｄの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できた。	文字入力速度が十分で、Ｗｏｒｄの機能を利用して、定型文書作成を制限時間内に作成できる。また、レポートなども作成できた。	文字入力速度が遅めだが、Ｗｏｒｄの機能を利用して、定型文書作成を時間がかかりながらも作成できた。	文字入力が遅く、Ｗｏｒｄの機能活用まで至らなかった。
ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使った発表資料作成と表現力	ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。また、周囲の学生へのアドバイスも行っていた。	ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。	ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使った発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は十分であった。	ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使った発表資料の作成はできたが、説得力、表現力が劣っていた。	発表資料を作成することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習Ⅰ（M-A） （科目ナンバリング：S0F061042　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　雅一（経営学科・専任講師）、由水　伸（経営学科・教授）、薦田　勇智（経営学科・専任講	研究室等所在	1号館2階（佐藤）・1号館2階（由水）・2号館7階（薦田）		
単位数	1　（単位認定責任者：　佐藤　雅一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	◇ オリエンテーション ・シラバスの確認（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）、学内のネットワーク、アカウントとパスワード等の説明 ・Ｔｅａｍｓを使った受講方法、ＰＣ受講環境の設定と確認、ＰＣの基本的操作説明	シラバスを読む（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
2	◇ 大学生に必要なネットワーク上のマナー、セキュリティの知識 ◇ Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｏｆｆｉｃｅの全般的な設定	ネットワーク上のマナーについて調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
3	◇Ｗｏｒｄの基本操作・書式設定（基本編） ・ファイルの新規作成、保存、文字入力と編集 ・フォントと文字サイズ、文章と段落	Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｏｆｆｉｃｅについて調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
4	◇Ｗｏｒｄの基本操作・書式設定（基本編） ・レイアウトとフォーマット、マージンの設定 段落のインデント、テキストの配置 行間の調整、文書のスタイル	Ｗｏｒｄの書式設定について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
5	◇情報の整理 ・ビジネス定型文書の作成１ 単純な例文の作成練習	ビジネス定型文書の作成ついて調べる（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
6	◇情報の整理 ・ビジネス定型文書の作成２ 複雑な例文の作成練習 表作成	ビジネス定型文書の作成ついて調べる（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
7	◇情報の整理 ・レポート作成の基本 表紙、図形、写真、などの画像の挿入方法 画像のサイズ変更と配置 スクリーンショットのとり方	画像や図形の挿入方法について調べる（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
8	◇情報の整理 ・表作成 ・ページ番号、ヘッダーとフッターの設定 ・文書の印刷、プリンターの設定 ・PDFへのエクスポート	表やヘッダーとフッターについて調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
9	◇情報の整理 ・複雑な表組	表について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
10	◇情報の整理 ・チラシの作成	チラシに書かれる文章、構造等を調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
11	◇Ｗｏｒｄまとめ	これまでのＷｏｒｄの内容について復習する（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
12	●ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔの基本操作 ・基礎課題を通じてＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使ったプレゼンテーション作成の基本を理解する	ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔの基本的な使い方について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
13	●情報発信 ・各自自由にテーマ決めをする ・テーマに沿った内容のプレゼンテーション資料を作成	授業中に終わらなかった作業を行う（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
14	●情報発信 ・中間報告 ・資料に対するフィードバックを行う	授業中に終わらなかった作業を行う（４５分）	フィードバックを受けて資料の修正、発表練習（４５分）
15	●情報発信 ・発表	授業中に終わらなかった作業を行う（４５分）	発表練習（４５分）
16	●情報発信 ・発表 ・授業評価改善アンケート ・科目を修了して「身に付く力」の検証	発表練習（４５分）	発表を振り返る（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習Ⅰ（S） （科目ナンバリング：S0F061042　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　雅一（経営学科・専任講師）、由水　伸（経営学科・教授）、薦田　勇智（経営学科・専任講	研究室等所在	1号館2階（佐藤）・1号館2階（由水）・2号館7階（薦田）		
単位数	1　（単位認定責任者：　佐藤　雅一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

・インターネットを利用する際のセキュリティやマナーに配慮した利用法を学ぶ。
・Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｔｅａｍｓを利用したオンライン授業の受け方と、課題の回答方法について学ぶ。
・ＰＣによる文書作成の方法について理解し、適切なかたちで利用する方法を学ぶ。
・Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使ったプレゼンテーション資料の作成方法や効果的な説明法を学び、プレゼンテーション能力を磨く。
・「数理・データサイエンス」を理解する上で必要な基本的な素養を身につける。
・スチューデントスキル、スタディスキル、 アカデミックスキル等を修得することにより、大学生として生活面や学習面等で高校から大学への 円滑な移行と、入学後に必要となるPCスキルを身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ４に対応する。

到達目標

・ネット上のセキュリティやマナーを理解し、他の利用者に配慮しながら、安心安全に利用できる。（スチューデントスキル）
・Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｔｅａｍｓを利用したオンラインまたは対面の受講ができる。（スタディスキル）
・Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｗｏｒｄを使った文書作成を学び、他の講義や、レポート、卒業論文に活用できる。（アカデミックスキル）
・Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使って発表資料を対象者に応じて視覚的に分かりやすく、かつ効果的に説明できる。（アカデミックスキル）

授業全体の内容と概要

・本学のネットワークの利用法とマナーについて説明する。
・実習編前半では、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｗｏｒｄ使った、文書処理（定型文書やレポートの作成等）を学ぶ。
・実習編後半では、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使った、発表の組み立て、資料の準備、ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔの基本的な使い方などを学ぶ。
・本科目は、数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム（情報リテラシー）の関連授業科目である。
・本科目は、以下のＳＤＧｓ関連授業科目である。
「ＳＤＧｓ４．質の高い教育をみんなに」
「ＳＤＧｓ９．産業と技術革新の基盤をつくろう」

授業の方法

・ＩＣＴを活用した講義体制となる。
・解説・演習時は、大型モニターに教材（スライド資料等）を提示しながら行う。
・Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｔｅａｍｓを利用して課題提示、提出を求める。
・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・実習時は、大学に備え付けのＰＣの他、自己所有のノートＰＣ（Ｗｉｎｄｏｗｓ／Ｍａｃ）を使用してもよい。
・自己所有のノートＰＣを使用する場合は、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｏｆｆｉｃｅを使えるように準備すること。（大学から無償で提供）。
・課題作成については著作物等の盗用（剽窃）無きよう、十分配慮すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必須科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上。
・遅刻及び早退は２０分までを限度とし、特別な理由がない限りそれ以上の場合は欠席とみなす。
・課題提出期限を過ぎて提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	0%	５０%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ネット上のセキュリティとマナーの理解	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、自分が守るだけでなく周囲にも働きかけていた。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、より広い範囲で守っていた。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し、正しく守っていた。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し守っていた。	ネット上のセキュリティとマナーを守ろうとする意識が無かった。
Microsoft Teamsを利用した受講法	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができた。	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢があった。	ログインをして、必要なことはすべてできた。	ログインをして基本的な部分は利用できた。	利用する方法が分からなかった。
Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ Ｗｏｒｄ を使った文書作成	文字入力が速く、Ｗｏｒｄの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができた。	文字入力が速く、Ｗｏｒｄの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できた。	文字入力速度が十分で、Ｗｏｒｄの機能を利用して、定型文書作成を制限時間内に作成できる。また、レポートなども作成できた。	文字入力速度が遅めだが、Ｗｏｒｄの機能を利用して、定型文書作成を時間がかかりながらも作成できた。	文字入力が遅く、Ｗｏｒｄの機能活用まで至らなかった。
ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使った発表資料作成と表現力	ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。また、周囲の学生へのアドバイスも行っていた。	ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。	ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使った発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は十分であった。	ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使った発表資料の作成はできたが、説得力、表現力が劣っていた。	発表資料を作成することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習Ⅰ（S） （科目ナンバリング：S0F061042　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　雅一（経営学科・専任講師）、由水　伸（経営学科・教授）、薦田　勇智（経営学科・専任講	研究室等所在	1号館2階（佐藤）・1号館2階（由水）・2号館7階（薦田）		
単位数	1　（単位認定責任者：　佐藤　雅一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	◇ オリエンテーション ・シラバスの確認、学内のネットワーク、アカウントとパスワード等の説明科目を修了して「身に付く力」についての説明 ・Ｔｅａｍｓを使った受講方法、ＰＣ受講環境の設定と確認、ＰＣの基本的操作説明	シラバスを読む（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
2	◇ 大学生に必要なネットワーク上のマナー、セキュリティの知識 ◇ Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｏｆｆｉｃｅの全般的な設定	ネットワーク上のマナーについて調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
3	◇Ｗｏｒｄの基本操作・書式設定（基本編） ・ファイルの新規作成、保存、文字入力と編集 ・フォントと文字サイズ、文章と段落	Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｏｆｆｉｃｅについて調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
4	◇Ｗｏｒｄの基本操作・書式設定（基本編） ・レイアウトとフォーマット、マージンの設定 段落のインデント、テキストの配置 行間の調整、文書のスタイル	Ｗｏｒｄの書式設定について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
5	◇情報の整理 ・ビジネス定型文書の作成１ 単純な例文の作成練習	ビジネス定型文書の作成ついて調べる（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
6	◇情報の整理 ・ビジネス定型文書の作成２ 複雑な例文の作成練習 表作成	ビジネス定型文書の作成ついて調べる（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
7	◇情報の整理 ・レポート作成の基本 表紙、図形、写真、などの画像の挿入方法 画像のサイズ変更と配置 スクリーンショットのとり方	画像や図形の挿入方法について調べる（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
8	◇情報の整理 ・表作成 ・ページ番号、ヘッダーとフッターの設定 ・文書の印刷、プリンターの設定 ・PDFへのエクスポート	表やヘッダーとフッターについて調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
9	◇情報の整理 ・複雑な表組	表について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
10	◇情報の整理 ・チラシの作成	チラシに書かれる文章、構造等を調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
11	◇Ｗｏｒｄまとめ	これまでのＷｏｒｄの内容について復習する（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
12	●ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔの基本操作 ・基礎課題を通じてＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使ったプレゼンテーション作成の基本を理解する	ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔの基本的な使い方について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
13	●情報発信 ・各自自由にテーマ決めをする ・テーマに沿った内容のプレゼンテーション資料を作成	授業中に終わらなかった作業を行う（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
14	●情報発信 ・中間報告 ・資料に対するフィードバックを行う	授業中に終わらなかった作業を行う（４５分）	フィードバックを受けて資料の修正、発表練習（４５分）
15	●情報発信 ・発表	授業中に終わらなかった作業を行う（４５分）	発表練習（４５分）
16	●情報発信 ・発表 ・授業評価改善アンケート ／ 科目を修了して「身に付く力」についての検証	発表練習（４５分）	発表を振り返る（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習Ⅰ（D） （科目ナンバリング：SOF061042　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　雅一（経営学科・専任講師）、由水　伸（経営学科・教授）、薦田　勇智（経営学科・専任講	研究室等所在	1号館2階（佐藤）・1号館2階（由水）・2号館7階（薦田）		
単位数	1　（単位認定責任者：　佐藤　雅一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

・インターネットを利用する際のセキュリティやマナーに配慮した利用法を学ぶ。
・Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｔｅａｍｓを利用したオンライン授業の受け方と、課題の回答方法について学ぶ。
・ＰＣによる文書作成の方法について理解し、適切なかたちで利用する方法を学ぶ。
・Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使ったプレゼンテーション資料の作成方法や効果的な説明法を学び、プレゼンテーション能力を磨く。
・「数理・データサイエンス」を理解する上で必要な基本的な素養を身につける。
・スチューデントスキル、スタディスキル、 アカデミックスキル等を修得することにより、大学生として生活面や学習面等で高校から大学への 円滑な移行と、入学後に必要となるPCスキルを身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ４に対応する。

到達目標

・ネット上のセキュリティやマナーを理解し、他の利用者に配慮しながら、安心安全に利用できる。（スチューデントスキル）
・Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｔｅａｍｓを利用したオンラインまたは対面の受講ができる。（スタディスキル）
・Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｗｏｒｄを使った文書作成を学び、他の講義や、レポート、卒業論文に活用できる。（アカデミックスキル）
・Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使って発表資料を対象者に応じて視覚的に分かりやすく、かつ効果的に説明できる。（アカデミックスキル）

授業全体の内容と概要

・本学のネットワークの利用法とマナーについて説明する。
・実習編前半では、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｗｏｒｄ使った、文書処理（定型文書やレポートの作成等）を学ぶ。
・実習編後半では、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使った、発表の組み立て、資料の準備、ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔの基本的な使い方などを学ぶ。
・本科目は、数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム（情報リテラシー）の関連授業科目である。
・本科目は、以下のＳＤＧｓ関連授業科目である。
「ＳＤＧｓ４．質の高い教育をみんなに」
「ＳＤＧｓ９．産業と技術革新の基盤をつくろう」

授業の方法

・ＩＣＴを活用した講義体制となる。
・解説・演習時は、大型モニターに教材（スライド資料等）を提示しながら行う。
・Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｔｅａｍｓを利用して課題提示、提出を求める。
・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・実習時は、大学に備え付けのＰＣの他、自己所有のノートＰＣ（Ｗｉｎｄｏｗｓ／Ｍａｃ）を使用してもよい。
・自己所有のノートＰＣを使用する場合は、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｏｆｆｉｃｅを使えるように準備すること。（大学から無償で提供）。
・課題作成については著作物等の盗用（剽窃）無きよう、十分配慮すること。
・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必須科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上。
・遅刻及び早退は２０分までを限度とし、特別な理由がない限りそれ以上の場合は欠席とみなす。
・課題提出期限を過ぎて提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	0%	５０%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ネット上のセキュリティとマナーの理解	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、自分が守るだけでなく周囲にも働きかけていた。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、より広い範囲で守っていた。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し、正しく守っていた。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し守っていた。	ネット上のセキュリティとマナーを守ろうとする意識が無かった。
Microsoft Teamsを利用した受講法	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができた。	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢があった。	ログインをして、必要なことはすべてできた。	ログインをして基本的な部分は利用できた。	利用する方法が分からなかった。
Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ Ｗｏｒｄ を使った文書作成	文字入力が速く、Ｗｏｒｄの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができた。	文字入力が速く、Ｗｏｒｄの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できた。	文字入力速度が十分で、Ｗｏｒｄの機能を利用して、定型文書作成を制限時間内に作成できる。また、レポートなども作成できた。	文字入力速度が遅めだが、Ｗｏｒｄの機能を利用して、定型文書作成を時間がかかりながらも作成できた。	文字入力が遅く、Ｗｏｒｄの機能活用まで至らなかった。
ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使った発表資料作成と表現力	ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。また、周囲の学生へのアドバイスも行っていた。	ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。	ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使った発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は十分であった。	ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使った発表資料の作成はできたが、説得力、表現力が劣っていた。	発表資料を作成することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習Ⅰ（D） （科目ナンバリング：S0F061042　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　雅一（経営学科・専任講師）、由水　伸（経営学科・教授）、薦田　勇智（経営学科・専任講	研究室等所在	1号館2階（佐藤）・1号館2階（由水）・2号館7階（薦田）		
単位数	1　（単位認定責任者：　佐藤　雅一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	◇ オリエンテーション ・シラバスの確認（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）、学内のネットワーク、アカウントとパスワード等の説明 ・Ｔｅａｍｓを使った受講方法、ＰＣ受講環境の設定と確認、ＰＣの基本的操作説明	シラバスを読む（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
2	◇ 大学生に必要なネットワーク上のマナー、セキュリティの知識 ◇ Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｏｆｆｉｃｅの全般的な設定	ネットワーク上のマナーについて調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
3	◇Ｗｏｒｄの基本操作・書式設定（基本編） ・ファイルの新規作成、保存、文字入力と編集 ・フォントと文字サイズ、文章と段落	Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｏｆｆｉｃｅについて調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
4	◇Ｗｏｒｄの基本操作・書式設定（基本編） ・レイアウトとフォーマット、マージンの設定 段落のインデント、テキストの配置 行間の調整、文書のスタイル	Ｗｏｒｄの書式設定について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
5	◇情報の整理 ・ビジネス定型文書の作成１ 単純な例文の作成練習	ビジネス定型文書の作成ついて調べる（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
6	◇情報の整理 ・ビジネス定型文書の作成２ 複雑な例文の作成練習 表作成	ビジネス定型文書の作成ついて調べる（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
7	◇情報の整理 ・レポート作成の基本 表紙、図形、写真、などの画像の挿入方法 画像のサイズ変更と配置 スクリーンショットのとり方	画像や図形の挿入方法について調べる（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
8	◇情報の整理 ・表作成 ・ページ番号、ヘッダーとフッターの設定 ・文書の印刷、プリンターの設定 ・PDFへのエクスポート	表やヘッダーとフッターについて調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
9	◇情報の整理 ・複雑な表組	表について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
10	◇情報の整理 ・チラシの作成	チラシに書かれる文章、構造等を調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
11	◇Ｗｏｒｄまとめ	これまでのＷｏｒｄの内容について復習する（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
12	●ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔの基本操作 ・基礎課題を通じてＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使ったプレゼンテーション作成の基本を理解する	ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔの基本的な使い方について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
13	●情報発信 ・各自自由にテーマ決めをする ・テーマに沿った内容のプレゼンテーション資料を作成	授業中に終わらなかった作業を行う（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
14	●情報発信 ・中間報告 ・資料に対するフィードバックを行う	授業中に終わらなかった作業を行う（４５分）	フィードバックを受けて資料の修正、発表練習（４５分）
15	●情報発信 ・発表	授業中に終わらなかった作業を行う（４５分）	発表練習（４５分）
16	●情報発信 ・発表 ・授業評価改善アンケート ・科目を修了して「身に付く力」の検証	発表練習（４５分）	発表を振り返る（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習Ⅰ（A） （科目ナンバリング：SOF061042　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　雅一（経営学科・専任講師）、由水　伸（経営学科・教授）、薦田　勇智（経営学科・専任講	研究室等所在	1号館2階（佐藤）・1号館2階（由水）・2号館7階（薦田）		
単位数	1　（単位認定責任者：　佐藤　雅一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

・インターネットを利用する際のセキュリティやマナーに配慮した利用法を学ぶ。
・Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｔｅａｍｓを利用したオンライン授業の受け方と、課題の回答方法について学ぶ。
・ＰＣによる文書作成の方法について理解し、適切なかたちで利用する方法を学ぶ。
・Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使ったプレゼンテーション資料の作成方法や効果的な説明法を学び、プレゼンテーション能力を磨く。
・「数理・データサイエンス」を理解する上で必要な基本的な素養を身につける。
・スチューデントスキル、スタディスキル、 アカデミックスキル等を修得することにより、大学生として生活面や学習面等で高校から大学への 円滑な移行と、入学後に必要となるPCスキルを身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ４に対応する。

到達目標

・ネット上のセキュリティやマナーを理解し、他の利用者に配慮しながら、安心安全に利用できる。（スチューデントスキル）
・Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｔｅａｍｓを利用したオンラインまたは対面の受講ができる。（スタディスキル）
・Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｗｏｒｄを使った文書作成を学び、他の講義や、レポート、卒業論文に活用できる。（アカデミックスキル）
・Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使って発表資料を対象者に応じて視覚的に分かりやすく、かつ効果的に説明できる。（アカデミックスキル）

授業全体の内容と概要

・本学のネットワークの利用法とマナーについて説明する。
・実習編前半では、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｗｏｒｄ使った、文書処理（定型文書やレポートの作成等）を学ぶ。
・実習編後半では、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使った、発表の組み立て、資料の準備、ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔの基本的な使い方などを学ぶ。
・本科目は、数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム（情報リテラシー）の関連授業科目である。
・本科目は、以下のＳＤＧｓ関連授業科目である。
「ＳＤＧｓ４．質の高い教育をみんなに」
「ＳＤＧｓ９．産業と技術革新の基盤をつくろう」

授業の方法

・ＩＣＴを活用した講義体制となる。
・解説・演習時は、大型モニターに教材（スライド資料等）を提示しながら行う。
・Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｔｅａｍｓを利用して課題提示、提出を求める。
・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・実習時は、大学に備え付けのＰＣの他、自己所有のノートＰＣ（Ｗｉｎｄｏｗｓ／Ｍａｃ）を使用してもよい。
・自己所有のノートＰＣを使用する場合は、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｏｆｆｉｃｅを使えるように準備すること。（大学から無償で提供）。
・課題作成については著作物等の盗用（剽窃）無きよう、十分配慮すること。
・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必須科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上。
・遅刻及び早退は２０分までを限度とし、特別な理由がない限りそれ以上の場合は欠席とみなす。
・課題提出期限を過ぎて提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	0%	５０%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ネット上のセキュリティとマナーの理解	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、自分が守るだけでなく周囲にも働きかけていた。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、より広い範囲で守っていた。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し、正しく守っていた。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し守っていた。	ネット上のセキュリティとマナーを守ろうとする意識が無かった。
Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ Ｔｅａｍｓを利用した受講法	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができた。	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢があった。	ログインをして、必要なことはすべてできた。	ログインをして基本的な部分は利用できた。	利用する方法が分からなかった。
Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ Ｗｏｒｄ を使った文書作成	文字入力が速く、Ｗｏｒｄの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができた。	文字入力が速く、Ｗｏｒｄの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できた。	文字入力速度が十分で、Ｗｏｒｄの機能を利用して、定型文書作成を制限時間内に作成できる。また、レポートなども作成できた。	文字入力速度が遅めだが、Ｗｏｒｄの機能を利用して、定型文書作成を時間がかかりながらも作成できた。	文字入力が遅く、Ｗｏｒｄの機能活用まで至らなかった。
ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使った発表資料作成と表現力	ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。また、周囲の学生へのアドバイスも行っていた。	ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。	ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使った発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は十分であった。	ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使った発表資料の作成はできたが、説得力、表現力が劣っていた。	発表資料を作成することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習Ⅰ（A） （科目ナンバリング：S0F061042　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　雅一（経営学科・専任講師）、由水　伸（経営学科・教授）、薦田　勇智（経営学科・専任講	研究室等所在	1号館2階（佐藤）・1号館2階（由水）・2号館7階（薦田）		
単位数	1　（単位認定責任者：　佐藤　雅一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	◇ オリエンテーション ・シラバスの確認（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）、学内のネットワーク、アカウントとパスワード等の説明 ・Ｔｅａｍｓを使った受講方法、ＰＣ受講環境の設定と確認、ＰＣの基本的操作説明	シラバスを読む（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
2	◇ 大学生に必要なネットワーク上のマナー、セキュリティの知識 ◇ Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｏｆｆｉｃｅの全般的な設定	ネットワーク上のマナーについて調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
3	◇Ｗｏｒｄの基本操作・書式設定（基本編） ・ファイルの新規作成、保存、文字入力と編集 ・フォントと文字サイズ、文章と段落	Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｏｆｆｉｃｅについて調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
4	◇Ｗｏｒｄの基本操作・書式設定（基本編） ・レイアウトとフォーマット、マージンの設定 段落のインデント、テキストの配置 行間の調整、文書のスタイル	Ｗｏｒｄの書式設定について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
5	◇情報の整理 ・ビジネス定型文書の作成１ 単純な例文の作成練習	ビジネス定型文書の作成ついて調べる（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
6	◇情報の整理 ・ビジネス定型文書の作成２ 複雑な例文の作成練習 表作成	ビジネス定型文書の作成ついて調べる（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
7	◇情報の整理 ・レポート作成の基本 表紙、図形、写真、などの画像の挿入方法 画像のサイズ変更と配置 スクリーンショットのとり方	画像や図形の挿入方法について調べる（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
8	◇情報の整理 ・表作成 ・ページ番号、ヘッダーとフッターの設定 ・文書の印刷、プリンターの設定 ・PDFへのエクスポート	表やヘッダーとフッターについて調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
9	◇情報の整理 ・複雑な表組	表について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
10	◇情報の整理 ・チラシの作成	チラシに書かれる文章、構造等を調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
11	◇Ｗｏｒｄまとめ	これまでのＷｏｒｄの内容について復習する（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
12	●ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔの基本操作 ・基礎課題を通じてＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使ったプレゼンテーション作成の基本を理解する	ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔの基本的な使い方について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
13	●情報発信 ・各自自由にテーマ決めをする ・テーマに沿った内容のプレゼンテーション資料を作成	授業中に終わらなかった作業を行う（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
14	●情報発信 ・中間報告 ・資料に対するフィードバックを行う	授業中に終わらなかった作業を行う（４５分）	フィードバックを受けて資料の修正、発表練習（４５分）
15	●情報発信 ・発表	授業中に終わらなかった作業を行う（４５分）	発表練習（４５分）
16	●情報発信 ・発表 ・授業評価改善アンケート ・科目を修了して「身に付く力」の検証	発表練習（４５分）	発表を振り返る（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習Ⅰ（M-B） （科目ナンバリング：SOF061042　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　雅一（経営学科・専任講師）、由水　伸（経営学科・教授）、薦田　勇智（経営学科・専任講	研究室等所在	1号館2階（佐藤）・1号館2階（由水）・2号館7階（薦田）		
単位数	1　（単位認定責任者：　佐藤　雅一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

・インターネットを利用する際のセキュリティやマナーに配慮した利用法を学ぶ。
・Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｔｅａｍｓを利用したオンライン授業の受け方と、課題の回答方法について学ぶ。
・ＰＣによる文書作成の方法について理解し、適切なかたちで利用する方法を学ぶ。
・Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使ったプレゼンテーション資料の作成方法や効果的な説明法を学び、プレゼンテーション能力を磨く。
・「数理・データサイエンス」を理解する上で必要な基本的な素養を身につける。
・スチューデントスキル、スタディスキル、 アカデミックスキル等を修得することにより、大学生として生活面や学習面等で高校から大学への 円滑な移行と、入学後に必要となるPCスキルを身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ４に対応する。

到達目標

・ネット上のセキュリティやマナーを理解し、他の利用者に配慮しながら、安心安全に利用できる。（スチューデントスキル）
・Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｔｅａｍｓを利用したオンラインまたは対面の受講ができる。（スタディスキル）
・Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｗｏｒｄを使った文書作成を学び、他の講義や、レポート、卒業論文に活用できる。（アカデミックスキル）
・Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使って発表資料を対象者に応じて視覚的に分かりやすく、かつ効果的に説明できる。（アカデミックスキル）

授業全体の内容と概要

・本学のネットワークの利用法とマナーについて説明する。
・実習編前半では、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｗｏｒｄ使った、文書処理（定型文書やレポートの作成等）を学ぶ。
・実習編後半では、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使った、発表の組み立て、資料の準備、ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔの基本的な使い方などを学ぶ。
・本科目は、数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム（情報リテラシー）の関連授業科目である。
・本科目は、以下のＳＤＧｓ関連授業科目である。
「ＳＤＧｓ４．質の高い教育をみんなに」
「ＳＤＧｓ９．産業と技術革新の基盤をつくろう」

授業の方法

・ＩＣＴを活用した講義体制となる。
・解説・演習時は、大型モニターに教材（スライド資料等）を提示しながら行う。
・Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｔｅａｍｓを利用して課題提示、提出を求める。
・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・実習時は、大学に備え付けのＰＣの他、自己所有のノートＰＣ（Ｗｉｎｄｏｗｓ／Ｍａｃ）を使用してもよい。
・自己所有のノートＰＣを使用する場合は、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｏｆｆｉｃｅを使えるように準備すること。（大学から無償で提供）。
・課題作成については著作物等の盗用（剽窃）無きよう、十分配慮すること。
・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必須科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上。
・遅刻及び早退は２０分までを限度とし、特別な理由がない限りそれ以上の場合は欠席とみなす。
・課題提出期限を過ぎて提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	0%	５０%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ネット上のセキュリティとマナーの理解	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、自分が守るだけでなく周囲にも働きかけていた。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、より広い範囲で守っていた。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し、正しく守っていた。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し守っていた。	ネット上のセキュリティとマナーを守ろうとする意識が無かった。
Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ Ｔｅａｍｓを利用した受講法	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができた。	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢があった。	ログインをして、必要なことはすべてできた。	ログインをして基本的な部分は利用できた。	利用する方法が分からなかった。
Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ Ｗｏｒｄ を使った文書作成	文字入力が速く、Ｗｏｒｄの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができた。	文字入力が速く、Ｗｏｒｄの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できた。	文字入力速度が十分で、Ｗｏｒｄの機能を利用して、定型文書作成を制限時間内に作成できる。また、レポートなども作成できた。	文字入力速度が遅めだが、Ｗｏｒｄの機能を利用して、定型文書作成を時間がかかりながらも作成できた。	文字入力が遅く、Ｗｏｒｄの機能活用まで至らなかった。
ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使った発表資料作成と表現力	ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。また、周囲の学生へのアドバイスも行っていた。	ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。	ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使った発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は十分であった。	ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使った発表資料の作成はできたが、説得力、表現力が劣っていた。	発表資料を作成することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習Ⅰ（M-B） （科目ナンバリング：S0F061042　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　雅一（経営学科・専任講師）、由水　伸（経営学科・教授）、薦田　勇智（経営学科・専任講	研究室等所在	1号館2階（佐藤）・1号館2階（由水）・2号館7階（薦田）		
単位数	1　（単位認定責任者：　佐藤　雅一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	◇ オリエンテーション ・シラバスの確認（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）、学内のネットワーク、アカウントとパスワード等の説明 ・Ｔｅａｍｓを使った受講方法、ＰＣ受講環境の設定と確認、ＰＣの基本的操作説明	シラバスを読む（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
2	◇ 大学生に必要なネットワーク上のマナー、セキュリティの知識 ◇ Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｏｆｆｉｃｅの全般的な設定	ネットワーク上のマナーについて調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
3	◇Ｗｏｒｄの基本操作・書式設定（基本編） ・ファイルの新規作成、保存、文字入力と編集 ・フォントと文字サイズ、文章と段落	Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｏｆｆｉｃｅについて調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
4	◇Ｗｏｒｄの基本操作・書式設定（基本編） ・レイアウトとフォーマット、マージンの設定 段落のインデント、テキストの配置 行間の調整、文書のスタイル	Ｗｏｒｄの書式設定について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
5	◇情報の整理 ・ビジネス定型文書の作成１ 単純な例文の作成練習	ビジネス定型文書の作成ついて調べる（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
6	◇情報の整理 ・ビジネス定型文書の作成２ 複雑な例文の作成練習 表作成	ビジネス定型文書の作成ついて調べる（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
7	◇情報の整理 ・レポート作成の基本 表紙、図形、写真、などの画像の挿入方法 画像のサイズ変更と配置 スクリーンショットのとり方	画像や図形の挿入方法について調べる（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
8	◇情報の整理 ・表作成 ・ページ番号、ヘッダーとフッターの設定 ・文書の印刷、プリンターの設定 ・PDFへのエクスポート	表やヘッダーとフッターについて調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
9	◇情報の整理 ・複雑な表組	表について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
10	◇情報の整理 ・チラシの作成	チラシに書かれる文章、構造等を調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
11	◇Ｗｏｒｄまとめ	これまでのＷｏｒｄの内容について復習する（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
12	●ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔの基本操作 ・基礎課題を通じてＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使ったプレゼンテーション作成の基本を理解する	ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔの基本的な使い方について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
13	●情報発信 ・各自自由にテーマ決めをする ・テーマに沿った内容のプレゼンテーション資料を作成	授業中に終わらなかった作業を行う（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
14	●情報発信 ・中間報告 ・資料に対するフィードバックを行う	授業中に終わらなかった作業を行う（４５分）	フィードバックを受けて資料の修正、発表練習（４５分）
15	●情報発信 ・発表	授業中に終わらなかった作業を行う（４５分）	発表練習（４５分）
16	●情報発信 ・発表 ・授業評価改善アンケート ・科目を修了して「身に付く力」の検証	発表練習（４５分）	発表を振り返る（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習Ⅰ（M-C） （科目ナンバリング：SOF061042　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　雅一（経営学科・専任講師）、由水　伸（経営学科・教授）、薦田　勇智（経営学科・専任講	研究室等所在	1号館2階（佐藤）・1号館2階（由水）・2号館7階（薦田）		
単位数	1　（単位認定責任者：　佐藤　雅一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

・インターネットを利用する際のセキュリティやマナーに配慮した利用法を学ぶ。
・Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｔｅａｍｓを利用したオンライン授業の受け方と、課題の回答方法について学ぶ。
・ＰＣによる文書作成の方法について理解し、適切なかたちで利用する方法を学ぶ。
・Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使ったプレゼンテーション資料の作成方法や効果的な説明法を学び、プレゼンテーション能力を磨く。
・「数理・データサイエンス」を理解する上で必要な基本的な素養を身につける。
・スチューデントスキル、スタディスキル、 アカデミックスキル等を修得することにより、大学生として生活面や学習面等で高校から大学への 円滑な移行と、入学後に必要となるPCスキルを身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ４に対応する。

到達目標

・ネット上のセキュリティやマナーを理解し、他の利用者に配慮しながら、安心安全に利用できる。（スチューデントスキル）
・Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｔｅａｍｓを利用したオンラインまたは対面の受講ができる。（スタディスキル）
・Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｗｏｒｄを使った文書作成を学び、他の講義や、レポート、卒業論文に活用できる。（アカデミックスキル）
・Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使って発表資料を対象者に応じて視覚的に分かりやすく、かつ効果的に説明できる。（アカデミックスキル）

授業全体の内容と概要

・本学のネットワークの利用法とマナーについて説明する。
・実習編前半では、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｗｏｒｄ使った、文書処理（定型文書やレポートの作成等）を学ぶ。
・実習編後半では、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使った、発表の組み立て、資料の準備、ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔの基本的な使い方などを学ぶ。
・本科目は、数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム（情報リテラシー）の関連授業科目である。
・本科目は、以下のＳＤＧｓ関連授業科目である。
「ＳＤＧｓ４．質の高い教育をみんなに」
「ＳＤＧｓ９．産業と技術革新の基盤をつくろう」

授業の方法

・ＩＣＴを活用した講義体制となる。
・解説・演習時は、大型モニターに教材（スライド資料等）を提示しながら行う。
・Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｔｅａｍｓを利用して課題提示、提出を求める。
・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・実習時は、大学に備え付けのＰＣの他、自己所有のノートＰＣ（Ｗｉｎｄｏｗｓ／Ｍａｃ）を使用してもよい。
・自己所有のノートＰＣを使用する場合は、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｏｆｆｉｃｅを使えるように準備すること。（大学から無償で提供）。
・課題作成については著作物等の盗用（剽窃）無きよう、十分配慮すること。
・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必須科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上。
・遅刻及び早退は２０分までを限度とし、特別な理由がない限りそれ以上の場合は欠席とみなす。
・課題提出期限を過ぎて提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	0%	５０%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ネット上のセキュリティとマナーの理解	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、自分が守るだけでなく周囲にも働きかけていた。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、より広い範囲で守っていた。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し、正しく守っていた。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し守っていた。	ネット上のセキュリティとマナーを守ろうとする意識が無かった。
Microsoft Teamsを利用した受講法	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができた。	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢があった。	ログインをして、必要なことはすべてできた。	ログインをして基本的な部分は利用できた。	利用する方法が分からなかった。
Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ Ｗｏｒｄ を使った文書作成	文字入力が速く、Ｗｏｒｄの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができた。	文字入力が速く、Ｗｏｒｄの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できた。	文字入力速度が十分で、Ｗｏｒｄの機能を利用して、定型文書作成を制限時間内に作成できる。また、レポートなども作成できた。	文字入力速度が遅めだが、Ｗｏｒｄの機能を利用して、定型文書作成を時間がかかりながらも作成できた。	文字入力が遅く、Ｗｏｒｄの機能活用まで至らなかった。
ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使った発表資料作成と表現力	ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。また、周囲の学生へのアドバイスも行っていた。	ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。	ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使った発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は十分であった。	ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使った発表資料の作成はできたが、説得力、表現力が劣っていた。	発表資料を作成することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習Ⅰ（M-C） （科目ナンバリング：S0F061042　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　雅一（経営学科・専任講師）、由水　伸（経営学科・教授）、薦田　勇智（経営学科・専任講	研究室等所在	1号館2階（佐藤）・1号館2階（由水）・2号館7階（薦田）		
単位数	1　（単位認定責任者：　佐藤　雅一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	◇ オリエンテーション ・シラバスの確認（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）、学内のネットワーク、アカウントとパスワード等の説明 ・Ｔｅａｍｓを使った受講方法、ＰＣ受講環境の設定と確認、ＰＣの基本的操作説明	シラバスを読む（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
2	◇ 大学生に必要なネットワーク上のマナー、セキュリティの知識 ◇ Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｏｆｆｉｃｅの全般的な設定	ネットワーク上のマナーについて調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
3	◇Ｗｏｒｄの基本操作・書式設定（基本編） ・ファイルの新規作成、保存、文字入力と編集 ・フォントと文字サイズ、文章と段落	Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｏｆｆｉｃｅについて調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
4	◇Ｗｏｒｄの基本操作・書式設定（基本編） ・レイアウトとフォーマット、マージンの設定 段落のインデント、テキストの配置 行間の調整、文書のスタイル	Ｗｏｒｄの書式設定について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
5	◇情報の整理 ・ビジネス定型文書の作成１ 単純な例文の作成練習	ビジネス定型文書の作成ついて調べる（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
6	◇情報の整理 ・ビジネス定型文書の作成２ 複雑な例文の作成練習 表作成	ビジネス定型文書の作成ついて調べる（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
7	◇情報の整理 ・レポート作成の基本 表紙、図形、写真、などの画像の挿入方法 画像のサイズ変更と配置 スクリーンショットのとり方	画像や図形の挿入方法について調べる（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
8	◇情報の整理 ・表作成 ・ページ番号、ヘッダーとフッターの設定 ・文書の印刷、プリンターの設定 ・PDFへのエクスポート	表やヘッダーとフッターについて調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
9	◇情報の整理 ・複雑な表組	表について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
10	◇情報の整理 ・チラシの作成	チラシに書かれる文章、構造等を調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
11	◇Ｗｏｒｄまとめ	これまでのＷｏｒｄの内容について復習する（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
12	●ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔの基本操作 ・基礎課題を通じてＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使ったプレゼンテーション作成の基本を理解する	ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔの基本的な使い方について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
13	●情報発信 ・各自自由にテーマ決めをする ・テーマに沿った内容のプレゼンテーション資料を作成	授業中に終わらなかった作業を行う（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
14	●情報発信 ・中間報告 ・資料に対するフィードバックを行う	授業中に終わらなかった作業を行う（４５分）	フィードバックを受けて資料の修正、発表練習（４５分）
15	●情報発信 ・発表	授業中に終わらなかった作業を行う（４５分）	発表練習（４５分）
16	●情報発信 ・発表 ・授業評価改善アンケート ・科目を修了して「身に付く力」の検証	発表練習（４５分）	発表を振り返る（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅰ（M-信濃） （科目ナンバリング：ENL041029　　）				
授業担当者 （所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1　（単位認定責任者：　信濃　吉彦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードまたは連絡用ホワイトボードにて確認すること。				

概要

履修目標

国際化が高度に進行した現代において、国際共通言語としての英語に関して、その構造の理解し身に付けることを目指す。具体的には翻訳アプリが身近にない状態でも基本的なコミュニケーションを行うことができる土台（基礎的文法事項の理解）の構築を目指す。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

「辞書さえあれば英語は大丈夫！」といった自信を持つことができる。

授業全体の内容と概要

品詞（特に動詞と名詞）を中心とした言語構造（５文型）と様々な場面における基礎表現を身につける。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義形式で授業を行い教科書やハンドアウトを利用し英語の構造について学習しながら指定アプリを活用して単語数や日常表現を増やす活動を行う。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。
指定翻訳アプリ：VoiceTra
＜VoiceTra（ボイストラ）はＮＩＣＴ（エヌアイシーティー：国立研究開発法人情報通信研究機構）が、言葉の壁の克服を目指して開発したスマートフォン用の無料多言語音声翻訳アプリです。＞

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

平常点を重視する。平常点とは出席・授業参加度・授業記録のことを指す。遅刻は２０分までとし２回の遅刻を以って欠席１回とする。特別な理由のない２０分以上の遅刻は欠席扱いとする。また中間試験の代わりに英語に関するレポート課題を複数回実施し採用する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。特に、1回目の授業（科目オリエンテーション）終了後に必ず研究室を訪問し相談すること。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

講義による授業形態を採る。教科書・ノート・筆記具を持ってこない学生は欠席とする。また、教科書のない学生は評価の対象としない。１3回以上の出席を基準とし１２回の出席を確保できないものは再履修とする。
平常点にはノートチェックと授業参加度を含む。前向きなかつ自主的な課題の提出には，加点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	２０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で９２点以上の得点を挙げた。	定期試験で８２点以上の得点を挙げた。	定期試験で７２点以上の得点を挙げた。	定期試験で６０点以上の得点を挙げた。	定期試験で６０点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に課題に取り組み、実際の場面で必要となる語彙・表現に取り組み、十分なコミュニケーション能力を獲得するための土台がほぼ完成をみた。	与えられた課題に取り組み、自分が出会う場面を想定しコミュニケーションをとる土台が出来つつあった。	与えられた課題に取り組み、日々の生活で使用頻度の高い語彙を調べだし辞書を有効に活用してコミュニケーションの土台つくりの努力が見られた。	与えられた課題に取り組み、語彙力をつける努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、語彙力の進歩が見られず、翻訳アプリがないと何もできない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら課題解決に取り組み、余った時間をさらなる語彙力・表現力の充実に振り分けていた。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談にも常であり国際言語習得に関して前向きで、努力が見られた。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれた。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んで国際言語を身につけようとする姿勢が見られない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅰ（M-信濃） （科目ナンバリング：ENL041029　　）				
授業担当者 （所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　信濃　吉彦　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードまたは連絡用ホワイトボードにて確認すること。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『よくわかる英語の基本』	澤井　康佑	開拓社	２０１０	9784758915304	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 英語の構造に関する基本的な考え方 授業改善アンケート結果に関する説明	専用のノートを準備し テキストのpp.3-25を読み込む（４５分）	自分の弱点確認（４５分）
2	英語と日本語の違い	テキストの pp.26-29 を読み込む　（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
3	英語の基本文型①	テキストのpp.29-36　を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
4	英語の基本文型②	授業1～3の総復習（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
5	英語の動詞とその使い方①	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
6	英語の動詞とその使い方②	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
7	品詞に関するイメージ①	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
8	品詞に関するイメージ②	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
9	英文の構造を理解する①	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
10	英文の構造を理解する②	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
11	文型確認小テスト	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
12	時制①	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
13	時制②	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
14	不定詞・動名詞・分詞のイメージ①	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
15	不定詞・動名詞・分詞のイメージ② テストリビュー 授業改善アンケートの実施	テキストの指定範囲を読む（４５分）	期末試験に備える(４５分)
16	試験（６０分）及び授業総評（３０分） 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証：辞書さえあれば何とか英文を訳す自信がついたか？	試験準備（１２０分）	授業内容の振り返り（６０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅰ（M-岡島） （科目ナンバリング：ENL041029　　）				
授業担当者 （所属・職名）	岡島　徳昭（経営学科・特任教授）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	1　（単位認定責任者：　岡島　徳昭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

文法、読解、作文などの演習をとおし英語の運用能力を向上させるとともに、異文化理解を深め、総合的なコミュニケーション能力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

基礎的文法や構文を復習し、英文読解、作文力を身につけ、同時に英語によるコミュニケーション能力を高める。

授業全体の内容と概要

英文を読み読解力、語彙力を培う。文法、構文の復習を通し、英語運用能力の向上を図る。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

板書、CDを用い、「聞く」「書く」「話す」「読む」の４技能向上を目指し、学生参加型授業を展開する。中間テスト、定期試験に対する答え合わせ等のフィードバックを実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席重視、テキスト・辞書持参
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

成績評価には１０回以上の出席が必要。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	０%	０%	４０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能（発音・語彙・文法・読解等）	定期試験・中間試験で９割以上、文法・語彙に誤りがなく正確に理解していた。	定期試験・中間試験で８割以上、文法・語彙に誤りがほとんどなく大体理解できた。	定期試験・中間試験で７割以上、文法・語彙に若干誤りがあるが理解していた。	定期試験・中間試験で６割以上、文法・語彙に誤りがあり理解できない部分があった。	定期試験・中間試験で６割以下。文法・語彙に誤りが多く理解に問題があった。
思考力・判断力・表現力	表現方法が適切であり誤りがほとんどなかった。	表現方法はほぼ適切で、小さな誤りが若干ある程度だった。	誤りがあるが、表現方法において誤解を生じるほどの大きな誤りはなかった。	表現方法に誤りがあり、自分の意思を伝えることに支障をきたす点があった。	表現方法に誤りが目立ち、自分の意思が伝わらなかった。
参加型授業への取り組み姿勢	大いに意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表も多く積極的だった。	意欲･関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表に努め積極的だった。	ある程度意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。やや積極的だった。	あまり意欲･関心・興味が感じられなかった。無難に授業を消化していた。やや積極性に欠けていた。	全く意欲･関心･興味が感じられなかった。遅刻・欠席が目立った。積極性に欠けていた。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅰ（M-岡島） （科目ナンバリング：ENL041029　　）				
授業担当者 （所属・職名）	岡島　徳昭（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　岡島　徳昭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『「英検準２級　合格への道」』	坂部俊行，岡島徳昭　他	南雲堂	２０１１	9784523176763	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業の進め方，採点に関すること，その他授業に関する ガイダンス。シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）。 Practice Test Practice Test（P５６）	シラバスを読むこと。 （４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
2	Lesson １　語句空所補充 読解の基礎練習　E-mail	指示されたリーディングアサイメントと単語学習。 （４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
3	Lesson １　語句空所補充 読解の基礎練習　E-mail	指示されたリーディングアサイメントと単語学習。 （９０分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
4	Lesson ２　語句空所補充 読解の基礎練習 A Large Family	指示されたリーディングアサイメントと単語学習。 （４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
5	Lesson ２　語句空所補充 読解の基礎練習 A Large Family	指示されたリーディングアサイメントと単語学習。 （４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
6	Lesson ３　語句空所補充 読解の基礎練習　Robots that Appear Human	指示されたリーディングアサイメントと単語学習。 （４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
7	Lesson ３　語句空所補充 読解の基礎練習　Robots that Appear Human	指示されたリーディングアサイメントと単語学習。 （４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
8	中間テスト	試験の準備学習。 （４５分）	試験の復習。 （４５分）
9	Lesson ４　語句空所補充 読解の基礎練習　Lighthouse　Homes	指示されたリーディングアサイメントと単語学習。 （４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
10	Lesson ４　語句空所補充 読解の基礎練習　Lighthouse　Homes	指示されたリーディングアサイメントと単語学習。 （４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
11	Lesson ５　語句空所補充 読解の基礎練習　E-mail	指示されたリーディングアサイメントと単語学習。 （４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
12	Lesson ５　語句空所補充 読解の基礎練習　E-mail	指示されたリーディングアサイメントと単語学習。 （４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
13	Lesson ６　語句空所補充 読解の基礎練習　Virtual Reality	指示されたリーディングアサイメントと単語学習。 （４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
14	Lesson ６　語句空所補充 読解の基礎練習　Virtual Reality	指示されたリーディングアサイメントと単語学習。 （４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
15	全体復習　Simulation Test（P７４-５）	指示されたリーディングアサイメントと単語学習。 （４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
16	総合評価　定期試験６０分、解説３０分 授業改善アンケートの実施 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	指示されたリーディングアサイメントと単語学習。 （４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅰ（M-石田） （科目ナンバリング：ENL041029　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石田　暁子（非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	1　（単位認定責任者：　　石田　暁子　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

英文法の基本を理解し、練習問題による練習を通して発音と共に身につける。自ら英語で発信できるようにする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

身近な英語の語彙を覚え、文法の基礎を理解する。英文を読むことができる。

授業全体の内容と概要

英文法の解説、練習問題、リーディングの構成で、簡単な事柄からより高度な内容へと段階的に学んでいく。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

最重要事項を板書することによって注意を促し、じっくりと確実に反復学習を進める。発音練習にも力を入れる。各自の理解度を知るため、授業では毎回できるだけ多くの学生を指名し、解答を聞く。テキストのリーディングパートについては必ず予習で翻訳してくることを課題とする。学生は授業で自分の訳に間違いがないかどうかを確認し、最後にまとめたものを教員が最終チェックして返却する。これも評価の対象となる。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教科書を必ず用意すること。同じ名称のクラスが複数あるので、自分のクラスを間違えないよう、確認の上、履修登録すること。教科書も異なるので購入時に注意は必要。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	０%	３０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
英文法の理解度	授業の範囲を超え、関連事項への興味があった。また、自分から発信する意欲が見られる。	授業内容をほぼ理解している。	基本的な文法事項の理解はできていたが、より複雑な事項になると不安がある。	基本的な事項のみ理解できている。	基本的な事項が身についていない。
練習問題や発音練習の参加度	積極的に参加し、授業の進行に貢献していた。	説明をよく聞き、発音練習や練習問題にも真剣に取り組んだ。ミスを指摘された際、自分で訂正することができ、向上が認められた。	発音練習や練習問題に真剣に取り組んだ。	自分の力で問題を解くことをあきらめてしまっていたが、解答を聞いた後に理解しようとする努力がみられた。	授業中の活動に集中できなかった。
課題（英文和訳）への取り組み	予め語や語句の意味を調べ、英文の訳を試みた。疑問点を自覚した上で授業に臨み、解決することができた。	予習にきめ細かさはないが、ほぼ満足な訳ができた。	毎回予習をせず、復習によって　挽回を図ることもあった。	復習だけのことが多く、課題は提出したが、期限を守ることができなかった。	課題を提出しなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅰ（M-石田） （科目ナンバリング：ENL041029　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石田　暁子（非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　　石田　暁子　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『英文法の基礎理解』	高橋　哲徳　他	朝日出版社	２０１７	9784255155975	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『英和辞典』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） be動詞の種類・意味・否定文・疑問文	テキストp.2～5予習（４５分）	授業内容復習 （４５分）
2	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.6 予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
3	一般動詞の種類・語形変化・否定文・疑問文	テキストp.8～11 予習（４５分）	授業内容復習 （４５分）
4	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.12 予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
5	疑問詞を用いた疑問文の作り方	テキストp.14～16 予習（４５分）	授業内容復習 （４５分）
6	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.17予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
7	進行形の基本・否定文・疑問文	テキストp.19～21 予習（４５分）	授業内容復習 （４５分）
8	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.22　予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
9	未来形の表現・否定文・疑問文	テキストp.24～26 予習（４５分）	授業内容復習 （４５分）
10	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.27 予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
11	完了形の種類・基本・用法・否定文・疑問文	テキストp.29～34 予習（４５分）	授業内容復習 （４５分）
12	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.35 予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
13	基本的な前置詞と代名詞の格変化	テキストp.36～39 予習（４５分）	授業内容復習 （４５分）
14	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.40 予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
15	総復習・要点整理	期末試験準備 （４５分）	期末試験準備 （４５分）
16	授業改善アンケートの実施 期末試験（６０分）・講評・解説し、フィードバックする。 （３０分） 科目を修了して「身に付く力」の検証	期末試験準備 （４５分）	期末試験内容復習 （４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅰ（M-井坂） （科目ナンバリング：ENL041029　　）				
授業担当者 （所属・職名）	井坂　肇（経営学科・専任講師）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	1　（単位認定責任者：　井坂　肇　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

英文法の基本を理解し、練習問題による練習を通して英語の運用・使い方の基礎を身につける。自ら英語で発信できるようになる。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、DP２、DP５に対応する。

到達目標

身近な英語の語彙・イディオムを習得し、英文法の基礎を理解できる。また、平素な英文の読解ができ、簡単な英文の作成ができるようになる。

授業全体の内容と概要

所定のテキストに基づき、文法事項の解説を加えながら、各項目の練習問題を解き文法事項の定着を図る。
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。世界市民としての意識、さまざまな文化があることなどを理解できる教育をすすめる。

授業の方法

講義形式で授業を行い、教科書やパワーポイントを使用しながら、じっくりと確実に反復学習を進める。英文の暗記によって英語で発信するする力の向上を狙う。文法事項の定着を図るため、講義中に演習課題を行い双方向システムを活用する。さらにはMicrosoft　Formsの小テストから学生全体の理解度を把握し、指導する。学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・１５分以上の遅刻は欠席とみなす
・遅刻２回で欠席１回とする
・授業には必ずテキストを持参すること。
・不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。
教科書・筆記用具を持ってこない学生は欠席とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	０%	３０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
定期試験	定期試験で８０点以上の得点を上げた。	定期試験で６５点以上の得点を上げた。	定期試験で５０点以上の得点を上げた。	定期試験で４０点以上の得点を上げた。	定期試験で４０点をクリアすることができなかった。
英文法の理解度	基礎的な英文をしっかりと書くことができた。	基礎的な英文をほぼ正確に書くことができた。	基礎的な短い英文を大体書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書くことができなかった。
授業に対する取り組み	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組まなかった。積極性や協働性に関して期待される最低限のレベルに到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅰ（M-井坂） （科目ナンバリング：ENL041029　　）				
授業担当者 （所属・職名）	井坂　肇（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　井坂　肇　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『総合英語FACTBOOK　English Grammar　Core Workbook　[New Edition]』	桐原書店編集部　編	桐原商店	2022	9784342207372	
2	『総合英語FACTBOOK　これからの英文法　[New Edition]』	大西泰斗、ポール・マクベイ	桐原書店	2022	9784342207259	
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 基礎英語Ⅰを修了して「身に付く力」についての説明	事前にシラバスを読んでおく （４５分）	シラバスの内容を確認し、授業準備を行う （９０分）
2	第１章　文型（１）	第１章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
3	第２章　文型（２）	第２章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
4	Plus　文型	Plus文型の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
5	第３章　時を表す表現（１）	第３章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
6	第４章　時を表す表現（２）	第４章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
7	第５章　完了形（１）	第５章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
8	第６章　完了形（２）	第６章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
9	小テスト 小テストの結果について授業内でコメントをしてフィードバックする	小テストの準備 （４５分）	小テスト内容復習 （４５分）
10	第７章　助動詞（１）	第７章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
11	第８章　助動詞（２）	第８章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
12	第９章　助動詞（３）	第９章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
13	第１０章　受動態（１）	第１０章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
14	第１１章　受動態（２）	第１１章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
15	期末試験	期末試験準備 （４５分）	期末試験内容復習 （４５分）
16	授業最終回において講評をし、フィードバックする 基礎英語Ⅰを修了して「身に付いた力」について検証する 授業改善アンケートの実施	授業内容予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年、デザイン学科・１年、建築学科・１		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅰ（SDA-西崎） （科目ナンバリング：ENL041029　　）				
授業担当者 （所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1　（単位認定責任者：　西崎　毅　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校の英語科教員、英語教育改革に係る指導行政担当者としての経験及び国際交流に関する実務経験を活用し、英語の基礎事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

英語の統語構造を理解するとともに、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける。
目的や場面、状況などに応じて情報や考えなどを理解し、表現し、伝えあうことができる力を身に付ける。
主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。

授業の位置づけ

社会福祉・デザイン・建築学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

英語の5つの文型についてその概要を理解できる。
修飾語・句・節についてその概要を理解できる。
英語で簡単な説明を行うことができる。英語を読んだり聞いたりしてその概要を理解することができる。

授業全体の内容と概要

英語がどのような構造で成立しているのか、その法則性はどのようになっているのかについて理解し、相手が発する英語を理解したり、自分の考えを英語で表現したりすることができる能力を育成するために必要な事項を説明するとともに、知識や技能の定着のための演習を行う。英語の四技能をバランスよく育成するため、リスニングの演習や発表活動等を行う。学修集団の英語への興味・関心・習熟度等により、シラバスに記載した学修内容を再構成する場合がある。「SDG.4 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では、学生のPC及びスマートフォンを使用する。授業は原則として英語で行うほか、毎回リスニング演習を行う。一方的な講義とならないよう、学生による発表やグループ活動を行う。学生の理解に資するよう、タブレットの文字記入機能等を活用して説明を行う。学修内容の確実な定着を図るため、毎時間質問の時間を設定する。課題や発表に対しては口頭及びコメントにて評価のフィードバックを行う。要望については口頭及びメール等で対応する。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。教科書は基礎英語Ⅰ・Ⅱを通じて使用する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

○授業の前後に行う学修課題を課すので真剣に取り組むこと。
◎授業資料は適切に管理し，学修に役立てること。
◎授業資料等は、Microsoft Teams の「投稿欄」の「ファイル」 に格納するので必要に応じてダウンロードすること。（教材の音声データを含む）
○講義中における私的なサイトの閲覧およびＳＮＳ等の使用は禁止する。
◎講義中の私語・居眠りは厳に慎むこと。
◎講義中の「退室」は、許可を得ること。
◎座席は指定しないが、スクリーンの文字が読める座席に着席すること。
○上記以外の授業に関する事項については、担当教員が判断・決定・説明する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

○単位認定に必要な最低出席回数は11回。
◎成績評価は、定期試験の点数（６０%）、課題等への対応、講義に臨む姿勢、積極性などの平常点（４０%）を基に総合的に判断して行う。
○受講姿勢及び課題はすべて点数化・集積し，評価に活用する。
○講義中における私的なサイトの閲覧およびＳＮＳ等の使用、私語、居眠り、出席管理システムの不正利用などの授業妨害行為は別途減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で９割以上の得点を上げた。	定期試験ﾃﾞ８割以上の得点を上げた。	定期試験で７割以上の得点を上げた。	定期試験で６割以上の得点を上げた。	定期試験で得点が６割に満たなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。英語を使用したコミュニケーションに関しては求められるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。英語を使用したコミュニケーションに関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。英語を使用したコミュニケーションに関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。英語を使用したコミュニケーションに関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組まなかった。英語を使用したコミュニケーションに関して期待される最低限のレベルに到達することができなかった。
主体性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組まなかった。積極性や協働性に関して期待される最低限のレベルに到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年、デザイン学科・１年、建築学科・１		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅰ（SDA-西崎） （科目ナンバリング：ENL041029　　）				
授業担当者 （所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1　（単位認定責任者：　西崎　毅　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校の英語科教員、英語教育改革に係る指導行政担当者としての経験及び国際交流に関する実務経験を活用し、英語の基礎事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『英文法から学ぶ基本英語Polish Up Your English』	登美　博之 / Bill Benfield	成美堂	2015	9784791900701	
2	『リスニング教材は別途購入案内する。』					
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス及び科目を修了して「身に付く力」の説明を含む） 文の構造（動詞と５文型） 授業改善アンケート結果反映の説明	英語についての自己の課題を考えておくこと。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
2	文型（S+V）、文型（S+V+C）、文型（S+V+O） リスニング演習	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
3	文型と修飾語句（形容詞、副詞） リスニング演習 課題のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
4	文型（S+V+O+O）、文型（S+V+O+C） リスニング演習	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
5	５文型の総復習 リスニング演習 課題のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
6	文の要素と名詞相当語・句・節① リスニング演習	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された 事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
7	文の要素と名詞相当語・句・節② リスニング演習 課題のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
8	文の要素と名詞相当語・句・節③ リスニング演習・英語による発表	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
9	文の要素と形容詞相当語・句・節① リスニング演習・英語による発表 課題のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
10	文の要素と形容詞相当語・句・節② リスニング演習・英語による発表	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
11	文の要素と形容詞相当語・句・節③ リスニング演習・英語による発表 課題のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
12	文の要素と副詞相当語・句・節① リスニング演習・英語による発表	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
13	文の要素と副詞相当語・句・節② リスニング演習・英語による発表 課題のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（９０分）
14	文の要素と副詞相当語・句・節③ リスニング演習・英語による発表	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
15	文の構造の総復習 リスニング演習・英語による発表 課題のフィードバック、授業改善アンケートの実施	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	前回までの学修内容を復習すること。（４５分）
16	60分の試験，30分の解説、講義についてのフィードバック、科目を修了して「身に付く力」の検証	前回までの学修内容を復習すること、（４５分）	試験結果を参考に自らの学修姿勢を評価する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年、建築学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅰ（SDA-宮嶋） （科目ナンバリング：ENL041029　　）				
授業担当者 （所属・職名）	宮嶋　達也（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　宮嶋　達也　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

グローバル化に対応し、多様な人と協働するための表現力やコミュニケーション力を学ぶための英語科目であり、演習（ペアワークとグループワーク）を通じて英語コミュニケーションを学ぶ。文法ベースで初級から徐々に積み上げることで、最終的にはコミュニケーションに生かせる力を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP5に対応する。

到達目標

文法やリスニングを中心にやさしい英語で書かれた文での練習を通じて、英文がどのような構成要素から成り立っているのかを明確に把握する。英会話に最低限必要な語彙力、文法力を身につけて、スピーキング、ライティングなどのアウトプットへの発展を意識する。英語で5分間またはそれ以上、身近なトピックや関心事について、自分の考えや意見を詳しく述べることができる。

授業全体の内容と概要

既存の英語知識を活用させ，スピーキング能力およびスキルを身につけることに焦点を当てるが、４技能を結びつけて総合的に英語力を向上させる授業を行う。
最低限必要な語彙力や文法力を身につけながら、テキスト中の表現を利用し、様々なコミュニケーションの構造（挨拶、スモール・トーク、質問する、意見を述べる）を理解し，表現することを目標とする。

授業の方法

授業では英語によるコミュニケーションへ接続するための運用能力を身に着けることを目的とする。
テキストの練習問題を解き、疑問点などは個々に対応、或いはクラス全体への解答を解説し学生へのフィードバックを行う。
授業中の発表、ペアやグループワーク、ロールプレイでの活動を取り入れ、コミュニケーション能力向上のために、積極的かつ協力的に行う。
テキストの音声ファイルを無料でストーミング・ダウンロードし自習用音声として活用する。「ＮＡＵ＊ＵＮ－ＤＯ（ｈｔｔｐ://nanun-do.com)提供

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

15分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻２回で欠席1回とします。
授業には必ずテキスト、辞書を持参すること。テキストを忘れ、授業前に申し出ない場合は欠席扱いとする。
授業計画に基づき、事前に各回の授業範囲の単語などの意味を調べておくこと。
授業を休んだ場合は，次の授業までに、休んだ回の授業内容を担当教員又はクラスメートに確認し、課題など必要な情報を入手して下さい。
不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定の必要となる最低出席回数は１１回以上とする。授業の参加姿勢も評価の対象になります。授業活動に積極的に参加することで、授業外での学習成果を実感できます。予習と復習は授業の内容を理解し、学習効果を上げるために必要です。積極的に授業に参加するようにしてください。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	０%	0%	１０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業の理解度	授業内容を完全に理解し、質問に正確に答えられる。授業内容を超えた学修が認められる	ほとんどの内容を理解し、質問に答えられる。授業内容を十分に理解している	基本的な内容を理解し、簡単な質問に答えられる。授業内容を理解している	一部の内容を理解しているが、質問に答えるのが難しい。授業内容の理解に不足がある	授業内容の理解が不足し、質問に答えられない。授業内容を理解していない
英語表現能力(スピーキング)	流暢で正確に話し、複雑な内容も自信を持って説明できる	ほぼ流暢に話し、一般的な内容を問題なく説明できる	基本的に話せるが、複雑な表現は難しい	一部話せるが、しばしば言葉に詰まり、内容を伝えるのが難しい	基本的な内容を伝えることができない
授業の積極的参加	授業全体の流れを理解し、質問・問題提起により授業展開に貢献する	授業全体の流れを理解し、発問に対して積極的に応じる	発問に対して、指名されれば正しく応じることができる	授業に集中して理解しようとする態度が見られる	授業に集中できず、授業放棄の態度が見られる
事前・事後学修	自ら進んで学修範囲を超えて調べている	学修範囲を十分に調べて、授業内容を他人に説明できる	学修範囲の理解に曖昧な点がある	指示された範囲の事前・事後学修はするが、理解が不十分である	指示された範囲の事前・事後学修をほとんどせず理解が不十分である。
リスニング技能	授業内で取り扱った単語・表現を完璧に習得し、リスニング技能を問題なく正確に運用できる	授業内で取り扱った単語・表現の大部分を習得し、リスニング技能を正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・表現の大部分を習得し、リスニング技能をほぼ正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・表現を部分的に習得しているが、リスニング技能の運用に不適切な部分が見受けられる。	授業内で取り扱った単語・表現の習得が不十分であり、リスニング技能の運用に不正確さが目立つ。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年、建築学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅰ（SDA-宮嶋） （科目ナンバリング：ENL041029　　）				
授業担当者 （所属・職名）	宮嶋　達也（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　宮嶋　達也　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『Speaking of People』	Peter Vincent	南雲堂	2020	9784523179092	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション　英語で自己紹介文作成 シラバスの説明/授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを参照しながらテキスト内容を理解する。（４５分）	授業各回のテーマを理解しておくこと。（４５分）
2	Grammar 5sentence patterns Ⅰ(5文型)	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。　（４５分）
3	Grammar 5sentence patterns Ⅱ(5文型)	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。　（４５分）
4	Unit 1 Speaking About Yourself	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。　（４５分）
5	Unit 2 What Do You Do?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。　（４５分）
6	Unit 3 What Does He Look Like?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。　（４５分）
7	Review Units 1-3	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。　（４５分）
8	Unit 4 Where Are You From?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。　（４５分）
9	Grammar Gerunds and Infinitives Ⅰ(動名詞＆不定詞)	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。　（４５分）
10	Grammar Gerunds and Infinitives Ⅱ(動名詞＆不定詞)	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。　（４５分）
11	中間テスト	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。　（４５分）
12	Unit 5 Likes and Dislikes	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。　（４５分）
13	Unit6 What ' s She Like?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。　（４５分）
14	Review Units 4-6	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。　（４５分）
15	Review１	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。　（４５分）
16	Final Exan.　試験終了後，フィードバック及び授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	試験範囲の復習。（４５分）	授業で説明を受けた解説を復習。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年、デザイン学科・1年、建築学科1年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅰ（SDA-横田） （科目ナンバリング：ENL041029　　）				
授業担当者 （所属・職名）	横田　肇（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　横田　肇　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

学生が英語の基本的な文法・語法を習得し、英語の運用・使い方の基礎を身につける。合わせて、グローバル化の中でのコミュニケーションの基礎を学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP２、DP５に対応する。
デザイン学科のDP１、DP２、DP５に対応する。
建築学科のDP１、DP２、DP５に対応する。

到達目標

1)学生が英語の基本的な語彙・イディオムの習得、英文法・運用の基礎の理解と習得ができている。
2)平易な英文の読解ができ、簡単な英文の作成ができるようになる。
3)平易な英会話ができるようになる。

授業全体の内容と概要

毎回、所定のテキストに基づき、英文法の各項目の練習問題を解き、合わせて、関連する読解、作文、会話の練習問題を解く。同時に、必要最小限の説明を加えていく。

授業の方法

毎回、所定のテキストに即し、パワーポイントと板書等により各項目の全体的な説明（一斉）を行う。その後、個人・グループワークによる練習問題の解答を行う。解答の終了後にグループごと、個人ごとに課題の提出を求める。授業の最後にその回と前回の課題へのフィードバック（コメント）と課外学習（宿題）についての指示を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

欠席、遅刻をしないように留意する。やむを得ず欠席する場合は申し出る。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録画・録音を認める。

資格指定科目

保育士養成課程必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	０％	０％	２０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
英文法の基礎力	英文法の基礎的な理解が完全にでき、十分な応用力がついた。	英文法の基礎的な理解がほぼできており、いくらか応用できる力がついた。	英文法の基礎的な理解が大体できた。	英文法の必要最小限の基礎的な理解ができた。	英文法の必要最小限の基礎的な理解ができなかった。
英文読解の能力	テキスト内の英文が正確・完全に読解でき、十分に応用することができた。	テキストの英文がほぼ理解でき、いくらか応用できた。	テキストの英文の基礎的な部分が大体理解できた。	指示によって、テキストの英文の基礎的な部分が大体理解できた。	指示によって、テキストの英文の基礎的な部分の理解ができなかった。
英作文の能力	基礎的な英文を正確にしっかりと書くことができた。	基礎的な英文をほぼ正確に書くことができた。	基礎的な短い英文を大体書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書くことができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年、デザイン学科・1年、建築学科1年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅰ（SDA-横田） （科目ナンバリング：ENL041029　　）				
授業担当者 （所属・職名）	横田　肇（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1　（単位認定責任者：　横田　肇　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『Simply Grammar 改訂版』	K.Saito	南雲堂	２０１７	978-4-523-17831-6	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						適宜指示
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明、シラバスの説明、ガイダンス。 この科目で身に付ける力についての説明。	シラバスを読んでおく。（４５分）	アルファベットの基礎について調べる。（４５分）
2	英文法と英語の運用について（１）発音の基礎、単語の成り立ち、アルファベットの基礎	アルファベットの基礎について調べる（４５分）	アルファベットの基礎について調べる（４５分）
3	英文法と英語の運用について（２）be動詞の使い方 説明と練習。	教科書Unit１説明文の予習（４５分）	授業内容の復習（４５分）
4	英文法と英語の運用について（３）be動詞の使い方 説明と練習。	Unit１練習問題の予習（４５分）	Unit１練習問題の復習（４５分）
5	英文法と英語の運用について（４）be動詞の使い方　説明と練習。 既習範囲の理解の確認のための小テストを実施し、コメント等によるフィードバック を行う。	Unit１練習問題の予習（４５分）	Unit１練習問題の復習（４５分）
6	英文法と英語の運用について（５）一般動詞の使い方 説明と練習。	Unit２説明文の予習（４５分）	Unit２説明文の復習（４５分）
7	英文法と英語の運用について（６）一般動詞の使い方 説明と練習。	Unit２練習問題の予習（４５分）	Unit２練習問題の復習（４５分）
8	英文法と英語の運用について（７）一般動詞の使い方 説明と練習。	Unit２練習問題の予習（４５分）	Unit２練習問題の復習（４５分）
9	英文法と英語の運用について（８）一般動詞の使い方 説明と練習。	Unit２練習問題の予習（４５分）	Unit２練習問題の復習（４５分）
10	英文法と英語の運用について（９）動詞の使い方の注意すべき点 説明と練習。 既習範囲の理解の確認のための小テストを実施し、コメント等によるフィードバック を行う。	Unit１・２全体の確認（４５分）	Unit１・２全体の確認（４５分）
11	英文法と英語の運用について（１０）動詞の使い方の注意すべき点 説明と練習。	Unit１・２全体の確認(４５分)	Unit１・２全体の確認（４５分）
12	英文法と英語の運用について（１１）英文の構造の注意すべき点 説明と練習。	Unit１・２全体の確認（４５分）	Unit１・２全体の確認（４５分）
13	英文法と英語の運用について（１２）英文の構造の注意すべき点 説明と練習。	j配布資料の予習（４５分）	配布資料の復習（４５分）
14	英文法と英語の運用について（１３）英文の構造の注意すべき点 説明と練習。 既習範囲の理解の確認のための小テストを実施し、コメント等によるフィードバック を行う。	配布資料の予習（４５分）	配布資料の復習（４５分）
15	総復習（既習事項の復習） 説明と練習。	配布資料の予習（４５分）	配布資料の復習（４５分）
16	定期試験。６０分の試験終了後、３０分で解説を行う。授業改善アンケートの実施。 この科目で身に付けた力についての説明。 フィードバック	Unit１・２全体、配布資料の確認（４５分）	Unit１・２全体、配布資料の確認（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年、デザイン学科・１年、建築学科・１		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅰ（SDA-井坂） （科目ナンバリング：ENL041029　　）				
授業担当者 （所属・職名）	井坂　肇（経営学科・専任講師）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	1　（単位認定責任者：　井坂　肇　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

英文法の基本を理解し、練習問題による練習を通して英語の運用・使い方の基礎を身につける。自ら英語で発信できるようになる。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ１、DP２、DP５に対応する。

到達目標

身近な英語の語彙・イディオムを習得し、英文法の基礎を理解できる。また、平素な英文の読解ができ、簡単な英文の作成ができるようになる。

授業全体の内容と概要

所定のテキストに基づき、文法事項の解説を加えながら、各項目の練習問題を解き文法事項の定着を図る。
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。世界市民としての意識、さまざまな文化があることなどを理解できる教育をすすめる。

授業の方法

講義形式で授業を行い、教科書やパワーポイントを使用しながら、じっくりと確実に反復学習を進める。英文の暗記によって英語で発信するする力の向上を狙う。文法事項の定着を図るため、講義中に演習課題を行い双方向システムを活用する。さらにはMicrosoft　Formsの小テストから学生全体の理解度を把握し、指導する。学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・１５分以上の遅刻は欠席とみなす
・遅刻２回で欠席１回とする
・授業には必ずテキストを持参すること。
・不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。
教科書・筆記用具を持ってこない学生は欠席とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	０%	３０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
定期試験	定期試験で８０点以上の得点を上げた。	定期試験で６５点以上の得点を上げた。	定期試験で５０点以上の得点を上げた。	定期試験で４０点以上の得点を上げた。	定期試験で４０点をクリアすることができなかった。
英文法の理解度	基礎的な英文をしっかりと書くことができた。	基礎的な英文をほぼ正確に書くことができた。	基礎的な短い英文を大体書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書くことができなかった。
授業に対する取り組み	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組まなかった。積極性や協働性に関して期待される最低限のレベルに到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年、デザイン学科・１年、建築学科・１		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅰ（SDA-井坂） （科目ナンバリング：ENL041029　　）				
授業担当者 （所属・職名）	井坂　肇（経営学科・専任講師）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	1　（単位認定責任者：　井坂　肇　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『総合英語FACTBOOK　English Grammar　Core Workbook　[New Edition]』	桐原書店編集部　編	桐原商店	2022	9784342207372	
2	『総合英語FACTBOOK　これからの英文法　[New Edition]』	大西泰斗、ポール・マクベイ	桐原書店	2022	9784342207259	
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 基礎英語Ⅰを修了して「身に付く力」についての説明	事前にシラバスを読んでおく （４５分）	シラバスの内容を確認し、授業準備を行う （９０分）
2	第１章　文型（１）	第１章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
3	第２章　文型（２）	第２章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
4	Plus　文型	Plus文型の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
5	第３章　時を表す表現（１）	第３章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
6	第４章　時を表す表現（２）	第４章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
7	第５章　完了形（１）	第５章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
8	第６章　完了形（２）	第６章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
9	小テスト 小テストの結果について授業内でコメントをしてフィードバックする	小テストの準備 （４５分）	小テスト内容復習 （４５分）
10	第７章　助動詞（１）	第７章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
11	第８章　助動詞（２）	第８章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
12	第９章　助動詞（３）	第９章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
13	第１０章　受動態（１）	第１０章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
14	第１１章　受動態（２）	第１１章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
15	期末試験	期末試験準備 （４５分）	期末試験内容復習 （４５分）
16	授業最終回において講評をし、フィードバックする 基礎英語Ⅰを修了して「身に付いた力」について検証する 授業改善アンケートの実施	授業内容予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾄﾞｲﾂ語入門Ⅰ（M） （科目ナンバリング：GER051034　　）				
授業担当者 （所属・職名）	河田　一郎（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　河田　一郎　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

ドイツ語の初級文法と簡単な会話を身に付ける。グローバル化に対応するため、コミュニケーションの一手段としてドイツ語を学び、自らの世界を広げることを目標とする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

ドイツ語検定試験５級合格のための基礎を固める。ドイツ語圏への観光・留学をした際に困らない程度の日常会話を身につける。

授業全体の内容と概要

授業ではドイツ語初級文法を基礎から指導を行う。一年後には辞書を使えば、簡単な文章を理解できるようになることを目標とする。ドイツに関連することで、学生が興味を持ちそうなこと、また教養として知っていてほしいことについて紹介および解説を行う。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では板書をしながら、ドイツ語の文法やドイツの文化を紹介する。ドイツのＤＶＤ等も見て講義形式で行う。
また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

新しいことばかりなので、とにかく授業に参加すること。ドイツ語検定試験受験希望者には特別講義を行なう。再試験の評価は内容の理解度を重視する。

修学サポート（合理的配慮）

新しいことばかりなので、とにかく授業に参加すること。ドイツ語検定試験受験希望者には特別講義を行なう。再試験の評価は内容の理解度を重視する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ドイツ語の初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる。	学修した知識を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
基礎的な文法を用いて、平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる。	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
ドイツ語の基本的な語彙を修得し、発音が正確にできる。	学修した知識を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾄﾞｲﾂ語入門Ⅰ（M） （科目ナンバリング：GER051034　　）				
授業担当者 （所属・職名）	河田　一郎（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　河田　一郎　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ドイツ語ルネサンス〈第３版〉』	本郷・佐藤ほか	三修社	２０１３	9784384122732	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	【ガイダンス】　授業の進め方・シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）授業改善アンケート結果反映の説明。この科目を受講することで、「初級ドイツ語文法の理解と、簡単な日常会話を身に付けることができる。	シラバスの内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
2	【ドイツ語の発音について】　発音問題の基本的な発音、ドイツ語特有な発音について学習する。小テストを行ったときは、そのつど授業内でコメントし、フィードバックする。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
3	【ドイツ語の動詞について】　動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
4	【不規則変化動詞について】　不規則変化動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
5	【SEINとHABENについて】　SEINとHABENについて学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
6	【名詞と冠詞について】　名詞と冠詞について学び、格変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
7	【名詞の複数形について】　ドイツ語の名詞の複数形について学び、格変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
8	【人称代名詞について】　人称代名詞の変化について学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
9	【定冠詞類について】　ドイツ語の定冠詞類とはどのような変化をするのかを学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
10	【不定冠詞類について】　ドイツ語の不定冠詞類とはどのような変化をするのかを学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
11	【前置詞について】　ドイツ語の前置詞について学び、英語との違いを理解する。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
12	【３・４格支配の前置詞について】　３・４格支配の前置詞について学び、３格と４格の違いを理解する。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
13	【接続詞について】　ドイツ語の接続詞の特徴を学び、文章を書き換えることができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
14	【ヒアリング練習】　ヒアリングに関するポイントを学ぶ。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
15	【前期学修内容の復習】前期で学んだ文法項目をチェックする。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
16	【定期試験】試験前に授業改善アンケートを実施。これまでの授業について講評を行い、フィードバックする。第１回目で示した達成目標が身についたかどうか、試験を通して確認する。	試験に向け全体を復習すること。（９０分）	試験および解説を受けて講義全体を復習すること。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年、デザイン学科・３年、建築学科・３		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾄﾞｲﾂ語入門Ⅰ（S・D・A） （科目ナンバリング：GER051034　　）				
授業担当者 （所属・職名）	河田　一郎（経営学科・特任教授）	研究室等所在	２号館８階		
単位数	2　（単位認定責任者：　河田　一郎　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

ドイツ語の初級文法と簡単な会話を身に付ける。グローバル化に対応するため、コミュニケーションの一手段としてドイツ語を学び、自らの世界を広げることを目標とする。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

ドイツ語検定試験５級合格のための基礎を固める。ドイツ語圏への観光、留学をした際に困らない程度の日常会話を身につける。

授業全体の内容と概要

授業ではドイツ語初級文法を基礎から指導を行う。一年後には辞書を使えば、簡単な文章を理解できるようになることを目標とする。ドイツに関連することで、学生が興味を持ちそうなこと、また教養として知っていてほしいことについて紹介および解説を行う。
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では板書をしながら、ドイツ語の文法やドイツの文化を紹介する。ドイツのＤＶＤ等も見て講義形式で行う。また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

新しいことばかりなので、とにかく授業に参加すること。ドイツ語検定試験受験希望者には特別講義を行なう。再試験の評価は内容の理解度を重視する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ドイツ語の初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる。	学修した知識を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
基礎的な文法を用いて、平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる。	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
ドイツ語の基本的な語彙を修得し、発音が正確にできる。	学修した知識を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年、デザイン学科・３年、建築学科・３		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾄﾞｲﾂ語入門Ⅰ（S・D・A） （科目ナンバリング：GER051034　　）				
授業担当者 （所属・職名）	河田　一郎（経営学科・特任教授）	研究室等所在	２号館８階		
単位数	2　（単位認定責任者：　　河田　一郎　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ドイツ語ルネサンス（第３版）』	本郷・佐藤ほか	三修社	２０１３	9784384122732	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	【ガイダンス】　授業の進め方・シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）授業改善アンケート結果反映の説明。この科目を受講することで、初級ドイツ語文法の理解と、簡単な日常会話を身に付けることができる。	シラバスの内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
2	【ドイツ語の発音について】　発音問題の基本的な発音、ドイツ語特有な発音について学習する。小テストを行ったときは、そのつど授業内でコメントし、フィードバックする。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
3	【ドイツ語の動詞について】　動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
4	【不規則変化動詞について】　不規則変化動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
5	【SEINとHABENについて】　SEINとHABENについて学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
6	【名詞と冠詞について】　名詞と冠詞について学び、格変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
7	【名詞の複数形について】　ドイツ語の名詞の複数形について学び、格変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
8	【人称代名詞について】　人称代名詞の変化について学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
9	【定冠詞類について】　ドイツ語の定冠詞類とはどのような変化をするのかを学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
10	【不定冠詞類について】　ドイツ語の不定冠詞類とはどのような変化をするのかを学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
11	【前置詞について】　ドイツ語の前置詞について学び、英語との違いを理解する。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
12	【３・４格支配の前置詞について】　３・４格支配の前置詞について学び、３格と４格の違いを理解する。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
13	【接続詞について】　ドイツ語の接続詞の特徴を学び、文章を書き換えることができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
14	【ヒアリング練習】　ヒアリングに関するポイントを学ぶ。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
15	【前期学修内容の復習】前期で学んだ文法項目をチェックする。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
16	【定期試験】　試験前に授業改善アンケートを実施。これまでの授業について講評を行い、フィードバックする。第１回目で示した達成目標が身についたかどうか、試験を通して確認する。	試験に向け全体を復習すること。（９０分）	試験および解説を受けて講義全体を復習すること。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ総合（M-A） （科目ナンバリング：HSS031027　　）				
授業担当者 （所属・職名）	岡田　武志（経営学科・助教）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　岡田　武志　）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして，高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

生涯を健康で有意義に過ごすため，健康と体力を保持増進するとともに，身体活動を通して社会性や協調性を養い，高齢化社会を迎えた現在，将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を養い必要な知識を身につける。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

地域や職域に於けるスポーツ・レクリエーション活動を実践し，競技の特性やルールを学び理解することができる。

授業全体の内容と概要

各種目の基本技術の習得及びルールを学び，ゲーム中心に授業を進める。「ＳＤＧ　３．すべての人に健康と福祉を」の関連科目。

授業の方法

授業形態は実技であり、各種目の特性を考慮し基礎的な動作やルールを理解させ怪我に注意を払いながらゲーム運営ができるように配慮していく。また授業の中で種目ごとに理解されているか確認の実技試験を実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

ジャージ・屋内運動靴を必ず用意する。アクセサリー（時計，指輪，ピアス等）は全て外す。携帯電話の電源は必ず切る。貴重品・多額の現金は持参しない。爪・髪の毛等は清潔にその他注意事項の詳細は授業ガイダンスで指示する。
※健康上の理由で医師から運動を停止されている者は，申し出の上指示を受けること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上。
男女差、年齢差によって評価を考慮していく。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	３０%	６０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心・意欲・態度・判断	自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取り組み安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守らず役割を果たしていないときがあったが安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守らず役割を果たさなく意欲も全くなく安全に注意を払うことができなかった。
各運動技能	各種目の運動技能に優れ充分にできた。	各種目の運動技能が７割程度できた。	各種目の運動技能が５割程度できた。	各種目の運動技能が３割程度できた。	各種目の運動技能が全くできなかった。
知識・理解（ルール、審判、運営の仕方）	ルールを完全にマスターし審判やゲーム運営の仕方について状況や場面に応じて理解することができた。	ルールをある程度マスターし審判やゲーム運営の仕方について応用的に理解することができた。	ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について理解することができた。	ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について部分的に理解することができた。	ルールを全くマスターしておらず審判やゲーム運営の仕方について理解ができなかった。
その他	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ総合（M-A） （科目ナンバリング：HSS031027　　）				
授業担当者 （所属・職名）	岡田　武志（経営学科・助教）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　岡田　武志　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして，高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『アクティブスポーツ総合版』	文部科学省	大修館書店	2019	4469365603	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）	事前にシラバスを読んで確認しておく（４５分）	ガイダンスの内容を理解しておく（４５分）
2	体力測定	健康に留意し体調を整えておく（４５分）	身体のケアーを怠らない（４５分）
3	体力測定	健康に留意し体調を整えておく（４５分）	身体のケアーを怠らない（４５分）
4	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー）基礎動作と審判法，ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（４５分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（４５分）
5	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
6	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
7	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
8	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
9	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
10	ボールゲーム／ゴール型（バスケツトボール、フットサル、アルティメット）基礎動作と審判法，ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（４５分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（４５分）
11	ボールゲーム／ゴール型（バスケツトボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
12	ボールゲーム／ゴール型（バスケツトボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
13	ボールゲーム／ゴール型（バスケツトボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
14	ボールゲーム／ゴール型（バスケツトボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
15	ボールゲーム／ゴール型（バスケツトボール、フットサル、アルティメット）ゲーム 授業改善アンケートの実施	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
16	まとめ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	種目の特性やルールについて理解しておく（４５分）	生涯スポーツとしての基礎を理解する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ総合（M-B） （科目ナンバリング：HSS031027　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　和裕（経営学科・准教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　佐藤　和裕　）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

生涯を健康で有意義に過ごすため，健康と体力を保持増進するとともに，身体活動を通して社会性や協調性を養い，高齢化社会を迎えた現在，将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を養い必要な知識を身につける。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

地域や職域に於けるスポーツ・レクリエーション活動を実践し，競技の特性やルールを学び理解することができる。

授業全体の内容と概要

各種目の基本技術の習得及びルールを学び，ゲーム中心に授業を進める。「ＳＤＧ３．すべての人に健康と福祉を」の関連科目。

授業の方法

授業形態は実技であり、各種目の特性を考慮し基礎的な動作やルールを理解させ怪我に注意を払いながらゲーム運営ができるように配慮していく。また授業の中で種目ごとに理解されているか確認の実技試験を実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

ジャージ・屋内運動靴を必ず用意する。アクセサリー（時計，指輪，ピアス等）は全て外す。携帯電話の電源は必ず切る。貴重品・多額の現金は持参しない。爪・髪の毛等は清潔にその他注意事項の詳細は授業ガイダンスで指示する。
※健康上の理由で医師から運動を停止されている者は，申し出の上指示を受けること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上。
男女差、年齢差によって評価を考慮していく。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	３０%	６０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心・意欲・態度・判断	自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取り組み安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守らず役割を果たしていないときがあったが安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守らず役割を果たさなく意欲も全くなく安全に注意を払うことができなかった。
各運動技能	各種目の運動技能に優れ充分にできた。	各種目の運動技能が７割程度できた。	各種目の運動技能が５割程度できた。	各種目の運動技能が３割程度できた。	各種目の運動技能が全くできなかった。
知識・理解（ルール、審判、運営の仕方）	ルールを完全にマスターし審判やゲーム運営の仕方について状況や場面に応じて理解することができた。	ルールをある程度マスターし審判やゲーム運営の仕方について応用的に理解することができた。	ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について理解することができた。	ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について部分的に理解することができた。	ルールを全くマスターしておらず審判やゲーム運営の仕方について理解ができなかった。
その他	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ総合（M-B） （科目ナンバリング：HSS031027　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　和裕（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　佐藤　和裕　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『アクティブスポーツ総合版』	文部科学省	大修館書店	2019	4469365603	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）	事前にシラバスを読んで確認しておく（４５分）	ガイダンスの内容を理解しておく（４５分）
2	体力測定	健康に留意し体調を整えておく（４５分）	身体のケアーを怠らない（４５分）
3	体力測定	健康に留意し体調を整えておく（４５分）	身体のケアーを怠らない（４５分）
4	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー）基礎動作と審判法，ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（４５分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（４５分）
5	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
6	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
7	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
8	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
9	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
10	ボールゲーム／ゴール型（バスケツトボール、フットサル、アルティメット）基礎動作と審判法，ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（４５分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（４５分）
11	ボールゲーム／ゴール型（バスケツトボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
12	ボールゲーム／ゴール型（バスケツトボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
13	ボールゲーム／ゴール型（バスケツトボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
14	ボールゲーム／ゴール型（バスケツトボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
15	ボールゲーム／ゴール型（バスケツトボール、フットサル、アルティメット）ゲーム 授業改善アンケートの実施	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
16	まとめ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	種目の特性やルールについて理解しておく（４５分）	生涯スポーツとしての基礎を理解する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ総合（M-C） （科目ナンバリング：HSS031027　　）				
授業担当者 （所属・職名）	米野　宏（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　米野　宏　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

生涯を健康で有意義に過ごすため，健康と体力を保持増進するとともに，身体活動を通して社会性や協調性を養い，高齢化社会を迎えた現在，将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を養い必要な知識を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP１、DP２、DP５に対応する。

到達目標

地域や職域に於けるスポーツ・レクリエーション活動を実践し，競技の特性やルールを学び理解することができる。

授業全体の内容と概要

各種目の基本技術の習得及びルールを学び，ゲーム中心に授業を進める。「ＳＤＧ３．すべての人に健康と福祉を」の関連科目。

授業の方法

授業形態は実技であり、各種目の特性を考慮し基礎的な動作やルールを理解させ怪我に注意を払いながらゲーム運営ができるように配慮していく。また授業の中で種目ごとに理解されているか確認の実技試験を実施する。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

ジャージ・屋内運動靴を必ず用意する。アクセサリー（時計，指輪，ピアス等）は全て外す。携帯電話の電源は必ず切る。貴重品・多額の現金は持参しない。爪・髪の毛等は清潔にその他注意事項の詳細は授業ガイダンスで指示する。
※健康上の理由で医師から運動を停止されている者は，申し出の上指示を受けること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上。
男女差、年齢差によって評価を考慮していく。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	３０%	６０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心・意欲・態度・判断	自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取り組み安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守らず役割を果たしていないときがあったが安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守らず役割を果たさなく意欲も全くなく安全に注意を払うことができなかった。
各運動技能	各種目の運動技能に優れ充分にできた。	各種目の運動技能が７割程度できた。	各種目の運動技能が５割程度できた。	各種目の運動技能が３割程度できた。	各種目の運動技能が全くできなかった。
知識・理解（ルール、審判、運営の仕方）	ルールを完全にマスターし審判やゲーム運営の仕方について状況や場面に応じて理解することができた。	ルールをある程度マスターし審判やゲーム運営の仕方について応用的に理解することができた。	ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について理解することができた。	ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について部分的に理解することができた。	ルールを全くマスターしておらず審判やゲーム運営の仕方について理解ができなかった。
その他	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ総合（M-C） （科目ナンバリング：HSS031027　　）				
授業担当者 （所属・職名）	米野　宏（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　米野　宏　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『アクティブスポーツ総合版』	文部科学省	大修館書店	2019	4469365603	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）	事前にシラバスを読んで確認しておく（４５分）	ガイダンスの内容を理解しておく（４５分）
2	体力測定	健康に留意し体調を整えておく（４５分）	身体のケアーを怠らない（４５分）
3	体力測定	健康に留意し体調を整えておく（４５分）	身体のケアーを怠らない（４５分）
4	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー）基礎動作と審判法，ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（４５分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（４５分）
5	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
6	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
7	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
8	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
9	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
10	ボールゲーム／ゴール型（バスケツトボール、フットサル、アルティメット）基礎動作と審判法，ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（４５分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（４５分）
11	ボールゲーム／ゴール型（バスケツトボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
12	ボールゲーム／ゴール型（バスケツトボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
13	ボールゲーム／ゴール型（バスケツトボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
14	ボールゲーム／ゴール型（バスケツトボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
15	ボールゲーム／ゴール型（バスケツトボール、フットサル、アルティメット）ゲーム 授業改善アンケートの実施	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
16	まとめ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	種目の特性やルールについて理解しておく（４５分）	生涯スポーツとしての基礎を理解する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ総合（S-A） （科目ナンバリング：HSS031027　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　三嶋　康嗣　）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして，生涯スポーツの基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

生涯を健康で有意義に過ごすため，健康と体力を保持増進するとともに，身体活動をとおして社会性や協調性を養い，高齢化社会を迎えた現在，将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を身につける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

地域や職域に於けるスポーツ・レクリエーション活動を実践し，競技の特性やルールを学び理解することができる。

授業全体の内容と概要

各種目の基本技術を考慮し基礎的な動作やルールを学び、ゲーム中心に授業を進める。

授業の方法

各種目の特性を考慮し基礎的な動作やルールを理解させ怪我に注意を払いながらゲーム運営ができるように配慮していく。また授業の中で種目ごとに理解されているのか確認の実技試験を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１ジャージ・屋内運動靴を必ず用意する。
２アクセサリー（時計，指輪，ピアス等）は全て外す。
３携帯電話の電源は必ず切る。
４貴重品・多額の現金は持参しない。
５爪・髪の毛等は清潔にその他注意事項の詳細は授業ガイダンスで支持する。
＊健康上の理由で医師から運動を停止されている者は，申し出の上指示を受けること。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１３回以上。
男女差、年齢差によって評価を考慮していく。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	４０％	５０％	１０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツに関する関心・意欲・態度・判断	自ら進んで行動や役割を果すことができ，とても意欲的に取り組み，且つ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果たすことができ，意欲的に取り組み，安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り役割をおおむね果すことができ，普通に取り組み安全に注意を払っていた。	行動の仕方を守り役割を果すことができ，普通に取り組み安全に注意を払っていた。	行動の仕方を守らず役割をはたさなく意欲も全くなく，安全に注意を配っていなかった。
各運動技能	各種目の運動技能に優れ充分にできた。	各種目の運動技能が7割程度できた。	各種目の運動技能が5割程度できた。	各種目の運動技能が3割程度できた。	各種目の運動技能が全くできなくやる気がなかった。
知識・理解（ルール，審判，運営の仕方）	ルールを完全にマスターし審判やゲーム運営のしかたについて状況や場面に応じて理解することができた。	ルールをおおむねマスターし審判やゲーム運営のしかたについて応用的に理解することができた。	ルールを一定的マスターし審判やゲーム運営のしかたについて理解することができた。	ルールを一定的マスターし審判やゲーム運営のしかたについて理解することができた。	ルールを全くマスターしておらず審判やゲーム運営のしかたについて理解できていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ総合（S-A） （科目ナンバリング：HSS031027　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　三嶋　康嗣　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして，生涯スポーツの基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『アクティブスポーツ総合版』	大修館書店編集部	大修館書店	２０１９	97844693603	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス、科目を修了して身に付く力の説明 ガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで認識しておく（４５分）	ガイダンスの内容を理解しておく（４５分）
2	体力測定①	健康に留意し体調を整えておく（４５分）	身体のケアーを怠らない（４５分）
3	体力測定②	健康に留意し体調を整えておく（４５分）	身体のケアーを怠らない（４５分）
4	ボールゲーム／ネット型（卓球，バドミントン，バレーボール，ミニバレー）基礎動作と審判法，ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（４５分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（４５分）
5	ボールゲーム／ネット型（卓球，バドミントン，バレーボール，ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
6	ボールゲーム／ネット型（卓球，バドミントン，バレーボール，ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
7	ボールゲーム／ネット型（卓球，バドミントン，バレーボール，ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
8	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール，フットサル，アルティメット）基礎動作と審判法，ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（４５分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（４５分）
9	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール，フットサル，アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
10	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール，フットサル，アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
11	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール，フットサル，アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
12	ニュースポーツ（スポレック，キンボール，ボッチャ，モルック）	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
13	ニュースポーツ（スポレック，キンボール，ボッチャ，モルック）	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
14	ニュースポーツ（スポレック，キンボール，ボッチャ，モルック）	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
15	護身術	護身術について確認しておく（４５分）	護身術について理解しておく（４５分）
16	まとめ　　科目を修了して身に付く力の検証 授業改善アンケートの実施 授業最終回において講評をし、フィードバックする	種目の特性やルールについて理解しておく（４５分）	生涯スポーツとしての基礎を理解する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ総合（S-B） （科目ナンバリング：HSS031027　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　三嶋　康嗣　）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして，生涯スポーツの基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

生涯を健康で有意義に過ごすため，健康と体力を保持増進するとともに，身体活動をとおして社会性や協調性を養い，高齢化社会を迎えた現在，将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を身につける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

地域や職域に於けるスポーツ・レクリエーション活動を実践し，競技の特性やルールを学び理解することができる。

授業全体の内容と概要

各種目の基本技術を考慮し基礎的な動作やルールを学び、ゲーム中心に授業を進める。

授業の方法

各種目の特性を考慮し基礎的な動作やルールを理解させ怪我に注意を払いながらゲーム運営ができるように配慮していく。また授業の中で種目ごとに理解されているのか確認の実技試験を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１ジャージ・屋内運動靴を必ず用意する。
２アクセサリー（時計，指輪，ピアス等）は全て外す。
３携帯電話の電源は必ず切る。
４貴重品・多額の現金は持参しない。
５爪・髪の毛等は清潔にその他注意事項の詳細は授業ガイダンスで支持する。
＊健康上の理由で医師から運動を停止されている者は，申し出の上指示を受けること。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１１回以上。
男女差、年齢差によって評価を考慮していく。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	４０％	５０％	１０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツに関する関心・意欲・態度・判断	自ら進んで行動や役割を果すことができ，とても意欲的に取り組み，且つ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果たすことができ，意欲的に取り組み，安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り役割をおおむね果すことができ，普通に取り組み安全に注意を払っていた。	行動の仕方を守り役割を果すことができ，普通に取り組み安全に注意を払っていた。	行動の仕方を守らず役割をはたさなく意欲も全くなく，安全に注意を配っていなかった。
各運動技能	各種目の運動技能に優れ充分にできた。	各種目の運動技能が7割程度できた。	各種目の運動技能が5割程度できた。	各種目の運動技能が3割程度できた。	各種目の運動技能が全くできなくやる気がなかった。
知識・理解（ルール，審判，運営の仕方）	ルールを完全にマスターし審判やゲーム運営のしかたについて状況や場面に応じて理解することができた。	ルールをおおむねマスターし審判やゲーム運営のしかたについて応用的に理解することができた。	ルールを一定的マスターし審判やゲーム運営のしかたについて理解することができた。	ルールを一定的マスターし審判やゲーム運営のしかたについて理解することができた。	ルールを全くマスターしておらず審判やゲーム運営のしかたについて理解できていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ総合（S-B） （科目ナンバリング：HSS031027　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　三嶋　康嗣　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして，生涯スポーツの基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『アクティブスポーツ総合版』	大修館書店編集部	大修館書店	２０１９	97844693603	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス、科目を修了して「身に付く力」についての説明 ガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで認識しておく（４５分）	ガイダンスの内容を理解しておく（４５分）
2	体力測定①	健康に留意し体調を整えておく（４５分）	身体のケアーを怠らない（４５分）
3	体力測定②	健康に留意し体調を整えておく（４５分）	身体のケアーを怠らない（４５分）
4	ボールゲーム／ネット型（卓球，バドミントン，バレーボール，ミニバレー）基礎動作と審判法，ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（４５分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（４５分）
5	ボールゲーム／ネット型（卓球，バドミントン，バレーボール，ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
6	ボールゲーム／ネット型（卓球，バドミントン，バレーボール，ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
7	ボールゲーム／ネット型（卓球，バドミントン，バレーボール，ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
8	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール，フットサル，アルティメット）基礎動作と審判法，ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（４５分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（４５分）
9	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール，フットサル，アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
10	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール，フットサル，アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
11	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール，フットサル，アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
12	ニュースポーツ（スポレック，キンボール，ボッチャ，モルック）	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
13	ニュースポーツ（スポレック，キンボール，ボッチャ，モルック）	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
14	ニュースポーツ（スポレック，キンボール，ボッチャ，モルック）	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
15	護身術	護身術について確認しておく（４５分）	護身術について理解しておく（４５分）
16	まとめ　　科目を修了して「身に付く力」についての検証 授業改善アンケートの実施 授業最終回において講評をし、フィードバックする	種目の特性やルールについて理解しておく（４５分）	生涯スポーツとしての基礎を理解する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ総合（DA-M） （科目ナンバリング：HSS031027　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石井　祐治（経営学科・特任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　石井　祐治　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

生涯を健康で有意義に過ごすため，健康と体力を保持増進するとともに，身体活動を通して社会性や協調性を養い，高齢化社会を迎えた現在，将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を養い必要な知識を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

地域や職域に於けるスポーツ・レクリエーション活動を実践し，競技の特性やルールを学び理解することができる。スポーツの基礎的な知識と技術を身につける。

授業全体の内容と概要

各種目の基本技術の習得及びルールを学び，ゲーム中心に授業を進める。　　SDG4.「質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

授業形態は実技であり、各種目の特性を考慮し基礎的な動作やルールを理解させ怪我に注意を払いながらゲーム運営ができるように配慮していく。また授業の中で種目ごとに理解されているか確認の実技試験を実施する。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

ジャージ・屋内運動靴を必ず用意する。アクセサリー（時計，指輪，ピアス等）は全て外す。携帯電話の電源は必ず切る。貴重品・多額の現金は持参しない。爪・髪の毛等は清潔にその他注意事項の詳細は授業ガイダンスで指示する。
※健康上の理由で医師から運動を停止されている者は，申し出の上指示を受けること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上。
男女差、年齢差によって評価を考慮していく。
スポーツの基礎的知識と技術を身につけることができたかを評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	３０%	６０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心・意欲・態度・判断	自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことを身につけた。	積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことを身につけた。	行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取り組み安全に注意を払うことと身につけることができた。	行動の仕方を守らず役割を果たしていないときがあったが安全に注意を払うことを身につけた。	行動の仕方を守らず役割を果たさなく意欲も全くなく安全に注意を払うことを身につけることができなかった。
各運動技能	各種目の運動技能に優れ充分に身につける事できた。	各種目の運動技能が７割程度身につける事ができた。	各種目の運動技能が５割程度身につける事ができた。	各種目の運動技能が３割程度身につける事ができた。	各種目の運動技能が全く身につける事ができなかった。
知識・理解（ルール、審判、運営の仕方）	ルールを完全にマスターし審判やゲーム運営の仕方について状況や場面に応じて理解することができた。	ルールをある程度マスターし審判やゲーム運営の仕方について応用的に理解することができた。	ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について理解することができた。	ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について部分的に理解することができた。	ルールを全くマスターしておらず審判やゲーム運営の仕方について理解ができなかった。
その他	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ総合（DA-M） （科目ナンバリング：HSS031027　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石井　祐治（経営学科・特任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　石井　祐治　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『アクティブスポーツ総合版』	文部科学省	大修館書店	2019	4469365603	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバスの説明） 授業改善アンケート結果反映の説明 身に付けるべき学習内容の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく（４５分）	ガイダンスの内容を理解しておく（４５分）
2	体力測定	健康に留意し体調を整えておく（４５分）	身体のケアーを怠らない（４５分）
3	体力測定	健康に留意し体調を整えておく（４５分）	身体のケアーを怠らない（４５分）
4	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー）基礎動作と審判法，ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（４５分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（４５分）
5	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
6	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
7	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
8	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
9	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
10	ボールゲーム／ゴール型（バスケツトボール、フットサル、アルティメット）基礎動作と審判法，ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（４５分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（４５分）
11	ボールゲーム／ゴール型（バスケツトボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
12	ボールゲーム／ゴール型（バスケツトボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
13	ボールゲーム／ゴール型（バスケツトボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
14	ボールゲーム／ゴール型（バスケツトボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
15	ボールゲーム／ゴール型（バスケツトボール、フットサル、アルティメット）ゲーム 授業改善アンケートの実施	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
16	まとめ(授業改善アンケートの実施) 学習して身に付ける事ができたかフィードバックして検証 授業に係る講評・解説によるフィードバック	種目の特性やルールについて理解しておく（４５分）	生涯スポーツとしての基礎を理解する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年　建築学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ総合（DA-W） （科目ナンバリング：HSS031027　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）岡田　武志（経営学科・助教）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　三嶋　康嗣　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして，生涯スポーツの基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

生涯を健康で有意義に過ごすため，健康と体力を保持増進するとともに，身体活動をとおして社会性や協調性を養い，高齢化社会を迎えた現在，将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。
建築学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

地域や職域に於けるスポーツ・レクリエーション活動を実践し，競技の特性やルールを学び理解することができる。

授業全体の内容と概要

各種目の基本技術を考慮し基礎的な動作やルールを学び、ゲーム中心に授業を進める。

授業の方法

各種目の特性を考慮し基礎的な動作やルールを理解させ怪我に注意を払いながらゲーム運営ができるように配慮していく。また授業の中で種目ごとに理解されているのか確認の実技試験を実施する。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１ジャージ・屋内運動靴を必ず用意する。
２アクセサリー（時計，指輪，ピアス等）は全て外す。
３携帯電話の電源は必ず切る。
４貴重品・多額の現金は持参しない。
５爪・髪の毛等は清潔にその他注意事項の詳細は授業ガイダンスで支持する。
＊健康上の理由で医師から運動を停止されている者は，申し出の上指示を受けること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１１回以上。
男女差、年齢差によって評価を考慮していく。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	４０%	５０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツに関する関心・意欲・態度・判断	自ら進んで行動や役割を果すことができ，とても意欲的に取り組み，且つ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果たすことができ，意欲的に取り組み，安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り役割をおおむね果すことができ，普通に取り組み安全に注意を払っていた。	行動の仕方を守り役割を果すことができ，普通に取り組み安全に注意を払っていた。	行動の仕方を守らず役割をはたさなく意欲も全くなく，安全に注意を配っていなかった。
各運動技能	各種目の運動技能に優れ充分にできた。	各種目の運動技能が7割程度できた。	各種目の運動技能が5割程度できた。	各種目の運動技能が3割程度できた。	各種目の運動技能が全くできなくやる気がなかった。
知識・理解（ルール，審判，運営の仕方）	ルールを完全にマスターし審判やゲーム運営のしかたについて状況や場面に応じて理解することができた。	ルールをおおむねマスターし審判やゲーム運営のしかたについて応用的に理解することができた。	ルールを一定的マスターし審判やゲーム運営のしかたについて理解することができた。	ルールを一定的マスターし審判やゲーム運営のしかたについて理解することができた。	ルールを全くマスターしておらず審判やゲーム運営のしかたについて理解できていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年　建築学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ総合（DA-W） （科目ナンバリング：HSS031027　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）岡田　武志（経営学科・助教）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　三嶋　康嗣　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして，生涯スポーツの基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『アクティブスポーツ総合版』	大修館書店編集部	大修館書店	２０１９	97844693603	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） ガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで認識しておく（４５分）	ガイダンスの内容を理解しておく（４５分）
2	体力測定①	健康に留意し体調を整えておく（４５分）	身体のケアーを怠らない（４５分）
3	体力測定②	健康に留意し体調を整えておく（４５分）	身体のケアーを怠らない（４５分）
4	ボールゲーム／ネット型（卓球，バドミントン，バレーボール，ミニバレー）基礎動作と審判法，ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（４５分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（４５分）
5	ボールゲーム／ネット型（卓球，バドミントン，バレーボール，ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
6	ボールゲーム／ネット型（卓球，バドミントン，バレーボール，ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
7	ボールゲーム／ネット型（卓球，バドミントン，バレーボール，ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
8	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール，フットサル，アルティメット）基礎動作と審判法，ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（４５分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（４５分）
9	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール，フットサル，アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
10	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール，フットサル，アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
11	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール，フットサル，アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
12	ニュースポーツ（スポレック，キンボール，ボッチャ，モルック）	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
13	ニュースポーツ（スポレック，キンボール，ボッチャ，モルック）	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
14	ニュースポーツ（スポレック，キンボール，ボッチャ，モルック）	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
15	護身術	護身術について確認しておく（４５分）	護身術について理解しておく（４５分）
16	まとめ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	種目の特性やルールについて理解しておく（４５分）	生涯スポーツとしての基礎を理解する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	講義,実技	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ総合（D-B） （科目ナンバリング：HSS031027　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石井　祐治（経営学科・特任講師）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　石井　祐治　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を指導する。		
オフィスアワー	学生の授業内容や生活指導の相談を正課授業外に研究室前の掲示ボード等を参照して実施する				

概要

履修目標

生涯を健康で有意義に過ごすため，健康と体力を保持増進するとともに，身体活動を通して社会性や協調性を養い，高齢化社会を迎えた現在，将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を養い必要な知識を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

地域や職域に於けるスポーツ・レクリェーション活動を実践し，競技の特性やルールを学び理解することができる。
スポーツの基礎的な知識と技能を身につける。

授業全体の内容と概要

各種目の基本技術の習得及びルールを学び，ゲーム中心に授業を進める。　　SDG4.「質の高い教育をみんなに」の関連科目
スポーツを通じて知識と技能を身につける。

授業の方法

授業形態は実技であり、各種目の特性を考慮し基礎的な動作やルールを理解させ怪我に注意を払いながらゲーム運営ができるように配慮していく。また授業の中で種目ごとに理解されているか確認の実技試験を実施する。知識と技能を身につけるよう学生自身の成長を身につけさせる。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

ジャージ・屋内運動靴を必ず用意する。アクセサリー（時計，指輪，ピアス等）は全て外す。携帯電話の電源は必ず切る。貴重品・多額の現金は持参しない。爪・髪の毛等は清潔にその他注意事項の詳細は授業ガイダンスで指示する。
※健康上の理由で医師から運動を停止されている者は，申し出の上指示を受けること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上。
男女差、年齢差によって評価を考慮していく。
スポーツの知識と技能を身につけたかどうか評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	３０％	６０％	１０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心・意欲・態度・判断	自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことを身につける事ができた。	積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことを身につける事ができた。	行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取り組み安全に注意を払うことを身につける事ができた。	行動の仕方を守らず役割を果たしていないときがあったが安全に注意を払うことを身につける事ができた。	行動の仕方を守らず役割を果たさなく意欲も全くなく安全に注意を払うことを身につける事ができなかった。
各運動技能	各種目の運動技能に優れ充分にできた。	各種目の運動技能が７割程度できた。	各種目の運動技能が５割程度できた。	各種目の運動技能が３割程度できた。	各種目の運動技能が全くできなかった。
知識・理解（ルール、審判、運営の仕方）	ルールを完全にマスターし審判やゲーム運営の仕方について状況や場面に応じて理解することができた。	ルールをある程度マスターし審判やゲーム運営の仕方について応用的に理解することができた。	ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について理解することができた。	ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について部分的に理解することができた。	ルールを全くマスターしておらず審判やゲーム運営の仕方について理解ができなかった。
その他	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	講義,実技	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ総合（D-B） （科目ナンバリング：HSS031027　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石井　祐治（経営学科・特任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　石井　祐治　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を指導する。		
オフィスアワー	学生の授業内容や生活指導の相談を正課授業外に研究室前の掲示ボード等を参照して実施する				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『アクティブスポーツ総合版』	文部科学省	大修館書店	2019	4469365603	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバスの説明） 授業改善アンケート結果反映の説明 身に付ける力の内容を理解させる	事前にシラバスを読んで確認しておく（４５分）	ガイダンスの内容を理解しておく（４５分）
2	体力測定	健康に留意し体調を整えておく（４５分）	身体のケアーを怠らない（４５分）
3	体力測定	健康に留意し体調を整えておく（４５分）	身体のケアーを怠らない（４５分）
4	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー）基礎動作と審判法，ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（４５分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（４５分）
5	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
6	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
7	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
8	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
9	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
10	ボールゲーム／ゴール型（バスケツトボール、フットサル、アルティメット）基礎動作と審判法，ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（４５分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（４５分）
11	ボールゲーム／ゴール型（バスケツトボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
12	ボールゲーム／ゴール型（バスケツトボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
13	ボールゲーム／ゴール型（バスケツトボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
14	ボールゲーム／ゴール型（バスケツトボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
15	ボールゲーム／ゴール型（バスケツトボール、フットサル、アルティメット）ゲーム 授業改善アンケートの実施	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
16	まとめ(授業改善アンケートの実施) 身に付ける力がついたかどうかフィードバックして検証 授業に係る講評・解説によるフィードバック	種目の特性やルールについて理解しておく（４５分）	生涯スポーツとしての基礎を理解する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ総合（A-B） （科目ナンバリング：HSS031027　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）岡田　武志（経営学科・助教）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　三嶋　康嗣　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして，生涯スポーツの基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

生涯を健康で有意義に過ごすため，健康と体力を保持増進するとともに，身体活動をとおして社会性や協調性を養い，高齢化社会を迎えた現在，将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を身につける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

地域や職域に於けるスポーツ・レクリエーション活動を実践し，競技の特性やルールを学び理解することができる。

授業全体の内容と概要

各種目の基本技術を考慮し基礎的な動作やルールを学び、ゲーム中心に授業を進める。

授業の方法

各種目の特性を考慮し基礎的な動作やルールを理解させ怪我に注意を払いながらゲーム運営ができるように配慮していく。また授業の中で種目ごとに理解されているのか確認の実技試験を実施する。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１ジャージ・屋内運動靴を必ず用意する。
２アクセサリー（時計，指輪，ピアス等）は全て外す。
３携帯電話の電源は必ず切る。
４貴重品・多額の現金は持参しない。
５爪・髪の毛等は清潔にその他注意事項の詳細は授業ガイダンスで支持する。
＊健康上の理由で医師から運動を停止されている者は，申し出の上指示を受けること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１１回以上。
男女差、年齢差によって評価を考慮していく。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	４０％	５０％	１０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツに関する関心・意欲・態度・判断	自ら進んで行動や役割を果すことができ，とても意欲的に取り組み，且つ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果たすことができ，意欲的に取り組み，安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り役割をおおむね果すことができ，普通に取り組み安全に注意を払っていた。	行動の仕方を守り役割を果すことができ，普通に取り組み安全に注意を払っていた。	行動の仕方を守らず役割をはたさなく意欲も全くなく，安全に注意を配っていなかった。
各運動技能	各種目の運動技能に優れ充分にできた。	各種目の運動技能が7割程度できた。	各種目の運動技能が5割程度できた。	各種目の運動技能が3割程度できた。	各種目の運動技能が全くできなくやる気がなかった。
知識・理解（ルール，審判，運営の仕方）	ルールを完全にマスターし審判やゲーム運営のしかたについて状況や場面に応じて理解することができた。	ルールをおおむねマスターし審判やゲーム運営のしかたについて応用的に理解することができた。	ルールを一定的マスターし審判やゲーム運営のしかたについて理解することができた。	ルールを一定的マスターし審判やゲーム運営のしかたについて理解することができた。	ルールを全くマスターしておらず審判やゲーム運営のしかたについて理解できていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ総合（A-B） （科目ナンバリング：HSS031027　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）岡田　武志（経営学科・助教）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　三嶋　康嗣　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして，生涯スポーツの基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『アクティブスポーツ総合版』	大修館書店編集部	大修館書店	２０１９	97844693603	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） ガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで認識しておく（４５分）	ガイダンスの内容を理解しておく（４５分）
2	体力測定①	健康に留意し体調を整えておく（４５分）	身体のケアーを怠らない（４５分）
3	体力測定②	健康に留意し体調を整えておく（４５分）	身体のケアーを怠らない（４５分）
4	ボールゲーム／ネット型（卓球，バドミントン，バレーボール，ミニバレー）基礎動作と審判法，ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（４５分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（４５分）
5	ボールゲーム／ネット型（卓球，バドミントン，バレーボール，ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
6	ボールゲーム／ネット型（卓球，バドミントン，バレーボール，ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
7	ボールゲーム／ネット型（卓球，バドミントン，バレーボール，ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
8	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール，フットサル，アルティメット）基礎動作と審判法，ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（４５分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（４５分）
9	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール，フットサル，アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
10	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール，フットサル，アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
11	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール，フットサル，アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
12	ニュースポーツ（スポレック，キンボール，ボッチャ，モルック）	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
13	ニュースポーツ（スポレック，キンボール，ボッチャ，モルック）	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
14	ニュースポーツ（スポレック，キンボール，ボッチャ，モルック）	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
15	護身術	護身術について確認しておく（４５分）	護身術について理解しておく（４５分）
16	まとめ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	種目の特性やルールについて理解しておく（４５分）	生涯スポーツとしての基礎を理解する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	基本製図 （科目ナンバリング：APT311001　　）				
授業担当者 （所属・職名）	向井　正伸（建築学科・講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　向　井正伸　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所での設計業務経験を図面作成能力育成に活かすことができる		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

実技形式の授業であり，建築製図に必要な道具とその使い方，手書きによる製図法の基本から木造建築の基図面作成の手順や表現内容を理解する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1,DP3,DP4に対応する。

到達目標

図面作成の基礎的能力，木造建築の基本図面の理解と作図方法ならびに期限内課題提出のための基本的自己管理能力を習得する。

授業全体の内容と概要

課題内容は，毎回授業時間内に完成できる程度のものとしている。ただし時間内に完成できない場合は，演習室で引き続き作業を進めるか自宅での作業とし，次回授業開始時までに完成させること。
「SDGs11．住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

建築製図の基礎能力を身につけるためのカリキュラムであるため，毎回課題のテーマがありその内容に従って授業が進められる。課題内容は配布資料と、当日板書した情報をもとに詳細な説明をおこなう。作成した図面については，提出ごとにチェックをし，不備・誤りの部分についての指摘をおこない，手直し後に再提出する。なお，指導教員がSAの学生とともに，一人ひとりの理解度や進捗状況を確認しながら授業を進める。基本的に授業は対面で実施するが，不測の事態が起きた際に，授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

実技科目であることと，建築製図能力養成の最も根幹となる授業であるため，欠席せず毎回課題の説明を聞き期限内に課題提出ができるよう努めなければならない。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格科目」必修科目，教職課程（工業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること（最低出席回数２２回以上），積極的に基礎技術習得に取り組むこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	０％	２０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
製図道具を自己で事前に準備し，それを十分に使いこなせる。	道具をすべて事前に準備し，十分に，正確に使いこなすことができた。	道具をすべて準備し，十分に使いこなすことができた。	道具をすべて準備し，使いこなすことができた。	道具をすべて準備し，おおむね使いこなすことができた。	道具を準備できない，使いこなすことができなかった。
木造建築を理解した上で正確な図面を作成する。	すべての点で正確な図面作成ができ，自分で誤りを見つけることができた。	すべての点で正確な図面作成ができた。	正確な図面を作成できた。	おおむね図面は作成できた。	理解不足のため，図面を作成することができなかった。
製図課題をスケジュールに則り提出期限内に作成・完成する。	すべての課題を余裕をもって期限前に作成完成することができた。	すべての課題を期限内に作成完成することができた。	ほとんどの課題を期限内に作成完成できた。	おおむね期限内に課題を作成完成できた。	すべての課題が期限内に作成完成することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	基本製図 （科目ナンバリング：APT311001　　）				
授業担当者 （所属・職名）	向井　正伸（建築学科・講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　向　井正伸　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所での設計業務経験を図面作成能力育成に活かすことができる		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明，授業改善アンケート結果反映の説明，授業の進め方，授業スケジュールの解説、科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスの事前確認（90分）	授業を受ける際の注意事項と製図道具の確認（90分）
2	ガイダンス（製図道具及び製図台の解説）	シラバスの確認（90分）	際の注意事項と製図道具の確認（90分）
3	線の練習１－１　実線・破線の種類	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
4	線の練習１－２　実線・破線の描き分け	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
5	線の練習２－１　線の太さと強さの意味	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
6	線の練習２－２　線の太さと強さの描き分け	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
7	建築記号１－１（文字・数字の表記方法）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
8	建築記号１－２（階段の表現）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
9	建築記号２－１（壁・開口部の表現）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
10	建築記号２－２（平面図の表現）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
11	木造住宅模写１－１（配置図）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
12	木造住宅模写１－２（配置図）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
13	木造住宅模写２－１（平面図）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
14	木造住宅模写２－２（平面図）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
15	木造住宅模写３－１（断面図）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
16	木造住宅模写３－２（断面図）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	木造住宅模写４－１（立面図）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
18	木造住宅模写４－２（立面図）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
19	木造住宅模写５－１（１階平面図　柱の割り付け）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
20	木造住宅模写５－２（１階平面図　詳細表現）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
21	木造住宅模写５－３（１階平面図　外構の表現）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
22	木造住宅模写６－１（２階平面図　柱の割り付け）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
23	木造住宅模写６－２（２階平面図　詳細表現）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
24	木造住宅模写７－１（エスキース図面の解説）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
25	木造住宅模写７－２（柱の割付の考え方）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
26	木造住宅模写７－３（建具の表記）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
27	木造住宅模写７－４（設備の表記）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
28	木造住宅模写７－５（家具の表記）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
29	木造住宅模写７－６（外構の表記）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
30	木造住宅模写７－７（図面の確認）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
31	講評会１（提出課題の講評と解説）	制作課題の提出状況の確認（90分）	建築図面の理解の再確認（90分）
32	講評会２（提出課題の講評と解説） 授業アンケートの実施、フィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証	制作課題の提出状況の確認（90分）	建築図面の理解の再確認と振返り（90分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営学総論 （科目ナンバリング：MAN411001，MAN511001　　）				
授業担当者 （所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　信濃　吉彦　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

経営学の全体的な流れを中心に、本学科の各分野で必要となる基礎的な内容を理解し、伝統的な理論から現在一般化している理論等を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ３、ＤＰ４に対応する。

到達目標

実社会で必要となる考え方（意思決定等）に必要とされる基本的な理論・事柄を身につけることができる。

授業全体の内容と概要

板書された内容や配布物の要点はもちろんのこと、専門用語とその定義、重要人物名とその功績等は必ずノート（または専用データベース）にまとめることを日々のルーティンとする。積極的な質問や相談は大いに歓迎する。また、興味を持った内容についてはどんどん掘り下げて自分のものとしていくことを励行する。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義形式で授業を行い、教科書やハンドアウトを利用し経営学の全体的な内容を俯瞰的に学習する。ノートの作り方や課題、予習復習の内容やり方についてはその都度授業中に指示を出す。座席は全席指定としスマホの使用は支持があるとき以外はこれを認めない。板書の写真撮影は認めるが次回の授業までに必ずノートに転記すること。課題や不明点に関してはネットや経営学辞典等で調べたものを必ずノートに筆記保存すること。与えられた課題については個別対応は行わず、授業内でディスカッション形式で確認を行うものとする。日々の連絡等にはMSチームズを有効的に活用すること。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席および授業参加度を重視する。出席とは，テキスト・ノート・筆記用具の３点セットを持参することを意味する。授業参加度とは，発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り・スマホゲーム・LINE等の授業妨害行為およびテキストを持参しない学生・手ぶらで着席している学生に関しては欠席扱いとする。中間試験は実施しない。課題提出を複数回行う。ノート提出を１回課し，最終評価の対象とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（商業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、試験実施回を含めて１１回以上とする。遅刻は２０分までとし２回の遅刻を１回の欠席として扱う。予習復習を心がけ，知らない事柄は調べて書き残す癖をつけること。ノート提出は平常点の最大７５%に換算する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	２０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で９２点以上の得点を挙げた。	定期試験で８４点以上の得点を挙げた。	定期試験で７６点以上の得点を挙げた。	定期試験で６８点以上の得点を挙げた。	定期試験で６０点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に授業や課題に取り組み、意思決定において必要となる理論の運用を学び、経営学における実践力を獲得するための努力をしている。	授業や課題に取り組み、マネジメントの真髄や各種理論への理解が深まりつつある。	授業や課題に取り組み、意思決定に至る考え方や各種理論の理解に対する努力が見られる。	授業や課題に取り組み、経営バランスを理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	学習活動への取り組みが不十分で、意思決定につながる過程とバランシングへの理解に対する進歩が見られず、自分なりのデータベースができていない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら課題解決に取り組み、余った時間をさらなる定着や理論の研究・理解に振り分けている。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり経営学における専門用語や理論の習得に関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んでマネジメントカを身につけようとする姿勢およびデータベース化に対する努力が見受けられない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営学総論 （科目ナンバリング：MAN411001，MAN511001　　）				
授業担当者 （所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　信濃　吉彦　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『初学者のための経営学概論』	前田　卓雄　他	株式会社　同友館	2021	9784496055515	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『マンガ経営戦略全史』	三谷　宏治	株式会社日経BP	２０２３	9784296116522	
2	『日常が学びに変わる！経営学の本』	中川　功一	翔泳社	2019	9784798160757	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業評価アンケートの結果に対する説明 企業論	専用のノートを準備する（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
2	経営学の重鎮①	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
3	経営学の重鎮②	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
4	経営学の重鎮③	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
5	経営組織	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
6	人的資源管理	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
7	モチベーション論	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
8	リーダーシップ論	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
9	経営戦略①	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
10	経営戦略②	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
11	種々の分析手法①	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
12	種々の分析手法②	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
13	種々の分析手法③	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
14	種々の分析手法④	ノート提出に備える（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
15	テストリビュー＆ノートチェック 企業の社会的責任 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業評価アンケートの実施	ノート提出に備える（９０分）	試験に備える（９０分）
16	試験（６０分）及び総括（３０分）	試験に備える（１５０分）	本科目の総復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	経営組織論 （科目ナンバリング：MAN412003，MAN512003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	猪尾　紀幸（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　猪尾　紀幸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	中小零細企業への経営コンサルティングを実施している経営の専門家として、ビジネスプランにおける市場性と実現性を重視した実践的な講義を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認すること。				

概要

履修目標

経営組織とは、何なのか。どういった構造や活動をするのか。その基礎を理解し経営組織・組織管理についての基礎知識を身につける

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

２年次以降の専門分野の活動に必要な経営の基本となる用語及び組織メカニズム（特に意思決定・モチベーション理論・リーダーシップ論・チームマネジメント）が理解できている。

授業全体の内容と概要

経営活動の基本要素であるに意思決定・モチベーション理論・リーダーシップ論・チームマネジメントに関する基本知識を理解・習得する。
SDG４．「質の高い教育をみんなに」のテストケースとして授業中の発言を重視し、ハンドアウトやプリントを多用する。

授業の方法

座学においてPCによるプロジェクタ投影と配布資料による講義とディスカッションをまじえた授業を行い理解度を高める。教科書に関する事前学習は当たり前のことで予習のページを指定する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席および授業参加度を重視し、20分以上の遅刻および１５分以上の途中退出は欠席扱いとする。授業中の私語、居眠り、携帯・スマートホン利用は厳禁。これを破った場合は欠席扱いとする。また、本科目は座席を指定する。板書の撮影は許可するが次回の授業までに必ずノートに転記すること。加えて、平素の学習状況を確認するためノートチェックを行う。10回以上の出席がない学生は評価の対象としない。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、修学サポートを実施するので必ず相談して欲しい。

資格指定科目

教職課程（商業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は１０回（厳守）。12回以上の出席を標準とし、これに満たない場合は平常点の加点を失う。教科書を持参しない学生に関しては評価対象としない。本科目は後期科目なので２回目以降の授業で教科書未持参の学生には履修中止を勧告する。よって、教科書未購入の学生の履修は、これを認めない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	２０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	様々な組織形態、組織デザインを完全に理解し、事例に対応した理想的な組織形態を提案できた。	様々な組織形態、組織デザインを十分に理解し、事例に対応した新たな組織形態を提案できた。	様々な組織形態、組織デザインを理解し、事例の組織形態を理解できた。	様々な組織形態、組織デザインを理解していた。	様々な組織形態、組織デザインを理解していなかった。
思考力・判断力・表現力	モチベーション理論を完全に理解し、事例に対応した自らのモチベーション論を展開できた。	モチベーション理論を十分に理解し、事例に対応したモチベーションの在り方を理解できた。	モチベーション理論を理解し、事例のモチベーションの形態を理解できた。	モチベーション理論を理解していた。	モチベーション理論を理解していなかった。
主体性	リーダーシップを完全に理解し、自らもリーダーシップを発揮し様々な意見を提案できた。	リーダーシップを十分に理解し、事例に対応したリーダーシップ論を理解できあた。	リーダーシップを理解し、リーダーシップの目的を理解できた。	リーダーシップを理解していた。	リーダーシップを理解していなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	経営組織論 （科目ナンバリング：MAN412003，MAN512003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	猪尾　紀幸（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　猪尾　紀幸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	中小零細企業への経営コンサルティングを実施している経営の専門家として、ビジネスプランにおける市場性と実現性を重視した実践的な講義を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認すること。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『経営組織入門』	上林憲雄・庭本佳子	文眞堂	2020	9784830950698	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション・シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
2	経営組織とは	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
3	組織形態と活動	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
4	バーナードの組織論	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
5	組織の基本原理	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
6	意思決定	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
7	「やる気」を高める・・・モチベーション理論①	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
8	「やる気」を高める・・・モチベーション理論②	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
9	リーダーシップ論①	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
10	リーダーシップ論②	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
11	チームワークとチームマネジメント①	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
12	チームワークとチームマネジメント②	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
13	イノベーション	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
14	ネットワーク　　ノートチェック指示	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
15	総括レビュー 授業改善アンケートの実施	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	試験に向け全体を復習する。（９０分）
16	定期試験及び解説（６０分の試験終了後、３０分で総括を行う） 授業に係る講評・解説によるフィードバック　科目を修了して「身に付く力」の検証	試験に向け全体を復習する。（９０分）	試験及び解説を受け講義全体を復習する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ 演習 （M） （科目ナンバリング：BAS001001　　）				
授業担当者 （所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）・河野　善文（経営学科・教授）・ 青山　浩之（経営学科・教授）・	研究室等所在	２号館６階（信濃）・１号館２階（河野）・１号館４階（青山）・２号館８階（河田）・２号館７階（薦		
単位数	1　（単位認定責任者：　信濃　吉彦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

本授業は本学の「初年次教育」に位置付けられ、大学生として必要な基礎力（スチューデントスキル、スタディスキル、アカデミックスキル）を身に付けることを目的とします。具体的には、自ら考える力、詳しく調べる力、自分の意見を表現する力を養成します。この目的を達成するために、講義と演習を組み合わせて行います。これにより、学生は高校から大学への円滑な移行をサポートし、大学での生活面や学習面で必要となる多様な能力を身に付けることが期待されます。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

日々の学習において未来につながるエビデンスやデータベースを構築し、知的根幹を築いてもらう。
大学の授業のなかで以下の目標にむけた取り組みができる。
・大学生に求められる一般常識や態度を学習面、生活面で活用できる（スチューデントスキル）：時間管理やコミュニケーションスキルなど、大学生活における基本的なスキルを実践します。
・学びを深めるために必要となる基本的なスキルを学習面で活用できる（スタディスキル）：板書の写しではない自分なりのノートが作れる、資料を読み、必要な文献情報と要点をノートに整理できる。
・専門的な学習や研究に必要なスキル・能力を学習面で活用できる（アカデミックスキル）：学術的なリサーチ、構成と書式の整ったレポートを作成できる論文作成、プレゼンテーションなど、専門的な学習や研究に必要なスキルを修得します。

授業全体の内容と概要

授業内容は、日々のノートテイキング、授業のポイント作成、調べ方講座、各種文型等の読み方・書き方、レポートに関してなど「聞く」「調べる」「読む」「書く」「まとめる」を学習し自分のものとしてもらう。特にレポートの書き方を通して客観表現の重要性を理解し大学生としての自覚を持ってもらう。さらに、研究倫理およびコンプライアンスについて学ぶ
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

教員が担当分野に関してオムニバス形式で授業を進める。本科目は出席を重視する。欠席可能回数は三回までとし、これを超えた場合は単位認定の対象としない。事後学習においては、教員が各回の課題のテーマを指定する。定期試験は実施せず、最終的に各自でレポートを作成して提出する。また、教員によってはプリントを配布する場合があるが、各回の授業内容を各自がノートにまとめる形で授業をすすめる。特定の教科書を指定しないため、事後学習を行うさいには、各自が作成した授業ノートが必要となる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１３回以上の出席を以ってグレーディングの対象とする。科目の性格上、１年生での履修完了が求められる。不合格になった学生は１年生に間に必ず再履修すること。原則２年次以降の再履修を認めない。
本講座は定期試験を実施しないため、各回の演習課題（平常点）ならびに最終レポートの評価で単位認定を行う。欠席があると単位の取得は難しい。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は１３回以上
また、最終レポート提出を１回課し評価の対象とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	４０％	０％	０％	６０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	レポートで90点以上の得点を挙げた。	レポートで80点以上の得点を挙げた。	レポートで70点以上の得点を挙げた。	レポートで60点以上の得点を挙げた。	レポートで60点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に授業・レポートに取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての実力を　確立するための努力をしている。	授業・レポートに取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての理解が深まりつつある。	授業・レポートに取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての　努力が見られる。	授業・レポートに取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての努力は認められるがなかなか定着していない。	日々の授業・レポートへの取り組みが不十分で、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての進歩が見られず、前向きな成長が見受けられない。
主体性	自己の目標をしっかりと設定し、データベース化への取り組みが確認できた。	質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり学習への取り組みが前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか日々の学習はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、知識の獲得が必要最小限度を超えない。データベースも脆弱である。	自分から進んで実力を身につけようとする姿勢およびデータベース化に対する前向きな姿勢が見受けられない。
レポートの構成と書式	レポートの書式と構成を理解し、本学経営学科が求める内容を十分に理解しいつでも実施できる状態にある。	レポートの書式と構成をほぼ理解し、本学経営学科が求める内容を理解し実施できる状態にある。	レポートの書式と構成をおおむね理解し、今後の活動に耐え得るレベルには到達できている。	レポートの書式と構成に関して最低限必要な内容を理解するにとどまっており、実施に際しては細かな支持が必要と思われる。	レポートの書式と構成を理解できなかったため今後の活動に支障をきたすレベルにとどまった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ演習（M） （科目ナンバリング：BAS001001　　）				
授業担当者（所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）・河野　善文（経営学科・教授）・　青山　浩之（経営学科・教授）・	研究室等所在	２号館６階（信濃）・１号館２階（河野）・１号館４階（青山）・２号館８階（河田）・２号館７階（薦		
単位数	1　（単位認定責任者：　信濃　吉彦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーションとシラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）、授業改善アンケート結果反映の説明（信濃他全担当教員）、各学科のディプロマ・ポリシー（DP）説明等（青山）	本授業の専用のノートを1冊用意して、DP・シラバスの要点をまとめる（４５分）	ノートをまとめ課題・宿題に取り組む（４５分）
2	学生主体の学び、履修ルール、学修成果等（学務課） 大学生として必要な基礎力（スチューデントスキル）	前回ノートを読み返す（４５分）	ノートをまとめ課題・宿題に取り組む（４５分）
3	GPS-Academic実施と社会人基礎力等（ＩＲ企画課） 大学生として必要な基礎力（スチューデントスキル）	前回ノートを読み返す（４５分）	ノートをまとめ課題・宿題に取り組む（４５分）
4	話を聞き、ノートを取る１：大学と高校までの板書の違いとノートテイキングの重要性（河野） 大学生として必要な基礎力（スタディスキル）	前回ノートを読み返す（４５分）	ノートをまとめ課題・宿題に取り組む（４５分）
5	話を聞き、ノートを取る２（河野）	前回ノートを読み返す（４５分）	ノートをまとめ課題・宿題に取り組む（４５分）
6	話を聞き、ノートを取る３（河野）	前回ノートを読み返す（４５分）	ノートをまとめ課題・宿題に取り組む（４５分）
7	文章を読み、ノートを取る１　（青山） 大学生として必要な基礎力（スタディスキル）	前回ノートを読み返す（４５分）	ノートをまとめ課題・宿題に取り組む（４５分）
8	文章を読み、ノートを取る２　（青山）	前回ノートを読み返す（４５分）	ノートをまとめ課題・宿題に取り組む（４５分）
9	文章を読み、ノートを取る３　（青山）	前回ノートを読み返す（４５分）	ノートをまとめ課題・宿題に取り組む（４５分）
10	資料を読み、読書ノートを作成する１（薦田） 大学生として必要な基礎力（スタディスキル）	前回ノートを読み返す（４５分）	ノートをまとめ課題・宿題に取り組む（４５分）
11	資料を読み、読書ノートを作成する２（薦田）	前回ノートを読み返す（４５分）	ノートをまとめ課題・宿題に取り組む（４５分）
12	資料を読み、読書ノートを作成する３（薦田）	前回ノートを読み返す（４５分）	ノートをまとめ課題・宿題に取り組む（４５分）
13	レポートを書く・考えたことを表現する１（信濃） 大学生として必要な基礎力（アカデミックスキル） 「学問上のコンプライアンス、研究倫理、研究インテグリティ」	前回ノートを読み返す（４５分）	ノートをまとめレポートに取り組む（４５分）
14	レポートを書く・考えたことを表現する２（信濃）	レポートを組む（４５分）	ノートをまとめレポートに取り組む（４５分）
15	レポートを書く・考えたことを表現する３（信濃） 最終レポート課題の確認	レポートを組む（４５分）	ノートを完成させる（４５分）
16	レポートを書く・考えたことを表現する４（信濃） 最終レポート課題の確認 授業総括 　授業に係る講評・解説によるフィードバック・科目を修了して「身に付く力」の検証	レポート提出または準備（４５分）	本科目の総復習（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ 演習 （S） （科目ナンバリング：BAS001001 ）				
授業担当者 （所属・職名）	後藤　啓倫（社会福祉学科・准教授）・松下　守邦（社会福祉学科・教授）	研究室等所在	１号館４階・１号館２階		
単位数	1 （単位認定責任者： 松下　守邦 ）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

本科目の履修目標は、社会福祉学科における学生としての基本的スキルである、「スチューデントスキル」、「スタディスキル」、「アカデミックスキル」を学修することにより、学生自らが主体的に学ぶ態度を身に付けることである。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

次の3つを主に学修する。
①大学生として、主体的な学び方を習得し、行動することができる。（スチューデントスキル）
②論理的に考え、整合性、一貫性のある主張表現ができる。（スタディスキル）
③学術レポートの形式、先行研究の引用、文献リストを作成し、文章表現することができる。（アカデミックスキル）

授業全体の内容と概要

本授業は、生活面や学習面において高校から大学への円滑な移行を促すための「初年次教育」である。入学後に必要となる大学生としての能力を身に付けるために以下のことを学ぶ。
スチューデントスキルを身に付けるために、社会福祉学科で学ぶ意義、履修に関すること、社会人基礎力について学ぶ。
スタディスキルを身に付けるために、大学での学びを深めるために必要な論理的な思考について学ぶ。
アカデミックスキルを身に付けるために、専門的な学習や研究に必要となる学術レポートの書き方、研究倫理・コンプライアンス・研究インテグリティ、対人援助を行う職業倫理について学ぶ。
以上を通じて、本学を使いこなせる学生としての主体的な意識を養ってほしい。
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、テキスト、授業資料を使用し、解説する。Teamsやポータルサイトなどで授業資料を提供する。
課題はFormsなどを利用し、適宜、理解度を把握しながら履修学生へ応答する。
学生の質問等は、授業前後の教室にて積極的に伝えてほしい。Teamsによる質問相談にも回答するので利用してほしい。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

遅刻、欠席、事務手続き等の対応ルール、授業中のマナーなどは、オリエンテーションにて確認する。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定のためには、授業第１回から第１５回までに計１０回以上の出席が必要になる。
この基準は、評価に必要となる基準であるが、評価の十分条件にはならない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	６０%	４０%	０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
大学生としての主体的な学び方を習得し、行動することができる。	学生として行動することを模範的に理解をし、発展的な実践ができた。	学生として行動することを正確に理解し、充分に主体的な実践ができた。	学生として行動することを基礎的に理解し、主体的な実践ができた。	学生として行動することの理解は部分的にとどまるが、実践があった。	学生として行動することの理解に大きな欠落があり、実践は乏しかった。
学術レポートの形式、先行研究の引用、文献リストを作成し、文章表現することができる。	学術レポートの形式を精密に理解し、引用、文献リストを作成しており、文章表現は熟練していた。	学術レポートの形式を正確に理解し、引用、文献リストを作成しており、文章表現は明瞭であった。	学術レポートの形式を基礎的理解があり、引用、文献リストを作成しており、表現は適切であった。	学術レポートの形式基礎的理解が部分的にとどまり、引用、文献リスト、文章表現は十分ではなかった。	学術レポート形式の基礎的理解に欠落があり、引用、文献リスト、文章表現は欠陥があった。
論理的に考え、整合性、一貫性のある主張表現ができる。	タイトルと文章全体が一貫しており、整合性があり、結論は示唆的であった。	タイトルと文章全体が一貫性を備えており、結論は明瞭であった。	タイトルと文章全体において、論理的に主張がなされ、説得力があり、結論は適切であった。	タイトルと文章全体の論理性は、部分的にとどまり整合性に欠け、結論を明確化する必要があった。	タイトルと文章全体の論理性は、一貫性が乏しく、全面的修整の必要があった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ演習（S） （科目ナンバリング：BAS001001　　）				
授業担当者 （所属・職名）	後藤　啓倫（社会福祉学科・准教授）・松下　守邦 （社会福祉学科・教授）	研究室等所在	１号館４階・１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　松下　守邦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『学生のレポート・論文作成トレーニング　改訂版 スキルを学ぶ２１のワーク』	桑田てるみ	実教出版	２０１５	9784407336146	
2	『星槎道都大学　学生便覧　２０２５年度版』	星槎道都大学学務部編		２０２５		
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『科学の健全な発展のために』	日本学術振興会		２０１５		
2	『大学教育の分野別質保証　参照基準 社会福祉学分野』	日本学術振興会		２０１５		
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明、シラバスの説明、社会福祉学科のディプロマ・ポリシー（DP）の説明等（社会福祉学科長）、本科目を修了して「身に付く力」を説明する。	シラバスの内容をよく読んでおく。（４５分）	今回の学習内容について、シラバス、学生便覧などを復習する。（４５分）
2	大学で学ぶ上の履修関連のティップス及び学生本位の教育の意識付け等（学務課）	授業前に、学生便覧、テキストなどの学習範囲について予習する。（４５分）	今回の学習内容について、学生便覧、テキストなどを復習する。（４５分）
3	GPS-Academic概要説明及び活用による社会人基礎力向上の意識付け（ＩＲ企画課）	授業前に、学生便覧、テキスなどの学習範囲について予習する。（４５分）	今回の授業内容について、学生便覧、テキストを復習する。（４５分）
4	オリエンテーション（後藤・松下）	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。（４５分）	今回のテキスト、資料を復習する。（４５分）
5	ノートテイキング、学術倫理（後藤・松下）	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。（４５分）	今回のテキスト、資料を復習する。（４５分）
6	学術レポートの書き方、レポートの構成を知る（松下）	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。（４５分）	今回のテキスト、資料を復習する。（４５分）
7	学術レポートの書き方、信頼できる情報を集める（松下）	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。（４５分）	今回のテキスト、資料を復習する。（４５分）
8	学術レポートの書き方、引用し、文献リストを作る（松下）	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。（４５分）	今回のテキスト、資料を復習する。（４５分）
9	学術レポートの書き方、正しい文法と学術表現をする（松下）	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。（４５分）	今回のテキスト、資料を復習する。（４５分）
10	論理的な考え方、問いを立てる（後藤）	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。（４５分）	今回のテキスト、資料を復習する。（４５分）
11	論理的な考え方、情報を集め、分類する（後藤）	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。（４５分）	今回のテキスト、資料を復習する。（４５分）
12	論理的な考え方、論理を組み立てる（後藤）	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。（４５分）	今回のテキスト、資料を復習する。（４５分）
13	論理的な考え方、文章化する（後藤）	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。（４５分）	今回のテキスト、資料を復習する。（４５分）
14	学術レポートの作成（後藤・松下）	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。（４５分）	今回のテキスト、資料を復習する。（４５分）
15	学術レポートの提出（後藤・松下）	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。（４５分）	今回のテキスト、資料を復習する。（４５分）
16	授業の総括とフィードバック、本科目を修了して「身に着く力」について検証、授業改善アンケートの実施（後藤・松下）	本科目のまとめの準備をする。（４５分）	本科目全体の学習振り返りをする。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ 演習 (D) （科目ナンバリング：BAS001001　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三上　いずみ（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　三上　いずみ　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

・学生自らが「学生主体の学び（学生本位の教育）」を意識し、実践的に学習する。
・本学の「初年次教育」として位置付ける本授業を受講し、スチューデントスキル、スタディスキル、
アカデミックスキル等を修得することにより、大学生として生活面や学習面等で高校から大学への
円滑な移行と、入学後に必要となる多様な能力を身に付ける。

自らのアイデアや提案を出し、自己表現や主体性を発揮する。
研究に向かう姿勢を学び、研究の意義を考え、研究の深化に努める。
自己の興味や専門性を明確化し、将来の方向性を見出す。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP１、DP２、DP５ に対応する科目

到達目標

・大学生に求められる一般常識や態度を学習面、生活面で活用できる。（スチューデントスキル）
・学びを深めるために必要となる基本的なスキルを学習面で活用できる。（スタディスキル）
・専門的な学習や研究に必要なスキル・能力を学習面で活用できる。（アカデミックスキル）

授業全体の内容と概要

これから大学で制作していくにあたってのスキルを学ぶ。
学問上の研究倫理、コンプライアンス、研究インテグリティについて学ぶ。
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業内容はPowerPointや配布資料を用いて説明し、授業後にTeamsに保存、振り返り可能。
課題説明後、制作、発表、Teamsに提出する。
プレゼンテーション、グループワーク、個人制作、フィールドワークあり。
質問には随時対応する。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

必要な機材は学生各自で準備すること。
授業の始めに説明をするので遅刻はしないこと。
提出期限を守ること。
欠席する場合は事前に連絡すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
主体的な学びの促進	自らのアイデアや提案を出し、自己表現や主体性を充分発揮することができた。	自らのアイデアや提案を出し、自己表現や主体性を発揮することができた。	自らのアイデアや提案を出し、自己表現や主体性を身につけることができた。	自己表現や主体性を身につけることができた。	自己表現や主体性を身につけることができなかった。
研究に向かう姿勢の醸成	研究に向かう姿勢を学び、研究の意義を考え、研究の深化に努め、研究に活かすことができた。	研究に向かう姿勢を学び、研究の意義を考え、研究の深化に努めることができた。	研究に向かう姿勢を学び、研究の意義を考えることができた。	研究に向かう姿勢を学ぶことができた。	研究に向かう姿勢を学ぶことができなかった。
将来の方向性の明確化	自己の興味や専門性を明確化し、将来の方向性を見出し、今後の目標を定めることができた。	自己の興味や専門性を明確化し、将来の方向性を見出すことができた。	自己の興味や専門性を知り、将来の方向性について考えることができた。	自己の興味や専門性を知ることができた。	自己の興味や専門性を知ることができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ 演習（D） （科目ナンバリング：BAS001001　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三上　いずみ（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　三上　いずみ　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ディプロマ・ポリシー（DP）説明等（学科長） 授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明・「身に付く力」について・便覧の使い方	シラバスを読んでおく（４５分）	授業内容を振り返り、理解を深める（４５分）
2	大学で学ぶ上の履修関連のティップス及び学生本位の教育の意識付け等（学務課）	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容を振り返り、理解を深める（４５分）
3	GPS-Academic概要説明及び活用による社会人基礎力向上の意識付け（ＩＲ企画課）	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容を振り返り、理解を深める（４５分）
4	グループワーク①「他己紹介」インタビュー作業	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容の振り返りと課題制作の続き（４５分）
5	グループワーク②「他己紹介」口頭発表（グループごとに５分間）	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容を振り返り、理解を深める（４５分）
6	学問上のコンプライアンス、研究倫理 教員へのアポイントメント、生成AIの活用、図書館の活用	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容の振り返りと課題制作の続き（４５分）
7	作品制作の取り組み方①　組み立て	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容を振り返り、理解を深める（４５分）
8	作品制作の取り組み方②　口頭発表（ひとり１分間）	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	課題を次授業開始時までに完成提出する。（４５分）
9	展覧会プロジェクト① 情報収集	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容の振り返りと課題制作の続き（４５分）
10	展覧会プロジェクト② 企画・立案・役割分担	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容の振り返りと課題制作の続き（４５分）
11	展覧会プロジェクト③ 中間報告（グループごとに５分間）	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容の振り返りと課題制作の続き（４５分）
12	展覧会プロジェクト④ スライド作成１	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容の振り返りと課題制作の続き（４５分）
13	展覧会プロジェクト⑤ スライド作成２	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容の振り返りと課題制作の続き（４５分）
14	展覧会プロジェクト⑥ スライドによる発表（グループごとに５分間）	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容の振り返りと課題制作の続き（４５分）
15	展覧会プロジェクト⑦ まとめと展開	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容を振り返り、理解を深める（４５分）
16	講評によるフィードバック・「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容を振り返り、理解を深める（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ 演習 （A） （科目ナンバリング：BAS001001 ）				
授業担当者 （所属・職名）	建築学科教員		研究室等所在	各教員研究室	
単位数	1 （単位認定責任者： 伊藤 裕康 ）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	赤木（一級建築士）、安藤（一級建築士）、小笠原（一級建築士）、君（一級建築士）、佐々木（一級建築士）、佐藤（一級建築士）、向井（一級建築士）		
オフィスアワー	各研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生は大学卒業後、「自分で考え、調べ、自分のアイディアや意見を表現する力」を社会から求められる。本学の「初年次教育」として位置付ける本授業を受講し、スチューデントスキル、スタディスキル、アカデミックスキル等を修得し活用することで、大学生として必要となる多様な能力を身につける。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

大学生に求められる一般常識や態度を学習面、生活面で活用できる。また、授業で学んだ知識を理解できており、学びを深めるために必要となるスキル・能力を活用して自らの考えを論理的に表現(レポート、議論など)することができる。

授業全体の内容と概要

「SDG 11. 住み続けられるまちづくりを」の関連科目。
建築学科教員がオムニバス形式で授業を担当する。授業では、大学生活の概観、学問上の研究倫理・コンプライアンス・研究インテグリティ、授業理解のためのスキル、実験や調査を進めるスキル、考えをまとめるスキル、考えたことを表現するスキル、レポート作成のスキルなどについて身につける。人に伝えるための授業のため、予習・復習時間を利用して教員と時間外に積極的なコミュニケーションを心がけてほしい。

授業の方法

各教員によって異なり、板書・パワーポイント・視聴覚メディア等による多種の授業形態により展開する。回によってはグループワークによるフィールドワークも行い、プレゼンテーションの作成と発表も行う。提出課題や発表に対しては講評を行い、フィードバックする。学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。
不測時における授業や補講等ではオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業中は口頭説明にも注意を向けノートを取ること。授業で発表した内容、授業で活動した内容も含めて評価の対象となる。
提出物は必ず期限までに提出すること。また、インターネットや文献からのコピーや書き写したものは採点の対象としない(０点とする)。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１1回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	４０%	３０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築に関わる知識の修得	授業で学んだ知識や内容について、ノートに分かりやすくまとめることができたほか、他人に簡潔に説明することができた。	授業で学んだ知識や内容について、他人に説明することができた。	授業で学んだ知識や内容について、ノートにまとめることができた。	授業で学んだ知識について理解できた。	授業で学んだ知識について理解できなかった。
プレゼンテーション能力の育成	パワーポイント等のプレゼンテーションツールを用いて自分の考えを論理的かつ簡潔に表現することができ、画面のスライドを用いて分かりやすく説明できた。	パワーポイント等のプレゼンテーションツールを使って自分の考えを論理的に表現することができた。	パワーポイント等のプレゼンテーションツールを使いこなすことができた。	レポートや議論において、自分の考えを論理的に表現できた。	レポートや議論において、自分の考えを論理的に表現できなかった。
主体性を持ったグループワーク活動	グループワークにおいて、行動計画の立案や実際の学習活動を積極的に行い、グループ全体の行動に主体的に関わることができた。	自分の分担する役割を十分に果たすだけでなく、他のメンバーとサポートし合うことができた。	グループのメンバー同士と円滑にコミュニケーションをとることができた。	自分の分担する役割を果たすことができた。	自分の分担する役割を果たすことができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ演習（A） （科目ナンバリング：BAS001001　　）				
授業担当者 （所属・職名）	建築学科教員		研究室等所在	各教員研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　伊藤　裕康　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	赤木（一級建築士）、安藤（一級建築士）、小笠原（一級建築士）、君（一級建築士）、佐々木（一級建築士）、佐藤（一級建築士）、向井（一級建築士）		
オフィスアワー	各研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『BRUTUS特別編集 合本 建築を楽しむ教科書』	マガジンハウス【編】	マガジンハウス	2022	9784838755707	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明、シラバスの説明、大学（美術学部・建築学科）で学ぶ意義、本学ディプロマ・ポリシー（DP）説明等、研究倫理・コンプライアンス・研究インテグリティ（伊藤　裕康） 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスと左記の学習内容を読み、修得目標を立てる（４５分）	授業内容の振り返りと自身の最終修得目標達成度を測定する（４５分）
2	大学で学ぶ上の履修関連のティップス及び学生本位の教育の意識付け等（学務課）	指定した事項について調べ、修得目標を立てる（４５分）	授業内容の振り返りと自身の最終修得目標達成度を測定する（４５分）
3	GPS-Academic　概要説明及び活用による社会人基礎力向上の意識付け（ＩＲ企画課）	指定した事項について調べ、修得目標を立てる（４５分）	授業内容の振り返りと自身の最終修得目標達成度を測定する（４５分）
4	建築の基礎知識と技能　建築用語の理解（佐々木　哲之）	指定した事項について調べ、修得目標を立てる（４５分）	授業内容の振り返りと自身の最終修得目標達成度を測定する（４５分）
5	建築の学びについて１　建築学生の大学生活の送り方（君　興治）	指定した事項について調べ、修得目標を立てる（４５分）	授業内容の振り返りと自身の最終修得目標達成度を測定する（４５分）
6	建築の学びについて２　建築の仕事について（君　興治）	指定した事項について調べ、修得目標を立てる（４５分）	授業内容の振り返りと自身の最終修得目標達成度を測定する（４５分）
7	実験・実習の進め方　実験の意義と方法・手順、レポートや論文の書き方（長森　正）	指定した事項について調べ、修得目標を立てる（４５分）	授業内容の振り返りと自身の最終修得目標達成度を測定する（４５分）
8	ひとかじり建築史　～北海道の近代建築～（赤木　良子）	指定した事項について調べ、修得目標を立てる（４５分）	授業内容の振り返りと自身の最終修得目標達成度を測定する（４５分）
9	情報リテラシー、大学図書館の役割と活用、オンラインデータベースの使用方法、生成AIの活用、資料検索、情報モラル等（図書情報館）	指定した事項について調べ、修得目標を立てる（４５分）	授業内容の振り返りと自身の最終修得目標達成度を測定する（４５分）
10	建築士資格取得に向けて（小笠原　健）	指定した事項について調べ、修得目標を立てる（４５分）	授業内容の振り返りと自身の最終修得目標達成度を測定する（４５分）
11	都市を豊かにする建築空間（向井　正伸）	指定した事項について調べ、修得目標を立てる（４５分）	授業内容の振り返りと自身の最終修得目標達成度を測定する（４５分）
12	建築を学ぶ先にある進路について（安藤　淳一）	指定した事項について調べ、修得目標を立てる（４５分）	授業内容の振り返りと自身の最終修得目標達成度を測定する（４５分）
13	まちウォッチング１　まちの景観デザインについて（佐藤　善太郎・伊藤　裕康）	指定した事項について調べ、修得目標を立てる（４５分）	授業内容の振り返りと自身の最終修得目標達成度を測定する（４５分）
14	まちウォッチング２　北広島駅周辺のフィールドワーク（佐藤　善太郎・伊藤　裕康）	指定した事項について調べ、修得目標を立てる（４５分）	授業内容の振り返りと自身の最終修得目標達成度を測定する（４５分）
15	グループワーク１　撮影した景観写真を用いたグループ発表準備（佐藤　善太郎・伊藤　裕康）	指定した事項について調べ、修得目標を立てる（４５分）	授業内容の振り返りと自身の最終修得目標達成度を測定する（４５分）
16	グループワーク２　景観調査結果のグループ発表（佐藤　善太郎・伊藤　裕康） 発表内容に係る講評によるフィードバック 授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」についての検証	指定した事項について調べ、修得目標を立てる（４５分）	授業内容の振り返りと自身の最終修得目標達成度を測定する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉の原理Ⅰ （科目ナンバリング：SWS122038　　）				
授業担当者 （所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　西野　克俊　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

①「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み（理念・視点・関係性）について理解する。
②精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。
③精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。
④精神障害者へのかかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。
⑤現在の精神保健福祉士の基本的枠組み（理念・視点・関係性）と倫理綱領に基づく職責について理解する。
⑥精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する。
⑦近年の精神保健福祉の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ3、ＤＰ4、ＤＰ5に対応する。

到達目標

精神保健福祉の理念や概念を習得し、精神保健福祉士の倫理や価値観を培い、役割や業務特性を理解できる。

授業全体の内容と概要

①障害者福祉の理念や概念の理解や社会的障壁について学ぶ。
②精神保健福祉士の原理や精神保健福祉士の役割等について学ぶ。
「SDG３．すべての人に健康と福祉を」関連科目。

授業の方法

①授業形態は講義形式で行う。
②テキスト及び配布資料を使用し，ポイントとするべき箇所は説明，板書を行う。
③質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。
④確認テストを実施し、解答回収後解説を行う。
⑤Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①教科書は必ず持参すること。
②必要な資料等は適宜配布する。
③２０分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。
④不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	０%	１０%	３０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識をおおむね理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を理解することができなかった。
思考力・考察力	精神保健福祉の基礎を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開についておおむね考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察することができなかった。
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことをおおむねに説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉の原理Ⅰ （科目ナンバリング：SWS122038　　）				
授業担当者 （所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　西野　克俊　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『精神保健福祉の原理』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版株式会社	２０２１	9784805882566	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	障害者福祉の思想と原理について シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映及び科目を終えて『身に付く力』についての説明	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
2	障害者福祉の理念について①（ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン等）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
3	障害者福祉の理念について②（エンパワメント、自立生活、機会均等等）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
4	障害者福祉の歴史的展開について	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
5	国際機能分類について（ICIDH、ICFの理解）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
6	制度における「精神障害者」の定義について	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
7	精神障害の障害特性について	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
8	諸外国の動向について	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
9	日本の精神保健福祉政策に影響のあった出来事について①（相馬事件、ライシャワー事件）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
10	日本の精神保健福祉政策に影響のあった出来事について②（宇都宮病院事件、大和川病院事件）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
11	日本の精神保健福祉政策に影響のあった出来事について③（池田小事件、相模原事件）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
12	社会的障壁の理解について①（欠格事項、強制不妊手術など）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
13	社会的障壁の理解について②（コンフリクトの種類など）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
14	社会的障壁の理解について③（人権侵害、アルコール・薬物問題など）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
15	まとめ「障害者福祉」、「日本における事件」、「社会的障壁」等について	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
16	試験（６０分の試験終了後、３０分でフィードバックを行い、科目を修了して『身に付く力』についての検証） 授業改善アンケートの実施	試験のための学習（９０分）	試験の振り返りを行うこと（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義,演習,実習,実技,実験	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	由水 伸（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　由水 伸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報システムの理解に必要な知識について講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

情報通信技術の専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的（客観的・論理的）な思考・研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力を身に付け、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

多岐にわたる情報分野と経営学の知識を総合的に理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要

ICT活用に必要な応用知識の獲得の方向で演習が進められる。

授業の方法

講義、ゼミナール、実験、制作等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

３０分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。授業内容は前後の相関関係があるため、欠席するとそれ以降の理解が難しくなる。全ての授業に出席することが望ましい。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１３回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。
毎回の授業における課題の過程と結果が得点として積算される。
最終評価はルーブリックに従い、総合的に判断し決定する。
原則としてＳ評価は授業全回出席者に限る。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	70%	%	%	%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	真摯に取り組み、高いレベルで知識・技能を獲得する獲得する事ができた。また、独自の発想で課題に取り組み、高い結果を出していた。	真摯に取り組み、高いレベルで知識・技能を獲得する事ができた。	まじめに取り組み、知識・技能の獲得につなげていた。	知識・技能を得るための最低限の活動は行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	真摯に取り組み、深いレベルで思考力・判断力・表現力を獲得する姿勢が感じられた。また、独自の発想で課題に取り組み、高い結果を出していた。	真摯に取り組み、深いレベルで思考力・判断力・表現力を獲得する姿勢が感じられた。	まじめに取り組み、思考力・判断力・表現力をしっかり獲得した。	まじめに取り組んだが、思考力・判断力・表現力の獲得は概ね十分であった。	取り組みが不十分で、思考力・判断力・表現力の獲得に対する姿勢が全く見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組んでいた。また、課題解決後もさらなる研究・改善に努めた。	与えられた問題解決に前向きで、努力して取り組むが窺えた。	疑問点を積極的に質問するなど前向きな姿勢がうかがわれた。	聞き手に回りがちであったか、授業はこなしていた。	内容を身につけようとする姿勢が全く見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義,演習,実習,実技,実験	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＡ （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	由水 伸（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1	（単位認定責任者：	由水 伸	）	CAP制 ○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報システムの理解に必要な知識について講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	◇ オリエンテーション ・シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）、本専門演習の学習上の注意点、授業改善アンケート結果反映の説明 ・技術の発達と社会の変化、Society5.0、近未来社会	シラバスの確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	◇ 学習環境の整備 ・ネットワークとPCの設定確認 ・機材の性能評価	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
3	◇ ハードウェア（１） PCの分解 各パーツの役割の理解	PCパーツの役割の調査（４５分）	授業振返り課題（４５分）
4	◇ ハードウェア（２） PCの組み立て 各パーツの性能と試ステ、システムの総合性能	PCパーツの役割の調査（４５分）	授業振返り課題（４５分）
5	◇ オペレーティングシステム（１） インストール（Linux）と環境設定	オペレーティングシステムの役割（４５分）	授業振返り課題（４５分）
6	◇ オペレーティングシステム（２） インストール（Linux）と環境設定	オペレーティングシステムの種類（４５分）	授業振返り課題（４５分）
7	◇ オペレーティングシステム（３） LINUXの性能評価	LINUXの利用分野（４５分）	授業振返り課題（４５分）
8	◇ アプリケーション（１） ・オフィスソフト	オフィスソフトの種類と特徴（４５分）	授業振返り課題（４５分）
9	◇ アプリケーション（２） ・画像編集ソフト	の種類と特徴（４５分）	授業振返り課題（４５分）
10	◇ アプリケーション（３） ・音声編集ソフト	音声編集ソフト種の類と特徴（４５分）	授業振返り課題（４５分）
11	◇ アプリケーション（４） ・動画編集ソフト	動画編集ソフトの種類と特徴（４５分）	授業振返り課題（４５分）
12	◇ アプリケーション（４） ・ユーティリティソフト	ユーティリティソフトの種類と特徴（４５分）	授業振返り課題（４５分）
13	◇ ネットワーク ・ネットワークプロトコル（TCP/IP） ・クラウドコンピューティング	プロトコルの７階層（４５分）	授業振返り課題（４５分）
14	◇ ネットワークセキュリティと知的財産権 ・ファイヤーウォールとセキュリティソフト ・知的財産権、ネット利用のモラルとマナー	ネット利用のモラルとマナー（４５分）	授業振返り課題（４５分）
15	◇ 生成AI ・生成AIの種類と特徴 ・効果的な利用法 ・メリットとデメリット、倫理規定　他	生成AIの種類と特徴（４５分）	授業振返り課題（４５分）
16	振り返りとまとめ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	これまでの授業振り返り（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1　（単位認定責任者：　信濃　吉彦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

担当各教員の専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的（客観的・論理的）な思考・研究方法の基礎を磨く。そして，それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力を身に付け、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示している「専門テーマ」に沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを目指して、研究を着実に進めることが一層求められる。「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連授業

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので，講義，ゼミナール、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各担当教員が授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち１３回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価は各教員が判断し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	１００%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚のもと、日本における社会人たる資質が出来上がった。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的な範囲を超えなかった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＡ （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1　（単位認定責任者：　信濃　吉彦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業①	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
3	担当教員による授業②	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
4	担当教員による授業③	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
5	担当教員による授業④	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
6	担当教員による授業⑤	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
7	担当教員による授業⑥	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
8	担当教員による授業⑦	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
9	担当教員による授業⑧	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
10	担当教員による授業⑨	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
11	担当教員による授業⑩	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
12	担当教員による授業⑪	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
13	担当教員による授業⑫	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
14	担当教員による授業⑬	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
15	担当教員による授業⑭ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
16	担当教員による授業⑮およびまとめと評価について	授業振り返り作成（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	河野　善文（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　河野　善文　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

日常のさまざまな疑問を経済学的観点からとらえるための知識を身につける。また、経済学の基礎知識を活用して、日常の問題を経済学的に考察する能力を身につける。さらには、演習内での議論を通して、人と協働して課題解決にあたるコミュニケーション能力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

日常のさまざまな事象を経済学的観点でとらえる取組みができる。
課題の解決にむけて経済学の考え方の活用に取りくめる。
経済学の考えにもとづいた議論に取りくめる。

授業全体の内容と概要

経済学の概念とその応用を学ぶ。経済学について学んだことを知識としてただ理解するだけでなく、その考えの日常生活の事象への応用について、グループワークをおりまぜて演習する。演習では、日常のさまざまな不思議・疑問から出発して、具体的な問題・課題を見出し、その解決にむけて経済学の考え方の活用を議論する。

授業の方法

各回の計画にそって、まず経済学の重要概念からテーマを選んで解説する。次に、その学んだ考え方を、日常生活の身近な疑問や不思議にあてはめて考察することを演習する。演習では、個人的考察にくわえてグループ討議による考察も行う。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

グループワークやディスカッションを基本とした少人数授業であるため、受講人数を10人から12人程度までに制限する。ただし、具体的な人数は、当該年度の対象学年の学生数等を考慮して年度ごとに決める。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	１０%	０%	９０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
疑問への経済学的観点の適用	日常生活の疑問に経済学的観点を適用して経済学的問題としてとらえることができた。	日常生活の疑問に経済学的観点を適用して経済学的問題としてある程度とらえることができた。	日常生活の疑問に経済学的観点をある程度適用できた。	日常生活の疑問への経済学的観点の適用に取り組めた。	日常生活の疑問に経済学的な観点を適用できなかった。
問題の経済学的考察	日常生活の問題の経済学的解答を導くことができた。	日常生活の問いを経済学的に考察できた。	日常生活の問いについてある程度経済学的に考察できた。	日常生活の問いに関する経済学的考察に取りくめた。	日常生活の問いに関する経済学的考察ができなかった。
経済学的な議論の実践	経済学的思考にもとづいて意見をまとめることができた。	経済学的思考にもとづいて討議できた。	経済学的思考にもとづいてある程度討議できた。	経済学的思考にもとづいた討議に取りくめた。	経済学的思考にもとづいた討議ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＡ （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	河野　善文（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　河野　善文　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読む（４５分）	シラバス等の確認とまとめ（４５分）
2	経済的厚生について	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
3	経済的厚生に関する事例演習(1) 集団討論	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
4	経済的厚生に関する事例演習(2) 個別演習	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
5	経済的厚生に関する発表とまとめ	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
6	経済学的費用について	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
7	経済学的費用の事例演習(1) 集団討論	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
8	経済学的費用の事例演習(2) 個別演習	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
9	経済学的費用に関するまとめ・発表	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
10	合理性の問題について	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
11	合理性の問題の事例演習(1) 集団討論	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
12	合理性の問題の事例演習(2) 個別演習	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
13	合理性の問題に関するまとめ・発表	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
14	前期演習のまとめ	これまでの演習について振り返る（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
15	前期学生生活・修学の振り返り	半期の学生生活について振り返る（４５分）	半期の学生生活について振り返りをまとめる（４５分）
16	補講課題等へのコメント（フィードバック） 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	これまでの演習課題等を再確認・整理してたりないものを補う（４５分）	演習ノートの整理（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	岡島 徳昭（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　岡島　徳昭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

国際言語としての英語理解を基本とし様々な国際関係の時事問題を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的（客観的・論理的）な思考・研究方法の基礎を磨く。さらにそれらを発展させ、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力を身につけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要

「異文化コミュニケーション」の学びに沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを目指して、研究を着実に進めることが一層求められる。

授業の方法

講義，ゼミナール、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態をとる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

10名を上限とする。各回授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち１３回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価はすべての活動を通して加味し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	１００％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚のもと、日本における社会人たる資質が出来上がった。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的な範囲を超えなかった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＡ （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	岡島　徳昭（経営学科・特任教授）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	1　（単位認定責任者：　岡島　徳昭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明「科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	授業①	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
3	授業②	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
4	授業③	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
5	授業④	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
6	授業⑤	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
7	授業⑥	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
8	授業⑦	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
9	授業⑧	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
10	授業⑨	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
11	授業⑩	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
12	授業⑪	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
13	授業⑫	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
14	授業⑬	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
15	授業⑭ 授業改善アンケートの実施	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
16	担当教員による授業⑮およびまとめと評価について 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	授業振り返り作成（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	青山　浩之（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　青山　浩之　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。法的なものの考え方を身に付け、ビジネスマンとして理解しておくべき基本的法律知識を身に付けること目的とする。さらにビジネス活動で生じる法的問題の発見能力とコンプライアンス能力を身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

会社を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得することにより、法的な側面から会社とは何かを考えることができる。
法律の基本知識を修得することにより，条文を理解し，適用・解釈できる読解力を身に付ける。

授業全体の内容と概要

企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。

「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。
「ＳＤＧ８.働きがいも経済成長も」の関連科目。
「ＳＤＧ１０.人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

専門演習を進める上で、「法学」「会社法」（講義）を受講することが前提条件になります。
専門演習は基本的に講義・発表（報告者はあらかじめ決めて順次報告）・討論する方法をとります。
※確認テストなどはプリント配布で実施のほか、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｆｏｒｍｓの小テストから学生全体の理解度を把握し、指導する

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・演習科目なので、積極的な出席が必要
・私語などの迷惑行為は厳禁
・講義中スマホの操作は厳禁
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。
・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	３０％	０％	７０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に授業に取り組み、実社会で対応し得る様々なスキルを学び、社会に貢献するための努力をしている。	各回の授業に真摯に取り組み、十分な実践力の獲得へ向けた理解が深まりつつある。	各回の授業に取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られる。	授業にまじめに取り組み、日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	授業への取り組みが不十分で、知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け、主体的に活動を行っている。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり、活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的である。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られない。
事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べる	事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明できる	事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を理解できる	事例を読み取れず、法律の条文を理解できない
課題に対し、問題可決ができる	解答が的確で、過不足なく網羅して答えている	解答は答えているが、一部に解答と関係ないことを答えている	解答が一通り答えているが、改善すべき点がある	解答を部分的には答えているが、的確ではない	解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＡ （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	青山　浩之（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　青山　浩之　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 個別面談・履修登録チェック 授業改善アンケート結果反映の説明	授業への参加の心構えを考える。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
2	オリエンテーション、アセスメントテスト 株式会社（１）－設立・株式 キャリアデザイン（１）キャリアデザインとは	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
3	株式会社（２）－設立・株式 キャリアデザイン（２）キャリアデザインとは	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
4	株式会社の機関設計（１） キャリアデザイン（３）大学で何を学び身につけなければならないか	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
5	株式会社の機関設計（２） キャリアデザイン（４）大学で何を学び身につけなければならないか	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
6	式会社の機関設計（３） キャリアデザイン（５）大学で何を学び身につけなければならないか	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
7	株式会社の機関設計（４）事例研究 キャリアデザイン（６）キャリアイメージ	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
8	株式会社の機関設計（５）事例研究 キャリアデザイン（７）キャリアイメージ	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
9	株式会社の機関設計（６）事例研究 キャリアデザイン（８）自分を知る	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
10	株式会社の経営体制－骨格と役割（１）株主総会 キャリアデザイン（９）自分を知る	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
11	式会社の経営体制－骨格と役割（２）株主総会・取締役・取締役会 キャリアデザイン（１０）キャリアゴール	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
12	株式会社の経営体制－骨格と役割（３）取締役・取締役会 キャリアデザイン（１１）キャリアゴール	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
13	株式会社の経営体制－骨格と役割（４）取締役・取締役会 キャリアデザイン（１２）大学とキャリア	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
14	株式会社の経営体制－骨格と役割（５）事例研究 キャリアデザイン（１３）大学とキャリア	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
15	株式会社の経営体制－骨格と役割（６）事例研究 キャリアデザイン（１４）大学とキャリア 個別面談・履修指導	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
16	株式会社の経営体制－骨格と役割（７）事例研究 個別面談・履修指導 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業に係る講評・解説によるフィードバック 授業改善アンケートの実施	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	前期全体の振り返りを行う。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＡ （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石山　玄幸（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　石山　玄幸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタントとして、様々な経験を有していることから、積極的にフィールドワークで地域の小規模事業者等を訪問する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

概要

履修目標

当ゼミナールは、グループディスカッションを基本として、ゼミナールで実施するテーマの決定から実行、検証までを学生主体で進めることで、将来的に社会人として活躍できる人材に成ることを目的としている。科目を修了して、社会人基礎能力を身に付けることを期待する。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ全てに対応する。

到達目標

当ゼミナールの到達目標は、グループワークでの基本ルールを身に付け、他人の意見を尊重しながらも、自分の意見もきっちりと発言できること。そして、他人の意見から、多面的かつより深い議論ができるようになること。

授業全体の内容と概要

当ゼミナールは、グループディスカッションの基本を学ぶことから始める。基本を学んだ後は、ゼミナールでの研究テーマの決定、実行、検証、つまりＰＤＣＡサイクルを活用しながら、組織で行動しながら、成果を出すという方法を学んでいきます。

授業の方法

当ゼミナールは、毎回、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを基本として、研究テーマを決定した後は、フィールドワーク、PBL、調査学習を中心に進める。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

当ゼミナールは、①提出物等の期限が守れること、②無断欠席はしないこと、③ゼミで積極的に発言・参加すること。この３つを重視する。この３つを守れない場合は減点対象とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	１００％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚のもと、日本における社会人たる資質が出来上がった。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的な範囲を超えなかった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＡ （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石山　玄幸（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　石山　玄幸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタントとして、様々な経験を有していることから、積極的にフィールドワークで地域の小規模事業者等を訪問する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション：シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	グループディスカッションの基本	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
3	グループディスカッションによる研究テーマ選定①（研究テーマの候補をいくつか挙げる）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
4	研究テーマの決定	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
5	研究テーマの実施計画の策定①	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
6	研究テーマの実施計画の策定②	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
7	研究の実行①（フィールドワーク、調査学習、PBL）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
8	研究の実行②（フィールドワーク、調査学習、PBL）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
9	研究の実行③（フィールドワーク、調査学習、PBL）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
10	調査のまとめ①（報告書の作成）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
11	調査のまとめ②（報告書の作成）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
12	調査のまとめ③（報告書の作成）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
13	プレゼンテーション（研究成果の発表）と質疑応答	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
14	本研究の検証①（振り返り）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
15	本研究の検証②（後期に向けた改善点） 授業改善アンケートの実施	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
16	担当教員による講評とフィードバック　科目を修了して「身に付く力」の検証	授業振り返り作成（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	天野　雅斗（経営学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1　（単位認定責任者：　天野　雅斗　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験や競技スポーツ現場における指導者経験、スポーツ医科学研究所等での実務経験を有する教員がその経験を活かして、スポーツ科学の実践・指導・研究を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的（客観的・論理的）な思考・研究方法の基礎を身につける。そして，それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する科目。

到達目標

スポーツパフォーマンスを感覚ではなく客観的事実（データ）から評価できる。その過程を通して、①保健体育・スポーツ分野の専門家としての基礎的な知識が説明できる、②様々な人々と協調して一緒に仕事ができる、③マネジメント力を発揮しプロジェクトを遂行できる、④社会人基礎力を向上させ学んだ知識を現場に適用し有効に活用することができる。ことを目標とする。

授業全体の内容と概要

①スポーツパフォーマンス研究の現状を知る。②調査から提案までのプロセスについて、実践を通して理解する。データの収集・統計分析・結果報告・改善方法の立案（Excel，Word，Power Pointなどを使用）について学ぶ。③グループ毎にプロジェクト内容を決め計画・実行する。「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってパワーポイントを使ったプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行う。調査結果等のプレゼンテーションには質疑応答の機会を設けてフィードバックを行う。学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

実践経験（体験活動）に重点を置いているため、好奇心を持って積極的に取り組むこと。また、パソコンを使用してデータ分析も行うのでパソコンを用意すること。そのほか授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業16回のうち出席13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとし判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	１００％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自然科学における基本的な思考法やスポーツ科学の基礎知識・技能を身につけている	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚のもと、日本における社会人たる資質が出来上がった。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的な範囲を超えなかった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＡ （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	天野　雅斗（経営学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1　（単位認定責任者：　天野　雅斗　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験や競技スポーツ現場における指導者経験、スポーツ医科学研究所等での実務経験を有する教員がその経験を活かして、スポーツ科学の実践・指導・研究を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション：シラバスの説明（スポーツパフォーマンスをデータから評価できる能力を身につける）。授業改善アンケート結果反映の説明。	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	スポーツ科学のスポーツ現場への応用	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
3	研究法の基礎（実験系）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
4	研究法の基礎（調査系）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
5	研究法の基礎（文献系）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
6	実験・調査・分析法の基礎①柔軟性	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
7	実験・調査・分析法の基礎②筋力	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
8	実験・調査・分析法の基礎③瞬発力、アジリティ、クイックネス、反応速度	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
9	実験・調査・分析法の基礎④持久力（30-15IFT、YOYOIRT、他）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
10	研究計画の立案①	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
11	研究計画の立案②	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
12	実地調査①	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
13	実地調査②	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
14	調査データの分析	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
15	調査結果のまとめ、プレゼンテーション資料作成	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
16	調査結果発表（スポーツパフォーマンスをデータから評価できる能力が身についたか検証）、調査結果に対する講評をし、フィードバックを行う。授業改善アンケートの実施。	授業振り返り作成（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石井　祐治（経営学科・特任講師）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　石井　祐治　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

・自分自身で行っているトレーニングの効果を実験などを踏まえて検証する。
・トレーニング内容の改善および実践。
陸上競技の知識と技能を身につけさせる。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

データ分析、パワーポイント、ワードでのまとめ方を覚える。
統計処理まで行い、より詳しい分析方法やデータ処理を身につける。

授業全体の内容と概要

主にデータ収集。テーマを各自で決めて、その実験などに必要な被検者などはゼミ内でまかなう。データ収集と平行して、論文の書き方などの指導を行い知識と技能を身につけさせる。
・トレーニング
・各部活における新たな指導法
・レース分析
・簡単な動作分析　など

授業の方法

自分が行いたいテーマを決め、スケジュールを組みトレーニングの実践。
トレーニング経過を発表し，意見交換を行う。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

状態に応じてトレーニング内容を変更するなど、日程調整などもあるため継続することが大事となってくる。トレーニング結果をもとに試合など評価する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上。
陸上競技の知識と技能を身につけたか大会等の結果で評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２５%	２５%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
論文の内容を理解したか	十分に理解して、陸上競技の知識と技能を身につける事ができた。	理解して陸上競技の知識と技能を身につける事ができた。	おおむね理解して陸上競技の知識と技能を身につける事ができた。	理解できていないカ所があり、陸上競技の知識と技能を身につける事が十分ではない。	陸上競技の知識と技能を身につける事が全く理解できていない
データ分析やパワーポイントの操作を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていないカ所がある	全く理解できていない
発表の際の工夫は行われていたか	十分に行われた	行われた	おおむね行われた	行われていないカ所がある	全く行われていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＡ （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石井　祐治（経営学科・特任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　石井　祐治　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	ガイダンス （45分）	学習内容の復習（45分）
2	各テーマの論文検索①	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
3	各テーマの論文検索②	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
4	各テーマの論文検索③	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
5	各テーマの論文検索④	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
6	論文発表①	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
7	論文発表②	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
8	論文発表③	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
9	論文発表④	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
10	トレーニング実践①	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
11	トレーニング実践②	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
12	トレーニング実践③	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
13	トレーニング実践④	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
14	トレーニング実践⑤	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
15	トレーニング実践⑥	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
16	まとめ・発表 身に付ける力がついたかどうかフィードバックして検証 授業改善アンケートの実施	パワーポイントでの作成 （45分）	学習内容の復習（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	篠原　諒介（経営学科・専任講師）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　篠原　諒介　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

・自分自身で行っているトレーニングの効果を実験などを踏まえて検証し身に付けることを目的とする。
・新たな指導法を確立し身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

データ分析、パワーポイント、ワードでのまとめ方を覚える。
統計処理まで行い、より詳しい分析方法やデータ処理を身につける。

授業全体の内容と概要

主にデータ収集。テーマを各自で決めて、その実験などに必要な被検者などはゼミ内でまかなう。データ収集と平行して、論文の書き方などの指導を行う。
・トレーニング
・各部活における新たな指導法
・ゲーム分析
・簡単な動作分析　など

授業の方法

・自分が行いたいテーマを決め、スケジュールを組み、測定を行う。
・途中経過をパワーポイントで発表し，意見交換を行う。
・不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します．
・欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供します．

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

データをとるなどの細かい作業もあり、日程調整などもあるため継続することが大事となってくる。データをもとに発表などから評価する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	２５％	２５％	０％	５０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
論文の内容を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていないカ所がある	全く理解できていない
データ分析やパワーポイントの操作を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていないカ所がある	全く理解できていない
発表の際の工夫は行われていたか	十分に行われた	行われた	おおむね行われた	行われていないカ所がある	全く行われていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＡ （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	篠原　諒介（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　篠原　諒介　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読む（４５分）	学習内容の復習（４５分）
2	各テーマの論文検索①	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
3	各テーマの論文検索②	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
4	各テーマの論文検索③	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
5	各テーマの論文検索④	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
6	論文発表①	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
7	論文発表②	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
8	論文発表③	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
9	論文発表④	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
10	プレ測定①	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
11	プレ測定②	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
12	プレ測定③	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
13	プレ測定④	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
14	プレ測定⑤	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
15	プレ測定⑥	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
16	まとめ・発表 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	パワーポイントでの作成（４５分）	学習内容の復習（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小林　大州介（経営学科・専任講師）	研究室等所在	２号館８階		
単位数	1　（単位認定責任者：　小林　大州介　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	初回に周知する。また各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

担当各教員の専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的（客観的・論理的）な思考・研究方法の基礎を磨く。そして，それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力を身に付け、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示している「専門テーマ」に沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを目指して、研究を着実に進めることが一層求められる。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので，講義，ゼミナール、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各担当教員が授業時にアナウンスする。授業中に指定された課題は必ず行うこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち１３回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価は各教員が判断し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	１００％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＡ （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小林　大州介（経営学科・専任講師）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　小林　大州介　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	初回に周知する。また各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	初回オリエンテーション　授業内容の説明 授業改善アンケート結果反映の説明 講義内容と到達目標(身に付く力)について説明する。	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業①	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
3	担当教員による授業②	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
4	担当教員による授業③	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
5	担当教員による授業④	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
6	担当教員による授業⑤	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
7	担当教員による授業⑥	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
8	前半授業の振り返り	前半授業の復習（４５分）	授業の復習（４５分）
9	担当教員による授業⑦	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
10	担当教員による授業⑧	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
11	担当教員による授業⑨	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
12	担当教員による授業⑩	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
13	担当教員による授業⑪	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
14	担当教員による授業⑫	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
15	担当教員による授業⑬　授業改善アンケートの実施	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
16	前期授業の総括について、前期の講評を行う。 授業に係る解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	前期授業の復習（４５分）	全体の復習（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　藤根　収　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験や教育行政経験のある教員がその経験を活かして、特別支援教育や今日的な教育課題について指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

専門演習担当各教員の専門分野を中心に、社会福祉学をはじめとする社会科学の方法論を、文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどの教授方法を使用し獲得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

・自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。
・個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかんでいる。
・上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。
・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

特別支援教育や今日的な教育課題等についてテーマを設け、探究、整理、協議、発表を行う。
各自が関心をもつ内容について整理、焦点化などを通して研究の方向付けを行う。
調査研究や文献研究の方法、情報の整理の仕方やまとめ方について、主体的に演習に取り組む。
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査等様々は授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。
不測の事態が起きた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教職課程を履修している学生で特別支援教育や教育の今日的な課題に対して、関心をもって主体的に学ぼうとする者を対象とする。
担当教員の指示に従い、主体的・積極的な参加に努めること。
大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＡ （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　藤根　収　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験や教育行政経験のある教員がその経験を活かして、特別支援教育や今日的な教育課題について指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『生徒指導提要　改訂版』	文部科学省	東洋館出版社	2023	978-4491051758	
2	『特別支援教育の基礎・基本2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 「担当教員によるガイダンス」	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業１ 「課題演習の進め方について」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
3	担当教員による授業２ 「演習等の役割分担、ディスカッション」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
4	担当教員による授業３ 「教育の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
5	担当教員による授業４ 「教育の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
6	担当教員による授業５ 「教育の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
7	担当教員による授業６ 「教育の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
8	担当教員による授業７ 「教育の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
9	担当教員による授業８ 「教育の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
10	担当教員による授業９ 「教育の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
11	担当教員による授業１０ 「教育の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
12	担当教員による授業１１ 「教育の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
13	担当教員による授業１２ 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
14	担当教員による授業１３ 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
15	担当教員による授業１４ 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
16	総括 専門ゼミＩＡのまとめ・発表　　演習の講評・フィードバック	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	社会福祉学科･教授	研究室等所在	1号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　松下　守邦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。Teamsチーム（演習科目）には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

概要

履修目標

卒論準備（アカデミック･シンキング）の基礎理解をおこなう。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

卒論執筆準備のため、学術レポート作成の基礎を理解する。
学術作法にもとづいて、社会科学の疑問をあきらかにする方法を習得する。

授業全体の内容と概要

専門演習ＩABでは、アカデミック・シンキングを学修する。
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。
次の①から④について段階的理解をすすめる。
①学術論文のスタイルを確認する。
　（書く作業のなかで思考を深める、先行研究理解、引用など、学術研究ルールを学ぶ）
②大学教員や研究者が執筆した学術論文を自分の関心にあわせて
　図書情報館レファレンスサービスをうけ取寄せる。
③学術論文、文献を読み、要旨をまとめる。
　社会的事象について、複数文献を精読し、視点、考察方法の違い等を報告する。
④学術論文、文献の読解作業をふまえ、先行研究の批評的思考をおこなう。
　（定義を確認する、比較する、相違点や類似点をみつける ）

授業の方法

社会福祉学科Teams「２０２５年度　専門演習Ｉ履修方法」（２０２５年２月投稿）には、「専門ゼミテーマ、内容一覧」がある。
アカデミック・シンキングのための文献講読は、ゼミメンバー確定後、演習にて選書、決定する。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業科目Teamsを利用する。履修学生はチームメンバーになり、以下のコースパケット利用が可能になる。
コースパケットは、履修学生に必要と思われる以下の教材資料をまとめたものである。

準備学習に必要となる教材（論文コピー、報告書など）、課題（練習問題、レポートの指示と執筆のための参考資料）
授業のなかでは扱いきれなかった、関連文献、補足情報、授業者への相談質問のための案内

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
高校までにうけた支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら、科目サポートを進める。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１０回以上をクリアすること。これは、必要とされる量的基準であるけれども、十分条件ではない。学修は最後まで継続しベストを尽くすことを期待する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	７０%	０%	０%	３０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心のある主題について、信頼性のある情報を整理し、論点を抽出する。	信頼性の高い情報を網羅して調べており、多様な見解を整理している。専攻とそれに関連する領域の先行研究を統合させて、問題背景を的確に説明していた。	信頼性を保ちながら情報を調べており、見解を適切に整理している。専攻領域の代表的な先行研究をふまえながら、問題背景を説明していた。	信頼性のある情報を調べ、いくつかの見解を整理している。自らの専攻について、いくつかの先行研究を確認し、問題背景を設定していた。	インターネット情報の信頼性を理解して文献収集している。大学、研究機関などの資料を収集するが、自らの専攻と先行研究に関する絞込みは十分ではなかった。	インターネット情報の信頼確認の理解が十分ではない。まとめサイト、Wikipediaなど、「いきなり検索」の情報収集にとどまった。
学術論文スタイルを理解して、学術レポートを作成する。	主題、内容、方法はキーワード、学術概念による適切な筋立の構成である。学術論文の引用が明確に示されていた。	キーワード、学術概念をもとにして適切な論点を見出している。引用形式は適切であり、その解釈は文脈をふまえていた。	キーワード、学術概念を用いており、論理的説明の基本はおこなわれている。文献リストの作成、本文の注、引用形式は適切であった。	学術概念に利用、引用、参照文献リストの作成が試みられているが、本文と文献の照合は十分ではなかった。	文章は個人的経験、感想もとづく「素朴理論」である。引用、参照文献のリストが示されていなかった。
ゼミメンバーとして、学術環境を創造していく役割を自覚し、自分と異なる意見を統合させて、学修経験を高めていこうとする、関心･意欲･態度	ゼミメンバーとして、役割と責任を自覚して、積極的、協同的に行動することができた。	ゼミメンバーとしての役割は、おおむね理解しており、他のメンバーに配慮する行動をおこうことができた。	ゼミメンバーとしての役割は、基本的な行動についておこなうことができた。	ゼミメンバーとして自分の役割は、改善の余地はあるが、行動することができた。	ゼミメンバーとして自分の役割を理解すること、主体的な行動はできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＡ （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	社会福祉学科･教授		研究室等所在	1号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　松下　守邦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。Teamsチーム（演習科目）には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						テキストは初回ゼミにて相談決定する。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第３版』	井下千以子	慶応義塾大学出版会	２０１９		
2	『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド』	佐渡島沙織ほか	大修館	２０１５		
3	『コピペと言われないレポートの書き方教室』	山口裕之	新曜社	２０１３		
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション(シラバス、ルーブリック、本科目を修了して「身に付く力」の説明)	シラバス、科目Teamsの確認（４５分）	スケジュールと準備学習の整理（４５分）
2	アカデミック･シンキング基礎１（学術文献の種類）	テキスト資料の読解（４５分）	テキスト、資料の整理（４５分）
3	アカデミック･シンキング基礎２（調べ学習、自由研究、学術研究）	テキスト資料の読解（４５分）	テキスト、資料の整理（４５分）
4	アカデミック･シンキング基礎３（研究不正；捏造、剽窃、ほう助、自己剽窃）	テキスト資料の読解（４５分）	テキスト、資料の整理（４５分）
5	アカデミック･シンキング基礎４（学術倫理；ハラスメント、研究協力者への配慮）	テキスト資料の読解（４５分）	テキスト、資料の整理（４５分）
6	アカデミック･シンキング基礎５	テキスト資料の読解（４５分）	テキスト、資料の整理（４５分）
7	アカデミック･シンキング基礎６	テキスト資料の読解（４５分）	テキスト、資料の整理（４５分）
8	アカデミック･シンキング基礎７	テキスト資料の読解（４５分）	テキスト、資料の整理（４５分）
9	アカデミック･シンキング基礎８	テキスト資料の読解（４５分）	テキスト、資料の整理（４５分）
10	文献講読１（文献の選書、報告割当、レジュメ作成、準備学習）	テキスト資料の読解（４５分）	テキスト、資料の整理（４５分）
11	文献講読２（分担報告）	テキスト資料の読解（４５分）	テキスト文献精読（４５分）
12	文献講読３（分担報告）	テキスト資料の読解（４５分）	テキスト文献精読（４５分）
13	文献講読４（分担報告）	テキスト資料の読解（４５分）	テキスト文献精読（４５分）
14	文献講読５（分担報告）	テキスト資料の読解（４５分）	テキスト文献精読（４５分）
15	文献講読６（分担報告）	テキスト資料の読解（４５分）	テキスト文献精読（４５分）
16	まとめ（授業の総括とフィードバック、本科目を修了して「身に着く力」について検証説明）	テキスト資料の読解（４５分）	次学期への課題設定（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1　（単位認定責任者：　　吉江　幸子　　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

こども・高齢・障害分野に興味関心をもち、文献を調べる方法を理解する。
積極的に意見を出し合い、周囲とのコミュニケーションを図る。
主体的に研究テーマを決め、討論などを通して専門的な知識を深める。
討論、発表を繰り返すことで周囲との意見の違いにも気づき、チームワークの大切さや自分の強みに気付く。

授業の位置づけ

社会福祉学部のDP１、DP２、DP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

・自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。
・個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかんでいる。
・研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。
・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

「専門テーマ：自分発見」に沿った形で資料を活用し、要約の方法などを考察する。
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査等様々な授業形態で実施する。
大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
・吉江ゼミでは、学生の企画立案、実践、事後評価の流れを汲んで積極的参加を求める。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１１回以上とするが全回出席が望ましい。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＡ （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1	（単位認定責任者：　　吉江　幸子　　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（履修により「身に付く力」の説明を含む） ゼミ内容のガイダンスと今後実践したい内容の意見収集	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	ゼミ内の役割分担の話し合い	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
3	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
4	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
5	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
6	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
7	発表と討論・ディスカッション	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
8	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
9	発表と討論・ディスカッション	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
10	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
11	発表と討論・ディスカッション	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
12	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
13	発表と討論・ディスカッション	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
14	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
15	発表と討論・ディスカッション	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
16	総括としての評価・ディスカッション（「身に付く力」の検証）	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＡ （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　西野　克俊　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

ソーシャルワークの基礎知識・基礎技術の習得を図り、自身の考えるテーマを深める。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ1、ＤＰ2、ＤＰ3、ＤＰ4、ＤＰ5に対応する。

到達目標

①福祉の現場や働いている専門職役割を知識として学習する。
②専門職になるために、学ぶ・考える・関わるの基礎を学習する。
③自らの目標達成のために、計画性・実行性を習得する。
④コミュニケーション能力などの向上を図る。

授業全体の内容と概要

①現場のSW話を聞き、現場の様子や現状を知り、それをもとにゼミ内でディスカッションをしながら知識を広げる。
②状況に応じて、現場交流や技術習得を目指すためのボランティア活動への参加。
③個人だけでなくゼミとして専門職として必要と考えられる知識や経験などを検討し、必要な計画を立て実行する。
④終盤には知り得た知識の中で、何か一つテーマを見つけそのテーマに沿った内容を深く掘り下げる。
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義・ゼミナール・実験・製作・見学等様々は授業形態を行う。
質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①２０分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。
②不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＡ （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　西野　克俊　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス、科目を終了して『身に付く力』についての説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	グループワーク①準備	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
3	グループワーク①実施	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
4	グループワーク②準備	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
5	グループワーク②実施	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
6	グループワーク③準備	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
7	グループワーク③実施	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
8	グループワーク④準備	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
9	グループワーク④実施	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
10	グループワーク⑤準備	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
11	グループワーク⑤実施	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
12	グループホーム振り返り	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
13	グループワーク振り返り	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
14	まとめ	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
15	まとめ	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
16	総括 科目を修了して『身に付く力』についての検証	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＡ （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	畠山　明子（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　畠山　明子　）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

専門演習担当各教員の専門分野を中心に、社会福祉学をはじめとする社会科学の方法論を、文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどの教授方法を使用し獲得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、DP２、DP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

・自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。
・個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかんでいる。
・上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。
・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示する「専門テーマ」に沿った形で進められる。
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査等様々は授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。
基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

オリエンテーション時に配布される担当教員のゼミナール紹介を熟読の上、自分の所属を決定すること。「専門演習ＩＡ」に所属した教員が後期の「専門演習ＩＢ」を担当する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できた。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができた。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できた。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できた。	左記の内容が何一つできなかった。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得できた。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できた。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できた。	具体的なレポートを執筆できた。	左記の内容が何一つできなかった。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができた。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができた。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができた。	自分の研究テーマを明確に説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＡ （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	畠山　明子（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　畠山　明子　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	テキスト購読・ディスカッション①	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
3	テキスト購読・ディスカッション②	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
4	テキスト購読・ディスカッション③	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
5	テキスト購読・ディスカッション④	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
6	テキスト購読・ディスカッション⑤	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
7	テキスト購読・ディスカッション⑥	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
8	テキスト購読・ディスカッション⑦	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
9	テキスト購読・ディスカッション⑧	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
10	テキスト購読・ディスカッション⑨	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
11	調査活動準備①	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
12	調査活動準備②	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
13	調査活動準備③	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
14	調査活動準備④	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
15	調査活動準備⑤	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
16	総括 フィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	社会福祉学科・堀川厚志	研究室等所在	堀川研究室（２号館・８階）		
単位数	1　（単位認定責任者：　堀川　厚志　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

特別支援教育、障がいのある子に応じた教育を中心とする関連分野について、教育学、社会福祉学をはじめとする教育科学、社会科学の方法論を文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどの教授方法を使用し獲得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する科目

到達目標

自身の関心のあるテーマを探り、研究を方向付けるために必要な文献・資料・データの活用方法を身につける。
個々の研究テーマを追究するための研究方法に関するノウハウを理解する。
研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
自身の研究内容について、プレゼンテーションによる発表するスキルを身につける。
学友の発表を傾聴し、内容の理解と的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

特別支援教育、障害のある子に応じた教育を中心に、関連する内容や今日的課題について探究、整理、発表、協議を行う。
各自が関心をもつ内容について整理、焦点化などを通して研究の方向付けを行う。
調査研究や文献研究の方法、情報の整理の仕方やまとめ方について、主体的に取り組む。
「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

プレゼンテーション資料等によるテーマの焦点化、調査方法、文献研究の方法について説明する。
フレームワーク等の試行により関心事、文献研究・調査研究内容を焦点化し整理し、随時グループワークを実施する。
プレゼンテーションの発表を通して、調査研究等の報告、情報共有を行う。
質問には随時対応し、各自の調査・収集・整理した内容については、コメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	◯	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

オリエンテーション時に配布される担当教員のゼミナール紹介を熟読の上、所属を決定すること。
「専門演習ＩA」を担当した教員が後期の「専門演習ＩB」を担当する。
特別支援教育、障害のある子に応じた教育を中心に、教育に関連する内容や今日的な課題について、関心をもつ者とする。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
事前相談を受け、学生の希望する修学サポート内容と授業と評価の成立要件等を調整し、修学サポートを実施する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	４０%	０%	５０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	Web、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	Web、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自身の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＡ （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	社会福祉学科・堀川厚志		研究室等所在	堀川研究室（２号館・８階）	
単位数	1	（単位認定責任者：　　堀川　厚志　　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本2020』	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 （活動の目的、方法、年間の活動計画等）	所属研究室選択資料の確認 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
2	障害のある子に対する教育及び各自の関心事、課題等の提起と確認、共有１	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
3	障害のある子に対する教育及び各自の関心事、課題等の提起と確認、共有２	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
4	障害のある子に対する教育及び各自の関心事、課題等の提起と確認、共有３	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
5	障害のある子に対する教育及び各自の関心事、課題等の提起と確認、共有４	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
6	各自関心事を取り巻く今日的課題等の確認、共有１	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
7	各自関心事を取り巻く今日的課題等の確認、共有２	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
8	各自関心事を取り巻く今日的課題等の確認、共有３	予習課題 （４５分）	振り返りの確認 （４５分）
9	各自関心事を取り巻く今日的課題等の確認、共有４	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
10	プレゼン資料による各自関心事を取り巻く今日的課題等の発表、全体共有１	前半の振り返り （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
11	プレゼン資料による各自関心事を取り巻く今日的課題等の発表、全体共有２	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
12	一般的な調査研究、文献研究の方法等の説明 文献研究等の研究デザイン（時期、内容、方法）の立案についての説明等	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
13	各自の追究するテーマ等に関する研究デザインの立案１	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
14	各自の追究するテーマ等に関する研究デザインの立案２ 文献研究の実施１	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
15	各自の追究するテーマ等に関する研究デザインの立案３ 文献研究の実施２	予習課題 （４５分）	全体の振り返りと次年度方針の確認 （４５分）
16	前期の実施内容の振り返り 後期の推進予定の確認	全体の振り返り （４５分）	全体の振り返りと次年度方針の確認 （４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	宮崎　剛司（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階専任講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　宮崎　剛司　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整または各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

・専門演習担当各教員の専門分野を中心に、社会福祉学をはじめとする社会科学の方法論を、文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどの教授方法を使用し獲得する。
・自分の研究テーマを効果的にプレゼンテーションする力を養うとともに、学友の発表を傾聴し、適切な質問を行うスキルを身につける。

授業の位置づけ

社会福祉学部のDP１，DP２，DP３，DP４，DP５に対応する。

到達目標

・自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。
・個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかんでいる。
・上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。
・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示する「専門テーマ」に沿った形で進められる。
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査等様々は授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。
「基本は対面授業の実施」であるが、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

オリエンテーション時に配布される担当教員のゼミナール紹介を熟読の上、自分の所属を決定すること。
「専門演習ＩA」に所属した教員が後期の「専門演習ＩB」を担当する。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＡ （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	宮﨑　剛司（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階専任講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　宮﨑　剛司　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整または各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス（シラバスの説明を含む） 科目を修了して「身に付ける力」の説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業１ 課題演習の進め方について	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
3	担当教員による授業２ 演習などの役割分担・ディスカッション	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
4	担当教員による授業３	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
5	担当教員による授業４	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
6	担当教員による授業５	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
7	担当教員による授業６	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
8	担当教員による授業７	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
9	担当教員による授業８	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
10	担当教員による授業９	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
11	担当教員による授業１０	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
12	担当教員による授業１１	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
13	担当教員による授業１２	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
14	担当教員による授業１３	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
15	担当教員による授業１４	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
16	総括 専門ゼミＩＡのまとめ・発表 科目を修了して「身につける力」の検証 講評をし、フィードバックする	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	蝦名　美穂（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　蝦名　美穂　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち，教育領域，福祉領域，司法・矯正領域，産業領域での臨床経験を踏まえて講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくはチャットにて事前連絡後調整をし，研究室で対応。				

概要

履修目標

臨床心理学の中で興味関心のあることについて文献を調べる方法を理解する。
ゼミ生同士意見を出し合い、コミュニケーションを図る。
主体的に卒業論文のテーマを決め、討論などを通して専門的な知識を深める。
討論、発表を繰り返すことで周囲との意見の違いにも気づき、自らの考えを明確にする。

授業の位置づけ

社会福祉学部のDP１，DP２，DP３，DP４，DP５に対応する科目。

到達目標

・自分の方向性をみつけ、自ら解決できる力をつける。

・個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかんでいる。
・卒業論文の研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。
・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し，的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

『体験格を差』をテーマとして、それに関連するテキストを講読する。
各章の担当を決め，レジュメを作成し発表を行う。テキスト講読後は，卒業論文のテーマを考える。
「SDG4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義・ゼミナール・見学・調査・発表等さまざまな形態が取られる。
したがって，大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
質問は随時対応し，レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft　Teams/Formsの諸機能を活用し，意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

オリエンテーション時に配布される担当教員のゼミナール紹介を熟読の上、自分の所属を決定すること。
「専門演習ＩA」に所属した教員が後期の「専門演習ＩB」を担当する。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
テキストを必ず購入すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け，本学の基本方針及び規程等に基づき，学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	０%	１００%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
提示した課題について情報獲得ツールを駆使できる	ネット，文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき，まとめることができ，さらに自分の学習課題として昇華できる。	ネット，文献検索などのツールを使いこなし，提示された課題についての資料を具体的に掲示でき，まとめることができる。	ネット，文献検索などのツールを使いこなし、掲示された課題についての資料を具体的に掲示できる。	掲示された課題についてネット検索を行い，資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し，その方法に沿って，レポートを執筆でき，そこからさらに研究課題を発見でき，それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆スキルを獲得し，その方法に沿って，レポート執筆でき，さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆スキルを獲得し，その方法に沿って，レポート執筆できる。	具体的なレポートを執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき，他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて，プレゼンを行い，他の学生を納得されることができ，それについてディスカッションができ，且つ，他者の意見と研究を尊重しながら，双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて，プレゼンを行い，他の学生を納得されることができ，それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて，プレゼンを行い，他の学生を納得されることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＡ （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	蝦名　美穂（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　蝦名　美穂　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち，教育領域，福祉領域，司法・矯正領域，産業領域での臨床経験を踏まえて講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくはチャットにて事前連絡後調整をし，研究室で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『体験格差』	今井悠介	講談社現代新書	2024	9784065353639	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス及び科目を修了して「身に付く力」の説明を含む）担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認　（４５分）
2	テキスト講読と発表①	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
3	テキスト講読と発表②	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
4	テキスト講読と発表③	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
5	テキスト講読と発表④	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
6	テキスト講読と発表⑤	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
7	テキスト講読と発表⑥	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
8	テキスト講読と発表⑦	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
9	テキスト講読と発表⑧	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
10	テキスト講読のまとめ①	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
11	卒業論文のテーマを探す①	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
12	卒業論文のテーマを探す②	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
13	卒業論文のテーマに関する文献検索①	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
14	卒業論文のテーマに関する文献検索②	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
15	卒業論文のテーマに関する文献検索③	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
16	総括、講義についてのフィードバック、科目を修了して「身に付く力」の検証	予習課題（４５分）	全体振り返り　（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	吉澤　英里（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　吉澤　英里　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

心理学の視点から、社会福祉学をはじめとする社会科学の方法論を文献研究、調査、実験、ディスカッションなどを通して獲得する。

授業の位置づけ

社会福祉学部のDP１、DP２、DP３、DP４、DP５に対応する科目

到達目標

・自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。
・個々の学生がそれぞれの「研究テーマ」の糸口をつかむ。
・上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。
・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示する「専門テーマ」に沿った形で進められる。
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

心理学の文献を講読し、ディスカッションをする。
質問は随時対応し、レポートへはコメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。
基本は対面授業となるが、不測の事態の際にはオンラインでの授業や補講等を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

オリエンテーション時に配布される担当教員のゼミナール紹介を熟読の上、自分の所属を決定すること。「専門演習ＩA」に所属した教員が後期の「専門演習ＩB」を担当する。
修学サポートについて）事前相談を受け、本学の基本方針及び規定等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題について、情報獲得ツールを駆使して達成できた。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できた。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができた。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できた。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できた。	左記の内容がいずれもできなかった。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得した。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得した。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できた。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できた。	具体的なレポート路執筆できた。	左記の内容がいずれもできなかった。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できた。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができた。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができた。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができた。	自分の研究テーマを明確に説明できた。	左記の内容がいずれもできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＡ （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	吉澤　英里（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　吉澤　英里　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス、科目を修了して「身に付く力」の説明 担当教員によるガイダンス ゼミの運営方針（役割分担）の決定	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業１（グループワーク）	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
3	担当教員による授業２（グループワーク）	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
4	担当教員による授業３（グループワーク）	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
5	担当教員による授業４（グループワーク）	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
6	担当教員による授業５（グループワーク）	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
7	担当教員による授業６（グループワーク）	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
8	担当教員による授業７（グループワーク）	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
9	担当教員による授業８（グループワーク）	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
10	担当教員による授業９（グループワーク）	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
11	担当教員による授業１０（グループワーク）	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
12	担当教員による授業１１（グループワーク）	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
13	担当教員による授業１２（グループワーク）	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
14	担当教員による授業１３（グループワーク）	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
15	担当教員による授業１４（グループワーク）	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
16	これまでの総括　科目を修了して「身に付く力」の検証 各学生の研究進捗状況に対する個別のフィードバック	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習,実習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ （科目ナンバリング：DES211016　　）				
授業担当者 （所属・職名）	林　春生（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　林　春生　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	国際企業でデザイン実務40年間の実績を活かした基礎デザイン講義です。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

デザイナーになる為に必要な基礎デザインの技術を習得する。
頭の中に形を形成出来るようにして、そのイメージを第三者へ伝達、表現出来るようにする。
また、自己レベル認識を持てるようにする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

モノの形を正確に認識出来、脳内に形を形成出来るようにして、自分のイメージや意図を第三者に伝えられる事ができる。

授業全体の内容と概要

学生の脳内に形が形成出来るように、色々な製品の鉛筆スケッチを行う。自分の想像（脳内のイメージ）スケッチを
行う。完成した作品は自分の意図したポイントを発表して第三者と意見交流をする。
SDG 12.,つくる責任、つかう責任に準じる。

授業の方法

身の回りにある製品やイメージしたものを鉛筆を使ってデザインスケッチする。自分の作品の意図したところを
プレゼンテーションして第三者の意見を考察する。課題に対するフィードバックを得る。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業は積み重ねの学習となる為、欠席しないようにすること。
三菱鉛筆のハイユニの4H～4Bを使って、A3ケント紙に鉛筆スケッチする。
A3サイズの課題を持ち帰る為にカルトンが必要。鉛筆と消しゴム、カルトンを用意してください。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術・工芸）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は10回以上
課題提出は全点必ず。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	20%	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
形を正確に捉え（パース）、頭の中に形成出来て、それを紙に表現する事を学ぶ。	モノの形を正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として完璧に表現できる。	モノの形を正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として上手に表現できる。	モノの形を正確に捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として表現できる。	モノの形を捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として辛うじて表現できる。	モノの形を捉えられない、頭の中に描くことが出来ない。それを絵として表現出来ない。
材質を正確に捉え、頭の中に形成出来て、それを紙に表現する事を学ぶ。	材質感を正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として完璧に表現できる。	材質感を正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として上手に表現できる。	材質感を正確に捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として表現できる。	材質感を捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として辛うじて表現できる。	材質感を捉えられない、頭の中に描くことが出来ない。それを絵として表現出来ない。
架空のモノを頭の中に造り上げ、手を通して紙に表現する事を学ぶ。	想像物を正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として完璧に表現できる。	想像物を正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として上手に表現できる。	想像物を正確に捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として表現できる。	想像物を捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として辛うじて表現できる。	想像物を捉えられない、頭の中に描くことが出来ない。それを絵として表現出来ない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習,実習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ （科目ナンバリング：DES211016　　）				
授業担当者 （所属・職名）	林　春生（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2	（単位認定責任者：　林　春生　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	国際企業でデザイン実務40年間の実績を活かした基礎デザイン講義です。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、デザインとは？ 授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して『身に付く力』についての説明 基本形1　鉛筆デザインスケッチ	シラバスを読んでおく。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
2	基本形1　鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
3	想像形1　鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
4	想像形1　鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
5	基本形２　鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
6	基本形２　鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
7	想像形２　鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
8	想像形２　鉛筆デザインスケッチプレゼンテーション	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
9	基本形３鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
10	基本形３鉛筆デザインスケッチ、想像形３鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
11	想像形３鉛筆デザインスケッチ、プレゼンテーション	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
12	基本形４鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
13	基本形４鉛筆デザインスケッチ、想像形４鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
14	想像形４鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
15	想像形４鉛筆デザインスケッチ、プレゼンテーション	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
16	デザイン概念 総評　授業に係る講評・解説によるフィードバック。科目を修了して『身に付く力』についての検証。 授業改善アンケート	要求された課題を作成する。（90分）	全授業を俯瞰して、今後の行動計画を建てる。（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	3年生		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ＩA （科目ナンバリング：SEM233088　　）				
授業担当者 （所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2　（単位認定責任者：　北嶋　洋一　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイナーの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインの実践指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

現代社会における視覚情報伝達メディアに於いて、デザインによる問題解決能力を高めることを目標とする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

本授業に於いては、現代社会に於いて必要とされるであろう各種視覚情報メディアについて、その知識と技術を幅広く学び、実践を想定したシミュレーションが可能な能力を身に付ける。

授業全体の内容と概要

特定の情報を社会に提供する手段として適切なメディアを単体もしくは複数選択し、それを効果的に運用できるよう企画・設計段階を重視したデザインワークを行う。
「ＳＤＧ９．産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連授業。

授業の方法

始めに情報メディアデザインを正しく認識させるための事前学習と共に年間計画を作成する。
次に単体のメディア、後半ではメディアミックスによる企画をプレゼンテーションするためのツールを段階的に構想し、制作し、発表する。
各種メディアや情報形態に関しての調査・取材は必要に応じて必ず行い企画内で報告させる。
制作中における技術的な指導は個別に行い、質問については随時対応する。
授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。
不測時の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

自主的な対外的な活動を多く求められるためフットワークと積極的なコミュニケーションが求められる。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は２０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能　「視覚情報伝達を分野として正しく認識できている」	提出された課題が視覚情報伝達を主体とした内容であり、知識と技術両面の向上を意識したものになっている。	提出された課題が視覚情報伝達を主体とした内容であり、知識又は技術のいずれかの向上を意識したものになっている。	提出された課題が視覚情報伝達を主体とした内容である。	提出された課題の視覚情報伝達に関する内容が不十分である。	提出された課題が視覚情報伝達に関した内容になっていない。
思考力・判断力・表現力「視覚情報伝達の分野としての特性を踏まえた作品制作が行える」	提出された課題が効果的な視覚効果を考え、技術や演出を取り入れた内容のプレゼンテーションとして成功している。	提出された課題が効果的な視覚効果を考え、技術や演出を取り入れた内容のプレゼンテーションである。	提出された課題は効果的な視覚効果を考え、技術や演出を取り入れた内容のプレゼンテーションではあるが成功してはいない。	提出された課題に視覚効果に対する意識が希薄であり、プレゼンテーションとして不完全である。	提出された課題に視覚効果に対する意識が殆ど見られず、プレゼンテーションとして成立していない。
主体性・多様性・協働性「視覚情報伝達の分野としての特性を基にしたメディアの構築を行い、プレゼンテーションを行える」	完成提出された課題を基に効果的なプレゼンテーションが行えている。	完成提出された課題を基にプレゼンテーションが行えている。	完成提出された課題とプレゼンテーションの融合が不完全である。	完成提出された課題とプレゼンテーションの内容が分離している。	完成提出された課題によるプレゼンテーションができない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	3年生		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ＩＡ （科目ナンバリング：SEM233088　　）				
授業担当者 （所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　北嶋　洋一　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイナーの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインの実践指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスの確認。（４５分）	研究テーマの試案。（４５分）
2	ガイダンス 研究室の方針について	シラバスの確認。（４５分）	研究テーマの試案。（４５分）
3	年間計画（前期）の作成	研究テーマの試案。（４５分）	年間計画の試案。（４５分）
4	年間計画（前期）の提出と添削	年間計画の試案。（４５分）	年間計画の試案。（４５分）
5	年間計画（前期）修正版の完成提出	年間計画の試案。（４５分）	年間計画の完成。（４５分）
6	研究テーマの発表①	発表準備。（４５分）	研究テーマの考察。（４５分）
7	研究テーマの発表②	発表準備。（４５分）	研究テーマの考察。（４５分）
8	具体的な研究内容の提出①	提出準備。（４５分）	進行確認。（４５分）
9	具体的な研究内容の提出②	提出準備。（４５分）	進行確認。（４５分）
10	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
11	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
12	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
13	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
14	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
15	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
16	研究内容の中間発表①	発表準備。（４５分）	研究内容の考察。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	研究内容の中間発表①	発表準備。（４５分）	研究内容の考察。（４５分）
18	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
19	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
20	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
21	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
22	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
23	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
24	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
25	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
26	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
27	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
28	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
29	研究内容の中間発表②	発表準備（４５分）	研究内容の考察。（４５分）
30	研究内容の中間発表②	発表準備（４５分）	研究内容の考察。（４５分）
31	前期研究内容のフィードバック 後期の研究についての確認	前期研究内容のまとめ（４５分）	後期研究のための準備（４５分）
32	授業改善アンケート記入 科目を修了して『身に付く力』についての検証	前期研究内容のまとめ（４５分）	後期研究のための準備（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ＩA （科目ナンバリング：SEM233088　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安田祐造(デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館1階	
単位数	2　（単位認定責任者：　安田祐造　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画業50年余、コンクール等での多くの入選・受賞、100回以上の個展等の開催、公募展での審査員歴任等		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

1,2年次に身につけた基礎的な素養を礎に、各々の履修者の感性や思いを作品に展開すること。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP１、DP２、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

基礎的な素養を礎に、各々の履修者の感性や思いを表現力のある作品として示すこと。

授業全体の内容と概要

基礎的な点についての復習を行いながら、各々の履修者の感性や思いを表現するに最も相応しい技法や材料について模索し作品にまとめ上げること。また、それらの作品を外部に発表し、第三者による評価を受け、各々のそれからの制作の糧とすること。

授業の方法

各々の履修者が表現したいものを絵画をとおして制作し表現する実技形式の授業、あらかじめ個々の履修者との意思疎通を密にし、作品創りについての構想段階からアドヴァイスを的確に行う。次の私のホームページに掲載している絵画創作に関するものは、学生たちに大いに閲覧して活用してもらいたい。
http://www5f.biglobe.ne.jp/~yyasuda/access.html
http://www5f.biglobe.ne.jp/~yyasuda/custom.html

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

絵が好きな人、自らの理想や願いを絵をとおして表現し、それを自己実現につなげようとする意欲のある人。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は22回以上とするも、何より作者の思いが十分に反映された作品を創り上げること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	70%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
構想について	社会状況を把握し自らの願いや理想について充分に表現できている。	社会状況を把握し自らの願いや理想についてほぼ表現できている。	社会状況を把握し自らの願いや理想についてある程度に表現できている。	社会状況を把握し自らの願いや理想について、不充分ながら表現できている。	社会状況を把握して居ず自らの願いや理想について表現できていない。
技法や材料について	自らの表現意図に応じた技法や材料を充分に的確に選択した制作をしている。	自らの表現意図に応じた技法や材料をほぼ的確に選択した制作をしている。	自らの表現意図に応じた技法や材料をある程度に的確に選択した制作をしている。	自らの表現意図に応じた技法や材料を的確というには難があるものの自らの判断で選択した制作をしている。	自らの表現意図に応じた技法や材料を的確に選択した制作をしていない。
面や立体感や空間感等について	面や立体感や空間感等を充分に捉えて制作している。	面や立体感や空間感等をほぼ充分に捉えて制作している。	面や立体感や空間感等をある程度に充分に捉えて制作している。	面や立体感や空間感等を、不充分ながら捉えて制作している。	面や立体感や空間感等を捉えて制作していない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ＩＡ （科目ナンバリング：SEM233088　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安田祐造(デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館1階	
単位数	2	（単位認定責任者：　　安田祐造　　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画業50年余、コンクール等での多くの入選・受賞、100回以上の個展等の開催、公募展での審査員歴任等		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション―授業の進め方について、シラバスの説明、科目を修了して『身に付く力』についての説明	予めシラバスに目をとおす。(45分)	1,2年次までに修得した技法や材料等について復習する。(45分)
2	作品の構想の練り方について	構想の練り方について、他者の方法を参照し、予め学習する。(45分)	本時の授業での講義も参照し構想の方法を検討する。(45分)
3	構想の取りまとめについて―大きさや形を主に	表現の意図に照らし相応しい支持体の大きさとかたちについても検討する。	本時の授業での講義も参照し支持体の大きさとかたちについて確定する(45分)
4	構想の取りまとめについて―構図を主に	構図について、他者の方法を参照し、予め学習する。(45分)	本時の授業での講義も参照し、構図についても検討する。
5	構想の取りまとめについて―色彩調和を主に	表現の意図に照らし、色の感情について、他者の作品を参照するなどして、予め学習する。(45分)	本時の授業での講義も参照し、表現の意図に相応しい配色を検討する。(45分)
6	構想の取りまとめについて―質感を主に	質感の表現法について、他者の方法を参照し、予め学習する。(45分)	様々の情報をもとに、自らの作品の構想を取りまとめる。(45分)
7	転写の仕方について	構想を下絵として取りまとめ、転写の方法について、他者の方法を参照しながら、最も相応しいものを検討する。(45分)	本時の授業での講義も参照し、転写の方法についても検討する。(45分)
8	転写作業について	転写に必要な用材をあらかじめ準備する。(45分)	本時の授業での作業に不備がないかを点検する。(45分)
9	転写作業の仕上げについて	前時の授業での作業に不備がないかを点検し、あればその箇所を明確化する。(45分)	本時の授業で終えた転写作業に不備がないかを点検する。(45分)
10	下描きの仕方について	表現の意図に照らし、最も相応しい用材を予め用意する。(45分)	本時の授業での講義も参照し、自らの制作に最も相応しい下描きの方法を検討する。(45分)
11	下描き―大まかな面の把握を主に	大づかみの描写、面の把握について、他者の作品を参照し、予め学習する。(45分)	細部にこだわり過ぎていないか、作品の骨格が捉えられているかを点検する。(45分)
12	下描き―立体感や空間感の表現を主に	立体感や空間感の表現について、他者の作品を参照し、予め学習する。(45分)	立体感や空間感の表現について、不備がないかを点検する。(45分)
13	下描き―本描きに及ぼす効果を主に	絵画は、いくつもの絵具の層によって形成され、下層が上層に影響を及ぼす点について、他者の作品を参照して、予め学習する。(45分)	下描きに用いた絵具が、本描きの絵具の層に及ぼす影響を勘案し、自作について点検する。(45分)
14	下描き―本描きに及ぼす効果－とりわけ色彩を主に	それぞれの絵具の被覆力や透明性について、予め学習する。(45分)	本時の授業での講義も参照し、上描きに用いる絵具について検討する。(45分)
15	下描き―本描きに及ぼす効果－とりわけ質感を主に	絵具の粘度や厚みや筆触等による質感表現について、他者の作品を参照し、予め学習する。(45分)	本時の授業での講義も参照し、自らの制作での質感表現について計画を立てる。(45分)
16	下描き―仕上げ	下描きの本描きに及ぼす影響を総合的に考え下描きの仕上げに備える。(45分)	下描きを上描きにどのように活かすかについて計画を立てる。(45分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	中間発表会1	教師や他の学生から、どの点についてのアドヴァイスを受けたいかを予め検討する。(45分)	教師や他の学生からのアドヴァイスを参照し、これからの制作にどのようにそれらを反映させるかについて計画を立てる。(45分)
18	本描き―立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながら―大まかな面の把握を主に1	絵具の被覆力や透明性を勘案し自らの表現意図に相応しい絵具を予め用意する。(45分)	本時の授業での制作を振り返り足りない箇所や過剰な個所がないかを点検する。(45分)
19	本描き―立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながら―大まかな面の把握を主に2	細部にこだわることなく、大きな骨格を捉えることについて、他者の作品を参照するなどして、予め学習する。(45分)	本時の授業での制作を振り返り足りない箇所や過剰な個所がないかを点検する。(45分)
20	本描き―立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながら―大まかな面の把握を主に3	それぞれの面の明度と相互の差のもたらす効果について、他者の作品を参照するなどして、予め学習する。(45分)	それぞれの面の明度とそれら相互の差ーコントラストーについて点検する。(45分)
21	本描き―立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながら―大まかな面の把握を主に4	色価ーヴァルールーについて、他者の作品を参照するなどして、予め学習する。(45分)	画面に飛び出て見える箇所がないか、穴が開いて見える箇所がないかについて点検する。(45分)
22	本描きー立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながら―大まかな面の把握を主に5	それぞれのモティーフの前後関係や隔たり感が的確に表現されつつあるかを点検する。(45分)	本時の授業での制作を振り返り足りない箇所や過剰な個所がないかを点検する。(45分)
23	本描きー立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながら―大まかな面の把握を主に6	下層の絵具の効果を勘案しつつ色彩調和を高めるために、他者の作品を参照し、予め学習する。(45分)	本時の授業までの制作を総合的な観点から振り返る。(45分)
24	中間発表会2	教師や他の学生から、どの点についてのアドヴァイスを受けたいかを予め検討する。(45分)	他者からのアドヴァイスを参照し、これまでの制作についての問題点を明確化する。(45分)
25	本描きー立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながら―細部の描出を主に1	他の技法も取り入れた混合技法について、他者の作品を参照して、予め学習する。(45分)	技法だけでなく、絵具の濃度や展色剤に手を入れる方法についても学習する。(45分)
26	本描き立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながらー細部の描出を主に2	べた塗り、点描、ハッチング等の筆触―タッチーについても他者の作品を参照して、予め学習する。(45分)	質感を表現する上で、筆触や絵具の厚み等の及ぼす効果について検討する。(45分)
27	本描き立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながらー細部の描出を主に3	仕上げまでの残り僅かな間、総合的な観点から制作の進捗を検討する。(45分)	不備な個所や過剰な箇所は、気づき次第に修正する。(45分)
28	本描き立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながらー細部の描出を主に4	仕上げまでの残り僅かな間、総合的な観点から制作の進捗を検討する。(45分)	不備な箇所や過剰な箇所は、気づき次第に修正する。(45分)
29	本描き立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながらー細部の描出を主に5	作品に込めたものを表現できつつあるかを点検する(45分)	表現の意図をゆがめたり阻害したりする箇所の有無を点検する。(45分)
30	本描き立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながらー細部の描出を主に6	作品に込めたものを表現するうえでやり残した点はないかを点検する。(45分)	本時の授業までの制作を総合的な観点から振り返る。(45分)
31	合評会1	教師や他の学生から、どの点についてのアドヴァイスを受けたいかを予め検討する。(45分)	他者からのアドヴァイスを参照し、これまでの制作についての問題点を明確化する。(45分)
32	合評会2、科目を修了して『身に付く力』についての検証、そしてこれまでの取り組みをもとに、今後の学生たちの制作や生き方にフィードバックさせる。	絵画作品を制作することの意義について感がる。(45分)	他の学生たちのそれぞれの作品の良さについて、また、自らの作品とこれまでの制作について文章化する。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	3年生		
開講時期	前期集中	授業形態	実習	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ＩA （科目ナンバリング：SEM233088　　）				
授業担当者 （所属・職名）	林　春生（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2　（単位認定責任者：　林　春生　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	ソニー株式会社＿デザインセンター30年 サムスン電子　デザイン顧問　6年 個人デザイン事務所　3年 国際企業にて経験した実績を持って、プロダクトデザインの技術を教え、モノづくり関係に		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

プロダクトデザイナーに成る事

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2,DP3、DP4に対応する。

到達目標

プロダクトデザイナーとしてモノの本質を見極める力、問題点や改善点を探求する力、それらを見直して自らオリジナルの解答（デザイン）を創造できる力、自分のデザインを第三者に伝える力を身に着ける。

授業全体の内容と概要

現状の問題点摘出の為、マーケットリサーチを行い、気づき、切り口を持って、オリジナルのデザインを行う。それらを第三者に伝えるプレゼンテーション方法を身に着ける。第三者からのフィードバックを受けて、更にデザイン改良を行う。
写真機材も使用して表現を拡げる。
自分のアイデアを効果的に表現できる技術を身に着ける。

授業の方法

各種マーカー、PMパッドA3,鉛筆、色鉛筆、サインペン、白鉛筆、PC（フォトショップ、イラストレーター）ICT利用。
写真機材

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位取得の為の最低出席回数は22回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
市場及び気づきから問題点を見つけられる。	市場やオリジナルな気づきから貴重な問題定義ができた。	市場や気づきから問題定義ができた。	市場や気づきから問題定義がほぼできた。	市場から問題定義が少しできた。	市場や気づきから問題定義が出来なかった
問題点の解決方法を考えられた。	問題点を完璧に解決し、従来より価値を新たに与えられた。	問題点を解決し、従来より価値を新たに与えられた。	問題点を解決し、価値を新たに与えられた。	問題点を解決した。	問題点を解決できなかった。
第三者に自分のデザインを正しく伝える事が出来る。	第三者に自分のデザインを効果的に伝える事が出来、価値観を認識させた。	第三者に自分のデザインを充分に伝える事が出来、価値観を認識させた。	第三者に自分のデザインを伝える事が出来た。価値観を伝えた。	自分のデザインを伝える事が出来た。	自分のデザインを伝える事が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	3年生		
開講時期	前期集中	授業形態	実習	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ＩＡ （科目ナンバリング：SEM233088　　）				
授業担当者 （所属・職名）	林　春生（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2	（単位認定責任者：　林　春生　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	ソニー株式会社　デザインセンター30年 サムスン電子　デザイン顧問　6年 個人デザイン事務所　3年 国際企業にて経験した実績を持って、プロダクトデザインの技術を教え、モノづくり関係に		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　授業改善アンケート結果反映の説明。 科目を修了して『身に付く力』についての説明。 課題の発表、市場調査	シラバスを読んでおく。デザインとは調べておく。（４５分）	市場調査を行う。（４５分）
2	グループに分かれて、市場調査、まとめ	市場調査を行う。（４５分）	市場調査を行う。（４５分）
3	市場で何が起こっているか、流行や傾向はどうか調べてチャート表を作成する。	市場調査を行う。（４５分）	市場調査を行う。（４５分）
4	市場調査から自分なりの仮説を立てる	市場調査を行う。（４５分）	市場調査を行う。（４５分）
5	仮説が正しいか、グループでまとめる	仮説をまとめる。（４５分）	仮説をまとめる。（４５分）
6	グループごとに発表。第三者から意見を頂く。	グループ意見まとめ。（４５分）	第三者からの意見を考察する。（４５分）
7	仮説を修正し、まとめる。そこから独自のアイデアを考察する。	第三者からの意見を考察する。（４５分）	アイデアを考察。（４５分）
8	デザインスケッチ	アイデアを考察。（４５分）	アイデアを考察。（４５分）
9	デザインスケッチ	アイデアを考察。（４５分）	アイデアを考察。（４５分）
10	デザインスケッチ	アイデアを考察。（４５分）	アイデアを考察。（４５分）
11	デザインを一旦まとめてみる。	アイデアを考察。（４５分）	アイデアを考察。（４５分）
12	デザインプレゼンテーション１	アイデアを考察。（４５分）	第三者からの意見を取り入れる。（４５分）
13	デザインスケッチ	第三者からの意見を取り入れる。（４５分）	アイデアを考察。（４５分）
14	デザインスケッチ	アイデアを考察。（４５分）	アイデアを考察。（４５分）
15	デザインスケッチ	アイデアを考察。（４５分）	アイデアを考察。（４５分）
16	デザインプレゼンテーション２	アイデアを考察。（４５分）	第三者の意見を考察。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	デザインスケッチ	第三者の意見を考察。（４５分）	第三者の意見を考察。（４５分）
18	デザインスケッチ	第三者の意見を考察。（４５分）	アイデアを構築。（４５分）
19	デザインスケッチ	アイデアを構築。（４５分）	アイデアを構築。（４５分）
20	レンダリングスタート	プレゼンボードの構成を考える。（４５分）	プレゼンボードの構成を考える。（４５分）
21	レンダリング	プレゼンボードの構成を考える。（４５分）	プレゼンボードの構成を考える。（４５分）分
22	レンダリング	プレゼンボードの構成を考える。（４５分）	プレゼンボードの構成を考える。（４５分）分
23	レンダリング	プレゼンボードの構成を考える。（４５分）	プレゼンボードの構成を考える。（４５分）
24	プレゼンパネル作成	プレゼンボードの構成を考える。（４５分）	プレゼンボードの構成を考える。（４５分）
25	プレゼンパネル作成	プレゼンボードの構成を考える。（４５分）	プレゼンボードの構成を考える。（４５分）
26	プレゼンパネル作成	プレゼンボードの構成を考える。（４５分）	プレゼンボードの構成を考える。（４５分）
27	プレゼンパネル作成	プレゼンボードの構成を考える。（４５分）	プレゼンボードの構成を考える。（４５分）
28	プレゼンパネル作成	プレゼンボードの構成を考える。（４５分）	プレゼンボードの構成を考える。（４５分）
29	プレゼンテーション	まとめ（４５分）	まとめ（４５分）
30	プレゼンテーション	まとめ（４５分）	まとめ（４５分）
31	プレゼンテーション、バックアップ	まとめ（４５分）	第三者の意見を聞く、まとめる（４５分）
32	総評　授業に係る講評・解説によるフィードバック。科目を修了して『身に付く力』についての検証。 授業改善アンケート記入	まとめ（４５分）	振り返りまとめ（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ＩＡ （科目ナンバリング：SEM233088　　）				
授業担当者 （所属・職名）	梅田　力（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	アトリエ棟２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　梅田　力　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。また、展覧会活動を通じて、作品をどう見せるかも指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標
制作活動を通じて、問いを見つけ、探求していく力を身につける。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標
自律して制作を行う事が出来る。

授業全体の内容と概要
彫刻及び現代美術の領域で、実践主導型の研究を行う。制作活動を通じ、問いを見つける力、探求する方法、表現技法、自律した制作活動の確立を目指す。専門研究１Aでは、特に自らスケジュールを管理して、制作を行う事が目標である。

授業の方法
学生の主体的な制作活動を軸に、チュートリアルによるフィードバックを指導の基本とする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項
材料は基本的に自分で用意する事。特殊な機械や設備等は危険が伴う場合があるので、必ず教員の指示に従う事。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件
単位認定に必要となる最低出席回数は２０回以上。
研究ノートを提出する事。
作品を１点以上完成させる事。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	５０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
技法の修得	表現技法について自ら調べ、試す事が出来た。基礎的な技法を２つ、または１つをより深く修得した。	表現技法について自ら調べ、試す事が出来た。基礎的な技法を１つ修得した。	表現技法について自ら調べ、試す事が出来た。基礎的な技法を１つ修得した。	表現技法について自ら調べ、試す事が出来た。	表現技法について自ら調べ、試す事が出来なかった。
先行研究とテーマの設定	先行研究を重ね、自分が探求したいテーマの方向性が見えた。	先行研究を重ね、自分が探求したい方向性について考えた。	先行研究を重ねた。	先行研究をした	先行研究が出来なかった。
自律した制作活動	自らスケジュールを立てて、目安として平均週２回（８時間）以上、自主制作や先行研究ができた。	自らスケジュールを立てて、目安として平均週１回（４時間）以上、自主制作や先行研究ができた。	自らスケジュールを立てて、自主制作や先行研究ができた。	時々自発的に制作や先行研究ができた。	自らスケジュールを立てられず、自主制作や先行研究ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ＩＡ （科目ナンバリング：SEM233088　　）				
授業担当者 （所属・職名）	梅田　力（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	アトリエ棟２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　梅田　力　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。また、展覧会活動を通じて、作品をどう見せるかも指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ゼミ活動について、先行研究について、シラバスの説明	シラバスをよく読んでおく事（４５分）	チュートリアル準備（４５分）
2	活動計画	チュートリアル準備（４５分）	面談結果をまとめる事（４５分）
3	チュートリアル１	チュートリアル準備（４５分）	面談結果をまとめる事（４５分）
4	チュートリアル１	チュートリアル準備（４５分）	面談結果をまとめる事（４５分）
5	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
6	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
7	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
8	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
9	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
10	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
11	チュートリアル２	チュートリアル準備（４５分）	面談結果をまとめる事（４５分）
12	チュートリアル２	チュートリアル準備（４５分）	面談結果をまとめる事（４５分）
13	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
14	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
15	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
16	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
18	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
19	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
20	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
21	チュートリアル３	チュートリアル準備（４５分）	面談結果をまとめる事（４５分）
22	チュートリアル３	チュートリアル準備（４５分）	面談結果をまとめる事（４５分）
23	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
24	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
25	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
26	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
27	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
28	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
29	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
30	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
31	プレゼンテーション	プレゼンテーション準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
32	プレゼンテーション	プレゼンテーション準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ＩA （科目ナンバリング：SEM233088　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三上　いずみ（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　三上　いずみ　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	漫画家として出版経験のある教員がその経験を活かして作品制作を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

研究や制作活動において、自らのアイデンティティや個性を積極的に取り入れるスキルを身につける。
適切な研究方法やアプローチを習得し、自己のテーマについて深く探究する姿勢を確立する。
自己表現、批評の受け入れ、プレゼンテーション能力、およびキャリアのための準備を含むプロフェッショナルな基礎力を高める。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する科目

到達目標

卒業制作を通じて、自己の個性を活かした独自の作品を制作する。
自らのテーマについて深く探究し、その成果を作品や研究として提示する。
卒業制作を通じて得た興味や能力を認識し、将来のキャリアに活かす準備を整える。

授業全体の内容と概要

基礎的なデザインやコンセプトの構築を学ぶ。まず自己の興味・関心を深く掘り下げ、テーマを設定するスキルを養成する。
初歩的なリサーチ手法を学び、作品のアイデアの具体化を目指す。
テーマの選定、リサーチ方法の導入、簡単な作品制作。

授業の方法

授業はパワーポイントとTeamsを利用して構成し、視覚的な教材を活かして進行する。
アナログとデジタルの両方の制作過程に対応し、学生の多様な表現方法をサポートする。
個別指導に加え、学生同士も積極的にグループワークやディスカッションを行い、相互に作品を向上させる機会を提供する。
学生の研究の方向性を明確にするため、フィールドワークを組み込み、現場からのインスピレーションを得ることを推奨する
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業を有意義にするための自覚を求める。
自己発見と制作の場として、自分の興味に基づいた活動に積極的に取り組むこと。
責任を持って作品制作に臨み、授業や自主的な学習を通じてスキルを高め、創造的で実りある活動を心掛けること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

最低出席回数は８割以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	８０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基本的知識の修得	自ら率先し知識を修得し、十分理解できた。	基本的な知識を理解できた。	基本的な知識を概ね、理解できた。	基本的な知識を最低限理解できた。	基本的な知識を理解できなかった。
基本的な技能、技術の修得	自ら率先し技能、技術を十分修得解できた。	基本的な技能、技術を習得できた。	基本的な技能、技術を概ね修得できた。	基本的な技能、技術を最低限修得できた。	基本的な技能、技術を修得できなかった。
作品の制作・研究	自ら率先し作品制作・研究に取り組み、学んだ知識、技能を十分活かした。	作品制作・研究に取り組み、学んだ知識、技能を活かした。	作品制作・研究に取り組み、学んだ知識、技能を最低限活かした	作品制作・研究に取り組んだ。	作品制作・研究に取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ＩＡ （科目ナンバリング：SEM233088　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三上　いずみ（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　三上　いずみ　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	漫画家として出版経験のある教員がその経験を活かして作品制作を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明・「身に付く力」について 授業概要の説明 研究倫理とコンプライアンスについて	シラバスを呼んでおくこと（４５分）	配布資料の確認　（４５分）
2	自己分析に基づくテーマ選定	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
3	自己分析に基づくテーマ選定	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
4	自己分析に基づくテーマ選定	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
5	リサーチ	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
6	リサーチ	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
7	リサーチ	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
8	リサーチ	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
9	リサーチ結果に基づくアイデアスケッチの作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
10	リサーチ結果に基づくアイデアスケッチの作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
11	リサーチ結果に基づくアイデアスケッチの作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
12	リサーチ結果に基づくアイデアスケッチの作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
13	初期作品制作の開始、フィードバックを受けた改良	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
14	初期作品制作の開始、フィードバックを受けた改良	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
15	初期作品制作の開始、フィードバックを受けた改良	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	制作の振り返り（４５分）
16	初期作品制作の開始、フィードバックを受けた改良	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	制作の振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	中間レビューの準備	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
18	中間レビューの準備	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
19	中間レビューの準備	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
20	中間レビューの準備	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
21	フィードバックを元にした作品の改良	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
22	フィードバックを元にした作品の改良	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
23	フィードバックを元にした作品の改良	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
24	フィードバックを元にした作品の改良	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
25	作品の最終段階への仕上げと完成	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
26	作品の最終段階への仕上げと完成	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
27	作品の最終段階への仕上げと完成	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
28	作品の最終段階への仕上げと完成	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
29	最終プレゼンテーション準備と発表、振り返り	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
30	最終プレゼンテーション準備と発表、振り返り	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	完成後の考察（４５分）
31	最終プレゼンテーション準備と発表、振り返り	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	制作の振り返り（４５分）
32	講評、授業アンケート実施 「身に付く力」の検証	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	全体を振り返り、まとめる（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ＩA （科目ナンバリング：SEM233088　　）				
授業担当者 （所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2　（単位認定責任者：　竹内　美帆　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	マンガ研究者として論文執筆や展覧会実施などの経験を持つ教員が実務経験を生かして授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学術研究に必要な基礎的な知識や表現技術・方法を、文献講読、調査、ディスカッション等実践的な演習によって学ぶ。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

自分の研究テーマに関する専門用語などの知識や、研究を進めるための基礎的な学力（作品分析能力、資料調査能力など）を身につける。
自分の興味関心から研究テーマを深め、研究計画を作成する力を身に着ける。
個人発表やディスカッションなどを通して、自分の考えを適切に他者に伝える表現力を身につける。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示する「専門テーマ」に沿った形で進められる。
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連授業

授業の方法

授業では文献講読やグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどを行う。
授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点･質問は､チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

その他のデザイン学科のゼミとは異なり、卒業論文執筆を目指す学生のためのゼミである。オリエンテーション時の説明を聞いたうえで、事前の面談により所属を決定する。
研究内容に合わせて、講読する文献を選び分析・調査方法の検討を行う。
自ら行う資料調査では、図書館などの機関を積極的に利用すること。
個人発表では、自らの研究テーマについて短い時間でプレゼンテーションを行う。授業内でグループワークやディスカッションなどを行うので、積極的に参加すること。
授業の内容は、集まった参加者の興味・関心等に合わせ適宜変更する可能性がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、２２回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	３０%	０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究計画の作成	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自の視点からテーマを考察し、研究計画を作成できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分なりの研究計画を作成できた。	研究計画を作成することができた。	研究計画を作成することができなかった。
文献や資料の調査・活用	授業で取り上げた資料を越えて、独自性のある調査や分析ができた。	授業で取り上げた資料を越えて、必要な調査や分析ができた。	授業で取り上げた資料を理解し活用できた。	授業で取り上げた資料を理解できた。	授業で取り上げた資料の理解・活用が不十分だった。
表現力（論文執筆能力とコミュニケーション能力）	授業で学んだことを超えて、自分の視点について他者に伝わりやすく述べ、他者と積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の視点を提示し、積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の意見を記述し他者と意見交換をすることができた。	促されれば自分の意見や考えを述べることができた。	授業内で自分の意見を述べられなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ＩＡ （科目ナンバリング：SEM233088　　）				
授業担当者 （所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2　（単位認定責任者：　竹内　美帆　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	マンガ研究者として論文執筆や展覧会実施などの経験を持つ教員が実務経験を生かして授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『文学・芸術は何のためにあるのか？』	吉岡洋、岡田暁生編	東信堂	2009	978-4-88713-894-0	
2	『マンガ・アニメで論文・レポートを書く』	山田奨治	ミネルヴァ書房	2017	9784623079421	
3	『マンガ・スタディーズ』	吉村和真、ジャクリーヌ・ベルント編	人文書院	2020	9784409001134	
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　オリエンテーション　自己紹介など 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
2	研究計画（１）：テーマを考える	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
3	研究計画（２）：題材を考える	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
4	研究計画（３）：研究方法を考える	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
5	研究計画（４）：研究のスケジュールを検討する	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
6	文献調査の方法（１）：資料収集の方法	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
7	文献調査の方法（２）：図書館の使い方	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
8	文献調査の方法（３）：調査の種類・方法	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
9	文献調査の方法（４）：分析結果のまとめ方	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
10	文献講読（１）	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
11	文献講読（２）	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
12	文献講読（３）	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
13	文献講読（４）	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
14	文献講読（５）	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
15	文献講読（６）	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
16	文献講読（７）	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	文献講読（８）	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
18	文献講読（９）	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
19	文献講読（１０）	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
20	文献講読（１１）	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
21	ディスカッション／個別指導（１）	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
22	ディスカッション／個別指導（２）	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
23	ディスカッション／個別指導（３）	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
24	資料のまとめ方（１）レジュメの作成	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
25	資料のまとめ方（２）発表原稿の作成	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
26	発表資料の作り方（１）パワーポイントの作成	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
27	発表資料の作り方（２）レポートの作成	個人発表の準備をする（45分）	各自研究を進める（４５分）
28	中間発表（１）	個人発表の準備をする（45分）	各自研究を進める（４５分）
29	中間発表（２）	個人発表の準備をする（45分）	各自研究を進める（４５分）
30	中間発表（３）	個人発表の準備をする（45分）	各自研究を進める（４５分）
31	中間発表のフィードバック　研究計画を再考する	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく（45分）	これまでの授業の復習をおこなう（４５分）
32	まとめ　専門研究ＩＢに向けて　授業アンケート実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく（45分）	これまでの授業の復習をおこなう（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ＩA （科目ナンバリング：SEM233088　　）				
授業担当者 （所属・職名）	浩而　魅諭（デザイン学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　浩而　魅諭　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	細密画家、復元画家（バレオアーティスト）、野生動物画家（ワイルドライフアーティスト）、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師が、その経験と実績を活かし、実践に即した授業を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が、自己表現のための知識と技術を幅広く習得し多様化する現代社会に於いて作品制作を通して問題解決能力を高める。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

学生が、問題点や改善点を見つけ出し、探求していく。自己の作品で表現できるための知識や技術を習得する。

授業全体の内容と概要

探求するテーマを決め、その手段となる適切な表現のジャンルを選択し、それを効果的に表現できるよう知識を深めたり表現方法の試行錯誤を行う。

授業の方法

授業では板書やパワーポイント、必要に応じてDVD、画集、文献など適宜使用する。一人一人が研究テーマを決め、年間計画をたて見通しを持ってから各々の研究を進める。適宜、研究発表の講評によりフィードバックを行う。ディスカッションによりお互いの研究について練り合う。
不測時の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

準備学習と事後学習を欠かさず行うこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は２０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	７０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能　画材や素材、支持体の知識を深めそれを活かして使いこなすことができたか。美術の基礎基本を強固にできたか。	研究のための制作において適切な画材の選択ができ、美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究することが十分できた。	研究のための制作において適切な画材の選択ができ、美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究することができた。	研究のための制作において美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究することがややできた。	研究のための制作において適切な画材の選択ができ、美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究することが不完全だった。	研究のための制作において適切な画材の選択ができ、美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究することが出来なかった。
思考力・判断力・表現力　テーマを最大限に活かせる画材、ジャンルを選択、表現できたか	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体を選択し、それを効果的に構成することが十分に出来た。	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体を選択し、それを効果的に構成することが出来た。	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体を選択し、それを効果的に構成することがやや出来た。	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体を選択し、それを効果的に構成することが不完全だった。	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体を選択し、それを効果的に構成することが出来なかった。
主体性・多様性・協働性　研究にまつわる効果的なプレゼンテーションができたか。ディスカッションでお互いを高め合えたか。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションが十分できた。協働する姿勢によりお互いを十分高めあえた。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションができた。協働する姿勢によりお互いを高めあえた。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションがややできた。協働する姿勢によりお互いをやや高めあえた。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションが不完全だった。協働する姿勢によりお互いを高め会えたとは言えない。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションができなかった。協働する姿勢があまり見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ＩＡ （科目ナンバリング：SEM233088　　）				
授業担当者 （所属・職名）	浩而　魅諭（デザイン学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　浩而　魅諭　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	細密画家、復元画家（パレオアーティスト）、野生動物画家（ワイルドライフアーティスト）、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師が、その経験と実績を活かし、実践に即した授業を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明　当該科目を修了して身につく力 準備学習・事後学習の説明	シラバスを読む（４５分）	アートの意味・意義について考える　課題（４５分）
2	アートの意味・意義　ディスカション	アートの意味・意義についてまとめる　課題（４５分）	テーマを考える　課題（４５分）
3	年間計画作成１（研究のテーマ　研究の手順　調べること　試すこと　手段　方法　など）	テーマを決める　課題（４５分）	計画を練る　課題（４５分）
4	年間計画作成２（研究のテーマ　研究の手順　調べること　試すこと　手段　方法　など）	計画を練る　課題（４５分）	研究テーマ発表準備　課題（４５分）
5	研究テーマの発表１ディスカッション	研究テーマの発表準備　課題（４５分）	発表内容の再検討　課題（４５分）
6	研究テーマの発表２	発表準備　課題（４５分）	課題（４５分）
7	研究１調べる	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
8	研究２調べる	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
9	研究３調べる	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
10	研究４調べる	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
11	研究５調べたことをまとめる　試作、実験など試行錯誤すべきことを洗い出す	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
12	研究６調べたことをまとめる　試作、実験、画材の比較、素材の開拓など試行錯誤すべきことを洗い出す	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
13	研究７研究試作、実験、画材の比較、素材の開拓など試行錯誤すべきこと	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
14	研究８試作、実験、画材の比較、素材の開拓など試行錯誤すべきこと	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
15	中間報告会　ディスカッション	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
16	中間報告会	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	研究テーマの見直し１調べたり試した結果に基づきテーマを見直す	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
18	研究テーマの見直し２調べたり試した結果に基づきテーマを見直す	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
19	研究９試作、習作、実験、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
20	研究１０試作、習作、実験、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
21	研究１１試作、習作、実験、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
22	研究１２試作、習作、実験、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
23	研究１３試作、習作、実験、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
24	研究１４試作、習作、実験、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
25	研究１５試作、習作、実験、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
26	研究１６試作、習作、実験、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
27	研究１７試作、習作、実験、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
28	中間報告書の作成１ 初稿の添削	授業内容継続　課題（４５分）	添削を基に修正　課題（４５分）
29	中間報告書の作成２ 完成稿の提出	添削を基に修正作　課題（４５分）	プレゼンテーションの準備　課題（４５分）
30	中間報告書のプレゼンテーション１	プレゼンテーションの準備　課題（４５分）	プレゼンテーションの準備　課題（４５分）
31	中間報告書のプレゼンテーション２	プレゼンテーションの準備　課題（　４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
32	専門研究ＩＢへ向けての課題 当該科目の第１回目に示した身につく力について検証	授業内容継続　課題（４５分）	専門研究ＩＢに向けての準備　課題（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ＩA （科目ナンバリング：SEM233088　　）				
授業担当者 （所属・職名）	堤　美穂子（デザイン学科・特任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　堤　美穂子　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験をもとにデザインの基礎から、課題の探索・改善までを指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

現代社会の視覚情報伝達メディアにおいて、デザインによる問題解決能力を高めることを目標とする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

本授業は、現代社会において必要とされる各種視覚情報メディアについて、その知識と技術を幅広く学び、実践を想定したシミュレーションが可能な能力を身に付ける。

授業全体の内容と概要

特定の情報を社会に提供する手段として適切なメディアを単体もしくは複数選択し、それを効果的に運用できるよう企画・設計段階を重視したデザインワークを行う。
「ＳＤＧs．1～17」の関連授業。

授業の方法

始めに情報メディアデザインを正しく認識させるための事前学習と共に年間計画を作成する。
次に単体のメディア、後半ではメディアミックスによる企画をプレゼンテーションするためのツールを段階的に構想し、制作し、発表する。
各種メディアや情報形態に関しての調査・取材は必要に応じて必ず行い企画内で報告させる。
制作中における技術的な指導は個別に行い、質問については随時対応する。
毎回授業後にリフレクションを提出（成績評価に反映）、次の授業までに教員からのフィードバックを読んでくる。
制作に必要なアプリケーションの操作方法については、授業で活用できるよう事前にアプリケーションが提供するチュートリアル等で習得しておく。
授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。
不測時の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

自主的かつ対外的な活動を多く求められるため、学外と積極的にコミュニケーションを行う必要がある。
各回の終わりにgoogle formsにて、リフレクション（振り返り）を提出（締め切りはその日中）。次回の講義までに教員からのフィードバックを読んでおく。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は２０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	８０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能　「視覚情報伝達を分野として正しく認識できている」	提出された課題が視覚情報伝達を主体とした内容であり、知識と技術両面の向上を意識したものになっている。	提出された課題が視覚情報伝達を主体とした内容であり、知識又は技術のいずれかの向上を意識したものになっている。	提出された課題が視覚情報伝達を主体とした内容である。	提出された課題の視覚情報伝達に関する内容が不十分である。	提出された課題が視覚情報伝達に関した内容になっていない。
思考力・判断力・表現力「視覚情報伝達の分野としての特性を踏まえた作品制作が行える」	提出された課題が効果的な視覚効果を考え、技術や演出を取り入れた内容のプレゼンテーションとして成功している。	提出された課題が効果的な視覚効果を考え、技術や演出を取り入れた内容のプレゼンテーションである。	提出された課題は効果的な視覚効果を考え、技術や演出を取り入れた内容のプレゼンテーションではあるが成功してはいない。	提出された課題に視覚効果に対する意識が希薄であり、プレゼンテーションとして不完全である。	提出された課題に視覚効果に対する意識が殆ど見られず、プレゼンテーションとして成立していない。
主体性・多様性・協働性「視覚情報伝達の分野としての特性を基にしたメディアの構築を行い、プレゼンテーションを行える」	完成提出された課題を基に効果的なプレゼンテーションが行えている。	完成提出された課題を基にプレゼンテーションが行えている。	完成提出された課題とプレゼンテーションの融合が不完全である。	完成提出された課題とプレゼンテーションの内容が分離している。	完成提出された課題によるプレゼンテーションができない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ＩA （科目ナンバリング：SEM233088　　）				
授業担当者 （所属・職名）	堤　美穂子（デザイン学科・特任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　堤　美穂子　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験をもとにデザインの基礎から、課題の探索・改善までを指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスの確認。（４５分）	年間計画の試案。（４５分）
2	年間計画（前期）の作成	年間計画の試案。（４５分）	リフレクションの記載。授業内容の継続。（４５分）
3	年間計画（前期）の提出と添削	フィードバックの確認。授業内容の継続。（４５分）	添削を基に修正作業。（４５分）
4	年間計画（前期）修正版の完成提出	添削を基に修正作業。（４５分）	リフレクションの記載。研究テーマの発表準備。（４５分）
5	研究テーマの発表①	フィードバックの確認。研究テーマの発表準備。（４５分）	発表内容の再検討。（４５分）
6	研究テーマの発表②	授業内容の継続。（４５分）	リフレクションの記載。発表内容の再検討。（４５分）
7	研究内容のプレゼンテーションについて ～ 作業工程の立案	フィードバックの確認。発表内容の再検討。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
8	研究内容のプレゼンテーションについて ～ 作業工程のデータ化	授業内容の継続。（４５分）	リフレクションの記載。授業内容の継続。（４５分）
9	取材活動① 取材要件の整理	フィードバックの確認。授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
10	取材活動② 取材計画	授業内容の継続。（４５分）	リフレクションの記載。授業内容の継続。（４５分）
11	取材活動③ 情報収集活動	フィードバックの確認。授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
12	取材活動③ 情報収集活動	授業内容の継続。（４５分）	リフレクションの記載。授業内容の継続。（４５分）
13	取材活動④ 収集した情報整理とデータ化	フィードバックの確認。授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
14	取材活動④ 収集した情報整理とデータ化	授業内容の継続。（４５分）	リフレクションの記載。授業内容の継続。（４５分）
15	取材活動⑤ 収集した情報の確認と添削	フィードバックの確認。授業内容の継続。（４５分）	添削を基に修正作業又は授業内容の継続。（４５分）
16	取材活動⑤ 収集した情報の確認と添削	添削を基に修正作業又は授業内容の継続。（４５分）	リフレクションの記載。授業内容の継続。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	研究テーマのコンセプトを文章化①	フィードバックの確認。授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
18	研究テーマのコンセプトを文章化②	授業内容の継続。（４５分）	リフレクションの記載。授業内容の継続。（４５分）
19	企画書作成① コンセプトと収集データのまとめ	フィードバックの確認。授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
20	企画書作成② 内容の構成（情報の視覚化～設計）	授業内容の継続。（４５分）	リフレクションの記載。授業内容の継続。（４５分）
21	企画書作成③ 視覚効果と演出技法	フィードバックの確認。授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
22	企画書作成④ メディアの選択	授業内容の継続。（４５分）	リフレクションの記載。授業内容の継続。（４５分）
23	企画書作成⑤ デザイン制作	フィードバックの確認。授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
24	企画書作成⑤ デザイン制作	授業内容の継続。（４５分）	リフレクションの記載。授業内容の継続。（４５分）
25	企画書作成⑤ デザイン制作	フィードバックの確認。授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
26	企画書作成⑤ デザイン制作	授業内容の継続。（４５分）	リフレクションの記載。授業内容の継続。（４５分）
27	企画書作成⑥ 初稿の完成提出	フィードバックの確認。授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
28	企画書の作成⑦ 初稿の添削	授業内容の継続。（４５分）	リフレクションの記載。添削を基に修正作業。（４５分）
29	企画書の作成⑧ 完成稿の提出	フィードバックの確認。添削を基に修正作業。（４５分）	プレゼンテーションの準備。（４５分）
30	企画書のプレゼンテーション①	プレゼンテーションの準備。（４５分）	リフレクションの記載。プレゼンテーションの準備又はプレゼンテーション内容の再確認。（４５分）
31	企画書のプレゼンテーション②	フィードバックの確認。プレゼンテーションの準備又はプレゼンテーション内容の再確認。（４５分）	プレゼンテーション内容の再確認。（４５分）
32	専門研究ＩBへ向けての課題 授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」についての検証	プレゼンテーション内容の再確認。（４５分）	リフレクションの記載。専門研究ＩBに向けての準備。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築設計演習Ⅰ （科目ナンバリング：APT312003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）・向井　正伸（建築学科・専任講師）・野村　和也（建築学科・非常	研究室等所在	２号館７階		
単位数	2　（単位認定責任者：　向井　正伸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所における実務経験を活かし、実践的な指導を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築設計を学ぶはじめての授業として、空間デザインと設計、そして製図を含むプレゼンテーションの基礎を学ぶ。本講では、併用住宅の設計を通して、コンセプト立案からゾーニング・プランニングを行い計画内容を的確に表現する能力を身につける。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

与条件を踏まえ、自分なりの考えを持って建築が設計ができる。製図規約に従って設計図面の描写によって表現することができる。

授業全体の内容と概要

建築設計は思いつきのアイディアをカタチにするだけでは不十分で、明確なビジョンと多角的な視点を持って設計を行うことが大切である。そのため、授業は対話によるエスキスを中心に展開し、エスキスを通じてビジョンを明確化し、多角的視点での設計ができるよう指導する。作品提出後は発表会を行い、他の作品から多様な考えと自分の作品を比較し、学ぶ機会を設ける。「SDG11．住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

授業は、初めに板書と配布資料等により課題解説をおこない、エスキス・作図を個別でチェックをする。最後の講評会は全員による発表会形式で行う。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

製図道具は必ず携帯すること。授業では途中成果の提示と中間指導を受け、PDCAサイクル(Plan , Do (or Design) , Check , Action) を積極的に行うこと。
授業はエスキスを中心に展開するため、授業時間外、自宅での制作が必要である。課題制作のために，自宅に製図道具を備えておくことも不可欠である。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。

資格指定科目

「建築士試験受験資格科目」必修科目，教職課程（工業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造力が習得できたか。	多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造的に構築することができた。	多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造的に構築することがほぼできた。	多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造的に構築することがある程度以上できた。	多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造的に構築することがある程度できた。	多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造的に構築することができなかった。
木造住宅を設計するにあたり、各図面を正しく描画することができるか。	木造住宅の平・立・断面図を正確に描くことができた。	木造住宅の平・立・断面図を正確に描くことがほぼできた。	木造住宅の平・立・断面図を正確に描くことがある程度以上できた。	木造住宅の平・立・断面図を正確に描くことがある程度できた。	木造住宅の平・立・断面図を正確に描くことができなかった。
明確なプレゼンテーションと説明によって自身の計画内容を他者に伝えることができるか。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることができた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることがほぼできた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度以上できた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度できた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築設計演習Ⅰ （科目ナンバリング：APT312003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）・向井　正伸（建築学科・専任講師）・野村　和也（建築学科・非常	研究室等所在	２号館７階		
単位数	2　（単位認定責任者：　向井　正伸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所における実務経験を活かし、実践的な指導を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。ガイダンス　授業の進め方と課題提出までのスケジュール、科目を修了して「身に付く力」についての説明、授業改善アンケート結果反映の説明 第一課題　解説（設計条件等）	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(９０分)	課題内容を復習(９０分)
2	第一課題　エスキスチェック1	課題コンセプト立案(９０分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(９０分)
3	第一課題　エスキスチェック2	改善案を作成する(９０分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(９０分)
4	第一課題　エスキスチェック3	改善案を作成する(９０分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(９０分)
5	第一課題　　発表・講評会	プレゼン資料にまとめ提出(９０分)	講評内容を振り返る(９０分)
6	第二課題　課題発表	敷地調査を行う(９０分)	課題内容を復習(９０分)
7	第二課題　エスキスチェック1	コンセプトを立案する(90分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(９０分)
8	第二課題　エスキスチェック2	改善案を作成する(９０分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(９０分)
9	第二課題　エスキスチェック3	改善案を作成する(９０分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(９０分)
10	第二課題　エスキスチェック4	改善案を作成する(９０分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(９０分)
11	第二課題　作図・プレゼンテーション作成	作図準備をする(９０分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(９０分)
12	第二課題　作図・プレゼンテーション作成	作図準備をする(９０分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(９０分)
13	第二課題　作図・プレゼンテーション作成	作図準備をする(９０分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(９０分)
14	第二課題　作図・プレゼンテーション作成	作図準備をする(９０分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(９０分)
15	提出・プレゼンテーション・講評会 授業改善アンケートの実施、総括によるフィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証	プレゼンテーション準備(９０分)	感想レポート提出(９０分)
16	振り返り（予備日）	ポートフォリオ作成準備(９０分)	ポートフォリオ作成(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現Ⅰ （科目ナンバリング：AHD321039　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）　君　興治（建築学科・准教授）	研究室等所在	２号館３階　２号館４階		
単位数	1　（単位認定責任者：　安藤　淳一　）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築は，図面や模型に表現されたものによってその内容を理解してもらえる。そのため考え出された建築をどのように表現するかということがとても重要となる。「建築表現Ⅰ」において履修学生は，空間表現や建築図面表現に必要な平面系の基礎力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP3,DP4,DP5に対応する。

到達目標

平面系の建築表現に必要となる道具の基本的使い方を習得する。また時間内に課題を製作するための時間配分，期限内に課題を提出するという自己管理及び基本姿勢を身に付けることができる。

授業全体の内容と概要

毎回，課題の制作を主とした実技形式の授業をおこなう。基礎的練習課題とその作品の講評会を２週ごとにおこなう。課題製作は，原則として授業時間内におこない即日提出とする。やむを得ず授業時間内に完成させられなかった場合は，次週授業開始時までに完成させ提出する。

授業の方法

シリーズごとに課題の目的・到達目標等について説明をし，課題制作に取り組む。ひとつの課題シリーズ終了ごとに講評会を開催し，各自作品のプレゼンテーションをおこない，その後指導教員が講評・評価をおこなう。基本的に授業は対面で実施するが，不測の事態が起きた際に，授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

実技科目であるため，全授業に出席し期限内に課題を製作し提出すること。また作品講評会に出席し自分の作品の解説（プレゼンテーション）することも評価する。原則授業にはすべて出席し，授業時間内に課題制作をおこなうこととする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(ただし最低出席回数１０回以上)とし，積極的に課題に取り組むこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	８５%	０%	１５%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
平面系の建築表現に必要となる道具の基本的使い方を理解し習得した上で実践する。	基本的使い方に加え応用的な使い方ができた。	基本的使い方が十分にできた。	基本的な使い方を理解し実践できた。	基本的な使い方を理解しおおむねできた。	必要な道具が準備されず実践できなかった。
期限内に課題を制作し提出するというスケジュール管理及び基本姿勢を身に付ける。	すべての課題を期限内に余裕をもって作成完成することができた。	すべての課題を期限内に作成完成することができた。	課題を期限内に作成完成することができた。	おおむね課題を期限内に作成完成することができた。	期限内に課題を提出できなかった。
平面系の建築空間の発想・発想力を作品にすること，それを表現するための技術を修得する。	技術を身につけ非常に優れた発想力と表現力による作品が制作できた。	技術を身につけ発想力と表現力による作品が制作できた。	技術を身につけおおむね発想力と表現力による作品が制作できた。	技術を身につけ作品をすべて制作できた。	技術を身につけることができず，作品を制作することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現Ⅰ （科目ナンバリング：AHD321039　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）　君　興治（建築学科・准教授）	研究室等所在	２号館３階　２号館４階		
単位数	1　（単位認定責任者：　　安藤　淳一　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明，授業改善アンケート結果反映の説明，授業計画の説明，科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスの事前確認（45分）	授業内容の確認（45分）
2	使用する道具と材料の種類と使い方の説明	授業資料の確認（45分）	使用道具の確認（45分）
3	点景１（空の表現）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
4	点景２（樹木の表現　立面図）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
5	講評会（点景）	使用道具の確認と準備（45分）	講評内容の振返り（45分）
6	色彩１（建具）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
7	色彩２（建築外観）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
8	講評会（色彩）	提出作品の確認（45分）	講評内容の振返り（45分）
9	トレードマークの製作	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
10	表札の製作	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
11	講評会（トレードマークと表札）	提出作品の確認（45分）	講評内容の振返り（45分）
12	フリーハンド表現　課題説明　平面図・立面図	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
13	フリーハンド表現　平面図	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
14	フリーハンド表現　立面図	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
15	講評会（平面図と立面図）	提出作品の確認（45分）	講評内容の振返り（45分）
16	総評（全作品の講評）授業改善アンケートの実施，フィードバック，科目を修了して「身に付く力」についての検証	提出作品の最終確認（45分）	総評の振返り（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期集中	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築研究Ⅰ （科目ナンバリング：SEM333084　　）				
授業担当者 （所属・職名）	建築学科指導教員		研究室等所在	指導教員研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　指導教員　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「建築研究Ⅰ」は，建築学修得の集大成，および卒業後の進路に大きく関わる４年次の「卒業研究」につながる科目として位置付けられる。履修学生は，各自が興味･関心のあるテーマについてより専門的な学習を行う。さらに「卒業研究」を意識したプログラムの下に，研究テーマの選択，既往研究や事例の検索，文献･資料収集の手順等を身に付け，研究･調査･実験に着手できる環境を整えると共に，論考･提案できる能力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1,DP2,DP3,DP4,DP5に対応する。

到達目標

多岐にわたる建築学の分野を理解し，各自が進めるべく研究テーマを明確にすることができること，そのための基礎的な知識と考え方を修得することができる。

授業全体の内容と概要

各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので，講義，ゼミナール，実験，作品制作，見学，観察･実測調査等，さまざまな授業形態がとられる。したがって，時間割上はもちろんこと，その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので，各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが，担当教員が決定しなければ受講，ならびに単位修得ができないので，必ず担当教員を決定すること。また，各教員により演習内容，指導方針等が異なるので，別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読･理解した上で決定すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１１回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマを見つけ出すため，建築学から興味・関心のある分野に関する内容を理解する。	研究テーマを積極的に見つけ出すことができた。	研究テーマを見つけ出すことができた。	研究テーマをほぼ自力で見つけ出すことができた。	研究テーマをおおむね自力で見つけ出すことができた。	研究テーマを見つけ出すことができなかった。
研究テーマ探求のための資料収集と整理をする。	資料を積極的に収集することができた。	資料を自力で収集することができた。	資料をほぼ自力で収集することができた。	資料をおおかた自力で収集することができた。	資料を収集することができなかった。
研究テーマを決定する過程でのディスカッションとプレゼンテーションをする。	研究テーマについて積極的にディスカッションできた。	研究テーマについてディスカッションできた。	研究テーマについてほぼディスカッションできた。	研究テーマについておおむねディスカッションできた。	研究テーマについてのディスカッションができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期集中	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築研究Ⅰ （科目ナンバリング：SEM333084　　）				
授業担当者 （所属・職名）	建築学科指導教員		研究室等所在	指導教員研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　指導教員　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス　シラバスの説明，科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認　（45分）	配布資料の確認　（45分）
2	担当教員による授業　１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
3	担当教員による授業　２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
4	担当教員による授業　３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
5	担当教員による授業　４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
6	担当教員による授業　５	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
7	担当教員による授業　６	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
8	担当教員による授業　７	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
9	担当教員による授業　８	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
10	担当教員による授業　９	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
11	担当教員による授業　１０	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
12	担当教員による授業　１１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
13	担当教員による授業　１２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
14	担当教員による授業　１３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
15	担当教員による授業　１４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
16	総括　フィードバック，科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振返り作成　（45分）	全体振返り　（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究Ⅰ （科目ナンバリング：SEM333084　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　伊藤　裕康　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「建築研究Ⅰ」は、建築学修得の集大成、および卒業後の進路に大きく関わる４年次の「卒業研究」につながる科目として位置付けられ、各自が興味・関心のあるテーマについてより専門的な学習を行う。したがって、「卒業研究」を意識したプログラムの下に、研究テーマの選択、既往研究や事例の検索、文献・資料収集の手順等を身に付け、研究・調査・実験に着手できる環境を整えると共に、論考・提案できる能力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

多岐にわたる建築学の分野を理解し、各自が進めるべく研究テーマを明確にすることができること、そのための基礎的な知識と考え方を修得することができる。

授業全体の内容と概要

各教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察・実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろんこと、その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。
欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読・理解した上で決定すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１１回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマを見つけ出すため、建築学から興味・関心のある分野に関する内容を理解する。	研究テーマを積極的に見つけ出すことができた。	研究テーマを見つけ出すことができた。	研究テーマをほぼ自力で見つけ出すことができた。	研究テーマをおおむね自力で見つけ出すことができた。	研究テーマを見つけ出すことができなかった。
研究テーマ探求のための資料収集と整理をする。	資料を積極的に収集することができた。	資料を自力で収集することができた。	資料をほぼ自力で収集することができた。	資料をおおかた自力で収集することができた。	資料を収集することができなかった。
研究テーマを決定する過程でのディスカッションとプレゼンテーションをする。	研究テーマについて積極的にディスカッションできた。	研究テーマについてディスカッションできた。	研究テーマについてほぼディスカッションできた。	研究テーマについておおむねディスカッションできた。	研究テーマについてのディスカッションができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究Ⅰ （科目ナンバリング：SEM333084　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　伊藤　裕康　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス　シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 （45分）	配布資料の確認　（45分）
2	担当教員による授業　１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
3	担当教員による授業　２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
4	担当教員による授業　３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
5	担当教員による授業　４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
6	担当教員による授業　５	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
7	担当教員による授業　６	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
8	担当教員による授業　７	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
9	担当教員による授業　８	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
10	担当教員による授業　９	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
11	担当教員による授業　１０	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
12	担当教員による授業　１１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
13	担当教員による授業　１２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
14	担当教員による授業　１３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
15	担当教員による授業　１４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
16	総括によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振返り作成　（45分）	全体振返り　（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究Ⅰ （科目ナンバリング：SEM333084　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　佐藤　善太郎　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「建築研究Ⅰ」は，建築学修得の集大成，および卒業後の進路に大きく関わる４年次の「卒業研究」につながる科目として位置付けられ，各自が興味･関心のあるテーマについてより専門的な学習を行う。したがって，「卒業研究」を意識したプログラムの下に，研究テーマの選択，既往研究や事例の検索，文献･資料収集の手順等を身に付け，研究･調査･実験に着手できる環境を整えると共に，論考･提案できる能力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1,DP2,DP3,DP4,DP5に対応する。

到達目標

多岐にわたる建築学の分野を理解し，各自が進めるべく研究テーマを明確にすることができること，そのための基礎的な知識と考え方を修得することができる。

授業全体の内容と概要

各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので，講義，ゼミナール，実験，作品制作，見学，観察･実測調査等，さまざまな授業形態がとられる。したがって，時間割上はもちろんこと，その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので，各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが，担当教員が決定しなければ受講，ならびに単位修得ができないので，必ず担当教員を決定すること。また，各教員により演習内容，指導方針等が異なるので，別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読･理解した上で決定すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１１回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマを見つけ出すため，建築学から興味・関心のある分野に関する内容を理解する。	研究テーマを積極的に見つけ出すことができた。	研究テーマを見つけ出すことができた。	研究テーマをほぼ自力で見つけ出すことができた。	研究テーマをおおむね自力で見つけ出すことができた。	研究テーマを見つけ出すことができなかった。
研究テーマ探求のための資料収集と整理をする。	資料を積極的に収集することができた。	資料を自力で収集することができた。	資料をほぼ自力で収集することができた。	資料をおおかた自力で収集することができた。	資料を収集することができなかった。
研究テーマを決定する過程でのディスカッションとプレゼンテーションをする。	研究テーマについて積極的にディスカッションできた。	研究テーマについてディスカッションできた。	研究テーマについてほぼディスカッションできた。	研究テーマについておおむねディスカッションできた。	研究テーマについてのディスカッションができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究Ⅰ （科目ナンバリング：SEM333084　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　佐藤　善太郎　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス　シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 （45分）	配布資料の確認　（45分）
2	担当教員による授業　１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
3	担当教員による授業　２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
4	担当教員による授業　３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
5	担当教員による授業　４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
6	担当教員による授業　５	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
7	担当教員による授業　６	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
8	担当教員による授業　７	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
9	担当教員による授業　８	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
10	担当教員による授業　９	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
11	担当教員による授業　１０	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
12	担当教員による授業　１１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
13	担当教員による授業　１２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
14	担当教員による授業　１３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
15	担当教員による授業　１４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
16	総括によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振返り作成　（45分）	全体振返り　（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究Ⅰ （科目ナンバリング：SEM333084　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐々木　哲之（建築学科・特任教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　佐々木　哲之　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築施工会社，建築設計事務所に勤務していたころ，現場管理，設計業務を行っていた。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「建築研究Ⅰ」は、建築学修得の集大成、および卒業後の進路に大きく関わる４年次の「卒業研究」につながる科目として位置付けられ、各自が興味・関心のあるテーマについてより専門的な学習を行う。したがって、「卒業研究」を意識したプログラムの下に、研究テーマの選択、既往研究や事例の検索、文献・資料収集の手順等を身に付け、研究・調査・実験に着手できる環境を整えると共に、論考・提案できる能力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

多岐にわたる建築学の分野を理解し、各自が進めるべく研究テーマを明確にすることができること、そのための基礎的な知識と考え方を修得することができる。

授業全体の内容と概要

各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察・実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろんこと、その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。
欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読・理解した上で決定すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１１回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマを見つけ出すため、建築学から興味・関心のある分野に関する内容を理解する。	研究テーマを積極的に見つけ出すことができた。	研究テーマを見つけ出すことができた。	研究テーマをほぼ自力で見つけ出すことができた。	研究テーマをおおむね自力で見つけ出すことができた。	研究テーマを見つけ出すことができなかった。
研究テーマ探求のための資料収集と整理をする。	資料を積極的に収集することができた。	資料を自力で収集することができた。	資料をほぼ自力で収集することができた。	資料をおおかた自力で収集することができた。	資料を収集することができなかった。
研究テーマを決定する過程でのディスカッションとプレゼンテーションをする。	研究テーマについて積極的にディスカッションできた。	研究テーマについてディスカッションできた。	研究テーマについてほぼディスカッションできた。	研究テーマについておおむねディスカッションできた。	研究テーマについてのディスカッションができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究Ⅰ （科目ナンバリング：SEM333084　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐々木　哲之（建築学科・特任教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　佐々木　哲之　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築施工会社，建築設計事務所に勤務していたころ，現場管理，設計業務を行っていた。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明 科目を修了して「身につく力」の説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 （45分）	配布資料の確認　（45分）
2	担当教員による授業　１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
3	担当教員による授業　２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
4	担当教員による授業　３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
5	担当教員による授業　４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
6	担当教員による授業　５	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
7	担当教員による授業　６	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
8	担当教員による授業　７	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
9	担当教員による授業　８	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
10	担当教員による授業　９	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
11	担当教員による授業　１０	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
12	担当教員による授業　１１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
13	担当教員による授業　１２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
14	担当教員による授業　１３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
15	担当教員による授業　１４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
16	総括として講評をし，フィードバックする 科目を修了して「身につく力」についての検証	授業振返り作成　（45分）	全体振返り　（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究Ⅰ （科目ナンバリング：SEM333084　　）				
授業担当者 （所属・職名）	長森　正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟１階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　長森　正　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	１級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実技経験をもとに講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「建築研究Ⅰ」は，建築学修得の集大成，および卒業後の進路に大きく関わる４年次の「卒業研究」につながる科目として位置付けられ，各自が興味･関心のあるテーマについてより専門的な学習を行う。したがって，「卒業研究」を意識したプログラムの下に，研究テーマの選択，既往研究や事例の検索，文献･資料収集の手順等を身に付け，研究･調査･実験に着手できる環境を整えると共に，論考･提案できる能力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP２、DP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

多岐にわたる建築学の分野を理解し，各自が進めるべく研究テーマを明確にすることができること，そのための基礎的な知識と考え方を修得することができる。

授業全体の内容と概要

各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので，講義，ゼミナール，実験，作品制作，見学，観察･実測調査等，さまざまな授業形態がとられる。したがって，時間割上はもちろんこと，その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので，各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが，担当教員が決定しなければ受講，ならびに単位修得ができないので，必ず担当教員を決定すること。また，各教員により演習内容，指導方針等が異なるので，別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読･理解した上で決定すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１１回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	０%	１００%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマを見つけ出すため，建築学から興味・関心のある分野に関する内容を理解する。	研究テーマを積極的に見つけ出すことができた。	研究テーマを見つけ出すことができた。	研究テーマをほぼ自力で見つけ出すことができた。	研究テーマをおおむね自力で見つけ出すことができた。	研究テーマを見つけ出すことができなかった。
研究テーマ探求のための資料収集と整理をする。	資料を積極的に収集することができた。	資料を自力で収集することができた。	資料をほぼ自力で収集することができた。	資料をおおかた自力で収集することができた。	資料を収集することができなかった。
研究テーマを決定する過程でのディスカッションとプレゼンテーションをする。	研究テーマについて積極的にディスカッションできた。	研究テーマについてディスカッションできた。	研究テーマについてほぼディスカッションできた。	研究テーマについておおむねディスカッションできた。	研究テーマについてのディスカッションができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究Ⅰ （科目ナンバリング：SEM333084　　）				
授業担当者 （所属・職名）	長森　正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟１階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　長森　正　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	１級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実技経験をもとに講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス　シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 （45分）	配布資料の確認　（45分）
2	担当教員による授業　１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
3	担当教員による授業　２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
4	担当教員による授業　３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
5	担当教員による授業　４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
6	担当教員による授業　５	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
7	担当教員による授業　６	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
8	担当教員による授業　７	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
9	担当教員による授業　８	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
10	担当教員による授業　９	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
11	担当教員による授業　１０	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
12	担当教員による授業　１１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
13	担当教員による授業　１２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
14	担当教員による授業　１３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
15	担当教員による授業　１４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
16	総括 授業最終回において講評をし、フィートバックする 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振返り作成　（45分）	全体振返り　（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期集中	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築研究Ⅰ （科目ナンバリング：SEM333084　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）		研究室等所在	2号館6階　小笠原研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　小笠原　健　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士設計事務所ならびに特定建設業者である民間企業に勤務。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「建築研究Ⅰ」は，建築学修得の集大成，および卒業後の進路に大きく関わる４年次の「卒業研究」につながる科目として位置付けられ，各自が興味･関心のあるテーマについてより専門的な学習を行う。したがって，「卒業研究」を意識したプログラムの下に，研究テーマの選択，既往研究や事例の検索，文献･資料収集の手順等を身に付け，研究･調査･実験に着手できる環境を整えると共に，論考･提案できる能力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1,DP2,DP3,DP4,DP5に対応する。

到達目標

多岐にわたる建築学の分野を理解し，各自が進めるべく研究テーマを明確にすることができること，そのための基礎的な知識と考え方を修得することができる。

授業全体の内容と概要

各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので，講義，ゼミナール，実験，作品制作，見学，観察･実測調査等，さまざまな授業形態がとられる。したがって，時間割上はもちろんこと，その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので，各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが，担当教員が決定しなければ受講，ならびに単位修得ができないので，必ず担当教員を決定すること。また，各教員により演習内容，指導方針等が異なるので，別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読･理解した上で決定すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１１回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は教員が判断し決定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマを見つけ出すため，建築学から興味・関心のある分野に関する内容を理解する。	研究テーマを積極的に見つけ出すことができた。	研究テーマを見つけ出すことができた。	研究テーマをほぼ自力で見つけ出すことができた。	研究テーマをおおむね自力で見つけ出すことができた。	研究テーマを見つけ出すことができなかった。
研究テーマ探求のための資料収集と整理をする。	資料を積極的に収集することができた。	資料を自力で収集することができた。	資料をほぼ自力で収集することができた。	資料をおおかた自力で収集することができた。	資料を収集することができなかった。
研究テーマを決定する過程でのディスカッションとプレゼンテーションをする。	研究テーマについて積極的にディスカッションできた。	研究テーマについてディスカッションできた。	研究テーマについてほぼディスカッションできた。	研究テーマについておおむねディスカッションできた。	研究テーマについてのディスカッションができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期集中	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築研究Ⅰ （科目ナンバリング：SEM333084　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）		研究室等所在	2号館6階　小笠原研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　小笠原　健　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士設計事務所ならびに特定建設業者である民間企業に勤務。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス　シラバスの説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認（45分）	配布資料の確認　（45分）
2	担当教員による授業　１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
3	担当教員による授業　２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
4	担当教員による授業　３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
5	担当教員による授業　４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
6	担当教員による授業　５	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
7	担当教員による授業　６	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
8	担当教員による授業　７	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
9	担当教員による授業　８	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
10	担当教員による授業　９	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
11	担当教員による授業　１０	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
12	担当教員による授業　１１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
13	担当教員による授業　１２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
14	担当教員による授業　１３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
15	担当教員による授業　１４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
16	総括	授業振返り作成　（45分）	全体振返り　（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究Ⅰ （科目ナンバリング：SEM333084　　）				
授業担当者 （所属・職名）	君　興治（建築学科・准教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　君　興治　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイディアが、見る人に伝わり、理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「建築研究Ⅰ」は、建築学修得の集大成、および卒業後の進路に大きく関わる４年次の「卒業研究」につながる科目として位置付けられ、各自が興味・関心のあるテーマについてより専門的な学習を行う。したがって、「卒業研究」を意識したプログラムの下に、研究テーマの選択、既往研究や事例の検索、文献・資料収集の手順等を身に付け、研究・調査・実験に着手できる環境を整えると共に、論考・提案できる能力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する科目

到達目標

多岐にわたる建築学の分野を理解し、各自が進めるべく研究テーマを明確にすることができること、そのための基礎的な知識と考え方を修得することができる。

授業全体の内容と概要

各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察・実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろんこと、その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。
欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読・理解した上で決定すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１１回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマを見つけ出すため、建築学から興味・関心のある分野に関する内容を理解する。	研究テーマを積極的に見つけ出すことができた。	研究テーマを見つけ出すことができた。	研究テーマをほぼ自力で見つけ出すことができた。	研究テーマをおおむね自力で見つけ出すことができた。	研究テーマを見つけ出すことができなかった。
研究テーマ探求のための資料収集と整理をする。	資料を積極的に収集することができた。	資料を自力で収集することができた。	資料をほぼ自力で収集することができた。	資料をおおかた自力で収集することができた。	資料を収集することができなかった。
研究テーマを決定する過程でのディスカッションとプレゼンテーションをする。	研究テーマについて積極的にディスカッションできた。	研究テーマについてディスカッションできた。	研究テーマについてほぼディスカッションできた。	研究テーマについておおむねディスカッションできた。	研究テーマについてのディスカッションができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究Ⅰ （科目ナンバリング：SEM333084　　）				
授業担当者 （所属・職名）	君　興治（建築学科・准教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　君　興治　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイディアが、見る人に伝わり、理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス　シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 （45分）	配布資料の確認　（45分）
2	担当教員による授業　１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
3	担当教員による授業　２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
4	担当教員による授業　３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
5	担当教員による授業　４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
6	担当教員による授業　５	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
7	担当教員による授業　６	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
8	担当教員による授業　７	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
9	担当教員による授業　８	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
10	担当教員による授業　９	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
11	担当教員による授業　１０	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
12	担当教員による授業　１１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
13	担当教員による授業　１２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
14	担当教員による授業　１３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
15	担当教員による授業　１４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
16	総括によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振返り作成　（45分）	全体振返り　（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究Ⅰ （科目ナンバリング：SEM333084　　）				
授業担当者 （所属・職名）	向井正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1　（単位認定責任者：　向井　正伸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	さまざまな規模用途の公共施設の企画設計監理を行なってきた経験を活かした指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「建築研究Ⅰ」は，建築学修得の集大成，および卒業後の進路に大きく関わる４年次の「卒業研究」につながる科目として位置付けられ，各自が興味･関心のあるテーマについてより専門的な学習を行う。したがって，「卒業研究」を意識したプログラムの下に，研究テーマの選択，既往研究や事例の検索，文献･資料収集の手順等を身に付け，研究･調査･実験に着手できる環境を整えると共に，論考･提案できる能力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

多岐にわたる建築学の分野を理解し，各自が進めるべく研究テーマを明確にすることができること，そのための基礎的な知識と考え方を修得することができる。

授業全体の内容と概要

担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので，講義，ゼミナール，実験，作品制作，見学，観察･実測調査等，さまざまな授業形態がとられる。したがって，時間割上はもちろんこと，その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので，各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが，担当教員が決定しなければ受講，ならびに単位修得ができないので，必ず担当教員を決定すること。また，各教員により演習内容，指導方針等が異なるので，別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読･理解した上で決定すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１１回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマを見つけ出すため，建築学から興味・関心のある分野に関する内容を理解する。	研究テーマを積極的に見つけ出すことができた。	研究テーマを見つけ出すことができた。	研究テーマをほぼ自力で見つけ出すことができた。	研究テーマをおおむね自力で見つけ出すことができた。	研究テーマを見つけ出すことができなかった。
研究テーマ探求のための資料収集と整理をする。	資料を積極的に収集することができた。	資料を自力で収集することができた。	資料をほぼ自力で収集することができた。	資料をおおかた自力で収集することができた。	資料を収集することができなかった。
研究テーマを決定する過程でのディスカッションとプレゼンテーションをする。	研究テーマについて積極的にディスカッションできた。	研究テーマについてディスカッションできた。	研究テーマについてほぼディスカッションできた。	研究テーマについておおむねディスカッションできた。	研究テーマについてのディスカッションができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究Ⅰ （科目ナンバリング：SEM333084　　）				
授業担当者 （所属・職名）	向井正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　向井　正伸　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	さまざまな規模用途の公共施設の企画設計監理を行なってきた経験を活かした指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス　シラバスの説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認　（45分）	配布資料の確認　（45分）
2	担当教員による授業　１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
3	担当教員による授業　２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
4	担当教員による授業　３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
5	担当教員による授業　４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
6	担当教員による授業　５	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
7	担当教員による授業　６	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
8	担当教員による授業　７	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
9	担当教員による授業　８	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
10	担当教員による授業　９	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
11	担当教員による授業　１０	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
12	担当教員による授業　１１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
13	担当教員による授業　１２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
14	担当教員による授業　１３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
15	担当教員による授業　１４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
16	総括及びフィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振返り作成　（45分）	全体振返り　（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究Ⅰ （科目ナンバリング：SEM333084　　）				
授業担当者 （所属・職名）	建築学科指導教員		研究室等所在	指導教員研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　指導教員　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。				

概要

履修目標

「建築研究Ⅰ」は，建築学修得の集大成，および卒業後の進路に大きく関わる４年次の「卒業研究」につながる科目として位置付けられ，各自が興味･関心のあるテーマについてより専門的な学習を行う。したがって，「卒業研究」を意識したプログラムの下に，研究テーマの選択，既往研究や事例の検索，文献･資料収集の手順等を身に付け，研究･調査･実験に着手できる環境を整えると共に，論考･提案できる能力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

多岐にわたる建築学の分野を理解し，各自が進めるべく研究テーマを明確にすることができること，そのための基礎的な知識と考え方を修得することができる。

授業全体の内容と概要

各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので，講義，ゼミナール，実験，作品制作，見学，観察･実測調査等，さまざまな授業形態がとられる。したがって，時間割上はもちろんこと，その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので，各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが，担当教員が決定しなければ受講，ならびに単位修得ができないので，必ず担当教員を決定すること。また，各教員により演習内容，指導方針等が異なるので，別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読･理解した上で決定すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１１回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマを見つけ出すため，建築学から興味・関心のある分野に関する内容を理解する。	研究テーマを積極的に見つけ出すことができた。	研究テーマを見つけ出すことができた。	研究テーマをほぼ自力で見つけ出すことができた。	研究テーマをおおむね自力で見つけ出すことができた。	研究テーマを見つけ出すことができなかった。
研究テーマ探求のための資料収集と整理をする。	資料を積極的に収集することができた。	資料を自力で収集することができた。	資料をほぼ自力で収集することができた。	資料をおおかた自力で収集することができた。	資料を収集することができなかった。
研究テーマを決定する過程でのディスカッションとプレゼンテーションをする。	研究テーマについて積極的にディスカッションできた。	研究テーマについてディスカッションできた。	研究テーマについてほぼディスカッションできた。	研究テーマについておおむねディスカッションできた。	研究テーマについてのディスカッションができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究Ⅰ （科目ナンバリング：SEM333084　　）				
授業担当者 （所属・職名）	建築学科指導教員		研究室等所在	指導教員研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　指導教員　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス／シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認　（45分）	配布資料の確認　（45分）
2	担当教員による授業　１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
3	担当教員による授業　２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
4	担当教員による授業　３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
5	担当教員による授業　４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
6	担当教員による授業　５	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
7	担当教員による授業　６	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
8	担当教員による授業　７	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
9	担当教員による授業　８	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
10	担当教員による授業　９	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
11	担当教員による授業　１０	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
12	担当教員による授業　１１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
13	担当教員による授業　１２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
14	担当教員による授業　１３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
15	担当教員による授業　１４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
16	総括によるフィードバック・授業評価アンケート 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振返り作成　（45分）	全体振返り　（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	教職論 （科目ナンバリング：EDU141150，EDU241093，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	木村　浩紀（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　木村　浩紀　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政の経験のある教員がその経験を活かして、学校教育における今日的な課題への対応を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む）について理解する。

授業の位置づけ

設定なし

到達目標

教師の役割や責務について、歴史・関係法規・保護者等の視点から考察し、教師の使命と責任並びに求められる教師像を把握するとともに、これから求められる役割について理解することができる。

授業全体の内容と概要

毎回設定するテーマに関して、理論的・体系的に講義するとともに、そのテーマに関する内容について、レポートを作成することで、主体的に学ぶ活動を実施する。

「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、パワーポイント等の配布物資料で実施し、資料にて説明した後、レポートを作成（要点はチャットでも）して提出する。
各回のテーマごとに意見や感想を発表する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教職科目であることから、遅刻や欠席をしないように努めること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全学科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１　回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	０%	４０%	０%	０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
教職の意義・関連法規と求められる教師像	教職の意義並びに教師の責務に係る知識・技能を積極的に習得し、その内容を的確に説明できた。	教職の意義並びに教師の責務に係る知識・技能を習得し、その内容を説明できた。	教職の意義並びに教師の責務に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容を説明できた。	教職の意義並びに教師の責務に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容をほぼ説明できた。	教職の意義並びに教師の責務に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容を説明できなかった。
授業テーマに関するレポートの説明	テーマに基づき、的確な思考力・判断力のもと、論理的な内容で、時間内に記述できた。	テーマに基づき、思考力・判断力を活かした内容で、時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、思考力・判断力のもと、時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、ほぼ 時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、時間内に記述できなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に主体的・積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心を持って参加することができた。	授業にほぼ関心を持って参加することができた。	授業に関心を持って参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	教職論 （科目ナンバリング：EDU141150，EDU241093，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	木村　浩紀（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　木村　浩紀　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政の経験のある教員がその経験を活かして、学校教育における今日的な課題への対応を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『教職概論』	佐藤晴雄	学陽書房	2022	978-4-313-61146-7	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション 「シラバスの説明」「身に付く力」 「授業改善アンケート結果反映の説明」」「講義の進め方」 なぜ教師を目指すのか	授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
2	教職の意義	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
3	教職観と理想の教師像	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
4	教師と教員養成の歴史	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
5	教員の任用と服務（１）	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
6	教員の任用と服務（２）	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
7	教師の役割と仕事（１）	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
8	教師の役割と仕事（２）「多様化する教師の役割期待」	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
9	管理職・主任の役割	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
10	教師の職場環境と保護者・地域社会との連携	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
11	教師の資質向上と研修、チーム学校に求められる教員の在り方	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
12	教育実習の意義と心得	授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
13	教職への進路選択と教員採用選考	授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
14	面接・模擬授業にどう臨むか	授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
15	教職論のまとめ（フィードバック）	授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
16	定期試験（６０分）（フィードバックと身に付く力の検証） 授業改善アンケートの実施	講義資料等で講義内容を整理する。（９０分 ）	試験の結果を見直す。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	2年生		
開講時期	前期	授業形態	講義,演習	必修・選択	選択
科目名称	テスト用講義１ （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）	研究室等所在	２号館８階		
単位数	2　（単位認定責任者：　伊藤　裕康　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

授業で扱う内容を示す目標

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP4に対応する。（2024年度）
全学科のDP2に対応する。（2023・2022年度）
経営学科のDP2、DP6、社会福祉学科のDP2、DP8、デザイン・建築学科のDP1、DP4に対応する。（2021年度）

到達目標

記述統計において、集めたデータを分析するための度数分布表とヒストグラムを作成することができるほか、確率変数や確率分布について理解し、正規分布表から確率変数に対応する確率を求めることができる。

授業全体の内容と概要

数理・データサイエンス・AI教育プログラム（数理基礎）の関連授業科目。
「SDG 4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。
記述統計は、度数分布表やヒストグラムの作成と平均値、分散、標準偏差などの特性値の理解と導出を中心に行う。また、確率変数と正規分布などの確率分布の特徴や標準化について学ぶ。授業は、コンピュータ室において表計算ソフトExcelを活用してデータ処理を行う。統計学の専門用語が多く出てくるため、理解するのには時間がかかるが、多くの練習問題に触れることで処理手順と専門用語の意味を理解してもらう。

授業の方法

授業はパワーポイント及び教科書・配布物資料で実施し、必要な統計的処理の流れを説明した後に、演習問題を行う。表計算ソフトExcelを使用する場合と手計算の場合がある。一つのデータ処理をするたびに机間巡視を行って学生の計算状況を確認するとともに、学生の不明点・質問は、チャット形式の支援システムで迅速に回答する。その後、授業内で解答を呈示してフィードバックする。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。
欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・Excelを活用して問題を解く場合に、自分のノートPCを用いて良い。
・大学のPCを利用する場合にはUSBメモリーを持参すること。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

授業上、修学サポート（合理的配慮）に関する内容

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	１５%	０%	０%	２５%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
記述統計についての理解	度数分布表とヒストグラムを作成し、表から平均値や分散、標準偏差も求めることができた。	与えられた統計データの平均値や分散、標準偏差を求める方法を理解できた。	平均値などの代表値や、分散、標準偏差などの散布度について理解できた。	度数分布表とヒストグラムを作成できた。	度数分布表とヒストグラムを作成できなかった。
確率と確率分布についての理解	確率変数と確率分布について理解し、与条件から確率変数の期待値や分散、標準偏差を求めることができた。	確率変数の期待値や分散、標準偏差を求める方法を理解できた。	確率変数の期待値や分散の性質について理解できた。	確率変数や確率分布について理解できた。	確率変数や確率分布について理解できなかった。
標本分布についての理解	正規分布に従う確率変数に対して、データの標準化を行い、標準正規分布表を用いて確率を求めることができた。	データの標準化について理解することができた。	正規分布の特徴について理解し、期待値および標準偏差との関係を理解できた。	正規分布表の見方を理解し、必要な確率を求めることができた。	正規分布表の見方を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	2年生		
開講時期	前期	授業形態	講義,演習	必修・選択	選択
科目名称	テスト用講義１ （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）	研究室等所在	２号館８階		
単位数	2　（単位認定責任者：　伊藤　裕康　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『身につく統計学』	伊藤正義/伊藤公紀	森北出版	2018	9784627082113	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明／授業改善アンケート結果反映の説明／情報モラル及び情報セキュリティ／データの整理について	シラバスと教科書をよく読み，専門用語の意味を予習すること（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
2	度数分布表の作成	専門用語の意味を予習すること（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
3	ヒストグラムと相対度数	専門用語の意味を予習すること（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
4	代表値の考え方	専門用語の意味を予習すること（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
5	度数分布と平均値	専門用語の意味を予習すること（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
6	散布度と偏差	専門用語の意味を予習すること（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
7	分散と標準偏差	専門用語の意味を予習すること（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
8	相関係数と回帰直線	専門用語の意味を予習すること（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
9	演習問題（度数分布表・平均値・分散）	専門用語の意味を予習すること（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
10	確率の考え方	専門用語の意味を予習すること（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
11	確率変数について	専門用語の意味を予習すること（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
12	確率変数の平均値と分散	専門用語の意味を予習すること（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
13	確率分布について	専門用語の意味を予習すること（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（90分）
14	正規分布と標準化について	専門用語の意味を予習すること（90分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
15	正規分布表を用いた演習	専門用語の意味を予習すること（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
16	授業改善アンケートの実施／定期試験（60分の試験終了後、解説を行う）	試験範囲について復習すること（９０分）	試験内容について復習すること（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	統計学入門（M） （科目ナンバリング：STS071047　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　伊藤　裕康　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

自然科学や社会科学、医学などの学問分野だけでなく、ビジネスの世界でも統計学は活用されている。目的に応じて調査や実験が行われているが、そこで得られたデータには“ばらつき”が存在する。この“ばらつき”の大きさを分析し、データから有益な情報を導き出すための統計的手法について、記述統計を中心とした統計学の基礎を学ぶ。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP4に対応する。

到達目標

記述統計において、集めたデータを分析するための度数分布表とヒストグラムを作成することができるほか、確率変数や確率分布について理解し、正規分布表から確率変数に対応する確率を求めることができる。

授業全体の内容と概要

数理・データサイエンス・AI教育プログラム（数理基礎）の関連授業科目。
「SDG 4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。
記述統計は、度数分布表やヒストグラムの作成と平均値、分散、標準偏差などの特性値の理解と導出を中心に行う。また、確率変数と正規分布などの確率分布の特徴や標準化について学ぶ。授業は、コンピュータ室において表計算ソフトExcelを活用してデータ処理を行う。統計学の専門用語が多く出てくるため、理解するのには時間がかかるが、多くの練習問題に触れることで処理手順と専門用語の意味を理解してもらう。

授業の方法

授業はパワーポイント及び教科書を用いて講義し、必要な統計的処理の流れを説明した後に、演習問題を行う。表計算ソフトExcelを使用する場合と手計算の場合がある。一つのデータ処理をするたびに机間巡視を行って学生の計算状況を確認するとともに、学生の不明点・質問は、チャット形式の支援システムで迅速に回答する。その後、授業内で解答を呈示してフィードバックする。授業はオンライン会議を開いて各PC上でも見えるようにし、復習に活用できるように録画もする。
不測時における授業や補講等はオンラインにて授業を実施する。
欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・コンピュータ室を利用するため、受講者数を50名に制限する。50名以上の申込があった場合には抽選し決定する。
・Excelを用いた演習には大学のPCまたは自分のノートPCを用いること。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	１５%	０%	０%	２５%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
記述統計についての理解	度数分布表とヒストグラムを作成し、表から平均値や分散、標準偏差も求めることができた。	与えられた統計データの平均値や分散、標準偏差を求める方法を理解できた。	平均値などの代表値や、分散、標準偏差などの散布度について理解できた。	度数分布表とヒストグラムを作成できた。	度数分布表とヒストグラムを作成できなかった。
確率と確率分布についての理解	確率変数と確率分布について理解し、与条件から確率変数の期待値や分散、標準偏差を求めることができた。	確率変数の期待値や分散、標準偏差を求める方法を理解できた。	確率変数の期待値や分散の性質について理解できた。	確率変数や確率分布について理解できた。	確率変数や確率分布について理解できなかった。
標本分布についての理解	正規分布に従う確率変数に対して、データの標準化を行い、標準正規分布表を用いて確率を求めることができた。	データの標準化について理解することができた。	正規分布の特徴について理解し、期待値および標準偏差との関係を理解できた。	正規分布表の見方を理解し、必要な確率を求めることができた。	正規分布表の見方を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	統計学入門（M） （科目ナンバリング：STS071047　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　伊藤　裕康　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『身につく統計学』	伊藤正義/伊藤公紀	森北出版	2018	9784627082113	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスと授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明／情報モラル及び情報セキュリティ／データの整理について	シラバスをよく読み、次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
2	度数分布表の作成	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
3	ヒストグラムと相対度数	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
4	代表値の考え方	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
5	度数分布と平均値	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
6	散布度と偏差	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
7	分散と標準偏差	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
8	相関係数と回帰直線	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
9	演習問題（度数分布表・平均値・分散）	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
10	確率の考え方	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
11	確率変数について	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
12	確率変数の平均値と分散	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
13	確率分布について	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
14	正規分布と標準化について	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
15	正規分布表を用いた演習 授業改善アンケートの実施	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
16	定期試験 ６０分の試験終了後、残りの３０分で解説をし、フィードバックする 科目を修了して「身に付く力」についての検証	試験範囲について復習すること（９０分）	試験内容について復習すること（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉・デザイン・建築学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	統計学入門（SDA） （科目ナンバリング：STS071047　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　伊藤　裕康　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

自然科学や社会科学、医学などの学問分野だけでなく、ビジネスの世界でも統計学は活用されている。目的に応じて調査や実験が行われているが、そこで得られたデータには“ばらつき”が存在する。この“ばらつき”の大きさを分析し、データから有益な情報を導き出すための統計的手法について、記述統計を中心とした統計学の基礎を学ぶ。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP4に対応する。

到達目標

記述統計において、集めたデータを分析するための度数分布表とヒストグラムを作成することができるほか、確率変数や確率分布について理解し、正規分布表から確率変数に対応する確率を求めることができる。

授業全体の内容と概要

数理・データサイエンス・AI教育プログラム（数理基礎）の関連授業科目。
「SDG 4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。
記述統計は、度数分布表やヒストグラムの作成と平均値、分散、標準偏差などの特性値の理解と導出を中心に行う。また、確率変数と正規分布などの確率分布の特徴や標準化について学ぶ。授業は、コンピュータ室において表計算ソフトExcelを活用してデータ処理を行う。統計学の専門用語が多く出てくるため、理解するのには時間がかかるが、多くの練習問題に触れることで処理手順と専門用語の意味を理解してもらう。

授業の方法

授業はパワーポイント及び教科書を用いて講義し、必要な統計的処理の流れを説明した後に、演習問題を行う。表計算ソフトExcelを使用する場合と手計算の場合がある。一つのデータ処理をするたびに机間巡視を行って学生の計算状況を確認するとともに、学生の不明点・質問は、チャット形式の支援システムで迅速に回答する。その後、授業内で解答を呈示してフィードバックする。授業はオンライン会議を開いて各PC上でも見えるようにし、復習に活用できるように録画もする。
不測時における授業や補講等はオンラインにて授業を実施する。
欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・コンピュータ室を利用するため、受講者数を50名に制限する。50名以上の申込があった場合には抽選し決定する。
・Excelを用いた演習には大学のPCまたは自分のノートPCを用いること。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	１５%	０%	０%	２５%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
記述統計についての理解	度数分布表とヒストグラムを作成し、表から平均値や分散、標準偏差も求めることができた。	与えられた統計データの平均値や分散、標準偏差を求める方法を理解できた。	平均値などの代表値や、分散、標準偏差などの散布度について理解できた。	度数分布表とヒストグラムを作成できた。	度数分布表とヒストグラムを作成できなかった。
確率と確率分布についての理解	確率変数と確率分布について理解し、与条件から確率変数の期待値や分散、標準偏差を求めることができた。	確率変数の期待値や分散、標準偏差を求める方法を理解できた。	確率変数の期待値や分散の性質について理解できた。	確率変数や確率分布について理解できた。	確率変数や確率分布について理解できなかった。
標本分布についての理解	正規分布に従う確率変数に対して、データの標準化を行い、標準正規分布表を用いて確率を求めることができた。	データの標準化について理解することができた。	正規分布の特徴について理解し、期待値および標準偏差との関係を理解できた。	正規分布表の見方を理解し、必要な確率を求めることができた。	正規分布表の見方を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉・デザイン・建築学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	統計学入門（SDA） （科目ナンバリング：STS071047　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　伊藤　裕康　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『身につく統計学』	伊藤正義/伊藤公紀	森北出版	2018	9784627082113	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスと授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明／情報モラル及び情報セキュリティ／データの整理について	シラバスをよく読み、次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
2	度数分布表の作成	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
3	ヒストグラムと相対度数	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
4	代表値の考え方	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
5	度数分布と平均値	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
6	散布度と偏差	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
7	分散と標準偏差	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
8	相関係数と回帰直線	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
9	演習問題（度数分布表・平均値・分散）	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
10	確率の考え方	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
11	確率変数について	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
12	確率変数の平均値と分散	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
13	確率分布について	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
14	正規分布と標準化について	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
15	正規分布表を用いた演習 授業改善アンケートの実施	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
16	定期試験 ６０分の試験終了後、残りの３０分で解説をし、フィードバックする 科目を修了して「身に付く力」についての検証	試験範囲について復習すること（９０分）	試験内容について復習すること（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	法学 （科目ナンバリング：LAW361122 LAW161174 ）				
授業担当者 （所属・職名）	青山　浩之（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者： 青山　浩之 ）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

法律は，市民生活や経済活動を送るうえで欠かせないものである。条文を理解し，適用・解釈できる読解力を身に付ける。さらに、法的な問題が生じたとき、迅速かつ的確に対応できる知識を身に付ける

授業の位置づけ

全学科のＤＰ２に対応する。

到達目標

法律に対して感じるむずかしさや抵抗感を取り除き，法律の基本知識を修得する。法律の基本知識を修得することにより，条文を理解し，適用・解釈できる読解力を身に付ける。

授業全体の内容と概要

法律の基本となる知識を修得することを目的とし，条文を理解し，適用・解釈できるようになることを目標とする。さらには，法的な問題が生じたとき，迅速かつ的確に対応できる人材を育成することを目標とする。法の基本となる知識を修得し，実例に即し講義を行う。具体的には，日本において法律の基礎となる六つの法典，憲法，民法，商法，刑法，民事訴訟法，刑事訴訟法について，条文をベースに解説する。
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。
「ＳＤＧ１０.人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

授業は，資料をパワーポイントで投影し，資料（第３回から第１４回の計１２回）を配布して実施する（調査学習含む）。授業の進行は，前回の復習から始まり，本日の講義の内容を講義形式で解説を行う。
①確認テストは，講義の理解を深めるために４回（前年実績）実施する。②ビデオ視聴は，課題解決力を養うために２回（前年実績）（受講人数・使用教室などによっては実施しない）実施する。①②についてのフィードバックは，講義内で解説を行う。
※補講が必要な場合は実施する（公欠などの学生に対しては補講を実施する）。
※確認テストなどは、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｆｏｒｍｓの小テストから実施し，学生全体の理解度を把握し，指導する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・私語などの迷惑行為は厳禁。
・講義中スマホの操作は厳禁，マナーモードで受講してください。
・六法を持参することを推奨。
・確認テストやビデオ視聴を実施するので遅刻は慎むこと。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。
・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１０回以上。
※課題の提出等の定期試験以外の割合が単位認定基準の４割を占めるので，１２回以上の出席を推奨。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
法律の条文を読み取り，理解できる	法律の条文を読み取り，理解でき，さらに自分の意見を述べる	法律の条文を読み取り，理解でき，自分なりの説明できる	法律の条文を読み取り，理解できる	法律の条文を読み取れる	法律の条文を読み取れない
事例を理解し，法律の条文を適用できる	事例を理解し，法律の条文を適用し，さらに自分の意見を述べる	事例を理解し，法律の条文を適用し，自分なりの説明できる	事例を理解し，法律の条文を適用できる	事例を理解し，法律の条文を理解できる	事例を読み取れず，法律の条文を理解できない
課題に対し，問題解決ができる	解答が的確で，過不足なく網羅して答えている	一部に解答と関係ないことを答えているが，解答は答えている	改善すべき点があるが，解答は一通り答えている	的確ではないが，解答を部分的には答えている	解答が論点にズレがあり，テーマに対して十分ではない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	法学 （科目ナンバリング：LAW361122 LAW161174 ）				
授業担当者 （所属・職名）	青山　浩之（経営学科・教授）	研究室等所在	１号館４階		
単位数	2 （単位認定責任者： 青山　浩之 ）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ポケット六法　令和７年版』	荒木尚志・森田宏樹／編集代表	有斐閣	２０２５年	9784641009257	
2	『法学入門』	宍戸常寿・石川博康	有斐閣	２０２１年	9784641126183	
3	『大学生活と法学』	江藤祥平・大塚智見・遠藤聡太・栗谷しのぶ・辰野嘉則・田原	有斐閣	２０２２年	9784641126312	
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明 ガイダンス　法とは何か	シラバスの確認（９０分）	復習（９０分）
2	シラバスの説明 ガイダンス　法とは何か－法と道徳，法の目的・種類	シラバスの確認 法とは何かを考える調べ学習（９０分）	復習（９０分）
3	法の適用と解釈－法と裁判 確認テスト１（前年実績）	法と裁判についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分），確認テストの復習
4	日本国憲法の基本原理－基本的人権 確認テスト１講義内で解説（フィードバック）	基本的人権についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
5	日本国憲法の基本原理－権力分立	権力分立二についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
6	日本国憲法の基本原理－国民主権と国会	国民主権と国会についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
7	民法－全体像と基本原理 確認テスト２（前年実績）	民法と基本原理についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分），確認テストの復習
8	民法－契約 確認テスト２講義内で解説（フィードバック）	契約についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
9	民法－権利主体と法律行為 ビデオ視聴１（前年実績）	権利主体と法律行為についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
10	民法－物権 民事訴訟法－全体像と目的 確認テスト３（前年実績） ビデオ視聴１講義内で解説（フィードバック）	物権と民事訴訟法についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
11	会社法－全体像と株式会社のしくみ 確認テスト３講義内で解説（フィードバック）	会社法と株式会社のしくみについての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
12	刑法－法益保護機能と自由保障機能，罪刑法定主義	法益保護機能と自由保障機能，罪刑法定主義についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
13	刑法－犯罪が成立するためのプロセス，行為無価値論と結果無価値論 確認テスト４（前年実績）	犯罪が成立するためのプロセス，行為無価値論と結果無価値論についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分），確認テストの復習
14	刑法－犯罪の構成要件，犯罪の保護法益 刑事訴訟法－全体像と目的 確認テスト４講義内で解説（フィードバック）	犯罪の構成要件，犯罪の保護法益と刑事訴訟法についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
15	まとめ 定期試験の説明 授業改善アンケートの実施 ビデオ視聴２（前年実績）	第３回から第１４回まで復習（９０分）。	試験範囲の確認，第３回から第１４回まで復習（９０分）
16	定期試験（６０分） 定期試験の解説，採点方法の説明 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施 ビデオ視聴２講義内で解説（フィードバック）	試験範囲の確認，第３回から第１４回まで復習（９０分）	復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（M-信濃） （科目ナンバリング：ENL041030　　）				
授業担当者 （所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1　（単位認定責任者：　信濃　吉彦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードまたは連絡用ホワイトボードにて確認すること。				

概要

履修目標

国際化が高度に進行した現代において、国際共通言語としての英語の基礎運用を場面ごとに理解することをし身に付けることを目的とする。具体的には翻訳アプリを併用しながら基本的なコミュニケーションを行うことができる土台（基礎会話および定型・応用表現）の構築を目指す。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

基礎英語Ⅰの内容をさらに深め、「辞書さえあれば英語は大丈夫！」といった自信を持つことができる。加えて、会話力へ繋がる文法事項・表現方法を習得することができる。

授業全体の内容と概要

場面における会話の運用や日常の基礎表現を英語で行うことができるようVoiceTraを併用しながら、学習する。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義形式で授業を行い、教科書やハンドアウトを利用し英語の構造について学習しながら指定アプリを活用して単語数や日常表現を増やす活動を行ってもらう。なお、経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。
指定翻訳アプリ：VoiceTra
＜VoiceTra（ボイストラ）はＮＩＣＴ（エヌアイシーティー：国立研究開発法人情報通信研究機構）が、言葉の壁の克服を目指して開発したスマートフォン用の無料多言語音声翻訳アプリです。＞

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

平常点を重視する。遅刻は２０分までとし２回の遅刻を以って欠席１回とする。特別な理由のない２０分以上の遅刻は欠席扱いとする。また中間試験の代わりに英文日記を課し、採用する。
前向きな課題の提出には、加点する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。初回授業（科目オリエンテーション）終了後に必ず研究室を訪問し相談すること。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

講義による授業形態を採る。教科書・ノート・筆記具を持ってこない学生は欠席とする。また、教科書のない学生は評価の対象としない。１３回以上の出席を基準とし１２回の出席を確保できないものは再履修とする。
平常点にはノートチェックと授業参加度を含む。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	２０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で９２点以上の得点を挙げた。	定期試験で８２点以上の得点を挙げた。	定期試験で７２点以上の得点を挙げた。	定期試験で６０点以上の得点を挙げた。	定期試験で６０点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に課題に取り組み、英語の理解において必要となる文法・語法を学び、英語によるコミュニケーション力の基礎がほぼ確立している。	課題に取り組み、英語の語彙力や文法・語法への理解が深まりつつある。	課題に取り組み、英語によるコミュニケーション力の重要性や基本文法の理解に対する努力が見られる。	課題に取り組み、英語によるコミュニケーションの基礎を理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、英語による情報交換の基本に対する進歩が見られず、自分なりの学習ができていない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら課題解決に取り組み、余った時間をさらなる語彙力・表現力の充実に振り分けている。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談にも常であり国際言語習得に関して前向きで、努力が見られる。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んで国際言語を身につけようとする姿勢が見られない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（M-信濃） （科目ナンバリング：ENL041030　　）				
授業担当者 （所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　信濃　吉彦　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードまたは連絡用ホワイトボードにて確認すること。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『よくわかる英語の基本』	澤井　康佑	開拓社	２０１０	9784758915304	基礎英語Ⅰと同じ
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 英語の構造に関する基本的な考え方（おさらい）VoiceTraとその使い方 「授業改善アンケート結果反映の説明」	専用のノートを準備する（４５分）	自分の弱点確認（４５分）
2	基礎英語Ⅰの復習①	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
3	基礎英語Ⅰの復習②	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
4	日常表現と定型句①	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
5	日常表現と定型句②	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
6	アメリカの大学①	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
7	アメリカの大学②	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
8	テキストの指定範囲を学習する	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
9	テキストの指定範囲を学習する	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
10	テキストの指定範囲を学習する	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
11	テキストの指定範囲を学習する	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
12	テキストの指定範囲を学習する	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
13	テキストの指定範囲を学習する	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
14	ノートチェック	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
15	文法の補足とテストビュー 授業評価アンケートの実施	テキストの指定範囲を読む（４５分）	期末試験に備える(４５分)
16	試験（６０分）及び授業総評（３０分） 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証：手元に辞書さえあれば難解な英文であっても訳す自信がついた	試験準備（１２０分）	授業内容の振り返り（３０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（M-岡島） （科目ナンバリング：ENL041030　　）				
授業担当者 （所属・職名）	岡島　徳昭（経営学科・特任教授）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	1　（単位認定責任者：　岡島　徳昭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

文法、読解、作文などの演習をとおし、英語の運用能力を向上させるとともに、異文化理解を深め、総合的なコミュニケーション能力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

基礎的文法や構文を復習し、英文読解、作文力を身につけ、同時に英語によるコミュニケーション能力を高める。

授業全体の内容と概要

英文を読み読解力、語彙力を培う。文法、構文の復習をとおし、英語運用能力の向上を図る。
「SDGs 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

板書、CDを用い、「聞く」「書く」「話す」「読む」の４技能向上を目指し，学生参加型授業を展開する。中間テスト、定期試験に対する答え合わせ等のフィードバックを実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席重視、テキスト・辞書持参
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	０%	０%	４０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能（発音・語彙・文法・読解等）	定期試験・中間試験で９割以上、文法・語彙に誤りがなく正確に理解していた。	定期試験・中間試験で８割以上、文法・語彙に誤りがほとんどなく大体理解できた。	定期試験・中間試験で７割以上、文法・語彙に若干誤りがあるが理解していた。	定期試験・中間試験で６割以上、文法・語彙に誤りがあり理解できない部分があった。	定期試験・中間試験で６割以下。文法・語彙に誤りが多く理解に問題があった。
思考力・判断力・表現力	表現方法が適切であり誤りがほとんどなかった。	表現方法はほぼ適切で、小さな誤りが若干ある程度だった。	誤りがあるが、表現方法において誤解を生じるほどの大きな誤りはなかった。	表現方法に誤りがあり、自分の意思を伝えることに支障をきたす点があった。	表現方法に誤りが目立ち、自分の意思が伝わらなかった。
参加型授業への取り組み姿勢	大いに意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表も多く積極的だった。	意欲･関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表に努め積極的だった。	ある程度意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。やや積極的だった。	あまり意欲･関心・興味が感じられなかった。無難に授業を消化していた。やや積極性に欠けた。	全く意欲･関心･興味が感じられなかった。遅刻・欠席が目立った。積極性に欠けた。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（M-岡島） （科目ナンバリング：ENL041030　　）				
授業担当者 （所属・職名）	岡島　徳昭（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　岡島　徳昭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『「英検準２級　合格への道」』	坂部俊行、岡島徳昭　他	南雲堂	２０１１	9784523176763	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業の進め方、採点に関すること、その他授業に関するガイダンス。シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 。授業改善アンケート結果反映の説明 Practice Test（P５７）	シラバスを読むこと。 （４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
2	Lesson ７　語句空所補充 読解の基礎練習　Choosing a Pet	リーディングアサイメントと単語学習。（４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
3	Lesson ７　語句空所補充 読解の基礎練習　Choosing a Pet	リーディングアサイメントと単語学習。（４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
4	Lesson ８　語句空所補充 読解の基礎練習　E-mail	リーディングアサイメントと単語学習。（４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
5	Lesson ８　語句空所補充 読解の基礎練習　E-mail	リーディングアサイメントと単語学習。（４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
6	Lesson ９　語句空所補充 読解の基礎練習　Gaming and Relation-ships	リーディングアサイメントと単語学習。（４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
7	Lesson ９　語句空所補充 読解の基礎練習　Gaming and Relation-ships	リーディングアサイメントと単語学習。（４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
8	中間テスト	試験の準備学習。（４５分）	試験の復習。 （４５分）
9	Lesson １０　語句空所補充 読解の基礎練習　Music before Birth	リーディングアサイメントと単語学習。（４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
10	Lesson １０　語句空所補充 読解の基礎練習　Music before Birth	リーディングアサイメントと単語学習。（４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
11	Lesson １１　語句空所補充 読解の基礎練習　E-mail	リーディングアサイメントと単語学習。（４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
12	Lesson １１　語句空所補充 読解の基礎練習　E-mail	リーディングアサイメントと単語学習。（４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
13	Lesson １２　語句空所補充 読解の基礎練習　Crayola Crayo	リーディングアサイメントと単語学習。（４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
14	Lesson １２　語句空所補充 読解の基礎練習　Crayola Crayo	リーディングアサイメントと単語学習。（４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
15	全体復習　Simulation Test（P-７６）	リーディングアサイメントと単語学習。（４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
16	総合評価　定期試験６０分、解説３０分 授業改善アンケートの実施 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	リーディングアサイメントと単語学習。（４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（M-石田） （科目ナンバリング：ENL041030　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石田　暁子（非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	1　（単位認定責任者：　石田　暁子　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

英文法の基本を理解し、練習問題による練習を通して発音と共に身につける。自ら英語で発信できるようになる。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

身近な英語の語彙を覚え、文法の基礎を理解する。英文を読むことができる。

授業全体の内容と概要

英文法の解説、練習問題、リーディングの構成で、簡単な事柄からより高度な内容へと段階的に学んでいく。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

最重要事項は板書によって注意を促し、じっくりと確実に反復学習を進める。発音練習にも力を入れる。各自の理解度を知るため、授業では毎回できるだけ多くの学生を指名し、解答を聞く。テキストのリーディングパートについては必ず予習で翻訳してくることを課題とし、学生は授業で自分の訳に間違いがないかどうかを確認する。最後にまとめたものを教員が最終チェックして返却する。これも評価の対象となる。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教科書は、前期の「基礎英語Ⅰ」と同じものを継続して使用する。一回目の授業から持参すること。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	０%	３０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
英文法の理解度	授業の範囲を超え、関連事項への興味があった。また、自分から発信する意欲が見られる。	授業内容をほぼ理解している。	基本的な文法事項の理解はできていたが、より複雑な事項になると不安がある。	基本的な事項のみ理解できている。	基本的な事項が身についていない。
練習問題や発音練習の参加度	積極的に参加し、授業の進行に貢献していた。	説明をよく聞き、発音練習や練習問題にも真剣に取り組んだ。ミスを指摘された際、自分で訂正することができ、向上が認められた。	発音練習や練習問題に真剣に取り組んだ。	自分の力で問題を解くことをあきらめてしまっていたが、解答を聞いた後に理解しようとする努力がみられた。	授業中の活動に集中できなかった。
課題（英文和訳）への取り組み	予め語や語句の意味を調べ、英文の訳を試みた。疑問点を自覚した上で授業に臨み、解決することができた。	予習にきめ細かさはないが、ほぼ満足な訳ができた。	毎回予習をせず、復習によって　挽回を図ることもあった。	復習だけのことが多く、課題は提出したが、期限を守ることができなかった。	課題を提出しなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（M-石田） （科目ナンバリング：ENL041030　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石田　暁子（非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　石田　暁子　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『英文法の基礎理解』	高橋　哲徳　他	朝日出版社	２０１７	9784255155975	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『英和辞典』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 比較の表現	テキストp.42～45 予習（４５分）	授業内容復習 （４５分）
2	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.46 予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
3	助動詞の基本的用法・過去形	テキストp.47～49 予習（４５分）	授業内容復習 （４５分）
4	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.50 予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
5	受動態	テキストp.51～53 予習（４５分）	授業内容復習 （４５分）
6	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.54予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
7	現在分詞と過去分詞の用法	テキストp.55～58 予習（４５分）	授業内容復習 （４５分）
8	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.59　予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
9	不定詞の基本と用法	テキストp.61～64 予習（４５分）	授業内容復習 （４５分）
10	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.65 予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
11	動名詞の基本と用法	テキストp.67～70 予習（４５分）	授業内容復習 （４５分）
12	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.71 予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
13	接続詞の種類・時制の一致	テキストp.73～76 予習（４５分）	授業内容復習 （４５分）
14	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.77 予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
15	総復習・要点整理	期末試験準備 （４５分）	期末試験準備 （４５分）
16	授業改善アンケートの実施 期末試験（６０分） 講評・解説し、フィードバックする。（３０分） 科目を修了して「身に付く力」の検証	期末試験準備 （４５分）	期末試験内容復習 （４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（M-井坂） （科目ナンバリング：ENL041030　　）				
授業担当者 （所属・職名）	井坂　肇（経営学科・専任講師）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	1　（単位認定責任者：　井坂　肇　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

英文法の基本を理解し、練習問題による練習を通して英語の運用・使い方の基礎を身につける。自ら英語で発信できるようになる。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、DP２、DP５に対応する。

到達目標

身近な英語の語彙・イディオムを習得し、英文法の基礎を理解できる。また、平素な英文の読解ができ、簡単な英文の作成ができるようになる。

授業全体の内容と概要

所定のテキストに基づき、文法事項の解説を加えながら、各項目の練習問題を解き文法事項の定着を図る。
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。世界市民としての意識、さまざまな文化があることなどを理解できる教育をすすめる。

授業の方法

講義形式で授業を行い、教科書やパワーポイントを使用しながら、じっくりと確実に反復学習を進める。英文の暗記によって英語で発信するする力の向上を狙う。文法事項の定着を図るため、講義中に演習課題を行い双方向システムを活用する。さらにはMicrosoft　Formsの小テストから学生全体の理解度を把握し、指導する。学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・１５分以上の遅刻は欠席とみなす
・遅刻２回で欠席１回とする
・授業には必ずテキストを持参すること。
・不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。
教科書・筆記用具を持ってこない学生は欠席とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	０%	３０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
定期試験	定期試験で８０点以上の得点を上げた。	定期試験で６５点以上の得点を上げた。	定期試験で５０点以上の得点を上げた。	定期試験で４０点以上の得点を上げた。	定期試験で４０点をクリアすることができなかった。
英文法の理解度	基礎的な英文をしっかりと書くことができた。	基礎的な英文をほぼ正確に書くことができた。	基礎的な短い英文を大体書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書くことができなかった。
授業に対する取り組み	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組まなかった。積極性や協働性に関して期待される最低限のレベルに到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（M-井坂） （科目ナンバリング：ENL041030　　）				
授業担当者 （所属・職名）	井坂　肇（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　井坂　肇　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『総合英語FACTBOOK　English Grammar　Core Workbook　[New Edition]』	桐原書店編集部　編	桐原商店	2022	9784342207372	
2	『総合英語FACTBOOK　これからの英文法　[New Edition]』	大西泰斗、ポール・マクベイ	桐原書店	2022	9784342207259	
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 基礎英語Ⅱを修了して「身に付く力」についての説明	事前にシラバスを読んでおく （４５分）	シラバスの内容を確認し、授業準備を行う （９０分）
2	第１２章　不定詞（１）	第１２章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
3	第１３章　不定詞（２）	第１３章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
4	第１４章　不定詞（３）	第１４章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
5	第１５章　動名詞（１）	第１５章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
6	第１６章　動名詞（２）	第１６章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
7	第１７章　分詞（１）	第１７章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
8	第１８章　分詞（２）	第１８章の予習 （４５分）	小テスト内容復習 （４５分）
9	小テスト 小テストの結果について授業内でコメントをしてフィードバックする	小テストの準備 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
10	第１９章　比較（１）	第１９章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
11	第２０章　比較（２）	第２０章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
12	第２１章　関係詞（１）	第２１章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
13	第２２章　関係詞（１）	第２２章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
14	第２３章　関係詞（１）	第２３章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
15	期末試験	期末試験準備 （４５分）	期末試験内容復習 （４５分）
16	授業最終回において講評をし、フィードバックする 基礎英語Ⅱを修了して「身に付いた力」について検証する 授業改善アンケートの実施	授業内容予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年、デザイン学科・１年、建築学科・１		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（SDA-西崎） （科目ナンバリング：ENL041030　　）				
授業担当者 （所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1　（単位認定責任者：　西崎　毅　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校の英語科教諭、英語教育改革に係る指導行政担当者としての経験及び国際交流に関する実務経験を活用し、英語の基礎事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

英語の統語構造を理解するとともに、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける。
目的や場面、状況などに応じて情報や考えなどを理解し、表現し、伝えあうことができる力を身に付ける。
主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。

授業の位置づけ

社会福祉・デザイン・建築学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

英語の５つの文型についてその概要を理解できる。
修飾語・句・節についてその概要を理解できる。
英語で簡単な説明を行うことができる。英語を読んだり聞いたりしてその概要を理解することができる。

授業全体の内容と概要

英語がどのような構造で成立しているのか、その法則性はどのようになっているのかについて理解し、相手が発する英語を理解したり、自分の考えを英語で表現したりすることができる能力を育成するために必要な事項を説明するとともに、知識や技能の定着のための演習を行う。英語の四技能をバランスよく育成するため、リスニングの演習や発表活動等を行う。学修集団の英語への興味・関心・習熟度等により、シラバスに記載した学修内容を再構成する場合がある。「SDG4.質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

授業では、学生のPC及びスマートフォンを使用する。授業は原則として英語で行うほか、毎回リスニング演習を行う。一方的な講義とならないよう、学生による発表やグループ活動を行う。学生の理解に資するよう、タブレットの文字記入機能等を活用して説明を行う。学修内容の確実な定着を図るため、毎時間質問の時間を設定する。課題や発表に対しては口頭及びコメントにて評価のフィードバックを行う。要望については口頭及びメール等で対応する。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。教科書は第１Qの基礎英語Ⅰで使用したものを継続して使用する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

○講義の前後に行う学修課題を課すので真剣に取り組むこと。
○授業資料は適切に管理し，学修に役立てること。
○授業資料等は、Microsoft Teams の「投稿欄」の「ファイル」 に格納するので必要に応じてダウンロードすること。（教材の音声データを含む）
○講義中における私的なサイトの閲覧およびＳＮＳ等の使用は禁止する。
○講義中の私語・居眠りは厳に慎むこと。
○講義中の「退室」は、許可を得ること。
○座席は指定しないが、スクリーンの文字が読める座席に着席すること。
○上記以外の授業に関する事項については、担当教員が判断・決定・説明する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

○単位認定に必要な最低出席回数は11回。
○成績評価は、定期試験の点数（６０%）、課題等への対応、講義に臨む姿勢、積極性などの平常点（４０%）を基に総合的に判断して行う。
○受講姿勢及び課題はすべて点数化・集積し、評価に活用する。
○講義中における私的なサイトの閲覧およびＳＮＳ等の使用、私語、居眠り、出席管理システムの不正利用などの授業妨害行為は別途減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で９割以上の得点を上げた。	定期試験で８割以上の得点を上げた。	定期試験で７割以上の得点を上げた。	定期試験で６割以上の得点を上げた。	定期試験で得点が６割に満たなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。英語を使用したコミュニケーションに関しては求められるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。英語を使用したコミュニケーションに関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。英語を使用したコミュニケーションに関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。英語を使用したコミュニケーションに関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組まなかった。英語を使用したコミュニケーションに関して期待される最低限のレベルに到達することができなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組まなかった。積極性や協働性に関して期待される最低限のレベルに到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年、デザイン学科・１年、建築学科・１		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（SDA-西崎） （科目ナンバリング：ENL041030　　）				
授業担当者 （所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1　（単位認定責任者：　西崎　毅　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校の英語科教諭、英語教育改革に係る指導行政担当者としての経験及び国際交流に関する実務経験を活用し、英語の基礎事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『基礎英語Ⅰで使用したテキストを継続使用する。』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス及び科目を修了して「身に付く力」の説明を含む） ５文型の復習①　リスニング・リーディング活動 授業改善アンケート結果反映の説明	英語についての自己の課題を考えておくこと。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
2	５文型の復習② リスニング・リーディング活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
3	５文型の復習③ リスニング・リーディング活動 課題のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
4	準動詞① リスニング・リーディング活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
5	準動詞② リスニング・リーディング活動 課題のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
6	準動詞③ リスニング・リーディング・パフォーマンス活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
7	準動詞④ リスニング・リーディング・パフォーマンス活動 課題のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
8	接続詞① リスニング・リーディング・パフォーマンス活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
9	接続詞② リスニング・リーディング・パフォーマンス活動 課題のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
10	接続詞③ リスニング・リーディング・パフォーマンス活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
11	接続詞④ リスニング・リーディング・パフォーマンス活動 課題のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
12	関係詞① リスニング・リーディング・パフォーマンス活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
13	関係詞② リスニング・リーディング・パフォーマンス活動 課題のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
14	関係詞③ リスニング・リーディング・パフォーマンス活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
15	関係詞④ リスニング・リーディング・パフォーマンス活動 課題のフィードバック、授業改善アンケートの実施	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	前回までの学修内容を復習すること。（４５分）
16	６０分の試験，３０分の解説、講義のフィードバック、科目を修了して「身に付く力」の検証	前回までの学修内容を復習すること。（４５分）	試験結果を参考に自らの学修姿勢を評価すること。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年、建築学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（SDA-宮嶋） （科目ナンバリング：ENL041030　　）				
授業担当者 （所属・職名）	宮嶋　達也（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　宮嶋　達也　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

グローバル化に対応し、多様な人と協働するための表現力やコミュニケーション力を学ぶための英語科目であり、講義と演習（ペアワークとグループワーク）を通じて英語コミュニケーションを学ぶ。文法ベースで初級から徐々に積み上げることで、最終的にはコミュニケーションに生かせる力を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP5に対応する。

到達目標

文法やリスニングを中心にやさしい英語で書かれた文での練習を通じて、英文がどのような構成要素から成り立っているのかを明確に把握する。英会話に最低限必要な語彙力、文法力を身につけて、スピーキング、ライティングなどのアウトプットへの発展を意識する。英語で5分間またはそれ以上、身近なトピックや関心事について、自分の考えや意見を詳しく述べることができる。

授業全体の内容と概要

既存の英語知識を活用させ，スピーキング能力およびスキルを身につけることに焦点を当てるが、４技能を結びつけて総合的に英語力を向上させる授業を行う。最低限必要な語彙力や文法力を身につけながら、テキスト中の表現を利用し、様々なコミュニケーションの構造（挨拶、スモール・トーク、質問する、意見を述べる）を理解し，表現することを目標とする。

授業の方法

授業では英語によるコミュニケーションへ接続するための運用能力を身に着けることを目的とする。テキストの練習問題を解き、疑問点などは個々に対応、或いはクラス全体への解答を解説し学生へのフィードバックを行う。授業中の発表、ペアやグループワーク、ロールプレイでの活動を取り入れ、コミュニケーション能力向上のために、積極的かつ協力的に行う。テキストの音声ファイルを無料でストーミング・ダウンロードし自習用音声として活用する。「ＮＡＵ’ＵＮ－ＤＯ（ｈｔｔｐ://nanun-do.com)提供

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

15分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻２回で欠席1回とします。授業には必ずテキスト、辞書を持参すること。テキストを忘れ、授業前に申し出ない場合は欠席扱いとする。授業計画に基づき、事前に各回の授業範囲の単語などの意味を調べておくこと。授業を休んだ場合は，次の授業までに、休んだ回の授業内容を担当教員又はクラスメートに確認し、課題など必要な情報を入手してください。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定の必要となる最低出席回数は１１回以上とする。授業の参加姿勢も，評価の対象になります。授業活動に積極的に参加することで、授業外での学習成果を実感できます。予習と復習は授業の内容を理解し、学習効果を上げるために必要です。積極的に授業に参加するようにしてください。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	０%	0%	１０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業の理解度	授業内容を完全に理解し、質問に正確に答えられる。授業内容を超えた学修が認められる	ほとんどの内容を理解し、質問に答えられる。授業内容を十分に理解している	基本的な内容を理解し、簡単な質問に答えられる。授業内容を理解している	一部の内容を理解しているが、質問に答えるのが難しい	授業内容の理解が不足し、質問に答えられない。授業内容を理解していない
英語表現能力(スピーキング)	流暢で正確に話し、複雑な内容も自信を持って説明できる	ほぼ流暢に話し、一般的な内容を問題なく説明できる	基本的に話せるが、複雑な表現は難しい	一部話せるが、しばしば言葉に詰まり、内容を伝えるのが難しい	基本的な内容を伝えることができない
授業の積極性	授業全体の流れを理解し、質問・問題提起により授業展開に貢献する	授業全体の流れを理解し、発問に対して積極的に応じる	発問に対して、指名されれば正しく応じることができる	授業に対して理解しようとする態度が見られる	授業に集中できず、授業放棄の態度が見られる
事前・事後学修	自ら進んで学修範囲を超えて調べている	学修範囲を十分に調べて、授業内容を他人に説明できる	学修範囲の理解に曖昧な点がある	指示された範囲の事前・事後学修はするが、理解が不十分である	指示された範囲の事前・事後学修をほとんどせず理解が不十分である。
リスニング技能	授業内で取り扱った単語・表現を完璧に習得し、リスニング技能を問題なく正確に運用できる	授業内で取り扱った単語・表現の大部分を習得し、リスニング技能を正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・表現の大部分を習得し、リスニング技能をほぼ正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・表現を部分的に習得しているが、リスニング技能の運用に不適切な部分が見受けられる。	授業内で取り扱った単語・表現の習得が不十分であり、リスニング技能の運用に不正確さが目立つ。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年、建築学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（SDA-宮嶋） （科目ナンバリング：ENL041030　　）				
授業担当者 （所属・職名）	宮嶋　達也（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　宮嶋　達也　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『Speaking of People』	Peter Vincent	南雲堂	2020	9784523179092	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション　英語他己紹介文作成 シラバスの説明/授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを参照しながらテキスト内容を理解する。（４５分）	授業各回のテーマを理解しておくこと。（４５分）
2	Modal Verbs Ⅰ（法助動詞）	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
3	Modal Verbs Ⅱ（法助動詞）	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
4	Unit 7 Tell Me About Your Family	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
5	Unit 8 Communication	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
6	Unit 9 How Are You Feeling?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
7	Review Units 7-9	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
8	Grammar Present perfect Ⅰ（完了形）	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
9	Grammar Present perfect Ⅱ（完了形）	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
10	中間テスト	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
11	Unit 10 Memories	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
12	Unit 11 How Healthy Are You?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
13	Unit 12 You Can Fly!	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
14	Review Units 10-12	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
15	Review１	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
16	Final Exan.　試験終了後にフィードバック及び授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	試験範囲の復習。（４５分）	試験後に説明を受けた解説を復習。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年、デザイン学科・1年、建築学科1年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（SDA-横田） （科目ナンバリング：ENL041030　　）				
授業担当者 （所属・職名）	横田　肇（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1　（単位認定責任者：　横田　肇　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

学生が英語の基本的な文法・語法を習得し、英語の運用・使い方の基礎を理解する。合わせて、グローバル化の中でのコミュニケーションについて理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP２、DP５に対応する。
デザイン学科のDP１、DP２、DP５に対応する。
建築学科のDP１、DP２、DP５に対応する。

到達目標

１）学生が英語の基礎的な語彙・イディオムの習得、英文法・運用の基礎の理解と習得ができている。
２）平易な英文の読解ができ、簡単な英文の作成ができる能力を身に付けている。
３）平易な英会話ができるようになる。

授業全体の内容と概要

毎回、テキストに即し、英文法の各項目の練習問題を解き、合わせて関連する読解、作文、英会話の練習問題を解く。同時に、必要最小限の説明を加えていく。

授業の方法

毎回、テキストに即し、パワーポイントと板書、配布資料により各項目の全体的な説明（一斉）を行ない、その後、個人・グループワークによる練習問題（課題）の解答を行う。解答後にグループごと、個人ごとに課題の提出を求める。授業の最後にその回と前回の課題へのフィードバック（コメント）と課外学習（宿題）についての指示を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

欠席、遅刻をしないよいうに留意する。やむを得ず欠席する場合は申し出る。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録画・録音を認める。

資格指定科目

保育士養成課程必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	0%	0%	２０%	２０%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
英文法の基礎力	英文法の基礎が完全に理解できており、十分に応用することができた。	英文法の基礎がほぼ理解できており、ある程度応用することができた。	英文法の基礎が大体理解できた。	指示によって英文法の基礎の必要最低限の部分が理解できた。	指示によって英文法の基礎の必要最低限の部分が理解できなかった。
英文読解の能力	テキスト内の英文が完全に理解でき、十分に応用することができた。	テキスト内の英文がほぼ理解でき、ある程度応用することができた。	テキスト内の英文の基礎的な部分が理解できた。	指示によってテキスト内の英文の基礎的な部分が理解できた。	指示によってテキスト内の英文の基礎的な部分が理解できなかった。
英作文の能力	基礎的な英文を正確にしっかりと書くことができた。	基礎的な英文をほぼ正確に書くことができた。	基礎的な短い英文を大体書けた。	指示によって基礎的な短い英文を書けた。	指示によって基礎的な短い英文を書けなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年、デザイン学科・1年、建築学科1年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（SDA-横田） （科目ナンバリング：ENL041030　　）				
授業担当者 （所属・職名）	横田　肇（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1　（単位認定責任者：　横田　肇　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『Simply　Grammar　改訂版』	K.Saito	南雲堂	２０１７	978-4-523-17831-6	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						適宜指示
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明、シラバスの説明、ガイダンス。 この科目で身に付ける力についての説明	シラバスを読んでおく（４５分）	Unit３練習問題の予習（４５分）
2	英文法と英語の運用について（１）未来形 説明と練習。	Unit３練習問題の予習（４５分）	Unit３練習問題の復習（４５分）
3	英文法と英語の運用について（２）未来形 説明と練習。	Unit３練習問題の予習（４５分）	Unit３練習問題の復習（４５分）
4	英文法と英語の運用について（３）助動詞 説明と練習。	Unit４練習問題の予習（４５分）	Unit４練習問題の復習（４５分）
5	英文法と英語の運用について（４）助動詞　　説明と練習。 既習範囲の理解の確認のための小テストを実施し、コメント等によるフィードバックを行う。	Unit４練習問題の予習（４５分）	Unit４練習問題の復習（４５分）
6	英文法と英語の運用について（５）冠詞 説明と練習。	Unit５練習問題の予習（４５分）	Unit５練習問題の復習（４５分）
7	英文法と英語の運用について（６）冠詞 説明と練習。	Unit５練習問題の予習（４５分）	Unit５練習問題の復習（４５分）
8	英文法と英語の運用について（７）代名詞 説明と練習。	Unit６練習問題の予習（４５分）	Unit６練習問題の復習（４５分）
9	英文法と英語の運用について（８）前置詞 説明と練習。	Unit７練習問題の予習（４５分）	Unit７演習問題の復習（４５分）
10	英文法と英語の運用について（９）前置詞　　説明と練習。 既習範囲の理解の確認のための小テストを実施し、コメント等によるフィードバックを行う。	Unit７練習問題の予習（４５分）	Unit７練習問題の復習（４５分）
11	英文法と英語の運用について（１０）接続詞 説明と練習。	Unit８説明文の予習（４５分）	Unit８練習問題の復習（４５分）
12	英文法と英語の運用について（１１）進行形 説明と練習。	Unit９説明文の予習（４５分）	Unit９練習問題の復習（４５分）
13	英文法と英語の運用について（１２）受動態 説明と練習。	Unit１０説明文の予習（４５分）	Unit１０練習問題の復習（４５分）
14	英文法と英語の運用について（１３）完了形　　説明と練習。 既習範囲の理解の確認のための小テストを実施し、コメント等によるフィードバックを行う。	Unit１１説明文の予習（４５分）	Unit１１練習問題の復習（４５分）
15	英文法と英語の運用について（14）完了形 説明と練習。	Unit１１練習問題の予習（４５分）	Unit１１全体の復習（４５分）
16	定期試験。６０分の試験終了後、３０分で解説を行う。授業改善アンケートの実施。 この科目で身に付けた力についての説明。 フィードバック	既習事項の復習（４５分）	既習事項の復習（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年、デザイン学科・１年、建築学科・１		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（SDA-井坂） （科目ナンバリング：ENL041030　　）				
授業担当者 （所属・職名）	井坂　肇（経営学科・専任講師）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	1　（単位認定責任者：　井坂　肇　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

英文法の基本を理解し、練習問題による練習を通して英語の運用・使い方の基礎を身につける。自ら英語で発信できるようになる。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ１、DP２、DP５に対応する。

到達目標

身近な英語の語彙・イディオムを習得し、英文法の基礎を理解できる。また、平素な英文の読解ができ、簡単な英文の作成ができるようになる。

授業全体の内容と概要

所定のテキストに基づき、文法事項の解説を加えながら、各項目の練習問題を解き文法事項の定着を図る。
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。世界市民としての意識、さまざまな文化があることなどを理解できる教育をすすめる。

授業の方法

講義形式で授業を行い、教科書やパワーポイントを使用しながら、じっくりと確実に反復学習を進める。英文の暗記によって英語で発信するする力の向上を狙う。文法事項の定着を図るため、講義中に演習課題を行い双方向システムを活用する。さらにはMicrosoft　Formsの小テストから学生全体の理解度を把握し、指導する。学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・１５分以上の遅刻は欠席とみなす
・遅刻２回で欠席１回とする
・授業には必ずテキストを持参すること。
・不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。
教科書・筆記用具を持ってこない学生は欠席とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	０%	３０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
定期試験	定期試験で８０点以上の得点を上げた。	定期試験で６５点以上の得点を上げた。	定期試験で５０点以上の得点を上げた。	定期試験で４０点以上の得点を上げた。	定期試験で４０点をクリアすることができなかった。
英文法の理解度	基礎的な英文をしっかりと書くことができた。	基礎的な英文をほぼ正確に書くことができた。	基礎的な短い英文を大体書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書くことができなかった。
授業に対する取り組み	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組まなかった。積極性や協働性に関して期待される最低限のレベルに到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年、デザイン学科・１年、建築学科・１		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（SDA-井坂） （科目ナンバリング：ENL041030　　）				
授業担当者 （所属・職名）	井坂　肇（経営学科・専任講師）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	1　（単位認定責任者：　井坂　肇　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『総合英語FACTBOOK　English Grammar　Core Workbook　[New Edition]』	桐原書店編集部　編	桐原商店	2022	9784342207372	
2	『総合英語FACTBOOK　これからの英文法　[New Edition]』	大西泰斗、ポール・マクベイ	桐原書店	2022	9784342207259	
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 基礎英語Ⅱを修了して「身に付く力」についての説明	事前にシラバスを読んでおく （４５分）	シラバスの内容を確認し、授業準備を行う （９０分）
2	第１２章　不定詞（１）	第１２章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
3	第１３章　不定詞（２）	第１３章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
4	第１４章　不定詞（３）	第１４章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
5	第１５章　動名詞（１）	第１５章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
6	第１６章　動名詞（２）	第１６章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
7	第１７章　分詞（１）	第１７章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
8	第１８章　分詞（２）	第１８章の予習 （４５分）	小テスト内容復習 （４５分）
9	小テスト 小テストの結果について授業内でコメントをしてフィードバックする	小テストの準備 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
10	第１９章　比較（１）	第１９章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
11	第２０章　比較（２）	第２０章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
12	第２１章　関係詞（１）	第２１章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
13	第２２章　関係詞（１）	第２２章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
14	第２３章　関係詞（１）	第２３章の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
15	期末試験	期末試験準備 （４５分）	期末試験内容復習 （４５分）
16	授業最終回において講評をし、フィードバックする 基礎英語Ⅱを修了して「身に付いた力」について検証する 授業改善アンケートの実施	授業内容予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	簿記論 （科目ナンバリング：ACC411007，ACC511004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	岩立　顕一郎（経営学科・専任講師）		研究室等所在	1号館4階	
単位数	2　（単位認定責任者：　岩立　顕一郎　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	北海道の地域金融機関に勤務し、地域の生協法人やNPO法人やに対して金融支援を行った経験や一般財団法人へ出向し、経理財務全般を担当した経験に基づき、簿記に関する理論と実務を総合的に取り上げる。		
オフィスアワー	初回講義で説明。または研究室前の掲示等を参照。				

概要

履修目標

簿記とは、企業の取引を一定のルールに従って、記録、計算および整理し、報告書を作成する一連の手続きのことであり、広く社会的にも重要な役割を果たしている。また、簿記の基本原理は、会計学の理論的な側面を理解するためにも重要な基礎となる。
本講義は、簿記の一連の手続きを理解し、財務諸表（損益計算書・貸借対照表）の作成と読解できることを身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

・５つの勘定（資産・負債・資本・収益・費用）の意味を理解し、具体的な簿記一巡の手続きを習得する。
・決算手続きを理解し、財務諸表（貸借対照表・損益計算書）を作成することができる。
・完成した財務諸表（貸借対照表・損益計算書）を読み取ることができる。

授業全体の内容と概要

本講義は、簿記・会計の初心者を対象に、商業簿記に関する授業を行い、簿記の仕組みを基礎から学ぶ。
授業中は、テキストの解説のみならず、設例を用いた解説や演習問題に解答する時間を設ける。
授業では、小テストを毎回実施する。小テストの提出をもって、出欠確認を行う。
小テストの解答状況や質問欄に記載された内容は、次回以降の授業に反映していく。

授業の方法

簿記の学習は、実際に自分で問題を解くことで、体得するという性質がある。したがって、講義内では、問題演習を積極的に行う。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。
欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供することがあり得る。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

簿記は、学習の積み重ねが必要な科目であるため、講義には毎回出席すること。また、復習を欠かさず行うこと。
シラバス記載のテキストは、2024年4月時点の最新版を使用する。このテキストは、通常の書店では販売しておらず、また買い間違えを防ぐため、全学の教科書購入サイトを通じて購入すること。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。
「評価方法」にある平常点（30%）は、小テストで評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	３０%	０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
５つの勘定（資産・負債・資本・収益・費用）を理解し、正しい金額を算定できる。	簿記の一連の手続きを理解した上で、即座に資料から勘定の計算ができる。	簿記の一連の手続きを理解した上で、時間内に資料から勘定の計算ができる。	簿記の一連の手続きを理解した上で、時間をかけつつも、資料から勘定の計算ができる。	勘定科目を5つの勘定（資産・負債・資本・収益・費用）に分類できる。	勘定科目を5つの勘定（資産・負債・資本・収益・費用）に分類できなかった。
決算手続きを理解できる。	決算手続きを理解した上で、速やかに財務諸表を作成することができる。	決算手続きを理解した上で、時間内に財務諸表を作成することができる。	決算手続きを理解した上で、時間をかけつつも、財務諸表を作成することができる。	決算手続きを最低限理解している。	決算手続きを理解できなかった。
財務諸表の内容を理解できる。	財務諸表の内容に基づき、基本的な経営分析ができる。	異なる会計期間の財務諸表を比較し、その違いや特徴を説明できる。	異なる会計期間の財務諸表を比較し、その違いや特徴に気づくことができる。	財務諸表に記載されている内容を最低限理解している。	財務諸表に記載されている内容を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	簿記論 （科目ナンバリング：ACC411007，ACC511004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	岩立　顕一郎（経営学科・専任講師）		研究室等所在	1号館4階	
単位数	2　（単位認定責任者：　岩立　顕一郎　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	北海道の地域金融機関に勤務し、地域の生協法人やNPO法人やに対して金融支援を行った経験や一般財団法人へ出向し、経理財務全般を担当した経験に基づき、簿記に関する理論と実務を総合的に取り上げる。		
オフィスアワー	初回講義で説明。または研究室前の掲示等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『日商簿記3級テキスト・問題集・解答集3冊セット』	片山覚 監修	カリアック	2023年		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（簿記概論） シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスとテキストの序文を読んでおく（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
2	資産・負債・資本と貸借対照表	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
3	収益・費用と損益計算書	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
4	仕訳と総勘定元帳への転記	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
5	試算表の作成	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
6	決算手続き	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
7	現金・預金	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
8	商品売買	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
9	売上債権・仕入債務	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
10	有形固定資産	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
11	株式会社の資本と税金	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
12	決算整理（1） 売上原価・貸倒れ・減価償却	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
13	決算整理（2） 収益・費用の前払・前受・未収・未払	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
14	財務諸表の作成	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
15	総復習と問題演習 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	これまでの内容を復習する（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
16	定期試験と解説（６０分の試験終了後、残りの３０分で解説）	これまでの内容を復習する（９０分）	定期試験の解説内容を確認する（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1　（単位認定責任者：　竹内　美帆　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

マンガ、アニメを中心としたポピュラーカルチャーに関する様々な現象、表現、歴史を考えることを通して、大学での学修に必要な基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習によって学ぶ。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

マンガを中心とした表現の特性や、専門用語などの知識を身に着け理解する。
文献や資料を考察するための基礎能力を身につける。
ディスカッションや発表などを通じて、大学で学ぶための基礎的な学力（プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など）を身につける。

授業全体の内容と概要

マンガを中心としたトピックについての講義やグループワーク、ディスカッションを行い、作品の読解の仕方、文献調査の方法や発表資料のつくり方などを学ぶ。
後半では、各自でマンガやアニメ、ゲームなどのポピュラーカルチャーについて調査分析を行い、発表・ディスカッションを行う。

授業の方法

授業ではパワーポイントや配布資料のほか、DVDなどの視聴覚メディアなどを用い、講義形式だけでなく、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションなどを行う。
授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点･質問は､チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

自ら行う資料調査では、図書館などの機関を積極的に利用すること。個人発表では、自ら行った調査について短い時間でプレゼンテーションを行う。授業内でグループワークやディスカッションなどを行うので、積極的に参加すること。
授業の内容は、集まった参加者の興味・関心等に合わせ適宜変更する可能性がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	３０%	０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業内容の理解	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
文献や資料の調査・活用	授業で取り上げた資料を越えて、独自性のある調査ができた。	授業で取り上げた資料を越えて、必要な調査ができた。	授業で取り上げた資料を理解し活用できた。	授業で取り上げた資料を理解できた。	授業で取り上げた資料の理解・活用が不十分だった。
表現力（プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力）	授業で学んだことを超えて、自分の視点について他者に伝わりやすく述べ、他者と積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の視点について述べ、積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の意見を述べることができた。	促されれば自分の意見や考えを述べることができた。	授業内で自分の意見を述べられなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1　（単位認定責任者：　竹内　美帆　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　オリエンテーション　自己紹介など 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
2	学内施設・システムの活用方法（１）文献調査の方法	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
3	学内施設・システムの活用方法（２）図書館の活用方法	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
4	マンガの特徴について考える(1)メディア	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
5	マンガの特徴について考える(２）表現　ジャンル	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
6	マンガの特徴について考える（３）アニメーションとの比較	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
7	読解の仕方、調査・発表資料のつくり方を学ぶ（１）マンガ作品の分析	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
8	読解の仕方、調査・発表資料のつくり方を学ぶ（２） プレゼンテーションの方法	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
9	読解の仕方、調査・発表資料のつくり方を学ぶ（１） 資料のまとめ方	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
10	個人発表（１）	個人発表の準備をする（45分）	個人発表の振り返りをする（45分）
11	個人発表（２）	個人発表の準備をする（45分）	個人発表の振り返りをする（45分）
12	個人発表（３）	個人発表の準備をする（45分）	個人発表の振り返りをする（45分）
13	個人発表（４）	個人発表の準備をする（45分）	個人発表の振り返りをする（45分）
14	レポートの書き方について	レポート作成の準備をする（45分）	レポートを作成する（45分）
15	期末レポート提出 まとめ	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく（45分）	授業内容を復習する（45分）
16	期末レポートの解説　フィードバック 授業改善アンケート実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく（45分）	授業内容を復習する（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	後藤　啓倫（社会福祉学科・専任講師）	研究室等所在	１号館４階		
単位数	1　（単位認定責任者：　後藤　啓倫　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

大学での学修の基礎になる、文献の読み方、プレゼンテーションの仕方、ディスカッションの仕方、レポートの書き方等の技能を修得する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

自分で調べたことをレジュメやパワーポイントを使用して効果的にプレゼンテーションできる。
学修の基礎となる読解力や要約力、文章構成力や論理的思考力を身につける。
自主的に学び、情報収集・分析し、課題解決のための方策を他者と協力しつつ考える能力を身につける。

授業全体の内容と概要

大学生として必要な①講義の受け方・レポート作成方法といった学修のためのスキル、②自発的に問題を発見し解決する力といった能力と姿勢を修得するために、このゼミナールでは、学生自身によるテキストの読解、内容の報告、参加者によるディスカッション、レポートの作成を行う。

授業の方法

授業は次のように進める。
①報告者はテキストの内容要約と議論すべきポイントに関するプレゼンテーションを行う。
②司会役の進行の下、報告者のプレゼン内容について参加者全員でディスカッションをする。
③担当教員による講評を行う。
④レポート作成に向けた準備を進める。
輪読するテキストは、社会福祉に関する文献のなかから受講生と相談の上で決める。
Teamsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎回出席することが前提となるが、やむを得ず欠席する場合には、担当教員に必ず事前連絡すること。無断欠席は厳禁。
自主的な参加が求められるので、テキストは必ず事前に読んでおくこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自分で調べたことをレジュメやパワーポイントを使用して効果的にプレゼンテーションできる。	プレゼンテーション等において、高いレベルで問題の核心を理解し、発表することができた。	プレゼンテーション等において、的確に問題の核心を理解し、発表することができた。	プレゼンテーション等において、ある程度、問題の核心を理解し、発表することができた。	プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、発表することができた。	プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、発表することができなかった。
学修の基礎となる読解力や要約力、文章構成力や論理的思考力を身につける。	独創的な着眼点で設定されたテーマに基づいてレポートを作成することができた。	工夫を凝らして設定されたテーマに基づいてレポートを作成することができた。	ある程度テーマ設定ができたレポートを作成することができた。	テーマ設定ができたレポートを作成することができた。	レポートを作成することができなかった。
自主的に学び、情報収集・分析し、課題解決のための方策を他者と協力しつつ考える能力を身につける。	積極的にディスカッションに参加し、リーダーシップを発揮できた。	他者と協力しながら積極的にディスカッションに参加することができた。	積極的にディスカッションに参加することができた。	ディスカッションに参加することができた。	ディスカッションに参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	後藤　啓倫（社会福祉学科・専任講師）	研究室等所在	１号館４階		
単位数	1　（単位認定責任者：　後藤　啓倫　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						相談の上決定。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						適宜指示する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
2	自己紹介、アイスブレイク、テキストの決定	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
3	テキストの内容報告とディスカッション（1）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
4	テキストの内容報告とディスカッション（2）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
5	テキストの内容報告とディスカッション（3）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
6	テキストの内容報告とディスカッション（4）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
7	テキストの内容報告とディスカッション（5）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
8	テキストの内容報告とディスカッション（6）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
9	テキストの内容報告とディスカッション（7）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
10	テキストの内容報告とディスカッション（8）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
11	テキストの内容報告とディスカッション（9）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
12	テキストの内容報告とディスカッション（１０）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
13	レポートの進捗状況の報告（1）	関連資料の収集（４５分）	議論内容の整理（４５分）
14	レポートの進捗状況の報告（2）	関連資料の収集（４５分）	議論内容の整理（４５分）
15	レポート作成	レポート（課題）の準備（４５分）	レポート（課題）の準備（４５分）
16	レポート提出、レポートを添削し返却してフィードバックする、科目を修了して『身に付く力』についての検証	レポート（課題）の準備（４５分）	レポート（課題）の仕上げ（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	戸佐　晃一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　戸佐　晃一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

本授業では、、学生生活において健康の保持増進を目指すために必要な食事（栄養）、睡眠、運動などについて理解を深める。また、人体の構造と機能について理解を深めることで、生活習慣との関係性についても学習する。
健康の保持増進に向けて運動習慣、食生活・睡眠の見直しなどを実践し健康的な学生生活を身につける。
また、生涯にわたって運動習慣（軽スポーツ）を継続することを身につけ、高齢になっても健康で長寿であることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

各自、無理のない体力・健康目標を設定し、健康で活力ある学生生活を送るために必要な食事・睡眠・運動の正しい知識を学び健康の維持・増進を実践できるようにする。

授業全体の内容と概要

各自自分自身の食生活・睡眠・運動について健康状態を把握する。
各自人体の脳や骨格・筋肉・内臓臓器の構造や機能を理解し健康の維持増進に努める。
各自栄養素について理解を深め健康的な学生生活を送るために食生活を見直す。

授業の方法

DVDなど動画を参考に基本的な人体の構造や機能を理解する。
グループワークで互いが課題の発見や指摘をし合い、ディスカッションを通して正しい理解ができるように進めていく。
Teamsを活用して連絡・レポート提出を行う。
なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

受講者数10人まで
受講条件は運動部活動に所属していること、事前に面談をした学生

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	30%	30%	０％	40%	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
人体の骨格の構造や機能の理解	人体の骨格の構造や機能を良く理解している	人体の骨格の構造や機能をほぼ理解している	人体の骨格の構造や機能をある程度理解している	人体の骨格の構造や機能を理解している	人体の骨格の構造や機能を理解していない
人体の筋肉の構造や機能の理解	人体の筋肉の構造や機能を良く理解している	人体の筋肉の構造や機能をほぼ理解している	人体の筋肉の構造や機能をある程度理解している	人体の筋肉の構造や機能を理解している	人体の筋肉の構造や機能を理解していない
人体の脳の構造や機能の理解	人体の脳の構造や機能を良く理解している	人体の脳の構造や機能をほぼ理解している	人体の脳の構造や機能をある程度理解している	人体の脳の構造や機能を理解している	人体の脳の構造や機能を理解していない

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	戸佐　晃一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　戸佐　晃一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身につく力」の説明） 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく（４５分）	ガイダンス内容を理解しておく（４５分）
2	個人面談（履修方法・時間割・学生生活）	履修方法・時間割を確認しておく（４５分）	履修方法・時間割を把握しておく（４５分）
3	個人面談（履修方法・時間割・学生生活）	履修方法・時間割を確認しておく（４５分）	履修方法・時間割を把握しておく（４５分）
4	人体の骨格の構造や機能の理解Ⅰ	人体の骨格の構造や機能を確認しておく（４５分）	人体の骨格の構造や機能を理解しておく（４５分）
5	人体の骨格の構造や機能の理解Ⅱ	人体の骨格の構造や機能を確認しておく（４５分）	人体の骨格の構造や機能を理解しておく（４５分）
6	人体の骨格の構造や機能の理解Ⅲ	人体の骨格の構造や機能を確認しておく（４５分）	人体の骨格の構造や機能を理解しておく（４５分）
7	人体の筋肉の構造や機能の理解Ⅰ	人体の筋肉の構造や機能を確認しておく（４５分）	人体の筋肉の構造や機能を理解しておく（４５分）
8	人体の筋肉の構造や機能の理解Ⅱ	人体の筋肉の構造や機能を確認しておく（４５分）	人体の筋肉の構造や機能を理解しておく（４５分）
9	人体の筋肉の構造や機能の理解Ⅲ	人体の筋肉の構造や機能を確認しておく（４５分）	人体の筋肉の構造や機能を理解しておく（４５分）
10	人体の筋肉の構造や機能の理解Ⅳ	人体の筋肉の構造や機能を確認しておく（４５分）	人体の筋肉の構造や機能を理解しておく（４５分）
11	人体の脳の構造や機能の理解Ⅰ	人体の脳の構造や機能を確認しておく（４５分）	人体の脳の構造や機能を理解しておく（４５分）
12	人体の脳の構造や機能の理解Ⅱ	人体の脳の構造や機能を確認しておく（４５分）	人体の脳のを理解してお構造や機能く（４５分）
13	人体の脳の構造や機能の理解Ⅲ	人体の脳の構造や機能を確認しておく（４５分）	人体の脳の構造や機能を理解しておく（４５分）
14	人体の脳の構造や機能の理解Ⅳ	人体の脳の構造や機能を確認しておく（４５分）	人体の脳の構造や機能を理解しておく（４５分）
15	まとめ 授業改善アンケート結果反映の説明	授業内容を振り返り確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
16	フィードバック 科目を修了して「身につく力」の検証	授業内容を振り返り確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	米野　宏（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　米野　宏　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における体育・健康・スポーツ関係の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

大学での勉強を進めるにあたり、必要となる文章読解力のほか、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力の向上を身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

自分でテーマを設定し、文章にまとめることができる。
グループ内でのコミュニケーションを図ることができ、リーダーシップを発揮できる。
テーマに基づきプレゼンテーションをすることができる。

授業全体の内容と概要

授業の前半は、小論文・レポートを作成し発表する。また、発表に対して討議したり、ディスカッションを行う。
後半は、特定のテーマでプレゼンテーションを行い、質疑応答やディスカッションも行う。
人前で話すための準備をし、解り易く、興味深い内容を考える。

授業の方法

小論文、レポートの書き方については、板書または資料にて説明する。提出されたレポートについては、添削及び内容の評価とともにフィードバックする。
グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、新聞やインターネットによるニュース等を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は、欠席扱いとする。
対話する機会が多いので、積極的な発言や能動的な授業態度で臨むこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	１０％	１０％	０％	７０％	１０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コミュニケーション能力	仲間とのコミュニケーションを図る方法がとても巧みにおこなえた。	仲間とコミュニケーションを図ることが比較的巧みにできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが普通にできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが上手ではないが努力した。	仲間とコミュニケーションを図ることがとても苦手であった。
ディスカッション能力	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取れた。	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップもまずまず取れた。	討議の中で、対話を巧みにできたが、リーダーシップをとるまではいかなかった。	討議の中で、対話をすることが普通にできた。	討議の中で、対話をすることが苦手で、ほとんど受け身でおわった。
プレゼンテーション能力	パワーポイント等を巧みに使い、解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、比較的解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、解り易くプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、プレゼンテーションを行ったが、多少伝わらなかった。	プレゼンテーションの準備がほとんどできていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	米野　宏（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　米野　宏　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における体育・健康・スポーツ関係の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認する。（４５分）	注意事項を確認する。（４５分）
2	レポートの作成 （スポーツと私）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
3	発表と意見交換　１	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
4	発表と意見交換　２	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
5	発表と意見交換　３	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
6	ニュースポーツを考える（屋外競技）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
7	ニュースポーツを考える（屋内競技）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
8	プレゼンテーションの準備　１ （グループに分かれて）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
9	プレゼンテーションの準備　２ （グループに分かれて）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
10	プレゼンテーション　（屋外競技）　１	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
11	プレゼンテーション　（屋外競技）　２	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
12	プレゼンテーション　（屋外競技）　３	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
13	プレゼンテーション　（屋内競技）　１	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
14	プレゼンテーション　（屋内競技）　２	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
15	プレゼンテーション　（屋内競技）　３	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
16	ふりかえり 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	ノートに記載された内容を再度確認する。（４５分）	評価等の内容を確認を確認する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　和裕（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　佐藤　和裕　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

「健康とスポーツ」というテーマを基に、学生と教員双方の人間関係を築き、また大学での学習を進めるにあたり、コミュニケーション能力や思考力・判断力・表現力の能力及び意欲を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

健康とスポーツについて理解し知識を身に付け、自分に必要な課題探求の道筋を明らかにする事ができる。

授業全体の内容と概要

授業の前半は自立学習シートのレポートを作成し発表する。発表に対してディスカッションを行う。後半はグループでテーマを決めプレゼンテーションを行い、質疑応答も行う。
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

授業は配布資料で実施し、レポートの書き方については板書または資料にて説明する。授業によってはグループワークで思考・考察・発表を行い学習していく。課題や発表に対する評価のフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は欠席扱いとする。欠席をする場合は必ず事前に連絡すること。
注意事項の詳細についてはガイダンスにて説明する。
発表と意見交換の機会が多いので、主体的で能動的な姿勢で取り組むこと。
経営学科のラグビー部所属学生を対象とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	１０％	１０％	０％	８０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	健康とスポーツについての基礎的な知識を深く理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識をおおむね理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識を比較的理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識を多少理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
主体的・多様性・協調性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　和裕（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　佐藤　和裕　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく（４５分）	ガイダンスの内容を理解しておく（４５分）
2	自立学習シートの作成（自己紹介）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
3	自立学習シートの作成（高校の思い出）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
4	自立学習シートの作成（本学を選び、本学で学びたい理由）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
5	自立学習シートの作成（自分の将来について）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
6	自立学習シートの作成（自分の健康について）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
7	自立学習シートの作成（大学生に必要なことは何か）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
8	自立学習シートの作成（どのような学生生活を送りたいか）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
9	プレゼンテーションの準備（グループ別）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
10	「健康とスポーツ」について考える（グループワーク）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
11	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
12	「生涯スポーツ」について考える（グループワーク）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
13	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
14	「生活と健康」について考える（グループワーク）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
15	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
16	まとめ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	ノートに記載された内容を復習し理解する。（４５分）	評価の内容を確認し自己評価を行うこと。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　三嶋　康嗣　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における健康・スポーツ関連の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

大学での勉強を進めるにあたり、必要となる文章読解力のほか、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力の身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

自分でテーマを設定し、文章にまとめることができる。
グループ内でのコミュニケーションを図ることができ、リーダーシップを発揮できる。
テーマに基づきプレゼンテーションをすることができる。

授業全体の内容と概要

授業の前半は、小論文・レポートを作成し発表する。また、発表に対して討議したり、ディスカッションを行う。
後半は、特定のテーマでプレゼンテーションを行い、質疑応答やディスカッションも行う。
人前で話すための準備をし、解り易く、興味深い内容を考える。

授業の方法

小論文、レポートの書き方については、板書または資料にて説明する。提出されたレポートについては、添削及び内容の評価とともにフィードバックする。
グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、書籍や新聞、インターネット等の情報を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は、欠席扱いとする。
対話する機会が多いので、積極的な発言や能動的な授業態度で臨むこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	１０%	１０%	０%	７０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コミュニケーション能力	仲間とのコミュニケーションを図る方法がとても巧みにおこなえた。	仲間とコミュニケーションを図ることが比較的巧みにできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが普通にできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが上手ではないが努力した。	仲間とコミュニケーションを図ることがとても苦手であった。
ディスカッション能力	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取れた。	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップもまずまず取れた。	討議の中で、対話を巧みにできたが、リーダーシップをとるまではいかなかった。	討議の中で、対話をすることが普通にできた。	討議の中で、対話をすることが苦手で、ほとんど受け身でおわった。
プレゼンテーション能力	パワーポイント等を巧みに使い、解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、比較的解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、解り易くプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、プレゼンテーションを行ったが、多少伝わらなかった。	プレゼンテーションの準備がほとんどできていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　三嶋　康嗣　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における健康・スポーツ関連の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認する。（４５分）	注意事項を確認する。（４５分）
2	レポートの作成 （スポーツとの関わり）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
3	発表と意見交換　１	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
4	発表と意見交換　２	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
5	発表と意見交換　３	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
6	スポーツを考える（ゴール型競技）　１	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
7	スポーツを考える（ゴール型競技）　２	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
8	スポーツを考える（ネット型競技）　１	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
9	スポーツを考える（ネット型競技）　２	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
10	プレゼンテーションの準備　１ グループ別ディスカッション	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
11	プレゼンテーションの準備　２ グループ別ディスカッション	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
12	プレゼンテーション　（ゴール型競技）　１	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
13	プレゼンテーション　（ゴール型競技）　２	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
14	プレゼンテーション　（ネット型競技）　１	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
15	プレゼンテーション　（ネット型競技）　２	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
16	ふりかえり 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	ノートに記載された内容を再度確認する。（４５分）	評価等の内容を確認を確認する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	井坂　肇（経営学科・助教）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　井坂　肇　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

スポーツパフォーマンス（主として野球における投球）を最大化するために、データを活用しながら不足している体力要素を特定していく。さらには、その体力要素の向上のためのトレーニング方法を理解する。科学的なエビデンスに基づいたトレーニングを行うために、論文を読めるようにする。エビデンスに基づいたトレーニングを身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

トレーニング理論について理解できる。
課題解決のために他者と討議することができる。
トレーニングを実践することができる。
論文を読んで内容について理解することができる。

授業全体の内容と概要

スポーツパフォーマンスを最大化するために、データを活用しながらトレーニングを進めていく。論文を読み、科学的なエビデンスに基づいたトレーニングを行う。

授業の方法

講義はパワーポイント及び配布物資料で実施し、資料にて説明した後、グループワークを行う。データやトレーニング方法について考察し、他者と共有する機会を設ける。
学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。
トレーニングデータ不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１５分以上の遅刻は欠席とみなす。
遅刻２回で１回の欠席とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	３０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
科学的なエビデンスに基づいたトレーニングの理解	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べ、まとめていた。また様々なケースにおいて採用されたトレーニングの方法について意見を持てていた。	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べ、まとめていた。	トレーニング理論を説トレーニングを構成する様々な要素について調べていた。	トレーニング理論を説明できた。	トレーニング理論を説明できなかった。
他者との討議	他者と討議しながら解決のための具体策を提示的ると共に、意見を集約してまとめることができた。さらには新たな課題を自ら発見し、他者との討議の場を生み出すことができた。	他者と討議しながら解決のための具体策を提示的ると共に、意見を集約してまとめることができた。	他者と討議しながら解決のための具体策を提示できた。	他者と討議できた。	他者と討議できなかった。
データに対する思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを達成した。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	井坂　肇（経営学科・助教）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	1　（単位認定責任者：　井坂　肇　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく（４５分）	シラバスの内容を理解しておく（４５分）
2	エビデンスに基づいたトレーニング① 論文の読み方①	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
3	エビデンスに基づいたトレーニング② 論文の読み方②	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
4	エビデンスに基づいたトレーニング③ 論文の読み方③	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
5	エビデンスに基づいたトレーニング④ 論文の読み方④	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
6	トレーニングデータの収集と理解① データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
7	トレーニングデータの収集と理解② データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
8	トレーニングの実践①	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
9	トレーニングの実践②	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
10	トレーニングデータの収集と理解③ データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
11	トレーニングデータの収集と理解④ データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
12	トレーニングの実践③	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
13	トレーニングの実践④	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
14	トレーニングデータの収集と理解⑤ データ解釈のグループワーク グループワークの成果についてフィードバックを行う	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
15	エビデンスに基づいたトレーニング⑤ 論文の読み方⑤	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
16	まとめ（科目を修了して「身に付く力」の検証） 授業改善アンケートの実施 提出された課題に対してフィードバックを行う	講義全体を振り返り質問事項をまとめておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石井　祐治(経営学科・専任講師)	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　石井　祐治　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

陸上競技（駅伝）を通じて、生活の多様な側面から人間の生活と健康を理解し、より健康な生活を創りだして行くための必要な知識を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

陸上競技（駅伝）を通じて、家族、個人という様々なレベルにおける健康的な生活について理解し、知識を身につけ、健康観について一層関心を持つことができる。

授業全体の内容と概要

陸上競技（駅伝）を通じて、生活の多様な側面に焦点を当て、個人、家族、地域社会という様々なレベルにおける人間の健康的な生活について詳しく解説する。
知識と技能を身につけて指導力を身につけさせる。

授業の方法

資料を通読し、その内容にかかわった説明や質疑応答及びディスカッションを行います。板書や教材提示装置を活用します。健康に関するキーワードについての調べ学修及びその発表を行います。課題や発表等に対応するフィードバックや要望等への対応は、小人数集団の利点を生かし、口頭で行います。不測の事態の際に授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は欠席とみなします。
遅刻3回で欠席1回とみなします。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１３回以上
陸上競技の知識と技能を身につけたか大会等の結果を重視する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	80%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	陸上（駅伝）を通じて、健康についての基礎的な知識を深く理解して身につける事ができた。	陸上（駅伝）を通じて、健康についての基礎的な知識をおおむね理解して身につける事ができた。	陸上（駅伝）を通じて、健康についての基礎的な知識を比較的理解して身につける事ができた。	陸上（駅伝）を通じて、健康についての基礎的な知識を多少理解して身につける事ができた。	陸上（駅伝）を通じて、健康についての基礎的な知識を理解して身につける事ができなかった。
思考力・判断力・表現力	陸上（駅伝）を通じて、健康の基本を踏まえた健康内容の展開について十分に考察できた。	陸上（駅伝）を通じて、健康の基本を踏まえた健康内容の展開につておおむね考察できた。	陸上（駅伝）を通じて、健康の基本を踏まえた健康内容の展開について比較的考察できた。	陸上（駅伝）を通じて、健康の基本を踏まえた健康内容の展開につて多少考察できた。	陸上（駅伝）を通じて、健康の基本を踏まえた健康内容の展開につて考察できなかった。
主体的に取り組む態度	陸上（駅伝）を通じて、健康の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できる能力を身につける事ができた。	陸上（駅伝）を通じて、健康の多様な展開について理解したことをおおむねわかりやすく説明できた。	陸上（駅伝）を通じて、健康の多様な展開について理解したことを比較的わかりやすく説明できた。	陸上（駅伝）を通じて、健康の多様な展開について理解したことを多少わかりやすく説明できた。	陸上（駅伝）を通じて、健康の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石井　祐治(経営学科・専任講師)	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　石井　祐治　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　「シラバスの説明」 身に付く力をつけるための授業内容の説明 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認にする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
2	陸上競技（駅伝）を通じて、人間の生活と健康の調査説明①	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
3	陸上競技（駅伝）を通じて、人間の生活と健康の調査②	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
4	陸上競技（駅伝）を通じて、人間の生活と健康の調査③	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
5	陸上競技（駅伝）を通じて、人間の生活と健康の調査④	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
6	陸上競技（駅伝）を通じて、人間の生活と健康の調査⑤	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
7	陸上競技（駅伝）を通じて、人間の生活と健康の調査⑥	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
8	陸上競技（駅伝）を通じて、人間の生活と健康の調査（まとめ）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
9	陸上（駅伝）と健康プログラムを素材にした発表会・討議①	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
10	陸上（駅伝）と健康プログラムを素材にした発表会・討議②	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
11	陸上（駅伝）と健康プログラムを素材にした発表会・討議③	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
12	陸上（駅伝）と健康プログラムを素材にした発表会・討議④	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
13	陸上（駅伝）と健康プログラムを素材にした発表会・討議⑤	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
14	陸上（駅伝）と健康プログラムを素材にした発表会⑥	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
15	陸上（駅伝）と健康プログラム調査・講評	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
16	（まとめ） 授業に係る講評・解説によるフィードバック 学習内容を身に付ける事ができたかをフィードバックして検証 授業改善アンケートの実施	ノートに記載された内容を再復習し、理解する。（４５分）	解説の内容を確認する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	篠原　諒介（経営学科・専任講師）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　篠原　諒介　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

国際的に活躍するエリートアスリートとともに働く世界の著名なスポーツ科学者達のリカバリーに関する最新の科学的データを理解し身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

「パフォーマンスを向上させたい」，「オーバーリーチングや怪我を予防したい」と考えているすべてのアスリートやコーチを目指している学生のために，科学的なエビデンスに基づいた情報，また，エリートスポーツに携わるコーチやスポーツ科学者が，成功へと導いた競技現場でのリカバリーの応用例を実践する．

授業全体の内容と概要

すべてのアスリートやコーチを目指している学生がトレーニングや試合などの競技活動におけるオーバーロードや怪我のリスクを低下させ，最終的にはそれぞれのパフォーマンスを改善するリカバリープロセスを学ぶ．

授業の方法

・授業はパワーポイントを使用し、ＤＶＤの視聴、レポートなどの講義形式で実施します．
・不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します．
・欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供します．

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻３回で１回の欠席とみなします。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	３０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した	学修ひた知識・技能を確実に修得した	学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった	学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった	学修に真面目に取り組まなかった
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	篠原　諒介（経営学科・専任講師）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　篠原　諒介　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）（国際的に活躍するエリートアスリートとともに働く世界の著名なスポーツ科学者達のリカバリーに関する最新の科学的データを理解する．）及び授業改善アンケート結果反映の説明	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
2	リカバリーの理解と修得 スクリーニングとアセスメントの概要①	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
3	リカバリーの理解と修得 スクリーニングとアセスメントの概要②	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
4	リカバリーの理解と修得 スクリーニングとアセスメントの概要③	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
5	リカバリーの理解と修得 解剖学的科学と機能の科学①	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
6	リカバリーの理解と修得 解剖学的科学と機能の科学②	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
7	リカバリーの理解と修得 解剖学的科学と機能の科学③	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
8	リカバリーの確認	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
9	リカバリーの実践① スクリーニングとアセスメント	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
10	リカバリーの実践② スクリーニングとアセスメント	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
11	リカバリーの実践③ スクリーニングとアセスメント	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
12	リカバリーの実践④ スクリーニングとアセスメント	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
13	リカバリーの実践⑤ 筋機能－動作と感覚	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
14	リカバリーの実践⑥ 筋機能－動作と感覚	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
15	リカバリーの実践⑦ 筋機能－動作と感覚	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
16	まとめ 科目を修了して「身に付く力」の検証 フィードバック（国際的に活躍するエリートアスリートとともに働く世界の著名なスポーツ科学者達のリカバリーに関する最新の科学的データを理解する力がついたかの確認）及び授業改善アン	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　杉本　大輔　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること				

概要

履修目標

本基礎ゼミナールでは社会科学に関する専門書を全員で音読し、現代社会における処々の課題を歴史的・グローバルに鳥瞰し、現代社会の諸問題を解析するための基本的視座を獲得する。基礎ゼミナールＩＡでは「憲法」をテーマにし、その歴史的意義と現代日本における諸課題を検討する。社会科学の専門書に対する基礎的な読解力を身に着ける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１，DP２，DP５に対応する。

到達目標

・社会科学に対する興味を喚起し、自発的に文献を読み込む技術を習得できる。
・現代社会が抱える諸課題について、各媒体を検索する技術を習得できる。
・社会科学全体に共通する諸課題を検討することによって、２年時以降の社会福祉学の学習の基盤となる視座を構築できる。

授業全体の内容と概要

小室直樹著『日本人のための憲法原論』（集英社インターナショナル）を主要参考文献とし（各講義ごとに購読パートを教員がコピーする）、その他『ＮＥＷＳ ＷＥＥＫ』等の記事を適宜配布し、国際社会を視野に入れたグローバルな社会分析ができる。

授業の方法

・各講義ごとに教員が資料を配布し、個々に音読してもらい、内容を解説・議論する。
・講義プリントは講義の前の週に配布するので熟読しておくこと。
・学生からの要望には可能な限り答えるが、教育上不適切と思える要望には応じない。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

全学科の全コースが履修可能である。
ライン、チャット等に「欠席」の申告がない、あるいは公欠等の連絡がない場合は欠席とみなす。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席日数１０回以上をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	３０％	７０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
「憲法」に関する参考文献・資料の内容を理解する	ディスカッションの中で、その日のゼミの内容について的確に説明でき、且つ、自分の意見を述べることができた。	ディスカッションの中で、その日のゼミの内容について明確に説明できた。	高校のテキストの政治・憲法についての基本的知識を習得できた。	高校のテキストの「世界史」の基本的知識を習得できた。	左記の内容が何一つできなかった。
中世の欧米社会史から近世日本社会史までの外観を理解する	ディスカッションの中で、その日のゼミの内容について的確に説明でき、且つ、自分の意見を述べることができた。	ディスカッションの中で、その日のゼミの内容について明確に説明できた。	高校のテキストの「社会史」「近世日本史」の基本的知識を習得できた。	高校のテキストの「世界史」の基本的知識を習得できた。	左記の内容が何一つできなかった。
憲法が効果的に機能するための要因を理解する。	ディスカッションの中で、その日のゼミの内容について的確に説明でき、且つ、自分の意見を述べることができた。	ディスカッションの中で、その日のゼミの内容について明確に説明できた。	日本国憲法と大日本帝国憲法の違いと各々の課題を理解できた。	高校のテキスト「日本の政治」の基本的知識を習得できた。	左記の内容が何一つできてなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　杉本　大輔　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	高校のテキストの読み直し（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
2	日本国憲法は生きているか	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
3	誰のために憲法はあるか	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
4	全ては議会から始まった	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
5	民主主義は神様が作った	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
6	かくして議会は誕生したーイギリス憲法小史	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
7	民主主義と資本主義は双子だった	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
8	初めに契約ありき	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
9	「民主主義のルール」とは	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
10	憲法の敵は何か	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
11	平和主義者が戦争を作る	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
12	２０世紀を変えたヒトラーとケインズ	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
13	天皇教の原理	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
14	田中角栄の遺産	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
15	憲法は甦るか。前回までの授業内容についての小試験を行い、内容の評価、添削を実施し、授業内でフィードバックする。	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
16	総括 科目を修了して『身に付く力』についての検証	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	横田　肇（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	1　（単位認定責任者：　　横田　肇　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

1）学生が世界と日本の歴史と文化について、基礎的な知識と考え方を身につける。
2）初歩的なプレゼンテーション、文章作成の技術を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP５に対応する。

到達目標

1）受講者において、北海道を中心に世界と日本の歴史と文化についての基礎的な知識が習得され、説明できること。
2）受講者において、初歩的なコミュニケーションの技術が身についていること。

授業全体の内容と概要

講義と資料により北海道の歴史を原始・古代から現代までたどり、合わせて、各地域の文化についても考察する。教員による現地取材も提供、活用しつつ考察を進める。

授業の方法

1）毎回、教員による短い講義を行う。（資料・画像・動画を併用）
2）1）に基づいて、出席者全員で討論をする。
3）教員の講評によるフィードバック。
1）～3）を毎時間くり返す。ときどき、簡単な実演や体験学習を取り入れる。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

欠席、遅刻はしないように留意する。やむを得ず欠席する場合は申し出る。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録画・録音を認める。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基礎的知識の習得	歴史と文化の基礎的な知識が十分に理解され、習得できた。合わせて、応用する力も習得できた。	歴史と文化の基礎的な知識が十分に理解され、習得できた。	歴史と文化の基礎的な知識がおおよそ理解され、習得できた。	歴史と文化の基礎的な知識が指示によって習得できた。	歴史と文化の基礎的な知識が指示によって習得できなかった。
コミュニケーション能力	積極的な議論と明確な主張・提案ができ、しっかりとした情報発信ができた。	的確な議論と提案ができ、情報発信がある程度できた。	議論と提案、情報発信の基礎が身に付いていた。	指示によって議論と情報発信が遂行できた。	指示による議論と情報発信ができなかった。
好奇心・態度	歴史と文化を理解し、知ろうとする意欲と好奇心に富み、発展的な学習が遂行できた。	歴史と文化に関する好奇心があり、自発的な学習ができた。	歴史と文化に関する知識を意欲的に学んでいた。	指示する内容の学習を遂行することができた。	指示する内容の学習を遂行できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	横田　肇（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　横田　肇　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						なし。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						適宜指示する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明、シラバスの説明、ガイダンス、諸注意。 この科目で身に付ける力についての説明。	シラバスを読む。 （４５分）	歴史と文化の基礎事項の復習（４５分）
2	歴史と文化一般に関する講義と討論。	歴史と文化の基礎事項の予習（４５分）	歴史と文化の基礎事項の復習（４５分）
3	北海道の歴史と文化に関する講義と討論。 （北海道の原始・古代）	北海道史の基礎事項の予習（４５分）	北海道史の基礎事項の復習（４５分）
4	北海道の歴史と文化に関する講義と討論。 （北海道の中世）	北海道史の基礎事項の予習（４５分）	北海道史の基礎事項の復習（４５分）
5	北海道の歴史と文化に関する講義と討論。 （北海道の中世）	北海道史の基礎事項の予習（４５分）	北海道史の基礎事項の復習（４５分）
6	北海道の歴史と文化に関する講義と討論。　（北海道の近世） 既習範囲の確認のためのミニレポートの作成とコメント等によるフィードバックを実施。	北海道史の基礎事項の予習（４５分）	北海道史の基礎事項の復習（４５分）
7	北海道の歴史と文化に関する講義と討論。 （北海道の近世）	北海道史の基礎事項の予習（４５分）	北海道史の基礎事項の復習（４５分）
8	北海道の歴史と文化に関する講義と討論。 （北海道の近世）	北海道史の基礎事項の予習（４５分）	北海道史の基礎事項の復習（４５分）
9	北海道の歴史と文化に関する講義と討論。 （北海道の近代）	北海道史の基礎事項の予習（４５分）	北海道史の基礎事項の復習（４５分）
10	北海道の歴史と文化に関する講義と討論。（北海道の近代） 既習範囲の確認のためのミニレポートの作成とコメント等によるフィードバックを実施。	北海道史の基礎事項の予習（４５分）	北海道史の基礎事項の復習（４５分）
11	北海道の歴史と文化に関する講義と討論。 （北海道の近代）	北海道史の基礎事項、の予習（４５分）	北海道史の基礎事項の復習（４５分）
12	北海道の歴史と文化に関する講義と討論。 （北海道の現代）	北海道史の基礎事項の予習（４５分）	北海道史の基礎事項の復習（４５分）
13	北海道の歴史と文化に関する講義と討論。 （北海道の現代）	北海道史の基礎事項の予習（４５分）	北海道史の基礎事項の復習（４５分）
14	北海道の歴史と文化に関する講義と討論。 （北海道の現代）	北海道史の基礎事項の予習（４５分）	北海道史の基礎事項の復習（４５分）
15	前期のまとめと期末レポート作成（１）	レポート（課題）の準備（４５分）	レポート（課題）の準備（４５分）
16	期末レポート作成（２）、コメント等によるフィードバック。 この科目で身に付いた力の検証と説明。 授業改善アンケートの実施。	レポート（課題）の準備（４５分）	レポート（課題）の仕上げ（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　櫻井　美帆子　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会福祉に対する視野を広げるとともに、福祉従事者としての基本的な態度を涵養する。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP５に対応する科目。

到達目標

職業の一つとして社会福祉を捉えたうえで、チームワークについて理解できる。

授業全体の内容と概要

様々な福祉実戦の場を知るとともに、そこで求められる社会福祉の知識や技術の概要について学ぶ。
「SDG３．すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

①基本は、テーマの内容についてグループで議論をした内容をまとめ、代表者が発表をする展開とする。
②一部、講義形式で展開をする。講義の際には随時質問を行うので答えること。
③２回以降は授業毎に記録を提出する。記録物はコメントを添えて返却する。
④授業に関する資料を毎回配布する。
⑤基本は対面授業だが、不測の事態における授業や補講等でにオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①３０分以上の遅刻は欠席とする。
②出席を重視するので、欠席や遅刻をする際には事前に連絡をすること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

１０回以上の出席があること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
クラスのメンバーと協調できる。	リーダーシップを発揮し、他者へのサポートができた。	他者を尊重するとともに、自分の役割を責任を持ち果たせた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
第三者が理解できる記録を作成できる。	記録をもとに考察ができた。	５Ｗ１Ｈに沿って記述できた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
社会福祉の視点を持つことができる。	他の職業と比較し、福祉の仕事の独自性を述べることができた。	福祉の仕事の独自性を述べることができた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　櫻井　美帆子　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 科目を終了して身に付く力の説明 アイスブレーキング	自己紹介を行うので、内容を整理しておく（４５分）。	アイスブレーキングの効果を考察する。（４５分）
2	基本的な文章の書き方	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。（４５分）	記録のポイントを配布資料トノートで確認する。（４５分）
3	基本的なレポートの書き方	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。（４５分）	レポートの書き方のポイントを配布資料トノートで確認する。（４５分）
4	福祉の仕事を目指す理由①	次回の内容の発表内容を整理する。（４５分）	クラスのメンバーの意見と自身の意見を比較し考察する。（４５分）
5	福祉の仕事を目指す理由②	次回の内容の発表内容を整理する。（４５分）	クラスのメンバーの意見と自身の意見を比較し考察する。（４５分）
6	福祉の職場①	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。（４５分）	役割分担した内容について調べて整理する。（４５分）
7	福祉の職場②	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。（４５分）	役割分担した内容について調べて整理する。（４５分）
8	中間まとめ	１回から７回の内容を振り返り、疑問点や議論したい点を整理する。（４５分）	クラスのメンバーの意見と自身の意見を比較し考察する。（４５分）
9	福祉に関する資格①	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。（４５分）	役割分担した内容について調べて整理する。（４５分）
10	福祉に関する資格②	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。（４５分）	役割分担した内容について調べて整理する。（４５分）
11	福祉サービス利用者と福祉従事者の手記から福祉の仕事を考える。①	福祉従事者が著した書籍を図書館で借りる。（４５分）	クラスのメンバーの意見と自身の意見を比較し考察する。（４５分）
12	福祉サービス利用者と福祉従事者の手記から福祉の仕事を考える。②	福祉従事者が著した書籍を読む。（４５分）	クラスのメンバーの意見と自身の意見を比較し考察する。（４５分）
13	福祉サービス利用者と福祉従事者の手記から福祉の仕事を考える。③	福祉サービス利用者が著した書籍を図書館で借りる。（４５分）	クラスのメンバーの意見と自身の意見を比較し考察する。（４５分）
14	福祉従事者に求められる資質について話し合う。	福祉サービス利用者が著した書籍を読む。（４５分）	４回から１４回の授業をとおし、福祉従事者に求められる資質についてレポートにまとめ、提出をする。（４５分）
15	福祉従事者に求められる資質について発表をする。 レポートを添削して返却し、フィードバックする。	発表内容を整理する。（４５分）	クラスのメンバーの意見と自身の意見を比較し考察する。レポートのコメントについて考察する。（４５分）
16	まとめと、科目を修了して身に付く力』についての検証をする。 授業最終回において講評をする	１５回までの授業内容を振り返り、疑問点や議論したい点を整理する。（４５分）	全体を振り返り、今後の課題を考察する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	湯浅　頼佳（社会福祉学科・専任講師）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	1　（単位認定責任者：　湯浅　頼佳　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

本学の「初年次教育」として位置付ける本授業を受講し、スチューデントスキル、スタディスキル、 アカデミックスキル等を修得することにより、大学生として生活面や学習面等で必要となる多様な能力を身に付ける。
「食生活の重要性を考える」というテーマを基に、学生と教員双方の人間関係を築き、「課題探求能力」養成を軸とした学習活動やその意義を理解する。提示されたテーマの他様々な事柄への好奇心・探求心・向学心を刺激しながら学習能力が高まり、また、「学びの方法」を修得する。

授業の位置づけ

全学科の ＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

・大学生に求められる一般常識や態度を学習面、生活面で活用できる。（スチューデントスキル）
・授業内容や目的・ねらいを理解し、自分に必要な課題探求の道筋を明らかにする事ができる。(アカデミックスキル)

授業全体の内容と概要

人間は食べることのみによって栄養を取り入れ、様々な活動を可能としている。乳幼児から高齢者まで各々の目的や問題の違いはあれ、それぞれ生活リズムの確立や健康、QOL、疾病防止などを目的として望ましい食生活をする事が必要となる。学生それぞれが自分自身の食生活だけでなく職業的（保育士、社会福祉士、スポーツトレーナー、教員等）に必要な問題意識を持ち知識を身につけることを目標とする。
「ＳＤＧ３．すべての人に健康と福祉を」の関連科目。

授業の方法

食生活や栄養に関する問題の中からそれぞれが研究テーマを見つけ、プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等を実施する。また必要に応じて教員がテーマに関した講義も行い、カレントトピックスについても解説する。質疑応答には随時対応する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・出席を重視する。欠席をする場合は必ず事前に連絡をすること。出席数を満たしていてもゼミの運営を乱す行為があった場合は評価をしない場合がある。また同じくゼミの運営に支障を来たす行為があった場合は途中でゼミ異動を宣告する場合がある。
・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

出席状況（３分の２以上）。ゼミ内での活動(プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等)とゼミ内での役割の認識と行動により総合評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	０%	０%	３０%	５０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解(協調性，傾聴力)	ゼミ内でのプレゼンテーションに積極的に耳を傾け，タイミングよく質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け，タイミングよく質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け何回か質問することができなかった。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾けることは出来るが質問できなかった。
知識・理解(興味，関心)	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち積極的に食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを概ね発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持つ努力をしながら食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができなかった。
汎用的機能(トークスキル，表現力)	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう資料を十分揃えわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいようわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう概ねわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができなかった。
態度・志向性(リーダーシップ，態度)	ゼミ内での自分の役割を十分に認識し，積極的にゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を十分に認識し，ゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識し，ゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識し，ゼミ運営に多少関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識できなかった。
態度・志向性(意欲)	休まずゼミに出席できた。(出席１６回)	概ねゼミに出席できたる。(出席１５～１４回)	休みがちではあるが出席できた。(出席１３～１２回)	欠席が目立つが出席できた。(出席１１～１０回)	評価前提条件を満たす事ができなかった。(出席９～０回)

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	湯浅　頼佳（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　湯浅　頼佳　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション及びシラバスの説明 本学ディプロマ・ポリシーの説明 ゼミを履修し修了した時に「身に着く力」の説明	シラバスを読み、ゼミ初回に必要な事項について考える。（４５分）	シラバスについて確認する。「身に着く力」について考察する。ゼミ内での自分の役割について考える（４５分）
2	「食生活の重要性を考えるＩＡ」①	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
3	「食生活の重要性を考えるＩＡ」②	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
4	「食生活の重要性を考えるＩＡ」③	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
5	「食生活の重要性を考えるＩＡ」④	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
6	「食生活の重要性を考えるＩＡ」⑤	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
7	「食生活の重要性を考えるＩＡ」⑥	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
8	「食生活の重要性を考えるＩＡ」⑦	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
9	「食生活の重要性を考えるＩＡ」⑧	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
10	「食生活の重要性を考えるＩＡ」⑨	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
11	「食生活の重要性を考えるＩＡ」⑩	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
12	「食生活の重要性を考えるＩＡ」⑪	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
13	「食生活の重要性を考えるＩＡ」⑫	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
14	「食生活の重要性を考えるＩＡ」⑬	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
15	「食生活の重要性を考えるＩＡ」⑭	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
16	まとめ（ゼミ最終回において講評し、フィードバック実施） ゼミ第1回目にあげた「身に着く力」について検証を実施	まとめの準備を行う。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。「身に着く力」について再度考察する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	尾西則昭(社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　尾西　則昭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

生活の多様な側面から人間の生活と健康を理解し、より健康な生活を創りだして行くための必要な知識を身につけさせる。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

家族、個人という様々なレベルにおける健康的な生活について理解し、知識を身につけ、健康観について一層関心を持つことができる。

授業全体の内容と概要

生活の多様な側面に焦点を当て、個人、家族、地域社会という様々なレベルにおける人間の健康的な生活について詳しく解説する。

授業の方法

資料を通読し、その内容にかかわった説明や質疑応答及びディスカッションを行います。板書や教材提示装置を活用します。健康に関するキーワードについての調べ学修及びその発表を行います。課題や発表等に対応するフィードバックや要望等への対応は、小人数集団の利点を生かし、口頭で行います。不測の事態の際に授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は欠席とみなします。
遅刻3回で欠席1回とみなします。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	90%	0%	10%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	健康についての基礎的な知識を深く理解できた。	健康についての基礎的な知識をおおむね理解できた。	健康についての基礎的な知識を比較的理解できた。	健康についての基礎的な知識を多少理解できた。	健康についての基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力	健康の基本を踏まえた健康内容の展開について十分に考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開につておおむね考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開について比較的考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開につて多少考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開につて考察できなかった。
主体的に取り組む態度	健康の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	健康の多様な展開について理解したことをおおむねわかりやすく説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを比較的わかりやすく説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを多少わかりやすく説明できた。	健康の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	尾西則昭(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　尾西　則昭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『資料配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　「シラバスの説明」 本科目を修了して「身に付く力」について説明をする。 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認にする。(４５分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(４５分)
2	人間の生活と健康の調査①	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(４５分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(４５分)
3	人間の生活と健康の調査②	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(４５分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(４５分)
4	人間の生活と健康の調査③	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(４５分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(４５分)
5	人間の生活と健康の調査④	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(４５分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(４５分)
6	人間の生活と健康の調査⑤	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(４５分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(４５分)
7	人間の生活と健康の調査⑥	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(４５分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(４５分)
8	人間の生活と健康の調査 ⑦	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(４５分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(４５分)
9	健康プログラムを素材にした発表会・討議①	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(４５分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(４５分)
10	健康プログラムを素材にした発表会・討議②	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(４５分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(４５分)
11	健康プログラムを素材にした発表会・討議③	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(４５分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(４５分)
12	健康プログラムを素材にした発表会・討議④	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(４５分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(４５分)
13	健康プログラムを素材にした発表会・討議⑤	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(４５分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(４５分)
14	健康プログラムを素材にした発表会⑥	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(４５分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(４５分)
15	健康プログラム調査・講評	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(４５分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(４５分)
16	授業の総括とフィードバック、本科目を修了して「身に付く力」について検証、授業改善アンケート実施する。	ノートに記載された内容を再復習し、理解する。(４５分)	解説の内容を確認する。(４５分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1　（単位認定責任者：　西崎　毅　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教員及び教育行政職員としての経験を活かし、教職に関連する事項を題材に、学生の主体的な学修姿勢や探究力を培う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

教員になるために必要な知識・技能，思考力・判断力・表現力等及び主体的・協働的な学修態度を身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

教育の現状（全国・全道・地域）や教育制度等を理解することができる。
教育の諸問題について，自分で考える，詳しく調べる，自分の意見を表現することができる。
教員になるために必要な事項を理解することができる。

授業全体の内容と概要

教育の諸問題についての探究的な学修
教育法規，学習指導要領，中央教育審議会答申の学修
教員に求められる基本的資質の獲得（漢字，一般教養等）
教職啓発活動、学校体験活動への参加
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」関連科目

授業の方法

各回のテーマに基づいて，探究的な学修（自分で考える，詳しく調べる，自分の意見を表現する等）を行う。
教育法規，学習指導要領，中央教育審議会答申を通読する。
教員に求められる基本的資質を獲得するための演習を行う。（漢字，一般教養等）
学校体験活動等の成果を発表・共有する。
毎時間，事前事後課題を課す。
課題や発表等に対するフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。
Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し，意見交換，質問対応，小テスト，教材配布等を行う。
不測の事態が生じた際に、授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

○以下を履修条件とする。
・教職課程に登録し，大学卒業後に必ず教職に就く強い希望と意志を持つこと。
・担当教員の教職の授業では自発的に必ず発表すること。
・サブメジャー・プログラムの「教員採用試験対策プログラム」を履修すること。
・担当教員が紹介する教職啓発活動や学校体験活動等に必ず参加すること。
・事前事後学修に真剣に取り組むこと。
・漢字検定に真剣に取り組むこと。（受検級に合格するまで毎回必ず受検すること。）
・各自，B5版のノートを用意すること（ルーズリーフは不可）。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	２０％	０％	８０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1　（単位認定責任者：　西崎　毅　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教員及び教育行政職員としての経験を活かし、教職に関連する事項を題材に、学生の主体的な学修姿勢や探究力を培う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途購入案内する。』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途購入案内する。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス及び科目を修了して「身に付く力」の説明を含む） 自己紹介，決意表明	シラバスを熟読し，履修条件を確認すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
2	学力とは何か考える。（個人の思考・発表・意見交換） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読 課題のフィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
3	学力とは何か調べる。（調査・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読 課題のフィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
4	学力とは何か調べる。（調査・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読 課題のフィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
5	学力とは何か発表する。（発表・質疑応答） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読 課題のフィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
6	国際社会が育成を目指す学力について調べる。（調査・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読 課題のフィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
7	我が国が育成を目指す学力について調べる。（調査・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読 課題のフィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
8	国際社会と我が国が育成を目指す学力について発表する。（発表・質疑応答） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読 課題のフィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
9	国際的な学力調査及びその結果について調べる。（調査・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読 課題のフィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
10	国際的な学力調査及びその結果について発表する。（発表・質疑応答） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読 課題のフィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
11	我が国の学力調査及びその結果について調べる。（調査・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読 課題のフィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
12	我が国の学力調査及びその結果について発表する。（発表・質疑応答） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読 課題のフィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
13	北海道の学力調査の結果について調べる。（調査・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読 課題のフィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
14	北海道の学力調査の結果について発表する。（発表・質疑応答） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読 課題のフィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
15	北広島市の小中学校の学力調査の結果について調べる。（調査・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読 課題のフィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
16	北広島市の小中学校の学力調査の結果について発表する。（発表・質疑応答） 前期の学修の総括及び反省、演習のフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	1年間の学修を振り返り、自己評価を行うこと。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	宮嶋　達也（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　宮嶋　達也　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

デザインを通し自由な発想でプランニングからデザイン制作まで地域で必要とされることをゼミ活動で、できる限り一貫して実践することを目標とする。

自らデザインした形を地域社会の中に残し貢献する。地域との取り組みに自分の創作意欲を掻き立てながらSDGsの達成のために、どんなことができるのか、地域イベントやワークショップなどに企画参加し、自ら学び、考え、そして楽しく活動する。

昨年度の主な活動：食品パッケージデザイン、イベントポスター、行政・企業とのイベント企画、ピクトグラム制作、
企業へのＰＯＰ制作、企業ロゴマーク、教育施設でのデザインワークショップや美術部とのアートセッションなど

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP5に対応する。

到達目標

(1) 制作活動を通して何を学ぶのか、各自の問題意識を明確にすることができる。
(2) 適切なコミュニケーションを取りながら、他者との関わりをもつことができる。
(3) 活動経験を振り返り、今後進めていく上での自己の課題を設定することができる。

授業全体の内容と概要

授業では、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等のアクティビティを多く取り入れる。各自が問題意識を持ち、考察結果などをグループ全体で共有しながら、目標達成に向けて活動をする。地域との取り組みに自分の好きなデザインを交えながら、どんなことができるのか考え楽しく活動する

授業の方法

グループワークを中心にした活動が多いため、一人ひとりが自主性を持ち、他人任せになるようなことがないように、常に問題意識を持ち、議論しながら問題解決し、積極的に活動に励む。授業では、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等のアクティビティを多く取り入れる。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

受講定員15名
受講条件
本ゼミを希望する学生は必ず活動内容の説明を聞きに選択志望する前に研究室へ来ること。
受講に関して以下の心構えがある学生を条件といたします。
①社会に役立って達成感を得たり、自分に自信をつけたい人
②やる気があり、最後まで活動をやり通す気力を持ち合わせている人
③協力し合いながら目標に向かい活動を成功させる意気込みがある人
不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１１回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	４０%	３０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
積極性、社会理解	積極的にアイデアを出し、採用された。他人の発言を聴き、十分な理解に努め、積極的に意見した。	積極的にアイデアを出した。他人の発言を聴き、十分な理解に努めた意見した。	それなりにアイデアを出した。他人の発言を聞き、ある程度意見した。	アイデアを殆ど出せなかった。他人の意見をあまり理解できなかった。	アイデアを出せなかった。他人の意見を殆ど理解できなかった。
課題解決能力と創造性	仕事を的確に発見し、進め方を共有しあいながら適切に検討し、実行できた。	仕事を進んで発見し、進め方を適切に検討し、実行できた。	仕事を発見し、進め方を検討し、ある程度実行できた。	仕事をあまり発見できず、依頼されたことだけ実行できた。	仕事を発見できず、依頼されたことも、ほとんど実行できなかった。
コミュニケーション能力と行動力	他者をリードする態度で積極的に活動に取り組み、高い コミュニケーション能力と行動力があった。	自主的・協働的に活動に取り組み、コミュニケーション能力や行動力があった。	自らの考えでアクションを起すことはあまりないが必要なコミュニケーション能力や行動力はあった。	自らの考えでアクションを起すことはなく最低限度のコミュニケーション能力や行動力はあった。	自らの考えでアクションを起すことができない。最低限度のコミュニケーション能力や行動力もほとんどなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	宮嶋　達也（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　宮嶋　達也　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション　シラバスの説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	演習の準備　シラバスの熟読（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
2	Planning1	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
3	Planning2	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
4	Planning3	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
5	Research activities　1	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
6	Research activities　2	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
7	Research activities　3	事前に作業しておくなどの準備をすること（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
8	Creative activities　1	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
9	Creative activities　2	事前に作業しておくなどの準備をすること（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
10	Creative activities　3	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
11	Creative activities　4	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
12	Creative activities　5	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
13	Creative activities　6	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
14	Creative activities　7	事前に作業しておくなどの準備をすること（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
15	レポート・前期活動のまとめ	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
16	前期活動における総括とフィードバック 科目を修了して『身に付く力』についての検証	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	講義及び演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	向井　正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1　（単位認定責任者：　向井　正伸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	計画設計等の実務経験を活かし、課題解決法や様々な事例を紹介する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

都市や建築を構想することは、行政や都市計画家、建築家だけの仕事ではない。住民や地域に係る皆が、より良い暮らしを考え実践した積み重ねが都市を形づくる。ゼミでは、より良い未来を提案するための基礎を身につけることを目標とする。※ゼミでは都市や建築を空間的な問題として扱う。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP５に対応する。

到達目標

都市や建築の変遷やその社会的背景を理解し、都市や建築について自分なりの意見をもつことができる。

授業全体の内容と概要

前半では都市や建築が時代とともにどのように変化し今に至ったかを学ぶ。特に現代都市や建築の骨格とも言える機能主義に至るまでの過程を学び、都市や建築が抱える課題を理解する。適宜中間テスト又はレポートを実施し、理解度を確認する。後半では主に北広島市及び近隣都市を中心に都市や建築について調査分析を行い、都市空間をアップデートする提案を構想し、表現・発表を行う。
□SDGs３.すべての人に健康と福祉を　□SDGs１１.住み続けられるまちづくりを　□SDGs１２.つくる責任　つかう責任

授業の方法

前半ではパワーポイントを用いた講義を行う。資料として適宜プリントを配布する。重要だと思われるキーワードは必ずメモし、示された図式等はノートにスケッチをすることが望まれる。参考となる書籍・建築等を授業中に適宜紹介する。後半では各自調査分析等を行う。各自のパソコンを使う場合がある。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

能動的な学習姿勢を望む。授業中に引用された建築、書籍に積極的に触れること。２０分以上の遅刻は欠席とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	４０%	２０%	１０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
理解度	授業内容を越えた自主的な学習を行なった。	授業内容を理解し、自主的な学習を行なった。	授業内容をほぼ理解し、自主的な学習を行なった。	授業内容をほぼ理解し、自分なりの意見をもつことができた。	授業内容を理解しなかった。
調査・課題解決能力	独自の視点で調査し、独創且つ具体的手法で課題を解くことができた。	独自の視点で調査し、独創的な手法で課題を解くことができた。	独力で調査し、課題を解くことができた。	アドバイスをもとに、調査・課題を解くことができた。	アドバイスがあっても自発的に課題を解くことができなかった。
表現力	構想したものを、独創性のある手法で表現し、考えを第三者に共感させることができた。	構想したものを、独創性のある手法で表現し、考えを第三者に理解させることができた。	構想したものを、独自の工夫で表現することができた。	構想したものを表現することができた。	構想したものを表現できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	講義及び演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	向井　正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　向井　正伸　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	計画設計等の実務経験を活かし、課題解決法や様々な事例を紹介する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス、シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスを事前に把握する（４５分）	紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）
2	さまざまな都市・建築空間	参考書籍等を用いて予習する（４５分）	講義内容を復習し紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）
3	建築都市の歴史1（古代）	参考書籍等を用いて予習する（４５分）	講義内容を復習し紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）
4	建築都市の歴史2（古代・中世）	参考書籍等を用いて予習する（４５分）	講義内容を復習し紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）
5	建築都市の歴史3（近世）	参考書籍等を用いて予習する（４５分）	講義内容を復習し紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）
6	建築都市の歴史4（近代　パリ大改造）	参考書籍等を用いて予習する（４５分）	講義内容を復習し紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）
7	建築都市の歴史4（近代　田園都市）	参考書籍等を用いて予習する（４５分）	講義内容を復習し紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）
8	建築都市の歴史5（近代　モダニズム）	参考書籍等を用いて予習する（45分）	講義内容を復習。紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）
9	建築都市の歴史6（現代）	参考書籍等を用いて予習する（４５分）	講義内容を復習。紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）
10	現代のまちを考える	参考書籍等を用いて予習する（４５分）	講義内容を復習。紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）
11	グループワーク　説明	対象を事前に調べる（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
12	グループワーク　調査	対象を事前に調べる（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
13	グループワーク　作業	対象を事前に調べる（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
14	グループワーク　作業	対象を事前に調べる（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
15	グループワーク　発表	プレゼンテーションをまとめる（４５分）	発表を自己評価する（４５分）
16	まとめ及び振り返りテストの実施、授業改善アンケートの実施、総括及びフィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証	今までの授業を振り返る（４５分）	学習を振り返り、自己評価を行う（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習,実習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　恵利（国際交流センター・センター員）	研究室等所在	本部棟3階　国際交流センター		
単位数	1　（単位認定責任者：　佐藤　恵利　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、国際交流センターで対応。				

概要

履修目標

交流を通じ、日本の時事問題や日本文化、日本の習慣などをトピックに挙げながら日本語の４技能を身につける。トピックを題材に、ディスカッションやグループワークなどの活動をし、自身の専門分野でも自分のことが十分に表現できる能力を身に付ける。大学間、または地域との交流活動に参加、また交流活動を企画、実施し、異文化理解、相互理解を得ること。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

日本語での表現力を身に付け、自分の意見を正しい日本語で伝えることができる。他者の意見を聞き、そこから自分の意見を生み出し相手に伝えることができる。
多文化との交流を積極的に楽しみ、異国（日本）での生活、大学生活をより豊かなものにする。

授業全体の内容と概要

学内異文化交流会や合同授業の内容を企画し、準備、実施する。学生間での交流を通じ、相互理解や異文化理解を得る。交流では、母国紹介や母国の文化紹介等をすることもある。それらを正しい日本語で伝えることや、他者からの意見を尊重することを学ぶ。大学祭ブースへの参加や、地域の施設見学等に参加し、地域交流を楽しむとともに、北広島市、北海道の問題や課題について考える。日本文化や日本事情を通して「SDG３．すべての人に健康と福祉を」「SDG７．エネルギーをみんなに　そしてクリーンに」「SDG１０．人や国の不平等をなくそう」について考え、知識を深める。

授業の方法

教材は教師が用意する。教材は紙媒体だけではなく、プロジェクターやパソコン、レアリアなども使用する。授業は学生が主体となり、学生間で話し合いながら教師が与える議題や課題に取り掛かる。授業内では決まった人たちとのコミュニケーションに終わらず、様々なクラスメートとグループワークやディスカッションをし、自分を表現できる能力を養う。その成果をプレゼンテーションやレポートで表す場合もある。レポートはテーマ、内容、正確さ、長さ、表現力の5項目で評価する。「内容」の項目は特に重要で、自分の言葉でわかりやすく表現できているかを評価する。「正確さ」では文法や文字表記の誤りを提示するので、各自でフィードバックすること。災害等の不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

遅刻、欠席をしないこと。15分以上の遅刻は欠席とみなす。3回遅刻すると1回の欠席とみなす。授業内は原則母語は禁止とする。学生間での交流でも授業中の母語が多い学生は評価に影響する。授業中は携帯電話や辞書、タブレットの使用は原則禁止とする。わからないことがあったら教師に聞くこと。
平常点が評価に大きく影響する。授業中は真面目に取り組み、「日本語で表現できない」と思わずなんでもチャレンジすることが求められる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

全授業回数１６回のうち、単位認定に必要となる最低出席回数は１３回とする。授業への参加、授業態度、ゼミ内での活動(プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等)とゼミ内での役割の認識と行動により総合評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	３０%	０%	３５%	５%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすく、文法の間違えがほとんどない。声の大きさ、発音もよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法の間違えが目立つ。声の大きさ、発音がよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法、発音に問題があり、聞き取りにくかった。	自身で考えているが、他者の協力がないと自分の言葉で表現することができない。文法、発音に問題があった。	他者任せで、自身で考え、自分の言葉で表現しようという姿勢が見られない。文法、発音に問題があった。
思考力・判断力・日本語での表現力等	毎回の授業に参加し授業に意欲的で、活動にも積極的に参加している。発言も多かった。	毎回の授業に参加し、授業対しに意欲的で真面目に取り組んでいる。積極性は弱かった。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいる。積極的に活動に参加していた。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいるが、授業内の活動に対し消極的であった。	最低出席日数分授業に参加しておらず、授業態度も問題があった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習,実習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　恵利（国際交流センター・センター員）	研究室等所在	本部棟3階　国際交流センター		
単位数	1　（単位認定責任者：　佐藤　恵利　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、国際交流センターで対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション(シラバス説明《科目を修了して「身につく力」についても説明》・授業説明) 自己紹介 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読む・自己紹介の練習（４５分）	シラバスについて確認する。ゼミ内での自分の役割について考える(４５分)
2	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	シラバスについて確認する。ゼミ内での自分の本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
3	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
4	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
5	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
6	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	授業内容復習（４５分）
7	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
8	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
9	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
10	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
11	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
12	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
13	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
14	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
15	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
16	後期学習範囲の総括（「身につく力」の検証） および反省・最終課題の提出 授業に係る講評・解説によるフィードバック	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	千葉　聡美（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1　（単位認定責任者：　千葉　聡美　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政職員としての経験を活かして教職に関連する指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

教員になるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び意欲を身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP2、DP３、DP４、DP5に対応する。

到達目標

教育制度や内容についてその概要を理解することができる。
教育の諸問題についてその概要を理解することができる。
教員になるために必要な事項についてその概要を理解することができる。
教員として必要な国語力を身に付けることができる。

授業全体の内容と概要

各回の授業テーマについて考える。
教育にかかわる法令、中央教育審議会答申、学習指導要領などの通読
教育に関する基本的事項についての調べ学修
教員として求められる一般教養及び教職教養の学修
漢字検定
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

教育にかかわる法令、中央教育審議会答申、学習指導要領などを通読し、その内容にかかわって説明や質疑応答及びディスカッションを行う。教育に関するキーワードについての調べ学修及びその発表を行う。
並行して教員として求められる一般教養及び教職教養について演習を行う。テーマの考察や使用テキスト要約など、端的に文章にまとめる練習を行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

○教職課程を履修し、大学卒業後に必ず教職に就く強い希望と意思を持った学生を対象とする。
○サブメジャープログラムの「教育採用試験対策プログラム」の履修を条件とする。
○漢字検定取得に真剣に取り組むこと。
○各自、ノートを用意すること。（ルースリーフは不可）
○プリント類はフラットファイルに格納し、毎回授業に持参すること。
○不測の事態の際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	２０%	０%	８０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	千葉　聡美（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1　（単位認定責任者：　千葉　聡美　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政職員としての経験を活かして教職に関連する指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途購入案内する。』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途購入案内する。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明含む） 科目を履修して『身に付く力』についての説明 自己紹介（教員になるための抱負を含む）	教職志望の理由をまとめること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
2	○教員になるために必要なことを考える①自分の出会った先生 ディスカッション 学修計画の作成	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
3	○教員になるために必要なことを考える②意見交流 ディスカッション 漢字小テスト 学修計画の作成	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
4	○教員という仕事について考える①体験から考える ディスカッション 漢字小テスト 学修発表	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
5	○教員という仕事について考える②意見交流 ディスカッション 漢字小テスト 学修発表	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
6	○教員に求められる資質能力について考える①各自の考えのまとめ 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト 学修発表	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
7	○教員に求められる資質能力について考える②意見交流 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト 学修発表	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
8	○子供たちを取り巻く状況を知る①各自の考えのまとめ 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト 学修発表	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
9	○子供たちを取り巻く状況を知る②意見交流 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト 学修発表	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
10	○子どもたちに身に付けさせるべき資質・能力について考える① 各自の考えのまとめ 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト 学修発表	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
11	○子どもたちに身に付けさせるべき資質・能力について考える② 意見交流 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト 学修発表	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
12	○子どもたちに身に付けさせるべき資質・能力について考える③ 意見の整理 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト 学修発表	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
13	○学習指導要領について考える①学習指導要領とは何か 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト 学修発表	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
14	○学習指導要領について考える②学習指導要領の歴史 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト 学修発表	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
15	○学習指導要領について考える③現在の学習指導要領 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト 学修発表	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
16	前期の学修を総括してフィードバック 科目を修了して『身に付く力』についての検証	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	1年間の学修を振り返り、自己評価を行うこと。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	全学共通科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	河田　一郎（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　河田　一郎　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

各自の興味のあるものをテーマに選び、、自由に発想を展開し、レポートにまとめる。
就職活動を見据え、常に社会に目を向ける習慣を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP１、DP２、DP５に対応する。

到達目標

社会のさまざまな出来事に対して、自分なりの意見を述べることができる。

授業全体の内容と概要

就職面談を想定し、話題のニュースについて、ディスカッションを行う。各自のテーマが決まった時点で、少しずつテーマについて調べ、ゼミ終了時にレポートを提出してもらう。「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では各自のテーマにかかわる資料を配布し、板書をしながら講義形式で行う。
また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。
なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

困ったことがあったら、カウンセラーと対応するので、すぐに相談すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	０%	０%	８０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能をほぼ修得した。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	全学共通科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	河田　一郎（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　河田　一郎　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	【ガイダンス】　授業の進め方・シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）。授業改善に向けたアンケート結果反映の説明。この科目を受講することで、誰よりも早く、就活を勝ち抜くためのスキルを身に付けることができる。	シラバスの内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
2	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック６級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
3	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック５級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
4	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック４級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
5	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック３級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
6	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック準２級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
7	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック２級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
8	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック準１級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
9	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック１級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
10	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
11	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
12	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
13	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
14	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
15	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。発表を行った際は、そのつど授業内でコメントし、フィードバックする。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
16	授業改善に向けたアンケートを実施。これまでの授業について講評を行い、フィードバックする。第１回目で示した達成目標が身についたかどうか、プレゼンを通して確認する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	大島　康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館2階	
単位数	1　（単位認定責任者：　大島　康雄　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードなどを参照。				

概要

履修目標

社会福祉学研究に必要なスキルを習得する。具体的には、社会福祉に関係する様々な事象のうち、自分が関心を持つ事象を探究するためのスキル（問題発見・分析能力の養成・情報文献収集・調査等）を身に付ける。また、ゼミナールごとにキャリア支援教育が組まれており、身に着けたスキルを将来に生かす方法を探求する。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP５に対応する。

到達目標

ソーシャルスキル、グループ方式による作業方法、データの収集や分析・解釈、プレゼン能力の向上、論文作成など、一連の方法を身に付けることが基本となるが、さらに、下記のことについて達成できるようにする。
・各自の関心に基づく社会福祉関連の研究テーマを見つけることができる。
・関連資料の収集・整理を共同作業で行うことができる。
・研究報告及び研究成果のまとめを行うことができる。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が学生に提示する「基礎テーマ」に沿った形で進められる。
「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。資料等の提示については、板書、資料配布、プレゼンテーションソフトウェア等により行われる。課題等に関するフィードバックはコメントにてフィードバックされる。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各担当教員の指示に従い、主体的・積極的な参加に務めること。
大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
後期の「基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB」も、この演習の担当教員が継続して担当する。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位取得の最低出席条件１０回以上をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ゼミ研究のテーマをが明確になっている。	ゼミ研究のテーマが明確になっており、そのテーマに至るまでの文献・ネット検索のプロセスを説明できる。	ゼミ研究のテーマが明確になっており、そのテーマの今後の研究予定を説明できる。	ゼミ研究のテーマに沿って章立てができており、研究を開始している。	ゼミ研究のテーマが明確になっている。	左記の内容が何一つできていない。
研究テーマに関するディスカッションができる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告でき、尚且つ、他者の発表に的確な助言ができる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマを報告できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマについてプレゼンテーションができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができ、さらに、他者のプレゼンに対して的確な助言ができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告できる	自分の研究テーマのプレゼンテーションが一応できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	大島　康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館2階	
単位数	1　（単位認定責任者：　大島　康雄　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードなどを参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『相模原事件・裁判傍聴記「役に立ちたい」と「障害者ヘイト」のあいだ　』	雨宮処凛	太田出版	2020	9784778317096	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス（シラバスの説明を含む） 科目を修了して『身に付く力』についての説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業2	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
3	担当教員による授業3	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
4	担当教員による授業4	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
5	担当教員による授業5	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
6	担当教員による授業6	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
7	担当教員による授業7	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
8	担当教員による授業8	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
9	担当教員による授業9	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
10	担当教員による授業10	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
11	担当教員による授業11	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
12	担当教員による授業12	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
13	担当教員による授業13	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
14	担当教員による授業14	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
15	担当教員による授業15	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
16	授業内フィードバック 総括 科目を修了して『身に付く力』についての検証	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	木村　浩紀（社会福祉学科・特任教授）	研究室等所在	２号館８階		
単位数	1　（単位認定責任者：　木村　浩紀　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、教職に関連する今日的な課題（いじめ問題、不登校、特別支援教育等）の指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

教師に求められる能力、使命感や責任感、教育的愛情、教科や教職に関する専門的な知識、実践的指導力、総合的人間力、コミュニケーション能力、ファシリテーション能力等を身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP２、DP５に対応する。

到達目標

教育の諸課題についてその概要を理解し、説明することができる。
教師に必要な知識・技能等について、理解を深めることができる。

授業全体の内容と概要

教育の諸課題について、各回のテーマごとに考える。
教育にかかわる法令、答申などの通読
教育に関する諸課題についての調べ学修
教師に求められる教職教養等の学修
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

教育にかかわる法令、答申などを通読し、その内容にかかわって説明や質疑応答及びディスカッション等を行う。
教育課題に関するキーワードについての調べ学修及びその発表を行う。
教師に求められる教職教養等について演習を行う。
課題や発表等に対する評価のフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。
板書や教材提示装置を活用する。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

○教職課程を履修し、大学卒業後に必ず教職に就く強い希望と意思を持った学生を対象とする。
○サブメジャープログラムの「教育採用試験対策プログラム」の履修を条件とする。
○各自、ノートを用意すること。（ルーズリーフは不可）
○プリント類はフラットファイルに格納し、毎回授業に持参すること。
○オンライン授業やハイブリッド授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	２０％	０％	８０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
課題に取り組む意欲・態度	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	木村　浩紀（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　木村　浩紀　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、教職に関連する今日的な課題（いじめ問題、不登校、特別支援教育等）の指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途案内する』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション 「シラバス」「ゼミの進め方」「科目を修了して身に付く力」の説明 自己紹介 教育の諸課題について	教育の諸問題についてまとめること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
2	○教育の諸課題について考える① 個人の考えのまとめ ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
3	○教育の諸課題について考える② 意見交流 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
4	○教育の諸課題について考える③ 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
5	○教育の諸課題の解決策を考える①１ ・教師の仕事について考える 個人の考えのまとめ 意見交流 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
6	○教育の諸問題の解決策を考える①２ ・教師の仕事について考える 意見交流 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
7	○教育の諸課題の解決策を考える①３ ・教師の仕事について考える 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
8	○教育の諸課題の解決策を考える②１ ・特別な教育的支援を必要とする生徒について（通常の学級・通級指導教室） 個人の考えのまとめ ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
9	○教育の諸課題の解決策を考える②２ ・特別な教育的支援を必要とする生徒について（通常の学級・通級指導教室） 意見交流 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
10	○教育の諸課題の解決策を考える②３ ・特別な教育的支援を必要とする生徒について（特別支援学校） 個人の考えのまとめ ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
11	○教育の諸課題の解決策を考える②４ ・特別な教育的支援を必要とする生徒について（特別支援学校） 意見交流 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
12	○教育の諸課題の解決策を考える②５ ・特別な教育的支援を必要とする生徒について（通常の学級・通級指導教室、特別支援学校） 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
13	○教育の諸課題の解決策を考える③１ ・不登校について 個人の考えのまとめ ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
14	○教育の諸課題の解決策を考える③２ ・不登校について意見交流 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
15	○教育の諸課題の解決策を考える③３ ・不登校について 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
16	前期の学修の総括及び反省（フィードバックと科目を修了して身に付く力の検証） 授業改善アンケートの実施	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	前期の学修を振り返り、自己評価を行うこと。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	薦田　勇智（経営学科・専任講師）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	1　（単位認定責任者：　　薦田　勇智　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

・ただの趣味ではなく、学問の一つとしてｅスポーツを捉えることが出来るようになる。
・適切なコミュニケーションを取ることが出来るようになる。
・視野（選択肢）を広く持つことが出来るようになる。
・スチューデントスキル、スタディスキル、アカデミックスキル等を修得することにより、大学生として生活面や学習面等で高校から大学への円滑な移行と、入学後に必要となる多様な能力を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

・大学という環境に早く慣れる
・ｅスポーツとは何なのかを知る

授業全体の内容と概要

・履修登録や授業、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ関係等新しく扱うものについて学ぶ。（スタディスキル）
・日本、全世界でプレイされているｅスポーツタイトルについて学ぶ。（アカデミックスキル）
・ｅスポーツプレイヤーを取り囲む環境について知り、それを体感する。（アカデミックスキル）
・プレゼンテーションを行い、自分の考えをアウトプットする場を設ける。（スチューデントスキル）

授業の方法

・不測の事態が無い限り対面にて行う。
・ＬＭＳにて課題提示、提出を求める。
・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・欠席は認めない。体調不良等の場合は、必ず事前に連絡をすること。
・課題の提出は必ず期限内に行う。遅れた場合は、単位取得を認めない。
・遊びではなく学習の場であることを理解する。
・自身のPC（できればデスクトップＰＣ）を持っていることが望ましい。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
%	50%	50%	%	%	%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
情報を集めて考える力	ｅスポーツに関する多角的な調査を行い、データや事例を適切に活用し、根拠に基づいた深い考察ができていた。	しっかりと調査し、データや事例を用いた分析ができていたが、一部深掘りが不足していた。	基本的な調査は行われており、論理的な考察があったが、やや浅い部分があった。	調査の範囲が限定的で、分析に一貫性がなかった。論拠が弱かった。	調査が不十分で、主観的な意見が多く、論理的な分析ができていなかった。
チームで取り組む力	チームワークを重視し、積極的に役割を果たし、ゼミの成果に大きく貢献していた。	チーム内での役割を果たし、協力的な姿勢を持っていた。	最低限の役割は果たしていたが、積極的な貢献は少なかった。	グループ活動への関与が少なく、受け身の姿勢が目立っていた。	グループ活動にほとんど参加せず、貢献が見られなかった。
考えを整理して伝える力	ｅスポーツに関する考察を論理的にまとめ、構成も明確で説得力があった。	ｅスポーツのテーマについて論理的にまとめていたが、一部整理不足が見られた。	基本的な内容は書かれていたが、論理的な展開や構成が弱かった。	内容が断片的で、論理的な構成になっていない部分が多かった。	文章がまとまっておらず、考察も浅く、論理的な説明ができていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	薦田　勇智（経営学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1　（単位認定責任者：　薦田　勇智　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	・オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明 ・大学生活について知る ・レクリエーションを通してゼミ内で仲間、自分の居場所を作る	シラバスを読む（45分）	履修登録を行う（45分）
2	・勉強の仕方を知る ・課題の取り組み方について知る ・グループワークについて知る ・プレゼンテーションについて知る	学生便覧を読み込む（45分）	メモやノートを整理する（45分）
3	・ｅスポーツの基礎知識を学ぶ ・チームを作る	ｅスポーツについて調べる（45分）	メモやノートを整理する（45分）
4	・ｅスポーツの実践	チームで作戦を考え、練習する（45分）	良かった点、反省点をレポートにて提出（45分）
5	・ｅスポーツの実践	チームで作戦を考え、練習する（45分）	良かった点、反省点をレポートにて提出（45分）
6	・ｅスポーツの実践	チームで作戦を考え、練習する（45分）	良かった点、反省点をレポートにて提出（45分）
7	・ｅスポーツの実践	チームで作戦を考え、練習する（45分）	良かった点、反省点をレポートにて提出（45分）
8	・ｅスポーツの実践	チームで作戦を考え、練習する（45分）	良かった点、反省点をレポートにて提出（45分）
9	・ｅスポーツの実践	チームで作戦を考え、練習する（45分）	良かった点、反省点をレポートにて提出（45分）
10	・ｅスポーツの実践	チームで作戦を考え、練習する（45分）	良かった点、反省点をレポートにて提出（45分）
11	・ｅスポーツの実践	チームで作戦を考え、練習する（45分）	良かった点、反省点をレポートにて提出（45分）
12	・ｅスポーツの実践	チームで作戦を考え、練習する（45分）	良かった点、反省点をレポートにて提出（45分）
13	・ｅスポーツの実践	チームで作戦を考え、練習する（45分）	良かった点、反省点をレポートにて提出（45分）
14	・ｅスポーツの実践	チームで作戦を考え、練習する（45分）	良かった点、反省点をレポートにて提出（45分）
15	・ｅスポーツの実践 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	チームで作戦を考え、練習する（45分）	良かった点、反省点をレポートにて提出（45分）
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　雅一（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　佐藤　雅一　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

みずからの価値観、教育観、教育の方法論、思考力、創造力、リーダーシップ等を身につけることができる。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

①具体例（ビデオ、資料等）やディスカッション等を通じて、みずからの価値観や人生観、そして道徳観を確立するとともに、道徳教育の理想像とその方法論を形成する。
②みずからの考えを明確に表現する能力やコミュニケーション能力を身につける。
③現代社会が抱える問題点やその価値観をしっかりと把握する。
④過去の歴史を踏まえたうえで、これからの時代に必要な価値観や教育の全体像を構築する。

授業全体の内容と概要

脳科学や精神医学、臨床心理学等の最新成果を踏まえ、みずからの価値観や人生観を形成し、これからの時代に必要な教育とその方法論を模索する。
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連授業

授業の方法

講義。対話や個人発表、ディベート、構成的グループエンカウンターなどによるアクティブラーニング。適宜、平常点を付与する。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

講義中はスマホ等の電源を必ずOFFにし、机の上に置かないこと。置いている場合は、講義終了まで預かる。授業に関係のない私語禁止。座席を指定することもありうる。遅刻は一回につき一点減点。居眠り厳禁。レポートの採点基準は、「どれだけ講義の内容を理解し、自分のものにしているか」ということ。自分自身との対話を通し、自分のことばで語ることが重要。講義で扱っていない内容や自分の考えばかりを書いても合格点に達することはできない。コピペは１００%単位認定されない。最後に、全体的感想や自分の意見をつけ加えるとよりよい。レポートは、原稿用紙換算５枚以上（２千字以上）。文字数を明記する。書式は問わない。
公欠や特別な事由で欠席した場合、課題を提出しなければ、授業回数に反映されないことに留意。最終レポートの提出期限は、第１３回の講義当日。一日遅れるごとに１点減点となる。学務課に成績票を提出した後は受領できない。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（中学）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	30%	0%	70%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
前に踏み出す力	一定の行動について、主体的に取り組み、周囲に働きかけて巻き込むことができ、目的を持って行動することができた。	一定の行動について、主体的に取り組み、周囲に働きかけて巻き込むことができた。	一定の行動について、主体的に取り組み、少ないながらも周囲に働きかけて巻き込むことができた。	一定の行動について主体的に取り組むことができた。	ほぼ全ての行動について主体的に取り組むことができなかった。
考え抜く力	課題を発見し、見出した解決策の実行に向けた具体的なプロセスを考えることができ、その解決策が効果的で新たな価値を創造することができた。	課題を発見し、見出した解決策の実行に向けた具体的なプロセスを考えることができた。	課題を発見し、解決策を見出すことができた。	課題を発見することができた。	課題を発見することができなかった。
チームで働く力	他の学生の意見をしっかりと傾聴でき、お互いの立場や考え方を尊重して意見集約ができ、反対意見に対しても柔軟に対応することができた。	他の学生の意見をしっかりと傾聴でき、お互いの立場や考え方を尊重して、意見集約することができた。	他の学生の意見をしっかりと傾聴することができた。	他の学生の意見を最低限傾聴することができた。	他の学生の意見を傾聴することができなかった。
成果物の完成度と関与（学習意欲）	成果物（レポート・プレゼンテーション・デザイン制作）を、チームの一員として十分に関与し、主体的に行動し、完成させることができた。	成果物（レポート・プレゼンテーション・デザイン制作）を、チームの一員として十分に関与し、完成させることができた。	成果物（レポート・プレゼンテーション・デザイン制作）を、チームの一員としてある程度関与し、完成させることができた。	成果物（レポート・プレゼンテーション・デザイン制作）を、チームの一員として最低限関与し、完成させることができた。	成果物（レポート・プレゼンテーション・デザイン制作）を、チームの一員として関与せず、完成させることができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　雅一（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　佐藤　雅一　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	［オリエンテーション］ シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを確認する（４５分）	履修登録結果を確認する（４５分）
2	［ビギナーズセミナーⅠ①］ 大学生としての心構え、大学における単位制と学修の考え方について説明する。	学生便覧を読む（４５分）	グループディスカッションの反省点を整理する（４５分）
3	［ビギナーズセミナーⅠ②］ 大学生としての心構え、大学における単位制と学修の考え方について説明する。	学生便覧を読む（４５分）	不明な点をまとめ、調べる（４５分）
4	［コンセンサスゲーム・ディスカッション基礎］ グループディスカッションへの取り組み方について解説する。	グループディスカッションのコツについて調べる（４５分）	授業内容をまとめる（４５分）
5	［コンセンサスゲーム・演習課題①］ グループディスカッションの練習を行う。	第４回講義の復習と第５回講義の予習（９０分）	第５回講義の復習（９０分）
6	［コンセンサスゲーム・演習課題②］ グループディスカッションの練習を行う。	前回のグループディスカッションの反省点を確認する（４５分）	グループディスカッションの反省点を整理する（４５分）
7	［コンセンサスゲーム・プレゼンテーション基礎］ プレゼンテーションの目的や構成などについて解説する。	プレゼンテーションのコツについて調べる（４５分）	授業内容をまとめる（４５分）
8	［コンセンサスゲーム・事例研究①］ 提示された企業活動の事例について、グループごとに調査・分析を行い、プレゼンテーションを行う。	前回の授業内容を確認する（４５分）	グループディスカッションの反省点を整理する（４５分）
9	［コンセンサスゲーム・事例研究②］ 提示された企業活動の事例について、グループごとに調査・分析を行い、プレゼンテーションを行う。	前回のプレゼンテーションの反省点を確認する（４５分）	グループディスカッションの反省点を整理する（４５分）
10	［総合演習①］ 提示された内容について、グループごとに取り組む。	これまでの授業内容を確認する（４５分）	グループディスカッションの反省点を整理する（４５分）
11	［総合演習②］ 提示された内容について、グループごとに取り組む。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	グループディスカッションの反省点を整理する（４５分）
12	［総合演習③］ 提示された内容について、グループごとに取り組む。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	グループディスカッションの反省点を整理する（４５分）
13	［総合演習④］ 提示された内容について、グループごとに取り組む。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	グループディスカッションの反省点を整理する（４５分）
14	［総合演習⑤］ 提示された内容について、グループごとに取り組む。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	グループディスカッションの反省点を整理する（４５分）
15	［総合演習⑥（成果発表会）］ 提示された内容について、グループごとに取り組んだ内容について、プレゼンテーションを行う。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	フィードバックの内容を整理する（４５分）
16	［まとめ・総評］ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	前回までの授業内容を確認する（４５分）	フィードバックの内容を整理する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	塩崎　大輔（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　塩崎　大輔　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

地域調査を通して地域への理解を深め、その中で多面的・多角的な視点を養い、地域分析や地域課題解決のための基礎的な能力を養う。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

フィールドワークの基礎を習得する。
調査結果をレポートにまとめる能力の基礎を習得する。

授業全体の内容と概要

本授業は北広島市や北海道におけるフィールドワークを通して、地域に対する理解度を高め、地域課題の発見や課題解決のための基礎的な能力を育成することを目標とする。またそうして得られた調査結果や課題をレポートにまとめ表現する能力を育成する。
「SDG11．住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

基本的には徒歩または公共交通機関を利用した、フィールドワークを中心に行う。
フィールドワークで得た結果をまとめ、発表する。
資料やレポート等のやり取りはTeamsを活用する。
地理院地図などの地理情報システム（GIS）を活用する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

■出席について
毎回出席することが前提となるが、やむを得ず欠席する場合には、担当教員に必ず事前連絡すること。無断欠席は厳禁。

■フィールドワークについて
フィールドワークの性質上、土曜等に授業を実施する場合がある。
フィールドワーク中に発生する交通費等は自己負担とする。
フィールドワーク中は必ず教員の指示に従うこと。

■その他
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１２回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	50%	０％	０％	50%	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
地域調査法の基礎	レポート課題において、９割以上の得点を上げた。	レポート課題において、８割以上の得点を上げた。	レポート課題において、７割以上の得点を上げた。	レポート課題において、６割以上の得点を上げた。	レポート課題において、６割未満の得点であった。
フィールドワークの基礎	フィールドワークを通して、高いレベルで情報を収集し活用することができた	フィールドワークを通して、情報を収集し活用することができた。	フィールドワークを通して、情報を収集することができた。	フィールドワークをすることができた。	フィールドワークをすることができなかった。
空間的な見方	地域調査において、高いレベルで地図やその他の空間情報を活用することができた。	地域調査において、地図やその他の空間情報を活用することができた。	地域調査において、地図を活用することができた。	地図を活用することができた。	地図を活用することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	塩﨑　大輔（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　塩﨑　大輔　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業の内容・進め方・評価の仕方ガイダンス、科目を修了して『身に付く力』についての説明	事前にシラバスを読んでいること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
2	地域調査法①	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
3	地域調査法②	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
4	地域調査法③	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
5	フィールドワーク①	フィールドワークの準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
6	フィールドワーク②	フィールドワークの準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
7	フィールドワーク③	レポート課題等を作成すること。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
8	フィールドワーク④	フィールドワークの準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
9	フィールドワーク⑤	フィールドワークの準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
10	フィールドワーク⑥	フィールドワークの準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
11	調査結果まとめ①	フィールドワークのまとめをしておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
12	調査結果まとめ②	フィールドワークのまとめをしておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
13	調査結果発表①	発表準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
14	調査結果発表②	発表準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
15	レポート作成	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
16	まとめ、課題（レポートなど）の解説 これまでの講評をしとフィードバックする 科目を修了して『身に付く力』についての検証 授業改善アンケートの実施	レポート課題等を作成すること。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	全学共通科目	対象学科・配当	全学科・２年（再履修）		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ（再） （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	河田　一郎（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　河田　一郎　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

各自の興味のあるものをテーマに選び、、自由に発想を展開し、レポートにまとめる。
就職活動を見据え、常に社会に目を向ける習慣を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP５に対応する。

到達目標

社会のさまざまな出来事に対して、自分なりの意見を述べることができる。

授業全体の内容と概要

就職面談を想定し、話題のニュースについて、ディスカッションを行う。各自のテーマが決まった時点で、少しずつテーマについて調べ、ゼミ終了時にレポートを提出してもらう。「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では各自のテーマにかかわる資料を配布し、板書をしながら講義形式で行う。
また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。
なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

基礎ゼミナールIA再履修者。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	２０％	０％	０％	８０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能をほぼ修得した。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	全学共通科目	対象学科・配当	全学科・２年（再履修）		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ（再） （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	河田　一郎（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　河田　一郎　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	【ガイダンス】　授業の進め方・シラバスの説明。授業改善に向けたアンケート結果反映の説明。この科目を受講することで、誰よりも早く、就活を勝ち抜くためのスキルを身に付けることができる。	シラバスの内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
2	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック６級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
3	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック５級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
4	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック４級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
5	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック３級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
6	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック準２級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
7	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック２級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
8	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック準１級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
9	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック１級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
10	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
11	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
12	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
13	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
14	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
15	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。発表を行った際は、そのつど授業内でコメントし、フィードバックする。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
16	授業改善に向けたアンケートを実施。これまでの授業について講評を行い、フィードバックする。第１回目で示した達成目標が身についたかどうか、プレゼンを通して確認する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安田　祐造(デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館1階	
単位数	1　（単位認定責任者：　安田　祐造　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	50年近い美術教師として、また50年以上にわたる画家としての実績		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

絵画の基本‐様々な用材の性質や取り扱い方にいて、さらに絵画の果たすべき役割や意義について学修する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

絵画制作に用いる様々な道具の使用方法、それぞれの色剤や展色剤の特長を学修し身に着ける。

授業全体の内容と概要

10号程度の大きさの支持体に、それぞれの履修生が求めるものをエッグテンペラや油彩の技法で制作する。

授業の方法

事前の準備、制作後の作品についての振り返り、次の制作についての計画や展望を巡らせるといった一連の作業を、毎時の習慣とすること。適宜、パソコンやプロジェクターも取り入れ活用する。また、不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

アート専攻の人を中心に、絵を描くのが好きな人、描写力をつけたい人、将来、美術教師を目指す人を対象とする。止むを得ず欠席した場合には、放課後等を活用して遅れを取り戻す心構えを求める。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0％	0％	80%	0％	20%	0％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
支持体について	支持体の作り方の基本について十分に身についた。	支持体の作り方の基本について身についた。	支持体の作り方の基本についてほぼ身についた	支持体の作り方の基本についてある程度身についた。	支持体の作り方の基本について身につかなかった。
色剤、展色剤について	色剤や展色剤の乾燥速度や被覆力などの基本的知識が十分に身についた。	色剤や展色剤の乾燥速度や被覆力などの基本的知識が身についた。	色剤や展色剤の乾燥速度や被覆力などの基本的知識がほぼ身についた。	色剤や展色剤の乾燥速度や被覆力などの基本的知識がある程度身についた。	色剤や展色剤の乾燥速度や被覆力などの基本的知識が身につかなかった。
描写、彩色について	モティーフの面やバルールなどを十分的確にとらえた描写が行えた。	モティーフの面やバルールなどを的確にとらえた描写が行えた。	モティーフの面やバルールなどをほぼ的確にとらえた描写が行えた。	モティーフの面やバルールなどをある程度的確にとらえた描写が行えた。	モティーフの面やバルールなどを的確にとらえた描写が行えなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安田　祐造(デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館1階	
単位数	1　（単位認定責任者：　安田　祐造　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	50年近い美術教師として、また50年以上にわたる画家としての実績		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション　シラバスについて、科目を修了して『身に付く力』についての説明 古今の作品について（構図を主に）	インターネット等を活用し、古今の作品に触れる。(90分)	自作についての構想を練る。(90分)
2	洋画作品の構造と用材、木材の性質について	洋画作品の構造と用材、木材の性質について予習する。(90分)	自作についての構想を練る。(90分)
3	支持体製作 木材の裁断、木工具の取り扱い方について	木材の裁断、木工具の取り扱い方について予習する。(90分)	構想がまとまった段階で、下絵の制作を始める。(90分)
4	支持体製作 地塗り材の処方、地塗りについて	構想について最終的な確認を行う。(90分)	下絵を仕上げる。(90分)
5	支持体製作 地塗り面の研磨、下絵の転写作業について	下絵に訂正箇所がないかを検討する。(90分)	エッグテンペラでの作例を参照する。(90分)
6	エッグテンペラでの下描き エッグテンペラ用展色剤の処方、下描きについて	エッグテンペラの展色剤の処方について予習する。(90分)	本時での制作を振り返り検討する。(90分)
7	油彩による上描きとエッグテンペラによる加筆　1	油彩絵具の透明性や被覆力等について予習する。90分)	油彩絵具の透明性や被覆力等について復習する。(90分)
8	油彩による上描き　1 大まかな面を把握し、かつ下描きを活かした描写について	下描きを活かした大まかな油彩による上描きについて検討する。(90分)	下描きを活かした大まかな油彩による上描きが行えたかを振り返る。(90分)
9	油彩による上描き　2 色面の明度差と立体感等に及ぼす効果について	相互の色面の明度差と立体感等に及ぼす効果について予習する。(90分)	相互の色面の明度差と立体感等に及ぼす効果について振り返る。(90分)
10	油彩による上描き　3 立体感や奥行き感と色彩調和について	色彩調和について予習する。(90分)	立体感や奥行き感と色彩調和について検討する。(90分)
11	油彩による上描きとエッグテンペラによる加筆　1	油の乾き具合とテンペラでの加筆のタイミングについて予習する。(90分)	エッグテンペラという異質な材料のもたらす効果について振り返る。(90分)
12	油彩による上描きとエッグテンペラによる加筆　2	加筆したテンペラについて不備等がないかを検討する。(90分)	立体感、奥行き感、色彩調和等について総合的に振り返る。(90分)
13	油彩による上描きとエッグテンペラによる加筆　3	筆触・タッチ・について予習する。(90分)	意図どおりの描写を叶えるにふさわしい筆等について検討し、必要に応じてあらかじめ用意する。(90分)
14	油彩による上描きとエッグテンペラによる加筆　4	細部と全体との関連と調和について検討する。(90分)	細部と全体との関連と調和が実現できているかを検討する。(90分)
15	油彩による上描きとエッグテンペラによる加筆　5	色価・バルール・に狂いのある個所がないかを検討する。(90分)	仕上げを前に、これまでの制作について総点検を行う。(90分)
16	仕上げと合評会、科目を修了して『身に付く力』についての検証、そしてこれまでの取り組みをもとに、今後の学生たちの制作や生き方にフィードバックさせる。	自作について、他者に尋ねるべき点についてまとめる。(90分)	合評会で得られた、他社の意見や感想などをどのように作品に反映させるか検討する。(90分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	堤　美穂子（デザイン学科・特任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　堤　美穂子　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験をもとにデザインの基礎から、課題の探索・改善までを指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

デザイン思考を理解し、社会における問題意識に対し、デザインによって解を求め、改善にあたる力を獲得することを目標とする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

以下の①②を有する、デザイナー気質の獲得をめざす。
①自分の違和感や意見をもって他者に説明できると同時に、異なる意見にも耳を傾け、他を尊重した解をもとめようとする統合力。②結論や解決を急ぐのではなく、改善を繰り返すことでより高い理想へと近づこうとする探究心。

授業全体の内容と概要

デザインを、生きる力として身につけるために、問題提起や問いの提供によって物事や社会を心の目で見、多視点で捉えられるようになるなど、人間としての幅を拡張する。またデザイン事例をもとにした観察・議論等によって、デザインに埋め込まれた人間の意図を読み解く力を養う。

授業の方法

はじめにPPT資料を用いたデザイン思考に関するレクチャーを受け、知識を習得。グループに分かれて個人が持ち寄った問題意識について話し合い、テーマをひとつに絞り込む。活動計画をたててチームでフィールドワークを企画し、エスノグラフィックアプローチを試みる。議論を重ね、改善のプランをたて、プロトタイピングを繰り返して、そのプロセスをプレゼンテーションする。
各回の終わりにgoogle formsにて、リフレクション（振り返り）を提出（締め切りはその日中）。次回の講義までに教員からのフィードバックを読んでおく。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

自分および他者に敬意を払った態度で授業に臨む。他の学生とともに学ぶことへの責任を果たす。常に学ぶことを面白がろうと努力する。理解できなかったことがあれば、その場で積極的に質問する。
毎回授業後にリフレクションを提出（成績評価に反映）、次の授業までに教員からのフィードバックを読んでくる。
不測の事態が発生した際には、オンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針および規定等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学をサポートする。
講義中の録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	60%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
本質的な問題意識、他者への伝達	社会や物事に対する本質的な問題意識をもち、それを他者に説明し共感を得ることができたため、チームが取り組む議題となった	社会や物事に対する本質的な問題意識をもち、それを他者に説明し共感を得ることができた	社会や物事に対する問題意識をもち、それを他者に説明し理解を得ることができた	社会や物事に対する問題意識はあるが、それを他者に説明できなかった	社会や物事に対する問題意識をもつことができなかった
デザイン思考	デザイン思考を理解し、本講義をはじめ、自分の生活、他の学習や取り組みなどにも結びつけて活用・実践することができた	デザイン思考を理解し、本講義をはじめ、自分の生活、他の学習や取り組みなどにも結びつけて考えることができた	デザイン思考を理解したが、本講義で実行するまでには至らなかった。	デザイン思考の理解が不十分だった。	デザイン思考をまったく理解できなかった。
主体性・判断力・統合力	自分の意見と同様に、他者の意見も公平に尊重した、よりよい解を得るための統合力が発揮できた	自分の意見と同様に、他者の意見も公平に尊重した、よりよい解を得ようと考え、努力した	自分の意見と同様に、他者の意見も公平に尊重しようとした	自分の意見を抑え、他者の意見のみ尊重しようとした（または自分の意見のみ尊重し、他者の意見を抑えた）	自分の意見を発言せず、他者の意見に対する意見も発言しなかった
表現力・行動力	グループでの活動にリーダーまたはフォロワーとして積極的に参加し、自らのアイディアが活用されるなど、活動の価値の向上に大いに貢献できた	グループでの活動においてリーダーまたはフォロワーとして積極的に参加し、アイディア創出や議論の活発化を促すなど自分の役割以上の貢献を果たした	グループでの活動においてリーダーまたはフォロワーとして積極的に参加し、自分の役割を果たした	グループでの活動においてリーダーまたはフォロワーとして参加したが、自分の役割やチームへの貢献が不十分だった	グループでの活動において参加意欲が見られず、自分の役割も果たせなかった

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	堤　美穂子（デザイン学科・特任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1　（単位認定責任者：　堤　美穂子　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験をもとにデザインの基礎から、課題の探索・改善までを指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『誰のためのデザイン？増補・改訂版　―認知科学者のデザイン原論』	D.A.ノーマン	新曜社	2015		
2	『芸術教養シリーズ17 デザインへのまなざし―豊かに生きるための思考術 私たちのデザイン1』	早川克美	幻冬舎	2014		
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス、シラバスの説明、 「デザイン思考①」理論 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスの確認、自らの問題意識や生活の中の違和感に目を向ける（45分）	リフレクションの記載。問題意識や違和感を探索する（45分）
2	「デザイン思考①」理論振り返り、 『問題意識や違和感』個人発表、ディスカッション、グループ分け	フィードバックの確認。問題意識や違和感に気づき、個人発表の準備をする（45分）	リフレクションの記載。「問題意識や違和感」の掘り下げ（45分）
3	「デザイン思考②/広義のデザインについて」理論、 グループディスカッション/テーマの決定	フィードバックの確認。「デザイン思考①」の復習（45分）	リフレクションの記載。活動計画の準備（45分）
4	「デザイン思考②」振り返り、 「テーマとその改善アイディア」についての議論	フィードバックの確認。テーマに対する改善アイディアを考えてくる（45分）	リフレクションの記載。授業内容の継続（45分）
5	「テーマとその改善アイディア」についての発表、 活動計画の策定	フィードバックの確認。発表準備（45分）	リフレクションの記載。授業内容の継続（45分）
6	「テーマとその改善アイディア」再検討、 「活動のアウトライン（テーマ・改善アイディア・活動計画）」発表	フィードバックの確認。活動のアウトライン発表準備（45分）	リフレクションの記載。活動計画に基づく情報収集と調査（45分）
7	「活動計画に基づく情報収集と調査」状況報告	フィードバックの確認。活動計画に基づく情報収集と調査報告の準備（45分）	リフレクションの記載。情報収集と調査の継続（45分）
8	取材活動①/準備 取材内容・要件・取材先の候補と申し入れ 取材申し入れのマナーについて（メール文面等の指導）	フィードバックの確認。取材活動のための準備（45分）	リフレクションの記載。授業内容の継続（45分）
9	取材活動②/情報収集活動と報告	フィードバックの確認。授業内容の継続（45分）	リフレクションの記載。授業内容の継続（45分）
10	取材活動③/情報収集活動と報告	フィードバックの確認。授業内容の継続（45分）	リフレクションの記載。授業内容の継続（45分）
11	取材活動④/情報整理とデータ化	フィードバックの確認。授業内容の継続（45分）	リフレクションの記載。授業内容の継続（45分）
12	取材活動⑤/情報整理とデータ化の報告	フィードバックの確認。授業内容の継続（45分）	リフレクションの記載。授業内容の継続（45分）
13	デザイン作成①/個人アイディアの発表・議論・アイディア決定 →作業の振り分け	フィードバックの確認。デザインアイディア発表の準備（45分）	リフレクションの記載。割り当てられた役割・個人作業（45分）
14	デザイン作成②/個人作業の集約・統合・プロトタイピング	フィードバックの確認。授業内容の継続（45分）	リフレクションの記載。授業内容の継続（45分）
15	デザイン作成②/プレゼンテーション資料の作成	フィードバックの確認。授業内容の継続（45分）	リフレクションの記載。授業内容の継続（45分）
16	プレゼンテーション 科目を修了して『身に付く力』についての検証 授業最終回において講評をし、フィードバックする	フィードバックの確認。プレゼンテーションの準備（45分）	リフレクションの記載。基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠBに向けての準備（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	浩而　魅諭(デザイン学科・専任講師)		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1　（単位認定責任者：　浩而　魅諭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	細密画家、復元画家（パレオアーティスト）、野生動物画家（ワイルドアートアーティスト）、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師がその経験や実績を活かして、実践的な授業を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が、イラストレーションを制作するために必要となる素養を考え、身につけるための活動を通し、大学での学修に必要な基礎的知識、協働の姿勢、学修態度を学び取るとともに、基本的な技術、技能の習得方法を考え、実践する姿勢や方法を学び取る。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

準備学習、事後学習をしっかりと行い、主体性を持って協働して学ぶ態度を身につける。
大学生活で学ぶ全般と本ゼミに於いて学ぶ技能、技術を統合してイラストレーション制作に反映する。
プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力など大学で学ぶための素養を身に付ける。

授業全体の内容と概要

授業はイラストレーションを中心とした題目についての講義やディスカッション、課題制作などを行い、イラストレーション全般についての知識や技能を学び取れるよう展開していく。物の見方、形のとらえ方といった美術全般にわたる基礎基本の習得は特に力を入れる。具体的には屋外でのスケッチや、１分クロッキー、５分クロッキー、動いている物の素描、デッサンなどを行う。初めての大学生活の不安や戸惑いを解消させ、主体的に学習できるように一人一人との対話を重視し、授業を展開する。

授業の方法

授業は、口頭、板書、パワーポイント、配布資料などで行う。必要に応じてDVDなど視聴覚メディアを適宜使用。説明後、課題制作。講評会に於いて課題のフィードバックを行う。不測時に於ける授業、補講などでオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

立体平面に拘らず描写力をつけたい人、美術教師を目指す人、画家やイラストレーターを目指す人などを対象とする。授業の内容は履修の学生の素養に合わせ適宜変更する可能性がある。無遅刻無欠席は社会人としての素養であることを理解できていること。毎回画材を持参（F6（またはA3）以上のクロッキー帳またはスケッチブック、鉛筆（ステッドラーやハイユニなどH系からB系まで５種類ほど）、カッター、色鉛筆）

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規定などに基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
学修態度・姿勢	準備学習をした上で授業に臨み、授業に於いて学び取ったことを事後学習により振り返るといった一連の流れが習慣として身に付いた。協働して学ぶ姿勢が十分身に付いた。	準備学習をした上で授業に臨み、授業に於いて学び取ったことを事後学習により振り返るといった一連の流れが習慣として身に付いた。協働して学ぶ姿勢が身に付いた。	準備学習をした上で授業に臨み、授業に於いて学び取ったことを事後学習により振り返るといった一連の流れが習慣として身に付いた。	準備学習をした上で授業に臨み、授業に於いて学び取ったことを事後学習により振り返るといった一連の流れが習慣としてある程度は身に付いた。	準備学習をした上で授業に臨み、授業に於いて学び取ったことを事後学習により振り返るといった一連の流れが習慣として身に付かなかった。
描写力・技術力	イラストレーションの役割を理解し、イラストレーションを描く上で基本となる物をみる力や描写力などの基本技能が身に付き、それを自分の作品に十分反映できた。	イラストレーションの役割を理解し、イラストレーションを描く上で基本となる物をみる力や描写力などの基本技能が身に付き、それを自分の作品に反映できた。	イラストレーションの役割を理解し、イラストレーションを描く上で基本となる物をみる力や描写力などの基本技能が身に付いた。	イラストレーションの役割を理解し、イラストレーションを描く上で基本となる物をみる力や描写力などの基本技能がある程度は身に付いた。	イラストレーションの役割を理解し、イラストレーションを描く上で基本となる物をみる力や描写力などの基本技能が身に付かなかった。
表現力（プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力）	授業全般、プレゼンテーション、ディスカッション、講評会などに於いて必要となるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が身に付き、周囲の士気を上げることができた。	授業全般、プレゼンテーション、ディスカッション、講評会などに於いて必要となるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が十分身に付いた。	授業全般、プレゼンテーション、ディスカッション、講評会などに於いて必要となるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が身に付いた。	授業全般、プレゼンテーション、ディスカッション、講評会などに於いて必要となるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力がある程度は身に付いた。	授業全般、プレゼンテーション、ディスカッション、講評会などに於いて必要となるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が身に付かなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	浩而　魅諭(デザイン学科・専任講師)		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1　（単位認定責任者：　浩而　魅諭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	細密画家、復元画家（パレオアーティスト）、野生動物画家（ワイルドアートアーティスト）、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師がその経験や実績を活かして、実践的な授業を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション｛シラバスの説明、当該科目を修了して身につく力について、準備学習・事後学習（１分クロッキー）の説明｝	シラバスを読む（４５分）	自己紹介シートの作成、課題（４５分）
2	自己紹介を通して自分の好みや画風その他の紹介、今後協同していく学生たちのことをよく知る、事前学習・事後学習（１分クロッキー）の説明	自己紹介シートを用い発表の意マージトレーニングをする、課題（４５分）	イラストレーションとは何かを調べる、課題（４５分）
3	イラストレーションとは、ディスカッション、事前学習・事後学習（１分クロッキー）の説明	イラストレーションとは何かシートにまとめる、課題（４５分）	イラストレーションを制作する上で必要となる力を考える、課題（４５分）
4	イラストレーションを制作する上で必要となる力とは、事前学習・事後学習（１分クロッキー）の説明	イラストレーションを制作する上で必要となる力についてシートにまとめる、課題（４５分）	課題（４５分）
5	日々の取り組み課題講評会（フィードバック）、ディスカッション、事前学習・事後学習（５分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
6	スケッチ・フィールドワーク１物を見る力、事前学習・事後学習（５分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
7	スケッチ・フィールドワーク２構成、事前学習・事後学習（５分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
8	スケッチ・フィールドワーク３要素の取捨選択、事前学習・事後学習（５分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
9	日々の取り組み課題及びスケッチの講評会（フィードバック）、ディスカッション、事前学習・事後学習（１０分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
10	日々の取り組み課題及びスケッチの講評会（フィードバック）、ディスカッション、事前学習・事後学習（１０分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
11	人物素描１瞬時に形をとらえる、準備学習・事後学習（１０分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
12	人物素描２バランス・骨・筋肉、準備学習・事後学習（１０分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
13	人物素描３動きをとらえる、準備学習・事後学習（１０分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
14	日々の取り組み課題及び人物素描の講評会（フィードバック）、ディスカッション、事前学習・事後学習の内容の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
15	日々の取り組み課題及び人物素描の講評会（フィードバック）、ディスカッション、事前学習・事後学習の内容の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
16	日々の取り組み課題及び人物素描の講評会（フィードバック）、ディスカッション、当該科目の第１回目で示した「身につく力」の検証	課題（４５分）	講評会で得られた、意見や感想などをどのように作品に反映させるか検討（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	赤木　良子（建築学科・准教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1　（単位認定責任者：　赤木　良子　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計実務経験、インテリアデザイン実務経験、資格（一級建築士、インテリアコーディネーター）		
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室等にて臨機応変に対応。				

概要

履修目標

手で描くことを通してデザインやアイデアを創出する基礎力を養う。
実際の美術作品等を見ることを通して、美的かつ建築的な感覚の素養を高めつつ作品を理解する。

授業の位置づけ

全学科のDP1，DP2，DP5 に対応する。

到達目標

ある程度のスケッチを描けるようになる。
ある程度の作品理解ができる。
理解したコンセプトを形にできる。

授業全体の内容と概要

スケッチを継続的に行なって、定期的に全員で共有する。
美術作品を見て、作品を理解する。
作品から理解したコンセプトを用いて自分の作品を制作する。

授業の方法

課題や方法についてその都度、パワーポイントや配布資料を用いて行う。
グループワーク、個人の作品制作や、課題授業を行い、作品の講評によりフィードバックする。
学生の不明点・質問は、チャット形式の支援システムで迅速に回答する。
不測時における授業や補講等はオンライン・オンデマンドにて授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

制作に用いる、購入する道具をガイダンスにて案内する。
パソコンやモバイルは調べ物などに使うため、何らかの端末を準備すること。
正当な理由なき１０分以上の遅刻に関して、遅刻２回を１回欠席とみなす。
課題の進行と日程に関しては、ガイダンスで示し、その後もクラス内の進捗を見て、予定を変更することがある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

１１回以上の出席と全課題作の完成・提出を必須とする。
（先述のように正当な理由なき１０分以上の遅刻に関して、遅刻２回を１回欠席とみなす。）

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
指示した継続課題（自宅制作）を行なった	８割以上出来ていた。	６～７割出来ていた。	半分できていた。	３割できていた。	全く出来ていなかった。
芸術作品を理解できた（ワークシートによる評価を予定）	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
コンセプトをアイデアに落とし込み、作品として表現できていた	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	赤木　良子（建築学科・准教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　赤木　良子　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計実務経験、インテリアデザイン実務経験、資格（一級建築士、インテリアコーディネーター）		
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室等にて臨機応変に対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス、 シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明、 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスを事前に把握する（４５分）	自宅学習課題（４５分）
2	コミュニケーションワーク	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
3	手の演習	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
4	課題１（演習）	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
5	課題２（演習）	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
6	課題の共有と講評によるフィードバック	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
7	作品鑑賞（事前学習）	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
8	テーマ課題１	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
9	テーマ課題１	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
10	テーマ課題２	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
11	テーマ課題２	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
12	課外学習（美術館での作品鑑賞）	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
13	課外学習（美術館での作品鑑賞）	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
14	課外学習（美術館での作品鑑賞）	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
15	課外学習（美術館での作品鑑賞）	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
16	講評によるフィードバック、 授業改善アンケートの実施、 科目を修了して「身に付く力」についての検証	学習の振り返り（事前）（４５分）	学習の振り返り（事後）（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　伊藤　裕康　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

手で描くことを通してデザインやアイデアを創出する基礎力を養う。実際の美術作品等を見ることを通して、美的かつ建築的な感覚の素養を高めつつ作品を理解する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

ある程度のスケッチを描けるようになる。ある程度の作品理解ができる。理解したコンセプトを形にできる。

授業全体の内容と概要

スケッチを継続的に行って、定期的に全員で共有する。美術作品を見て、作品を理解する。作品から理解したコンセプトを用いて自分の作品を制作する。

授業の方法

課題や方法についてその都度、パワーポイントや配布資料を用いて行う。グループワーク、個人の作品制作や、課題授業を行い、作品の講評によりフィードバックする。
学生の不明点・質問は、チャット形式の支援システムで迅速に回答する。
不測時における授業や補講等はオンライン・オンデマンドにて授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

制作に用いる、購入する道具をガイダンスにて案内する。
パソコンやモバイルは調べ物などに使うため、何らかの端末を準備すること。
正当な理由なき１０分以上の遅刻に関して、遅刻２回を１回欠席とみなす。
課題の進行と日程に関しては、ガイダンスで示し、その後もクラス内の進捗を見て、予定を変更することがある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

１１回以上の出席と全課題作の完成・提出を必須とする。
（先述のように正当な理由なき１０分以上の遅刻に関して、遅刻２回を１回欠席とみなす。）

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
指示した継続課題（自宅制作）を行なった	８割以上出来ていた。	６～７割出来ていた。	半分できていた。	３割できていた。	全く出来ていなかった。
芸術作品を理解できた（ワークシートによる評価を予定）	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
コンセプトをアイデアに落とし込み、作品として表現できていた	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　伊藤　裕康　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス／シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスを事前に把握する（４５分）	自宅学習課題（４５分）
2	コミュニケーションワーク	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
3	手の演習	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
4	課題１（演習）	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
5	課題２（演習）	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
6	課題の共有と講評によるフィードバック	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
7	作品鑑賞（事前学習）	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
8	テーマ課題１	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
9	テーマ課題１	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
10	テーマ課題２	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
11	テーマ課題２	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
12	課外学習（美術館での作品鑑賞）	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
13	課外学習（美術館での作品鑑賞）	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
14	課外学習（美術館での作品鑑賞）	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
15	課外学習（美術館での作品鑑賞）	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
16	講評によるフィードバック、授業改善アンケートの実施、科目を修了して「身に付く力」についての検証 後期ゼミの告知	学習の振り返り（事前）（４５分）	学習の振り返り（事後）（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	岡田　武志（経営学科・助教）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　岡田　武志　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における健康・スポーツ関連の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

大学での勉強を進めるにあたり、必要となる文章読解力のほか、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力を身に着ける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

自分でテーマを設定し、文章にまとめることができる。
グループ内でのコミュニケーションを図ることができ、リーダーシップを発揮できる。
テーマに基づきプレゼンテーションをすることができる。

授業全体の内容と概要

授業の前半は、小論文・レポートを作成し発表する。また、発表に対して討議したり、ディスカッションを行う。
後半は、特定のテーマでプレゼンテーションを行い、質疑応答やディスカッションも行う。
人前で話すための準備をし、解り易く、興味深い内容を考える。

授業の方法

小論文、レポートの書き方については、板書または資料にて説明する。提出されたレポートについては、添削及び内容の評価とともにフィードバックする。
グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、書籍や新聞、インターネット等の情報を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は、欠席扱いとする。
対話する機会が多いので、積極的な発言や能動的な授業態度で臨むこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	１０％	１０％	０％	７０％	１０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コミュニケーション能力	仲間とのコミュニケーションを図る方法がとても巧みにおこなえた。	仲間とコミュニケーションを図ることが比較的巧みにできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが普通にできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが上手ではないが努力した。	仲間とコミュニケーションを図ることがとても苦手であった。
ディスカッション能力	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取れた。	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップもまずまず取れた。	討議の中で、対話を巧みにできたが、リーダーシップをとるまではいかなかった。	討議の中で、対話をすることが普通にできた。	討議の中で、対話をすることが苦手で、ほとんど受け身でおわった。
プレゼンテーション能力	パワーポイント等を巧みに使い、解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、比較的解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、解り易くプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、プレゼンテーションを行ったが、多少伝わらなかった。	プレゼンテーションの準備がほとんどできていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	岡田　武志（経営学科・助教）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　岡田　武志　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における健康・スポーツ関連の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認する。（４５分）	注意事項を確認する。（４５分）
2	レポートの作成 （スポーツとの関わり）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
3	発表と意見交換　１	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
4	発表と意見交換　２	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
5	発表と意見交換　３	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
6	スポーツを考える（ゴール型競技）　１	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
7	スポーツを考える（ゴール型競技）　２	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
8	スポーツを考える（ネット型競技）　１	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
9	スポーツを考える（ネット型競技）　２	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
10	プレゼンテーションの準備　１ グループ別ディスカッション	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
11	プレゼンテーションの準備　２ グループ別ディスカッション	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
12	プレゼンテーション　（ゴール型競技）　１	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
13	プレゼンテーション　（ゴール型競技）　２	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
14	プレゼンテーション　（ネット型競技）　１	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
15	プレゼンテーション　（ネット型競技）　２	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
16	ふりかえり 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	ノートに記載された内容を再度確認する。（４５分）	評価等の内容を確認を確認する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｷｬﾘｱ支援演習 II (M) （科目ナンバリング：SOE081054　　）				
授業担当者 （所属・職名）	経営学科・キャリア支援委員	研究室等所在	経営学科・キャリア支援委員　研究室		
単位数	1　（単位認定責任者：　経営学科・キャリア支援委員　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

就職活動に対する早期意識付けの一環として行われる授業である。
様々な分野の業界で働く社会人の講話を聴くことで、様々な仕事の実際を知り、働くとはどのようなことか、生計を立てるという活動に込められた意味について具体的に学ぶ。
そして、自らが進路として目指す業界や分野を見付け、それを目標としながら、まずはインターンシップに取り組むための準備学習ともする。
本科目を修了して、社会人になるための基礎知識を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のDP１、DP２、DP5に対応する。

到達目標

社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態を知り、その第一線で働く社会人たちが如何にして現在の立場に至ったのかについて知ることで、学生が卒業後のビジョンをシミュレーションし、それに向けての具体的な活動を開始するための手掛かりを得る。

授業全体の内容と概要

一般企業から公務員まで、さらには各学科の分野別に設定された内容を基にして、各種業界で働く職業人を講師として招き、その講話を通じて、業界についての詳細な情報、業界人として身に付けておくべき知識や成功の秘訣、今後のインターンシップ参加や就職活動に於ける重要なポイントなどを学ぶ。

授業の方法

毎回の主題に準じた各界、各関係者の講師による講話を主とした授業が行われる。
概要説明は PowerPointなどにてスライドが作成され、他に配布物としてプリントや資料が用いられることもある。
講話終了後に質疑応答が行われ、疑問や要望などの解決に対応する。
学生は毎回の講話を聴き、授業終了後にはその振り返りをレポートとして提出する。
職業レディネステスト、SPI性格検査のも本授業にて実施するう。
授業形態として全学科合同で学ぶ期間と学科別（分野別）の其々で行う期間を設定する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎授業に於いて、当日定時までに提出するレポート課題が設定される。
授業中はスマートフォンやタブレットなどの通信機器を用いることが多いため、準備を整えておくこと。
遅刻１回は０.５回の欠席扱いとする。但し、交通機関の遅延による遅刻は証明書類を持って担当教員に申し出ること。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は13回以上とキャリタスUCに登録すること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	８０%	０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能　「社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態を理解している。」	社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態を十分に理解し、実践可能なレベルで身に付けている。	社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態を十分に理解している。	社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態をほぼ理解している。	社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態の理解が不十分である。	社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態が全くできていない。
思考力・判断力・表現力「社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に臨むことができる応用力を身につけている」	社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に臨むことができる応用力を実践できるレベルに到達した。	社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に臨むことができる応用力を概ね実践できるレベルに到達した。	社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に臨むことができるレベルには未だ到達していない。	社会人に必要とされる一般常識の理解が不十分であり、就職活動に臨むレベルには到達していない。	社会人に必要とされる一般常識を理解できておらず、就職活動に臨む段階にない。
主体性・多様性・協働性「就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始することができる。」	就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始できるレベルに到達した。	就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始できるレベルに概ね到達した。	就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始できるレベルには未だ到達していない。	「就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始できるレベルには到達していない。	就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始できる段階にない

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｷｬﾘｱ支援演習 II (M) （科目ナンバリング：S0E081054　　）				
授業担当者 （所属・職名）	経営学科・キャリア支援委員	研究室等所在	経営学科・キャリア支援委員　研究室		
単位数	1　（単位認定責任者：　経営学科・キャリア支援委員　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション/キャリタスUC登録 ・この科目の内容と目的の理解・評価方法 ・科目を修了して「身に付く力」の説明含む ・キャリタスUC登録	シラバス全体を一読しておくこと（４５分）	授業内容の整理（４５分）
2	お金のセミナー 株式会社HBN　樋江井氏	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
3	職業レディネス・テスト①	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
4	インターンシップについて① 株式会社リクルート　吉田氏	当該範囲のシラバスとテキストの確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
5	インターンシップについて②	当該範囲のシラバスとテキストの確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
6	トークセッション 株式会社キャリタス　青木氏	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
7	職業レディネス・テスト②	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
8	社会人基礎力について①	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
9	社会人基礎力について②	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
10	学科別企業講演①	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
11	学科別企業講演②	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
12	SPI能力検査受検 株式会社リクルート　吉田氏	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
13	GPS-Academic フィードバックガイダンス ベネッセi-キャリア	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
14	履歴書講座 株式会社リクルート　吉田氏	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
15	プレゼンテーション力講座 株式会社自然農園　温谷氏	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
16	フィードバック 授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」の検証	全授業内容整理と小テストの準備（４５分）	全授業内容のまとめ（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｷｬﾘｱ支援演習Ⅱ(S) （科目ナンバリング：S0E081054　　）				
授業担当者 （所属・職名）	社会福祉学科・キャリア支援委員	研究室等所在	社会福祉学科・キャリア支援委員研究室		
単位数	1　（単位認定責任者：　社会福祉学科・キャリア支援委員　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

就職活動に対する早期意識付けの一環として行われる授業である。
様々な分野の業界で働く社会人の講話を聴くことで、様々な仕事の実際を知り、働くとはどのようなことか、生計を立てるという活動に込められた意味について具体的に学ぶ。
そして、自らが進路として目指す業界や分野を見付け、それを目標としながら、まずはインターンシップに取り組むための準備学習ともする。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP5に対応する。

到達目標

社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態を知り、その第一線で働く社会人たちが如何にして現在の立場に至ったのかについて知ることで、学生が卒業後のビジョンをシミュレーションし、それに向けての具体的な活動を開始するための手掛かりを得る。

授業全体の内容と概要

一般企業から公務員まで、さらには各学科の分野別に設定された内容を基にして、各種業界で働く職業人を講師として招き、その講話を通じて、業界についての詳細な情報、業界人として身に付けておくべき知識や成功の秘訣、今後のインターンシップ参加や就職活動に於ける重要なポイントなどを学ぶ。

授業の方法

毎回の主題に準じた各界、各関係者の講師による講話を主とした授業が行われる。
概要説明は PowerPointなどにてスライドが作成され、他に配布物としてプリントや資料が用いられることもある。
講話終了後に質疑応答が行われ、疑問や要望などの解決に対応する。
学生は毎回の講話を聴き、授業終了後にはその振り返りをレポートとして提出する。
職業レディネステスト、SPI性格検査のも本授業にて実施する。
授業形態として全学科合同で学ぶ期間と学科別（分野別）で行う期間を設定する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎授業において、当日定時までに提出するレポート課題が設定される。
授業中はスマートフォンやタブレットなどの通信機器を用いることが多いため、準備を整えておくこと。
遅刻１回は０.５回の欠席扱いとする。但し、交通機関の遅延による遅刻は証明書類を持って担当教員に申し出ること。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席数は13回以上
キャリタスUCに登録済みであること

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
%	80%	%	%	20%	%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能「社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態を理解している。」	社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態を十分に理解し、実践可能なレベルで身に付けている。	社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態を十分に理解している。	社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態をほぼ理解している。	社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態の理解が不十分である。	社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態が全くできていない。
思考力・判断力・表現力「ビジネスの第一線で働く社会人たちが如何にして現在の立場に至ったのかについて知り、その知識を基に自身の卒業後のビジョンをシミュレーションできる。」	社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に臨むことができる応用力を実践できるレベルに到達した。	社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に臨むことができる応用力を概ね実践できるレベルに到達した。	社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に臨むことができるレベルには未だ到達していない。	社会人に必要とされる一般常識の理解が不十分であり、就職活動に臨むレベルには到達していない。	社会人に必要とされる一般常識を理解できておらず、就職活動に臨む段階にない。
主体性・多様性・協働性「就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始することができる。」	就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始できるレベルに到達した。	就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始できるレベルに概ね到達した。	就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始できるレベルには未だ到達していない。	「就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始できるレベルには到達していない。	就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始できる段階にない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｷｬﾘｱ支援演習 II (S) （科目ナンバリング：S0E081054　　）				
授業担当者 （所属・職名）	社会福祉学科・キャリア支援委員		研究室等所在	社会福祉学科・キャリア支援委員研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　社会福祉学科・キャリア支援委員　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション この科目の内容と目的の理解・評価方法 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバス全体を一読しておくこと（４５分）	授業内容の整理（４５分）
2	お金のセミナー 株式会社HBN　樋江井氏	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
3	職業レディネス・テスト①	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
4	インターンシップについて① 株式会社リクルート　吉田氏	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
5	インターンシップについて②	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
6	トークセッション 株式会社キャリタス　青木氏	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
7	職業レディネス・テスト②	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
8	社会人基礎力について①	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
9	社会人基礎力について②	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
10	学科別企業講演①	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
11	学科別企業講演②	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
12	SPI能力検査受検 株式会社リクルート　吉田氏	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
13	GPS-Academicフィードバックガイダンス	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
14	履歴書講座 株式会社リクルート　吉田氏	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
15	プレゼンテーション力講座 株式会社自然農園　温谷氏	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
16	授業内フィードバック 授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	全授業内容整理と小テストの準備（４５分）	全授業内容のまとめ（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｷｬﾘｱ支援演習 II (D) （科目ナンバリング：SOE081054　　）				
授業担当者 （所属・職名）	キャリア支援委員（デザイン学科）		研究室等所在	キャリア支援委員研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　キャリア支援委員（デザイン学科）　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会人としての実務経験のある教員が、その経験を生かし社会人としての在り方を学生に指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

就職活動に対する早期意識付けの一環として行われる授業である。
様々な分野の業界で働く社会人の講話を聴くことで、様々な仕事の実際を知り、働くとはどのようなことか、生計を立てるという活動に込められた意味について具体的に学ぶ。
そして、自らが進路として目指す業界や分野を見付け、それを目標としながら、まずはインターンシップに取り組むための準備学習ともする。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態を知り、その第一線で働く社会人たちが如何にして現在の立場に至ったのかについて知ることで、学生が卒業後のビジョンをシミュレーションし、それに向けての具体的な活動を開始するための手掛かりを得る。

授業全体の内容と概要

一般企業から公務員まで、さらには各学科の分野別に設定された内容を基にして、各種業界で働く職業人を講師として招き、その講話を通じて、業界についての詳細な情報、業界人として身に付けておくべき知識や成功の秘訣、今後のインターンシップ参加や就職活動に於ける重要なポイントなどを学ぶ。

授業の方法

毎回の主題に準じた各界、各関係者の講師による講話を主とした授業が行われる。
概要説明は PowerPointなどにてスライドが作成され、他に配布物としてプリントや資料が用いられることもある。
講話終了後に質疑応答が行われ、疑問や要望などの解決に対応する。
学生は毎回の講話を聴き、授業終了後にはその振り返りをレポートとして提出する。
職業レディネステスト、SPI性格検査のも本授業にて実施するう。
授業形態として全学科合同で学ぶ期間と学科別（分野別）の其々で行う期間を設定する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎授業に於いて、当日定時までに提出するレポート課題が設定される。
授業中はスマートフォンやタブレットなどの通信機器を用いることが多いため、準備を整えておくこと。
遅刻１回は０.５回の欠席扱いとする。但し、交通機関の遅延による遅刻は証明書類を持って担当教員に申し出ること。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席数は13回以上
キャリタスUCに登録済みであること

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	80%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能「社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態を理解している。」	社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態を十分に理解し、実践可能なレベルで身に付けている。	社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態を十分に理解している。	社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態をほぼ理解している。	社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態の理解が不十分である。	社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態が全くできていない。
思考力・判断力・表現力「社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に臨むことができる応用力を身につけている」	社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に臨むことができる応用力を実践できるレベルに到達した。	社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に臨むことができる応用力を概ね実践できるレベルに到達した。	社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に臨むことができるレベルには未だ到達していない。	社会人に必要とされる一般常識の理解が不十分であり、就職活動に臨むレベルには到達していない。	社会人に必要とされる一般常識を理解できておらず、就職活動に臨む段階にない。
主体性・多様性・協働性「就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始することができる。」	就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始できるレベルに到達した。	就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始できるレベルに概ね到達した。	就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始できるレベルには未だ到達していない。	就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始できるレベルには到達していない。	就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始できる段階にない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｷｬﾘｱ支援演習 II (D) （科目ナンバリング：S0E081054　　）				
授業担当者 （所属・職名）	キャリア支援委員（デザイン学科）		研究室等所在	キャリア支援委員研究室	
単位数	1	（単位認定責任者：　　キャリア支援委員（デザイン学科）　　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会人としての実務経験のある教員が、その経験を生かし社会人としての在り方を学生に指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 オリエンテーション ・科目の内容と目的の理解・評価方法等 科目を修了して「身に付く力」についての説明 ・しごと研究講座	シラバス全体を一読しておくこと（４５分）	授業内容の整理（４５分）
2	お金のことセミナー 税金や社会保険、求人票について	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
3	職業レディネス・テスト	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
4	インターンシップについて① インターンシップ参加に向けて	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
5	インターンシップについて② 大学インターンシップのご案内 インターンシップのマナーについて	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
6	インターンシップについて 質問トークセッション	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
7	職業レディネステスト フィードバック	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
8	社会人基礎力について①	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
9	社会人基礎力について②	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
10	学科別企業講演 I	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
11	学科別企業講演 II	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
12	SPI能力検査受検	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
13	GPS-Academic フィードバックガイダンス	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
14	履歴書講座 ガクチカAIを使って経験の棚卸	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
15	日常で使えるプレゼン力「プレ伝！」②	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
16	フィードバック 授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」についての検証	当該範囲のシラバス確認（４５分）	全授業内容のまとめ（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｷｬﾘｱ支援演習 II (A) （科目ナンバリング：SOE081054　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　伊藤　裕康　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

就職活動に対する早期意識付けの一環として行われる授業である。
様々な分野の業界で働く社会人の講話を聴くことで、様々な仕事の実際を知り、働くとはどのようなことか、生計を立てるという活動に込められた意味について具体的に学ぶ。
そして、自らが進路として目指す業界や分野を見付け、それを目標としながら、まずはインターンシップに取り組むための準備学習とする。
本科目を修了して、社会人になるための基礎知識を身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP５に対応する。

到達目標

社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態を知り、その第一線で働く社会人たちが如何にして現在の立場に至ったのかについて知ることで、学生が卒業後のビジョンをシミュレーションし、それに向けての具体的な活動を開始するための手掛かりを得る。

授業全体の内容と概要

一般企業から公務員まで、さらには各学科の分野別に設定された内容を基にして、各種業界で働く職業人を講師として招き、その講話を通じて、業界についての詳細な情報、業界人として身に付けておくべき知識や成功の秘訣、今後のインターンシップ参加や就職活動における重要なポイントなどを学ぶ。

授業の方法

毎回の主題に準じた各界、各関係者の講師による講話を主とした授業が行われる。概要説明はPowePointなどにてスライドが作成され、他に配布物としてプリントや資料が用いられることもある。講話終了後に質疑応答が行われ、質問や要望などの解決に対応する。
学生は毎回の講話を聴き、授業終了後にはその振り返りをレポートとして提出する。
授業形態として全学科合同で学ぶ期間と学科別（分野別）で行う期間を設定する。
不測時における授業や補講等はオンライン・オンデマンドにて授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各授業において、当日定時までに提出するレポート課題が設定される。
授業中はスマートフォンやタブレットなどの通信機器を用いることが多いため、準備しておくこと。
遅刻１回は0.5回の欠席扱いとする。但し、交通機関の遅延による遅刻は証明書類を持って担当教員に申し出ること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１３回であり、キャリタスUCに登録することを条件とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	８０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能　「社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態を理解している」	社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態を十分に理解し、実践可能なレベルで身に付けている。	社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態を十分に理解している。	社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態をほぼ理解している。	社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態の理解が不十分である。	社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態が全く理解できていない。
思考力・判断力・表現力「社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に臨むことができる応用力を身に付けている」	社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に臨むことができる応用力が実践できるレベルに到達した。	社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に臨むことができる応用力が概ね実践できるレベルに到達した。	社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に臨むことができるレベルには未だ到達していない。	社会人に必要とされる一般常識が不十分であり、就職活動に臨むレベルには到達していない。	社会人に必要とされる一般常識を理解できておらず、就職活動に臨む段階にない。
主体性・多様性・協働性「就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始することができる」	就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始できるレベルに到達した。	就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始できるレベルに概ね到達した。	就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始できるレベルには未だ到達していない。	就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始できるレベルには到達していない。	就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始できる段階にない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｷｬﾘｱ支援演習 II (A) （科目ナンバリング：S0E081054　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　伊藤　裕康　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明 オリエンテーション、しごと研究講座	シラバス全体を一読しておくこと（４５分）	活動内容の整理（４５分）
2	税金や社会保険、求人票について	当該範囲のシラバスの確認（４５分）	活動内容の整理（４５分）
3	職業レディネステスト受験	当該範囲のシラバスの確認（４５分）	活動内容の整理（４５分）
4	インターンシップ参加に向けて	当該範囲のシラバスの確認（４５分）	活動内容の整理（４５分）
5	大学インターンシップの案内 インターシップのマナーについて	当該範囲のシラバスの確認（４５分）	活動内容の整理（４５分）
6	インターンシップについての質問トークセッション	当該範囲のシラバスの確認（４５分）	活動内容の整理（４５分）
7	職業レディネステストのフィードバック	当該範囲のシラバスの確認（４５分）	活動内容の整理（４５分）
8	社会人基礎力① A班：グループワーク演習 B班：コミュニケーション	当該範囲のシラバスの確認（４５分）	活動内容の整理（４５分）
9	社会人基礎力② A班：コミュニケーション B班：グループワーク演習	当該範囲のシラバスの確認（４５分）	活動内容の整理（４５分）
10	企業講演 I	当該範囲のシラバスの確認（４５分）	活動内容の整理（４５分）
11	企業講演 II	当該範囲のシラバスの確認（４５分）	活動内容の整理（４５分）
12	SPI能力検査	当該範囲のシラバスの確認（４５分）	活動内容の整理（４５分）
13	GPS-Academicのフィードバック	当該範囲のシラバスの確認（４５分）	活動内容の整理（４５分）
14	履歴書講座	当該範囲のシラバスの確認（４５分）	活動内容の整理（４５分）
15	企業講演III	当該範囲のシラバスの確認（４５分）	活動内容の整理（４５分）
16	授業改善アンケートの実施 総評によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	全授業内容の振り返り（事前）（４５分）	全授業内容の振り返り（事後）（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ （科目ナンバリング：PSS122036　　）				
授業担当者 （所属・職名）	近藤　亜弥（社会福祉学科・講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　近藤　亜弥　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科病院のデイ・ケアの看護師の経験を活かして、医療機関や行政機関、他の在宅サービスとの情報共有や調整、医療との連携、精神障害のある人の在宅生活をどのように支えていくかなどの経験を活かして講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

現代の精神保健分野の動向と課題、精神保健とはなにか、精神保健の諸課題に対する精神保健福祉士に必要な知識を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

①精神保健分野の動向と現代の課題を理解する。
②精神保健の基本的考え方を理解する。
③現代社会における精神保健の課題を医療・福祉・保健・教育・司法・産業・労働という生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。

授業全体の内容と概要

①人間生態学における精神的健康概念について理解する。
②精神保健医療福祉の歴史と、精神障害にも対応した地域包括システムなどの現代の精神保健分野の動向と基本的考え方について理解する。
③精神保健活動の3つの対象、精神の健康に関する心的反応について理解する。
④家族や各発達段階に関連する精神保健の課題と支援について理解する。
⑤勤労者への精神保健的課題とアプローチについて理解する。
「SDGs1.貧困をなくそう」「SDGs3. すべての人に健康と福祉を」「SDGs5.ジェンダー平等を実現しよう」「SDGs8.働きがいも経済成長も」「SDGs11.住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

①教科書の内容をまとめた配布資料に基づく講義形式になるが、新聞記事の活用や映像資料の視聴、演習（グループワーク等）も取り入れる。配布される資料に板書事項を記述すること。
②毎回の振り返りをMicrosoft Formsを通して提出し、次回授業開始時にフィードバックを行う。
③毎回の授業前にMicrosoft Formsを通して事前学習を提示するため、必ず確認してから授業に望む。
④授業資料の配布にMicrosoft Teamsを活用する。
⑤基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①教科書は毎回持参すること。
②配布資料は紛失しないよう、ファイリングする等して管理を徹底すること。
③ニュース等で報道される福祉に関わる話題について興味を持つこと。
④新聞記事等を題材として社会福祉の現状や課題を検討する等、常に問題意識を持ちながら積極的に授業に参加すること。

修学サポート（合理的配慮）

・事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格課程、スクール（学校）ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

出席回数は定期試験前までに１０回以上あることを評価の前提条件とし、平常点（１０点）、第１６回目に実施する定期試験（９０点）の結果を総合して評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
９０%	０%	０%	１０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
①現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。	関係するキーワードを用いて現代の精神保健分野の動向と課題について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて現代の精神保健分野の動向と課題についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代の精神保健分野の動向と課題について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代の精神保健分野の動向と課題についておおむね説明できた。	現代の精神保健分野の動向と課題に関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
②精神保健の基本的考え方を理解する。	関係するキーワードを用いて精神保健の基本的考え方について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて精神保健の基本的考え方についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健の基本的考え方について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健の基本的考え方についておおむね説明できた。	精神保健の基本的考え方に関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
③現代社会における精神保健の課題を医療・福祉・保健・教育・司法・産業・労働という生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。	関係するキーワードを用いて現代社会における精神保健の諸課題の実際について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて現代社会における精神保健の諸課題の実際についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代社会における精神保健の諸課題の実際について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代社会における精神保健の諸課題の実際についておおむね説明できた。	現代社会における精神保健の諸課題の実際に関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ （科目ナンバリング：PSS122036　　）				
授業担当者 （所属・職名）	近藤　亜弥（社会福祉学科・講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　近藤　亜弥　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科病院のデイ・ケアの看護師の経験を活かして、医療機関や行政機関、他の在宅サービスとの情報共有や調整、医療との連携、精神障害のある人の在宅生活をどのように支えていくかなどの経験を活かして講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新精神保健福祉士養成講座２　現代の精神保健の課題と支援』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	4805882530	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、精神保健の概要 科目を修了して『身に付く力』についての説明	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
2	現代の精神保健の動向と基本的考え方①（精神保健の動向、精神保健活動の三つの対象）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
3	現代の精神保健の動向と基本的考え方②（精神の健康に関する心的態度、生活と嗜好）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
4	家族に関連する精神保健の課題と支援①（家族関係における暴力と精神保健、出産・育児をめぐる精神保健）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
5	家族に関連する精神保健の課題と支援②（介護をめぐる精神保健、社会的ひきこもりをめぐる精神保健）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
6	家族に関連する精神保健の課題と支援③（家族関係の課題、グリーフケア、精神保健支援を担う機関）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
7	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ①（学校教育における精神保健的課題、教員の精神保健）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
8	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ②（関与する専門職と関係法規）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
9	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ③（スクールソーシャルワーカーの役割、学校精神保健にかかわる社会資源）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
10	中間テスト、振り返り	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。（９０分）	試験で間違えたところ、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。（９０分）
11	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ①（現代日本の労働環境、産業精神保健とその対策）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
12	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ②（職場のメンタルヘルスのための相談、職場内の問題を解決するための機関および関係法規）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
13	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ①（災害被害者の精神保健、犯罪被害者等の支援、自殺予防）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
14	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ②（精神保健の身体疾患に伴う精神保健、貧困問題と精神保健、社会的孤立）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
15	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ③（性的マイノリティと精神保健、多文化に接することで生じる精神保健上の課題、反復違法行為と精神保健、高齢化と精神保健）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
16	定期試験（６０分の試験）、授業改善アンケートの実施 授業全体のフィードバックなど 科目を修了して『身に付く力』についての検証	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。（９０分）	試験で間違えたところ、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	中小企業論 （科目ナンバリング：MAN413012，MAN523037　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石山　玄幸（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　石山　玄幸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタント会社の代表として、２００社以上の中小企業の経営指導をしてきた経験を生かして、タイムリーな事例を活用した講義を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照のこと。				

概要

履修目標

本講義の対象学年は１年生であることから、受講学生が中小企業論を理解するために、受講方法やノートの取り方等を含めて、専門科目の基礎を学ぶことを目的としている。科目を修了して、中小企業における基礎知識と大学生としての基本を身に付けることを期待する。

授業の位置づけ

経営学科のDP１、DP３、DP４に対応する。

到達目標

本講義の達成目標は，①企業という組織を理解している。②中小企業の特徴について述べることができる。③中小企業の問題点を述べることができる。④中小企業における現状の問題解決法について自分の視点から述べることができる。⑤これからの中小企業について自分の視点から述べることができる。

授業全体の内容と概要

本講義は，日本の中小企業における基礎的な考察を中心に講義を進める。具体的には，中小企業の経営，経営革新，下請け構造，労働，金融などにポイントを絞り，事例考察などを織り交ぜたカリキュラム構成にしている。但し，学生の理解度に応じて，カリキュラムは，適宜，変更する場合がある。

授業の方法

本講義は，パワーポイント及び配布物資料で進める。１枚のパワーポイントを掲示して，一連の解説が終了した後，一定の時間，学生がノートを書く時間を取る。ノートが書ききれない場合は，スマホでの写真撮影を認める。講義の最後に本日のフィードバックとして，講義レポートを実施し，レポートを提出した学生を出席扱いとする。また、講義を進めるにあたり、アクティブラーニングを活用し、グループワークやディスカッションを行う。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

本講義では、講義ノートの作成を義務付ける。講義の際、筆記用具やノートを持参しない者は受講を認めない。評価方法の「その他」１０%については、講義ノートの評価とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（商業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
９０%	０%	０%	０%	０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
中小企業論に係るレポート・試験に対応した文章力	講義で学んだ以上の内容を含み、論理性の優れた文章を書いていた。	講義で学んだ内容を理解した上で、自分の言葉で論理的な文章を書いていた。	講義で学んだ内容を理解した上で、自分の言葉で書いていた。	講義で学んだ内容が書かれていた。	読み手に内容が伝わらなかった。
中小企業の特徴について	中小企業の定義を理解した上で、講義で学んだ考え方を活用して、大企業との比較の中で、中小企業の特徴を述べることができた。	中小企業の定義を理解した上で、講義で学んだ中小企業の特徴を３つ以上述べることができた。	中小企業の定義を理解した上で、講義で学んだ中小企業の特徴を最低１つでも述べることができた。	最低限、中小企業の定義を理解していた。	そもそも中小企業とは何かを理解していなかった。
中小企業の課題について	講義で学んだ手法を活用して、中小企業の課題について、業種別に課題を述べることができた。	講義で学んだ手法を活用して、中小企業の課題を３つ以上述べることができた。	講義の内容から、中小企業の課題を３つ以上述べることができた。	最低限、中小企業の課題を１つでも述べることができた。	そもそも中小企業の課題を見つけることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	中小企業論 （科目ナンバリング：MAN413012，MAN523037　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石山　玄幸（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　石山　玄幸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタント会社の代表として、２００社以上の中小企業の経営指導をしてきた経験を生かして、タイムリーな事例を活用した講義を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照のこと。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『現代中小企業論(増補版)』	高田亮爾/上野鉱/村社隆/前田啓一編著	同友館	2011年	9784496047589	
2	『21世紀中小企業論〔第4版〕：多様性と可能性を探る』	渡辺幸男/ 黒瀬直宏/向山 雅夫	有斐閣アルマ	2022年	9784641221956	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	「中小企業論」ガイダンス、シラバスの説明（講義全体の概要、講義のやり方、評価方法など）、授業改善アンケート結果反映の説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）	必ずシラバスを読んでから，初回ガイダンスを受講すること。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
2	企業の基本　会社とは？企業活動とは？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	定期試験に向けて，これまでの講義レポートを見返し準備すること。（９０分）
3	中小企業の定義　なぜ企業規模で分けるのか？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	定期試験に向けて，これまでの講義レポートを見返し準備すること。（９０分）
4	中小企業の研究動向　学術研究とは？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	定期試験に向けて，これまでの講義レポートを見返し準備すること。（９０分）
5	中小企業の経営問題①　経営とは？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	定期試験に向けて，これまでの講義レポートを見返し準備すること。（９０分）
6	中小企業の経営問題②　事例考察	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	定期試験に向けて，これまでの講義レポートを見返し準備すること。（９０分）
7	中小企業の経営革新①　経営革新とは？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	定期試験に向けて，これまでの講義レポートを見返し（９０分）準備すること。
8	中小企業の経営革新②　事例考察	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	定期試験に向けて，これまでの講義レポートを見返し準備すること。（９０分）
9	中小企業と下請けの関係　下請けとは？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	定期試験に向けて，これまでの講義レポートを見返し準備すること。（９０分）
10	中小企業と労働者　賃金とは？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	定期試験に向けて，これまでの講義レポートを見返し準備すること。（９０分）
11	中小企業と金融①　財務諸表とは？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	定期試験に向けて，これまでの講義レポートを見返し準備すること。（９０分）
12	中小企業と金融②　事例考察	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	定期試験に向けて，これまでの講義レポートを見返し準備すること。（９０分）
13	地域経済と地場産業	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	定期試験に向けて，これまでの講義レポートを見返し準備すること。（９０分）
14	中小企業と産業連関構造　経済効果とは？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	定期試験に向けて，これまでの講義レポートを見返し準備すること。（９０分）
15	まとめ　試験対策、授業改善アンケートの実施	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	定期試験に向けて，これまでの講義レポートを見返し準備すること。（９０分）
16	定期試験とフィードバック。科目を修了して「身に付く力」の検証	定期試験に向けて準備をする（９０分）	試験のフィードバックを受けて中小企業論を総括する（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ心理学 （科目ナンバリング：SPS422063，SPS522053　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　和裕（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　佐藤　和裕　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、スポーツ心理学についての基礎的な科学的知識を深め指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

スポーツの実践や指導に関わる様々な問題を心理学の側面からとらえることを目的とする。また、競技者や指導者がスポーツを実践する上で必要となる心理学的諸理論を知り、各自の問題解決の一助として活用していくための視点を養うことを身につける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ３、ＤＰ4、ＤＰ５に対応する。

到達目標

スポーツを見つめる科学的な視点を養う。スポーツにおける心理学の基礎理論を理解する。スポーツにおける心理学の実践的応用について理解する。

授業全体の内容と概要

スポーツに対する科学としての心理学的視点（認知モデルの紹介）。スポーツにおける人間の行動特徴（モチベーション、行動の個人差）。スポーツにおける人間の行動マネジメント（メンタルトレーニング）スポーツにおける関係としての個人と集団（個人者集団と指導者集団との関係）。スポーツにおける心理学の活用事例（事例から自分自身への適用）。
「ＳＤＧ　４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業はパワーポイント及び配布物資料で実施しスポーツ心理学の事例を紹介しメンタルトレーニングの実践などのＤＶＤも活用しながら講義形式で行う。また、授業の終わりに振り返りを行う。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

ノートやプリントは毎回必ず持参すること。授業中は口頭説明にも注意を向けノートやプリント等にメモしながらノート作成を行うこと。口頭で説明したことにも重要な事柄が含まれる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目、スポーツ指導者（スポーツコーチングリーダー）資格課程、スポーツソーシャルワーカー資格課程。

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	３０%	６０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業に対する積極性	準備学習、事後学習はもとより積極的に授業に参加するなど、他の学生の模範となる授業態度であり、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされ理解を深めるために受講し板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされ普通に受講し、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされてはいないが、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなく、板書や課題提出ができなかった。
スポーツ心理学についての基礎知識と領域理解	幅広い領域について基礎的な知識を持ち、それぞれの領域について理解し説明できた。	多様な領域からの見解を深く理解できた。	多様な領域からの見解を一定程度理解できた。	多様な領域からの見解をある程度理解できた。	多様な領域からの見解をまったく理解ができなかった。
スポーツ心理学の知識に基づいた多様な思考力・判断力	幅広い分野の知識・理解をもとにして、問題に対して多角的な思考力・判断力を行うことができた。	多様な思考力・判断力が身についた。	多様な思考力・判断力が一定程度身についた。	多様な思考力・判断力がある程度身についた。	多様な思考力・判断力がまったく身につけることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ心理学 （科目ナンバリング：SPS422063，SPS522053　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　和裕（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　佐藤　和裕　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、スポーツ心理学についての基礎的な科学的知識を深め指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『養成講習会用テキストReference Book』	JSPO	公益財団法人日本スポーツ協会			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）	事前にシラバスを読んで確認しておく（９０分）	ガイダンスの内容を理解しておく（９０分）
2	行動としてのスポーツ	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
3	スポーツにおける動機づけⅠ（動機づけを高める原理や方法）	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
4	スポーツにおける動機づけⅡ（コーチングの心理、技能の練習と指導）	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
5	メンタルマネジメント、リラクセーション	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
6	他者観察（技術指導における効果的指導法）	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
7	個人差を考慮したコーチング	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
8	日常生活における相談	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
9	運動感覚（筋感覚・内部知覚）	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
10	運動学習	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
11	フィードバック、心理的サポート・集中力	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
12	イメージトレーニング	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
13	あがり、プレッシャー、スランプについて	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
14	性格、自己概念	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
15	心理的コンディショニング	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
16	まとめ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	ノート・プリントで講義内容を確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｲﾗｽﾄ漫画概論Ⅰ （科目ナンバリング：AEA221118　　）				
授業担当者 （所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2　（単位認定責任者：　竹内　美帆　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	マンガミュージアムでの勤務や、公的なメディア芸術関連事業に関わった経験をもとに、イラストやマンガに関わる表現や文化について講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会や文化におけるイラスト・マンガ表現の意義や歴史、これまで問われてきたことを学び、知識や多様な視点を身に着ける。
イラストやマンガをめぐる様々な現象や事象、歴史を考えることを通して、私たちがそれらの文化とどのように関わっているかを考え、当たり前だと思っていた文化を捉えなおし、諸文化や社会について多様な視点から考える力を養う。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

現代社会におけるメディアとしてのマンガやアニメに関わる知識を身に着け理解する。
芸術・文化についての興味や関心、批判的思考を養う。
自分の考えを根拠づけ明確に他者に表現する力を身につける。

授業全体の内容と概要

これまでイラストやマンガ表現に関して問われてきたさまざまなトピックを考えることを通して、作品とその社会的位置づけについて多様な視点から考える力を養い、自身の制作に生かす。

授業の方法

講義形式で、パワーポイントやレジュメ、視聴覚メディア等を使って実施する。授業内のトピックについてグループワークやディスカッションも取り入れる。
授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

事前学習として、授業内で取り上げるテーマについて事前に書籍やインターネット等で予習し、事後学習として取り上げたテーマを掘り下げて調べると、より理解が深まる。
授業内で提示するマンガ作品について可能な限り事前に読むか、授業で取り上げた後に読むと理解度が高まる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	４０％	２０％	０％	４０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業内容の理解	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
批判的思考力・視点の多様性	対象に対する、さらに自分なりの新しい視点や考えを生み出すことができた。	授業で取り上げた内容を超えて、作品に対して多様な視点から考えることができた。	授業で取り上げた内容に基づき、多様な視点から作品を考えることができた。	授業で取り上げた内容に基づき、作品に対する多様な視点があることを理解できた。	当初の意見から意見を広げたり視点を多様化させることができなかった。
論理・文章表現力	自身の観点から、深い洞察をもって論考を書くことができた。	自身の観点から、充分に考えられた内容の論考を書くことができた。	自身の観点はまだ不十分だが、充分に考えられた内容の論考を書くことができた。	課題に応じた内容・形式の論考を書くことができた。	課題に応じた内容・形式の論考を書くことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｲﾗｽﾄ漫画概論Ⅰ （科目ナンバリング：AEA221118　　）				
授業担当者 （所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2	（単位認定責任者：　竹内　美帆　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	マンガミュージアムでの勤務や、公的なメディア芸術関連事業に関わった経験をもとに、イラストやマンガに関わる表現や文化について講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『日本イラストレーション史』	美術手帖編集部	美術出版社	2010	978-4568430691	
2	『女性マンガ研究　欧米・日本・アジアをつなぐMANGA』	大城房美編	青弓社	2015	978-4787233868	
3	『マンガ文化 55のキーワード』	竹内オサム、西原麻里編	ミネルヴァ書房	2016	978-4623075409	
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　授業改善アンケート結果反映の説明　授業のオリエンテーション　科目を修了して『身に付く力』についての説明 表現・メディア文化として捉えるイラスト・マンガ	シラバスを読んでおく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
2	文化としてのマンガ・イラスト（１）グローバル化する日本の「キャラ」文化	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
3	文化としてのマンガ・イラスト（２）複製芸術としてのイラスト・マンガ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
4	性別文化としてのマンガ（１）「少女」という言説　少女雑誌	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
5	日本の雑誌文化性別文化としてのマンガ（２）少女マンガの革新性　竹宮惠子『風と木の詩』（1976）	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
6	イラスト表現の位置づけ（１）世界のポスター文化から見たイラスト文化	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
7	イラスト表現の位置づけ（２）日本のイラストレーション史	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
8	AI時代のイラスト・マンガを考える	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
9	震災とマンガ（１）「少女マンガ」と現実の社会問題 ももち麗子『デイジー』(2012)、萩尾望都『なのはな』（2011）	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
10	震災とマンガ（２）他メディアとの比較　しりあがり寿『あの日からのマンガ』（2011）、竜田一人『いちえふ』（2014）	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
11	新型コロナとマンガ／感染症とマンガ 朱戸アオ『リラーを待ちながら』（2017）	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
12	マンガとミュージアム（１）マンガミュージアムとは何か？	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
13	マンガとミュージアム（２）マンガミュージアムの役割	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
14	マンガとミュージアム（３）マンガ・アーカイブの意義　海外のマンガ展　北海道マンガミュージアム構想	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
15	まとめ 期末レポートの提出	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
16	期末レポートの解説・フィードバック 授業改善アンケート実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	これまでの授業内容を復習する（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	芸術へのｱﾌﾟﾛｰﾁ （科目ナンバリング：ARL021018　　）				
授業担当者 （所属・職名）	梅田　力（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	アトリエ棟２F	
単位数	2　（単位認定責任者：　梅田　力　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

アート思考の特性を理解し、活用する素地を備えている

授業の位置づけ

全学科のDP２に対応する。

到達目標

アート思考の特性を理解している

授業全体の内容と概要

芸術へのアプローチとして、「アート思考」と呼ばれる芸術家の創造的な思考法やものの見方・捉え方を、画像や映像を多く使いながら紹介していく。また、現代アートを中心とした芸術作品の鑑賞法も紹介する。様々な作品や思考法から新たな視点や感覚を感じ取る力を養うことを目指す。ビジネスイノベーションから、人生をより豊かにするためのヒントまで、芸術（特に現代アート）をキーワードに考える教養講座である。

授業の方法

パワーポイント等を用いて作品画像や映像を多く取り入れた講義形式で行う。学生は各自スケッチブックを１冊準備し、そこに講義で得た知識や感覚を『描く』事。また授業内ではディスカッションの場を設けるので、積極的な発言をする事が望ましい。最終的には、講義で紹介した「アート思考」に関する事や、作品に対する独自の批評をまとめ、レポートとして提出する事。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各自スケッチブック（又は自由帳）を１冊（大きさは任意）必ず用意する事。
１１回以上出席をしないと評価の対象としない。
第１６回目の講義までにレポートを提出しない場合は評価の対象としない。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

毎回提出するスケッチブックによる点数（課題点30点＋平常点３０点の計６０点）、最終課題であるレポート（４０点）の計１００点で評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	４０%	３０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
アート思考の特性を理解している（知識・理解）	アート思考の特性を理解し、なぜ現代社会の中で必要なのか、またデザイン思考や論理的思考との違いを説明する事ができた。	アート思考の特性を理解し、なぜ現代社会の中で必要なのか説明する事ができた	アート思考の特性を理解した	アート思考の特性を概ね理解した	アート思考の特性を理解出来なかった
アート思考の活用（思考力・表現力・判断力等）	様々な視点からアート作品を批判的に考察し、作家の思考法を参考に自らも思考する事ができた	様々な視点からアート作品を考察し、作家の思考法を参考にする事ができた	自分なりにアート作品を楽しみ、それを伝える事が出来た	自分なりにアート作品を味わう事が出来た	アート作品を鑑賞する事が出来なかった
アートへの関心と探求（主体的に学びに向かう力）	講義内で取り上げた作家だけでなく、様々な作品や作家に興味・関心を持ち、実際に展覧会等へ鑑賞しに行った	講義内で取り上げたアート作品だけでなく、作品や作家に関心を持ち、書籍等でさらに探求をした	講義内で取り上げたアート作品や作家に興味・関心を持ち、理解しようと努力した	講義内で取り上げたアート作品や作家を味わった	アート作品や作家に関心がなかった

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	芸術へのｱﾌﾟﾛｰﾁ （科目ナンバリング：ARL021018　　）				
授業担当者 （所属・職名）	梅田　力（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	アトリエ棟２F	
単位数	2　（単位認定責任者：　梅田　力　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション　（講座の概要・シラバス説明）科目を修了して『身に付く力』についての説明 授業改善アンケートの意義と目的について	シラバスをよく読んでおく事	レポート作成準備（９０分）
2	アートの分類と定義	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと（９０分）	レポート作成準備（９０分）
3	現代アート　概観	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと（９０分）	レポート作成準備（９０分）
4	アート思考	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと（９０分）	レポート作成準備（９０分）
5	制作による研究	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと（９０分）	レポート作成準備（９０分）
6	素材	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと（９０分）	レポート作成準備（９０分）
7	概念	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと（９０分）	レポート作成準備（９０分）
8	表現	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと（９０分）	レポート作成準備（９０分）
9	物語	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと（９０分）	レポート作成準備（９０分）
10	空間	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと（９０分）	レポート作成準備（９０分）
11	社会への介入	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと（９０分）	レポート作成準備（９０分）
12	実践紹介１　アート実践と国際協力	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと（９０分）	レポート作成準備（９０分）
13	実践紹介２　アート実践と地域創生	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと（９０分）	レポート作成準備（９０分）
14	アーティスト取り扱い説明書	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと（９０分）	レポート作成準備（９０分）
15	芸術産業創出へ向けて 提出されたレポートとスケッチブックへのフィードバック	レポート作成（９０分）	レポート作成（９０分）
16	レポートまとめ・講評 授業改善アンケートの結果を今後の授業に反映させる 科目を通じて身につく力の検証	レポート作成（９０分）	

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門Ⅰ（M） （科目ナンバリング：ENL042031　　）				
授業担当者 （所属・職名）	岡島　徳昭（経営学科・特任教授）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	2　（単位認定責任者：　岡島　徳昭　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード参照				

概要

履修目標

英文法の基本を復習し、コミュニケーション能力を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

今後の英語学習の土台となるよう、語彙、文法、発音面での英語の基本を身につける。

授業全体の内容と概要

目次の欄に列挙されている文法事項にそって授業を進めていく。

授業の方法

講義形式で、最重要事項は板書によって注意を促し、じっくりと確実に反復学習を進める。各自の理解度を知るため、授業では毎回できるだけ多くの学生を指名し、解答を聞く。テキストのリーディングパートについては、必ず予習で翻訳してくることを課題とする。学生は授業で自分の訳に間違いがないかどうかを確認し、最後にまとめたものを教員が最終チェックして返却する。これも評価の対象となる。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教科書を必ず用意し、予習をしてくること。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	０%	０%	４０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業内容（語彙・文法・音声変化等）の理解度	授業の範囲を超え、関連事項への興味があった。また、自分から発信する意欲が見られる。	授業内容をほぼ理解している。	基本的な語彙や文法事項の理解はできているが、長文の理解にやや不安がある。音声変化を理解し、発音できる。	基本的な事項のみ理解できている。音声変化については、注意をすると訂正できる。	基本的な事項が身についていない。
練習問題や発音練習の参加度	積極的に参加し、授業の進行に貢献していた。	説明をよく聞き、発音練習や練習問題にも真剣に取り組んだ。ミスを指摘された際、自分で訂正することができ、意欲が認められた。	発音練習や練習問題に真剣に取り組んだ。	自分の力で問題を解くことをあきらめてしまっていたが、解答を聞いた後に理解しようとする努力がみられた。	授業中の活動に集中できなかった。
課題（英文翻訳）への取り組み	予め語や語句の意味を調べ、場面にふさわしい英文の訳ができる。疑問点を自覚した上で授業に臨み、解決することができた。	予習にきめ細かさはないが、ほぼ満足な訳ができた。	毎回予習をせず、復習によって　挽回を図ることもあった。	復習だけのことが多く、課題は提出したが、期限を守ることができなかった。	課題を提出しなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門Ⅰ（M） （科目ナンバリング：ENL042031　　）				
授業担当者 （所属・職名）	岡島　徳昭（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　岡島　徳昭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『英文法授業ノート』	北村　孝一郎	神田外語	2021	978-4-8315-3011-0	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『英和辞典』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 進行形	テキストp.２～３ 予習（９０分）	授業内容復習 （９０分）
2	助動詞　①　②	テキストp.４～７ 予習（９０分）	授業内容復習 （９０分）
3	助動詞　③　④	テキストp.８～11 予習（９０分）	授業内容復習 （９０分）
4	助動詞　⑤　⑥	テキストp.12～15 予習（９０分）	授業内容復習 （９０分）
5	不定詞　①　②	テキストp.16～19 予習（９０分）	授業内容復習 （９０分）
6	不定詞　③　④	テキストp.20～23 予習（９０分）	授業内容復習 （９０分）
7	不定詞　⑤　⑥	テキストp.24～27 予習（９０分）	授業内容復習 （９０分）
8	不定詞　⑦ 中間試験	テキストp.28～29 予習（９０分）	授業内容復習 （９０分）
9	動名詞　①　②	テキストp.32～35 予習（９０分）	授業内容復習 （９０分）
10	動名詞　③　④　⑤	テキストp.36～41 予習（９０分）	授業内容復習 （９０分）
11	名詞　①　②　③	テキストp42～47 予習（９０分）	授業内容復習 （９０分）
12	名詞　④　⑤　⑥	テキストp.48～53 予習（９０分）	授業内容復習 （９０分）
13	冠詞　・　比較　①	テキストp.54～57 予習（９０分）	授業内容復習 （９０分）
14	比較　②　③	テキストp.58～61 予習（９０分）	授業内容復習 （９０分）
15	比較　④　⑤	テキストp62～65 （９０分）	期末試験準備 （９０分）
16	授業改善アンケートの実施 期末試験（６０分）・解説（３０分） 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	期末試験準備 （９０分）	期末試験内容復習 （９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門Ⅰ（S） （科目ナンバリング：ENL042031　　）				
授業担当者 （所属・職名）	横田　肇（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	2　（単位認定責任者：　横田　肇　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

学生が英文法、読解、作文、会話の基礎的な知識と運用方法を身に付ける。合わせて、平易な英文の読解と作文の能力を身に付ける。なお、この科目はグローバル化に対応するための一助として「外国語」を学ぶための科目である。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ1、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

受講者において、英文法、読解、作文、会話の基礎的な知識と運用能力の習得ができていること。
特に、基礎的な英文法の知識が身に付いていること、基礎的な英文の読解力が身に付いていること。

授業全体の内容と概要

毎回、基礎的な英文法、読解、作文、会話の練習問題を解いてもらう。合わせて、適宜、必要最小限の補足説明を行なう。授業の最後にその回の内容についてのまとめと質問への回答（フィードバック）を行う。

授業の方法

毎回、所定のテキストに沿って、１）その回の説明を行ない、、２）英文法、読解、作文、会話の練習問題を解いてもらい、３）その後に解答と説明を行なう。必要に応じて、補足教材（コピー）を配布、使用する。
解答と説明は、適宜、口頭と板書、パワーポイントを使って行う。
授業の最後にまとめと質問の時間（フィードバック）を設ける。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

欠席と遅刻をしないように留意する。やむを得ず欠席する場合は申し出る。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録画・録音を認める。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	４０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
英文法の基礎的事項の理解	テキストの説明が完全に理解されており、テキストの問題がほぼ完全に解けた。	テキストの説明がほぼ理解されており、テキストの問題がほぼ解けた。	テキストの説明の主要な部分が理解されており、テキストの問題が大体解けた。	英文法の初歩がほぼ理解されており、テキストの問題の基本的な部分が解けた。	英文法の初歩が理解されておらず、テキストの問題が全く解けなかった。
英文読解・作文の理解	テキストの英文が完全に読解でき、基本的な英文がしっかり書けた。	テキストの英文がほぼ読解でき、基本的な英文が大体書けた。	テキストの英文が大体読解でき、簡単な英文が書けた。	テキストの英文の主要な部分が理解でき、単純な英文が書けた。	テキストの英文が全く理解できず、単純な英文が書けなかった。
英会話の能力	テキストの英会話文が完全に理解でき、応用的な展開がしっかりできた。	テキストの英会話文がほぼ理解でき、応用ができた。	テキストの英会話文が大体理解でき、若干応用ができた。	テキストの英会話文の主要な部分が理解できた。	テキストの英会話文が全く理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門Ⅰ（S） （科目ナンバリング：ENL042031　　）				
授業担当者 （所属・職名）	横田　肇（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　横田　肇　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『English Once More!』	Y.Aiko、他	朝日出版社	２０１８	978-4-255-15547-0	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						適宜指示。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明、シラバスの説明、ガイダンス。 この科目で身に付ける力についての説明。	シラバスを読む。（９０分）	Unit1の予習（９０分）
2	Unit1：be動詞の使い方（１） 説明と練習。	Unit1の予習（90分）	Unit1の復習（９０分）
3	Unit1：be動詞の使い方（２） 説明と練習。	Unit1の予習（９０分）	Unit1の復習（９０分）
4	Unit2: 一般動詞現在形の使い方（１） 説明と練習。	Unit2の予習（９０分）	Unit2の復習（９０分）
5	Unit2: 一般動詞現在形の使い方（２）　　説明と練習。 既習範囲の確認のための小テストとコメント等によるフィードバックを実施。	Unit2の予習（９０分）	Unit2の復習（９０分）
6	Unit3：過去形の使い方（１） 説明と練習。	Unit3の予習（９０分）	Unit3の復習（９０分）
7	Unit3：過去形の使い方（２） 説明と練習。	Unit3の予習（９０分）	Unit3の復習（９０分）
8	Unit4：現在進行形の使い方（１） 説明と練習。	Unit4の予習（９０分）	Unit4の復習（９０分）
9	Unit4：現在進行形の使い方（２） 説明と練習。	Unit4の予習（９０分）	Unit4の復習（９０分）
10	Unit5:未来形の使い方（１）　　説明と練習。 既習範囲の確認のための小テストとコメント等によるフィードバックを実施。	Unit5の予習（９０分）	Unit5の復習（９０分）
11	Unit5:未来形の使い方（２） 説明と練習。	Unit5の予習（９０分）	Unit5の復習（９０分）
12	Unit6:助動詞の使い方（１） 説明と練習。	Unit6の予習（９０分）	Unit6の復習（９０分）
13	Unit6:助動詞の使い方（２） 説明と練習。	Unit6の予習（９０分）	Unit6の復習（９０分）
14	Unit6:助動詞の使い方（３） 説明と練習。	Unit6の予習（９０分）	Unit6の復習（９０分）
15	既習事項のまとめ 説明と練習。	Unit1から６を通読する。（９０分）	Unit1から６を通読する。（９０分）
16	６０分の試験終了後、残りの３０分で解説を行う。 この科目で身に付いた力についての検証。 授業改善アンケートの実施。 フィードバック	Unit1から６を通読する。（９０分）	Unit1から６を通読する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年、建築学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	英語入門Ⅰ（D・A） （科目ナンバリング：ENL042031　　）				
授業担当者 （所属・職名）	宮嶋　達也（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　宮嶋　達也　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

グローバル化に対応し、多様な人と協働するための表現力やコミュニケーション力を学ぶ。講義と演習（ペアワークとグループワーク）を通じて英語コミュニケーションを学ぶ。将来のキャリアと継続教育に役立つ語彙や表現を修得し英語コミュニケーション能力の向上につなげる。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP5に対応する。

到達目標

英会話の自信を裏付けるためのスピーキング，リスニング能力のスキルアップを目的とする。相手と快適にコミュニケーションを取るための応答やリアクション等，コミュニケーションの技法も修得する。
ペアワークを通して，パターンプラクティス等により定型表現を習得し，相手とのコミュニケーションを図れるようになる。

授業全体の内容と概要

リーディングや様々なアクティビティを中心に　既存の英語知識を活用させ，スピーキングのスキルを身につけることにフォーカスする。
最低限必要な語彙力や文法力を身につけながら、テキスト中のクリティカルシンキングを学び、様々なコミュニケーションの構造を理解し，表現する。

授業の方法

授業では英語によるコミュニケーションへ接続するための運用能力を身に着けることを目的とする。テキストの練習問題を解き、疑問点などは個々に対応、或いはクラス全体への解答を解説し学生へのフィードバックを行う。授業中の発表、ペアやグループワーク、ロールプレイでの活動を取り入れ、コミュニケーション能力向上のために、積極的かつ協力的に行う。テキストの音声ファイルを無料でストーミング・ダウンロードし自習用音声として活用する。「ＮＡＵ’ＵＮ－ＤＯ（ｈｔｔｐ://nanun-do.com)提供

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

15分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻２回で欠席1回とします。授業には必ずテキスト、辞書を持参すること。テキストを忘れ、授業前に申し出ない場合は欠席扱いとする。授業計画に基づき、事前に各回の授業範囲のリスニングと意味調べをしておくこと。授業を休んだ場合は，次の授業までに、休んだ回の授業内容を担当教員又はクラスメートに確認し、課題など必要な情報を入手してください。不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定の必要となる最低出席回数は10回以上とする。授業の参加姿勢も評価の対象になります。授業活動に積極的に参加することで、授業外での学習成果を実感できます。予習と復習は授業の内容を理解し、学習効果を上げるために必要です。積極的に授業に参加するようにしてください。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	０%	0%	１０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業の理解度	授業内容を超えた学修が認められる	授業内容を十分に理解している	授業内容を理解している	授業内容の理解に不足がある	授業内容を理解していない
英語表現能力(スピーキング)	優れた創造的表現を行うことができる	文献等を参考としながら、創造的表現を行うことができる	自在に定型的表現を行うことができる	与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができる	与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができない
授業の積極的参加	授業全体の流れを理解し、質問・問題提起により授業展開に貢献する	授業全体の流れを理解し、発問に対して積極的に応じる	発問に対して、指名されれば正しく応じることができる	授業に集中して理解しようとする態度が見られる	授業に集中できず、授業放棄の態度が見られる
事前・事後学修	自ら進んで学修範囲を超えて調べている	学修範囲を十分に調べて、授業内容を他人に説明できる	学修範囲の理解に曖昧な点がある	指示された範囲の事前・事後学修はするが、理解が不十分である	指示された範囲の事前・事後学修をほとんどせず理解が不十分である。
リーディング技能	授業内で取り扱った単語・文章を完璧に理解し、問題なく正確に運用できる	授業内で取り扱った単語・文章の大部分を理解し、問題なく正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・文章の大部分を習得し、ほぼ正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・文章を部分的に習得しているが、運用に不適切な部分が見受けられる。	授業内で取り扱った単語・文章の習得が不十分であり、運用に不正確さが目立つ。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年、建築学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	英語入門Ⅰ（D・A） （科目ナンバリング：ENL042031　　）				
授業担当者 （所属・職名）	宮嶋　達也（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　宮嶋　達也　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『Project English』	Vivian Morooka	南雲堂	2021	978452317936-8	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション　英語で自己紹介文作成 シラバスの説明/授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを参照しながらテキスト内容を理解する。（９０分）	授業各回のテーマを理解しておくこと。（９０分）
2	Grammar 5sentence patterns Ⅰ(5文型)	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（９０分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。　（９０分）
3	Pre-Unit　from A to D	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（９０分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（９０分）
4	Unit 1 Where are you from?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（９０分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（９０分）
5	Unit 2 How are you?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと（９０分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（９０分）
6	Unit 3 How many classes do you have?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（９０分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。　（９０分）
7	Review Units 1-3	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（９０分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。　（９０分）
8	Unit4 How much food do you need for your party?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（９０分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（９０分）
9	Grammar Gerunds and Infinitive Ⅰ(動名詞＆不定詞①)	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（９０分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（９０分）
10	Grammar Gerunds and InfinitiveⅡ(動名詞＆不定詞②)	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（９０分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。　（９０分）
11	Mid-term Exam.	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（９０分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。　（９０分）
12	Unit 5 How many people are there in your family?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（９０分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（９０分）
13	Unit 6 When is your report due？	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（９０分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。　（９０分）
14	Review Units 4-6	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（９０分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（９０分）
15	Review１	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（９０分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（９０分）
16	Final Exan.　試験終了後，フィードバック及び授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	試験範囲の復習。（９０分）	試験後に説明を受けた解説を復習。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・2年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	中国語入門Ⅰ （科目ナンバリング：CHI051036　　）				
授業担当者 （所属・職名）	孫　暢（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階　非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　孫　暢　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

中国人と簡単な会話を交わすことが出来るよう会話能力を身に付ける。中検準4級程度のレベルに到達することを目指す。
（中国語検定試験（「中検」）は，主に日本語を母語とする中国語学習者を対象とします。「中検」と「HSK」は同じ中国語の検定試験ですが性格を異にする試験です。
「中検」は，中国語読解及び聴解能力のほか翻訳能力を問うものです。
「HSK」は，中国語による設問に中国語で答えることを求め，中国語の運用能力のみを問うものであり翻訳能力は問われておりません。
したがって，中検は日本の企業での活躍を目指す方，HSKは中国の大学本科への留学や中国企業で活躍を目指す方に適していると言えるでしょう。）

授業の位置づけ

全学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

中国語の発音や文法、あいさつや簡単な会話能力を身につける。また、中国語を通して、中国人の礼節や習慣なども身につけ、理解を深める。

授業全体の内容と概要

初めて中国語を学習する学生のために、日常会話と文法を結び付けて学習することで、コミュニケーション能力を身に付けられるようにする。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

板書により、「発音」・「挨拶」・「基本文」・「会話文」・「入れ替え練習と応用」・「新出単語」・「文法」・「練習」と段階的に講義形式で授業を進める。
中国語の学習を通して、中国の文化や歴史なども理解しやすいように講義する。また、復習を重視し、適宜簡単な確認テストを実施する。課題に対して解説を加えてフィードバックをする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・履修者の定員は最大30名とします。（登録者数が上限を超えた場合は、抽選となります。）
・オリエンテーションへの出席は必須です。
・通算GPAが2.0未満の学生は履修できません。
・本講義では発音が特に難しいため、できる限り授業に参加し（試験日を除き最低11回の出席が必要）、正確な発音と聴解力を身につけるよう努めてください。また、ピンインと簡体字を習得し、正しく書けるようにする必要があります。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

最低出席回数は11回以上
課題を期限内に提出すること

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	10%	10%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能（発音・文字語彙・文法・読解等）	期末テストで９割以上、語彙・文法の誤りがなく正確に理解していた。	期末テストで８割以上、語彙・文法の誤りがほとんどなく大体理解していた。	期末テストで７割以上、語彙・文法の誤りが若干あるが問題なく理解していた。	期末テストで６割以上、語彙・文法の誤りが若干あって理解できていない部分があった。	期末テストで６割未満、理解を妨げる語彙・文法の誤りがあった。
思考力・判断力・表現力（聴解・会話・プレゼン等）	表現方法が適切であり、誤りがなかった。	表現方法が適切であり、誤りがほとんどなかった。	表現方法が適切であり、誤りが少しあった。	表現方法に誤りがあり、自分の意見を伝えるのに支障をきたす点があった。	表現方法に誤りが目立ち、自分の意見が伝わらなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組み、多様な表現や協働性に関してレベル以上に達した。	与えられた課題に取り組み、多様な表現や協働性に関して一定のレベルに達した。	与えられた課題に取り組んだが、多様な表現や協働性に関して求められるレベルに達しなかった。	与えられた課題に取り組んだが、多様な表現や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組まなかった。
授業態度	授業内容に「関心が強く」「意欲的に」受けている・聞いている	授業内容に「関心あり」「意欲を見られる」受けている・聞いている	授業内容に関心・意欲が低い（ボーッとしている・授業とは関係ないことを考えている・よそ見）	授業内容に関心が低く、意欲がない（授業中の飲食、授業中の私語等）	授業内容に関心が極めて低く、意欲がない（注意に対する言い訳・反論）

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・2年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	中国語入門Ⅰ （科目ナンバリング：CHI051036　　）				
授業担当者 （所属・職名）	孫　暢（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階　非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　孫　暢　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『基礎からレッスンはじめての中国語』』	南雲大悟	ナツメ社	2018	9784816364679	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『本気で学ぶ中国語』』	趙玲華	ベレ出版	2009	9784860642471	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	講義ガイダンス：中国語のイメージの簡単紹介、授業方法、他の注意事項 シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの内容確認（９０分）	教科書の確認（９０分）
2	第１課 発声：「拼音字母とは」、「拼音字母の構成および数」、「４つの声調の特徴」	教科書P12～P23の予習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
3	第２課 発声：「基礎韻母（単母音）とそこ発音」「声母表（子音）とその発音」「声調変化」	前回の授業内容復習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
4	第３課 発声：「声母表（子音）とその発音」「複韻母・鼻韻母とその発音」	前回の授業内容復習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
5	第４課 数字の数え方	教科書P30の予習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
6	第５課 課外活動：中国語を通じて動きましょう	前回の授業内容復習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
7	第６課 基本あいさつ文：初対面・別れ・再会	教科書P32～P39の予習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
8	第７課 基本文：返事のことば、お礼・お詫びのことば	教科書P40～P47の予習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
9	第７課 基本文：お祝いことば、感情を表すことば	教科書P48～P51の予習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
10	第８課 数字の復習、月日・曜日・時刻	教科書P30の復習・P52の予習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
11	第９課 文法：中国語の主要文型（肯定文・否定文）	教科書P24～P25の予習（９０分）	教科書P26～P27の練習問題（９０分）
12	第１０課 文法：自己紹介などで使う表現	教科書P54～P57の予習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
13	第１１課 中国語の自己紹介文を作ろう	前回の授業内容復習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
14	総復習Ⅰ　発音の復習、数字の復習、基本あいさつことばの復習	前回の授業内容復習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
15	総復習Ⅱ　フレーズの復習と実際応用練習	前回の授業内容復習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
16	期末テスト 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	テスト勉強（９０分）	テストへの反省など（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ﾃﾞｯｻﾝⅠ（A） （科目ナンバリング：AEA211006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	橘　春香（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　　橘　春香　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	イラストレーター・絵本作家として活動経験を有する教員が，その経験を活かし実践に即してデッサンについて教授する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

デザイン現場に於ける円滑なコミュニケーション能力として最低限必要な伝達力を持つために、デッサン力を身につける。
イラストレーター等の職業に必要な基礎的なデッサン力を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

形を正確に捉えることができる。
光を理解し表現することができる。
構図をバランス良く配置できる。
空間を表現できる。

授業全体の内容と概要

モチーフの観察の仕方、二次元に於ける表現の仕方を学び、様々なモチーフを描いてみることでデッサン力を養う。

授業の方法

授業形態は実技を行う。必要な場合はプロジェクターを使用し講義を行う。各作品ごとに講評を行う。
提出した作品にコメント記入でフィードバックをし、返却する。
不測時にはオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各自画材を必ず持ってくること。
授業時間内の制作に取り組む姿勢、態度を重視する。
不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

欠席は６回までとする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
形を正確にとらえることができる	見えない部分や内部の構造を理解して描けている	複雑な形を基本の形態におきかえ正しく描けている	輪郭を正しくとらえて描けている	おおよその形の印象をとらえている	形態を把握しきれていない
光を理解し表現することができる	自然な光を表現でき、質感の描き分けもできる	自然な光を表現できる	光の方向が画面内で整理されている	明暗、ハーフトーンが描けている	画面内での光の設定ができていない
構図をバランスよく配置できる	描く前から最終的な絵のイメージを持ち、意図が明確な構図をとることができる	画面全体を認識し、客観的な視点を持って、伝わりやすい構図をとることができる	ある程度バランスのいい構図を作ることができる	画面全体への意識がある	構図への意識がなく、コントロールできていない
空間を表現できる	空間を正確に認識し、それを表現できる知識と高い技術を持っている	空間を正確に認識し、それを表現するための知識と技術を使って表現している	空間を表現しようとする意思があり、必要な知識を学ぶ姿勢があり、自らの持てる技術で表現している	空間への意識があり、必要な知識を学ぶ姿勢があり、空間を表現しようとしている	空間への意識が欠けている

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ﾃﾞｯｻﾝⅠ（A） （科目ナンバリング：AEA211006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	橘　春香（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2	（単位認定責任者：　　橘　春香　　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	イラストレーター・絵本作家として活動経験を有する教員が，その経験を活かし実践に即してデッサンについて教授する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション 授業の目的や流れを説明 道具の紹介や使い方の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを熟読しておくこと （45分）	道具を用意しておくこと（45分）
2	道具の使い方 グレースケール 簡単なスケッチ	道具を準備する（45分）	授業で学んだことを自分でもやってみる（45分）
3	光と影について講義 単品デッサン１－１	必要な道具を揃える すぐ描けるように整えておく（45分）	授業で学んだことを復習する（45分）
4	単品デッサン１－２ 講評	完成に向けて作品を制作する（45分）	講評で得たことを次回の作品でどう活かすか考える（45分）
5	パースペクティブ講義 単品デッサン２－１	パースについて調べておく（45分）	学んだことを復習する（45分）
6	単品デッサン２－２ 講評	完成に向けて作品を制作する（45分）	講評で得たことを次回の作品でどう活かすか考える（45分）
7	立方体デッサン１	道具を整えておく モチーフについての観察をしておく（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
8	立方体デッサン２ 講評	完成に向けて作品を制作する（45分）	講評で得たことを次回の作品でどう活かすか考える（45分）
9	基本の形態の捉え方講義 直方体デッサン１	道具を整えておく モチーフについての観察をしておく（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
10	直方体デッサン２ 講評	完成に向けて作品を制作する（45分）	講評で得たことを次回の作品でどう活かすか考える（45分）
11	自然物デッサン１	道具を整えておく 基本の形態の捉え方を復習しておく（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
12	自然物デッサン２ 講評	完成に向けて作品を制作する（45分）	講評で得たことを次回の作品でどう活かすか考える（45分）
13	手のクロッキー	道具を整えておく モチーフについての観察をしておく（45分）	学んだことを復習する（45分）
14	手とモチーフ１	絵の構想を練る（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
15	手とモチーフ２	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
16	手とモチーフ３ 講評	完成に向けて作品を制作する（45分）	講評で得たことを次回の作品でどう活かすか考える（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	構図について講義 卓上デッサン１	構図について自分なりに予習する（45分）	学んだことを復習する（45分）
18	卓上デッサン２	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
19	卓上デッサン３	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
20	卓上デッサン４ 講評	完成に向けて作品を制作する（45分）	講評で得たことを次回の作品でどう活かすか考える（45分）
21	静物デッサン（白バック）１	絵の構想を練る（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
22	静物デッサン（白バック）２	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
23	静物デッサン（白バック）３	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
24	静物デッサン（白バック）４ 講評	完成に向けて作品を制作する（45分）	講評で得たことを次回の作品でどう活かすか考える（45分）
25	人物クロッキー	人物をクロッキーしてみる（45分）	体の構造や骨格を理解する（45分）
26	人物デッサン１	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
27	人物デッサン２	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
28	人物デッサン３ 講評	完成に向けて作品を制作する（45分）	講評で得たことを次回の作品でどう活かすか考える（45分）
29	パースペクティブ講義 静物デッサン（背景あり）１	有名絵画のパースペクティブについて調べる（45分）	学んだことを復習する（45分）
30	静物デッサン（背景あり）２	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
31	静物デッサン（背景あり）３	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
32	静物デッサン（背景あり）４ 講評 授業改善アンケートの記入 科目を修了して『身に付く力』についての検証 フィードバック	完成に向けて作品を制作する（45分）	前期で学んだことをおさらいする。作品をブラッシュアップする（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ﾃﾞｯｻﾝⅠ（B） （科目ナンバリング：AEA211006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	橘　春香（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　　橘　春香　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	イラストレーター・絵本作家として活動経験を有する教員が，その経験を活かし実践に即してデッサンについて教授する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

デザイン現場に於ける円滑なコミュニケーション能力として最低限必要な伝達力を持つために、デッサン力を身につける。
イラストレーター等の職業に必要な基礎的なデッサン力を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

形を正確に捉えることができる。
光を理解し表現することができる。
構図をバランス良く配置できる。
空間を表現できる。

授業全体の内容と概要

モチーフの観察の仕方、二次元に於ける表現の仕方を学び、様々なモチーフを描いてみることでデッサン力を養う。

授業の方法

授業形態は実技を行う。必要な場合はプロジェクターを使用し講義を行う。各作品ごとに講評を行う。
提出した作品にコメント記入でフィードバックをし、返却する。
不測時にはオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各自画材を必ず持ってくること。
授業時間内の制作に取り組む姿勢、態度を重視する。
不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

欠席は６回までとする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
形を正確にとらえることができる	見えない部分や内部の構造を理解して描けている	複雑な形を基本の形態におきかえ正しく描けている	輪郭を正しくとらえて描けている	おおよその形の印象をとらえている	形態を把握しきれていない
光を理解し表現することができる	自然な光を表現でき、質感の描き分けもできる	自然な光を表現できる	光の方向が画面内で整理されている	明暗、ハーフトーンが描けている	画面内での光の設定ができていない
構図をバランスよく配置できる	描く前から最終的な絵のイメージを持ち、意図が明確な構図をとることができる	画面全体を認識し、客観的な視点を持って、伝わりやすい構図をとることができる	ある程度バランスのいい構図を作ることができる	画面全体への意識がある	構図への意識がなく、コントロールできていない
空間を表現できる	空間を正確に認識し、それを表現できる知識と高い技術を持っている	空間を正確に認識し、それを表現するための知識と技術を使って表現している	空間を表現しようとする意思があり、必要な知識を学ぶ姿勢があり、自らの持てる技術で表現している	空間への意識があり、必要な知識を学ぶ姿勢があり、空間を表現しようとしている	空間への意識が欠けている

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ﾃﾞｯｻﾝⅠ（B） （科目ナンバリング：AEA211006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	橘　春香（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2	（単位認定責任者：　　橘　春香　　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	イラストレーター・絵本作家として活動経験を有する教員が，その経験を活かし実践に即してデッサンについて教授する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション 授業の目的や流れを説明 道具の紹介や使い方の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを熟読しておくこと （45分）	道具を用意しておくこと（45分）
2	道具の使い方 グレースケール 簡単なスケッチ	道具を準備する（45分）	授業で学んだことを自分でもやってみる（45分）
3	光と影について講義 単品デッサン１－１	必要な道具を揃える すぐ描けるように整えておく（45分）	授業で学んだことを復習する（45分）
4	単品デッサン１－２ 講評	完成に向けて作品を制作する（45分）	講評で得たことを次回の作品でどう活かすか考える（45分）
5	パースペクティブ講義 単品デッサン２－１	パースについて調べておく（45分）	学んだことを復習する（45分）
6	単品デッサン２－２ 講評	完成に向けて作品を制作する（45分）	講評で得たことを次回の作品でどう活かすか考える（45分）
7	立方体デッサン１	道具を整えておく モチーフについての観察をしておく（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
8	立方体デッサン２ 講評	完成に向けて作品を制作する（45分）	講評で得たことを次回の作品でどう活かすか考える（45分）
9	基本の形態の捉え方講義 直方体デッサン１	道具を整えておく モチーフについての観察をしておく（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
10	直方体デッサン２ 講評	完成に向けて作品を制作する（45分）	講評で得たことを次回の作品でどう活かすか考える（45分）
11	自然物デッサン１	道具を整えておく 基本の形態の捉え方を復習しておく（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
12	自然物デッサン２ 講評	完成に向けて作品を制作する（45分）	講評で得たことを次回の作品でどう活かすか考える（45分）
13	手のクロッキー	道具を整えておく モチーフについての観察をしておく（45分）	学んだことを復習する（45分）
14	手とモチーフ１	絵の構想を練る（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
15	手とモチーフ２	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
16	手とモチーフ３ 講評	完成に向けて作品を制作する（45分）	講評で得たことを次回の作品でどう活かすか考える（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	構図について講義 卓上デッサン１	構図について自分なりに予習する（45分）	学んだことを復習する（45分）
18	卓上デッサン２	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
19	卓上デッサン３	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
20	卓上デッサン４ 講評	完成に向けて作品を制作する（45分）	講評で得たことを次回の作品でどう活かすか考える（45分）
21	静物デッサン（白バック）１	絵の構想を練る（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
22	静物デッサン（白バック）２	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
23	静物デッサン（白バック）３	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
24	静物デッサン（白バック）４ 講評	完成に向けて作品を制作する（45分）	講評で得たことを次回の作品でどう活かすか考える（45分）
25	人物クロッキー	人物をクロッキーしてみる（45分）	体の構造や骨格を理解する（45分）
26	人物デッサン１	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
27	人物デッサン２	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
28	人物デッサン３ 講評	完成に向けて作品を制作する（45分）	講評で得たことを次回の作品でどう活かすか考える（45分）
29	パースペクティブ講義 静物デッサン（背景あり）１	有名絵画のパースペクティブについて調べる（45分）	学んだことを復習する（45分）
30	静物デッサン（背景あり）２	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
31	静物デッサン（背景あり）３	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
32	静物デッサン（背景あり）４ 講評 授業改善アンケートの記入 科目を修了して『身に付く力』についての検証 フィードバック	完成に向けて作品を制作する（45分）	前期で学んだことをおさらいする。作品をブラッシュアップする（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	講義,演習,実習,実技,実験	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＩＡ （科目ナンバリング：SEM134147，SEM434088，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	由水 伸（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　由水 伸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報システムの理解に必要な知識について講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

ICTの専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的（客観的・論理的）な思考・研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力を身に付け、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

多岐にわたる情報分野と経営学の知識を総合的に理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要

ビジネスや社会生活におけるICTの活用に必要な知識の獲得の方向で演習が進められる。

授業の方法

講義、ゼミナール、実験、制作等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。
講義にあたっては、パソコンやモバイル端末などＩＣＴ機器の利用を前提としている。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

３０分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。授業内容は前後の相関関係があるため、欠席するとそれ以降の理解が難しくなる。全ての授業に出席することが望ましい。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１３回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。
毎回の授業における課題の過程と結果が得点として積算される。
最終評価はルーブリックに従い、総合的に判断し決定する。
原則としてＳ評価は全回出席者に限る。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	70%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	真摯に取り組み、高いレベルで知識・技能を獲得する獲得する事ができた。また、独自の発想で課題に取り組み、高い結果を出していた。	真摯に取り組み、高いレベルで知識・技能を獲得する事ができた。	まじめに取り組み、知識・技能の獲得につなげていた。	知識・技能を得るための最低限の活動は行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	真摯に取り組み、深いレベルで思考力・判断力・表現力を獲得する姿勢が感じられた。また、独自の発想で課題に取り組み、高い結果を出していた。	真摯に取り組み、深いレベルで思考力・判断力・表現力を獲得する姿勢が感じられた。	まじめに取り組み、思考力・判断力・表現力の獲得につなげていた。	概ね、まじめに取り組んだが、思考力・判断力・表現力の獲得は不十分であった。	取り組みが不十分で、思考力・判断力・表現力の獲得に対する姿勢が全く見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組んでいた。また、課題解決後もさらなる研究・改善に努めた。	与えられた問題解決に前向きで、努力して取り組むが窺えた。	不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれた。	何とか授業はこなすものの、集中力が欠けていて理解する姿勢が不十分であった。	内容を身につけようとする姿勢が全く見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	講義,演習,実習,実技,実験	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＩＡ （科目ナンバリング：SEM134147，SEM434088，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	由水 伸（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1	（単位認定責任者：	由水 伸	）	CAP制 ○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報システムの理解に必要な知識について講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	◇ オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 本専門演習の学習上の注意点　授業改善アンケート結果反映の説明 専門演習ＩＢの内容確認	シラバスの確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	◇ クラウドコンピューティング ・Microsoft 365の利用 ・Apple、Google他のクラウドサービス	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
3	◇ クラウドサービスを利用した文書管理 ・Office 365をPCとスマートフォンで共有する ・クラウドドライブを使ったデータのバックアップ　他	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
4	◇ 生成AI ・生成AIの種類と特徴、技術的背景 ・生成AIの利点・欠点、誤った使い方（偽情報）　他	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
5	◇ 生成AIを文書作成に活かす ・自分で書いた文章の評価・構成、生成AIに文章を書かせる ・生成AI利用時の倫理規定　他	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
6	◇ 生成AIによる画像作成 ・文章（プロンプト）からの画像生成 ・生成された画像の知的所有権の取り扱い	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
7	◇ 生成AIとプログラミング ・生成AIの効果的な使い方 ・プロンプトエンジニアリング　他	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
8	◇ 生成AIを利用したExcel VBAプログラミング（１）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
9	◇ 生成AIを利用したExcel VBAプログラミング（２）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
10	◇ 生成AIを利用したPythonプログラミング（１）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
11	◇ 生成AIを利用したPythonプログラミング（２）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
12	◇ AIの活用事例研究 ・生産現場で使われるAI ・ビジネス現場で使われるAI	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
13	◇ AIに関する議論 ・AIの有用性と問題点、倫理面等について総合的な議論	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
14	◇ AIに関する議論 ・AIの有用性と問題点、倫理面等について総合的な議論 ・プレゼンテーション資料の作成	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
15	◇ AIに関する議論 ・プレゼンテーション	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
16	◇ 全体まとめ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施 ・Society5.0をあらためて考える	授業振り返り作成（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＩＡ （科目ナンバリング：SEM134147，SEM434088，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	経営学科各教員	研究室等所在	各研究室		
単位数	1　（単位認定責任者：　各教員　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

担当各教員の専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢，学問的（客観的・論理的）な思考・研究方法の基礎を磨く。そして，それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力を身に付け、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示している「専門テーマ」に沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを目指して、研究を着実に進めることが一層求められる。「SDG４．質の高い教育をみんなへ」の関連授業

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各担当教員が授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち１３回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価は各教員が判断し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	１００％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力を行っていた。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解の深まりがみられた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着しなかった。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚が出来上がっている。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的である。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡA （科目ナンバリング：SEM134147，SEM434088，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	経営学科各教員		研究室等所在	各研究室	
単位数	1	（単位認定責任者：　各教員　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業①	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
3	担当教員による授業②	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
4	担当教員による授業③	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
5	担当教員による授業④	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
6	担当教員による授業⑤	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
7	担当教員による授業⑥	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
8	担当教員による授業⑦	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
9	担当教員による授業⑧	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
10	担当教員による授業⑨	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
11	担当教員による授業⑩	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
12	担当教員による授業⑪	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
13	担当教員による授業⑫	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
14	担当教員による授業⑬	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
15	担当教員による授業⑭ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
16	担当教員による授業⑮およびまとめと評価について	授業振り返り作成（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＩＡ （科目ナンバリング：SEM134147，SEM434088，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	河野　善文（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　河野　善文　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

専門演習Ⅰを通じて身につけた経済学的思考・研究方法や学問姿勢をもとにして、学生が主体的に課題を設定し、それを学問的に考察・解決する能力を身につける。また、その考察の結果をレポート等の形でまとめる能力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

課題の解決にむけて経済学の考え方の活用に取りくめる。
課題解決にむけて他者と経済学的討議ができる。
課題解決のための考察の結果をレポート等の文書としてまとめる演習に取りくめる。

授業全体の内容と概要

日常生活の不思議・疑問から導かれる問題・課題の解決に経済学の視点・概念を活用して取り組む。その上で、その成果をレポート・論文としてまとめる過程について学び、実際にレポート・論文を作成する演習をおこなう。

授業の方法

専門演習Ⅰでの演習をもとに、身近な生活のなかから不思議・疑問を自ら探索し、そこから経済学的な問題・課題を教員と対話しながら抽出する。また、そのテーマについて、経済学の視点・概念の活用や他者とのディスカッションを通じて考察する。その上で、その考察成果をレポート・論文としてまとめる過程を演習する。
なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

グループワークやディスカッションを基本とした少人数に授業であるため、受講人数を10人から12人程度までに制限する。ただし、具体的な人数は、当該年度の対象学年の学生数等を考慮して年度ごとに決める。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	１０％	０％	９０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経済学的考察による課題解決への取組み	課題の解決案に経済学の考え方を具体的に活用できた。	課題の解決案に経済学の考え方を活用できた。	課題の解決案に経済学の考え方をある程度活用できた。	課題解決にむけて経済学の考え方の活用に取りくめた。	課題解決にむけて経済学の考え方を活用できなかった。
考察での他者の意見の活用	課題に関する積極的な討議や詳細の資料解釈を行い、考察に活用できた。	課題に関する討議や資料の解釈を行い、自分なりに考察できた。	課題に関する討議や資料の解釈をある程度行い、考察の参考にできた。	課題に関する討議や資料の解釈をある程度行い、ある程度考察の参考にできた。	課題に関する討議や資料を考察の参考にできなかった。
考察結果のまとめと報告	考察の結果を論理的に展開して文書にまとめることができた。	考察の結果を整理して文書として自分なりにまとめることができた。	考察の結果を整理して文書としてある程度自分なりにまとめることができた。	考察の結果をある程度文書としてまとめることができた。	考察結果を文書にまとめることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＩＡ （科目ナンバリング：SEM134147，SEM434088，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	河野　善文（経営学科・教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　河野　善文　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読む（４５分）	シラバス等の確認とまとめ（４５分）
2	課題（テーマ）の探索１	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
3	課題（テーマ）の探索２	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
4	課題（テーマ）の探索３	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
5	問題と仮説をたてる１	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
6	問題と仮説をたてる２	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
7	問題と仮説をたてる３	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
8	資料の収集と分析１	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
9	資料の収集と分析２	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
10	資料の収集と分析３	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
11	考察と仮説の見直し１	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
12	考察と仮説の見直し２	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
13	考察と仮説の見直し３	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
14	前期演習のまとめ	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
15	前期学生生活・修学の振り返り	半期の学生生活について振り返る（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
16	補講課題等へのコメント（フィードバック） 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業アンケートの実施	これまでの演習課題等を再確認（４５分）	演習ノートの整理（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＩＡ （科目ナンバリング：SEM134147，SEM434088，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	岡島　徳昭（経営学科・特任教授）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	1　（単位認定責任者：　岡島　徳昭　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

国際言語としての英語理解を基本とし様々な国際関係の時事問題を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的（客観的・論理的）な思考・研究方法の基礎を磨く。さらにそれらを発展させ、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力を身につけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。基本的に専門演習Ｉの内容をさらに発展させる。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要

「異文化コミュニケーション」の学びに沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを目指して、研究を着実に進めることが一層求められる。

授業の方法

講義，ゼミナール、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態をとる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

10名を上限とする。各回授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち１３回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価はすべての活動を通して加味し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	１００％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚のもと、日本における社会人たる資質が出来上がった。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的な範囲を超えなかった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡA （科目ナンバリング：SEM134147，SEM434088，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	岡島　徳昭（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　岡島　徳昭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	授業①	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
3	授業②	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
4	授業③	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
5	授業④	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
6	授業⑤	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
7	授業⑥	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
8	授業⑦	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
9	授業⑧	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
10	授業⑨	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
11	授業⑩	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
12	授業⑪	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
13	授業⑫	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
14	授業⑬	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
15	授業⑭ 授業改善アンケートの実施	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
16	授業⑮およびまとめと評価について 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	授業振り返り作成（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡA （科目ナンバリング：SEM134147，SEM434088，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	青山　浩之（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　青山　浩之　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。法的なものの考え方を身に付け、ビジネスマンとして理解しておくべき基本的法律知識を身に付けること目的とする。さらにビジネス活動で生じる法的問題の発見能力とコンプライアンス能力を身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

会社を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得することにより、法的な側面から会社とは何かを考えることができる。
法律の基本知識を修得することにより，条文を理解し，適用・解釈できる読解力を身に付ける。

授業全体の内容と概要

企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。

「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。
「ＳＤＧ８.働きがいも経済成長も」の関連科目。
「ＳＤＧ１０.人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

専門演習を進める上で、「法学」「会社法」（講義）を受講することが前提条件になります。
専門演習は基本的に講義・発表（報告者はあらかじめ決めて順次報告）・討論する方法をとります。
※確認テストなどはプリント配布で実施のほか、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｆｏｒｍｓの小テストから学生全体の理解度を把握し、指導する

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・演習科目なので、積極的な出席が必要
・私語などの迷惑行為は厳禁
・講義中スマホの操作は厳禁
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。
・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	３０％	０％	７０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に授業に取り組み、実社会で対応し得る様々なスキルを学び、社会に貢献するための努力をしている。	各回の授業に真摯に取り組み、十分な実践力の獲得へ向けた理解が深まりつつある。	各回の授業に取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られる。	授業にまじめに取り組み、日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	授業への取り組みが不十分で、知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け、主体的に活動を行っている。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり、活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的である。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られない。
事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べる	事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明できる	事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を理解できる	事例を読み取れず、法律の条文を理解できない
課題に対し、問題可決ができる	解答が的確で、過不足なく網羅して答えている	解答は答えているが、一部に解答と関係ないことを答えている	解答が一通り答えているが、改善すべき点がある	解答を部分的には答えているが、的確ではない	解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡA （科目ナンバリング：SEM134147，SEM434088，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	青山　浩之（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	1	（単位認定責任者：　　青山　浩之　　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 個別面談・履修登録チェック 授業改善アンケート結果反映の説明	授業への参加の心構えを考える。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
2	アセスメントテスト 株式会社の機関設計（１） 卒業論文テーマ作成（１）	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
3	株式会社の機関設計（２） 卒業論文テーマ作成（２）	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
4	株式会社の機関設計（３） 卒業論文テーマ作成（３）	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
5	株式会社の経営体制－骨格と役割（１）株主総会 卒業論文テーマ作成（４）	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
6	株式会社の経営体制－骨格と役割（２）取締役・取締役会 卒業論文テーマ作成（５）	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
7	株式会社の経営体制－骨格と役割（３）取締役・取締役会 卒業論文調べ学習（１）新聞	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
8	株式会社の経営体制－責任（１）役員 卒業論文調べ学習（２）百書	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
9	株式会社の経営体制－責任（２）役員 卒業論文調べ学習（３）図書館	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
10	株式会社の経営体制－責任（３）役員 卒業論文調べ学習（４）	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
11	株式会社の経営体制－責任（４）役員 卒業論文調べ学習（５）	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
12	株式会社の経営体制－骨格と役割（５）指名委員会等・監査等委員会・執行役 卒業論文概要発表会（１）	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
13	株式会社の経営体制－骨格と役割（６）監査役・監査役会 卒業論文概要発表会（２）	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
14	株式会社の経営体制－骨格と役割（７）会計参与・会計監査人 卒業論文概要発表会（３）	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
15	個別面談・履修登録チェック 卒業論文概要講評会	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
16	個別面談・履修登録チェック 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	前期全体の振り返りを行う。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＩＡ （科目ナンバリング：SEM134147，SEM434088，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石山　玄幸（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　石山　玄幸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタントとして、様々な経験を有していることから、積極的にフィールドワークで地域の小規模事業者等を訪問する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

概要

履修目標

当ゼミナールは、グループディスカッションを基本として、ゼミナールで実施するテーマの決定から実行、検証までを学生主体で進めることで、将来的に社会人として活躍できる人材に成ることを目的としている。科目を修了して、社会人基礎力を身に付けることを期待する。

授業の位置づけ

経営学科のDP全てに対応する。

到達目標

当ゼミナールの到達目標は、グループワークでの基本ルールを身に付け、他人の意見を尊重しながらも、自分の意見もきっちりと発言できること。そして、他人の意見から、多面的かつより深い議論ができるようになること。科目を修了して、社会人基礎力を身に付けることを期待する。

授業全体の内容と概要

専門演習ＩＩａは、専門演習Ｉｂ同じ手法で進めるが、専門演習Ｉｂでの改善点を踏まえて、より質の高い成果を目指す。

授業の方法

当ゼミナールは、毎回、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを基本として、研究テーマを決定した後は、フィールドワーク、PBL、調査学習を中心に進める。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

当ゼミナールは、①提出物等の期限が守れること、②無断欠席はしないこと、③ゼミで積極的に発言・参加すること。この３つを重視する。この３つを守れない場合は減点対象とする。尚、不測の事態の際はオンラインで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	１００％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚のもと、日本における社会人たる資質が出来上がった。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的な範囲を超えなかった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡA （科目ナンバリング：SEM134147，SEM434088，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石山　玄幸（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1	（単位認定責任者：　　石山　玄幸　　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタントとして、様々な経験を有していることから、積極的にフィールドワークで地域の小規模事業者等を訪問する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション：シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	グループディスカッションの基本	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
3	グループディスカッションによる研究テーマ選定①（研究テーマの候補をいくつか挙げる）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
4	研究テーマの決定	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
5	研究テーマの実施計画の策定①	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
6	研究テーマの実施計画の策定②	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
7	研究の実行①（フィールドワーク、調査学習、PBL）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
8	研究の実行②（フィールドワーク、調査学習、PBL）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
9	研究の実行③（フィールドワーク、調査学習、PBL）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
10	調査のまとめ①（報告書の作成）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
11	調査のまとめ②（報告書の作成）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
12	調査のまとめ③（報告書の作成）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
13	プレゼンテーション（研究成果の発表）と質疑応答	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
14	本研究の検証①（振り返り）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
15	本研究の検証②（後期に向けた改善点） 授業改善アンケートの実施	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
16	担当教員による講評とフィードバックを行う。科目を修了して「身に付く力」の検証	授業振り返り作成（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＩＡ （科目ナンバリング：SEM134147，SEM434088，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	天野　雅斗（経営学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1　（単位認定責任者：　天野　雅斗　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験や競技スポーツ現場における指導者経験、スポーツ医科学研究所等での実務経験を有する教員がその経験を活かして、スポーツ科学の実践・指導・研究を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的（客観的・論理的）な思考・研究方法の基礎を身につける。そして，それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する科目。

到達目標

多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示している「専門テーマ」に沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを目指して、研究を着実に進めることが一層求められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各担当教員が授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち１３回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価は各教員が判断し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	１００％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力を行っていた。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解の深まりがみられた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着しなかった。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚が出来上がっている。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的である。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡA （科目ナンバリング：SEM134147，SEM434088，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	天野　雅斗（経営学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1　（単位認定責任者：　天野　雅斗　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験や競技スポーツ現場における指導者経験、スポーツ医科学研究所等での実務経験を有する教員がその経験を活かして、スポーツ科学の実践・指導・研究を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション：シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映の説明。 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業①	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
3	担当教員による授業②	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
4	担当教員による授業③	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
5	担当教員による授業④	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
6	担当教員による授業⑤	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
7	担当教員による授業⑥	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
8	担当教員による授業⑦	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
9	担当教員による授業⑧	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
10	担当教員による授業⑨	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
11	担当教員による授業⑩	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
12	担当教員による授業⑪	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
13	担当教員による授業⑫	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
14	担当教員による授業⑬	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
15	担当教員による授業⑭	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
16	担当教員による授業⑮およびまとめと評価について。授業改善アンケートの実施。 科目を修了して「身に付く力」についての検証 授業最終回において講評をし、フィードバックする	授業振り返り作成（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	講義,実習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡA （科目ナンバリング：SEM134147，SEM434088，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石井　祐治（経営学科・特任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　石井　祐治　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

・自分自身で行っているトレーニングの効果を実験などを踏まえて検証する。
・新たな指導法を確立する。
陸上競技の知識と技能を身につけ指導力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

トレーニング内容を分析してワード・エクセル等で処理する。
トレーニング内容を検証してデータ処理を身につける。

授業全体の内容と概要

主にデータ収集。テーマを各自で決めて，その実験などに必要な被検者などはゼミ内でまかなう。データ収集と平行して，論文の書き方などの指導を行う。
・トレーニング
・トレーニング内容の検証
・レース内容の分析
　陸上競技の基礎的知識と技能を身につけさせる。
・簡単な動作分析　など
　陸上競技の知識と技能を身につけ指導力を身につける。

授業の方法

自分が行いたいテーマを決め，トレーニングを組み実践する。
各自のトレーニング経過をゼミで発表し，意見交換を行い今後のレースに向けて検証していく。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各自の状態によってトレーニング内容を変更して，日程調整しながらトレーニングを継続することが大事となってくる。トレーニング・レースなどから評価する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１３回以上。
陸上競技の大会等の結果から知識路技能を身につけたか評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	２５％	２５％	０％	５０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
論文の内容を理解したか	十分に陸上競技の知識と技能を身につけて理解した	陸上競技の知識と技能を身につけて理解した	おおむね陸上競技の知識と技能を身につけ理解した	陸上競技の知識と技能を身につけ理解できていないカ所がある	全く陸上競技の知識と技能を身につけ理解できていない
データ分析やパワーポイントの操作を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていないカ所がある	全く理解できていない
発表の際の工夫は行われていたか	十分に行われた	行われた	おおむね行われた	行われていないカ所がある	全く行われていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	講義,実習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡA （科目ナンバリング：SEM134147，SEM434088，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石井　祐治（経営学科・特任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　石井　祐治　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）及び授業改善アンケート結果反映の説明 身に付ける力の授業内容の説明	ガイダンス （45分）	学習内容の説明（45分）
2	各テーマの論文検索①	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
3	各テーマの論文検索②	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
4	各テーマの論文検索③	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
5	各テーマの論文検索④	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
6	論文発表①	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
7	論文発表②	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
8	論文発表③	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
9	論文発表④	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
10	トレーニング①	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
11	トレーニング②	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
12	トレーニング③	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
13	トレーニング④	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
14	トレーニング⑤	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
15	トレーニング⑥	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
16	まとめ・発表 授業改善アンケートの実施 身に付ける事ができたかどうかフィードバックして検証	パワーポイントでの作成 （45分）	学習内容の復習（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡA （科目ナンバリング：SEM134147，SEM434088，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	篠原　諒介（経営学科・専任講師）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　篠原　諒介　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

・自分自身で行っているトレーニングの効果を実験などを踏まえて検証し身に付けることを目的とする。
・新たな指導法を確立し身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

データ分析，パワーポイント，ワードでのまとめ方を覚える．
統計処理まで行い，より詳しい分析方法やデータ処理を身につける．

授業全体の内容と概要

主にデータ収集。テーマを各自で決めて，その実験などに必要な被検者などはゼミ内でまかなう。データ収集と平行して，論文の書き方などの指導を行う。
・トレーニング
・各部活における新たな指導法
・ゲーム分析
・簡単な動作分析　など

授業の方法

・自分が行いたいテーマを決め、スケジュールを組み、測定を行う。
・途中経過をパワーポイントで発表し，意見交換を行う。
・不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します．
・欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供します．

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

データをとるなどの細かい作業もあり，日程調整などもあるため継続することが大事となってくる。データをもとに発表などから評価する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	２５％	２５％	０％	５０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
論文の内容を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていないカ所がある	全く理解できていない
データ分析やパワーポイントの操作を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていないカ所がある	全く理解できていない
発表の際の工夫は行われていたか	十分に行われた	行われた	おおむね行われた	行われていないカ所がある	全く行われていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＩＡ （科目ナンバリング：SEM134147，SEM434088，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	篠原　諒介（経営学科・専任講師）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　篠原　諒介　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）及び授業改善アンケート結果反映の説明	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
2	各テーマの論文検索	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
3	論文発表	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
4	プレ測定	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
5	プレ測定	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
6	プレ測定	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
7	プレ測定	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
8	プレ測定	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
9	プレ測定	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
10	プレ測定	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
11	プレ測定	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
12	プレ測定	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
13	プレ測定	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
14	プレ測定	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
15	プレ測定	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
16	まとめ・発表 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	パワーポイントでの作成（４５分）	学習内容の復習（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＩＡ （科目ナンバリング：SEM134147，SEM434088，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小林　大州介（経営学科・専任講師）	研究室等所在	２号館８階		
単位数	1　（単位認定責任者：　小林　大州介　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	初回に周知する。また各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

担当各教員の専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的（客観的・論理的）な思考・研究方法の基礎を磨く。そして，それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力を身に付け、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示している「専門テーマ」に沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを目指して、研究を着実に進めることが一層求められる。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので，講義，ゼミナール、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各担当教員が授業時にアナウンスする。授業中に指定された課題は必ず行うこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち１３回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価は各教員が判断し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	１００％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡA （科目ナンバリング：SEM134147，SEM434088，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小林　大州介（経営学科・専任講師）	研究室等所在	２号館８階		
単位数	1　（単位認定責任者：　　小林　大州介　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	初回に周知する。また各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	初回オリエンテーション　授業内容の説明 授業改善アンケート結果反映の説明 講義内容と到達目標(身に付く力)について説明する。	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業①	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
3	担当教員による授業②	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
4	担当教員による授業③	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
5	担当教員による授業④	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
6	担当教員による授業⑤	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
7	担当教員による授業⑥	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
8	前半授業の振り返り	前半授業の復習（４５分）	授業の復習（４５分）
9	担当教員による授業⑦	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
10	担当教員による授業⑧	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
11	担当教員による授業⑨	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
12	担当教員による授業⑩	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
13	担当教員による授業⑪	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
14	担当教員による授業⑫	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
15	担当教員による授業⑬　授業改善アンケートの実施	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
16	前期授業の総括・講評を行う 授業に係る解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	前期授業の復習（４５分）	全体の復習（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	講義,演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＩＡ （科目ナンバリング：SEM134147，SEM434088，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　上原　正希　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードなどを参照。				

概要

履修目標

専門演習ＩＩＡ・ＩＩＢの授業の目的は『卒業論文の執筆・完成させる』ことである。
引き続き、ペースの遅い学生には、卒業論文のテーマを見つけるためには、いろいろな視点から物事を考え、広い視野を持つことが必要であることから、様々な学問分野や福祉・保育・教育などの社会福祉学科で学んできた領域にふれたり、ボランティアや実習の体験など、多くのことに興味、関心を抱くことが大切で、その中から自分の興味の対象を徐々に絞り込んでいき、最終的に卒業論文のテーマを決め、卒業論文に取り組むことができる。よって、専門演習ＩＡ・専門演習ＩＩＢは、その過程を生み出す学習を継続し、早期に専門演習ＩＩＡ・ＩＩＢの『卒業論文の執筆・完成させる』ことに引き上げることである。

授業の位置づけ

社会福祉学科ＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

卒業論文は、大学での学業生活の総決算とも言えるものであるとともに、自らの主体性によって学問の世界に踏み込み、本格的に研究し、自分自身の成果を創造することが到達目標である

授業全体の内容と概要

１．順調な学生への対応
（１）卒業論文の執筆の指導
（２）卒業論文の完成までに指導
（３）「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目

２．ペースが遅い学生への指導
（１）卒業論文のテーマを見つける。
（２）卒業論文のテーマを見つけるために、様々な学問分野や福祉・保育・教育などの社会福祉学科で学んできた領域にふれる。
（３）卒業論文のテーマを見つけるために、ボランティア体験などを行う。
（４）卒業論文のテーマを確定させる。
（５）「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

１．授業形態は講義やグループワークやディスカッション、地域へ出向き活動を行う。
２．適宜、質疑応答を交える。
３．不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
４．地域の福祉・保育・教育の活動をしている実践家やボランティア団体のお話を聞く授業等もある。
５．大学のペーパレス化に伴い、教科書は必須ですので絶対に購入してください

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１．４年生前期に専門演習ＩＩＡ、その後、後期に専門演習ＩＩＢを担当する。
２．不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。
３．必要な資料等は適宜配布する。
４．自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。
５．ソーシャルワーカー等のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位取得の最低出席条件１０回以上をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文執筆のテーマをが明確になっている。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマに至るまでの文献・ネット検索のプロセスを説明できる。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマの今後の執筆予定を説明できる。	卒業論文執筆のテーマに沿って章立てができており、執筆を開始している。	卒業論文執筆のテーマが明確になっている。	左記の内容が何一つできていない。
研究テーマに関するディスカッションができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告でき、尚且つ、他者の発表に的確な助言ができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマを報告できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマについてプレゼンテーションができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができ、さらに、他者のプレゼンに対して的確な助言ができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告できる	自分の研究テーマのプレゼンテーションが一応できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	講義,演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＩＡ （科目ナンバリング：SEM134147，SEM434088，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　上原　正希　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードなどを参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途指示します』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途指示します』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス（シラバスの説明を含む） 科目を修了して『身に付く力』についての説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業及び地域活動１ 専門演習ＩＡ・ＩＢから進歩した学び 論文作成と調査	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
3	担当教員による授業及び地域活動２ 専門演習ＩＡ・ＩＢから進歩した学び 論文作成と調査	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
4	担当教員による授業及び地域活動３ 専門演習ＩＡ・ＩＢから進歩した学び 論文作成と調査	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
5	担当教員による授業及び地域活動４ 専門演習ＩＡ・ＩＢから進歩した学び 論文作成と調査	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
6	担当教員による授業及び地域活動５ 専門演習ＩＡ・ＩＢから進歩した学び 論文作成と調査	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
7	担当教員による授業及び地域活動６ 専門演習ＩＡ・ＩＢから進歩した学び 論文作成と調査	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
8	担当教員による授業及び地域活動７ 専門演習ＩＡ・ＩＢから進歩した学び 論文作成と調査	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
9	担当教員による授業及び地域活動８ 専門演習ＩＡ・ＩＢから進歩した学び 論文作成と調査	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
10	担当教員による授業及び地域活動９ 専門演習ＩＡ・ＩＢから進歩した学び 論文作成と調査	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
11	担当教員による授業及び地域活動１０ 専門演習ＩＡ・ＩＢから進歩した学び 論文作成と調査	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
12	担当教員による授業及び地域活動１１ 専門演習ＩＡ・ＩＢから進歩した学び 論文作成と調査	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
13	担当教員による授業及び地域活動１２ 専門演習ＩＡ・ＩＢから進歩した学び 論文作成と調査	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
14	担当教員による授業及び地域活動１３ 専門演習ＩＡ・ＩＢから進歩した学び 論文作成と調査	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
15	担当教員による授業及び地域活動１４ 専門演習ＩＡ・ＩＢから進歩した学び 論文作成と調査	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
16	総括 論文作成と調査 専門演習ＩＡ・ＩＢからの進歩と専門演習ＩＩＢへの展開 授業全体の解説 科目を修了して『身に付く力』についての検証	科目が修了するにあたり『身に付く力』について自分で検証をしておくこと(９０分)	科目が修了して『身に付く力』について自分で振り返ること(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡA （科目ナンバリング：SEM134147，SEM434088，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　藤根　収　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験や教育行政経験のある教員がその経験を活かして、特別支援教育や今日的な教育課題について指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードなどを参照。				

概要

履修目標

卒業論文執筆を通じて、社会福祉学研究に必要なスキルを習得する。具体的には、社会福祉に関係する様々な事象のうち、自分が関心を持つ事象を探究するためのスキル（問題発見・分析能力の養成・情報文献収集・調査等）を身に付ける。また、ゼミナールごとにキャリア支援教育が組まれており、身に着けたスキルを将来に生かす方法を探究する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ1、ＤＰ2、ＤＰ3、ＤＰ4、ＤＰ5に対応する。

到達目標

ソーシャルスキル、グループ方式による作業方法、データの収集や分析・解釈、プレゼン能力の向上、論文作成など、一連の方法を身に付けることが基本となるが、さらに、下記のことについて達成できるようにする。
・各自の関心に基づく社会福祉関連の研究テーマを見つけることができる。
・関連資料の収集・整理を共同作業で行うことができる。
・研究報告及び研究成果のまとめを行うことができる。

授業全体の内容と概要

特別支援教育や今日的な教育課題等についてテーマを設け、探究、整理、協議、発表を行う。
各自が関心をもつ内容について整理、焦点化などを通して研究の方向付けを行う。
調査研究や文献研究の方法、情報の整理の仕方やまとめ方について、主体的に演習に取り組む。
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。資料等の提示については、板書、資料配布、プレゼンテーションソフトウェア等により行われる。課題等に関するフィードバックはコメントにてフィードバックされる。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。
不測の事態が起きた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教職課程を履修している学生で特別支援教育や教育の今日的な課題に対して、関心をもって主体的に学ぼうとする者を対象とする。
担当教員の指示に従い、主体的・積極的な参加に努めること。
大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位取得の最低出席条件１１回以上をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文執筆のテーマをが明確になっている。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマに至るまでの文献・ネット検索のプロセスを説明できる。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマの今後の執筆予定を説明できる。	卒業論文執筆のテーマに沿って章立てができており、執筆を開始している。	卒業論文執筆のテーマが明確になっている。	左記の内容が何一つできていない。
研究テーマに関するディスカッションができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告でき、尚且つ、他者の発表に的確な助言ができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマを報告できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマについてプレゼンテーションができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができ、さらに、他者のプレゼンに対して的確な助言ができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告できる	自分の研究テーマのプレゼンテーションが一応できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡA （科目ナンバリング：SEM134147，SEM434088，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　藤根　収　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験や教育行政経験のある教員がその経験を活かして、特別支援教育や今日的な教育課題について指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードなどを参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4863715486	
2	『生徒指導提要』	文部科学省	東洋館出版社	2023	978-4863715486	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス（シラバスの説明を含む）、科目を修了して「身に付く力」の説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業１ 教育動向、特別支援教育、教職に関するテーマに係る演習	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
3	担当教員による授業２ 教育動向、特別支援教育、教職に関するテーマに係る演習	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
4	担当教員による授業３ 教育動向、特別支援教育、教職に関するテーマに係る演習	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
5	担当教員による授業４ 教育動向、特別支援教育、教職に関するテーマに係る演習	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
6	担当教員による授業５ 教育動向、特別支援教育、教職に関するテーマに係る演習	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
7	担当教員による授業６ 教育動向、特別支援教育、教職に関するテーマに係る演習	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
8	担当教員による授業７ 教育動向、特別支援教育、教職に関するテーマに係る演習	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
9	担当教員による授業８ 教育動向、特別支援教育、教職に関するテーマに係る演習	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
10	担当教員による授業９ 教育動向、特別支援教育、教職に関するテーマに係る演習	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
11	担当教員による授業１０ 各テーマに基づく文献・調査研究等	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
12	担当教員による授業１１ 各テーマに基づく文献・調査研究等	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
13	担当教員による授業１２ 各テーマに基づく文献・調査研究等	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
14	担当教員による授業１３ 各テーマに基づく文献・調査研究等	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
15	担当教員による授業１４ 各テーマに基づく文献・調査研究等の発表	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
16	総括 各テーマに基づく文献・調査研究等の発表　演習の講評・フィードバック、科目を修了して「身に付く力」の検証	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＩＡ （科目ナンバリング：SEM134147，SEM434088，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	社会福祉学科･教授	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　松下　守邦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。Teamsチーム（演習科目）には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

概要

履修目標

卒論準備（アカデミック･シンキング）の基礎理解をおこなう。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP２、DP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

卒論執筆準備のため、学術レポート作成の基礎を理解する。
学術作法にもとづいて、社会科学の疑問をあきらかにする方法を習得する。

授業全体の内容と概要

専門演習では、アカデミック・シンキングを学修する。
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。
次の①から④について段階的理解をすすめる。
①学術論文のスタイルを確認する。
　（書く作業のなかで思考を深める、先行研究理解、引用など、学術研究ルールを学ぶ）
②大学教員や研究者が執筆した学術論文を自分の関心にあわせて
　図書情報館レファレンスサービスをうけ取寄せる。
③学術論文、文献を読み、要旨をまとめる。
　社会的事象について、複数文献を精読し、視点、考察方法の違い等を報告する。
④学術論文、文献の読解作業をふまえ、先行研究の批評的思考をおこなう。
　（定義を確認する、比較する、相違点や類似点をみつける ）

授業の方法

不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
アカデミック・シンキング基本文献は、該当学年のゼミメンバーにより初回演習にて相談、決定をおこなう。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
◯	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業科目Teamsを利用する。履修学生はチームメンバーになり、以下のコースパケット利用が可能になる。
コースパケットは、履修学生に必要と思われる教材資料をまとめたものである。
準備学習に必要となる教材（論文コピー、報告書など）
課題（練習問題、レポートの指示と執筆のための参考資料）
授業のなかでは扱いきれなかった、関連文献、補足情報
授業者への相談質問のための案内
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
高校教育までにうけた支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら、科目サポートを進める。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１０回以上をクリアすること。これは、必要とされる量的基準であるけれども、十分条件ではない。学修は最後まで継続しベストを尽くすことを期待する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	０％	３０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心のある主題について、信頼性のある情報を整理し、論点を抽出する。	信頼性の高い情報を網羅して調べており、多様な見解を整理している。専攻とそれに関連する領域の先行研究を統合させて、問題背景を的確に説明した。	信頼性を保ちながら情報を調べており、見解を適切に整理している。専攻領域の代表的な先行研究をふまえながら、問題背景を説明した。	信頼性のある情報を調べ、いくつかの見解を整理している。自らの専攻について、いくつかの先行研究を確認し、問題背景を設定した。	インターネット情報の信頼性を理解して文献収集している。大学、研究機関などの資料を収集するが、自らの専攻と先行研究に関する絞込みは十分ではなかった。	インターネット情報の信頼確認の理解が十分ではない。まとめサイト、Wikipediaなど、「いきなり検索」の情報収集にとどまった。
学術論文スタイルを理解して、学術レポートを作成する。	主題、内容、方法はキーワード、学術概念による適切な筋立の構成である。学術論文の引用注記を明確に示した。	キーワード、学術概念をもとにして適切な論点を見出した。引用形式と注解釈は適切であった。	キーワード、学術概念を用いており、論理的説明の基本はおこなわれている。文献リストの作成、本文の注、引用形式は適切であった。	学術概念に利用、引用、参照文献リストの作成が試みられているが、本文と文献の照合は十分ではなかった。	文章は個人的経験、感想もとづく「素朴理論」である。引用、参照文献のリストが示されなかった。
ゼミメンバーとして、学術環境を創造していく役割を自覚し、自分と異なる意見を統合させて、学修経験を高めていこうとする、関心･意欲･態度	ゼミメンバーとして、役割と責任を自覚して、積極的、協同的に行動することができた。	ゼミメンバーとしての役割は、おおむね理解しており、他のメンバーに配慮する行動をおこうことができた。	ゼミメンバーとしての役割は、基本的な行動についておこなうことができた。	ゼミメンバーとして自分の役割は、改善の余地はあるが、行動することができた。	ゼミメンバーとして自分の役割を理解すること、主体的な行動はできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡA （科目ナンバリング：SEM134147，SEM434088，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	社会福祉学科･教授		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　松下　守邦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。Teamsチーム（演習科目）には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						研究主題にもとづく学術文献、先行研究
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第３版』	井下千以子	慶応義塾大学出版会	２０１９		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション(シラバス、ルーブリック、本科目を修了して「身に付く力」の説明)	シラバス、科目Teamsの確認（４５分）	スケジュールと準備学習の整理（４５分）
2	アカデミック･シンキング基礎1（学術文献の種類）	テキスト資料の読解（４５分）	テキスト資料の整理（４５分）
3	アカデミック･シンキング基礎２（調べ学習、自由研究、学術研究）	テキスト資料の読解（４５分）	テキスト資料の整理（４５分）
4	アカデミック･シンキング基礎３（研究不正；捏造、剽窃、ほう助、自己剽窃）	テキスト資料の読解（４５分）	テキスト資料の整理（４５分）
5	アカデミック･シンキング基礎４（学術倫理；ハラスメント、研究協力者への配慮）	テキスト資料の読解（４５分）	テキスト資料の整理（４５分）
6	アカデミック･シンキング基礎５	テキスト資料の読解（４５分）	テキスト資料の整理（４５分）
7	アカデミック･シンキング基礎６	テキスト資料の読解（４５分）	テキスト資料の整理（４５分）
8	アカデミック･シンキング基礎７	テキスト資料の読解（４５分）	テキスト資料の整理（４５分）
9	アカデミック･シンキング基礎８	テキスト資料の読解（４５分）	テキスト資料の整理（４５分）
10	文献講読１（文献の選書、報告割当、レジュメ作成、準備学習）	文献の読解（４５）	文献注解の整理（４５分）
11	文献講読２（分担報告）	文献の読解（４５）	文献注解の整理（４５分）
12	文献講読３（分担報告）	文献の読解（４５）	文献注解の整理（４５分）
13	文献講読４（分担報告）	文献の読解（４５）	文献注解の整理（４５分）
14	文献講読５（分担報告）	文献の読解（４５）	文献注解の整理（４５分）
15	文献講読６（分担報告）	文献の読解（４５）	文献注解の整理（４５分）
16	まとめ（授業の総括とフィードバック、本科目を修了して「身に着く力」について検証説明）	文献の読解（４５）	次学期への課題設定（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＩＡ （科目ナンバリング：SEM134147，SEM434088，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	大島康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	1号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　大島康雄　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前のボードなどを参照。				

概要

履修目標

卒業論文執筆を通じて、社会福祉学研究に必要なスキルを習得する。具体的には、社会福祉に関係する様々な事象のうち、自分が関心を持つ事象を探究するためのスキル（問題発見・分析能力の養成・情報文献収集・調査等）を身に付ける。また、ゼミナールごとにキャリア支援教育が組まれており、身に着けたスキルを将来に生かす方法を探求する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

ソーシャルスキル、グループ方式による作業方法、データの収集や分析・解釈、プレゼン能力の向上、論文作成など、一連の方法を身に付けることが基本となるが、さらに、下記のことについて達成できるようにする。
・各自の関心に基づく社会福祉関連の研究テーマを見つけることができる。
・関連資料の収集・整理を共同作業で行うことができる。
・研究報告及び研究成果のまとめを行うことができる。

授業全体の内容と概要

学生が学びたいテーマに沿った形で進められる。
「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。資料等の提示については、板書、資料配布、プレゼンテーションソフトウェア等により行われる。課題等に関するフィードバックはコメントにてフィードバックされる。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

担当教員の指示に従い、主体的・積極的な参加に務めること。
大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
後期の「専門演習ＩＩＢ」も、この演習の担当教員が継続して担当する。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位取得の最低出席条件１０回以上をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文執筆のテーマをが明確になっている。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマに至るまでの文献・ネット検索のプロセスを説明できる。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマの今後の執筆予定を説明できる。	卒業論文執筆のテーマに沿って章立てができており、執筆を開始している。	卒業論文執筆のテーマが明確になっている。	左記の内容が何一つできていない。
研究テーマに関するディスカッションができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告でき、尚且つ、他者の発表に的確な助言ができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマを報告できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマについてプレゼンテーションができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができ、さらに、他者のプレゼンに対して的確な助言ができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告できる	自分の研究テーマのプレゼンテーションが一応できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡA （科目ナンバリング：SEM134147，SEM434088，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	大島康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	1号館２階	
単位数	1	（単位認定責任者：　大島康雄　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前のボードなどを参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス（シラバスの説明を含む） 科目を修了して『身に付く力』についての説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業２	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
3	担当教員による授業３	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
4	担当教員による授業１	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
5	担当教員による授業４	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
6	担当教員による授業５	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
7	担当教員による授業６	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
8	担当教員による授業７	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
9	担当教員による授業８	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
10	担当教員による授業９	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
11	担当教員による授業１０	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
12	担当教員による授業１１	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
13	担当教員による授業１２	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
14	担当教員による授業１３	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
15	担当教員による授業１４	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
16	授業内フィードバック 総括 科目を修了して『身に付く力』についての検証	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡA （科目ナンバリング：SEM134147，SEM434088，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1　（単位認定責任者：　　吉江　幸子　　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

こども・高齢・障害分野に興味関心をもち、文献を調べ、卒業論文執筆に専念する。
積極的に意見を出し合い、周囲とのコミュニケーションを図る。
主体的に研究テーマを決め、討論などを通して専門的な知識を深める。
討論、発表を繰り返すことで周囲との意見の違いにも気づき、チームワークの大切さや自分の強みに気付く。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP２、DP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

・自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。
・個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかんでいる。
・研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。
・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

「専門テーマ：自分発見」に沿った形で資料を活用し、要約の方法などを考察する。
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査等様々な授業形態で実施する。
大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・（専門演習ⅠA・ⅠBから継続）。
・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
・ゼミ生で企画立案、実践、事後評価の流れを踏襲した地域活動への参加を求める。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１１回以上とするが全回出席が望ましい。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡA （科目ナンバリング：SEM134147，SEM434088，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　吉江　幸子　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（履修により「身に付く力」の説明を含む） ゼミ内容のガイダンスと今後実践したい内容の意見収集（前年度の評価反省を活かす）	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	ゼミ内の役割分担の話し合い	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
3	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
4	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
5	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
6	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
7	発表と討論・ディスカッション	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
8	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
9	発表と討論・ディスカッション	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
10	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
11	発表と討論・ディスカッション	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
12	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
13	発表と討論・ディスカッション	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
14	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
15	発表と討論・ディスカッション	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
16	総括としての評価・ディスカッション（「身に付く力」の検証）	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡA （科目ナンバリング：SEM134147，SEM434088，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　西野　克俊　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

ソーシャルワークの基礎知識・基礎技術の習得を図り、自身の考えるテーマを深める。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、ＤＰ2、ＤＰ3、ＤＰ4、ＤＰ5に対応する。

到達目標

①福祉の現場や働いている専門職役割を知識として学習する。
②専門職になるために、学ぶ・考える・関わるの基礎を学習する。
③自らの目標達成のために、計画性・実行性を習得する。
④コミュニケーション能力などの向上を図る。

授業全体の内容と概要

①自身の研究テーマに沿い、卒業論文作成を目指す。
②就職活動に向けての取組みを目指す。
③資格取得に向けた知識を習得する。
④卒業までに必要な準備を計画立てて行う。
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義・ゼミナール・実験・製作・見学等様々は授業形態を行う。
質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①２０分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。
②不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡA （科目ナンバリング：SEM134147，SEM434088，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　西野　克俊　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション 科目を終了して『身に付く力』についての説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	就職活動準備・研究テーマ深化	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
3	就職活動準備・研究テーマ深化	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
4	就職活動準備・研究テーマ深化	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
5	就職活動準備・研究テーマ深化	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
6	就職活動準備・研究テーマ深化	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
7	就職活動準備・研究テーマ深化	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
8	就職活動準備・研究テーマ深化	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
9	就職活動準備・研究テーマ深化	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
10	就職活動準備・研究テーマ深化	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
11	就職活動準備・研究テーマ深化	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
12	就職活動準備・研究テーマ深化	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
13	就職活動準備・研究テーマ深化	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
14	就職活動準備・研究テーマ深化	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
15	就職活動準備・研究テーマ深化	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
16	総括 科目を修了して『身に付く力』についての検証	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＩＡ （科目ナンバリング：SEM134147，SEM434088，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	畠山　明子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　畠山　明子　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードなどを参照。				

概要

履修目標

卒業論文執筆を通じて、社会福祉学研究に必要なスキルを習得する。具体的には、社会福祉に関係する様々な事象のうち、自分が関心を持つ事象を探究するためのスキル（問題発見・分析能力の養成・情報文献収集・調査等）を身に付ける。また、ゼミナールごとにキャリア支援教育が組まれており、身に付けたスキルを将来に生かす方法を探求する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

ソーシャルスキル、グループ方式による作業方法、データの収集や分析・解釈、プレゼン能力の向上、論文作成など、一連の方法を身に付けることが基本となるが、さらに、下記のことについて達成できるようにする。
・各自の関心に基づく社会福祉関連の研究テーマを見つけることができる。
・関連資料の収集・整理を共同作業で行うことができる。
・研究報告及び研究成果のまとめを行うことができる。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が学生に提示する「専門テーマ」に沿った形で進められる。
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連授業。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。資料等の提示については、板書、資料配布、プレゼンテーションソフトウェア等により行われる。課題等に関するフィードバックはコメントにてフィードバックされる。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。
基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各担当教員の指示に従い、主体的・積極的な参加に努めること。
大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
後期の「専門演習ＩＩＢ」も、この演習の担当教員が継続して担当する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文執筆のテーマを定めることができた。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマに至るまでの文献・ネット検索のプロセスを説明できた。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマの今後の執筆予定を説明できた。	卒業論文執筆のテーマに沿って章立てができており、執筆を開始できた。	卒業論文執筆のテーマが明確になっていた。	左記の内容が何一つできていなかった。
研究テーマに関するディスカッションができた。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告でき、尚且つ、他者の発表に的確な助言ができた。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告できた。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望を報告できた。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマを報告できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
自分の研究テーマについてプレゼンテーションができた。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができ、さらに、他者のプレゼンに対して的確な助言ができた。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができた。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告できた。	自分の研究テーマについて最低限のプレゼンテーションができた。	左記の内容が何一つできていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡA （科目ナンバリング：SEM134147，SEM434088，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	畠山　明子（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　畠山　明子　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードなどを参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス（シラバスの説明を含む） 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業１	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
3	担当教員による授業２	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
4	担当教員による授業３	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
5	担当教員による授業４	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
6	担当教員による授業５	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
7	担当教員による授業６	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
8	担当教員による授業７	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
9	担当教員による授業８	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
10	担当教員による授業９	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
11	担当教員による授業１０	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
12	担当教員による授業１１	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
13	担当教員による授業１２	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
14	担当教員による授業１３	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
15	担当教員による授業１４	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
16	総括 フィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡA （科目ナンバリング：SEM134147，SEM434088，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	堀川　厚志（社会福祉学科各・特任教授）	研究室等所在	各教員研修室		
単位数	1　（単位認定責任者：　堀川　厚志　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育学、特別支援教育、障がいのある子に応じた教育等の専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築と追究に関する指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

特別支援教育、障がいのある子に応じた教育等の専門分野を中心に、教育学、社会福祉学をはじめとする教育科学、社会科学の方法論を、文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどの教授方法を使用し獲得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP２、DP３、DP４、DP５に対応する科目

到達目標

自身の関心のあるテーマを探り、研究を方向付けるために必要な文献・資料・データの活用方法を身につける。
個々の研究テーマを追究するための研究方法に関するノウハウを理解する。
研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
自身の研究内容について、プレゼンテーションによる発表するスキルを身につける。
学友の発表を傾聴し、内容の理解と的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

特別支援教育、障害のある子に応じた教育を中心に、関連する内容や今日的課題について探究、整理、発表、協議を行う。
各自が関心をもつ内容について整理、焦点化などを通して研究の方向付けを行う。
調査研究や文献研究の方法、情報の整理の仕方やまとめ方について、主体的に取り組む。
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

プレゼンテーション資料等によるテーマの焦点化、調査方法、文献研究の方法について説明する。
フレームワーク等の試行により関心事、文献研究・調査研究内容を焦点化し整理し、随時グループワークを実施する。
プレゼンテーションの発表を通して、調査研究等の報告、情報共有を行う。
質問には随時対応し、各自の調査・収集・整理した内容については、コメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

「専門演習Ⅰ」を担当した教員が「専門演習Ⅱ」を担当する。
「専門演習ⅡA」を担当した教員が後期の「専門演習ⅡB」を担当する。
特別支援教育、障害のある子に応じた教育を中心に、教育に関連する内容や今日的な課題について、関心をもつ者とする。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
事前相談を受け、学生の希望する修学サポート内容と授業と評価の成立要件等を調整し、修学サポートを実施する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	４０%	０%	５０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる。	Web、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	Web、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	Web、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自身の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡA （科目ナンバリング：SEM134147，SEM434088，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	堀川　厚志（社会福祉学科各・特任教授）		研究室等所在	各教員研修室	
単位数	1　（単位認定責任者：　堀川　厚志　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育学、特別支援教育、障がいのある子に応じた教育等の専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築と追究に関する指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本2020』	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 活動の目的、方法、前期の活動計画等の確認、科目を修了して「身に付く力」の説明	所属研究室選択資料の確認 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
2	特別支援教育、障害のある子の教育の今日的課題１ 各自の関心事、課題等の発表、協議１	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
3	特別支援教育、障害のある子の教育の今日的課題２ 各自の関心事、課題等の発表、協議２	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
4	特別支援教育、障害のある子に対する教育課題３ 各自の関心事、課題等の発表、協議３	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
5	特別支援教育、障害のある子の教育の今日的課題４ 各自の関心事、課題等の発表、協議４	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
6	特別支援教育、障害のある子の教育の今日的課題５ 各自の関心事、課題等の発表、協議５	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
7	特別支援教育、障害のある子の教育の今日的課題６ 各自の関心事、課題等の発表、協議のまとめ	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
8	各自の関心事、課題等のまとめ（中間報告、今後の活動計画の確認） 後半の活動計画、各自の活動計画等の確認	前半の振り返り （４５分）	振り返りの確認 （４５分）
9	教育動向、教職に関する知見について１ 各自の研究内容の焦点化や明文化による考えの整理と発表１	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
10	教育動向、教職に関する知見について２ 各自の研究内容の焦点化や明文化による考えの整理と発表２	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
11	教育動向、教職に関する知見について３ 各自の研究内容の焦点化や明文化による考えの整理と発表３	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
12	教育動向、教職に関する知見について４ 各自の研究内容の焦点化や明文化による考えの整理と発表４	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
13	教育動向、教職に関する知見について５ 中間報告会資料の作成（各自研究内容プレゼン）	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
14	教育動向、教職に関する知見について６ 中間報告会資料の作成（各自研究内容プレゼン）	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
15	中間報告会１（各自研究内容のプレゼン資料発表、その後の推進に向けた意見交換）　科目を修了して「身に付く力」の検証	全体の振り返り （４５分）	全体の振り返り （４５分）
16	中間報告会２（各自研究内容のプレゼン資料発表、その後の推進に向けた意見交換）　科目を修了して「身に付く力」の検証	全体の振り返り （４５分）	全体の振り返り （４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡA （科目ナンバリング：SEM134147，SEM434088，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	宮崎　剛司（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階専任講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　宮崎　剛司　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整または各教員の研究室前のボードなどを参照。				

概要

履修目標

卒業論文執筆を通じて、社会福祉学研究に必要なスキルを習得する。具体的には、社会福祉に関係する様々な事象のうち、自分が関心を持つ事象を探究するためのスキル（問題発見・分析能力の養成・情報文献収集・調査等）を身に付ける。また、ゼミナールごとにキャリア支援教育が組まれており、身に着けたスキルを将来に生かす方法を探求する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP２、DP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

ソーシャルスキル、グループ方式による作業方法、データの収集や分析・解釈、プレゼン能力の向上、論文作成など、一連の方法を身に付けることが基本となるが、さらに、下記のことについて達成できるようにする。
・各自の関心に基づく社会福祉関連の研究テーマを見つけることができる。
・関連資料の収集・整理を共同作業で行うことができる。
・研究報告及び研究成果のまとめを行うことができる。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が学生に提示する「専門テーマ」に沿った形で進められる。
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。資料等の提示については、板書、資料配布、プレゼンテーションソフトウェア等により行われる。課題等に関するフィードバックはコメントにてフィードバックされる。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。
「基本は対面授業の実施」であるが、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各担当教員の指示に従い、主体的・積極的な参加に務めること。
大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
後期の「専門演習ⅡB」も、この演習の担当教員が継続して担当する。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文執筆のテーマをが明確になっている。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマに至るまでの文献・ネット検索のプロセスを説明できる。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマの今後の執筆予定を説明できる。	卒業論文執筆のテーマに沿って章立てができており、執筆を開始している。	卒業論文執筆のテーマが明確になっている。	左記の内容が何一つできていない。
研究テーマに関するディスカッションができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告でき、尚且つ、他者の発表に的確な助言ができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマを報告できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマについてプレゼンテーションができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができ、さらに、他者のプレゼンに対して的確な助言ができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告できる	自分の研究テーマのプレゼンテーションが一応できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡA （科目ナンバリング：SEM134147，SEM434088，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	宮﨑　剛司（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階専任講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　宮﨑　剛司　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整または各教員の研究室前のボードなどを参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス（シラバスの説明を含む） 科目を修了して「身に付ける力」の説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業 2	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
3	担当教員による授業 3	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
4	担当教員による授業 4	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
5	職業レディネス・テストの実施（キャリア支援センター）	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
6	担当教員による授業 5	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
7	担当教員による授業 6	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
8	担当教員による授業 7	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
9	担当教員による授業 8	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
10	職業レディネス・テストのフィードバック（キャリア支援センター）	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
11	担当教員による授業 9	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
12	担当教員による授業 10	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
13	担当教員による授業 11	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
14	担当教員による授業 12	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
15	担当教員による授業 13	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
16	総括 各テーマに基づく文献・調査研究等の発表 科目を修了して「身につける力」の検証 講評をし、フィードバックする	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＩＡ （科目ナンバリング：SEM134147，SEM434088，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	蝦名　美穂（社会福祉・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　蝦名　美穂　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、スクールカウンセラーとしての実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードなどを参照。もしくはチャットにて事前連絡後に調整をし，研究室で対応。				

概要

履修目標

卒業論文執筆を通じて，社会福祉学研究に必要なスキルを習得する。具体的には，社会福祉に関係する様々な事象のうち，自分が関心を持つ事象を探究するためのスキル
（問題発見・分析能力の養成・情報文献収集・調査等）を身に付ける。また，ゼミナールごとにキャリア支援教育が組まれており、身に着けたスキルを将来に生かす方法を探求する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１，ＤＰ２，DP３，DP４，DP５に対応する科目。

到達目標

ソーシャルスキル，グループ方式による作業方法，データの収集や分析・解釈、プレゼン能力の向上，論文作成など，一連の方法を身に付けることが基本となるが，さらに，下記のことについて達成できるようにする。
・各自の関心に基づく社会福祉関連の研究テーマを見つけることができる。
・関連資料の収集・整理を共同作業で行うことができる。
・研究報告及び研究成果のまとめを行うことができる。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が学生に提示する「専門テーマ」に沿った形で進められる。
「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので，講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査など，様々な授業形態がとられる。資料等の提示については，板書，資料配布，プレゼンテーションソフトウェア等により行われる。課題等に関するフィードバックはコメントにてフィードバックされる。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し，意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各担当教員の指示に従い，主体的・積極的な参加に務めること。
大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
後期の「専門演習ＩＩＢ」も、この演習の担当教員が継続して担当する。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け，本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位取得の最低出席条件１１回以上をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	０%	１００%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文執筆のテーマをが明確になっている。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており，そのテーマに至るまでの文献・ネット検索のプロセスを説明できる。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており，そのテーマの今後の執筆予定を説明できる。	卒業論文執筆のテーマに沿って章立てができており，執筆を開始している。	卒業論文執筆のテーマが明確になっている。	左記の内容が何一つできていない。
研究テーマに関するディスカッションができる。	ディスカッションにおいて，自分の執筆テーマの意義と展望，現在の進捗状況を報告でき，尚且つ，他者の発表に的確な助言ができる。	ディスカッションにおいて，自分の執筆テーマの意義と展望，現在の進捗状況を報告できる。	ディスカッションにおいて，自分の執筆テーマの意義と展望を報告できる。	ディスカッションにおいて，自分の研究テーマを報告できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマについてプレゼンテーションができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて，明確な参考資料を提示でき，報告でき，且つ，周囲を納得させることができ，さらに，他者のプレゼンに対して的確な助言ができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて，明確な参考資料を提示でき，報告でき，且つ，周囲を納得させることができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて，明確な参考資料を提示でき，報告できる	自分の研究テーマのプレゼンテーションが一応できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡA （科目ナンバリング：SEM134147，SEM434088，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	蝦名　美穂（社会福祉・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　蝦名　美穂　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、スクールカウンセラーとしての実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードなどを参照。もしくはチャットにて事前連絡後に調整をし，研究室で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス及び科目を修了して「身に付く力」の説明を含む）担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
3	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
4	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
5	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
6	卒論の進捗状況について、経過を発表する	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
7	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
8	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
9	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
10	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
11	卒論の進捗状況について、経過を発表する	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
12	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
13	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
14	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
15	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
16	卒論の進捗状況について、経過を発表する 講義についてのフィードバック、科目を修了して「身に付く力」の検証	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡA （科目ナンバリング：SEM134147，SEM434088，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	吉澤　英里（社会福祉学科・教授）	研究室等所在	1号館３階		
単位数	1　（単位認定責任者：　　吉澤　英里　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

社会福祉分野の心理学に興味関心をもち、卒業論文執筆に専念する。
積極的に意見を出し合い、周囲とのコミュニケーションを図る。
主体的に研究テーマを決め、討論などを通して専門的な知識を深める。
討論、発表を繰り返すことで周囲との意見の違いにも気づき、チームワークの大切さや自分の強みに気付く。

授業の位置づけ

社会福祉学部のDP１、DP２、DP３、DP４、DP５に対応する科目

到達目標

・自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。
・個々の学生がそれぞれの「研究テーマ」の糸口をつかんでいる。
・研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。
・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

「専門テーマ：自分発見」に沿った形で資料を活用し、要約の方法などを考察する。
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査等様々な授業形態で実施する。
大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・原則として、専門演習ＩA・ＩBから担当教員は継続する。
・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１１回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡA （科目ナンバリング：SEM134147，SEM434088，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	吉澤　英里（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	1号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　吉澤　英里　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 ゼミ内容のガイダンスと今後実践したい内容の意見収集（前年度の評価反省を活かす） 科目を修了して『身に付く力』についての説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	ゼミ内の役割分担の話し合い	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
3	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
4	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
5	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
6	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
7	発表と討論・ディスカッション	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
8	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
9	発表と討論・ディスカッション	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
10	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
11	発表と討論・ディスカッション	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
12	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
13	発表と討論・ディスカッション	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
14	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
15	発表と討論・ディスカッション	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
16	総括としての評価・ディスカッション 身に付く力についての検証 フィードバック	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	立体構成Ⅰ （科目ナンバリング：AEA211012　　）				
授業担当者 （所属・職名）	梅田　力（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	アトリエ棟２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　梅田　力　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。また、ポートフォリオ作成を通じて、作品をどう見せるかも指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

立体の作品制作を通じて、基本的な構成原理を理解し、様々な美術表現に必要な基礎的な造形力を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

立体の基本的な構成原理を活用し、作品を制作することが出来る。

授業全体の内容と概要

授業毎に設定された課題を基に、立体作品の制作を行いながら実践的に立体の構成原理を学ぶ。また、作品の見せ方、発表の仕方も学ぶ。

授業の方法

スライドを使って課題の説明を行なった後、各自作品制作を行う。作品完成後、作品評価及び講評を行う。学生は各自で画像を撮影して保存する。最終的に保存した画像を編集し、ポートフォリオを作成し提出する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

制作した作品は毎回撮影して保存し、最終的にはポートフォリオにまとめて提出すること。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術・工芸）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

２０回以上の出席がない場合は評価の対象としない。ポートフォリオが提出されない場合は評価の対象としない。
評価は作品点（４０%）、ポートフォリオ点（３０%）、及び主体的に学ぶ姿勢「平常点」（３０%）の基準で行う。
講義の前半で課題を説明するため、３０分以上の遅刻は出席として認めない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	７０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
立体の基本的な特性の理解（知識・理解）	作品が自立し、構造的にも安定していた。また、構成原理を理解し、上手く活用しており、美しい造形であった。	作品が自立し、構造的にも安定していた。また、構成原理を理解し、活用した。	作品が自立し、構造的にも安定していた。また、構成原理を活用しようと試みた。	作品が自立し、構造的にも安定していなかった	作品が自立せず、立体として成立していなかった
編集と発表の能力（思考力・表現力・判断力等）	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、美しくデザインされたポートフォリオを作成した。	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、ポートフォリオを作成した。	制作した作品に加え、スケッチや文章等も取り入れたポートフォリオを作成した。	制作した作品を収めたポートフォリオを作成した。	制作した作品を収めずポートフォリオを作成しなかった。
主体的に学習に取り組む態度（主体性・多様性・協働性）	課題を予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。また課題を超えて制作を行なった。	課題の予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。	課題の予習または復習をした。自ら計画を立て、制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受け、計画的に制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受けて計画的に制作を行う事が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	立体構成Ⅰ （科目ナンバリング：AEA211012　　）				
授業担当者 （所属・職名）	梅田　力（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	アトリエ棟２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　梅田　力　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。また、ポートフォリオ作成を通じて、作品をどう見せるかも指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『「美の構成学　―バウハウスからフラクタルまで―」』	三井秀樹	中公新書	1996	4121012968	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明、授業アンケート結果反映の説明　科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスをよく読んでおくこと（４５分）	オリエンテーションを振り返り内容を理解する事（４５分）
2	立体構成とは何か	立体構成という言葉について調べてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
3	立体構成基礎１　四角形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
4	立体構成基礎１　四角形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
5	立体構成基礎２　三角形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
6	立体構成基礎２　三角形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
7	立体構成基礎３　円形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
8	立体構成基礎３　円形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
9	立体構成基礎４　不定形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
10	立体構成基礎４　不定形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
11	紙の加工法１　切る・組み合わせる	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
12	紙の加工法１　切る・組み立てる	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
13	紙の加工法２　折る・貼る・組み合わせる	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
14	紙の加工法２　折る・貼る・組み合わせる	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
15	構成原理より１　リピテーション	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
16	構成原理より１　リピテーション	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	構成原理より２　シンメトリー	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
18	構成原理より２　シンメトリー	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
19	構成原理より３　アシンメトリー	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
20	構成原理より３　アシンメトリー	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
21	構成原理より４　アクセント	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
22	構成原理より４　アクセント	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
23	構成原理より５　ハーモニー	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
24	構成原理より７　ハーモニー	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
25	構成原理の活用１	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
26	構成原理の活用１	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
27	構成原理の活用２	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
28	構成原理の活用２	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
29	ポートフォリオ作成（チュートリアル）	ポートフォリオ作成（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
30	ポートフォリオ作成（チュートリアル）	ポートフォリオ作成（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
31	講評 授業全体への講評と提出されたポートフォリオへのフィードバック	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと（４５分）	講評を再考し、理解を深めること（45分）
32	講評、授業改善アンケートの実施　科目を修了して『身に付く力』についての検証	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと（４５分）	講評を再考し、理解を深めること（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ｲﾗｽﾄﾚｰｼｮﾝ基礎Ⅰ （科目ナンバリング：AEA221038　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　正人（デザイン学科・客員教授）	研究室等所在	２号館７階・1号館1階非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　佐藤　正人　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン業界で長年に携わる実務経験者が実践に促した実務を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をしデザインゼミ研究室①で木曜日５・６講目、金曜日５・６講目対応。				

概要

履修目標

イラスト制作に必要なさまざまな画材の使い方、表現方法などを基礎から学び習得する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

各画材の性質、多様な表現方法を習得して更なる独自のイラスト制作の技術向上に繋げることができる。

授業全体の内容と概要

透明水彩，アクリル絵の具などを使用して各課題を制作しながら様々なイラスト表現を身につける。

授業の方法

各課題ごとに課題説明書記載の画材類を毎回持参して授業内で作業を行い，作品提出がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

遅刻３回で欠席１回とみなす。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，２０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イラストレーションに対しての制作意欲及び授業態度。	授業の事前事後学習を進め意欲的な制作態度、取り組みがなされ模範的な授業態度であった。	授業の事前事後学習を進め、真面目に授業課題の作品制作に取り組んでいた。	授業課題、内容に真面目に取り組んでいた。	授業課題に取り組みながらも制作意欲が乏しかった。	授業に対しての意欲が感じられず制作態度の取り組みに欠けていた。
イラスト表現に於ける画材の知識及び理解。	授業内容に積極的に真剣に取り組み、知識の習得と理解度を深めてた。	授業内容に真剣に取り組み、授業内容を充分理解していた。	授業内容を真面目に取り組み概ね理解していた。	授業内容への最低限の理解がみられた。	授業内容を理解していなった。
イラスト表現への研究及び習得。	授業内容を深く理解して研究心、習得への向上心が著しくあり実践的にも優れていた。	授業内容を充分理解して研究心があり習得して形にしていた。	授業内容を概ね理解して真面目に研究、習得していた。	授業内容への最低限の理解がみられた。	授業内容を理解せず研究心、習得への意欲に欠けていた。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ｲﾗｽﾄﾚｰｼｮﾝ基礎Ⅰ （科目ナンバリング：AEA221038　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　正人（デザイン学科・客員教授）		研究室等所在	２号館７階・1号館1階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　　佐藤　正人　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン業界で長年に携わる実務経験者が実践に促した実務を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をしデザインゼミ研究室①で木曜日５・６講目、金曜日５・６講目対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『マイワーク３１』	北海道イラストレーターズクラブアルファ		２０１９年		
2	『雑誌イラストレーション』		玄光社			バックナンバー
3	『イラストノート』		誠文堂新光社			バックナンバー
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（イラストについての全般的な講義，イラストレーターの仕事，画材類について）。シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映の説明。科目を修了して『身に付く力』についての説明。	シラバスを読んでおくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
2	オリエンテーション（イラストについての全般的な講義，イラストレーターの仕事，画材類について）。シラバスの説明。	シラバスを読んでおくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
3	各画材の実践的使用をイラスト見本に合わせて実技を披露することで画材の使い方や特徴を習得。	配布資料を読み画材の特性を理解しておくこと。（４５分）	各画材の特性や使い方を復習しておくこと。（４５分）
4	各画材の実践的使用をイラスト見本に合わせて実技を披露することで画材の使い方や特徴を習得。	配布資料を読み画材の特性を理解しておくこと。（４５分）	各画材の特性や使い方を復習しておくこと。（４５分）
5	透明水彩絵具を使用して色の作製，画材の特徴を体験しながら描き方を研究。イラストラフ制作。	課題説明書を読み学習内容をイメージしておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
6	透明水彩絵具を使用して色の作製，画材の特徴を体験しながら描き方を研究。イラストラフ制作。	課題説明書を読み学習内容をイメージしておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
7	ラフ完成後トレースして透明水彩で着色作業―１	イラストラフ制作を進めておくこと。（４５分）	作品提出へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
8	ラフ完成後トレースして透明水彩で着色作業―１	イラストラフ制作を進めておくこと。（４５分）	作品提出へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
9	透明水彩で着色作業―２。作品提出。	透明水彩による着色作業の準備をしておくこと（４５分）	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。（４５分）
10	透明水彩で着色作業―２。作品提出。	透明水彩による着色作業の準備をしておくこと（４５分）	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。（４５分）
11	線画イラストの下絵制作。ラフ制作後に透明水彩で着色作業―１。	課題説明書を読み線画イラストの構想を練っておくこと。（４５分）	作品提出へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
12	線画イラストの下絵制作。ラフ制作後に透明水彩で着色作業―１。	課題説明書を読み線画イラストの構想を練っておくこと。	作品提出へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
13	線画イラストを制作して透明水彩で着色作業―２。	イラストラフ制作を進めておくこと。（４５分）	作品提出へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
14	線画イラストを制作して透明水彩で着色作業―２。	イラストラフ制作を進めておくこと。（４５分）	作品提出へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
15	線画イラストを制作して透明水彩で着色作業―３。コンセプトシートを記載してプレゼン後に作品提出	作品のプレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。（４５分）	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。（４５分）
16	線画イラストを制作して透明水彩で着色作業―３。コンセプトシートを記載してプレゼン後に作品提出	作品のプレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	アクリル絵具の画材の特性や使用方法を描写し画材研究。	教科書・参考文献等を活用し，アクリル絵具について調べておくこと。（４５分）	アクリル絵具の画材の特性や使い方を復習しておくこと。
18	アクリル絵具の画材の特性や使用方法を描写し画材研究。	教科書・参考文献等を活用し，アクリル絵具について調べておくこと。（４５分）	アクリル絵具の画材の特性や使い方を復習しておくこと。（４５分）
19	アクリル絵具による様々なタッチ表現実習―１	参考文献等を活用し，アクリル絵具による表現方法を調べておくこと。（４５分）	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと（４５分）
20	アクリル絵具による様々なタッチ表現実習―１	参考文献等を活用し，アクリル絵具による表現方法を調べておくこと。（４５分）	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと（４５分）
21	アクリル絵具による様々なタッチ表現実習―２	参考文献等を活用し，アクリル絵具による表現方法を調べておくこと（４５分）	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。（４５分）
22	アクリル絵具による様々なタッチ表現実習―２	参考文献等を活用し，アクリル絵具による表現方法を調べておくこと。（４５分）	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。（４５分）
23	課題に沿ってアクリル絵具を使用して作品制作過程を習得。	参考文献等を活用し，アクリル絵具による表現方法を調べておくこと。（４５分）	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。（４５分）
24	課題に沿ってアクリル絵具を使用して作品制作過程を習得。	参考文献等を活用し，アクリル絵具による表現方法を調べておくこと。（４５分）	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。（４５分）
25	アクリル画制作・１	制作作業の準備を行い道具の準備をしておくこと。（４５分）	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。（４５分）
26	アクリル画制作・１	制作作業の準備を行い道具の準備をしておくこと。（４５分）	作品提出へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
27	アクリル画制作・２	配布された参考作品及び資料を読み，道具の手入れをしておくこと。（４５分）	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。（４５分）
28	アクリル画制作・２	配布された参考作品及び資料を読み，道具の手入れをしておくこと。（４５分）	作品提出へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
29	アクリル画制作・３	配布された参考作品及び資料を読み，道具の手入れをしておくこと。（４５分）	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。（４５分）
30	アクリル画制作・３	配布された参考作品及び資料を読み，道具の手入れをしておくこと。（４５分）	作品最終提出へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
31	アクリル画制作・４。コンセプトシートを記載してプレゼン後に作品提出。	作品の完成，プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。（４５分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
32	アクリル画制作・４。コンセプトシートを記載してプレゼン後に作品提出。授業アンケート実施。授業に係る講評・解説によるフィードバック。科目を修了して『身に付く力』についての検証。	作品の完成，プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。（４５分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	4年生		
開講時期	前期集中	授業形態	実習	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅡA （科目ナンバリング：SEM234090　　）				
授業担当者 （所属・職名）	林　春生（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2　（単位認定責任者：　林　春生　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	ソニー株式会社＿デザインセンター30年 サムスン電子　デザイン顧問　6年 個人デザイン事務所　3年 それらの経験を活かし、授業に臨む。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

プロダクトデザイナーに成る事

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2,DP3、DP4に対応する。

到達目標

プロダクトデザイナーとしてモノの本質を見極める力、問題点や改善点を探求する力、それらを見直して自らオリジナルの解答（デザイン）を創造できる力、自分のデザインを第三者に伝える力を身に着ける。

授業全体の内容と概要

現状の問題点摘出の為、マーケットリサーチを行い、気づき、切り口を持って、オリジナルのデザインを行う。それらを第三者に伝えるプレゼンテーション方法を身に着ける。第三者からのフィードバックを受けて、更にデザイン改良を行う。
写真機材も使用して表現を拡げる。

授業の方法

各種マーカー、PMパッドA3,鉛筆、色鉛筆、サインペン、白鉛筆、PC（フォトショップ、イラストレーター）ICT利用。
写真機材

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位取得の為の最低出席回数は22回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
市場及び気づきから問題点を見つけられる。	市場やオリジナルな気づきから貴重な問題定義ができた。	市場や気づきから問題定義ができた。	市場や気づきから問題定義がほぼできた。	市場から問題定義が少しできた。	市場や気づきから問題定義が出来なかった
問題点の解決方法を考えられた。	問題点を完璧に解決し、従来より価値を新たに与えられた。	問題点を解決し、従来より価値を新たに与えられた。	問題点を解決し、価値を新たに与えられた。	問題点を解決した。	問題点を解決できなかった。
第三者に自分のデザインを正しく伝える事が出来る。	第三者に自分のデザインを効果的に伝える事が出来、価値観を認識させた。	第三者に自分のデザインを充分に伝える事が出来、価値観を認識させた。	第三者に自分のデザインを伝える事が出来た。価値観を伝えた。	自分のデザインを伝える事が出来た。	自分のデザインを伝える事が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	4年生		
開講時期	前期集中	授業形態	実習	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅡA （科目ナンバリング：SEM234090　　）				
授業担当者 （所属・職名）	林　春生（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2	（単位認定責任者：　林　春生　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	ソニー株式会社　デザインセンター30年 サムスン電子　デザイン顧問　6年 個人デザイン事務所　3年 それらの経験を活かし、授業に臨む。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　科目を修了して『身に付く力』についての説明 課題の発表、市場調査	シラバスを読んでおく。デザインとは調べておく。（45分）	市場調査を行う。（45分）
2	グループに分かれて、市場調査、まとめ	市場調査を行う。（45分）	市場調査を行う。（45分）
3	市場で何が起こっているか、流行や傾向はどうか調べてチャート表を作成する。	市場調査を行う。（45分）	市場調査を行う。（45分）
4	市場調査から自分なりの仮説を立てる	市場調査を行う。（45分）	市場調査を行う。（45分）
5	仮説が正しいか、グループでまとめる	仮説をまとめる。（45分）	仮説をまとめる。（45分）
6	グループごとに発表。第三者から意見を頂く。	グループ意見まとめ。（45分）	第三者からの意見を考察する。（45分）
7	仮説を修正し、まとめる。そこから独自のアイデアを考察する。	第三者からの意見を考察する。（45分）	アイデアを考察。（45分）
8	デザインスケッチ	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
9	デザインスケッチ	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
10	デザインスケッチ	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
11	デザインを一旦まとめてみる。	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
12	デザインプレゼンテーション１	アイデアを考察。（45分）	第三者からの意見を取り入れる。（45分）
13	デザインスケッチ、写真等使用して効果的に構成する。	第三者からの意見を取り入れる。（45分）	アイデアを考察。（45分）
14	プレゼンテーションパネル作成 モックアップ作成	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
15	プレゼンテーションパネル作成 モックアップ作成	まとめ（45分）	まとめ（45分）
16	デザインプレゼンテーション フィードバック、総評	まとめ（45分）	まとめ（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	最終作品に取り掛かる。	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
18	アイデアスケッチ	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
19	アイデアスケッチ	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
20	アイデアスケッチ	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
21	アイデアスケッチ中間審査	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
22	アイデアスケッチ	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
23	アイデアスケッチ	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
24	アイデアスケッチ審査会	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
25	モックアップ作成	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
26	モックアップ作成	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
27	モックアップ作成	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
28	モックアップ作成	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
29	モックアップ作成	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
30	プレゼンパネル作成	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
31	プレゼンパネル作成	まとめ（45分）	まとめ（45分）
32	プレゼンテーション 総評 授業に係る講評・解説によるフィードバック。科目を修了して『身に付く力』についての検証。	まとめ（45分）	まとめ（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅡA （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	上坂恒章（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	2号館７階	
単位数	2	（単位認定責任者：　上坂　恒章　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	民間企業でプログラムの開発等をおこない、その後、大学において34年間、CGを中心としたデジタル分野を経験してきた。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

各学生が専門領域を深め、自らの研究テーマを確かなものにする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP１、DP２、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

各学生がゼミナールでの研究の足がかりを見つけることができる。

授業全体の内容と概要

デジタルデザイン全般の中から、各学生が取り組む専門のテーマに従って、作品制作を進め完成させる。
専門分野として、コンピュータグラフィクス2D，3D、ＬＩＶＥ２D、Ｗｅｂデザイン、クレイアニメーション、パッケージデザイン等

授業の方法

教員の指導方針の下に行われるので，講義，ゼミナール，作品制作，コンクール等への応募，見学，鑑賞等，さまざまな授業形態がとられる。したがって，大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。また、ゼミナールの特性上、先端的なICTを利用し学習支援を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

この専門研究は、卒業制作・研究に繋がるので,各自興味・関心のあるテーマを見つけ，相談しながら研究を進めること。他の専門演習科目と同様，様々な点から非常に重要な科目なので欠席をせず，継続的に努力することが望まれる。継続的に自学自修を行ない，各々にとっての課題を探し，その深化に努めること。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

出席２２回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	７０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
デジタルデザイン分野のおけるオリジナル作成制作のための知識の修得。	自ら率先し知識を修得し、十分、オリジナル作品となっていた。	基本的な知識を身に付け、オリジナル作品となっていた。	基本的な知識を概ね身に付けオリジナル作品となっていた。	基本的な知識を最低限身に付けた作品をなっていた。	基本的な知識を理解していなかった。
デジタルデザイン分野におけるな技能、技術を修得した作品となっていた。	自ら率先し技能、技術を修得し、十分理解していた。	基本的な技能、技術を理解していた。	基本的な技能、技術を概ね理解していた。	基本的な技能、技術が最低限あった。	基本的な技能、技術を修得していなかった。
デジタルデザイン分野における知識、技能を活かした作品の制作・研究。	自ら率先し作品制作・研究に取り組み、学んだ知識、技能を十分活かしていた。	修得した知識、技術により作品制作・、研究に取り組むことができていた。	修得した知識、技術により作品制作・研究に、概ね取り組むことができていた。	作品制作・研究にに最低取り組んでいた。	作品制作・研究にに取り組むことができていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅡA （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	上坂恒章（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	2号館７階	
単位数	2	（単位認定責任者：　　上坂　恒章　　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	民間企業でプログラムの開発等をおこない、その後、大学において34年間、CGを中心としたデジタル分野を経験してきた。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明	シラバスを呼んでおくこと（４５分）	配布資料の確認　（４５分）
2	先行制作研究の調査、分析①	調査の事前計画　（４５分）	調査、分析の振り返り　（４５分）
3	先行制作研究の調査、分析②	調査の事前計画　（４５分）	調査、分析の振り返り　（４５分）
4	先行制作研究の調査、分析③	調査の事前計画　（４５分）	調査、分析の振り返り　（４５分）
5	先行制作研究の調査、分析④	調査の事前計画　（４５分）	調査、分析の振り返り　（４５分）
6	先行制作研究の調査、分析⑤	調査の事前計画　（４５分）	調査、分析の振り返り　（４５分）
7	先行制作研究の調査、分析⑥	調査の事前計画　（４５分）	調査、分析の振り返り　（４５分）
8	発表	発表準備　（４５分）	発表の振り返り（４５分）
9	作品制作1_①	構想（４５分）	制作における振り返り（４５分）
10	作品制作1_②	構想（４５分）	制作における振り返り（４５分）
11	作品制作1_③	構想（４５分）	制作における振り返り（４５分）
12	作品制作1_④	構想（４５分）	制作における振り返り（４５分）
13	作品制作1_⑤	構想（４５分）	制作における振り返り（４５分）
14	作品制作1_⑥	構想（４５分）	制作における振り返り（４５分）
15	プレゼンテーション	プレゼン前の再確認（４５分）	プレゼン後の振り返り（４５分）
16	作品制作2_①	構想（４５分）	制作における振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	作品制作2_②	構想（４５分）	制作における振り返り（４５分）
18	作品制作2_③	構想（４５分）	制作における振り返り（４５分）
19	作品制作2_④	構想（４５分）	制作における振り返り（４５分）
20	作品制作2_⑤	構想（４５分）	制作における振り返り（４５分）
21	作品制作2_⑥	構想（４５分）	制作における振り返り（４５分）
22	プレゼンテーション	プレゼン前の確認（４５分）	プレゼン後の振り返り（４５分）
23	作品制作3_①	構想（４５分）	制作における振り返り（４５分）
24	作品制作3_②	構想（４５分）	制作における振り返り（４５分）
25	作品制作3_③	構想（４５分）	制作における振り返り（４５分）
26	作品制作3_④	構想（４５分）	制作における振り返り（４５分）
27	作品制作3_⑤	構想（４５分）	制作における振り返り（４５分）
28	作品制作3_⑥	構想（４５分）	制作における振り返り（４５分）
29	プレゼンテーション	プレゼン前の再確認（４５分）	プレゼン後の振り返り（４５分）
30	完成①	完成前の確認（４５分）	完成後の考察（４５分）
31	完成②	完成前の確認（４５分）	完成後の考察（４５分）
32	講評、授業アンケート実施	最終検討（４５分）	最終の振り返り（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅡA （科目ナンバリング：SEM234090　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安田　祐造(デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館1階	
単位数	2　（単位認定責任者：　安田　祐造　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画業50年余、コンクール等での多くの入選・受賞、100回以上の個展等の開催、公募展での審査委員歴任		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

これまでに修得した技術や知識を礎に、各々の履修者の感性や思いを充分に作品に展開すること。また、将来を見据え美術文化の担い手として社会に貢献できる人材を育成すること。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP１、DP２、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

見る人に感動してもらえる表現力豊かな作品を創作できるようにすること。心豊かな社会を実現するために、充分な力量を備えた人となること。

授業全体の内容と概要

これまでに修得した技術や知識を礎に、それらをさらに探求すること。そして社会や人々に関心を寄せ、美術をとおしてできることについて考察し、表現力豊かな作品を創作できるようにすること。

授業の方法

各々の履修者が表現したいものを絵画をとおして制作し表現する実技形式の授業、あらかじめ個々の履修者との意思疎通を密にし、作品創りについての構想段階からアドヴァイスを的確に行う。次の私のホームページに掲載している絵画創作に関するものは、学生たちに大いに閲覧して活用してもらいたい。
http://www5f.biglobe.ne.jp/~yyasuda/access.html
http://www5f.biglobe.ne.jp/~yyasuda/custom.html

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

絵が好きな人、自らの理想や願いを絵をとおして表現し、それを自己実現につなげようとする意欲のある人。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は11回以上とするも、何より作者の思いが充分に反映された作品を創り上げること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	30%	70%	０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
構想について	より良い社会の実現を目指し、作品をとおして貢献することを強く意図している。	より良い社会の実現を目指し、作品をとおして貢献することをよく意図している。	より良い社会の実現を目指し、作品をとおして貢献することをある程度に強く意図している。	より良い社会の実現を目指し、作品をとおして貢献することを、不充分ながらも意図している。	より良い社会の実現を目指し、作品をとおして貢献することを意図していない。
技法や材料について	自らの制作意図に応じた技法や材料を充分に的確に選択して制作している。	自らの制作意図に応じた技法や材料を充分にほぼ的確に選択して制作している。	自らの制作意図に応じた技法や材料をある程度に的確に選択して制作している。	自らの制作意図に応じた技法や材料を充分にとは言い難いものの、自らの判断で選択して制作している。	自らの制作意図に応じた技法や材料を的確に選択して制作していない。
面や立体感や空間感等について	面や立体感や空間感等の造形要素を充分に捉えて制作している。	面や立体感や空間感等の造形要素をほぼ充分に捉えて制作している。	面や立体感や空間感等の造形要素をある程度に充分に捉えて制作している。	面や立体感や空間感等の造形要素を充分にとは言い難いものの、捉えて制作している。	面や立体感や空間感等の造形要素を捉えて制作していない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅡA （科目ナンバリング：SEM234090　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安田　祐造(デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館1階	
単位数	2	（単位認定責任者：　　安田　祐造　　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画業50年余、コンクール等での多くの入選・受賞、100回以上の個展等の開催、公募展での審査委員歴任		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション―授業の進め方について、シラバスの説明、科目を修了して『身に付く力』についての説明	予めシラバスに目をとおす。(45分)	これまでに修得した技法や材料に関する知識等を復習する。(45分)
2	絵画に関する１、２年次の実習内容についての復習と確認1	1、2年次での、主に油彩の技法について復習する。(45分)	1、2年次での、主にエッグテンペラの技法について復習する。(45分)
3	絵画に関する１、２年次の実習内容についての復習と確認1	1、2年次での、主に混合技法について復習する。(45分)	授業で支給される用材以外に、自分独自に必要な用材を準備する。(45分)
4	作品の構想について1―絵を描く意味	自らとらえたい事柄や表現したい事柄について検討する。(45分)	自らとらえたい事柄や表現したい事柄をイメージし構想を練る。(45分)
5	作品の構想について2	イメージを膨らませ、それを具現化するための資料を収集する。(45分)	さらにイメージを膨らませ、それを具現化するための資料を収集する。(45分)
6	作品の構想について3―構想の取りまとめ	構想を具体化するために必要な資料等を収集し、まとめる。作品の大きさや形も併せて決定する。(45分)	構想について確認する。(45分)
7	下絵(画稿)の準備―手描き、ディジタル加工	パソコンを使用する場合、関連ソフトの使用法について予習する。(45分)	本時に用意した下絵(画稿)について検討する。(45分)
8	下絵(画稿)の準備―取りまとめ	前時に作成した下絵について再検討する。(45分)	制作の進め方について、その段取りについて検討する。(45分)
9	支持体への下絵の転写について	転写について、表現意図に最も相応しい方法を検討する。(45分)	転写後に修正の必要が生じた場合には、適宜それを行う。(45分)
10	下描きについて1	予め、自らの作品制作に相応しい用材を準備する。(45分)	本描きの際に効果を高められるように下描きの仕方を工夫する。(45分)
11	下描きについて2―立体感や空間感の表現1	明度差と立体感や空間感との関連について予習する。(45分)	本時の制作で、明度差を適切にとらえ、立体感や空間感の表現に生かされているかを検討する。(45分)
12	下描きについて3―立体感や空間感の表現2	立体感や空間感の表現にあたり、十分に面をとらえた描写を行っているかについて検討する。(45分)	細部を大切にしながらも、大局的なとらえ方を行っているかを検討する。(45分)
13	下描きについて4―取りまとめ	上描きした際に支障をきたさないように、下描きに用いる絵具を適切に選択する。(45分)	本描きの際の段取りについて計画する。(45分)
14	本描きについて1―展色剤について	油彩用展色剤について検討する。(45分)	本描きの際の段取りについて計画する。(45分)
15	本描きについて2―絵具の透明性について	用いる油彩絵具の透明性や、被覆性について検討する。(45分)	下描きを活かした上描きができているかについて検討する。(45分)
16	中間発表会	教師や他の学生からどの点についてアドヴァイスを得たいかを明確にしておく。(45分)	本時の中間発表会で得たアドヴァイスを参照し、これからの制作に反映させられるように計画を立てる。(45分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	本描きについて3―絵具の透明性と被覆性について	用いる絵具の透明性と被覆性について予め調べておく。(45分)	絵具の透明性や被覆性の差異を活かした描写を行えているかについて検討する。(45分)
18	本描きついて4―主に立体感の表現について1	下描きの段での制作を振り返り、明度差について確認する。(45分)	明度差を的確に表現できているかについて検討する。(45分)
19	本描きついて5―主に立体感の表現について2	やはり上述のとおり、下描きの段における大まかな面の把握について、改めて確認する。(45分)	細部を大切にしながらも大局的な面の把握を行えているかについて検討する。(45分)
20	本描きついて6―主に質感の表現について1	明度差や筆触による材質感の表現について調べておく。(45分)	明度差や筆触のもたらす効果について、他者の作品を参照する。(45分)
21	本描きついて7―主に質感の表現について2	ハッチングや削り出し等の技法について、他者の作品を参照する。(45分)	本時に実践した技法を復習する。(45分)
22	本描きついて8―主に色彩調和について1	大まかな面の把握を心掛けながらも色彩調和について点検する。(45分)	表現の意図にかなった色彩調和を目指しているかを検討する。(45分)
23	本描きついて9―主に色彩調和について2	色彩調和に関する基本的なルールについて予習する。(45分)	ルールに則った配色を行えているかについて検討する。(45分)
24	本描きについて10―諸要素を総合的に勘案しながら	下層の絵具の効果を勘案しつつ色彩調和を高めるために、他者の作品を参照し、予め学習する。(45分)	ここまでの制作を総合的な観点から振り返る。(45分)
25	本描きについて11―諸要素を総合的に勘案しながら	部分と全体との関係を適切にとらえることについて配慮する。(45分)	部分と全体との関係を適切にとら、骨格の確かな画面を構築しているかについて検討する。(45分)
26	本描きについて12―諸要素を総合的に勘案しながら	適宜適切にエッグテンペラでの上描きを行うことを検討する。(45分)	エッグテンペラでの上描きを効果的に行えているかについて検討する。(45分)
27	本描きについて13―諸要素を総合的に勘案しながら	エッグテンペラと油彩、双方の特長を活かした制作の仕方について検討する。(45分)	エッグテンペラと油彩、双方の特長を活かした制作を行えているかについて検討する。(45分)
28	本描きについて14―諸要素を総合的に勘案しながら	テンペラ絵具層への油彩絵具の上描きについて、他者の作例を参照する。(45分)	テンペラ絵具層への油彩絵具の透明性を活かした描写を行えているかについて検討する。(45分)
29	本描きについて15―諸要素を総合的に勘案しながら	仕上げまでの残り僅かな間、総合的な観点から制作の進捗を検討する。(45分)	不備な箇所や過剰な箇所は、気づき次第に修正する。(45分)
30	本描きについて16―諸要素を総合的に勘案しながら	作品に込めたものを表現するうえでやり残した点がないかを点検する。(45分)	仕上げに向けて、細部の念入りな点検を行う。(45分)
31	本描きについて17―仕上げ	これまでの制作を振り返り、総合的な観点から自らの作品を点検する。(45分)	作品に込めた自らの想いが十分に反映された作品に仕上げられたかについて検討する。(45分)
32	合評会、科目を修了して『身に付く力』についての検証、そしてこれまでの取り組みをもとに、今後の学生たちの制作や生き方にフィードバックさせる。	教師や他の学生からどの点についてアドヴァイスを受けたいかを予め検討する。(45分)	他者からのアドヴァイスを参照し、これまでの制作についての問題点を明確化させる。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ＩＩＡ （科目ナンバリング：SEM234090　　）				
授業担当者 （所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　北嶋　洋一　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイナーの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインの実践指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

現代社会における視覚情報伝達メディアに於いて、デザインによる問題解決能力を高めることを目標とする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

本授業に於いては、現代社会に於いて稼働する各種視覚情報メディアについて、その知識と技術を幅広く学び、複数のメディアを有効に活用しながら実際の案件に携携わることができる能力を身に付ける。

授業全体の内容と概要

公共性や社会性を前提とし、ユーザビリティに優れたデザインを考え、それを実践するための研究活動を行う。
「ＳＤＧs９．産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連授業。

授業の方法

構想～調査・取材～企画～設計～制作～発表というデザインの工程を踏まえた作品制作を行う。
各種メディアや情報形態に関しての調査・取材は必要に応じて必ず行い企画内で報告させる。
生成AIを有効活用し、作業の効率化を図るよう指導する。
制作中における技術的な指導は個別に行い、質問については随時対応する。
授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。
不測時の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

自主的な対外的な活動を多く求められるためフットワークと積極的なコミュニケーションが求められる。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は２０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	１００％	０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能　「視覚情報伝達を分野として正しく認識できている」	作品の設計内容がユーザビリティを考え、社会性や公共性を踏まえた不特定多数への情報提供メディアとして高い完成度を持っている。	作品の設計内容がユーザビリティを考え、社会性や公共性を踏まえた不特定多数への情報提供メディアとして完成している。	作品の設計内容がユーザビリティを考え、社会性や公共性を踏まえた不特定多数への情報提供メディアを意図して作られている。	作品の設計内容がユーザビリティ、社会性、公共性いずれへの考え方も未完成である。	作品の設計内容が情報提供メディアとしての機能を持っていない。
思考力・判断力・表現力「視覚情報伝達の分野としての特性を踏まえた作品制作が行える」	作品制作の工程において、情報提供の目的達成の試行錯誤が繰り返されており、優れた結果に結びついている。	作品制作の工程において、情報提供の目的達成の試行錯誤が繰り返されて作品の完成に至っている。	作品制作の工程において、情報提供の目的達成の試行錯誤が繰り返されているが、作品の完成度は高くない。	作品制作の工程において、情報提供の目的達成の試行錯誤が不十分であり、作品の完成度は低い。	作品制作の工程において、情報提供の目的が達成されていない。
主体性・多様性・協働性「視覚情報伝達の分野としての特性を基にしたメディアの構築を行い、プレゼンテーションを行える」	ユーザの視覚に訴え、不特定多数の共感を得られるようなプレゼンテーションが成されている。	ユーザの視覚に訴え、不特定多数の共感を得られるようなプレゼンテーションの努力が感じられる。	ユーザの視覚に訴え、不特定多数の共感を得られるようなプレゼンテーションへの努力が不十分である。	ユーザの視覚に訴え、不特定多数の共感を得られるようなプレゼンテーションを考えていない。	視覚情報伝達のプレゼンテーションが成立していない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅡA （科目ナンバリング：SEM234090　　）				
授業担当者 （所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2　（単位認定責任者：　北嶋　洋一　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイナーの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインの実践指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスの確認。（４５分）	年間計画の試案。（４５分）
2	年間計画の試案作成と添削	年間計画の試案。（４５分）	年間計画の修正。（４５分）
3	年間計画の完成 研究テーマの企画立案	年間計画の修正。（４５分）	年間計画の完成。（４５分）
4	基礎トレーニング① 制作アプリケーションの習得度チェック	制作アプリケーションの準備（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
5	基礎トレーニング② 生成AIの活用と制作環境整備	制作環境の再確認（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
6	取材活動① 必要要件の整理と確認	年間計画の再確認（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
7	取材活動② 情報収集	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
8	取材活動③ 情報収集	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
9	取材活動④ 情報の整理	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
10	取材内容の整理と発表 研究テーマの進行状況の確認	授業内容の継続。（４５分）	企画書の試案準備。（４５分）
11	企画書の作成準備① 工程の確認と試案作成	企画書の試案準備。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
12	企画書の作成準備② コンセプト及び取集情報の文章化	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
13	企画書の作成準備③ コンセプト及び取集情報の文章化	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
14	企画書の作成準備④ コンセプト及び取集情報の文章化	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
15	企画書の作成準備⑤ メディアの選択	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
16	年間計画の見直し	年間計画の再確認（４５分）	制作環境の整備（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	企画書の作成① 生成AIによるデザインの実装シミュレーション	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
18	企画書の作成② 生成AIによるデザインの実装シミュレーション	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
19	企画書の作成③ 生成AIによるデザインの実装シミュレーション	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
20	企画書の作成④ 生成AIによるデザインの実装シミュレーション	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
21	企画書の作成⑤ 設計図の作成	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
22	企画書の作成⑥ 設計図の作成	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
23	企画書の作成⑦ 設計図の作成	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
24	企画書の作成⑧ 設計図の作成	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
25	企画書の作成⑨ プレゼンテーション内容の視覚化	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
26	企画書の作成⑩ プレゼンテーション内容の視覚化	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
27	企画書の作成⑪ プレゼンテーション内容の視覚化	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
28	企画書の作成⑫ プレゼンテーション内容の視覚化	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
29	企画書の発表と質疑応答	授業内容の継続。（４５分）	企画書の修正。（４５分）
30	企画書内容の修正①	企画書の修正。（４５分）	企画書の完成。（４５分）
31	企画書内容の修正②	企画書の修正。（４５分）	企画書の完成。（４５分）
32	専門研究ⅡAのまとめ 授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	企画書の完成。（４５分）	専門研究ⅡBへ向けての準備。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅡA （科目ナンバリング：SEM234090　　）				
授業担当者 （所属・職名）	梅田　力（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	アトリエ棟２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　梅田　力　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。また、展覧会活動を通じて、作品をどう見せるかも指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標
制作活動を通じて、問いを見つけ、探求していく力を身につける。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標
自律した制作活動を通じて、研究テーマについて考察する事が出来る。

授業全体の内容と概要
彫刻及び現代美術の領域で、実践主導型の研究を行う。制作活動を通じ、問いを見つける力、探求する方法、表現技法、自律した制作活動の確立を目指す。専門研究２Aでは、進路も含め、生涯をかけて探求したい活動を見つける事が目標である。

授業の方法
学生の主体的な制作活動を軸に、チュートリアルによるフィードバックを指導の基本とする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項
材料は基本的に自分で用意する事。特殊な機械や設備等は危険が伴う場合があるので、必ず教員の指示に従う事。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件
単位認定に必要となる最低出席回数は２０回以上。
研究ノートを提出する事。
作品を１点以上完成させる事。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	５０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
技法の修得	表現技法について自ら調べ、試す事が出来た。基礎的な技法を２つ、または１つをより深く修得した。	表現技法について自ら調べ、試す事が出来た。基礎的な技法を１つ修得した。	表現技法について自ら調べ、試す事が出来た。基礎的な技法を１つ修得した。	表現技法について自ら調べ、試す事が出来た。	表現技法について自ら調べ、試す事が出来なかった。
先行研究とテーマの設定	先行研究を重ね、自分が探求したいテーマの方向性が見えた。	先行研究を重ね、自分が探求したい方向性について考えた。	先行研究を重ねた。	先行研究をした	先行研究が出来なかった。
自律した制作活動	自らスケジュールを立てて、目安として平均週２回（８時間）以上、自主制作や先行研究ができた。	自らスケジュールを立てて、目安として平均週１回（４時間）以上、自主制作や先行研究ができた。	自らスケジュールを立てて、自主制作や先行研究ができた。	時々自発的に制作や先行研究ができた。	自らスケジュールを立てられず、自主制作や先行研究が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅡA （科目ナンバリング：SEM234090　　）				
授業担当者 （所属・職名）	梅田　力（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	アトリエ棟２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　梅田　力　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。また、展覧会活動を通じて、作品をどう見せるかも指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ゼミ活動について、先行研究について、シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスをよく読んでおく事（４５分）	チュートリアル準備（４５分）
2	活動計画	チュートリアル準備（４５分）	チュートリアル準備（４５分）
3	チュートリアル１	チュートリアル準備（４５分）	面談結果をまとめる事（４５分）
4	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
5	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
6	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
7	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
8	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
9	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
10	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
11	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
12	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
13	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
14	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
15	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
16	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
18	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
19	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
20	チュートリアル２	チュートリアル準備（４５分）	面談結果をまとめる事（４５分）
21	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
22	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
23	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
24	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
25	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
26	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
27	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
28	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
29	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
30	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
31	プレゼンテーション準備	プレゼンテーション準備（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
32	プレゼンテーション 科目を修了して「身に付く力」についての検証	プレゼンテーション準備（４５分）	講評まとめ（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅡA （科目ナンバリング：SEM234090　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三上　いずみ（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　三上　いずみ　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	漫画家として出版経験のある教員がその経験を活かして作品制作を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

研究や制作活動において、自らのアイデンティティや個性を積極的に取り入れるスキルを身につける。
適切な研究方法やアプローチを習得し、自己のテーマについて深く探究する姿勢を確立する。
自己表現、批評の受け入れ、プレゼンテーション能力、およびキャリアのための準備を含むプロフェッショナルな基礎力を高める。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する科目

到達目標

卒業制作を通じて、自己の個性を活かした独自の作品を制作する。
自らのテーマについて深く探究し、その成果を作品や研究として提示する。
卒業制作を通じて得た興味や能力を認識し、将来のキャリアに活かす準備を整える。

授業全体の内容と概要

より高度な研究スキルを磨き、専門的なテーマに関する深い探究を行う。
批評に対する姿勢を整え、他者からの評価を受け止めて作品に反映させる能力を向上させる。
詳細なリサーチ、専門書に基づく考察、仮説の検証。

授業の方法

授業はパワーポイントとTeamsを利用して構成し、視覚的な教材を活かして進行する。
アナログとデジタルの両方の制作過程に対応し、学生の多様な表現方法をサポートする。
個別指導に加え、学生同士も積極的にグループワークやディスカッションを行い、相互に作品を向上させる機会を提供する。
学生の研究の方向性を明確にするため、フィールドワークを組み込み、現場からのインスピレーションを得ることを推奨する
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業を有意義にするための自覚を求める。
自己発見と制作の場として、自分の興味に基づいた活動に積極的に取り組むこと。
責任を持って作品制作に臨み、授業や自主的な学習を通じてスキルを高め、創造的で実りある活動を心掛けること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

最低出席回数は８割以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基本的知識の修得	自ら率先し知識を修得し、十分理解できた。	基本的な知識を理解できた。	基本的な知識を概ね、理解できた。	基本的な知識を最低限理解できた。	基本的な知識を理解できなかった。
基本的な技能、技術の修得	自ら率先し技能、技術を十分修得解できた。	基本的な技能、技術を習得できた。	基本的な技能、技術を概ね修得できた。	基本的な技能、技術を最低限修得できた。	基本的な技能、技術を修得できなかった。
作品の制作・研究	自ら率先し作品制作・研究に取り組み、学んだ知識、技能を十分活かした。	作品制作・研究に取り組み、学んだ知識、技能を活かした。	作品制作・研究に取り組み、学んだ知識、技能を最低限活かした	作品制作・研究に取り組んだ。	作品制作・研究に取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅡA （科目ナンバリング：SEM234090　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三上　いずみ（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館８階	
単位数	2	（単位認定責任者：　　三上　いずみ　　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	漫画家として出版経験のある教員がその経験を活かして作品制作を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明・「身に付く力」について 授業概要の説明 研究倫理とコンプライアンスの確認	シラバスを呼んでおくこと（４５分）	配布資料の確認　（４５分）
2	研究テーマの深掘りと詳細なリサーチ計画の作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
3	研究テーマの深掘りと詳細なリサーチ計画の作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
4	研究テーマの深掘りと詳細なリサーチ計画の作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
5	個別の表現手法の探求と試行	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
6	個別の表現手法の探求と試行	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
7	個別の表現手法の探求と試行	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
8	個別の表現手法の探求と試行	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
9	制作の進行と中間フィードバックの受け入れ	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
10	制作の進行と中間フィードバックの受け入れ	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
11	制作の進行と中間フィードバックの受け入れ	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
12	制作の進行と中間フィードバックの受け入れ	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
13	技術的・表現的課題の特定と解決策の実践	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
14	技術的・表現的課題の特定と解決策の実践	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
15	技術的・表現的課題の特定と解決策の実践	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	制作の振り返り（４５分）
16	技術的・表現的課題の特定と解決策の実践	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	制作の振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	作品制作の調整と改善	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
18	作品制作の調整と改善	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
19	作品制作の調整と改善	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
20	作品制作の調整と改善	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
21	プレゼンテーション資料の準備と改善	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
22	プレゼンテーション資料の準備と改善	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
23	プレゼンテーション資料の準備と改善	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
24	プレゼンテーション資料の準備と改善	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
25	作品の最終調整とディテールの仕上げ	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
26	作品の最終調整とディテールの仕上げ	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
27	作品の最終調整とディテールの仕上げ	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
28	作品の最終調整とディテールの仕上げ	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
29	発表リハーサルとフィードバックを基にした最終調整	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
30	発表リハーサルとフィードバックを基にした最終調整	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	完成後の考察（４５分）
31	発表リハーサルとフィードバックを基にした最終調整	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	制作の振り返り（４５分）
32	講評、授業アンケート実施 「身に付く力」の検証	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	全体を振り返り、まとめる（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅡA （科目ナンバリング：SEM234090　　）				
授業担当者 （所属・職名）	浩而　魅諭（デザイン学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　浩而　魅諭　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	細密画家、復元画家（バレオアーティスト）、野生動物画家（ワイルドライフアーティスト）、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師が、その経験と実績を活かし、実践に即した授業を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が、自己表現のための知識と技術をより幅広く習得し多様化する現代社会に於いて作品制作を通して問題解決能力をより高める。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

学生が、問題点や改善点を見つけ出し、探求していく。自己の作品で表現できるための知識や技術を習得し、オリジナリティに溢れた作品を制作する。

授業全体の内容と概要

探求するテーマを決め、その手段となる適切な表現のジャンルを選択し、それを効果的に表現できるよう知識を深めたり表現方法の試行錯誤を行い、それを反映させた作品を制作する。

授業の方法

授業では板書やパワーポイント、必要に応じてDVD、画集、文献など適宜使用する。一人一人が研究テーマを決め、年間計画をたて見通しを持ってから各々の研究を進める。適宜、研究発表の講評によりフィードバックを行う。ディスカッションによりお互いの研究について練り合う。
不測時の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

準備学習と事後学習を欠かさず行うこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は２０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	８０%	0%	２０%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能　画材や素材、支持体の知識を深めそれを活かして使いこなし、オリジナリティあふれる作品を制作できたか。美術の基礎基本を強固にし作品の質の向上ができたか。	研究のための制作において美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究し作品に十分応用出来た。	研究のための制作において美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究し作品に応用出来た。	研究のための制作において美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究し作品にやや応用出来た。	研究のための制作において美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究し作品に応用があまり出来なかった。	研究のための制作において美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究し作品に応用が出来なかった
思考力・判断力・表現力　テーマを最大限に活かせる画材、ジャンル、構図、描画方法を選択できたか。それを活かして作品に適切に用いることが出来たか。	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体、ジャンル、構図、描画方法などを選択し、それを効果的に作品に用いることが十分出来た。	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体、ジャンル、構図、描画方法などを選択し、それを効果的に作品に用いることが出来た。	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体、ジャンル、構図、描画方法などを選択し、それを効果的に作品に用いることがやや出来た。	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体、ジャンル、構図、描画方法などを選択し、それを効果的に作品に用いることが不完全だった。	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体、ジャンル、構図、描画方法などを選択し、それを効果的に作品に用いることが出来なかった。
主体性・多様性・協働性　研究にまつわる効果的なプレゼンテーションができたか。ディスカッションでお互いを高め合えたか。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションが十分できた。協働する姿勢によりお互いを十分高めあえた。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションができた。協働する姿勢によりお互いを高めあえた。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションがややできた。協働する姿勢によりお互いをやや高めあえた。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションが不完全だった。協働する姿勢によりお互いを高め会えたとは言えない。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションができなかった。協働する姿勢があまり見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅡA （科目ナンバリング：SEM234090　　）				
授業担当者 （所属・職名）	浩而　魅諭（デザイン学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　浩而　魅諭　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	細密画家、復元画家（パレオアーティスト）、野生動物画家（ワイルドライフアーティスト）、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師が、その経験と実績を活かし、実践に即した授業を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明　当該科目を修了して身につく力 準備学習・事後学習の説明	シラバスを読む（４５分）	アートの意味・意義について考える　課題（４５分）
2	アートの意味・意義　ディスカション	アートの意味・意義についてまとめる　課題（４５分）	テーマを考える　課題（４５分）
3	年間計画作成（研究のテーマ　研究の手順　調べること　試すこと　手段　方法　など）	テーマを決める　課題（４５分）	計画を練る　課題（４５分）
4	研究テーマの発表１ディスカッション	研究テーマの発表準備　課題（４５分）	発表内容の再検討　課題（４５分）
5	研究テーマの発表２　修正後の発表	発表準備　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
6	研究１調べる	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
7	研究２調べる	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
8	研究３調べる	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
9	研究４調べたことをまとめる　試作、実験など試行錯誤すべきことを洗い出す	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
10	研究５調べたことをまとめる　試作、実験、画材の比較、素材の開拓など試行錯誤すべきことを洗い出す	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
11	研究６　試作、実験、画材の比較、素材の開拓など試行錯誤すべきこと	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
12	研究７　試作、実験、画材の比較、素材の開拓など試行錯誤すべきこと	授業内容継続　課題（４５分）	プレゼンテーション準備　課題（４５分）
13	中間報告会１　プレゼンテーション　ディスカッション	プレゼンテーション準備　課題（４５分）	プレゼンテーション準備　課題（４５分）
14	中間報告会２　プレゼンテーション　修正、見直し後の再発表	プレゼンテーション準備　課題（４５分）	課題（４５分）
15	研究８　試作、習作、実験、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
16	研究９試作、習作、実験、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	研究１０試作、習作、実験、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
18	研究１１試作、習作、実験、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
19	中間報告書（研究の成果は　比較検討の上どう作品に活かしていくか）	授業内容継続　課題（４５分）	プレゼンテーションの準備　課題（４５分）
20	中間報告書に沿ってプレゼンテーション１　ディスカッション	プレゼンテーションの準備　課題（４５分）	プレゼンテーションの準備　課題（４５分）
21	中間報告書に沿ってプレゼンテーション２　修正再発表	プレゼンテーションの準備　課題（４５分）	課題（４５分）
22	研究１２　作品制作、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
23	研究１３　作品制作、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
24	研究１４　作品制作、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
25	研究１５　作品制作、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
26	研究１６　作品制作、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
27	研究１７　作品制作、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
28	研究１８　作品制作、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
29	研究１９　作品制作、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
30	研究２０　作品制作、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
31	研究２１　作品制作、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
32	講評会（フィードバック）当該科目の第１回目に示した身につく力について検証	授業内容継続　課題（４５分）	課題（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択必修
科目名称	建築計画Ⅱ （科目ナンバリング：APT312007　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　安藤　淳一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

履修学生は，公共施設をはじめ地域に居住する住民の生活に貢献する施設を対象に，現代社会のおかれた状況のなかでどのように計画されなければならないかという視点で学ぶ。そのためには各種建築に求められる役割と，建築としてどのように具体的な計画内容と結びつけていかなければならないかを修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1,DP3,DP4に対応する。

到達目標

各種建築を対象に，その建築はどのような特徴的なはたらきをもつ建築であるか（基本事項），どのような社会状況によって建築の役割も変化してきたのか，今後その建築のあるべき姿について等を考察する力を身につけ，それぞれの設計活動に援用できるようになることを目標とする。

授業全体の内容と概要

授業の前半では，対象建築の歴史的背景から現在の建築に求められる機能などの基本事項を解説する。後半では建築をとりまく社会状況をデータや資料をもとに理解し把握する内容になっている。
「SDGs11.住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

授業ではテキストのほかに，毎回配布する資料（テキストの内容を補完）を用いて授業を進める。授業の出席を重視するため，原則として授業資料は授業時間開始時にのみ配布する。授業内容についての理解度を確認するため，次回授業開始時に小テストをおこなう。小テスト終了後，回答と内容について講評する。基本的に授業は対面で実施するが，不測の事態が起きた際に，授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業開始時に配布する着席票に氏名を記入し回収するので，遅刻者は欠席扱いとなる。また，着席票をもとに意見発表を求め，受講態度もチェックされるので留意すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目，教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数１０回以上)，毎回授業開始時におこなう小テスト(前回のふり返りテスト)が定期試験の基盤となるため，授業欠席により小テスト未受講は成績評価，さらには不合格に直結することになるので注意すること。最終評価は定期試験，中間テスト（振り返り小テスト），その他により決定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	０%	２０%	０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
公共施設を主体に基本事項としてその施設に求められる役割と機能を理解する。	公共施設の基本的機能および多機能化の可能性への展開の理解を含め，今後の施設のあり方までを理解できた。	公共施設の基本的機能，今後の施設のあり方までを理解できた。	公共施設の基本的機能，および昨機能変化の可能性を理解できた。	公共施設の基本的機能を理解できた。	公共施設の役割を理解することができなかった。
対象となる施設機能に対して求められる空間構成や諸室構成を理解する。	各種施設の機能と空間構成の関係性およびそれに伴う諸室構成を理解できた。	各種施設の機能と空間構成と基本的諸室構成を理解できた。	各種施設の機能と室構成を理解できた。	各種施設の室構成を理解できた。	施設機能を理解することができなかった。
社会状況により施設のあり方が変化すること，将来他の施設との関係も含めその施設及びあるべき姿について考察する。	社会状況の変化に伴い公共施設の施設機能が変化したり在り方が多様化することを理解できた。	社会状況の変化に伴い公共施設の役割も変化したり施設の在り方が替わることを理解できた。	社会状況の変化に伴い公共施設の役割も変化することを理解できた。	社会状況に伴い施設が変化することを理解できた。	公共施設に求められる施設像が理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択必修
科目名称	建築計画Ⅱ （科目ナンバリング：APT312007　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　安藤　淳一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『わかる建築学　建築計画　［第二版］』	浅野平八他	学芸出版			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明，授業改善アンケート結果反映の説明，授業計画の説明，科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバス事前確認（90分）	教科書確認（90分）
2	計画共通事項　バリアフリー法	該当単元予習（90分）	授業資料復習（90分）
3	図書館	該当単元予習（90分）	授業資料復習（90分）
4	スポーツ施設	該当単元予習（90分）	授業資料復習（90分）
5	幼稚園・保育所	該当単元予習（90分）	授業資料復習（90分）
6	学校	該当単元予習（90分）	授業資料復習（90分）
7	美術館・博物館	該当単元予習（90分）	授業資料復習（90分）
8	公民館・コミュニティ施設	該当単元予習（90分）	授業資料復習（90分）
9	宿泊施設	該当単元予習（90分）	授業資料復習（90分）
10	医療施設	該当単元予習（90分）	授業資料復習（90分）
11	福祉施設	該当単元予習（90分）	授業資料復習（90分）
12	商業施設・駐車場　業務施設（定義と分類，コアタイプ，オフィスレイアウト，設備計画，ＥＶ計画）	該当単元予習（90分）	授業資料復習（90分）
13	戸建住宅	該当単元予習（90分）	授業資料復習（90分）
14	集合住宅	該当単元予習（90分）	授業資料復習（90分）
15	振返り試験	小テスト全体復習（90分）	振返り試験復習（90分）
16	総評（試験結果発表，成績評価と解説），授業改善アンケートの実施，フィードバック，科目を修了して「身に付く力」についての検証	資料参照（90分）	全体の振返り（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築士のための基礎数学 （科目ナンバリング：MAT321044　　）				
授業担当者 （所属・職名）	横山　哲也（非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　　横山　哲也　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

学生が建築士受験に必要となる数学の基礎知識をしっかり身につける。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

建築士試験に必要な数学の基礎知識である計算力、単位、方程式、三角関数、因数分解及び図形を修得する。さらに、それらのことを通して、数学において重要なのは答えだけではなく、思考過程であることも理解し、習慣づけることができる。

授業全体の内容と概要

数の計算から始まり、負の数・平方・立方・分数・小数・単位・方程式・連立方程式・比例式・三角関数・展開公式・因数分解・指数・図形の辺の長さ及び面積などを練習問題を計算する及び学生にプレゼンテーションさせることによって、数学の問題を解く実感をつかむ。「ＳＤＧ9.産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連科目。

授業の方法

授業は、板書及び配布物資料で実施し、板書及び資料にて説明した後、課題演習を行う。課題及び演習の解答は時間内に行うようにし、学生にプレゼンテーションも行わせる。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

講義内容を十分に理解するための予習・復習を怠らず、講義や演習に対して積極的に取り組むこと。
授業時間の半分以上の遅刻は欠席とみなします。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

１1回以上の出席、レポート課題の提出と定期試験の結果を総合し絶対評価及び相対評価を併用して判定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	２０%	０%	１０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基礎知識の修得	計算力、単位、方程式、三角関数、因数分解及び図形の基礎知識及び計算過程（思考過程）が１００%理解できた。	計算力、単位、方程式、三角関数、因数分解及び図形の基礎知識及び計算過程（思考過程）が９０%以上理解できた。	計算力、単位、方程式、三角関数、因数分解及び図形の基礎知識及び計算過程（思考過程）が８０%以上理解できた。	計算力、単位、方程式、三角関数、因数分解及び図形の基礎知識及び計算過程（思考過程）が７０%以上理解できた。	計算力、単位、方程式、三角関数、因数分解及び図形の基礎知識及び計算過程（思考過程）が７０%も理解できなかった。
計算過程（思考過程の説明）の習慣化	演習問題は計算過程を１００%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を９０%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を８０%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を７０%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を７０%も記述したレポートにならなかった。
思考過程能力の向上	プレゼンテーションを通して、筋道の立った思考過程が明確に出来た。また、質問にも正確に対応した。	プレゼンテーションを通して、筋道の立った思考過程が明確に出来た。	プレゼンテーションを通して、筋道の立った思考過程が出来た。	プレゼンテーションを通して、一部筋道の立った思考過程が出来た。	プレゼンテーションを通して、筋道の立った思考過程が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築士のための基礎数学 （科目ナンバリング：MAT321044　　）				
授業担当者 （所属・職名）	横山　哲也（非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　　横山　哲也　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適時資料配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス、シラバスの説明及び授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスを読んでおくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
2	四則計算	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
3	負の数の計算	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
4	平方・立法	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
5	分数計算	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
6	小数計算	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
7	単位	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
8	方程式	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
9	連立方程式	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
10	比例式	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
11	三角関数	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
12	展開公式・因数分解	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
13	指数	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
14	図形の辺の長さと面積	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
15	まとめ及び授業改善アンケートの実施	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
16	60分の試験終了後、残りの30分で解説し、フィードバックする 科目を修了して「身に付く力」についての検証	全内容の再確認及び理解を行う。（90分）	総理解（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築研究III （科目ナンバリング：SEM334086　　）				
授業担当者 （所属・職名）	建築学科指導教員		研究室等所在	指導教員研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　指導教員　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「建築研究III」は，建築学修得の集大成である卒業研究を完成させるための科目として位置付けられる。履修学生は，卒業研究として取組むための研究方法を選択し，興味･関心のある建築学の内容から専門テーマを決定し，研究を完成させるための研究計画を策定し計画に従って卒業研究をすすめる。

授業の位置づけ

建築学科のDP1,DP2,DP3,DP4,DP5に対応する。

到達目標

多岐にわたる建築学の分野のなかから，各自が進めるべく研究テーマを各自が決定し，研究計画を立案し，それに則り研究を進められる力を修得できることとすることができる。

授業全体の内容と概要

各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので，講義，ゼミナール，実験，作品制作，見学，観察･実測調査等，さまざまな授業形態がとられる。したがって，時間割上はもちろんこと，その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので，各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが，担当教員が決定しなければ受講，ならびに単位修得ができないので，必ず担当教員を決定すること。また，各教員により演習内容，指導方針等が異なるので，別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読･理解した上で決定すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１１回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究を遂行するための全体計画が立案する。	全体計画を立案し修正することができた。	全体計画を立案することができた。	全体計画をおおむね立案することができた。	全体計画をほぼ立案することができた。	全体計画を立案することができなかった。
研究を実行するためのスケジュール調整する。	研究スケジュールを調整・修正しながら作成できた。	研究スケジュールを作成できた。	研究スケジュールをおおむね作成できた。	研究スケジュールをほぼ作成できた。	研究スケジュールを作成できなかった。
研究の進捗状況の確認と修正のため指導教員との研究打ち合わせする。	指導教員との研究打ち合わせが計画的にできた。	指導教員との研究打ち合わせができた。	指導教員との研究打ち合わせがおおむねできた。	指導教員との研究打ち合わせがほぼできた。	指導教員との打ち合わせができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築研究III （科目ナンバリング：SEM334086　　）				
授業担当者 （所属・職名）	建築学科指導教員		研究室等所在	指導教員研究室	
単位数	1	（単位認定責任者：　　指導教員　　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス　シラバスの説明，科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認　（45分）	配布資料の確認　（45分）
2	担当教員による授業　１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
3	担当教員による授業　２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
4	担当教員による授業　３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
5	担当教員による授業　４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
6	担当教員による授業　５	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
7	担当教員による授業　６	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
8	担当教員による授業　７	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
9	担当教員による授業　８	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
10	担当教員による授業　９	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
11	担当教員による授業　１０	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
12	担当教員による授業　１１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
13	担当教員による授業　１２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
14	担当教員による授業　１３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
15	担当教員による授業　１４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
16	総括　フィードバック，科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振返り作成　（45分）	全体振返り　（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究III （科目ナンバリング：SEM334086　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　伊藤　裕康　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「建築研究III」は、建築学修得の集大成である卒業研究を完成させるための科目として位置付けられる。卒業研究に取組む学生自身が、研究方法を選択し、興味･関心のある建築学の内容から専門テーマを決定し、研究を完成させるための研究計画を策定し計画に従って卒業研究をすすめる。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

多岐にわたる建築学の分野のなかから、各自が進めるべく研究テーマを各自が決定し、研究計画を立案し、それに則り研究を進められる力を修得できることとすることができる。

授業全体の内容と概要

各教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察･実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろんこと、その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。
欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読･理解した上で決定すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１１回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	０%	１００%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究を遂行するための全体計画が立案する。	全体計画を立案し修正することができた。	全体計画を立案することができた。	全体計画をおおむね立案することができた。	全体計画をほぼ立案することができた。	全体計画を立案することができなかった。
研究を実行するためのスケジュール調整する。	研究スケジュールを調整・修正しながら作成できた。	研究スケジュールを作成できた。	研究スケジュールをおおむね作成できた。	研究スケジュールをほぼ作成できた。	研究スケジュールを作成できなかった。
研究の進捗状況の確認と修正のため指導教員との研究打ち合わせする。	指導教員との研究打ち合わせが計画的にできた。	指導教員との研究打ち合わせができた。	指導教員との研究打ち合わせがおおむねできた。	指導教員との研究打ち合わせがほぼできた。	指導教員との打ち合わせができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究III （科目ナンバリング：SEM334086　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　伊藤　裕康　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス　シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 （45分）	配布資料の確認　（45分）
2	担当教員による授業　１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
3	担当教員による授業　２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
4	担当教員による授業　３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
5	担当教員による授業　４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
6	担当教員による授業　５	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
7	担当教員による授業　６	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
8	担当教員による授業　７	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
9	担当教員による授業　８	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
10	担当教員による授業　９	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
11	担当教員による授業　１０	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
12	担当教員による授業　１１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
13	担当教員による授業　１２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
14	担当教員による授業　１３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
15	担当教員による授業　１４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
16	総括によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振返り作成　（45分）	全体振返り　（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究III （科目ナンバリング：SEM334086　　）				
授業担当者 （所属・職名）	建築学科指導教員		研究室等所在	指導教員研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　指導教員　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「建築研究III」は，建築学修得の集大成である卒業研究を完成させるための科目として位置付けられる。卒業研究に取組む学生自身が，研究方法を選択し，興味･関心のある建築学の内容から専門テーマを決定し，研究を完成させるための研究計画を策定し計画に従って卒業研究をすすめる。

授業の位置づけ

建築学科のDP1,DP2,DP3,DP4,DP5に対応する。

到達目標

多岐にわたる建築学の分野のなかから，各自が進めるべく研究テーマを各自が決定し，研究計画を立案し，それに則り研究を進められる力を修得できることとすることができる。

授業全体の内容と概要

各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので，講義，ゼミナール，実験，作品制作，見学，観察･実測調査等，さまざまな授業形態がとられる。したがって，時間割上はもちろんこと，その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので，各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが，担当教員が決定しなければ受講，ならびに単位修得ができないので，必ず担当教員を決定すること。また，各教員により演習内容，指導方針等が異なるので，別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読･理解した上で決定すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１１回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究を遂行するための全体計画が立案する。	全体計画を立案し修正することができた。	全体計画を立案することができた。	全体計画をおおむね立案することができた。	全体計画をほぼ立案することができた。	全体計画を立案することができなかった。
研究を実行するためのスケジュール調整する。	研究スケジュールを調整・修正しながら作成できた。	研究スケジュールを作成できた。	研究スケジュールをおおむね作成できた。	研究スケジュールをほぼ作成できた。	研究スケジュールを作成できなかった。
研究の進捗状況の確認と修正のため指導教員との研究打ち合わせする。	指導教員との研究打ち合わせが計画的にできた。	指導教員との研究打ち合わせができた。	指導教員との研究打ち合わせがおおむねできた。	指導教員との研究打ち合わせがほぼできた。	指導教員との打ち合わせができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究III （科目ナンバリング：SEM334086　　）				
授業担当者 （所属・職名）	建築学科指導教員		研究室等所在	指導教員研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　　指導教員　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス　シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 （45分）	配布資料の確認　（45分）
2	担当教員による授業　１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
3	担当教員による授業　２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
4	担当教員による授業　３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
5	担当教員による授業　４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
6	担当教員による授業　５	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
7	担当教員による授業　６	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
8	担当教員による授業　７	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
9	担当教員による授業　８	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
10	担当教員による授業　９	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
11	担当教員による授業　１０	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
12	担当教員による授業　１１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
13	担当教員による授業　１２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
14	担当教員による授業　１３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
15	担当教員による授業　１４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
16	総括によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振返り作成　（45分）	全体振返り　（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究III （科目ナンバリング：SEM334086　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐々木　哲之（建築学科・特任教授）		研究室等所在	1号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　佐々木　哲之　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築施工会社，建築設計事務所に勤務していたころ，現場管理，設計業務を行っていた。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「建築研究III」は、建築学修得の集大成である卒業研究を完成させるための科目として位置付けられる。卒業研究に取組む学生自身が、研究方法を選択し、興味･関心のある建築学の内容から専門テーマを決定し、研究を完成させるための研究計画を策定し計画に従って卒業研究をすすめる。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

多岐にわたる建築学の分野のなかから、各自が進めるべく研究テーマを各自が決定し、研究計画を立案し、それに則り研究を進められる力を修得できることとすることができる。

授業全体の内容と概要

各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察･実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろんこと、その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。
欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読･理解した上で決定すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１１回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究を遂行するための全体計画が立案する。	全体計画を立案し修正することができた。	全体計画を立案することができた。	全体計画をおおむね立案することができた。	全体計画をほぼ立案することができた。	全体計画を立案することができなかった。
研究を実行するためのスケジュール調整する。	研究スケジュールを調整・修正しながら作成できた。	研究スケジュールを作成できた。	研究スケジュールをおおむね作成できた。	研究スケジュールをほぼ作成できた。	研究スケジュールを作成できなかった。
研究の進捗状況の確認と修正のため指導教員との研究打ち合わせする。	指導教員との研究打ち合わせが計画的にできた。	指導教員との研究打ち合わせができた。	指導教員との研究打ち合わせがおおむねできた。	指導教員との研究打ち合わせがほぼできた。	指導教員との打ち合わせができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究III （科目ナンバリング：SEM334086　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐々木　哲之（建築学科・特任教授）		研究室等所在	1号館４階	
単位数	1	（単位認定責任者：　　佐々木　哲之　　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築施工会社，建築設計事務所に勤務していたころ，現場管理，設計業務を行っていた。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス　シラバスの説明 科目を修了して「身につく力」の説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 （45分）	配布資料の確認　（45分）
2	担当教員による授業　１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
3	担当教員による授業　２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
4	担当教員による授業　３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
5	担当教員による授業　４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
6	担当教員による授業　５	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
7	担当教員による授業　６	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
8	担当教員による授業　７	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
9	担当教員による授業　８	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
10	担当教員による授業　９	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
11	担当教員による授業　１０	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
12	担当教員による授業　１１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
13	担当教員による授業　１２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
14	担当教員による授業　１３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
15	担当教員による授業　１４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
16	総括として講評をし，フィードバックする 科目を修了して「身につく力」についての検証	授業振返り作成　（45分）	全体振返り　（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究III （科目ナンバリング：SEM334086　　）				
授業担当者 （所属・職名）	長森　正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟１階	
単位数	1　（単位認定責任者：長森　正 長森　正　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	１級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実技経験をもとに講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「建築研究III」は，建築学修得の集大成である卒業研究を完成させるための科目として位置付けられる。卒業研究に取組む学生自身が，研究方法を選択し，興味･関心のある建築学の内容から専門テーマを決定し，研究を完成させるための研究計画を策定し計画に従って卒業研究をすすめる。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP２、DP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

多岐にわたる建築学の分野のなかから，各自が進めるべく研究テーマを各自が決定し，研究計画を立案し，それに則り研究を進められる力を修得できることとすることができる。

授業全体の内容と概要

各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので，講義，ゼミナール，実験，作品制作，見学，観察･実測調査等，さまざまな授業形態がとられる。したがって，時間割上はもちろんこと，その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので，各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが，担当教員が決定しなければ受講，ならびに単位修得ができないので，必ず担当教員を決定すること。また，各教員により演習内容，指導方針等が異なるので，別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読･理解した上で決定すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１１回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	０%	１００%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究を遂行するための全体計画が立案する。	全体計画を立案し修正することができた。	全体計画を立案することができた。	全体計画をおおむね立案することができた。	全体計画をほぼ立案することができた。	全体計画を立案することができなかった。
研究を実行するためのスケジュール調整する。	研究スケジュールを調整・修正しながら作成できた。	研究スケジュールを作成できた。	研究スケジュールをおおむね作成できた。	研究スケジュールをほぼ作成できた。	研究スケジュールを作成できなかった。
研究の進捗状況の確認と修正のため指導教員との研究打ち合わせする。	指導教員との研究打ち合わせが計画的にできた。	指導教員との研究打ち合わせができた。	指導教員との研究打ち合わせがおおむねできた。	指導教員との研究打ち合わせがほぼできた。	指導教員との打ち合わせができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究III （科目ナンバリング：SEM334086　　）				
授業担当者 （所属・職名）	長森　正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟１階	
単位数	1　（単位認定責任者：長森　正 長森　正　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	１級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実技経験をもとに講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス　シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 （45分）	配布資料の確認　（45分）
2	担当教員による授業　１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
3	担当教員による授業　２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
4	担当教員による授業　３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
5	担当教員による授業　４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
6	担当教員による授業　５	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
7	担当教員による授業　６	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
8	担当教員による授業　７	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
9	担当教員による授業　８	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
10	担当教員による授業　９	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
11	担当教員による授業　１０	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
12	担当教員による授業　１１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
13	担当教員による授業　１２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
14	担当教員による授業　１３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
15	担当教員による授業　１４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
16	総括 授業最終回において講評をし、フィートバックする 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振返り作成　（45分）	全体振返り　（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	講義,実習,実技	必修・選択	必修
科目名称	建築研究III （科目ナンバリング：SEM334086　　）				
授業担当者 （所属・職名）	オガサワラ健（建築学科・専任講師）		研究室等所在	2号館6階　小笠原研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　小笠原　健　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士事務所ならびに特定建設業者である民間企業に勤務。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「建築研究III」は，建築学修得の集大成である卒業研究を完成させるための科目として位置付けられる。卒業研究に取組む学生自身が，研究方法を選択し，興味･関心のある建築学の内容から専門テーマを決定し，研究を完成させるための研究計画を策定し計画に従って卒業研究をすすめる。

授業の位置づけ

建築学科のDP1,DP2,DP3,DP4,DP5に対応する。

到達目標

多岐にわたる建築学の分野のなかから，各自が進めるべく研究テーマを各自が決定し，研究計画を立案し，それに則り研究を進められる力を修得できることとすることができる。

授業全体の内容と概要

各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので，講義，ゼミナール，実験，作品制作，見学，観察･実測調査等，さまざまな授業形態がとられる。したがって，時間割上はもちろんこと，その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので，各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが，担当教員が決定しなければ受講，ならびに単位修得ができないので，必ず担当教員を決定すること。また，各教員により演習内容，指導方針等が異なるので，別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読･理解した上で決定すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１１回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は教員が判断し決定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究を遂行するための全体計画が立案する。	全体計画を立案し修正することができた。	全体計画を立案することができた。	全体計画をおおむね立案することができた。	全体計画をほぼ立案することができた。	全体計画を立案することができなかった。
研究を実行するためのスケジュール調整する。	研究スケジュールを調整・修正しながら作成できた。	研究スケジュールを作成できた。	研究スケジュールをおおむね作成できた。	研究スケジュールをほぼ作成できた。	研究スケジュールを作成できなかった。
研究の進捗状況の確認と修正のため指導教員との研究打ち合わせする。	指導教員との研究打ち合わせが計画的にできた。	指導教員との研究打ち合わせができた。	指導教員との研究打ち合わせがおおむねできた。	指導教員との研究打ち合わせがほぼできた。	指導教員との打ち合わせができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	講義,実習,実技	必修・選択	必修
科目名称	建築研究III （科目ナンバリング：SEM334086　　）				
授業担当者 （所属・職名）	オガサワラ健（建築学科・専任講師）		研究室等所在	2号館6階　小笠原研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　小笠原　健　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士事務所ならびに特定建設業者である民間企業に勤務。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス、シラバスの説明。 当該科目修了により「身に付く力」の説明。	所属研究室選択資料とシラバスの確認 （45分）	配布資料の確認　（45分）
2	担当教員による授業　１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
3	担当教員による授業　２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
4	担当教員による授業　３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
5	担当教員による授業　４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
6	担当教員による授業　５	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
7	担当教員による授業　６	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
8	担当教員による授業　７	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
9	担当教員による授業　８	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
10	担当教員による授業　９	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
11	担当教員による授業　１０	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
12	担当教員による授業　１１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
13	担当教員による授業　１２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
14	担当教員による授業　１３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
15	担当教員による授業　１４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
16	総括。 「身に付く力」の検証。	授業振返り作成　（45分）	全体振返り　（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究III （科目ナンバリング：SEM334086　　）				
授業担当者 （所属・職名）	君　興治（建築学科・准教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　君　興治　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイディアが、見る人に伝わり、理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「建築研究III」は、建築学修得の集大成である卒業研究を完成させるための科目として位置付けられる。卒業研究に取組む学生自身が、研究方法を選択し、興味･関心のある建築学の内容から専門テーマを決定し、研究を完成させるための研究計画を策定し計画に従って卒業研究をすすめる。

授業の位置づけ

建築学科のDP1.DP2.DP3.DP4.DP5に対応する科目

到達目標

多岐にわたる建築学の分野のなかから、各自が進めるべく研究テーマを各自が決定し、研究計画を立案し、それに則り研究を進められる力を修得できることとすることができる。

授業全体の内容と概要

各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察･実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろんこと、その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。
欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読･理解した上で決定すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１１回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	０%	１００%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究を遂行するための全体計画が立案する。	全体計画を立案し修正することができた。	全体計画を立案することができた。	全体計画をおおむね立案することができた。	全体計画をほぼ立案することができた。	全体計画を立案することができなかった。
研究を実行するためのスケジュール調整する。	研究スケジュールを調整・修正しながら作成できた。	研究スケジュールを作成できた。	研究スケジュールをおおむね作成できた。	研究スケジュールをほぼ作成できた。	研究スケジュールを作成できなかった。
研究の進捗状況の確認と修正のため指導教員との研究打ち合わせする。	指導教員との研究打ち合わせが計画的にできた。	指導教員との研究打ち合わせができた。	指導教員との研究打ち合わせがおおむねできた。	指導教員との研究打ち合わせがほぼできた。	指導教員との打ち合わせができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究III （科目ナンバリング：SEM334086　　）				
授業担当者 （所属・職名）	君　興治（建築学科・准教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　君　興治　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイディアが、見る人に伝わり、理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス　シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 （45分）	配布資料の確認　（45分）
2	担当教員による授業　１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
3	担当教員による授業　２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
4	担当教員による授業　３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
5	担当教員による授業　４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
6	担当教員による授業　５	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
7	担当教員による授業　６	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
8	担当教員による授業　７	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
9	担当教員による授業　８	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
10	担当教員による授業　９	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
11	担当教員による授業　１０	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
12	担当教員による授業　１１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
13	担当教員による授業　１２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
14	担当教員による授業　１３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
15	担当教員による授業　１４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
16	総括によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振返り作成　（45分）	全体振返り　（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究III （科目ナンバリング：SEM334086　　）				
授業担当者 （所属・職名）	向井正伸(建築学科・専任講師		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　向井 正伸　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	さまざまな規模用途の公共施設の企画設計監理を行なってきた経験を活かした指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「建築研究III」は，建築学修得の集大成である卒業研究を完成させるための科目として位置付けられる。卒業研究に取組む学生自身が，研究方法を選択し，興味･関心のある建築学の内容から専門テーマを決定し，研究を完成させるための研究計画を策定し計画に従って卒業研究をすすめる。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

多岐にわたる建築学の分野のなかから，各自が進めるべく研究テーマを各自が決定し，研究計画を立案し，それに則り研究を進められる力を修得できることとすることができる。

授業全体の内容と概要

各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので，講義，ゼミナール，実験，作品制作，見学，観察･実測調査等，さまざまな授業形態がとられる。したがって，時間割上はもちろんこと，その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので，各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが，担当教員が決定しなければ受講，ならびに単位修得ができないので，必ず担当教員を決定すること。また，各教員により演習内容，指導方針等が異なるので，別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読･理解した上で決定すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１１回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究を遂行するための全体計画が立案する。	全体計画を立案し修正することができた。	全体計画を立案することができた。	全体計画をおおむね立案することができた。	全体計画をほぼ立案することができた。	全体計画を立案することができなかった。
研究を実行するためのスケジュール調整する。	研究スケジュールを調整・修正しながら作成できた。	研究スケジュールを作成できた。	研究スケジュールをおおむね作成できた。	研究スケジュールをほぼ作成できた。	研究スケジュールを作成できなかった。
研究の進捗状況の確認と修正のため指導教員との研究打ち合わせする。	指導教員との研究打ち合わせが計画的にできた。	指導教員との研究打ち合わせができた。	指導教員との研究打ち合わせがおおむねできた。	指導教員との研究打ち合わせがほぼできた。	指導教員との打ち合わせができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究III （科目ナンバリング：SEM334086　　）				
授業担当者 （所属・職名）	向井正伸(建築学科・専任講師		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1　（単位認定責任者：　向井 正伸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	さまざまな規模用途の公共施設の企画設計監理を行なってきた経験を活かした指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス　シラバスの説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認　（45分）	配布資料の確認　（45分）
2	担当教員による授業　１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
3	担当教員による授業　２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
4	担当教員による授業　３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
5	担当教員による授業　４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
6	担当教員による授業　５	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
7	担当教員による授業　６	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
8	担当教員による授業　７	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
9	担当教員による授業　８	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
10	担当教員による授業　９	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
11	担当教員による授業　１０	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
12	担当教員による授業　１１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
13	担当教員による授業　１２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
14	担当教員による授業　１３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
15	担当教員による授業　１４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
16	総括及びフィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振返り作成　（45分）	全体振返り　（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究III （科目ナンバリング：SEM334086　　）				
授業担当者 （所属・職名）	建築学科指導教員		研究室等所在	指導教員研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　指導教員　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。				

概要

履修目標

「建築研究III」は，建築学修得の集大成である卒業研究を完成させるための科目として位置付けられる。卒業研究に取組む学生自身が，研究方法を選択し，興味･関心のある建築学の内容から専門テーマを決定し，研究を完成させるための研究計画を策定し計画に従って卒業研究をすすめる。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

多岐にわたる建築学の分野のなかから，各自が進めるべく研究テーマを各自が決定し，研究計画を立案し，それに則り研究を進められる力を修得できることとすることができる。

授業全体の内容と概要

各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので，講義，ゼミナール，実験，作品制作，見学，観察･実測調査等，さまざまな授業形態がとられる。したがって，時間割上はもちろんこと，その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので，各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが，担当教員が決定しなければ受講，ならびに単位修得ができないので，必ず担当教員を決定すること。また，各教員により演習内容，指導方針等が異なるので，別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読･理解した上で決定すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１１回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究を遂行するための全体計画が立案する。	全体計画を立案し修正することができた。	全体計画を立案することができた。	全体計画をおおむね立案することができた。	全体計画をほぼ立案することができた。	全体計画を立案することができなかった。
研究を実行するためのスケジュール調整する。	研究スケジュールを調整・修正しながら作成できた。	研究スケジュールを作成できた。	研究スケジュールをおおむね作成できた。	研究スケジュールをほぼ作成できた。	研究スケジュールを作成できなかった。
研究の進捗状況の確認と修正のため指導教員との研究打ち合わせする。	指導教員との研究打ち合わせが計画的にできた。	指導教員との研究打ち合わせができた。	指導教員との研究打ち合わせがおおむねできた。	指導教員との研究打ち合わせがほぼできた。	指導教員との打ち合わせができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究III （科目ナンバリング：SEM334086　　）				
授業担当者 （所属・職名）	建築学科指導教員		研究室等所在	指導教員研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　指導教員　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス　シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 （45分）	配布資料の確認　（45分）
2	担当教員による授業　１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
3	担当教員による授業　２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
4	担当教員による授業　３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
5	担当教員による授業　４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
6	担当教員による授業　５	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
7	担当教員による授業　６	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
8	担当教員による授業　７	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
9	担当教員による授業　８	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
10	担当教員による授業　９	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
11	担当教員による授業　１０	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
12	担当教員による授業　１１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
13	担当教員による授業　１２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
14	担当教員による授業　１３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
15	担当教員による授業　１４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
16	総括によるフィードバック・授業評価アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振返り作成　（45分）	全体振返り　（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ行政学 （科目ナンバリング：SPS422062，SPS522052　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2　（単位認定責任者：　三嶋　康嗣　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして，スポーツの捉え方や位置づけを学ぶ。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

本授業では，文化としてのスポーツの捉え方や位置づけを学ぶと共に，国及び地方公共団体の全体的枠組みや関係法令等スポーツ振興の係りについて学習する。また、地域スポーツクラブ等における指導者の必要性や役割等についても学び、スポーツ振興に寄与する素養を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

国及び地方公共団体等における行政のスポーツ振興施策の現状と目指すべき方向性の概要を理解すると共に，スポーツ指導者のスポーツ振興への役割や心得等について理解することができる。

授業全体の内容と概要

日本スポーツ協会テキストReference Bookに準拠して授業を進める。授業に必要な資料等は，その都度配布する。

授業の方法

本授業は，テキストに準拠し，パワーポイントや配布資料を参照しながら進める。また，授業回によってグループワーク等で思考・考察，意見交換，討論，発表等一連の活動を行い学習する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①ノートを持参し板書する。
②携帯電話の電源を切る。イヤホン着用禁止。
③私語は慎む。
④脱帽。飲食禁止。
⑤授業中の体調不良等は申し出ること。
⑥無断での退出は認めない。
⑦20分以上の遅刻は欠席とする。
＊以上に反する場合は退出とし欠席扱いとする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	２０%	0%	0%	0%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツの概念における関心・意欲および授業態度	授業事前事後の学習はもとより，授業中積極的に質問，発言するなど模範的な授業態度であった。	授業事前事後の学習がなされている。授業中の課題や板書をこなしていた。また，理解を深めるため真剣に聞いていた。	授業中の課題や板書をこなしていた。また，理解を深めるため内容を真剣に聞いていた。	授業中の課題や板書をこなしていた。	授業中着席するものの課題や板書をしていなかった。
スポーツ振興の知識・理解	授業内容を越える知識を積極的に勉強し理解度を深めていた。	授業内容をほぼ全て理解していた。	授業内容の概ね理解していた。	最低限の授業内容を理解していた。	授業内容を理解できていなかった。
スポーツ振興の分析・展開	授業内容に留まらず，問題点と課題を展開させ，より良い生涯スポーツ社会の実現に向けた実践的展開を提案できた。	授業内容をほぼ全て理解し，問題点を複合的に捉え分析していた。	授業内容を概ね理解し，複数の問題点を見つけることができた。	授業内容の一部から問題点を見つけていた。	授業内容が理解できないため，問題点を見つけることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ行政学 （科目ナンバリング：SPS422062，SPS522052　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　三嶋　康嗣　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして，スポーツの捉え方や位置づけを学ぶ。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『養成講習会用テキストReference Book』	JSPO	公益財団法人日本スポーツ協会			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおく（９０分）	オリエンテーションの内容を理解しておく（９０分）
2	スポーツの概念と歴史	スポーツの歴史について調べておく（９０分）	板書したノートと教科書をまとめ授業内容の理解を深める（９０分）
3	わが国のスポーツの固有性と特性および制度	わが国のスポーツの固有性と特性および制度について調べておく（９０分）	板書したノートと教科書をまとめ授業内容の理解を深める（９０分）
4	わが国のスポーツ行政のしくみ	わが国のスポーツ行政のしくみについて調べておく（９０分）	板書したノートと教科書をまとめ授業内容の理解を深める（９０分）
5	わが国のスポーツ振興の根拠法とスポーツ振興施策	わが国のスポーツ振興の根拠法とスポーツ振興施策について調べておく（９０分）	板書したノートと教科書をまとめ授業内容の理解を深める（９０分）
6	生涯スポーツの推進と総合型地域スポーツクラブ	生涯スポーツの推進と総合型地域スポーツクラブについて調べておく（９０分）	板書したノートと教科書をまとめ授業内容の理解を深める（９０分）
7	地方公共団体におけるスポーツ振興施策	地方公共団体におけるスポーツ振興施策について調べておく（９０分）	板書したノートと教科書をまとめ授業内容の理解を深める（９０分）
8	地域におけるスポーツクラブとしての「スポーツ少年団」	スポーツ少年団について調べておく（９０分）	板書したノートと教科書をまとめ授業内容の理解を深める（９０分）
9	スポーツ行政と地域スポーツ振興施策の課題	学修課題を整理しておく（９０分）	板書したノートと教科書をまとめ授業内容の理解を深める（９０分）
10	スポーツ指導者とスポーツ行政	スポーツ指導者とスポーツ行政について調べておく（９０分）	板書したノートと教科書をまとめ授業内容の理解を深める（９０分）
11	スポーツ指導者の役割（指導者の倫理）	指導者の倫理について調べておく（９０分）	板書したノートと教科書をまとめ授業内容の理解を深める（９０分）
12	スポーツ指導者の役割（指導者の心構え，視点）	指導者の心構え，視点について調べておく（９０分）	板書したノートと教科書をまとめ授業内容の理解を深める（９０分）
13	スポーツ事故における指導者の法的責任（リスクマネジメント）	スポーツのリスクマネジメントについて調べておく（９０分）	板書したノートと教科書をまとめ授業内容の理解を深める（９０分）
14	スポーツ事故における指導者の法的責任（スポーツ事故判例）	スポーツ事故判例について調べておく（９０分）	板書したノートと教科書をまとめ授業内容の理解を深める（９０分）
15	スポーツと人権（スポーツ倫理と基本的人権）	スポーツ倫理と基本的人権について調べておく（９０分）	板書したノートと教科書をまとめ授業内容の理解を深める（９０分）
16	定期試験及び解説 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 試験時間６０分，解説３０分 授業改善アンケートの実施	授業全体を振り返り試験準備をしておく（９０分）	試験および解説を踏まえ授業内容の理解を深める（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課
科目名称	教育史 （科目ナンバリング：EDU141151，EDU241095，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　西崎　毅　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして教育史に関連する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

教職に必要な知識や技能のうち、教育の歴史や様々な教育思想に関する基礎的知識をはじめ、それらと多様な教育の理念とのかかわりや過去から現在に至る教育や学校の歴史的変遷についての知識を身に付ける。教職に必要な思考力・判断力・表現力等の能力及び主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を身に付ける。

授業の位置づけ

設定なし

到達目標

授業のテーマについて考え、根拠を示しながら自分の意見をまとめ、他者と意見交換をしたり発表したりすることができる。

授業全体の内容と概要

各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。教育に関する内容は複数のテーマにかかわることが多いため、シラバスに示した学修内容を再構成し１５回の授業全体を通して学修を完結する形とする場合がある。このため、各授業の冒頭において、当該の授業内容とシラバス上の授業テーマとの関連を明示する。「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

各回のテーマに関してプレゼンテーションソフトウェア等を使用して説明を行う。各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して、グループワークを中心として思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。課題については、観点別の評価とコメントによりフィードバックを行う。要望については口頭及びメール等で対応する。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

○主体的・対話的で深い学びを行うため、思考・考察、討論・発表等の活動を行うので、積極的に参加すること。
○講義においては、ＰＣ及びスマートフォンを活用するので、特に指示がある場合を除き毎時間必ず持参すること。持参なき場合は当該時間の履修を認定しない。
○受講に支障が出ることのないよう、事前にＰＣ及びスマートフォンの充電を十分に行うなど、対策を講じること。
○授業資料等は、Microsoft Teams の「投稿欄」の「ファイル」 に格納するので必要に応じてダウンロードすること。
○講義中の私語・居眠りは厳に慎むこと。
○講義中の「退室」は、許可を得ること。
○講義開始時間までに用便を済ませておくこと。
○講義では演習を行うため、座席を指定する。
○教職の講義であるため、「起立」、「礼」の挨拶をする。
○上記以外の授業に関する事項については、担当教員が判断し決定する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

○単位認定に必要となる出席回数は１３回。
○成績評価は、定期試験（６０％）、課題等への対応、講義に臨む姿勢、積極性など（４０％）を参考に総合的に判断して行う。
○各授業回の課題（授業中の課題、事前事後課題）の全提出を単位認定の条件とする。
○受講姿勢及び課題はすべて点数化・集積し、評価に活用する。
○自発的な発表の意欲は別途加点、講義中における私的なサイトの閲覧およびＳＮＳ等の使用、私語、居眠り、出席管理システムの不正利用などの授業妨害行為は別途減点する。
○Ｓ評価は全体の10%、Ｓ評価とＡ評価を合わせて40%以内となっています。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	０％	０％	０％	４０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期テストで９割以上の得点を上げた。	定期テストで８割以上の得点を上げた。	定期テストで７割以上の得点を上げた。	定期テストで６割以上の得点を上げた。	定期テストの得点が６割未満であった。
思考の深さ	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマについて、既に学修した知識や自らの経験等と関連させながら深く多面的に考え、根拠を明らかにしながら、論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて多面的に考え、根拠を示しながら論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて考え、自分の意見をまとめているが、根拠の記述や論理性に課題があった。	与えられた思考テーマについて考え、自分の意見をまとめてはいるが、根拠の記述や論理性が著しく欠けており、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
判断の的確性	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマの意味を的確にとらえ、期待されるすべての論点に言及した。各論点について論理を明確にしながら自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマの意味をとらえているが、期待されるすべての論点には言及できなかった。言及した論点については論理を明確にしながら自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて自分の意見をまとめてはいるが、思考テーマの意味のとらえに課題があり、期待される論点に十分には言及できなかった。	与えられた思考テーマについて記述しているが、思考テーマの意味のとらえが不十分であり、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
表現の適切性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員の意見の趣旨を的確にとらえ、簡潔にまとめて記述した。誤字脱字がなく、丁寧に書くことができた。各欄の記述の分量が期待される分量の９割を超えた。	他の成員の意見の趣旨を簡潔にまとめて記述することができた。誤字脱字が少ない。各欄の記述の分量が期待される分量の７割程度であった。	他の成員の意見を記述してはいるが、その趣旨を十分にまとめ切れなかった。誤字脱字が散見された。各欄の記述の分量が期待される分量の５割程度であった。	他の成員の意見を記述してはいるが、内容が極めて不十分であった。誤字脱字が多くみられた。各欄の記述の分量が期待される分量の３割程度であるなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
主体性・協働性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員と積極的に意見交換を行った。他の成員の意見を十分に理解し、自分の感想等を記述することができた。自分の意見と異なる他の成員の意見に対して疑問点や反論等を記述数Ｒことができた。	他の成員と意見交換しているが特段積極性は見られなかった。他の成員の意見を理解し、自分の感想等を記述することができたが、自分の意見と異なる他の成員の意見に対しての記述は見られなかった。	他の成員と意見交換しているが、消極的であった。他の成員の意見の理解に不十分な面があった。自分の感想等を記述してはいるが、表面的なものにとどまった。	他の成員との意見交換に消々参加していた。他の成員の意見の理解が極めて不十分であった。自分の感想等を記述しているが、論点がずれているなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課
科目名称	教育史 （科目ナンバリング：EDU141151，EDU241095，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）	研究室等所在	２号館６階		
単位数	2　（単位認定責任者：　西崎　毅　）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして教育史に関連する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『はじめて学ぶ教育の制度と歴史』	広岡義之ほか	ミネルヴァ書房	2019	9784623087723	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス及び科目を修了して「身に付く力」の説明を含む） 日本の古代・中世の教育制度と教育の歴史について 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを確認して学修の心構えを、持つこと。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
2	日本の近世の教育制度と教育の歴史について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
3	明治維新と教育について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
4	日本における近代国家の確立と教育について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
5	大正デモクラシーと教育について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
6	日本の戦時体制下の教育について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
7	日本の戦後の教育政策について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
8	日本の現代の教育改革について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
9	古代のギリシア・ローマの教育制度と教育の歴史について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
10	中世・ルネサンス・宗教改革の教育制度と教育の歴史について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
11	１７・１８世紀及び革命期の教育制度と教育の歴史について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
12	近代公教育制度の成立について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
13	１９世紀の教育制度と教育の歴史について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
14	２０世紀の教育制度と「新教育運動」の歴史について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
15	世界の教育制度と改革の動向について 授業改善アンケートの実施 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	前１５回の学修内容を復習すること。（９０分）
16	７０分の試験，２０分の解説、講義のフィードバック、科目を修了して「身に付く力」の検証	前１５回の学修内容を復習すること。（９０分）	試験を振り返り、自分の学修姿勢を評価すること。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	教育心理学（S） （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	吉澤　英里（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　吉澤　英里　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が，教育実践に必要となる心身の発達および学習過程を理解し、障がいやパーソナリティ、知的能力の違いに応じた学習支援の提案や適切な心理教育的支援について検討できる。

授業の位置づけ

社会福祉学部のDP３、DP４、DP５に対応する科目

到達目標

①教育心理学領域で扱われる理論や専門用語の内容を理解し、説明する。
②教育心理学領域で扱われる理論や専門用語が心理教育的支援の中でどのように活かされているのかを指摘する。

授業全体の内容と概要

教育心理学で扱われるテーマのうち，学習，評価，発達（発達障害を含む），パーソナリティ，臨床心理について講義を行う。それぞれのテーマについて，代表的な理論や専門用語を解説し，それらが日常生活でどのように活用されるのかを考察する。授業では，スライドや板書を活用しながら講義を進める。
「SDGs4．質の高い教育をみんなに」の関連授業

授業の方法

各回の最後に次回のキーワードを示す。各自、予習としてキーワードの内容を調べたうえで授業に臨むこと。授業では，スライド資料（PowerPoint）や板書を適宜活用しながら解説をする。質問にはチャット機能等を活用して随時対応する。授業で使用するスライド資料のデータはオンライン上で共有する。授業内課題①へのフィードバックとして、コメントをつけた課題を返却する。授業内課題②に対しては、授業時間を活用して口頭でフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業の運営・進行を著しく妨害するような行為（私語，大学で認められたもの以外の飲食，携帯電話・スマートフォンの使用，代返　等）が認められた場合，総合評価から大幅に減点することがある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）（必修）

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	４０%	０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
専門知識の理解	専門知識について，非常に理解できた。	専門知識について，かなり理解できた。	専門知識について，やや理解できた。	専門知識について，最低限の理解ができた。	専門知識について、最低限の理解ができなかった。
専門知識の活用	提示された専門知識が活かされるような教育活動を複数挙げ，その根拠をよく説明できた。	提示された専門知識が活かされるような教育活動を複数挙げ，その根拠にを説明できた。	提示された専門知識が活かされるような教育活動を挙げ，その根拠を説明できた。	提示された専門知識が活かされるような教育活動を挙げることができた。	提示された専門知識が活かされるような教育活動を挙げることができなかった。
アカデミック・ライティング	学術レポートのルールに非常に沿って、レポートを執筆できた。	学術レポートのルールにかなり沿って、レポートを執筆できた。	学術レポートのルールにやや沿って、レポートを執筆できた。	学術レポートの最低限のルールに沿って、レポートを執筆できた。	学術レポートの最低限のルールに沿って、レポートを執筆できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	教育心理学（S） （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	吉澤　英里（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　吉澤　英里　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『教育心理学』	市川優一郎/宇部弘子	中山書店	2024	9784521748634	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス及び授業改善アンケート結果反映，授業の進め方，教育心理学の概要と科目を修了して『身に付く力』についての説明）	教育心理学で扱う領域について調べる（９０分）	教育心理学で扱う内容を振り返る（９０分）
2	学習の理論（１）　－学習の行動論的アプローチ－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（９０分）	今回の内容をまとめ，疑問点を整理する（９０分）
3	学習の理論（２）　－学習の認知論的アプローチ－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（９０分）	今回の内容をまとめ，疑問点を整理する（９０分）
4	学習の諸現象（動機づけ）と教育評価　－相対評価・絶対評価の比較とその活用－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（９０分）	今回の内容をまとめ，疑問点を整理する（９０分）
5	学習の過程　－様々な教授・支援・指導法－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（９０分）	今回の内容をまとめ，疑問点を整理する（９０分）
6	学級集団の理解と人間関係　－学級集団における人間関係、認知的バイアス－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（９０分）	今回の内容をまとめ，疑問点を整理する（９０分）
7	記憶の理論　－記憶の仕組みと学習支援への応用－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（９０分）	これまでの学習内容について振り返る（９０分）
8	授業内課題①（学習および学級集団のまとめ－学習の理論を実践へとつなげる方法－）	これまでの学習内容について振り返る（９０分）	授業内ワークで理解できなかった箇所を復習する（９０分）
9	発達（１）　－発達の諸相－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（９０分）	今回の内容をまとめ，疑問点を整理する（９０分）
10	発達（２）　－運動・言語・認知の発達－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（９０分）	今回の内容をまとめ，疑問点を整理する（９０分）
11	発達（３）　－社会性の発達－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（９０分）	今回の内容をまとめ，疑問点を整理する（９０分）
12	パーソナリティ（１）　－パーソナリティの基礎理論－ 授業内課題①へのフィードバック	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（９０分）	今回の内容をまとめ，疑問点を整理する（９０分）
13	知的能力　－知的能力に関する基礎理論と知的能力の測定に関する正しい理解－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（９０分）	今回の内容をまとめ，疑問点を整理する（９０分）
14	配慮を必要とする児童・生徒とその支援　－障がいの適切な理解と支援－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（９０分）	これまでの学習内容について振り返る（９０分）
15	授業内課題②（発達および個人差のまとめ－発達やパーソナリティの理論を実践へとつなげる方法－）と課題へのフィードバック 授業改善アンケートの実施	これまでの学習内容について振り返る（９０分）	提示されたキーワードについて，説明できるように復習する（９０分）
16	６０分の試験終了後，残りの３０分で解説を行う。 科目を修了して『身に付く力』についての検証を行う。	提示されたキーワードについて，説明できるように準備する（９０分）	試験でできなかった問題を振り返る（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築材料 （科目ナンバリング：BSM311016　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　小笠原　健　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士事務所ならびに特定建設業者である民間企業での勤務経験を活かし、実践的かつ現実的な講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築材料の具体的な名称や機能を理解し、材料の使用方法を修得することで、今後の専門科目を学ぶために役立つ基礎知識を養う。

授業の位置づけ

建築学科のＤＰ１、ＤＰ3、ＤＰ４に対応する。

到達目標

建築学科の専門科目に向けての基礎的知識を修得し、専門用語の理解とその機能を理解できる。また、建築士試験科目を見据えた基礎的学力を修得できる。

授業全体の内容と概要

構造材料では主に木材・金属・コンクリート等を中心に基本的な特性、品質、規格、形状等について修得し、仕上げ材料などについても理解できるように授業を実施する。

授業の方法

授業形式は板書中心に実施するが、その個々の材料についての特徴などを説明していく。また、状況によってはイラストや写真などの資料を提供し、各材料のイメージしやすくし、解説する。
不測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

指定テキストと配布資料を必ず持参すること。
やむを得ない事情で欠席する場合には、必ず連絡をすることとし、無断欠席は認めないものとする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」必修科目，教職課程（工業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１1回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
９０%	０%	０%	０%	１０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
共生社会の実現ならびに貢献できる人材として、建築の基礎力を養うことができる。	建築が社会で果たす役割を理解し、基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、ある程度の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、最低限の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解していた。	建築が社会で果たす役割を理解していなかった。
建築技術者としての問題意識を持ち、その問題解決の意識を持つことができる。	建築についての問題意識を持ち、問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、ある程度の問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、どのような問題が存在しているかを理解していた。	建築についての問題意識を持ち、問題解決の必要性を理解していた。	建築についての問題意識を持たなかった。
「建築材料」の基礎知識を習得することができる。	基礎知識を修得し、さらに建築科目全般に取り組むことができた。	基礎知識を修得し、さらに建築科目全般に取り組む必要性を理解できた。	基礎知識を修得することができた。	基礎知識をおおむね修得することができた。	基礎知識を修得することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築材料 （科目ナンバリング：BSM311016　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　小笠原　健　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士事務所ならびに特定建設業者である民間企業での勤務経験を活かし、実践的かつ現実的な講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『絵とき建築材料　改訂3版』	廣瀬幸男・赤石辰夫・遠藤真弘・廣瀬妙子（共著）	オーム社	2022	978-4-274-22890-2	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業の進め方について説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明 授業改善アンケート結果に関する説明（小笠原　健）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
2	木材①（木材の特徴・種類・性質）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
3	木材②（木材の強度・木取り・規格・等級）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
4	木材③（集成材・合板・木質ボード）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
5	コンクリート①（コンクリートの特徴・種類・性質）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
6	コンクリート②（コンクリートの施工と耐久性・セメント・骨材）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
7	コンクリート③（混和材料・コンクリート製品・セメント製品）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
8	鋼材①（鋼材の特徴・加工と腐食・種類）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
9	鋼材②（鋼材の接合・ステンレスとアルミニウム・構造用金物）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
10	仕上げ材①（石材・ガラス・タイル・レンガ）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
11	仕上げ材②（外装材・屋根・外壁）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
12	仕上げ材③（内装材・天井・壁・床）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
13	機能性材料（防水材料・防火材料・断熱材）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
14	設備機器等	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
15	高齢者対応とバリアフリー	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
16	定期試験 授業に係る講評・解説によるフィードバック、授業改善アンケートの実施 講評をし、フィードバックする	授業内容全体について資料を整理して、定期試験に備える（90分）	定期試験内容を整理して、復習する（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	戸佐　晃一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　戸佐　晃一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

本授業では、1年時に学んだ人体の仕組みや機能を確認し、足りない体力をつけるための様々なトレーニングを実施し身に付ける。また、生涯にわたって運動習慣を継続することで高齢になっても体力の維持、健康で長寿であることを目的とする。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

各自、理想的な体力向上を目指し到達目標を設定する。体力向上のために必要な日常の食事、栄養、睡眠などを見直すとともに、より良い体力作りを目標とする。
また、生涯を通じて定期的に運動する習慣を養う。

授業全体の内容と概要

体力測定、形態測定により自分の体力の変化や状態を知る。
様々な種類のトレーニングに関する基本を学び、正しいトレーニングの方法を学習する。

授業の方法

教室、体育館を中心に授業を行う。様々なトレーニング方法をグループワークによる実践を通して、課題の発見や指摘をし合い、ディスカッションではタブレット、スマートフォンの活用をすることで正しい技術を習得できるように進めていく。レポートなどの解説のフィードバックを実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

競技経験があり体力があること。
遅刻は２回につき１回欠席とする。
運動着、飲料水、上靴、タオルの用意。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	３０%	０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ウエイトトレーニングの基本	ウエイトトレーニングの基本を良く理解している	ウエイトトレーニングの基本をほぼ理解している	ウエイトトレーニングの基本をある程度理解している	ウエイトトレーニングの基本を理解している	ウエイトトレーニングの基本を理解していない
体幹トレーニングの基本	体幹トレーニングの基本を良く理解している	体幹トレーニングの基本をほぼ理解している	体幹トレーニングの基本をある程度理解している	体幹トレーニングの基本を理解している	体幹トレーニングの基本を理解していない
ラダートレーニングの基本	ラダートレーニングの基本を良く理解している	ラダートレーニングの基本をほぼ理解している	ラダートレーニングの基本をある程度理解している	ラダートレーニングの基本を理解している	ラダートレーニングの基本を理解していない

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	戸佐　晃一（経営学科・特任教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　戸佐　晃一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身につく力」の説明） 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく（４５分）	ガイダンスの内容を理解しておく（４５分）
2	個人面談（GPA・単位取得状況・学生生活など）	GPA・単位取得状況を確認しておく（４５分）	面談内容を理解しておく（４５分）
3	個人面談（GPA・単位取得状況・学生生活など）	GPA・単位取得状況を確認しておく（４５分）	面談内容を理解しておく（４５分）
4	ウエイトトレーニングの基本Ⅰ	ウエイトトレーニングの基本を確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
5	ウエイトトレーニングの基本Ⅱ	ウエイトトレーニングの基本を確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
6	ウエイトトレーニングの基本Ⅲ	ウエイトトレーニングの基本を確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
7	ウエイトトレーニングの基本Ⅳ	ウエイトトレーニングの基本を確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
8	体幹トレーニングの基本Ⅰ	体幹トレーニングの基本を確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
9	体幹トレーニングの基本Ⅱ	体幹トレーニングの基本を確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
10	体幹トレーニングの基本Ⅲ	体幹トレーニングの基本を確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
11	ラダートレーニングの基本Ⅰ	ラダートレーニングの基本を確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
12	ラダートレーニングの基本Ⅱ	ラダートレーニングの基本を確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
13	体力測定	体力測定種目の確認をしておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
14	形態測定	形態測定種目の確認をしておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
15	まとめ 授業改善アンケートの実施	授業内容を振り返り確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
16	フィードバック 科目を修了して「身につく力」の検証	体力・形態測定結果を確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	米野　宏（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　米野　宏　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における体育・健康・スポーツ関係の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

大学での勉強を進めるにあたり、必要となる文章読解力のほか、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力を身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

自分でテーマを設定し、文章にまとめることができる。
グループ内でのコミュニケーションを図ることができ、リーダーシップを発揮できる。
テーマに基づきプレゼンテーションをすることができる。

授業全体の内容と概要

授業の前半は、小論文・レポートを作成し発表する。また、発表に対して討議したり、ディスカッションを行う。
後半は、特定のテーマでプレゼンテーションを行い、質疑応答やディスカッションも行う。
人前で話すための準備をし、解り易く、興味深い内容を考える。

授業の方法

小論文、レポートの書き方については、板書または資料にて説明する。提出されたレポートについては、添削及び内容の評価とともにフィードバックする。
グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、新聞やインターネットによるニュース等を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は、欠席扱いとする。
対話する機会が多いので、積極的な発言や能動的な授業態度で臨むこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	１０％	１０％	０％	７０％	１０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コミュニケーション能力	仲間とのコミュニケーションを図る方法がとても巧みにおこなえた。	仲間とコミュニケーションを図ることが比較的巧みにできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが普通にできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが上手ではないが努力した。	仲間とコミュニケーションを図ることがとても苦手であった。
ディスカッション能力	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取れた。	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップもまずまず取れた。	討議の中で、対話を巧みにできたが、リーダーシップをとるまではいかなかった。	討議の中で、対話をすることが普通にできた。	討議の中で、対話をすることが苦手で、ほとんど受け身でおわった。
プレゼンテーション能力	パワーポイント等を巧みに使い、解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、比較的解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、解り易くプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、プレゼンテーションを行ったが、多少伝わらなかった。	プレゼンテーションの準備がほとんどできていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	米野　宏（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　米野　宏　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における体育・健康・スポーツ関係の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認する。（４５分）	注意事項を確認する。（４５分）
2	レポートの作成 （アダプテッドスポーツの創造）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
3	発表と意見交換　1	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
4	発表と意見交換　2	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
5	発表と意見交換　3	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
6	アダプテッドスポーツを考える（屋内競技）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
7	プレゼンテーションの準備　1 （グループに分かれて）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
8	プレゼンテーションの準備　2 （グループに分かれて）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
9	プレゼンテーションの準備　3 （グループに分かれて）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
10	プレゼンテーション　（屋外競技）　1	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
11	プレゼンテーション　（屋外競技）　2	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
12	プレゼンテーション　（屋外競技）　3	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
13	プレゼンテーション　（屋内競技）　1	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
14	プレゼンテーション　（屋内競技）　2	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
15	プレゼンテーション　（屋内競技）　3	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
16	ふりかえり 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	ノートに記載された内容を再度確認する。（４５分）	評価等の内容を確認を確認する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　和裕（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　佐藤　和裕　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

「健康とスポーツ」というテーマを基に、学生と教員双方の人間関係を築き、また大学での学習を進めるにあたり、コミュニケーション能力や思考力・判断力・表現力の能力及び意欲を身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

健康とスポーツについて理解し知識を身に付け、自分に必要な課題探求の道筋を明らかにする事ができる。

授業全体の内容と概要

授業に関しては、健康とスポーツについて調査し、発表と意見交換を行う。
「ＳＤＧ　４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は配布資料で実施し、レポートの書き方については板書または資料にて説明する。授業によってはグループワークで思考・考察・発表を行い学習していく。課題や発表に対する評価のフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は欠席扱いとする。欠席をする場合は必ず事前に連絡すること。
注意事項の詳細についてはガイダンスにて説明する。
発表と意見交換の機会が多いので、主体的で能動的な姿勢で取り組むこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	１０%	１０%	０%	８０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	健康とスポーツについての基礎的な知識を深く理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識をおおむね理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識を比較的理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識を多少理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
主体的・多様性・協調性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　和裕（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　佐藤　和裕　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく（４５分）	ガイダンスの内容を理解しておく（４５分）
2	健康とスポーツについて考える（種目は各自で調査）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
3	健康とスポーツについて考える（種目は各自で調査）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
4	健康とスポーツについて考える（種目は各自で調査）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
5	健康とスポーツについて考える（種目は各自で調査）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
6	健康とスポーツについて考える（種目は各自で調査）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
7	健康とスポーツについて考える（種目は各自で調査）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
8	中間報告	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
9	プレゼンテーションの準備（グループに分けて）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
10	プレゼンテーションの準備（グループに分けて）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
11	プレゼンテーションの準備（グループに分けて）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
12	プレゼンテーションの準備（グループに分けて）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
13	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
14	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	（ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。４５分）
15	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
16	まとめ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	ノートに記載された内容を復習し理解する。（４５分）	評価の内容を確認し自己評価を行うこと。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　三嶋　康嗣　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における健康・スポーツ関連の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

大学での勉強を進めるにあたり、必要となる文章読解力のほか、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

自分でテーマを設定し、文章にまとめることができる。
グループ内でのコミュニケーションを図ることができ、リーダーシップを発揮できる。
テーマに基づきプレゼンテーションをすることができる。

授業全体の内容と概要

授業の前半は、小論文・レポートを作成し発表する。また、発表に対して討議したり、ディスカッションを行う。
後半は、特定のテーマでプレゼンテーションを行い、質疑応答やディスカッションも行う。
人前で話すための準備をし、解り易く、興味深い内容を考える。

授業の方法

小論文、レポートの書き方については、板書または資料にて説明する。提出されたレポートについては、添削及び内容の評価とともにフィードバックする。
グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、書籍や新聞、インターネット等の情報を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は、欠席扱いとする。
対話する機会が多いので、積極的な発言や能動的な授業態度で臨むこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	１０％	１０％	０％	７０％	１０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コミュニケーション能力	仲間とのコミュニケーションを図る方法がとても巧みにおこなえた。	仲間とコミュニケーションを図ることが比較的巧みにできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが普通にできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが上手ではないが努力した。	仲間とコミュニケーションを図ることがとても苦手であった。
ディスカッション能力	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取れた。	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップもまずまず取れた。	討議の中で、対話を巧みにできたが、リーダーシップをとるまではいかなかった。	討議の中で、対話をすることが普通にできた。	討議の中で、対話をすることが苦手で、ほとんど受け身でおわった。
プレゼンテーション能力	パワーポイント等を巧みに使い、解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、比較的解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、解り易くプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、プレゼンテーションを行ったが、多少伝わらなかった。	プレゼンテーションの準備がほとんどできていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　三嶋　康嗣　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における健康・スポーツ関連の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認する。（４５分）	注意事項を確認する。（４５分）
2	レポートの作成 （スポーツと遊び）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
3	発表と意見交換　1	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
4	発表と意見交換　2	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
5	スポーツと遊びを考える　1	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
6	スポーツと遊びを考える　2	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
7	グループ別プレゼンテーションの準備　1	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
8	グループ別プレゼンテーションの準備　2	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
9	プレゼンテーション　1	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
10	プレゼンテーション　2	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
11	スポーツと健康を考える　1	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
12	スポーツと健康を考える　2	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
13	プレゼンテーション　1	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
14	プレゼンテーション　2	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
15	プレゼンテーション　3	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
16	ふりかえり 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	ノートに記載された内容を再度確認する。（４５分）	評価等の内容を確認を確認する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	井坂　肇（経営学科・助教）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　井坂　肇　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

スポーツパフォーマンス（主として野球における投球）を最大化するために、データを活用しながら不足している体力要素を特定していく。さらには、その体力要素の向上のためのトレーニング方法を理解する。科学的なエビデンスに基づいたトレーニングを行うために、論文を読めるようにする。エビデンスに基づいたトレーニングを身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

トレーニング理論について理解できる。
課題解決のために他者と討議することができる。
トレーニングを実践することができる。
論文を読んで内容について理解することができる。

授業全体の内容と概要

スポーツパフォーマンスを最大化するために、データを活用しながらトレーニングを進めていく。論文を読み、科学的なエビデンスに基づいたトレーニングを行う。

授業の方法

講義はパワーポイント及び配布物資料で実施し、資料にて説明した後、グループワークを行う。データやトレーニング方法について考察し、他者と共有する機会を設ける。
学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。
不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１５分以上の遅刻は欠席とみなす。
遅刻２回で１回の欠席とみなす。
トレーニングデータの題材として野球の投手を利用することがある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	３０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
科学的なエビデンスに基づいたトレーニングの理解	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べ、まとめていた。また様々なケースにおいて採用されたトレーニングの方法について意見を持てていた。	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べ、まとめていた。	トレーニング理論を説トレーニングを構成する様々な要素について調べていた。	トレーニング理論を説明できた。	トレーニング理論を説明できなかった。
他者との討議	他者と討議しながら解決のための具体策を提示的ると共に、意見を集約してまとめることができた。さらには新たな課題を自ら発見し、他者との討議の場を生み出すことができた。	他者と討議しながら解決のための具体策を提示的ると共に、意見を集約してまとめることができた。	他者と討議しながら解決のための具体策を提示できた。	他者と討議できた。	他者と討議できなかった。
データに対する思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを達成した。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	井坂　肇（経営学科・助教）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　井坂　肇　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく（４５分）	シラバスの内容を理解しておく（４５分）
2	エビデンスに基づいたトレーニング① 論文の読み方①	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
3	エビデンスに基づいたトレーニング② 論文の読み方②	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
4	エビデンスに基づいたトレーニング③ 論文の読み方③	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
5	エビデンスに基づいたトレーニング④ 論文の読み方④	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
6	トレーニングデータの収集と理解① データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
7	トレーニングデータの収集と理解② データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
8	トレーニングの実践①	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
9	トレーニングの実践②	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
10	トレーニングの実践③	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
11	トレーニングデータの収集と理解③ データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
12	トレーニングデータの収集と理解④ データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
13	トレーニングの実践④	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
14	トレーニングの実践⑤	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
15	トレーニングデータの収集と理解⑤ データ解釈のグループワーク グループワークについてのフィードバックを行う	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
16	まとめ（科目を修了して「身に付く力」の検証） 授業改善アンケートの実施 提出された課題に対してフィードバックを行う	講義全体を振り返り質問事項をまとめておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	篠原　諒介（経営学科・専任講師）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　篠原　諒介　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

動作の質的測定を行うためのシステム「ファンクショナルムーブメントスクリーン:FMA」と「セレクティブ・ファンクショナルムーブメントアセスメント:SFMA」を理解し身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

様々な対象者の動作パターンを調べ、一貫性のある基準を用いて問題の有無を判断する方法と、その問題を修正するために適切なエクササイズを見つける。

授業全体の内容と概要

日本においてもファンクショナルムーブメントスクリーンは、プロのアスリートだけでなく一般のスポーツ愛好家にも行われるようになってきているが、医療の専門家の中ではまだ十分に認識されていないのが現状である。スポーツやフィットネス、リハビリテーションには様々な専門分野の人が関わっているが、ファンクショナルムーブメントスクリーンとセレクティブ・ファンクショナルムーブメントアセスメントはこのような専門分野の溝を埋めるツールとなりうることを理解し、自身の競技力向上に繋げる。

授業の方法

・各回のテーマについてテキストを使用しながら講義をし、さらに、理解を深めるために医学的ビデオも視聴します。
・授業はパワーポイントを使用し、ＤＶＤの視聴、レポートなどの講義形式で実施します.
・不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します.
・欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供します.

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻３回で１回の欠席とみなします。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	３０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した	学修ひた知識・技能を確実に修得した	学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった	学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった	学修に真面目に取り組まなかった
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	篠原　諒介（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　篠原　諒介　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）（動作の質的測定を行うためのシステム「ファンクショナルムーブメントスクリーン:FMA」と「セレクティブ・ファンクショナルムーブメントアセスメント:SFMA」を理解する）及び授業改善	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
2	FMSとSFMAの理解と習得 FMSのデザイン①	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
3	FMSとSFMAの理解と習得 FMSのデザイン②	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
4	FMSとSFMAの理解と習得 FMSのデザイン③	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
5	職業レディネス・テストの実施（キャリア支援センター） FMSとSFMAの理解と習得 ４つの基本的なフィルター①	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
6	FMSとSFMAの理解と習得 ４つの基本的なフィルター②	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
7	FMSとSFMAの理解と習得 ４つの基本的なフィルター③	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
8	FMSとSFMAの確認	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
9	FMSとSFMAの実践 実施中の疼痛や違和感①	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
10	FMSとSFMAの実践 実施中の疼痛や違和感②	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
11	FMSとSFMAの実践 実施中の疼痛や違和感③	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
12	FMSとSFMAの実践 採点方法－結果の序列化①	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
13	FMSとSFMAの実践 採点方法－結果の序列化②	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
14	FMSとSFMAの実践 採点方法－結果の序列化③	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
15	FMSとSFMAの実践 採点方法－結果の序列化④	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
16	まとめ フィードバック（動作の質的測定を行うためのシステム「ファンクショナルムーブメントスクリーン:FMA」と「セレクティブ・ファンクショナルムーブメントアセスメント:SFMA」を理解できたかの確認）及び授業改善アンケートの実施	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	後藤　啓倫（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　後藤　啓倫　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

大学での学修の基礎になる、文献の読み方、発表の仕方、議論の仕方、レポートの書き方等の技能を修得する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

自分で調べたことについてレジュメやパワーポイントを使用して効果的に発表できる。
学修の基礎となる読解力や要約力、文章構成力や論理的思考力を身につける。
自主的に学び、情報収集・分析し、課題解決のための方策を他者と協力しつつ考える能力を身につける。

授業全体の内容と概要

大学生として必要な①講義の受け方・レポート作成方法といった学修のためのスキル、②自発的に問題を発見し解決する力といった能力と姿勢を修得するために、このゼミナールでは、学生自身によるテキストの読解、内容の報告、参加者によるディスカッション、レポートの作成を行う。

授業の方法

授業は次のように進める。
①報告者はテキストの内容要約と議論すべきポイントに関するプレゼンテーションを行う。
②司会役の進行の下、報告者のプレゼン内容について参加者全員で討論をする。
③担当教員による講評を行う。
④レポート作成に向けた準備を進める。
輪読するテキストは、社会福祉に関する文献のなかから受講生と相談の上で決める。
Teamsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎回出席することが前提となるが、やむを得ず欠席する場合には、担当教員に必ず事前連絡すること。無断欠席は厳禁。
自主的な参加が求められるので、テキストは必ず事前に読んでおくこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自分で調べたことについてレジュメやパワーポイントを使用して効果的に発表できる。	プレゼンテーション等において、高いレベルで問題の核心を理解し、発表することができた。	プレゼンテーション等において、的確に問題の核心を理解し、発表することができた。	プレゼンテーション等において、ある程度、問題の核心を理解し、発表することができた。	プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、発表することができた。	プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、発表することができなかった。
学修の基礎となる読解力や要約力、文章構成力や論理的思考力を身につける。	独創的な着眼点で設定されたテーマに基づいてレポートを作成することができた。	工夫を凝らして設定されたテーマに基づいてレポートを作成することができた。	ある程度テーマ設定ができたレポートを作成することができた。	テーマ設定ができたレポートを作成することができた。	レポートを作成することができなかった。
自主的に学び、情報収集・分析し、課題解決のための方策を他者と協力しつつ考える能力を身につける。	積極的にディスカッションに参加し、リーダーシップを発揮できた。	他者に協力しながら積極的にディスカッションに参加することができた。	積極的にディスカッションに参加することができた。	ディスカッションに参加することができた。	ディスカッションに参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	後藤　啓倫（社会福祉学科・専任講師）	研究室等所在	１号館４階		
単位数	1　（単位認定責任者：　後藤　啓倫　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						相談の上決定。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						適宜指示する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、テキストの決定、科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
2	テキストの内容報告とディスカッション（1）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
3	テキストの内容報告とディスカッション（2）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
4	テキストの内容報告とディスカッション（3）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
5	テキストの内容報告とディスカッション（4）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
6	テキストの内容報告とディスカッション（5）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
7	テキストの内容報告とディスカッション（6）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
8	テキストの内容報告とディスカッション（7）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
9	テキストの内容報告とディスカッション（8）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
10	テキストの内容報告とディスカッション（9）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
11	テキストの内容報告とディスカッション（１０）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
12	テキストの内容報告とディスカッション（１１）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
13	レポートの進捗状況の報告（1）	関連資料の収集（４５分）	議論内容の整理（４５分）
14	レポートの進捗状況の報告（2）	関連資料の収集（４５分）	議論内容の整理（４５分）
15	レポート作成	レポート（課題）の準備（４５分）	レポート（課題）の準備（４５分）
16	レポート提出、レポートを添削し返却してフィードバックする、科目を修了して『身に付く力』についての検証	レポート（課題）の準備（４５分）	レポート（課題）の仕上げ（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　杉本　大輔　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること				

概要

履修目標

本ゼミナールでは「天皇」を取り上げ、明治時代以降「天皇」が日本の近代化にいかに機能したか、を社会学的に考察する。イデオロギーに染まることなく、「天皇」という存在を社会学的・構造神学的に考察する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１，DP２，DP５に対応する。

到達目標

・明治時代以降の近代日本社会において、天皇が果たした順機能、潜在機能を理解できる。
・仏教、キリスト教、儒教、イスラム教との比較から、天皇が持つ神性を考察し、理解できる。
・平安時代末期の保元の乱が示した根本的規範の崩壊と、そこから派生する急性アノミー（無連帯・無規範）の恐怖と、現代日本社会に共通する要因を理解できる。

授業全体の内容と概要

小室直樹『天皇畏るべし一日本の夜明け、天皇は神であったー」（ビジネス社）を基本参考文献とし（ゼミごとに教員が購読パートをコピーし配布する）、併せて、山本七平、橋爪大三郎、大澤真幸、宮台真司の文献を参照し、ゼミを進める。

授業の方法

・購読パートを音読してもらい、必要に応じて教員が説明を加え、併せてディスカッションを行う。
・ゼミで使用するプリントは前の回に配布する。熟読することが望ましい。
・学生の要望には可能な限り応えるが、教育上問題のある要望には応えられない。
・不測の事態が生じたときは補講、オンライン等で講義を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

主体的・積極的参加を望む
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定の最低出席回数１０回以上をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	３０％	７０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
明治時代における天皇が果たした機能を理解する。	ディスカッションにおいて、」自分の意見を明確に言えるだけでなく、他者の意見について明確で理屈の通った指摘ができた。	ディスカッションにおいて自分の意見を明確に表現できた。	「明治維新」「明治時代」についての基本的知識を習得できた。	ゼミで購読したパートを説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
仏教、キリスト教、イスラム教、儒教と比較した天皇の神性を理解する。	ディスカッションにおいて、」自分の意見を明確に言えるだけでなく、他者の意見について明確で理屈の通った指摘ができた。	ディスカッションにおいて自分の意見を明確に表現できた。	高校のテキスト「宗教」の基本的知識を習得できた。	ゼミで購読したパートを説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
保元の乱における根本的規範の崩壊と、そこから派生する急性アノミーの恐怖を理解する。	ゼミで購読したパートを説明できる。ディスカッションにおいて、」自分の意見を明確に言えるだけでなく、他者の意見について明確で理屈の通った指摘ができた。	ディスカッションにおいて自分の意見を明確に表現できた。	保元の乱以降の日本史の基本的知識を習得できた。	ゼミで購読したパートを説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　杉本　大輔　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	高校のテキストの読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
2	明治維新における天皇１	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
3	明治維新における天皇２	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
4	神の機能（正統性の付与）１	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
5	神の機能（正当性の付与）２	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
6	教育勅語に込められた革新	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
7	キリスト教の論理	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
8	儒教の論理	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
9	天皇の神性１	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
10	天皇の神性２	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
11	天下大乱はなぜ起きたか	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
12	日本皇道の失墜	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
13	摩訶不思議なるもの	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
14	天皇が秘める深淵１	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
15	天皇が秘める深淵２　前回までの授業の小テストを実施、講評・評価を行いフィードバックする。	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
16	天皇が秘める深淵３ 科目を修了して『身に付く力』についての検証	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	横田　肇（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　横田　肇　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が東南アジアの歴史と文化について、基礎的な知識を身につける。合わせて、基本的なコミュニケーション能力を養成する。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP５に対応する。

到達目標

受講者において、東南アジアの歴史・文化についての基本的な理解ができており、合わせて基本的なコミュニケーション能力が身に付いている。

授業全体の内容と概要

日本ともつながりの深い東南アジア地域の歴史と文化を、各種資料を使って考察する。
一部、教員による現地取材も提供、活用しつつ考察を進める。

授業の方法

１）教員による短い講義。（資料、画像、動画を併用）
２）１）に基づいて、受講生全員による討論。
３）教員によるコメントとフィードバック。
毎回、１）から３）をくりかえしていく。ときどき、簡単な体験学習を取り入れる。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

欠席、遅刻をしないように留意する。やむを得ず欠席する場合は申し出る。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録画・録音を認める。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
レポート作成のための情報収集・分析能力	多様で正確な情報の収集と分析ができ、的確な発信ができた。	正確な情報収集と整理ができ、適切な発信ができた。	情報収集と整理の基本が身に付いており、発信の基本ができた。	指示によって情報収集と整理が遂行でき、指示によって発信ができた。	指示による情報収集と整理、発信ができなかった。
コミュニケーション・プレゼンテーション能力	的確な議論と明確なプレゼンテーションができ、適切な質疑応答ができた。	適切な議論とプレゼンテーションができた。	議論とプレゼンテーションの基本が身に付いた。	指示によって議論とプレゼンテーションが遂行できた。	指示による議論とプレゼンテーションができなかった。
歴史と文化に関する理解・認識	東南アジアの歴史と文化に関する広く深い理解ができており、発展的な学習ができた。	東南アジアの歴史と文化に関する理解ができており、発展的な学習が期待できた。	東南アジアの歴史と文化に関する基本的な理解ができた。	指示によって東南アジアの歴史と文化に関する理解ができた。	指示による東南アジアの歴史と文化に関する理解ができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	横田　肇（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	1　（単位認定責任者：　横田　肇　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						教科書なし
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						適宜指示
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業アンケートの結果反映の説明。シラバスの説明。 この科目で身に付ける力の説明。 東南アジアの歴史と文化の基礎に関する講義と討論。（概説）	東南アジアの歴史の基礎的事項の予習（４５分）	東南アジアの歴史の基礎的事項の復習（４５分）
2	東南アジアの歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 （ベトナム、他）	東南アジアの歴史の基礎的事項の予習（４５分）	東南アジアの歴史の基礎的事項の復習（４５分）
3	東南アジアの歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 （ベトナム、他）	東南アジアの歴史の基礎的事項の予習（４５分）	東南アジアの歴史の基礎的事項の復習 （４５分）
4	東南アジアの歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 （タイ、他）	東南アジアの歴史の基礎的事項の予習（４５分）	東南アジアの歴史の基礎的事項の復習（４５分）
5	東南アジアの歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 （タイ、他）	東南アジアの歴史の基礎的事項の予習 （４５分）	東南アジアの歴史の基礎的事項の復習（４５分）
6	東南アジアの歴史と文化の基礎に関する講義と討論。（タイ、他） 履習範囲についてのミニレポートの作成とコメント等のフィードバック。	東南アジアの歴史の基礎的事項の予習（４５分）	東南アジアの歴史の基礎的事項の復習 （４５分）
7	東南アジアの歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 （インドネシア、他）	東南アジアの歴史の基礎的事項の予習 （４５分）	東南アジアの歴史の基礎的事項の復習（４５分）
8	東南アジアの歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 （インドネシア、他）	東南アジアの歴史の基礎的事項の予習 （４５分）	東南アジアの歴史の基礎的事項の復習 （４５分）
9	東南アジアの歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 （フィリピン、他）	東南アジアの歴史の基礎的事項の予習 （４５分）	東南アジアの歴史の基礎的事項の復習（４５分）
10	東南アジアの歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 （諸地域）	東南アジアの歴史の基礎的事項の予習（４５分）	東南アジアの歴史の基礎的事項の復習（４５分）
11	東南アジアの歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 （諸地域）	東南アジアの歴史の基礎的事項の予習（４５分）	東南アジアの歴史の基礎的事項の復習（４５分）
12	東南アジアの歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 （日本との関係）	東南アジアの歴史の基礎的事項の予習（４５分）	東南アジアの歴史の基礎的事項の復習 （４５分）
13	東南アジアの歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 （日本との関係）	東南アジアの歴史の基礎的事項の予習（４５分）	東南アジアの歴史の基礎的事項の復習（４５分）
14	受講者による調査とレポート作成（１）	レポート作成の準備（４５分）	レポート作成の準備（４５分）
15	受講者による調査とレポート作成（２）	レポート作成の準備（４５分）	レポート作成の準備（４５分）
16	レポートについてのコメントとフィードバック。 この科目で身に付いた力の検証。 授業アンケートの実施。	レポート作成の準備（４５分）	レポート作成の準備（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　櫻井　美帆子　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場での実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会福祉実践に用いられることが多い用語と意味を覚える。
チームワーク力を涵養する。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ1、DP2、DP5に対応する科目。

到達目標

①福祉に関する専門用語を覚える。
②自分に適した暗記方法を身につける。
③協調性を身につける。

授業全体の内容と概要

①福祉現場で使われることが多い専門用語と、その意味を暗記する。
②暗記方法の工夫ができるようになる。
③他者を尊重しながら自己主張できるようになる。
「SDG3．すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

①基本は、テーマに沿ったグループワークでの展開とする。グループで課題に取り組み、代表者が発表をする展開とする。
②一部、講義形式で授業を展開する。講義の際は随時質問をするので答える事。
③随時記録物を提出する。記録物はコメントを添え返却する。
④内容により、使用する資料を配布する。
⑤基本は対面授業だが、不測の事態における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①30分以上の遅刻は欠席とする。
②出席を重視するので、遅刻や欠席をする場合は事前に連絡をすること。授業を妨害したり他者の学ぶ権利を侵害する場合は、注意をするが、改善がない場合には単位を認定しない。
③不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

１０回以上の出席があること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
福祉の仕事の場で用いられることが多い用語と意味を理解できる。	用語の意味を自分の言葉で言い換えながら、解説ができた。	用語の意味を自分の言葉で言い換えることができた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
暗記ができる。	自分に適した方法を用いて、暗記ができた。	指導方法に従って暗記ができた。	助言があればできた。	助言があれば一部出来た。	助言があってもできなかった。
チームで目標を達成できる。	状況に応じてリーダーシップをとったら、他のメンバーへのサポートができた。	他のメンバーを尊重できた。	自分の役割を責任を持ち果たせた。	助言があればできた。	助言があってもできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　櫻井　美帆子　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場での実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						『使用しない』
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						『使用しない』
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 科目修了後に身につく力について説明 福祉の現場で用いられることが多い用語①	福祉の授業の中で知った「あ」行の単語を書き出す（４５分）。	単語カードを作る。（４５分）
2	福祉の現場で用いられることが多い用語②	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「か」行の単語を書き出す。（４５分）	単語カードを作る。（４５分）
3	福祉の現場で用いられることが多い用語③	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「さ、た」行の単語を書き出す。（４５分）	単語カードを作る。（４５分）
4	福祉の現場で用いられることが多い用語④	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「な、は」行の単語を書き出す。（４５分）	単語カードを作る。（４５分）
5	福祉の現場で用いられることが多い用語⑤	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「ま、や」行の単語を書き出す。（４５分）	単語カードを作る。（４５分）
6	福祉の現場で用いられることが多い用語⑥	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「ら、わ」行の単語を書き出す。（４５分）	単語カードを作る。（４５分）
7	中間まとめ	単語カードを見直す。（４５分）	覚えていない単語を復習する。（４５分）
8	社会福祉に関連する社説の要約筆記①	新聞やインターネットでニュースを見る。（４５分）	作成した要約文の推敲をし、提出する。（４５分）
9	社会福祉に関連する社説の要約筆記② 8回で作成した要約文を添削後返却し、フィードバックする	新聞やインターネットでニュースを見る。（４５分）	作成した要約文の推敲をし、提出する。（４５分）
10	社会福祉に関連する社説の要約筆記③ ９回で作成した要約文を添削後返却し、フィードバックする	新聞やインターネットでニュースを見る。（４５分）	作成した要約文の推敲をし、提出する。（４５分）
11	社会福祉に関連する社説の要約筆記④ １０回で作成した要約文を添削後返却し、フィードバックする	新聞やインターネットでニュースを見る。（４５分）	作成した要約文の推敲をし、提出する。（４５分）
12	１１回で作成した要約文を添削後返却し、フィードバックする ソーシャルワークとプレゼンテーションの関係	プレゼンテーションの意義、目的を書籍やインターネットで調べる。（４５分）	ソーシャルワーカーがプレゼンテーションを行う対象についてまとめる。（４５分）
13	ソーシャルワーカーによるプレゼンテーション①	プレゼンテーションの内容について、案を複数あげる。（４５分）	ソーシャルワーカーがプレゼンテーションを行う場面についてまとめる。（４５分）
14	ソーシャルワーカーによるプレゼンテーション②	プレゼンテーションの内容を決め、内容をまとめる。（４５分）	クラスメイトのプレゼンテーションに対する感想のコメントを書く。（４５分）
15	ソーシャルワーカーによるプレゼンテーション③	プレゼンテーションの内容を決め、内容をまとめる。（４５分）	クラスメイトのプレゼンテーションに対する感想のコメントを書く。（４５分）
16	まとめと、科目を修了して身に付く力』についての検証をする。 授業最終回において講評をし、フィードバックする。	全体を振り返り、疑問点等があればまとめる。（４５分）	後期に向け、自分の課題を整理する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	湯浅　頼佳（社会福祉学科・専任講師）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	1　（単位認定責任者：　湯浅　頼佳　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

本学の「初年次教育」として位置付ける本授業を受講し、スチューデントスキル、スタディスキル、 アカデミックスキル等を修得することにより、大学生として生活面や学習面等で必要となる多様な能力を身に付ける。
基礎ゼミナールⅠの目的を踏襲しながら無理なく専門課程へ移行できる様「学びの方法」を修得する。

授業の位置づけ

全学科の ＤＰ1、ＤＰ２、ＤＰ5に対応する。

到達目標

・大学生に求められる一般常識や態度を学習面、生活面で活用できる。（スチューデントスキル）
・授業内容や目的・ねらいを理解し、自分に必要な課題探求の道筋を明らかにする事ができる。(アカデミックスキル)
・基礎ゼミナールⅠから継続して考えていきながら、学生それぞれが１つのテーマを上げレポートを作成し発表する事を目標とする。(スタディスキル)

授業全体の内容と概要

人間は食べることのみによって栄養を取り入れ、様々な活動を可能としている。乳幼児から高齢者まで各々の目的や問題の違いはあれ、それぞれ生活リズムの確立や健康、QOL、疾病防止などを目的として望ましい食生活をする事が必要となる。学生それぞれが自分自身の食生活だけでなく職業的（保育士、社会福祉士、スポーツトレーナー、教員等）に必要な問題意識を持ち知識を身につけることを目標とする。

授業の方法

食生活や栄養に関する問題の中からそれぞれが研究テーマを見つけ、プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等を実施する。また必要に応じて教員がテーマに関した講義も行い、カレントトピックスについても解説する。質疑応答には随時対応する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・出席を重視する。欠席をする場合は必ず事前に連絡をすること。出席数を満たしていてもゼミの運営を乱す行為があった場合は評価をしない場合がある。また同じくゼミの運営に支障を来たす行為があった場合は途中でゼミ異動を宣告する場合がある。
・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

出席状況（３分の２以上）。ゼミ内での活動(プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等)とゼミ内での役割の認識と行動により総合評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	０%	０%	３０%	５０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解(協調性，傾聴力)	ゼミ内でのプレゼンテーションに積極的に耳を傾け，タイミングよく質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け，タイミングよく質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾けることは出来るが質問できなかった。
知識・理解(興味，関心)	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち積極的に食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持に食生活や栄養についてのテーマを概ね発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持つ努力をしながら食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができなかった。
汎用的機能(トークスキル，表現力)	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう資料を十分揃えわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいようわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう概ねわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができなかった。
態度・志向性(リーダーシップ，態度)	ゼミ内での自分の役割を十分に認識し，積極的にゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を十分に認識し，ゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識し，ゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識し，ゼミ運営に多少関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識できなかった。
態度・志向性(意欲)	休まずゼミに出席できた。(出席１６回)	概ねゼミに出席できた。(出席１５～１４回)	休みがちではあるが出席できた。(出席１３～１２回)	欠席が目立つが出席できた。(出席１１～１０回)	評価前提条件を満たす事ができなかった。(出席９～0回)

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	湯浅　頼佳（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　湯浅　頼佳　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション及びシラバスの説明 本学ディプロマ・ポリシーの説明 ゼミを履修し修了した時に「身に着く力」の説明	シラバスを読み、ゼミ初回に必要な事項について考える。（４５分）	シラバスについて確認する。本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。「身に着く力」について考察する。（４５分）
2	「食生活の重要性を考えるⅡA」①	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
3	「食生活の重要性を考えるⅡA」②	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
4	「食生活の重要性を考えるⅡA」③	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
5	「食生活の重要性を考えるⅡA」④	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
6	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑤	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
7	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑥	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
8	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑦	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
9	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑧	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
10	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑨	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
11	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑩	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
12	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑪	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
13	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑫	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
14	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑬	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
15	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑭	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
16	まとめ(ゼミ最終回において講評し、フィードバック実施) ゼミ第1回目にあげた「身に着く力」について検証を実施	まとめの準備を行う。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。「身に着く力」について再度考察する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	尾西　則昭（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　尾西　則昭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

生活の多様な側面から人間の生活と健康を理解し、より健康な生活を創り出して行くための必要な知識を身に付けさせる。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

個人、家庭という様々なレベルにおける健康的な生活について理解し、知識を身につけ、健康について、一層の関心を持ってことができる。

授業全体の内容と概要

生活の多様な側面に焦点を当て、個人、家族という様々なレベルにおける人間の健康的な生活について詳しく説明する。

授業の方法

資料を通読し、その内容の説明や質疑応答及びディスカッションを行います。健康に関するキーワードについて調べ、発表を行います。課題や発表等に対応するフィールドバックや要望等への対応は、少人数集団の利点を生かし、口頭で説明を行います。、
「不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。」

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

積極的に取り組むことを期待します。
２０分以上の遅刻は欠席とします。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	１００％	０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	健康について基礎的な知識を深く理解できた。	健康について基礎的な知識を理解できた。	健康について基礎的な知識をおおむね理解できた。	健康について基礎的な知識を多少理解できた。	健康について基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力	健康の基本を踏まえた健康内容の展開に十分に考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開に考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開におおむね考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開に多少考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開に考察できなかった。
主体的に取り組む態度	健康の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを説明できた。	健康の多様な展開について理解したことをおおむね説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを多少説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	尾西　則昭（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　尾西　則昭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『資料配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　「シラバス説明」 本科目を修了して「身に付く力」について説明する 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認するする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
2	健康に関する調査についての説明	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
3	健康に関する研究調査①	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
4	健康に関する研究調査②	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
5	健康に関する研究調査③	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
6	健康に関する研究調査④	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
7	健康に関する研究調査⑤	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
8	健康に関する研究調査⑥	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
9	健康に関する研究調査⑦	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
10	健康に関する研究調査⑧	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
11	健康に関する研究調査⑨	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
12	健康に関する研究調査⑩	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
13	健康に関する研究調査⑪	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
14	健康に関する研究調査のまとめ①	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
15	健康に関する研究調査のまとめ②	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
16	授業の総括とフィードバック、本科目を修了して「身に付く力」について検証する 授業改善アンケート実施する。	ノートに記載された内容を再復習し、理解する。（４５分）	解説の内容を確認する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1　（単位認定責任者：　西崎　毅　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教員及び教育行政職員としての経験を活かし、教職に関連する事項を題材に、学生の主体的な学修姿勢や探究力を培う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

教員になるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び意欲を身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

教育制度についてその概要を理解することができる。
教育にかかわる諸問題についてその概要を理解することができる。
教員になるために必要な事項についてその概要を理解することができる。

授業全体の内容と概要

各回の授業テーマについて考える。
教育にかかわる法令、中央教育審議会答申、学習指導要領などの通読
教育に関する基本的事項についての調べ学修
教員として求められる一般教養及び教職教養の学修
教員啓発活動や学校体験活動等への参加
漢字検定等への参加
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

教育にかかわる法令、中央教育審議会答申、学習指導要領などを通読し、その内容にかかわって説明や質疑応答及びディスカッションを行う。
板書や教材提示装置を活用する。教育に関するキーワードについての調べ学修及びその発表を行う。
教員として求められる一般教養及び教職教養について演習を行う。
課題や発表等に対する評価のフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。
不測の事態が生じた際に、授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

○教職課程を履修し、大学卒業後に教職に就く強い希望と意思を持った学生を対象とする。
○担当教員の授業において必ず発表することを履修の条件とする。
○サブメジャープログラムの「教育採用試験対策プログラム」の履修を条件とする。
○漢字検定の受検級合格まで毎回必ず検定を受けることを履修の条件とする。（目標準２級）
○担当教員が案内する教職啓発活動や学校体験活動に必ず参加することを履修の条件とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は11回。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	２０％	０％	８０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1　（単位認定責任者：　西崎　毅　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教員及び教育行政職員としての経験を活かし、教職に関連する事項を題材に、学生の主体的な学修姿勢や探究力を培う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『授業内で別途指示する。』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス及び科目を修了して「身につく力」の説明を含む） 学修計画の作成	教職志望の理由をまとめること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
2	○中学校学習指導要領総則についての学修①教育課程の編成、実施、評価 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習 学修発表、フィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）
3	○中学校学習指導要領総則についての学修②生徒の発達の支援 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習 学修発表、フィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
4	○中学校学習指導要領総則についての学修③学校運営上の留意事項 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習 学修発表、フィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
5	○中学校学習指導要領総則についての学修④道徳教育に関する配慮事項 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習 学修発表、フィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
6	○中学校学習指導要領道徳についての学修①目標・内容 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習 学修発表、フィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
7	○中学校学習指導要領道徳についての学修②指導計画の作成 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習 学修発表、フィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
8	○中学校学習指導要領道徳についての学修③内容の取扱い 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習 学修発表、フィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
9	○中学校学習指導要領についての学修①専門教科の目標 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習 学修発表、フィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
10	○中学校学習指導要領についての学修②専門教科の目標 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習 学修発表、フィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
11	○中学校学習指導要領についての学修③専門教科各科目の目標と内容 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習 学修発表、フィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
12	○中学校学習指導要領についての学修④専門教科各科目の目標と内容 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習 学修発表、フィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
13	○中学校学習指導要領についての学修⑤専門教科各科目の目標と内容 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習 学修発表、フィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
14	○中学校学習指導要領ついての学修⑥専門教科の指導計画の作成 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習 学修発表、フィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
15	○中学校学習指導要領についての学修⑦専門教科の内容の取扱い 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習 学修発表、フィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
16	前期の学修の総括及び反省 演習のフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	1年間の自らの学修姿勢を評価すること。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	宮嶋　達也（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　宮嶋　達也　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生時代に創作し、制作した作品で地域に貢献するには、その地域や社会(企業)の理解や課題認識が必要であり、また、自らの学習成果を地域社会の中で試し検証する絶好の機会となる。更に、本学の教育理念に「必要とする人々のために新たな道を創造し、人々が共生しえる社会の実現をめざし、それを成し遂げる」を具現する活動でもある。そうした位置付けで、リサーチ・プランニング・クリエーション・プレゼン・制作活動まで一貫して実践する。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP5に対応する。

到達目標

（1）制作活動を通して何を学ぶのか、各自の問題意識を明確にする。
（2）様々な活動場面に応じて、適切なコミュニケーションを取りながら、他者との関わりをもつ。
（3）各自の活動経験を振り返り、今後進めていく上での自己の学習課題を設定する。

授業全体の内容と概要

授業では、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等のアクティビティを多く取り入れる。各自が問題意識を持ち、考察結果などをグループ全体で共有しながら、目標達成に向けて活動をする。地域との取り組みに自分のデザインを交えながら、どんなことができるのか考え楽しく活動する。

授業の方法

グループワークを中心にした活動が多いため、一人ひとりが自主性を持ち、他人任せになるようなことがないように、常に問題意識を持ち、議論しながら問題解決し、積極的に活動に励む。授業では、グループワーク、討論、ワークショップ等のアクティビティを多く取り入れる。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

受講に関して以下の心構えがある学生を条件といたします。
①社会に役立って達成感を得たり、自分に自信をつけたい人
②やる気があり、最後まで活動をやり通す気力を持ち合わせている人
③協力し合いながら目標に向かい活動を成功させることができる人
不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１１回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	４0%	３０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
積極性、社会理解	積極的にアイデアを出し、採用された。他人の発言を聴き、十分な理解に努め、積極的に意見した。	積極的にアイデアを出した。他人の発言を聴き、十分な理解に努めた意見した。	それなりにアイデアを出した。他人の発言を聞き、ある程度意見した。	アイデアを殆ど出せなかった。他人の意見をあまり理解できなかった。	アイデアを出せなかった。他人の意見を殆ど理解できなかった。
課題解決能力と創造性	仕事を的確に発見し、進め方を共有しあいながら適切に検討し、実行できた。	仕事を進んで発見し、進め方を適切に検討し、実行できた。	仕事を発見し、進め方を検討し、ある程度実行できた。	仕事をあまり発見できず、依頼されたことだけ実行できた。	仕事を発見できず、依頼されたことも、ほとんど実行できなかった。
コミュニケーション能力と行動力	他者をリードする態度で積極的に活動に取り組み、高いコミュニケーション能力と行動力がある。	自主的・協働的に活動に取り組み、コミュニケーション能力や行動力がある。	自らの考えでアクションを起すことはあまりないが必要なコミュニケーション能力や行動力はある。	自らの考えでアクションを起すことはなく最低限度のコミュニケーション能力や行動力はある。	自らの考えでアクションを起すことができない。最低限度のコミュニケーション能力や行動力もほとんどない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	宮嶋　達也（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　宮嶋　達也　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション　シラバスの説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	演習の準備　シラバスの熟読（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
2	Planning1	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
3	Planning2	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
4	Planning3	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
5	Planning4	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
6	Research activities　1	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
7	Research activities　2	事前に作業しておくなどの準備をすること（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
8	Creative activities　1	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
9	Creative activities　2	事前に作業しておくなどの準備をすること（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
10	Creative activities　3	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
11	Creative activities　4	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
12	Creative activities　5	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
13	Creative activities　6	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
14	Creative activities　7	事前に作業しておくなどの準備をすること（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
15	レポート・前期活動のまとめ	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
16	前期活動における総括とフィードバック 科目を修了して『身に付く力』についての検証	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	横山　哲也（非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　　横山　哲也　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

学生が就職活動を行う時に必要なＳＰＩの基礎知識（非言語分野）及び解き方（思考過程）の基本をしっかり身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

ＳＰＩの基礎知識（非言語分野）と解き方（思考過程）の基本を修得できる。

授業全体の内容と概要

金銭に関する問題、速さ・時間・距離、確率、推論、集合、論証、グラフの領域等を豊富な練習問題を解くことによって、ＳＰＩの基礎知識（非言語分野）と解き方の基本について実感をつかませる。

授業の方法

授業は、板書で実施し、板書にて説明しながら、演習を行う。課題は学生が提出後、解説を行う。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

ゼミナールの内容を十分に理解するために予習・復習を怠らず、また講義や演習に対して積極的に取り組むこと。
レポート等の提出方法についてはゼミナール時間中に指示するので、ゼミナールを欠席することのないよう留意すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	５０％	０％	０％	３０％	２０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ＳＰＩに必要な基礎知識の修得	ＳＰＩの基礎知識（非言語分野）及び解き方（思考過程）が１００%理解できた。	ＳＰＩの基礎知識（非言語分野）及び解き方（思考過程）が９０%理解できた。	ＳＰＩの基礎知識（非言語分野）及び解き方（思考過程）が８０%理解できた。	ＳＰＩの基礎知識（非言語分野）及び解き方（思考過程）が７０%理解できた。	ＳＰＩの基礎知識（非言語分野）及び解き方（思考過程）が７０%も理解できなかった。
計算過程において必要な記述内容の修得	演習問題は解き方（思考過程）を１００%記述したレポートになった。	演習問題は解き方（思考過程）を９０%記述したレポートになった。	演習問題は解き方（思考過程）を８０%記述したレポートになった。	演習問題は解き方（思考過程）を７０%記述したレポートになった。	演習問題は解き方（思考過程）を７０%も記述したレポートにならなかった。
思考過程のプレゼンテーション	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して明確に出来た。また、質問にも正確に対応した。	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して明確に出来た。	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して出来た。	一部筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して出来た。	筋道の立った思考過程のプレゼンテーションが出来なかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	横山　哲也（非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　　横山　哲也　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス及びシラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスを読んでおくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
2	濃度（1）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
3	濃度（2）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
4	濃度（3）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
5	速さ・距離・時間（1）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
6	速さ・距離・時間（2）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
7	速さ・距離・時間（3）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
8	ものの値段と個数	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
9	定価・原価・利益	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
10	割合と値段（1）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
11	割合と値段（2）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
12	仕事算	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
13	表の読み取り(1)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
14	表の読み取り(2)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
15	表の読み取り(3)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
16	まとめ及び要点のフィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	総復習（45分）	総理解（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	向井　正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1　（単位認定責任者：　向井　正伸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	計画設計等の実務経験を活かし、課題解決法や様々な事例を紹介する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

都市や建築を構想することは、行政や都市計画家、建築家だけの仕事ではない。住民や地域に係る皆が、より良い暮らしを考え実践した積み重ねが都市を形づくる。ゼミでは、一人ひとりがより良い未来を提案するための基礎を身につけることを目標とする。※ゼミでは都市や建築を空間的な問題として扱う。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP５に対応する。

到達目標

都市や建築の変遷やその社会的背景を理解し、都市や建築について自分なりの意見をもつことができる。

授業全体の内容と概要

１年生での学びをさらに発展、空間的な提案力向上を目的とし、複数の課題を通して、各自の空間に対する興味や関心を掘り下げ、都市や建築空間の楽しみ方を学び、提案の幅を広げるトレーニングを行う。個人ワークを基本とし、調査・構想・表現を行う。　□SDGs３.すべての人に健康と福祉を　□SDGs１１.住み続けられるまちづくりを　□SDGs１２.つくる責任　つかう責任

授業の方法

課題の説明はパワーポイント等を用いる。　また、課題表現として模型・スケッチ・レイアウト・プレゼンテーション等を用いる。　模型製作に必要なカッターマット（A３サイズ推奨）、カッター、ボンド、金尺（１５㎝,３０㎝）、スコヤを用意すること。　調査や作業、発表はPC作業となることから、各自のノートパソコンを準備すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

能動的な学習姿勢を望む。授業中に引用された建築、書籍に積極的に触れること。２０分以上の遅刻は欠席とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	８０%	0%	１０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
理解度	授業内容を越えた自主的な学習を行なった。	授業内容を理解し、自主的な学習を行なった。	授業内容をほぼ理解し、自主的な学習を行なった。	授業内容をほぼ理解し、自分なりの意見をもつことができた。	授業内容を理解しなかった。
調査・課題解決能力	独自の視点で調査し、独創且つ具体的手法で課題を解くことができた。	独自の視点で調査し、独創的な手法で課題を解くことができた。	独力で調査し、課題を解くことができた。	アドバイスをもとに、調査・課題を解くことができた。	アドバイスがあっても自発的に課題を解くことができなかった。
表現力	構想したものを、独創性のある手法で表現し、考えを第三者に共感させることができた。	構想したものを、独創性のある手法で表現し、考えを第三者に理解させることができた。	構想したものを、独自の工夫で表現することができた。	構想したものを表現することができた。	構想したものを表現できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	向井　正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1　（単位認定責任者：　向井　正伸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	計画設計等の実務経験を活かし、課題解決法や様々な事例を紹介する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス、シラバスの説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスを事前に把握する（４５分）	紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）
2	課題１（空間を楽しむ）　説明・調査	対象を事前に調べる（４５分）	エスキスを反映しまとめる（４５分）
3	課題１（空間を楽しむ）　作業	課題の関連事項を調べる（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
4	課題１（空間を楽しむ）　作業	課題の関連事項を調べる（４５分）	プレゼンをまとめる（４５分）
5	課題１（空間を楽しむ）　発表	プレゼンをまとめる（４５分）	発表を自己評価すること（４５分）
6	課題２（模型）　課題説明	対象を事前に調べる（４５分）	課題の関連事項を調べる。（４５分）
7	課題２（模型）　作業	課題の関連事項を調べる（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
8	課題２（模型）　作業	課題の関連事項を調べる（４５分）	作品を仕上げる（４５分））
9	課題２（模型）　発表	プレゼンをまとめる（４５分）	発表を自己評価する（４５分）
10	課題３（設計提案）　説明・調査	対象を事前に調べる（４５分）	提案を事前に考える（４５分）
11	課題３（設計提案）　作業	提案を事前に考える（４５分）	講義内容を復習し紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）
12	課題３（設計提案）　作業	提案を事前に考える（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
13	課題３（設計提案）　作業	提案を事前に考える（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
14	課題３（設計提案）　作業	提案を事前に考える（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
15	課題３　発表	プレゼンテーションをまとめる（４５分）	発表を自己評価する（４５分）
16	課題３　発表・総括によるフィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証	今までの授業を振り返る（４５分）	学習を振り返り、自己評価を行う（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習,実習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　恵利（国際交流センター・センター員）	研究室等所在	本部棟3階　国際交流センター		
単位数	1　（単位認定責任者：　　佐藤　恵利　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、国際交流センターで対応。				

概要

履修目標

大学間、または地域との交流活動に参加、また交流活動を企画、実施し、異文化理解、相互理解を得る能力を身につける。

授業の位置づけ

交流を通じ、日本の時事問題や日本文化、日本の習慣などをトピックに挙げながら日本語の４技能を育成する。トピックを題材に、ディスカッションやグループワークなどの活動をし、自身の専門分野でも自分のことが十分に表現できる能力を身に付ける。日本文化や日本事情を通して「SDG３．すべての人に健康と福祉を」「SDG７．エネルギーをみんなに　そしてクリーンに」「SDG１０．人や国の不平等をなくそう」について考え、知識を深める。

到達目標

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

授業全体の内容と概要

学内異文化交流会や合同授業の内容を企画し、準備、実施する。学生間での交流を通じ、相互理解や異文化理解を得る。交流では、母国紹介や母国の文化紹介等をすることもある。それらを正しい日本語で伝えることや、他者からの意見を尊重することを学ぶ。大学祭ブースへの参加や、地域の施設見学等に参加し、地域交流を楽しむとともに、北広島市、北海道の問題や課題について考える。

授業の方法

教材は教師が用意する。教材は紙媒体だけではなく、プロジェクターやパソコン、レアリアなども使用する。授業は学生が主体となり、学生間で話し合いながら教師が与える議題や課題に取り掛かる。授業内では決まった人たちとのコミュニケーションに終わらず、様々なクラスメートとグループワークやディスカッションをし、自分を表現できる能力を養う。その成果をプレゼンテーションやレポートで表す場合もある。レポートはテーマ、内容、正確さ、長さ、表現力の5項目で評価する。「内容」の項目は特に重要で、自分の言葉でわかりやすく表現できているかを評価する。「正確さ」では文法や文字表記の誤りを提示するので、各自でフィードバックすること。災害等の不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

遅刻、欠席をしないこと。15分以上の遅刻は欠席とみなす。3回遅刻すると1回の欠席とみなす。授業内は原則母語は禁止とする。学生間での交流でも授業中の母語が多い学生は評価に影響する。授業中は携帯電話や辞書、タブレットの使用は原則禁止とする。わからないことがあったら教師に聞くこと。
平常点が評価に大きく影響する。授業中は真面目に取り組み、「日本語で表現できない」と思わずなんでもチャレンジすることが求められる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

全授業回数１６回のうち、単位認定に必要となる最低出席回数は１３回とする。授業への参加、授業態度、ゼミ内での活動(プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等)とゼミ内での役割の認識と行動により総合評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	３０%	０%	３５%	５%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすく、文法の間違えがほとんどない。声の大きさ、発音もよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法の間違えが目立つ。声の大きさ、発音がよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法、発音に問題があり、聞き取りにくかった。	自身で考えているが、他者の協力がないと自分の言葉で表現することができない。文法、発音に問題があった。	他者任せで、自身で考え、自分の言葉で表現しようという姿勢が見られない。文法、発音に問題があった。
思考力・判断力・日本語での表現力等	毎回の授業に参加し授業に意欲的で、活動にも積極的に参加している。発言も多かった。	毎回の授業に参加し、授業に対しに意欲的で真面目に取り組んでいる。積極性は弱かった。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいる。積極的に活動に参加していた。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいるが、授業内の活動に対し消極的であった。	最低出席日数分授業に参加しておらず、授業態度も問題があった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習,実習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　恵利（国際交流センター・センター員）	研究室等所在	本部棟3階　国際交流センター		
単位数	1　（単位認定責任者：　佐藤　恵利　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、国際交流センターで対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション(シラバス説明《科目を修了して「身につく力」についても説明》、授業説明) 授業改善アンケート結果反映の説明 自己紹介	シラバスを読む・自己紹介の練習（４５分）	シラバスについて確認する。ゼミ内での自分の役割について考える(４５分)
2	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
3	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
4	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
5	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
6	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
7	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
8	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
9	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
10	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
11	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
12	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
13	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
14	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
15	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
16	前期学習範囲の総括（「身につく力」の検証） 反省・最終課題の提出 授業に係る講評・解説によるフィードバック	最終課題提出の準備（４５分）	授業内容復習（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	大島康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館3階	
単位数	1　（単位認定責任者：　大島康雄　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場での実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

福祉現場で使われることが多い技術などを学ぶ。
フィールドワークや参加を体験を通じて、福祉の現場を学ぶ。
チームワーク力を涵養する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

①福祉に関する専門用語を覚える。
②自分に適した暗記方法を身につける。
③協調性を身につける。

授業全体の内容と概要

①福祉現場で使われることが多い技術などを学ぶ。
②フィールドワークや参加を体験を通じて、福祉の現場を学ぶ。
③他者を尊重しながら自己主張できるようになる。
「SDG3．すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

①基本は、テーマに沿ったグループワークでの展開とする。グループで課題に取り組み、代表者が発表をする展開とする。
②一部、講義形式で授業を展開する。講義の際は随時質問をするので答える事。
③随時記録物を提出する。記録物はコメントを添え返却する。
④内容により、使用する資料を配布する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

30分以上の遅刻は欠席とする。
出席を重視するので、遅刻や欠席をする場合は事前に連絡をすること。授業を妨害したり他者の学ぶ権利を侵害する場合は、注意をする注意をする注意をするが、改善がない場合には単位を認定しない。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

１０回以上の出席があること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
福祉の仕事の場で用いられることが多い技術を使うことができる。	相談援助技術を適切に使用できる。	相談援助技術を使用できる。	相談援助技術を助言の中、使用することができる。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
フィールドワーク、参加、体験を通じて、福祉現場を学ぶことができる。	フィールドワークなどに積極的に参加した。	フィールドワークなどに参加した。	フィールドワークなどを見学した。	見守りの中、フィールドワークなどを見学できた。	フィールドワークなどができなかった。
チームで目標を達成できる。	状況に応じてリーダーシップをとったら、他のメンバーへのサポートができた。	他のメンバーを尊重できた。	自分の役割を責任を持ち果たせた。	助言があればできた。	助言があってもできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	大島康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館3階	
単位数	1	（単位認定責任者：　大島康雄　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場での実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						『使用しない』
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						『使用しない』
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術① 科目を修了して『身に付く力』についての説明	相談援助技術を調べる。（４５分）	相談援助技術をロールプレイする。（４５分）
2	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術②	相談援助技術を調べる。（４５分）	相談援助技術をロールプレイする。（４５分）
3	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術③	相談援助技術を調べる。（４５分）	相談援助技術をロールプレイする。（４５分）
4	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術④	相談援助技術を調べる。（４５分）	相談援助技術をロールプレイする。（４５分）
5	職業レディネス・テストの実施（キャリア支援センター）	職業レディネステストの準備を行う。（４５分）	職業レディネステストの振り返りを行う。（４５分）
6	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術⑤	相談援助技術を調べる。（４５分）	相談援助技術をロールプレイする。（４５分）
7	中間まとめ	相談援助技術を調べる。（４５分）	相談援助技術をロールプレイする。（４５分）
8	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験①	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。（４５分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（４５分）
9	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験②	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。（４５分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（４５分）
10	職業レディネス・テストのフィードバック（キャリア支援センター）	職業レディネステストの振り返りをする。（４５分）	フィードバックの振り返りを行う。（４５分）
11	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験③	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。（４５分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（４５分）
12	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験④	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。（４５分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（４５分）
13	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験⑤	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。（４５分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（４５分）
14	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験⑥	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。（４５分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（４５分）
15	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験⑦	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。（４５分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（４５分）
16	授業内フィードバック まとめ 科目を修了して『身に付く力』についての検証	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。（４５分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1　（単位認定責任者：　竹内　美帆　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

マンガ、アニメを中心としたポピュラーカルチャーに関するさまざまな現象、表現、歴史を考えることを通して、大学での学修に必要な基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習によって学ぶ。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

マンガ、アニメを中心としたポピュラーカルチャーに関する様々な事象、表現の特性、歴史などを考えることを通して、大学での学修に必要な基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習によって学び、自身の大学における活動と連動させながら新たな視点を獲得する。

授業全体の内容と概要

マンガ、アニメを中心としたポピュラーカルチャーに関する講義やグループワーク、ディスカッションを行い、作品の読解の仕方、文献調査の方法や発表資料のつくり方などを学ぶ。後半では、各自で自身の活動と関連する作品について調査分析を行い、発表・ディスカッションを行う。

授業の方法

授業ではパワーポイントや配布資料のほか、DVDなどの視聴覚メディアなどを用い、講義形式だけでなく、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションなどを行う。
授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点･質問は､チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

自ら行う資料調査では、図書館などの機関を積極的に利用すること。個人発表では、自ら行った調査について短い時間でプレゼンテーションを行う。授業内でグループワークやディスカッションなどを行うので、積極的に参加すること。
授業の内容は、集まった参加者の興味・関心等に合わせ適宜変更する可能性がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	３０％	３０％	０％	４０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業内容の理解	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
文献や資料の調査・活用	授業で取り上げた資料を越えて、独自性のある調査ができた。	授業で取り上げた資料を越えて、必要な調査ができた。	授業で取り上げた資料を理解し活用できた。	授業で取り上げた資料を理解できた。	授業で取り上げた資料の理解・活用が不十分だった。
表現力（プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力）	授業で学んだことを超えて、自分の視点について他者に伝わりやすく述べ、他者と積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の視点について述べ、積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の意見を述べることができた。	促されれば自分の意見や考えを述べることができた。	授業内で自分の意見を述べられなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1　（単位認定責任者：　竹内　美帆　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『文学・芸術は何のためにあるのか？』	吉岡洋、岡田暁生編	東信堂	2009	978-4-88713-894-0	
2	『マンガ産業論』	中野晴行	筑摩書房	2004	978-4480873460	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　オリエンテーション　自己紹介など 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
2	学内施設・システムの活用方法（1）文献調査の方法	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
3	資料を読む（1）文献の読解・調査	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
4	資料を読む（2）文献についてのディスカッション	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
5	読解の仕方、調査・発表資料のつくり方などを学ぶ（1）作品分析：近藤聡乃のマンガ作品を例に	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
6	読解の仕方、調査・発表資料のつくり方などを学ぶ（2）作品分析：近藤聡乃のアニメーション作品を例に	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
7	読解の仕方、調査・発表資料のつくり方などを学ぶ（3）プレゼンテーションの方法を学ぶ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
8	読解の仕方、調査・発表資料のつくり方などを学ぶ（4）レポートの書き方を学ぶ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
9	個人発表の方法（1） プレゼンテーションのポイント、レポートの留意点	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
10	個人発表（1）	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
11	個人発表（2）	個人発表の準備をする（45分）	個人発表の振り返りをする（45分）
12	個人発表（3）	個人発表の準備をする（45分）	個人発表の振り返りをする（45分）
13	個人発表（4）	個人発表の準備をする（45分）	個人発表の振り返りをする（45分）
14	個人発表（5）	レポート作成の準備をする（45分）	レポートを作成する（45分）
15	期末レポートの提出 まとめ	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく（45分）	授業内容を復習する（45分）
16	期末レポートの解説　フィードバック 科目を修了して『身に付く力』についての検証	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく（45分）	授業内容を復習する（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義,演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	千葉　聡美（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1　（単位認定責任者：　千葉　聡美　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政機関に勤務経験のある教員が、教育公務員としての資質向上に関連する指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

教員になるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び意欲を身に付け、そのために必要な学習を自ら行えるようにする。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

教育制度や内容について関連事項を含めて説明できる。
教育の諸問題についてその背景を含めて理解することができる。
教員として必要な国語力を身に付けることができる。
社会人として必要な基礎学力とマナーを身に付けることができる。

授業全体の内容と概要

各回の授業テーマについて考える。
教育にかかわる法令、中央教育審議会答申、学習指導要領などの通読
教育に関する基本的事項についての調べ学修
教員として求められる一般教養及び教職教養の学修
漢字検定対策
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連内容

授業の方法

任意のテーマを選択し、計画、調査、探究、整理、資料作成等の一連の活動を行う。
資料内容、発表内容等に対する振り返りや、自己評価を下にしたフィードバックを行う。
並行して教員として求められる一般教養及び教職教養について演習を行う。テーマの考察や使用テキスト要約など、端的に文章にまとめる練習を行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教育または行政に強い関心がある者とする。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	５０%	０%	２０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、関連する事項にも知識を深めることができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが達成は十分ではなかった。	学修した知識・技能を期待するレベルまで到達することができなかった。
テーマに基づく内容の整理、資料作成、報告、発表等による説明等の思考力、判断力、表現力の向上	内容を的確かつ発展的に整理し、理解しやすい報告、発表等をとおして、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	内容を的確に整理し、理解しやすい報告、発表等をとおして、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	内容を整理し、報告、発表等をとおして、思考力、判断力、表現力を高めることができた。	内容を整理し、報告、発表等をとおして、部分的に思考力、判断力、表現力を高めることができた。	内容を整理できず、報告、発表等をすることがなかったため、思考力、判断力、表現力を高めることができなかった。
授業への参加意欲や学修に向かう姿勢・態度	授業には意欲的に参加し、常に自ら課題を見つけ積極的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、自ら課題を見つけ積極的に取り組むことができた。	授業に関心をもって参加し、自ら課題を見つけ関心をもって取り組むことができた。	授業に対してある程度関心をもち、自ら取り組むことができた。	授業に対して消極的であり、自ら行動して取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義,演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	千葉　聡美（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1　（単位認定責任者：　千葉　聡美　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政機関に勤務経験のある教員が、教育公務員としての資質向上に関連する指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『小学校学習指導要領解説　総則編』	文部科学省	東洋館出版社	平成30年	978-4491034614	
2	『中学校学習指導要領解説　総則編』	文部科学省	東山書房	平成３０年	978-4827815801	
3	『高等学校学習指導要領解説　総則編』	文部科学省	東洋館出版社	平成３１年	978-4491036397	
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（取組の概要、シラバスの説明等） 科目を履修して『身に付く力』についての説明	シラバスを読む （４５分）	説明内容を整理する （４５分）
2	学習指導要領を読む 漢字・一般教養小テスト 自己アピール文作成	教員を志望する理由を構想する。漢字練習（４５分）	内容を整理し復習する （４５分）
3	学習指導要領を読む 漢字・一般教養小テスト 自己アピール文作成	指定された箇所を事前に読む。漢字練習（４５分）	内容を整理し復習する （４５分）
4	学習指導要領を読む 漢字・一般教養小テスト 文章読解と要約	指定された箇所を事前に読む。漢字練習（４５分）	内容を整理し復習する （４５分）
5	職業レディネステスト（キャリア支援センター）		
6	学習指導要領を読む 漢字・一般教養小テスト	指定された箇所を事前に読む。漢字練習（４５分）	内容を整理し復習する （４５分）
7	学習指導要領を読む 漢字小テスト	指定された箇所を事前に読む。漢字練習（４５分）	内容を整理し復習する （４５分）
8	学習指導要領を読む 漢字小テスト	指定された箇所を事前に読む。漢字練習（４５分）	内容を整理し復習する （４５分）
9	学習指導要領を読む 漢字小テスト	指定された箇所を事前に読む。漢字練習（４５分）	内容を整理し復習する （４５分）
10	職業レディネステストフィードバック（キャリア支援センター）		結果を自己分析する（４５分）
11	中教審答申を読む 漢字・一般教養小テスト 文章読解と要約	指定された答申に目を通す。漢字練習（４５分）	内容を整理し復習する （４５分）
12	中教審答申を読む 漢字・一般教養小テスト 文章読解と要約	答申の重要事項をまとめる。漢字練習（４５分）	内容を整理し復習する （４５分）
13	中教審答申を読む 漢字・一般教養小テスト 文章読解と要約	学習指導要領と答申の関連を考察する。漢字練習（４５分）	内容を整理し復習する （４５分）
14	教育公務員の種類と服務と自治体の行政について 漢字・一般教養小テスト	各自治体、出身校のHPを閲覧する。漢字練習（４５分）	内容を整理し復習する （４５分）
15	教育公務員の種類と服務と自治体の行政について 漢字・一般教養小テスト	各自治体、出身校のHPを閲覧する。漢字練習（４５分）	内容を整理し復習する （４５分）
16	服務規律違反と懲戒について 前期学習内容のフィードバック 科目を修了して『身に付く力』についての検証	各自治体のHPを閲覧する。漢字練習（４５分）	内容を整理し復習する （４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	山本　一彦（経営学科・特任教授）	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1　（単位認定責任者：　　山本　一彦　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

基礎ゼミナールＩＡ・ＩBを土台とし、ライフコースが多様化した現代社会でのキャリア形成に向けて「働くこと」や「職業活動」の意義を考察し、理解する力を身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

ライフコースの多様化、労働および職業について単に知識を習得するだけでなく、自らの問題として考える姿勢をもつ。

授業全体の内容と概要

まず、受講者がどのようなキャリア形成……働くこと、仕事、職業、活動分野……を目指すのか意識することを促し、現代社会の中での可能性を考察する。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は対話形式と板書筆記を併用して行ない、必要な場合には資料を配布する。テーマによっては小文を提出してもらい、概要を発表する。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

さまざまなテーマについて自らが考える「主体的・能動的」な姿勢での参加が必要である。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	80%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識	学修した知識を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
思考力・判断力等	ゼミナールテーマに積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えて考察できていた。	ゼミナールテーマに積極的に取り組み、求められるレベルで考察できていた。	ゼミナールテーマに取り組み、広く一般的水準の考察に達していた。	ゼミナールテーマに取り組んだが、考察が最低限の水準にとどまっていた。	ゼミナールテーマへの取り組みが不充分で、内容が理解されていなかった。
テーマへの分析力・主体性	ゼミナールテーマについて、現代社会の中の自己の問題として充分に主体的分析ができていた。	左記事項について、主体的分析が概ねできていた。	左記事項について、広く一般的水準の分析には達していた。	左記事項の分析が最低限の水準にとどまっていた。	分析が最低限の水準に届かず、ゼミナールテーマが理解されていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	山本　一彦（経営学科・特任教授）		研究室等所在	2号館8階	
単位数	1　（単位認定責任者：　山本　一彦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	※科目ガイダンス ゼミ内容等シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの事前確認（45分）	ガイダンス内容および履修登録結果確認（45分）
2	Ⅰ．現代社会の「労働」 1.「労働」観の移り変わり	「働くこと」対する自分の価値観の意識化（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
3	Ⅰ.1.（続き）	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
4	Ⅰ.1.（続き）	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
5	Ⅰ.1.（続き）	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
6	Ⅰ.2. 現代の「労働」の特質	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
7	Ⅰ.2.（続き）	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習（45分)）
8	Ⅱ．現代社会の「職業」 1.「職業」活動の意味	「職業」とはどのような活動であるかの意識化（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
9	Ⅱ.1.（続き）	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
10	Ⅱ.1.（続き）	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
11	Ⅱ.1.（続き）	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
12	Ⅱ.2.「職業」の選択に向けて	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
13	Ⅱ.2.（続き）	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習」（45分）
14	Ⅱ.2.（続き）	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
15	Ⅲ.前期学生生活の振り返り 授業改善アンケートの実施	前期のすべての活動の振り返り（45分）	振り返り内容の再確認（45分）
16	※総括・振り返り 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	15回分の内容の振り返り（45分）	総括の再確認（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	全学共通科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	河田　一郎（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　河田　一郎　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

各自の興味のあるものをテーマに選び、、自由に発想を展開し、レポートにまとめる。
就職活動を見据え、常に社会に目を向ける習慣を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP１、DP２、DP５に対応する。

到達目標

社会のさまざまな出来事に対して、自分なりの意見を述べることができる。

授業全体の内容と概要

就職面談を想定し、話題のニュースについて、ディスカッションを行う。各自のテーマが決まった時点で、少しずつテーマについて調べ、ゼミ終了時にレポートを提出してもらう。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では各自のテーマにかかわる資料を配布し、板書をしながら講義形式で行う。
また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。
なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

困ったことがあったら、カウンセラーと対応するので、すぐに相談すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	０%	０%	８０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能をほぼ修得した。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	全学共通科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	河田　一郎（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　河田　一郎　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	【ガイダンス】授業の進め方・シラバスの説明。授業改善に向けたアンケート結果反映の説明。この科目を受講することで、誰よりも早く、就活を勝ち抜くためのスキルを身に付けることができる。	シラバスの内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
2	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック６級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
3	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック５級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
4	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック４級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
5	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック３級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。 職業レディネス・テストの実施（キャリア支援センター）	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
6	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック準２級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
7	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック２級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
8	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック準１級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
9	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック１級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
10	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。 職業レディネス・テストのフィードバック（キャリア支援センター）	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
11	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
12	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
13	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
14	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
15	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。発表を行ったときは、そのつど授業内でコメントし、フィードバックする。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
16	【プレゼンテーション】　授業改善に向けたアンケートを実施。これまでの授業について講評を行い、フィードバックする。第１回目で示した達成目標が身についたかどうか、プレゼンを通して確認する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	木村　浩紀（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　木村　浩紀　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、教職に関連する今日的な課題について指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

教師に求められる能力、使命感や責任感、教育的愛情、教科や教職に関する専門的な知識、実践的指導力、総合的人間力、コミュニケーション能力、ファシリテーション能力等を身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ1、ＤＰ2、ＤＰ5に対応する。

到達目標

教育の諸課題についてその概要を理解し、説明することができる。
教師に必要な知識・技能等について、理解を深めることができる。

授業全体の内容と概要

教育の諸課題について、各回のテーマごとに考える。
教育にかかわる法令、答申などの通読
教育に関する諸課題についての調べ学修
教師に求められる教職教養等の学修
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

教育にかかわる法令、答申などを通読し、その内容にかかわって説明や質疑応答及びディスカッション等を行う。
教育課題に関するキーワードについての調べ学修及びその発表を行う。
教師に求められる教職教養等について演習を行う。
課題や発表等に対する評価のフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。
板書や教材提示装置を活用する。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

○教職課程を履修し、大学卒業後に必ず教職に就く強い希望と意思を持った学生を対象とする。
○サブメジャープログラムの「教育採用試験対策プログラム」の履修を条件とする。
○各自、ノートを用意すること。（ルーズリーフは不可）
○プリント類はフラットファイルに格納し、毎回授業に持参すること。
○オンライン授業やハイブリッド授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	２０%	０%	８０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
課題に取り組む意欲・態度	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	木村　浩紀（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　木村　浩紀　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、教職に関連する今日的な課題について指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途案内する』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	○オリエンテーション 「シラバス」「ゼミの進め方」「科目を修了して身に付く力」の説明 ・自己紹介 ・教育法規について	教育の諸問題についてまとめること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
2	○教育政策・教育行政と法 ・関係資料の通読 ・ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
3	○日本国憲法の教育条項① ・関係資料の通読 ・ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
4	○日本国憲法の教育条項② 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
5	○教育基本法① 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	今後の進路について考え、整理すること。（４５分）
6	○教育基本法② 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。 （４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
7	○国・地方の教育行政の組織・機能と法① 関係資料の通読 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
8	○国・地方の教育行政の組織・機能と法② 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
9	○教育委員会制度と法① 関係資料の通読 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
10	○教育委員会制度と法② 関係資料の通読 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	今後の進路について考え、整理すること。（４５分）
11	○教育財政と法① 関係資料の通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
12	○教育財政と法② 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
13	○学校制度・就学制度と法① 関係資料の通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
14	○学校制度・就学制度と法② 学修発表 ・ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
15	○教育免許・養成制度と法① 関係資料の通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
16	○教育免許・養成制度と法② 学修発表 前期の学修の総括及び反省（フィードバックと科目を修了して身に付く力の検証） 授業改善アンケートの実施	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	1年間の学修を振り返り、自己評価を行うこと。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	全学共通科目	対象学科・配当	全学科・３年（再履修）		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA（再） （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	河田　一郎（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　河田　一郎　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

各自の興味のあるものをテーマに選び、、自由に発想を展開し、レポートにまとめる。
就職活動を見据え、常に社会に目を向ける習慣を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP５に対応する。

到達目標

社会のさまざまな出来事に対して、自分なりの意見を述べることができる。

授業全体の内容と概要

就職面談を想定し、話題のニュースについて、ディスカッションを行う。各自のテーマが決まった時点で、少しずつテーマについて調べ、ゼミ終了時にレポートを提出してもらう。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では各自のテーマにかかわる資料を配布し、板書をしながら講義形式で行う。
また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。
なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

基礎ゼミナールⅡA再履修者。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	０%	０%	８０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能をほぼ修得した。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	全学共通科目	対象学科・配当	全学科・３年（再履修）		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA（再） （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	河田　一郎（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　河田　一郎　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	【ガイダンス】授業の進め方・シラバスの説明。授業改善に向けたアンケート結果反映の説明。この科目を受講することで、誰よりも早く、就活を勝ち抜くためのスキルを身に付けることができる。	シラバスの内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
2	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック６級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
3	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック５級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
4	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック４級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
5	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック３級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。 職業レディネス・テストの実施（キャリア支援センター）	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
6	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック準２級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
7	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック２級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
8	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック準１級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
9	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック１級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
10	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。 職業レディネス・テストのフィードバック（キャリア支援センター）	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
11	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
12	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
13	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
14	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
15	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。発表を行ったときは、そのつど授業内でコメントし、フィードバックする。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
16	【プレゼンテーション】　授業改善に向けたアンケートを実施。これまでの授業について講評を行い、フィードバックする。第１回目で示した達成目標が身についたかどうか、プレゼンを通して確認する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	薦田　勇智（経営学科・専任講師）	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1　（単位認定責任者：　　薦田　勇智　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

プロジェクトの基礎を固める期間とし、テーマに関する基礎知識の習得と計画の策定を行う。まず、関連分野の調査を通じて背景や事例を学び、プロジェクトの目的や方向性を明確にする。この過程で、情報収集や分析の方法を学び、スタディスキルを向上させる。次に、チームでの協働を意識しながら、具体的な活動内容や役割分担、スケジュールを決定し、プロジェクト遂行に必要なスチューデントスキルを身につける。また、論理的思考やプレゼンテーションの技術を養い、アカデミックスキルの向上を図る。議論や試行錯誤を重ねながら、プロジェクト成功のための基盤を構築することを目標とする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

・プロジェクトの目的や意義を理解し、チームで協力して活動する姿勢を養う。（スチューデントスキル）
・情報収集や資料調査を通じて、学びを深めるための基本的なスキルを習得する。（スタディスキル）
・学びのテーマに関連する専門的な知識を調べ、基礎的な分析方法を身につける。（アカデミックスキル）
・チーム内での役割分担やスケジュール管理を行い、計画立案の重要性を理解する。（スチューデントスキル）
・グループディスカッションを通じて、効果的な意見交換と協力の方法を学ぶ。（スタディスキル）
・プロジェクトに向けて、必要なリソース（知識、スキル、技術）を整理し、学習の準備を整える。（アカデミックスキル）

授業全体の内容と概要

eスポーツプロジェクトに関する基礎知識を学び、関連事例を調査してプロジェクトの方向性や目的を設定する。その後、グループで役割分担やスケジュールを決め、実行に向けた準備を整える。

本科目はＳＤＧｓの以下の項目に相当する。
・ＳＤＧｓ４.「質の高い教育をみんなに」

授業の方法

グループで取り組む演習課題や事例研究、学内外のプロジェクト活動開始時点では、その目的や最終目標、背景などについて資料等を提示しながら説明する。その後は、各グループでディスカッション等を行いながら、企画・計画の立案、目標設定、予算作成、調査、制作、発表、自己評価、改善、発表といったＰＤＣＡサイクルを軸とする一連の工程を行う。都度アドバイスやフィードバックを行い、各グループが円滑に進むようサポートする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

ゼミナール活動において円滑なコミュニケーションを図れるよう、次の学修支援を実施する。
・授業時間外において質問及び相談があれば、Ｔｅａｍｓチャットまたは音声通話にて受け付ける。
・提示した教材は、全ＬＭＳにて公開・配信する。
・グループワークにおいて、適切かつ円滑なコミュニケーションが図れるよう、適宜介入しサポートする。
・本科目内で最低１回は個人面談を行い、取り組み状況について確認する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・評価については、チームでの取り組みの姿勢や態度を重視する。
・取り組んだ結果、「失敗した」としても減点しない。あくまでも、取り組みの「プロセス（過程）」を評価対象とするので、失敗を恐れず積極的に挑戦すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上とする。
・遅刻及び早退は２０分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	１００％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
プロジェクト計画の立案	明確で実行可能な計画を立案し、必要なリソースやスケジュールをしっかりと整備した。	計画が概ね実行可能であり、リソースやスケジュールの整備もある程度できた。	計画の立案は行われたが、実行に向けた詳細な準備が不十分である。	計画立案が不完全であり、実行に向けた準備が不足している。	計画立案が不十分で、準備がほとんど進んでいない。
チームワークと役割分担	役割分担が明確で、チーム内で円滑に協力し合い、主体的に取り組んだ。	役割分担は明確であり、協力的に取り組んだが、少しの改善点がある。	役割分担はされているが、協力や積極的な取り組みがやや不足している。	役割分担が不十分で、協力や主体的な取り組みがほとんど見られない。	チーム内での協力や役割分担がほとんどなされていない。
情報収集・調査能力	必要な情報を効率的に収集し、調査結果を論理的に整理・分析できた。	情報収集と調査は適切に行われたが、分析に少し改善の余地がある。	情報収集は行われたが、分析が不十分であった。	情報収集が不十分で、分析にも欠ける部分が多かった。	情報収集がほとんど行われておらず、分析も行われていない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	薦田　勇智（経営学科・専任講師）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1　（単位認定責任者：　薦田　勇智　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ・シラバスの説明等（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） ・プロジェクト紹介 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを確認する（４５分）	履修登録結果を確認する（４５分）
2	テーマの基本概念 ・テーマについて学ぶ	自分たちが選んだテーマについて調べてくる（４５分）	不明な点をまとめ、調べる（４５分）
3	テーマの基本概念 ・テーマについて学ぶ	自分たちが選んだテーマについて調べてくる（４５分）	不明な点をまとめ、調べる（４５分）
4	リサーチと情報収集方法	自分たちが選んだテーマについて調べてくる（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
5	プロジェクト目的と目標設定 ・SMARTゴール（具体的・測定可能・達成可能・関連性・期限）を使って目標設定を行う。	SMARTゴールについて調べる（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
6	グループディスカッションと役割分担	グループでの役割を考える（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
7	プロジェクト計画の立案①	プロジェクトの内容を詰める（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
8	プロジェクト計画の立案②	プロジェクトの内容を詰める（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
9	メディアコンテンツの企画・設計①	メディアコンテンツについて調べる（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
10	メディアコンテンツの企画・設計②	メディアコンテンツについて調べる（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
11	中間発表 ・これまでの進捗を報告する ・フィードバックを受ける	発表準備をする（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
12	プロジェクト計画の修正・実行準備	前回のフィードバックを中心に修正を行う（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
13	プロジェクト計画の実行準備	実行準備を進める（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
14	プロジェクト計画の実行準備	実行準備を進める（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
15	プロジェクト計画の実行準備 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	実行準備を進める（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	講義,実習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石井　祐治(経営学科・専任講師)	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　石井　祐治　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	学生が授業内容や生活相談のための正課授業外に研究室前の掲示ボードを参照して実施				

概要

履修目標

陸上競技（駅伝）を通じて、生活の多様な側面から人間の生活と健康を理解し、より健康な生活を創り出して行くための必要な知識を理解する。
陸上競技の知識と技能を身につけさせる。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

陸上競技（駅伝）を通じて、個人、家庭という様々なレベルにおける健康的な生活について理解し、知識を身につけ、健康について、一層の関心を持ってことができる。
陸上競技の知識と技能を身につける。

授業全体の内容と概要

陸上競技（駅伝）を通じて、生活の多様な側面に焦点を当て、個人、家族という様々なレベルにおける人間の健康的な生活について詳しく説明して身につけさせる。

授業の方法

資料を通読し、その内容の説明や質疑応答及びディスカッションを行います。健康に関するキーワードについて調べ、発表を行います。課題や発表等に対応するフィールドバックや要望等への対応は、少人数集団の利点を生かし、口頭で説明を行います。、
「不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。」

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

積極的に取り組むことを期待します。
２０分以上の遅刻は欠席とします。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１３回以上
陸上競技の知識と技能を身につけたかどうか大会等の結果で評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	１００％	０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	陸上（駅伝）と、健康について基礎的な知識を深く理解して知識と技能を身につける事ができた。	陸上（駅伝）と、健康について基礎的な知識を理解して知識と技能を身につける事ができた。	陸上（駅伝）と、健康について基礎的な知識をおおむね理解して知識と技術を身につける事ができた。	陸上（駅伝）と、健康について基礎的な知識を多少理解して知識と技能を身につける事ができた。	陸上（駅伝）と、健康について基礎的な知識を理解できずに身につける事ができなかった。
思考力・判断力・表現力	陸上（駅伝）と、健康の基本を踏まえた健康内容の展開に十分に考察できた。	陸上（駅伝）と、健康の基本を踏まえた健康内容の展開に考察できた。	陸上（駅伝）と、健康の基本を踏まえた健康内容の展開におおむね考察できた。	陸上（駅伝）と、健康の基本を踏まえた健康内容の展開に多少考察できた。	陸上（駅伝）と、健康の基本を踏まえた健康内容の展開に考察できなかった。
主体的に取り組む態度	陸上（駅伝）と、健康の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	陸上（駅伝）と、健康の多様な展開について理解したことを説明できた。	陸上（駅伝）と、健康の多様な展開について理解したことをおおむね説明できた。	陸上（駅伝）と、健康の多様な展開について理解したことを多少説明できた。	陸上（駅伝）と、健康の多様な展開について理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	講義,実習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石井　祐治(経営学科・専任講師)		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　石井　祐治　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	学生が授業内容や生活相談のための正課授業外に研究室前の掲示ボードを参照して実施				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認するする。(４５分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(４５分)
2	陸上（駅伝）と、健康に関する調査についての説明	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(４５分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(４５分)
3	陸上（駅伝）と、健康に関する研究調査①	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(４５分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(４５分)
4	陸上（駅伝）と、健康に関する研究調査②	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(４５分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(４５分)
5	陸上（駅伝）と、健康に関する研究調査③	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(４５分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(４５分)
6	陸上（駅伝）と、健康に関する研究調査④	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(４５分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(４５分)
7	陸上（駅伝）と、健康に関する研究調査⑤	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(４５分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(４５分)
8	陸上（駅伝）と、健康に関する研究調査⑥	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(４５分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(４５分)
9	陸上（駅伝）と、健康に関する研究調査⑦	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(４５分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(４５分)
10	陸上（駅伝）と、健康に関する研究調査⑧	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(４５分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(４５分)
11	陸上（駅伝）と、健康に関する研究調査⑨	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(４５分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(４５分)
12	陸上（駅伝）と、健康に関する研究調⑩	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(４５分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(４５分)
13	陸上（駅伝）と、健康に関する研究調査⑪	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(４５分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(４５分)
14	陸上（駅伝）と、健康に関する研究調査のまとめ	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(４５分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(４５分)
15	陸上（駅伝）と、健康に関する研究調査のまとめ	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(４５分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(４５分)
16	全体のまとめ 身に付ける力がついたかどうかフィードバックして検証 授業改善アンケートの実施	ノートに記載された内容を再復習し、理解する。(４５分)	解説の内容を確認する(４５分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安田　祐造(デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館1階	
単位数	1　（単位認定責任者：　安田　祐造　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	50年近い美術教師として、また50年以上にわたる画家としての実績		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

基礎ゼミナールⅠA、ⅠBで学習したことを基礎とし、絵画制作についての知識や技術を高められるようにし、そして絵画の果たすべき役割や意義についてより深く学修する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

絵画制作に用いる様々な道具の使用方法、それぞれの色剤や展色剤の特長を学修し、制作に反映させる。

授業全体の内容と概要

50号程度の大きさの支持体に、それぞれの履修生が求めるものをエッグテンペラや油彩等の技法で制作する。

授業の方法

事前の準備、制作後の作品についての振り返り、次の制作についての計画や展望を巡らせるといった一連の作業を、毎時の習慣とすること。適宜、パソコンやプロジェクターも取り入れ活用する。また、不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

アート専攻の人を中心に、絵を描くのが好きな人、描写力をつけたい人、将来、美術教師を目指す人を対象とする。止むを得ず欠席した場合には、放課後等を活用して遅れを取り戻す心構えを求める。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0％	0％	80%	0％	20%	0％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
支持体について(布や紙等の貼り方を含む)	支持体の作り方の基本について十分に身についた。	支持体の作り方の基本について身についた。	支持体の作り方の基本についてほぼ身についた	支持体の作り方の基本についてある程度身についた。	支持体の作り方の基本について身につかなかった。
色剤、展色剤について	色剤や展色剤の乾燥速度や被覆力、重色などの基本的知識が十分に身についた。	色剤や展色剤の乾燥速度や被覆力、重色などの基本的知識が身についた。	色剤や展色剤の乾燥速度や被覆力、重色などの基本的知識がほぼ身についた。	色剤や展色剤の乾燥速度や被覆力、重色などの基本的知識がある程度身についた。	色剤や展色剤の乾燥速度や被覆力、重色などの基本的知識が身につかなかった。
描写、彩色について	モティーフの面やバルールなどを十分的確にとらえた描写が行えた。	モティーフの面やバルールなどを的確にとらえた描写が行えた。	モティーフの面やバルールなどをほぼ的確にとらえた描写が行えた。	モティーフの面やバルールなどをある程度的確にとらえた描写が行えた。	モティーフの面やバルールなどを的確にとらえた描写が行えなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安田　祐造(デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館1階		
単位数	1　（単位認定責任者：　安田　祐造　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	50年近い美術教師として、また50年以上にわたる画家としての実績		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション　シラバスについて、科目を修了して『身に付く力』についての説明 古今の作品について（構図を主に）	インターネット等を活用し、古今の作品に触れる。(90分)	自作についての構想を練る。(90分)
2	洋画作品の構造と用材、木材、布、紙等の性質について	洋画作品の構造と用材、木材、布、紙等の性質について予習する。(90分)	自作についての構想を練る。(90分)
3	支持体製作 木材の裁断、木工具の取り扱い方について　布や紙等の貼り方について	木材の裁断、木工具の取り扱い方、布や紙等の貼り方について予習する。(90分)	構想がまとまった段階で、下絵の制作を始める。(90分)
4	支持体製作 地塗り材の処方、地塗りについて	構想について最終的な確認を行う。(90分)	下絵を仕上げる。(90分)
5	支持体製作 地塗り面の研磨、下絵の転写作業について	下絵に訂正箇所がないかを検討する。(90分)	エッグテンペラでの作例を参照する。(90分)
6	エッグテンペラ等での下描き エッグテンペラ用展色剤の処方、下描きについて	エッグテンペラ等の展色剤の処方について予習する。(90分)	本時での制作を振り返り検討する。(90分)
7	油彩による上描きとエッグテンペラによる加筆　1	油彩絵具の透明性や被覆力、重色等について予習する。90分)	油彩絵具の透明性や被覆力、重色等について復習する。(90分)
8	油彩による上描き　1 大まかな面を把握し、かつ下描きを活かした描写について	下描きを活かした大まかな油彩による上描きについて検討する。(90分)	下描きを活かした大まかな油彩による上描きが行えたかを振り返る。(90分)
9	油彩による上描き　2 色面の明度差と立体感等に及ぼす効果について	相互の色面の明度差と立体感等に及ぼす効果について予習する。(90分)	相互の色面の明度差と立体感等に及ぼす効果について振り返る。(90分)
10	油彩による上描き　3 立体感や奥行き感と色彩調和について	色彩調和について予習する。(90分)	立体感や奥行き感と色彩調和について検討する。(90分)
11	油彩による上描きとエッグテンペラによる加筆　1	油の乾き具合とテンペラでの加筆のタイミングについて予習する。(90分)	エッグテンペラという異質な材料のもたらす効果について振り返る。(90分)
12	油彩による上描きとエッグテンペラによる加筆　2	加筆したテンペラについて不備等がないかを検討する。(90分)	立体感、奥行き感、色彩調和等について総合的に振り返る。(90分)
13	油彩による上描きとエッグテンペラによる加筆　3	筆触・タッチ・について予習する。(90分)	意図どおりの描写を叶えるにふさわしい筆等について検討し、必要に応じてあらかじめ用意する。(90分)
14	油彩による上描きとエッグテンペラによる加筆　4	細部と全体との関連と調和について検討する。(90分)	細部と全体との関連と調和が実現できているかを検討する。(90分)
15	油彩による上描きとエッグテンペラによる加筆　5	色価・バルール・に狂いのある個所がないかを検討する。(90分)	仕上げを前に、これまでの制作について総点検を行う。(90分)
16	仕上げと合評会、科目を修了して『身に付く力』についての検証、そしてこれまでの取り組みをもとに、今後の学生たちの制作や生き方にフィードバックさせる。	自作について、他者に尋ねるべき点についてまとめる。(90分)	合評会で得られた、他社の意見や感想などをどのように作品に反映させるか検討する。(90分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	塩崎　大輔（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　塩崎　大輔　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

文献・地域調査を通して地域への理解を深め、その中で多面的・多角的な視点を養い、地域分析や地域課題解決のための地域分析能力を養う。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

文献調査・フィールドワークの基礎を習得する。
調査結果を分析し，まとめる能力の基礎を習得する。

授業全体の内容と概要

本授業は北広島市や北海道における文献調査・フィールドワークを通して、地域に対する理解度を高め、地域課題の発見や課題解決のための基礎的な能力を育成することを目標とする。またそうして得られた調査結果や課題を分析し，レポートにまとめ表現する能力を育成する。
「SDG11．住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

基本的には徒歩または公共交通機関を利用した、フィールドワークを中心に行う。
フィールドワークで得た結果をまとめ、発表する。
資料やレポート等のやり取りはTeamsを活用する。
地理院地図などの地理情報システム（GIS）を活用する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

■出席について
毎回出席することが前提となるが、やむを得ず欠席する場合には、担当教員に必ず事前連絡すること。無断欠席は厳禁。

■フィールドワークについて
フィールドワークの性質上、土曜等に授業を実施する場合がある。
フィールドワーク中に発生する交通費等は自己負担とする。
フィールドワーク中は必ず教員の指示に従うこと。

■その他
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１２回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	50%	０％	０％	50%	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
地域調査法	レポート課題において、９割以上の得点を上げた。	レポート課題において、８割以上の得点を上げた。	レポート課題において、７割以上の得点を上げた。	レポート課題において、６割以上の得点を上げた。	レポート課題において、６割未満の得点であった。
文献調査・フィールドワークの基礎	文献調査・フィールドワークを通して、高いレベルで情報を収集し活用することができた	文献調査・フィールドワークを通して、情報を収集し活用することができた。	文献調査・フィールドワークを通して、情報を収集することができた。	文献調査・フィールドワークをすることができた。	文献調査・フィールドワークをすることができなかった。
空間的な見方・考え方	地域調査において、高いレベルで地図やその他の空間情報を活用し考察することができた。	地域調査において、地図やその他の空間情報を活用し考察することができた。	地域調査において、地図を活用し考察することができた。	地図を活用し考察することができた。	地図を活用し考察することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	塩﨑　大輔（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　塩﨑　大輔　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業の内容・進め方・評価の仕方ガイダンス、科目を修了して『身に付く力』についての説明	事前にシラバスを読んでいること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
2	文献調査の基礎	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
3	文献調査①	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
4	文献調査②	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
5	文献調査③	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
6	文献調査④	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
7	フィールドワーク①	フィールドワークの準備をしておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
8	フィールドワーク②	フィールドワークの準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
9	フィールドワーク③	フィールドワークの準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
10	フィールドワーク④	フィールドワークの準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
11	フィールドワーク⑤	フィールドワークのまとめをしておくこと。（９０分）	フィールドワークのまとめをしておくこと。（９０分）
12	調査結果まとめ①	フィールドワークのまとめをしておくこと。（９０分）	調査結果のまとめをしておくこと。（９０分）
13	調査結果まとめ②	調査結果のまとめをしておくこと。（９０分）	調査結果のまとめをしておくこと。（９０分）
14	調査結果発表	発表準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
15	レポート作成	レポート作成の準備をしておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
16	まとめ、課題（レポートなど）の解説 これまでの講評をしとフィードバックする 科目を修了して『身に付く力』についての検証 授業改善アンケートの実施	レポート課題等を作成すること。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA（米野） （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	米野　宏（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　米野　宏　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における体育・健康・スポーツ関係の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

大学での勉強を進めるにあたり、必要となる文章読解力のほか、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力を身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

自分でテーマを設定し、文章にまとめることができる。
グループ内でのコミュニケーションを図ることができ、リーダーシップを発揮できる。
テーマに基づきプレゼンテーションをすることができる。

授業全体の内容と概要

授業の前半は、小論文・レポートを作成し発表する。また、発表に対して討議したり、ディスカッションを行う。
後半は、特定のテーマでプレゼンテーションを行い、質疑応答やディスカッションも行う。
人前で話すための準備をし、解り易く、興味深い内容を考える。

授業の方法

小論文、レポートの書き方については、板書または資料にて説明する。提出されたレポートについては、添削及び内容の評価とともにフィードバックする。
グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、新聞やインターネットによるニュース等を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は、欠席扱いとする。
対話する機会が多いので、積極的な発言や能動的な授業態度で臨むこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	１０％	１０％	０％	７０％	１０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コミュニケーション能力	仲間とのコミュニケーションを図る方法がとても巧みにおこなえた。	仲間とコミュニケーションを図ることが比較的巧みにできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが普通にできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが上手ではないが努力した。	仲間とコミュニケーションを図ることがとても苦手であった。
ディスカッション能力	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取れた。	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップもまずまず取れた。	討議の中で、対話を巧みにできたが、リーダーシップをとるまではいかなかった。	討議の中で、対話をすることが普通にできた。	討議の中で、対話をすることが苦手で、ほとんど受け身でおわった。
プレゼンテーション能力	パワーポイント等を巧みに使い、解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、比較的解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、解り易くプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、プレゼンテーションを行ったが、多少伝わらなかった。	プレゼンテーションの準備がほとんどできていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA（米野） （科目ナンバリング：BAS002005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	米野　宏（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1	（単位認定責任者：　　米野　宏　　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における体育・健康・スポーツ関係の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認する。（４５分）	注意事項を確認する。（４５分）
2	レポートの作成 （アダプテッドスポーツの創造）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
3	発表と意見交換　1	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
4	発表と意見交換　2	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
5	発表と意見交換　3	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
6	アダプテッドスポーツを考える（屋内競技）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
7	プレゼンテーションの準備　1 （グループに分かれて）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
8	プレゼンテーションの準備　2 （グループに分かれて）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
9	プレゼンテーションの準備　3 （グループに分かれて）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
10	プレゼンテーション　（屋外競技）　1	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
11	プレゼンテーション　（屋外競技）　2	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
12	プレゼンテーション　（屋外競技）　3	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
13	プレゼンテーション　（屋内競技）　1	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
14	プレゼンテーション　（屋内競技）　2	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
15	プレゼンテーション　（屋内競技）　3	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
16	ふりかえり 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	ノートに記載された内容を再度確認する。（４５分）	評価等の内容を確認を確認する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年、デザイン学科・１年、建築学科・１		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ（S・D・A） （科目ナンバリング：S0E011012　　）				
授業担当者 （所属・職名）	山本　一彦（経営学科・特任教授）	研究室等所在	２号館８階		
単位数	1　（単位認定責任者：　　山本　一彦　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

変化する現代産業社会の特質を知り，その中で働くとはどのようなことか，職業とは何か，また，それらをめぐる諸問題に目を向け，「学生」が「職業人」になっていくことの意義の理解する力を身に付ける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ（２）（４）に対応する。
デザイン学科のＤＰ（２）（４）に対応する。
建築学科のＤＰ（２）（４）に対応する。

到達目標

産業社会や労働・職業の実態について単に知識を習得するだけでなく，「学生」から「職業人」へ移行していく自分自身の問題としてとらえ，批判的に考察する姿勢をもてることができる。

授業全体の内容と概要

まず，自らの生涯における「キャリア」とは何かを知り，続いて，文化や社会，時代の違いによって「労働」に対する考え方が異なること，また，「働くこと」や分業の発達した社会における「職業」・「専門職」の意味について理解する。そして，どのように「学生」が「職業人」へと移行していけばよいのかを理解し，「労働」・「職業」をめぐるさまざまな問題を考察する。

授業の方法

授業は現代のさまざまな事例を素材としながら講義形式で行ない（ＰＢＬ含む），必要な場合には資料を配布する。単元・項目によっては受講者の見解を知るための小文を提出してもらい，授業で概要を発表してフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

さまざまなテーマについて自ら考える「主体的・能動的」な姿勢での受講を求める。本試験・追試験結果が保留となった場合，レポート課題の提出が必要。保留後の合格の場合は，評価はＣとする。尚、不測の事態の際はオンラインで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
９０%	０%	０%	０%	０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
キャリアデザインに係る知識	定期試験におけるキャリアデザインに係る基礎事項該当部分で９０%以上の正答があった。	左記の同部分が８０%以上９０%未満の正答であった。	左記の同部分が７０%以上８０%未満の正答であった。	左記の同部分が６０%以上８０%未満の正答であった。	左記の同部分の正答が６０%に届かなかった。
思考力・判断力等	キャリア概念を軸にして、自らの将来の労働生活・職業活動に関する展望・考察が充分にできていた。	左記事項についての展望・考察が概ねできていた。	左記事項についての展望・考察が広く一般的水準でできていた。	左記事項についての展望・考察が最低限の水準に留まっていた。	考察・展望が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。
実社会における労働活動・職業生活への分析力・主体性	実際の労働生活・職業活動をめぐるさまざまな社会的問題について充分に主体的分析ができていた。	左記の事項について概ねできていた。	左記の事項について一般的な水準でできていた。	分析や主体性が最低限の水準に留まっていた。	分析や主体性が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年、デザイン学科・１年、建築学科・１		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ（S・D・A） （科目ナンバリング：SOE011012　　）				
授業担当者 （所属・職名）	山本　一彦（経営学科・特任教授）	研究室等所在	２号館８階		
単位数	1　（単位認定責任者：　山本　一彦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	※科目ガイダンス…全体概要，目的とねらい，履修上の注意，評価方法説明（シラバス説明、身に付ける力を含む）、前年度授業アンケート結果概要説明	シラバス内容を事前確認（９０分）	目的とねらいについての復習と確認（９０分）
2	Ⅰ.ライフデザインとキャリア 1.「キャリア」とは何か	自らの生活に関する展望のイメージ化・意識化（９０分）	「キャリア」とは何であったかの復習・理解（９０分）
3	Ⅰ.ライフデザインとキャリア 2..若者世代と「ライフデザイン」	現代の若者世代を取り巻く社会環境についての意識化（９０分）	現代の若者世代のキャリア形成の特質についての復習・理解（９０分）
4	Ⅱ.働くことと職業生活 1.「労働」をどうとらえるか？ …その歴史と比較	自らが「働くこと」をどう見ているかについての意識化（９０分）	さまざまな「労働」観についての復習・理解（９０分）
5	Ⅱ.働くことと職業生活 2.社会的分業と「職業」 …社会と個人の結び目	自らは「職業」活動をどう見ているかについての意識化（９０分）	社会的分業と個人の職業生活との関係についての復習・理解（９０分）
6	Ⅲ.産業社会の変化と職業 1.現代の産業構造・職業構造	日本の産業・職業の構造的特徴を事前確認（９０分）	特に日本の職業構造についての復習・理解（９０分）
7	Ⅲ.産業社会の変化と職業 2.職業の専門化と現代の「専門職」	「専門職」の職業的特質についての事前考察（９０分）	「専門職」の社会的意味についての復習・理解（９０分）
8	Ⅳ.「学生」から「職業人」へ 1.何が「職業人」に必要か？ …エンプロイアビリティーの向上	「職業人」には何が求められるかについてのイメージ化・意識化（９０分）	「エンプロイアビリティー」とは何であったかの復習・理解（９０分）
9	Ⅳ.「学生」から「職業人」へ 2.ライフコースの変化と現代のキャリア形成	現代人の人生経路についてのイメージ化・意識化（９０分）	過去と現代のキャリア形成の違いについての復習・理解（９０分）
10	Ⅴ.職業をめぐる現代社会の諸問題 1.現代の雇用環境と若者 …就職をめぐる問題	現代日本の「雇用問題」についての事前考察（９０分）	若者世代をめぐる雇用状況についての復習・理解（９０分）
11	Ⅴ.職業をめぐる現代社会の諸問題 2.就労形態の変化 …多様な働き方とは？	「働き方」をめぐる問題点についての事前考察（９０分）	働き方の「多様化」をめぐる二面性についての復習・理解（９０分）
12	Ⅴ.職業をめぐる現代社会の諸問題 3.男女共同参画社会へ …ワークライフバランスの確立	男女の働き方の違いと問題点についての事前考察（９０分）	男女共同参画」の重要性についての復習・理解（９０分）
13	Ⅴ.職業をめぐる現代社会の諸問題 3.男女共同参画社会へ …ワークライフバランスの確立	生活の中の仕事の位置づけに関する事前考察（９０分）	ワークライフバランス確立の重要性についての復習・理解（９０分）
14	Ⅵ.現代社会の新しい働き方 …ディーセントワークを目指して	より良い「働き方」のイメージ化・意識化（９０分）	ワークライフバランス確立の重要性についての復習・理解（９０分）
15	※総括（身に付ける力の検証、試験概要説明）、授業アンケート実施	ノートの整理と重要項目のチェック（９０分）	評価に関する確認と理解 試験対応のための復習・理解（９０分）
16	※試験および解説 ６０分の試験終了後，残りの３０分で解説	試験対応準備（９０分）	解説内容の確認・理解（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ（M） （科目ナンバリング：SOE011012　　）				
授業担当者 （所属・職名）	山本　一彦（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　山本　一彦　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

変化する現代産業社会の特質を知り，その中で働くとはどのようなことか，職業とは何か，また，それらをめぐる諸問題に目を向け，「学生」が「職業人」になっていくことの意味を理解する力を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

産業社会や労働・職業の実態について単に知識を習得するだけでなく，「学生」から「職業人」へ移行していく自分自身の問題としてとらえ，批判的に考察する姿勢をもてることができる。

授業全体の内容と概要

まず，自らの生涯における「キャリア」とは何かを知り，続いて，文化や社会，時代の違いによって「労働」に対する考え方が異なること，また，「働くこと」や分業の発達した社会における「職業」・「専門職」の意味について理解する。そして，どのように「学生」が「職業人」へと移行していけばよいのかを理解し，「労働」・「職業」をめぐるさまざまな問題を考察する。

授業の方法

授業は現代のさまざまな事例を素材としながら講義形式で行ない（ＰＢＬ含む），必要な場合には資料を配布する。単元・項目によっては受講者の見解を知るための小文を提出してもらい，授業で概要を発表してフィードバックする。尚、不測の事態の際はオンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

さまざまなテーマについて自ら考える「主体的・能動的」な姿勢での受講を求める。本試験・追試験結果が保留となった場合，レポート課題の提出が必要。保留後の合格の場合は，評価はＣとする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
９０%	０%	０%	０%	０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
キャリアデザインに係る知識	定期試験におけるキャリアデザインに係る基礎事項該当部分で９０%以上の正答があった。	左記の同部分が８０%以上９０%未満の正答であった。	左記の同部分が７０%以上８０%未満の正答であった。	左記の同部分が６０%以上８０%未満の正答であった。	左記の同部分の正答が６０%に届かなかった。
思考力・判断力等	キャリア概念を軸にして、自らの将来の労働生活・職業活動に関する展望・考察が充分にできていた。	左記事項についての展望・考察が概ねできていた。	左記事項についての展望・考察が広く一般的水準でできていた。	左記事項についての展望・考察が最低限の水準に留まっていた。	考察・展望が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。
実社会における労働活動・職業生活への分析力・主体性	実際の労働生活・職業活動をめぐるさまざまな社会的問題について充分に主体的分析ができていた。	左記の事項について概ねできていた。	左記の事項について一般的な水準でできていた。	分析や主体性が最低限の水準に留まっていた。	分析や主体性が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ（M） （科目ナンバリング：SOE011012　　）				
授業担当者 （所属・職名）	山本　一彦（経営学科・特任教授）	研究室等所在	２号館８階		
単位数	1　（単位認定責任者：　山本　一彦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	※科目ガイダンス…全体概要，目的とねらい，履修上の注意，評価方法説明（シラバス説明、身に付ける力を含む）、授業アンケート結果説明	シラバス内容を事前確認（９０分）	目的とねらいについての復習と確認（９０分）
2	Ⅰ.ライフデザインとキャリア 1.「キャリア」とは何か	自らの生活に関する展望のイメージ化・意識化（９０分）	「キャリア」とは何であったかの復習・理解（９０分）
3	Ⅰ.ライフデザインとキャリア 2..若者世代と「ライフデザイン」	現代の若者世代を取り巻く社会環境についての意識化（９０分）	現代の若者世代のキャリア形成の特質についての復習・理解（９０分）
4	Ⅱ.働くことと職業生活 1.「労働」をどうとらえるか？ …その歴史と比較	自らが「働くこと」をどう見ているかについての意識化（９０分）	さまざまな「労働」観についての復習・理解（９０分）
5	Ⅱ.働くことと職業生活 2.社会的分業と「職業」 …社会と個人の結び目	自らは「職業」活動をどう見ているかについての意識化（９０分）	社会的分業と個人の職業生活との関係についての復習・理解（９０分）
6	Ⅲ.産業社会の変化と職業 1.現代の産業構造・職業構造	日本の産業・職業の構造的特徴を事前確認（９０分）	特に日本の職業構造についての復習・理解（９０分）
7	Ⅲ.産業社会の変化と職業 2.職業の専門化と現代の「専門職」	「専門職」の職業的特質についての事前考察（９０分）	「専門職」の社会的意味についての復習・理解（９０分）
8	Ⅳ.「学生」から「職業人」へ 1.何が「職業人」に必要か？ …エンプロイアビリティーの向上	「職業人」には何が求められるかについてのイメージ化・意識化（９０分）	「エンプロイアビリティー」とは何であったかの復習・理解（９０分）
9	Ⅳ.「学生」から「職業人」へ 2.ライフコースの変化と現代のキャリア形成	現代人の人生経路についてのイメージ化・意識化（９０分）	過去と現代のキャリア形成の違いについての復習・理解（９０分）
10	Ⅴ.職業をめぐる現代社会の諸問題 1.現代の雇用環境と若者 …就職をめぐる問題	現代日本の「雇用問題」についての事前考察（９０分）	若者世代をめぐる雇用状況についての復習・理解（９０分）
11	Ⅴ.職業をめぐる現代社会の諸問題 2.就労形態の変化 …多様な働き方とは？	「働き方」をめぐる問題点についての事前考察（９０分）	働き方の「多様化」をめぐる二面性についての復習・理解（９０分）
12	Ⅴ.職業をめぐる現代社会の諸問題 3.男女共同参画社会へ …ワークライフバランスの確立	男女の働き方の違いと問題点についての事前考察（９０分）	男女共同参画」の重要性についての復習・理解（９０分）
13	Ⅴ.職業をめぐる現代社会の諸問題 3.男女共同参画社会へ …ワークライフバランスの確立	生活の中の仕事の位置づけに関する事前考察（９０分）	ワークライフバランス確立の重要性についての復習・理解（９０分）
14	Ⅵ.現代社会の新しい働き方 …ディーセントワークを目指して	より良い「働き方」のイメージ化・意識化（９０分）	ワークライフバランス確立の重要性についての復習・理解（９０分）
15	※総括（授業に係る講評・解説によるフィードバック、身に付けるの検証、試験概要説明） 授業アンケート実施	ノートの整理と重要項目のチェック（９０分）	評価に関する確認と理解 試験対応のための復習・理解（９０分）
16	※試験および解説 ６０分の試験終了後，残りの３０分で解説	試験対応準備（９０分）	解説内容の確認・理解（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	社会福祉の原理と政策Ⅰ （科目ナンバリング：SWS121017　　）				
授業担当者 （所属・職名）	上原　正希（社会福祉学部・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　上原　正希　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

１．社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解する。
２．社会福祉の歴史的展開の過程と社会福祉の理論を踏まえ、欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を理解する。
３．社会問題と社会構造の関係の視点から、現代の社会問題について理解する。
４．福祉政策を捉える基本的な視点としての概念や理念を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP３、DP４に対応する。

到達目標

１．社会福祉士と精神保健福祉士に必要な基礎的な知識を身につけることができる。
２．社会変化と福祉制度の変遷（変わること）の関連を説明できるようになる。
３．「公平な社会」を「共生社会」と関連づけることができる。

授業全体の内容と概要

１．福祉を学ぶための基盤となる考え方や基礎知識を学ぶ。
２．福祉サービスをソーシャル・サービス、福祉政策をソーシャル・ポリシー（社会政策）と福祉を幅広く捉えるようになった背景（要因・理由）とその内容（考え方・概念）を学ぶ。
３．「SDG３．すべての人に健康と福祉を」の関連授業。

授業の方法

１．授業形態は基本は「講義形式」であるが、グループで話し合うなどの作業を行うこともある。
２．テキストを使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行う。
３．適宜質問を促し、質問に対応する。
４．自然災害等などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もあるが、しかし保育士養成課程学生については対面での実施となる。
５．ソーシャルワーカーなどの、お話を聞く授業等がある場合もある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１．教科書は必ず持参すること。
２．必要な資料等は適宜配布する。
３．板書した内容をしっかり写し、毎回の授業後にノートの整理をする。
４．適宜質問に対応する、
５．自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。
６．ソーシャルワーカー等のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程，精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

１．教科書は必ず持参する。
２．必要な資料等は適宜配布する。
３．出席回数は最低１０回なければ試験を受験できない。
４．その他については、出席状況３０%の評価である。
５．成績評価分布の目標について「S」は履修者の１０%以内とし、「A」と「S」を含めて履修者の４０%以内とする。
但し、履修者が１０人未満の授業科目は、授業形態等を考慮し、成績評価の割合の対象外とする（絶対評価と相対評価を併用する）。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	０%	０%	０%	３０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
社会福祉の歴史について	社会変化と福祉制度変遷の背景を知識として身に付け、今後の福祉制度の在り方を自己の考えとして表現できた。	社会変化と福祉制度変遷の背景を基礎知識として（質問への回答，試験の論述，など）に使用　することができた。	社会変化と福祉制度変遷を関連付けて説明することができた。	社会変化と福祉制度変遷を関係付けることができた。	社会変化と福祉制度変遷を関係付けることができなかった。
社会福祉の理論（哲学，思想を含む）について	社会福祉において公平性と効率性のバランスが重要であることを理解できた。	社会福祉の論点が何かを把握することができた。	理論の基盤となる用語の意味を理解できた。	社会福祉の基礎となる考え方を理解できた。	社会福祉の基礎となる考え方を理解できなかった。
ソーシャル・ポリシー（福祉政策）について	幅広い概念のソーシャル・ポリシーを用いる理由を説明することができた。	ソーシャル・ポリシーの目的と公平な社会の実現の関連を説明することができた。	ソーシャル・ポリシーにおいて公平性が重要な理由を説明することができた。	ソーシャル・ポリシーの概要を理解できた。	ソーシャルポリシーの概要を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	社会福祉の原理と政策Ⅰ （科目ナンバリング：SWS121017　　）				
授業担当者 （所属・職名）	上原　正希（社会福祉学部・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　上原　正希　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新・社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座　４　社会福祉の原理と政策』	一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	9784805882344	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション 授業改善アンケート結果についての説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明 社会福祉の原理について（自助として市場の論理と所得再分配を含む）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
2	社会福祉の歴史について（社会変化と福祉制度変遷の関係性）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
3	社会福祉の歴史について（欧米の社会福祉の歴史的展開）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
4	社会福祉の歴史について（日本の社会福祉の歴史的展開）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
5	社会福祉の思想・哲学について　（人間の尊厳、社会正義などを含む）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
6	社会福祉の理論について（基本的な考え方について）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
7	社会福祉の論点について(1)（効率と公平、リバタリアン・パターナリズムなどを含む）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
8	社会福祉の論点について(2)（効率と公平、リバタリアン・パターナリズムなどを含む）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
9	社会福祉の対象とニーズについて（demandsとneedsの違いと変遷を含む）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
10	現代社会の課題について（人口減少、少子高齢化などを含む）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
11	現代社会の課題背景について（社会構造・情勢の変化を含む）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
12	福祉政策の基本的視点について（福祉レジームを含む）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
13	ソーシャル・ポリシーと福祉政策（1）－社会政策のなかの福祉政策	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
14	ソーシャル・ポリシーと福祉政策（2）－福祉政策の体系 まとめとして、現代社会の課題と福祉政策の変遷についての確認	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
15	授業改善アンケートの実施 【定期試験】60分	テスト勉強をしておくこと（９０分）	テストの振り返りを行うこと（９０分）
16	授業全体・試験の解説 科目を修了して『身に付く力』についての検証 試験等のフィードバック	科目が修了するにあたり『身に付く力』について自分で検証をしておくこと(９０分)	科目が修了して『身に付く力』について自分で振り返ること(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	発達心理学Ⅰ （科目ナンバリング：EDP122066　　）				
授業担当者 （所属・職名）	蝦名　美穂（社会福祉学科・専任講師）	研究室等所在	1号館２階		
単位数	2　（単位認定責任者：　　蝦名　美穂　　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち，スクールカウンセラーとしての相談活動や乳幼児の発達相談での経験を踏まえて，講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくはチャットにて事前に連絡後に時間を調整し研究室にて対応。				

概要

履修目標

１．保育実践にかかわる，人の発達理論等の心理学的知識を理解する。
２．生涯発達の観点から，人の発達の過程や乳幼児期の位置づけを理解し，
　　保育における人との相互的関わりや環境の重要性について理解する。
３．人の発達に関わる心理学の基礎知識を学び，養護および教育の一体性や
　　発達に即した援助の基本となる人への理解を深める。

授業の位置づけ

社会福祉学部のDP３，DP4，DP５に対応する。

到達目標

人の発達過程における基礎知識を習得することができる。
習得した知識を子どもを理解する上で用いることができる。

授業全体の内容と概要

「発達」を人の誕生（受胎）から死に至るまでの心身の変化ととらえ，各発達段階ごとに生物学的・社会学的・心理学的側面から包括的な理解を深める。
特に誕生から児童期までを中心にその特徴を学ぶ。

「SDG.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では，テキスト，パワーポイント，資料等を適宜活用した講義形式で行う。また、PC及びスマートフォンを使用する。
学習内容定着，学生の理解度を確認するため毎時間の授業の終わりに質問や感想（リアクションシート）をMicrosoft　Teams/Forms 等を活用して提出する。
これに対して，次回の講義の中で，もしくは個別にコメント機能を活用して，授業者より質問等への回答をする。
資料配布も同様の諸機能を活用して行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

自分で振り返ることができるようなノートやテキスト，資料とまとめることを心がける。
授業の進行を妨害するような行為，他の受講者の迷惑となる行為（私語など）を慎むこと。
２０分以上の遅刻は欠席とみなします。
必ずテキストを購入すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け，本学の基本方針及び規程等に基づき，学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士資格課程（必修）

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回とする。
小テスト（3回予定），授業の終わりに提出する感想等（リアクションシート），授業態度を評価の対象とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	７０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	授業で扱った内容（発達心理学の基本的用語等）について理解し，用語の説明を資料等を見ずに説明することができた。	授業で扱った内容（発達心理学の基本的用語等）について理解し，用語の説明を資料等を見ながら説明することができた。	授業で扱った内容（発達心理学の基本的用語等）について，資料等の中から探すことができるようにノートや資料がまとめられた。	授業で扱った内容（発達心理学の基本的用語等）について，ノートにまとめることができた。	授業で扱った内容について，ノートにまとめることができなかった。
知識の応用	発達心理学の基礎知識を利用して，こどもの状況理解ができ，資料等を見ずに説明することができた。	発達心理学の基礎知識を利用して，こどもの状況理解ができ、資料等を見ながら説明することができた。	こどもの状況を発達心理学の基礎知識の中から探すことができた。	こどもの状況を言葉で表すことができた。	左記の内容が何一つすることができなかった。
授業に主体的に取り組む態度（リアクションシート含む）	授業内容に関心をもち，自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ，授業内容を振り返る感想だけでなく，疑問点を明確にすることができ，自分なりの考えを述べられた。	授業内容に関心をもち，自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ，授業内容を振り返り感想を述べ，疑問点を明確にすることができた。	授業内容に関心をもち，自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ，授業内容を振り返り感想を述べられた。	授業内容を振り返り感想を述べられた。	左記の内容が何一つすることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	発達心理学Ⅰ （科目ナンバリング：EDP122066　　）				
授業担当者 （所属・職名）	蝦名　美穂（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	1号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　蝦名　美穂　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち，スクールカウンセラーとしての相談活動や乳幼児の発達相談での経験を踏まえて，講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくはチャットにて事前に連絡後に時間を調整し研究室にて対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『完全カラー図解よくわかる　発達心理学』	渡辺　弥生	ナツメ社	２０２１	978-4-8163-7057-1	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『発達心理学１５講』	高橋一公・中川佳子	北大路出版	２０１４	978-4-7628-3057-0	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス及び科目を修了して「身に付く力」の説明を含む），授業改善アンケート結果反映の説明 発達心理学とは，生涯発達とはなにか？	発達心理学で学ぶことについて調べる（９０分）	発達心理学で学ぶ内容について振り返る（９０分）
2	発達理論，発達研究等について	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
3	胎児期・乳幼児期の発達① お腹の中にいる時の赤ちゃんは何をしているのだろうか？	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
4	胎児期・乳幼児期の発達② 乳児の視知覚、運動発達等	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
5	胎児期・乳幼児期の発達③ 愛着形成について、コミュニケーションの発達について	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
6	胎児期・乳幼児期の発達④ 小テスト①４５分テスト、３０分の解説	前回までの学修内容を復習すること（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
7	幼児期の発達①　言 葉の発達、絵の発達、遊びの発達	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
8	幼児期の発達② 感情の発達	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
9	幼児期の発達③ 社会性の発達	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
10	幼児期の発達④まとめ 小テスト②４５分のテスト、３０分の解説	前回までの学修内容を復習すること（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
11	児童期の発達① ピアジェの発達段階説等、メタ認知	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
12	児童期の発達② 動機づけ、自尊心	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
13	児童期の発達③ 友達づきあい	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
14	児童期の発達③ 道徳性	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
15	児童期の発達④ いじめ、不登校、発達障害	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
16	小テスト③４５分のテスト、３０分の解説。 講義についてのフィードバック、科目を修了して「身に付く」力の検証 授業改善アンケートの実施	前回までの学修内容を復習すること（９０分）	試験結果を参考に自らの学修姿勢を評価する（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ論 （科目ナンバリング：CME412008，CME512005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	田中　修身（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　田中　修身　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	民間IT企業にて営業SE、経営管理部長を経験。現在、中小企業診断士/ITコーディネータとして経営戦略、マーケティング戦略、財務戦略、DX戦略、事業承継等に関する企業支援を行っている。日常的な企業経営とのかかわりから実践的な授業を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

マーケティング論の基本を習得すると共に実践に活用できるマーケティング的な思考・発想が身につく。

授業の位置づけ

経営学科のDP1,DP3,DP4に対応する科目。

到達目標

マーケティング論の基本を習得すると共に、実践に活用できるマーケティング的な思考・発想が身につく。

授業全体の内容と概要

マーケティング戦略策定のプロセス、マーケティングミックス４P（製品、価格、チャネル、販売促進の各領域）の体系的理解を重点とする。また、身近な事例を学ぶことでより実践的なマーケティングを理解する。

授業の方法

パワーポイントによるプロジェクター投影および配布レジメによる講義とディスカッションをまじえた授業を行い理解度を高める。毎回講師の指示による「振り返りシート」の提出が必須であり、学生自身の意見を表明する機会とする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席を重視する。「振り返りシート」の提出と「システムによる出席登録」の両方を満たしたものを出席とする。なお、15分以上の遅刻・途中退出は欠席扱いとする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（商業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は試験実施回を含めて１１回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
マーケティング戦略策定プロセスの基本的な理解。	戦略策定プロセスの基本を完全に理解し、その意義について説明できる。	戦略策定プロセスの基本を十分に理解し、そのプロセスを示し各プロセスの内容を説明できる。	戦略策定プロセスの基本を理解し、そのプロセスを示すことができる。	戦略策定プロセスの基本を理解した。	戦略策定プロセスの基本を理解していない。
マーケティング環境分析及びS・T・Pの理解。	環境分析、STPの基本を完全に理解し、その意義について説明できる。	環境分析、STPの基本を十分に理解し、そのポイントとなる要素を挙げ内容を説明できる。	環境分析、STPの基本を理解し、そのポイントとなる要素を挙げることができる。	環境分析、STPの基本を理解した。	環境分析、STPの基本を理解していない。
マーケティングミックスの理解。	マーケティングミックスの基本を完全に理解し、その意義について説明できる。	マーケティングミックスの基本を十分に理解し、そのポイントとなる要素を挙げ内容を説明できる。	マーケティングミックスの基本を理解し、そのポイントとなる要素を挙げることができる。	マーケティングミックスの基本を理解した。	マーケティングミックスの基本を理解していない
講義で取り上げたその他の学習内容の理解。	その他の学習内容を完全に理解し、その意義について説明できる。	その他の学習内容を十分に理解し、そのポイントとなる要素を挙げ内容を説明できる。	その他の学習内容を理解し、そのポイントとなる要素を挙げることができる。	その他の学習内容を理解した。	その他の学習内容を理解していない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ論 （科目ナンバリング：CME412008，CME512005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	田中　修身（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　田中　修身　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	民間IT企業にて営業SE、経営管理部長を経験。現在、中小企業診断士/ITコーディネータとして経営戦略、マーケティング戦略、財務戦略、DX戦略、事業承継等に関する企業支援を行っている。日常的な企業経営とのかかわりから実践的な授業を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『改訂４版「グロービスMBAマーケティング」』	グロービス経営大学院	ダイヤモンド社	２０１９	9784478107355	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） マーケティングとは何か	シラバスを読んでおくこと（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
2	マーケティング戦略策定プロセス	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
3	環境分析と市場機会の発見	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
4	セグメンテーションとターゲティング	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
5	ポジショニング	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
6	マーケティングミックス（製品戦略）	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
7	マーケティングミックス（価格戦略）	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
8	マーケティングミックス（販路・流通戦略）	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
9	マーケティングミックス（プロモーション・コミュニケーション戦略）	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
10	ブランド戦略	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
11	マーケティングリサーチ	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
12	顧客経験価値とカスタマージャーニー	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
13	ＢｔｏＢマーケティング	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
14	デジタルマーケティング	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
15	マーケティング論の振り返り	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
16	試験とフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケート実施	試験に向け全体を復習する。（９０分）	試験及び解説を受けて講義全体を復習する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ社会学 （科目ナンバリング：SPS422061，SPS512011　　）				
授業担当者 （所属・職名）	戸佐　晃一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階研究室	
単位数	2　（単位認定責任者：　戸佐　晃一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

スポーツ全体と社会の関わりを理解し、スポーツの価値・魅力、地域社会への貢献などを考え、認識を深めることにより、スポーツ指導者として社会に貢献できる資質を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

スポーツへの関心を高め、スポーツ全体と社会の関わりを理解できる。

授業全体の内容と概要

スポーツを楽しむ、参加する、応援するなど、多様な関わり方を理解し、各々のスポーツ観を向上させる。

授業の方法

授業の前段として、折々の主なスポーツニュースについてその背景や重要な視点を解説する。そのあと、全体の授業計画に基づく各回のテーマについて講義する。
またレポート提出も数回行う。
なお、資料にて説明したことをもとに、プレゼンテーションやディスカッション、調査学習を用いた講義を展開する。
不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

遅刻（１５分）は２回につき１回の欠席。私語は厳禁。携帯・タブレットの持ち込みは許可するが必要のない場合の使用は禁ずる。レポートを期限に提出しない場合は不合格とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツ指導者（スポーツリーダー）資格課程、スポーツソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、11回以上
小・中・最終レポート、出席回数を評価の対象とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	７０％	０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツと社会との関連	積極的にスポーツと社会との関連性を理解し、自分の考え方、主張を持っていた。	スポーツと社会との関連性を理解しており、自分の考え方、主張を持つため、資料等を収集していた。	スポーツと社会との関連性を概ね理解することができた。	スポーツと社会との関連性に関心を持ち、少し理解することができた。	関心が薄く、ほとんど興味を示さなかった。
オリンピックへの理解	オリンピック・パラリンピックの意義や問題点だけでなく、歴史・戦争・紛争の影響まで理解し、今大会を解析していた。	オリンピック・パラリンピックの意義や問題点だけでなく、歴史・戦争・紛争の影響まで概ね理解していた。	オリンピック・パラリンピックの意義や問題点を理解していた。	オリンピック・パラリンピックの意義や問題点を理解しようと努力していた。	オリンピック・パラリンピックに興味を示さなかった。
スポーツと地域貢献	スポーツと地域の結びつきを理解しており、スポーツが地域活性化にとのような影響をもたらすかについて、自分の考え方、主張を持っていた。	スポーツと地域の結びつきを理解しており、スポーツが地域活性化にとのような影響をもたらすかについて、資料等を収集していた。	スポーツと地域の結びつきを概ね理解していた。	スポーツと地域の結びつきに一定の理解を示し始めていた。	スポーツと地域の結びつきや、スポーツが地域活性化にとんな影響をもたらしているかなどに全く関心がなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ社会学 （科目ナンバリング：SPS422061，SPS512011　　）				
授業担当者 （所属・職名）	戸佐　晃一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階研究室	
単位数	2　（単位認定責任者：　　戸佐　晃一　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンスとスポーツの意義（スポーツの社会性・文化性を探る） シラバスの説明（科目を修了して「身につく力」の説明） 授業改善アンケート結果反映の説明	リファレンスブックの「共通科目Ⅰ」を見る（９０分）	シラバス全体を見る（９０分）
2	世界、日本のスポーツの歴史・発展の歩み（戦争、ゲリラ等も含めて）小レポートの提出	同「共通科目Ⅱ」に目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
3	オリンピック・パラリンピックの歴史と背景㊤	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
4	東京オリンピック・パラリンピックの歴史と背景㊦（問題点、課題も）小レポートの提出	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
5	障害者全体にパラリンピックが及ぼす影響	前回のプリントに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
6	「文化」としてのスポーツ（拡がる共鳴、政治化）小レポートの提出	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
7	スポーツの４つの柱（する、みる、支える、知る）	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
8	スポーツと人権（差別、体罰、ＬＧＢＴなど）前半の振り返りレポート提出	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
9	現代スポーツの多面性（スポンサー、放映権など）	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
10	新スポーツの誕生や底辺の拡大、小レポート提出	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
11	生涯スポーツ（子どもから高齢者）と生きがい	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
12	アマチュアスポーツとプロスポーツ、小レポート提出	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
13	学校部活動問題	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
14	スポーツ指導者制度、小レポート提出	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
15	後半授業の振り返り・フィードバック 授業改善アンケートの実施	授業内容を振り返り確認しておく（９０分）	学習内容を復習し理解しておく（９０分）
16	最終レポート課題の説明とまとめ 科目を修了して「身につく力」の検証	これまでのノートをじっくり読み返す（９０分）	これまでの授業のまとめ（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・２年、デザイン学科・２年、建築学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	教育心理学（MDA） （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	吉澤　英里（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　吉澤　英里　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が，教育実践に必要となる心身の発達および学習過程を理解し、障がいやパーソナリティ、知的能力の違いに応じた学習支援の提案や適切な心理教育的支援について検討できる。

授業の位置づけ

教職課程科目のため、該当なし

到達目標

①教育心理学領域で扱われる理論や専門用語の内容を理解し、説明する。
②教育心理学領域で扱われる理論や専門用語が心理教育的支援の中でどのように活かされているのかを指摘する。

授業全体の内容と概要

教育心理学で扱われるテーマのうち，学習，評価，発達（発達障害を含む），パーソナリティ，臨床心理について講義を行う。それぞれのテーマについて，代表的な理論や専門用語を解説し，それらが日常生活でどのように活用されるのかを考察する。授業では，スライドや板書を活用しながら講義を進める。
「SDGs4．質の高い教育をみんなに」の関連授業

授業の方法

各回の最後に次回のキーワードを示す。各自、予習としてキーワードの内容を調べたうえで授業に臨むこと。授業では，スライド資料（PowerPoint）や板書を適宜活用しながら解説をする。質問にはチャット機能等を活用して随時対応する。授業で使用するスライド資料のデータはオンライン上で共有する。授業内課題①へのフィードバックは提出された課題へコメントをつけて返却する。授業内課題②に対しては授業時間を活用して口頭でフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業の運営・進行を著しく妨害するような行為（私語，大学で認められたもの以外の飲食，携帯電話・スマートフォンの使用，代返　等）が認められた場合，総合評価から大幅に減点することがある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）（必修）

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	４０%	０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
専門知識の理解	専門知識について，非常に理解できた。	専門知識について，かなり理解できた。	専門知識について，やや理解できた。	専門知識について，最低限の理解ができた。	専門知識について、最低限の理解ができなかった。
専門知識の活用	提示された専門知識が活かされるような教育活動を複数挙げ，その根拠をよく説明できた。	提示された専門知識が活かされるような教育活動を複数挙げ，その根拠にを説明できた。	提示された専門知識が活かされるような教育活動を挙げ，その根拠を説明できた。	提示された専門知識が活かされるような教育活動を挙げることができた。	提示された専門知識が活かされるような教育活動を挙げることができなかった。
アカデミック・ライティング	学術レポートのルールに非常に沿って、レポートを執筆できた。	学術レポートのルールにかなり沿って、レポートを執筆できた。	学術レポートのルールにやや沿って、レポートを執筆できた。	学術レポートの最低限のルールに沿って、レポートを執筆できた。	学術レポートの最低限のルールに沿って、レポートを執筆できなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・２年、デザイン学科・２年、建築学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	教育心理学（MDA） （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	吉澤　英里（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　吉澤　英里　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『教育心理学』	市川優一郎/宇部弘子	中山書店	2024	9784521748634	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス及び授業改善アンケート結果反映，授業の進め方，教育心理学の概要と科目を修了して『身に付く力』についての説明）	教育心理学で扱う領域について調べる（９０分）	教育心理学で扱う内容を振り返る（９０分）
2	学習の理論（１）　－学習の行動論的アプローチ－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（９０分）	今回の内容をまとめ，疑問点を整理する（９０分）
3	学習の理論（２）　－学習の認知論的アプローチ－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（９０分）	今回の内容をまとめ，疑問点を整理する（９０分）
4	学習の諸現象（動機づけ）と教育評価　－相対評価・絶対評価の比較とその活用－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（９０分）	今回の内容をまとめ，疑問点を整理する（９０分）
5	学習の過程　－様々な教授・支援・指導法－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（９０分）	今回の内容をまとめ，疑問点を整理する（９０分）
6	学級集団の理解と人間関係　－学級集団における人間関係、認知的バイアス－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（９０分）	今回の内容をまとめ，疑問点を整理する（９０分）
7	記憶の理論　－記憶の仕組みと学習支援への応用－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（９０分）	これまでの学習内容について振り返る（９０分）
8	授業内課題①（学習および学級集団のまとめ－学習の理論を実践へとつなげる方法－）	これまでの学習内容について振り返る（９０分）	授業内ワークで理解できなかった箇所を復習する（９０分）
9	発達（１）　－発達の諸相－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（９０分）	今回の内容をまとめ，疑問点を整理する（９０分）
10	発達（２）　－運動・言語・認知の発達－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（９０分）	今回の内容をまとめ，疑問点を整理する（９０分）
11	発達（３）　－社会性の発達－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（９０分）	今回の内容をまとめ，疑問点を整理する（９０分）
12	パーソナリティ（１）　－パーソナリティの基礎理論－ 授業内課題①へのフィードバック	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（９０分）	今回の内容をまとめ，疑問点を整理する（９０分）
13	知的能力　－知的能力に関する基礎理論と知的能力の測定に関する正しい理解－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（９０分）	今回の内容をまとめ，疑問点を整理する（９０分）
14	配慮を必要とする児童・生徒とその支援　－障がいの適切な理解と支援－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（９０分）	これまでの学習内容について振り返る（９０分）
15	授業内課題②（発達および個人差のまとめ－発達やパーソナリティの理論を実践へとつなげる方法－）と課題へのフィードバック 授業改善アンケートの実施	これまでの学習内容について振り返る（９０分）	提示されたキーワードについて，説明できるように復習する（９０分）
16	６０分の試験終了後，残りの３０分で解説を行う。 科目を修了して『身に付く力』についての検証を行う。	提示されたキーワードについて，説明できるように準備する（９０分）	試験でできなかった問題を振り返る（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	社会科・公民科教育法Ⅰ （科目ナンバリング：ESS143153　　）				
授業担当者 （所属・職名）	松下　守邦（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　松下　守邦　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。 Teamsチーム（本科目）には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

概要

履修目標

授業の目的は、以下の２つが具体化内容である。
①中学校社会科の公民的分野、高等学校公民科における資質育成のねらい、教科内容を学修する。
②授業実践のための教材作成を学修する。

授業の位置づけ

自由科目

到達目標

・社会福祉学の学科専攻領域をこえ、広く社会科学の専門性を理解し説明できる。
・専門知をふまえて高等学校、中学校レベルの学習内容を抽出できる。
・授業つくりは、「ここは重要だから、アンダーラインを引いておこうではない。学んだことを活用して他の事例についておなじことがいえるかを見つける」学びである。（梅津正美　２０２２：７６）
・公民的資質の育成にもとづく分析説明ができる、教科学習内容の概念的枠組みを説明できる、教材研究に主体的な取り組みができる。
下記ルーブリックの合格最低レベル（C）、到達目標にとどまることのないよう留意する。相対性と絶対性を勘案するのでベストを尽くすこと。

授業全体の内容と概要

「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。
公民科の教科目標と内容を把握し、学習指導理論をふまえ、デジタルコンテンツ、大学図書館等の資料を利用するうえで学術資料の信頼性と妥当性を確保し、現代社会における社会的事象等についての概念や理論を教材研究するため、公民科教科指導方法の基礎を学修する。
授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。

授業の方法

・前期1Q科目では、教材研究を主におこなう。講義形式と作業提出が学修の主になる。
・文献読解、教材の取捨選択作業をおこなう。（ＰＢＬ、問題基盤型学習、プレゼンテーション）
・教育機関HPを閲覧し実践資料を収集する。（ＡＬ；その他　情報機器利用）
・授業中の作業課題報告と文献読解レポートは評価対象になる。
・「課題に関する説明～課題に対するフィードバック」：各課題フィードバックを次の授業にて模範回答例が紹介されるので、次回の課題提出の改善材料として利用してほしい。
・大学から交付される学生メールアドレスを使い、マイクロソフト社Teams科目チャネル、Formsを学修利用する。パソコンスキル（レポート作成、準備学修の確認、教員への授業外連絡など、情報通信機器利用マナー）を高めていく。
・「要望等への対応方法」：授業の課題の取り組み方など質問、要望、相談は、随時、対応する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
・教職課程科目（中学社会・高校公民）必修。教材研究は、単に教えられたことを暗記し再現するものでなく、「深い理解、深い学習、深い関与」（松下佳代：２０１５）のアウトプットである。
・新聞記事時事ニュースを収集する。「試験に出るところや楽して点を取る方法を伝える」ことではない「勉強の面白さを伝える」ための学修準備をする。
・「社会科・公民科教育法Ⅰ」、「社会科・公民科教育法Ⅱ」は、順序性のある段階的履修が基本である。単独科目履修希望の場合、教員に事前相談してほしい。
・「社会科・公民科教育法Ⅰ」、「社会科・公民科教育法Ⅱ」の指定テキストは共通のものである。
・教職課程学生は、教員の立場に立つ行動がもとめられる。中学、高校時の公民系教材（教科書、ノート）を準備する。
・授業関連情報コースパケットをマイクロソフト社Teams科目チャネル、過去の科目情報は、大学ＨＰ教員個人ページにあるので参照すること。
https://www.seisadohto.ac.jp/~mmatsu/index.html

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
高校教育までの支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら科目サポートを進めるので、授業開始前に授業者へ相談すること。

資格指定科目

教職課程（社会・公民）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定のためには、授業第１回から第１５回までに計１０回以上の出席が必要になる。
・文献読解（読解；文献要旨報告、文部省（２０１８）、プレゼンテーション；口頭発表をおこなう。学修のまとめとしてレポート作成提出する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	６０%	０%	１０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
テキスト資料により学修した知識を使い、収集した情報を分析し、理解することができる、情報分析力としての知識・技能	テキスト資料の要旨をていねいにまとめており、これまでの学修内容との関連を適切にふまえている。新しく学ぶことについて、複数の例をあげながら、自分の言葉でていねいに説明ができた。	テキスト資料の要旨をまとめており、これまでの学修内容のいくつかを関連づけている。新しく学ぶことについて、自分の言葉で例をあげて説明ができた。	テキスト資料の要旨をまとめており、新しく学ぶことについて、自分の言葉で説明ができた。	テキスト資料の要旨は、改善の余地があるが、まとめている。新しく学ぶことについて、改善の余地はあるが、自分の言葉で説明ができた。	テキスト資料の要旨をまとめる作業が難しい。新しく学ぶことについて、説明は難しく、知識・技能は修得できなかった。
文献資料の信頼性を保ちながら、学術概念を使って考察すること、客観的立場から社会的事象について論理的に分析表現をすることができる、思考力・判断力・表現力	課題に関連して、信頼性のある文献資料を複数選び、適切に引用している。新しく学ぶことは、自らの知見と既知の事項を整理して表現することができた。	課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、適切な手続きで引用している。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけながら、論理的に表現ができた。	課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、引用している。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけながら表現ができた。	課題に関連して、改善の余地があるが、文献資料を選び引用している。新しく学ぶことは、充分ではないが、これまでのものを関連づけて表現ができた。	課題に関連して、文献資料を選び、引用することが難しい。新しく学ぶことは、表現することが難しく、思考力・判断力・表現力は修得できなかった。
大学の学修環境を創造するメンバー（教職課程の教生）として自覚し、自分の意見と異なる意見を統合させながら、学修経験を高めていこうとする、関心・意欲・態度	大学生（教職課程の教生）としての役割と責任を自覚し、積極的、協同的に行動することができた。	大学生（教職課程の教生）として役割は、おおむね理解しており、行動することができた。	大学生（教職課程の教生）として自分の役割は、基本的な行動をすることができた。	大学生（教職課程の教生）として自分の役割は、改善の余地はあるが、行動することができた。	大学生（教職課程の教生）として自分の役割は、自ら理解して行動することが難しく、関心・意欲・態度はみられなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	社会科・公民科教育法Ⅰ （科目ナンバリング：ESS143153　　）				
授業担当者 （所属・職名）	松下　守邦（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　松下　守邦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。 Teamsチーム（本科目）には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『社会科　中学生の公民』	江口ほか	帝国書院	２０２４		中学社会検定済教科書（公民046-92）
2	『高等学校　公共』	苅部ほか	帝国書院	２０２１		高校公共検定済教科書（公共707）
3	『ライブ！公共　２０２５』	帝国書院	帝国書院	２０２５	9784807167	
4	『つまずきから授業を変える！高校公民「PDCA」授業＆評価プラン	橋本康弘	明治図書出版	２０１５	9784183898333	
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『中学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　社会編』	文部科学省	東京書籍	２０１８	9784491034713	https://www.mext.go.
2	『高等学校学習指導要領（平成３０年告示）解説　公民編』	文部科学省	東洋館出版社	２０１９	9784487286331	https://www.mext.go.
3	『ベストをつくす教育実習-強みを活かし実力を伸ばす』	筒井 美紀/遠藤野ゆり	有斐閣	２０１７	9784641174320	
4	『中学校社会　指導スキル大全』	津梅正美	明治図書	2022	9784184522336	
5	『教育の情報化に関する手引』	文部科学省		2019		

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	公民科の教育目標と教科内容の基礎理解 （ガイダンス、前年度本科目、授業改善アンケート結果反映、シラバス、本科目の修了により「身に付く力」を説明）	シラバスをあらかじめ確認する。（９０分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（９０分）
2	中学校社会科と公民的資質	テキスト(梅津正美：２０２２)、資料を予習する。（９０分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（９０分）
3	高等学校公民科と公民的資質	テキスト(梅津正美：２０２２)、資料を予習する。（９０分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（９０分）
4	問題解決学習と課題解決学習	テキスト(梅津正美：２０２２)、資料を予習する。（９０分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（９０分）
5	概念的枠組み、事実的知識と汎用的理論	テキスト(梅津正美：２０２２)、資料を予習する。（９０分）	授業１-５回学習整理する。（９０分）
6	資料作成の概念	テキスト(梅津正美：２０２２)、資料を予習する。（９０分）	教育課程企画特別部会資料を確認する。（学習の浅さと深さ）（2015/03/24/1355105_07.pdf）（９０分）
7	時案作成の概念	テキスト(梅津正美：２０２２)、資料を予習する。（９０分）	今回の学習容（テキスト、資料）を復習する。（９０分）
8	教科書の理解、学習指導要領と教科書	テキスト(梅津正美：２０２２)、資料を予習する。（９０分）	文科省ＨＰ現行学習指導要領（本文、解説、資料等）を確認する。（９０分）
9	教科書の理解、本文、図表、重要用語	テキスト(梅津正美：２０２２)、資料を予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。 図書情報館、専門辞典の確認（９０分）
10	教科書の理解、中学校公民的分野と高校公民の比較	テキスト(梅津正美：２０２２)、資料を予習する。（９０分）	学習課題（中学校、高校の教科書比較）作成提出する。（９０分）
11	教科書の理解、高校公民同一教科各教科書の記述分析	テキスト(梅津正美：２０２２)、資料を予習する。（９０分）	学習課題（高校同一教科の教科書比較）を作成提出します。（９０分）
12	教科書の理解、教科書と副教材資料集	テキスト(梅津正美：２０２２)、資料を予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。教職センター資料の確認する。（９０分）
13	教科書の理解、まとめ	テキスト（検定教テキスト(梅津正美：２０２２)、資料を予習する。（９０分）	授業６－１３回の学習整理をします。（９０分）
14	教育実践支援ＩＣＴ、政府研究所ＨＰ、教育委員会ＨＰ	テキスト(梅津正美：２０２２)、資料を予習する。（９０分）	川崎直KP法、YouTubeチャンネルKP法を学習する。（９０分）
15	公民科の教育目標と学習内容の基礎理解、総括	テキスト(梅津正美：２０２２)、資料を予習する。（９０分）	授業全体の学習整理する。（９０分）
16	本科目のまとめ （授業の総括とフィードバック、本科目の修了により「身に着く力」について検証、授業改善アンケートを実施）	全授業のまとめを準備する。（９０分）	全授業を振り返り、学習内容の内省的レポートを期日までに提出する。（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年（留学生対象）		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本語Ⅰ （科目ナンバリング：JLN051038　　）				
授業担当者 （所属・職名）	髙橋　真弥（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	1　（単位認定責任者：　髙橋　真弥　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

日本語でのレポートやレジュメの書き方、ＰＰＴの作成、授業内発表など、学生が大学生活を送るうえで必要なスキルや語彙力を身につける。また、授業内容は日本に関することに限らず日本国外の文化・歴史も例にあげ、幅広いジャンルで学ぶ。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

日本語の文章を読む・書くことで語彙力を広げ、レポート等の課題を通して文章作成の基礎を習得し、授業内の発表を通して説明や質疑応答といったプレゼンテーション能力を身につける。

授業全体の内容と概要

担当教員が様々なテーマのもと、各発表形式（レポート、レジュメ、ＰＰＴ）を使用して講義を行う。それを参考に、学生自身がテーマを選んで報収収集し、発表を行う。授業内容は時事問題やエンタメ、サブカル、日本や日本以外の国の文化比較など、様々なジャンルに渡る。

授業の方法

教科書の購入はなく、授業内で使用する教材は担当教員が準備する。講義形式で授業を行い、参考資料を読みながら練習問題を解き、日本語能力を上げていく。テーマに沿ったディスカッションでは、積極的に学生に発言させ、学生主体の授業進行とする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

遅刻、欠席をしないこと。３０分の遅刻は欠席とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

全授業回数１６回のうち、単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上とする。出席および授業内課題を通して評価を行う。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３５%	３５%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
日本語の知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった。	学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まなかった。
思考力・判断力・日本語の表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年（留学生対象）		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本語Ⅰ （科目ナンバリング：JLN051038　　）				
授業担当者 （所属・職名）	髙橋　真弥（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	1　（単位認定責任者：　髙橋　真弥　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『思考を鍛えるレポート論文作成法［第3版］』	井下千以子	慶應義塾大学出版会	2019年	9784766425772	購入の必要なし
2	『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド』	佐渡島 紗織・坂本 麻裕子・大野 真澄	大修館書店	2015年	9784469222449	購入の必要なし
3	『大学１年生の君が、はじめてレポートを書くまで。』	川崎昌平	ミネルヴァ書房	2020年	9784623088898	購入の必要なし
4	『「うまい文章」の共通ルールがゼロから身につく 伝わる文章術見るだけノート』	山口拓朗	宝島社	2021年	9784299018359	購入の必要なし
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス説明《科目を修了して「身につく力」についても説明》・授業説明） 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読む（４５分）	授業内容復習（４５分）
2	文章の書き方・構成①	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
3	文章の書き方・構成②	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
4	文章の書き方・構成③	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
5	小論文作成	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
6	小論文フィードバック	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
7	レジュメの書き方～基本の形・テーマ決め・内容～	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
8	レジュメの作成・発表・書き直し①	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
9	レジュメの作成・発表・書き直し②	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
10	レポートの書き方～基本の形・テーマ決め・内容～	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
11	レポートの作成・発表・書き直し①	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
12	レポートの作成・発表・書き直し②	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
13	パワーポイントの作り方～基本の形・テーマ決め・内容～	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
14	パワーポイントの作成・発表①	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
15	パワーポイントの作成・発表②	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
16	総括（「身につく力」の検証） 授業に係る講評・解説によるフィードバック 授業改善アンケートの実施	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	平面構成Ⅰ （科目ナンバリング：AEA211003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　北嶋　洋一　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	グラフィックデザイナーの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてグラフィックデザインの基本を指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

デザインの成り立ちに於いて重要とされる要素（エレメント）と原則（プリンシプル）を平面上の造形を通じて学ぶことにより、後に様々な制作活動で応用が可能な造形力を養う。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

デザインの要素（エレメント）である「色」「形」「線」「スペース」「バランス」「テクスチャ」「フォーム」「明暗」の存在を実感し、それらを「統一性」「調和」「多様性」「強弱」などの原則（プリンシプル）を理解した上で効果的に演出し、作品制作に応用できる造形力を身に付ける。

授業全体の内容と概要

与えられたテーマやモチーフを基に平面を表現する課題の繰り返しを行う。
課題の内容については、段階を経て複雑かつ高度な内容へと進化するように設定する。

授業の方法

各課題作品のテーマや補助的な知識について適宜講義し、制作を進めて行く。
制作は伝統的なアナログ作業とし、デジタルでの制作は行わない。
画材はアクリルガッシュ、筆、パレット、鉛筆、定規、コンパス、カッターナイフ、スケッチブックなどを用い、課題の提出形態はA3サイズのケントボードを用いる。
不測時の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

制作に必要な画材（アクリルガッシュ、筆、パレット、鉛筆、定規、コンパス、カッターナイフ、スケッチブック、ケントボードなど）を各自用意し、毎授業に持参すること。
課題によっては上記の他にも必要な画材が発生する場合があるが、その際は授業の中で指示する。
不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

教職課程（美術）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
画材の扱い方を習得しており、丁寧な作業ができる。	画材の扱い方に優れており、丁寧な仕上がりを意識しながら作品を完成させることができる。	画材の扱い方に問題はなく、丁寧な仕上がりを意識した作業ができる。	画材の扱い方に未熟な点はあるが、概ね正しい作業ができる。	画材の扱い方については作業が可能な最低限と言える。	画材を全く使いこなせていなかった。
テーマを理解し、その内容に沿った課題の制作が行える。	十分に理解し、制作が行えていた。	概ね理解し、作業に取り組んでいた。	不十分ではあるが、理解している部分があった。	あまり理解できていなかった。	全く理解できていなかった。
デザインの要素（エレメント）と原則（プリンシプル）を理解しながら、効果的に演出した制作を行える。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが、出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	平面構成Ⅰ （科目ナンバリング：AEA211003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2	（単位認定責任者：　　北嶋　洋一　　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	グラフィックデザイナーの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてグラフィックデザインの基本を指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ガイダンス～平面構成の作品鑑賞 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスの確認（90分）	情報の整理と画材のまとめ（９０分）
2	デザインの要素（エレメント）と原則（プリンシプル）	シラバスの確認（９０分）	情報の整理（９０分）
3	実験「画材について」	シラバスの確認（９０分）	実験の復習（９０分）
4	実験「画面の分割・作図・着彩」	シラバスの確認（９０分）	実験の復習（９０分）
5	基礎的な実験課題①	シラバスの確認（９０分）	課題の制作（９０分）
6	基礎的な実験課題②	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
7	基礎的な実験課題③	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
8	基礎的な実験課題④	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
9	基礎的な実験課題⑤	課題の制作（９０分）	講評内容の整理（９０分）
10	基礎的な実験課題⑥	シラバスの確認（９０分）	課題の制作（９０分）
11	基礎的な実験課題⑦	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
12	基礎的な実験課題⑧	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
13	基礎的な実験課題⑨	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
14	基礎的な実験課題～講評	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
15	材料研究	シラバスの確認（９０分）	課題の制作（９０分）
16	材料研究	シラバスの確認（９０分）	課題の制作（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	幾何形体を用いた練習課題①	シラバスの確認（９０分）	課題の制作（９０分）
18	幾何形体を用いた練習課題②	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
19	幾何形体を用いた課題①	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
20	幾何形体を用いた課題②	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
21	幾何形体を用いた課題③	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
22	幾何形体を用いた課題④	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
23	幾何形体を用いた課題⑤	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
24	幾何形体を用いた課題⑥	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
25	幾何形体を用いた課題⑦	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
26	幾何形体を用いた課題⑧	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
27	幾何形体を用いた課題⑨	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
28	幾何形体を用いた課題⑩	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
29	幾何形体を用いた課題 ～ 講評	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
30	幾何形体を用いた課題 ～ 講評	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
31	平面構成Ⅱの予告 フィードバック	シラバスの確認（９０分）	平面構成Ⅰのまとめ（90分）
32	授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	シラバスの確認（９０分）	平面構成Ⅰのまとめ（90分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	西洋美術史Ⅰ （科目ナンバリング：FAH211010　　）				
授業担当者 （所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2　（単位認定責任者：　竹内　美帆　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

ルネサンス以降の西洋の絵画を中心とする美術の歴史を理解する。各時代を代表する画家の主要作品を通して、西洋美術に慣れ親しむとともに、その画家や作品を生み出した社会や文化に対する理解を深める。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

西洋美術史の時代区分、様式、流派、個々の美術作品などに対する基礎的な知識を習得する。
個々の作品の特徴や社会的背景などについて自分の言葉で説明することができる。

授業全体の内容と概要

西洋美術の流れを概観し、具体的な作品を取り上げながら、個々の美術作品の特徴や時代区分、様式、流派について学び、作品の背景にあるものを含めて、美術作品を「視る」能力を高める。

授業の方法

講義形式で、パワーポイントやレジュメ、視聴覚メディア等を使って実施する。グループワークやディスカッションも取り入れる。
授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

事前学習として、授業内で取り上げる作品について事前にテキストやインターネット等で予習し、事後学習として取り上げた作家の他の作品について調べると、理解が深まる。教科書は西洋美術史Ⅱでも使用するため、必ず購入すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程必修　高・美術、工芸

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
３０%	０%	０%	３０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
美術史の内容に対する理解度	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自の視点から考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自の視点から考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
文献や資料の調査・活用	授業で取り上げた資料を越えて、独自性のある調査ができた。	授業で取り上げた資料を越えて、必要な調査ができた。	授業で取り上げた資料を理解し活用できた。	授業で取り上げた資料を理解できた。	授業で取り上げた資料の理解・活用が不十分だった。
表現力	他人が納得できるように、自分独自の視点を論理的妥当性・整合性をもって述べることができた。	授業で学んだことを生かして、自分独自の視点を、論理的妥当性・整合性をもって述べることができた。	授業で学んだことを生かして、論理的妥当性・整合性をもって自分の考えを述べることができた。	自分の意見を述べることができた。	講義中や期末テストで自分の意見を述べられなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	西洋美術史Ⅰ （科目ナンバリング：FAH211010　　）				
授業担当者 （所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2　（単位認定責任者：　竹内　美帆　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『いちばん親切な西洋美術史』	池上英洋、川口清香、荒井咲紀	新星出版社	2016	9784405072282	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『美術でめぐる　西洋史年表』	池上英洋、青野尚子	新星出版社	2021	9784405108134	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業についてのオリエンテーション　授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明 なぜ美術史を学ぶのか　プロト・ルネサンス	シラバスを読んでおく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
2	初期ルネサンス（１）遠近法の発見　ルネサンスの背景　ブルネッレスキ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
3	初期ルネサンス（２）マザッチョ、ドナテッロ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
4	初期ルネサンス（３）古典復興と芸術革新、ボッティチェリ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
5	盛期ルネサンス（１）レオナルド・ダ・ヴィンチ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
6	盛期ルネサンス（２）ミケランジェロ、ラファエッロ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
7	盛期ルネサンス（３）ティツィアーノとヴェネツィア派 小テスト実施	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
8	北方ルネサンス（１）ヤン・ファン・エイク、ボス、デューラー 小テストの結果について授業内でコメントしてフィードバックする	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
9	マニエリスム　古典的理想美からの逸脱	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
10	バロック美術（１）イタリアにおけるバロックの成立　カラッチ、カラヴァッジョ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
11	バロック美術（２）絶対王政を支えた画家たち　ルーベンス	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
12	バロック美術（３）スペイン・ベラスケス	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
13	バロック美術（４）オランダ　風景画の成立　静物画とヴァニタス	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
14	バロック美術（５）オランダ　フェルメール　レンブラント	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
15	まとめ 授業改善アンケート実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
16	定期試験 試験のフィードバックはTeamsにより模範解答例を提示する	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	授業内容を復習する（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択必修
科目名称	建築環境Ⅰ （科目ナンバリング：AEN313010　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐々木　哲之（建築学科・特任教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　佐々木　哲之　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築の目的はその発生の当初から，外界の厳しい自然環境から人間生活を護ることにあり，快適な室内環境の実現には建築技術の長い発展の不断の目標である。そのために空気，熱，光，音の基本性質を学習し，それらが建築環境にどのように関わるかを理解・修得する。

授業の位置づけ

建築学科のＤＰ１，ＤＰ３，ＤＰ４に対応する。

到達目標

空気，熱，光，音が建築物に与える影響を知り，建築物の配置計画，平面計画を実施する際の建築計画の基本となる知識として身に付け，応用できる。

授業全体の内容と概要

自然（外部）環境が室内環境に及ぼす要因と空気環境の基準を学ぶ。また，自然環境が建築物に与える功罪を知る手がかりとして日照と日射の基礎的取扱いからその建築計画上の方法の理解。採光計画における昼光率，設計用天空照度，照度の計算そして、換気と通風の理論，及びその応用など大別して講義展開をする。また「SDG3．すべての人に健康と福祉を」の関連授業である。

授業の方法

テキストに加えて，プロジェクターによる画像，図表で解説するので，ノートに講義内容と資料を整理すること。また，課題は各単元ごとに出題し，それはレポート，小テストの形式とする。課題返却後，解説をする。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施し，欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業成果の確認のため単元ごとに小テストを行うので，講義にはテキスト，過去分のノート，電卓は必ず持参すること。 ３０分以上の遅刻は欠席とする。また，遅刻３回で欠席１回とみなすので注意すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」必修科目，教職課程（工業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	１０%	１０%	１０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築環境に関わる基礎的知識について	知識を十分に習得しており，それを応用でき，説明・解説ができた。	知識を十分に習得しており，それを応用できた。	知識を十分に習得していた。	基礎的な知識を理解できていた。	基礎的な知識が不足していた。
光環境に関わる知識や計算について	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用でき，説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計算ができ，さらにそれを応用できた。	知識を習得して計算ができ，さらにそれを十分ではないが応用できた。	知識を習得して計算ができた。	知識が不足し計算ができなかった。
採光と照明に関わる知識と計算について	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用でき，説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計算ができ，さらにそれを応用できた。	知識を習得して計算ができ，さらにそれを十分ではないが応用できた。	知識を習得して計算ができた。	知識が不足し計算ができなかった。
通風と換気に関わる知識と計算について	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用でき，説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計算ができ，さらにそれを応用できた。	知識を習得して計算ができ，さらにそれを十分ではないが応用できた。	知識を習得して計算ができた。	知識が不足し計算ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択必修
科目名称	建築環境Ⅰ （科目ナンバリング：AEN313010　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐々木　哲之（建築学科・特任教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　佐々木　哲之　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新 建築環境工学』	田中俊六	井上書院	2022	978-4-7530-1757-7	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を終了して「身につく力」の説明　　建築環境の概要	シラバスにより次回の部分を予習すること（90分）	授業内容を復習すること（90分）
2	快適環境-１　人体生理と室内環境	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分
3	快適環境-２　空気環境の基準	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分
4	快適環境-３　温熱環境　絶対湿度と相対湿度　有効温度	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分
5	光環境－１　日照と住環境	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分
6	光環境－２　日照と日射　昼光照度と日射量、 日照と建築計画	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分
7	光環境－３　日影曲線，日影図，日影時間，日影の検討方法	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分
8	光環境－４　日射と日照調整	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分
9	採光と照明-１　測光量とその単位　照度，光束，輝度	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分
10	採光と照明-２　昼光光源　設計用天空照度　照度の計算	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分
11	採光と照明-３　昼光率とその計算法	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分
12	換気と通気－１　人体と必要換気量　用途に応じた必要換気量と換気方式	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分
13	換気と通気－２　室内通風　通風の現象，通風による温熱効果	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分
14	換気と通気－３　圧力差と換気量　温度差による換気，換気計算	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分
15	まとめ 授業改善アンケートの実施	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分
16	定期試験（60分）及び解説（30分）をし，フィードバックする 科目を修了して「身につく力」についての検証	これまでの授業範囲を見直し予習すること（90分）	試験内容を振り返り，特に専門用語を復習すること（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	社会福祉の原理と政策Ⅱ （科目ナンバリング：SWS121018　　）				
授業担当者 （所属・職名）	上原　正希（社会福祉学部・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　上原　正希　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

１．福祉政策を捉える基本的な視点として、生活上のニーズと福祉政策の過程を結び付けて理解する。
２．福祉政策の動向と課題を踏まえた上で、関連施策や包括的支援について理解する。
３．福祉サービスの供給と利用の過程について理解する。
４．福祉政策の国際比較の視点から、日本の福祉政策の特性について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP３，DP４に対応する。

到達目標

１．社会福祉士と精神保健福祉士に必要な基礎的な理論について理解することができる。
２．ソーシャル・ポリシー（社会政策）が元来の福祉政策のみならず、直接福祉を目的としない政策（所得政策、雇用政策、住宅政策、教育政策など）を含む意義と目的を理解することができる。
３．福祉の市場化の意義と目的を理解することができる。
４．主要国の福祉制度の外観を理解し、今後の我が国のソーシャル・ポリシーの方向性を考えることができる。

授業全体の内容と概要

１．「社会福祉の原理と政策Ⅰ」を踏まえて、ソーシャル・サービスの構成要素と供給主体を学ぶ。
２．福祉の市場化について、その内容と背景を学ぶ。
３．福祉を直接の目的としない個々のソーシャル・ポリシー及びソーシャルワークとの関連を学ぶことから、福祉における「公平と効率」の意義を学ぶ。
４．「SDG３．すべての人に健康と福祉を」の関連授業。

授業の方法

１．授業形態は基本は「講義形式」であるが、グループで話し合うなどの作業を行うこともある。
２．テキストを使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行う。
３．適宜質問を促し、質問に対応する。
４．自然災害等などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もあるが、しかし保育士養成課程学生については対面での実施となる。
５．ソーシャルワーカーなどの、お話を聞く授業等がある場合もある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１．「社会福祉の原理と政策Ⅰ」を踏まえ、社会保障やソーシャルワークの基盤と専門職など、他の授業との関わりに注意する。
２．教科書は必ず持参すること。
３．必要な資料等は適宜配布する。
４．板書した内容をしっかり写し、毎回の授業後にノートの整理をする。
５．適宜質問に対応する。
６．自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。
７．スクールソーシャルワーカー等のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。
８．大学のペーパレス化に伴い、教科書は必須ですので絶対に購入してください。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

１．教科書は必ず持参する。
２．必要な資料等は適宜配布する。
３．出席回数は最低１０回なければ試験を受験できない。
４．その他については、出席状況３０%の評価である。
５．成績評価分布の目標について「S」は履修者の１０%以内とし、「A」と「S」を含めて履修者の４０%以内とする。
但し、履修者が１０人未満の授業科目は、授業形態等を考慮し、成績評価の割合の対象外とする（絶対評価と相対評価を併用する）。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	０%	０%	０%	３０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
直接福祉を目的としないソーシャル・ポリシー	ソーシャル・ポリシーの概念とソーシャル・サービスの概念との範囲の違いに気付くことができた。	ソーシャル・ポリシーとソーシャル・サービスの関連を理解できた。	ソーシャル・ポリシーが直接福祉を目的としない政策を含む背景を理解できた。	直接福祉を目的としない個々のソーシャル・ポリシーの意義と目的を理解できた。	直接福祉を目的としない個々のソーシャル・ポリシーの意義と目的を理解できなかった。
福祉の市場化	福祉における公平と効率の関係を説明することができた。	福祉における効率化の必要性を説明することができた。	福祉の市場化の背景と目的を理解することができた。	福祉の市場化の内容を理解できた。	福祉の市場化の内容を理解できなかった。
今後のソーシャル・ポリシーの方向性	公平と効率を念頭に自らの福祉観を表現することができた。	自らの福祉観を持つことができた。	社会変化の方向性とソーシャル・ポリシーの方向性を整合的に説明することができた。	論理的に今後のソーシャル・ポリシーの方向性を説明することができた。	今後のソーシャル・ポリシーの方向性を説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	社会福祉の原理と政策Ⅱ （科目ナンバリング：SWS121018　　）				
授業担当者 （所属・職名）	上原　正希（社会福祉学部・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　上原　正希　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新・社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座　４　社会福祉の原理と政策』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	9784805882344	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション 授業改善アンケート結果の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明 ソーシャル・サービスにおけるニーズについて（把握方法、種類と内容など）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
2	ソーシャル・サービスにおける社会資源について（種類とその特徴，新たな構築など）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
3	福祉政策の構成要素について（福祉の基礎構造，措置制度から契約方式へなど）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
4	福祉政策の過程について（福祉のPDCAサイクル、福祉計画、実施方法と手段など）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
5	福祉政策の動向と課題について（地域包括ケアシステムなど）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
6	直接福祉を目的としない政策（保健医療政策および防災・災害時避難政策）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
7	直接福祉を目的としない政策(1)（権利擁護政策）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
8	直接福祉を目的としない政策(2)（権利擁護政策）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
9	直接福祉を目的としない政策（所得政策および雇用政策）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
10	直接福祉を目的としない政策（住宅政策および教育政策）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
11	ソーシャル・サービスの供給部門について（福祉の多元化を含む）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
12	ソーシャル・サービスの供給過程について（福祉行財政、市場化などを含む）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
13	ソーシャル・サービスの利用主体と援助方法について（対人援助とコミュニティを含む）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
14	ソーシャル・サービス及びソーシャル・ポリシーの国際比較と時事および今後の課題について まとめとして，ソーシャル・ポリシーにおける公平と効率およびソーシャル・ポリシーの全体像の確認	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
15	授業改善アンケートの実施 【定期試験】60分	テスト勉強をしておくこと（９０分）	テストの振り返りを行うこと（９０分）
16	授業全体・試験の解説 科目を修了して『身に付く力』についての検証 試験等のフィードバック	科目が修了するにあたり『身に付く力』について自分で検証をしておくこと(９０分)	科目が修了して『身に付く力』について自分で振り返ること(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業論文（9月期卒） （科目ナンバリング：THE134149，THE434090，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	専門演習ⅡAB担当教員（社会福祉学科・教授・准教授・専任講師）	研究室等所在	１号館２階　２号館８階		
単位数	4　（単位認定責任者：　専門演習ⅡAB担当教員　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに研究テーマにそった執筆の指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

社会福祉学科が定める卒業論文の規定に沿って執筆し、その過程で資料の熟読、エヴィデンスの発見と使用、参考文献の引用の方法を学び、卒業後の実務にも生かせるクリティカルシンキングを身につける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

卒業論文を完成させ、また、自分が執筆した論文の内容をプレゼンすることができる。

授業全体の内容と概要

各指導教員の指導方法にそって執筆する。
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

基本的に、指導教員とのマンツウマンの指導で行うが、担当教員によって独自の指導方法を課す場合がある。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、相談、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各指導教員によって異なる

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

各指導教員によって異なる。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文のペーパー完成	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による
データ提出	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による
プレゼンテーション	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業論文（9月期卒） （科目ナンバリング：THE134149，THE434090，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	専門演習ⅡAB担当教員（社会福祉学科・教授・准教授・専任講師）	研究室等所在	１号館２階　２号館８階		
単位数	4　（単位認定責任者：　専門演習ⅡAB担当教員　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに研究テーマにそった執筆の指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	指導教員による 科目を修了して『身に付く力』についての説明	指導教員による	指導教員による
2	指導教員による	指導教員による	指導教員による
3	指導教員による	指導教員による	指導教員による
4	指導教員による	指導教員による	指導教員による
5	指導教員による	指導教員による	指導教員による
6	指導教員による	指導教員による	指導教員による
7	指導教員による	指導教員による	指導教員による
8	指導教員による	指導教員による	指導教員による
9	指導教員による	指導教員による	指導教員による
10	指導教員による	指導教員による	指導教員による
11	指導教員による	指導教員による	指導教員による
12	指導教員による	指導教員による	指導教員による
13	指導教員による	指導教員による	指導教員による
14	指導教員による	指導教員による	指導教員による
15	指導教員による	指導教員による	指導教員による
16	指導教員による	指導教員による	指導教員による

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	指導教員による	指導教員による	指導教員による
18	指導教員による	指導教員による	指導教員による
19	指導教員による	指導教員による	指導教員による
20	指導教員による	指導教員による	指導教員による
21	指導教員による	指導教員による	指導教員による
22	指導教員による	指導教員による	指導教員による
23	指導教員による	指導教員による	指導教員による
24	指導教員による	指導教員による	指導教員による
25	指導教員による	指導教員による	指導教員による
26	指導教員による	指導教員による	指導教員による
27	指導教員による	指導教員による	指導教員による
28	指導教員による	指導教員による	指導教員による
29	指導教員による	指導教員による	指導教員による
30	指導教員による	指導教員による	指導教員による
31	指導教員による	指導教員による	指導教員による
32	授業内フォードバック 科目を修了して『身に付く力』についての検証	指導教員による	指導教員による

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	4年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業論文（9月期卒） （科目ナンバリング：THE134149，THE434090，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）	研究室等所在	2号館6階		
単位数	4　（単位認定責任者：　信濃　吉彦　）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

本学での3年数か月に及ぶ学びから、蓄積された知識と経験をもとに経営学部生としての総括として論文を作成する。各自自主的にテーマを設定し、学問的（客観的・論理的）な思考・考察を加えてもらう。学問的に問題解決する力を身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

多岐にわたる経営学の分野を理解・研究し、明確なテーマに沿って客観的考察を行う。また、そのために必要な資料やデータを収集し文字化する。可能な限り後輩や社会の未来に対し財産となるような取り組みを期待する。

授業全体の内容と概要

「題材」に沿った形でテーマを決定し作成を進める。最終的な成果を論文の形にまとめることが求められる。その過程における資料収集やデータ作成、アンケート調査など持てる能力を全て発揮してもらう。

授業の方法

自分で決めたテーマに沿った考察を行うため既修内容を考慮しつつ情報収集・分析・考察を加え客観文にまとめ上げること。中間審査や担当教員との報連相を繰り返すことにより高いクオリティを求める。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

適宜アナウンスするので、その指示に従うこと。本科目は学習内容のエビデンスとしてのデータベースを重視する。データベースとは、教員が設定した内容を自学・自習しテーマを決めるに至った過程、並びに論文作成に用いた考え方やデータの出処、それらの要点をまとめた電子媒体を指し、重要タームに関しては各自が理解した内容およびネット上から得た知識の確認を以て学習態度を計る。学習態度とは、本科目においては一切の剽窃を廃し、論文作成に係るすべてのエビデンスの有無を確認することにある。これらは積極性を確認する極めて有効な手段であると断じる。尚、不測の事態の際はオンラインで指導する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回/１６回（２６回/３２回）以上。
最終的な評価は、学科の講評会を経て決定される。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	８０%	0%	0%	２０%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	エビデンスとしてのデータベース評価で90点以上の得点を挙げた。	エビデンスとしてのデータベース評価で80点以上の得点を挙げた。	エビデンスとしてのデータベース評価で70点以上の得点を挙げた。	エビデンスとしてのデータベース評価で60点以上の得点を挙げた。	エビデンスとしてのデータベース評価で60点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に論文に取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての実力を　確立するための努力をしている。	論文に取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての理解が深まりつつある。	論文に取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての　努力が見られる。	論文に取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての努力は認められるが活動と論文の間の関連性が希薄である。	論文への取り組みが不十分で、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての進歩が見られず、前向きな成長が確認できない。
主体性	自己の目標をしっかりと設定し、データベース化への取り組みが確認できた。	質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり学習への取り組みが前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか日々の学習はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、知識の獲得が必要最小限度を超えない。データベースも脆弱である。	自分から進んで実力を身につけようとする姿勢およびデータベース化に対する前向きな姿勢が見受けられない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	4年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業論文（9月期卒） （科目ナンバリング：THE134149，THE434090，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	2号館6階	
単位数	4	（単位認定責任者：　　信濃　吉彦　　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜準備・配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	本学経営学部生として取り組む論文の体裁に関して（科目オリエンテーション） シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	180分	180分
2	担当教員による指導①	180分	180分
3	担当教員による指導②	180分	180分
4	担当教員による指導③	180分	180分
5	担当教員による指導④	180分	180分
6	担当教員による指導⑤　中間審査①	180分	180分
7	担当教員による指導⑥	180分	180分
8	担当教員による指導⑦	180分	180分
9	担当教員による指導⑧	180分	180分
10	担当教員による指導⑨	180分	180分
11	担当教員による指導⑩　中間審査②	180分	180分
12	担当教員による指導⑪	180分	180分
13	担当教員による指導⑫	180分	180分
14	担当教員による指導⑬	180分	180分
15	担当教員による指導⑭	180分	180分
16	担当教員による最終指導と論文提出期限の確認 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	180分	180分

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	漫画Ⅰ （科目ナンバリング：AEA222064　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三上　いずみ（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　三上　いずみ　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	漫画家として出版経験のある教員がその経験を活かして漫画の描き方を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

漫画の構成・特徴についての理解を深める。
漫画を描くために必要な道具の使い方を理解し、基礎技術を習得する。
漫画の仕組みを理解した上で、漫画での表現方法を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

漫画の構成・特徴について知る。
漫画を描くために必要な道具の使い方を理解する。
漫画の仕組みを理解し、表現方法を学ぶ。

授業全体の内容と概要

漫画とはなにか、その本質について考え、漫画の定義を知り、実際に漫画を描く。
また、漫画を描くための基本的な技法（アナログ表現）を学ぶ。
漫画の形式に沿って課題に取り組み、制作し、発表する。

授業の方法

授業は板書・パワーポイント・資料配布・実演等の方法で説明する。プロジェクター使用。
授業後にデジタル資料はTeamｓに保存するので振り返り可能。漫画を描くための道具（アナログ）を使用する。
漫画を描くための基本的な技法の課題がある。課題は授業内で実践し、授業後に練習して提出する。
漫画を作成するときは段階ごとに個別に対応する。課題は添削、講評にてフィードバックする。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

必要な漫画道具を購入すること。
授業開始から３０分間で学習内容の説明を行うので遅刻しないこと。
欠席する場合は事前に連絡すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

最低出席回数２２回以上。
完成した課題を期日までに提出すること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
漫画の構成・特徴についての理解を深める。	漫画の構成・特徴について理解を深め、作品に活かすことができた。	漫画の構成・特徴について理解を深めることができた。	漫画の構成・特徴について理解を深めることに努めた。	漫画の構成・特徴について知ることができた。	漫画の構成・特徴について知ることができなかった。
漫画を描くために必要な道具の使い方を理解し、基礎技術を習得する。	漫画を描くために必要な道具の使い方を理解し、基礎技術を習得し、磨くことができた。	漫画を描くために必要な道具の使い方を理解し、基礎技術を習得した。	漫画を描くために必要な道具の使い方を理解し、基礎技術の習得に努めた。	漫画を描くために必要な道具の使い方を理解した。	漫画を描くために必要な道具の使い方を理解できなかった。
漫画の仕組みを理解した上で、漫画での表現方法を身につける。	漫画の仕組みを理解した上で、漫画での独自の表現方法を身につけることができた。	漫画の仕組みを理解した上で、漫画での表現方法を身につけることができた。	漫画の仕組みを理解した上で、表現方法を身につけることに努めた。	漫画の仕組みを理解し、表現方法を学ぶことができた。	漫画の仕組みを理解し、表現方法を学ぶことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	漫画Ⅰ （科目ナンバリング：AEA222064　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三上　いずみ（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2	（単位認定責任者：　　三上　いずみ　　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	漫画家として出版経験のある教員がその経験を活かして漫画の描き方を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明・科目を修了して「身に付く力」についての説明 漫画道具の説明	シラバスを読んでおくこと（４５分）	必要な道具を準備する。（４５分）
2	自己紹介イラスト　下描き 自分をキャラクター化する レイアウトについて	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
3	自己紹介イラスト　ペン入れ・完成	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
4	自己紹介イラスト　冊子作成・発表 〆切について	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
5	つけペンの練習	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
6	オリジナルキャラクター 顔を描く	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
7	カケアミ技法	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
8	オリジナルキャラクター 全身を描く	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
9	効果線と背景	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
10	漫画の構成・特徴・形式について プロットとネームについて	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
11	キャラクター設定	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
12	キャラクターの行動原理	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
13	絵で伝える：既存のマンガと比較 テンポ：既存のマンガと比較	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
14	２ページ漫画　プロット	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
15	２ページ漫画　ネーム	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
16	２ページ漫画　下描き	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	２ページ漫画　ペン入れ	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
18	２ページ漫画　スクリーントーン・仕上げ	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
19	製本・鑑賞・発表・講評	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
20	４ページ漫画　キャラクター設定	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
21	４ページ漫画　プロット	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
22	４ページ漫画　プロット	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
23	４ページ漫画　ネーム	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
24	４ページ漫画　ネーム	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
25	４ページ漫画　下描き	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
26	４ページ漫画　下描き	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
27	４ページ漫画　ペン入れ	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
28	４ページ漫画　ペン入れ	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
29	４ページ漫画　スクリーントーン	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
30	４ページ漫画　仕上げ	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
31	製本・鑑賞・発表 講評にてフィードバック	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
32	科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築史 （科目ナンバリング：AHD311005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	赤木　良子		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　赤木　良子　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士。建築設計事務所における歴史保存調査及び実施設計		
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。				

概要

履修目標

学生が、主に日本および西洋の、古代から近代に至る建築史の大まかな流れや主な専門用語を理解すること
また、歴史の重要性や面白さに気づけるようにすることを目標とする。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP3、DP4　に対応する。

到達目標

学生が、主に日本および西洋の、古代から近代に至る建築史の流れを大まかに理解し主要な様式や専門用語
などについて理解し、また、興味を持って深められる素養を育む。

授業全体の内容と概要

建築史は一般的に「西洋建築史」、「日本建築史」および「近代建築史」の三つに分かれることが多いが、本講義ではそれらを一つの
講義に凝縮している。近年ではイスラム世界など先述の範囲を超えた研究も進められており、建築史の範囲が膨大になっている。
限られた時間となる本講義では、建築史の概要に触れるとともに、まずは基本となる西洋・日本・近代の三つの範囲について、
重要なポイントに絞り学ぶ。そしてそれらの中から特定のテーマをいくつか取り出し、制作やグループワークを通して学ぶ。
なお、西洋・日本・近代の学習順序は前後することがある。

授業の方法

建築史の全体を見渡す水平的な学習を教科書を用いた予復習をベースとして行いつつ、
幾つかの特定のテーマについての課題を通してより詳細な、垂直的な部分に触れる。これは基本的には調査学習、グループワーク、プレゼンテーション（発表）、
手作業による制作などを通して行う。
適宜、必要に応じて、補足や解説などの講義を行う。
講義の際には、教科書と補足資料となるパワーポイント等を用いて行う。調査学習には、インターネットを用いることがあり、
パソコンやタブレットなどの端末を使用する。また、制作も含むため、若干の道具を必要とする。（ガイダンスで指示）
質問やフィードバックは適宜行う。
学生の不明点・質問は、チャット形式の支援システムで迅速に回答する。
不測時における授業や補講等はオンライン・オンデマンドにて授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

正当な理由なき１０分以上の遅刻に関して、遅刻２回を１回欠席とみなす。
授業では、インターネットを用いた調査学習を行うため、手持ちの端末を持参すること。
タブレット・スマートフォンでも良いが、ノートパソコンが望ましい。
制作で用いる購入する道具についてはガイダンスで指示する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

１１回以上の出席と、課題（調査学習や発表を含む）を行う場合、全課題の完成・提出を必須とする。
（先述のように正当な理由なき１０分以上の遅刻に関して、遅刻３回を１回欠席とみなす。）
講義中に行った調査学習と発表については、「課題・作品」に属するものとする。
講義中の課題については増減がある。その数によって、期末に試験に代わるレポート課題を出す場合がある。ない場合は評価基準の「レポート」の項目は、「課題・作品」に含み評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	60%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
分からないことについて調べることができる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
調べたこと、見聞したことに対し、自分の意見を制作物やレポート等に適切に表現し、深めることができる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
グループ課題では他のメンバーとコミュニケーションをとりつつ進行できる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築史 （科目ナンバリング：AHD311005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	赤木　良子		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　赤木　良子　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士。建築設計事務所における歴史保存調査及び実施設計		
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『学びのポイント　建築史』	深水　浩	学芸出版社	２０２３	9784761528737	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『西洋建築史（建築学入門シリーズ）』	吉田 鋼市	森北出版	2007	4627505612	
2	『日本建築史講義：木造建築がひもとく技術と社会』	海野聡	学芸出版社	2022	4761528168	
3	『日本建築史序説　第3版』	太田博太郎	彰国社	2009	4395012310	
4	『近代建築史（建築学入門シリーズ）』	藤岡洋保	森北出版	2011	462750571X	
5	『寝殿造の仕組みと宮中の行事』	倉田　実	花鳥社	2024	978-4-909832-97-9	

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス 科目を修了して「身に付く力」についての説明 西洋建築史（１）ギリシア、ローマ	シラバスを読んでおくこと（９０分）	講義の復習（９０分）
2	西洋建築史（２）初期キリスト教、ビザンティン、ロマネスク	次回の単元の予習（９０分）	講義の復習（９０分）
3	西洋建築史（３）ゴシック、ルネサンス	次回の単元の予習（９０分）	講義の復習（９０分）
4	西洋建築史（４）バロック、新古典主義、折衷主義	次回の単元の予習（９０分）	講義の復習（９０分）
5	近代建築史（１）アーツ・アンド・クラフツ運動、アール・ヌーヴォー、前衛運動	次回の単元の予習（９０分）	講義の復習（９０分）
6	近代建築史（２）ドイツの近代建築運動、アール・デコ	次回の単元の予習（９０分）	講義の復習（９０分）
7	近代建築史（３）２０世紀の建築１	次回の単元の予習（９０分）	講義の復習（９０分）
8	近代建築史（４）２０世紀の建築２	次回の単元の予習（９０分）	講義の復習（９０分）
9	日本建築史（１）神社建築	次回の単元の予習（９０分）	講義の復習（９０分）
10	日本建築史（２）仏教建築	次回の単元の予習（９０分）	講義の復習（９０分）
11	日本建築史（３）寝殿造、書院造	次回の単元の予習（９０分）	講義の復習（９０分）
12	日本建築史（４）城郭建築ほか	次回の単元の予習（９０分）	講義の復習（９０分）
13	建築史に関する課題制作（１）	次回の単元の予習（９０分）	講義の復習（９０分）
14	建築史に関する課題制作（２）	次回の単元の予習（９０分）	講義の復習（９０分）
15	発表（試験・レポート等）、フィードバック、提出	次回の単元の予習（９０分）	講義の復習（９０分）
16	アンケート、ふりかえり、 科目を修了して「身に付く力」についての検証	総合復習（９０分）	総合復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	財務分析論 （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石山　玄幸（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　石山　玄幸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタント会社の代表として、２００社以上の中小企業の経営指導をしてきた経験を生かして、守秘義務に配慮しつつ身近な企業の事例を活用した講義を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

概要

履修目標

本講義は「簿記論」の応用として、学生が企業における会計の仕組みと原則を理解し、会計の重要性を認識することを目的としている。科目を修了して、分析対象とする企業の状況が判断できる能力を身に付けることを期待する。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ３、ＤＰ４に対応する。

到達目標

本講義修了時の達成目標は、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算）から企業の状況を読み取ることができる能力を身に付けることである。

授業全体の内容と概要

本講義は、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）の仕組みを学びながら、実際に企業ではどのくらいのお金が動いているのかを実感してもらうことに重点を置く。毎回、各企業における実際の財務諸表を使い、受講生に作業をしてもらいながら演習形式で講義を進める。

授業の方法

本講義は、パワーポイント及び配布物資料で進める。１枚のパワーポイントを掲示して、一連の解説が終了した後、一定の時間、学生がノートを書く時間を取る。ノートが書ききれない場合は、スマホでの写真撮影を認める。講義の最後に本日のフィードバックとして、演習問題を実施・提出した学生を出席扱いとする。また、講義を進めるにあたり、アクティブラーニングを活用し、グループワークやディスカッションを行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

本講義は、簿記の発展科目であることから、「簿記論」の単位を取得していない者は受講できない。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（商業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
９０%	０%	０%	０%	０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
企業会計の必要性について	企業における会計の必要性について、業種別の特徴を踏まえて説明できた。	企業における会計の必要性について、具体的な事例を挙げて説明できた。	企業における会計の必要性について理解していた。	企業における会計の必要性を最低限理解していた。	企業における会計の必要性を理解していなかった。
財務諸表の理解	３つの財務諸表を使いこなし、企業財務の現状を述べることができた。	３つの財務諸表の違いを述べることができ、それぞれの諸表を読んで理解できた。	３つの財務諸表の違いを述べることができた。	３つの財務諸表を述べることができた。	そもそも財務諸表とは何かを理解していなかった。
数学的計算力	企業会計の法則に沿ってスムーズに数学的な計算ができた。	企業会計の法則に沿って数学的な計算ができた。	企業会計の法則に沿って、多少の時間がかかるが計算ができた。	企業会計の法則に沿って、最低限の計算ができた。	企業会計の法則に沿った数学的な計算ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	財務分析論 （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石山　玄幸（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	２　（単位認定責任者：　石山　玄幸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタント会社の代表として、２００社以上の中小企業の経営指導をしてきた経験を生かして、守秘義務に配慮しつつ身近な企業の事例を活用した講義を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『財務会計・入門　企業活動を描き出す会計情報とその活用法（第12版補訂）』	桜井 久勝・須田 一幸	有斐閣	2019年	9784641221345	
2	『誰でもわかる決算書の読み方１年生』	南伸一	西東社	2021年	9784791631261	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	「財務会計論」ガイダンス　シラバスの説明（講義の概要、講義の進め方、評価方法,科目を修了して「身に付く力」の説明含む）、授業改善アンケート結果反映の説明	必ずシラバスを読んでから、初回ガイダンスを受講すること。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
2	財務３表とは何か　家計簿　将来の人生設計	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
3	損益計算書①　勘定科目について	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
4	損益計算書②　損益計算書の「５　３　５」とは	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
5	損益計算書③　演習問題	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
6	貸借対照表①　資産とは	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
7	貸借対照表②　負債とは	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
8	貸借対照表③　純資産とは　演習問題	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
9	キャッシュフロー計算書①　キャッシュフローとは　減価償却とは	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
10	キャッシュフロー計算書②　営業キャッシュフロー	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
11	キャッシュフロー計算書③　投資キャッシュフロー	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
12	キャッシュフロー計算書④　財務キャッシュフロー	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
13	財務３表のつながり①　演習問題	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
14	財務３表のつながり②　演習問題	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
15	試験対策　演習問題、授業改善アンケートの実施	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
16	定期試験とフィードバック。科目を修了して「身に付く力」の検証	定期試験に向けた対策をしておくこと。（９０分）	定期試験後のフィードバックを受けて、財務会計論を総括する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期集中	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	環境学 （科目ナンバリング：ENV361127 ENV161179 ）				
授業担当者 （所属・職名）	西原　智昭（社会福祉学科・客員教授）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2 （単位認定責任者： 西原　智昭 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	人類の「ゆりかご」であるコンゴ共和国などアフリカ熱帯林地域にて、先住民族の協力のもと、人類学的研究を皮切りに野生生物の研究調査ほか、国立公園管理・森林保全等の実務に合計30年間従事した経験を活かし指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をして，昼休みあるいは講義後に、非常勤講師室で対応。				

概要

履修目標

環境学を学ぶに当たり、自然環境の破壊と生物多様性の喪失、その保全の問題は大きなテーマの一つである。自然環境および生物多様性の保全を目指すには資源開発の問題は避けて通れない。資源の開発・利用により危機的状況に直面している生物多様性、そうした自然環境に依拠してきた先住民族への権利侵害について、アフリカの熱帯林の事例を中心に話題提供しながら、特に資源の乏しい日本に住むわれわれが自然環境の保全に対して果たすべき役割を考察していく機会とする。

授業の位置づけ

全学科のDP２に対応する。

到達目標

われわれの現在の日常生活において生き物や資源を利用していることを、身近な事例や日本国内、そして国際的な視点から学ぶ。そうした生き物や資源の大規模な開発や過剰な利用が、現在に至るまで世界中の自然環境を破壊し、また本来なら自然環境に依拠してきた先住民族の人権侵害まで引き起こしていることを理解する。そのうえで、とりわけ資源の少ない日本に住むわれわれがどのように対処しサステイナブルなライフスタイルを目指していくか検討していく。

授業全体の内容と概要

文明・科学技術の進展とグローバル社会の拡大化に伴い、膨大な原材料や物資調達のための過剰な資源開発が全世界で進行中である。それは地球上に存在する自然環境や生物多様性に危機をもたらしている。この講義では、アフリカの熱帯林の事例を中心に、われわれ人類の祖先が生まれ出た本来の自然環境や生物多様性の機能や役割を学び つつ、資源開発に伴う地球規模の自然界への脅威だけでなく従来より自然界に依拠し長大な年月に渡り持続可能な自然環境保全を実践してきた先住民族への土地・人権侵害などについても話題提供する。とりわけ大量の資源を輸入依存に頼る日本の責任は重い点から、日本人として何ができるのかを考察する機会をも提供する。

授業の方法

パワーポイントを用いた講義資料及び映像によって，われわれを取り巻く種々の地球規模の自然環境の問題を、アフリカ現地の事例などを中心に説明する。講義内容について自らの知識として定着が図れるよう，文献調査，ミニレポート作成，グループ討論及びプレゼンテーションを手掛ける。グループディスカッション課題については，必要な調査を行い相互に意見交換して，グループとしての見解をまとめてプレゼンテーションすることにより受講者全員でディスカッションを行う。講義中に不明な点は自分でも書籍等で調査して予習・復習を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・レポート課題（グループ討論の課題を含む）の進め方等については，その都度指示する。
・講義内容にとらわれることなく，自分が興味のある事項を見出し，積極的に調べること。
・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。講義内容に対する意見や質問を盛り込んだミニレポートを7回課す（その他３５%＝７回x５%）。定期試験（期末試験）は行わないが，集中講義全般に渡るテーマに関する課題を１５回目の講義中に提供するので、それに対する自身の見解や提案などを記載した論理的な構成のレポートを最後１６回目の講義時間中に仕上げる（レポート：６５%）。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	６５%	0%	０%	０%	３５%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自然界（陸と海を含む）の生態系と生物多様性に関する理解	地球規模での自然環境と、その生態系や生物多様性について理解している	日本国内における自然環境と、その生態系や生物多様性について理解している	身近な自然環境における生態系や生物多様性に強い関心があり理解している	少なくても講義中で学んだ生態系や生物多様性に関して強い関心を抱いている	生態系や生物多様性への関心が希薄である
生き物を含めた資源の開発と利用がもたらす自然環境や生き物への影響に関する理解	人間は生き物や資源を利用しないと生きていけない中、どのような方途でサステイナブルな資源の利用をすべきか理解している	資源の少ない日本において、資源の調達先やその結果どのように海外の自然環境や生き物に影響を及ぼしているかを理解している	資源の開発と利用が、自然環境や生き物に多大な影響を及ぼしていることを理解している	日常生活における身近な生き物や物資は自然環境の利用の結果であるということを理解している	資源の開発や利用への関心が希薄である
自然環境に依拠してきた先住民族の存在と彼らが直面している問題に関する理解	先住民族が現在もなお直面している人権侵害や文化・言語消失などの実際を知り、先住民族との共生社会を目指していく重要性を理解している	先住民族がこれまで受けてきた差別や土地収奪など人権侵害の歴史について理解している	先住民族の社会の特徴や生活様式について理解している	先住民族とはなにか、日本国内や世界中にどのような先住民族が現存しているのか理解している	先住民族についての関心が希薄である、あるいは先住民族の存在を無視している

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期集中	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	環境学 （科目ナンバリング：ENV361127 ENV161179 ）				
授業担当者 （所属・職名）	西原　智昭（社会福祉学科・客員教授）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 西原　智昭 ）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	人類の「ゆりかご」であるコンゴ共和国などアフリカ熱帯林地域にて、先住民族の協力のもと、人類学的研究を皮切りに野生生物の研究調査ほか、国立公園管理・森林保全等の実務に合計30年間従事した経験を活かし指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をして，昼休みあるいは講義後に、非常勤講師室で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『コンゴ共和国～マルミミゾウとホタルの行き交う森から：増補改訂版』	西原智昭	現代書館	2020	978-47684-5877-8	
2	『サステナブル調達を成功させるための「国際認証」の教科書』	山口真奈美	生産性出版	2024	978-4-8201-2148-0	
3	『教養としての資源問題～今、日本人が直視すべき現実』	谷口正次	東洋経済新報社	2011	978-4-492-76197-7	すでにこの書籍は絶版なので電子書籍版
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『人類の起源 古代DNAが語るホモサピエンスの「大いなる旅」』	篠田謙一	中公新書	2023	978-4-12-102683-5	
2	『追いつめられる海～猟予はない ブルーエコノミーの実現を！』	井田徹治	岩波書店	2020	978-4-00-029694-6	
3	『アイヌ、日本人、その世界』	小坂洋右	藤田印刷エクセレントブックス	2019	9784865380965	
4	『再生可能エネルギーの問題点』	加藤やすこ	緑風出版	2022	978-4-8461-2207-2	
5	『音と文明～音の環境学ことはじめ』	大橋力	岩波書店	2003	4000223674	

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。森林を構成する生き物の中で昆虫の重要性と森林環境音がもたらすメカニズム、および、蔓延しているエボラウイルスについて学ぶ。授業改善アンケート結果反映と科目を修了して『身に付く力』についての説明。	昆虫の生態学的重要性とエボラウイルスについて調べる（９０分）	森林環境音による生理学的効果やエボラウイルスなどパンデミックへの根本的な対処について考察する（９０分）
2	アフリカ熱帯林において絶滅危惧種であるマルミミゾウやヨウムの生態や社会、絶滅に向かう要因について学ぶ。第1回・第2回に関するミニレポートを実施、その結果について授業内でコメントしてフィードバックする。	マルミミゾウとヨウムの生態や社会について調べる（９０分）	マルミミゾウとヨウムも危機的状況とその解決について考察する（９０分）
3	海洋生態系の中で特に鯨類やマイクロプラスチックの問題について学ぶ。	人間による鯨類の利用やマイクロプラスチック問題について調べる（９０分）	鯨類やマイクロプラスチックがもたらす問題点とその解決について考察する（９０分）
4	人間の文化や生活と生物多様性保全のバランスに向けてどのような方策が可能か、象牙・鼈肉消費・鯨類利用・ペットなどをテーマに、また動物園・水族館のあり方についてグループ討論・プレゼンを実施する。第３回・第４回に関するミニレポートを実施、その結果について授業内でコメントしてフィードバックする。	人間による生き物への需要・利用が生き物へ影響を及ぼす事例について調べる（９０分）	われわれ人間にとって生き物の利用は不可欠なものではあるにしても、それが生き物の生存危機に影響を及ぼさないような方策、また動物園・水族館の役割について考察する（９０分）
5	木材や農水畜産物の需要に応じた森林など大規模な自然環境の開発の現状とその自然環境への影響について学ぶ。	身近な木材由来の製品や農水畜産物とその由来について調べる（９０分）	日本はどれくらいの割合でどこから木材や農水畜産物を輸入しているか学ぶ（９０分）
6	木材や農水畜産物をいかにサステイナブルな方途で利用していくかについて、グループ討論・プレゼンを実施する。第５回・第６回に関するミニレポートを実施、その結果について授業内でコメントしてフィードバックする。	サステイナブルな木材や農水畜産物の調達・利用について調べる（９０分）	木材や農水畜産物についての国際認証制度について考察する（９０分）
7	鉱物資源開発がもたらす自然環境への影響について学ぶ。特に地球温暖化対策として有効と言われている再生可能エネルギー、および、蓄電池、電気自動車などの開発に必須の希少金属開発がもたらす自然環境への負荷について学ぶ。	鉱物資源について調べる（９０分）	再生可能エネルギーや電気自動車などに必須の鉱物資源開発による自然環境への影響から地球温暖化対策についてあらためて考察する（９０分）
8	エネルギー開発がもたらす自然環境への影響について学ぶ。特に地球温暖化対策として有効と言われている再生可能エネルギーの設置などによってもたらされる自然環境への負荷について学ぶ。第７回・第８回に関するミニレポートを実施、その結果について授業内でコメントしてフィードバックする。	現在のエネルギー構成について調べる（９０分）	再生可能エネルギーの設置に伴う自然環境への影響から地球温暖化対策についてあらためて考察する（９０分）
9	地球温暖化対策としての再生可能エネルギーや電気自動車の開発に問題があるとした場合、エネルギーや鉱物資源をいかにサステイナブルな方途で利用していくかについて、グループ討論・プレゼンを実施する。	再エネ設置に伴う地域住民への影響や鉱物資源開発による先住民族への影響について調べる（９０分）	エネルギー問題をどのように見直すべきかあらためて考察する（９０分）
10	人間はもともと自然界に依拠して進化してきた中で、どのように自然環境を利用してきたかを理解する手立ての一つとして、人類の近縁種である野生の猿人猿の社会や生態について学ぶ。第９回・第10回に関するミニレポートを実施、その結果について授業内でコメントしてフィードバックする。	人類の進化、類人猿の生態・社会について調べる（９０分）	人類の起源・もともとの生活様式とげんざいのわれわれの現在のライフスタイルについて考察する（９０分）
11	先住民族とその歴史や社会の特徴、伝統文化について、また現在も引き続き直面している彼らへの人権侵害について学ぶ。身近なアイヌ民族についても学ぶ。	アイヌ民族をはじめ先住民族やその歴史について調べる（９０分）	アイヌ民族をはじめ先住民族への人権侵害について考察する（９０分）
12	先住民族の文化や社会の特徴、学校教育などについて、グループ討論・プレゼンを実施する。第11回・第12回に関するミニレポートを実施、その結果について授業内でコメントしてフィードバックする。	先住民族における獣肉食や学校教育の是非について調べる（９０分）	先住民族の事例からわれわれが直面している伝統文化や学校教育、ライフスタイルの課題についてあらためて考察する（９０分）
13	資源開発に関わるメディア情報の実際、資源開発を伴わない経済活動としてのエコツーリズムの課題、資源開発をしながら環境・社会配慮を目指す国際認証制度について学ぶ。	メディアやエコツーリズムの課題について、また国際認証制度について調べる（９０分）	メディアの重要性やエコツーリズムのあり方、国際認証制度の実際について考察する（９０分）
14	資源の少ない日本に住むわれわれが抱えている問題点についても学ぶ。第13回・第14回に関するミニレポートを実施、その結果について授業内でコメントしてフィードバックする。	第１～１４回までの講義全体を振り返りそれと関わる課題を再検討する（９０分）	講義全体に関わる課題について考察する（９０分）
15	資源の少ない日本に住むわれわれが抱えている課題について、グループ討論・プレゼンを実施する。	日本において少ない資源について調べる（９０分）	資源の少ない日本でいまのライフスタイルをどのように維持・改変していくべきか考察する（９０分）
16	レポート試験（６０分）。レポート試験終了後に解説を行う(フィードバック)。授業改善アンケートの実施。科目を修了して『身に付く力』についての検証。	講義全体に関わる課題について自分自身の考えをまとめる（９０分）	レポート試験とその講評を振り返る（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年　社会福祉学科・1年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	経営学科・選
科目名称	ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの基盤と専門職 （科目ナンバリング：SWS111001，SWS421077，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	１号館４階		
単位数	2　（単位認定責任者：　　櫻井　美帆子　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場での実務経験から得た事例を用いて、ソーシャルワークに関する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。
②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。
③ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ3、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。
社会福祉学科のＤＰ１、ＤＰ３、Ｄ４に対応する。

到達目標

①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解することができる。
②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解することができる。
③ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解することができる。

授業全体の内容と概要

①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて学ぶ。
②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について学ぶ。
③ソーシャルワークの価値規範と倫理について学ぶ。
「SDG 3．すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

①教科書に沿って講義形式で展開をする。講義の際に随時質問をするので答えること。
②基本は対面授業だが、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

30分以上の遅刻は欠席とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

１０回以上の出席が無ければ成績評価の対象としない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	０%	０%	２０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解ができる。	法が設立した背景を含めて理解できる。	概要の要点を押さえて理解できる。	助言により理解できる。	助言があれば一部理解できる。	助言があっても理解できない。
ソーシャルワークの定義について理解できる。	事例をあげながら説明ができる。	要点を押さえて説明ができる。	助言により理解できる。	助言があれば一部理解できる。	助言があっても理解できない。
ソーシャルワークの形成過程について理解できる	当時の社会情勢も含めて理解ができる。	概要の要点を押さえて理解できる。	助言により理解できる。	助言があれば一部理解できる。	助言があっても理解できない。
ソーシャルワークの価値と倫理について理解できる。	事例をあげながら説明ができる。	要点を押さえて説明ができる。	助言により理解できる。	助言があれば一部理解できる。	助言があっても理解できない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年　社会福祉学科・1年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	経営学科・選
科目名称	ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの基盤と専門職 （科目ナンバリング：SWS111001，SWS421077，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　櫻井　美帆子　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場での実務経験から得た事例を用いて、ソーシャルワークに関する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座１１　ソーシャルワークの基盤と専門職	共通	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	２０２１年	9784805882412	
2							
3							
4							
5							

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を終了して身に付く力の説明 ソーシャルワークとは何か	教科書の目次と関心のある部分に目を通す（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
2	現代社会におけるソーシャルワークの意義 ソーシャルワーク実践の領域	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
3	ソーシャルワーカーと資格制度 ソーシャルワークの定義①	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
4	ソーシャルワークの定義②	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
5	ソーシャルワークの構成要素	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
6	ソーシャルワークの形成過程①	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
7	ソーシャルワークの形成過程②	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
8	中間テスト	1回から7回の復習をする。（９０分）	試験の自己採点（９０分）
9	中間テスト解説を返却し、解説による試験のフィードバック（３０分）を行う。 ソーシャルワークの価値	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
10	ソーシャルワークの実践原理と原則	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
11	ソーシャルワークの倫理	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
12	ソーシャルワーカーの倫理的ジレンマ	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
13	ソーシャルワーク固有の視点と機能	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
14	社会福祉士・精神保健福祉士制度の現状と課題	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
15	まとめ	1回から14回までの授業内容の質問点をまとめる。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
16	定期試験（６０分）、終了後、解説による試験のフィードバック（３０分）と、科目を科目を終了して『身に付く力』についての検証』を行う。授業改善アンケートの実施、	全体の復習。（９０分）	試験で間違えた部分を復習する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保育原理 （科目ナンバリング：CHS121068　　）				
授業担当者 （所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　吉江　幸子　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育施設において実務経験がある教員が，その経験をもとに保育の意義，目的，法令および制度，思想・歴史的変遷等について実際の保育現場をイメージできるような講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

保育の意義，目的について理解する。保育に関する法令及び制度を理解する。
保育所保育指針における保育の基本について理解する。
保育の思想と歴史的変遷について学修し，現状と課題を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

保育の意義，制度，計画・実践（方法・内容），思想・歴史的変遷等を理解している。
保育所保育指針における保育の基本について理解している。

授業全体の内容と概要

保育の意義，目的，法令及び制度，保育の目標と方法等を体系的に学修する。
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義を中心とした授業を行っていく中で，実際の保育現場の事例をあげ，子どもや保護者，保育者の様子をイメージしながら，一人ひとり学生の考える場となるように授業を進めていく。質問にはその都度対応し、レポートはコメントしてフィードバックする。Microsoft Teams及びForms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席を重要視するため、２０分以上の「遅刻」は、入室できるが「欠席」扱いとする。
評価Ｓは履修者の１０％以内、評価ＳとＡを合わせて４０％以内となっている。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０％	０％	０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保育の制度に関する知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	保育の制度について基礎的な知識を深く理解できた。	保育の制度について基礎的な知識をおおむね理解できた。	保育の制度について基礎的な知識を理解できた。	保育の制度について基礎的な知識を多少理解できた。	保育の制度について基礎的な知識を理解することができなかった。
思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	歴史的変遷を踏まえた保育の基本について十分に考察できた。	歴史的変遷を踏まえた保育内容の展開についておおむね考察できた。	歴史的変遷を踏まえた保育内容の展開について考察できた。	歴史的変遷を踏まえた保育内容の展開について多少考察できた。	歴史的変遷を踏まえた保育内容の展開について考察できなかった。
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	保育の意義・目的について理解したことをわかりやすく説明できた。	保育の意義・目的について理解したことをおおむね説明できた。	保育の意義・目的について理解したことを説明できた。	保育の意義・目的について理解したことを多少説明できた。	保育の意義・目的について理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保育原理 （科目ナンバリング：CHS121068　　）				
授業担当者 （所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　吉江　幸子　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育施設において実務経験がある教員が，その経験をもとに保育の意義，目的，法令および制度，思想・歴史的変遷等について実際の保育現場をイメージできるような講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『保育所保育指針解説』	厚生労働省	フレーベル館	２０１８	9784577814482	
2	『保育所保育指針＜平成２９年告示＞』	厚生労働省	フレーベル館	２０１７	9784577814239	
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス説明（科目を修了して「身に付く力」についての説明を含む） 保育の理念と概念 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
2	子どもの最善の利益と保育	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
3	子ども家庭福祉と保育	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
4	保育の社会的役割と責任	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
5	子ども家庭福祉の法体系における保育の位置付けと関係法令	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
6	子ども・子育て支援新制度	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
7	保育の実施体系	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
8	保育所保育指針	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
9	保育所保育に関する基本原則	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
10	保育における養護	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
11	保育の目標、保育の内容	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
12	保育の環境と方法	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
13	子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）と その循環	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
14	諸外国の保育の現状と課題	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
15	日本の保育の現状と課題	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
16	定期試験　　解説およびフィードバック　　科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	講義全体をとおして質問などを整理しておく（９０分）	解説を受け、講義全体をふりかえること（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築計画Ⅰ （科目ナンバリング：APT312006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　安藤　淳一　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

履修学生は，日本の社会構造や価値観の多様化が顕著な今日の状況を的確に捉えることにより，建築が社会に果たす役割や意味を再考すると共に，将来の建築のあり方を考える力を養うことができる。また建築士試験科目の「建築計画」に対応すべく，建築計画全般（住宅地計画，都市計画等含む）にわたる基礎知識を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1,DP3,DP4に対応する。

到達目標

建築の基本原理を知ることで建築に対する興味が広がり，建築の仕事の魅力とやり甲斐を会得する。また，建築士試験の建築計画科目の設問に対する理解と解く力を養うことができる。

授業全体の内容と概要

授業内容を網羅した資料を毎回配布し,その授業資料に沿って授業を進める。毎回の授業のポイントが演習問題として課せられ，さらに詳細な解説も行うので集中して聴くことが求められる。
「SDGs11.住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

授業内容の概要は配布資料で賄う。プロジェクターで画像や図表を投影して解説するが，授業内容の理解度を確認するため，その日の重要ポイントを授業ノートに取りまとめる演習を，毎回授業終了後提出してもらう。情報量は多く，見て，聴いて，理解できる授業である。基本的に授業は対面で実施するが，不測の事態が起きた際に，授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業開始時に配布する着席票に氏名を記入した後に回収するので，開始から10分以上遅刻した場合，欠席扱いとなる。また，着席票をもとに意見発表を求め，授業中の態度もチェックされるので留意すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格科目」必修科目，教職課程（工業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数11回以上)，毎回の授業後に提出する演習の評価点（平常点）が単位認定（成績評価）の一部を占めるので，授業欠席や演習未提出は不合格または低評価に直結することになる。最終評価は定期試験と平常点，その他（授業態度等）による総合評価とする。なお，演習は当日の授業後提出のみ受理し，それ以外は受け付けない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	０%	３０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築が社会にはたす役割や意味を理解すると共に，将来の建築のあり方を考える力を修得する。	建築が社会にはたす役割を理解でき，今後社会状況の変化に対して建築のあり方を考えることができた。	建築が社会にはたす役割を理解でき，今後の建築のあり方が変化することを理解することができた。	建築が社会にはたす役割を理解できた。	建築が社会にはたす役割をおおむね理解できた。	建築が社会にはたす役割を理解できなかった。
建築士試験科目の「建築計画」に対応する建築計画全般（住宅地計画，都市計画等含む）にわたる基礎知識を修得する。	基礎知識を習得し，さらに建築士試験問題に取り組むことができた。	基礎知識を習得し，さらに建築士試験内容を理解することができた。	基礎知識を修得することができた。	基礎知識をおおむね修得することができた。	基礎知識を修得することができなかった。
建築の基本原理を知ることで各種建築の機能を理解するための基礎力を修得し，建築への興味を広られる。	建築の基本原理に興味を持ち，さまざまな建築のあり方に対しても理解することができた。	建築の基本原理に興味を持ち理解することができた。	建築に対する興味を持つことができた。	建築に対する興味をおおむね持つことができた。	建築に対する興味を持つことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築計画Ⅰ （科目ナンバリング：APT312006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　安藤　淳一　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明，授業改善アンケート結果反映の説明，科目を修了して「身に付く力」についての説明，「建築計画」で学ぶことの意味を確認	シラバス事前確認（90分）	配布資料の確認（90分）
2	建築のかたち(１)　建築のかたちを規定する自然的条件　温湿度，風，日照・日射，敷地形状，街路	資料参照（90分）	授業資料の振り返り（90分）
3	建築のかたち(２)　建築のかたちを規定する人為的要素　起居方式，歴史・伝統，社会構造，機能	資料参照（90分）	授業資料の振り返り（90分）
4	建築空間の性能(１)　快適性　熱環境，光環境，音環境，空気環境，心理環境	資料参照（90分）	授業資料の振り返り（90分）
5	建築空間の性能(２)　利便性　面積・容積，高さ，ゾーニング，動線計画，空間の質と量	資料参照（90分）	授業資料の振り返り（90分）
6	建築空間の性能(３)　安全性　災害と安全，避難計画，内装制限，排煙，防火	資料参照（90分）	授業資料の振り返り（90分）
7	建築空間の性能(４)　耐久性と経済性　耐用年数，ライフサイクルコスト，ＳＩ方式，保存・再生	資料参照（90分）	授業資料の振り返り（90分）
8	建築計画の基礎(１)　空間知覚の原理　五感と空間知覚，視認距離，囲み感，黄金分割	資料参照（90分）	演授業資料の振り返り（90分）
9	建築計画の基礎(２)　形態知覚と空間特性　ゲシュタルト心理学，空間感覚	資料参照（90分）	授業資料の振り返り（90分）
10	建築計画の基礎(３)　色彩，色彩と心理，色彩と環境	資料参照（90分）	授業資料の振り返り（90分）
11	建築計画の基礎(４)　寸法と規模と単位空間　人体寸法，動作寸法，規模算定，単位空間，階段・斜路	資料参照（90分）	授業資料の振り返り（90分）
12	建築計画の基礎(５)　空間の仕切り方とディテール　仕切りの手法，収まりの手法	資料参照（90分）	授業資料の振り返り（90分）
13	居住施設計画(１)　戸建住宅と住宅地計画　住居の種類，生活と間取り，住環境計画，日影規制	資料参照（90分）	授業資料の振り返り（90分）
14	居住施設計画(２)　集合住宅の計画　近隣組織，地域福祉計画，家族と住居	資料参照（90分）	授業資料の振り返り（90分）
15	居住施設計画(３)　住宅地計画　地域居住，近隣組織，地域福祉計画，家族と住居	資料参照（90分）	授業資料の振り返り（90分）
16	試験（試験結果・解説ならびに提出課題の総評）授業改善アンケートの実施，フィードバック，科目を修了して「身に付く力」についての検証	資料参照（90分）	最終振り返り（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ構造 （科目ナンバリング：BSM313015　　）				
授業担当者 （所属・職名）	長森　正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟１階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　長森　正　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	１級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実務経験をもとに講義をします。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボート等を参照				

概要

履修目標

鉄筋コンクリート構造は鉄とコンクリートからなる一種の複合構造物である。
鉄筋コンクリート構造の仕組みとそれを構成する部材断面の設計方法を修得する。
力学や材料の専門知識を応用して部材断面の応力と変形などの性質を理解し、断面設計方法を学習する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

鋼材とコンクリート材料をどのように活かしているかを把握した上で、鉄筋コンクリート構造の構造計画、許容応力度設計法などの基本的な設計原理を修得する。
鉄筋コンクリート構造の仕組み・名称・規準などが理解できる。
軸力や曲げを受ける部材の性状を理解し、各部材断面の設計ができる。

授業全体の内容と概要

鉄筋コンクリート構造の概要・構造形式・規準などを学び、許容応力度設計法、梁・柱・スラブなどの各部材の断面設計を中心に講義・演習を行う。

授業の方法

授業は教科書を中心にパワーポイント及び配布資料で講義形式で行う。また構造設計例題を参考にして演習課題を実施して理解を深める。フィードバックとして課題の解説を行う。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

講義内容を要領よくまとめ、ノート整理を欠かさないこと。
講義には設計演習等を頻繁に実施するので必ず電卓を持参すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（工業）選択科目、建築士試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	３０%	０%	０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
鉄筋コンクリート構造の概要	RC構造の特徴・構造形式・規準等にについて明確に説明でき、他の人に正確に説明できた。	RC構造の特徴・構造形式・規準等にについて明確に説明できた。	RC構造の特徴について説明でき、他の人に説明できた。	RC構造の特徴について説明できた。	RC構造の特徴について説明できなかった。
鉄筋コンクリート構造の構成と力学	鉄筋とコンクリートの機械的性質および許容応力度設計法について明確に説明でき、他の人に説明できた。	鉄筋とコンクリートの機械的性質および許容応力度設計法について明確に説明できた。	許容応力度設計法について説明でき、他の人に説明できた。	許容応力度設計法について説明できた。	許容応力度設計法について説明できなかった。
鉄筋コンクリート部材の設計演習	RC構造各部材（梁・柱・スラブ）の演習問題を正確に解くことができ、他の人に説明できた。	RC構造各部材（梁・柱・スラブ）の演習問題を正確に解くことができた。	RC構造各部材（梁・柱・スラブ）の基本的な演習問題を解くことができ、他の人に説明できた。	RC構造各部材（梁・柱・スラブ）の基本的な演習問題を解くことができた。	RC構造各部材（梁・柱・スラブ）の基本的な演習問題を解くことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ構造 （科目ナンバリング：BSM313015　　）				
授業担当者 （所属・職名）	長森　正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟１階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　長森　正　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	１級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実務経験をもとに講義をします。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボート等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『図説やさしい構造設計』	浅野　清昭	学芸出版社			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケートの結果反映の説明 シラバスの説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明 鉄筋コンクリート構造の歴史・特徴	シラバス資料を確認して，授業内容を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
2	鉄筋コンクリートの構造形式	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
3	構造設計の流れ・設計荷重	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
4	鉄筋・コンクリートの機械的性質・許容応力度	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
5	コンクリートの調合設計	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
6	鉄筋コンクリート造の施工法	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
7	梁の設計（１）	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
8	梁の設計（２）	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
9	柱の設計（１）	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
10	柱の設計（２）	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
11	床(スラブ)の設計（１）	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
12	床(スラブ)の設計（２）	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
13	地震と建物の構造	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
14	鉄筋コンクリート構造総合演習	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
15	定期試験６０分の試験終了後、残りの３０分で解説をし、フィートバックする	授業内容全体について資料を整理して、定期試験にそなえる（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
16	まとめ 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業内容全体について資料を整理する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営情報論 （科目ナンバリング：MAN412004，MAN522015　　）				
授業担当者 （所属・職名）	薦田　勇智（経営学科・専任講師）	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2　（単位認定責任者：　　薦田　勇智　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

概要

履修目標

本授業では、スチューデントスキルを活かしながら、企業経営における情報の役割と管理の重要性、方法、課題について理解を深めるとともに、スタディスキルを用いて生成AIを中心とした近年の情報技術の発達が競争環境に与える影響を学び、さらに、アカデミックスキルを高めることで、経営情報の分析や活用を通じた意思決定能力を身に付けることを目指す。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ３、ＤＰ４に対応する。

到達目標

・企業活動において情報がどのように収集・分析・活用されるかを理解し、意思決定や競争戦略の中で情報管理が果たす役割を具体的な事例を通じて説明できるようになる。（スチューデントスキル）
・情報の正確性やセキュリティ、データの利活用に関する課題を整理し、企業における情報システムの導入・運用の方法を学びながら、実際の事例に基づいた適切な管理手法を提案できる力を身につける。（アカデミックスキル）
・近年のAI技術の発展が市場競争やビジネスモデルに与える影響を理解し、企業がどのようにAIを活用して競争優位性を獲得しているのかを分析できる力を養う。（スタディスキル）
・データを活用した経営判断のプロセスを学び、企業がどのように情報を基に戦略を立案・実行しているのかを考察し、自ら情報を分析して意思決定に役立てる力を身につける。（アカデミックスキル）
・企業経営における情報技術は急速に変化するため、新しい技術やトレンドに対して主体的に学び、適応できる力を身につけるとともに、情報収集や分析を継続的に行う習慣を形成する。（スチューデントスキル）

授業全体の内容と概要

企業経営における情報の役割と管理について学習する。企業が扱う情報は、製品の製造を管理するためのものや、従業員に関するもの、顧客の購買データなど多岐に渡る。これらの情報を経営資源として最大限に活用していくことは企業経営における重要課題である。特にビッグデータ、ＩｏＴ、ＡＩといった新技術の登場を受け、その重要性はさらに増してきている。こうした近年の動向を、事例をみながら理解し、企業と情報との向き合い方について考えていく。

授業の方法

・授業はパワーポイントの資料を用いて行う。履修者には、毎週授業の終わりにその日の講義内容をまとめた小レポートを提出してもらう。なお、小レポート課題はＬＭＳで提出する。
・授業の最後には次回の授業で取り上げるテーマやキーワードについて概説するが、そのテーマやキーワードについて事前に自分自身で調べ、レポートにまとめて提出を求めることがある。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業中の私語、スマホの使用は特に言及がない限り禁止とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

・毎週課されるレポート課題の期限内の提出が出席の条件である。
・単位認定に必要となる最低出席回数は11回以上である。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	0%	５０%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ＡＩ活用の分析力	企業のＡＩ活用事例を深く理解し、メリット・リスクを多面的に考察できる。	ＡＩ活用事例を適切に解釈し、ビジネス上の影響を論理的に説明できる。	基本的な事例分析はできるが、考察が表面的である。	事例の解釈に誤りがあり、影響分析が不十分である。	AIの活用事例を理解できず、分析ができていない。
ビジネス課題への応用力	生成AIを具体的な課題解決に活用し、実現可能な提案を示せる。	学んだ知識を活かし、業務改善や戦略に関する具体的な提案ができる。	基本的な応用はできるが、提案が抽象的で実践性が低い。	応用が限定的で、提案が不明確または非現実的である。	生成AIを課題解決に活用できず、適切な提案ができない。
論理的思考とプレゼンテーション力	提案を明確な論理構成で整理し、説得力のあるプレゼンテーションができる。	論理的な構成で、わかりやすく説明し、要点を的確に伝えられる。	基本的に論理的だが、説明が冗長または曖昧な部分がある。	構成が不明確で、伝えたい内容が十分に伝わらない。	説明が支離滅裂で、意図が全く伝わらない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営情報論 （科目ナンバリング：MAN412004，MAN522015　　）				
授業担当者 （所属・職名）	薦田　勇智（経営学科・専任講師）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　薦田　勇智　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『東大生も学ぶ「ＡＩ経営」の教科書』	馬淵邦美	東洋経済	２０２２	978-4-492-76257-8	
2	『ＡＩ時代に輝く経営の教科書』	吉村慎吾	ダイヤモンド社	２０１８	978-4-478-08442-7	
3	『ＡＩ経営で会社は甦る』	富山和彦	文藝春秋	２０１７	978-4-16-390624-9	
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ・シラバスの確認 ・当該科目を修了して「身に付く力」について説明 ・授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを確認し、授業の目的を把握する（45分）	生成AIの概要を調べ、自分の関心のある分野との関連を考える（45分）
2	経営学の基礎 ・経営の基本概念と戦略を学ぶ	経営学の基本概念（経営資源、戦略、組織論など）を調べる（45分）	学んだ経営学の基本を自分の知っている企業に当てはめて考える（45分）
3	経営情報システムとＤＸ ・組織の意思決定を支えるツールやデータ活用の手法を理解する	経営情報システム（ＭＩＳ、ＥＲＰ、ＣＲＭ）について調べる（45分）	授業で学んだ経営情報システムの活用事例を整理する（45分）
4	ＡＩと経営の関係 ・新しい技術が企業の業務や事業戦略に及ぼす影響を考える	企業がどのようにＡＩを活用しているかの事例を調べる（45分）	ＡＩが企業のビジネスモデルにどう影響を与えるかを考察する（45分）
5	生成ＡＩの基礎 ・大規模モデルの仕組みや言語・画像生成の特徴を学ぶ	生成AIの基本的な仕組みや技術（GPT，DALL·E など）を調べる（45分）	授業で学んだ技術について、実際の活用事例を探す（45分）
6	プロセスの自動化と業務効率化 ・繰り返し作業を減らし、生産性を向上させる仕組みを学ぶ	ＲＰＡ（Ｒｏｂｏｔｉｃ　Ｐｒｏｃｅｓｓ　Ａｕｔｏｍａｔｉｏｎ）について調べる（45分）	自分の身の回りでＡＩによる業務効率化が可能な場面を考える（45分）
7	生成ＡＩと意思決定 ・膨大なデータを分析し、適切な選択を導き出す方法を理解する	データドリブン経営に関する記事を読む（45分）	ＡＩが意思決定にどのように影響を与えるか、自分の考えをまとめる（45分）
8	マーケティングと生成ＡＩ ・消費者の行動を分析し、最適なアプローチを設計する方法を考える	ＡＩを活用したマーケティング手法（広告、SNS分析等）について調べる（45分）	授業で学んだ手法を使って、企業のマーケティング事例を分析する（45分）
9	グループワーク	各グループで取り組む課題について調査する（45分）	発表内容を整理し、他グループの発表内容と比較して考察する（45分）
10	プレゼンテーションとフィードバック	プレゼンの準備（45分）	フィードバックを受けて、改善点を整理する（45分）
11	生成ＡＩと人材戦略 ・採用や研修の最適化に新技術を活かす方法を学ぶ	ＡＩが採用や人事管理にどう影響を与えているか調べる（45分）	自分が人事担当者だった場合、どのようにAIを活用するか考える（45分）
12	経営戦略とＡＩ ・競争環境を分析し、長期的な事業計画を立てる手法を考える	ＡＩと経営戦略の関連について調べる（45分）	授業で学んだ戦略を整理し、実際の企業と照らし合わせる（45分）
13	ＡＩの倫理・法律・ガバナンス ・偏見の排除や知的財産の保護に関する課題を理解する	ＡＩに関する倫理的課題（著作権、バイアス等）を調べる（45分）	ＡＩのリスク管理について、自分の意見をまとめる（45分）
14	未来のビジネスとＡＩ ・今後の技術発展による市場や社会の変化を予測する	ＡＩによって変化する産業・ビジネスモデルについて学ぶ（45分）	今後ＡＩが発展するとどのような変化が起こるか考察する（45分）
15	総括と試験対策 ・フィードバック ・科目を修了して「身に付く力」の検証	これまでの内容を振り返り、重要ポイントを整理する（45分）	フィードバックを基に期末試験の準備をする（45分）
16	定期試験	期末試験の準備をする（45分）	試験の振り返りと自己評価（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾐｸﾛ経済学 （科目ナンバリング：ECT422028，ECT522031　　）				
授業担当者 （所属・職名）	河野　善文（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　河野　善文　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

ミクロ経済学の基礎的な用語や考え方を学ぶことで、ミクロ経済学の考え方や枠組みを理解し、身近な経済のさまざまな事象を分析するための思考力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP１、DP３、DP４に対応する。

到達目標

基礎的なミクロ経済学の用語を説明できる。
身近な経済事象をミクロ経済学の視点から考察できる。
市場で決まる価格のしくみと意味がわかる。

授業全体の内容と概要

トレード・オフや機会費用などの経済学の考え方について、身近な事例をもとにした演習も行いながら学ぶ。また、余剰の計算や限界概念にかんする演習をつうじて、市場で価格が決まるしくみやその社会的な意味について理解する。

授業の方法

各回の計画にそって、板書やスライドによる講義とノートをもちいた演習とを組み合わせた授業をおこなう。講義では、ミクロ経済学の用語や基本的な考え方について事例をまじえて解説しする。演習では、ミクロ経済学に関連する計算問題やグラフの作成、例をあげた用語の説明などの問題に取り組む。また、理解の確認の意味もふくめて、解説と演習のあいまに受講生に対して随時質問をして意見をもとめながら授業をすすめる。また、授業の復習という目的もかねて、演習に関する解説やコメント（フィードバック）を次回以降の授業のなかでおこなう。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

履修人数によっては座席を指定する場合がある。また、質問や演習問題の回答・解答を書くために必ずノートが必要である。平常点は、この演習課題への取り組みを評価する。このため、欠席・遅刻することなく授業に参加して演習に取り組むことが重要である。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
８０%	０%	０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ミクロ経済学の用語の理解	事例をあげてミクロ経済の用語を的確に説明できた。	事例をあげてミクロ経済の用語を説明できた。	ミクロ経済の用語を説明できた。	ミクロ経済の用語をある程度説明できた。	ミクロ経済の用語を説明できなかった。
ミクロ経済理論の理解	図や式を利用して、ミクロ経済の考え方を的確に説明できた。	図や式を利用して、ミクロ経済の考え方を説明できた。	ミクロ経済理論の基礎的な図や式を正確に書き・計算できた。	ミクロ経済理論の基礎的な図や式をある程度書くことができた。	ミクロ経済学の図や式を書けなかった。
ミクロ経済事象の考察	ミクロ経済学の視点から身近な経済事象を的確に考察できた。	ミクロ経済学の視点から身近な経済事象をある程度考察できた。	ミクロ経済学の視点を身近な経済事象に適用できた。	ミクロ経済学の視点を身近な経済事象にある程度適用できた。	ミクロ経済学の視点を身近な経済事象に適用できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾐｸﾛ経済学 （科目ナンバリング：ECT422028，ECT522031　　）				
授業担当者 （所属・職名）	河野　善文（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　河野　善文　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『マンキュー入門経済学（第４版）』	Ｎ・グレゴリー・マンキュー	センゲージ・ラーニング株式会社	2025	9784807918119	
2	『スタンフォード大学で一番人気の経済学入門　ミクロ編』	ティモシー・テイラー	かんき出版	２０１３	9784761268947	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ミクロ経済学とは： ・授業改善アンケート結果反映の説明 ・授業計画　シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）	ミクロ経済学という用語について調べる(90分)	ミクロ経済学とは何かについてノートにまとめる（９０分）
2	希少な資源とトレードオフ： ・トレードオフとは　・資源の希少性と経済学の目的	用語「トレード・オフ」・「資源の希少性」について調べる（９０分）	資源の希少性とトレード・オフの関係についてノートにまとめる（９０分）
3	経済学的費用とは ・ある行動の経済学的費用とは　・機会費用の考え方	「機会費用」について調べる（９０分）	経済学的費用の考え方についてノートにまとめる（９０分）
4	インセンティブと効用： ・意思決定と意志力	「インセンティブ」「効用」について調べる（９０分）	経済学におけるインセンティブの考え方についてノートにまとめる（９０分）
5	現在価値： ・現在価値と将来価値　・割引現在価値の演習	「割引現在価値」について調べる（９０分）	割引現在価値の考え方についてノートにまとめる（９０分）
6	買手の行動について： ・意思決定と機会費用、コミットメント	「コミットメント」について調べること（９０分）	買手の意思決定についてノートにまとめること（９０分）
7	需要曲線と消費者余剰： ・商品に対する買手の評価と需要　・消費者余剰とは	「消費者余剰」について調べること（９０分）	買手の評価と需要曲線、消費者余剰についてノートにまとめる（９０分）
8	需要の変化と需要曲線： ・需要曲線上の変化　・需要曲線のシフト	「需要曲線」について調べること（９０分）	需要の変化と需要曲線との関係についてノートにまとめること（９０分）
9	財と財との関係： ・代替財とは　・補完財とは	「代替財」「補完財」について調べる（９０分）	代替財と補完財について事例もまじえてノートにまとめる（９０分）
10	需要の価格弾力性： ・需要の価格弾力性とは　・価格弾力性と需要曲線	「需要の価格弾力性」について調べる（９０分）	需要の価格弾力性と需要曲線との関係についてノートにまとめる（９０分）
11	売手の費用と行動 ・価格と供給量	価格と供給量との関係について調べる（９０分）	供給曲線についてまとめる（９０分）
12	限界的な変化；経済学における限界概念 ・限界効用とは　・限界費用とは	「限界効用」と「限界費用」について調べること（９０分）	経済学の限界概念についてノートにまとめる （９０分）
13	市場機構（１）：需要と供給 ・需要曲線と買手の限界的な評価　・供給曲線と売手の限界的な費用	「市場価格」について調べる（９０分）	需要曲線・供給曲線の高さの意味についてノートにまとめる（９０分）
14	市場機構（２）：市場の均衡 ・均衡価格と買手の評価・売手の費用	経済学における均衡について調べる（９０分）	市場均衡のしくみと市場価格の意味についてノートにまとめる（９０分）
15	市場の効率性と市場の失敗 全体のまとめとこれまでの演習にかんする解説・コメント（フィードバック）の振りかえり 科目を修了して「身に付く力」の検証	市場の失敗について調べる（９０分）	不明な点を確認して授業ノートを完成させる（９０分）
16	定期試験（６０分）と試験の説明 授業改善アンケートの実施	各回の演習問題に再度とりくむ（９０分）	試験で間違えた問題に再度とりくむ（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	社会科・地理歴史科教育法Ⅰ （科目ナンバリング：ESS143155, ）				
授業担当者 （所属・職名）	塩崎　大輔（社会福祉学科・専任講師）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	2 （単位認定責任者： 塩崎　大輔 ）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

中学校社会科および高等学校地理歴史科の目標および学習指導要領に示された学習内容について理解し、授業計画を作成・研究することができる能力を身に付け、教壇に立てるだけの最低限のスキルを身につける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP４、DP５に対応する。

到達目標

「社会科」・「地理歴史科」の目標および学習指導要領に示された学習内容について理解し、実際に教壇に立って授業を行うことができるように、授業計画を作成することや教壇に立てるだけの最低限のスキルを身につけ、教材研究ができる。

授業全体の内容と概要

教育実習の準備として、基本的な教科の理解及び教科の授業計画、教材研究、模擬授業（後期）等をマスターするので、教員の立場として物事を考えることが望まれる。前期は、社会・地理歴史科の基礎的な内容を学修して教材研究の方法を学び、後期には実践的な模擬授業を実施する。
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。
授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。

授業の方法

授業形態はスライドを用いた講義形式が中心であるが、グループ学習・ディスカッションも含まれる。また、指導案やレポート等は、コメントによりフィードバックを行う。なお、野外調査活動の一環として、地域のフィールドワークを行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

レポートは、指示した「レポート作成要領」に準拠したものを提出すること。
教育実習の準備として、基本的な教科の理解及び教科の授業計画、模擬授業の方法等をマスターするので、教員の立場として物事を考えること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（社会・地理歴史）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上である。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	５０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	レポート課題において、９割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、８割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、７割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、６割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、６割以上の得点を取ることができなかった。
思考力・判断力・表現力	右の記述を高いレベルで実現できた。	ディスカッションの課題などで、論理的に自分の意見をまとめ、たいへんわかりやすく説明ができた。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、わかりやすく説明ができた。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、説明ができた。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、説明ができなかった。
関心・意欲・態度	右の記述を高いレベルで実現できた。	フィールドワークを通して、調査の観点に基づいて、詳細に観察し情報を集めることができた。	フィールドワークを通して、調査の観点に基づいて、観察し情報を集めることができた。	フィールドワークを通して、調査の観点に基づいて、観察し情報を少ないが集めることができた。	フィールドワークを通して、調査の観点に基づいて、観察し情報を集めることができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	社会科・地理歴史科教育法Ⅰ （科目ナンバリング：ESS143155, ）				
授業担当者 （所属・職名）	塩﨑　大輔（社会福祉学科・専任講師）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	2 （単位認定責任者： 塩﨑　大輔 ）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『中学校学習指導要領解説　社会編』	文部科学省	東洋館出版社	2018	9784491034713	
2	『高等学校学習指導要領解説　地理歴史編』	文部科学省	東洋館出版社	2019	9784491036410	
3	『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 社会』	文部科学省	東洋館出版社	2020	9784491041339	
4	『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 地理歴史』	文部科学省	東洋館出版社	2021	9784491047010	
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『教育の情報化に関する手引』	文部科学省		2019		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業の内容・進め方・評価方法のガイダンス 前年度の授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	事前にシラバスを読んでいること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
2	社会科教育の歴史（１）戦後教育の歩みについて	事前にテキストの範囲を読んでおくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
3	社会科教育の歴史（２）学習指導要領改訂の経過について	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
4	中学校社会科の目標分析	事前にテキストの範囲を読んでおくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
5	高校地理歴史科の目標分析	事前にテキストの範囲を読んでおくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
6	中学校社会科の構造	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
7	高校地理歴史科の構造	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
8	社会科・地理歴史科教育の方法①　グループワーク	ディスカッションの準備学習をしておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
9	社会科・地理歴史科教育の方法②　ブレインストーミング	ディスカッションの準備学習をしておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
10	社会科・地理歴史科教育の方法③　ディベート	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
11	中学校社会科地理分野の指導と評価について	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
12	中学校社会科歴史分野の指導と評価について	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
13	高校地理分野の指導と評価について	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
14	高校歴史分野の指導と評価について	フィールドワークの準備学習をしておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
15	フィールドワーク　郷土資料館	フィールドワークの準備学習をしておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
16	まとめ、課題（レポートなど）の解説 授業改善アンケートの実施 全体を講評し、フィードバックする 科目を修了して『身に付く力』についての検証	まとめの準備（９０分）	まとめの振り返り（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	生涯学習概論 （科目ナンバリング：EDU011014　　）				
授業担当者 （所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　藤根　収　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題（生涯学習）について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

生涯学習についての考え方や学習方法など基礎的・基本的事項を理解し、生涯学習の学習者・支援者としての知識・態度を身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ1、ＤＰ2、ＤＰ５に対応する。

到達目標

生涯学習に関連する考え方や学習方法などの基礎的・基本的な知識を身に付け、生涯学習社会における学校教育、社会教育、家庭教育等の役割やリカレント教育など生涯学習の取組について理解して説明できる。

授業全体の内容と概要

各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して考察、意見交換(グループ)、発表等の一連の活動を行う。また、できるだけ具体的な事例から生涯学習の理解を深め、生涯においてどう関わるか、また、支援者としての関わりを考えられるように構成する。
「ＳＤＧ４：質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業ではパワーポイント及び配布物(レジメ)で実施し、資料にて説明した後、グループワーク等で思考・考察、意見交換・討論、発表等の一連の活動を行う。また、実践事例のVTR教材視聴後に事例に基づくレポート提出を行う。レポートにはコメントにてフィードバックする。なお、学生の質問などには、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。不測の事態が起きた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は欠席とし、遅刻３回で欠席１回とみなす。
全学科が同一クラスで授業を行うため、無断でのスマホ使用、私語の禁止、座席の指定など、受講に当たっての注意事項を必ず厳守すること。また、グループワークなど主体的な学修態度が求められる。
教科書は必ず購入して、持参すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）の選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	１０%	０%	２０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
生涯学習理論等の理解	生涯学習理論等について、学修したを知識・技能を基盤に、さらに知識等を深めようとすることができた。	生涯学習理論等について、意欲的に学び、必要な知識・技能を理解することができた。	生涯学習理論等について必要な知識・技能を理解できた。	生涯学習理論等についての知識・技能を一定程度理解できた。	生涯学習理論等について、理解が不十分だった。
生涯学習に関する情報や実践に対する思考･判断･表現	生涯学習について積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して表現することができた。	生涯学習について思考・判断し、個人やグループで表現することができた。	生涯学習について、個人やグループで思考活動等に取り組み、表現しようとすることができた。	生涯学習について思考活動等に一定程度取り組み、表現しようとしていた。	生涯学習理論等について、理解が不十分だった。
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が一定程度みられた。	授業への参加態度に課題があった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	生涯学習概論 （科目ナンバリング：EDU011014　　）				
授業担当者 （所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　藤根　収　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題（生涯学習）について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『よくわかる生涯学習　改訂版』	香川正弘、鈴木眞理、永井健夫	ミネルヴァ書房	2016	978-4-623-0763-4	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『社会教育・生涯学習』	手打明敏、上田孝典	ミネルヴァ書房	2019	978-4-623-08447-0	
2	『生涯学習概論　　改訂版』	小林　繁、平川景子、片岡了	エイデル研究所	2020	978-4-87168-613-6	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ～シラバス、科目を修了して「身に付く力」、授業改善アンケート結果反映の説明～ 生涯学習とは何か（1）　ー生涯学習の定義と内容	教科書から「生涯学習」についての課題を整理する（９０分）	課題についてノートに整理し、シラバスで確認すること（９０分）
2	生涯学習とは何か（2） ー生涯学習の概念と生涯学習社会の形成	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
3	生涯学習とは何か（3） ー生涯学習と学校教育、家庭教育、社会教育	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
4	生涯学習にわたる人間形成 ー生涯教育と生涯学習、ライフサイクル論と生涯発達	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
5	諸外国の生涯学習 ーイギリス、ドイツ、アメリカなど	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
6	生涯学習を支える思想 ー生涯学習の学習論、社会的位相	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
7	生涯学習とリカレント教育 ーリカレント教育の意義と方策	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
8	民間団体・機関による生涯学習支援と大学開放	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
9	行政による生涯学習の振興　ー北海道の生涯学習施策を中心に（中間テスト）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
10	生涯学習にかかわる人的支援	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
11	施設に基づいた生涯学習活動 ー公民館、生涯学習推進センター、図書館、博物館など	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
12	生涯学習の多様な学習方法 ー学習方法の類型とワークショップなど具体的な方法	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
13	伝統として息づく日本の生涯学習 ～生涯学習の先駆的発想	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
14	生涯学習の現代的課題（1） ー生きがいづくりの生涯学習、高齢社会に対応した生涯学習など	講義内容を整理し、レポート作成の課題を整理する　（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
15	生涯学習の現代的課題（2） ー高度情報化に対応した生涯学習、生涯学習の成果の活用など ～授業の講評とフィードバック、科目を修了して「身に付く力」の検証　授業改善アンケートの実施～	講義内容を整理し、レポート作成の課題を整理する（９０分）	レポートを作成する（９０分）
16	定期試験（６０分の試験終了後、残りの３０分で解説する。）	教科書等で講義内容を整理する（９０分）	試験の結果を見直す（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目（３年	対象学科・配当	経営学科・３年、社会福祉学科・３年、デザイン学科・３		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	政治学入門 （科目ナンバリング：POL021022　　）				
授業担当者 （所属・職名）	後藤　啓倫（社会福祉学科・専任講師）	研究室等所在	１号館４階		
単位数	2　（単位認定責任者：　後藤　啓倫　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

現代日本政治を中心に、政治を考察するための基礎概念、制度、歴史に関する知識を正確に理解し、それらを用いて政治に対する自分の考えを説明する能力を身につける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP２に対応する。
デザイン学科のDP２に対応する。
建築学科のDP２に対応する。
経営学科のDP２に対応する。

到達目標

①政治に関する基礎的な概念を理解し、説明することができる。
②日本政治の歴史、制度に関する基礎的な知識を修得し、説明することができる。
③概念、歴史、制度に基づいて日本政治に関する自分なりの考えを説明することができる。

授業全体の内容と概要

政治というものは日常生活を送るうえで避けて通ることができないものであるが、目に見えるものではない。政治学は、この目には見えない政治という現象を捉えようとする学問である。この講義では、現代日本政治を題材に政治学の成り立ち、基本的な概念について学ぶ。具体的には、日本の政治がどのような仕組みになっているのか、その制度を学ぶ。次に、日本の政治がこれまでどのように展開してきたのか、その歴史を学ぶ。そのうえで、現代日本政治の課題について学ぶ。
「SDG1.貧困をなくそう」、「SDG10.人や国の不平等をなくそう」、「SDG16.平和と公正をすべての人に」の関連授業

授業の方法

授業は講義形式で行う。書き込み式のレジュメを配布して補足の説明を行う。
書き込む内容は板書またはパワーポイントで示す。
教科書を使用しないので講義をしっかり聴いてメモをとること。
毎回の感想・質問等を記入するリアクションペーパーを配布し、次回授業時にフィードバックを行う。
TeamsやFormsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業中の私語、スマホの使用は厳禁。受講マナーを守ること。
正当な理由のない２０分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻３回で欠席１回とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（社会・公民）の必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
政治に関する基礎的な概念を理解し、説明することができる。	政治に関する基礎的な概念を高いレベルで理解し、説明することができた。	政治に関する基礎的な概念を正確に理解し、説明することができた。	政治に関する基礎的な概念をある程度理解し、説明できた。	政治に関する基礎的な概念を理解し、説明できた。	政治に関する基礎的な概念を理解し、説明することができなかった。
日本政治の歴史、制度に関する基礎的な知識を修得し、説明することができる。	日本政治の歴史、制度に関する基礎的な知識を高いレベルで修得し、説明することができた。	日本政治の歴史、制度に関する基礎的な知識を正確に修得し、説明することができた。	日本政治の歴史、制度に関する基礎的な知識をある程度修得し、説明することができた。	日本政治の歴史、制度に関する基礎的な知識を修得し、説明することができた。	日本政治の歴史、制度に関する基礎的な知識を修得し、説明することができなかった。
概念、歴史、制度に基づいて日本政治に関する自分なりの考えを説明することができる。	概念、歴史、制度に基づいて日本政治に関する自分なりの考えを高いレベルで説明できた。	概念、歴史、制度に基づいて日本政治に関する自分なりの考えを十分に説明できた。	概念、歴史、制度に基づいて日本政治に関する自分なりの考えをある程度説明できた。	概念、歴史、制度に基づいて日本政治に関する自分なりの考えを説明できた。	概念、歴史、制度に基づいて日本政治に関する自分なりの考えを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目（３年	対象学科・配当	経営学科・３年、社会福祉学科・３年、デザイン学科・３		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	政治学入門 （科目ナンバリング：POL021022　　）				
授業担当者 （所属・職名）	後藤　啓倫（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　後藤　啓倫　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスの確認（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
2	政治学の基礎概念	授業テーマに関する新聞記事の熟読（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
3	政治の役割	授業テーマに関する新聞記事の熟読（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
4	日本の内閣	授業テーマに関する新聞記事の熟読（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
5	日本の国会	授業テーマに関する新聞記事の熟読（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
6	日本の政党	授業テーマに関する新聞記事の熟読（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
7	日本の政治家	授業テーマに関する新聞記事の熟読（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
8	日本の選挙制度	授業テーマに関する新聞記事の熟読（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
9	日本の選挙の課題	授業テーマに関する新聞記事の熟読（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
10	日本の官僚制	授業テーマに関する新聞記事の熟読（９０分）熟読（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
11	日本の地方自治	授業テーマに関する新聞記事の熟読（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
12	地方自治の課題	授業テーマに関する新聞記事の熟読（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
13	日本の外交	授業テーマに関する新聞記事の熟読（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
14	日本政治の課題	授業テーマに関する新聞記事の熟読（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
15	授業のまとめ 授業改善アンケートの実施	授業テーマに関する新聞記事の熟読（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
16	定期試験（試験６０分の試験終了後、残りの解説３０分で解説をし、フィードバックする） 科目を修了して『身に付く力』についての検証	試験の準備（９０分）	試験のふり返り（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年（留学生対象）		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本語III （科目ナンバリング：JLN052040　　）				
授業担当者 （所属・職名）	髙橋　真弥(経営学科・非常勤講師)	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　髙橋　真弥　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

自分の思いや考えを、相手が理解できるように伝えるにはどのような技法や作法が必要なのかを学び、日本の大学で通用するレポート、論文の書き方を段階的に身につける。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ1、ＤＰ2、ＤＰ5に対応する。

到達目標

文章の「型」を身に着け、自分の考えを整理することができる。文章表現のルールを理解し、スキルを身に着け、正しい形のレポートや論文を書くことができる。
わかりやすい文章で、相手に自分の思いや考えを伝えることができる。

授業全体の内容と概要

文章表現のルールや技法を段階的に学ぶ。課題発見力、情報整理力を身に着けるためのトレーニングを行い、提示される課題に取り組む。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。
「SDG 17.パートナーシップで目標を達成しよう」の関連科目。

授業の方法

資料や参考図書を使用し、段階的にレポート、論文の書き方を学ぶ。文章表現のトレーニングが中心だが、グループでお互いの文章を評価したり、課題発見力、情報整理力をつけるためのグループワーク等も行う。
なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業中は母語の使用は禁止とする。母語話者同士の会話もすべて日本語で行うこと。また、授業中の携帯電話、辞書の使用は原則禁止とする。集中して教師の講義を聞き、わからなかったら教師に質問すること。文章表現時に単語等がわからない時など、教師が許可した時のみ携帯電話等の使用ができる。毎時授業内で課題を提示する。一日でも休むと課題評価が得られないので毎回出席すること。
平常点も評価に影響する。授業中は真面目に取り組み、「日本語で表現できない」と思わずなんでもチャレンジすることが求められる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業内で提示する課題と、最終レポートで評価する。課題や最終レポートの評価は文章表現のルールを理解していることや、スキルを使ってわかりやすく表現できているかどうかで行う。
15分以上の遅刻は欠席とみなす。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。最低出席日数は10回である。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	４０%	０%	２５%	５%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
文章を書くための知識と技術	文章を書くための知識と技術を完全に身につけ、知識と技術を活用してわかりやすい文章で表現することができた。	文章表現のルールを理解し、文章を書くための知識と技術を身につけることができた。	分からないことを適切な方法で調べながら、相手に、より伝わる文章を書くための知識と技術を身につけることができた。	適切な知識と技術で文章を書くことができた。文章表現のルールを完全には理解できなかった。	文章を書くための知識と技術を身につけることが全くできなかった。文章表現のルールを理解できなかった。
思考力、判断力、日本語での表現力	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすく、文法の間違えがほとんどない。大学で通用するしっかりした文章表現ができた。	自身で考え、自分の言葉で表現でき、内容が分かりやすかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できた。	日本語での表現ができた。	日本語での表現ができなかった。
主体的に学習に取り組む態度	毎回の授業に参加し授業に意欲的で、活動、課題にも積極的に参加していた。	毎回の授業に参加し、授業に対し真面目に取り組んでいる。積極的に活動に参加していた。	毎回の授業に参加し、授業に対し意欲的で真面目に取り組んでいる。積極性は弱かった。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいるが、授業内の活動に対し消極的であった。	最低出席日数分授業に参加しておらず、授業態度も問題あった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年（留学生対象）		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本語III （科目ナンバリング：JLN052040　　）				
授業担当者 （所属・職名）	髙橋　真弥(経営学科・非常勤講師)	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　髙橋　真弥　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス説明《科目を修了して「身につく力」についても説明》・授業説明） 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの内容の確認と受講準備（９０分）	授業内容の復習（９０分）
2	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（９０分）	授業内容の復習（９０分）
3	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（９０分）	授業内容の復習（９０分）
4	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（９０分）	授業内容の復習（９０分）
5	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（９０分）	授業内容の復習（９０分）
6	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（９０分）	授業内容の復習（９０分）
7	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（９０分）	授業内容の復習（９０分）
8	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（９０分）	授業内容の復習（９０分）
9	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（９０分）	授業内容の復習（９０分）
10	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（９０分）	授業内容の復習（９０分）
11	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（９０分）	授業内容の復習（９０分）
12	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（９０分）	授業内容の復習（９０分）
13	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（９０分）	授業内容の復習（９０分）
14	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク 最終レポート課題提示	前回の復習（９０分）	授業内容の復習、最終レポート作成（９０分）
15	最終レポート作成	前回の復習（９０分）	最終レポート作成（９０分）
16	課題発表 総括（「身につく力」の検証） 授業に係る講評・解説によるフィードバック 授業改善アンケートの実施	最終レポートのチェック（９０分）	全体の復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	心理学 （科目ナンバリング：PSG111008　　）				
授業担当者 （所属・職名）	吉澤　英里（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　吉澤　英里　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

心理学は、心とは何かという問いに対して科学的な手法を用いて明らかにすることを試みる学問領域である。研究例を手がかりとしながら、どのようなことが明らかになっているのかを知り、自他の心の理解を深めることを目指す。

授業の位置づけ

全学科のDP2に対応する。

到達目標

人の心の解釈の多様性を理解し、その中から自分なりの解を示すことができる。さらに、そうした解を学術レポートの様式に準じた形で文章表現できる。

授業全体の内容と概要

心理学が成立した過程を学び、その中でどのような研究がなされてきたのかを理解する。さらに、研究の結果としてどのようなことがわかっているのか、あるいはわかっていないのかを、自分の経験や体験と照らし合わせながら考えていく。これらの学びを通して、こころの多様性や自他への理解を深めることを目指す。
「SDGs３．すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

PowerPointによるスライド資料、板書、 映像等を活用しながら講義形式で行う。毎回の最後に、Microsoft Formsを活用した質疑応答を求める。受け取った質問やコメント、要望については、次回に全体へフィードバックする。さらに、学生の不明点・質問はTeamsチャットなどの支援システムで迅速に回答する。レポート課題（第1回と第2回）は基本的にTeams上でやり取りを行う。提出されたレポートにはコメントし、Teamsを介してフィードバックを行う。第3回は第16回の講義で全体に向けてのフィードバックを行う。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。また、欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

「読む、考える、書く」ことを重視する。関連図書を読み、理解を深めること。特に、学術レポートの執筆が不慣れな者は、レポート執筆前に「レポートの書き方」などの文献を一読することを強く勧める。
提出物の締め切りは厳守すること。締め切りを超過したレポートも受理するが、それへの評価は相当低くなることを覚悟すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	１００％	０％	０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基礎知識の理解	授業で扱った専門知識について、非常に理解ができた。	授業で扱った専門知識について、よく理解ができた。	授業で扱った専門知識について、やや理解ができた。	授業で扱った専門知識について、最低限の理解ができた。	授業で扱った専門知識について、最低限の理解ができていなかった。
解とその根拠の提示	問いに対して、自分なりの解とその根拠を非常に示せた。	問いに対して、自分なりの解とその根拠をかなり示せた。	問いに対して、自分なりの解とその根拠をやや示せた。	問いに対して、自分なりの解を示せた。	問いに対して、自分なりの解を示せなかった。
アカデミック・ライティング	学術レポートのルールを非常に理解し、レポートを執筆できた。	学術レポートのルールをよく理解し、レポートを執筆できた。	学術レポートのルールをやや理解し、レポートを執筆できた。	学術レポートの最低限のルールを理解し、レポートを執筆できた。	学術レポートのルールに沿って、レポートが執筆できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	心理学 （科目ナンバリング：PSG111008　　）				
授業担当者 （所属・職名）	吉澤　英里（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　吉澤　英里　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『心理学　第5版補訂版』	鹿取廣人　他	東京大学出版会	2020	9784130121170	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映、科目を修了して「身に付く力」についての説明 ：オリエンテーション（心とは何か）、第1回レポート課題の提示と説明	関連図書を事前に読んでおくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（９０分）
2	心理学の誕生に至るまでの歴史	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（９０分）
3	行動主義	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（９０分）
4	条件づけ・学習	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（９０分）
5	記憶の仕組み 第2回レポート課題の提示と説明	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（９０分）
6	記憶に関わる諸現象	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（９０分）
7	感覚・知覚の基礎	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（９０分）
8	見えの仕組みと諸現象 第1回レポート課題のフィードバック	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（９０分）
9	聞こえの仕組みと諸現象 第3回レポート課題の提示と説明	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（９０分）
10	問題解決と認知的発達	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（90分）
11	推論と発見	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（９０分）
12	コミュニケーション（言語と非言語） 第2回レポート課題のフィードバック	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（９０分）
13	動機づけ	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（９０分）
14	情動（情動とは何か）	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（９０分）
15	フラストレーションとコンフリクト	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（９０分）
16	講義内容の総括、科目を修了して「身に付く力」の検証、授業改善アンケートの実施 第3回レポート課題のフィードバック	今までの授業内容を復習しておくこと。（９０分）	振り返りを行うこと（９０分）。

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	医学概論 （科目ナンバリング：BAM112008　　）				
授業担当者 （所属・職名）	宮崎　剛司（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　宮崎　剛司　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	看護実践と看護教育の実務経験を踏まえ、人の成長過程と体のしくみ、その破綻(病気・障がいなど)の考え方を生活と関連させ学修する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整または研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

人の体の成り立ちやしくみ、さまざまな疾病について、人の成長過程における老化や日常生活との関係を踏まえて理解を深める。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

社会福祉職に求められる人の成長・発達過程を理解し、人体の機能・構造と病的状態を関連させて説明できる。

授業全体の内容と概要

人体の構造と生理機能を臓器と関連させて学習し、正常と病的状態を比較しながら代表的な疾患や障害について理解する。特に将来致命的となる疾患や注目されている疾患については予防対策も含めて講義を行ない、福祉に必要な知識を身につける。また，ICFの基本的な考え方やリハビリテーションの概念についても学習する。

授業の方法

講義形式。テキストの活用を中心とし、板書や配布資料を適宜使い解説を行う。また、確認のために小試験を課題とし、添削後、返却し解答・解説を行いフィードバックする。
双方向授業システム（クリッカー等）を利用、Ｔｅａｍｓを利用した学習支援する。
「基本は対面授業の実施」であるが、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教科書は必ず持参すること。
必要な資料等は適宜配布するため持参すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程，精神保健福祉士国家試験受験資格課程，保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は11回以上。
20分以上の遅刻は欠席とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	２０%	１０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
人の成長・発達過程や体の成り立ち・しくみの理解	人の成長・発達過程や体の成り立ち・しくみについて非常に理解できた。	人の成長・発達過程や体の成り立ち・しくみについて概ね理解できた。	人の成長・発達過程、人体について部分的に理解できた。	人の成長・発達、人体について助言により部分的に理解できた。	助言しても理解できなかった。
各疾病、障がいの概要	各疾病・障がいの概要を人体の機能・構造と関連させ詳しく説明できた。	各疾病・障がいの概要を人体の機能・構造と関連させ概ね説明できた。	各疾病・障がいの概要、人体の機能・構造を部分的に説明できた。	各疾病、障がいの概要を助言により説明できた。	助言しても説明できなかった。
疾病予防や健康のとらえ方、ICFの基本的考え方	疾病予防や健康のとらえ方、ICFの基本的考え方を詳細に説明できた。	疾病予防や健康のとらえ方、ICFの基本的考え方を概ね説明できた。	疾病予防や健康のとらえ方、ICFについて部分的に説明できた。	疾病予防や健康のとらえ方、ICFの基本的考え方を助言により説明できた。	助言しても説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	医学概論 （科目ナンバリング：BAM112008　　）				
授業担当者 （所属・職名）	宮﨑　剛司（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　宮﨑　剛司　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	看護実践と看護教育の実務経験を踏まえ、人の成長過程と体のしくみ、その破綻(病気・障がいなど)の考え方を生活と関連させ学修する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整または研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座 1 医学概論』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021	978-4-8058-8231-3	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	事前に教科書全体に目を通しておく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
2	ライフステージにおける心身の変化と健康課題①	教科書の第一章について事前に読んでおく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
3	ライフステージにおける心身の変化と健康課題②	教科書の第一章について事前に読んでおく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
4	ライフステージにおける心身の変化と健康課題③	教科書の第一章について事前に読んでおく（９０分）	配布資料と理解しておく（９０分）
5	身体構造と心身機能①	教科書の第三章について事前に読んでおく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
6	身体構造と心身機能②	教科書の第四章について事前に読んでおく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
7	身体構造と心身機能③	教科書の第五章について事前に読んでおく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
8	前半のまとめと学習到達度の確認テスト	前半の授業・資料・ノートを見直しテストに臨むこと（９０分）	問題を見直し自己採点しておく（９０分）
9	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション①	教科書の第六章について事前に読んでおく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
10	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション②	教科書の第六章について事前に読んでおく（９０分）	配布資料と理解しておく（９０分）
11	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション③	教科書の第六章について事前に読んでおく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
12	健康および疾病の捉え方①	教科書の第六章について事前に読んでおく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
13	健康および疾病の捉え方②	教科書の第二章について事前に読んでおく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
14	公衆衛生	教科書の第七章について事前に読んでおく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
15	総括と今後の課題 授業改善アンケート実施 授業最終回において講評をし、フィードバックする 科目を修了して『身に付く力』についての検証	これまで授業で行ったことを振り返り準備してくる（９０分）	医療と福祉の課題に今後も取り組んでいく（９０分）
16	60 分の試験終了後、残りの 30 分で解説をし、フィードバックする	講義を通して質問事項をまとめておくこと（９０分）	試験及び解説を受けて講義全体の理解を深めること（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２		
開講時期	前期集中	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	医学概論（再） （科目ナンバリング：BAM112008　　）				
授業担当者 （所属・職名）	宮崎　剛司（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　　宮崎　剛司　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	看護実践と看護教育の実務経験を踏まえ、人の成長過程と体のしくみ、その破綻(病気・障がいなど)の考え方を生活と関連させ学修する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整または研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

人の体の成り立ちやしくみ、さまざまな疾病について、人の成長過程における老化や日常生活との関係を踏まえて理解を深める。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

社会福祉職に求められる人の成長・発達過程を理解し、人体の機能・構造と病的状態を関連させて説明できる。

授業全体の内容と概要

人体の構造と生理機能を臓器と関連させて学習し、正常と病的状態を比較しながら代表的な疾患や障害について理解する。特に将来致命的となる疾患や注目されている疾患については予防対策も含めて講義を行ない、福祉に必要な知識を身につける。また，ICFの基本的な考え方やリハビリテーションの概念についても学習する。

授業の方法

講義形式。テキストの活用を中心とし、板書や配布資料を適宜使い解説を行う。また、確認のために小試験を課題とし、添削後、返却し解答・解説を行いフィードバックする。
双方向授業システム（クリッカー等）を利用、Ｔｅａｍｓを利用した学習支援する。
「基本は対面授業の実施」であるが、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教科書は必ず持参すること。
必要な資料等は適宜配布するため持参すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程，精神保健福祉士国家試験受験資格課程，保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は11回以上。
20分以上の遅刻は欠席とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	２０%	１０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
人の成長・発達過程や体の成り立ち・しくみの理解	人の成長・発達過程や体の成り立ち・しくみについて非常に理解できた。	人の成長・発達過程や体の成り立ち・しくみについて概ね理解できた。	人の成長・発達過程、人体について部分的に理解できた。	人の成長・発達、人体について助言により部分的に理解できた。	助言しても理解できなかった。
各疾病、障がいの概要	各疾病・障がいの概要を人体の機能・構造と関連させ詳しく説明できた。	各疾病・障がいの概要を人体の機能・構造と関連させ概ね説明できた。	各疾病・障がいの概要、人体の機能・構造を部分的に説明できた。	各疾病、障がいの概要を助言により説明できた。	助言しても説明できなかった。
疾病予防や健康のとらえ方、ICFの基本的考え方	疾病予防や健康のとらえ方、ICFの基本的考え方を詳細に説明できた。	疾病予防や健康のとらえ方、ICFの基本的考え方を概ね説明できた。	疾病予防や健康のとらえ方、ICFについて部分的に説明できた。	疾病予防や健康のとらえ方、ICFの基本的考え方を助言により説明できた。	助言しても説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２		
開講時期	前期集中	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	医学概論（再） （科目ナンバリング：BAM112008　　）				
授業担当者 （所属・職名）	宮崎　剛司（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　宮崎　剛司　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	看護実践と看護教育の実務経験を踏まえ、人の成長過程と体のしくみ、その破綻(病気・障がいなど)の考え方を生活と関連させ学修する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整または研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座 1 医学概論』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021	978-4-8058-8231-3	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	事前に教科書全体に目を通しておく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
2	ライフステージにおける心身の変化と健康課題①	教科書の第一章について事前に読んでおく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
3	ライフステージにおける心身の変化と健康課題②	教科書の第一章について事前に読んでおく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
4	ライフステージにおける心身の変化と健康課題③	教科書の第一章について事前に読んでおく（９０分）	配布資料と理解しておく（９０分）
5	身体構造と心身機能①	教科書の第三章について事前に読んでおく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
6	身体構造と心身機能②	教科書の第四章について事前に読んでおく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
7	身体構造と心身機能③	教科書の第五章について事前に読んでおく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
8	前半のまとめと学習到達度の確認テスト	前半の授業・資料・ノートを見直しテストに臨むこと（９０分）	問題を見直し自己採点しておく（９０分）
9	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション①	教科書の第六章について事前に読んでおく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
10	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション②	教科書の第六章について事前に読んでおく（９０分）	配布資料と理解しておく（９０分）
11	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション③	教科書の第六章について事前に読んでおく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
12	健康および疾病の捉え方①	教科書の第六章について事前に読んでおく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
13	健康および疾病の捉え方②	教科書の第二章について事前に読んでおく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
14	公衆衛生	教科書の第七章について事前に読んでおく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
15	総括と今後の課題 授業改善アンケート実施 授業最終回において講評をし、フィードバックする 科目を修了して『身に付く力』についての検証	これまで授業で行ったことを振り返り準備してくる（９０分）	医療と福祉の課題に今後も取り組んでいく（９０分）
16	60 分の試験終了後、残りの 30 分で解説をし、フィードバックする	講義を通して質問事項をまとめておくこと（９０分）	試験及び解説を受けて講義全体の理解を深めること（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科2年、建築学科2年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	色彩環境論 （科目ナンバリング：DES211005,AEA321048　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安田　祐造(デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館1階	
単位数	2　（単位認定責任者：　安田　祐造　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	50年以上にわたり画家として色彩に関わって来たことと、当科目については、過去に10年ほど本学で担当した実績を有する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

美術に携わる者にとり、色彩を抜きにしては語れない必須の要件である。色彩についての基本を体得し、作品の制作に活用させられるようにすること。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP１、DP３、DP4に対応する。

到達目標

無数にある色彩を識別し分類することができるようにすること。それぞれの色彩の特徴や性格を把握し、効果的に制作に活かすことができるようにすること。

授業全体の内容と概要

色彩の分類、配色の仕方、光と色との関係、色彩の心理的効果、色の名前等について、テキストに沿って講義する。授業で身に着けた知識や感覚等を客観的に評価するために、色彩検定に積極的に取り組むことを期待する。また、適宜、小テストを行ったり課題をこなしてもらったりする(その都度授業内でコメントをしてフィードバックする)ことで、学修効果を測定し評価に反映させる。

授業の方法

テキストの中身や補足的な資料をパソコンとプロジェクターとを利用し講義する。随時、色見本(配色カード)を用いて、色彩についての感覚を磨く。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

テキストだけでなく、色見本(配色カード)等の用材をすべて揃えられることを前提に履修登録を行うこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	100%	０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
色彩の三属性について、それぞれを識別できているか。	色彩の三属性それぞれについて、十分に理解し、微妙な差異を感じ取り、十分正確に表現できている。	色彩の三属性それぞれについて、ほぼ理解し、あらかたの差異を感じ取り、ほぼ正確に表現できている。	色彩の三属性それぞれについて、ある程度理解し、大まかな差異を感じ取り、ある程度正確に表現できている。	色彩の三属性それぞれについて、不十分ながら理解し、少しは差異を感じ取り、不十分ながら表現できている。	色彩の三属性それぞれについて、理解できておらず、差異を感じ取れず、表現できていない。
効果的な配色を行えるか。	配色のルールについて、十分に理解し、十分効果的に表現できている。	配色のルールについて、ほぼ理解し、ほぼ的確に表現できている。	配色のルールについて、ある程度理解し、ある程度的確に表現できている。	配色のルールについて、不十分ながら理解し、不十分ながら表現できている。	配色のルールについて、理解できていなく、表現できていない。
それぞれの色彩の特徴や性格を把握しているか。	色彩の特徴や性格を十分に把握している。	色彩の特徴や性格をほぼ把握している。	色彩の特徴や性格を大体把握している。	色彩の特徴や性格を不十分ながらに把握している。	色彩の特徴や性格を把握できていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科2年、建築学科2年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	色彩環境論 （科目ナンバリング：DES211005,AEA321048　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安田　祐造(デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館1階	
単位数	2　（単位認定責任者：　安田　祐造　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	50年以上にわたり画家として色彩に関わって来たことと、当科目については、過去に10年ほど本学で担当した実績を有する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『色彩検定 出る順』	カラボ色大学	ナツメ社	2020年	9784816368707	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明、授業計画について、科目を修了して『身に付く力』についての説明　、テキスト、色見本について 色の三属性についての概説	あらかじめ必要なテキストや用材を準備しておく。(９０分)	色の三属性について復習する。(９０分)
2	色相と色相環について	色相と色相環について予習しておく。(９０分)	色相と色相環について復習する。(９０分)
3	明度と彩度について	明度、彩度について予習しておく。(９０分)	明度、彩度について復習する。(９０分)
4	配色のルールについて	配色のルールについて予習しておく。(９０分)	配色のルールについて復習する。(９０分)
5	配色について	配色ついて予習しておく。(９０分)	配色について復習する。(９０分)
6	光と色について	光と色について予習しておく。(９０分)	光と色について復習する。(９０分)
7	混色について	混色について予習しておく。(９０分)	混色について復習する。(９０分
8	色の心理的効果について	色の心理的効果について予習しておく。(９０分)	色の心理的効果について復習する。(９０分)
9	色の視覚的効果について	色の視覚的効果について予習しておく。(９０分)	色の視覚的効果について復習する。(９０分)
10	光と色について	光と色について予習しておく。(９０分)	光と色について復習する。(９０分)
11	混色について	混色について予習しておく。(９０分)	混色について復習する。(９０分)
12	色彩の心理について	色彩の心理について予習しておく。(９０分)	色彩の心理について復習する。(９０分)
13	色の視覚的効果について	色の視覚的効果について予習しておく。(９０分)	色の視覚的効果について復習する。(９０分)
14	配色イメージについて	配色イメージについて予習しておく。(９０分)	配色イメージについて復習する。(９０分)
15	色の名前について	色の名前について予習しておく。(９０分)	色の名前について復習する。(９０分)
16	総括とまとめ、科目を修了して『身に付く力』についての検証、小テストや課題の内容について随れフィードバックする。 授業改善アンケートの実施	これまでの学習について総括しておく。(９０分)	これまでの学習について総括する。(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築施工 （科目ナンバリング：BSM313017　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　小笠原　健　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士事務所ならびに特定建設業者である民間企業での勤務経験を活かし、実践的かつ現実的な講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

人命を預かる建築物を造りだす過程において、建築が社会に果たす意味や役割を考える力を養う。さらに、建築士試験の「建築施工」および建築施工管理技士試験に対応した基本事項の理解を深める。

授業の位置づけ

建築学科のＤＰ1、ＤＰ3、ＤＰ4に対応する。

到達目標

設計図書には詳しく表現されていない建築施工の各工程を学び、施工管理者としての実務に向けた知識と建築士ならびに建築施工管理技士試験を見据えた学力を修得できる。

授業全体の内容と概要

配布資料を中心に授業を行い、建築技術者に必要な知識の修得を行う。また、建築士試験にも対応した授業を実施する。

授業の方法

配布資料を基本に板書中心の授業を行うが、その分野ごとに建築士試験の過去問題も提供し、その解説を行うことで、建築士試験を意識させた授業を実施していく。

不測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

配布資料を必ず持参すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」必修科目，教職課程（工業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上とする。
やむを得ない事情で欠席する場合には、必ず連絡をすることとし、無断欠席は認めないものとする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
８０%	０%	０%	１０%	１０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
共生社会の実現ならびに貢献できる人材として、建築の基礎力を養うことができる。	建築が社会で果たす役割を理解し、基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、ある程度の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、最低限の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解していた。	建築が社会で果たす役割を理解していなかった。
建築技術者としての問題意識を持ち、その問題解決の意識を持つことができる。	建築についての問題意識を持ち、問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、ある程度の問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、どのような問題が存在しているかを理解していた。	建築についての問題意識を持ち、問題解決の必要性を理解していた。	建築についての問題意識を持たなかった。
「建築施工」の基礎知識を習得することができる。	基礎知識を修得し、さらに建築科目全般に取り組むことができた。	基礎知識を修得し、さらに建築科目全般に取り組む必要性を理解できた。	基礎知識を修得することができた。	基礎知識をおおむね修得することができた。	基礎知識を修得することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築施工 （科目ナンバリング：BSM313017　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　小笠原　健　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士事務所ならびに特定建設業者である民間企業での勤務経験を活かし、実践的かつ現実的な講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『建築施工テキスト』		建築資料研究社	2020		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業の進め方について説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明 授業改善アンケート結果に関する説明（小笠原　健）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
2	事前準備：地盤調査	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
3	仮設工事計画：仮設建物・工作物	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
4	地下工事：土工事・山留め工事	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
5	地下工事：基礎工事（直接基礎および各種杭基礎）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
6	鉄筋コンクリート工事：鉄筋工事	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
7	鉄筋コンクリート工事：型枠工事	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
8	鉄筋コンクリート工事：コンクリート工事	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
9	鉄筋コンクリート工事：プレキャスト・ブロック工事・ALC工事	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
10	鉄骨工事：鉄骨の種類と加工	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
11	鉄骨工事：鉄骨の接合方法・溶接接合	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
12	鉄骨工事：鉄骨の接合方法・高力ボルト接合	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
13	鉄骨工事：工事現場作業（工事現場作業工程等）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
14	木質系工事：木造の接合部・造作工事	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
15	木質系工事：小屋組と工法・枠組壁工法	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
16	定期試験（60分の試験終了後，残りの30分で解説を行う） 授業に係る講評・解説によるフィードバック、授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業内容全体について資料を整理して、定期試験に備える（90分）	定期試験内容を整理して、復習する（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保育者論 （科目ナンバリング：CHS121072　　）				
授業担当者 （所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　吉江　幸子　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における実務経験を活かし、保育士の専門性を体系的に講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

以下の４つを授業の目的とする。
１．保育者の役割と倫理について理解する。
２．保育士の制度的な位置づけを理解し、その専門性について考察する。
３．保育者の連携・協働について理解する。
４．保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

１．保育者の役割・倫理，協働，専門職的成長について理解したことを説明する。
２．保育士の制度的な位置づけ，専門性について理解したことを説明する。

授業全体の内容と概要

保育者の役割、倫理、協働、専門職的成長及び保育士の制度的な位置づけ、専門性について体系的に学修する。
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、板書とプレゼンテーションソフトを活用しながら講義形式で行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換や教材配付等を行う。
レポートに関してもコメントしてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

レポートの内容・提出方法及び平常点の評価は加点方式とし、授業時間に説明する。
遅刻した場合、授業へは参加できるが２０分以上の遅刻は欠席扱いとするので注意すること。
評価Ｓは履修者の１０％以内、評価ＳとＡを合わせて４０％以内となっている。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保育者の役割に関する知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	保育者の役割及び倫理性について深く理解できた。	保育者の役割及び倫理性についておおむね理解できた。	保育者の役割及び倫理性について理解できた。	保育者の役割及び倫理性についてやや理解できた。	保育者の役割及び倫理性について理解できなかった。
保育士の専門性に関する思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	保育士の専門性について深く考察できた。	保育士の専門性についておおむね考察できた。	保育士の専門性について考察できた。	保育士の専門性についてやや考察できた。	保育士の専門性について考察することができなかった。
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	専門職としての役割・倫理・協働について理解したことをわかりやすく説明できた。	専門職としての役割・倫理・協働について理解したことをおおむね説明できた。	専門職としての役割・倫理・協働について理解したことを説明できた。	専門職としての役割・倫理・協働について理解したことをやや説明できた。	専門職としての役割・倫理・協働について理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保育者論 （科目ナンバリング：CHS121072　　）				
授業担当者 （所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　吉江　幸子　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における実務経験を活かし、保育士の専門性を体系的に講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『保育所保育指針　〈平成２９年告示〉』	厚生労働省	フレーベル館	2017	9784577814239	
2	『保育所保育指針解説　平成３０年３月』	厚生労働省	フレーベル館	2018	9784577814482	
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（履修により「身に付く力」の説明を含む） 保育者の役割・職務内容・職務内容	指定した教科書を事前に読むこと（９０分）。	１回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
2	保育士の倫理	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	２回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
3	保育士の資格・資質	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	授業終了時に示す課題レポートを作成する（９０分）。
4	欠格事由、信用失墜行為及び秘密義務保持等	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	４回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
5	保育士の資質・能力	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	５回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
6	養護及び教育の一体的展開	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	６回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
7	家庭との連携と保護者に対する支援	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	７回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
8	計画に基づく保育の実践と省察・評価	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	授業終了時に示す課題レポートを作成する（９０分）。
9	保育の質の向上	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	９回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
10	保育における職員間の連携・協働	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	１０回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
11	専門職間及び専門機関との連携・協働	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	１１回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
12	地域における自治体や関係機関等との連携・協働	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	１２回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
13	資質向上に関する組織的取組	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	１３回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
14	保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	授業終了時に示す課題レポートを作成する（９０分）。
15	組織とリーダーシップ　まとめ	これまでの授業で学んだ事を整理しておく（９０分）。	授業の目的の達成度を自己評価する（９０分）。
16	定期試験６０分。試験終了後に解説を行う 提出されたレポートの総合評価をフィードバックと授業改善アンケートの実施（「身に付く力」の検証）	15回の講義内容を振り返り復習する(９０分)。	験、課題の解説に基づき復習し整理する(９０分)。

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ﾃﾞｻﾞｲﾝ概論Ⅰ （科目ナンバリング：DES211014　　）				
授業担当者 （所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　北嶋　洋一　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイナーの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインのための基本知識を指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

古代から現代にいたるまでのデザイン史を軸として、特に第一次産業革命以降の急速な社会変化に伴うデザインの変遷に重点を置いて学ぶ。著名な人物や運動などに焦点を当てながら、デザインを学ぶ者にとっての基礎知識を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

授業で取り上げるデザインに関する事項に関して理解し、意見や感想を持つことができる。
授業で取り上げるデザインに関する事項について、さらに深く掘り下げて調査・取材を行う姿勢を持つことができる。

授業全体の内容と概要

デザインの成り立ちに重要な影響を与えた事項は近現代史に集中しているので、第一次産業革命以降の約200年間に起こった様々な出来事を把握していくことにより、現代に通じるデザインの役割や多様性、さらには表現技法なども知識として得ることができる。よって、本講義では近現代のデザイン史を時系列に沿って学びながら論じていくこととする。

授業の方法

本講義では、毎回の内容に沿ったPowerPointによるスライドショーを作成し、それを提示しながらの講義が主体となる。
必要に応じて資料などの配布を行うが、基本的にPDFによる資料であるのでスマートフォンやタブレット、又はノートPCの持ち込みは必須である。
毎回の授業終了後にPowerPointによるスライドショーは、PDFに書き出してTeamsで学生が共有できる資料として整える。
節目に小テスト又はレポート提出を行い、授業内容の理解度について採点し評価するが、時には取材やプレゼンテーションを伴う内容も設定される。
小テスト又はレポートの作成についてもスマートフォンやタブレット、又はノートPCによる作成となる。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎回の授業時にスマートフォン・タブレット・ノートPCなど、いずれかの通信及び記録用の端末を持参し使用環境を整えておくこと。
不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

教職課程科目(美術)の必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	８０％	０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業で取り上げたデザインに関する基本的な知識について理解できている。	十分に理解できていた。	概ね理解できていた。	不十分ではあるが理解できていた。	最低限の理解しかできていなかった。	全く理解できていなかった。
授業で取り上げたデザインに関する様々な事柄に対し、さらに掘り下げて自身の感想や意見を持つことができている。	十分に深め、出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが、できていた。	最低限は出来ていた。	全くできていなかった。
授業で学んだデザインに関する様々な事柄について整理統合し、独自のプレゼンテーションを行うことができるだけの知見を深めた。	十分に知見を深めていた。	概ね知見を深めていた。	不十分ではあるが、知見を深めていた。	最低限にとどまっていた。	全く深めていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ﾃﾞｻﾞｲﾝ概論Ⅰ （科目ナンバリング：DES211014　　）				
授業担当者 （所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　北嶋　洋一　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイナーの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインのための基本知識を指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ガイダンス～デザインの知識を深める必要性　科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおくこと（９０分）	受講環境の整備（９０分）
2	雑学のススメ 「デザインにおける世界最古とは？」 「好きなデザイン・好きなデザイナー」 小レポート	シラバスの確認（９０分）	小レポートの作成・提出（９０分）
3	現代に直結するデザイン史① 「第一次産業革命とウィリアム・モリス」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
4	現代に直結するデザイン史② 「アールヌーヴォーの大流行」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
5	現代に直結するデザイン史③ 「バウハウスによる総合芸術運動」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
6	現代に直結するデザイン史④ 「アール・デコ～デザインの大衆化」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
7	現代に直結するデザイン史④ 「アール・デコ～デザインの大衆化」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
8	現代に直結するデザイン史⑤ 「ロシア・アヴァンギャルド」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
9	現代に直結するデザイン史⑥ 「政治的・思想的プロパガンダとデザイン」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
10	現代に直結するデザイン史⑦ 「第二次大戦以降の世界の潮流」 「1964東京オリンピックと日本のデザイン」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
11	現代に直結するデザイン史⑧ 「デジタルデザインの急速な台頭」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
12	現代に直結するデザイン史⑨ 「生成AIによるデザインの進化」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
13	現代に直結するデザイン史⑩ 「娯楽のためのデザイン」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
14	現代に直結するデザイン史⑪ ヒットするデザインを生み出すには？ 「デザインと社会・デザインと産業界・デザインとブランド」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
15	現代に直結するデザイン史⑦～⑨のまとめ 小テスト又はレポート	シラバスの確認（９０分）	自己採点（９０分）
16	デザイン概論Ⅰのまとめ　科目を修了して『身に付く力』についての検証 授業改善アンケートの実施	情報と資料の整理（９０分）	授業内容のまとめ（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本経済史 （科目ナンバリング：ECH122123,ECH422031　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小林　大州介	研究室等所在	２号館８階		
単位数	2　（単位認定責任者：　小林　大州介　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡の上調整を行うか、研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

日本は東洋諸国の中でもいち早く封建的段階から抜け出し、さらに第２次世界大戦後は世界史的にもまれな経済成長を遂げた。近世から現代にかけての日本経済の歴史的発展を多角的に学びを身に付け、日本がどのように「資本主義」の国家として経済発展を遂げてきたのかを理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP３、DP４、DP５に対応する。
社会福祉学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

日本経済の歴史の全体像を把握し、何処に転換点があったのかを理解する。

授業全体の内容と概要

鎖国下の江戸時代という特殊な条件から、いかにして資本主義体制を形成していったのかを、歴史的事件や経済制度の観点から考察する。

授業の方法

PDFを利用した講義形式で行う。教科書は使用せず、基本的には資料配布を行う。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

講義中は内容の把握に努め、重要な点はしっかりとノートに取る。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（社会・地理歴史）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定のための最低出席回数は１１回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	0%	0%	0%	３０%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
近世から現代へ：封建社会から資本主義経済への移行	明治維新以前と以後の日本経済において、どのような制度上の変化が生じたのかを深く理解し、どのような条件が日本経済の発展に寄与したかを示すことが出来るようになった。	明治維新以前と以後の日本経済において、どのような制度上の変化が生じたのかを深く理解できた。	明治維新以前と以後の日本経済において、どのような制度上の変化が生じたのかを理解し、説明できるようになった。	明治維新以前と以後の日本経済において、どのような変化が生じたのかを説明できるようになった。	明治維新以前と以後の日本経済において、どのような変化が生じたのかについて、理解が見られなかった。
明治～昭和へ：日本経済における変化	明治期以降の日本の資本主義発展のプロセスを理解しており、何が経済発展の要因になったのかを、具体的例示と伴に説明することが出来るようになった。	明治期以降の日本の資本主義発展のプロセスを理解しており、具体的な歴史的事件を示すことが出来るようになった。	明治期以降の日本の資本主義発展のプロセスを理解出来るようになった。	明治期以降の日本の資本主義発展のプロセスを説明できるようになった。	明治期以降の日本の資本主義発展について、理解が見られなかった。
敗戦から経済成長へ：経済的成功と挫折	日本経済が敗戦からどのように復興し、経済発展を遂げたのかを深く理解し、今日日本が直面する諸問題も説明することが出来るようになった。	日本経済が戦からどのように復興し、経済発展を遂げたのかを理解し、今日日本が直面する諸問題も挙げることが出来るようになった。	日本経済が敗戦からどのように復興し、経済発展を遂げたのかを理解できるようになった。	戦後の日本経済がたどった経緯を説明することが出来るようになった。	戦後の日本経済がたどった経緯について、理解が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本経済史 （科目ナンバリング：ECH122123,ECH422031　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小林　大州介		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　小林　大州介　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡の上調整を行うか、研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『日本経済史』	沢井実	有斐閣	2016	9784641164888	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	初回オリエンテーション、シラバス説明：日本の経済発展とその歴史的前提 授業改善アンケート結果反映の説明 講義内容と到達目標(身に付く力)について説明する。	日本経済史に関する所説を、新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
2	「近世経済」の成立と展開１－農村社会の発展	江戸時代の日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(９０分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
3	「近世経済」の成立と展開２－武士階級及び都市経済の発展	江戸時代の日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(９０分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
4	移行期の日本経済１－維新前夜の日本経済	江戸時代の日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(９０分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
5	移行期の日本経済２－維新政府の諸改革	幕末から明治維新にかけての日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(９０分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
6	移行期の日本経済３－資本主義の導入へ	幕末から明治維新にかけての日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(９０分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
7	明治～大正時代の日本経済１－生産組織や技術導入による経済成長	明治～大正にかけての日本経済に関心を持ち関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(９０分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
8	明治～大正時代の日本経済２－資本と労働	明治～大正にかけての日本経済に関心を持ち関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(９０分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
9	明治～大正時代の日本経済３－戦間期の日本経済	明治～大正にかけての日本経済に関心を持ち関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(９０分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
10	明治～大正時代の日本経済４－変貌する都市と農村	明治～大正にかけての日本経済に関心を持ち関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(９０分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
11	昭和初期～第二次世界大戦期の日本経済	第２次世界大戦までの道のりを、新書やネットを使 って調べておくこと(９０分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
12	敗戦と経済復興１－統制・計画経済から市場経済へ	敗戦以降、日本はどのように高度経済成長を達成したのかに関して、新書やネットを使って調べておくこと(９０分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
13	敗戦と経済復興２－高度経済成長と産業構造の変化	敗戦以降、日本はどのように高度経済成長を達成したのかに関して、新書やネットを使って調べておくこと(９０分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
14	経済低迷とバブル経済	現代の日本経済の諸問題について、新書やネットを使い、良く調べておくこと(９０分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
15	今日の日本経済の課題	現代の日本経済の諸問題について、新書やネットを使い、良く調べておくこと(９０分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
16	定期試験（６０分）と試験の解説 講義の総括をおこなう。 授業に係る解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	これまで授業で学んだ事の総復習をして置くこと（９０分）	講義の全体を良く振り返っておくこと(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	まちづくり論 （科目ナンバリング：SOC423044，SOC523043　　）				
授業担当者 （所属・職名）	松本　懿（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　松本　懿　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	民間シンクタンクでの勤務（２３年）や北海道地域づくりアドバイザー（北海道委嘱：３５年）としての経験をもとに、まちづくりの考え方、あり方を具体的・実践的に説明する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

「まちづくり」という言葉は広く使われているが、その意味・内容や成果についての受け止め方は一様ではない。本講では、住民自治をベースに地域経営をいかに展開・確立するかという観点から、改めてまちづくりの概念、今日的意義と課題、成功要因等を理解するとともに、自らの関わり方についても考究する。

授業の位置づけ

経営学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

「まちづくり」への知識や興味・関心が高まり、周りにある様々なまちづくり活動の特徴や成否に関する分析的視点・評価尺度が身につくとともに、今後、一住民として、あるいは自治体職員等として、自ら積極的姿勢をもって企画、参画することができる。

授業全体の内容と概要

「まちづくり」とは、誰が、何を、どうすることなのか。また、成功とはどんな状態を指し、到達するための条件・ポイントは何か。さらに、リーダーやメンバーに求められる心構えや行動とは･･･。こうした疑問や問題意識を念頭に、道内外の実際例をていねいに分析・検討する中から、その答えを見出してゆく。
「SDG3.すべての人に健康と福祉を」「SDG11.住み続けられるまちづくりを」「SDG12.つくる責任　つかう責任」の関連授業。

授業の方法

講義、グループワーク、レポート作成などを併用する。講義は、まちづくりの理論的側面を概説した上で、個別のまちづくりに関する経過資料やビデオを活用するなど事例を中心に進める。グループワークでは、まちづくり文献・資料等から、成功要因や学ぶべき事柄等を討議、発表し合う（3回程度）。レポート・課題提出を数多く求めるが（6回程度）、グループワークやレポート等へのコメントは、質問や要望事項に対する回答も含めて、次週にフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

私語厳禁。メモやノートをしっかりとる。遅刻の取り扱いは、授業開始時に説明。不測の事態の際はオンラインで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	３０%	１０%	０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
まちづくりの意義・概念・成功条件への知識・理解	授業内容を超える知識・情報を積極的に勉強・収集し、理解度を高めている。	授業内容をほぼ全て理解している。	授業内容を概ね理解している。	最低限の授業内容を理解している。	授業内容を理解できていない。
まちづくりへの関心・意欲および授業態度	事前事後の学習はもとより、授業中積極的に質問、発言するなど模範的な授業態度である。	事前事後の学習がなされている。授業中の課題や板書をこなしている。また、理解を深めるため真剣に聴いている。	授業中の課題や板書をこなしている。また、理解を深めるため内容を真剣に聴いている。	授業中の課題や板書をこなしている。	授業中、着席するものの課題や板書に取り組んでいない。
具体的な市町村等を対象に、地域特性や課題を踏まえたまちづくりプランを構想・提言	問題意識が鮮明で、内容も具体性に富み、魅力に溢れている。	問題意識が鮮明で、内容も具体的、魅力的である。	問題意識が鮮明で、内容も具体的でわかりやすい。	内容に一定の具体性がある。	問題意識が不鮮明で、内容も具体性や魅力に欠けている。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	まちづくり論 （科目ナンバリング：S0C423044，S0C523043　　）				
授業担当者 （所属・職名）	松本　諺（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　松本　諺　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	民間シンクタンクでの勤務（２３年）や北海道地域づくりアドバイザー（北海道委嘱：３５年）としての経験をもとに、まちづくりの考え方、あり方を具体的・実践的に説明する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス：シラバスを中心に説明（本講の目的・内容・意義、進め方、科目を修了して「身に付く力」の説明、試験・評価方法、遅刻の取り扱い、受講上の留意点、授業改善アンケート結果の反映など）	シラバスによく目を通しておく（９０分）	授業内容に関連した「作文」を作成（９０分）
2	まちづくりへのアプローチ（１）基礎理解（その概念、今日的意義・課題、担い手、新しい公共、参加・協働など）	事前配布「米百俵」を読んでおく（９０分）	授業内容に関するノートを整理する（９０分）
3	まちづくりへのアプローチ（２）構想・計画（まちの構成要素、その点検、計画・ルールなど）、　まちづくりの事例研究①＜旭川市＞	事前配布「旭川買物公園「を読んでおく（９０分）	授業内容に関するノートを整理する（９０分）
4	まちづくりへのアプローチ（３）実践に向けて（その準備、基本手順、留意点など）、　まちづくりの事例研究②＜山形県長井市＞	事前配布「長井市レインボープラン」を読んでおく（９０分）	授業内容に関するレポートを作成する（９０分）
5	まちづくりの事例研究③　過疎を逆手にとる＜鹿児島県鹿屋市やねだん集落＞	過疎地域の今日的状況、課題を考察しておく（９０分）	授業内容に関するレポートを作成する（９０分）
6	まちづくりの事例研究④　まちの美化・環境改善への挑戦＜長野県飯田市＞	事前配布「飯田市リンゴ並木」を読んでおく（９０分）	授業内容に関するレポートを作成する（９０分）
7	まちづくりの事例研究⑤　まちの歴史、町並みを活かす＜愛媛県内子町＞	事前配布「内子町の町並み保存」を読んでおく（９０分）	授業内容に関するノートを整理する（９０分）
8	まちづくりの事例研究⑥　美しい水環境を再生する＜福岡県柳川市＞	事前配布「柳川の堀割」を読んでおく（９０分）	授業内容に関するノートを整理する（９０分）
9	ゲスト講話「自治体職員とまちづくり」＜北広島市の幹部職員を予定＞	北広島市についての資料・データ・情報にアクセスする（９０分）	ゲスト講話の内容に関するレポート作成（９０分）
10	まちづくりの事例研究⑦　障がい者が働く・輝く＜東京都スワンベーカリー＞	事前配布「スワンベーカリー」を読んでおく（９０分）	障がい者が働きやすい地域社会や職場を考えてみる（９０分）
11	まちづくりの事例研究⑧　安心・安全な子育て環境を創る＜東京都NPOフローレンス＞	事前配布「病児保育のフローレンス」を読んでおく（９０分）	授業内容に関するノートを整理する（９０分）
12	まちづくりの事例研究⑨　商店街の再生・活性化＜東京都足立区東和銀座商店街＆香川県高松市丸亀町商店街＞	事前配布「東和銀座商店街」を読んでおく（９０分）	出身地の商店街の現状、課題を検討・整理してみる（９０分）
13	まちづくりの事例研究⑩　高齢者の生きがい・働きがい創造＜徳島県上勝町＞	事前配布「上勝町の葉っぱビジネス」を読んでおく（９０分）	身近な高齢者に生きがいやまちのあり方を聞く（９０分）
14	まちづくりの事例研究⑪　若者によるまちづくりイベント・活性化＜札幌市YOSAKOIソーラン祭り＞	配付資料からレポート「YOSAKOIの特徴・成功要因」を作成（９０分）	授業内容に関するノートを整理する（９０分）
15	まとめ　①課題「北広島市のまちづくりへの提言」発表・提出 ②総括講義「まちづくりの要諦」　③「授業改善アンケート」	課題「北広島市への提言」をまとめておく（９０分）	「まちづくり論」のノート、資料の整理（９０分）
16	「定期試験」（６０分）及び解説（３０分） 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	定期試験の準備（９０分）	定期試験及び解説を受けて、本講全体の理解を深める（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年3年4年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	日本画 （科目ナンバリング：AEA223119　　）				
授業担当者 （所属・職名）	岡　恵子（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　岡　恵子　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	日本画家としての活動経歴を有する教員が、実践に即した実習を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で直接、またはTEAMSチャットなどで対応。				

概要

履修目標

１．身の回りの自然物、静物、人物、風景などを選択し、「私を描く」「私の大切なもの」をテーマとして、作品の主題を設定することができる。
２．日本画作品の表現に欠かせない基礎的な描写力を身に着けることができる。
３．写生から下絵、本画の制作と進め、日本画制作の基本的な手順を知ることができる。
４．水干絵の具・膠・箔・筆・絵絹などの日本画画材と用具を知り、基本的な扱い方や技法を知ることができる。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

１．自らの興味関心を大切にし、主題を明確にした対象の選択と画面構成をすることができる。
２．写生を通して対象を的確に描写することができる。
３．写生から下絵の制作そして本画へと、日本画制作の手順を知り制作を進めることができる。
４．日本画画材と用具についての基礎的な知識と扱い方を知り、日本画の基本的な技法を身につけることができる。

授業全体の内容と概要

季節の自然物、身の回りの静物、人物、風景など、興味を抱いた対象を観察し写生をする。色鉛筆で彩色する。
木枠に絵絹を貼り込む。礬水を引く。写生した対象を直接または編集アプリ等を利用して画面上に構成する。先人の作品を鑑賞し、筆と墨を使った運筆演習をする。下図の輪郭線を具墨で骨描きする。膠・胡粉・水干絵の具など素材の特徴を知り、これらを使った日本画の表現技法の基礎を学ぶ。希望に応じて箔表現も扱う。絵絹という基底材の特性を生かして塗りを重ねる。絹の透け感を生かした装丁を考える。作品の制作を通して自己を見つめ「私を描く」「私の大切なもの」をテーマに表現することを目標とする。

授業の方法

授業は、TEAMSのパワーポイント資料、または授業担当者作成のテキストによる日本画の基礎知識についての講義と、日本画の画材の扱いや表現についての実技指導によって構成される。日本画の基礎知識を問う筆記テストを授業内初期段階で行う。作品の制作過程で、毎時間「創作レポート」を記入することを通して、作品制作の構想と日本画の知識の定着をはかる。作品の構想段階と制作の終盤で、作品についての個人発表(プレゼンテーション）と相互講評を行う。作品完成時に提出する作者のコメントには講評を添え、作品と共に学内に掲示する。実技では写生を重視する。希望者は戸外(大学構内）での写生を行う(フィールドワーク）。制作途中、墨を擦る、模写運筆演習、胡粉を溶く、カラ刷毛を使ったグラデーション技法などはグループで協力して行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

使用する絹枠・絵絹は各自で購入するものとする。時価（1,500円程度）
制作スペースと用具の関係から履修人数を２４名程度に制限する。
毎授業前にTEAMSに当該授業の内容の紹介と連絡などを提示するので、予習しておくこと。
日本画の画材に早く慣れるために、授業当番を設ける。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は２２回以上とする。
○以下の３点が期日までに提出されていること
①写生(TEAMS課題欄に期日までに提出）②絹本に着彩した日本画作品１点　③創作レポートブック
○日本画についての基礎知識を持っていること（基礎知識を問うテストを授業内で実施する）

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	７０%	１０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
写生力	対象の色と形をよく観察した上で的確に描写し、筆圧と筆勢を意識した描線で対象の質感と量感を豊かに表現することができた。	対象の色と形を的確に描写し、筆圧と筆勢を意識した描線で対象の質感と量感を表現することができた。	対象の色と形を的確に描写し、筆勢と筆圧を意識した描線での表現を試みることができた。	対象の色と形を描写することができた。	対象の色と形を描写できなかった。
構成力	写生を通して自らの感性に触れた対象を選択し、作品の主題を定め、主題に沿って取材した写生を画面上に的確に構成し、独創的な表現を目指すことができた。	写生を通して自らの感性に触れた対象を選択し、作品の主題を定め、主題に沿って取材した写生を画面上に的確に構成することができた。	写生を通して作品の主題を定め、主題に沿って取材した写生を画面上に構成することができた。	取材した写生を画面上に配置し画面構成することができた。	取材した写生を画面上に構成することができなかった。
表現力	絵絹と水干し絵の具の特徴、日本画の塗りの技法を熟知し、その美しさを生かした独創的な表現を実現することができた。	絵絹と水干し絵の具の特徴、日本画の塗りの技法を意識して、その美しさを生かした独創的な表現を実現することができた。	絵絹と水干し絵の具の特徴、日本画の塗りの技法を知り、その美しさを生かした表現を実現することができた。	絵絹と水干し絵の具の特徴、日本画の塗りの技法を知り、表現することができた。	絵絹と水干し絵の具の特徴、日本画の塗りの技法を知り、表現することができなかった。
知識	日本画の素材・用具の名称と特徴、扱い方の基本、塗りの技法など、作品制作に必要な基礎知識を完全に習得することができた。	日本画の素材・用具の名称と特徴、扱い方の基本、塗りの技法など、作品制作に必要な基礎知識を習得することができた。	日本画の素材・用具の名称と特徴、扱い方の基本、塗りの技法など、作品制作に必要な基礎知識をほぼ習得できた。	日本画の素材・用具の名称と特徴、扱い方の基本、塗りの技法など、作品制作に必要な基礎知識の習得を目指すことができた。	日本画の素材・用具の名称と特徴、扱い方の基本、塗りの技法など、作品制作に必要な基礎知識を習得できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年3年4年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	日本画 （科目ナンバリング：AEA223119　　）				
授業担当者 （所属・職名）	岡　恵子（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　　岡　恵子　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	日本画家としての活動経歴を有する教員が、実践に即した実習を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で直接、またはTEAMSチャットなどで対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ・「日本画とは」概説 ・シラバスの説明・授業改善アンケート結果反映の説明　科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読む（４５分）	シラバスを確認し、日本画の概説と授業の流れを確認する。（４５分）
2	掲示された先輩の作品鑑賞し、作品の構想のヒントとする ・創作レポートに感想を書く ・絹枠を組む　捨て糊を施す	テキスト、パワーポイント資料、創作レポートを確認する。木枠の組み方の解説を確認する。（４５分）	掲示してある先輩の作品を鑑賞し興味を抱いた点を記録する。捨て糊の意味確認。感想を創作レポートに記入する。（４５分）
3	日本画の画材と用具の紹介	テキストの用具と画材の欄を事前学習すること、写生に必要な筆記具の準備（４５分）	泥・筆・刷毛など形状、名称、用途、特徴などテキストを見て復習する。（４５分）
4	モチーフを写生する①	作品の主題を想定しモチーフの選択と制作の動機づけを行う。（４５分）	テキストとパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。（４５分）
5	基底材としての絵絹の特性を知る ・絹本作品の掛け軸の鑑賞	テキストの絵絹の欄を事前学習する。写生に必要な筆記具の準備（４５分）	絹の性質と貼り方、表現の可能性を復習する。描きたいものを選択する。（４５分）
6	モチーフを写生する② ・絹の文化と特性を知る ・絹枠に絵絹を貼る	作品の主題を想定しモチーフの選択と制作の動機づけを行う。（４５分）	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。（４５分）
7	膠、明礬、ドウサを知る ・絵絹に滲引きをする ・ドウサをひく	テキストの膠と礬水の欄を事前学習する。写生に必要な筆記具の準備（４５分）	滲引きの目的、礬水と礬水刷毛の役割を復習すること。描きたい対象を絞り意欲を深める。（４５分）
8	モチーフを写生する③ ・大学構内に出て写生しよう	作品の主題を想定しモチーフの選択と制作の動機づけを行う。（４５分）	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。（４５分）
9	日本画基礎知識ドリルテスト	日本画基礎知識ドリルを学習しておくこと、写生に必要な筆記具の準備（４５分）	基礎ドリルの復習を通して知識の定着を確認する。（４５分）
10	モチーフを写生する④ ・大学構内に出て写生しよう	作品の主題を想定しモチーフの選択と制作の動機づけを行う。モチーフを選択する。（４５分）	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。（４５分）
11	墨を知る、墨を擦る ・墨による線描模写演習 日本画基礎知識ドリルテスト（予備日）	墨の濃淡・線質について資料等を閲覧しイメージする。（４５分）	墨の擦り方、保管、日本画の線描、骨描きについて演習を通して確認する。（４５分）
12	①～④の写生を使って画面を構成する ・骨描きをする	墨の種類、擦り方、粉本を用いた運筆演習を通して線描の多彩さを知る。（４５分）	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。（４５分）
13	胡粉を知る ・胡粉を溶いてみる	授業テキストの胡粉団子の作り方を事前学習する。（４５分）	日本画の色材の基本である胡粉の伝統的な扱い方と美しい発色を知る。（４５分）
14	絹に胡粉を塗る	胡粉の原料、溶き方、塗り方と目的を復習する。資料を確認して具引きの方法を知る。（４５分）	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。（４５分）
15	水干絵の具を知る ・水干絵の具を美しく溶く	授業テキストの水干絵具の欄を事前学習する。（４５分）	水干絵具の美しい溶き方を確認する。（４５分）
16	日本画の塗りの技法演習 ・絵具の処理と筆の手入れ方法	水干絵具の美しい溶き方、表現技法を繰り返し確認する。（４５分）	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	相互鑑賞	作品の背景色と塗りの方法を決定する。（４５分）	ほぼ下絵が完成した段階で、作品の相互鑑賞を通して表現の多彩さに気付き互いに技法を学び合う。（４５分）
18	絵絹作品の彩色① ・表彩色と裏彩色の違い	TEAMS資料やテキストを確認する。背景色を想定する。（４５分）	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。（４５分）
19	絵絹作品の彩色②	絹の透ける性質を利用した裏箔表現を取り入れるか想定する。（４５分）	写生での観察をもとに水干絵具での表現を深めて行くことを確認する。（４５分）
20	絵絹作品の彩色③ ・箔を使った表現、裏箔と砂子	テキストやTEAMSの箔の資料を確認する。	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。（４５分）
21	絵絹作品の彩色④	絹本の彩色に必要な事前準備を行う。（４５分）	写生での観察をもとに水干絵具での表現を深めて行くことを確認する。（４５分）
22	絵絹作品の彩色⑤	絹本の彩色に必要な事前準備を行う。（４５分）	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。（４５分）
23	絵絹作品の彩色⑥	学習内容に必要な事前準備を行う。裏装丁を工夫した表現を考える（４５分）	絹本の彩色を進めて技法と進度を確認する。（４５分）
24	絵絹作品の彩色⑦ ・絹の透け感を生かし表現を考える	絹本の彩色に必要な事前準備を行う。（４５分）	次週までの課題として復習テスト問題を考える。テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。（４５分）
25	絵絹作品の彩色⑧	作品の裏装丁を施す。（４５分）	絹本の彩色を進めて技法と進度を確認する。（４５分）
26	絵絹作品の彩色⑨	絹本の彩色に必要な事前準備を行う。（４５分）	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。（４５分）
27	画印を考える ・画印を描く	"画印のデザインを考える 相互鑑賞で自作を語る準備（４５分）	復習テスト問題を集約する（４５分）
28	相互鑑賞	絹本の彩色に必要な事前準備を行う。作品についての乾燥を考える。（４５分）	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。（４５分）
29	創作ノートの記入完成 ・画印を描く	創作ノートの記入（一部復習テストあり）	創作ノートの完成
30	作品完成と鑑賞 作品を額装する	作品の装丁に必要な素材や額を選択する。（４５分）	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。（４５分）
31	課題に対する解説・フィードバック①	講義全体を通して質問事項をまとめておく。（４５分）	講義内容全体を振り返り自己評価表を記入する。（４５分）
32	課題課題に対する解説・フィードバック② 授業改善アンケートの実施　科目を修了して『身に付く力』についての検証	講義内容全体を振り返り自己評価表を記入する。（４５分）	解説・フィードバックを受けて講義全体の理解を深める。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築設備 （科目ナンバリング：AEN312113　　）				
授業担当者 （所属・職名）	君　興治（建築学科・特任准教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　君　興治　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長として設計監理をしている経験から、躯体、断熱、金物との干渉やスペースの確保、またどのタイミングで設備工事が行われるかをイメージしながら設備計画を進める。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整し研究室もしくはオンラインで対応。				

概要

履修目標

建築にはどのような設備があり、その設備をどう計画し、どう作図するのか。
本講義では、快適な住空間を構成するために必要な給水給湯設備・衛生排水設備・空気調和設備・電気設備・照明設備の知識、ならびに設備計画技術の基本を習得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1.DP3.DP4に対応する科目

到達目標

住宅建築の各設備の必要性を理解した上で、仕組みを知り、用途に合った設備を計画・作図表現ができる。

授業全体の内容と概要

給水給湯設備・衛生排水設備・空気調和設備・電気設備・照明設備について、そのシステムとメカニズムを中心に解説し、各種設備の役割を学ぶ。
「SDG７　エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」
「SDG１２　つくる責任　つかう責任
これからの時代のエネルギーに合わせた設備設計や設備図面の描き方を指導していく

授業の方法

授業では，板書やICT（チームスを使用しながら、設備図をオンライン上その場で液晶ペンタブレットで添削し、毎事業ごとに保存することで、授業の課題経過をデジタル的にの残し、振り返りの自習を実現する。）を活用しながら事例を紹介し、双方向授業で実施する。
また、授業中毎回、設備計画図を提出し添削を行いフィードバックする。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業ごとに行われる課題をすべて提出することが単位履修の条件とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」必修科目，教職課程（工業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１２回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
住宅規模の設備の種類を理解し、設備計画、正確な作図表現ができていたか。	各設備図の適した計画ができ、正しく図面を描くことができていた。	各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。	各種設備図を正しく描くことができた。	各種設備図を描くことができた。	設備図の作図ができなかった。
使用者が利用しやすい設備計画となっていたか。	各設備図の適した計画ができ、正しく図面を描くことができていた。	各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。	各種設備図を正しく描くことができた。	各種設備図を描くことができた。	設備図の作図ができなかった。
設備の能力上支障がなかったか。	各設備図の適した計画ができ、正しく図面を描くことができていた。	各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。	各種設備図を正しく描くことができた。	各種設備図を描くことができた。	設備図の作図ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築設備 （科目ナンバリング：AEN312113　　）				
授業担当者 （所属・職名）	君　興治（建築学科・特任准教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　君　興治　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長として設計監理をしている経験から、躯体、断熱、金物との干渉やスペースの確保、またどのタイミングで設備工事が行われるかをイメージしながら設備計画を進める。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整し研究室もしくはオンラインで対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『やさしい建築設備図面の見方・かき方』	千葉　孝男	オーム社	1999	9784274102509	
2	『世界で一番やさしい　建築設備』	山田浩幸	エクスナレッジ	2013	9784767815480	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明、授業ガイダンス 実際の建築図面をもとに、設備の設計・計画ができるよう指導し、それを図面に反映させる知識や方法を身につけることを説明	シラバスを読んでおくこと（90分）	プリントを読んで理解しておくこと（90分）
2	給水設備・給湯設備の概要と計画（1）	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）
3	給水設備・給湯設備の概要と計画（2）	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）
4	給水設備・給湯設備の概要と計画（3） 提出課題に添削を行い、コメントを書いて返却することでフィードバックする。	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）
5	衛生設備・排水設備の概要と計画（1）	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）
6	衛生設備・排水設備の概要と計画（2）	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）
7	衛生設備・排水設備の概要と計画（3） 提出課題に添削を行い、コメントを書いて返却することでフィードバックする。	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）
8	空気調和設備の概要と計画（1）	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）
9	空気調和設備の概要と計画（2）	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）
10	空気調和設備の概要と計画（3） 提出課題に添削を行い、コメントを書いて返却することでフィードバックする。	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）
11	電気設備の概要と計画（1）	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）
12	電気設備の概要と計画（2）	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）
13	電気設備の概要と計画（3） 提出課題に添削を行い、コメントを書いて返却することでフィードバックする。	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）
14	照明設備の概要と計画（1）	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）
15	照明設備の概要と計画（2）	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）
16	照明設備の概要と計画（3） 授業改善アンケートの実施 最終授業にて、これまでの振り返りを行い、各学生への講評をすることでフィードバックする。 科目を修了して「身に付く力」についての検証	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	高齢者福祉 （科目ナンバリング：SWS112009　　）				
授業担当者 （所属・職名）	櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	1号館4階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　櫻井　美帆子　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、高齢者福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

高齢者の生活に対する理解を深め、相談援助活動において必要となる諸制度やサービスの知識と活用方法について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、DP３、DP4に対応する。

到達目標

高齢者の福祉ニーズの理解と、関する制度やサービスの知識を会得できる。

授業全体の内容と概要

高齢者福祉サービスの利用者の理解と、支援の基盤となる理念及び、高齢者福祉に関する諸制度やネットワークについて学ぶ。
「SDGs３．すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

①教科書に沿って、講義形式で展開していく。授業内で小試験（中間試験）を行い、その中から６０点分、定期試験に出題する。
②不測の事態における授業や補講等でにオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

３０分以上の遅刻は、欠席とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程科目である。

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	２０%	０%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
高齢者の特性について理解できる。	高齢者が生活してきた時代背景を含めて、説明できる。	身体的、精神的、社会的特徴の説明ができる。	身体的、精神的、社会的特徴の理解ができる。	助言があれば理解できる。	助言があっても理解できない。
高齢者を取り巻く環境と、生活実態の理解ができる。	社会環境と、生活実態、近年の高齢者に関する問題と、今後の課題について説明できる。	社会環境と、生活実態、近年の高齢者に関する問題について説明できる。	社会環境と、生活実態、近年の高齢者について理解できる。	助言があれば理解できる。	助言があっても理解できない。
高齢者支援に対する関連制度の理解ができる。	高齢者福祉に対する諸制度の概要と、各々の課題について説明できる。	高齢者福祉に対する諸制度の概要について説明できる。	高齢者福祉に対する諸制度の概要について理解できる。	助言があれば理解できる。	助言があっても理解できない。
高齢者と家族の支援におけるソーシャルワーカーの役割を理解できる。	関連する機関や地域の中でソーシャルワーカーが担う役割を事例を用いて説明できる。	関連する機関や地域の中でソーシャルワーカーが担う役割を説明できる。	関連する機関や地域の中でソーシャルワーカーが担う役割を理解できる。	助言があれば理解できる。	助言があっても理解できない。

基本情報

科目分類区分	専門	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	高齢者福祉 （科目ナンバリング：SWS112009　　）				
授業担当者 （所属・職名）	櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	1号館4階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　櫻井　美帆子　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、高齢者福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新社会福祉士養成講座高齢者福祉』	荘村明彦	中央法規	2021年	978-4-8058-8245-0	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して身に付く力の説明 高齢者の定義と、少子高齢社会	教科書の目次に目を通す。新聞の高齢者に関する記事をスクラップする。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
2	高齢者の特性	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
3	高齢者の生活実態と、高齢者を取り巻く社会環境	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
4	高齢者福祉の歴史	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
5	高齢者福祉の法体系① 老人福祉法	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
6	高齢者福祉の法体系② 高齢者医療確保法、高齢者虐待防止法	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
7	高齢者福祉の法体系③ バリアフリー法、高齢者住まい法等	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
8	小試験	1回から7回の内容を復習する。（９０分）	試験の自己採点をする。（９０分）
9	小試験を返却し、解説をしフィードバックする（30分） 高齢者福祉の法体系④ 介護保険法	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
10	高齢者福祉の法体系⑤ 介護保険制度によるサービス体系	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
11	高齢者福祉の法体系⑥ 介護保険制度によるサービス体系	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
12	高齢者支援における関連機関と専門職	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
13	高齢者支援の実際	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
14	高齢者支援の実際	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
15	定期試験	1回から14回の復習をする。（９０分）	試験の自己採点をする。（９０分）
16	定期試験を返却し、解説をしフィードバックと、科目を修了して身に付く力についての検証を行う。 授業改善アンケートの実施	1回から１５回を振り返り、質問事項があればまとめる。（９０分）	試験の不正解部分について復習する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ﾃﾞｯｻﾝIII （科目ナンバリング：AEA222008　　）				
授業担当者 （所属・職名）	西田　陽二（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　西田　陽二　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画家として活動経験を有する教員が，その経験を活かし実践に即してデッサンについて教授する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

デザイナーとして，アーティストとして，美術の教員として「デッサン」が全ての基礎基本であることを充分に認識させ，単に技能や知識の向上にとどまらず，美術を愛好し積極的に，学生がそれぞれの専門分野に活かそうとする態度を養うこと。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

モティーフのかたちを客観的に把握できるようにすること。素描の楽しさや重要性について理解できる。
卒業後の社会での生活を想定した専門性に関する意識の高揚と実践的態度を養成する。

授業全体の内容と概要

デッサンの材料・用具・その要素としてのプロポーション・明暗・質感・空間表現などについての実習。

授業の方法

プレゼンテーションは板書にて行う。授業形態は実技を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

知性と感性を充分に発揮し，根気強くたゆまなく努力すること。
作品の質・課題に取り組む姿勢・鑑賞力などを重視する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，２０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	０％	２０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
適正な構図、形のバランス（比例）が正しく捉えられることを基準とする	バランスよく配置や大きさが捉えられていた	ほぼバランスよく配置されていた	大きさ等が大体捉えられていた	左右上下にバランスよく配置されていた	左右により過ぎや、極端に大きい、小さい等
光の方向や陰影の濃淡等が分かりやすく表現できているかを基準とする	自然な光の流れが表現出来ていた	ほぼ光の方向が表現出来ていた	明るい、暗いの描き分けが出来ていた	明暗で表現しているた	輪郭線等で囲って色を付けていた
陰影法を正しく理解できているかを基準とする	陰と投影を正しく理解し描き分けられている。質感の表現も出来ていた	陰で立体表現が出来ていた	光の流れで立体表現をしていた	色の濃淡で表現していた	輪郭の中に単色の調子を塗り込んでいた

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ﾃﾞｯｻﾝIII （科目ナンバリング：AEA222008　　）				
授業担当者 （所属・職名）	西田　陽二（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2	（単位認定責任者：　　西田　陽二　　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画家として活動経験を有する教員が，その経験を活かし実践に即してデッサンについて教授する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション　シラバスの説明 デッサンのための用具等説明，授業の流れと目的などについて。 造形の基本となる力を身に着ける。　授業改善アンケートの反映のさせ方についての説明、科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
2	石膏像（胸像）のデッサン　①	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
3	石膏像（胸像）のデッサン　②	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
4	石膏像（胸像）のデッサン　③	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
5	石膏像（胸像）のデッサン　④	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
6	石膏像（胸像）のデッサン　⑤作品画像保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
7	石膏像（胸像）のデッサン　①	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
8	石膏像（胸像）のデッサン　②	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
9	石膏像（胸像）のデッサン　③	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
10	石膏像（胸像）のデッサン　④	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
11	石膏像（胸像）のデッサン　⑤	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
12	石膏像（胸像）のデッサン　⑥作品画像保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
13	石膏像（胸像）のデッサン　①	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
14	石膏像（胸像）のデッサン　②	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
15	石膏像（胸像）のデッサン　③	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
16	石膏像（胸像）のデッサン　④	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	石膏像（胸像）のデッサン　⑤	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
18	石膏像（胸像）のデッサン　⑥作品画像保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
19	石膏像（胸像）のデッサン　①	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
20	石膏像（胸像）のデッサン　②	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
21	石膏像（胸像）のデッサン　③	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
22	石膏像（胸像）のデッサン　④	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
23	石膏像（胸像）のデッサン　⑤	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
24	石膏像（胸像）のデッサン　⑥作品画像保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
25	石膏像（胸像）のデッサン　①	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
26	石膏像（胸像）のデッサン　②	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
27	石膏像（胸像）のデッサン　③	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
28	石膏像（胸像）のデッサン　④	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
29	石膏像（胸像）のデッサン　⑤	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
30	石膏像（胸像）のデッサン　⑥	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
31	石膏像（胸像）のデッサン　⑦作品画像の保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
32	採点及び講評会　（解説・フィードバック）陰影法の意味を理解出来ているかを確認する。 授業改善アンケート実施　科目を修了して『身に付く力』についての検証	講評会の準備を行うこと（45分）	解説・フィードバックを受けて講義内容のふりかえりを行うこと（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築構造力学Ⅰ （科目ナンバリング：BSM312012　　）				
授業担当者 （所属・職名）	長森　正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟１階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　長森　正　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	１級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実務経験をもとに講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築技術者に必要な建築構造力学のうち，力と構造物の関係・力の釣り合い・静定構造物の特徴や解法を学習する．
物理学や数学をベースとして構造計算の基礎知識を修得し，それらを応用する能力を身につける．

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

建築構造物に起きている力学的諸現象がイメージすることができる。力の釣り合いを理解し、静定ばり・静定ラーメンなどの支点反力・応力を計算して断面力図を描くことができる。建築施工管理技士・建築士の構造力学分野の問題を解くことができる。

授業全体の内容と概要

取扱う内容は静力学の基礎知識・初等弾性力学及び静定構造物の応力と変形等である。
力の表示･合成･分解･釣り合い等から構造物の荷重･反力，応力などの事項を講義する。

授業の方法

教科書の例題に沿って解説しながら板書にて講義する。積み重ねが重要な科目であるので出席を特に重視し，授業毎に簡単な演習を出題する。参考資料無しで演習が自力で解けるように講義する。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教科書の例題と配布演習資料を中心に講義を進めるので，休まず出席して知識を集積することが重要。
講義を理解し演習を行うには十分な予習が必要であり、知識の定着には復習（反復演習）が必要である。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（工業）必修科目、建築士試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	０%	２０%	０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
力に関する基礎知識	複数の力のベクトル表示から力の合成・分解ができ、他の人に説明できた。	複数の力のベクトル表示から力の合成・分解ができた。	複数の力のベクトル表示ができた。	ある点の作用するベクトル表示ができた。	ある点の作用するベクトル表示ができなかった。
静定構造物に生じる力学的諸現象	様々な構造形式の支点反力を求め、断面力図を描くことができ、他の人に説明できた。	様々な構造形式の支点反力を求め、断面力図を描くことができた。	基本的な構造形式の支点反力を求め、断面力図を描くことができ、説明できた。	基本的な構造形式の支点反力を求め、断面力図を描くことができた。	基本的な構造形式の支点反力を求め、断面力図を描くことができなかった。
建築士・建築施工管理技士の試験問題対応力	級建築士問題（構造部門）を解答でき、他の人に説明できた。	級建築士問題（構造部門）を解答できた。	施工管理技士試験問題（構造部門）を解答でき、他人に説明できた。	施工管理技士試験問題（構造部門）を解答できた。	施工管理技士試験問題（構造部門）を解答できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築構造力学Ⅰ （科目ナンバリング：BSM312012　　）				
授業担当者 （所属・職名）	長森　正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟１階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　長森　正　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	１級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実務経験をもとに講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『図説やさしい構造力学』	浅野　清昭	学芸出版社			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明 シラバスの説明・構造力学に必要な算術計算 力の基礎（１）力の表現・符号・効果	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（９０分）	授業内容を整理して、演習問題を復習する（９０分）
2	力の基礎（２）力の分解・単位・モーメント	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
3	力の基礎（３）力の合力・分布荷重・モーメント	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
4	力の釣合い（１）平行な釣合い	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
5	力の釣合い（２）数点の釣合い	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
6	反力（１）反力の種類	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分））
7	反力（２）単純梁の反力	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
8	反力（３）片持ち梁・張り出し梁の反力	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
9	反力（４）ラーメン梁の反力 小テスト（１）・小テストの結果について授業内でコメントしてフィートバックする	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
10	部材の生じる力（１）	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
11	部材の生じる力（２）	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
12	部材の生じる力（３）	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
13	部材の生じる力（４） 小テスト（２）・小テストの結果について授業内でコメントしてフィートバックする	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
14	部材の生じる力（５）	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
15	授業改善アンケートの実施 定期試験６０分の試験終了後、残りの３０分で解説を行います。 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業内容全体について資料を整理して，定期試験に備える（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
16	まとめ 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業内容全体について資料を整理して確認する	授業内容全体について資料を整理する（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	子どもの理解と援助 （科目ナンバリング：CHS122073　　）				
授業担当者 （所属・職名）	穴水　ゆかり（社会福祉学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館1階非常勤講師室		
単位数	1　（単位認定責任者：　穴水　ゆかり　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応する。				

概要

履修目標

この科目は、以下の３つを授業の目的とする。
１．保育実践において、実態に応じた子ども個々の心身の発達や学びを把握することの意義を理解する。
２．子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を学修し、子ども理解のための具体的な方法を理解する。
３．子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP４、DP５に対応する。

到達目標

１．子どもを理解する視点について説明する。
２．子どもを理解する上での基本的な考え方について説明する。

授業全体の内容と概要

子どもの実態に応じた発達を理解する視点及び理解する方法について学修する。さらに、発達課題に応じた援助と関わりについて理解を深める。「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業はパワーポイントを使用して、プリントを配布する。
演習では主に保育現場を想定した事例を提示し、学生は自分の考えをプリントに記入した後、学生同士でり意見交換、討論を行う。必要に応じてさらにプリントに記入し、最後に教員が解説をする。
最後に授業プリントの提出を求め、授業への取り組み状況と理解度を確認して評価する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

課題の内容・提出方法及び課題・平常点の評価は加点方式とし、授業時間に説明する。
遅刻の場合は入室可能だが、20分以上の遅刻は欠席扱いとする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音・撮影は事前の相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。その他、就学サポートの内容は、授業スライドの配布、筆記・メモ目的のPCの持ち込みと利用等、必要に応じて適宜、学生と相談の上で考える。

資格指定科目

保育士養成課程（必修科目）

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	80%	０%	０%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
子ども理解の視点に対する知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	子ども理解の視点についての知識を深く理解できた。	子ども理解の視点についての知識をおおむね理解できた。	子ども理解の視点についての知識を理解できた。	子ども理解の視点についての知識を多少理解できた。	子ども理解の視点についての知識を理解することができなかった。
思発達課題に関する思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	発達課題に応じた援助について十分に考察できた。	発達課題に応じた援助についておおむね考察できた。	発達課題に応じた援助について考察できた。	発達課題に応じた援助について多少考察できた。	発達課題に応じた援助について考察することができなかった。
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	子ども理解の方法について理解したことをわかりやすく説明できた。	子ども理解の方法について理解したことをおおむね説明できた。	子ども理解の方法について理解したことを説明できた。	子ども理解の方法について理解したことを多少説明できた。	子ども理解の方法について理解したことを説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	子どもの理解と援助 （科目ナンバリング：CHS122073　　）				
授業担当者 （所属・職名）	穴水　ゆかり（社会福祉学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館1階非常勤講師室		
単位数	1　（単位認定責任者：　穴水　ゆかり　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応する。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『保育所保育指針＜平成29年告示＞』	厚生労働省	フレーベル館	2017	9784577814239	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 保育における子どもの理解の意義 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	指定した教科書を事前に読むこと（90分）。	1回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
2	子どもに対するかかわりと共感的理解	教科書の専門用語の意味を理解しておく（90分）。	2回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
3	子どもを理解する視点　①子どもの生活や遊び	教科書の専門用語の意味を理解しておく（90分）。	3回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
4	子どもを理解する視点　②保育の人的環境としての保育者と子どもの発達	保育計画の意味を理解しておく（90分）。	4回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
5	子どもを理解する視点　③子ども相互のかかわりと関係づくり	保育計画と指針、要領との関連を理解しておく（90分）。	授業終了後に示す課題を作成する（90分）。
6	子どもを理解する視点　④集団における経験と育ち	教科書の専門用語の意味を理解しておく（90分）。	6回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
7	子どもを理解する視点　⑤発達における葛藤、つまずき	教科書の専門用語の意味を理解しておく（90分）。	7回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
8	子どもを理解する視点　⑥保育の環境の理解と構成	発達心理等発達過程を理解しておく（90分）。	8回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
9	子どもを理解する視点　⑦環境の変化・移行	発達心理等発達過程を理解しておく（90分）。	授業終了後に示す課題を作成する（90分）。
10	子どもを理解する方法　①観察・記録・省察・評価	計画作成の方法をよく読んでおく（90分）。	授業終了後に示す課題を作成する（90分）。
11	子どもを理解する方法　②職員間の対話	対象年齢と計画の連動性を理解しておく（90分）。	11回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
12	子どもを理解する方法　③保護者との情報の共有	対象年齢と計画の連動性を理解しておく（90分）。	12回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
13	発達の課題に応じた援助と関わり	教科書の専門用語の意味を理解しておく（90分）。	13回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
14	特別な配慮を要する子どもの理解と援助	教科書の評価ページを事前に読んでおく（90分）。	14回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
15	発達の連続性と就学への支援	教科書の専門用語の意味を理解しておく（90分）。	授業終了後に示す課題を作成する（90分）。
16	配布プリントをもとに授業のまとめと振り返り 提出されたレポートについてフィードバック 授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	15回の授業内容を振り返り、復習する(90分)。	授業の目的の達成度を自己評価する。授業内容の振り返り、フィードバックされたレポートをもとに復習し整理する(90分)。

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択必修
科目名称	CAD演習 II （科目ナンバリング：APT322035　　）				
授業担当者 （所属・職名）	君 興治（建築学科・特任准教授）、向井　正伸（建築学科・専任講師）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	1　（単位認定責任者：　向井　正伸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所にてARCHICAD・Vector Works を用いた設計監理業務を行なった経験を基に授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「ＣＡＤ演習Ｉ」を受けて本講ではJW_CADより高機能なBIM（Building Information Modeling）であるARCHICAD・Vector Works の作図操作について学ぶ。設計演習科目に関連する課題を通して，図面表現が単なる「お絵かき」ではなく，「建築製図」として仕上がる段階までＣＡＤが設計ツールとして扱えるように修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

３次元ＣＡＤを使い，自分で計画した建築物が手描き図面のように作図できる。

授業全体の内容と概要

コンピュータ室にて，ARCHICAD・Vector Works を用いたモデリング・作図操作の演習を行う。設計演習科目に関連する課題を実施し，ARCHICAD・Vector Works を用いて自由にモデリング・作図できるスキルを習得する。

授業の方法

コンピュータ室にて，ARCHICAD・Vector Works の作図操作画面を大型ディスプレイに表示しながら説明し，学生に操作方法を修得してもらう。作図操作に慣れたら，木造またはＲＣ造の設計課題を提示し，まずはエスキスを作成させる。個別にプレゼンしてもらい，それに対して確認と修正指導を行う。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業ではコンピューター室にて授業を行うことから、使用するパソコンを指定するが、ノートパソコンを持っている場合は持参することを推奨する。ＵＳＢメモリーは持参すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数１１回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ARCHICAD・Vector Works を用いて正しいモデルが表現ができる。	ARCHICAD・Vector Works を用い て、的確で美しいモデル表現が 完璧にできた。	ARCHICAD・Vector Works を用い て、的確で美しいモデル表現が８割方できた。	ARCHICAD・Vector Works を用い て、的確で美しいモデル表現がほぼ６割方できた。	ARCHICAD・Vector Works を用い て、モデル表現ができた。	ARCHICAD・Vector Works を用い て、モデル表現ができなかった。
ARCHICAD・Vector Works を用いて正しい作図表現ができる。	ARCHICAD・Vector Works を用い て、的確で美しい作図表現が 完璧にできた。	ARCHICAD・Vector Works を用い て、的確で美しい作図表現が８割方できた。	ARCHICAD・Vector Works を用い て、的確で美しい作図表現がほぼ６割方できた。	ARCHICAD・Vector Works を用い て、作図表現ができた。	ARCHICAD・Vector Works を用い て、作図表現ができなかった。
相手に伝わるプレゼンテーション（レイアウト）ができる。	CADを用いて相手に正確に意図を伝え るプレゼンテーションが 完璧にできた。	CADを用いて相手に正確に意図を伝え るプレゼンテーションが ８割方できた。	CADを用いて相手に正確に意図を伝え るプレゼンテーションが ほぼ６割方できた。	CADを用いて相手に意図を伝え るプレゼンテーションができた。	CADを用いて相手に意図を伝え るプレゼンテーションができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択必修
科目名称	CAD演習 II （科目ナンバリング：APT322035　　）				
授業担当者 （所属・職名）	君 興治（建築学科・特任准教授）、向井　正伸（建築学科・専任講師）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	1　（単位認定責任者：　　向井　正伸　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所にてARCHICAD・Vector Works を用いた設計監理業務を行なった経験を基に授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『「10日間でマスター！VectorWorks(ver.2018/2017対応）」』	山川佳伸	エクスナレッジ	2018	9784767825199	
2	『Archicad 26ではじめるBIM設計入門［企画設計編］』	BIM LABO	エクスナレッジ	2022	9784767830803	
3	『ARCHICAD21ではじめるBIM設計入門［基本・実施設計編］』	BIM LABO	エクスナレッジ	2019	9784767825946	
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　作品紹介、科目を修了して「身に付く力」についての説明、　授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認 （４５分）	授業終了時に提示の課題を処理する （４５分）
2	ARCHICAD・Vector Works　基本操作	配布資料・テキスト熟読 （４５分）	授業終了時に提示の課題を処理する（４５分）
3	ARCHICAD・Vector Works　基本操作	配布資料・テキスト熟読 （４５分）	授業終了時に提示の課題を処理する（４５分）
4	ARCHICAD・Vector Works　基本操作	配布資料・テキスト熟読 （４５分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
5	作図演習課題１（3階建てビル・モデリング）	配布資料・テキスト熟読 （45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（４５分）
6	作図演習課題１（3階建てビル・モデリング）	配布資料・テキスト熟読 （45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
7	作図演習課題１（3階建てビル・モデリング）	授業の作図の継続（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
8	作図演習課題１（3階建てビル・モデリング）	授業の作図の継続（４５分）	授業終了時に提示の課題を処理する（４５分）
9	作図演習課題１（3階建てビル・作図）	授業の作図の継続（45分）	授業の作図の継続（45分）
10	作図演習課題１（3階建てビル・レイアウト出力）	授業の作図の継続（４５分）	授業の作図の継続（４５分）
11	作図演習課題２（住宅課題・モデリング）	配布資料・テキスト熟読 （４５分）	授業の作図の継続（４５分）
12	作図演習課題２（住宅課題・モデリング）	授業の作図の継続（４５分）	授業の作図の継続（４５分）
13	作図演習課題２（住宅課題・モデリング）	授業の作図の継続（４５分）	授業の作図の継続（４５分）
14	作図演習課題２（住宅課題・作図）	授業の作図の継続（45分）	授業の作図の継続（45分）
15	作図演習課題２（住宅課題・レイアウト出力）	レイアウト準備 （45分）	レイアウト提出（４５分）
16	総括によるフィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証、授業改善アンケートの実施	講評会準備（４５分）	振返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択必修
科目名称	北国の建築と住まい （科目ナンバリング：APT311009　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　安藤　淳一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

北国の建築と住まいは，積雪寒冷という気候条件から多くの制約を受けるため，それに対応すべく工夫と技術を生み出してきた。その一方で，美しい四季の変化と恵みを取り入れることも忘れることはなかった。履修学生は，北国の建築は先達の恩恵をどのように受け継ぎ発展させてきたのか，これからの住まいと住宅地に求められるものは何かを理解し，北国の住宅設計の基本と応用に係る知識を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1,DP3,DP4に対応する。

到達目標

北国の住宅の多様さを知り，設計・デザインする手法と技術を学び，これからの住まいのあり方と設計手法を修得できる。また，北国の建築や住宅の見学と観察から現状と問題点を探ることができる。

授業全体の内容と概要

毎回配布する授業資料に沿って授業を進めるが，授業のポイントが演習問題として課せられので，集中して聴くことが求められる。板書すべき事項は授業資料に記載され，プロジェクターで事例の画像や図表を投影して解説する。
「SDGs11.住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

毎回配布する授業資料に沿って授業を進めるが，授業のポイントが演習問題として課せられので，集中して聴くこと、メモを取ることが求められる。基本的に授業は対面で実施するが，不測の事態が起きた際に，授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業開始時に配布する着席票に氏名を記入した後に回収するので，遅刻者は欠席扱いとなる。また，着席票をもとに意見発表を求め，受講態度もチェックされるので留意すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

毎回の授業内容を記録した課題を演習（平常点），建築見学参加（その他），レポート（レポート），スケッチ（課題・作品）の評価によって単位認定を行う。したがって，これらの課題未提出の場合は単位取得ができないので注意すること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	３０%	０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
北国の建築と住まいが積雪寒冷という気候条件からどのような制約を受けているのかを理解する。	積雪寒冷地の気候条件によって住まいや建築への制約を理解できた。	積雪寒冷地の気候条件によって住まいへの制約を理解できた。	積雪寒冷地の気候条件による制約を理解できた。	積雪寒冷地の気候条件による制約をおおむね理解できた。	気候条件の制約を理解することができなかった。
北国の住宅が自然環境に対し，どのように対処をしているかを設計・デザインの手法と技術の面から理解する。	北国の住宅建築の設計・デザインが自然環境に対し計画され，その過程に多くの技術改良がなされてきたことを理解できた。	北国の住宅建築の設計・デザインが自然環境に対し計画されていることを理解できた。	北国の住宅建築の設計・デザインを理解できた。	北国の住宅建築の設計・デザインをおおむね理解できた。	北国の住宅建築の設計・デザインを理解することができなかった。
北国の建築や住宅を見学し観察することから環境に対する工夫や対処方法を理解し，問題点を見つけ出す。	北国の建築に対するさまざまな工夫を理解することができ，実物の観察かに再確認し問題点を指摘することができた。	北国の建築の工夫や対処方法を理解し，実物の建築の観察から再確認することができた。	実物の建築から，北国の建築の工夫していることを理解できた。	建築や住宅の見学に参加するることができた。	建築や住宅の見学に参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択必修
科目名称	北国の建築と住まい （科目ナンバリング：APT311009　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　安藤　淳一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明，授業改善アンケート結果反映の説明，科目を修了して「身に付く力」についての説明，「北国の建築と住まい」で学ぶこと，北国の定義，北海道の歴史のあらまし	シラバスの事前確認（90分）	配布資料の見直し（90分）
2	北国の住まい１　縄文から屯田兵屋	資料確認　（90分）	演習2作成（90分）
3	北国の住まい２　住宅建築を拓いた建築家マックス･ヒンデルと田上義也	資料確認　（90分）	演習2作成（90分）
4	北国の住まい３　気候環境が生み出した住様式	資料確認　（90分）	演習2作成（90分）
5	北国の住まい４　暖かく住む　寒冷地の居住環境北国の建築の見学　北国の建築の名作をみる	見学資料の予習（90分）	
6	見学会＃１　旧島松駅逓	見学資料の予習（90分）	見学レポート作成（90分）
7	北国の住まい５　商品化住宅	資料確認　（90分）	演習2作成（90分）
8	北国の住まい６　間取り	資料確認　（90分）	演習2作成（90分）
9	北国の建築１　開拓使の建築-1　札幌農学校第２農場，時計台他	資料確認　（90分）	演習2作成（90分）
10	見学会＃２　札幌農学校第2農場（北海道大学）	見学資料の予習（90分）	見学レポート作成（90分）
11	北国の住まい７　各室の設計１　公室	資料確認　（90分）	演習2作成（90分）
12	北国の住まい８　各室の設計２　私室	資料確認　（90分）	演習2作成（90分）
13	北国の建築２　開拓使の建築-2　北海道庁旧本庁舎，豊平館，永山武四郎部他	資料確認　（90分）	演習2作成（90分）
14	見学会３　永山武四郎部，北3条通り（開拓使通り）	見学資料の予習（90分）	見学レポート作成（90分）
15	北国の建築３　現代の建築　サッポロファクトリー，札幌ドーム，モエレ沼公園，エスコンフィールド北海道他	見学資料の確認（90分）	演習2作成（90分）
16	総評（課題提出・発表の講評と解説），改善アンケートの実施，フィードバック，科目を修了して「身に付く力」についての検証	提出課題再確認（90分）	最終振返り（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	洋画 （科目ナンバリング：AEA222120　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安田　祐造（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	２号館１階	
単位数	2　（単位認定責任者：　安田　祐造　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	50年近く画業に専念するなかで経験した課題を具体的に解説しながら指導に当たる。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照してください。				

概要

履修目標

洋画の技法は、今日の我が国では油彩が一般的だが、欧州における長い洋画の歴史を顧みるなら、油彩技法が確立される以前のエッグテンペラの技法は欠かせない。この授業では油彩とエッグテンペラによる絵画制作に用いる用材についての基本を学び、それぞれの技法の良さを活かすことにより、各々の履修生の表現の幅を広げるための道を拓くことを目的とするものである。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

油彩やエッグテンペラの技法、それらの用材の特徴や使用法と管理の仕方などの基本を理解し、それぞれの特徴を活かした絵画制作を行えるようにすることや自分に相応しい表現方法を探究する態度を養成することを目標とする。

授業全体の内容と概要

油彩のみならず、エッグテンペラなどに関する様々な技法や材料について、支持体の種類とそれぞれの作り方と特徴、顔料の種類と性質、展色剤の種類と特徴、様々の用具の使用法や管理の仕方などについての基本を学修し表現の幅を広げるための科目である。

授業の方法

油彩とエッグテンペラとによる「混合技法」で作品を制作する実技形式の授業である。履修者各自が設定したテーマに則り、それを有効に表現した作品を創り上げることを課題とする。実習のみならず視聴覚機器を充分に活用し参考資料等の紹介や説明を行い、普段の授業や合評会においては、適切なコメントによりフィードバックに寄与させようとするものである。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

この授業を履修するに当たっては、芸術文化の素晴らしさを追求するばかりか、自然環境やものを大切にする態度なども身につける意欲を持ち合わせた人を対象とした授業であることを十分に認識したうえで履修すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は２２回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
支持体について	基底材の裁断と組み立て、地塗り、研磨などの基本について十分に身についた。	基底材の裁断と組み立て、地塗り、研磨などの基本について身についた。	基底材の裁断と組み立て、地塗り、研磨などの基本についてほぼ身についた。	基底材の裁断と組み立て、地塗り、研磨などの基本についてある程度身についた。	基底材の裁断と組み立て、地塗り、研磨などの基本について身につかなかった。
彩色材料について	エッグテンペラの展色剤の処方と管理の仕方、油彩の材料の特性などについての基本が十分に身についた。	エッグテンペラの展色剤の処方と管理の仕方、油彩の材料の特性などについてついての基本が身についた。	エッグテンペラの展色剤の処方と管理の仕方、油彩の材料の特性などについてついての基本がほぼ身についた。	エッグテンペラの展色剤の処方と管理の仕方、油彩の材料の特性などについてついての基本がある程度身についた。	エッグテンペラの展色剤の処方と管理の仕方、油彩の材料の特性などについての基本が身につかなかった。
描写について	モティーフの面やバルールなどを十分的確にとらえた描写が行えた。	モティーフの面やバルールなどを的確にとらえた描写が行えた。	モティーフの面やバルールなどをほぼ的確にとらえた描写が行えた。	モティーフの面やバルールなどをある程度的確にとらえた描写が行えた。	モティーフの面やバルールなどを的確にとらえた描写が行えなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	洋画 （科目ナンバリング：AEA222120　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安田　祐造（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	２号館１階	
単位数	2	（単位認定責任者：　　安田　祐造　　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	50年近く画業に専念するなかで経験した課題を具体的に解説しながら指導に当たる。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照してください。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション　授業アンケートの結果について、シラバスについて 古今の作品について　（構図を主に） 授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して『身に付く力』についての説明	予めシラバスに目を通す。(45分)	これから制作する作品の構想を練る。(45分)
2	洋画作品の構造と用材 木材の性質について	基底材として使用する木材の性質について予習する。(45分)	本時の内容についての復習と自らの作品に相応しい支持体について検討する。(45分)
3	支持体製作 木材の裁断について 木工具の取り扱い方について	基本的な木工具の取り扱い方について予習する。(45分)	作品のテーマとモティーフを検討する。(45分)
4	支持体製作 木材の組み立てについて 木材の接着について	接着剤の種類や用法について予習する。(45分)	本時の内容についての復習と地塗り材についての予習を行う。(45分)
5	支持体製作 地塗り材の処方について	地塗り材による作品に対する効果について予習する。(45分)	様々な地塗り材の特徴と取り扱いとを復習する。(45分)
6	支持体製作 地塗りの仕方について	地塗り材の塗りの方法について予習する。(45分)	新作として構想したものを下絵として用意する。(45分)
7	支持体製作 地塗り面の研磨について 下絵の転写作業について	ヤスリなどの研磨材や用具について予習しておく。 (45分)	様々な転写方法について復習する。(45分)
8	エッグテンペラでの下描き エッグテンペラ用展色剤の処方について	面や陰影の把握の重要性について予習する。(45分)	エッグテンペラ用展色剤の処方について復習する。(45分)
9	エッグテンペラでの下描き エッグテンペラでの描法について　Ⅰ	エッグテンペラメディウムの特徴について予習する。(45分)	作品創りに不足している用材等を補充しておく。(45分)
10	エッグテンペラでの下描き エッグテンペラでの描法について　Ⅱ	エッグテンペラ絵具での描法について練習を行う。(45分)	本時の内容を復習し、古今のエッグテンペラを用いた作品を分析する。(45分)
11	混合技法(油彩とエッグテンペラ)による本制作　A エッグテンペラでの描法について　Ⅱ	制作が遅れている場合、自ら制作を進め、遅れを取り戻す。(45分)	エッグテンペラの特徴を踏まえた描法について復習する。(45分)
12	混合技法による本制作　B エッグテンペラでの描法について　Ⅲ	前回の制作を振り返り、自らの課題を明確化しておく。(45分)	描写に不足がある場合は、自らそれを補っておく。(45分)
13	混合技法による本制作　C 油彩の特徴について	油彩の特徴を活かした描法について予習する。(45分)	古今の油彩や混合技法による作品の良さを画集やインターネットを活用して味わう。(45分)
14	混合技法による本制作　D エッグテンペラでの下層を活かす油彩描法について	油彩絵の具の透明性について予習する。(45分)	進捗状況を点検し、足りない部分を補う。(45分)
15	混合技法による本制作　E 質感の表現法について	質感表現について予習する。(45分)	本時の内容に照らし、遅れている点や不足している点がないか検討する。(45分)
16	混合技法による本制作F 陰影のコントラストについて	陰影のコントラストの重要性について予習する。(45分)	より良いものを求め不足している部分を補い、過ぎた部分については修正する。(45分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	混合技法による本制作　G 色彩の調和と色の三属性について　Ⅰ	表現の意図に相応しい配色の仕方について予習する。(45分)	本時の内容を復習し理解する。(45分)
18	混合技法による本制作　H 色彩の調和と色の三属性について　Ⅱ	前回の内容で理解できていない点を明らかにする。(45分)	色彩について着目し、制作の進め方について検討する。(45分)
19	混合技法による本制作　I 色彩の調和と色の三属性について　Ⅲ	色彩に着目し、自らの作品の進捗を確認する。(45分)	色彩について、これまでに学んだことを復習する。(45分)
20	混合技法による本制作　J エッグテンペラでの上描きについて　Ⅰ	油彩絵の具の層の上にエッグテンペラ絵具を乗せたことによる効果について予習する。(45分)	油彩絵の具の層の上にエッグテンペラ絵具を乗せて表現した古今の作品を参照する。(45分)
21	混合技法による本制作　K エッグテンペラでの上描きについて　Ⅱ	油彩絵の具層の乾き具合とエッグテンペラ絵具の乗り具合の関係について予習する。 (45分)	本時の制作体験から、油彩絵の具だけでは得られないものが何か検討する。(45分)
22	混合技法による本制作　L エッグテンペラ絵具の浮き出し効果について	油彩絵の具での光の表現と混合技法でのそれとの効果の差異について予習する。(45分)	本時の制作体験により得られたものを、これからの制作にどのように活かすべきかを検討する。(45分)
23	混合技法による本制作　M 個別的な課題について　Ⅰ	これまでの制作を振り返り、自らの課題が何かを明らかにする。(45分)	自らが抱く作品についての構想を再確認する。(45分)
24	混合技法による本制作　N 個別的な課題について　Ⅱ	本時の制作で解決すべき点についてまとめる。(45分)	本時の制作で解決した点とそうではなかった点について検討する。(45分)
25	混合技法による本制作　O 個別的な課題について　Ⅲ	前回の制作で行き詰った点があれば、それを明らかにし、他者からの助言を受ける用意を行う。(45分)	作品仕上げの期限も近いことから、空き時間を利用して完成度を高められるように制作に取り組む。(45分)
26	混合技法による本制作　P 個別的な課題について　Ⅳ	制作当初の表現の意図が具現化されつつあるかを確認する。(45分)	表現の意図を確かにするために必要な点が何かを明らかにする。(45分)
27	混合技法による本制作　Q 個別的な課題について　Ⅴ	作品の細部と全体とに目をやり、改めるべき点や補うべき点などを明らかにする。(45分)	他者から意見や感想を寄せてもらい、制作の糧とする。(45分)
28	混合技法による本制作　R 個別的な課題について　Ⅵ	これまでの授業で取りあげられたそれぞれのテーマにつて、自らの作品を客観的に検討する。(45分)	足りない点や過ぎた点などを加筆したり修正したりして完成度を高める。(45分)
29	混合技法による本制作　S 個別的な課題について　Ⅶ	作品提出を前に完成度を点検する。(45分)	冷静に客観的にできるだけ広い視野で自らの作品を検討する。(45分)
30	混合技法による本制作　T 個別的な課題について　Ⅷ	完成に向けて、様々な点について検討を行う。(45分)	これまでの制作で果たせたことや果たしきれなかったことについて検討する。(45分)
31	合評　A	自らの作品について自己評価を行う。(45分)	他者の意見や助言や感想を参考に、自らの作品についての評価を再検討する。(45分)
32	合評　B 授業改善アンケートの実施、科目を修了して『身に付く力』についての検証、そしてこれまでの取り組みをもとに、今後の学生たちの制作や生き方にフィードバックさせる。	感性や価値観の相違、多様性などについての考えをまとめる。(45分)	合評会での他者の意見や助言を参考に、これからの制作の仕方について検討する。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本史 （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	及川　琢英（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　及川　琢英　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

人文学的教養の一環として、歴史学について学び、文献を批判的に考察し、表現する能力を培う。

授業の位置づけ

全学科のDP２に対応する。

到達目標

１．テーマに沿った文献や資料を提示することができる。
２．文献を批判的に考察することができる。
３．考察した内容を適切に表現できる。

授業全体の内容と概要

１．政治の主導権・対中政策を中心に日本近現代史を概観する。
２．日本近現代史研究で蓄積されてきた研究成果について理解する。
３．日本近現代史に関する史料や文献を読んで考察する。

授業の方法

毎回資料を配布し、講義形式で行う。受講者には小課題、毎回講義に対する意見、質問などリアクションペーパーを書いて提出してもらい、次回にそれに対するコメントを行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎回配布する資料をしっかりと読み、読み切れなかった箇所に目を通して、次回の授業に臨むこと。
毎回のリアクションペーパー提出を持って出席に代える。私語厳禁。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（社会・地理歴史）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	７０％	０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
文献・資料の取り扱い	授業で配布された資料を整理し、 自分で文献や資料を広く入手するとともに、テーマに沿って適切に提示できていた。	授業で配布された資料を整理し、自分で文献や資料を図書館のみならず、広く入手して提示できていた。	授業で配布された資料を整理し、自分で文献や資料を図書館などで入手して提示できていた。	授業で配布された資料を整理できていた。	授業で配布された資料を整理できていなかった。
文献の批判的考察	テーマに沿って、資料を取捨選択して提示し、複数の観点から分析を行ったうえで、考察がなされていた。	テーマに沿って、資料を取捨選択して提示し、批判的な分析を行ったうえで、考察がなされていた。	テーマに沿って、資料を取捨選択して、適切な考察がなされていた。	テーマに沿って、資料を提示し、考察がなされていた。	テーマに沿った資料を提示しての考察がなされていなかった。
考察内容の表現	指示された枠組みに基づいて記述がなされ、資料の提示、記述を工夫するとともに、さらなる課題なども提示できていた。	指示された枠組みに基づいて記述がなされ、資料の提示、記述も工夫され、説得力があった。	指示された枠組みに基づいて記述がなされ、資料の提示も適切になされていた。	指示された枠組みに基づいて記述されていた。	指示された枠組みに基づいて記述されていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本史 （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	及川　琢英（社会福祉学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　及川　琢英　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、歴史学・植民地とは 科目を修了して『身に付く力』ついての説明	シラバスを読んでおく（９０分）	基礎的事項の復習（９０分）
2	どの勢力が主導権を握ったか（1）藩閥	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
3	どの勢力が主導権を握ったか（2）政党	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
4	どの勢力が主導権を握ったか（3）軍・官僚	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
5	どのような対中政策を採ったか（1）日清戦争	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
6	どのような対中政策を採ったか（2）北守南進策	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
7	どのような対中政策を採ったか（3）満蒙・本部進出策	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
8	どのような対中政策を採ったか（4）満蒙優先策	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
9	どのような対中政策を採ったか（5）なし崩し的分割策	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
10	人物からみる（1）田中義一	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
11	人物からみる（2）張作霖	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
12	人物からみる（3）宇都宮太郎	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
13	人物からみる（4）河本大作	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
14	人物からみる（5）石原莞爾	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
15	帝国の崩壊、授業改善アンケートの実施	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
16	日本国憲法 フィードバック 科目を修了して『身に付く力』についての検証	資料などで講義内容を整理する（９０分）	講義内容を見直す（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	障害者福祉 （科目ナンバリング：SWS112010　　）				
授業担当者 （所属・職名）	畠山　明子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　畠山　明子　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

①障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。
②障害者福祉の歴史と障害観の変遷、制度の発展過程について理解する。
③障害者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。
④障害による生活課題を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、DP３、DP４に対応する。

到達目標

①障害者の取り巻く社会情勢と生活実態について、データを用いて説明し課題を指摘できる。
②障害者にかかわる法体系について、その成立の過程や概要について理解する。
③障害者福祉にかかわる制度の体系とその概要について理解し、課題を指摘できる。

授業全体の内容と概要

障害概念の特性、障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境、障害者福祉の歴史、障害者に対する法制度、障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割、障害者と家族に等に対する支援の実際
「SDG3．すべての人に健康と福祉を」、「SDG8．働きがいも経済成長も」、「SDG16．平和と公正をすべての人に」、「SDG17．パートナーシップで目標を達成しよう」の関連授業

授業の方法

①教科書の内容をまとめた配布資料に基づく講義形式になるが、新聞記事の活用や映像資料の視聴、演習（グループワーク等）も取り入れる。配布された資料には板書事項を記述すること。
②毎回の振り返り（小テスト・感想・質問等）をMicrosoft Formsを通して提出し、次回授業開始時にフィードバックを行う。
③第１０回目の前半には中間テストを実施し、理解度を確認する（出題形式・試験時間等は授業内で説明）。
④授業資料の配信等においてMicorsoft Teamsを活用する。
⑤基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①教科書は毎回持参すること。
②配布資料は紛失しないよう、ファイリングする等して管理を徹底すること。
③ニュースなどで報道される福祉に関わる話題について興味を持つこと。
④新聞記事などを題材として社会福祉の現状や課題を検討する等、常に問題意識を持ちながら積極的に授業に参加すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程，精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

出席回数は定期試験前までに１０回以上あることを評価の前提条件とし、第１０回目に実施する中間テスト（３０点）、第１６回に実施する定期試験（７０点）の結果を総合して評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	０%	３０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
障害者の取り巻く社会情勢と生活実態について、データを用いて説明し課題を指摘できる。	関係するデータを用いて障害者を取り巻く社会情勢と生活実態について具体的に説明・記述できた。	関係するデータを用いて障害者を取り巻く社会情勢と生活実態についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者を取り巻く社会情勢と生活実態について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者を取り巻く社会情勢と生活実態についておおむね説明・記述できた。	障害者を取り巻く社会情勢と生活実態について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
障害者にかかわる法体系について、その成立の過程や概要について理解する。	障害者にかかわる法体系の成立の過程や概要について具体的に説明・記述できた。	障害者にかかわる法体系の成立の過程や概要についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者にかかわる法体系の成立の過程や概要について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者にかかわる法体系の成立の過程や概要についておおむね説明・記述できた。	障害者にかかわる法体系の成立の過程や概要について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
障害者福祉にかかわる制度の体系とその概要について理解し、課題を指摘できる。	障害者にかかわる制度の体系と概要、課題について具体的に説明・記述できた。	障害者にかかわる制度の体系と概要、課題についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者にかかわる制度の体系と概要、課題について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者にかかわる制度の体系と概要、課題についておおむね説明・記述できた。	障害者にかかわる制度の体系と概要、課題について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	障害者福祉 （科目ナンバリング：SWS112010　　）				
授業担当者 （所属・職名）	畠山　明子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　畠山　明子　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新　社会福祉士養成講座　精神保健福祉士養成講座　８　障害者福祉　第2版』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	２０２５年	978-4-8243-0151-2	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	本講義の進め方、シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明、障害者福祉の概説、障害概念と特性	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
2	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境、障害者福祉の歴史①障害者福祉の理念・障害観の変遷	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
3	障害者福祉の歴史②障害者処遇の変遷、障害者の権利条約と障害者基本法	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
4	障害者に対する法制度①障害者総合支援法（障害者総合支援法の概要・障害福祉サービス及び相談支援・障害支援区分及び支給決定）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
5	障害者に対する法制度②障害者総合支援法（自立支援医療・補装具・地域生活支援事業・障害福祉計画）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
6	障害者に対する法制度③身体障害者福祉法・知的障害者福祉法・精神保健福祉法	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
7	障害者に対する法制度④児童福祉法・発達障害者支援法・障害者虐待防止法	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
8	障害者に対する法制度⑤障害者差別解消法・バリアフリー法・障害者雇用促進法・障害者優先調達推進法	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
9	障害概念の特性、障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境、障害者福祉の歴史、障害者に対する法制度の振り返り	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
10	中間テスト、振り返り	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	試験で間違えた箇所、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
11	障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割①関係機関と専門職等の役割	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
12	障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割②事例検討	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
13	障害者と家族等に対する支援の実際①障害領域における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割・障害者と家族等に対する支援の実際	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
14	障害者と家族等に対する支援の実際②事例検討	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
15	授業のまとめ	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
16	定期試験（６０分の試験後、残りの３０分で解説）、授業改善アンケートの実施、フィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。（９０分）	試験で間違えた箇所、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築法規Ⅰ （科目ナンバリング：APT312018　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　佐藤　善太郎　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築関係法令は建築基準法をはじめとして関連する法律が非常に多く，生活環境・社会構造の変化と共に，より複雑化してきている。ここでは建築関係法令のう ち基幹である建築基準法・建築基準法施行令をメインとして，建築に関する法律の仕組みと体系について学習し，建築法規を手がかりに建築への理解を実務的視 点から深める。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

建築関係法令の全体像を把握して，建築基準法の概要及び使用される重要な用語の意義・定義を理解できる。基準法の中でも，人々の生活に密接な係わりを持 つ・敷地・構造・建築設備・建築環境に関する条文を理解できる。

授業全体の内容と概要

建築基準法を理解する上で重要な条文について，図解を交えてわかりやすく解説する。更に主要な制度規定について，条文の成立から実例まで併せて解説すると共に，条文の理解を深めるための演習を行う。
「SDG11．住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

授業は条文の重要項目のチェックと線引きをおこない、板書と配布資料により進めていく。随所に出現する法令独特の語彙の解釈や考え方にも触れて，きめ細や かに進めていく。また，理解度を測るため，単元ごとに課題提示・小テストを行い，必ず答え合わせ・質疑応答の時間を設ける。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

法令集と赤ペン・青ペンを必ず持参のこと。また，本講義にあたっては電卓や携帯電話，スマートフォンなどの計算機能を使った計算を禁止する。必ず筆算のこ と。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」必修科目，教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数１１回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築基準法の位置づけ、建築用語の定義及び確認申請業務の理解	建築用語の定義及び確認申請業務に関する事項の法体系での位置づけをすべて理解できた。	建築用語の定義及び確認申請業務に関する事項の法体系での位置づけを8割方理解できた。	建築用語の定義及び確認申請業務に関する事項の法体系での位置づけを6割方理解できた。	建築用語の定義及び確認申請業務に関する事項を理解できた。	建築用語の定義及び確認申請業務に関する事項を理解できなかった。
建築物の敷地に関連する規定（道路、用途地域、建蔽率、容積率、高さ等）の理解	建築基準法における建築物の敷地に関連する規定を正確に理解できた。	建築基準法における建築物の敷地に関連する規定を８割方正確に理解できた。	建築基準法における建築物の敷地に関連する規定を6割方正確に理解できた。	建築基準法における建築物の敷地に関連する規定を理解できた。	建築基準法における建築物の敷地に関連する規定を理解できなかった。
その他の建築関連法規の理解	その他の建築関連法規に関する規定を正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を８割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を6割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築法規Ⅰ （科目ナンバリング：APT312018　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　佐藤　善太郎　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『建築基準法関係法令集 2024年』』	日建学院編	建築資料研究社	2024		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明 建築関係法令とその背景（歴史的経緯と位置づけ・施行令・規則・人間・居住・都市・環境）	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
2	建築基準法の概要（法令構成・文脈・総則）	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
3	建築基準法各論－１　実例から読み取る身近な建築基準法	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
4	建築基準法各論－２　敷地・居室・主要構造部・構造体力上主要な部分	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
5	建築基準法各論－３　工作物，特殊建築物，建築行為	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
6	建築基準法各論－４　面積および階数の算定・建物の高さの算定	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
7	建築基準法各論－５　許可申請等の手続規定	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
8	建築基準法各論－６　耐火・準耐火・防火構造	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
9	建築基準法各論－７　特殊建築物の役割とその定義・別表第１	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
10	建築基準法各論－８　防火関係条文の構造とその理解	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
11	建築基準法各論－９　居室の採光と生活空間	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
12	建築基準法各論－10　床高・軒高・天井高	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
13	建築基準法各論－11　階段	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
14	建築基準法各論－12　居住環境と換気	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
15	建築基準法各論－13　建築基準法と倫理 授業改善アンケートの実施	事前提示の条文熟読(90分)	本授業の振返り(90分)
16	理解度診断試験・試験解説をし、回答をフィードバックする 科目を修了して「身に付く力」についての検証	事前提示の条文熟読(90分)	試験の振返り(90分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ経営管理論 （科目ナンバリング：SPS422066，SPS512010　　）				
授業担当者 （所属・職名）	天野　雅斗（経営学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　天野　雅斗　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	２００９年４月より非常勤講師（保健体育）として高等学校・専門学校・大学の体育実技を担当。２０１１年より４年間東海学園大学スポーツ健康科学部助手として大学競技スポーツの競技力向上の業務に従事。２０１９年４月より３年間名古屋平成看護医療専門学校アスレティックトレーナー学科学科長として愛知県の競技スポーツ（高校・社会人・プロ）の競技		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

体育・スポーツを経営学の視点から捉え，指導者（リーダー）として，体育・スポーツ経営管理に必要な基本的知識や基礎理論を理解し身に付け，体育・スポーツ経営管理の考え方や各領域の具体的な動向について学ぶ。

授業の位置づけ

経営学科のDP１、DP３、DP４に対応する科目。

到達目標

学校教育およびスポーツ団体における経営の問題点や課題について説明できる。各種スポーツの運営や学校教育における体育やスポーツ活動の運営方法に関して示すことができる。

授業全体の内容と概要

体育・スポーツ経営管理について，知識や理論として学ぶだけでなく，実践的な能力を身につけることを目指す。学校における教科体育や体育的行事，運動部活動，職場・地域のスポーツクラブ等様々な領域におけるスポーツ経営管理の内容・方法・形態・評価など，具体的な実践事例を挙げ授業を進める。

授業の方法

講義形式で授業を行う。既習範囲の内容やハンドアウトを利用し、スポーツにおけるマネジメントの在り方を理解する。ノートの作り方や課題、予習復習の内容・やり方についてはその都度授業中に指示を出す。座席は全席指定としスマホの使用は指示があるとき以外は認めない。板書の写真撮影は認めるが次回の授業までに必ずノートに転記すること。講義資料はその都度配布する。課題や不明点に関してはネットや経営学辞典等で調べたものを必ずノートに筆記保存すること。与えられた課題については個別対応は行わず、授業内でディスカッション形式で確認を行うものとする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席および授業参加度を重視する。出席とは，教科書・ノート・筆記用具の３点セットを持参することを意味する。授業参加度とは，発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り・スマホゲーム・LINE等の授業妨害行為およびテキストを持参しない学生・手ぶらで着席している学生に関しては欠席扱いとする。中間試験は実施しない。課題提出を複数回行う。ノート提出を１回課し，最終評価の対象とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツソーシャルワーカー資格課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、試験実施回を含めて１１回以上とする。遅刻は２０分までとし２回の遅刻を１回の欠席として扱う。予習復習を心がけ，知らない・分からない事柄は必ず調べてノートに記録すること。ノート提出は平常点の最大５０%に換算する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	２０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で９０点以上の得点を挙げた。	定期試験で８０点以上の得点を挙げた。	定期試験で７０点以上の得点を挙げた。	定期試験で６０点以上の得点を挙げた。	定期試験で６０点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に課題に取り組み、意思決定において必要となる理論の運用を学び、経営学における実践力を獲得するための努力をしている。	与えられた課題に取り組み、マネジメントの真髄や各種理論への理解が深まりつつある。	与えられた課題に取り組み、意思決定に至る考え方や各種理論の理解に対する努力が見られる。	与えられた課題に取り組み、経営バランスを理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、意思決定につながる過程とバランシングへの理解に対する進歩が見られず、自分なりのデータベースができていない。
主体性	自己の目標をしっかりと設定し、データベース化に取り組み、余った時間をさらなる定義や理論の研究・理解に振り分けている。	質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり経営学における意思決定やデータベース化に関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んでマネジメントカを身につけようとする姿勢が見られない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ経営管理論 （科目ナンバリング：SPS422066，SPS512010　　）				
授業担当者 （所属・職名）	天野　雅斗（経営学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2	（単位認定責任者：　天野　雅斗　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	２００９年４月より非常勤講師（保健体育）として高等学校・専門学校・大学の体育実技を担当。２０１１年より４年間東海学園大学スポーツ健康科学部助手として大学競技スポーツの競技力向上の業務に従事。２０１９年４月より３年間名古屋平成看護医療専門学校アスレティックトレーナー学科学科長として愛知県の競技スポーツ（高校・社会人・プロ）の競技		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『体育・スポーツ経営学講義』	八代　勉・中村　平	大修館書店	２００２	9784469264807	2013年第11刷発行
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション：シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明 現代スポーツと体育・スポーツ経営学　＜スポーツとの『3つ』のかかわり方＞	専用のノートを準備する（９０分）	ノートによる情報のデータベース化を行うこと（９０分）
2	体育・スポーツ経営とは①	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
3	体育・スポーツ経営とは②	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
4	体育・スポーツ事業と経営資源①	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
5	体育・スポーツ事業と経営資源②	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
6	体育・スポーツ事業の進め方①	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
7	体育・スポーツ事業の進め方②	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
8	よい体育・スポーツ経営の条件①	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
9	よい体育・スポーツ経営の条件②	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
10	学校週5日制時代の体育・スポーツ経営①	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
11	学校週5日制時代の体育・スポーツ経営②	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
12	『みるスポーツ』の経営①	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
13	『みるスポーツ』の経営②	ノート提出に備える（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
14	ノートチェック①	ノート提出に備える（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
15	テストリビュー＆ノートチェック② 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	ノート提出に備える（９０分）	試験に備える（９０分）
16	試験 ６０分の試験終了後、残りの３０分で解説をし、フィードバックする	試験に備える（１５０分）	本科目の総復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習Ⅰ （科目ナンバリング：AEA222072　　）				
授業担当者 （所属・職名）	梅田　力（デザイン学科・准教授）中島　義博（デザイン学科・非常勤講師）三上　いずみ（デザイン	研究室等所在	２号館８階		
単位数	2　（単位認定責任者：　三上　いずみ　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

（金属）：金属（鍛金）の特性を活かした美しい作品を制作することが出来る。
（染色）：広大な染色の世界の一端としての型染めを知る。技法の特質と道具、材料の名称、使用法を知る。型の連続によるデザインの可能性を知る。
（テキスタイルデザイン）：身の回りにあふれるテキスタイルデザインを知り、知識を深める。スクリーンプリント技法を学ぶ。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する科目

到達目標

（金属）：金属（鍛金）の特性を理解して作品を制作することが出来る。
（染色）：型染めの歴史と特性を知り説明できる。型染めの道具、材料の使用方法と技法の基礎を知り制作ができる。型染め特有のデザインの方法を知り実践できる。
（テキスタイルデザイン）：身の回りにあふれるテキスタイルデザインを知る。スクリーンプリント技法を体験する。

授業全体の内容と概要

（金属）では、「鍛金」を行う。道具の名称や使用方法を実践を通じて学ぶ。制作した作品はポスター（プレゼンテーションボード）にまとめ提出する。
（染色）では、型染めの歴史と技法を学び、自身のデザインで制作に取り組む授業である。オムニバスの少ない授業時間であるが型彫から水元までの型染め全行程を体験する。
（テキスタイルデザイン）では、身の回りにあふれるテキスタイルデザインに注目し、オリジナルのデザインを考える。スクリーンプリント技法を学び、実践する。テキスタイル小作品を制作し、発表・展示を行う。
「SDG12．つくる責任 つかう責任」の関連授業。

授業の方法

（金属）スライドを使って課題の説明を行なった後、各自作品制作を行う。作品完成後、作品評価及び講評を行う。学生は各自で画像を撮影して保存する。最終的に保存した画像を編集し、ポスターを作成し提出する。
（染色）板書，作例によって歴史と作業の基礎を学び，各自の構想による原画をもとに型染めの制作を行う実技科目である。完成作品の発表を行う機会を設け講評をする。ここで学ぶ型染めは四方送りの技法である。
（テキスタイルデザイン）授業は板書・パワーポイント・資料配布・実演等の方法で説明する。授業後に説明用動画はTeamｓに保存するので振り返りが可能。講評にてフィードバックする。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

（金属）制作した作品は撮影して保存し、最終的にはポスターにまとめて提出すること。
（染色）限られた時数の中で工程数が多いので遅刻、欠席は極力避けることが肝要である。
染料と水を使う作業なので対応する服装を心がける。
（テキスタイルデザイン）授業開始から３０分間で作業の説明を行うので遅刻しないこと。作業計画のスケジュールは変更できないので必ず出席すること。簡単なレポート提出あり。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術・工芸）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

オムニバスの各講座につき、それぞれ８割以上の出席をすること。
各講座で課される作品等を全て完成させ、期限内に提出をすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
工芸作品の基本的な特性の理解	工芸における道具の使い方を理解し、技法の特性を活用して美しい作品を制作した。	工芸における道具の使い方を理解し、技法の特性を活用した作品を制作した。	工芸における道具の使い方を理解し、作品をを制作した。	工芸技法を使って作品を制作した。	工芸技法を使って作品を制作できなかった。
表現力	課題の意図を理解して制作テーマに活かし、作品に十分に表現することができた。	課題の意図を理解して制作テーマに活かし、作品に表現することができた。	課題の意図を受け止め、制作テーマを決定し、作品に表現することができた。	制作テーマを考え、作品に表現することができた。	制作テーマを考え、作品に表現することができなかった。
主体的に学習に取り組む態度	綿密な制作計画を立て、十分な準備をして、高度で丁寧な制作を行った。	制作計画を立て、十分な準備をして、丁寧な制作を行った。	制作計画を立て、適度な準備をして、順調な制作を行った。	制作計画を立て、計画通りに制作を行った。	制作計画を立て、計画通りに制作を行えなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習Ⅰ （科目ナンバリング：AEA222072　　）				
授業担当者 （所属・職名）	梅田　力（デザイン学科・准教授）中島　義博（デザイン学科・非常勤講師）三上　いずみ（デザイン	研究室等所在	２号館８階		
単位数	2　（単位認定責任者：　三上　いずみ　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション(梅田・中島・三上) シラバスの説明・「身に付く力」の説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスをよく読んでおくこと（４５分）	オリエンテーションを振り返り、内容を理解する事（４５分）
2	(梅田) 鍛金について	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	ポスター作成（４５分）
3	(梅田) アイススプーン デザイン案（鍛金）	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	ポスター作成（４５分）
4	(梅田) アイススプーン デザイン案（鍛金）	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	ポスター作成（45分）
5	(梅田) アイススプーン （鍛金）	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	ポスター作成（４５分）
6	(梅田) アイススプーン （鍛金）	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	ポスター作成（45分）
7	(梅田) アイススプーン （鍛金）仕上げ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	ポスター作成（４５分）
8	(梅田) アイススプーン （鍛金）仕上げ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	ポスター作成（４５分）
9	(梅田) ポスターセッション （講評にてフィードバック）	事前に質問したい事をまとめておく（４５分）	講評を再考し、理解を深めること（４５分）
10	(梅田) ポスターセッション （講評にてフィードバック）	事前に質問したい事をまとめておく（４５分）	講評を再考し、理解を深めること（４５分）
11	(中島) 型染めの歴史、特性、技法の説明	シラバスをよく読んでおくこと（４５分）	課題を理解し、準備を進める事（４５分）
12	(中島) 型の図案作成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
13	(中島) 型の図案作成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
14	(中島) 型彫り 洋型紙に図案を彫る	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
15	(中島) 型彫り	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
16	(中島) 型彫り 糊を作り生地に置く	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	(中島) 染色 色糊を作り、型の上から引く	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
18	(中島) 染色	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
19	(中島) 蒸し、水元、定着	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
20	(中島) 完成作品発表 講評にてフィードバック	事前に質問したい事をまとめておく（４５分）	作品を持ち帰り、鑑賞、使用、反省すること（４５分）
21	(三上) テキスタイルデザインとスクリーンプリント技法についての説明	シラバスを読んでどんな作品を作るか考えておくこと（４５分） と（４５分）。	課題を理解し、準備を進める事（４５分）
22	(三上) 作業計画を立てる	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
23	(三上) ラフデザイン①	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
24	(三上) ラフデザイン②	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
25	(三上) 版下作成①	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
26	(三上) 版下作成②	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
27	(三上) 製版	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
28	(三上) 刷り	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
29	(三上) 落版・掃除	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
30	(三上) 定着・仕上げ 講評にてフィードバック	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
31	(梅田・中島・三上) 展示・発表	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
32	(梅田・中島・三上) まとめ・「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	事前に質問したい事をまとめておく（４５分）	講評を受けて今後の制作に活かす（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	1		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択必修
科目名称	図学(建築図学を含む) （科目ナンバリング：APT321033　　）				
授業担当者 （所属・職名）	赤木　良子（建築学科・准教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　赤木　良子　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計・インテリア実務設計経験 一級建築士、インテリアコーディネーター資格保有		
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。				

概要

履修目標

図学、つまり図形幾何学とは、3次元の立体を2次元の平面上に表現したり、2次元の平面情報から3次元の立体を再構成する技術である。 これは美術・デザインにおける表現手段の基礎的な技術の一つであり、製図の基礎として位置付けられる。 本実習ではこの表現技術について修得し、基本的な作図と立体表現ができるようになることを目標とする。

授業の位置づけ

建築学科のDP１、DP３、DP４に対応する。

到達目標

基礎的な立体と平面の関係性の把握。
作図に必要な道具を使って水平・垂直・長さ・線の太さ・破線等を美しく正確に作図表現できる。

授業全体の内容と概要

まずは基本となる図形の書き方を定規やコンパスなどを用いて描く。
製図の基本的な仕組みや、立体を平面上で表現する基礎的な方法を学び、自分なりの表現技術の基礎を作る。

授業の方法

教科書、補足資料、パワーポイント、板書などに内容に応じて用いる。
授業形態は講義および、講義に対応した課題をその場で実施する。
アクティブラーニングとしては、自身で課題を製作するため、それ自体がアクティブそのものである。
学生同士で相談などしても良い。
課題に対するフィードバックは適宜行う。
基本的に授業は対面で実施するが，不測の事態が起きた際に，授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

【必要な道具（以下）】各自で準備のこと。（推奨商品リストを配布します）
製図用シャープペンシル（芯の太さ0.5、濃さB以上推奨）必須。そのほか、0.3,0.7などの太さがあっても良い。
定規（15cm，できれば30cmも）、三角定規、三角スケール、コンパス、カッターナイフ、スケッチブック（クロッキー帳でも良い）
その他通常の文具。
正当な理由なき１０分以上の遅刻に関して、遅刻２回を１回欠席とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

建築士試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

１１回以上の出席と全課題作の完成・提出を必須とする。
（先述のように正当な理由なき１０分以上の遅刻に関して、遅刻２回を１回欠席とみなす。）

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基礎的な立体と平面の関係性の把握ができている。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
作図に必要な道具を的確に使うことができる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
基本的な図面の表現ができる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	1		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択必修
科目名称	図学(建築図学を含む) （科目ナンバリング：APT321033　　）				
授業担当者 （所属・職名）	赤木　良子（建築学科・准教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2	（単位認定責任者：　　赤木　良子　　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計・インテリア実務設計経験 一級建築士、インテリアコーディネーター資格保有		
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『建築図法　立体・パース表現から設計製図へ』	佐藤健司	学芸出版社	2019	9784761527211	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス：シラバスの説明、「授業改善アンケート」結果反映の説明、授業の進め方、科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスを読んでおくこと（９０分）	課題の復習（９０分）
2	自己紹介作品	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
3	描画演習	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
4	課題１（装飾）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
5	課題１（装飾）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
6	課題２（装飾）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
7	課題２（装飾）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
8	中間講評によるフィードバック	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
9	課題３　立体表現１	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
10	課題３　立体表現１	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
11	課題４　立体表現２	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
12	課題４　立体表現２	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
13	課題５　立体表現３	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
14	課題５　立体表現３	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
15	課題５　立体表現３	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
16	総評によるフィードバック・授業評価アンケート 科目を修了して「身に付く力」についての検証	未提出課題等の仕上 （９０分）	全体の復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17		¥	
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・経営学科・デザイン学科・建築学科２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	教育方法論 （科目ナンバリング：EDU122118，EDU242105，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　藤根　収　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題（教育方法）について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

教師のもつべき専門的教養の中核となる教育の方法と技術について、現実的な課題を整理しながら、実践的技術を解明するための知識を習得する。

授業の位置づけ

該当なし

到達目標

児童生徒に正しい効果的な学び方を指導し、自ら学ぶ力をつけさせる方法論を会得し、具体的に述べる。

授業全体の内容と概要

各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察、意見交換発表等の一連の活動を行う。内容は、教育論、児童生徒理解、カリキュラム、授業づくり、学力と教育評価等について扱う。
授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

教科書を輪読し、パワーポイント及び配布物資料で教科書の内容を確認するとともに、テーマに関する事項について、思考・考察、意見交換、討議、発表等の一連の活動を行うなどして、総合的に教育の方法を習得させる。グループワークにて発表及びレポート提出も行う。また、授業におけるＩＣＴ活用についても講義の中で実践的に扱うとともに、質問等は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。なお、グループワーク発表、レポートにはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教職を目指す学生としてふさわしい受講態度で履修すること。遅刻は３回で欠席１回とみなす。
全学科同一クラスで授業を行うので、受講に当たっての注意事項を守ること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	２０%	0%	0%	0%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
教育方法理論の理解	教育方法理論について学修した知識・技能を基盤に、さらに学修を深めようとすることができた。	教育方法理論について意欲的に学び、必要な知識・技能を理解することができた。	教育方法理論についての知識・技能を理解できた。	教育方法理論について、知識・技能を一定程度理解できた。	教育方法理論について、理解ができなかった。
教育技術の思考・判断・表現	教育技術について積極的に思考・判断し、自ら表現を工夫して活動することができた。	教育技術について思考・判断し、自ら表現することができた。	教育技術について、思考活動に取り組み、表現することができた。	教育技術について、一定程度思考活動に取り組み、表現しようとした。	教育技術について、思考・判断・表現について必要な取組ができなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業にとても積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が一定程度みられた。	授業への参加態度が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・経営学科・デザイン学科・建築学科２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	教育方法論 （科目ナンバリング：EDU122118，EDU242105，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　藤根　収　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題（教育方法）について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『教育の方法と技術　第三版』	柴田義松・山崎準二編	学文社	2019	978-4-7620-2869-4	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『中学校学習指導要領(平成29年3月告示）』	文部科学省	東山書房	2018	978-4827815580	
2	『高等学校学習指導要領(平成30年3月告示）』	文部科学省	東山書房	2018	978-4827815672	
3	『教育の情報化に関する手引』	文部科学省		2019		
4	『教育の情報化に関する手引（追補版）』	文部科学省		2020		
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ～シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」の説明～	シラバスを確認しておくこと。（９０分）	配布資料に基づき「教育方法論」について概念を確認すること。（９０分）
2	教育方法学の歴史① ・ソクラテス法，コメニウスの教授法の特質、ルソーの教育方法史上の位置ほか	指定した教科書の「問題１～５」を事前に読んでおくこと。（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと。（９０分）
3	教育方法学の歴史② ・２０世紀初頭の新教育運動、集団主義教育と総合技術教育の思想ほか	指定した教科書の「問題６～９」を事前に読んでおくこと。（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと。（９０分）
4	現代社会と教育	指定した教科書の「問題１０～１２」を事前に読んでおくこと。（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと。（９０分）
5	学校の現在と学校論	指定した教科書の「１３～１４」を事前に読んでおくこと。（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと。（９０分）
6	教育改革の内容	指定した教科書の「問題１５～１６」を事前に読んでおくこと。（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと。（９０分）
7	カリキュラム① ・児童中心カリキュラム、学問中心カリキュラムほか	指定した教科書の「問題１７～１８」を事前に読んでおくこと。（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと。（９０分）
8	カリキュラム② ・子どもの発達段階と教育との関係、「総合的な学習の時間」の意義と課題ほか	指定した教科書の「問題１９～２３」を事前に読んでおくこと。（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと。（９０分）
9	カリキュラム③ ・「教科書を教える」と「教科書で教える」、プログラム学習ほか	指定した教科書の「問題２４～２９」を事前に読んでおくこと。（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと。（９０分）
10	授業論（授業の構造、学習指導案、発問等）	指定した教科書の「問題３０～37」を事前に読んでおくこと。（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと。（９０分）
11	授業改善とＩＣＴ（情報機器）の活用	指定した教科書の「問題39～45」を事前に読んでおくこと。「教育の情報化に関する手引」を読んでおくこと。（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと。（９０分）
12	授業改善と視聴覚教材（ＩＣＴ等）の活用	指定した教科書の「問題４６～４８」を事前に読んでおくこと。「教育の情報化に関する手引（追補版）」を読んでおくこと。（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと。（９０分）
13	模擬授業（学習指導案、板書とノート指導、机間巡視）	指定した教科書の「問題４９～５４」を事前に読んでおくこと。（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと。（９０分）
14	学力と教育評価① ・相互評価と絶対評価、自己評価、「到達目標と方向目標」	指定した教科書の「問題５５～６０」を事前に読んでおくこと。（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと。（９０分）
15	学力と教育評価② ・指導要録、障害のある児童生徒（発達障害など）の教育ほか 科目を修了して「身に付く力」の検証、講評及びフィードバック、授業改善アンケートの実施	指定した教科書の「問題６１」と配布資料を事前に読んでおくこと。（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと。（９０分）
16	定期試験（６０分の試験終了後、残りの３０分で解説）	指定した教科書や講義内容について整理しておくこと。（９０分）	試験の結果を見直す。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本国憲法（M） （科目ナンバリング：LAW021020　　）				
授業担当者 （所属・職名）	青山　浩之（経営学科・教授）	研究室等所在	１号館４階		
単位数	2　（単位認定責任者：　青山　浩之　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

憲法は，国家権力の濫用を抑制し，国民の権利・自由を守るための基本法である。条文を理解し，適用・解釈するできる読解力を身に付ける。さらに、法的な問題が生じたとき、迅速かつ的確に対応できるよう知識を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

憲法を学ぶことにより，法律に対して感じるむずかしさや抵抗感を取り除き，法律の基本知識を修得する。法律の基本知識を修得することにより，条文を理解し，適用・解釈できる読解力を身に付ける。

授業全体の内容と概要

法律の基本となる知識を修得することを目的とし，法律の条文を理解し，個々の事例に対して適用・解釈できるようになることを目標とする。さらには，法的な問題が生じたとき，迅速かつ的確に対応できる人材を育成することを目標とする。憲法は，国民主権・基本的人権の尊重・平和主義の三つを基本原理とする日本の基本となる法律である。憲法の基本となる知識を修得し，実例に即し講義を行う。具体的には，憲法総論，人権分野，統治分野に関し条文をベースに解説する。
「ＳＤＧ１０.人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

授業は，資料をパワーポイントで投影し，資料（第３回から第１４回の計１２回）を配布して実施する。授業の進行は，前回の復習から始まり，本日の講義の内容を講義形式で解説を行う（調査実習含む）。
①確認テストは，講義の理解を深めるために４回（前年実績）実施する。②ビデオ視聴は，課題解決力を養うために０回（オンライン授業の場合は実施しない）実施する。③課題は，講義の理解を深めるために１回（前年実績）実施する。①②③についてのフィードバックは，講義内で解説を行う。
※補講は原則２回を限度として実施する（公欠などの学生に対しては，補講を出席することによって単位認定基準を満たす場合のみ実施する。）。
※確認テストなどはＭｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｆｏｒｍｓの小テストから実施し，学生全体の理解度を把握し，指導する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・私語などの迷惑行為は厳禁。
・講義中スマホの操作は厳禁，マナーモードで受講してください。
・六法を持参することを推奨。
・確認テストやビデオ視聴を実施するので遅刻は慎むこと。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。
・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。

資格指定科目

教職課程（社会・公民）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１０回以上
※課題の提出等の定期試験以外の割合が単位認定基準の４割を占めるので，１２回以上の出席を推奨。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	１０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
法律の条文を読み取り，理解できる	法律の条文を読み取り，理解でき，さらに自分の意見を述べることができた	法律の条文を読み取り，理解でき，自分なりの説明できた	法律の条文を読み取り，理解できた	法律の条文を読み取れた	法律の条文を読み取れなかった
事例を理解し，法律の条文を適用できる	事例を理解し，法律の条文を適用し，さらに自分の意見を述べることができた	事例を理解し，法律の条文を適用し，自分なりの説明できた	事例を理解し，法律の条文を適用できた	事例を理解し，法律の条文を理解できた	事例を読み取れず，法律の条文を理解できなかった
課題に対し，問題解決ができる	解答が的確で，過不足なく網羅して答えていた	一部に解答と関係ないことを答えているが，解答は答えていた	改善すべき点があるが，解答を一通り答えていた	的確ではないが，解答を部分的には答えていた	解答が論点にズレがあり，テーマに対して十分ではなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本国憲法（M） （科目ナンバリング：LAW021020　　）				
授業担当者 （所属・職名）	青山　浩之（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　青山　浩之　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ポケット六法　令和７年版』	荒木尚志・森田宏樹／編集代表	有斐閣	２０２５年	9784641009257	
2	『一歩先への憲法入門』	片桐直人・井上武史・大林啓吾	有斐閣	２０２１年	9784641131965	
3	『憲法（ファーストトラックシリーズ 1）』	伊藤真	弘文堂	２０１４年	9784335314513	
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明 ガイダンス 憲法とは何か	シラバスの確認（９０分）	復習（９０分）
2	シラバスの説明 ガイダンス 憲法とは何かー憲法の特徴と基本原理	シラバスの確認 憲法の特徴と基本原理の調べ学習（９０分）	復習（９０分）
3	憲法とは何かー憲法の基本原理と構造	憲法の基本原理と構造についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
4	基本的人権　総論・幸福追求権	総論・幸福追求権の調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
5	基本的人権　各論　ー法の下の平等・精神的自由権	法の下の平等・精神的自由権についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
6	基本的人権　各論　ー精神的自由権 確認テスト１（前年実績）	精神的自由についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分），確認テストの復習
7	基本的人権　各論　ー経済的自由権・社会権 確認テスト２（前年実績） 確認テスト１講義内で解説（フィードバック）	経済的自由権・社会権についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
8	基本的人権　各論　ー人身自由権・国務請求権・参政権 確認テスト２講義内で解説（フィードバック）	人身自由権・国務請求権・参政権についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
9	基本的人権のまとめ	基本的人権についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
10	統治機構　総論 確認テスト３（前年実績）	統治機構について考える（９０分）	配布資料の復習（９０分）
11	統治機構　各論　ー国会 確認テスト３講義内で解説（フィードバック）	国会についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
12	統治機構　各論　ー内閣 確認テスト４（前年実績）	内閣についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分），確認テストの復習
13	統治機構　各論　ー裁判所 確認テスト４講義内で解説（フィードバック）	裁判所についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
14	統治機構　各論　ー財政・地方自治・統治機構のまとめ 課題１（前年実績）	財政・地方自治についての調べ学習。統治機構のまとめ（９０分）	配布資料の復習（９０分），課題を作成
15	まとめ 授業改善アンケートの実施 定期試験の説明 課題１講義内で解説（フィードバック）	課題作成。第３回から第１４回まで復習（９０分）	試験範囲の確認により，第３回から第１４回まで復習（９０分）
16	定期試験（６０分） 定期試験の解説，採点方法の説明 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	試験範囲の確認，第３回から第１４回まで復習（９０分）	復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目（３年	対象学科・配当	社会福祉学科・３年、デザイン学科・３年、建築学科・３		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本国憲法（S・D・A） （科目ナンバリング：LAW021020　　）				
授業担当者 （所属・職名）	後藤　啓倫（社会福祉学科・専任講師）	研究室等所在	１号館４階		
単位数	2　（単位認定責任者：　後藤　啓倫　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

憲法の由来と立憲主義、権力分立などの基本原理を把握し、日本国憲法における人権保障の内容を、現在の社会問題を踏まえて、理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP２に対応する。
デザイン学科のDP２に対応する。
建築学科のDP２に対応する。

到達目標

①憲法の歴史的背景と基本原理について概念を用いて説明することができる。
②日本国憲法の人権保障について概念を用いて説明することができる。
③憲法の基本原理と日本国憲法の人権規定に基づいて現代の社会問題を考察できる。

授業全体の内容と概要

憲法の内容は、総論、人権論、統治機構論に分類される。本講義では人権論を中心に具体的な事例を取り上げながら解説し、市民・労働者・教育者として必要な人権の内容について学ぶ。
「SDG ５．ジェンダー平等を実現しよう」、「SDG １０．人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

授業は講義形式で行う。書き込み式のレジュメを配布して補足の説明を行う。
書き込む内容は板書またはパワーポイントで示す。
教科書を使用しないので講義をしっかり聴いてメモをとること。
毎回の感想・質問等を記入するリアクションペーパーを配布し、次回授業時にフィードバックを行う。
TeamsやFormsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業中の私語、スマホの使用は厳禁。受講マナーを守ること。
正当な理由のない２０分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻３回で欠席１回とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）の必修科目、教職課程（社会・公民）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
憲法の歴史的背景と基本原理について概念を用いて説明することができる。	憲法の歴史的背景と基本原理について概念を高いレベルで理解し、説明することができた。	憲法の歴史的背景と基本原理について概念を正確に理解し、説明することができた。	憲法の歴史的背景と基本原理について概念をある程度理解し、説明することができた。	憲法の歴史的背景と基本原理について概念を理解し、説明することができた。	憲法の歴史的背景と基本原理について概念を理解し、説明することができなかった。
日本国憲法の人権保障について概念を用いて説明することができる。	日本国憲法の人権保障について概念を高いレベルで理解し、説明することができた。	日本国憲法の人権保障について概念を正確に理解し、説明することができた。	日本国憲法の人権保障について概念をある程度理解し、説明することができた。	日本国憲法の人権保障について概念を理解し、説明することができた。	日本国憲法の人権保障について概念を理解し、説明することができなかった。
憲法の基本原理と日本国憲法の人権規定に基づいて現代の社会問題を考察できる。	憲法の基本原理と日本国憲法の人権保障に基づいて、現代の社会問題を高いレベルで考察できた。	憲法の基本原理と日本国憲法の人権保障に基づいて、現代の社会問題を十分に考察できた。	憲法の基本原理と日本国憲法の人権保障に基づいて現代の社会問題をある程度考察できた。	憲法の基本原理と日本国憲法の人権保障に基づいて現代の社会問題を考察できた。	憲法の基本原理と日本国憲法の人権保障に基づいて現代の社会問題を考察できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目（３年	対象学科・配当	社会福祉学科・３年、デザイン学科・３年、建築学科・３		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本国憲法（S・D・A） （科目ナンバリング：LAW021020　　）				
授業担当者 （所属・職名）	後藤　啓倫（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　後藤　啓倫　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						なし。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						適宜紹介する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスの確認（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
2	憲法と生活	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
3	憲法とは何か	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
4	人権の享有主体・公共の福祉・私人間効力	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
5	象徴天皇制	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
6	平和主義	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
7	平等権	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
8	幸福追求権・自己決定権	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
9	自由権	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
10	信教の自由・表現の自由	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
11	経済的自由権・身体的自由権	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
12	社会権・生存権	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
13	教育を受ける権利・労働基本権	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
14	三権分立（国会・内閣・裁判所）	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
15	授業のまとめ 授業改善アンケートの実施	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
16	定期試験（試験６０分の試験終了後、残りの解説３０分で解説をし、フィードバックする） 科目を修了して『身に付く力』についての検証	試験の準備（９０分）	試験のふり返り（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	身体表現 （科目ナンバリング：CHS122083　　）				
授業担当者 （所属・職名）	尾西則昭　（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　尾西　則昭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大学及び専門学校において身体表現の授業を担当した経験を活かし指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

自身のダンスの技術の分析をし、自身で課題の克服をする。
ダンスの振り付けを分析し、評価する。
ダンス特有の面白さを理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

ダンスの特性について理解することができる。
ダンスの基礎技術、指導法、発表技法について身に付ける。
主体かつ積極的に課題に取り組むことができる。
仲間と協力して課題に取り組むことができる。
リズムの特徴やイメージをとらえて、即興的かつ自由な身体表現ができる。

授業全体の内容と概要

表現運動・ダンス領域は、社会におけるダンスの広がりに対応し、創作ダンスの現代的なリズムのダンスフォークダンスから構成され幼稚園・保育園において発達段階に対応した内容で構成されている。
「SDGs3．すべての人に健康と福祉を」の関連科目。

授業の方法

授業は板書及び配布物資料で実施し、資料にて説明した後、グループワーク発表(全２回)実施

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

積極的に取り組むことを期待します。
学習にはグループワークもあるので、お互い声を掛け合い、協力して実施すること。
自分の健康は自分で管理すること。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１３回

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
表現活動の基礎技能	基本ステップを行うことができ、意欲的にダンステクニックを発揮でき、パートナーとできた。	基本ステップを行うことができ、意欲的にダンステクニックをおおむね発揮できた。	基本ステップを行うことができ、意欲的にダンステクニックを発揮できた。	基本ステップを行うことができ、意欲的にパートナーと多少できた。	基本ステップを行わない。意欲もなくパートナーとできなかった。
創作ダンスの技術の向上	各種ダンスの技術向上への姿勢は優れ、充分できた。	各種ダンスの技術向上への姿勢は７割ほどできた。	各種ダンスの技術向上への姿勢は5割ほどできた。	各種ダンスの技術向上への姿勢は3割ほどできた。	各種ダンスの技術向上への姿勢はできなかった。
作品創作の発表	創作ダンスの発表でしっかりと踊ることができた。	創作ダンスの発表で踊ることがおおむねできた。	創作ダンスの発表で踊ることができた。	創作ダンスの発表で多少踊ることができた。	創作ダンスの発表で踊ることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	身体表現 （科目ナンバリング：CHS122083　　）				
授業担当者 （所属・職名）	尾西則昭　（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	１　（単位認定責任者：　　尾西　則昭　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大学及び専門学校において身体表現の授業を担当した経験を活かし指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『身体表現を楽しむあそび作品集』	新リズム表現研究科会	かもがわ出版	2018年	978478030948-5	
2	『資料配布』					
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス 「シラバス説明」 本科目を修了として「身に付く力」について説明をする。 授業改善アンケート結果反映の説明をする。	事前にシラバスを読んで確認をする。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
2	身体表現基本説明①　（ダンスの導入）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
3	身体表現基本②　（ダンスの映像鑑賞）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
4	身体表現基本③　（リズム運動）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
5	身体表現基本④(リズム運動)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
6	創作ダンス①　（リズム運動）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
7	創作ダンス②(グループでの作品づくり)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
8	創作ダンス③(グループでの作品づくり)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
9	創作ダンス④(グループでの作品づくり)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
10	創作ダンス⑤　（グループでのの作品づくり）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
11	創作ダンス⑥(グループでのの作品づくり)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
12	創作ダンス⑦（グループでのの作品づくり）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
13	創作ダンス⑧(グループでのの作品づくり)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
14	創作ダンス⑨(グループでのの作品づくり)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
15	創作ダンスリハーサル	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
16	授業の総括とフィードバック、本科目を修了して「身に付く力」について検証 60分の試験終了後、残りの30分で解説をし、フィードバックする。 「授業改善アンケート実施」	ノートに記載された内容を再度確認し、理解する。（９０分）	解説の内容を確認する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現III （科目ナンバリング：AHD322041　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）　君　興治（建築学科・准教授）	研究室等所在	２号館３階　２号館４階		
単位数	1　（単位認定責任者：　安藤　淳一　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

履修学生は，前半に建築の正面（ファサード）に限定したデザイン能力を養う課題と各種建築図面を用いて彩色・配色する能力を養う課題に取り組む。後半は，この前半の内容を統合させた課題に取り組む。これにより履修学生は，建築のトータルデザイン能力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP3,DP4,DP5に対応する。

到達目標

建築用途・建築形態に対し，建築要素をどのように取り入れデザインしていくかを考慮し，どのように表現するかが求められる。各シリーズとも３課題ごとに講評会を実施するが，作品に対するさまざまな評価から自己の作品に対する客観視できる能力を養うことができる。

授業全体の内容と概要

各シリーズとも３課題ごとに講評会をおこなう。課題製作は，原則として授業時間内におこない即日提出とするが，やむを得ず授業時間内に完成させられなかった場合は，次週授業開始時までに完成させ提出する。

授業の方法

シリーズごとに課題の目的・到達目標等について説明の後、課題制作に取り組む。課題のシリーズ終了ごとに講評会開催し，各自作品のプレゼンテーションをおこない，その後指導教員が講評・評価をおこなう。基本的に授業は対面で実施するが，不測の事態が起きた際に，授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

実技科目であるため，全授業に出席し期限内に課題を製作し提出すること。また作品講評会に出席し自分の作品の解説（プレゼンテーション）することも評価する。原則授業にはすべて出席し，授業時間内に課題制作をおこなうこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席する(ただし最低出席回数１０回以上)こととし，積極的に課題に取り組むこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８５％	０％	０％	１５％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築用途・建築形態に対し，建築要素をどのように取り入れデザインしていくかを構想し表現する。	非常に優れた構想力と表現力を身につけることができた。	優れた構想力と表現力を身につけることができた。	優れた表現力を身につけることができた。	おおむね表現できる力を身につけることができた。	作品を作成しなかったやめ表現できる力を身につけることができなかった。
講評会をとおし，作品に対するさまざまな評価から自己，他者の作品に対する客観視できる能力を修得する。	自己の作品を積極的にプレゼンしそれに対する評価を客観的に捉えられ，他人の作品への評価ができた。	自己の作品をプレゼンしそれに対する評価を客観的に捉えることができた。	自己の作品をプレゼンしそれに対する評価を理解することができた。	自己の作品のプレゼンをすることができた。	講評会に出席しなかったため，プレゼンをすることができなかった。
建築の重要な要素である正面（ファサード）に対し，形態・材質感など建築要素を組み合わせ彩色・配色のデザインを彩色用の道具を使用し作成する。	配色・彩色できる非常に優れた力を身につけることができた。	配色・彩色できる優れた力を身につけることができた。	配色できる優れた力を身につけることができた。	おおむね配色表現できる力を身につけることができた。	作品を制作しなかったため表現できる力を身につけることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現III （科目ナンバリング：AHD322041　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）　君　興治（建築学科・准教授）	研究室等所在	２号館３階　２号館４階		
単位数	1　（単位認定責任者：　　安藤　淳一　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明，授業改善アンケート結果反映の説明，授業計画の説明，科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスの事前確認（45分）	授業内容の確認（45分）
2	ファサードデザイン１（商業建築）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
3	ファサードデザイン２（住宅）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
4	講評会（ファサードデザイン）	提出作品の確認（45分）	講評内容の振返り（45分）
5	色彩表現のための道具と材料の説明	配布資料の確認（45分）	追加作業（45分）
6	色彩１（街区・配置図）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
7	色彩２（立面図）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
8	講評会（色彩）	提出作品の確認（45分）	講評内容の振返り（45分）
9	彩色によるファサードデザインのねらい	配布資料の確認（45分）	授業の振返り（45分）
10	ファサードデザイン＋色彩１	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
11	ファサードデザイン＋色彩２	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
12	講評会（ファサードデザイン＋色彩）	提出作品の確認（45分）	講評内容の振返り（45分）
13	建築構造模型（立体トラス）の解説	配布資料の確認（45分）	授業の振返り（45分）
14	建築構造模型（立体トラス）の制作	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
15	講評会　建築構造模（立体トラス）の強度テスト	提出作品の確認（45分）	講評内容の振返り（45分）
16	総評（全作品の講評）　授業改善アンケートの実施，フィードバック，科目を修了して「身に付く力」についての検証	提出作品の最終確認（45分）	総評の振返り（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ文化論 （科目ナンバリング：SPS422068，SPS512012　　）				
授業担当者 （所属・職名）	細川　光法（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　細川　光法　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応				

概要

履修目標

オリンピック・パラリンピックなどを通して、スポーツの文化性・価値・未来への展望などへの関心を高め、スポーツを多面的な視点で捉える力を養うことにより、人間・スポーツ・社会の関連を理解し、スポーツ指導者として社会に貢献できる資質を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ３、ＤＰ４に対応する。

到達目標

スポーツを文化性・価値・未来への展望などの多面的な視点で理解することができる。

授業全体の内容と概要

毎回、直近のスポーツ文化関連ニュースの背景を探ることからはじめ、シラバスに基づいたテーマを学ぶ。
「SDG　5.　ジェンダー平等を実現しよう」の関連科目。
「SDG　17.　パートナーシップで目標を達成しよう」の関連科目。

授業の方法

基本は「スポーツは文化である」という認識で各テーマを解説する。
毎回、テーマに対応したプリントを配布し、板書など参考データを活用しながら講義形式で行う。
不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教室では他人の迷惑になる行為（私語など）をしない、携帯・スマホの使用も厳禁。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツ指導者（スポーツリーダー）資格課程、スポーツソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１６回の授業（定期試験を含む）のうち１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	０%	０%	20%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツの文化性	スポーツが芸術や遺跡などに劣らない文化性を持つ真の意味を充分に理解できた。	スポーツが芸術や遺跡などに劣らない文化性を持つ真の意味を概ね理解できた。	スポーツはなぜ文化といえるのかを一定程度理解し、資料収集もしていた。	スポーツの文化性をわずかに理解できた。	スポーツを文化ととらえる考えが見られない。
パラリンピックと障害者への視点	単にスポーツの世界だけでなく、ハンディを克服していく人々の勇気と行動力まで充分に理解できた。	スポーツの世界において、ハンディを克服していく人々の勇気と行動力を概ね理解できた。	スポーツの世界において、ハンディを克服していく人々の勇気と行動力を一定程度理解できた。	スポーツの世界において、ハンディを克服していく人々の勇気と行動力に共感していた。	スポーツ競技に参加する障害者に関心が見られない。
東京オリンピックの光と影	経済効果や遺産の陰にあるさまざまな課題まで総合的に理解できた。	経済効果や遺産の陰にさまざまな課題があることを概ね理解できた。	経済効果や遺産の陰にさまざまな課題があることを一定程度理解できた。	経済効果や遺産の陰にさまざまな課題があることをわずかに理解できた。	五輪の光と影について全く興味がない。
スポーツにおけるジェンダーの視点	ジェンダーから見るスポーツに関する課題について総合的に理解できた。	ジェンダーから見るスポーツに関する課題について概ね理解できた。	ジェンダーから見るスポーツに関する課題について一定程度理解できた。	ジェンダーから見るスポーツについてわずかに理解できた。	ジェンダーから見るスポーツについて全く興味がない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ文化論 （科目ナンバリング：SPS422068，SPS512012　　）				
授業担当者 （所属・職名）	細川　光法（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　細川　光法　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『スポーツ文化を学ぶ人のために』	井上俊・亀山佳明（編）	世界思想社	１９９９	4790707717	
2	『よくわかるスポーツ文化論（やわらかアカデミズム・<わかる>シリーズ』	井上俊・菊幸一編著	ミネルヴァ書房	２０１２	9784623061181	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） この授業全体のガイダンス	スポーツ関連ニュースを意識（９０分）	ガイダンスの復習（９０分）
2	スポーツ文化のとらえ方	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
3	メディア化するスポーツ	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
4	2020東京オリンピックの光と影	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
5	パラリンピックの歴史と意義	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
6	スポーツとジェンダー	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
7	スポーツとマイノリティ	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
8	スポーツと地域社会	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
9	スポーツと政治・権力①	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
10	スポーツと政治・権力②	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
11	職業としてのスポーツ	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
12	スポーツと教育	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
13	スポーツ指導者としての在り方	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
14	スポーツとファン	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
15	スポーツとジャーナリズム	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
16	総合評価　定期試験 授業改善アンケートの実施 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	これまで学んだことを確認（９０分）	解説を受けて試験のふりかえりを行うこと（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	美術科教育法Ⅰ （科目ナンバリング：ESS243093　　）				
授業担当者 （所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2　（単位認定責任者：　竹内　美帆　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	中学校教諭専修免許状（美術）と高等学校教諭専修免許（美術）を有し、公立小学校で教員経験がある教員が、その経験を元に美術科教育法について授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

美術科教育の目標、内容及び指導の方法について、学習指導要領を基に基礎的な理解を深め、美術科の学習指導に必要な基礎的な知識や技能を身につける。

授業の位置づけ

設定なし

到達目標

・学習指導要領を理解し、美術科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解できる。
・中等・高等教育段階における美術教育の意義を踏まえ、学習指導案を作成することができる。

授業全体の内容と概要

中学校を中心に美術科の学習指導要領を基に基礎的な内容を理解する。いくつかの教材研究を通して、中等・高等教育における美術科の意味を考え、表現に関する指導計画の作成および学習の方法などを学び、美術科の学習指導に必要な基礎的な知識や技能を身につけていく。
授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。

授業の方法

授業ではパワーポイントや配布資料のほか、DVDなどの視聴覚メディアなどを用い、講義形式だけでなく、グループワークやディスカッション、プレゼンテーション、指導案の作成などを行う。指導案の作成では他の学生の指導案についてお互いに検討し、ディスカッションを行う。最終講義までに再度修正した指導案を提出する。なお、提出された指導案にはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

指導案の作成・検討などを実施するため、やむを得ない場合を除き欠席はしないことが望ましい。授業内で行うグループワークやディスカッションには積極的に参加する態度が求められる。
『中学校美術の教科書1～3年』　（開隆堂出版、日本文教出版、光村図書出版など）について、授業で何冊か準備するが、どの学年でもよいので1冊各自購入し、持参すると学びにつながる。
授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	２０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
美術科の内容に対する理解度	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自の視点から考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自の視点から考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
学習指導案作成能力	学習指導要領や題材研究の成果と課題を踏まえて学習指導案を適切に作成することができた。	学習指導要領に沿って適切に学習指導案を作成することができた。	学習指導要領に沿ってある程度適切に学習指導案を作成することができた。	学習指導要領に沿って学習指導案を作成することができた。	学習指導案を作成することができなかった。
演習を通した考察	自ら進んで課題の範囲を越えて調べ、自主的な学修が認められた。	演習において他者との意見交換を通して考察を深めることができた。	演習を通して考察を深めることができた。	演習を通して考察することができた。	演習を通して考察することができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	美術科教育法Ⅰ （科目ナンバリング：ESS243093　　）				
授業担当者 （所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2	（単位認定責任者：　竹内　美帆　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	中学校教諭専修免許状（美術）と高等学校教諭専修免許（美術）を有し、公立小学校で教員経験がある教員が、その経験を元に美術科教育法について授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『美術教育概論 新訂版』	大橋 功他	日本文教出版	2018年	9784536601030	
2	『中学校学習指導要領解説 美術編　平成29年7月―平成29年告示』	文部科学省	日本文教出版大阪	2018年	9784536590136	
3	『高等学校学習指導要領解説　芸術（音楽・美術・工芸・書道）編・音楽編・美術編　平成30年7	文部科学省	教育図書	2019年	9784877304201	
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『美術科教育の基礎知識』	福田隆眞、茂木一司、福本謹一	建帛社	2012年	9784767921013	
2	『教育の情報化に関する手引』	文部科学省		2019		
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　授業についてのオリエンテーション　授業改善アンケート結果反映の説明　科目を修了して『身に付く力』についての説明 美術科教育の目的・意義（１）美術科教育の位置づけ	シラバスを読んでおく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
2	美術科教育の目的・意義（２）学習指導要領における目的	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントや教科書を読み、授業内容を復習する（９０分）
3	美術科教育の歴史：子どもの発達、造形教育と美術教育	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
4	美術科教育の教科特性：美術科教育における「表現」と「鑑賞」	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
5	美術科教育の教科特性：絵画・彫刻領域とデザイン・工芸領域	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
6	学習指導要領（中学）：美術科の各学年の内容	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
7	学習指導要領（高校）：目標と内容 指導計画・学習指導案の構成	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
8	「表現」の教材研究（１）	とりあげる教材について事前に特性などを調べておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
9	「表現」の教材研究（２）	とりあげる教材について事前に特性などを調べておく。（９０分）	事前配布プリントや教科書の該当ページを読み、授業内容を復習する（９０分）
10	「表現」の教材研究（３）	とりあげる教材について事前に特性などを調べておく。（９０分）	事前配布プリントや教科書の該当ページを読み、授業内容を復習する（９０分）
11	学習指導案の作成（１）：方法	とりあげる教材について事前に特性などを調べておく。（９０分）	事前配布プリントや教科書の該当ページを読み、授業内容を復習する（９０分）
12	学習指導案の作成（２）：検討の視点と方法	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	指導案を作成する（９０分）
13	学習指導案の作成（３）：制作した指導案の検討	指導案を作成する（９０分）	指導案を作成する（９０分）
14	学習指導要領：　指導上の留意点、評価について	指導案を作成する（９０分）	指導案を作成する（９０分）
15	指導案の作成の振り返り 指導案の提出	指導案を作成する（９０分）	自分の作成した指導案についての気づきをまとめる（９０分）
16	指導案の講評、フィードバック 授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	これまでの内容を振り返り、疑問点等を挙げておく。（９０分）	フィードバックを受けて授業の内容の理解を深める（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	道徳教育の指導法 （科目ナンバリング：ESS143157，ESS243103，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　雅一（経営学科・専任講師）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2　（単位認定責任者：　　佐藤　雅一　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

みずからの価値観や道徳観、教育観、道徳教育の方法論、思考力、創造力、リーダーシップ等を身につけることができる。
この授業ではパソコンを使います。コンセントの使用は難しい教室ですので必ず充電を満タンにして持参して下さい。

授業の位置づけ

－

到達目標

①具体例（ビデオ、資料等）やディスカッション等を通じて、みずからの価値観や人生観、そして道徳観を確立するとともに、道徳教育の理想像とその方法論を形成する。
②みずからの考えを明確に表現する能力やコミュニケーション能力を身につける。
③現代社会が抱える問題点やその価値観・道徳観をしっかりと把握する。
④過去の歴史を踏まえたうえで、これからの時代に必要な価値観や道徳教育の全体像を構築する。

授業全体の内容と概要

脳科学や精神医学、臨床心理学等の最新成果を踏まえ、みずからの価値観や人生観、そして道徳観を形成し、これからの時代に必要な道徳教育とその方法論を模索する。
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連授業

授業の方法

講義。対話や個人発表、ディベートなどによるアクティブラーニングを行う。適宜、平常点を付与する。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

講義中はスマホ等の電源を必ずOFFにし、机の上に置かないこと。置いている場合は、講義終了まで預かる。授業に関係のない私語禁止。座席を指定することもありうる。居眠り厳禁。レポートの採点基準は、「どれだけ講義の内容を理解し、自分のものにしているか」ということ。自分自身との対話を通し、自分のことばで語ることが重要。講義で扱っていない内容や自分の考えばかりを書いても合格点に達することはできない。コピペは１００％単位認定されない。最後に、全体的感想や自分の意見をつけ加えるとよりよい。
公欠や特別な事由で欠席した場合、課題を提出しなければ、授業回数に反映されないことに留意。学務課に成績票を提出した後は受領できない。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（中学）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１2回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	４２％	０％	０％	１０％	４８％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
レポート	講義やビデオの内容を十分理解し、みずからの教育観に十分役立てた。	講義やビデオの内容をかなり理解し、みずからの教育観にかなり役立てた。	講義やビデオの内容をそれなりに理解し、みずからの教育観にそれなりに役立てた。	講義やビデオの内容を理解しようと努め、みずからの教育観に役立てようと努めた。	講義やビデオの内容を理解しておらず、みずからの教育観に役立てていなかった。
発言	発言を１０回以上した。	発言を７回以上した。	発言を５回以上した。	発言を３回以上した。	発言が３回未満だった。
ディベート、構成的グループエンカウンターなど	ディベート、構成的グループエンカウンターなどにおいて、中心的役割を演じた。	ディベート、構成的グループエンカウンターなどにおいて、積極的に発表した。	ディベート、構成的グループエンカウンターなどにおいて、それなりに発表した。	ディベート、構成的グループエンカウンターなどにおいて、発表しようと努めた。	ディベート、構成的グループエンカウンターなどにおいて消極的で、ほとんど発表していなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	道徳教育の指導法 （科目ナンバリング：ESS143157，ESS243103，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　雅一（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　佐藤　雅一　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス、シラバスの解説（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）、身に付く力として学年、学級経営上のポイントを理解頂きます 授業改善アンケート結果の反映の説明 いま、なぜ、道徳教育なのか	シラバスをきちんと読む（９０分）	第１回講義の復習（９０分）
2	道徳教育は、何をめざすのか 先生の自己紹介	第１回講義の復習と第２回講義の予習（９０分）	第２回講義の復習（９０分）
3	Wordで自分の履歴書を作成１	第２回講義の復習と第３回講義の予習（９０分）	第３回講義の復習（９０分）
4	Wordで自分の履歴書を作成２	第３回講義の復習と第４回講義の予習（９０分）	第４回講義の復習（９０分）
5	PowerPointで自己紹介の作成１	第４回講義の復習と第５回講義の予習（９０分）	第５回講義の復習（９０分）
6	PowerPointで自己紹介の作成２	第５回講義の復習と第６回講義の予習（９０分）	第６回講義の復習（９０分）
7	PowerPointで自己紹介の作成３	第６回講義の復習と第７回講義の予習（９０分）	第７回講義の復習（９０分）
8	板書計画の作成１	第７回講義の復習と第８回講義の予習（９０分）	第８回講義の復習（９０分）
9	板書計画の作成２	第８回講義の復習と第９回講義の予習（９０分）	第９回講義の復習（９０分）
10	学習指導案の作成１	第９回講義の復習と第10回講義の予習（９０分）	第１０回講義の復習（９０分）
11	学習指導案の作成２	第１０回講義の復習と第１１回講義の予習（９０分）	第１１回講義の復習（９０分）
12	学習指導案の作成３	第１１回講義の復習と第１２回講義の予習（９０分）	第１２回講義の復習（９０分）
13	模擬授業１	第１２回講義の復習と第１３回講義の予習（９０分）	第１３回講義の復習（９０分）
14	模擬授業２	第１３回講義の復習と第１４回講義の予習（９０分）	第１４回講義の復習（９０分）
15	模擬授業３	第１４回講義の復習と第１５回講義の予習（９０分）	第１５回講義の復習（９０分）
16	最終テスト（持ち込み可） これまでのフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	最終テスト（９０分）	第１６回講義の復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義,演習,実習	必修・選択	選択
科目名称	日本事情 （科目ナンバリング：CUA021026　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　恵利（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	本部棟３階国際交流センター	
単位数	2　（単位認定責任者：　　佐藤　恵利　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、国際交流センターで対応				

概要

履修目標

留学生が日本文化・日本社会の諸々の面から理解を深め、大学生活、日本での生活を円滑に送ることができる能力を身につける。異文化理解や他者の意見を尊重することで、大学生活をより豊かにすること。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ2に対応する。

到達目標

日本文化・日本社会の諸々の側面について留学生の知識を深めることができる。日本について深めた知識を勉学や生活、専門分野の研究などに生かし、日本人との討議やコミュニケーションに積極的に参加することができる。

授業全体の内容と概要

毎時限トピックを提示し、視覚的な教材の使用、来日後の留学生の体験談などを積極的に取り入れ、留学生の日本事情理解を促進する授業展開を図る。日本文化や日本事情、多文化交流を通して「SDG３．すべての人に健康と福祉を」「SDG７．エネルギーをみんなに　そしてクリーンに」「SDG１０．人や国の不平等をなくそう」について考え、知識を深める。

授業の方法

毎時限提示されるトピックに対しディスカッションやグループワークを通して異文化理解を深める。また、トピックをテーマにプレゼンテーションやレポート作成を行い、自分の意見やグループの考えを表現する。日本文化と母国との比較のみならず、クラスメイトの出身地や他地域との比較を通じ、相互理解を深める。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

課題は授業内で決定し、指定期日に発表・提出する。また、それ以外でも自主的にレポートを作成し、提出した者は評価の対象とする。定期試験は行わない。学期末に課題を課すが、自分の言葉で書いていない（コピー＆ペースト）、自分の言葉で表現できていないものは不可とする。授業中は母語の使用は原則禁止とする。母語話者同士の会話も全て日本語で行うこと。平常点が評価に大きく影響する。授業中は真面目に取り組み「日本語で表現できない」と思わず、なんでもチャレンジすること。15分以上の遅刻は欠席とみなす。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回である。
出席、授業態度、レポート、プレゼンテーションで評価を行う。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	５０％	０％	４５％	５％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
日本語、日本文化、時事問題の知識・技能	知識や技能を習得した。授業外でも日本のニュースなどに関心を持つことができた。	日本の時事問題や文化、習慣に興味・関心を持ち、積極的に知識・技能を習得しようとしていたが、授業内の関心だけで終わってしまった。	日本の時事問題や文化、習慣に興味・関心を持っているが、知識・技能を習得しようという姿勢があまり見られなかった。	日本の時事問題や文化、習慣に興味・関心をあまり持たない。授業内の活動には参加するが、知識・技能を習得しようという姿勢があまり見られなかった。	日本の時事問題や文化、習慣に興味、関心を持たず、知識、技能を習得しようという姿勢が見られなかった。授業内の活動にもあまり参加できなかった。
思考力、判断力、日本語での表現力	自身で考え、自分の言葉で表現できた。表現の内容が分かりやすく、文法の間違えがほとんどない。声の大きさ、発音もよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できた。表現の内容が分かりやすいが、文法の間違えが目立った。声の大きさ、発音がよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できた。表現の内容が分かりやすいが、文法、発音に問題があり、聞き取りにくい個所があった。	自身で考えているが、他者の協力がないと自分の言葉で表現することができなかった。文法、発音に問題があった。	他者任せで、自身で考え、自分の言葉で表現しようという姿勢が見られなかった。文法、発音に問題があった。
主体的に日本語学習に取り組む態度	毎回の授業に参加し授業に意欲的で、活動にも積極的に参加していた。発言も多い。	毎回の授業に参加し、授業に対し意欲的で真面目に取り組んでいた。積極性は弱い。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいた。積極的に活動に参加していた。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいたが、授業内の活動に対し消極的だった。	最低出席日数分授業に参加せず、授業態度も問題あった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義,演習,実習	必修・選択	選択
科目名称	日本事情 （科目ナンバリング：CUA021026　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　恵利（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	本部棟３階国際交流センター	
単位数	2　（単位認定責任者：　　佐藤　恵利　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、国際交流センターで対応				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション(シラバス説明《科目を修了して「身につく力」についても説明》・授業説明) アンケート 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを熟読し、本講義について理解する。専用のノートを準備する。(９０分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(９０分)
2	日本について：地理、気候、地域による特色など	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(９０分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(９０分)
3	暮らし：日本での暮らしの中のマナー、都市と地方の暮らしの違いなど	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(９０分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(９０分)
4	旅行・観光：交通機関、観光地など	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(９０分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(９０分)
5	食文化：食生活の変化、マナーなど	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(９０分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(９０分)
6	四季：季節行事、祝祭日、気候など	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(９０分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(９０分)
7	歴史：知っておきたい日本の歴史と文化の観点から見た日本の歴史	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(９０分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(９０分)
8	伝統文化：茶道、華道、演芸など	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(９０分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(９０分)
9	現代文化とポップカルチャー：マンガ、アニメ、キャラクターなど	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(９０分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(９０分)
10	スポーツ：伝統的スポーツ、東京オリンピックなど	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(９０分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(９０分)
11	クリエイティブジャパン：日本の科学技術の進歩について	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(９０分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(９０分)
12	環境問題：日本の環境問題に対する取り組み、ゴミの分別やリサイクルについて	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(９０分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(９０分)
13	課題作成① 課題発表	課題への準備をする。課題作成に取り組む(９０分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(９０分)
14	課題作成②	課題への準備をする。課題作成に取り組む(９０分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(９０分)
15	課題作成③	課題発表の準備をする。課題作成に取り組む(９０分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(９０分)
16	課題発表 授業に係る講評・解説によるフィードバック 総括（「身につく力」の検証） 授業改善アンケートの実施	課題発表の準備をする。課題作成に取り組む(９０分)	講義全体を振り返り理解を深める(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択必修
科目名称	福祉環境計画論 （科目ナンバリング：APT313008　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐々木　哲之（建築学科・特任教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　佐々木　哲之　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築の計画や設計をおこなう上での基準は健常者の身体能力であった。しかし，わが国では人口の高齢化が急速に進展し，高齢者は増加の一途を辿っている。さらに人口の高齢化に伴って，障がい者人口もさらに増加すると見られている。そこで，高齢者・障がい者の身体特性を学び，バリアフリー，ユニバーサルデザインの知識の修得により建築計画ができる。

授業の位置づけ

建築学科のＤＰ１，ＤＰ３，ＤＰ４に対応する。

到達目標

高齢者・障がい者が多く罹る疾病やこれに伴う心身の特性を理解し，生活上の不便，不都合を知ることで生活空間の計画・設計上の配慮点を理解できる。また，バリアフリー，ユニバーサルデザインの知識を理解し，それに基づいて建築計画することができる。

授業全体の内容と概要

福祉環境整備に関する法制度の流れを理解し，高齢者・障がい者の身体特性を知る。福祉用具を利用するための住空間の規模計画，生活空間の部位の寸法など要点を把握する。

授業の方法

テキストに加えてプロジェクターによる画像，図表で解説するので，ノートに講義内容と資料を整理すること。また，課題は各単元ごとに出題し，それはレポート形式とする。課題は３課題を準備している。そのうちの最終課題は，住宅のバリアフリー化をテーマに計画・プレゼンし，それを講評する。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施し，欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

講義における板書内容と配布資料を要領よく整理することが重要である。３０分以上の遅刻は欠席とする。また，遅刻３回で欠席１回とみなすので注意すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目，教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	１０%	２０%	０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
福祉環境に関わる基礎的知識について	知識を十分に習得しており，それを応用でき，説明・解説ができた。	知識を十分に習得しており，それを応用できた。	知識を十分に習得していた。	基礎的な知識を理解できていた。	基礎的な知識が不足していた。
福祉用具と住空間に関わる知識や計画について	知識を十分に習得して計画ができた。さらにそれを応用でき，説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計画ができ，さらにそれを応用できた。	知識を習得して計画ができ，さらにそれを十分ではないが応用できた。	知識を習得して計画ができた。	知識が不足し計画ができなかった。
建築空間におけるバリアフリー・ユニバーサルデザインに関わる知識や計画について	知識を十分に習得して計画ができた。さらにそれを応用でき，説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計画ができ，さらにそれを応用できた。	知識を習得して計画ができ，さらにそれを十分ではないが応用できた。	知識を習得して計画ができた。	知識が不足し計画ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択必修
科目名称	福祉環境計画論 （科目ナンバリング：APT313008　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐々木　哲之（建築学科・特任教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　佐々木　哲之　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『住環境のバリアフリー・ユニバーサルデザインブック』	野村，橋本	彰国社	2023	978-4-395-32048-6	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して「身につく力」の説明　　福祉環境計画の概要	シラバスにより次回の部分を予習すること（９０分）	授業内容を復習すること（９０分）
2	ハートビル法，障害者基本法，生活福祉空間づくり，その他関係法令	次回の授業範囲を予習すること（９０分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（９０分）
3	高齢者・障害者の身体特性	次回の授業範囲を予習すること（９０分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（９０分）
4	計画と設計に求められるコンセプト	次回の授業範囲を予習すること（９０分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（９０分）
5	高齢者・障害者の福祉用具１	次回の授業範囲を予習すること（９０分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（９０分）
6	高齢者・障害者の福祉用具２	次回の授業範囲を予習すること（９０分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（９０分）
7	住環境整備の計画１ アプローチ，駐車場，建物出入り口	次回の授業範囲を予習すること（９０分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（９０分）
8	住環境整備の計画２ 室内出入り口，廊下，階段	次回の授業範囲を予習すること（９０分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（９０分）
9	住環境整備の計画３ エレベータ，便所	次回の授業範囲を予習すること（９０分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（９０分）
10	住環境整備の計画４ 床の配慮，段差の解消	次回の授業範囲を予習すること（９０分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（９０分）
11	住環境整備の計画５ スペースの配慮，建具，収納	次回の授業範囲を予習すること（９０分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（９０分）
12	生活空間改善の手法 計画の基本と応用	次回の授業範囲を予習すること（９０分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（９０分）
13	生活空間改善の手法 計画例－１	次回の授業範囲を予習すること（９０分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（９０分）
14	生活空間改善の手法 計画例－２	次回の授業範囲を予習すること（９０分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（９０分）
15	生活空間改善の手法 計画例－３ 授業改善アンケートの実施	次回の授業範囲を予習すること（９０分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（９０分）
16	定期試験（６０分）及び解説（３０分）をし，フィードバックする 科目を修了して「身につく力」についての検証	これまでの授業範囲を見直し予習すること（９０分）	試験内容を振り返り，特に専門用語を復習すること（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年　社会福祉学科・1年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	経営学科・選
科目名称	ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの理論と方法Ⅰ （科目ナンバリング：SWS122019，SWS422078，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　櫻井　美帆子　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、相談援助に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照。				

概要

履修目標

相談援助における専門的援助構造及び機能、多様な実践の共通課題や諸理論を学ぶ事を通じ、福祉実践に
おけるソーシャルワークを理解し、専門的援助者としての視点の涵養をはかる。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ３、ＤＰ4、ＤＰ５に対応する科目。
社会福祉学科のＤＰ１、ＤＰ３、ＤＰ４に対応する科目。

到達目標

①相談援助に対応するための基礎的能力（定義、意義、目的など）を身につける。
②相談援助の支援過程を理解し、援助者としての基礎を理解できる。

授業全体の内容と概要

①相談援助の援助関係の相互作用システムについて学ぶ。
②相談援助の展開過程について学ぶ。
「SDG３．すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

①教科書に沿って講義形式で展開する。講義の際に随時質問をするので答えること。
②基本は対面授業だが、不測の事態における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

３０分以上の遅刻は欠席とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツソーシャルワーカー資格課程科目
，社会福祉主事任用資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

１０回以上の出席が無ければ成績評価の対象としない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	０%	０%	２０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ソーシャルワークに関連する理論を理解する。	ソーシャルワークの独自性を加えながら説明できる。	概要について要点を押さえ、述べることができる。	助言により理解できる。	助言があれば一部理解できる。	助言があってもできない。
ソーシャルワークのモデルと主なアプローチの理解ができる。	ソーシャルワークの歴史を踏まえながら各々を比較し、説明することができる。	各々を比較しながら説明できる。	各々の概要を区別できる。	助言により理解できる。	助言があっても理解できない。
ソーシャルワークの援助のプロセスを理解できる。	理念に基づいた援助の展開について事例等を用い説明ができる。	援助の流れと、ソーシャルワーカーの担う役割について説明ができる。	助言によって理解できる。	助言によって一部理解できる。	助言があっても理解できない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年　社会福祉学科・1年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	経営学科・選
科目名称	ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの理論と方法Ⅰ （科目ナンバリング：SWS122019，SWS422078，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　櫻井　美帆子　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、相談援助に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ　』	杉本敏夫	ミネルバ	2023	9784623095209	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して身につく力について説明 ソーシャルワークに理論が必要な理由	教科書の目次と次回の授業内容に該当する部分を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
2	人と環境の交互作用に関する理論①	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
3	人と環境の交互作用に関する理論②	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
4	ソーシャルワークのプロセス：ケース発見、インテーク	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
5	ソーシャルワークのプロセス：アセスメント①	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
6	ソーシャルワークのプロセス：アセスメント②	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
7	ソーシャルワークのプロセス：プランニング	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
8	ソーシャルワークのプロセス：インターベンション、モニタリング	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
9	ソーシャルワークのプロセス：効果測定、評価、アフターケア	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
10	小試験	試験該当部分の復習をする。（９０分）	試験の自己採点をする。（９０分）
11	小試験を返却し、解説をしフィードバックする(30分) ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ①	小試験の自己採点をもとに質問事項をまとめる。次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	小試験の不正解部分を復習する。ノートを整理する。（９０分）
12	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ②	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
13	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ③	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（90分）	ノートを整理する。（９０分）
14	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ④	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
15	まとめ	全体を通し、理解が不十分な所を整理する。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
16	試験 ６０分の試験終了後、３０分解説を行いフィードバックする。 科目を修了して『身に付く力』についての検証をする。 授業改善アンケートの実施	全体の復習をする。（９０分）	試験の不正解部分を復習する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻Ⅰ （科目ナンバリング：AEA222068　　）				
授業担当者 （所属・職名）	梅田　力（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	アトリエ棟２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　梅田　力　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。また、プレゼンテーションボード作成を通じて、作品をどう見せるかも指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

彫刻の特性を活かして、構造的にも安定した美しい作品を制作する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

彫刻の特性を理解して作品を制作することが出来る。

授業全体の内容と概要

彫刻Ⅰでは、具象表現（塑像）制作を通じて、彫刻の基礎的な表現力を身につける。また最終回では講評会を行い、プレゼンテーション能力を養う。

授業の方法

スライドを使って課題の説明を行なった後、各自でモチーフ「動物」を選んで作品制作を行っていく。必要な資料は各自で用意する。作品完成後、講評会でプレゼンテーションを行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

立体構成１及び２を履修している事が望ましい。未履修者は、事前に講義担当者に相談する事。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術・工芸）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は２０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
彫刻の基本的な特性の理解（知識・理解）	作品が自立し、構造的にも安定していた。また、彫刻の特性を理解し、上手く活用しており、美しかった。	作品が自立し、構造的にも安定していた。また、彫刻の特性を理解し、活用していた。	作品が自立し、構造的にも安定していた。また、彫刻の特性を活用しようと試みていた。	作品が自立し、構造的にも安定していた。	作品が自立せず、彫刻として成立していなかった。
編集と発表の能力（思考力・表現力・判断力等）	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、美しくデザインされたボードを作成した。	制作した作品・スケッチ。文章等を秩序立てて編集し、ボードを作成した。	制作した作品・スケッチ・文章等を全て収めたボードを作成した。	制作した作品を収めたボードを作成した。	制作した作品を収めずボードを作成しなかった。
主体的に学習に取り組む態度（主体性・多様性・協働性）	課題を予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。また課題を超えて制作を行なった。	課題の予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。	課題の予習または復習をした。自ら計画を立て、制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受け、計画的に制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受けて計画的に制作を行う事が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻Ⅰ （科目ナンバリング：AEA222068　　）				
授業担当者 （所属・職名）	梅田　力（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	アトリエ棟２階	
単位数	2	（単位認定責任者：　　梅田　力　　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。また、プレゼンテーションボード作成を通じて、作品をどう見せるかも指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明　科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスをよく読んでおくこと（45分）	オリエンテーション振り返り（45分）
2	彫刻とは何か	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
3	動物彫刻 ドローイング	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
4	動物彫刻 ドローイング	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
5	動物彫刻 ドローイング	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
6	動物彫刻 ドローイング	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
7	動物彫刻 芯作り	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
8	動物彫刻 芯作り	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
9	動物彫刻（塑像） 芯作り	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
10	動物彫刻（塑像） 芯作り	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
11	動物彫刻（塑像） 芯作り　修正	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
12	動物彫刻（塑像） 芯作り　修正	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
13	動物彫刻（塑像）	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
14	動物彫刻（塑像）	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
15	動物彫刻（塑像）	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
16	動物彫刻（塑像）	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	動物彫刻（塑像）	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
18	動物彫刻（塑像）	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
19	動物彫刻（塑像）	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
20	動物彫刻（塑像）	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
21	動物彫刻（塑像）	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
22	動物彫刻（塑像）	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
23	動物彫刻（塑像）	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
24	動物彫刻（塑像）	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
25	動物彫刻（塑像） 細部を制作	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
26	動物彫刻（塑像） 細部を制作	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
27	動物彫刻（塑像） 仕上げ	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
28	動物彫刻（塑像） 仕上げ	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）））
29	プレゼンテーション	プレゼンテーション準備（45分）	プレゼンテーション振り返り（45分）
30	プレゼンテーション	プレゼンテーション準備（45分）	プレゼンテーション振り返り（45分）
31	講評 授業全体への講評とプレゼンテーションへのフィードバック	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと（45分）	講評を再考し、理解を深めること（45分）
32	講評 授業改善アンケートの実施 科目を修了して身につく力の検証	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと（45分）	講評を再考し、理解を深めること（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年　社会福祉学科・1年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	経営学科・選
科目名称	ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの理論と方法Ⅱ （科目ナンバリング：SWS122020，SWS422079，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	１号館４階		
単位数	2　（単位認定責任者：　　櫻井　美帆子　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、相談援助に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照。				

概要

履修目標

相談援助における専門的援助構造及び機能、多様な実践の共通課題や諸理論を学ぶ事を通じ、福祉実践に
おけるソーシャルワークを理解し、専門的援助者としての視点の涵養をはかる。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ３，ＤＰ４，ＤＰ５に対応する科目。
社会福祉学科のＤＰ１、ＤＰ３、ＤＰ４に対応する科目。

到達目標

①相談援助に対応するための基礎的能力（定義、意義、目的など）を身につける。
②相談援助の支援過程を理解し、援助者としての基礎を理解できる。

授業全体の内容と概要

①相談援助の援助関係の相互作用システムについて学ぶ。
②相談援助の展開過程について学ぶ。
「SDG３．すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

①教科書に沿って講義形式で展開する。講義の際に随時質問をするので答えること。
②基本は対面授業だが、不測の事態における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

３０分以上の遅刻は欠席とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツソーシャルワーカー資格課程科目
，社会福祉主事任用資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

１０回以上の出席が無ければ成績評価の対象としない。
提出期限を過ぎたレポートは受け取らない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	０%	０%	２０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
面接と記録の意義目的について理解ができる。	事例をあげながらながら説明できる。	概要について要点を押さえ、述べることができる。	助言により理解できる。	助言があれば一部理解できる。	助言があってもできない。
ケアマネジメントの理解ができる。	事例を用いて説明することができる。	概要について要点を押さえ、述べることができる。	各々の概要を区別できる。	助言により理解できる。	助言があっても理解できない。
グループワーク、コミュニティワークの意義目的について理解できる。	事例をあげながら説明ができる。	意義目的と、展開の流れ、ソーシャルワーカーの担う役割について説明ができる。	助言によって理解できる。	助言によって一部理解できる。	助言があっても理解できない。
ソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルアクション、スーパービジョンについて理解できる。	事例を用いながら説明ができる。	展開の流れと、ソーシャルワーカーの担う役割について説明ができる。	助言によって理解できる。	助言によって一部理解できる。	助言があっても理解できない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年　社会福祉学科・1年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	経営学科・選
科目名称	ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの理論と方法Ⅱ （科目ナンバリング：SWS122020，SWS422079，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　櫻井　美帆子　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、相談援助に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ　』	杉本敏夫	ミネルバ	2023	9784623095209	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 科目を修了して身に付く力についての説明 授業改善アンケート結果反映の説明	教科書の目次と次回の授業内容に該当する部分を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
2	ソーシャルワークの面接①	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
3	ソーシャルワークの面接②	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
4	ソーシャルワークの記録	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
5	ケアマネジメント①	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（90分）	ノートを整理する。（９０分）
6	ケアマネジメント②	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（90分）	ノートを整理する。（９０分）
7	中間まとめ	1回から６回の授業内容について質問点をまとめる。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
8	小試験	試験に該当する部分の復習をする。（９０分）	試験の自己採点をする。（９０分）
9	グループを活用した支援	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
10	グループを活用した支援	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
11	コミュニティワーク	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
12	ソーシャルアドミニストレーション	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
13	ソーシャルアクション	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
14	スーパービジョンとコンサルテーション	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（90分）	ノートを整理する。（９０分）
15	まとめ	1回から１４回の授業内容について質問点をまとめる。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
16	定期試験（60分の試験の後、解説を行う）。 科目を修了して身に付く力についての検証を行う。 受講改善アンケートの実施。 授業について、フィードバックを行う	全体の復習をする。（９０分）	試験で間違えた部分の復習をする。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築法規Ⅱ （科目ナンバリング：APT312019　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　佐藤　善太郎　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

日常生活をとりまく建築関係法令は建築基準法をはじめとして関連する法律が非常に多く，生活環境・社会構造の変化とともに，より複雑化してきている。ここでは建築関係法令のうち建築基準法・建築基準法施行令他，関係法令からまちづくりや住まいづくり，建築のデザインに関わる法令法規ついて学習し，住宅やまち・都市を取り巻く今日的課題と法整備の状況を理解する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

建築基準法に定める集団規定の持つ意義や規定を理解し，都市デザインに密接な係わりを持つ道路と敷地・用途地域・各種高さ制限などに関する条文を理解できる。

授業全体の内容と概要

建築基準法を理解する上で重要な条文について図解を交えてわかりやすく解説する。更に主要な制度規定について，条文の成立から実例まで併せて解説すると共に条文の理解を深めるための演習を行う。
「SDG11．住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

授業は条文の重要項目のチェックと線引きをおこない，板書と配布資料により進めていく。随所に出現する法令独特の語彙の解釈や考え方にも触れて，きめ細やかに進めていく。また，理解度を測るため，単元ごとに課題提示・小テストも行い，解説することでフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

法令集と赤ペン・青ペンを必ず持参のこと。また，本講義にあたっては電卓や携帯電話，スマートフォンなどの計算機能を使った計算を禁止する。必ず筆算のこと。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目，教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数１１回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
８０%	０%	０%	０%	０%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
都市計画区域等における建築物の敷地、用途、建築物等の理解	基準法に規定された建築物の一般構造に関する規定を正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の一般構造に関する規定を８割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の一般構造に関する規定を６割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の一般構造に関する規定を理解することができた。	基準法に規定された建築物の一般構造に関する規定を理解することができなかった。
都市計画区域等における建築物の接する道路等の理解	基準法に規定された建築物の接する道路等に関する規定を正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の接する道路等に関する規定を８割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の接する道路等に関する規定を６割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の接する道路等に関する規定を理解することができた。	基準法に規定された建築物の接する道路等に関する規定を理解することができなかった。
その他の建築関連法規の理解	その他の建築関連法規に関する規定を正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を８割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を６割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築法規Ⅱ （科目ナンバリング：APT312019　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　佐藤　善太郎　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『建築基準法関係法令集 2024年』』	日建学院編	建築資料研究社	2024		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明 建築基準法と都市計画法	建築法規Ⅰの振返り(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
2	都市と道路	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
3	用途地域-実例で見る建築用途制限の詳細	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
4	許可申請の手続き	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
5	容積率１-敷地の容積率の限度	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
6	容積率２-建築物の容積率の緩和・特定道路・地区計画	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
7	容積率３-天空率の計算と実例	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
8	都市計画図と建ぺい率	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
9	斜線制限（道路斜線制限・隣地斜線制限）	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
10	斜線制限（北側斜線制限）	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
11	斜線制限（その他の高さ制限）	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
12	斜線制限と緩和規定	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
13	日影規制	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
14	日影図（含　ＣＡＤによるシミュレーション）	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
15	建築基準法と倫理２ 授業改善アンケートの実施	事前提示の条文熟読(90分)	本講義の振返り(90分)
16	理解度診断試験・試験解説をし、回答をフィードバックする 科目を修了して「身に付く力」についての検証	事前提示の条文熟読(90分)	試験の振返り(90分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ﾃﾞｻﾞｲﾝ概論 （科目ナンバリング：DES322053　　）				
授業担当者 （所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　北嶋　洋一　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイナーの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインのための基本知識を指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

古代から現代にいたるまでのデザイン史を軸として、特に第一次産業革命以降の急速な社会変化に伴うデザインの変遷に重点を置いて学ぶ。著名な人物や運動などに焦点を当てながら、デザインを学ぶ者にとっての基礎知識を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

授業で取り上げるデザインに関する事項に関して理解し、意見や感想を持つことができる。
授業で取り上げるデザインに関する事項について、さらに深く掘り下げて調査・取材を行う姿勢を持つことができる。

授業全体の内容と概要

デザインの成り立ちに重要な影響を与えた事項は近現代史に集中しているので、第一次産業革命以降の約200年間に起こった様々な出来事を把握していくことにより、現代に通じるデザインの役割や多様性、さらには表現技法なども知識として得ることができる。よって、本講義では近現代のデザイン史を時系列に沿って学びながら論じていくこととする。

授業の方法

本講義では、毎回の内容に沿ったPowerPointによるスライドショーを作成し、それを提示しながらの講義が主体となる。
必要に応じて資料などの配布を行うが、基本的にPDFによる資料であるのでスマートフォンやタブレット、又はノートPCの持ち込みは必須である。
毎回の授業終了後にPowerPointによるスライドショーは、PDFに書き出してTeamsで学生が共有できる資料として整える。
節目に小テスト又はレポート提出を行い、授業内容の理解度について採点し評価するが、時には取材やプレゼンテーションを伴う内容も設定される。
小テスト又はレポートの作成についてもスマートフォンやタブレット、又はノートPCによる作成となる。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎回の授業時にスマートフォン・タブレット・ノートPCなど、いずれかの通信及び記録用の端末を持参し使用環境を整えておくこと。
不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

教職課程科目(美術)の必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	８０%	０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業で取り上げたデザインに関する基本的な知識について理解できている。	十分に理解できていた。	概ね理解できていた。	不十分ではあるが理解できていた。	最低限の理解しかできていなかった。	全く理解できていなかった。
授業で取り上げたデザインに関する様々な事柄に対し、さらに掘り下げて自身の感想や意見を持つことができている。	十分に深め、出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが、できていた。	最低限は出来ていた。	全くできていなかった。
授業で学んだデザインに関する様々な事柄について整理統合し、独自のプレゼンテーションを行うことができるだけの知見を深めた。	十分に知見を深めていた。	概ね知見を深めていた。	不十分ではあるが、知見を深めていた。	最低限にとどまっていた。	全く深めていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ﾃﾞｻﾞｲﾝ概論 （科目ナンバリング：DES322053　　）				
授業担当者 （所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　北嶋　洋一　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイナーの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインのための基本知識を指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ガイダンス～デザインの知識を深める必要性 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおくこと（９０分）	受講環境の整備（９０分）
2	雑学のススメ 「デザインにおける世界最古とは？」 「好きなデザイン・好きなデザイナー」 小レポート	シラバスの確認（９０分）	小レポートの作成・提出（９０分）
3	現代に直結するデザイン史① 「第一次産業革命とウィリアム・モリス」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
4	現代に直結するデザイン史② 「アールヌーヴォーの大流行」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
5	現代に直結するデザイン史③ 「バウハウスによる総合芸術運動」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
6	現代に直結するデザイン史④ 「アール・デコ～デザインの大衆化」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
7	現代に直結するデザイン史④ 「アール・デコ～デザインの大衆化」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
8	現代に直結するデザイン史⑤ 「ロシア・アヴァンギャルド」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
9	現代に直結するデザイン史⑥ 「政治的・思想的プロパガンダとデザイン」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
10	現代に直結するデザイン史⑦ 「第二次大戦以降の世界の潮流」 「1964東京オリンピックと日本のデザイン」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
11	現代に直結するデザイン史⑧ 「デジタルデザインの急速な台頭」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
12	現代に直結するデザイン史⑨ 「生成AIによるデザインの進化」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
13	現代に直結するデザイン史⑩ 「娯楽のためのデザイン」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
14	現代に直結するデザイン史⑪ ヒットするデザインを生み出すには？ 「デザインと社会・デザインと産業界・デザインとブランド」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
15	現代に直結するデザイン史⑦～⑨のまとめ 小テスト又はレポート	シラバスの確認（９０分）	自己採点（９０分）
16	デザイン概論Ⅰのまとめ 授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	情報と資料の整理（９０分）	授業内容のまとめ（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｺｰﾎﾟﾚｰﾄﾌｧｲﾅﾝｽ論 （科目ナンバリング：MOF422022，MOF523024　　）				
授業担当者 （所属・職名）	岩立　顕一郎（経営学科・専任講師）	研究室等所在	１号館3階		
単位数	2　（単位認定責任者：　岩立　顕一郎　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	北海道の地域金融機関に勤務し、地域の生協法人やNPO法人やに対して金融支援を行った経験や一般財団法人へ出向し、経理財務全般を担当した経験に基づき、コーポレートファイナンスに関する理論と実務を総合的に取り上げる。		
オフィスアワー	初回講義で説明。または研究室前の掲示等を参照。				

概要

履修目標

経営環境が大きく変化する中、資金調達を行い、その資金を効率的に投資・運用することは、企業にとって重要な経営課題である。
本講義では、企業価値に関わる財務的意思決定の論点を取り上げ、経営者として必要な意思決定能力を身につけることを目標とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP１、DP3、DP４に対応する。

到達目標

・コーポレートファイナンスに関する用語を正確に理解できるようになる。
・資本コストの考え方について理解し、計算できるようになる。
・サステナブルファイナンスなど、資金調達にまつわる新たな論点について理解する。

授業全体の内容と概要

本講義では、コーポレートファイナンスに関するテーマを取り上げる。
授業では、テキストと配布資料の解説を行った後、練習問題を解く実習の時間を設ける。
また、必要に応じて、日経新聞の記事を題材とした時事問題についても解説を行う。
本授業科目は、「SDG12 つくる責任　つかう責任」と「SDGs１３ 気候変動に具体的な対策を」の関連授業であり、SDGｓと関わりのあるサステナブルファイナンスやサステナビリティ報告についても取り上げる。

授業の方法

本講義は、テキストの解説のみならず、受講者自らが実践的に分析を行う機会を設ける。
日経新聞の記事や資金調達と運用にまつわる中小企業の実務も紹介し、実社会との関わりを意識して講義を進める。
授業では、小テストを毎回実施する。その解答状況や質問欄に記載された内容は、次回以降の授業に反映していく。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席確認は、授業で毎回実施する小テストの提出をもって行う。
計算が必要となる場面が多く予定されているので、電卓の持参を推奨する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（商業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。
「評価方法」にある平常点（30%）は、小テストで評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	３０%	0%	0%	３０%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コーポレートファイナンスに関する用語を正確に理解できる。	コーポレートファイナンスに関する用語とそれに関する理論について詳細に説明できる。	コーポレートファイナンスに関する用語とそれに関する理論について十分に理解している。	コーポレートファイナンスに関する用語の意味を理解するとともに、それに関する理論についてもある程度理解している。	コーポレートファイナンスに関する用語の意味を最低限理解している。	コーポレートファイナンスに関する用語を理解できなかった。
資本コストの考え方について理解し、計算できる。	資本コストの重要性を理解した上で、ＷＡＣＣ（資本コスト）を正確かつ素早く計算できる。	資本コストの重要性を理解した上で、ＷＡＣＣ（資本コスト）を正確に計算できる。	資本コストの重要性を理解した上で、時間をかけつつも、計算できる。	資本コストの意味について最低限理解している。	資本コストの意味について理解できなかった。
資金調達の重要性について理解できる。	資金調達に関する理論と実務について総合的に説明できる。	サステナブルファイナンスなどの新しい論点を含め、自分なりの問題意識を持って、資金調達に関して考察している。	資金調達の重要性を理解した上で、サステナブルファイナンスなどの新しい論点について関心を抱き始めた。	資金調達の重要性について最低限理解している。	資金調達の重要性について理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｺｰﾎﾟﾚｰﾄﾌｧｲﾅﾝｽ論 （科目ナンバリング：MOF422022，MOF523024　　）				
授業担当者 （所属・職名）	岩立　顕一郎（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館3階	
単位数	2	（単位認定責任者：　　岩立　顕一郎　　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	北海道の地域金融機関に勤務し、地域の生協法人やNPO法人やに対して金融支援を行った経験や一般財団法人へ出向し、経理財務全般を担当した経験に基づき、コーポレートファイナンスに関する理論と実務を総合的に取り上げる。		
オフィスアワー	初回講義で説明。または研究室前の掲示等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『［新解釈］コーポレートファイナンス理論』	宮川壽夫	ダイヤモンド社	2022年		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『あわせて学ぶ会計＆ファイナンス入門講座：プロになるための理論と実践』	田中慎一／保田隆明	ダイヤモンド社	2013年	9784478022108	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（講義の進め方、シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）、コーポレートファイナンスを学ぶ意義）	シラバスとテキストの序文を読んでおく（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
2	企業の目的とコーポレートガバナンス	事前配布資料を予習する（９０分）	配布資料の内容を復習する（９０分）
3	投資のリスクとリターン	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
4	資本コスト	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
5	CAPM	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
6	正味現在価値	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
7	WACC	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
8	効率的市場仮説	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
9	キャッシュフロー	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
10	M&A	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
11	財務分析	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
12	資金調達と資本構成	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
13	ペイアウト政策	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
14	株主主義とステークホルダー主義	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
15	資金調達の新たな潮流～サステナブルファイナンス～ 授業改善アンケートの実施	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
16	定期試験とフィードバック（６０分の試験終了後、残りの３０分で解説） 科目を修了して「身に付く力」の検証	これまでの内容を復習する（９０分）	定期試験の解説内容を復習する（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	教職課程必修
科目名称	工芸科教育法Ⅰ （科目ナンバリング：ESS243095　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三上　いずみ（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　三上　いずみ　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教諭専修免許状（美術）を有し、公立高等学校で教員経験がある教員が、その経験をもとに工芸科教育法について授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

工芸科教育の意味と目的を理解し、教員に必要な資質を身につける。

授業の位置づけ

学位授与に関連しないため、DPとの関連付けは無い。

到達目標

工芸科教育の意味と目的を考え、教員として最低限の知識と技能を身につける。

授業全体の内容と概要

工芸教育の基礎知識と技術、学習指導要領の内容、授業計画、教材研究、指導方法、評価方法を学び、模擬授業の準備を行う。
授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。
「ＳＤＧｓ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

学習内容はパワーポイントやプリント資料を使用して説明する。板書やICTツールを駆使して授業を進行する。
主体的で対話的な学びを目指し、グループワーク、ディスカッションを行う。
また、教材研究として実技を行い、理論と実践の結び付きへと導く。
課題に対してはコメントや添削を通じてフィードバックを行い、理解の深化を図る。
対話を重視し、学生からの要望や質問に対しては、オフィスアワーやTeamsを通じたコミュニケーションでも対応する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教育について興味・関心を持ち、教員としての心構えを身につけ、行動すること。
欠席した場合には、提供された資料を確認し、その内容を理解した上でレポートを作成し、次回授業までに提出すること。
課題は期日までに提出すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術・工芸）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	４０％	４０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	工芸科教育の意味と目的を理解し、問題点や目指すことを述べることができた。	工芸科教育の意味と目的を理解し、問題点を考えることができた。	工芸科教育の意味と目的を理解できた。	工芸科教育の意味と目的を考えることができた。	学習指導要領の要点をまとめることができなかった。
思考力・判断力・表現力	課題を多面的に捉え、自分の意見を論理的に述べ、問題に対応することができた。	課題を多面的に捉え、自分の意見を論理的に述べることができた。	課題を捉え、自分の意見を述べることができた。	自分の意見を述べることができた。	意見を述べることができない。
関心・意欲・態度	責任や自覚を持ち、積極的に知識を身につけ、役立てて、考察することができた。	責任や自覚を持ち、積極的に知識を身につけ、役立てることができた。	責任や自覚を持ち、知識を身につけ、役立てることができた。	責任や自覚を持ち、知識を身につけることができた。	責任や自覚を持ち、知識を身につけることができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	教職課程必修
科目名称	工芸科教育法Ⅰ （科目ナンバリング：ESS243095　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三上　いずみ（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　三上　いずみ　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教諭専修免許状（美術）を有し、公立高等学校で教員経験がある教員が、その経験をもとに工芸科教育法について授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『中学校学習指導要領解説　美術編』	文部科学省	日本文教出版大阪	2018	9784536590136	
2	『高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽・美術・工芸・書道)編・音楽編・美術編』	文部科学省	教育図書	2019	9784877304201	
3	『工芸の教育』	大坪圭輔	武蔵野美術大学出版局	2017	9784864630580	
4	『教育の情報化に関する手引』	文部科学省		2019		
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明・授業で「身に付く力」について 工芸とは何か　学校教育の中での「用と美」	シラバスをよく読んでおくこと（90分）	授業内容を復習する（９０分）
2	工芸教育の歴史と背景	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
3	中学校学習指導要領解説美術編　「美術科の目標と内容」におけるデザイン、工芸の学習について	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
4	中学校学習指導要領解説美術編　「各学年の目標及び内容」おけるデザイン、工芸の学習について	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
5	中学校学習指導要領解説美術編　「指導計画の作成と内容の取り扱い」及び映像メディアの活用について	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
6	高等学校学習指導要領解説芸術編「工芸」の性格、目標、内容、内容の取り扱いについて	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
7	学習指導計画	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
8	教材研究①	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
9	教材研究②	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
10	教材研究③	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
11	教材研究④	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
12	学習指導案の作成１	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
13	学習指導案の作成２	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
14	模擬授業	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
15	指導案作成の振り返り	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
16	課題・レポートの解説・「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	講義全体をふりかえりまとめを行うこと（90分）	フィードバックの内容を受けて、講義全体のふりかえりを行うこと（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの理論と方法(専門)Ⅰ （科目ナンバリング：SWS123021　　）				
授業担当者 （所属・職名）	大島康雄（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2　（単位認定責任者：　大島　康雄　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

実践的な、包括的、総合的なソーシャルワークの知識と技術を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ1、DP3、DP4に対応する科目。

到達目標

実践的な、包括的、総合的なソーシャルワークの知識と技術の基本について理解する。

授業全体の内容と概要

ソーシャルワーカーとして、複雑化、多様化する問題に対応するための理論と方法、および、連携や協働をする人や機関との間で構築する関係について学ぶ。

「SDGs3．すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

教科書に沿って、講義形式で展開していく。授業内で小試験（中間試験）を行い、その中から６０点分定期試験に出題する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

15分以上の遅刻は欠席とする。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程科目、保育士課程科目（選択）である。

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	０%	０%	３０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
総合的、包括的なソーシャルワークの意義について理解できる	事例を用いながら説明できた。	基本的な考えかたを説明できた。	基本的な考えかたを理解できた。	助言があれば理解できた。	助言があっても理解できなかった。
ソーシャルワーカーとクライエントの援助関係について理解できる。	援助対象の特性に留意した知識と技術を説明できた。	原則的な考え方と技術について説明できた。	原則的な考え方と技術について理解できた。	助言があれば理解できた。	助言があっても理解できなかった。
ソーシャルワークにおけるネットワークについて理解できる。	ミクロ、メゾ、マクロ各々の特性に留意しながら事例を用いて説明できた。	基本的な意義、方法を説明できた。	基本的な意義、方法を理解できた。	助言があれば理解できた。	助言があっても理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの理論と方法(専門)Ⅰ （科目ナンバリング：SWS123021　　）				
授業担当者 （所属・職名）	大島康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　大島　康雄　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ソーシャルワークの理論と方法　社会専門』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	２０２１	978-4-80588249-8	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 今日的なソーシャルワークの対象 当該科目を修了して「身に付く力」についても説明	新聞やインターネットでソーシャルワークの対象と考えられる記事をスクラップする。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
2	複雑化、多様化した生活問題への対応	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
3	家族支援におけるソーシャルワーク	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
4	地域支援におけるソーシャルワーク	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
5	非常時、災害時のソーシャルワーク	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
6	地域包括ケアシステムとソーシャルワーク	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
7	中間試験	１回から６回の内容を復習する。（９０分）	授業（９０分）
8	中間試験解説 ソーシャルワークにおける援助関係形成の意義	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
9	援助関係形成方法と留意点	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
10	ネットワーキングの意義	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
11	ネットワーキングの方法と留意点	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
12	コーディネーションの意義	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
13	コーディネーションの方法と留意点	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
14	まとめ 授業内フィードバック	１回から１４回の復習し、理解が不十分な点をあげる。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
15	定期試験	１回から１４回の復習をする。（９０分）	試験の自己採点をする。（９０分）
16	定期試験解説 授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	全体を振り返り、質問事項を整理する。（９０分）	試験の不正解部分を復習する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	特別支援教育総論 （科目ナンバリング：SNE122103　　）				
授業担当者 （所属・職名）	堀川厚志（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　堀川厚志　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政経験のある教員が、特別支援教育に関する今日的課題等について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

障がいのある児童生徒の教育の変遷、特殊教育から特別支援教育への制度上の転換とその背景、特別支援教育の理念や意義、現状、今後の在り方について総合的に理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する科目

到達目標

障がいのある児童生徒の教育の変遷、特殊教育から特別支援教育への制度上の転換とその背景、特別支援教育の理念や意義を理解し、推進状況の概要について説明することができる。
特別支援教育の推進状況及び今後の在り方について、検討協議を通して自らの考えを整理することができる。

授業全体の内容と概要

主な内容については、特殊教育から特別支援教育への制度上の転換及びその背景、特別支援教育の理念や意義、障害のある児童生徒の教育の概要と歴史的変遷や教育制度、教育課程、個別の教育支援計画と個別の指導計画、学習指導要領の概要、小・中学校等を含めた特別支援教育コーディネーターの役割等について、現状の特別支援教育を踏まえて説明する。
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連授業。

授業の方法

授業は、プレゼンテーションツールによるスライド資料の提示と資料提示による講義形式を主とする。
一授業の前半には、前時に提示した資料内容の振り返りと確認を実施する。
資料中には課題を用意し、少人数によるグループワークやペアワークを実施する。
内容によっては、Webサイト検索を通して内容を探究する。
一授業の終了前には、Microsoft Forms等のオンライン調査ツールを活用し、内容確認や重要ポイントの小テストを実施し、理解定着を図る。
学生の不明点等については、チャットなどを活用し迅速に解決できるようにする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業内容に関して提示資料の説明や、レポート課題の出題、毎時間の重要部分に関する小テストを実施するので、欠席をしないようにすること。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
事前相談を受け、学生の希望する修学サポート内容と授業及び評価の成立要件等を調整し、就学サポートを実施する。

資格指定科目

教職課程（特別支援）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上とする。
中間の時期に提示するレポート課題及び作成要領に則った提出は、単位取得に必須条件とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	３０%	0%	0%	１０%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
特別支援教育の基本的な内容や現状等に関する総合的な理解	特別支援教育の基本的な内容や現状等について、十分に理解し、学修した知識をさらに深化させたり、発展的な学修ができた。	特別支援教育の基本的な内容や現状等について、十分に理解できた。	特別支援教育の基本的な内容や現状等について、一定程度、理解できた。	特別支援教育の基本的な内容や現状等について、部分的に理解できた。	特別支援教育の基本的な内容や現状等について、理解できなかった。
特別支援教育の基本的な内容、現状と課題等に関する思考力、判断力、表現力の向上	特別支援教育の基本的な内容、現状と課題等について、的確かつ発展的に整理し、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	特別支援教育の基本的な内容、現状と課題等について整理し、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	特別支援教育の基本的な内容、現状と課題等について整理し、思考力、判断力、表現力を高めることができた。	特別支援教育の基本的な内容、現状と課題等について整理し、部分的に思考力、判断力、表現力を高めることができた。	特別支援教育の基本的な内容、現状と課題等について整理し、思考力、判断力、表現力を高めることができなかった。
授業への参加意欲や学修に向かう姿勢・態度	授業には意欲的に参加し、自ら発言するなど、常に積極的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、積極的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、部分的に積極的に取り組むことができた。	授業に参加し、ときどき積極的に取り組むことができた。	授業に参加し、積極的に取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	特別支援教育総論 （科目ナンバリング：SNE122103　　）				
授業担当者 （所属・職名）	堀川厚志（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2	（単位認定責任者：　　堀川厚志　　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政経験のある教員が、特別支援教育に関する今日的課題等について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本2020』	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ※シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、「身に付く力（特別支援教育の理念・推進状況・今後の在り方等の総合的理解が可能）」の説明等をする	シラバスを読む （９０分）	内容を振り返る （９０分）
2	特別支援教育への転換とその背景の理解 ※本時の内容について小テストを実施する	特別支援教育への転換を調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
3	特別支援教育の制度・推進の理解 ※前時の小テストを添削して返却し、結果についてコメントしてフィードバックする	特別支援教育の制度を調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
4	障害のある子供への教育の歴史的変遷の理解 ※前時の小テストを添削して返却し、結果についてコメントしてフィードバックする	障害児教育の歴史を調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
5	特別支援教育の対象と就学（教育支援）についての理解 ※前時の小テストを添削して返却し、結果についてコメントしてフィードバックする	対象児童生徒と就学を調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
6	個別の教育支援計画についての理解 ※前時の小テストを添削して返却し、結果についてコメントしてフィードバックする ※前半の重要部分について、レポート課題を出題する	個別の教育支援計画を調べる (90分)	重要事項を整理する （９０分）
7	学習指導要領と教育課程の理解 ※前時の小テストを添削して返却し、結果についてコメントしてフィードバックする	学習指導要領と教育課程を調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
8	個別の指導計画の作成と活用についての理解 ※前時の小テストを添削して返却し、結果についてコメントしてフィードバックする	個別の指導計画を調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
9	各障害の状態等と特別支援学校の教育についての理解 ※前時の小テストを添削して返却し、結果についてコメントしてフィードバックする	障害の状態と特別支援学校を調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
10	教育課程の編成と指導の実際についての理解 ※添削したレポートを返却しフィードバックする ※前時の小テストを添削して返却し、結果についてコメントしてフィードバックする	教育課程の編成を調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
11	自立活動の指導の理解 ※前時の小テストを添削して返却し、結果についてコメントしてフィードバックする	自立活動の指導を調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
12	特別支援教育コーディネーターの理解 ※前時の小テストを添削して返却し、結果についてコメントしてフィードバックする	特別支援教育ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰを調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
13	小・中学校等の特別支援教育についての理解 ※前時の小テストを添削して返却し、結果についてコメントしてフィードバックする	小・中学校の指導を調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
14	実態把握とアセスメントの重要性の理解 ※前時の小テストを添削して返却し、結果についてコメントしてフィードバックする	指導とアセスメントを調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
15	心理検査の活用についての理解 ※授業改善アンケートを実施する ※前時の小テストを添削して返却し、結果についてコメントしてフィードバックする	心理検査を調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
16	定期試験 ※５０分間の筆記テスト、終了後１５分間の解答の解説を実施する ※「身に付く力」について学生自身の習得状況の調査を実施し、自身の学びを振り返る取組を実施する	全内容を整理する （９０分）	全内容を振り返る （９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ﾋﾞｼﾞｭｱﾙﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ （科目ナンバリング：DES222018　　）				
授業担当者 （所属・職名）	田中　靖之（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　　田中　靖之　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの現場において実務経験者である教員が、その経験を基に実践的な授業を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

１.グラフィックレイアウトの基本ルールを理解する。
２.アートディレクションの位置づけを理解する。
３.グラフィックデザイン実務の概念を理解する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

レイアウトパターンを分類し、試行を重ねてグラフィックデザインとして実施制作ができる。

授業全体の内容と概要

デザイン業界の仕組みを、概説を含め、広告・出版に関するコミュニケーションを意識した基本レイアウト（サムネール主体）とプレゼンテーションシステムを理解する。「SDG12．つくる責任つかう責任」の関連授業。

授業の方法

板書とオリジナルプリント配布を併用し実技形式で行う。また、プレゼンテーションに耐えうる内容かを吟味し、デザイン要素のフィードバックを繰り返したのち、演習課題を完成させ提出する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

サムネールやスケッチの実技が重要なため、ノート・筆記具を常備すること。
不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談で相談のもと、事前に参考資料を提供することがある。

資格指定科目

教職課程（美術・工芸）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は２０回以上。
完成度の高い作品を合格とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	６０%	０%	１０%	３０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
グラフィックレイアウトの基本ルール	レイアウトパターンの分類ができ、その２つ以上で、基本ルールにのっとったオリジナリティを発揮できた。	レイアウトパターンの分類ができ、その２つ以上でデザインができた。	レイアウトパターンの分類ができ、その１つでデザインができた。	レイアウトパターンの分類ができた。	レイアウトパターンの分類ができなかった。
アートディレクションの位置づけ	アートディレクションの意味を理解でき、ビジュアルとコピーを駆使して応用・展開できるデザインができた。	アートディレクションの意味を理解でき、ビジュアル要素を１つ以上とコピーライトを含めたデザインができた。	アートディレクションの意味を理解でき、ビジュアル要素を１つ以上含んだデザインができた。	アートディレクションの意味が理解できた。	アートディレクションの意味が理解できなかった。
グラフィックデザイン実務の概念	グラフィックデザインの実務を理解し、複数の実例を参考にしたオリジナルかつトレンドを吟味したデザインパターン演習ができた。	グラフィックデザインの実務を理解し、複数の実例を参考にしたオリジナルなデザインパターン演習ができた。	グラフィックデザインの実務を理解し、その実例を２つ以上（異種）提示することができた。	グラフィックデザインの実務を理解し、その実例を１つ提示することができた。	グラフィックデザインの実務の現状が理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ﾋﾞｼﾞｭｱﾙﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ （科目ナンバリング：DES222018　　）				
授業担当者 （所属・職名）	田中　靖之（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　田中　靖之　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの現場において実務経験者である教員が、その経験を基に実践的な授業を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスについての説明 アートデザインについて 科目を修了して「身に付く力」についての説明	「ビジュアルデザイン」語句の認識（45分）	「アート・デザイン」の位置づけ確認(45分)
2	”ことばと物”コミュニケーションのためのゲーム演習	「ことばと物」語句の認識(45分)	「ことば」の自己復習（45分）
3	ビジュアルデザインの歴史（ＤＴＰまで）	「ＤＴＰ」語句の認識（45分）	「DTP」の歴史的理解(45分)
4	ＪＩＳ用紙、テキストポイントについて	A4・A3用紙サイズの認識(45分)	「用紙サイズの使用実例について」（45分）
5	レタリングとフォントの現状について	「フォントバリエーション」の認識（45分）	「明朝体・ゴシック体」及び「セリフ・サンセリフ」の理解(45分)
6	レタリング演習と基本形態	基本となる書体の認識(45分)	レタリング演習　下書き（45分）
7	レイアウトの基本パターンについて	「レイアウト例の資料収集」（45分）	レイアウトパターンのサムネール作成(45分)
8	フォーマット用紙のレンダリング演習	演習用具の確認と役割チェック(45分)	レンダリング演習　仕上げ（45分）
9	素材（イラスト、写真）とテキストの役割	「レイアウトのサムネール体験」（45分）	「レイアウトサムネール」の修正及び変更(45分)
10	基本レイアウト演習（サムネール）	素材(イラスト・収集)とテキストのボリューム確認(45分)	「レイアウトのサムネール演習」（45分）
11	広告デザインと編集デザイン	「広告・編集」語句の認識（45分）	「広告・編集デザイン」の実例を収集(45分)
12	メディアに対応した企画デザイン	「マスメディア・ソーシャルメディア」の位置づけと認識(45分)	アイデアフラッシュ（メディアに対応）（４５分）
13	ＲＧＢ＆ＣＭＹＫ及び印刷技術	「RGB＆CMYK」語句の認識（４５分）	「CMYK・オフセット印刷機」の資料収集(45分)
14	広告デザイン演習① ”意見広告”	「意見広告」語句の認識(45分)	サムネール演習（45分）
15	ＳＮＳと企業戦略	「GAFA」戦略の認識（45分）	「メタバース」に対する最新情報収集(45分)
16	広告デザイン演習② ”企業広告”	「企業広告」語句の認識(45分)	サムネール演習（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	広告・出版・印刷業界の現状	業界大手企業群の情報収集(45分)	大手企業群の活動資料収集(45分)
18	編集デザイン演習① ”フライヤー編”	「フライヤーの資料収集」(45分)	サムネール演習（45分）
19	コミュニケーションツールとしての役割と現状	「ツールの種類」の資料収集（45分）	ツール毎の比較・検討(45分)
20	編集デザイン演習② ”雑誌編”	「雑誌類資料収集」(45分)	サムネール演習（45分）
21	最終課題のためのオリエンテーション	アイデアフラッシュ準備（45分）	具体的アイデアを記述(45分)
22	アイデアフラッシュと方向性の決定	アイデアの精査と方向性をイメージング(45分)	「方向性の決定」（45分）
23	課題演習①-１ ・サムネール制作	素材・コピー類のボリュームチェック（45分）	素材・コピーのおおまかなレイアウト作業(45分)
24	課題演習①-２ ・レイアウトの決定	複数のラフサムネールを準備(45分)	サムネール制作～完成（45分）
25	課題演習②-１ ・レンダリング制作	レイアウト及びレンダリング準備（45分）	レイアウト及びレンダリングの微調整(45分)
26	課題演習②-１ ・レイアウト修正	レイアウトアイテム(素材・コピー)の最終チェック(45分)	レンダリング完成（45分）
27	課題演習③-１ ・カラーリング制作	カラーリング準備（45分）	カラーリング用具(PC及び色エンピツ）での練習(45分)
28	課題演習③-２ ・カラーリング修正	PCはモニターでのチェック、アナログでは着色でのチェック(45分)	カラーリング完成（４５分）
29	課題演習④ ・仕上げ	仕上げに向けて準備（４５分）	仕上げ作業(45分以上)
30	課題提出	仕上げの最終チェック(45分以上)	講義全体の振り返りを行う（45分）
31	課題に対する解説・フィードバック①	講義全体を通して質問事項をまとめておく（45分）	質問に対する解説等の理解(45分)
32	課題に対する解説・フィードバック② 授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」についての検証	総体的な質問項目のまとめ(45分)	解説・フィードバックを受けて講義全体の理解を深める（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ （科目ナンバリング：SWS123222，HLS322050　　）				
授業担当者 （所属・職名）	赤木　良子（建築学科・准教授）	研究室等所在	２号館６階		
単位数	2　（単位認定責任者：　赤木　良子　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計事務所及びインテリアデザイン事務所での実務経験 一級建築士、インテリアコーディネーター資格保有		
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。				

概要

履修目標

インテリアデザインに必要なアイデアの創出、デザイン、提案力の基礎的な方法について課題を通して学ぶ

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

課題を通して、求められるアイデアを創出するためのヒントとなる下調べや調査方法を習得する
抽象的なコンセプトから創出したアイデアを形にし、表現する基礎力を習得する
提案内容を明確にし、クライアントに伝わる提案書の作成方法を学ぶ

授業全体の内容と概要

下記の２種類の課題を設定する。
抽象的な課題：クライアントのコンセプトの理解とアイデア創出および表現（デザイン）
実務的な課題：クライアントに対して具体的な提案と明確な提案書の作成
上記の２種類の課題のつながりを意識しながら、アイデア創出とクライアント提示といういわば入口と出口を学習する。

授業の方法

講義や説明は、都度パワーポイントや配布資料を用いて説明する。
学生同士で相談などしても良い。状況を見てグループでの活動の可能性もあり得る。
課題に対するフィードバックは適宜行う。
なお、全体の課題の進行程度によって、課題数の増減等、内容の調整・変更を行うことがある。
学生の不明点・質問は、チャット形式の支援システムで回答する。
不測時における授業や補講等はオンライン・オンデマンドにて授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

通常の文具に加えて基本的な製図用の道具、スケッチブック
正当な理由なき１０分以上の遅刻に関して、遅刻２回を１回欠席とみなす。
課題の進行と日程に関しては、ガイダンスで示し、その後もクラス内の進捗を見て、予定を変更することがある。
パソコンやモバイルは調べ物などに使うため、何らかの端末を準備すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

１１回以上の出席と全課題作の完成・提出を必須とする。
（先述のように正当な理由なき１０分以上の遅刻に関して、遅刻２回を１回欠席とみなす。）

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
クライアントのコンセプトの理解のために十分な下調べができる	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
コンセプトに対して、ユニークなアイデアと的確で美しいデザインの表現ができる	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
クライアントに対し的確で明確な提案ができる	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ （科目ナンバリング：SWS123222，HLS322050　　）				
授業担当者 （所属・職名）	赤木　良子（建築学科・准教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　赤木　良子　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計事務所及びインテリアデザイン事務所での実務経験 一級建築士、インテリアコーディネーター資格保有		
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『スタイルで選ぶマンション・インテリアの教科書』	町田ひろ子	ナツメ社	2018	4816365125	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス／シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明、 科目を修了して「身に付く力」についての説明 課題（1）の提示と説明　エスキス	シラバスを読んでおくこと（９０分）	課題の制作（９０分）
2	課題（1）対象設定、コンセプト理解（ワークシート）	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
3	課題（1）アイデアスケッチ、エスキス	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
4	課題（1）アイデアスケッチ、エスキス	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
5	課題（1）コンセプトボード制作	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
6	課題（1）コンセプトボード制作	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
7	課題（1）提出・講評によるフィードバック	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
8	課題（1）講評	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
9	課題（2）の提示と説明　エスキス	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
10	課題（2）提案書の作成方法１（講義）	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
11	課題（2）提案書の作成方法２（講義）	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
12	課題（2）エスキス・現地調査	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
13	課題（2）エスキス・現地調査	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
14	課題（2）提案書作成	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
15	課題（2）提案書仕上げ	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
16	課題（2）発表・講評によるフィードバック、 授業改善アンケートの実施、 科目を修了して「身に付く力」についての検証	課題の制作（９０分）	総復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	実験	必修・選択	選択必修
科目名称	建築材料実験 （科目ナンバリング：BSM322028　　）				
授業担当者 （所属・職名）	長森　正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟１階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　長森　正　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	１級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実務経験をもとに実験をします。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

基本的な建築材料であるコンクリートと鋼材について、物理的性質や力学的性質を求める試験法を修得し、体験的な理解を深める。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

JIS規格試験から材料実験の意義・実験法を理解し、実験データのまとめ方、実験報告書の作成ができる。

授業全体の内容と概要

鉄筋コンクリート構造の構成材料であるコンクリートと鉄筋に関してのJIS規格試験を実施する。
コンクリートと鉄筋の試験体制作や強度試験から基本的な性状を理解する。

授業の方法

授業は配布資料にて説明をした後、グループワークにて実験を行い実験報告書の提出を行う。
実験報告書にはフィードバックとして実験結果の解説を行う。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

実験作業に適した汚れても良い服装とし、安全第１をこころがけて実施する。
電卓、筆記用具を必ず持参すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（工業）必修科目、建築士試験受験資格課程。

評価方法・基準

評価前提条件

グループワークの実験は、全回出席を基本とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	0%	50%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
材料実験の理解	自ら進んで実験に関する内容を調べることができた。	実験内容を十分に理解し、他の人に説明できた。	理解のあいまいな点があるが、予習ができた。	実験内容の予習ができた。	頻繁に実験内容の予習ができなかった。
材料実験の正確性	他人をリードする行動で実験を進めることができた。	自発的に実験を進めることができた。	テキストを見れば、内容を理解して実験を進めることができた。	テキストの従って正しく実験を進めることができた。	テキストに従った実験が進められなかった。
材料実験報告書	実験から得た自らの考えを報告書に記述することができた。	実験から得た自らの考えを正確に伝えることができた。	実験で得たデータを正しく整理し、まとめることができた。	実験で得たデータを正しく整理できた。	実験で得たデータを正しく整理できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	実験	必修・選択	選択必修
科目名称	建築材料実験 （科目ナンバリング：BSM322028　　）				
授業担当者 （所属・職名）	長森　正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟１階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　長森　正　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	１級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実務経験をもとに実験をします。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『建築材料実験教材』	日本建築学会	丸善株式会社			
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明 実験実習ガイダンス	シラバス資料を確認して，実験内容を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
2	実験データのまとめ方	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
3	コンクリートの調合設計	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
4	骨材含水率調整	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
5	コンクリート調合（試験練り・本練り）	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
6	JIS A １１０１スランプ試験	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
7	JIS A １１２８空気量試験	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
8	JIS A １１０８圧縮強度試験	次次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
9	JIS A １１１３割裂引張試験	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
10	コンクリート実験レポート	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実実験内容を理解し復習する（４５分）
11	鉄筋加工	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
12	鉄筋試験片歪ゲージ貼付け	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
13	JIS Z２２０１鉄筋引張試験	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
14	静弾性係数試験	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
15	鋼材系実験レポート	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
16	授業改善アンケートの実施 まとめ 最終回において解説しフィードバックします。科目を修了して「身に付く力」についての検証	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容全体について資料を整理して，レポート作成に備える（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾋﾞｼﾞﾈｽ英語 （科目ナンバリング：CME423020，CME523022　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石田　暁子（非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　石田　暁子　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

ビジネスの様々な場面で、それぞれ適切なコミュニケーションがとれるよう、練習を通して身につける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

ビジネスでよく使われる語彙や表現を理解する。

授業全体の内容と概要

読むことでビジネスで使われる英語に触れる。語彙や表現に触れた後、リスニングと記述式の練習問題を解きながら復習と応用を行う。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義形式で、最重要事項を板書して注意を促し、じっくりと確実に反復学習を進める。発音練習にも力を入れる。各自の理解度を知るため、授業では毎回できるだけ多くの学生を指名し、解答を聞く。各レッスンの前半部分に導入される英文は予習で翻訳してくる必要がある。授業で訳の正確さを確認し、最後にまとめたものを課題として提出する。教員が最終チェックをして返却する。これも評価の対象となる。また、各レッスンの後半に練習問題があるので、可能な範囲で予習し、疑問点を授業で解決し、応用できるようにする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教科書を必ず用意すること。授業内容は、英語の基礎力があることを前提としている。「基礎英語Ⅰ」・「基礎英語Ⅱ」の履修・修得を履修の前提とする。「英語入門Ⅰ」・「英語入門Ⅱ」を履修・修得していることが望ましい。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	０%	３０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ビジネス英語の習熟度	授業の範囲を超え、関連事項への興味があった。また、自分から発信する意欲が見られる。	授業内容をほぼ理解している。	ビジネス用語と表現に慣れることができた。	ビジネス用語の理解は認められるが、文のレベルではやや不安が残る。	基本的な事項が身についていない。
発音練習・練習問題への参加	積極的に参加し、授業の進行に貢献していた。	説明をよく聞き、発音練習や練習問題にも真剣に取り組んだ。ミスを指摘された際、自分で訂正することができ、向上が認められた。	発音練習や練習問題に真剣に取り組んだ。	自分の力で問題を解くことをあきらめてしまっていたが、解答を聞いた後に理解しようとする努力がみられた。	授業中の活動に集中できなかった。
課題（英文和訳）の取り組み	予め語や語句の意味を調べ、ビジネスにふさわしい英文の訳ができた。また、疑問点を自覚した上で授業に臨み、解決することができた。	予習にきめ細かさはないが、ほぼ満足な訳ができた。	毎回予習をせず、復習によって　挽回を図ることもあった。	復習だけのことが多く、課題は提出したが、期限を守ることができなかった。	課題を提出しなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾋﾞｼﾞﾈｽ英語 （科目ナンバリング：CME423020，CME523022　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石田　暁子（非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　石田　暁子　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『English for Business Communication』	新田　亜紀子	南雲堂	２０１７	9784523178705	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『英和辞典』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） Stating a Purpose of a Contact	テキストp.6～7 予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
2	Meeting for the First Time	テキストp.8～9 予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
3	Presenting a Business Card	テキストp.10～11 予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
4	Transferring a Call	テキストp.12～13 予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
5	Phone Troubles	テキストp.14～15 予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
6	At the Airport Abroad	テキストp.16～17予習（９０分）	授業内容復習 (９０分)
7	Making Polite Requests	テキストp.18～19 予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
8	Taking and Leaving Telephone Messages	テキストp.20～21　予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
9	Making Inquiries	テキストp.22～23 予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
10	Making Appointments 1	テキストp.24～25 予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
11	Stating Requests Clearly	テキストp.26～27 予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
12	Making Apologies	テキストp.28～29 予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
13	Making Appointments 2	テキストp.30～31 予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
14	Notification of Absence	テキストp.32～33 予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
15	総復習・要点整理	期末試験準備 (９０分)	期末試験準備 (９０分)
16	授業改善アンケートの実施 期末試験(６０分) 講評・解説し、フィードバックする。(３０分) 科目を修了して「身に付く力」の検証	期末試験準備 (９０分)	期末試験内容復習 (９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの理論と方法(専門)Ⅱ （科目ナンバリング：SWS123022　　）				
授業担当者 （所属・職名）	大島康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　大島　康雄　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、福祉に関する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

包括的、総合的なソーシャルワーク実践を効果的かつ効率的に行うために必要な知識と技術を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ1、DP3、DP4に対応する科目。

到達目標

実践的なソーシャルワーク実践に必要な知識と技術を具体的に理解できる。

授業全体の内容と概要

ソーシャルワーカーとして、複雑化、多様化する問題に対応するための理論と方法、および関連する技法について学ぶ。

「SDGs3．すべての人に健康と福祉を」の関連授業。

授業の方法

教科書に沿って、講義形式で展開していく。授業内で小試験（中間試験）を行い、その中から６０点分定期試験に出題する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

15分以上の欠席は遅刻とする。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程科目、保育士課程科目（選択）である。

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	０%	０%	３０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
社会資源の活用、調整、開発について実践方法を理解できる。	実践モデルを提示しながら説明できた。	基本的な考え方と実践に必要な技術を説明できた。	基本的な考え方と実践に必要な技術を理解できた。	助言があれば理解できた。	助言があっても理解できなかった。
事例研究を行い、会議形式でプレゼンテーションできる。	ソーシャルワークの視点に則った発言と議論ができた。	第三者にも理解できる内容の発言と議論ができた。	第三者にも理解できる内容の発言ができた。	助言があればできた。	助言があってもできなかった。
ソーシャルワークの関連技法について理解できる。	各技法について、ソーシャルワーク実践に活用する場合の特徴を加えて説明できた。	各技法の説明ができた。	各技法の理解ができた。	助言があれば理解できた。	助言があっても理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの理論と方法(専門)Ⅱ （科目ナンバリング：SWS123022　　）				
授業担当者 （所属・職名）	大島康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2	（単位認定責任者：　　大島　康雄　　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、福祉に関する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ソーシャルワークの理論と方法　社会専門』	日本ソーシャルワーカー教育学校連盟	中央法規	２０２１	978-4-8058-8249-8	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 ソーシャルワーク実践と社会資源 科目を修了して『身に付く力』についての説明	ソーシャルワークの理論と方法（専門）１のノートを読み返す。	授業内容をノートに整理する。（９０分）
2	社会資源の種類と活用の方法 社会資源の調整方法	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
3	社会資源の開発 ソーシャルアクションの意義、目的	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
4	ソーシャルアクションの方法	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
5	カンファレンスの種類と意義、目的 カンファレンスの方法	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
6	ミクロ、メゾ、マクロの会議	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
7	中間試験	１回から６回の内容を復習する。（９０分）	試験を自己採点する。（９０分）
8	中間試験解説 事例分析の意義、目的	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	試験の不正解部分を復習する。授業内容をノートに整理する。（９０分）
9	事例分析	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
10	事例分析 プレゼンテーション	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
11	交渉の種類と原則 ネゴシエーションの方法	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
12	コンフリクトのとらえ方と対処方法	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
13	ファシリテーションの意義、目的 ファシリテーションの方法	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
14	ソーシャルマーケティング 今後の課題 授業内フィードバック	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
15	試験	１回から１４回の復習をする。（９０分）	試験の自己採点をする。（９０分）
16	試験解説 授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	全体を振り返り、質問事項を整理する。（９０分）	試験の不正解部分を復習する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	肢体不自由者の心理・生理・病理 （科目ナンバリング：SNE122105　　）				
授業担当者 （所属・職名）	坂上　俊樹（社会福祉学科・非常勤教員）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　坂上　俊樹　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題（肢体不自由者の心理・生理・病理）について指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

共生社会創造のための授業として肢体不自由教育を効果的に行うために必要な心理や病理・行動特性等の基本的な知識を理解して、指導上の配慮事項等の基礎知識を得る。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

肢体不自由児の心理や行動特性、指導上の配慮事項等について具体的に述べることができる。

授業全体の内容と概要

「一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育」の基本的理念を押さえ、肢体不自由児の身体的・心理的な特性を事例や視覚教材を活用しながら構成する。「ＳＤＧs４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、パワーポイント及び配布資料で実施し、パワーポイントにて説明した後、配付資料の記述部分に書き込んだり、質疑応答の時間を設けて基礎知識の定着を図る。また、DVD を視聴し具体的な実践場面を確認し、レポートにまとめ知識の進化を図る。なお、グループワーク発表、レポートにはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・肢体不自由児の身体的、心理的な特性に応じた指導を行うにはどうしたらよいのかを考えながら、必要な知識を積極的に学ぶ姿勢で臨むこと。また、実践事例のDVD 教材視聴直後に事例に基づくレポート提出を求めるので、授業を欠席することのないよう留意すること。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

・事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
・講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。

資格指定科目

教職課程（特別支援）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１1回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	２０%	0%	0%	２０%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
肢体不自由児者の心理・生理・病理の理解	肢体不自由児者の心理・生理・病理の理解について、学修した知識・技能を基盤に、更に学修を深めることができた。	肢体不自由児者の心理・生理・病理について、必要な知識・技能を理解することができた。	肢体不自由児者の心理・生理・病理について、一定程度の理解ができた。	肢体不自由児者の心理・生理・病理について、一部理解することができた。	肢体不自由児者の心理・生理・病理について、理解ができなかった。
肢体不自由児者の心理整理・病理についての思考・判断・表現	肢体不自由児者の心理・生理・病理について、積極的に思考・判断し、自ら表現を工夫して活動することができた。	肢体不自由児者の心理・生理・病理について思考・判断し、自ら表現することができた。	肢体不自由児者の心理・生理・病理について、思考活動に取組み、表現しようとすることができた。	肢体不自由児者の心理・生理・病理について、思考できた。	肢体不自由児者の心理・生理・病理にかかわる、思考・判断・表現についての必要な取組ができなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業にとても積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業へいくらか関心をもって参加できた。	授業への積極的な参加ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	肢体不自由者の心理・生理・病理 （科目ナンバリング：SNE122105　　）				
授業担当者 （所属・職名）	坂上　俊樹（社会福祉学科・非常勤教員）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　坂上　俊樹　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題（肢体不自由者の心理・生理・病理）について指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジアーズ教育新社	2020年	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『肢体不自由児の医療・療育・教育 改訂3 版』』	篠田達明	金芳堂	2015 年	978-4-7653-1628-6	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ～授業改善アンケート結果反映の説明とシラバスの説明、肢体不自由者の心理・生理・病理の概要 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを確認しておくこと （９０分）	配付資料に基づいて、年間の授業内容の見通しを立てる（９０分）
2	肢体不自由者の概念と疾患	指定した教科書の「特別支援教育の対象」を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと　（９０分）
3	脳性まひの起因と症状（１）	指定した教科書の「肢体不自由とは」を事前に読んでおくこと　（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと　（９０分）
4	脳性まひの起因と症状（２）	指定した教科書の「脳性まひ」を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと　（９０分）
5	二分脊椎の起因と症状	指定した教科書の「二分脊椎」を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと　（９０分）
6	筋ジストロフィーの起因と症状	指定した教科書の「筋ジストロフィー」を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと　（９０分）
7	ペルテス病の起因と症状	「ペルテス病」について事前に調べておくこと　（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと　（９０分）
8	肢体不自由の特性を呈するその他の障害	指定した教科書の「医学的側面から見た肢体不自由」を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと　（９０分）
9	重症心身障害	配布した資料に基づき事前に調べること（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと　（９０分）
10	障害に対する医療的対応	指定した教科書の「医学的側面からの把握」を事前に読んでおくこと（９０　分）	配付資料に基づき復習しておくこと　（９０分）
11	ＤＶＤの視聴及びレポート作成	事前に配布したＤＶＤの資料を読んでおくこと（９０分）	ＤＶＤ視聴時に取ったメモに基づき整理しておくこと（９０分）
12	生涯学習と医療・社会福祉	指定した教科書の「幼児児童生徒への対応」を事前に読んでおくこと （９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと　（９０分）
13	肢体不自由者の心理的特性	指定した教科書の「心理学的・教育学的側面からみた肢不自由」を事前に読んでおくこと　（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと　（９０分）
14	肢体不自由者の療育上特に留意すべき事項	指定した教科書の「肢体不自由とは」を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと　（９０分）
15	「授業改善アンケート」の実施 バリアフリーとまとめ	配布した資料に基づき「バリアフリー」について調べておくこと （９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと　（９０分）
16	定期試験「６０　分の試験終了後、残りの３０分で解説をし、フィードバックする」 科目を修了して『身に付く力』についての検証	指定した教科書や講義内容について整理しておくこと(９０分)	試験の結果を見直す（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択必修
科目名称	都市計画 （科目ナンバリング：APT314020　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　安藤　淳一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

履修学生は，「ひとと建築を取り巻く環境」を都市空間と捉え，都市の発展を計画する上で必要な知識を修得する。また，都市計画の基礎とともに，人口増加を前提とした都市化の時代は終焉を迎え，人口減少,少子高齢社会となったわが国における新たな時代に必要となる都市計画・まちづくりを計画できる知識を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1,DP3,DP4に対応する。

到達目標

めまぐるしく変化する社会や都市の将来を見据え，働く機会と生活する場所が確保され，平和で安全に，そして安心して暮らすことの出来る都市がどのように形成され，今後どのような方向を目指すのかを理解し，これからの都市を計画立案できるための基礎能力を身につけることができる。

授業全体の内容と概要

指定テキストのほかに毎回資料を配布し，援用しながら講義を進める。授業内容の記録を演習として作成し，毎回授業終了後提出する。都市計画に係る研究課題を課し，その研究成果を発表する。演習と研究課題により評価する。
[SDGs11.住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

板書事項は授業資料として記したものを配布する。プロジェクターで画像や図表を投影して解説するのが，授業内容の理解度を確認するため授業ノートを取り，毎回授業終了後提出してもらう。情報量は多く，見て，聴いて，理解できる授業である。基本的に授業は対面で実施するが，不測の事態が起きた際に，授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業開始時に着席票を回すので，遅刻し記載できない場合は欠席とみなし，配布資料を入手することができなくなるため注意すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格科目」必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数１０回以上)。毎回の授業内で行う演習の評価点（平常点）と研究課題提出（課題・作品）と発表（その他）が単位認定の過半を占めるので，授業欠席や演習未提出は不合格に直結することになる。なお演習は当日の授業終了後提出とし，それ以外は受理しない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	５０％	０％	３０％	２０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
世界の中から抽出した都市が，古代から現代までを時間軸に則し，どのように成り立ち，展開してきたかを理解する。	時間軸の中で都市の成り立ちを理解し，発展に寄与した要素と経緯を関連付けることができた。	時間軸のなかで都市の発展に寄与した要素を理解できた。	時間軸で都市の変化を理解することができた。	都市の変化に時間という要素が不可欠であること理解できた。	都市を時間軸で捉えることができなかった。
都市を成り立たせるための法制度と都市計画の関わり知り，地方自治体の都市計画と都市のあり方の関係を理解する。	都市が国家から自治体に至るまで法制度により統一的の統制されていること，地方自治体の都市計画と都市のあり方との関係を理解できた。	都市が国家から自治体に至るまで法制度により統一的の統制されていることを理解できた。	都市計画に係る法律の存在とその内容を理解することができた。	都市計画にかかわる法律があることを理解できた。	都市計画のための法律を理化することができなかった。
現代の都市計画においてまちづくりが重要度を高めていることの認識と，都市計画との違いを理解する。	現代社会の都市計画にとりまちづくりの重要性と必要性を理解できた。	現代都市における都市計画とまちづくりの違い，まちづくりのために必要な事項を理解できた。	都市計画とまちづくりの違いを理解できた。	まちづくりがめざすものが理解できた。	まちづくりの重要性を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択必修
科目名称	都市計画 （科目ナンバリング：APT314020　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　安藤　淳一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『都市計画とまちづくりがわかる本』	伊藤雅春他	彰国社	２０１８	9784395320936	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明，授業改善アンケート結果反映の説明，科目を修了して「身に付く力」についての説明，課題説明，授業の進め方	シラバスの事前確認(90分)	配布資料から授業内容確認(90分)
2	「都市計画」で学ぶこと	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
3	都市の遺産①　都市の防御性と効率性	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
4	都市の遺産②　社会改良思想の都市	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
5	都市計画制度①　日本の都市計画史	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
6	都市計画制度②　日本の都市計画の枠組み	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
7	都市計画制度③　現代都市計画の思潮	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
8	都市計画制度④　まちづくりの担い手と進め方	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
9	都市計画制度⑤　人口減少社会のまちづくり	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
10	都市計画制度⑥　都市交通計画	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
11	都市計画制度⑦　都市の防災計画	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
12	都市計画制度⑧　都市の緑地・景観計画	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
13	研究発表①　「都市マス」からみたわたしの都市の姿と将来像	発表資料の予習(90分)	発表内容の振返り(90分)
14	研究発表②　「都市マス」からみたわたしの都市の姿と将来像	発表資料の予習(90分)	発表内容の振返り(90分)
15	研究発表③　「都市マス」からみたわたしの都市の姿と将来像	発表資料の予習(90分)	発表内容の振返り(90分)
16	総評（演習課題の提出状況と評価・解説），授業改善アンケートの実施，フィードバック，科目を修了して「身に付く力」についての検証	演習課題提出確認(90分)	最終振返り(90分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期集中	授業形態	講義,演習,実技	必修・選択	選択
科目名称	障がい者ｽﾎﾟｰﾂⅠ （科目ナンバリング：SPS523081　　）				
授業担当者 （所属・職名）	荒井　秀樹（経営学科・特任教授）　米野　宏（経営学科・准教授）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室（荒井） １号館３階（米野）		
単位数	2　（単位認定責任者：　米野　宏　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現在、パラスポーツ（障がい者スキー）の現場で指導している経験を活かし、障がい者スポーツの指導者資格を取得したい学生に教授する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

初級障がい者スポーツ指導員として必要な知識、技能、態度を身につけさせる。

授業の位置づけ

経営学科のDP3、DP4、DP５に対応する。

到達目標

障がい者スポーツ指導員として必要な知識、技能、態度を身につける。

授業全体の内容と概要

授業の前半は、障がい者スポーツ指導員として必要な「障がい者スポーツの理念」に加え、パラスポーツやパラリンピックの歴史を学ぶ。後半は、実践を通してパラスポーツのルールや競技の特性を理解しながら、指導の留意点を学ぶ。
「SDG 3.すべての人に健康と福祉を」の関連科目。
「SDG 10.人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

教室において、パワーポイントや板書にて理論的学習を行い、理解を深めるためにビデオ視聴も実施する。
体育館や屋外スポーツ施設において、障がい者スポーツの紹介と実技体験も行う。
レポートなどの解説のフィードバックを実施する。

不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は欠席とみなします。実技もあるので、運動しやすい服装と屋内用シューズを用意する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

障がい者スポーツ指導員資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	０%	０%	６０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
障がい者スポーツのルールの理解	ルールや競技特性をとても詳しく理解し審判法も得られた。	ルールや競技特性を理解し審判法も得られた。	ルールや競技特性を良く知ることができた。	ルールや競技の特性をある程度理解できた。	ルールの知識がほとんど得られなかった。
障がい者スポーツの歴史や現状の知識と理解	歴史的な知識や現状をよく理解でき、課題に対する意識がとても強く持てた。	歴史的な知識や現状をよく理解でき、課題に対する意識も持てた。	歴史的な知識や現状をよく理解できた。	歴史的な知識や現状をある程度理解できた。	歴史的な知識をほとんど得られなかった。
障がいの種類や区分の知識と理解	障害の種類や区分の知識をよく理解し、留意点も広く把握できた。	障害の種類や区分の知識をよく理解し、留意点も把握できた。	障害の種類や区分の知識をよく理解できた。	障害の種類や区分の知識がある程度得られた。	障害の種類や区分の知識がほとんど得られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期集中	授業形態	講義,演習,実技	必修・選択	選択
科目名称	障がい者ｽﾎﾟｰﾂⅠ （科目ナンバリング：SPS523081　　）				
授業担当者 （所属・職名）	荒井　秀樹（経営学科・特任教授）　米野　宏（経営学科・准教授）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室（荒井） １号館３階（米野）		
単位数	2　（単位認定責任者：　米野　宏　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現在、パラスポーツ（障がい者スキー）の現場で指導している経験を活かし、障がい者スポーツの指導者資格を取得したい学生に教授する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『障がい者スポーツ指導教本　初級・中級』	日本障がい者スポーツ協会	ぎょうせい	２０１８	9784324108031	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明 ｽﾎﾟｰﾂ指導者に求められるもの（指導者への道）（担当：荒井）	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習する（９０分）
2	スポーツ指導者に求められるもの（障がい者スポーツ指導者として必要なこと） （担当：荒井）	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習する（９０分）
3	わが国のスポーツ施策と障がい者スポーツ（厚生労働省下での障がい者スポーツ施策、わが国のスポーツ施策と障がい者スポーツ） （担当：荒井）	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習する（９０分）
4	障がい者スポーツの意義と理念（障がい者スポーツの意義、障がい者スポーツの理念、日本障がい者スポーツ協会のビジョン） （担当：荒井）	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習する（９０分）
5	障がい者スポーツ指導者制度（歴史、目的と資格の種類と役割、障がい者スポーツ指導者資格の取得方法） （担当：荒井）	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習する（９０分）
6	わが国の障がい者福祉施策（施策の変遷、障がい者の生活と実態、障がい者福祉施策と障がい者スポーツについて）国際生活機能分類（担当：荒井）	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習する（９０分）
7	ボランティア論（ボランティアという活動、ボランティアの魅力） （担当：荒井）	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習する（９０分）
8	ボランティア論（ボランティアの心得と注意点） （担当：荒井）	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習する（９０分）
9	障がいの分類と概要（障がいの分類、障がいの概要） （担当：米野）	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習する（９０分）
10	障がいの分類と概要（障がい層の変化、高齢化と重度化） （担当：米野）	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習する（９０分）
11	身体障がい者（内部障がいを含む）とスポーツ・レクリエーション（身体障がい者の種類と特徴、運動およびスポーツの効用、指導時の留意点）（担当：米野）	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習する（９０分）
12	知的障がい者とスポーツ・レクリエーション（知的障がいの分類と特徴、運動・スポーツの効用、指導上の留意点） （担当：米野）	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習する（９０分）
13	身体障がい者（内部障がいを含む）とスポーツ・レクリエーション（身体障がい者の代表的なスポーツ紹介）知的障がい者とスポーツ・レクリエーション（知的障がい者の代表的なスポーツ紹介） （担当：米野）	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習する（９０分）
14	精神障がい者とスポーツ・レクリエーション（精神障がいの種類と特徴、運動・スポーツの効用、指導時の留意点、最近の話題） （担当：米野）	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習する（９０分）
15	全国障害者スポーツ大会（競技規則の原則、歴史・意義・目的、実施競技） （担当：米野）	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習する（９０分）
16	障がい者スポーツ指導者のコミュニケーションスキル　授業改善アンケートの実施　授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 （担当：米野）	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習する（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂﾋﾞｼﾞﾈｽ論 （科目ナンバリング：SPS422067，SPS512013　　）				
授業担当者 （所属・職名）	守屋　俊甫（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　守屋　俊甫　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

本講義では、スポーツビジネスの基本概念と市場構造を理解し、スポーツが社会および経済に与える影響について学びます。スポーツビジネスを「営利」と「非営利」、そして「目的」と「手段」の4象限で分類し、各セグメントにおける具体的な事例を分析します。ケーススタディをもとに実践的な視点で学習し、現代のスポーツビジネスの発展と課題、未来にどのような価値創造をするべきなのか、を深く考察し、言語化することを目指し身に付けることを目的とする。
また、インプットだけで終わるのではなく、アウトプット（発言、テキスト化、レポート化、身体表現など）を行うことを重視します。授業での気づきや発見から自分自身の夢や目標、キャリアにどう展開していけるのか、自分の変化を感度高く感じられるかなどを振り返ることも重視します。

授業の位置づけ

本講義は、スポーツ産業・スポーツビジネスへの関心の有無によらず、「仕事とは？」「働くとは？」「自分とは？」「自分が成し遂げたいもの？」など、正解のないことへの問いを立てることを重視しています。スポーツの経済活動や、学校教育現場での体育・表現運動に至るまで、幅広い人間の営みの中にある「スポーツ」「運動」「遊び」といった領域から、ビジネス視点を磨き、分析する力を養うことを目的とします。スポーツ業界のキャリア形成という枠組みに縛られずに、自分という個が、どのような社会の環境に貢献できる人材であるか、あらゆる環境に適応できる意思決定ができる人材であるかの気づきや発見の場である。

到達目標

社会の課題を抽出し、解決策を考え、未来のより良い社会づくりを創造できる力を身につける。
未来からのバックキャスティングを行い、自分が何を為すべきかを振り返り、具体なアクションプランを立てることができる。
ケーススタディを通じて、なぜうまくいったのか、なぜ失敗したのか、具体的な要素を因数分解し、起きた事象を分析できる力を身につける。

授業全体の内容と概要

毎回の授業でテーマに沿ったケーススタディを提示し、学生らがその事例に対して問いを立て、グループでディスカッションを行いながら探求し深掘りする時間を設けます。「課題解決未来」というフレームに則り、ケーススタディごとの課題という仮説をたて、その解決策を創造し、どのような未来を描くのかを授業内での一連のワークとします。
また、毎回の授業では小レポートを提出することで出席したこととみなし、最終レポートでは4象限のうちいずれかの領域に当てはまるスポーツビジネスを探し当て、その課題解決未来をまとめます。背景情報の整理、引用元の明示、社会に対するインパクトを考慮しながら、創造的で未来志向、独創的で先駆的な発想も高く評価します。

授業の方法

ケーススタディ：実際のスポーツビジネスの事例をもとにグループワークを実施する
ディスカッション：各トピックに対する意見交換や対話を行う
ピッチ：思考を整理し、言語化する上で、短時間の発表の場を設ける
ゲスト講義（予定）：実務家やスポーツビジネス関係者を招いた特別講義の機会を設ける
授業の振り返り：授業を受ける前と後での自分の変化を見つめ、自分自身の気づきを深める
毎回の授業レポートの提出方法：Googleフォームへの入力を行うことを提出方法とする
※なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

グループワークやディスカッションを通じて、自らの考えを発表し、他者の意見を尊重することが重要
スポーツビジネスへの専門的な知識を有することは必須ではなく、興味の有無に関わらず課題に対して探求する姿勢を重視する
自分から表現することを重視します。発言、テキスト化、身体表現など、あらゆる表現が尊く、それにどのような意図を込めたのかを言語化できることが重要
最終レポートでは、自ら立てた問いに対して自由に自主的に取り組み、意図や意思を持ったアウトプットをすることを重視する

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	１００％	０％	０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツビジネスにおける4象限のビジネスモデルを理解し、各ケーススタディに対する課題抽出、解決策の提示、未来への価値提供のアウトプットを行えたか	各ケーススタディに対する課題抽出、解決策の提示、未来への価値提供のアウトプットを行えた	各ケーススタディに対する課題抽出、解決策の提示のアウトプットを行えた	各ケーススタディに対する課題抽出のアウトプットを行えた	各ケーススタディ情報のインプットを行えた	スポーツビジネスの4象限のビジネスモデルの理解が不足していた
毎回の授業時に提出する小レポートへの取り組む姿勢や、レポートとしてまとめた内容に対して自分の気づきや発見を言語化しているかどうか	レポート内容として自分の気づきや発見を言語化しており、さらに自らが問いを立て、自主的に探求する姿勢がある	レポート内容として自分の気づきや発見を言語化している	レポートへの積極的に取り組む姿勢がある	レポートへの取り組む姿勢がある	レポートを提出しない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂﾋﾞｼﾞﾈｽ論 （科目ナンバリング：SPS422067，SPS512013　　）				
授業担当者 （所属・職名）	守屋　俊甫（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　守屋　俊甫　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） （本講義の目的、授業全体の説明、問いと気づきについて、評価方法）、授業改善アンケート結果反映の説明 スポーツビジネスの4象限の解説	シラバス内の「授業全体の内容と概要」を読んでおくこと（15分）	レポート作成（30分）
2	ケーススタディ（ソーラン節 / よさこい鳴子踊り / YOSAKOIソーラン①）	事前資料を読む（15分）	レポート作成（30分）
3	ケーススタディ（ソーラン節 / よさこい鳴子踊り / YOSAKOIソーラン②）	事前資料を読む（15分）	レポート作成（30分）
4	ケーススタディ（ソーラン節 / よさこい鳴子踊り / YOSAKOIソーラン③）	事前資料を読む（15分）	レポート作成（30分）
5	ケーススタディ（遊びの場づくり「放課後ボールパーク」①）	事前資料を読む（15分）	レポート作成（30分）
6	ケーススタディ（遊びの場づくり「放課後ボールパーク」②）	事前資料を読む（15分）	レポート作成（30分）
7	ケーススタディ（遊びの場づくり「放課後ボールパーク」③）	事前資料を読む（15分）	レポート作成（30分）
8	ケーススタディ（「Fビレッジと愉快な仲間たち」が創るエリアマネジメント①）	事前資料を読む（15分）	レポート作成（30分）
9	ケーススタディ（「Fビレッジと愉快な仲間たち」が創るエリアマネジメント②）	事前資料を読む（15分）	レポート作成（30分）
10	ケーススタディ（「Fビレッジと愉快な仲間たち」が創るエリアマネジメント③）	事前資料を読む（15分）	レポート作成（30分）
11	ケーススタディ（ソーシャルメディアと情報発信①）	事前資料を読む（15分）	レポート作成（30分）
12	ケーススタディ（ソーシャルメディアと情報発信②）	事前資料を読む（15分）	レポート作成（30分）
13	ケーススタディ（ソーシャルメディアと情報発信③）	事前資料を読む（15分）	レポート作成（30分）
14	ケーススタディ（中学校の「部活動地域移行」の課題と未来）	事前資料を読む（15分）	レポート作成（30分）
15	ケーススタディ（高校の「部活動地域移行」と地域クラブ化）	事前資料を読む（15分）	レポート作成（30分）
16	自主課題レポートのピッチ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	事前資料を読む（15分）	最終レポート作成（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ （科目ナンバリング：DES222022　　）				
授業担当者 （所属・職名）	堤　美穂子（デザイン学科・特任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　堤　美穂子　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインの基礎から応用までを指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

デザインにおけるグラフィックデザインについて正しい認識を持ち、その可能性と将来の展望ができる知識と技術を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

広告、PR、ブランディング、出版、WEB、映像等、おもに視覚伝達メディアを使った各種コミュニケーションにおいて、デザイン制作業務に携わるために必要となる、ビジュアルアイディアの考え方、発想、機能性、レイアウト、編集、リテラシー等、基本的な知識を身に付ける。

授業全体の内容と概要

特定の情報を市場に提供する手段として適切なメディアミクスを想定し、効果的に運用できるよう企画・設計段階を重視した課題制作を行う。但し、制作内容は単体のメディアコンテンツが中心となる。
「ＳＤＧs1～17」関連授業（取り組む企業・団体のためのグラフィックデザインを自ら考案）。

授業の方法

始めにグラフィックデザインを正しく認識させるためのワークを行う。
その際には、ChatGPT及びCANVAを始めとする生成AIも積極的に活用する。
次に単体のメディアによる用途に合わせたバリエーションを制作する実技課題に続く。
後半では考案した広告企画をプレゼンテーションするためのピッチ資料（PowerPoint）を制作し発表する。
各種メディアや情報形態に関しての調査・取材は必要に応じて必ず行い、都度報告する。
制作中における技術的な指導は各学生に個別で行い、質問については随時対応する。
授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。
不測時の授業や補講等ではオンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

主として商業美術を志向する者のための演習が中心の授業である。
中でも情報メディアにおけるビジネスデザインを前提とした内容であるから、そのスタンスがアート系分野とは相反することを理解し、それを前提として履修しなければならない。
課題の制作はAdobe IllustratorとPhotoshopを用いるので、その基本的な操作を身につけていなければならない。
授業内でアプリケーションの操作講習は一切しないため、得意な技術を使って作成、または新たに習得し授業に臨む必要がある。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は26回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能　「グラフィックデザインを分野として正しく認識できている」	グラフィックデザインに対する正しい認識を持ち、適切なメディアへ効果的な情報の投下の重要性を認識し、それが可能な知識と技能を身につけた。	グラフィックデザインに対する正しい認識を持ち、適切なメディアへ効果的な情報の投下が必要であることを認識した。	グラフィックデザインに対する正しい認識を持つことはできたが、適切なメディアの選択と情報の処理が不十分であった。	グラフィックデザインに対する認識が曖昧で、メディアと情報の関連性を捉え切れていない。	グラフィックデザインを認識できていない。
思考力・判断力・表現力「グラフィックデザインの分野としての特性を踏まえた作品制作が行える」	グラフィックデザインの特性を理解し、適切なメディアの選択や表現を行うための技能を基に、完成度の高い作品制作が行えた。	グラフィックデザインの特性を理解し、適切なメディアの選択や表現を行うための技能を作品制作に反映させることができた。	グラフィックデザインの特性を理解したが、メディアの選択や表現について、適切に反映させられていない。	グラフィックデザインの特性を理解しきれておらず、適切なメディアの選択や表現が不十分であった。	グラフィックデザインの特性が理解できず、メディアの選択や表現ができなかった。
主体性・多様性・協働性「グラフィックデザインの分野としての特性を基にしたメディアの構築を行い、プレゼンテーションを行える」	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的に取り組み、メディアの特性に準じた完成度の高いプレゼンテーションを行った。	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的に取り組み、適切なプレゼンテーションを行った。	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的に取り組んだが、適切なプレゼンテーションには至っていない。	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的でなく、プレゼンテーションも不完全であった。	グラフィックデザインにおける問題解決ができず、プレゼンテーションが行えなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ （科目ナンバリング：DES222022　　）				
授業担当者 （所属・職名）	堤　美穂子（デザイン学科・特任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　堤　美穂子　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインの基礎から応用までを指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『原研哉の仕事　潜在する価値観のデザイン』	デザインノート編集部	誠文堂新光社	2021		
2	『芸術教養シリーズ20編集学-つなげる思考・発見の技法』	紫牟田伸子	藝術学舎	2014		
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス～シラバスの説明 「伝統的なグラフィックデザイン」世界・日本・広告を概観 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスを一読しておく・グラフィックデザインの意味を調べておく（４５分）	シラバスを一読しておく・グラフィックデザインの意味を調べておく（４５分）
2	「伝統的なグラフィックデザイン」 主として広告におけるおもな制作工程	シラバスを一読しておく・グラフィックデザインの意味を調べておく（４５分）	分野への理解を深めるためのノート整理（４５分）
3	「情報の視覚化」 デザイン実装における考え方/ブリーフ（設計）・ブランディング・トーン&マナー・UI	使用するアプリと機材の準備・整理（４５分）	分野への理解を深めるためのノート整理（４５分）
4	「情報の視覚化」演習 デザインの実装シミュレーション/ラフスケッチ	課題の継続作業（４５分）	課題の継続作業（４５分）
5	「情報の視覚化」演習 デザインの実装シミュレーション/生成AI	課題の継続作業（４５分）	課題の継続作業（４５分）
6	「情報の視覚化」演習 講評と展開の可能性について	課題の継続作業（４５分）	課題の継続作業（４５分）
7	様々な情報メディアの特性について 心に響いたバナーデザインの個人発表	多くのバナーを見て、心に響いたバナーを1点選び、貼り付け、その理由を記載した1シートを作成し、発表できるよう準備をしてくる（４５分）	分野への理解を深めるためのノート整理（４５分）
8	情報メディアデザイン　“小” 「バナー広告デザイン」 企画・立案	多くのバナーを見て、心に響いたバナーを1点選び、貼り付け、その理由を記載した1シートを作成し、発表できるよう準備をしてくる（４５分）	課題の継続作業（４５分）
9	情報メディアデザイン　“小” 「バナー広告デザイン」 デザインラフ作成①	課題の継続作業（４５分）	課題の継続作業（４５分）
10	情報メディアデザイン　“小” 「バナー広告デザイン」 生成AIによるシミュレーション	課題の継続作業（４５分）	課題の継続作業（４５分）
11	情報メディアデザイン　“小” 「バナー広告デザイン」 デザインラフ作成②	課題の継続作業（４５分）	課題の継続作業（４５分）
12	情報メディアデザイン　“小” 「バナー広告デザイン」 企画書作成①	課題の継続作業（４５分）	課題の継続作業（４５分）
13	情報メディアデザイン　“小” 「バナー広告デザイン」 企画書作成②	課題の継続作業（４５分）	課題の継続作業（４５分）
14	情報メディアデザイン　“小” 「バナー広告デザイン」 企画書作成③	課題の継続作業（４５分）	課題の継続作業（４５分）
15	情報メディアデザイン　“小” 「バナー広告デザイン」 プレゼンテーション	課題の継続作業（４５分）	課題の継続作業（４５分）
16	情報メディアデザイン　“小” 「バナー広告デザイン」 完成～講評	課題の継続作業（４５分）	最終修正→提出（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	情報メディアデザイン　“中” 「OOHデザイン」 企画立案	指定のOOHについて現地で見て媒体特性も調べておく（４５分）	分野への理解を深めるためのノート整理（４５分）
18	情報メディアデザイン　“中” 「OOHデザイン」 ラフデザイン①	分野への理解を深めるためのノート整理（４５分）	課題の継続作業（４５分）
19	情報メディアデザイン　“中” 「OOHデザイン」 生成AIによるシミュレーション	課題の継続作業（４５分）	課題の継続作業（４５分）
20	情報メディアデザイン　“中” 「OOHデザイン」 ラフデザイン②	課題の継続作業（４５分）	課題の継続作業（４５分）
21	情報メディアデザイン　“中” 「OOHデザイン」 ラフデザイン③	課題の継続作業（４５分）	課題の継続作業（４５分）
22	情報メディアデザイン　“中” 「OOHデザイン」 ラフデザイン④	課題の継続作業（４５分）	課題の継続作業（４５分）
23	情報メディアデザイン　“中” 「OOHデザイン」 企画書作成①	課題の継続作業（４５分）	課題の継続作業（４５分）
24	情報メディアデザイン　“中” 「OOHデザイン」 企画書作成②	課題の継続作業（４５分）	課題の継続作業（４５分）
25	情報メディアデザイン　“中” 「OOHデザイン」 プレゼンテーション	課題の継続作業（４５分）	課題の継続作業（４５分）
26	情報メディアデザイン　“中” 「OOHデザイン」 完成～講評	課題の継続作業（４５分）	内容修正→提出（４５分）
27	ブリーフィング・テキストデータからの ビジュアル作成・レイアウト・フィニッシュワーク①	シラバスの確認と情報整理（４５分）	課題の継続作業（４５分）
28	ブリーフィング・テキストデータからの ビジュアル作成・レイアウト・フィニッシュワーク②	課題の継続作業（４５分）	課題の継続作業（４５分）
29	ブリーフィング・テキストデータからの ビジュアル作成・レイアウト・フィニッシュワーク③	課題の継続作業（４５分）	課題の継続作業（４５分）
30	ブリーフィング・テキストデータからの ビジュアル作成・レイアウト・フィニッシュワーク④	課題の継続作業（４５分）	課題の継続作業（４５分）
31	ブリーフィング・テキストデータからの ビジュアル作成・レイアウト・フィニッシュワーク⑤	課題の継続作業（４５分）	課題の継続作業（４５分）
32	ブリーフィング・テキストデータからの ビジュアル作成・レイアウト・フィニッシュワーク/完成～講評 授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」についての検証	全授業内容のまとめ（４５分）	完成シミュレーション（４５分）

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保健体育科教育法Ⅰ （科目ナンバリング：DMB543119　　）				
授業担当者 （所属・職名）	髙井　雅一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　髙井　雅一　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かして保健体育科教育法Ⅰに関する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認する				

概要

履修目標

保健体育科の意義や内容をはじめ、各領域の内容・計画方法・評価等を学ぶ科目であり、授業設計を身につけ、保健体育科教師としての基本的な学習指導理論を理解できるようにする。

授業の位置づけ

－

到達目標

保健体育科の目標・内容をはじめ、体育の指導計画の作成や評価の在り方並びに基礎的な学習指導理論等を理解し、子どもの実態に応じた効果的な授業設計をすることができる。

授業全体の内容と概要

・中学校及び高等学校教育の目的・目標を明確にするとともに、保健体育科教育としての独自の役割をわかりやすく理解させる。
・保健体育科の授業を行うための必要な知識と指導技術について、意見交換で自分の意見を述べることができ、グループ学習の中で、多様な指導方法を身につける活動を行う。
・授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。
「ＳＤＧ４」質の高い教育を目指す。

授業の方法

・各回のテーマに関してプリントと等を使用して説明を行う。
・各テーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察・意見交換・発表等の一連の活動を行う。
・各自がパソコンを使用し、計画案の作成を協力し合い実施する。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・講義で配布するプリント類や課題プリントはファイル等に整然と保管し必要時に参照できるようにすること。
・講義中、スマホや飲食物等はカバン等の中に入れておくこと。但し、指示のある場合は可。
・２０分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻３回で欠席１回とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、１２回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	２０%	２０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保健体育科教育の目的・目標についての認識・理解できる	保健体育科教育の目的・目標を認識し独自の役割と学修の基本事項・実務的事項を理解できた。（９割）	保健体育科教育の目的・目標を認識し独自の役割と学修の基本事項・実務的事項を理解できた。（８割）	保健体育科教育の目的・目標を認識し独自の役割と学修の基本児童・実務的事項を理解できた。（７割）	保健体育科教育の目的・目標を認識し独特の役割を理解できた。	保健体育科教育の目的・目標を認識し独自の役割を理解できなかった。
保健体育科教育の意義や基本的構造に基づく授業設計ができる	教育の意義・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解し、授業の特質を考え授業設計を身につけた。（９割）	教育の意義・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解し、授業の特質を考え授業設計を身につけた。（８割）	教育の意義・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解し、授業の特質を考え授業設計を身につけた。（７割）	保健体育科教育の意義や基本的構造について考え授業設計を身につけた。	保健体育科教育の意義や基本的構造について考えて授業設計ができなかった。
意見交換における主体性・協働性を身につける	授業を行うための必要な知識と指導技術について自分の意見を述べながら意見交換を交わし、協働作業ができた。（９割）	授業を行うための必要な知識と指導技術について自分の意見を述べながら意見交換を交わし、協働作業ができた。（８割）	授業を行うための必要な知識と指導技術について自分の意見を述べながら意見交換を交わし、協働作業ができた。（７割）	授業を行うための必要な知識と指導技術について自分の意見を述べながら意見交換できた。	授業を行うための必要な知識と指導技術について自分の意見を述べることができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保健体育科教育法Ⅰ （科目ナンバリング：DMB543119　　）				
授業担当者 （所属・職名）	高井　雅一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　高井　雅一　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かして保健体育科教育法Ⅰに関する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認する				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『中学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　保健体育編』	文部科学省	東山書房	２０１８	9784827815603	
2	『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　保健体育編　体育編』	文部科学省	東山書房	２０１９	9784827815689	
3	『新しい保健体育』	戸田芳雄　他	東京書籍	２０２４	9784487123711	中学校の教科書
4	『現代高等保健体育　』	衛藤　隆　他	大修館	２０２４	9784469663198	高等学校の教科書
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説』	文部科学省	東山書房	２０１８		
2	『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説』	文部科学省	東山書房	２０１９		
3	『中学校・高等学校体育科教育法』	白旗和也・岡出美則・今関豊一	建帛社	２０２２		
4	『　教育の情報化に関する手引』	文部科学省		２０１９		
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明 保健体育科改定の要点について	改訂の要点ついて簡単に説明できるようにしておく。（９０分）	改訂の要点を理解する。（９０分）
2	保健体育科の目標と内容について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
3	中学「体育分野」、高等学校の科目「体育」の目標と内容について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
4	体育教育の今日的課題について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
5	指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
6	中学校の「体育分野」の領域と内容について(1)A～Dの領域について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
7	中学校の「体育分野」の領域と内容について(2)E～Hの領域について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
8	高等学校の科目「体育」の領域と内容について(1)A～Dの領域について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
9	高等学校の科目「体育」の領域と内容について(2)E～Hの領域について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
10	選択授業・男女共習授業のねらいと進め方について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
11	効果的な指導を実践するための情報機器の活用及び教材の選び方について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
12	年間指導計画の作成について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
13	各種目の単元計画の作成について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
14	体育授業の指導上の留意点について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
15	体育授業の評価と方法について 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	講義の内容を総復習する。（９０分）
16	定期試験（６０分）、終了後、試験の解説（３０分）	全講義内容の復習（９０分）	本時の学修内容をまとめて提出する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ （科目ナンバリング：SWS123023　　）				
授業担当者 （所属・職名）	畠山　明子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　畠山　明子　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

①地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解する。
②地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を理解する。
③地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と果たす役割について理解する。
④地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。
⑤包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解する。
⑥地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、DP３、DP４に対応する。

到達目標

①地域生活課題が起こる背景について、近年の社会動向を踏まえて説明できる。
②地域福祉の歴史的な変遷について、その時代背景とともに説明できる。
③福祉計画が示すものやその種類、社会福祉専門職における福祉計画について理解する。
④地域福祉を下支えする福祉行財政システムについて理解する。

授業全体の内容と概要

①地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について学ぶ。
②地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を学ぶ。
③地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と果たす役割について理解する。
④地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を学ぶ。
⑤包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について学ぶ。
⑥地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を学ぶ。
「ＳＤＧs３．すべての人に健康と福祉を」、「ＳＤＧs4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

①教科書の内容をまとめた配布資料に基づく講義形式となるが、新聞記事の活用や映像資料の視聴、演習（グループワーク等）も取り入れる。配布された資料には板書事項を記述すること。
②毎回の振り返り（小テスト・感想・質問等）をMicrosoft Formsを通して提出し、次回授業開始時にフィードバックを行う。
③第１０回目の前半には中間テストを実施し、理解度を確認する（出題形式・試験時間等は授業内で実施）。
④授業資料の配信等において、Microsoft Teamsを活用する。
⑤基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。ただし、保育士養成課程学生については対面での補講等を実施する。
⑥地域福祉実践を行う外部講師による講義も予定している。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①教科書は毎回持参すること。
②配布資料は紛失しないよう、ファイリングする等して管理を徹底すること。
③ニュースなどで報道される福祉に関わる話題について興味を持つこと。
④新聞記事などを題材として社会福祉の現状や課題を検討する等、常に問題意識を持ちながら積極的に授業に参加すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程、保育士課程科目（選択）

評価方法・基準

評価前提条件

出席回数は定期試験前までに１０回以上あることを評価の前提条件とし、第１０回目に実施する中間テスト（３０点）、第１６回目に実施する定期試験（７０点）の結果を総合して評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	０%	３０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
①地域生活課題が起こる背景について、近年の社会動向を踏まえて説明できる。	近年の社会動向を踏まえて地域生活課題が起こる背景について、具体的に説明・記述できた。	近年の社会動向を踏まえて、地域生活課題が起こる背景について、おおむね具体的に説明・記述できた。	関連するキーワードを提示することにより、近年の社会動向を踏まえて地域生活課題が起こる背景について、具体的に説明・記述できた。	関連するキーワードを提示することにより、近年の社会動向を踏まえて地域生活課題が起こる背景について、具体的に説明・記述できた。	近年の社会動向を踏まえて地域生活課題が起こる背景について、関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
②地域福祉の歴史的な変遷について、その時代背景とともに説明できる。	時代背景とともに地域福祉の歴史的な変遷について、具体的に説明・記述できた。	時代背景とともに地域福祉の歴史的な変遷について、おおむね具体的に説明・記述できた。	関連するキーワードを提示することにより、時代背景とともに地域福祉の歴史的な変遷について、具体的に説明・記述できた。	関連するキーワードを提示することにより、時代背景とともに地域福祉の歴史的な変遷について、具体的に説明・記述できた。	時代背景とともに地域福祉の歴史的な変遷について、関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
③福祉計画が示すものやその種類、社会福祉専門職における福祉計画について理解する。	福祉計画が示すものやその種類、社会福祉専門職における福祉計画について、具体的に説明・記述できた。	福祉計画が示すものやその種類、社会福祉専門職における福祉計画について、おおむね具体的に説明・記述できた。	福祉計画が示すものやその種類、社会福祉専門職における福祉計画について、具体的に説明・記述できた。	関連するキーワードを提示することにより、福祉計画が示すものやその種類、社会福祉専門職における福祉計画について、具体的に説明・記述できた。	福祉計画が示すものやその種類、社会福祉専門職における福祉計画について、関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
④地域福祉を下支えする福祉行財政システムについて理解する。	地域福祉を下支えする福祉行財政システムについて、具体的に説明・記述できた。	地域福祉を下支えする福祉行財政システムについて、おおむね具体的に説明・記述できた。	関連するキーワードを提示することにより、地域福祉を下支えする福祉行財政システムについて、具体的に説明・記述できた。	関連するキーワードを提示することにより、地域福祉を下支えする福祉行財政システムについて、具体的に説明・記述できた。	地域福祉を下支えする福祉行財政システムについて、関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ （科目ナンバリング：SWS123023　　）				
授業担当者 （所属・職名）	畠山　明子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　畠山　明子　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『最新　社会福祉士養成講座　精神保健福祉士養成講座　６　地域福祉と包括的支援体制』』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	２０２１年	978-4-8058-8236-8	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	本講義の進め方、シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明、地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題①	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
2	地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題②	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
3	地域福祉の基本的な考え方①	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
4	地域福祉の基本的な考え方②	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
5	地域福祉の基本的な考え方③	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
6	地域福祉の基本的な考え方④	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
7	福祉計画の意義と種類、策定と運用①	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
8	福祉計画の意義と種類、策定と運用②	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
9	福祉計画の意義と種類、策定と運用③	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
10	中間テスト、振り返り、福祉計画の意義と種類、策定と運用④	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	試験で間違えた箇所、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。（９０分）
11	福祉行財政システム①	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
12	福祉行財政システム②	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
13	福祉行財政システム③	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
14	福祉行財政システム④	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
15	授業のまとめ	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
16	定期試験（６０分の試験終了後、残りの３０分で解説）、授業改善アンケートの実施、フィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。（９０分）	試験で間違えた箇所、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	建築設計演習III （科目ナンバリング：APT323021　　）				
授業担当者 （所属・職名）	向井　正伸（建築学科・専任講師）、野村　和也（建築学科・非常勤講師）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	2　（単位認定責任者：　向井　正伸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計事務所にて教育、交通、宿泊、居住、文化施設といった様々な用途・規模の施設設計経験を踏まえ、学生との対話を重視した建築設計教育を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

公共建築の設計・プレゼンテーションを通じて、高い社会性と機能を持った建築の設計手法を学ぶ。そのため、建築学科で学んだ知識や人生経験もフル活用しながら、地域の環境や歴史のリサーチ等を通して住民の未来へ意識を向け、未来をつくる建築の設計をおこなう。この授業では特に、「思想をもってデザインする」、そして「考えたことを説得力を持たせて他者に伝える」ことに重きを置く。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

小中規模の建築の計画与条件を満たし、設計者の考え方や主旨を盛り込んだ建築の設計ができる。また、その考え方や主旨ををわかりやすく表現するプレゼンテーションができる。

授業全体の内容と概要

公共建築を成立させるためには、思い付きのアイディアをカタチにするだけでは不十分である。そのため、本授業では対話を中心としたエスキスを実施する。エスキスを通じて、学生自身がより多くのPDCAサイクル(Plan , Do (or Design) , Check , Action) を回す過程でアイディアを明確にし、より良い建築となるよう指導する。作品提出後は発表会を行い、他の作品から多様な考えと自分の作品を比較し、学ぶ機会を設ける。
「SDGs１２　つくる責任　つかう責任」
「SDGs１１　住み続けられるまちづくりを」

授業の方法

授業では，板書やICTを活用しながら構造の考え方を説明し、双方向授業で実施する。また、授業中毎回、進行状況と中間指導を行い添削する。プレゼンテーションに対しては授業内で講評しフィードバックする。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業には必ず出席し、途中成果の提示と中間指導を受け、PDCAサイクル(Plan , Do (or Design) , Check , Action) を自主的に行うこと。　授業ではエスキスを中心に展開するため、授業時間外、自宅での制作が不可欠である。製図道具やケント紙、トレーシングペーパー、模型材料などは、各自が用意すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目，教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、12回以上。提出課題と受講態度で総合判定を行う。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
計画の強さ　：　自分なりの思想をもち、説得力のある計画をし、説明できたか。	自分なりの思想をもち、説得力のある計画をし、説明できた。	自分なりの思想をもち、説得力のある計画ができた。	自分なりの思想をもち、計画ができた。	思想をもって計画ができた。	思想をもち計画ができなかった。
計画の正確性　：　与条件や建築基準法に則った計画ができ、正確に作図ができていたか。	条件に適した施設として計画し、各種図面が正しく作図することができた。	条件に合った施設として計画し、各種図面が正しく作図することができた。	条件を踏まえた施設として計画し、各種図面を作図することができた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。
表現力：　考えや設計内容をダイアグラムやパース、模型を用い表現できたか、人に伝わるプレゼンテーションができたか。	考えをダイヤグラムやパース、模型など用いて的確に表現ができ、他者を共感させることができた。	考えをダイヤグラムやパース、模型など用いて的確に表現ができた。	考えをダイヤグラムやパース、模型など用いて表現ができた。	ダイヤグラムやパース、模型など用いて表現ができた。	ダイヤグラムやパース、模型など用いて表現ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	建築設計演習III （科目ナンバリング：APT323021　　）				
授業担当者 （所属・職名）	向井　正伸（建築学科・専任講師）、野村　和也（建築学科・非常勤講師）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	2　（単位認定責任者：　向井　正伸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計事務所にて教育、交通、宿泊、居住、文化施設といった様々な用途・規模の施設設計経験を踏まえ、学生との対話を重視した建築設計教育を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『第4版 コンパクト建築設計資料集成』	日本建築学会	丸善株式会社	2024	978-4621307427	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　授業の進め方、授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスを読んでおくこと（90分）	プリントを読んで理解しておくこと（90分）
2	課題１　小さな公共建築　課題説明	プリントを読んで理解しておくこと（90分）	課題のプリントを読み、デザイン検討する（90分）
3	課題１　エスキスチェック①	デザインしたものを表現する（90分）	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
4	課題１　エスキスチェック②	デザインを改善し、表現する（90分）	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
5	課題１　発表・質疑応答・課題2　発表	デザインを改善し、表現する（90分）	講評会の内容をまとめる（90分）
6	課題２　　課題説明	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	現地見学のポイントをピックアップする（90分）
7	課題２　　敷地　見学会	取り組みスケジュールを作成する（90分）	敷地調査結果をまとめデザインアイディアを作成する（90分）
8	課題２　中間指導①　（エスキスチェック：コンセプトと全体計画）	アイディアをカタチにし、表現する（90分）	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
9	課題２　中間指導②　（エスキスチェック：コンセプトと全体計画）	デザインを改善し、表現する（90分）	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
10	課題２　中間指導③　（エスキスチェック：ランドスケープと平面計画）	デザインを改善し、表現する（90分）	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
11	課題２　中間指導④　（エスキスチェック：平面計画と断面構成）	デザインを改善し、表現する（90分）	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
12	課題２　中間指導⑤　（エスキスチェック：平面計画と断面構成）	デザインを改善し、表現する（90分）	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
13	課題２　中間指導⑥　（エスキスチェック：作図　ダイアグラム　プレゼンテーション）	デザインを改善し、表現する（90分）	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
14	課題２　中間指導⑦　（エスキスチェック：作図　ダイアグラム　プレゼンテーション）	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
15	課題提出・講評会	プレゼンテーションにまとめる（90分）	改善点をまとめる（90分）
16	合同発表会、総括及びフィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証	プレゼンテーションにまとめる（90分）	ポートフォリオに使用できるようにプレゼンを行う（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂとﾍﾙｽｹｱ （科目ナンバリング：SPS422073，SPS522058　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　和裕（経営学科・准教授）、三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2　（単位認定責任者：　佐藤　和裕　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、スポーツとヘルスケアについての基礎的な科学的知識を深めさせるように講義をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

身体運動に異常が出ればスポーツ選手個人がもつパフォーマンスの発揮ができないばかりか、障害をまねく危険性がある。そこで外傷・障害の予防とコンディショニングの手法に関して身につける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

スポーツを見つめる科学的な視点。スポーツにおける基礎理論の理解と実践的応用について理解することができる。

授業全体の内容と概要

アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画（実施上の留意点，進め方）。予防・治療・再発防止のテーピングの解説と演習。スポーツマッサージの解説。アイシング・ストレッチングなどの解説。特殊環境下での対応。アンチトーピング（ドーピング防止とドーピングコントロール）。トップアスリートの育成・強化の方法とその評価。競技力向上のためのチームマネジメント。について分かりやすく講義する。
「ＳＤＧ　４．質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

授業はパワーポイント及び配布物資料で実施しコンディショニングの事例を紹介しコンディショニングのＤＶＤも活用しながら講義形式で行う。授業によってはグループワークで思考・考察・発表を行い学習していく。また、授業の終わりに振り返りを行う。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

ノートやプリントは毎回必ず持参すること、授業中は口頭説明にも注意を向けノートやプリント等にメモしながらノート作成を行うこと。口頭で説明したことにも重要な事柄が含まれる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツ指導者（スポーツコーチングリーダー）資格課程、スポーツソーシャルワーカー資格課程。

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	３０％	６０％	１０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業に対する積極性	準備学習、事後学習はもとより積極的に授業に参加するなど、他の学生の模範となる授業態度であり、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされ理解を深めるために受講し、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされ普通に受講し、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされてはいないが、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなく、板書や課題提出ができなかった。
コンディショニングについての基礎知識・領域理解	幅い領域について基礎的な知識を持ち、、それぞれの領域について理解し説明できた。	多様な領域からの見解を深く理解できた。	多様な領域からの見解を一定程度理解できた。	多様な領域からの見解をある程度理解できた。	多様な領域からの見解をまったく理解ができなかった。
知識に基づく思考・判断	幅広い分野の知識・理解をもとにして、問題に対して多角的な思考力・判断力を行うことができた。	多様な思考力・判断力が身につけることができた。	多様な思考力・判断力が一定程度身につけることができた。	多様な思考力・判断力がある程度身につけることができた。	多様な思考力・判断力がまったく身につけることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂとﾍﾙｽｹｱ （科目ナンバリング：SPS422073，SPS522058　　）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　和裕（経営学科・准教授）、三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2　（単位認定責任者：　佐藤　和裕　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、スポーツとヘルスケアについての基礎的な科学的知識を深めさせるように講義をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『養成講習会用テキストReference Book』	JSPO	公益財団法人日本スポーツ協会			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）（佐藤和裕）	事前にシラバスを読んで確認しておく（９０分）	ガイダンスの内容を理解しておく（９０分）
2	指導者の心構え・視点（佐藤和裕）	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
3	スポーツと健康・アスリートの健康管理（佐藤和裕）	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
4	アスリートの内科的障害と対策（佐藤和裕）	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
5	女性アスリートの障害と対策（佐藤和裕）	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
6	スポーツによる精神障害と対策（佐藤和裕）	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
7	外傷・障害の予防（佐藤和裕）	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
8	コンディショニングの手法、ストレッチング・アイシング（佐藤和裕）	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
9	コンディショニングの手法、テーピング基本（佐藤和裕）	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
10	救急処置、救急蘇生法（佐藤和裕）	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
11	救急処置、外科的応急処置（佐藤和裕）	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
12	アンチドーピング（三嶋康嗣）	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
13	コーチング環境の特徴（三嶋康嗣）	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
14	スポーツ組織のマネジメント（三嶋康嗣）	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
15	障がい者とスポーツ（三嶋康嗣）	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
16	まとめ・授業改善アンケートの実施（三嶋康嗣） 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	ノート、プリントで講義内容を確認しておく（９０分）	専門用語の意味や授業内容を理解しておく（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目　基幹科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	公共ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論 （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	山本一彦（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　山本　一彦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

地域ガバナンスの意味を知り、公共性を担うさまざまなマネジメント主体の特質と地域社会のよりよい発展について考え、現代のサードセクターの意義について理解する力を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ３、ＤＰ４に対応する。

到達目標

地域ガバナンスの理論とサードセクターについて単に知識を習得するだけでなく、地域のさまざまなマネジメント主体の特質や問題点とわれわれのかかわりを理解し、地域社会のよりよいあり方について自ら考える姿勢をもつ。

授業全体の内容と概要

地域ガバナンスの営みとその担い手としての生活者に目を向け、さまざまなマネジメント主体の特質と生活者とのかかわりをとり上げる。さらに、地域社会の持続可能性を支えるサードセクターと多様なマネジメント主体の共生的関係を探り、北海道の内発的発展について考察する。

授業の方法

授業は現代のさまざまな事例を素材としながら講義形式で行ない、必要な場合には資料を配布する。単元・項目によっては受講者の見解を知るための小文を提出してもらい、概要を発表する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

さまざまなテーマについて自らか考える「主体的・能動的」な姿勢での受講を求める。本試験・追試験結果が保留であった場合、レポート課題の提出が必要。保留後の合格の場合は、評価はＣとする。尚、不測の事態の際はオンラインで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
９０%	０%	０%	０%	０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識	定期試験における基礎事項該当部分で9割以上の正答があった。	同8割以上9割未満の正答であった。	同7割以上8割未満の正答であった。	同6割以上7割未満の正答であった。	同部分の正答が6割に届かなかった。
思考力・判断力等	地域ガバナンス概念を軸にして、さまざまなセクターのマネジメント活動の特質と意義を充分に考察できていた。	左記の事項についておおむね考察できていた。	左記の事項について広く一般的水準の考察には達していた。	左記の事項についての考察が最低限の水準に留まっていた。	考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。
地域問題への分析力・主体性等	授業の中心的テーマであるサードセクターを中心に、現実の地域問題について充分な主体的分析ができていた。	左記の事項について概ね考察できていた。	左記の事項について広く一般的水準の考察には達していた。	左記の事項についての考察が最低限の水準に留まっていた。	考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目　基幹科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	公共ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論 （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	山本一彦（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　山本　一彦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	※科目ガイダンス・・・・全体概要、目的とねらい、履修上の注意、評価方法,シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）、前年度授業アンケートの結果概要説明	シラバス内容事前確認　（９０分）	目的とねらいについての復習・確認（９０分）
2	Ⅰ.地域ガバナンスの視点 1.高度産業化と地域社会の変貌 ・・・・生活者と社会関係資本	産業活動の高度化が地域社会をどのように変えたかについての事前考察（９０分）	循域社会の持続と生活者の社会関係資本の重要性についての復習・理解（９０分）
3	Ⅰ.地域ガバナンスの視点 2.地域ガバナンスとは何か？	地域がガバナンスされるとはどのようなことかの事前考察（９０分）	地域ガバナンス概念の源流、その意味についての復習・理解（９０分）
4	Ⅱ.地域ガバナンスのアクター 1.多様なマネジメント主体と公共性の担い手	地域社会におけるマネジメント主体のタイプについての事前考察（９０分）	多様なマネジメント主体の特質と領域についての復習・理解（９０分）
5	Ⅱ.地域ガバナンスのアクター 2.地方政府	地方公共団体はどのような役割を果たすべきかについての事前考察（９０分）	地域ガバナンスでの地方政府の役割の意義と限界についての復習・理解（９０分）
6	Ⅱ.地域ガバナンスのアクター 3.民間営利組織	営利事業が地域社会で果たすべき役割についての事前考察（９０分）	地域ガバナンスでの企業の企業の役割の意義と限界についての復習・理解（９０分）
7	Ⅲ.現代のサードセクター 1.社会的経済の領域	民間領域に営利企業以外のどのような組織・団体があるかの事前考察（９０分）	社会的経済組織の現代的意義と地域における可能性についての復習・理解（９０分）
8	Ⅲ.現代のサードセクター 2.ボランタリー・エコノミーとNPO法人	経営組織としてのNPO法人の登場についての事前確認（９０分）	自発的市民セクターの重要性とNPO法人の意義についての復習・理解（９０分）
9	Ⅲ.現代のサードセクター 3.ワーカーズ・コレクティブ ・・・・生産者・労働者の「協同」	協同組合の歴史的意義についての事前考察（９０分）	ワーカーズコレクティブの事業組織としての特質についての復習・理解(９０分)
10	Ⅲ.現代のサードセクター 3.ワーカーズ・コレクティブ ・・・・生産者・労働者の「協同」	地域におけるワーカーズコレクティブの役割についての事前考察（９０分）	出資・経営・労働一体の事業組織と市民が「働くこと」についての復習・理解（９０分）
11	Ⅳ.内発的地域振興に向けて 1.社会問題と地域社会の持続可能性	現代の地域社会で何が社会問題となっているかについての事前考察（９０分）	地域社会の持続可能性にとって重要な施策についての復習・理解（９０分）
12	Ⅳ.内発的地域振興に向けて 2.「地域公共性」とマネジメント主体の共生的関係	異なるマネジメント主体間の協働かんけいのあり方についての事前考察（９０分）	地域におけるマネジメント主体間の協働の重要性についての復習・理解（９０分）
13	Ⅳ.内発的地域振興に向けて 2.「地域公共性」とマネジメント主体の共生的関係	社会的企業とはどのような事業組織かについての事前考察（９０分）	地域マネジメントにおける社会的企業の意義についての復習・理解（９０分）
14	Ⅳ.内発的地域振興に向けて 3.北海道の内発的発展へ内発的地域主義と北海道	北海道の地域社会にとって何が必要とされているかいについての事前考察（９０分）	内発的地域主義の意義と北海道にとっての重要性についての復習・理解（９０分）
15	※総括と試験概要説明、授業アンケート実施 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	ノートの整理と重要事項のチェック（９０分）	評価に関する確認と理解 試験対応のための復習・理解（９０分）
16	※試験および解説 60分の試験終了、残りの30分で解説	試験対応準備（９０）	解説内容の確認・理解（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	聴覚障害教育総論 （科目ナンバリング：SNE122113　　）				
授業担当者 （所属・職名）	室岡　弘明（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	Ｉ号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　室岡　弘明　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場の勤務経験や教育行政の経験を活かして、聴覚障害教育に係る今日的な課題への対応について指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

聴覚障害のある幼児、児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた聴覚障害教育の内容・方法について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

聴覚障害の状態や特性及び心身の発達段階等を踏まえた聴覚障害教育の内容・方法について理解し、説明するとともに、テーマに即して、限られた時間内でレポートを記述できる。

授業全体の内容と概要

聴覚障害の起因となる聴覚器官の病理面と心理面及び生理面の特徴と幼児、児童又は生徒一人一人の聞こえの状態と言語面及び心理面の特性と発達について説明する。また、特別支援学校（聴覚障害）の教育課程や指導における配慮事項について具体的な事例を取り入れて説明する。
「SDG10.人や国の不平等をなくそう」の関連科目

授業の方法

授業は、パワーポイントや実際の授業映像（DVD）および配布資料で実施し、説明した後、ディスカッションし、レポート提出を行う。なお、 レポートはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教職課程（特別支援）必修科目なので遅刻や欠席をしないように努めること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（特別支援）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。
試験結果やレポートの提出状況、授業の取り組み状況により評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	４０%	０%	０%	10%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
聴覚障害の特性と教育内容の習得	聴覚障害教育に係る知識・技能を積極的に習得し、その内容を的確に説明できた。	聴覚障害教育に係る知識・技能を習得し、その内容を説明できた。	聴覚障害教育に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容を説明できた。	聴覚障害教育に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容をほぼ説明できた。	聴覚障害教育に係る基礎的な知識・技能の習得や、その内容説明ができなかった。
授業テーマに関するレポートの記述	テーマに基づき、的確な思考力・判断力のもと、論理的な内容で、時間内に記述できた。	テーマに基づき、思考力・判断力を活かした内容で、時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、思考力・判断力のもと、時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、ほぼ時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、時間内に記述できなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に主体的・積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心を持って参加することができた。	授業にほぼ関心を持って参加することができた。	授業に関心を持って参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	聴覚障害教育総論 （科目ナンバリング：SNE122113　　）				
授業担当者 （所属・職名）	室岡　弘明（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	Ｉ号館１階非常勤講師室	
単位数	2	（単位認定責任者：　　室岡　弘明　　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場の勤務経験や教育行政の経験を活かして、聴覚障害教育に係る今日的な課題への対応について指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『聴覚障害教育の基本と実際』	中野善達	田研出版	2008	978-4860890186	
2	『聴覚障害教育の手引』	文部科学省	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-562-2	
3	『聴覚障害教育のこれまでとこれから』	脇中起余子	北大路書房	2009	978-4762826900	
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 聴覚障害とは 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを確認し、関連する資料の収集に努めること。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
2	特別支援学校（聴覚障害）の教育の実際	次回授業範囲を予習し、 関連する資料の収集に努めること。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
3	聴覚障害のある幼児、児童又は生徒が受ける教育の場	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
4	聞こえのしくみと聴覚障害の分類	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
5	聞こえと聴力検査の実際	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
6	オージオグラムと聴力型	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
7	補聴器と人工内耳	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
8	聴覚障害のある幼児、児童又は生徒の発達的特性（発達と心理）	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
9	聴覚障害幼児の言語発達	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
10	聴覚障害教育の歴史的経過（１）～欧米について	次回授業範囲を予習し、 関連する資料の収集に努めること。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
11	聴覚障害教育の歴史的経過（２）～日本について	次回授業範囲を予習し、 関連する資料の収集に努めること。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
12	聴覚障害教育における教育課程	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
13	聴覚障害者のコミュニケーション手段	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
14	保護者への支援	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
15	聴覚障害教育の実際、まとめ 授業改善アンケートの実施	次回授業範囲を予習し、 関連する資料の収集に努めること。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
16	試験（６０分の試験終了後、残りの３０分で解説を行う。フィードバック） 科目を修了して『身に付く力』についての検証	講義資料等で講義内容を整理する。（９０分）	試験の結果を見直す。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	ﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ （科目ナンバリング：DES222026　　）				
授業担当者 （所属・職名）	林　春生（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　林　春生　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	国際デザイン実務経験４０年間を活かしたプロダクトデザイン講義である。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板を参照の事				

概要

履修目標

モノ、コト、商品等をデザインするプロダクトデザイナーになる為に必要な知識、技術、プロセスを習得する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

プロダクトデザイナーとしてモノ,コトの見方、考え方、発想法、問題解決の為のアイデア展開、造形力、表現技術、
プレゼンテーション技術を習得する。

授業全体の内容と概要

デザインするテーマをマーケットリサーチし、現状を把握、問題点抽出、アイデア展開、造形、
ポスター等、表現方法を考察、可視化しプレゼンテーションして第三者の意見を考察し、自分の力量を認識する。

授業の方法

課題に沿ってマーケットリサーチをグループで行い、現状とモノの潜在価値を把握する。問題点を抽出しアイデアを発想し、デザインして第三者にプレゼンテーションする。ディスカッションをして自分の考察し、デザインの深さを認識する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

積み重ねの授業ですので、欠席するとついていけなくなる。欠席しないように。
履修者は鉛筆（ハイユニ4H～4B）、PM-PAD　A3(マーカー用紙),コピックマーカー（クールグレイC1～C8,黒）、パステル用意の事。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は２2回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	80%	０％	20%	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
モノの本質を捉え、新しい価値を創り出せる。	モノの本質を完璧に捉え、新しい価値を創造出来た。	モノの本質を上手く捉え、今まで以上の価値を創造出来た。	モノの本質を捉え、今まで以上の価値を創造出来た。	モノの本質を捉え、価値を創造出来た。	モノの本質を捉えられず、価値を創造出来なかった。
問題解決のアイデアを出せる。	問題解決のアイデアを完璧に出し、従来の価値以上のものを創造することに繋げられた。	問題解決のアイデアを上手く出し、従来の価値以上のものを創造できた。	問題解決のアイデアを出し、従来の価値以上のものを創造できた。	問題解決のアイデアを辛うじて出し、従来価値以上のものを発想できた。	問題解決のアイデアが出せない、従来の価値以上のものを作ることが出来なかった。
新デザインを提案することが出来る。	自分のアイデアを完璧に可視化出来て、造形力やアプローチも完璧である。周りを巻き込む力があった。	自分のアイデアを上手に可視化出来て、造形力やアプローチも上手であった。	自分のアイデアを可視化出来て、造形力やアプローチも出来た。	自分のアイデアを辛うじて可視化出来て、造形力やアプローチも辛うじて出来た。	自分のアイデアを可視化出来ない、造形力やアプローチも出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	ﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ （科目ナンバリング：DES222026　　）				
授業担当者 （所属・職名）	林　春生（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　林　春生　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	国際デザイン実務経験４０年間を活かしたプロダクトデザイン講義である。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板を参照の事				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明 プロダクトデザインとは デザインテーマ発表 マーケットリサーチ	プロダクトデザインとは？調べておく、シラバスを読む。（４５分）	プロダクトデザインとは？調べておく、シラバスを読む。（４５分）
2	マーケットリサーチ 潜在意識探求、問題点抽出	プロダクトデザインとは？調べておく、シラバスを読む。（４５分）	プロダクトデザインとは？調べておく、シラバスを読む。（４５分）
3	グループに分かれてブレインストーミング	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
4	マーケットチャート作成	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
5	まとめ グループごとに見解を発表	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
6	問題定義から解決アイデアを展開 アイデアスケッチスタート	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
7	アイデアスケッチ 多様な方向でスケッチする	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
8	アイデアスケッチまとめ１	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
9	アイデアスケッチ１プレゼンテーション 第三者の意見を汲む	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
10	アイデアスケッチ２ 改良し新しい価値を入れ込む	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
11	アイデアスケッチ２まとめ 第三者に伝わるように	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
12	アイデアスケッチ２プレゼンテーション デザイン審議会	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
13	デザイン方向決定 デザイン作業、　最終デザインの検討	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
14	デザイン作業 アイデアスケッチから起こす	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
15	デザイン作業 アイデアの中から気づきを探す	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
16	デザイン作業 コンセプトを決める	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	デザイン審査 自分で評価を下だす。	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
18	デザイン再考 自分で否定して もう一度、再考する。	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
19	デザイン修正 完成度を上げる。	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
20	デザイン完成。 確認	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
21	レンダリング 特徴が出ているか？	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
22	レンダリング 構図は良いか	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
23	レンダリング 使用する色味の吟味	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
24	レンダリング 適した手法か？	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
25	レンダリング 完成度をあげる	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
26	レンダリング 細かい調整	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
27	レンダリングを完成させる	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
28	ポスター作成 プレゼンボード作成	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
29	ポスター作成 プレゼンボード作成 第三者に伝わるか	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
30	ポスター作成 プレゼンボード作成 最後のチェック	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
31	プレゼンテーション 第三者の意見をしっかりと聞く。	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
32	総評 授業に係る講評・解説によるフィードバック。科目を修了して『身に付く力』についての検証。 授業改善アンケートの実施	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	授業全体を俯瞰して、今後の計画を考察する。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択必修
科目名称	建築構造力学III （科目ナンバリング：BSM323026　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　小笠原　健　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士事務所ならびに特定建設業者である民間企業での勤務経験を活かし、実践的かつ現実的な講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会で建築されている建築物のほとんどは不静定構造物であり、これらの実構造物の基本となるのが、力学である。
「建築構造力学III」では、静定構造物の知識を基礎に不静定構造物の解法の修得を目的とする。

授業の位置づけ

建築学科のＤＰ1、ＤＰ3、ＤＰ4に対応する。

到達目標

簡単な不静定構造物の合理的かつ経済的な設計ができる。
梁の変形、応力法、変位法について説明できる。

授業全体の内容と概要

「建築構造力学Ⅰ・Ⅱ」の知識を基礎に、一級建築士レベルの不静定構造物の解法について修得する。

授業の方法

授業は配布物と板書を中心に講義形式で行う。授業では、講義と問題・解説を交えた内容とする。
不測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

事前に配布した資料は必ず持参のこと。
やむを得ない事情で欠席する場合には、必ず連絡をすることとし、無断欠席は認めないものとする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目，教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
１００%	0%	0%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
梁の変形について修得する。	変形について簡単に説明できた。	曲げについて簡単に説明できた。	曲げについてほぼ簡単に説明できた。	曲げについて説明できた。	曲げについて簡単に説明できなかった。
応力法について修得する。	応力法をトラスやラーメンに応用することができた。	静定梁および不静定梁について簡単に説明できた。	静定梁および不静定梁についてほぼ簡単に説明できた。	静定梁を簡単に説明できるが不静定梁については説明できた。	静定梁を簡単に説明できるが不静定梁について簡単に説明できなかった。
変位法について修得する。	変位法を理解し、不静定梁を解くことができた。	変位法を簡単に説明できた。	たわみとたわみ角について簡単に説明できた。	たわみとたわみ角について説明できた。	たわみとたわみ角について簡単に説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択必修
科目名称	建築構造力学III （科目ナンバリング：BSM323026　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　小笠原　健　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士事務所ならびに特定建設業者である民間企業での勤務経験を活かし、実践的かつ現実的な講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『建築構造テキスト』		建築資料研究社	2020		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業の進め方について説明 授業改善アンケート結果に関する説明（小笠原　健） 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバス資料を確認して、構造力学Ⅰ・Ⅱの復習を行う。（90分）	授業内容を整理して復習（90分）
2	静定構造物と不静定構造物との違いの説明①	配布資料の指定箇所の予習（90分）	授業内容を整理して復習（90分）
3	静定構造物と不静定構造物との違いの説明②	配布資料の指定箇所の予習（90分）	授業内容を整理して復習（90分）
4	不静定構造物の判別式	配布資料の指定箇所の予習（90分）	授業内容を整理して復習（90分）
5	応力度と許容応力度	配布資料の指定箇所の予習（90分）	授業内容を整理して復習（90分）
6	部材の変形（ひずみ・座屈・たわみ・たわみ角）	配布資料の指定箇所の予習（90分）	授業内容を整理して復習（90分）
7	モールの定理	配布資料の指定箇所の予習（90分）	授業内容を整理して復習（90分）
8	マックスウェルの相反定理・ラーメンの変形	配布資料の指定箇所の予習（90分）	授業内容を整理して復習（90分）
9	不静定構造物の応力（重ね合わせの原理）	配布資料の指定箇所の予習（90分）	授業内容を整理して復習（90分）
10	不静定ラーメン（分割・到達モーメント）	配布資料の指定箇所の予習（90分）	授業内容を整理して復習（90分）
11	固定モーメント法	配布資料の指定箇所の予習（90分）	授業内容を整理して復習（90分）
12	ラーメンの水平変位と水平剛性	配布資料の指定箇所の予習（90分）	授業内容を整理して復習（90分）
13	固有周期（振動）のメカニズム	配布資料の指定箇所の予習（90分）	授業内容を整理して復習（90分）
14	加速度応答スペクトル	配布資料の指定箇所の予習（90分）	授業内容を整理して復習（90分）
15	崩壊メカニズム（仮想仕事の原理）	配布資料の指定箇所の予習（90分）	授業内容を整理して復習（90分）
16	定期試験（60分の試験終了後，残りの30分で解説） 授業に係る講評・解説によるフィードバック、授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」についての検証	全体内容の再確認及び理解（90分）	試験内容の復習（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	福祉ｻｰﾋﾞｽの組織と経営 （科目ナンバリング：SWS112015，SWS422080，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	大島　康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　大島　康雄　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	独立型社会福祉士事務所を経営している教員が準市場における、社会福祉士のビジネスモデルを提示していきます。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

福祉サービスでは組織論や経営論が必要になっている背景を理解する。将来、社会福祉領域で活躍する時に必要な知識であるため、組織論、リーダーシップ、経営論などを理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

リーダーシップ論、組織論、経営論など説明できる。
福祉組織の課題を具体的に述べることができる。

授業全体の内容と概要

福祉サービスに係る種々の組織や団体について理解し，組織のマネジメントに関する基礎理論，多様な知識にもとづくマネジメント論の観点から経営戦略のあり方，適切なサービス提供体制などを取り上げる。
「SDGs 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では教科書と板書を活用しながら知識を獲得していきます（プレゼンテーション・グループワーク・ディスカッション含む）。また、確認テストを時間内に実施し、フィードバックとして回収後、回答の解説を行う。ＩＣＴ活用（双方向型授業・自主学習支援など。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は１０回以上の出席が必要。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	０%	０%	３０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業に参加し、教科書や板書、確認テストを受けている。	１５回以上授業に参加し、積極的に学習をできた。	１４回以上授業に参加し、積極的に学習をできた。	１３回以上授業に参加し、積極的に学習をできた。	１２～１０回以上授業に参加し、積極的に学習ができた。	９回以下しか授業しておらず、消極的な学習しかできかかった。
確認テストの内容を理解し、定期試験の成績が６０点以上である。	確認テストを受けて、定期試験の成績が１００～９０点獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が８９～８０点以上獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が７９～７０点以上獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が６９～６０点以上獲得できた。	確認テストをある程度受け、定期試験の成績が５９点以下しか取れなかった。
教科書、資料の内容を理解するため事前学習を行い、授業内で質問や自分の意見をプレゼンテーションする。	事前学習を行い、授業中に５回以上質問や意見を述べることができた。	事前学習を行い、授業中に４回質問や意見を述べることができた。	事前学習を行い、授業中に３回質問や意見を述べることができた。	事前学習を行い、授業中に２回質問や意見を述べることができた。	事前学習や質問、意見などを答えることが出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	福祉ｻｰﾋﾞｽの組織と経営 （科目ナンバリング：SWS112015，SWS422080，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	大島　康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2	（単位認定責任者：　大島　康雄　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	独立型社会福祉士事務所を経営している教員が準市場における、社会福祉士のビジネスモデルを提示していきます。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『福祉サービスの組織と経営』』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集	中央法規	2021年	978-4-8058-8244-	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、福祉サービスにおけるマネジメント。授業改善アンケート結果反映の説明 当該科目を修了して「身に付く力」についても説明	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
2	福祉サービスに係る組織・団体(１）法人とは	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
3	福祉サービスに係る組織・団体(２）社会福祉法人	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
4	福祉サービスに係る組織・団体(３）医療法人	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
5	福祉サービスに係る組織・団体(４）NPO法人その他	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
6	組織のマネジメントに関連する基礎理論(１）マネジメントの本質	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
7	組織のマネジメントに関連する基礎理論(２）組織のあり方	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
8	組織のマネジメントに関連する基礎理論(３）意思決定論	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
9	組織のマネジメントに関連する基礎理論(４）リーダーシップ論	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
10	経営戦略の構築(１）サービスマネジメント	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
11	経営戦略の構築(２）リスクマネジメント	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
12	経営戦略の構築(３）ヒューマンリソースマネジメント【人材採用】	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
13	経営戦略の構築(４）　ヒューマンリソースマネジメント【能力開発】	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
14	経営戦略の構築(５）ヒューマンリソースマネジメント【評価処遇】 授業内フィードバック	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
15	テスト	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
16	テスト及び試験問題の解説。授業改善アンケートの実施。 科目を修了して『身に付く力』についての検証	確認テストの学習（９０分）	テストの復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	住宅設計演習Ⅰ （科目ナンバリング：APT323111　　）				
授業担当者 （所属・職名）	君　興治（建築学科・特任准教授）　野村　和也（建築学科・非常勤講師）	研究室等所在	２号館４階		
単位数	2　（単位認定責任者：　君　興治　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイディアが、見る人に伝わり、理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整し研究室もしくはオンラインで対応。				

概要

履修目標

課題として、住宅建築の計画・設計・作図を行う。土地、地域、利用者、建物の規模、をもとに、利用の目的やそれに合わせた動線計画を行う。本科目では、課題に合わせた平面計画をし、それを正しく作図し、プレゼンテーションする手法を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP3.DP4.DP5に対応する科目

到達目標

住宅建築の主要条件、付帯条件を満たし、建築関係法規に則った計画に、設計者の考え方設計主旨を盛り込み、その内容をわかりやすく表現する建築計画とプレゼンテーションができる。

授業全体の内容と概要

木造・RC壁式構造で住宅の計画とコンセプトを段階的に指導することで、設計者の意図をダイヤグラム、パースもしくは模型を使い、伝わるような表現方法を修得する。提出後は、作品の発表会を行い、他の作品から多様な考えと自分の作品を比較し、学ぶ機会を設ける。
「SDGs１２　つくる責任　つかう責任」
「SDGs１１　住み続けられるまちづくりを」
狭い視野での設計だけでなく町や地域を念頭においた設計を指導する。

授業の方法

授業では，板書やICT（チームスを使用しながら、図面をオンライン上その場で液晶ペンタブレットで添削し、毎事業ごとに保存することで、授業の課題経過をデジタル的にの残し、振り返りの自習を実現する。）をしながら詳細図をもとに構造の考え方を説明し、双方向授業で実施する。
また、授業中毎回、進行状況と中間指導を行い添削する。プレゼンテーションに対しては授業内で講評しフィードバックする。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

課題を構築するために、授業には必ず出席し、成果の提示と中間指導を受けなければならない。また、課題の説明等主要な説明は授業の最初に行われるため遅刻は厳禁とする。時間割上の授業時間内だけで図面を完成させることはむずかしいと思われるので、時間外、および自宅での製図が不可欠である。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、12回以上。提出課題と受講態度との総合判定

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
住宅建築において、主要条件、付帯条件に則った計画ができていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。
建築関係法規に則った計画ができていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。
設計主旨に合った建築計画が出来ていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。
初めてこの作品を見た人が理解しやすいプレゼンテーションで表現されていたか。	各種図面が適したデザインであり、正しく表現することができていた。	各種図面のデザインができ、正しく表現することができていた。	各種図面を正しく表現することができていた。	各種図面を表現することができていた。	各種図面を表現することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	住宅設計演習Ⅰ （科目ナンバリング：APT323111　　）				
授業担当者 （所属・職名）	君　興治（建築学科・特任准教授）　野村　和也（建築学科・非常勤講師）	研究室等所在	２号館４階		
単位数	2　（単位認定責任者：　君　興治　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイディアが、見る人に伝わり、理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整し研究室もしくはオンラインで対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『「コンパクト建築設計資料集成　第３版」　日本建築学会編』	村田誠四郎	丸善株式会社	2005	9784621075098	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『矩計図で徹底的に学ぶ住宅設計「RC編」』	中山　繁信	オーム社	2016	9784274218828	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明　授業ガイダンス 科目を修了して、根拠やいろいろなデータをもとに人や社会を考えた設計主旨や計画を考えることができる力が身につくことを説明	シラバスを読んでおくこと（90分）	プリントを読んで理解しておくこと（90分）
2	即日課題１　住宅とは 提出された課題への添削、講評を記載し、各学生に返却することで、フィードバックする。	即日課題　住宅とはについて考えをまとめる（90分）	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
3	即日課題２　敷地と家の関係 提出された課題への添削、講評を記載し、各学生に返却することで、フィードバックする。	即日課題　敷地と家の関係について考えをまとめる（90分）	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
4	即日課題３　これからの家族について 提出された課題への添削、講評を記載し、各学生に返却することで、フィードバックする。	即日課題　これからの家族についてについて考えをまとめる（90分）	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
5	即日課題４　地域と家族 提出された課題への添削、講評を記載し、各学生に返却することで、フィードバックする。	即日課題　地域と家族について考えをまとめる（90分）	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
6	設計課題　住宅計画　木構造・RC造 （課題説明、集合住宅の解説） 課題の設計途中においても毎回提出を促し、添削や計画への助言を書き、返却したり、授業内での指導を行うことで、フィードバックする。	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
7	設計課題　住宅計画　木構造・RC造 （課題説明、集合住宅の解説） 課題の設計途中においても毎回提出を促し、添削や計画への助言を書き、返却したり、授業内での指導を行うことで、フィードバックする。	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
8	中間指導② コンセプトと全体計画 （エスキスチェック） 課題の設計途中においても毎回提出を促し、添削や計画への助言を書き、返却したり、授業内での指導を行うことで、フィードバックする。	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
9	中間指導③ 全体計画とランドスケープ （エスキスチェック） 課題の設計途中においても毎回提出を促し、添削や計画への助言を書き、返却したり、授業内での指導を行うことで、フィードバックする。	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
10	中間指導④ ランドスケープと平面計画 （エスキスチェック） 課題の設計途中においても毎回提出を促し、添削や計画への助言を書き、返却したり、授業内での指導を行うことで、フィードバックする。	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
11	中間指導⑤ 平面計画と断面構成 （エスキスチェック） 課題の設計途中においても毎回提出を促し、添削や計画への助言を書き、返却したり、授業内での指導を行うことで、フィードバックする。	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
12	中間指導⑥ 平面計画と断面構成 （ダイアグラムについて） 課題の設計途中においても毎回提出を促し、添削や計画への助言を書き、返却したり、授業内での指導を行うことで、フィードバックする。	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
13	中間指導⑦　模型とプレゼンテーション （模型の造り方　レイアウトチェック）	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
14	中間指導⑧ プレゼンテーション （レイアウトチェック）	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
15	課題提出・講評会 発表への講評や指導を行い、フィードバックする。	提出課題の準備をしておくこと（90分）	他の学生の発表内容をまとめる（90分）
16	最終指導　プレゼンテーションの指導 これまでの内容を踏まえ、総講評として、各学生にコメントをし、フィードバックする。 科目を修了して「身に付く力」についての検証 授業改善アンケートの実施	講評会の内容からさらにどのようにプレゼンするか考えておくこと（90分）	作品の調整、ポートフォリオに使用できるようにプレゼンを行う（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	刑事司法と福祉 （科目ナンバリング：SWS112016　　）				
授業担当者 （所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　西野　克俊　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、医療観察法等の基礎となる知識等習得のための指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

今日求められている社会福祉と刑事司法の連携強化を視野に，ソーシャルワーカーに必要とされる刑事司法制度に関する知識・役割について理解を深める。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、ＤＰ３、ＤＰ４に対応する。

到達目標

①刑事司法の近年の動向と制度の仕組みを理解する。
②刑事司法における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割について理解する。
③刑事司法の制度に関わる関係機関等の役割について理解する。

授業全体の内容と概要

刑事司法の仕組みを学ぶとともに，犯罪をした者や非行のある少年に対する社会のなかでの処遇に関するソーシャルワーカーの関わりを考える。
「SDG１．貧困をなくそう」、「SDG１０．人や国の不平等をなくそう」の関連授業

授業の方法

①授業形態は講義形式で行う。
②テキスト及び配布資料を使用し、ポイントとすべき箇所は説明、板書を行う。
③質問等に関しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。
④確認テストを実施し、解答回収後説明を行う。
⑤Microsoft　Teams/Formsの諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①教科書は必ず持参すること。
②必要な資料等は適宜配布する。
③２０分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。
④不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け，本学の基本方針及び規程等に基づき，学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程・精神保健福祉士国家試験受験資格過程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は１０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	０%	３０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	履修目標を越えて広く刑事司法と福祉に関する知識を理解できた。	社会福祉と刑事司法の連携の必要性を視野にソーシャルワーカーに必要な刑事司法に関する知識を理解できた。	社会福祉と刑事司法の連携の必要性を知ることができた。	刑事司法の意義と仕組みを説明することができた。	刑事司法の意義と仕組みを説明することができなかった。
思考・判断	刑事司法と司法福祉のあり方について考えることができた。	保護観察官，社会復帰調整官の具体的業務について考えることができた。	刑事司法におけるソーシャルワーカーの役割を考えることができた。	刑事司法におけるソーシャルワーカーの役割を考える姿勢を示した。	刑事司法におけるソーシャルワーカーの役割を考える姿勢を示せなかった。
関心・意欲	社会福祉と刑事司法との連携について課題を提示することができた。	刑事司法におけるソーシャルワーカーの役割について意見を示すことができた。	刑事司法度の現状を踏まえその課題について考える姿勢を示した。	刑事司法の現状について自分の意見を示すことができた。	刑事司法の現状について考える姿勢を示せなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	刑事司法と福祉 （科目ナンバリング：SWS112016　　）				
授業担当者 （所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　西野　克俊　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、医療観察法等の基礎となる知識等習得のための指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新　社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座１０　刑事司法と福祉　第２版』	一般社団法人　日本ソーシャルワーク教育学校連盟　編集	中央法規出版	２０２５	9784824301536	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映及び科目を終了して『身に付く力』についての説明 近年の犯罪の特徴と社会内処遇の重要性－高齢者、軽度の知的障害や発達障害をもつ犯罪者の増加など	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	教科書を読み授業範囲の復習をする（９０分）
2	刑事司法における近年の動向とこれを取り巻く社会環境（１）－近年の動向・社会環境	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	教科書を読み授業範囲の復習をする（９０分）
3	刑事司法における近年の動向とこれを取り巻く社会環境（２）－社会福祉士・精神保健福祉士の役割	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	教科書を読み授業範囲の復習をする（９０分）
4	刑事司法－刑法・刑事事件の手続き、処遇	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	教科書を読み授業範囲の復習をする（９０分）
5	少年法－少年法・少年事件の手続き、処遇	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	教科書を読み授業範囲の復習をする（９０分）
6	更生保護制度（１）－制度の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	教科書を読み授業範囲の復習をする（９０分）
7	更生保護制度（２）－生活環境の調整	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	教科書を読み授業範囲の復習をする（９０分）
8	更生保護制度（３）－仮釈放等	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
9	更生保護制度（４）－保護観察	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	教科書を読み授業範囲の復習をする（９０分）
10	更生保護制度（５）－更生緊急保護・団体、専門職等の役割と連携	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	教科書を読み授業範囲の復習をする（９０分）
11	医療観察制度（１）－制度の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	教科書を読み授業範囲の復習をする（９０分）
12	医療観察制度（２）－審判、処遇の流れと内容・関係機関、専門職等の役割と連携	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	教科書を読み授業範囲の復習をする（９０分）
13	犯罪被害者支援（１）－犯罪被害者の法的地位	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	教科書を読み授業範囲の復習をする（９０分）
14	犯罪被害者支援（２）－犯罪被害者支援に関する法	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	教科書を読み授業範囲の復習をする（９０分）
15	犯罪被害者支援（３）－犯罪被害者支援に関する制度・団体、専門職等の役割と連携	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	教科書を読み授業範囲の復習をする（９０分）
16	試験（６０分の試験終了後、３０分でフィードバックを行い、科目を修了して『身に付く力』についての検証） 授業評価アンケートの実施	全授業を振り返り試験に向けた準備（９０分）	試験内容をふまえ授業全体を振り返る(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク演習(専門) Ⅰ （科目ナンバリング：SWS122026　　）				
授業担当者 （所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）・櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）・上原　正希（社会福	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2　（単位認定責任者：　　杉本　大輔　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	ソーシャルワーク、ケアワークの実務経験者が、実践現場における相談業務、介護業務の事例を参考に講義を展開する。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照すること				

概要

履修目標

ソーシャルワーカーとしての姿勢（自己理解、他者理解、倫理綱領）と相談業務の基本的技法（コミュニケーション、面接技法、記録技法、ケースカンファレンス、実践評価）をディスカッション、ロールプレイ、ＤＶＤ鑑賞等を通して体得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3，DP4，DP5に対応する科目

到達目標

様々な援助技術（スキル）を習得することや技法の統合のための理解を深めることができるようになる。また、次年度の相談援助実習に向けて、積極的な討議参加や自己表現ができる。

授業全体の内容と概要

個人・家族、グループ、地域社会への支援をイメージし、ロールプレイ等の学習を通じて、面接や記録などの技法の実際を学ぶ。

授業の方法

３～４つのグループ（１グループ２０名以内）に分かれて、テキストの事例を実際にロールプレイしたり、小グループに分かれてディスカッションを行う。その中で教員のスーパービジョンを受け、自己の振り返りを行い、自己覚知を促す。
また、不測の事態が生じたときは、補講、オンライン等での講義を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

この科目の単位を取得できなかった場合、次年度の相談援助実習及び保育実習を履修できないので注意すること。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程，精神保健福祉士国家試験受験資格課程，保育士養成課程，スクール（学校）ソーシャルワーカー資格課程，子育て支援ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数２０回以上をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	３０％	０％	０％	０％	７０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ソーシャルワークにおける自己理解、他者理解の重要性を理解する。	自己覚知の概念、自己開示の実践、他者理解における実践理論を言語で明確に説明できた。	自己覚知の概念、他者理解における実践理論を言語で明確に説明できた。	自己覚知の概念、自己開示の実践を言語で明確に説明できた。	自己覚知の概念を言語で明確に理解できた。	左記の専門用語を一つも説明できなかった。
ソーシャルワークにおける面接技法を理解する。	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスと重要タームをマイクロカウンセリング技法の用語を用いて説明できた。	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスの重要タームを説明できた。	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスを説明できた。	面接における身体技法を実践できた。	左記の専門タームおよび実践技法を一つも説明及び実践できなかった。
ソーシャルワークにおけるアセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価について理解する。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価について明確に言語で説明でき、且つ各々の矢｜区別りをロールプレイングで実践できた。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価における各々の役割をロールプレイングで実践できた。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、評価、モニタリングの理論と重要性を言語で明確に説明できた。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価の重要性を説明できた。	左記の用語の説明およびロールプレイング実践を一つもできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ演習(専門)Ⅰ （科目ナンバリング：SWS122026　　）				
授業担当者 （所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）・櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）・上原　正希（社会福	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2　（単位認定責任者：　　杉本　大輔　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	ソーシャルワーク、ケアワークの実務経験者が、実践現場における相談業務、介護業務の事例を参考に講義を展開する。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照すること				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ソーシャルワーク演習ワークブック』	相澤譲治　植戸貴子	（株）みらい	２０１３年	978-4-86015-123-2	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（グループ分け　自己紹介） シラバスの説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	１年時の関連科目の復習（９０分）	自己の言動の振り返り（９０分）
2	演習に向けての準備（自己紹介　アイスブレーキング）	１年時の関連科目の復習（９０分）	自己の言動の振り返り（９０分）
3	自己理解１「自己概念を学ぶ」	テキストの読み込み（９０分）	自己の言動の振り返り（９０分）
4	自己理解２「自身のルーツ　家族関係を知る」	テキストの読み込み（９０分）	自己の言動の振り返り（９０分）
5	自己開示と他者理解１「自己開示」	テキストの読み込み（９０分）	自己の言動の振り返り（９０分）
6	自己開示と他者理解２「共感について」	テキストの読み込み（９０分）	自己の言動の振り返り（９０分）
7	自己開示と他者理解３「価値観の違い」	テキストの読み込み（９０分）	自己の言動の振り返り（９０分）
8	コミュニケーション１「コミュニケーションの基本」	テキストの読み込み（９０分）	自己の言動の振り返り（９０分）
9	コミュニケーション２「言語的コミュニケーション」	テキストの読み込み（９０分）	自己の言動の振り返り（９０分）
10	コミュニケーション３「非言語的コミュニケーション」	テキストの読み込み（９０分）	自己の言動の振り返り（９０分）
11	ソーシャルワークの価値と倫理１「価値とは何か」	テキストの読み込み（９０分）	自己の言動の振り返り（９０分）
12	ソーシャルワークの価値と倫理２「倫理とは何か」	テキストの読み込み（９０分）	自己の言動の振り返り（９０分）
13	面世技法１「面接の意義」	テキストの読み込み（９０分）	ＤＶＤ鑑賞による面接技法ポイントのまとめ（９０分）
14	面接技法２「面接の基本」	テキストの読み込み（９０分）	ＤＶＤ鑑賞による面接技法ポイントのまとめ（９０分）
15	記録技法１「面接場面での記録」	テキストの読み込み（９０分）	記録技法のまとめ（９０分）
16	記録技法２「ケース記録」	テキストの読み込み（９０分）	記録技法のまとめ（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	アセスメント１「アセスメントの意義」	テキストの読み込み（９０分）	アセスメントのまとめ（９０分）
18	アセスメント２「利用者の背景を知る」	テキストの読み込み（９０分）	アセスメントのまとめ（９０分）
19	アセスメント３「事例によるロールプレイ」	テキストの読み込み（９０分）	ロールプレイ中の自己の言動の振り返り（９０分）
20	プランニング「アセスメントからの支援計画作成」	テキストの読み込み（９０分）	ロールプレイ中の自己の言動の振り返り（９０分）
21	ケースカンファレンスの方法	テキストの読み込み（９０分）	ケースカンファレンスのポイントのまとめ（９０分）
22	模擬ケースカンファレンス	テキストの読み込み（９０分）	ケースカンファレンスのポイントのまとめ（９０分）
23	評価と効果測定１「利用者の満足度」	テキストの読み込み（９０分）	効果測定技法のまとめ（９０分）
24	評価と効果測定２「支援内容の評価」	テキストの読み込み（９０分）	効果測定技法のまとめ（９０分）
25	コミュニティワーク１「地域ニーズの把握」	テキストの読み込み（９０分）	地域診断のまとめ（９０分）
26	コミュニティワーク２「北広島市の福祉課題明確化」	テキストの読み込み（９０分）	地域診断のまとめ（90分）
27	コミュニティワーク３「課題解決への方法」	テキストの読み込み（90分）	地域支援方法のまとめ（９０分）
28	コミュニティワーク４「広報誌の作成」	テキストの読み込み（９０分）	地域支援方法のまとめ（９０分）
29	支援事例を用いたロールプレイング１	テキストの読み込み（９０分）	演習を通しての自己覚知について文章化（９０分）
30	支援事例を用いたロールプレイング２	テキストの読み込み（９０分）	演習を通しての自己覚知について文章化（９０分）
31	事例研究へのイントロダクション	テキストの読み込み（９０分）	自己総括（９０分）
32	相談援助演習Ⅰ総括 授業全体のフィードバック 科目を修了して『身に付く力』についての検証	テキストの読み込み（９０分）	自己総括（９０分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	写真表現Ⅰ （科目ナンバリング：AEA222122　　）				
授業担当者 （所属・職名）	林　春生（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　林　春生　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	国際企業でデザインプロデュース実務40年間の実績を活かした写真表現講義です。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

表現者になる為に必要な基礎写真技術を習得する。
頭の中にイメージを形成出来るようにして、そのイメージを第三者へ伝達、表現出来るようにする。
自由自在に写真機材を使用できる技術を身に着ける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

自分のイメージを具体的に効果的に写真を使って表現出来るようにする。

授業全体の内容と概要

学生の脳内にイメージが形成出来るように、写真のアイデアスケッチを行う。
自分の想像（脳内のイメージ）を完成した作品に自分の意図したポイントや表現を発表して第三者と意見交流をする。
SDG 12.,つくる責任、つかう責任に準じる。

授業の方法

写真機の構造や成り立ちを理解しつつ、自分のイメージが的確に表現出来るように切磋琢磨する。
写真をプレゼンテーションして第三者の意見を考察する。課題に対するフィードバックを得る。
カメラ機材、ストロボ機材は少数だが用意する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業は積み重ねの学習となる為、欠席しないようにすること。
個人用のSDメモリーカード(64GB)を用意の事。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は10回以上
課題提出は全点必ず。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	20%	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イメージを頭の中に形成出来て、それを写真で表現する事を学ぶ。	イメージを頭の中に完璧に描くことができる。それを写真として完璧に表現できる。	イメージを頭の中に描くことができる。それを写真として完璧に表現できる。	イメージを頭の中に描くことができる。それを写真として表現できる。	イメージを頭の中に辛うじて描くことができる。それを写真として表現できる。	イメージを頭の中に辛うじて描くことができる。それを写真として辛うじて表現できる。
写真の原理、器材の使い方を学ぶ。	自分のイメージしたモノを効果的に完璧に表す為の機材を使用できる。写真を通して表現を完璧に出来る。	自分のイメージしたモノを効果的に表す為の機材を良く使用できる。写真を通して表現が良く出来る。	自分のイメージしたモノを効果的に表す為の機材を使用できる。写真を通して表現が出来る。	自分のイメージしたモノを効果的に表す為の機材を辛うじて使用できる。写真を通して表現が出来る。	自分のイメージしたモノを効果的に表す為の機材を辛うじて使用できる。写真を通して表現が辛うじて出来る。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	写真表現Ⅰ （科目ナンバリング：AEA222122　　）				
授業担当者 （所属・職名）	林　春生（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2	（単位認定責任者：　　林　春生　　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	国際企業でデザインプロデュース実務40年間の実績を活かした写真表現講義です。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明。 科目を修了して『身に付く力』についての説明。 写真とは？　写真の歴史	シラバスを読んでおく。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
2	写真機材の特性、使い方	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
3	レンズの特性、シャッタースピードの特性、絞りの特性、撮像素子の特性	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
4	自分の取りたい写真イメージを作成、コンテ	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
5	作品を撮影	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
6	撮影	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
7	撮影	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
8	作品をプレゼンテーション、評価	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
9	次作品撮影	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
10	作品撮影	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
11	作品撮影	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
12	作品中間審査１	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
13	作品中間審査２	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
14	最終作品撮影	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
15	最終作品撮影	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
16	最終作品プレゼンテーション 総評　授業に係る講評・解説によるフィードバック。科目を修了して『身に付く力』についての検証。 授業改善アンケート	要求された課題を作成する。（90分）	全授業を俯瞰して、今後の行動計画を建てる。（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科４年、経営学科４年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ論 （科目ナンバリング：CLP123062，CLP423081，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	蝦名　美穂（社会福祉学科・専任講師）	研究室等所在	１号館2階		
単位数	2　（単位認定責任者：　蝦名　美穂　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち，教育領域，福祉領域，司法・矯正領域，産業領域での臨床経験を踏まえて講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくはチャットにて事前連絡後に調整をし，研究室で対応。				

概要

履修目標

「カウンセリング」とは何かについて基礎理論，技法などを中心に解説を行う。
その上で，ロールプレイを通して日常行われている「友人同士の相談」と「カウンセリング」の違いについて体験し，理解を深めていく。
この授業を通して，各個人が自己理解を深めるきっかけとなることを期待する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３，DP４，DP５に対応する科目。
経営学科のDP３，DP４，DP５に対応する科目。

到達目標

カウンセリングのなりたち，基礎理論，技法について理解する。
ロールプレイを通して，人の話を聴くことの難しさについて体験する。

授業全体の内容と概要

カウンセリングとは何かについて，これまでの歴史，基本的な原理や理論，技法について解説する。
講義の後半では，ロールプレイを通して学びを深める。

「SDG.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では，教科書や配布資料等を使いながら，カウンセリングの技法を学んでいく（グループワーク、ロールプレイ、ディスカッション含む）。
そして、PC及びスマートフォンを使用する。学習内容の定着および学習理解度を確認するため、毎時間の終了時に質問や感想（リアクションシート）を
Microsoft　Teams/Formsの諸機能を活用して、提出する。これに対して授業者より、次回の講義時もしくは個別にコメントを回答する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業の進行を妨害するような行為，他の受講者の迷惑となる行為を慎むこと。
座席を指定する。ロールプレイに積極的に参加することを望む。
テキストを必ず購入すること。
20分以上の遅刻は欠席とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け，本学の基本方針及び規程等に基づき，学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程　選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は11回とする。
レポート，授業態度等，授業の終わりに提出する感想等（リアクションシート）を評価の対象とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	授業で学んだ内容を理解し，カウンセリングの応答技法をスムーズに使うことができた。	授業で学んだ内容を理解し，カウンセリングの応答技法を概ね使うことができた。	授業で学んだ内容を理解し，カウンセリングの応答技法を一定程度使うことができた。	授業で学んだ内容を理解し，カウンセリングの応答技法を部分的に使うことができた。	授業で学んだ内容を理解し，カウンセリングの応答技法を部分的にも使うことができなかった。
知識の応用・実践	カウンセリングの基本を踏まえて，やり取りの中で起こっていることについて気づき，言葉にすることができた。	カウンセリングの基本を踏まえて，やり取りの中で起こっていることの意味について気がつくことでできた。	カウンセリングの基本を踏まえて，やり取りの中で起こっていることに気がつくことができた。	カウンセリングの基本を踏まえて，やり取りの中で起こっていることに部分的に気がつくことができた。	カウンセリングの基本を踏まえて，やり取りの中で起こっていることに全く気がつくことができなかった。
授業に主体的に取り組む態度（リアクションシート含む）	授業内容に関心をもち，自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ，授業内容を振り返る感想だけでなく，疑問点を明確にすることができ，自分なりの考えを述べられた。	授業内容に関心をもち，自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ，授業内容を振り返り感想を述べ，疑問点を明確にすることができた。	授業内容に関心をもち，自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ，授業内容を振り返り感想を述べられた。	授業内容を振り返り感想を述べられた。	左記の内容が何一つすることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科４年、経営学科４年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ論 （科目ナンバリング：CLP123062，CLP423081，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	蝦名　美穂（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館2階	
単位数	2　（単位認定責任者：　蝦名　美穂　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち，教育領域，福祉領域，司法・矯正領域，産業領域での臨床経験を踏まえて講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくはチャットにて事前連絡後に調整をし，研究室で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『やさしく学ぶカウンセリング２６のレッスン』	長尾　博	金子書房	２００８	978-4-7608-3609-3	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『新・カウンセリングの話』	平木典子	朝日新聞出版	２０２０	978-4-02-263099-5	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス及び科目を修了して「身に付く力」の説明を含む）。授業改善アンケート結果反映の説明。 カウンセリングとは？カウンセリングのはじまり	カウンセリングについて調べる（９０分）	授業で学ぶ内容について振り返る（９０分）
2	カウンセリングの諸理論①	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り，疑問点等を整理する（９０分）
3	カウンセリングの諸理論②	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り，疑問点等を整理する（９０分）
4	カウンセリングを始まる前に、セッティング、守秘義務など	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り，疑問点等を整理する（９０分）
5	カウンセリングの中での話を「きく」とは？	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り，疑問点等を整理する（９０分）
6	カウンセリングの中での「話す」とは？	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り，疑問点等を整理する（９０分）
7	信頼関係（ラポール）形成について	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り，疑問点等を整理する（９０分）
8	応答技法について	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り，疑問点等を整理する（９０分）
9	ロールプレイ①共感	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り，疑問点等を整理する（９０分）
10	ロールプレイ②開かれた質問，閉ざされた質問	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り，疑問点等を整理する（９０分）
11	ロールプレイ③繰り返し，明確化	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り，疑問点等を整理する（９０分）
12	ロールプレイ④直面化	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り，疑問点等を整理する（９０分）
13	ロールプレイ⑤支持	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り，疑問点等を整理する（９０分）
14	ロールプレイ⑥お互いの話を聴いてみよう	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り，疑問点等を整理する（９０分）
15	エンカウンターグループを体験する	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り，疑問点等を整理する（９０分）
16	カウンセリングの限界について。これまでの講義のまとめ。授業改善アンケート実施。 講義についてのフィードバック、科目を修了して「身に付く力」の検証	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	自らの学修姿勢を評価する（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築法規III （科目ナンバリング：APT323031　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　佐藤　善太郎　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

日本の都市は遥か昔より火災との戦いであった。古の為政者達は皆この問題に頭を痛めていたが，これは今も同様で，都市防災は地震対策とともに建築行政でも重要な課題であることを認識する。ここでは建築関係法令のうち建築基準法・建築基準法施行令を中心に構造・避難・防災に関する関係法令を計算例を交えて学び理解する。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

建築基準法に定める性能評価基準の持つ意味・定義を理解でき，都市防災に密接な係わりを持つ構造・計算・防火・避難などに関する条文を理解できる。

授業全体の内容と概要

建築基準法を理解する上で重要な条文について図解を交えてわかりやすく解説する。更に主要な制度規定について，条文の成立から実例まで併せて解説すると共に条文の理解を深めるための演習を行う。
「SDG11．住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

授業は条文の重要項目のチェックと線引きを行い，板書と配布資料により進めていく。随所に出現する法令独特の語彙の解釈や考え方にも触れて，きめ細やかに進めていく。また，理解度を測るため，単元ごとに課題提示・小テストを行い，解説も行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

法令集と赤ペン・青ペンを必ず持参のこと。また，本講義にあたっては電卓や携帯電話，スマートフォンなどの計算機能を使った計算を禁止する。必ず筆算のこと。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目，教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数１１回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
８０%	０%	０%	０%	０%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築物の防災規定に関する理解	基準法に規定された建築物の防災に関する規定を正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の防災に関する規定を８割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の防災に関する規定を６割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の防災に関する規定を理解することができた。	基準法に規定された建築物の防災に関する規定を理解することができなかった。
建築物の避難規定に関する理解	基準法に規定された建築物の避難に関する規定を正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の避難に関する規定を８割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の避難に関する規定を６割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の避難に関する規定を理解することができた。	基準法に規定された建築物の避難に関する規定を理解することができなかった。
その他の建築関連法規の理解	その他の建築関連法規に関する規定を正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を８割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を６割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築法規III （科目ナンバリング：APT323031　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　佐藤　善太郎　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『基準法関係法令集　2023年版』	建築資料研究社	建築資料研究社	2023		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明 建築設備等１	建築法規Ⅱの振返り(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
2	建築設備等２	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
3	構造強度	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
4	構造計算１	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
5	構造計算２	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
6	構造設計	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
7	防火区画・防火構造１	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
8	防火区画・防火構造２	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
9	防火区画・防火構造３	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
10	避難施設等１	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
11	避難施設等２	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
12	内装制限１	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
13	内装制限２	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
14	雑則・その他1	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
15	雑則・その他２ 授業改善アンケートの実施	事前提示の条文熟読(90分)	本講義の振返り(90分)
16	理解度診断試験（60分）・試験解説（30分）をし、回答をフィードバックする 科目を修了して「身に付く力」についての検証	事前提示の条文熟読(90分)	試験の振返り(90分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科(ｽﾎﾟｰﾂﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｺｰｽ以外) ・ ３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾎﾃﾙﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論 (科目ナンバリング：TOS422040)				
授業担当者 (所属・職名)	五ノ井　壽一（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館１階　非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者： 五ノ井　壽一)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	旅行業・ホテル業における実務経験を有する教員が、その経験を活かし、日本国内外の観光地・ホテルについて講義をする。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標
観光産業の中核を担うホテル産業の基本理念とホテルビジネスの仕組みやあり方を理解することをし身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ
経営学科のＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標
ホテル産業の基礎知識と日常行われている実務を体系的に理解する。

授業全体の内容と概要
日本国内外におけるホテル産業の基礎知識とホテルの発生から近代産業に至る発展過程を紹介し理解を深めていく。

授業の方法
授業は板書および教科書をもとに講義形式で行う。日々の授業において様々な質問や提案をするので自分なりの意見をすぐにまとめて発表すること。問いかけに対する答えや各種フィードバックは、その都度行ったり、講義で全体的に行ったりする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項
最低限の規則を守ること。教科書を必ず持参し、欠席・遅刻は極力避けること。平常点を重視します。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件
単位認定に必要となる出席回数は、１１回以上。
平常点（出席率・授業態度）およびレポートの成果を総合的に判断する。特に平常点を重視します。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	７０%	０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ホテル産業についての認識・理解	ホテル産業の基本理念を十分認識し、ホテルビジネスの仕組みやあり方を体系的に理解できた。	ホテル産業の基本理念を認識し、ホテルビジネスの仕組みやあり方を概ね理解できた。	ホテル産業の基本理念を認識し、ホテルビジネスの仕組みやあり方を部分的にではあるが理解できた。	ホテル産業について理解するには至っていないが、ある程度認識することはできた。	ホテル産業について認識することができなかった。
レポートについて	極めて優れたレポートと到達目標を完全に達成した。	優れたレポートで到達目標をほぼ達成した。	妥協を認められるレポートで不十分な点は認められるものの到達目標を達成した。	合格を認められる最低限のレポートで到達目標の最低限を満たした。	合格を認められる最低限のレポートに達しておらず到達目標を充足しなかった。
受講態度・その他	質疑応答など的確であり、極めて真面目に受講した。	ノート試験など、真面目に受講した。	妥当と思われる受講態度をしめした。	妥当と思われる最低限の受講態度を満たした。	妥当な受講態度が見受けられず、遅刻・欠席も多かった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科(ｽﾎﾟｰﾂﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｺｰｽ以外) ・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾎﾃﾙﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論 (科目ナンバリング：T0S422040　　)				
授業担当者 (所属・職名)	五ノ井　壽一（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館１階　非常勤講師室		
単位数	2　(単位認定責任者：　五ノ井　壽一　)			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	旅行業・ホテル業における実務経験を有する教員が、その経験を活かし、日本国内外の観光地・ホテルについて講義をする。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ホテル・ビジネス・ブック』	仲谷秀一・テイラー雅子・中村光信	中央経済社	２０１６	9784502181412	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『基本 ホテル経営教本』	鈴木博・大庭 祺一郎	柴田書店	2012	9784388152872	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（９０分）	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
2	ホテルの語源及び特色	ホテルについて情報を収集しておくこと(９０分)	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
3	ホテルの誕生と発展	学習内容に関連する事項について調べておくこと(９０分)	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
4	ヨーロッパ・アメリカにおけるホテルの歴史	学習内容に関連する事項について調べておくこと(９０分)	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
5	日本におけるホテルの歴史	学習内容に関連する事項について調べておくこと(９０分)	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
6	ホテルの分類（ヨーロッパ・アメリカ・日本）	学習内容に関連する事項について調べておくこと(９０分)	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
7	ホテルの経営形態	学習内容に関連する事項について調べておくこと(９０分)	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
8	ホテルの収益構造	学習内容に関連する事項について調べておくこと(９０分)	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
9	ホテルの情報システム	学習内容に関連する事項について調べておくこと(９０分)	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
10	ホテルの組織と総支配人の役割	学習内容に関連する事項について調べておくこと(９０分)	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
11	宿泊部門の仕事	学習内容に関連する事項について調べておくこと(９０分)	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
12	料飲部門の仕事	学習内容に関連する事項について調べておくこと(９０分)	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
13	セールス＆マーケティング部門の仕事	学習内容に関連する事項について調べておくこと(９０分)	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
14	管理部門の仕事	学習内容に関連する事項について調べておくこと(９０分)	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
15	人事システムとキャリアデザイン 授業改善アンケートの実施	学習内容に関連する事項について調べておくこと(９０分)	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
16	まとめ（レポート総評と解説） 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	講義を振り返り質疑応答があれば整理しておくこと（９０分）	総評・解説を受けて講義全体を振り返ること(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉の原理Ⅱ （科目ナンバリング：SWS122039　　）				
授業担当者 （所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　西野　克俊　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

①「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み（理念・視点・関係性）について理解する。
②精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。
③精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。
④精神障害者へのかかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。
⑤現在の精神保健福祉士の基本的枠組み（理念・視点・関係性）と倫理綱領に基づく職責について理解する。
⑥精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する。
⑦近年の精神保健福祉の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

精神保健福祉の理念や概念を習得し、精神保健福祉士の倫理や価値観を培い、役割や業務特性を理解できる。

授業全体の内容と概要

①障害者福祉の理念や概念の理解や社会的障壁について学ぶ。
②精神保健福祉士の原理や精神保健福祉士の役割等について学ぶ。
「SDG３．すべての人に健康と福祉を」関連科目

授業の方法

①授業形態は講義形式で行う。
②テキスト及び配布資料を使用し，ポイントとするべき箇所は説明，板書を行う。
③質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。
④確認テストを実施し、解答回収後解説を行う。
⑤Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①教科書は必ず持参すること。
②必要な資料等は適宜配布する。
③２０分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。
④不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	０%	１０%	３０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識をおおむね理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を理解することができなかった。
思考力・考察力	精神保健福祉の基礎を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開についておおむね考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察することができなかった。
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことをおおむねに説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉の原理Ⅱ （科目ナンバリング：SWS122039　　）				
授業担当者 （所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　西野　克俊　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『精神保健福祉の原理』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版株式会社	２０２１	9784805882566	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	精神障害者福祉について シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映及び科目を終了して『身に付く力』についての説明	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
2	精神科医療の特異性について①（強制入院・治療、精神科特例）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
3	精神科医療の特異性について②（隔離・身体的拘束、多剤併用）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
4	精神障害者の家族について（保護義務者の歴史、家族の多様性）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
5	「精神保健福祉士」の資格化に至る経緯について（精神医学ソーシャルワーカー協会の設立、Y問題）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
6	原理・価値について(社会的復権と権利擁護、自己決定、当事者主体)	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
7	観点・視点について（人と環境の相互作用、エンパワメント、リカバリー、アンチスティグマ）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
8	関係性について（加害者性、援助関係、協働関係）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
9	精神保健福祉士法について	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
10	精神保健福祉士の職業倫理について①（倫理綱領）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
11	精神保健福祉士の職業倫理について②（倫理的ジレンマ）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
12	精神保健福祉士の業務特性について	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
13	精神保健福祉士の職場・職域について	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
14	精神保健福祉士の業務内容と業務指針について①（業務指針、業務分類）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
15	精神保健福祉士の業務内容と業務指針について②（指針に基づく業務の展開例）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
16	試験（６０分の試験終了後、３０分でフィードバックを行い、科目を修了して『身に付く力』についての検証） 授業改善アンケートの実施	試験のための学習（９０分）	試験の振り返りを行うこと（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｲﾗｽﾄﾚｰｼｮﾝ Ⅰ （科目ナンバリング：AEA222040　　）				
授業担当者 （所属・職名）	浩而　魅諭（デザイン学科・専任講師）		研究室等所在	未定	
単位数	2　（単位認定責任者：　浩而　魅諭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	細密画家、復元画家（パレオアーティスト）、野生動物画家（ワイルドライフアーティスト）、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師が，その経験や実績を活かして、条件のある「仕事」の中での個性的な表現を見つけ、身につける方法を実践的に指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が、イラストレーションを仕事にしていく上で必要とされる基本の技術や社会人としての素養を身に付ける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

学生が、自分の個性に気付きそれをイラストレーションで表現するための基本となる技術を身に付ける。
学生が、制作をしていく上で、他者と主体的に協議する力を身に付ける。
学生が、依頼者の希望に沿うイラストレーションを制作するためには何をすればいいかに気付き、考える。

授業全体の内容と概要

学生が、イラストレーションを理解し己の個性をイラストレーションで表現しつつ、依頼者の希望を理解し応えることが出来るようになるための基本を身に付けられるよう、教師は経験を生かし実践的な授業を展開する。具体的には、ステップ・バイ・ステップ法により自己効力感（Self-Efficacy)及び達成感を得られるよう授業を構成する。

授業の方法

授業は、口頭、板書、パワーポイント、配布資料などで展開する。各課題の説明の後実技。こまめな机間巡視により学生一人一人への個別の指導を重視する。講評会に於いてフィードバックを行う。プレゼンテーション、ディスカッションを適宜行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

学習用具を毎回持参（F6（またはA3）以上のスケッチブック（またはクロッキー帳）、鉛筆（ステッドラーやハイユニなどH系からB系まで５種類位）、カッター、ミリペンやボールペンなど、水彩絵具（第２０）など）各自が必要に応じて用意する材料。課題制作、提出は実際の仕事の納期を意識すること。授業は第一回目からの積み重ね型の形態で行われるので欠かさず出席する事が大前提。受講人数や習熟度などによりシラバスの内容の順番を組み替えたり、削ったりすることもある。不測時の授業、補講に於いてオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は２６回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自己表現と技術	基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作を十分的確に行えた。	基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作を的確に行えた。	基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作をほぼ的確に行えた。	基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作をある程度的確に行えた。	基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作を十分的確に行雨ことができなかった。
関心・意欲・態度・絵に携わる社会人としての素養（他者と主体的に協働する姿勢）	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事が十分できた。	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事ができた。	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事がほぼできた。	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事がある程度できた。	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事ができなかった。
依頼作品（課題）	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作を十分的確に行なえた。	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作を的確に行なえた。	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作をほぼ的確に行なえた。	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作をある程度的確に行なえた。	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作を的確に行う事ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｲﾗｽﾄﾚｰｼｮﾝⅠ （科目ナンバリング：AEA222040　　）				
授業担当者 （所属・職名）	浩而　魅諭（デザイン学科・専任講師）		研究室等所在	未定	
単位数	2　（単位認定責任者：　浩而　魅諭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	細密画家、復元画家（パレオアーティスト）、野生動物画家（ワイルドライフアーティスト）、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師が，その経験や実績を活かして、条件のある「仕事」の中での個性的な表現を見つけ、身につける方法を実践的に指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション、シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、 当該科目を修了して「身に付く力」について、準備学習・事後学習の課題（１分クロッキー）の説明	シラバスを読む（４５分）	課題（４５分）
2	自分を見つめる、準備学習・事後学習の課題（１分クロッキー）の説明	課題（４５分）	プレゼン資料作り、課題（４５分）
3	プレゼンテーション、準備学習・事後学習の課題（１分クロッキー）の説明	プレゼンのイメージトレーニング、課題（４５分）	課題（４５分）
4	プレゼンテーション、準備学習・事後学習の課題（１分クロッキー）の説明	課題（４５分）	イラストレーションとは何かを調べる、課題（４５分）
5	イラストレーションとは、ディスカッション、準備学習・事後学習の課題（１分クロッキー）の説明	ディスカッションの準備、課題（４５分）	課題（４５分）
6	イラストレーションとは、ディスカッション、準備学習・事後学習の課題（１分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
7	モチーフデッサン　触ってみよう・触感を描き表そう、準備学習・事後学習の課題（１分クロッキー）の説明	指定したモチーフを用意する、課題(４５分)	課題（４５分）
8	モチーフデッサン　３６０°あらゆる方向から描いてみよう、準備学習・事後学習の課題（１分クロッキー）の説明	指定したモチーフを用意する、課題(４５分)	課題（４５分）
9	モチーフデッサン　内部構造を理解しよう・切って・見て・確認・観察、準備学習・事後学習の課題（５分クロッキー）の説明	指定したモチーフを用意する、課題４５分)	課題(４５分)
10	モチーフデッサン　内部構造を理解しよう・切って・見て・確認・観察、準備学習・事後学習の課題（５分クロッキー）の説明	指定したモチーフを用意する、課題４５分)	デフォルメについて調べる、課題(４５分)
11	デフォルメとは、ディスカッション、準備学習・事後学習の課題（５分クロッキー）の説明	デフォルメについてまとめる、課題（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
12	線画の基礎　直線・曲線・強弱・点描・ハッチング・タッチなど、準備学習・事後学習の課題（５分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
13	線画　モチーフデッサンを通して物の形を深く理解できたモチーフを用い線画で表現してみよう、準備学習・事後学習の課題（５分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
14	線画　線画の基礎で学んだ中から自分らしさを表現できる技法を用い制作しよう、準備学習・事後学習の課題（５分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
15	講評会（フィードバック）、準備学習・事後学習の課題（５分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
16	講評会（フィードバック）、準備学習・事後学習の課題（５分クロッキー）の説明	課題（４５分）	色の効果について調べる、課題（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	色の効果について、ディスカッション、準備学習・事後学習の課題（１０分クロッキー）の説明	色の効果についてまとめる、課題（４５分）	課題（４５分）
18	色の効果について、ディスカッション、準備学習・事後学習の課題（１０分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
19	色の基本　着彩の基本を学ぼう、準備学習・事後学習の課題（１０分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
20	色の基本　着彩の基本を学ぼう、準備学習・事後学習の課題（１０分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
21	伝えるとは　形・線・色を駆使して伝えよう、準備学習・事後学習の課題（１０分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
22	伝えるとは　形・線・色を駆使して伝えよう、準備学習・事後学習の課題（１０分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
23	講評会（フィードバック）、準備学習・事後学習の課題（１０分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
24	講評会（フィードバック）、準備学習・事後学習の課題（１０分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
25	イラストレーションの依頼を受ける、依頼を受けてから納品までの流れ、エスキースから完成までの制作の流れ、準備学習・事後学習の課題（１０分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
26	イラストレーションの依頼を受ける、制作、エスキース、準備学習・事後学習の課題（１０分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
27	イラストレーションの依頼を受ける、制作、下描き、準備学習・事後学習の課題（１０分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
28	イラストレーションの依頼を受ける、制作、線描き、準備学習・事後学習の課題（１０分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
29	イラストレーションの依頼を受ける、制作、着彩、準備学習・事後学習の課題（１０分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
30	イラストレーションの依頼を受ける、制作、微調整、準備学習・事後学習の課題（１０分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
31	講評会（フィードバック）、準備学習・事後学習の課題（１０分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
32	講評会（フィードバック）、授業改善アンケートの実施、当該科目の第１回目に示した「身に付く力」について検証	課題（４５分）	授業で学んだことを以後の制作にどう反映させていくか考える（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・デザイン学科・建築学科・社会福祉学科　４年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	教育相談(ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞを含む。) （科目ナンバリング：EDP124065，EDP244108，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	蝦名　美穂（社会福祉学科・専任講師）	研究室等所在	１号館2階		
単位数	2　（単位認定責任者：　蝦名　美穂　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち，スクールカウンセラーとしての経験を踏まえて，講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくは事前にチャットにて連絡後調整をし，研究室にて対応。				

概要

履修目標

現代社会の変容の中で，児童生徒の抱える問題が多様化し，深刻化する傾向も見られる。
こうした様々な問題に対して，学校の対応が求められている。
その現状を踏まえ，「チーム学校」の一員として対応をするために必要な教育相談の進め方について学び，
こどもの不適応問題に対しての基礎知識を習得する。

授業の位置づけ

経営学科のDP３，DP４，DP５に対応する科目。
デザイン学科のDP３，DP４，DP５に対応する科目。
建築学科のDP３，DP４，DP５に対応する科目。
社会福祉学科のDP３，DP４，DP５に対応する科目。

到達目標

・教育相談の基本的な進め方について理解する。
・こどもの不適応行動について理解する。
・支援をする上で利用可能なリソースを知る。
・対応するために教師，スクールソーシャルワーカーとしてできることを自分なりに考える。

授業全体の内容と概要

学校教育における教育相談の意義，役割について学ぶ。こどもの不適応に関する授業の際には，事前に授業で取り上げる事柄について自ら調べるなどして，
受講生は関心を高める努力をする。そして，実際に対応に必要なことは何かを考える。

「SDG.4質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では，教科書，パワーポイント，配布資料などを使用して，講義形式で行う（グループワーク、ロールプレイ、ディスカッション含む）。また、PC及びスマートフォンを使用する。
学習内容定着，学生の理解度を確認するため毎時間の授業の終わりに質問や感想（リアクションシート）をMicrosoft　Teams/Forms 等を活用して提出する。
これに対して，次回の講義の中で，もしくは個別にコメント機能を活用して，授業者より質問等への回答をする。
資料配布も同様の諸機能を活用して行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業の進行を妨害するような行為，他の受講者の迷惑となる行為を慎む。
テキストを必ず購入すること。
２０分以上の遅刻は欠席とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け，本学の基本方針及び規程等に基づき，学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回とする。
レポート，授業態度等，授業の終わりに提出する感想等（リアクションシート）を評価の対象とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	６０％	０％	０％	４０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	授業で扱った内容について理解し，用語の説明を資料等を見ずに説明することができた。	授業で扱った内容について理解し，用語の説明を資料等を見ながら説明することができた。	授業で扱った内容について，資料等の中から探すことができるようにノートや資料がまとめられた。	授業で扱った内容について，ノートにまとめることができた。	授業で扱った内容について，ノートにまとめることができなかった。
知識の応用	授業で学んだ知識を利用して，学校で起こる教育的諸課題について，資料等を見ずに説明することができた。	授業で学んだ知識を利用して，学校で起こる教育的諸課題について，資料等を見て説明することができた。	学校で起こっている教育的諸課題について，資料等から探し出すことができた。	学校で起こっている教育的諸課題について，キーワードを見つけることができた。	左記の内容が何一つすることができなかった。
授業に主体的に取り組む態度（リアクションシート含む）	授業内容に関心をもち，自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ，授業内容を振り返る感想だけでなく，疑問点を明確にすることができ，自分なりの考えを述べられた。	授業内容に関心をもち，自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ，授業内容を振り返り感想を述べ，疑問点を明確にすることができた。	授業内容に関心をもち，自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ，授業内容を振り返り感想を述べられた。	授業内容を振り返り感想を述べられた。	左記の内容が何一つすることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・デザイン学科・建築学科・社会福祉学科　４年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	教育相談(ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞを含む。) （科目ナンバリング：EDP124065，EDP244108，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	蝦名　美穂（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館2階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　蝦名　美穂　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち，スクールカウンセラーとしての経験を踏まえて，講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくは事前にチャットにて連絡後調整をし，研究室にて対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ガイドブック　あつまれ！みんなで取り組む教育相談　ケース理解×チームづくり×スキルアッ	益子洋人・平野直己	明石書店	２０２２	978-4-7503-5462-0	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『深掘り！関係行政論　教育分野　公認心理師必携』	髙坂　康雄	北大路書房	２０２１	978-4-7628-3178-2	
2	『「支える生徒指導」の始め方』	新井　肇	教育開発研究所	２０２３	9784865608052	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス及び科目を修了して「身に付く力」の説明を含む）。授業改善アンケート結果反映の説明。 教育相談とは	教育相談について調べる（９０分）	授業で学ぶ内容について振り返る（９０分）
2	教育相談におけるチームづくり 学校組織の内にいる教育相談を担う仲間たちの役割と連携	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
3	教育相談におけるチームづくり 学校組織の外にいる教育相談を担う仲間たち（地域の医療・福祉・心理等の専門機関）の役割	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
4	教育相談におけるチームづくり 学校組織の外にいる教育相談を担う仲間たち（地域の医療・福祉・心理等の専門機関）との連携の意義と必要性	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
5	相談技法（１）カウンセリングの基本姿勢、対応の基本スキルを学ぶ	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
6	相談技法（２）実際の教育相談の進め方と留意点	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
7	相談技法（３）ソーシャルスキルトレーニング（開発的カウンセリング）を学ぶ	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
8	学校で起きる諸課題の特徴①いじめ（事例検討含む）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
9	学校で起きる諸課題の特徴②不登校（事例検討含む）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
10	学校で起きる諸課題の特徴③発達障害（事例検討含む）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
11	学校で起きる諸課題の特徴④アタッチメントに関わる課題（事例検討含む）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
12	学校で起きる諸課題の特徴⑤児童虐待（事例検討含む）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
13	学校で起きる諸課題の特徴⑥自然災害（事例検討含む）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
14	学校で起きる諸課題の特徴⑦「危機」対応（事例検討含む）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
15	学校で起きる諸課題の特徴⑧保護者支援（事例検討含む）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
16	これまでの講義のまとめ。授業改善アンケート実施。 講義についてのフィードバック、科目を修了して「身に付く力」の検証	これまでの講義のまとめ・疑問点の整理（９０分）	自らの学修姿勢を評価する（４５分）。

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築の職能と倫理 （科目ナンバリング：APT324038　　）				
授業担当者 （所属・職名）	君　興治（建築学科・特任准教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　君　興治　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計業務・施工業務の経験あり。建築業務における人間性と判断力、責任について、実務経験から講義をする。		
オフィスアワー	月曜日、火曜日、金曜日　teamsで、事前に予約すること。				

概要

履修目標

ケーススタディや、グループディスカッションを通して、建築業に携わる者としてや、建築士としての人格や考え方、社会的な役割と重要性、責任性を養い、職業倫理の大切さや判断力を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP3.DP4.DP5に対応する科目

到達目標

建築士、建築技術者、建築施工者として社会的役割を担うにあたり、責任や倫理において必要とされる、人間性や考え方、判断力の重要性を習得する。

授業全体の内容と概要

建築は、職能的に幅広い分野が含まれるため、社会と広く深く関わりを持った分野である。そのため、施主・建築士・建設技術者・販売業者などいろいろな立場それぞれの責任性や考え方がある。
「SDGs12　つくる責任　つかう責任」
その倫理は何かを学び、自覚できるよう、教科書と内容に沿った事例を用いて学習する。

授業の方法

実際の事例を基にケーススタディをグループディスカッションで行い、またそれをプレゼンテーションして発表を行い、グループ同士で意見交換することでいろいろな考えを知り、それをいくつかのケースを行うことで倫理的な考え方や人間性を養う。欠席者の理由によっては、または不測の事態にはオンライン授業を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

学生の状態をみて、学生に寄り添ったを指導に改善しながら行う。欠席者・遅刻者に対しては、その旨、理由を連絡すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則的に毎回の出席を重要視し、必要な課題の提出も判断基準とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	６０％	０％	０％	４０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
技術者が遭遇する事例の検証をおこなうことから，将来建築技術者として同様な場面に遭遇した際に求められる倫理的な判断力となる基礎的知識を修得する。	事例検証から，最善の判断を倫理的視点から判断する力を修得することができた。	事例検証から，より良い判断を倫理的視点から判断する力を修得することができた。	事例検証から，倫理的視点から判断する力を修得することができた。	事例検証から，倫理的視点にほぼ近い判断する力を修得することができた。	倫理的視点から判断する力を修得することができなかった。
人間としてのモラルを醸成させ，グループディスカッションを通じ技術者としてのモラルまで発展さる能力を修得する。	積極的にディスカッションに参加し，自己の意思を伝えることができた。	ディスカッションに参加し，自己の意思を伝えることができた。	ディスカッションに参加し，自己の意思をおおむね伝えることができた。	ディスカッションに参加し，自己の意思をほぼ伝えることができるた。	ディスカッションに参加しても自己の意思を伝えることができなかった。
建築技術者の判断・行動が社会や環境に与える影響について，紹介事例（ケーススタディ）をもとに理解する。	判断・行動が社会や環境に与える影響を理解し想像することができた。	判断・行動が社会や環境に与える影響を理解しおおむね想像することができた。	判断・行動が社会や環境に与える影響を理解することができた。	判断・行動が社会や環境に与える影響をおおむね理解することができた。	紹介事例（ケーススタディ）をもとに理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築の職能と倫理 （科目ナンバリング：APT324038　　）				
授業担当者 （所属・職名）	君　興治（建築学科・特任准教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　君　興治　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計業務・施工業務の経験あり。建築業務における人間性と判断力、責任について、実務経験から講義をする。		
オフィスアワー	月曜日、火曜日、金曜日　teamsで、事前に予約すること。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『建築倫理用教材』	社団法人日本建築学会	丸善株式会社	2010年2月1日	978-4-8189-2211-2 C3052	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『日本建築学会の技術者倫理教材』	社団法人日本建築学会	丸善株式会社	2009年6月10日	978-4-8189-2221-1C3052	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業ガイダンス　シラバスの説明，授業改善アンケート結果反映の説明、授業の進め方と到達度目標について 将来建造に携わる業務を担う者としての考え方や姿勢、精神のあり方が身につくことができるよう、学ぶ。	シラバスの事前確認	授業内容の確認（９０分）
2	建築職能論とは　　ケーススタディ	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（９０分）	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること（90分）
3	建築の職能の歴史　ケーススタディ	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（９０分）	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること（90分）
4	建築士の活動事例による社会的役割　ケーススタディとグループディスカッション＃１	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（９０分）	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること（90分）
5	＃１のプレゼンテーション、発表 発表内容、レポートの提出に対し、コメントや講評を記載して各学生に渡すことで、フィードバックする。	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（９０分）	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること（90分）
6	建築計画の立場から見た職能論　ケーススタディとグループディスカッション＃２	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（９０分）	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること（90分）
7	＃２のプレゼンテーション、発表 発表内容、レポートの提出に対し、コメントや講評を記載して各学生に渡すことで、フィードバックする。	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（９０分）	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること（90分）
8	都市計画の立場から見た職能論　ケーススタディとグループディスカッション＃３	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（９０分）	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること（90分）
9	＃３のプレゼンテーション、発表 発表内容、レポートの提出に対し、コメントや講評を記載して各学生に渡すことで、フィードバックする。	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（９０分）	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること（90分）
10	景観・環境・歴史まちづくり法における建築士の役割　ケーススタディとグループディスカッション＃４	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（９０分）	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること（90分）
11	＃４のプレゼンテーション、発表 発表内容、レポートの提出に対し、コメントや講評を記載して各学生に渡すことで、フィードバックする。	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（９０分）	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること（90分）
12	防災における建築士の責任　ケーススタディとグループディスカッション＃５	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（９０分）	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること（90分）
13	＃５のプレゼンテーション、発表 発表内容、レポートの提出に対し、コメントや講評を記載して各学生に渡すことで、フィードバックする。	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（９０分）	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること（90分）
14	環境保全、修復に関わる活動や建築士の責任　ケーススタディとグループディスカッション＃６	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（９０分）	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること（90分）
15	＃６のプレゼンテーション、発表 安全や環境においての建築業務へのあり方について、発表やレポート提出を行い、それについて講評し、また各学生にもコメントを書いてレポートを返却することで、フィードバックを行う。	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（９０分）	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること（90分）
16	総括（レポート提出状況と解説，評価） 授業改善アンケートの実施、科目を修了して「身に付く力」についての検証 これまでの授業の総評として、各学生への最終講評を紙に記載して渡すことで、フィードバックを行うとともに、当該科目への重	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（９０分）	全体の振返り（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期集中	授業形態	講義,演習,実習,実技	必修・選択	教員の免許状
科目名称	教育とICT活用 （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	由水　伸（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　由水　伸　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システムの運用経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報ネットワークの構築・運用に必要な知識について講義を行う		
オフィスアワー	講義時間以外は随時来室可（会議等で不在時を除く） 詳しくは研究室前の掲示ボード等を参照してください。				

概要

履修目標

情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

－

到達目標

新しい時代の初等中等教育において、教師には情報機器及び　教材の活用能力、そしてICTを活用した指導力の向上が求められている。本科目ではそれらの基礎知識の修得とともに現場の実例を踏まえた上で以下の４つに大別された能力の修得を目指す。
・A 教材研究・指導の準備・評価・校務など　にICTを活用する能力
・B 授業にICTを活用して指導する能力
・C 児童生徒のICT活用を指導する能力
・D 情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力

授業全体の内容と概要

テーマ別に以下の順に進める。
・授業にICTを活用するための基礎知識の修得
・授業にICTを活用して指導する能力の修得
・児童生徒のICT活用を指導する能力の修得
・教材研究・指導の準備・評価・校務など　にICTを活用する能力の修得
・情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力の修得

授業の方法

授業は教科書および遠隔授業システムから配信される資料、インターネット上の資料や教育実践事例等を参考に進むが、丸暗記やコピーではなく、工夫した独自のアイデアを重要視する。
受講にあたっては、遠隔授業システムを使用するのでスマートフォン、PCを利用する。また、インターネット接続環境は必須となる。事前に準備しておくことが必要である。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・講義内容には前後の相関性があるので欠席しないこと。
・欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は５回以上。
３０分以上の遅刻、早退は欠席とみなす。
授業中の課題も評価に含めるので、欠席をするとＳ評定の取得は困難となる点に注意すること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	５０％	５０％	０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力	授業支援ソフトやICTツール（LMS、クラウド、データ管理等）を効果的に組み合わせ、教育効果の向上を具体的に説明・実践できる	授業支援ソフトやICTツールを適切に活用し、一定の教育効果を示すことができる	基本的なICTツールを使い、授業準備や校務に役立てることができる	指導の準備や校務でICTを使用するが、効率や効果の面で課題がある	ICTの活用が不十分、または適切に活用できていない
授業にICTを活用して指導する能力	模擬授業において、ICTを駆使し、児童生徒の学びを深める効果的な指導ができる	ICTを適切に活用した模擬授業を行い、指導の意図が明確である	基本的なICT機器・教材を用いた模擬授業を実施できる	指導の中でICTを利用するが、活用が限定的で十分ではない	授業でICTを適切に活用できず、授業設計が不十分である
児童生徒のICT活用を指導する能力	Scratch等の教材を活用し、児童生徒が自発的に学べるような工夫を施した指導ができる	児童生徒のICT活用を促すための適切な指導ができる	児童生徒のICT活用に関する指導の基礎を理解し、実践できる	児童生徒のICT活用に関する指導の基礎を理解し、実践できる	児童生徒のICT活用指導ができず、基本的な知識も不足している
情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力	著作権・肖像権・ネットモラル・セキュリティについて深い理解があり、議論や指導ができる	著作権やネットモラルに関する基礎知識を持ち、適切な指導ができる	情報倫理の基本を理解し、児童生徒に対して一定の指導ができる	情報倫理についての理解が不十分であり、指導に課題がある	情報倫理についての知識がなく、誤った指導をする可能性がある
授業態度・積極性、課題の提出と質	グループワークや模擬授業に積極的に参加し、リーダーシップを発揮する、または、すべての課題を期限内に提出し、内容が優れたものである	積極的に発言し、模擬授業や議論に貢献する、または、すべての課題を期限内に提出し、基準を満たしている	必要最低限の発言や参加ができている、または、一部の課題に不備があるが、概ね提出できている	最低限の参加はするが、消極的な態度が見られる、または、課題の提出が遅れる、または内容に大きな欠陥がある	授業に対する積極性がなく、課題提出や活動への参加が不十分、または、期限内に課題を提出せず、内容も不十分

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期集中	授業形態	講義,演習,実習,実技	必修・選択	教員の免許状
科目名称	教育とICT活用 （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	由水　伸（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　由水　伸　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システムの運用経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報ネットワークの構築・運用に必要な知識について講義を行う		
オフィスアワー	講義時間以外は随時来室可（会議等で不在時を除く） 詳しくは研究室前の掲示ボード等を参照してください。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『無理なくできる学校のICT活用（長谷川元洋、学事出無理なくできる学校のICT活用（長谷川元					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	◇オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） と受講の注意点、授業の概要、授業改善アンケート結果反映の説明 総論「教員に求められるICT活用指導力について」	シラバスを確認し、新出の用語を理解する（９０分）	授業内容の復習をする（９０分）
2	◇授業にICTを活用するための基礎知識（１） ハードウェアとソフトウェア（OSとアプリケーション） 教育に使うことのできる様々なICT機器（PC、タブレット、周辺機器）	クラウドコンピューティングとは何かを予習する（９０分）	授業内容の復習をする（９０分）
3	◇授業にICTを活用するための基礎知識（２） ソフトウェアとデータ形式（「文字」「画像」「音声」「動画」他） インターネットとLAN、クラウドコンピューティング	コンピュータを構成する主な部品とその役割を予習する（９０分）	授業内容の復習をする（９０分）
4	◇授業にICTを活用して指導する能力（１） 学習基盤の環境確立とICTを活用した授業デザイン 教材作成とプレゼンテーションの技法（プロジェクター、電子黒板の利用法）	インターネットの歴史的と背景について予習する（９０分）	授業内容の復習をする（９０分）
5	◇授業にICTを活用して指導する能力（２） グループウェアとLMSを使った授業 遠隔授業（オンライン授業とe-Lerning）のポイントと模擬授業	VPNを予習する（９０分）	授業内容の復習をする（９０分）
6	◇児童生徒のICT活用を指導する能力 事例研究：特徴的な実施例を調査（一斉学習、個人学習、協業学習） 調査結果をまとめてグループ別プレゼンテーション	IaaS、PaaS、SaaSをそれぞれ予習する（９０分）	授業内容の復習をする（９０分）
7	◇教材研究・指導の準備・評価・校務など　にICTを活用する能力 事例研究：教科外活動における利用法を調査（教育効果の向上等、校務分掌、保護者・地域との連携等）	Googleドライブと OneDriveについて比較する（９０分）	授業内容の復習をする（９０分）
8	◇情報活用の基礎となる知識や態度について指導する能力 知的財産権（著作権・肖像権）、ネットモラル・マナー、情報保護と情報セキュリティ 全体のまとめ 授業に係る講評・解説によるフィードバック	クラウドアプリケーションの実例を調査する（９０分）	授業内容の復習をする（９０分）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ｷｬﾗｸﾀｰﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ （科目ナンバリング：AEA222044　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三上　いずみ（デザイン学科・准教授）	研究室等所在	２号館８階		
単位数	1　（単位認定責任者：　三上　いずみ　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

キャラクターデザインについての理解を深める。
キャラクターデザイナーの役割を実践形式で学ぶ。
魅力的なオリジナルキャラクターを生み出す。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

キャラクターデザインについて知る。
キャラクターデザイナーの役割を実践形式で体験する。
オリジナルキャラクターを生み出す。

授業全体の内容と概要

２つのテーマ別課題に沿ったキャラクターをデザインし、発表する。制作はアナログ・デジタルどちらでも可。課題は授業内で説明、ラフデザインから完成まで段階を踏みながら制作する。完成したビジュアルはプレゼンボードにして展示する。

授業の方法

授業は板書・パワーポイント・資料配布・実演等の方法で説明する。プロジェクター使用。
授業後にデジタル資料はTeamｓに保存するので振り返り可能。段階ごとにグループワークでのディスカッションを行い、また個別にも対応する。
完成作品は講評にてフィードバックする。発表後、パネルにして展示する。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

デジタルで課題制作を行う場合は教室で制作できるように機材を持参すること。
アナログで課題制作を行う場合は画材を持参すること。
遅刻しないこと。
欠席する場合は事前に連絡すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

最低出席回数１１回以上。
課題は期日までに提出すること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
キャラクターデザインについての知識	キャラクターデザインについての理解を深め、作品に活かすことができた。	キャラクターデザインについての理解を深めることができた。	キャラクターデザインとは何かを知り、理解を深めることに努めた。	キャラクターデザインについて知ることができた。	キャラクターデザインについて知ることができなかった。
キャラクターデザイナーの役割を実践形式で学ぶ	キャラクターデザイナーの役割を実践形式で学び、作品に活かすことができた。	キャラクターデザイナーの役割を実践形式で学ぶことができた。	キャラクターデザイナーの役割を体験し、学ぶことに努めた。	キャラクターデザイナーの役割を体験することができた。	キャラクターデザイナーの役割を体験できなかった。
魅力的なオリジナルキャラクターを生み出す	魅力的なオリジナルキャラクターを生み出し、完成度の高い作品ができた。	魅力的なオリジナルキャラクターを生み出すことができた。	魅力的なオリジナルキャラクターを生み出すことに努めた。	オリジナルキャラクターを生み出すことができた。	オリジナルキャラクターを生み出すことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ｷｬﾗｸﾀｰﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ （科目ナンバリング：AEA222044　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三上　いずみ（デザイン学科・准教授）	研究室等所在	２号館８階		
単位数	1　（単位認定責任者：　三上　いずみ　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明・科目を修了して「身に付く力」について キャラクターデザインとは	シラバスを読んでおくこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
2	ポーズについて	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
3	構図について	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
4	キャラクターデザイン制作①コンセプト	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
5	キャラクターデザイン制作①ラフデザイン	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
6	キャラクターデザイン制作①ブラッシュアップ	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
7	キャラクターデザイン制作①発表	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
8	キャラクターデザイン制作①ディスカッション	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
9	キャラクターデザイン制作②コンセプト	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
10	キャラクターデザイン制作②ラフデザイン	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
11	キャラクターデザイン制作②ブラッシュアップ	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
12	キャラクターデザイン制作②発表	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
13	キャラクターデザイン制作②ディスカッション	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
14	印刷	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
15	プレゼンボードの作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
16	展示 授業に係る講評・解説によるフィードバック。科目を修了して『身に付く力』についての検証。授業改善アンケートの実施	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの理論と方法(専門)III （科目ナンバリング：SWS123040　　）				
授業担当者 （所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　西野　克俊　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

①精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を理解する。
②精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解する。
③精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解する。
④精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について理解する。
⑤個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をミクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解する。
⑥精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ3、ＤＰ4、ＤＰ5に対応する。

到達目標

ソーシャルワークの展開に必要な知識や手法等を理解する。

授業全体の内容と概要

①精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要、過程、実際について学ぶ。
②多職種連携多機関連携について学ぶ。
③ソーシャルアドミニストレーション、コミュニティワークソーシャルアクション等について学ぶ。
「SDG３．すべての人に健康と福祉を」の関連科目

授業の方法

①授業形態は講義形式で行う。
②テキスト及び配布資料を使用し、ポイントとすべき箇所は説明、板書を行う。
③質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。
④確認テストを実施し、解答回収後解説を行う。
⑤Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①教科書は必ず持参すること。
②必要な資料等は適宜配布する。
③２０分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。
④不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	０%	１０%	３０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識をおおむね理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できなかった。
思考力・考察力	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開についておおむね考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できなかった。
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことをおおむね説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの理論と方法(専門)III （科目ナンバリング：SWS123040　　）				
授業担当者 （所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　西野　克俊　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ソーシャルワークの理論と方法［精神専門］』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版株式会社	２０２１	9784805882573	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映及び科目を終了して『身に付く力』についての説明 ソーシャルワークの構成要素について	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
2	ソーシャルワークの展開過程について①（インテーク～プランニング）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
3	ソーシャルワークの展開過程について②（インターベンション～アフターケア）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
4	精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本的視点について	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
5	アウトリーチについて	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
6	インテークについて（主訴の把握、スクリーニング、契約）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
7	アセスメント（本人に関する理解、環境に関する理解、アセスメントツール）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
8	援助関係の形成技法について（自己決定、意思決定、パートナーシップ、パワンダリー）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
9	面接技術について(面接の構造、マイクロカウンセリング）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
10	支援の展開(人、環境へのアプローチ）についての事例分析	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
11	支援の展開（ケアマネジメント）について	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
12	精神障害者家族の課題について（ケアラー・ヤングケアラー支援）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
13	家族理解の変遷について（家族システム論、家族の感情表出研究）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
14	家族支援の方法について①（家族相談面接、家族関係における暴力への介入）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
15	家族支援の方法について②（家族のリカバリー、家族のセルフヘルプグループ）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
16	試験（６０分の試験終了後、３０分でフィードバックを行い、科目を修了して『身に付く力』についての検証） 授業評価アンケートの実施	試験のための学習（９０分）	試験の振り返りを行うこと（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スクールソーシャルワーク論 （科目ナンバリング：SWS122053　　）				
授業担当者 （所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　上原　正希　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

１．なぜスクールソーシャルワークが必要なのかについて理解する。
２．スクールソーシャルワークとはなにかについて理解する。
３．スクールソーシャルワークの歴史と動向について理解する。
４．学校教育の特徴について理解する。
５．教育（学校）が連携する機関とその機能について理解する。
６．スクールソーシャルワークの基礎理論について理解する。
７．スクールソーシャルワークの展開過程およびスクールソーシャルワーク実践について理解する。
８．スクールソーシャルワークの課題と展望について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

１．なぜスクールソーシャルワークが必要なのかについて理解できる。
２．スクールソーシャルワークとはなにかについて理解できる。
３．スクールソーシャルワークの歴史と動向について理解できる。
４．学校教育の特徴について理解できる。
５．教育（学校）が連携する機関とその機能について理解できる。
６．スクールソーシャルワークの基礎理論について理解できる。
７．スクールソーシャルワークの展開過程およびスクールソーシャルワーク実践について理解できる。
８．スクールソーシャルワークの課題と展望について理解できる。

授業全体の内容と概要

１．なぜスクールソーシャルワークが必要なのかについて学ぶ。
２．スクールソーシャルワークとはなにかについて学ぶ。
３．スクールソーシャルワークの歴史と動向について学ぶ。
４．学校教育の特徴について学ぶ。
５．教育（学校）が連携する機関とその機能について学ぶ。
６．スクールソーシャルワークの基礎理論について学ぶ。
７．スクールソーシャルワークの展開過程およびスクールソーシャルワーク実践について学ぶ。
８．スクールソーシャルワークの課題と展望について学ぶ。
９．「ＳＤＧ３．すべての人に健康と福祉を」、「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

１．授業形態は「講義」形式である。
２．テキストを使用し、ポイントとするべき箇所は説明・板書を行う。
３．適宜質問を促し、質問に対応する。
４．不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１．教科書は必ず持参すること。
２．必要な資料等は適宜配布する。
３．板書した内容をしっかり写し、毎回の授業後にノートの整理をする。
４．適宜質問に対応する、
５．自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。
６．スクールソーシャルワーカー等のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。
７．大学のペーパレス化に伴い、教科書は必須ですので絶対に購入してください。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スクール（学校）ソーシャルワーカー資格課程
社会福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

１．教科書は必ず持参する。
２．必要な資料等は適宜配布する。
３．出席回数は最低１０回なければ試験を受験できない。
４．その他については、出席状況１５%・ノート確認１５%の評価である。
５．成績評価分布の目標について「S」は履修者の１０%以内とし、「A」と「S」を含めて履修者の４０%以内とする。
但し、履修者が１０人未満の授業科目は、授業形態等を考慮し、成績評価の割合の対象外とする（絶対評価と相対評価を併用する）。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	０%	０%	０%	３０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
【知識】今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について理解する。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について非常に理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程についておおむね理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について一部理解ができなかった。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について理解ができなかった。
【知識】今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について理解する。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について非常に理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援についておおむね理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について一部理解ができなかった。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について理解ができなかった。
【知識】今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について理解する。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について非常に理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援についておおむね理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について一部理解ができなかった。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について理解ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽｸｰﾙｿｰｼｬﾙﾜｰｸ論 （科目ナンバリング：SWS122053　　）				
授業担当者 （所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　上原　正希　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『よくわかるスクールソーシャルワーク』	山野則子など	ミネルヴァ書房	2016年	9784623078349	価格　/3,080（本体/2,800）
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『入門 スクールソーシャルワーク論』	内田　宏明	ミネルヴァ書房	2022	9784623093373	価格　/3,080
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス 前年度実施した授業改善アンケートの結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明 児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域について①－学校からみる問題行動・家族の状況	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
2	児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域について②－子どもの貧困・発達・マゾリティ	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
3	児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域について③－教員の実態、地域の機関	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
4	スクールソーシャルワークの価値・倫理について①－スクールソーシャルワークとは	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
5	スクールソーシャルワークの価値・倫理について②－人権と社会正義	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
6	スクールソーシャルワークの発展過程について－日本・アメリカ	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
7	スクールソーシャルワーカーの役割と活動について	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(90分)
8	スクールソーシャルワークにおけるソーシャルワークについて	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
9	スクールソーシャルワークの支援方法について－個別・集団支援(ミクロレベル)の実践より①	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
10	スクールソーシャルワークの支援方法について－個別・集団支援(ミクロレベル)の実践より②	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
11	スクールソーシャルワークの支援方法について－学校・家庭・地域(メゾレベル)の実践より①	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
12	スクールソーシャルワークの支援方法について－学校・家庭・地域(メゾレベル)の実践より②	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
13	スクールソーシャルワークの支援方法について－制度・政策(マクロレベル)の実践より①	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
14	スクールソーシャルワークの支援方法について－制度・政策(マクロレベル)の実践より② スクールソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
15	授業改善アンケートの実施 【定期試験】６０分の試験	テスト勉強をしておくこと（９０分）	テストの振り返りを行うこと（９０分）
16	授業全体・試験の解説 科目を修了して『身に付く力』についての検証 試験等のフィードバック	科目が修了するにあたり『身に付く力』について自分で検証をしておくこと(９０分)	科目が修了して『身に付く力』について自分で振り返ること(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	漫画III （科目ナンバリング：AEA223066　　）				
授業担当者 （所属・職名）	五十嵐　優美子（デザイン学科・客員教授）　鴨　修平（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　鴨　修平　）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	漫画の連載・単行本出版経験のある教員が、漫画の描き方を基礎から指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

漫画を表現していく上で必要とされる基礎的な知識とそのテクニックを学習し、
独自の個性と可能性を発掘し、自らが創作したものを他者に伝える表現技術や理論を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

漫画制作の基礎的な技術を身につけ、自分の漫画作品の方向性を決めて制作できる。

授業全体の内容と概要

実際に漫画の制作を行いながら、漫画道具の使い方、ストーリー構成、ネーム作成、コマ割りや画面構成などの基礎的～実践的な知識を身につける。個人の能力にあわせて指導し、漫画を完成させる。

授業の方法

板書またはTeamsから資料を配布して課題等の説明をする。課題説明ののち各自で制作の実技を行う。適宜講師と打ち合わせを行いながら制作を進める。制作期間中は宿題とし、期限内に提出する。作品によってはその日の授業内に提出するものもある。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。
提出物にはコメントにてフィードバックする。その他授業に関する要望等にはTeamsのチャット及びForms等を使用し対応する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

作品制作に応じて必要な画材があれば持参すること。デジタル作品を制作する場合はノートパソコンやタブレットを持参すること。(持参できない場合は講師と相談。)
３回の遅刻で１回の欠席とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，２０回以上。
授業内で示した作業スケジュールを遵守し，期日内に課題作品を提出する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
漫画表現（知識と理論の理解）	漫画・イラスト制作における知識と、制作する上での姿勢、心がけ、理論を十分に理解し、それらを自らの創作に活かして作品を完成できた。	漫画・イラスト制作における知識と、制作する上での姿勢、心がけ、理論を理解し、それらを自らの創作に活かして作品を制作した。	漫画・イラスト制作における知識と、制作する上での姿勢、心がけ、理論をある程度理解し、それらを自らの創作に活かす努力ができた。	漫画・イラスト制作における知識を理解できた。	漫画・イラスト制作における知識を理解できなかった。 作品を提出できなかった。
漫画制作（ストーリー創作技術）	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを十分に理解し、自らの表現したいテーマを決めて創作し作品を完成できた。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを理解し、作品を創作できた。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックをある程度理解し、作品を創作する努力をした。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを理解できた。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割等のテクニックを理解できず、作品を創作できなかった。
漫画制作（作画技術）	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解し適切に使用して、自らの考えたテーマや個性を十分に表現し、完成できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解し適切に使用して、自らのテーマや個性を表現できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解し、使用できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	漫画III （科目ナンバリング：AEA223066　　）				
授業担当者 （所属・職名）	五十嵐　優美子（デザイン学科・客員教授）　鴨　修平（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　鴨　修平　）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	漫画の連載・単行本出版経験のある教員が、漫画の描き方を基礎から指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『必要に応じて参考資料を提示、プリントを配布。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスを読んでおくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
2	課題１「好きなモノのプレゼンイラスト」	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
3	クロッキーの説明と実技・課題２「人物のイラスト化とディフォルメ化」１	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
4	クロッキーの説明と実技・課題２「人物のイラスト化とディフォルメ化」２	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
5	アオリと俯瞰の説明・課題３「１コママンガとキャラクターの各アングルを描く」１	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
6	アオリと俯瞰の説明・課題３「１コママンガとキャラクターの各アングルを描く」２	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
7	アオリと俯瞰の説明・課題３「１コママンガとキャラクターの各アングルを描く」３	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
8	アオリと俯瞰の説明・課題３「１コママンガとキャラクターの各アングルを描く」４	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
9	背景表現　パースの説明と実技・課題４「教室周辺の背景を描く」１	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
10	背景表現　パースの説明と実技・課題４「教室周辺の背景を描く」２	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
11	ネームの描き方の説明・課題５「ネーム制作」１	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
12	ネームの描き方の説明・課題５「ネーム制作」２	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
13	ネームの描き方の説明・課題５「ネーム制作」３	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
14	ネームの描き方の説明・課題５「ネーム制作」４	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
15	ネームの描き方の説明・課題５「ネーム制作」５	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
16	ネームの描き方の説明・課題５「ネーム制作」６	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	課題６「ストーリー漫画制作」プロット１	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
18	課題６「ストーリー漫画制作」プロット２	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
19	いがらしゆみこ特別講座１	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
20	いがらしゆみこ特別講座２	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
21	課題６「ストーリー漫画制作」ネーム１	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
22	課題６「ストーリー漫画制作」ネーム２	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
23	課題６「ストーリー漫画制作」下書き１	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
24	課題６「ストーリー漫画制作」下書き２	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
25	課題６「ストーリー漫画制作」ペン入れ	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
26	課題６「ストーリー漫画制作」ベタ塗り・効果線・背景	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
27	課題６「ストーリー漫画制作」スクリーントーン１	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
28	課題６「ストーリー漫画制作」スクリーントーン２	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
29	課題６「ストーリー漫画制作」仕上げ１	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
30	課題６「ストーリー漫画制作」仕上げ２	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
31	授業に係る講評・授業改善アンケートの実施 解説によるフィードバック　科目を修了して「身に付く力」についての検証。	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
32	課題作品の添削・返却	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義全体の内容を振り返ること。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	応用物理 （科目ナンバリング：PHY322055　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　伊藤　裕康　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

物理現象の本質を理解するため、物体の運動状態を的確に表現するために必要となる知識と記述方法を学び、静力学や運動状態に対して物理学的にアプローチする方法を身につける。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

ベクトル量の基本演算を理解しており、外力の影響がある場合の物体の運動状態について説明できる。また、固体にかかる力のつり合いの式を立てることができる。

授業全体の内容と概要

「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。
主に物体の運動と固体のつり合いについて扱う。物体の状態を表現するため、さまざまな物理量やベクトルの演算を学習する。また、ニュートンの運動３法則を理解し、物体の運動状態を把握するのに３法則がどのように関わっているのかを学習する。個体のつり合い問題については、力のモーメントを理解し、つり合いの式を立てられるように学習する。さらに演習問題を随時出題し、応用力を身につける。

授業の方法

授業は、板書とパワーポイントおよび配付資料で実施する。学生の不明点・質問は、まず一人で考え、次に隣の人と意見交換し、最後に教室全体で共有して議論する。その後、授業内で解答を呈示してフィードバックする。課題レポートにはコメントにてフィードバックする。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。
欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

20分以上の遅刻は欠席とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（工業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	２５%	０%	０%	２５%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ベクトル演算についての理解	複数のベクトルの合成と分解について、三角関数を用いて成分計算することができた。	物体に加わっている複数の力ベクトルの総和ベクトルについて、成分計算および図形表示ができた。	ベクトルを任意の２方向に分解し、成分計算および図形表示ができた。	２つのベクトルの和や差について、成分計算および図形表示ができた。	２つのベクトルの和・差について、成分計算および図形表示ができなかった。
ニュートンの運動３法則についての理解	演習問題において、３法則を用いて物体運動を説明できた。	簡単な演習問題において、物体の運動方程式を立てることができた。	運動方程式を用いて、力と加速度、質量の関係を説明できた。	物体に外力が加わるとき、物体の運動状態がどのように変化するのかを説明できた。	物体に外力が加わるとき、物体の運動状態がどのように変化するのかを説明できなかった。
固体のつり合いについての理解	重心まわりのモーメントのつり合いの式を立てることができ、重心の位置を求めることができた。	複数の力が作用しているときに、水平方向と垂直方向のつり合いの式を立てることができた。	力のモーメントのつり合いの式を立てることができた。	力のつり合いの式を立てることができた。	力のつり合いの式を立てることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	応用物理 （科目ナンバリング：PHY322055　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　伊藤　裕康　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスと授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスと教科書をよく読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
2	ベクトルの大きさや表記について	次回の授業範囲を予習する（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
3	ベクトルの合成・分解と作図法	次回の授業範囲を予習する（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
4	ニュートンの運動第１法則	次回の授業範囲を予習する（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
5	慣性系について	次回の授業範囲を予習する（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
6	ニュートンの運動第２法則と第３法則	次回の授業範囲を予習する（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
7	ケプラーの法則について	次回の授業範囲を予習する（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
8	加速度運動問題についての討論	次回の授業範囲を予習する（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
9	地球スケールの運動についての討論	次回の授業範囲を予習する（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
10	質点の力のつり合い問題	次回の授業範囲を予習する（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
11	力のモーメントと固体のつり合い	次回の授業範囲を予習する（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
12	力のモーメントの計算	次回の授業範囲を予習する（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
13	重心まわりのつり合い	次回の授業範囲を予習する（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
14	固体のつり合い問題について	次回の授業範囲を予習する（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
15	まとめと演習 授業改善アンケートの実施	これまでの授業内容についての質問をまとめる（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
16	定期試験 60分の試験終了後、残りの30分で解説をし、フィードバックする 科目を修了して「身に付く力」についての検証	試験範囲について復習しておくこと（90分）	試験内容について復習しておくこと（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	2年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾋﾞｼﾞﾈｽﾘｻｰﾁII （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）河野　善文（経営学科・教授）石山　玄幸（経営学科・教授）小林　大	研究室等所在	2号館6階　1号館2階　1号館2階　2号館8階		
単位数	2　（単位認定責任者：　信濃　吉彦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードを確認すること				

概要

履修目標

本講座は、3年次以降に開講されるビジネスリサーチ演習の準備講座の後編である。学生諸君は経営分析や企業リサーチ等をイメージしてその基礎的事項からプレゼンテーションへと繋がる運用に関して強化・訓練をしてもらう。

授業の位置づけ

経営学部の全てのDPに対応する科目

到達目標

本講義を履修した学生には調査・分析・報告を社会人として恥ずかしくないレベルで行えるようになってもらいたい。特にプレゼンテーション力を磨いてもらう。

授業全体の内容と概要

「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連授業

授業の方法

担当教員の指示に従い、個人レベルやペアレベル、小グループ等さまざまな状況・状態で問題解決にあたってもらう。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

この科目はビジネスリサーチⅠの単位未修得者は履修できない。4名の教員がオムニバスに担当する。1教員の授業での最大欠席回数は2回までとし最低出席回数は１１回以上とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

各教員が課したレポートやペーパー類はもちろん、調査内容や自分の意見は理由と共に文字化してノートまたはPC内に保存すること。1教員の授業での最大欠席回数は2回までとし最低出席回数は１１回以上とする。また、提出期限を過ぎてから提出された課題に関しては全て0点として最終評定に加える。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
%	４０%	４０%	%	２０%	%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
思考力・判断力・表現力	積極的に講義に取り組み、企業調査において必要となる知識や手段を学び、経営学における実践力を獲得するための努力をしている。	与えられた課題に取り組み、企業調査において必要となる知識や手段への理解が深まりつつある。	与えられた課題に取り組み、企業調査において必要となる知識や手段の考え方に対する努力が見られる。	与えられた課題に取り組み、経営バランスを理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、企業調査において必要となる知識や手段とバランシングへの理解に対する進歩が見られず、自分なりのデータベースができていない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら調査・分析に取り組み、余った時間をさらなる問題や対策の研究・理解に振り分けている。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり経営学におけるマーケティング力の習得に関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んでマネジメント力を身につけようとする姿勢が見られない。
知識・技能	提出物の合計で９０点以上の評価を受けた。	提出物の合計で８０点以上の評価を受けた。	提出物の合計で７０点以上の評価を受けた。	提出物の合計で６０点以上の評価を受けた。	提出物の合計で６０点以上の評価を得ることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	2年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾋﾞｼﾞﾈｽﾘｻｰﾁⅡ （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者（所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）河野　善文（経営学科・教授）石山　玄幸（経営学科・教授）小林　大	研究室等所在	2号館6階　1号館2階　1号館2階　2号館8階		
単位数	2　（単位認定責任者：　信濃　吉彦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードを確認すること				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員の指示に従うこと	予習（９０分）	復習（９０分）
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	子ども家庭支援論 （科目ナンバリング：CHS122076　　）				
授業担当者 （所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　杉本　大輔　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照すること				

概要

履修目標

現代家族が抱える諸課題、個々の機能、家族と社会の関係性の形成、家族政策を理解したうえで、効果的な子育て支援方法とは何か、を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３、DP４，DP５に対応する。

到達目標

家族支援の意義と役割、家庭生活を取り巻く社会的状況、子育て家庭への支援体制、家族形態の多様化と、それに対応した支援方法を学習し、学生各自の身近な地域社会における家庭支援の方法を模索し、現状に即した支援方法を考察し、構築する。

授業全体の内容と概要

家族についての概念、家族変動、現代家族の課題など、家族社会学の基本的概念を学習したうえで、子育て支援ネットワークの事例及び家族システム理論について講義を行う。

授業の方法

各時間ごとに、教員が講義プリントを配布し、それに基づいて講義を行う。配布プリントの内容を教員が説明し、重要事項は黒板に板書する。課題等は特に設定しないが、乳児保育の復習をしておくことが望ましい。学生の要望には可能な限り対応するが、教育上好ましくないと思われる要望には応えられない。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

主体的・積極的な参加を望む。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位取得の最低出席回数１０回をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
８０%	０%	０%	０%	０%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
明治時代以降の、家族の構造・機能変動について理解する。	明治時代からの家族の構造機能変動について、事例と家族社会学の諸理論を用いて説明できた。	明治時代からの家族の構造機能変動について、概略を説明できた。	明治時代からの家族の構造機能変動について、事例を用いて説明できた。	明治時代からの家族の構造変動についての概略を説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
現代日本における子育て家族が抱える課題について理解する。	子育て家族が抱える諸課題と児童虐待発生の関係性を、関係法規と家族社会学理論及びシステム理論を用いて説明できた。	子育て家族が抱える諸課題と児童虐待発生の関係性を、関係法規を交えて説明できた。	子育て家族が抱える諸課題と、特に児童虐待発生の関係について説明できた。	子育て家族が抱える諸課題の概略を説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
子育ての課題を抱えた家族の支援方法について理解する。	地域ネットワーク構築の方法論を、ネットワーク構築理論を用いて説明でき、且つ事例を用いて説明でき、さらに事例に用いられた支援方法の課題を説明できた。	地域ネットワーク構築の方法論を、ネットワーク構築理論を用いて説明でき、且つ、事例を用いて解説できた。	地域ネットワーク構築の方法論を、ネットワーク構築理論を用いて説明できた。	地域ネットワーク構築の方法論の概略を説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	子ども家庭支援論 （科目ナンバリング：CHS122076　　）				
授業担当者 （所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　杉本　大輔　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照すること				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明　授業改善アンケート結果反映の説明 身につく力・・・家庭支援における実践視点の獲得	乳児保育復習（９０分）	配布プリントの読み込み（９０分）
2	家族支援の意義と役割１家族の意義と機能	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの読み込み（９０分）
3	家族支援の意義と役割２家族支援の必要性	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの読み込み（９０分）
4	家族支援の意義と役割３保育士が行う家族支援の原理	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの読み込み（９０分）
5	家族生活を取り巻く社会的状況１現代社会における人間関係の変化	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの読み込み（９０分）
6	家族生活を取り巻く社会的状況２地域社会の変容と家族支援	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの読み込み（９０分）
7	家族生活を取り巻く社会的状況３男女共同参画社会とワークライフバランス	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの読み込み（９０分）
8	子育て家族への支援体制１子育て家族の福祉を図るための社会資源	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの読み込み（９０分）
9	子育て家族への支援体制２子育て支援施設・次世代育成支援施設の推進	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの読み込み（９０分）
10	多様な支援の展開と関係機関との連携１子育て支援サービスの概要	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの読み込み（９０分）
11	多様な支援の展開と関係機関との連携２保育所入所児童の家庭への支援	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの読み込み（９０分）
12	多様な支援の展開と関係機関との連携３地域の子育て家族への支援	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの読み込み（９０分）
13	多様な支援の展開と関係機関との連携４要保護児童及びその家族に関する支援	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの読み込み（９０分）
14	多様な支援の展開と関係機関との連携５子育て支援における関係機関との連携	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの読み込み（９０分）
15	多様な支援の展開と関係機関との連携６子育て支援サービスの課題（授業改善アンケートの実施）	前回プリントの読み込み（９０分）	講義全体の総復習（９０分）
16	試験。６０分の試験の後、３０分の添削・解説を行いフィードバックする。 身につく力の確認・・・上記試験及びレポートの添削	講義全体の総復習（９０分）	自己総括（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝII （科目ナンバリング：SWS123223，HLS322051　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　安藤　淳一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

インテリアデザインは，建築の専門科目のなかでも学びの対象が実生活に近いものである。したがて履修学生は，インテリアデザインに関する知識を豊富に習得すること，また人間の生活行動やそれぞれの機能，人それぞれの身体状況に対しどのような計画が必要かを認識し理解すること，そして実践に結び付けていくことができる。

授業の位置づけ

建築学科のDP3,DP4,DP5に対応する。

到達目標

一にセンスアップ，二にセンスアップ，三に優しい心を育むことができる。

授業全体の内容と概要

実務と現物に触れることによって，インテリアデザインの現状を把握する。また，内部空間，野外家具（ストリートファニチャー），店舗ファサードなどについて解説する。それらの空間計画と思想を学ぶと共に，実際の製作を通して発想とプレゼンテーションのトレーニングを行う。

授業の方法

前半は，講義によるインテリアデザインの計画的側面を中心にPPを用いて解説をおこなう。受講時に授業ノート（演習1）をとり授業終了後提出，演習2は自宅学習課題として次週の開始時に提出し，コメントを記したものを後日返却する。後半は，インテリア関係メーカーのショールームの見学（フィールドワーク）を行い，商品や実作に触れインテリアデザインの実態を経験し，そこから得た知見をレポートとしてまとめる。レポート提出後，講評を記述して返却する。基本的に授業は対面で実施するが，不測の事態が起きた際に，授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席して，講義を聴かなければ意味がない。旅行，外出の際は，スケール・カメラまたはクロッキーブックを所持し，参考になるものを記録する。ショールームなどの視察と調査後は，各自のテーマについての研修事項をレポートとして提出する。作品は模型による提出とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数１０回以上)，授業内で行う演習の評価点（平常点）と見学会レポート（レポート）が単位認定（成績評価）の過半を占めるので，授業欠席や演習未提出は不合格に直結する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	６０%	０%	０%	３０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ショールームの見学を通じ本物を見て触ってみることから優れたデザインからセンスを磨く。	レポートがすべて提出され見学から多くの示唆を受けたことが判断できた。	レポートがすべて提出され見学から示唆を受けたことが判断できた。	レポートがすべて提出され見学からおおかた示唆を受けたことが判断できた。	レポートがすべて提出できた。	見学に不参加またはレポートが提出できなかった。
インテリアデザインに関する知識を豊富に修得する。	対象インテリアとそれ以外の視点からグローバルに捉えた成果が演習から確認できた。	インテリアを複数の視点で捉えたことが作成された演習から確認できた。	インテリアをひとつのテーマや視点で捉えた演習を作成できた。	演習を作成し提出できた。	演習が提出されなかったため，知識を修得したことが確認することができなかった。
人間の生活行動やそれぞれの機能，人それぞれの身体状況に対しどのような計画が必要かを認識し理解する。	十分に条件を理解し優れた表現の課題を作成することができた。	条件を理解し優れた表現の課題をが作成することができた。	条件を理解した課題を作成することができた。	条件理解に多少の問題があるが課題を作成することができた。	課題を作成することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ （科目ナンバリング：SWS123223，HLS322051　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　安藤　淳一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明，授業改善アンケート結果反映の説明，科目を修了して「身に付く力」についての説明，インテリアデザインで学ぶこと	シラバス事前確認（90分）	授業内容の確認（90分）
2	人間工学　家具への応用	予習（教科書確認）（90分）	演習2作成（90分）
3	人間工学　行動・動作	予習（教科書確認）（90分）	演習2作成（90分）
4	光と色	予習（教科書確認）（90分）	演習2作成（90分）
5	内装材・塗装	予習（教科書確認）（90分）	演習2作成（90分）
6	構法と納まり	予習（教科書確認）（90分）	演習2作成（90分）
7	家具デザイン	予習（教科書確認）（90分）	演習2作成（90分）
8	建具・金物	予習（教科書確認）（90分）	演習2作成（90分）
9	ショールーム見学会の説明と模型課題出題	予習（教科書確認）（90分）	模型作成（90分）
10	見学会１　家具メーカー　ショールーム	見学場所と道具の確認（90分）	レポート作成（90分）
11	見学会２　テキスタイルメーカー　ショールーム	見学場所と道具の確認（90分）	レポート作成（90分）
12	見学会３　住宅総合メーカー　ショールーム	見学場所と道具の確認（90分）	レポート作成（90分）
13	見学会４　家具卸会社　ショールーム	見学場所と道具の確認（90分）	レポート作成（90分）
14	見学会５　住宅設備メーカー　工場	見学場所と道具の確認（90分）	レポート作成（90分）
15	模型課題　提出・発表	発表準備（90分）	発表内容の振返り（90分）
16	総評（提出課題・レポートの確認と講評），授業改善アンケートの実施，フィードバック，科目を修了して「身に付く力」についての検証	提出作品の最終確認（90分）	総評の振返り（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻III （科目ナンバリング：AEA223070　　）				
授業担当者 （所属・職名）	梅田　力（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	アトリエ棟彫刻研究室	
単位数	2　（単位認定責任者：　梅田　力　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

この科目の（課題Ⅰ）では「私の肖像」をテーマに作品を制作する。「私」とは何かという問いかけとそこで見出す自分を造形化することにより、自分自身を客観的に見つめ、よく知っているつもりの「私」をもう一度見つめ直すことを目標とする。（課題Ⅱ）ではJR札幌駅東コンコースにある「アートボックス」内に設置する作品の制作をとおして、社会の中でのアートの役割について考察する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

（課題Ⅰ）では制作をとおして自分自身をよく見つめ、その一部でも理解できるようになることとそれを他者に伝えることができる能力を身につけることができる。
（課題Ⅱ）では自分が表現したものが、社会の中でどの様な役割を担うことができるか考えられることができる。

授業全体の内容と概要

（課題Ⅰ）は作品制作をとおして「私」を理解するために、「私の肖像」をテーマに不用になった段ボール箱を素材に立体作品を制作する。「私とは?」という問いをもちながら、理解の手がかりになるものを探して調べる。調査したものから作品を構想し、立体作品にするためのアイディアスケッチを制作。その後不要になった段ボール箱を素材として作品を制作する。
（課題Ⅱ）はJR札幌駅東コンコースにある「アートボックス」内に設置する彫刻作品の制作。パブリックな空間に美術作品を設置することの意義を理解するため、決められた特殊な空間での作品制作を行う。実際に設置されている「アートボックス」を視察し、併せて周囲の空間を読み取り、作品プランと模型を制作する。

授業の方法

（課題Ⅰ）はパワーポイント及び授業担当者作成の資料を基に課題についてのプレゼンテーションを行う。自分について改めて調べてみたいと思う資料を収集する。併せて自分が興味を惹かれるものを収集する。通学途中に見つけ出す「気になる風景や物」、「魅力を感じた人や物」などを写真に収めたり拾ってきたりする。それらを基に不用になった段ボール箱で「私の肖像」を立体作品として制作する。
（課題Ⅱ）はパワーポイント及び担当者作成の資料を基にプレゼンテーションを行う。設置予定となる「アートボックス」の取材。参考になると思われるものを写真に収めたりスケッチなどする。それらを基に制作用のイメージスケッチをし、作品プランと模型を制作する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

実制作に入ってからは、作業に適した服装で受講すること。
また北広島市や札幌市の公共空間に設置されている美術作品を機会を見つけて視察しておくこと。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、２０回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	８０%	０%	０%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
資料の活用（知識の習得）	課題の意味をしっかりと理解し、それに関して的確に調査し、必要な資料等を活用しながら的確に作品に反映させることができた。	課題の意味をしっかりと理解し、それらの資料等の収集に努め、それらの内の数点を的確に作品に反映させることができた。	課題の意味を理解し、資料を複数収集し、それらの資料をよく活用しながら作品に反映させることができた。	資料を収集しそれを活用して作品を完成させることができた。	資料の収集ができなかった。更に作品を完成させることができなかった。
作品とコンセプトの考え方（思考力・表現力）	作品制作のコンセプトが的確であり、それらの表現力に優れ、更に技術力・完成度が高い作品ができた。	作品制作のコンセプトをしっかりと持っていて、それらの表現力も的確に持っており、完成度が高い作品ができた。	作品制作のコンセプトを持っている。それを作品にある程度反映させることができており、完成度が高い作品ができた。	作品制作のコンセプトを持っている。それを作品に反映させている作品ができた。	作品制作のコンセプトが認められない。更に作品を完成させることができなかった。
プレゼンテーション（表現力）	自分自身が制作した作品について、作品を客観的に眺めることができ、その制作プロセスやコンセプトを他者に的確にプレゼンテーションすることができた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることがしっかりとできた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることができた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることがある程度できた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻III （科目ナンバリング：AEA223070　　）				
授業担当者 （所属・職名）	梅田　力（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	アトリエ棟彫刻研究室	
単位数	2　（単位認定責任者：　梅田　力　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 (課題Ⅰ)に関するオリエンテーション 授業改善アンケート結果反映の説明　科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおくこと（４５分）	自分の周辺にある資料の収集（４５分）
2	(課題Ⅰ)に関するオリエンテーション	シラバスを読んでおくこと（４５分）	自分の周辺にある資料の収集（４５分）
3	持参した資料を基に発表	自分の周辺にある資料の収集（４５分）	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集（４５分）
4	持参した資料を基に発表	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集（４５分）	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集（４５分）
5	集めた資料などを基にアイディアスケッチの制作	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集（４５分）	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集（４５分）
6	集めた資料などを基にアイディアスケッチの制作	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集（４５分）	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集（４５分）
7	段ボール箱による実制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
8	段ボール箱による実制作のつづき	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
9	段ボール箱による実制作のつづき	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
10	段ボール箱による実制作のつづき	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
11	段ボール箱による実制作のつづき	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
12	段ボール箱による実制作のつづき	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
13	作品の完成･プレゼンテーション・講評及び採点	提出すべき作品の確認（４５分）	講義全体を振り返り、まとめを行うこと（４５分）
14	作品の完成･プレゼンテーション・講評及び採点	提出すべき作品の確認（４５分）	講義全体を振り返り、まとめを行うこと（４５分）
15	(課題Ⅱ)に関するオリエンテーション	学習内容に必要な事前準備を行うこと（４５分）	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく（４５分）
16	(課題Ⅱ)に関するオリエンテーション	学習内容に必要な事前準備を行うこと（４５分）	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	アートボックス(札幌駅東コンコース)の現地視察	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく（４５分）	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく（４５分）
18	アートボックス(札幌駅東コンコース)の現地視察	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく（４５分）	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく（４５分）
19	世界のパブリックアートについて､パワーポイントを使い講義	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく（４５分）	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく（４５分）
20	世界のパブリックアートについて､パワーポイントを使い講義	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく（４５分）	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく（４５分）
21	アイディアスケッチの制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
22	アイディアスケッチの制作	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
23	プレゼンテーションボードの制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
24	プレゼンテーションボードの制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
25	プレゼンテーションボードの完成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
26	プレゼンテーションボードの完成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
27	模型の制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
28	模型の制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
29	模型の制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
30	模型の制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
31	模型の完成・講評及び採点 提出作品へのフィードバック	提出すべき作品の確認（４５分）	講義全体を振り返り、まとめを行うこと（４５分）
32	模型の完成・講評及び採点 授業改善アンケートの実施 科目を通じて身につく力の検証	提出すべき作品の確認（４５分）	講義全体を振り返り、まとめを行うこと（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｱﾝﾄﾚﾌﾟﾚﾅｰｼｯﾌﾟ Ⅰ （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	阿部 裕樹（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階 非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　阿部 裕樹　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現役の経営コンサルタントとしての実務経験を活かし，起業・創業において，ビジネスに成功するための事業計画の策定方法について実例を挙げて解説する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

本講義では社会にとっての起業・創業の意義,並びにアントレプレナーシップ（起業家精神）について理解する。起業して成功することは簡単ではないが、アイディアとビジネスモデルがあり、それを適切にマネジメントすることで、飛躍的に成長できる可能性があることを理解し身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

授業を通して「起業・創業の面白さ」を感じ取るとともに，アントレプレナーシップとはどのようなことかをイメージし,合わせて実際の事業化にあたって必要な経営スキル等の要素について理解する。

授業全体の内容と概要

アントレプレナーシップ（起業家精神）とは何かということを起業・創業で成功した事例を紹介することで理解する。また，スタートアップから企業が成長する段階で超えなければいけないハードル，資金調達，チームづくり，リスクマネジメント，知的財産の管理等の理論を学ぶことで起業・創業に必要な知識を習得する。また，起業時のビジネスプランのつくり方にも触れていきたい。

授業の方法

授業はパワーポイント及び配布物資料で実施し，資料にて説明をして基礎理論を習得したあと，事例を動画で視聴することで，より具体的な理解を深めることができるようにする。レポートを課すことで本授業のなかで感じたこと，考えたことを改めて認識する機会とし，気づきを得てもらいたい。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

本講座は出席および授業参加度を重視する。出席とは，ノート・筆記用具を持参し講義に臨むことを意味する。授業参加度とは，発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り等の授業妨害行為に関しては欠席扱いとする。レポート提出を1回課し，試験と合わせて最終評価の対象とする。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	20%	0%	0%	10%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
アントレプレナーシップの意義についての理解	アントレプレナーシップの社会的意義を様々な側面から説明できた。	アントレプレナーシップとは何か、そして成功するために必要な要素について説明できた。	アントレプレナーシップとは何かを説明できた。	アントレプレナーシップとは何かを理解していた。	アントレプレナーシップについて全く理解していなかった。
事業化に必要な経営スキルの理解	事業化に必要な経営スキルについてのあるべき姿をイメージできた。	事業化に必要な経営スキルについて、完全に説明することができた。	事業化に必要な経営スキルについて、完全に理解していた。	事業化に必要な経営スキルについて、部分的に理解していた。	事業化に必要な経営スキルについて全く理解していなかった。
事業計画策定に必要な知識の習得	事業計画策定の様々な局面においての有効性を具体的に理解し、策定手順について完全に説明することができた。	事業計画の意義について理解し、策定手順について完全に説明することができた。	事業計画の意義について理解し、策定手順について完全に理解していた。	事業計画の意義について理解し、策定手順について部分的に理解していた。	事業計画策定について全く理解していなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｱﾝﾄﾚﾌﾟﾚﾅｰｼｯﾌﾟ Ⅰ （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	阿部 裕樹（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階 非常勤講師室	
単位数	2	（単位認定責任者：　　阿部 裕樹　　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現役の経営コンサルタントとしての実務経験を活かし，起業・創業において，ビジネスに成功するための事業計画の策定方法について実例を挙げて解説する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 本授業における概要とガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
2	アントレプレナーシップとは	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
3	新しいビジネスの創造	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
4	企業の役割と社会的責任	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
5	マーケティングと販路開拓	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
6	組織づくりと人材育成	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
7	資金の調達について	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
8	お金の流れを管理する	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
9	スタートアップから企業成長段階へ	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
10	ソーシャルビジネスの起業	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
11	知的財産とベンチャー	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
12	起業のリスクマネジメント	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
13	ビジネスプランのつくり方	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
14	ビジネスモデルについて	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
15	本授業におけるまとめ	これまでの授業を振り返り総まとめの復習を行う。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
16	60分の試験終了後，残りの30分で解説 授業改善アンケートの実施 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	「本授業におけるまとめ」を活かして試験対策（９０分）	試験の出題テーマを振り返り、理解が不足していた箇所を完全に理解しておくこと。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｱﾝﾄﾚﾌﾟﾚﾅｰｼｯﾌﾟ II （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	阿部　裕樹（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階 非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　阿部　裕樹　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現役の経営コンサルタントとしての実務経験を活かし，企業がイノベーションを創出するための組織的な取り組み方について実例を挙げて解説する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

本講義では、アントレプレナーシップにおけるイノベーションの重要性を理解し、実践的な視点を養うことを目指します。具体的には、①イノベーションの概念とその役割を学ぶ、②市場や技術の変化を捉え、新たなビジネス機会を創出する思考力を養う、③成功事例や失敗事例を分析し、実践に活かせる知識を習得することを目的とします。これにより、受講者は変化の激しい社会において、自ら課題を発見し、価値を生み出す力を身につけることができます。

授業の位置づけ

経営学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

イノベーションの本質について理解し、将来、自らイノベーションを起こすことで、社会に価値を提供できるような考え方、発想を持てるようにする。選ばれた天才のみが発明できるのではなく、身近なレベルでもイノベーションを起こすことが可能であることを理解する。

授業全体の内容と概要

イノベーションとは単に技術的な発明だけでなく、既に存在するものを組み合わせて新しい価値を創出することも可能である。古典的な理論から始まり、主流となった破壊的イノベーション、そして最新のオープンイノベーション等の概念について体系的に学習することで、イノベーションの多様な在り方について理解する。また、イノベーションを起こす際のマネジメント理論についても習得する。

授業の方法

授業はパワーポイント及び配布物資料で実施し，資料にて説明をして基礎理論を習得したあと，事例を動画で視聴することで，より具体的な理解を深めることができるようにする。レポートを課すことで本授業のなかで感じたこと，考えたことを改めて認識する機会とし，気づきを得てもらいたい。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

本講座は出席および授業参加度を重視する。出席とは，ノート・筆記用具を持参し講義に臨むことを意味する。授業参加度とは，発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り等の授業妨害行為に関しては欠席扱いとする。レポート提出を1回課し，試験と合わせて最終評価の対象とする。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（商業）の選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	20%	0%	0%	10%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イノベーションについての理解	国家戦略としてのイノベーションの重要性についてグルーバルの視点から説明することができた	イノベーションの価値について様々な例を挙げて説明することができた	イノベーションの意味について説明することができた	イノベーションの意味について理解していた	イノベーションの意味について全く理解していなかった
イノベーションの理論についての理解	今後、有望なイノベーションのテーマについてイメージすることができた	イノベーションの理論について様々な例を挙げて説明することができた	イノベーションの理論について説明することができた	イノベーションの理論について理解していた	イノベーションの理論について全く理解していなかった
イノベーションを起こす戦略とマネジメントについての理解	イノベーションを起こすことが可能な企業像を具体的にイメージすることができた	イノベーションを起こす戦略とマネジメントについて成功する要素を具体的に説明することができた	イノベーションを起こす戦略とマネジメントについて説明することができた	イノベーションを起こす戦略とマネジメントについて理解していた	イノベーションを起こす戦略とマネジメントについて全く理解していなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｱﾝﾄﾚﾌﾟﾚﾅｰｼｯﾌﾟ Ⅱ （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	阿部 裕樹（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階 非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　阿部 裕樹　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現役の経営コンサルタントとしての実務経験を活かし，企業がイノベーションを創出するための組織的な取り組み方について実例を挙げて解説する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 本授業における概要とガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
2	イノベーションとは何か？	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
3	DX（デジタル・トランスフォーメーション）概論	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
4	シュンペーターの新結合	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
5	ドラッカーの「７つの機会」	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
6	知識創造理論（SECIモデル）	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
7	破壊的イノベーション（１）	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
8	破壊的イノベーション（２）	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
9	オープンイノベーション	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
10	リバース・イノベーション	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
11	イノベーション実現のための戦略（１）	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
12	イノベーション実現のための戦略（２）	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
13	イノベーションを起こすマネジメント（１）	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
14	イノベーションを起こすマネジメント（２）	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
15	本授業におけるまとめ	これまでの授業を振り返り総まとめの復習を行う。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
16	60分の試験終了後，残りの30分で解説 授業改善アンケートの実施 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	「本授業におけるまとめ」を活かして試験対策(90分)	試験の出題テーマを振り返り、理解が不足していた箇所を完全に理解しておくこと。（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科･３年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習III（ｶﾞﾗｽ工芸） （科目ナンバリング：AEA223074　　）				
授業担当者 （所属・職名）	楠本　祐弘(デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室・アトリエ棟２階クラフト教室	
単位数	2　（単位認定責任者：　楠本　祐弘　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	複数の技法を扱う制作活動経験を活かし、技法、発想力･デザインの指導を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

課題に対し、適正な発想展開しデザインする事、安全で効率良い制作作業,作品の説明までを一つの作品制作として行う。それぞれのプロセスの質を高めるよう努める。また素材知識を身につける事と段取りをして効率の良い進め方をする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

ガラスの素材知識を得る事とガラス工芸の手法を理解する。作品を具現化する為の発想展開が出来る。安全確保し、効率よく作業が行える。作品を明確に説明できる。

授業全体の内容と概要

コールドガラス（ステンドグラス・キルンワーク）のテクニック、素材等の理解と作品の製作。ホットガラス（バーナーワーク）による作品製作

授業の方法

講師による技術指導での製作実習
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

安全を確保し、怪我に十分注意し作業する事。作業要点のメモを取る事。
成績を主に作品で評価するため、必ず作品提出する事。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

出席数２０回以上及び作品提出にて評価する。発想・作業・完成度・作品説明を考慮して評価。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	９０%	０%	０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
発想力及びデザイン展開	テーマに対し、ユニークな発想、デザイン展開がスムーズに行えた。	テーマに対し、発想の独自性、デザイン展開の整合性が取れている。	修正を行い制作可能なデザインができた。	スケジュール内にデザインを決められた。	発想が枯渇して、デザインが進まなかった。具現化出来る案がデザインできなかった。
作品制作のプランニング及び理解	作業の目的と要点を把握し,効率良く作業出来た。テーマに対し明快に答えた。	作業の目的と要点を把握し,効率良く作業出来た。	テーマに相応しい形態に仕上げられた。	スケジュール内に作品が完成した。	スケジュール内に作品が完成しなかった。
技術の習得	ガラスの切断が出来る	ガラスを削る事が出来る	デザインに合わせてガラスを切断、切削する事が出来る	工具の使い方を理解する	ガラスを扱うことが出来ない
作品説明の表現	作品説明を的確な言葉使いでできた。形と説明が合致していた。質問に明快に返答できた。	テーマ、コンセプトが理解出来る作品説明ができた。	質問をやりとりして、テーマ、コンセプトが理解出来る作品説明ができた。	作品と制作意図に整合性が弱い。	テーマに対応した説明ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科･３年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習III（ｶﾞﾗｽ工芸） （科目ナンバリング：AEA223074　　）				
授業担当者 （所属・職名）	楠本　祐弘(デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室・アトリエ棟２階クラフト教室	
単位数	2	（単位認定責任者：　楠本　祐弘　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	複数の技法を扱う制作活動経験を活かし、技法、発想力･デザインの指導を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明･技法説明を行う。 科目修了後に「身に付く力について」の説明	シラバスを読んでおくこと。（４５分）	アイデアの素材収集する。（４５分）
2	コールドガラス（ステンドグラス技法によるサンキャッチャー等の製作）-1	アイデアの素材収集する。（４５分）	メモを取り要点整理。（４５分）
3	コールドガラス（ステンドグラス技法によるサンキャッチャー等の製作）-2	アイデア、素材の収集（45分）	作業の準備（45分）
4	コールドガラス（ステンドグラス技法によるサンキャッチャー等の製作）-3	作業の段取りをする。（４５分）	作業の準備（45分）
5	コールドガラス（ステンドグラス技法によるサンキャッチャー等の製作）-4	アイデアの素材収集する。（４５分）	作業の準備（45分）
6	コールドガラス（ステンドグラス技法によるサンキャッチャー等の製作）-5	作業の段取りをする。（４５分）	作業の準備（45分）
7	コールドガラス（ステンドグラス技法によるサンキャッチャー等の製作）-6	アイデアの素材収集する。（４５分）	メモを取り要点整理。（４５分）
8	コールドガラス（ステンドグラス技法によるサンキャッチャー等の製作）-7	作業の段取りをする。（４５分）	作業の準備（45分）
9	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の製作）-1	アイデアの素材収集する。（４５分）	作業の準備（45分）
10	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の製作）-2	作業の段取りをする。（４５分）	メモを取り要点整理。（４５分）
11	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の製作）-3 ホットガラス（パーナーワーク等）-1	作業の段取りをする。（４５分）	作業の準備（45分）
12	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の製作）-4 ホットガラス（パーナーワーク等）-2	作業の段取りをする。（４５分）	作業の準備（45分）
13	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の製作）-5 ホットガラス（パーナーワーク等）-3	アイデアの素材収集する。（４５分）	作業の準備（45分）
14	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の製作）-6 ホットガラス（パーナーワーク等）-4	作業の段取りをする。（４５分）	作業の準備（45分）
15	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の製作）-7 ホットガラス（パーナーワーク等）-5	作業の段取りをする。（４５分）	作業の準備（45分）
16	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の製作）-8 ホットガラス（パーナーワーク等）-6	作業の段取りをする。（４５分）	作業の準備（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の製作）-9 ホットガラス（パーナーワーク等）-7	作業の段取りをする。（４５分）	作業の準備（45分）
18	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の製作）-10 ホットガラス（パーナーワーク等）-8	作業の段取りをする。（４５分）	作業の準備（45分）
19	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の製作）-11 ホットガラス（パーナーワーク等）-9	作業の段取りをする。（４５分）	作業の準備（45分）
20	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の製作）-12 ホットガラス（パーナーワーク等）-10	作業の段取りをする。（４５分）	作業の準備（45分）
21	コールドガラス（パート・ド・ヴェールによる立体物の製作）-1	アイデアの素材収集する。（４５分）	作業の準備（45分）
22	コールドガラス（パート・ド・ヴェールによる立体物の製作）-2	アイデアの素材収集する。（４５分）	作業の準備（45分）
23	コールドガラス（パート・ド・ヴェールによる立体物の製作）-3	作業の段取りをする。（４５分）	製作手順の確認
24	コールドガラス（パート・ド・ヴェールによる立体物の製作）-4	作業の段取りをする。（４５分）	製作手順の確認
25	コールドガラス（パート・ド・ヴェールによる立体物の製作）-5	作業の段取りをする。（４５分）	製作手順の確認
26	コールドガラス（パート・ド・ヴェールによる立体物の製作）-6	作業の段取りをする。（４５分）	製作手順の確認
27	コールドガラス（パート・ド・ヴェールによる立体物の製作）-7	作業の段取りをする。（４５分）	製作手順の確認
28	コールドガラス（パート・ド・ヴェールによる立体物の製作）-8	作業の段取りをする。（４５分）	製作手順の確認
29	コールドガラス（パート・ド・ヴェールによる立体物の製作）-9	作業の段取りをする。（４５分）	製作手順の確認
30	コールドガラス（パート・ド・ヴェールによる立体物の製作）-10	作業の段取りをする。（４５分）	製作手順の確認
31	[コールドガラス（パート・ド・ヴェールによる立体物の製作）-11	作業の段取りをする。（４５分）	メモを取り要点整理。（４５分）
32	講評会 「授業改善アンケートの実施」 授業内容のフィードバック 科目修了後に「身に付く力について」の検証	プレゼンテーション案（４５分）	メモを取り要点整理。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習III（陶芸） （科目ナンバリング：AEA223074　　）				
授業担当者 （所属・職名）	中島　知之（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階 非常勤講師室・アトリ工棟		
単位数	2　（単位認定責任者：　　中島　知之　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	作家活動の中で培った陶芸制作技法、経験を学生により分かりやすく伝える。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

日常の中にある「うつわ」をテーマにした陶芸制作を通じ、「陶器」という素材における表現方法と知識、技術を深めることで、美術表現の幅を広げる。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

陶芸の知識・技法の理解を目標とする。その上で豊かな発想をもって新しく活動を展開する力を身につけることができる。

授業全体の内容と概要

２年次での工芸実習の内容をふまえ，これまでの実習の応用と新しい技術の習得を目指し，電動ろくろでの成形技術の実習を中心に進める。「土ねり」「装飾」「絵付け」「釉掛け」「窯詰め」「窯焚き」なども，作品の制作過程に沿ってより深く学ぶ。それと同時に全国の焼き物，各窯業地などの特色なども学ぶ。

授業の方法

課題作品の説明、実演ののちに各自練習。講師の示す期間内に課題作品提出し作品批評をおこなう。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

課題提出期限は厳守。遅刻，欠席の無いよう注意すること。課題作品の提出を課す。課題作品の説明，提出の方法は授業時間に指示する。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

課題提出期限は厳守。遅刻，欠席の無いよう注意すること。課題作品の提出を課す。課題作品の説明，提出の方法は授業時間に指示する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	５０％	０％	０％	５０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
陶芸における関心、意欲及び授業態度	授業事前事後の学習は、授業中に積極的な質問を行い、作業など模範的な授業態度が出来た。	授業事前事後の学習がなされている。授業中の課題、作業をこなしている。また、理解を深めるため真剣に作業に取り組んだ。	授業中の課題、作業をこなしている。また、理解を深めるため真剣に作業に取り組んだ。	授業中の課題、作業をこなした。	授業中の課題、作業をしていない。
陶芸の知識	授業内容を超える陶芸の知識を積極的に学び理解を深めた。	授業内容における陶芸の知識をほぼ理解した。	授業内容における陶芸の知識をおおむね理解した。	授業内容における陶芸の知識を最低限理解した。	授業内容における陶芸の知識を理解できていない。
陶芸技法の習得度	課題作品に必要な技法を習得し課題を完成させる。そして、より高難度技法の課題に取り組りくんだ。	課題作品に必要な技法をほぼ習得し課題を完成させた。	課題作品に必要な技法をおおむね習得し課題を完成させた。	課題作品に必要な技法を最低限習得し課題課題を完成させた。	課題を完成できない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習III（陶芸） （科目ナンバリング：AEA223074　　）				
授業担当者 （所属・職名）	中島　知之（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階 非常勤講師室・アトリ工棟		
単位数	2　（単位認定責任者：　　中島　知之　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	作家活動の中で培った陶芸制作技法、経験を学生により分かりやすく伝える。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス説明・授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおくこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
2	基本的な陶芸の知識と制作の説明 土ねり指導（荒ねり，菊ねり）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
3	電動ろくろによる作品制作 カップ（電動ろくろによる粘土成型）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
4	電動ろくろによる作品制作 カップ（電動ろくろによる粘土成型）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
5	電動ろくろによる作品制作 カップ（電動ろくろによる粘土成型，装飾，仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
6	電動ろくろによる作品制作 カップ（電動ろくろによる粘土成型，装飾，仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分））
7	電動ろくろによる作品制作 カップ（装飾，仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
8	電動ろくろによる作品制作 カップ（装飾，仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
9	釉がけ，窯詰め，電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
10	釉がけ，窯詰め，電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
11	電動ろくろによる作品制作 茶碗（電動ろくろによる粘土成型，装飾，仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
12	電動ろくろによる作品制作 茶碗（電動ろくろによる粘土成型，装飾，仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
13	電動ろくろによる作品制作 茶碗（電動ろくろによる装飾，仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
14	電動ろくろによる作品制作 茶碗（電動ろくろによる装飾，仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
15	電動ろくろによる作品制作　皿（装飾，仕上げ） 釉がけ，窯詰め，電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
16	電動ろくろによる作品制作　皿（装飾，仕上げ） 釉がけ，窯詰め，電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	電動ろくろによる作品制作　皿（装飾，仕上げ） 釉がけ，窯詰め，電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
18	電動ろくろによる作品制作　皿（装飾，仕上げ） 釉がけ，窯詰め，電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
19	電動ろくろによる作品制作 花器（電動ろくろによる粘土成型）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
20	電動ろくろによる作品制作 花器（電動ろくろによる粘土成型）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
21	電動ろくろによる作品制作 花器（電動ろくろによる粘土成型，装飾，仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
22	電動ろくろによる作品制作 花器（電動ろくろによる粘土成型，装飾，仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
23	電動ろくろによる作品制作 花器（電動ろくろによる粘土成型，装飾，仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
24	電動ろくろによる作品制作 花器（電動ろくろによる粘土成型，装飾，仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
25	電動ろくろによる作品制作 花器（電動ろくろによる粘土成型，装飾，仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
26	電動ろくろによる作品制作 花器（電動ろくろによる粘土成型，装飾，仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
27	電動ろくろによる作品制作 花器（装飾，釉がけ，焼成）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
28	電動ろくろによる作品制作 花器（装飾，釉がけ，焼成）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
29	釉がけ，窯詰め，電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
30	釉がけ，窯詰め，電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自で制作作業について振り返る（４５分）
31	課題作品の批評会	人の作品を観て自分の作品との違い等についてイメージしておく（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
32	課題作品の批評会・まとめ・解説・授業改善アンケートの実施、科目を修了して『身に付く力』についての検証	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	講義全体をふりかえり，まとめを行うこと（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習III（版表現） （科目ナンバリング：AEA223074　　）				
授業担当者 （所属・職名）	森迫　暁夫（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階 非常勤講師室・アトリ工棟		
単位数	2　（単位認定責任者：　森迫　暁夫　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	版画家として活動している教員が，その経験を活かして実践において活用できる様々な版表現の実習を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調節をし、非常勤講師室などで対応。				

概要

履修目標

各課題について考える事を大事に扱う。技術を学ぶ事と版の可能性について考える事、自分の個性を知り、それを磨いていく事。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

版という制約を知り，制約による美を発見して自己の制作につなげる。

授業全体の内容と概要

間接的な表現や直接的表現など，様々な版を体験する。

授業の方法

授業においては，各課題の説明の後に，実技制作にあたる。各回のテーマごとに課題提出を行い，課題ごとにプレゼンテーションをしてもらう。
授業の始めに必ず、主に札幌市で行われている展覧会やイベントの告知をしています。自分にとっての制作の立ち位置や、可能性について考えるためのフィールドワークとして、定期的に展示を見に行くことを目標としたい。そこから自ら調査、個人の制作につなげられるようにしていけると望ましい。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

自由度の高い授業形態で遅刻や欠席についても理由を聞き配慮もしますが、しっかりと授業受けるという意識は持ってきてください。筆記用具を持ってこなかったり、ポツポツと欠席、遅刻があったりする場合はこちらから履修を取り消してもらう場合もあります。授業時間以外では，原画，版下などの制作が必要となる。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

なし

評価方法・基準

評価前提条件

自由度の高い授業形態で遅刻や欠席についても理由を聞き配慮もしますが、しっかりと授業受けるという意識は持ってきてください。筆記用具を持ってこなかったり、ポツポツと欠席、遅刻があったりする場合はこちらから履修を取り消してもらう場合もあります。課題は多くありませんので全て提出が単位認定の条件となります。
単位に必要となる最低出席回数は、２２回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	５０％	０％	５０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
理解度	自ら進んで取り組み、授業の内容を理解した。	授業の内容を十分理解した。	授業の内容を概ね理解した。	授業の内容を最低限理解した。	授業の内容を理解できなかった。
課題	各課題に対して率先し、きちんと考えて制作している。	課題は全部出していて、十分考えている。	課題を全部出している。そこそこ考えて制作している。	課題を全部出している。	課題を出していない。
オリジナリティーの追求	自分のオリジナリティーを追求できている。	自分のオリジナリティーをそこそこ追求できている。	自分のオリジナリティーが何かを考えられる。	自分のオリジナリティーが最低限考えられている。	何も考えていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習III（版表現） （科目ナンバリング：AEA223074　　）				
授業担当者 （所属・職名）	森迫　暁夫（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階 非常勤講師室・アトリ工棟	
単位数	2　（単位認定責任者：　　森迫　暁夫　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	版画家として活動している教員が，その経験を活かして実践において活用できる様々な版表現の実習を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調節をし、非常勤講師室などで対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、科目を修了して『身に付く力』についての説明 オリエンテーション 授業概要について。授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを見ておく（４５分）	四版式について復習する（４５分）
2	オリエンテーションと４版式についての講義。	シラバスを見ておく（４５分）	四版式について復習する（４５分）
3	消しゴムスタンプで遊ぶ。　簡単なスタンプを作り、遊ぶ。	デザインカッター用意。四半式について復習。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
4	消しゴムスタンプで遊ぶ。簡単なスタンプを作り、遊ぶ。	各自資料を用意。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
5	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
6	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
7	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
8	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
9	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
10	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
11	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
12	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
13	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
14	消しゴムスタンプで名刺を作る。名刺交換の基本を学ぶ。プレゼンテーション。	各自資料を用意。（４５分）	ケシ版について考える（４５分）
15	マーブリング	汚れても良い格好。四版式について復習。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
16	マーブリング	汚れても良い格好。四版式について復習。（４５分）	楽しかったことを思い出す。四版式について復習。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	手形	自分の手について考える。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
18	手形	自分の手について考える。（４５分）	押されたものについて考える。（４５分）
19	フロッタージュ	B2鉛筆用意。学校内を探検しておく。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
20	フロッタージュ	B2鉛筆用意。学校内を探検しておく。（４５分）	課題の意図について考える。（４５分）
21	木版　アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。原画描き。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
22	木版　アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。原画描き。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
23	木版　アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
24	木版　アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
25	木版　アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
26	木版　アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
27	木版　アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
28	木版　アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
29	木版　アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。刷り。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
30	木版　アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。刷り。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
31	木版　アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。刷り。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
32	木版　アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。刷り。プレゼンテーション。授業改善アンケートの実施、科目を修了して『身に付く力』についての検証	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（４５分）	課題から。版画について考える。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習III（木工芸） （科目ナンバリング：AEA223074　　）				
授業担当者 （所属・職名）	島田　晶夫（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室・アトリエ棟		
単位数	2　（単位認定責任者：　島田　晶夫　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	木工作家としての活動経験を有する教員が、その経験を活かして実践に即した実習を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、研究室、非常勤講師室などで対応。				

概要

履修目標

クラフトを課題として、実際にデザインを制作する過程で、木材を主とした素材を体験し、作る楽しさと、それを生活の中で利用する喜びを知る。同時に美と用途を兼備する器物「工芸」に対する理解度を深めることができる。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

使える物を丁寧に作る。ノミ、鉋、ノコの使い方（手工具の使い方）を身につける。

授業全体の内容と概要

木工の工作機械と工具、道具類の使い方を知り、作業手順の大切さと作業後の片付けの大切さを知る。あわせて、刃物の危険性を学ぶ。

授業の方法

実際に作業を見せて説明し、実技を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

作品の制作が長期にわたるため、制作途中に欠席すると次の作業が不可能になる。途中で欠席すると、作品が完成しないので注意すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、２０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	０％	２０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
手工具の使い方、授業態度	授業事前事後の学習はもとより、授業中の積極的な取り組み、模範的な授業態度であった。	授業事前事後の学習がなされている。授業中の課題や取り組みをこなしている。また、理解を深めるため真剣に取り組んでいた。	授業中の課題や作業をこなしている。また、理解を深めるため内容を真剣に聞いていた。	授業中の課題や作業をこなしていた。	授業中着席するものの課題や作業をしていなかった。
木材への知識、理解	授業内容を越える学習を積極的におこない理解度を深めていた。	授業内容をほぼすべて理解していた。	授業内容の概ねを理解していた。	最低限の授業内容を理解していた。	授業内容を理解できていなかった。
木工作業への展開、安全	授業内容にとどまらず、問題点と課題を発展させ、より良い提案ができ、安全な作業を展開できた。	授業内容をほぼすべて理解し、安全な作業を展開できた。	授業内容の概ねを理解し、安全な作業を展開できた。	授業内容の一部から安全な作業の展開を見つけていた。	授業内容を理解できていないため、安全な作業を展開することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習III（木工芸） （科目ナンバリング：AEA223074　　）				
授業担当者 （所属・職名）	島田　晶夫（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室・アトリエ棟	
単位数	2　（単位認定責任者：　島田　晶夫　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	木工作家としての活動経験を有する教員が、その経験を活かして実践に即した実習を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、研究室、非常勤講師室などで対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して『身に付く力』についての説明 授業説明　第一課題「象嵌」	シラバスを読んでおくこと、象嵌作業とは何かを理解しておく。（45分）	説明を受けたことの確認（４５分）
2	第一課題　制作①　デザインする	前回までの確認を済ませておく（４５分）	制作状況の確認。（４５分）
3	第一課題　制作②　デザインを基に象嵌作業をする	完成までの計画を立てる事。（４５分）	制作状況の確認。（４５分）
4	第一課題　制作③　デザインを基に象嵌作業をする	完成までの計画を立てる事。（４５分）	制作状況の確認。（４５分）
5	第一課題　制作④　デザインを基に象嵌作業をする	完成までの計画を立てる事。（４５分）	説明を受けたことの確認（４５分）
6	第一課題　制作⑤　デザインを基に象嵌作業をする	完成までの計画を立てる事。（４５分）	制作状況の確認。（４５分）
7	第一課題　制作⑥　デザインを基に象嵌作業をする	完成までの計画を立てる事。（４５分）	制作状況の確認。（４５分）
8	第一課題　制作⑦　象嵌作業を終わらせる	完成までの計画を立てる事。（４５分）	制作状況の確認。（４５分）
9	第一課題　塗装　完成させる	完成までの計画を立てる事。（４５分）	制作したものについての自分なりの感想を考えておく（４５分）
10	第一課題　品評会	制作したものについての自分なりの感想を考えておく（４５分）	指摘事項を確認すること。（４５分）
11	授業説明　第二課題「三本脚スツール」	「三本脚」とは何かを調べておく。（４５分）	説明を受けたことの確認（４５分）
12	第二課題　授業説明続き、計画を立てる	前回の説明の確認をしておくこと（４５分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（４５分）
13	第二課題　加工①　各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（４５分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（４５分）
14	第二課題　加工②　各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（４５分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（４５分）
15	第二課題　加工③　各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（４５分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（４５分）
16	第二課題　加工④　各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（４５分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	第二課題　加工⑤　各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（４５分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（４５分）
18	第二課題　加工⑥　各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（４５分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（４５分）
19	第二課題　加工①　各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（４５分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（４５分）
20	第二課題　加工⑦　各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（４５分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（４５分）
21	第二課題　加工⑧　各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（４５分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（４５分）
22	第二課題　加工⑨　各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（４５分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（４５分）
23	第二課題　加工⑩　大まかな加工をすべて終わらせる	加工作業の終了の見通しを立てる。（４５分）	終了までの見通しの確認と把握をしておく（45分）
24	第二課題　加工を終了させ、細部の確認をしておく	終了までの見通しの確認と把握をしておく（45分）	作業の遅れがないようにする。（４５分）
25	第二課題　細部手直し、組み立て①	作業の準備をしておく。（４５分）	終了までの見通しの確認と把握をしておく（45分）
26	第二課題　細部手直し、組み立て②	前回の説明の確認をしておく（４５分）	組み立て技術を理解しておく。（４５分）
27	第二課題　細部手直し、組み立て③	作業の準備をしておく。（４５分）	作業の遅れがないようにする。（４５分）
28	第二課題　細部手直し、組み立て④	作業の準備をしておく。（４５分）	組み立て技術を理解しておく。（４５分）
29	第二課題　細部手直し、組み立て⑤	作業の準備をしておく。（４５分）	作業の遅れがないようにする。（４５分）
30	第二課題　塗装、完成	作業の準備をしておく。（４５分）	完成へ向けた準備を行っておく。（４５分）
31	第二課題　解説 授業改善アンケートの実施	全体を通しての質問事項を整理する。（４５分）	質問と感想を自分で確認しておくこと（45分）
32	第二課題　フィードバック、科目を修了して『身に付く力』についての検証	自分の質問と感想を整理しておくこと（45分）	指摘事項を確認すること。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習Ⅰ(健康) （科目ナンバリング：CHS122078　　）				
授業担当者 （所属・職名）	宮崎　剛司（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　宮崎　剛司　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	看護実践、看護教育の実務経験あり。子どもの観察を行い、健やかな子どもについて理解を深め、健康を考えた生活習慣と活動（遊び）について演習する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整または研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

養護と教育にかかわる保育内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を養う。また、子どもの発達を保育内容の領域を通して捉え、子ども理解を深めながら「健康」について具体的に学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

健康な子どもを捉える視点を学び子どもの観察を行い、健康を考えた生活・生活習慣について説明できる。
領域「健康」のねらいにつながる具体的な活動（健康につながる遊び）を提案できる。

授業全体の内容と概要

保育内容の各領域を関連させて学ぶことにより、子どもの発達促進、健康生活・活動、安全な生活のための支援方法など健康について具体的に学ぶ。また、子どもの健康と健康を守る力を育むことの必要性を総合的に検討し理解を深める。

授業の方法

講義と実習形式。参考図書や配布資料を活用。実施前に基本学習事項、事前課題への取り組み方を提示する。
テーマについて説明後、グループワークや課題解決学習の発表・実施、その後レポート提出（２回）を行う。その都度、コメントを返す。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

必要な資料等は適宜配布するので講義に持参すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は６回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	４０％	４０％	０％	１０％	１０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
健康な子どもを捉える視点	子どもの健康把握の視点を学び、生活の中の子どもを観察。その観察結果を非常によくまとめ発表できた。	子どもの健康把握の視点を学び、生活の中の子どもを観察。その観察結果を概ねまとめ発表できた。	子どもの健康把握の視点から子どもの観察を行い部分的にまとめることができた。	子どもの健康把握の視点で子どもの観察を行い助言によりまとめることができた。	助言してもまとめることができなかった。
子どもの健康を考えた生活・生活習慣	子どもの健康的な生活と生活習慣獲得過程を項目別に整理し詳しく説明することができた。	子どもの健康的な生活と生活習慣獲得過程を項目別に整理し概ね説明することができた。	子どもの健康的な生活と生活習慣について部分的に整理し説明することができた。	子どもの健康的な生活と生活習慣について、部分的に説明することができた。	助言しても説明できなかった。
領域「健康」のねらいにつながる具体的な活動	領域「健康」のねらいにつながる具体的な活動を討議し、非情に良い提案・発表ができた。	領域「健康」のねらいにつながる具体的な活動を討議し、提案・発表ができた。	領域「健康」のねらいにつながる具体的な活動を討議し、一部を提案・発表できた。	領域「健康」のねらいにつながる具体的な活動を助言により提案できた。	助言しても提案できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習Ⅰ(健康) （科目ナンバリング：CHS122078　　）				
授業担当者 （所属・職名）	宮﨑　剛司（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　宮﨑　剛司　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	看護実践、看護教育の実務経験あり。子どもの観察を行い、健やかな子どもについて理解を深め、健康を考えた生活習慣と活動（遊び）について演習する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整または研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『演習 保育内容「健康」 ―大人から子どもへつなぐ健康の視点』	井狩芳子	萌文書林	2018	978-4-89347-275-5	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス、シラバス説明、授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明 健康の概念と健やかな子ども、子どもの成長・発達・特徴①	履修を終えている「保育内容」の概要を理解しておく（９０分）	授業で行った課題について調べておく（９０分）
2	健康の概念と健やかな子ども 子どもの成長・発達・特徴②（子どもの観察）	調べた課題の討議・発表の準備をしておく９０分）	授業で出された課題について要領に沿い調べ、レポート作成する（９０分）
3	子どもの健康生活と習慣①（生理的欲求と習慣）	討議・発表準備のため十分に予習して授業に臨む（９０分）	返されたコメントや他の評価を参考に自己課題を見直し追加修正しておく（９０分）
4	子どもの健康生活と習慣②（基本的生活習慣の形成）	指定した参考図書と配布資料を読んでおく（９０分）	当日の授業で行った課題について調べ、ノートにまとめておく（９０分）
5	健康的な活動と環境構成①（健康的な遊びの計画）	指定した参考図書・配布資料を読んでおく（９０分）	授業で出された課題について要領に沿い調べ、レポート作成する（９０分）
6	健康的な活動と環境構成②（健康的な遊びの指導）	発表・実施準備のため十分に予習して授業に臨む（９０分）	返されたコメントや他の評価を参考に自己課題を見直し整理しておく（９０分）
7	事故防止と安全指導	指定した参考図書・配布資料を読んでおく（９０分）	授業で行った課題について調べておく（９０分）
8	提出レポート・課題について解説、フィードバックし総括する 授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	これまで授業で行ったことを振り返り、準備してくる（９０分）	子どもの健康問題や保育課題に今後も取り組んでいく（９０分）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	乳児保育Ⅰ （科目ナンバリング：CHS122089　　）				
授業担当者 （所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　吉江　幸子　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場での実務経験のある教員が，実際の保育現場の事例等を通じて，３歳未満児の心身諸機能の発達など乳児保育について講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

乳児（３歳未満児）期は人間形成の基礎づくりの時期であることを知り，乳児保育の大切さを理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

３歳未満児の心身諸機能の発達など，乳児保育の知識が身につく。

授業全体の内容と概要

３歳未満児の保育について，心身の発達にそって諸機能の発達と健康と安全の基本を理解する。
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義を中心とした授業を行っていく中で、実際の保育現場の事例をあげ、子どもや保護者、保育者の様子をイメージしなが、，一人ひとり学生の考える場となるように授業を進めていく。質問については随時対応する。レポートは解説し、フィードバックする。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

遅刻した場合、入室はできるが２０分以上の遅刻は欠席となる。
教科書がない場合、受講できませんので必ず購入のこと（乳児保育Ⅱ／演習でも同じ教科書を活用）。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
８０%	０%	０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
乳児保育の基礎的知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	乳児保育について基礎的な知識を深く理解できた。	乳児保育について基礎的な知識をおおむね理解できた。	乳児保育について基礎的な知識を理解できた。	乳児保育について基礎的な知識を多少理解できた。	乳児保育について基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について十分に考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開についておおむね考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について多少考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について考察できなかった。
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	三歳未満児保育の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	三歳未満児保育の多様な展開について理解したことをおおむね説明できた。	三歳未満児保育の多様な展開について理解したことを説明できた。	三歳未満児保育の多様な展開について理解したことを多少説明できた。	三歳未満児保育の多様な展開について理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	乳児保育Ⅰ （科目ナンバリング：CHS122089　　）				
授業担当者 （所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　吉江　幸子　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場での実務経験のある教員が，実際の保育現場の事例等を通じて，３歳未満児の心身諸機能の発達など乳児保育について講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『はじめて学ぶ乳児保育第4版』	志村聡子	同文書院	2025	9784810315288	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						授業内で適宜紹介
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（履修により「身に付く力」の説明を含む） 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
2	乳児保育の役割と機能	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
3	乳児保育における養護及び教育	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
4	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
5	保育所における乳児保育	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
6	保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
7	家庭的保育等における乳児保育	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
8	３歳未満児とその過程を取り巻く環境と子育て支援の場	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
9	３歳未満児の生活と環境	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
10	３歳未満児の遊びと環境	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
11	３歳以上児の保育に移行する時期の保育	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
12	３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
13	３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
14	乳児保育における計画・記録・評価とその意義	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
15	乳児保育における職員間及び保護者や自治体等関係機関との連携・協働、まとめ	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
16	定期試験60分　残り30分で解説しフィードバック（「身に付く力」の検証） 授業改善アンケートの実施	講義全体をとおして質問など整理しておく（９０分）	解説を受け、講義全体をふりかえること（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	一級対策製図Ⅰ （科目ナンバリング：APT323060　　）				
授業担当者 （所属・職名）	君　興治（建築学科・特任准教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　君　興治　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイディアが、見る人に伝わり、理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整し研究室もしくはオンラインで対応。				

概要

履修目標

国家資格である「一級建築士二次試験（製図試験）」における技量の修得を目的とする。

授業の位置づけ

建築学科のDP3.DP4.DP5に対応する科目

到達目標

一級建築士二次試験で実施される製図試験と記述試験の基礎スキルを修得することができる。

授業全体の内容と概要

提示されたテーマ課題に従い、テキストを参考に製図演習問題を実施、その製図・記述に対し、添削指導により、製図スキルを向上させていく。

授業の方法

実際に一級建築士二次試験（製図試験）で使用するA２サイズの平行定規盤を使用し、与えられた課題を担当教員の指導のもと、期限に完成させる。完成させた課題については、個別指導を行う。
不測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

課題は、与えられた期限内に提出すること。平行定規盤は各履修者が用意して毎回持参すること。
配布したテキストおとびプリントは毎回持参すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１１回以上。課題はすべて提出のこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	100%	０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
一級建築士二次試験（製図試験）の過去問題または想定問題に対する正確なエスキスと平面プランの構築をする能力を習得することができる。	設計課題をすべて理解した上での不備のないエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をすべて理解した上でのエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をおおむね理解した上でのエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をある程度理解した上でのエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題の内容を理解することができなかった。
記述問題に対する適切な解答を修得することができる。	記述問題に対するすべてを満足させる適切な解答ができた。	記述問題を満足させる適切な解答ができた。	記述問題をおおむね満足させる適切な解答ができた。	記述問題をおおむね満足させる解答ができた。	記述問題をおおむね満足させる解答ができなかった。
限られた時間内に図面を完成することのできる作図スピードとクオリティを修得することができる。	時間内にすべての図面を書き残すことなく完成することができた。	時間内に書き上げることができた。	時間内におおむね書き上げることができた。	時間内にほぼ書き上げることができた。	時間内に完成することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	一級対策製図Ⅰ （科目ナンバリング：APT323060　　）				
授業担当者 （所属・職名）	君　興治（建築学科・特任准教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　君　興治　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイディアが、見る人に伝わり、理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整し研究室もしくはオンラインで対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明、授業ガイダンス テキスト・課題１の配布。 試験に向けての心構えや勉強の方法などを助言し、試験への環境の整え方が身につくよう指導する。	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(90分)	授業の作図の継続(90分)
2	課題1　製図トレース 課題2　エスキスの方法 製図トレース、製図の留意点、描き方のポイントなどを指導し、各学生の製図を授業内で見て回り、マンツーマン指導し、提出図面への添削を行い、フィードバックする。	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
3	課題3　製図トレース 課題4　エスキスの方法 製図トレース、製図の留意点、描き方のポイントなどを指導し、各学生の製図を授業内で見て回り、マンツーマン指導し、提出図面への添削を行い、フィードバックする。	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
4	課題5　製図トレース 課題6　エスキスの方法 製図トレース、製図の留意点、描き方のポイントなどを指導し、各学生の製図を授業内で見て回り、マンツーマン指導し、提出図面への添削を行い、フィードバックする。	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
5	添削指導 エスキス 実際の過去問題などの課題を用いて、エスキスや計画の仕方を指導する。一度に進めていくのではなく、順を追って、それぞれの学生の進め方に合わせて指導を変える。その際に助言を行い、	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
6	添削指導 エスキス 実際の過去問題などの課題を用いて、エスキスや計画の仕方を指導する。一度に進めていくのではなく、順を追って、それぞれの学生の進め方に合わせて指導を変える。その際に助言を行い、	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
7	添削指導 エスキス 実際の過去問題などの課題を用いて、エスキスや計画の仕方を指導する。一度に進めていくのではなく、順を追って、それぞれの学生の進め方に合わせて指導を変える。その際に助言を行い、	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
8	添削指導 エスキス 実際の過去問題などの課題を用いて、エスキスや計画の仕方を指導する。一度に進めていくのではなく、順を追って、それぞれの学生の進め方に合わせて指導を変える。その際に助言を行い、	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
9	添削指導 エスキス 実際の過去問題などの課題を用いて、エスキスや計画の仕方を指導する。一度に進めていくのではなく、順を追って、それぞれの学生の進め方に合わせて指導を変える。その際に助言を行い、	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
10	添削指導 エスキス 実際の過去問題などの課題を用いて、エスキスや計画の仕方を指導する。一度に進めていくのではなく、順を追って、それぞれの学生の進め方に合わせて指導を変える。その際に助言を行い、	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
11	添削指導 エスキス 課題を通して作図できるよう、それぞれの学生の進め方に合わせた指導をする。学生の得手不得手を把握し、見合った助言をすることで、フィードバックを行い、同時に学生の心理状態も観察す	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
12	添削指導 エスキス 課題を通して作図できるよう、それぞれの学生の進め方に合わせた指導をする。学生の得手不得手を把握し、見合った助言をすることで、フィードバックを行い、同時に学生の心理状態も観察す	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
13	添削指導 エスキス 課題を通して作図できるよう、それぞれの学生の進め方に合わせた指導をする。学生の得手不得手を把握し、見合った助言をすることで、フィードバックを行い、同時に学生の心理状態も観察す	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
14	添削指導 エスキス 課題を通して作図できるよう、それぞれの学生の進め方に合わせた指導をする。学生の得手不得手を把握し、見合った助言をすることで、フィードバックを行い、同時に学生の心理状態も観察す	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
15	添削指導 エスキス 課題を通して作図できるよう、それぞれの学生の進め方に合わせた指導をする。学生の得手不得手を把握し、見合った助言をすることで、フィードバックを行い、同時に学生の心理状態も観察す	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
16	添削指導 エスキス これまでの内容を振り返り、試験への対策を踏まえた助言を書く 学生に声掛けすることで、フィードバックを行うとともに、試験に臨む環境の整え方を指導し、大切さを学ぶ。	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	東洋・日本美術史Ⅰ （科目ナンバリング：FAH221080　　）				
授業担当者 （所属・職名）	苫名　真（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　苫名　真　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	美術館における勤務経験を活かして美術史に関する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

日本美術史の大きな流れを概観するとともに、代表的な作品を深く考察することにより、日本美術を見る力を身に付ける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP１、DP２、DP５に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP１、DP２、DP５に対応する。（2021年度）

到達目標

１．技法や表現、様式など日本美術に関する基礎的な知識を習得する。
２．日本美術の展開を俯瞰的な視点で把握する。
３．初めて目にする作品に対しても美術史上の位置付けを行うことができる。

授業全体の内容と概要

縄文時代から昭和戦後までの日本美術の流れを代表的な作品を通してたどる。

授業の方法

受講生は各回の授業で扱う時代の代表的作品一点について事前に感想を書き、授業の冒頭に一人ずつ発表する。その上で講師がパワーポイントを使って各時代の美術について講義する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎回の感想発表と受講姿勢の平常点を重視し、レポートも合わせて評価する。
授業の冒頭で各自発表してもらうので遅刻しないこと。
不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程　高・美術　必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	２０％	０％	０％	８０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業への取り組み	きわめて意欲的に授業に参加する姿勢が見られた。	真摯な姿勢で授業に参加する姿勢が見られた。	授業には参加していたが積極的な姿勢はあまり見られなかった。	授業には参加していたがほとんど意欲が感じられなかった。	ほとんど授業に参加しなかった。
毎回の事前準備	きわめて意欲的に事前の準備を行っていた。	真摯な姿勢で事前の準備を行っていた。	事前の準備は行っていたが十分ではなかった。	事前準備をしてこないことが何度かあった。	事前準備をほとんどしてこなかった。
知識の習得	きわめて意欲的に十分な知識を習得した。	真摯な姿勢で必要な知識を習得した。	重要項目の知識は概ね習得した。	必要最低限の知識は習得した。	必要最低限の知識を習得できなかった。
レポート	きわめて意欲的に十分な資料調査を行い、自分の考えも的確に表現できていた。	真摯な姿勢で必要な資料調査を行い、自分の考えも表現していた。	不十分ではあるが資料調査を行い、ある程度自分の考えを表現していた。	最低限の資料調査を行い、多少は自分の考えを表現していた。	調査をほとんど行わず、自分の考えも表現できていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	東洋・日本美術史Ⅰ （科目ナンバリング：FAH221080　　）				
授業担当者 （所属・職名）	苫名　真（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　苫名　真　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	美術館における勤務経験を活かして美術史に関する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『日本美術史』	山下裕二・髙岸輝	美術出版社	2014	978-4568389074	
2	『日本美術の歴史』	辻惟雄	東京大学出版会	2021	978-4130820868	
3	『入門　日本美術史』	山本陽子	筑摩書房	2024	978-4480076533	
4	『日本美術史ハンドブック』	辻惟雄・泉武夫	新書館	2009	978-4403250989	
5	『日本美術館』		小学館	1997	978-4096997017	

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 、科目を修了して『身に付く力』についての説明、授業アンケート結果の反映のさせ方についての説明 縄文・弥生時代の美術	シラバスを読む。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
2	古墳・飛鳥・白鳳時代の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
3	奈良時代の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
4	平安時代前期の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
5	平安時代中期の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
6	平安時代後期の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
7	鎌倉時代の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
8	室町時代の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
9	桃山時代の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
10	江戸時代前期の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
11	江戸時代中期の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
12	江戸時代後期の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
13	明治・大正・昭和戦前期の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
14	昭和戦後期の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
15	風土と美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
16	レポートの発表とフィードバック、科目を修了して『身に付く力』についての検証 授業改善アンケート実施	レポートを準備する。（90分）	授業内容を復習する。（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	一級建築士演習Ⅰ （科目ナンバリング：BSM323062　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）、君　興治（建築学科・特任准教授）	研究室等所在	各教員研究室		
単位数	1　（単位認定責任者：　伊藤　裕康　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	君　興治（一級建築士）		
オフィスアワー	各研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

国家資格である一級建築士試験の学科Ⅱ（環境・設備分野）に合格できる学力の修得を目的とする。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

提示された一級建築士試験の学科Ⅱ各分野の過去問題に対し、解答上の留意点を解説等ももとに理解できる。

授業全体の内容と概要

「SDG3．すべての人に健康と福祉を」と「SDG11．住み続けられるまちづくりを」の関連授業。
一級建築士試験の学科Ⅱ（環境・設備分野）に出題される内容について、小テストを実施し、その解説書に基づいて復習を行う。

授業の方法

授業では、各章の問題をテスト形式で実施し、次回にその解説を行う。事前学習と各章の小テストの解説によって理解を深める。
不測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

建築学科建築プロフェッショナル専攻一級建築士特別養成コースのみ履修可能である。
毎回、テキストを必ず持参すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則、全ての授業に出席すること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
３０%	０%	０%	７０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題を半分程度解くことができた。	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題内容を理解することができた。	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題内容を理解することができなかった。
建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題を半分程度解くことができた。	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題内容を理解することができた。	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題内容を理解することができなかった。
環境・設備融合分野の用語の定義と各項目の理解	環境・設備融合分野の用語の定義と各項目の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	環境・設備融合分野の用語の定義と各項目の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	環境・設備融合分野の用語の定義と各項目の理解に関する問題を半分程度解くことができた。	環境・設備融合分野の用語の定義と各項目の理解に関する問題内容を理解することができた。	環境・設備融合分野の用語の定義と各項目の理解に関する問題内容を理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	一級建築士演習Ⅰ （科目ナンバリング：BSM323062　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）、君　興治（建築学科・特任准教授）	研究室等所在	各教員研究室		
単位数	1　（単位認定責任者：　伊藤　裕康　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	君　興治（一級建築士）		
オフィスアワー	各研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『１級建築士学科テキスト　学科Ⅱ　環境・設備』		日建学院	2024		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明 問題（環境・換気・伝熱・結露）（伊藤）	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
2	問題（環境・換気・伝熱・結露）の解説（伊藤）	試験問題の復習（45分）	試験範囲の復習（45分）
3	問題（日照・日影・日射・採光・色彩）（伊藤）	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
4	問題（日照・日影・日射・採光・色彩）の解説（伊藤）	試験問題の復習（45分）	試験範囲の復習（45分）
5	問題（音響・環境工学融合）（伊藤）	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
6	問題（音響・環境工学融合）の解説（伊藤）	試験問題の復習（45分）	試験範囲の復習（45分）
7	問題（空気調和設備）（君）	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
8	問題（空気調和設備）の解説（君）	試験問題の復習（45分）	試験範囲の復習（45分）
9	問題（給排水衛生設備・電気・輸送設備）（君）	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
10	問題（給排水衛生設備・電気・輸送設備）の解説（君）	試験問題の復習（45分）	試験範囲の復習（45分）
11	問題（照明設備・消火防火設備）（君）	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
12	問題（照明設備・消火防火設備）の解説（君）	試験問題の復習（45分）	試験範囲の復習（45分）
13	問題（環境・設備融合）（君）	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
14	問題（環境・設備融合）の解説（君）	試験問題の復習（45分）	試験範囲の復習（45分）
15	定期試験／授業改善アンケートの実施（伊藤・君）	試験範囲全体の復習（45分）	試験内容の確認（45分）
16	定期試験を解説してフィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証（伊藤・君）	試験問題の復習（45分）	試験範囲の復習（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ原理 （科目ナンバリング：DMB522054　　）				
授業担当者 （所属・職名）	髙井　雅一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　髙井　雅一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かしてスポーツ原理に関連する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認する				

概要

履修目標

スポーツや体育の本質を考え、あるべきスポーツや体育の原理原則を学ぶための科目である。体育の定義、目的、内容、方法などに関する代表的な見解を学習しながら、私たちの生活の中におけるスポーツの意味や価値を知り、生涯にわたるスポーツ実践者としての基本的な知識を理解し身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

・スポーツを取り巻く現状や問題点、そして今後生涯スポーツが個人や社会に果たす役割と意義について具体的に述べることができる。

授業全体の内容と概要

・人とスポーツとの多様な関わり方について知るとともに、スポーツの歴史と我が国のスポーツ振興方策の歴史を理解し、これからのスポーツの方向性を把握する。
・我が国のスポーツの実情と問題点、スポーツが人々にもたらすさまざまな便益や効果について、意見交換しながら自分の意見をまとめ発表する活動を行う。
・SDG4,質の高い教育をみんなに

授業の方法

・各回のテーマに関してのプリント等を使用して説明を行う。
・各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するために、テーマの関連する事項に関して思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。
・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・主体的・対話的な学修を行うため、座席を指定する。
・講義で配布するプリント類はクリアファイル等に整然と保管し、必要時に参照できるようにすること。
・講義中、スマホや飲食物等はカバン等に入れておく。但し、指示のあった場合のみ可。
・２０分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻は３回で欠席１回とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	２０%	２０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツの実情と問題点を理解する	現状や問題点を理解し、自分の意見を述べた。	現状や問題点を自分なりに説明できた。	現状や問題点を自分なりに理解できた。	現状や問題点を理解できた。	現状や問題点を理解できなかった。
スポーツのかかわり方について思考・判断できる	多様なかかわり方について思考・判断し、運用できた。	多様なかかわり方について思考・判断し、自分なりに意見を述べた。	多様なかかわり方について考え、これからのスポーツの方向性を思考し判断し、理解できた。	多様なかかわり方について思考・判断できた。	多様な関わり方について考えることができなかった。
ススポーツの果たす役割・意義について回答できる	様々な便益や効果について自分の意見を述べた。	様々な便益や効果について自分なりに説明できた。	様々な便益や効果について理解できた。	様々な便益や効果について多少理解できた。	様々な便益や効果について理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ原理 （科目ナンバリング：DMB522054　　）				
授業担当者 （所属・職名）	高井　雅一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　高井　雅一　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かしてスポーツ原理に関連する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認する				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『教養としての体育理論』	岡出美則、友添秀則、	大修館	2016		
2	『「初めて学ぶ体育・スポーツ哲学」』	髙橋徹	みらい	2018		
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明 なぜ、体育原理を学ぶのか、体育原理はどのような学問か	体育やスポーツであなたが考えることはどんなことか、具体的に考えておく	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
2	体育の理念はどのように変わってきたか	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
3	体育とスポーツは何が違いか	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
4	運動の持つ可能性について 体育における人間形成について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
5	体育とフェアプレイについて	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
6	体育と身体形成について 身体形成とは何か 身体からみた体育の可能性について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
7	体育で競争をどのように位置づけるか	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
8	技術指導からみた体育について 体育と指導者について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
9	子どもたちからみた体育の存在意義について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
10	社会変化と今後の体育について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
11	スポーツとグローバリゼーションについて	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
12	スポーツとドーピング、ナショナリズムについて	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
13	スポーツとオリンピズム、ルールについて	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
14	スポーツメディア・コミュニティについて	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
15	スポーツの制度化と暴力について スポーツとジェンダーについて スポーツ障がい者について 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	講義の内容を総復習する。（９０分）
16	定期試験（６０分）、終了後、試験の解説（３０分）	全講義内容の復習（９０分）	本時の学修内容をまとめて提出する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	映像表現Ⅰ （科目ナンバリング：AEA223046　　）				
授業担当者 （所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2　（単位認定責任者：　北嶋　洋一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	映像制作の実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして映像制作の基礎から応用までを指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

映像分野について、そのメディアも含めて知識を深め、設計作業を通じて、そのデザイン工程を正しく理解する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

映像制作を行う上で，一般的な作業工程と既成の作品を分析し、必要な業務内容やスタッフの役割分担を認識して、作品の完成度を上げるための基本的な方法論を用いることができる。

授業全体の内容と概要

映像史を絡めた作品研究を行い，様々な技術の成り立ちや演出法の発達にふれることで基本から応用までの流れを吸収する。さらに、シナリオやストーリーボードの作成を通じて適切な情報提供が行える映像作品の設計と制作工程を学ぶ。
「ＳＤＧs９．産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連授業。

授業の方法

１～１０回までは様々な過去の映像作品を資料としたPowerPointを用いて講義形式の授業を行う。
毎回のレポートは、其々の注目すべき点を取り上げて調査・分析し、映像制作に必要とされる知識を積み上げることを目的として作成する。
質問に対しては随時対応し、レポートについては次回授業の導入にかいて講評を行う。
１１～１５回は、それまでに得た知識を基にして、実際に映像作品を構想し、設計する。
その際に、専用の用紙を必要枚数配布し、それを用いて映像の設計（ストーリーボードの作成）を行う。
完成したストーリーボードは各自のプレゼンテーションとする。
質問には随時対応し、作画やト書きなどの表現的指導は個別に行う。
授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。
不測時の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業内で提示される資料映像は、授業時間の関係もあるため、断片での紹介になる。よって、時間外では可能な限り全編を観る努力をしなければならない。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

教職課程（美術）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	６０%	２０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能　「映像史を基にした映像の表現や技法を系統的に理解できている」	映像の成り立ちや理論を正しく理解し、設計作業に於いては、それを反映させ充実した表現を思案することができた。	映像の成り立ちや理論を理解し、設計作業に於いては、それを表現に反映させ、内容の充実を図ることができた。	映像の成り立ちや理論を理解したが、設計作業との関連付けが不十分であり、内容が不完全だった。	映像の成り立ちや理論の理解が不十分であり、関連付けした設計作業ができていない。	映像の成り立ちや理論が理解できず、設計作業ができなかった。
思考力・判断力・表現力「参考資料によって提示された様々な知識を基にして映像作品の設計が行える」	与えられた参考資料を徹底して読み解き、そこから自らの表現を編み出すことができた。	与えられた参考資料の分析は適切である。それを自らの表現に応用しようとする意識は見えた。	与えられた参考資料の分析は行えているが、自らの表現に応用する意識は低かった。	与えられた参考資料を理解が不十分なため、自らの表現に応用する意識が持てなかった。	与えられた参考資料を理解できなかった。
主体性・多様性・協働性「映像によって提供される情報の形態を理解し、適切な情報の構築が行える」	映像による情報提供や問題解決のために必要な対応ができており、表現や技法の実験に積極的であった。	映像による情報提供や問題解決に努力し、表現や技法の実験に取り組む必要性も理解していた。	映像による情報提供や問題解決のために必要な対応が不十分で、表現や技法の実験に積極的ではなかった。	映像による情報提供や問題解決のために必要な対応が理解できず、表現や技法の実験が適切に行えていなかった。	映像による情報提供や問題解決ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	映像表現Ⅰ （科目ナンバリング：AEA223046　　）				
授業担当者 （所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2	（単位認定責任者：　　北嶋　洋一　　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	映像制作の実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして映像制作の基礎から応用までを指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ガイダンス～映像の学び方、映像史の見方 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを一読しておくこと（４５分）	レポート作成 資料の再確認（４５分）
2	「サイレントピクチャー」 完成形とは何か？	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持っておくこと（４５分）	レポート作成 資料の再確認（４５分）
3	「トーキングピクチャー」 新旧技術の対比 総合芸術としての映像	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持っておくこと（４５分）	レポート作成 資料の再確認（４５分）
4	「SFX（特殊効果撮影）の誕生」 カメラ技術によるトリック映像撮影	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持っておくこと（４５分）	レポート作成 資料の再確認（４５分）
5	「VFX（特殊効果撮影）の効果」 リアルから誇張表現	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持っておくこと（４５分）	レポート作成 資料の再確認（４５分）
6	「アニメーションの進化」 作画＋合成による進化	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持っておくこと（４５分）	レポート作成 資料の再確認（４５分）
7	「サウンド表現」 音響作家の仕事	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持っておくこと（４５分）	レポート作成 資料の再確認（４５分）
8	「感情操作」 観客の喜怒哀楽を操作する	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持っておくこと（４５分）	レポート作成 資料の再確認（４５分）
9	「シナリオ、演出、撮影」 著名な監督の演出方法を分析する	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持っておくこと（４５分）	レポート作成 資料の再確認（４５分）
10	ストーリーボード（絵コンテ） 用紙の使い方	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持っておくこと（４５分）	レポート作成 資料の再確認（４５分）
11	映像の設計 ストーリーボードの作成　①	前週に配布された用紙の複製をおこなっておくこと（４５分）	構想～ラフ作成（４５分）
12	映像の設計 ストーリーボードの作成　②	作業進度の確認と調整。資料映像の再確認（４５分）	期間内に課題提出可能なスケジュール設定で、時間外制作を行うこと（４５分）
13	映像の設計 ストーリーボードの作成　③	作業進度の確認と調整。資料映像の再確認（４５分）	期間内に課題提出可能なスケジュール設定で、時間外制作を行うこと（４５分）
14	映像の設計 ストーリーボードの作成　④	作業進度の確認と調整。資料映像の再確認（４５分）	期間内に課題提出可能なスケジュール設定で、時間外制作を行うこと（４５分）
15	映像の設計 ストーリーボードの作成　⑤	作業進度の確認と調整。資料映像の再確認（４５分）	期間内に課題提出可能なスケジュール設定で、時間外制作を行うこと（４５分）
16	映像の設計 ストーリーボードの講評 授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	完成したストーリーボードの自己評価（４５分）	ストーリーボードの映像化をシミュレーションする（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	一級建築士演習Ⅱ （科目ナンバリング：APT323063　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）　佐々木哲之（建築学科・教授）	研究室等所在	2号館3階		
単位数	1　（単位認定責任者：　安藤　淳一　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	安藤淳一（一級建築士取得教員）　佐々木哲之（一級建築士取得教員）		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

履修学生は，将来一級建築士試験（学科1計画）にを験し合格するための受験対策に向けた積極的な学びをおこなう。

授業の位置づけ

建築学科のDP3.DP4,DP5に対応する。

到達目標

一級建築士学科試験（学科１計画）合格

授業全体の内容と概要

建築計画に係る内容が単元ごとにまとめられているテキストと問題集を用いて，試験問題に取り組む。終了後自己採点をおこない，単元ごとのポイント，出題問題のポイントについてテキストならびに問題集の解説をもとに説明をおこなう。

授業の方法

各自単元ごとの試験問題に取り組み，解答終了後自己採点をおこなう。終了後，問題内容の解説をおこなう。基本的に授業は対面で実施するが，不測の事態が起きた際に，授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

本科目を履修できるのは一級建築士特別養成コースの学生のみ
テキストは毎回持参のこと

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則，全ての授業に出席すること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	80%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
各種建築に求められる役割とそのための空間構成が理解できる。	主要事項と関連する事項についても理解できている	完璧に理解できている	理解できている	なんとか理解できている	理解できていない
各種建築の規模・空間の大きさ・高さをはじめとする数値に係ることが理解できる。	主要事項と関連する事項についても理解できている	完璧に理解できている	理解できている	なんとか理解できている	理解できていない
社会状況の変化に伴い建築に求められる新たな課題や専門的用語を理解できる。	主要事項と関連する事項についても理解できている	完璧に理解できている	理解できている	なんとか理解できている	理解できていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	一級建築士演習Ⅱ （科目ナンバリング：APT323063　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）　佐々木哲之（建築学科・教授）	研究室等所在	2号館3階		
単位数	1　（単位認定責任者：　安藤　淳一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	安藤淳一（一級建築士取得教員）　佐々木哲之（一級建築士取得教員）		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『1級建築士学科テキスト　学科　計画Ⅰ』		日建学院	2023		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業ガイダンス　科目を修了して「身に付く力」についての説明　担当　安藤　佐々木	事前配布資料の確認（45分）	ガイダンス説明内容の確認（45分）
2	第1章　建築基本計画　担当　安藤	対象内容の予習（45分）	回答結果の振返りと復習（45分）
3	第2章　住宅建築計画　担当　安藤	対象内容の予習（45分）	回答結果の振返りと復習（45分）
4	第3章　公共建築計画　担当　安藤	対象内容の予習（45分）	回答結果の振返りと復習（45分）
5	第4章　商業建築計画　担当　安藤	対象内容の予習（45分）	回答結果の振返りと復習（45分）
6	第5章　公共・商業建築計画融合　担当　安藤	対象内容の予習（45分）	回答結果の振返りと復習（45分）
7	第6章　建築計画一般　担当　安藤	対象内容の予習（45分）	回答結果の振返りと復習（45分）
8	第7章　建築積算　担当　佐々木	対象内容の予習（45分）	回答結果の振返りと復習（45分）
9	第8章　建築生産　担当　佐々木	対象内容の予習（45分）	回答結果の振返りと復習（45分）
10	第9章　都市計画　担当　安藤	対象内容の予習（45分）	回答結果の振返りと復習（45分）
11	第10章　建築史　担当　安藤	対象内容の予習（45分）	回答結果の振返りと復習（45分）
12	建築計画　振り返り１　担当　安藤	対象内容の予習（45分）	回答結果の振返りと復習（45分）
13	建築計画　振り返り２　担当　安藤	対象内容の予習（45分）	回答結果の振返りと復習（45分）
14	建築計画　振り返り３　担当　安藤　佐々木	対象内容の予習（45分）	回答結果の振返りと復習（45分）
15	建築計画　振り返り４　フィードバック　科目を修了して「身に付く力」についての検証　担当　安藤　佐々木	対象内容の予習（45分）	回答結果の振返りと復習（45分）
16	総括	受講結果・成績の確認（45分）	最終結果の確認と振り返り（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	体育史 （科目ナンバリング：SPS522061　　）				
授業担当者 （所属・職名）	尾西　則昭（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　尾西　則昭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

近代体育に・スポーツの特徴とその成立過程を学び、ヨーロッパの近代体育の成立・展開過程を踏まえて、日本の近代体育の成立・展開過程についての認識を深め、体育の特徴と相違点について理解し身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

・我が国ならびに欧米における学校体育出現について理解している。
・時代背景や因果関係をおさえながら体育・スポーツの発展・展開について具体例を示しながら説明できる。
・近代オリンピック復興の思想について説明できる。
・オリンピック・ムーブメントの概念と内容について説明できる。

授業全体の内容と概要

体育・スポーツの歴史について、主に日本や欧米諸国の通史を概説する。また、体育・スポーツと関連のある歴史にも触れ、広範な知識を身に付ける。
「SDG3．すべての人に健康と福祉を」の関連授業科目。

授業の方法

・資料に基づき、講述とパワーポイントによる解説を中心としながら授業を進める。
・毎時間、学修した内容を確認するためのミニレポートを課す。
・パワーポイントで１人１回課題を発表する。
・災害等不測の事態によりオンラインで授業する場合もある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○・	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・積極的に取り組むことを期待します。
・２０分以上の遅刻は欠席とみなします。
・中間テストを行います。
・授業中の飲食および携帯電話の使用は厳禁。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	２０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
体育およびスポーツに対する概念理解	体育・スポーツについての概念について深く理解できる。	体育・スポーツについての概念についておおむね理解できる。	体育・スポーツについての概念について理解できる。	体育・スポーツについての概念について多少理解できる。	体育・スポーツについての概念について理解できていない。
オリンピックの歴史と定義と理解	オリンピックの歴史について知識を深く理解できる。	オリンピックの歴史について知識をおおむね理解できる。	オリンピックの歴史について知識を理解できる。	オリンピックの歴史について知識を多少理解できる。	オリンピックの歴史について知識を理解できない。
スポーツ競技の歴史の知識と理解	各スポーツ競技の歴史について深く理解できる。	各スポーツ競技の歴史についておおむね理解できる。	各スポーツ競技の歴史について理解できる。	各スポーツ競技の歴史について多少理解できる。	各スポーツ競技の歴史について理解できない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	体育史 （科目ナンバリング：SPS522061　　）				
授業担当者 （所属・職名）	尾西　則昭（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　尾西　則昭　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『体育史講義』	岸野雄三	大修館書店	1984年	9784469261011	
2	『体育・スポーツ史概論』	木村吉次	市村出版	2001年	9784902109399	
3	『資料配布』					
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス「シラバス説明」 本科目を修了して「身に付く力」について説明する 「授業改善アンケート結果反映の説明」	事前にシラバスを読んで確認する。 （９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
2	体育・スポーツの歴史を学ぶ意義	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（ ９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（ ９０分）
3	競技の歴史調査①	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（ ９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（ ９０分）
4	競技の歴史調査②	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（ ９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（ ９０分）
5	競技の歴史調査③	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（ ９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（ ９０分）
6	競技の歴史調査発表録画①	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（ ９０分）	ノートに記載された内容をを復習し、理解する。（ ９０分）
7	競技の歴史発表録画②	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（ ９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（ ９０分）
8	競技の歴史発表録画③	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（ ９０分）	ノートに記載された内容をを復習し、理解する。（ ９０分）
9	古代オリンピックと近代オリンピック	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（（ ９０分）	ノートに記載された内容をを復習し、理解する（ ９０分）。
10	オリンピックの歴史①	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（ ９０分）	ノートに記載された内容をを復習し、理解する。（ ９０分）
11	オリンピックの歴史②	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（ ９０分）	ノートに記載された内容をを復習し、理解する。（ ９０分）
12	我が国における体育・スポーツ	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（ ９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（ ９０分）
13	女性とスポーツ	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（ ９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（ ９０分）
14	スポーツとメディア	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（ ９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（ ９０分）
15	各県のスポーツの歴史調査	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（ ９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（ ９０分）
16	60分の試験終了後、残りの30分で解説し、フィードバック、本科目を修了して「身に付く力」について検証 授業改善アンケート実施する。	ノートに記載された内容をを復習し、理解する。（ ９０分）	解説の内容を確認する。（ ９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	ﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄﾃﾞｻﾞｲﾝIII （科目ナンバリング：DES223028　　）				
授業担当者 （所属・職名）	林　春生（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　林　春生　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	国際企業でデザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義です。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板参照				

概要

履修目標

モノ、コト、商品をデザインする、プロダクトデザイナーになる為に必要な知識、技術、人間力を習得する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

プロダクトデザイナーとしてモノの見方、考え方、問題解決の為のアイデア展開、造形力、表現技術、
プレゼンテーション技術、デザイナーとしての人間力を習得する。

授業全体の内容と概要

デザインするテーマをマーケットリサーチし、現状を把握、問題点抽出、アイデア展開、造形、
ポスター等、表現方法を考察、プレゼンテーションして第三者の意見を考察し、自分の力量を認識する。

授業の方法

課題に沿ってマーケットリサーチをグループでしてモノの潜在価値を把握する。問題点を抽出しアイデアを発想し、デザインして第三者にプレゼンテーションする。ディスカッションをして自分の考察し、デザインの深さを認識する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業は積み重ねの学習となる為、欠席しないようにすること。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は２2回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	80%	０％	20%	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
モノの本質を捉え、新しい価値を創り出せる。	モノの本質を完璧に捉え、今まで以上の価値を完璧に創造出来た。	モノの本質を上手に捉え、今まで以上の価値を高められた。	モノの本質を捉え、今まで以上の価値を出せた。	モノの本質を辛うじて捉え、今まで以上の価値を辛うじて出せた。	モノの本質を捉えられない、今まで以上の価値を出せなかった。
問題解決のアイデアを出せる。	問題解決のアイデアを完璧に出せる。従来の価値以上のものを創造出来た。	自分のアイデアを上手く具現化出来て、造形力やアプローチも上手であった。	自分のアイデアを具現化出来て、造形力やアプローチも出来た。	自分のアイデアを辛うじて具現化出来て、造形力やアプローチも辛うじて出来た。	自分のアイデアを具現化出来ない、造形力やアプローチも出来なかった。
新デザインを提案出来る	自分のアイデアを完璧に具現化出来て、造形力やアプローチも完璧であった。	自分のアイデアを上手く具現化出来て、造形力やアプローチも上手であった。	自分のアイデアを具現化出来て、造形力やアプローチも出来た。	自分のアイデアを辛うじて具現化出来て、造形力やアプローチも辛うじて出来た。	自分のアイデアを具現化出来ない、造形力やアプローチも出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	プロダクトデザインIII （科目ナンバリング：DES223028　　）				
授業担当者 （所属・職名）	林　春生（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2	（単位認定責任者：　林　春生　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	国際企業でデザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義です。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明 プロダクトデザインとは デザインテーマ発表	プロダクトデザインとは？調べておく、シラバスを読む。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
2	マーケットリサーチ 潜在意識探求、問題点抽出	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
3	グループに分かれてブレインストーミング	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
4	マーケットチャート作成	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
5	まとめ グループごとに見解を発表	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
6	問題定義から解決アイデアを展開 アイデアスケッチスタート	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
7	アイデアスケッチ	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
8	アイデアスケッチまとめ１	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
9	アイデアスケッチ１プレゼンテーション	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
10	アイデアスケッチ２	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
11	アイデアスケッチ２まとめ	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
12	アイデアスケッチ２プレゼンテーション デザイン審議会	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
13	デザイン方向決定 デザイン作業	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
14	デザイン作業 コンセプト確認	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
15	デザイン作業 造形確認	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
16	デザイン作業 プレゼンの方法を考える	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	デザイン審査	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
18	デザイン審査 第三者の意見を汲む	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
19	デザイン修正	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
20	デザイン修正 自分の意志は反映されているか確認	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
21	レンダリング 構図を考える	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
22	レンダリング 商品の特徴が出ているか	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
23	レンダリング 効果的な表現か	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
24	レンダリング 色味、色彩構成確認	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
25	レンダリング 第三者に伝わるか	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
26	レンダリングフィニッシュに向ける	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
27	レンダリング完成させる	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
28	ポスター作成 プレゼンボード作成	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
29	ポスター作成 プレゼンボード作成 レイアウト等考察	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
30	ポスター作成 プレゼンボード作成 見せ方を考える	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
31	プレゼンテーション	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
32	総評　授業に係る講評・解説によるフィードバック。科目を修了して『身に付く力』についての検証。 授業改善アンケートの実施	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	授業全体を俯瞰して、今後の計画を考察する。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	学校保健 （科目ナンバリング：AHS522063　　）				
授業担当者 （所属・職名）	天野　雅斗（経営学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　天野　雅斗　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、学校保健を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学校保健活動を構成する「保健管理」と「保健教育」の二大領域とこれらの円滑な運営のための保健組織活動について、それぞれに包含される「健康管理・環境管理」、「保健学習・保健指導」の具体的活動内容と法的背景、またこれを支える組織・体系等について学習・理解し身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP３、DP４、DP５に対応する科目。

到達目標

児童、生徒の健康問題の解決、改善に関わる学校保健活動について、具体的な取り組みについて理解し、学校教育活動の実践との繋がりが説明できる。

授業全体の内容と概要

児童、生徒の健康問題の現状、改善、解決に向けた学校保健の取組みについて、実態把握、学校における児童、生徒の具体的例をもとに討議をまじえ、学校保健に関する知識を身につける。

授業の方法

児童、生徒の健康問題の現状等については主としてパワーポイントを用いて説明し、加えて視聴覚メディア、具体的事例の提示、アンケート調査結果から学生自身の考えについてグループワークを行い理解を深める。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

遅刻は講義開始後２０分までとし、その時間以降の受講は欠席扱いとする。公欠及び病欠は大学で認められているものに準ずることとし、その場合は欠席課題を提出する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は，１３回以上。
復習を中心に毎回の授業内容を自分で応用できるようにする。授業時間と同様の復習および次回の授業に向けた予習時間を確保するようにする。毎回、小テストを実施し理解度を評価する。次回の学習内容に関わる予習課題を提示するのでしっかり取り組むこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
３０%	０%	４０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
学校保健活動の領域構成について理解できている。	学校における子どもの安全、健康問題の変遷と現状を踏まえ、健康問題の予防、改善の取組みについて「保健教育」「保健管理」「組織活動」の学校保健３領域と関連づけて具体的な活動内容例も含めて説明できていた。	学校における子どもの安全、健康問題の予防、改善の現状と取組みについて「保健教育」「保健管理」「組織活動」の学校保健３領域と関連づけて具体的な活動内容例を列挙しながら説明できていた。	学校における子どもの安全、健康問題の予防、改善の現状について、学校保健活動を構成している「保健教育」「保健管理」「組織活動」の各領域ごとに列挙できていた。	学校における子どもの安全、健康問題の予防、改善の現状について列挙できていた。	学校における子どもの安全、健康問題の予防、改善の現状について列挙できていなかった。
学校保健活動に係る法的根拠と具体的な活動について理解できている。	教育基本法、学校教育法、学校保健安全法の歴史的変遷を踏まえ、子どもの安全、健康にかかわる学校保健活動の法的根拠を整理し、具体的な活動内容について各法と学校保健活動の３領域を関連づけながら説明できていた。	教育基本法、学校教育法、学校保健安全法に記されている内容を基に、子どもの安全、健康にかかわる学校保健活動について各法との関わりを整理できていた。	学校保健安全法と学校における子どもの安全、健康にかかわる学校保健活動を関連づけて整理できていた。	学校保健安全法における子どもの安全、健康にかかわる学校保健活動について列挙できていた。	子どもの安全、健康にかかわる学校保健活動の根拠となる関連法規、具体的な学校保健活動について列挙できていなかった。
子どもの安全、健康問題の予防、改善につなげるための個別ならびに集団に対する具体的な支援について理解できている。	子どもの発達特徴を踏まえ、校種ごとに特徴的な安全、健康問題を関連づけながら整理し、予防、改善につなげるための具体的な個別、集団保健指導について自分の考えやアイデアを根拠を持って相手に伝えることができていた。	子どもの発達特徴を踏まえ、校種ごとに特徴的な安全、健康問題を関連づけながら整理し、予防、改善につなげるための具体的な個別、集団保健指導について自分の考えをまとめることができていた。	校種ごとに特徴的な安全、健康問題の把握と予防、改善に向けた取り組みについて、主として個別保健指導の観点から自分の考えをまとめることができていた。	校種ごとに特徴的な安全、健康問題の把握と予防、改善に向けた取り組みの現状について列挙できていた。	校種ごとに特徴的な安全、健康問題の把握と予防、改善に向けた取り組みの現状について列挙できていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	学校保健 （科目ナンバリング：AHS522063　　）				
授業担当者 （所属・職名）	天野　雅斗（経営学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　天野　雅斗　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、学校保健を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『学校保健ハンドブック 第7次改訂』	教員養成系大学保健協議会	株式会社ぎょうせい	2019	9784324105771	
2	『新版 学校保健 チームとしての学校で取り組むヘルスプロモーション』	徳山美智子ほか	東山書房	2019	9784827815702	
3	『学校保健』	門田新一朗、大津一義	大学教育出版	2016	9784864294102	
4	『学校保健統計調査』	文部科学省	双葉レイアウト	2019	9784990813048	
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス、シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）、授業改善アンケート結果反映の説明、学校保健の意義	シラバスを熟読し、本講義について理解しておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
2	学校保健の仕組み（担い手、組織活動、計画、行政）	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
3	健康の考え方、学校保健の歴史と課題	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
4	育成すべき保健の学力とその学習の進め方	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
5	保健の担当教員として求められる力量形成	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
6	学校の教育活動全体を通じて行う健康に関する指導	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
7	学校における性教育	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
8	喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
9	食育、がん教育	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
10	児童生徒の発育発達、疾病・異常、感染症	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
11	精神の健康、児童生徒の自殺、いじめ問題	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
12	児童生徒の健康状態の把握と指導	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
13	障害のある児童生徒への健康上の支援	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
14	学校環境衛生、学校安全	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
15	応急手当 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
16	定期試験	教科書等を活用し、試験内容に関連する事項について事前に復習しておく。（９０分）	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習III(環境) （科目ナンバリング：CHS122080　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　慶知（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師控室	
単位数	1　（単位認定責任者：　佐藤　慶知　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における実践経験を活かし、保育内容の各領域の関連を講義する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

この科目は、以下の２つを授業の目的とする。
１．養護と教育にかかわる保育の内容が，それぞれに関連性を持ち，総合的に保育を展開していくための知識，技術，判断力を習得する。
２．子どもの発達を「環境」の領域の観点から捉え，子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

１．保育を展開していくための方法や技術、援助、関わりについて具体的に理解する。
２．保育所保育指針に示す乳児保育の３つの視点や保育における領域「環境」について理解する。

授業全体の内容と概要

保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、保育を展開していくための方法や技術、援助の関わりについて具体的に学修する。保育所保育指針に示す乳児保育の３つの視点や保育における領域「環境」について学修する。

授業の方法

授業は、板書とグループ学習を取り入れ、質疑応答の時間を設定する。
課題やレポートには必ずコメントを記入し、フィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

課題の内容及と提出方法及び課題・平常点の評価方法は、授業時間に説明する。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は６回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	２０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
領域「環境」に対する知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	領域「環境」について基礎的な知識を深く理解できた。	領域「環境」について基礎的な知識をおおむね理解できた。	領域「環境」について基礎的な知識を理解できた。	領域「環境」について基礎的な知識を多少理解できた。	領域「環境」について基礎的な知識を深理解することができなかった。
思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	保育の基本を踏まえた保育内容「環境」の展開について十分に考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容「環境」の展開についておおむね考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容「環境」の展開について考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容「環境」の展開について多少考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容「環境」の展開について考察することができなかった。
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	環境を通した保育について理解したことをわかりやすく説明できた。	環境を通した保育について理解したことをおおむね説明できた。	環境を通した保育について理解したことを説明できた。	環境を通した保育について理解したことを多少説明できた。	環境を通した保育について理解したことを説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習Ⅲ(環境) （科目ナンバリング：CHS122080　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　慶知（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師控室	
単位数	1	（単位認定責任者：　　佐藤　慶知　　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における実践経験を活かし、保育内容の各領域の関連を講義する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明 保育指針における養護と教育のねらいと内容の理解 五領域の各領域と「環境」の関連について 科目を修了して『身に付く力』についての説明	保育指針の第一章を事前に読むこと（９０分）。	１回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
2	保育指針における環境の領域のねらいと内容、保育者の関わりについて	保育指針の「環境」の領域を事前に読むこと（９０分）。	２回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
3	環境教育の重要性と留意点、環境設定する際のポイント 保育の現場での危機管理、安全管理について	自信が考える環境の重要性についてメモにまとめておくこと（９０分）	３回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。回目の課題を作成する（90分）。
4	子どもの自主性、主体性を引き出す魅力的な環境とは。 環境教育における保育者の役割と重要性について	保育指針における第二章　乳児保育を事前読むこと（９０分）。	４回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
5	保育における環境の重要性、安全衛生管理について	保育指針における乳児保育及び衛生安全管理を事前読むこと（９０分）	５回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
6	理想の保育環境を考える ①物的環境　②自然環境	保育における物的環境について事前学習しておく（９０分）。	６回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
7	理想の保育環境を考える ③人的環境（保育者の資質、専門性）	保育における人的環境について事前に学習しておくこと（９０分）。	７回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
8	まとめ　環境を通した保育とは レポートの作成 授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証 フィードバック	これまでの授業内容を確認しておく（９０分）。	授業の目的の達成度を自己評価する（９０分）。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級対策製図Ⅰ （科目ナンバリング：APT324066　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）・向井　正伸（建築学科・専任講師）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	2　（単位認定責任者：　向井　正伸　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として設計事務所にて設計業務に携わった経験を踏まえ、授業を実施する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

今日の生活習慣や価値観の多様化は，建築空間にも急速に進展してきた。そしてそれは建築士試験における出題傾向にも色濃く反映されている。建築士試験の２次試験製図課題の傾向を探り，実践的な設計手法を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

設計業務に於いて即座に提示される付与条件と課題目標に対応した設計手順を学び，多様な図面表現をすることができる。

授業全体の内容と概要

建築士の想定製図課題を提示し，出題者の意図を探り，計画上の決まりごとや作図上の留意点をエスキス等をもとに理解し，作図する。

授業の方法

授業は授業初めに板書と配布資料、ビデオによる視聴覚資料により解説をおこない、エスキス・作図については基本的に個別にチェックをしてフィードバックする。最後の講評会は全員による発表会形式で行う。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

コンセプトを構築し空間として具現化を図るためには，とりもなおさず人の話を「注意深く」聞き，その内容を理解するという作業から始まる。時間外の指導及び作業を課す。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席し全課題に取り組むこと(ただし最低出席回数１１回以上)と，積極的に課題に取り組むこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	１０％	１０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
二級建築士製図試験想定問題に対する正確なエスキスと平面プランの構築をする能力を習得することができる。	設計課題をすべて理解した上での不備のないエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をすべて理解した上でのエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をおおむね理解した上でのエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をある程度理解した上でのエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題の内容を理解することができなかった。
設計与条件に対する適切な解答としての表現力を修得することができる。	与条件すべてを満足させる適切な表現ができた。	与条件を満足させる適切な表現ができた。	与条件をおおむね満足させる適切な表現ができた。	与条件をおおむね満足させる表現ができた。	与条件をおおむね満足させる表現ができなかった。
限られた時間内に図面を完成することのできる作図スピードを修得することができる。	時間内にすべての図面を書き残すことなく完成することができた。	時間内に書き上げることができた。	時間内におおむね書き上げることができた。	時間内にほぼ書き上げることができた。	時間内に完成することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級対策製図Ⅰ （科目ナンバリング：APT324066　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）・向井　正伸（建築学科・専任講師）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	2　（単位認定責任者：　　向井　正伸　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として設計事務所にて設計業務に携わった経験を踏まえ、授業を実施する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
2	問題の読み解きとその手法	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
3	建築士試験想定製図課題の設計	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
4	平面計画とプランニング	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
5	プランニングの陥穽	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
6	プランニングからエスキスへ	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
7	エスキスの注意点	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
8	良いエスキスと悪いエスキス	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業の作図の継続(90分)
9	作図への移行	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
10	各階平面図の同時作成	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
11	立面図作図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
12	断面図作図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
13	面積表・仕上表：各伏図１	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
14	設計主旨のまとめ方：各伏図２	作図準備をする(90分)	プレゼンテーション準備(90分)
15	全体チェック	プレゼンテーション準備(90分)	感想レポート提出(90分)
16	総括によるフィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証、授業改善アンケートの実施	プレゼンテーション準備(90分)	感想レポート提出(90分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営分析論 （科目ナンバリング：MAN413006，MAN523016　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石山　玄幸（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　石山　玄幸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタント会社の代表として２００社以上の中小企業の経営指導をしてきた経験を生かして、守秘義務に配慮しつつ身近な企業の事例を活用した講義を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

概要

履修目標

本講義は、経営学部における会計科目の仕上げ科目と位置づけ、学生が会社経営の安全性、収益性、成長性など、財務分析の手法について学ぶことを目的としている。分析の結果を踏まえて、会社とはどうあるべきか考えられる力を養成することも本講義のねらいである。科目を修了して、分析対象とする企業の状況を把握できる能力を身に付けることを期待する。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、DP３、DP４に対応する。

到達目標

本講義修了時の達成目標は以下の通り。①貸借対照表、損益決算書、キャッシュフロー計算書の内容が理解できる。②対象企業における資産状況、負債状況、自己資本比率を理解できる。③貸借対照表、損益決算書、キャッシュフロー計算書を使い会社経営の安全性、収益性、成長性の数値を導き出すことができる。

授業全体の内容と概要

本講義は、会社経営における財務分析の手法を学ぶ。貸借対照表（B/S）、損益決算書（P/L）、キャッシュフロー計算書(C/S)の数値を使い会社の安全性、収益性、成長性などを導き出す。経営分析の過程で数学を使うが、基本的には割り算と掛け算である。計算の際は計算機の使用を認める。

授業の方法

本講義はパワーポイント及び配布物資料で進める。１枚のパワーポイントを掲示して、一連の解説が終了した後、一定の時間、学生がノートを書く時間を取る。また、本講義では、アクティブラーニングを活用し、一つの公式を解説後、グループワークやディスカッションを行い、学生の理解をより深めることとする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

本講義は、財務会計論の発展科目であることから、「財務会計論」の単位を取得していなければ受講できない。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（商業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
１００％	０％	０％	０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
企業会計の必要性について	企業における会計の必要性について、業種別の特徴を踏まえて説明できた。	企業における会計の必要性について、具体的な事例を挙げて説明できた。	企業における会計の必要性について理解していた。	企業における会計の必要性を最低限理解していた。	企業における会計の必要性を理解していなかった。
財務諸表の理解	３つの財務諸表を使いこなし、企業財務の現状を述べることができた。	３つの財務諸表の違いを述べることができ、それぞれの諸表を読んで理解できた。	３つの財務諸表の違いを述べることができた。	３つの財務諸表を述べることができた。	そもそも財務諸表とは何かを理解していなかった。
経営分析に対応した数学的計算力	企業会計の法則に沿ってスムーズに数学的な計算ができた。	企業会計の法則に沿って数学的な計算ができた。	企業会計の法則に沿って、多少の時間がかかるが計算ができた。	企業会計の法則に沿って、最低限の計算ができた。	企業会計の法則に沿った数学的な計算ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営分析論 （科目ナンバリング：MAN413006，MAN523016　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石山　玄幸（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　石山　玄幸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタント会社の代表として２００社以上の中小企業の経営指導をしてきた経験を生かして、守秘義務に配慮しつつ身近な企業の事例を活用した講義を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『経営分析入門』	森田松太郎	日本経済新聞出版社	2009年	9784532133658	
2	『第五版中小企業の財務分析経営・原価指標の分析・活用』	宇田川荘二	同友館	2020年	9784496054877	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明（講義全体の概要、講義のやり方、評価方法、科目を修了して「身に付く力」の説明含む）、授業改善アンケート結果反映の説明	必ずシラバスを読んでから、初回ガイダンスを受講すること。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
2	財務諸表の見方①　貸借対照表	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
3	財務諸表の見方②　損益決算書	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
4	会社分析のねらいと財務分析の手法	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
5	会社の財務安全性①　流動比率　当座比率	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
6	会社の財務安全性②　自己資本比率　固定比率	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
7	会社の収益性①　資本の収益力	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
8	会社の収益性②　売上対利益と損益分岐点	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
9	会社の活性性①　回転率	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
10	会社の活性性②　設備効率	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
11	会社の発展性　　成長性	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
12	キャッシュフロー	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
13	会社の人材	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
14	会社の総合評価	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
15	まとめ　試験対策、授業改善アンケートの実施	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
16	定期試験とフィードバック。科目を修了して「身に付く力」の検証	定期試験に向けて準備をしておくこと。（９０分）	定期試験のフィードバックを受けて、経営分析論を総括する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	生理学 （科目ナンバリング：BAM522064　　）				
授業担当者 （所属・職名）	黒川　泰任（経営学科・客員教授）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　黒川　泰任　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	診療に従事する、脳神経外科専門医、脳卒中専門医、脳神経外傷指導医、病態栄養学会専門医・指導医であり、ヒトの生理、病態につき経験がある。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

生理学は生物、特にヒトの正常機能を追求する医学の一分野である。ヒトの生物学的機能を再考察し、生体の働きのメカニズムを理解し身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

ヒトの身体における正常機能について、理解を深める。

授業全体の内容と概要

われわれ、すなわちヒトの身体を、生命という視点から、生き物の最小単位としてその機能の必然性について理解し、生命活動、疾病、運動時などにおける変化につき考察する。

授業の方法

板書および配布資料を活用しながら、呼吸、血液、循環、消化と吸収、代謝、排泄、内分泌等の生体維持に関する機能としくみについて、順次、要点を講義、および対話形式ですすめる。また、理解度の確認のため、各講義終了時に小テストを実施し、成績判定に用いる。小テストの積み重ねが、広範な医学分野の理解に役立つ。定期試験は各講義の小テストのテーマの中から出題される。不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業、課題提出を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

小テストと講義内容要約が重要なので、欠席しないように。
首席は表彰される。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は１０回以上。
定期試験と、各講義終了時の小テストの合計点で目標到達を判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	４０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ヒトは生物の、そして動物の一種であることを科学的に理解する	討論を元に、生命活動のしくみを科学的に考えられる。	生命のしくみについて興味を持ち、理解しようとしている。	ヒトの生物としての特徴がいえる。	講義の中心テーマを一つは理解できている。	講義に参加していない。
ヒトの正常の生命活動と、機械の働く機序との相同性、相違性を理解する	ヒトという生物も、機械も、活動のしくみは同じだと理解し、説明できる。	生物と機械の違いを説明できる。	ヒトの生命活動の特徴が、いくつか説明できる。	講義の中心テーマを一つは理解できている。	講義に参加していない。
講義態度	討論・質疑に参加し、積極的に意見や考えを述べられていた。	講義や皆の発言に耳を傾け、書き取り、質問できる。	疑問点や不明点をメモできる。	板書はできている。	講義に参加していない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	生理学 （科目ナンバリング：BAM522064　　）				
授業担当者 （所属・職名）	黒川　泰任（経営学科・客員教授）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　　黒川　泰任　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	診療に従事する、脳神経外科専門医、脳卒中専門医、脳神経外傷指導医、病態栄養学会専門医・指導医であり、ヒトの生理、病態につき経験がある。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ぜんぶわかる人体解剖図』	坂井ら	成美堂出版	2017	9784415306193	
2	『はじめの一歩のイラスト生理学 改訂第2版』	照井直人／編	羊土社	2011	9784758120296	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）	シラバスを確認しておく（９０分）	人の生理について興味ある点を、まとめておく（９０分）
2	生き物とは	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておく（９０分）	当日の講義内容を小テストで確認する（３０分）
3	細胞と環境	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容を小テストで確認する（３０分）
4	細胞と循環	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容を小テストで確認する（３０分）
5	呼吸、酸素の恩恵	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容を小テストで確認する（３０分）
6	血液	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容を小テストで確認する（３０分）
7	神経１　中枢神経と末梢神経	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容を小テストで確認する（３０分）
8	神経２　脳の機能局在	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容を小テストで確認する（３０分）
9	神経３　脳の解剖学的特徴	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容を小テストで確認する（３０分））
10	神経と運動	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容を小テストで確認する（３０分）
11	神経とホルモン、下垂体	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容を小テストで確認する（３０分）
12	腎臓	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容を小テストで確認する（３０分）
13	消化器１　消化管	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容を小テストで確認する（３０分）
14	消化器２　肝臓と膵臓	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容を小テストで確認する（３０分）
15	免疫	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容を小テストで確認する（３０分）
16	定期試験 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	試験準備（９０分）	定期試験内容を参考として、ヒトが生きていく仕組みについて、参考になる読書をする（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	人的資源管理論 （科目ナンバリング：MAN413013，MAN523038　　）				
授業担当者 （所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	2号館6階	
単位数	2　（単位認定責任者：　信濃　吉彦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認すること				

概要

履修目標

経営学の基礎として人的資源管理とは何なのか。経営資源における「ヒト」の項目に関する理解を深め身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

経営学の基礎的知識である人的資源に関する様々な知識を身に付ける。

授業全体の内容と概要

教員作成の資料を中心に理解すべき内容と記憶すべき内容を分けて修得して欲しい。PCを多用する。「SDG4．質の高い教育をみんなへ」の関連科目

授業の方法

教員作成の資料を用いての講義に加え、PCを活用した調査課題なども実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

学習を妨げる行為（私語等）は厳禁とする。出席および授業参加度を重視する。教科書を持参しない学生に関しては、期限を切って用意できなかった場合、評価対象から除外する。各自の責任において履修中止を行うこと。ハンドアウト・講義・教科書の内容はポイウントにまとめてノートに記載すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、修学サポートを実施するので、必ず事前に相談に来て欲しい。

資格指定科目

教職課程（商業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上（出席数は自身で管理すること）。12回以上の出席を標準とする。加えて、指定課題の提出・ノートチェックを受けることを単位要件とする。特段の理由がない限りリモートの授業は行わない。病気やケガを理由とした個人向けのリモート授業は原則行わない。対面で出席できない場合は、欠席とする。20分までを遅刻としそれ以上遅れた場合及び15分以上途中退席した場合は、欠席とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	0%	２０%	０%	20%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	経営システムや構造に関する基礎的な知識を具体的な事例に当てはめ、日常に活かすことができる。	経営システムや構造に関する基礎的な知識を具体的な事例に当てはめることができる。	経営システムや構造に関する基礎的な知識と事例を理解している。	経営システムや構造に関する基礎的な知識を理解している。	経営システムや構造に関する基礎的な知識を理解していない。
思考力・判断力・表現力	組織構造・組織行動・人的資源管理の知識を具体的な事例に当てはめ、日常に活かすことができる。	組織構造・組織行動・人的資源管理の知識を具体的な事例に当てはめることができる。	組織構造・組織行動・人的資源管理の知識と事例を理解している。	組織構造・組織行動・人的資源管理の知識を理解している。	組織構造・組織行動・人的資源管理の知識を理解していない。
主体性	組織・人的資源管理を活かす活動に関して、知識の蓄積や活動準備を終え自身のキャリアプランに当てはめ、活用することができる。	組織・人的資源管理を活かす活動、知識の蓄積や準備について、自身のキャリアプランに当てはめることができる。	組織・人的資源管理を活かす活動、知識の備蓄、事例を理解している。	組織・人的資源管理を活かす活動、知識の備蓄やキャリアを理解している。	組織論・人的資源管理論を活かした関連活動を理解していない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	人的資源管理論 （科目ナンバリング：MAN413013，MAN523038　　）				
授業担当者 （所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	2号館6階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　信濃　吉彦　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認すること				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『必要な資料を適宜チームズ上に掲載する』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	イントロダクション（人的資源管理とは） シラバスの説明「科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
2	人的資源管理とは何か	資料を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
3	組織構造と職場マネジメント	資料を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
4	日本的経営の成り立ち	資料を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
5	社員区分制度と格付け制度	資料を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
6	人的資源確保　採用と定着	テキストの該当箇所を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
7	人的資源確保　評価	資料を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
8	人的資源確保　配置と異動	資料を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
9	人的資源確保　育成とキャリア	資料を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
10	人的資源確保　報酬管理	資料を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
11	人的資源管理　労働環境①	資料を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
12	人的資源管理　労働環境②	資料を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
13	労働環境　健康管理と安全衛生	資料を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
14	ダイバーシティと労働多様性 ノートチェック指導	資料を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
15	まとめ（期末試験に向けて） 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	すべての資料を熟読すること（90分）	試験勉強に取り組むこと（90分）
16	試験（60分）と総括（30分）	試験勉強に取り組むこと（90分）	各自で科目総括・資料整理を行うこと（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	衛生学及び公衆衛生学 （科目ナンバリング：SOM522065　　）				
授業担当者 （所属・職名）	宮崎　剛司（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　宮崎　剛司　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保健師として従事した経験から、衛生学を主に感染や健康被害などから集団全体における予防・健康増進について学びます。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整または研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

健康管理および疾病予防の実践につなげる衛生学、公衆衛生の取り組みの現状について、国民衛生の動向や健康日本２１から現在の日本人の健康状態について理解し、その後生活習慣病や感染症などの疾病の原因そして予防方法、また環境要因と健康の関連性などについて理解を深める。

授業の位置づけ

経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

健康を保持・増進するための具体的な支援として、健康と環境の両側面から理解を深める。健康な生活と疾病予防についての衛生及び公衆衛生の地域保健の具体的取り組みについて理解する。

授業全体の内容と概要

各ライフステージにおける特徴的な健康問題および対策の現状について、衛生統計、地域保健の取り組みの現状や事例を通して理解を確実なものにする。

授業の方法

各ライフステージにおける健康問題の現状等は主として統計資料及びパワーポイントを用いて説明し、加えて視聴覚メディア、具体的な取り組み事例を提示して、学生自身の健康問題の予防及び改善に関する考えについてグループワークとプレゼンテーションを行う。
双方向授業システム（クリッカー等）を利用、Ｔｅａｍｓを利用した学習支援する。
「基本は対面授業の実施」であるが、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

遅刻は講義開始後２０分までとし、その時間以降の受講は欠席扱いとする。なお、私的都合による３回以上の欠席は単位を認定しない。公欠及び病欠は大学で認められているものに準ずることとし、その場合は欠席課題を提出する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は11回以上。
20分以上の遅刻は欠席とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。
復習を中心に毎回の授業内容を自分で応用できるようにする。授業時間と同様の復習および次回の授業に向けた予習時間を確保するようにする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	0%	３０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
健康管理および疾病予防の実践につなげる衛生学、公衆衛生の取り組みの意義、目的について理解できている。	疾病及び健康課題の変遷から衛生学及び公衆衛生学の歴史と現状を踏まえ、健康課題の改善、取組みに関する資料を整理、解釈できていた。	疾病及び健康課題の現状と衛生学及び公衆衛生学の取組みを関連づけて説明できていた。	衛生学及び公衆衛生学の意義、目的について説明できていた。	衛生学及び公衆衛生学の取組みの現状について列挙できていた。	衛生学及び公衆衛生学の取組みの現状について列挙できていなかった。
各ライフステージにおける健康課題について理解できている。	各ライフステージに特徴的な健康課題の変遷及び現状について資料を解釈し、主体と環境の両側面から健康課題の改善、予防について自分の考えを伝えることができていた。	各ライフステージに特徴的な健康課題の現状について資料を整理し、健康課題の改善、予防について自分の考えを伝えることができていた。	各ライフステージに特徴的な健康課題の現状について資料を基に整理できていた。	健康課題の現状について列挙できていた。	健康課題の現状について列挙できていなかった。
地域ごとに特徴的な健康課題の現状について理解できている。	地域ごとに異なる健康課題の特徴について資料を基に自分の考えを整理し、主体と環境の両側面から健康課題の改善、予防について自分の考えを伝えることができていた。	地域ごとに異なる特徴的な健康課題の現状について資料を整理し、健康課題の改善、予防について自分の考えを伝えることができていた。	地域ごとの健康課題の特徴について資料を基に整理できていた。	地域に特徴的な健康課題について列挙できていた。	各々のが抱えている健康課題について列挙できていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	衛生学及び公衆衛生学 （科目ナンバリング：SOM522065　　）				
授業担当者 （所属・職名）	宮﨑　剛司（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　宮﨑　剛司　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保健師として従事した経験から、衛生学を主に感染や健康被害などから集団全体における予防・健康増進について学びます。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整または研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『シンプル衛生公衆衛生学2024』	小山羊監修	南光堂	2024	978-4-524-21022-0	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 オリエンテーション（当該科目を通じて日本における健康問題の現状を理解する） 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを熟読し、本講義について理解しておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
2	公衆衛生の変遷：時代とともに変化する健康課題とその対策	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
3	地域による健康格差：地理的・社会的要因がもたらす健康の違い	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
4	個人の特性と健康リスク：遺伝・生活習慣・社会環境の影響	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
5	疾患の成り立ちと予防：病気の原因を探り、公衆衛生での対策を考える	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
6	感染症の疫学：感染症の流行を理解し、拡大を防ぐ仕組み	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
7	非感染性疾患の原因と対策：肺がんを例に考える環境要因と健康影響	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
8	人口統計と公衆衛生：統計データから読み解く健康の現状と未来予測	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
9	遺伝要因と健康：遺伝と生活環境の相互作用	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
10	環境変化と健康影響：気候変動・都市化・公害が健康に与える影響	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
11	健康診断と予防医療：検診の意義とスクリーニングの役割	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
12	公衆衛生における法律と制度：人々の健康を守る法的枠組み	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
13	医療保険制度の意義と課題：健康格差をなくすための仕組みとは	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
14	健康な生活環境の整備：公衆衛生政策による住みよい環境づくり	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
15	ヘルスプロモーションの実践：健康づくりのための戦略とアプローチ レポートのフィードバック	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
16	まとめ 科目を修了して『身に付く力』についての検証 授業改善アンケートの実施	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級建築士演習Ⅰ （科目ナンバリング：SEM324068　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）・向井　正伸（建築学科・専任講師）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	1　（単位認定責任者：　向井　正伸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所に勤めた経験を活かして実践的な授業を展開していく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「資格が無ければ食えない」とも言われる建設業界でその根幹である建築士，その中でも大学卒業後すぐに受験可能な２級建築士試験の学科Ⅰ「建築計画」にターゲットを絞り，その傾向と対策を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

提示された建築士の過去問題に対し出題者の意図を探り，試験の決まりごとや回答上の留意点を解説等をもとに理解できる。

授業全体の内容と概要

２級建築士学科試験学科Ⅰに出題される過去問題の回答・解説について網羅する。
「SDG11．住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

テキストや配布資料をもとに，視聴覚資料も交えて講義を行う。また講義後には毎回確認実施テストを行う。不測の事態の際にオンライン及びオンデマンドにて授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

資格試験対策は，通常授業とはそのアプローチも異なり，そして学習方法もちがう。しかし３年生までの専門科目の集大成と総まとめとして，そして建築士は建築学科出身の学生には避けては通れないものなので，覚悟を以って取り組んで欲しい。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	６０%	４０%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題を正確に解くことができた。	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題を解くことができた。	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題を解くことができなかった。
建築計画の用語の定義と建築計画各項目の理解	建築計画の用語の定義と建築計画各項目の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築計画の用語の定義と建築計画各項目の理解に関する問題を正確に解くことができた。	建築計画の用語の定義と建築計画各項目の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築計画の用語の定義と建築計画各項目の理解に関する問題を解くことができた。	建築計画の用語の定義と建築計画各項目の理解に関する問題を解くことができなかった。
建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題を正確に解くことができた。	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題を解くことができた	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題を解くことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級建築士演習Ⅰ （科目ナンバリング：SEM324068　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）・向井　　正伸（建築学科・専任講師）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	1　（単位認定責任者：　　向井　正伸　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所に勤めた経験を活かして実践的な授業を展開していく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。科目を修了して「身に付く力」についての説明 、環境工学―気象・室内環境・屋外 気候・換気・通風、授業改善アンケート結果反映の説明	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
2	環境工学―伝熱・結露・日照・日射	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
3	環境工学―採光・音響・色彩	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
4	環境工学―環境工学融合・用語	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
5	建築計画―独立住宅	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
6	建築計画―集合住宅	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
7	建築計画―商業建築	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
8	建築計画―公共建築	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
9	建築計画―計画一般	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
10	建築計画―都市計画・地域計画	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
11	建築設備―用語・空気調和設備	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
12	建築設備―給水・給湯・排水・衛生設備	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
13	建築設備―電気設備	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
14	建築設備―照明設備 指	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
15	建築設備―消火・防災・設備融合	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
16	実力診断試験・解説、総括によるフィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証、授業改善アンケートの実施	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健Ⅰ （科目ナンバリング：PSS522066　　）				
授業担当者 （所属・職名）	近藤　亜弥（社会福祉学科・講師）		研究室等所在	未定	
単位数	2　（単位認定責任者：　　近藤　亜弥　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科病院のデイ・ケアの看護師の経験を活かして、医療機関や行政機関、他の在宅サービスとの情報共有や調整、医療との連携、精神障害のある人の在宅生活をどのように支えていくかなどの経験を活かして講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

現代の精神保健分野の動向と課題、精神保健とはなにか、精神保健の諸課題に対する精神保健福祉士に必要な知識を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

①精神保健分野の動向と現代の課題を理解する。
②精神保健の基本的考え方を理解する。
③現代社会における精神保健の課題を医療・福祉・保健・教育・司法・産業・労働という生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。

授業全体の内容と概要

①人間生態学における精神的健康概念について理解する。
②精神保健医療福祉の歴史と、精神障害にも対応した地域包括システムなどの現代の精神保健分野の動向と基本的考え方について理解する。
③精神保健活動の3つの対象、精神の健康に関する心的反応について理解する。
④家族や各発達段階に関連する精神保健の課題と支援について理解する。
⑤勤労者への精神保健的課題とアプローチについて理解する。
「SDGs1.貧困をなくそう」「SDGs3. すべての人に健康と福祉を」「SDGs5.ジェンダー平等を実現しよう」「SDGs8.働きがいも経済成長も」「SDGs11.住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

①教科書の内容をまとめた配布資料に基づく講義形式になるが、新聞記事の活用や映像資料の視聴、演習（グループワーク等）も取り入れる。配布される資料に板書事項を記述すること。
②毎回の振り返りをMicrosoft Formsを通して提出し、次回授業開始時にフィードバックを行う。
③毎回の授業前にMicrosoft Formsを通して事前学習を提示するため、必ず確認してから授業に望む。
④授業資料の配布にMicrosoft Teamsを活用する。
⑤基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①教科書は毎回持参すること。
②配布資料は紛失しないよう、ファイリングする等して管理を徹底すること。
③ニュース等で報道される福祉に関わる話題について興味を持つこと。
④新聞記事等を題材として社会福祉の現状や課題を検討する等、常に問題意識を持ちながら積極的に授業に参加すること。

修学サポート（合理的配慮）

・事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格課程、スクール（学校）ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

出席回数は定期試験前までに１０回以上あることを評価の前提条件とし、平常点（１０点）、第１６回目に実施する定期試験（９０点）の結果を総合して評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
９０%	０%	０%	0%	１０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
①現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。	関係するキーワードを用いて現代の精神保健分野の動向と課題について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて現代の精神保健分野の動向と課題についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代の精神保健分野の動向と課題について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代の精神保健分野の動向と課題についておおむね説明できた。	現代の精神保健分野の動向と課題に関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
②精神保健の基本的考え方を理解する。	関係するキーワードを用いて精神保健の基本的考え方について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて精神保健の基本的考え方についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健の基本的考え方について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健の基本的考え方についておおむね説明できた。	精神保健の基本的考え方に関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
③現代社会における精神保健の課題を医療・福祉・保健・教育・司法・産業・労働という生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。	関係するキーワードを用いて現代社会における精神保健の諸課題の実際について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて現代社会における精神保健の諸課題の実際についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代社会における精神保健の諸課題の実際について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代社会における精神保健の諸課題の実際についておおむね説明できた。	現代社会における精神保健の諸課題の実際に関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健Ⅰ （科目ナンバリング：PSS522066　　）				
授業担当者 （所属・職名）	近藤　亜弥（社会福祉学科・講師）		研究室等所在	未定	
単位数	2　（単位認定責任者：　　近藤　亜弥　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科病院のデイ・ケアの看護師の経験を活かして、医療機関や行政機関、他の在宅サービスとの情報共有や調整、医療との連携、精神障害のある人の在宅生活をどのように支えていくかなどの経験を活かして講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新精神保健福祉士養成講座２　現代の精神保健の課題と支援』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2023	4805882535	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、精神保健の概要 科目を修了して『身に付く力』についての説明	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
2	現代の精神保健の動向と基本的考え方①（精神保健の動向、精神保健活動の三つの対象）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
3	現代の精神保健の動向と基本的考え方②（精神の健康に関する心的態度、生活と嗜好）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
4	家族に関連する精神保健の課題と支援①（家族関係における暴力と精神保健、出産・育児をめぐる精神保健）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
5	家族に関連する精神保健の課題と支援②（介護をめぐる精神保健、社会的ひきこもりをめぐる精神保健）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
6	家族に関連する精神保健の課題と支援③（家族関係の課題、グリーフケア、精神保健支援を担う機関）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
7	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ①（学校教育における精神保健的課題、教員の精神保健）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
8	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ②（関与する専門職と関係法規）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
9	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ③（スクールソーシャルワーカーの役割、学校精神保健にかかわる社会資源）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
10	中間テスト、振り返り	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。（９０分）	試験で間違えたところ、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。（９０分）
11	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ①（現代日本の労働環境、産業精神保健とその対策）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
12	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ②（職場のメンタルヘルスのための相談、職場内の問題を解決するための機関および関係法規）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
13	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ①（災害被害者の精神保健、犯罪被害者等の支援、自殺予防）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
14	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ②（精神保健の身体疾患に伴う精神保健、貧困問題と精神保健、社会的孤立）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
15	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ③（性的マイノリティと精神保健、多文化に接することで生じる精神保健上の課題、反復違法行為と精神保健、高齢化と精神保健）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
16	定期試験（６０分の試験）、授業改善アンケートの実施 授業全体のフィードバックなど 科目を修了して『身に付く力』についての検証	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。（９０分）	試験で間違えたところ、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ｲﾗｽﾄﾚｰｼｮﾝIII （科目ナンバリング：AEA223042　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　正人（デザイン学科・客員教授）		研究室等所在	２号館７階・１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　佐藤　正人　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン業界で長年携わる実務経験者が実践に即した実習を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をしデザインゼミ研究室①で木曜日５・６講目、金曜日５・６講目対応。				

概要

履修目標

本科目は，デザイン現場に於けるイラスト制作やイラストの多様性，表現方法を学び，イラストレーターの役割を実践形式で学び習得する。イラスト，デザイン，アートのみならず様々なものから積極的な探求心，研究心を養う。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

アドバタイジング，エディトリアルの各媒体目的を意識して完成度の高いオリジナル作品の完成を目指し，独自のイラスト表現を確立できる。

授業全体の内容と概要

マチエール，下地と画材表現の研究。また各課題のテーマ，コンセプトに合わせて個々の表現を模索して，オリジナルの方向性を確立。作品制作の中で実践的制作過程を学び，画材表現，イラスト表現を習得する。

授業の方法

各課題説明書に沿って各テーマに合ったアイデア発想，表現を考え，その後実技にてイラスト作品制作を行っていく。作品提出ごとにプレゼンを実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

遅刻３回で欠席１回とみなす。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は２０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イラストレーションに対しての制作意欲および授業態度。	授業の事前事後学習を進め意欲的な制作態度、取り組みがなされ模範的な授業態度であった。	授業の事前事後学習を進め、真面目に授業課題の作品制作に取り組んでいた。	授業課題、内容に真面目に取り組んでいた。	授業課題へ取り組みになからも制作意欲が乏しかった。	授業に対しての意欲が感じられず制作態度の取り組みに欠けていた。
イラスト表現における表現・描法への知識および理解。	授業内容に積極的に真剣に取り組み、知識の習得と理解度を深めていた。	授業内容に真剣に取り組み授業内容を充分理解していた。	授業内容を真面目に取り組み概ね理解していた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解していなかった。
イラスト表現への研究および習得。	授業内容を深く理解して研究心、習得の向上心が著しくあり実践的にも優れていた。	授業内容を充分理解して研究心があり習得して形にしていた。	授業内容を概ね理解して真面目に研究、習得していた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解せず研究心、習得への意欲に欠けていた。
イラストの多様性・実践的制作への理解。	授業内容を深く理解して実践的応用や表現の多様性にも優れ、完成度にも著しく優れていた。	授業内容を充分理解して実践的制作、多様性を習得して表現していた。	授業内容を概ね理解して真面目に多様性・実践的制作をしていた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解せず制作意欲に欠けていた。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ｲﾗｽﾄﾚｰｼｮﾝIII （科目ナンバリング：AEA223042　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　正人（デザイン学科・客員教授）		研究室等所在	２号館７階・１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　佐藤　正人　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン業界で長年携わる実務経験者が実践に即した実習を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をしデザインゼミ研究室①で木曜日５・６講目、金曜日５・６講目対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『マイワーク３１』	北海道イラストレーターズクラブアルファ				
2	『雑誌イラストレーション』		玄光社			バックナンバー
3	『イラストノート』		誠文堂新光社			バックナンバー
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（イラストレーターの仕事について，イラスト表現の多様性，イラスト制作過程の注意点などについて講義）、シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映の説明。科目を修了して『身に付く力』についての説明。	シラバスを読んでおくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
2	オリエンテーション（イラストレーターの仕事について，イラスト表現の多様性，イラスト制作過程の注意点などについて講義）、シラバスの説明。	シラバスを読んでおくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
3	マチエール，下地の研究１。ジェッソを中心に各メディウムの特性を実技して行く。	制作作業に使用する道具の準備を行っておくこと。（４５分）	各マチエール，メディウムの特性の理解を深めておくこと。（４５分）
4	マチエール，下地の研究１。ジェッソを中心に各メディウムの特性を実技して行く。	制作作業に使用する道具の準備を行っておくこと。（４５分）	各マチエール，メディウムの特性の理解を深めておくこと。（４５分）
5	マチエール，下地の研究２。ジェッソを中心に各メディウムの特性を実技して行く。	制作作業に使用する道具の準備を行っておくこと。（４５分）	各マチエール，メディウムの特性の理解を深めておくこと。（４５分）
6	マチエール，下地の研究２。ジェッソを中心に各メディウムの特性を実技して行く。	制作作業に使用する道具の準備を行っておくこと。（４５分）	各マチエール，メディウムの特性の理解を深めておくこと。（４５分）
7	アドバタイジングイラストレーションの研究，実習・１。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。（４５分）	講義内容を理解して作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
8	アドバタイジングイラストレーションの研究，実習・１。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。（４５分）	講義内容を理解して作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
9	アドバタイジングイラストレーションの研究，実習・２。	課題説明書を読みイラストラフを完成しておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
10	アドバタイジングイラストレーションの研究，実習・２。	課題説明書を読みイラストラフを完成しておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
11	アドバタイジングイラストレーションの研究，実習・３。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
12	アドバタイジングイラストレーションの研究，実習・３。	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
13	アドバタイジングイラストレーションの研究，実習・４。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
14	アドバタイジングイラストレーションの研究，実習・４。	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
15	アドバタイジングイラストレーション研究，実習・５。コンセプトシート記載後にプレゼン実施。作品提出。	作品完成，プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。（４５分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
16	アドバタイジングイラストレーション研究，実習・５。コンセプトシート記載後にプレゼン実施。作品提出。	作品完成，プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。（４５分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	エディトリアルイラストレーション研究，実習・１。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。（４５分）	講義内容を理解して作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
18	エディトリアルイラストレーション研究，実習・１。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。	講義内容を理解して作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
19	エディトリアルイラストレーション研究，実習・２。	課題説明書を読みイラストラフを完成しておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。（４５分）
20	エディトリアルイラストレーション研究，実習・２。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
21	エディトリアルイラストレーション研究，実習・３。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。（４５分）
22	エディトリアルイラストレーション研究，実習・３。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
23	エディトリアルイラストレーション研究，実習・４。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。（４５分）	作品完成へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
24	エディトリアルイラストレーション研究，実習・４。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。（４５分）	作品完成へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
25	エディトリアルイラストレーション研究，実習・５。コンセプトシート記載後にプレゼン実施。作品提出。	作品完成，プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。（４５分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
26	エディトリアルイラストレーション研究，実習５。コンセプトシート記載後にプレゼン実施。作品提出。	作品完成，プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。（４５分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
27	オリジナルイラストレーション研究，実習・１。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。（４５分）	講義内容を理解して作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
28	オリジナルイラストレーション研究，実習・１。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。	講義内容を理解して作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
29	オリジナルイラストレーション研究，実習・２。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。（４５分）
30	オリジナルイラストレーション研究，実習・２。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。（４５分）
31	オリジナルイラストレーション研究，実習・３。総合プレゼンテーション＆全体講評会。	作品完成，プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。（４５分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
32	オリジナルイラストレーション研究，実習・３。総合プレゼンテーション＆全体講評会。授業改善のアンケート実施。授業に係る講評・解説によるフィードバック。科目を修了して『身に付く力』についての検証。	作品完成，プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。（４５分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級建築士演習Ⅱ （科目ナンバリング：SEM324069　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）・向井　　正伸（建築学科・専任講師）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	1　（単位認定責任者：　　向井　正伸　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所での経験を活かして、実践的な授業を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「資格が無ければ食えない」とも言われる建設業界でその根幹である建築士，その中でも大学卒業後すぐに受験可能な２級建築士試験の学科Ⅱ「建築法規」にターゲットを絞り，その傾向と対策を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

提示された建築士の過去問題に対し出題者の意図を探り，試験の決まりごとや回答上の留意点を解説等をもとに理解できる。

授業全体の内容と概要

２級建築士学科試験学科Ⅱに出題される過去問題の回答・解説について網羅する。
「SDG11．住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

テキストや配布資料をもとに，視聴覚資料も交えて講義を行う。また講義後には毎回確認実施テストを行う。不測の事態の際にオンライン及びオンデマンドにて授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

資格試験対策は，通常授業とはそのアプローチも異なり，そして学習方法もちがう。しかし３年生までの専門科目の集大成と総まとめとして，そして建築士は建築学科出身の学生には避けては通れないものなので，覚悟を以って取り組んで欲しい。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数１１回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	６０%	４０%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築基準法の用語の定義と建築基準法各条項の理解	建築基準法の用語の定義と建築基準法各条項に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築基準法の用語の定義と建築基準法各条項に関する問題を正確に解くことができた。	建築基準法の用語の定義と建築基準法各条項に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築基準法の用語の定義と建築基準法各条項に関する問題を解くことができた。	建築基準法の用語の定義と建築基準法各条項に関する問題を解くことができなかった。
建築基準法施行令の用語の定義と建築基準法施行令各条項の理解	建築基準法施行令の用語の定義と建築基準法施行令各条項に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築基準法施行令の用語の定義と建築基準法施行令各条項に関する問題を正確に解くことができた	建築基準法施行令の用語の定義と建築基準法施行令各条項に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築基準法施行令の用語の定義と建築基準法施行令各条項に関する問題を解くことができた。	建築基準法施行令の用語の定義と建築基準法施行令各条項に関する問題を解くことができなかった
建築基準法以外の関連法律の用語の定義とそれらの各条項の理解	建築基準法以外の関連法律の用語の定義とそれらの各条項に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築基準法以外の関連法律の用語の定義とそれらの各条項に関する問題を正確に解くことができた。	建築基準法以外の関連法律の用語の定義とそれらの各条項に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築基準法以外の関連法律の用語の定義とそれらの各条項に関する問題を解くことができた。	建築基準法以外の関連法律の用語の定義とそれらの各条項に関する問題を解くことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級建築士演習Ⅱ （科目ナンバリング：SEM324069　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）・向井　　正伸（建築学科・専任講師）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	1　（単位認定責任者：　　向井　正伸　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所での経験を活かして、実践的な授業を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。用語・面積・高さ 授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」についての 説明	オリエンテーションで配布した資料の熟読（４５分）	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
2	手続き	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
3	採光・換気	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
4	階段・傾斜路	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
5	構造強度，構造計算	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
6	法22条区域内・特殊建築物	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
7	木造３階建共同住宅等	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
8	防火地域・準防火地域内	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
9	防火区画・内装制限・用途地域	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
10	容積率・建ぺい率・高さの制限	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
11	道路・壁面線	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
12	雑則・その他，基準法融合	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
13	バリアフリー法・耐震改修法	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
14	建築士法・都市計画法	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
15	品確法・長期優良住宅法	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
16	実力診断試験、授業改善アンケートの実施、総括によるフィードバック、科目を修 了して「身に付く力」についての検証	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	体つくり運動 （科目ナンバリング：HSS522069　　）				
授業担当者 （所属・職名）	是枝　亮（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　　是枝　亮　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

自己の体に関心を持ち、体力づくりにはどのような運動が効果的であるかを理解し、指導実践できるよう身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

学校教育において「体つくり運動」が導入された経緯と必要性、その目的・教育の方法を理解する。

授業全体の内容と概要

自己の体を動かしながら、身体について考え、その働きを学習する。また、仲間と交流したりするための手軽な運動や規律的な運動を学習する。

授業の方法

授業は実技を中心に行い、学習内容の課題をグループごとに実施・発表する。
中間課題評価は、体力つくりの基礎技術を見る。
なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

運動のできる服装（上履き必須）。ピアス・ネックレス等は身に付けないこと。携帯電話は持ち込まないこと。
上記のことについて厳守。守れない学生は授業に参加できない。又、授業中の私語、迷惑行為、授業中断等の態度・行為「例えば、授業中に寝る・授業に関係のない行為、協調生に欠ける・授業に集中できない」このような学生は場合によっては退席させ、その時間の授業は欠席とみなします。トイレは授業前に済ませること。やむをえず退席を希望の場合は許可を得ること。許可なく授業途中の退席は欠席とみなす。点呼時に着席していない場合は遅刻とみなす。遅刻２回で一回の欠席とみなす。１０分以上の遅刻は欠席とみなす」但し、バスや列車が原因で遅れる場合は遅延証明書を提出すること。中間課題評価は必ず受講すること。受講できない学生は、評価の対象となりません。課題提出を課された場合は期日厳守。病欠等の場合、診断書等を提出すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

１１回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。授業に対する意欲・態度・技術の上達等を総合的に判定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	５０％	0%	４０％	１０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
体つくり運動についての理解・認識	体つくり運動の目的や必要性を十分に理解し、授業で登場した運動や指導について具体的に結び付けることができ、また自ら運動や指導法を見出すことができた。	体つくり運動の目的や必要性を理解し、授業で登場した運動や指導について具体的に結び付けることができた。	体つくり運動の目的や必要性を理解し、授業で行った運動と結び付けることができた。	体つくり運動の目的や必要性は理解することができた。	体つくり運動の目的や必要性を理解することができなかった。
自分や他者の体への意識と運動の実施	自分や他者の体に意識を向けることができ、運動の効果を考え、効果的に運動や指導を実践することができた。	自分や他者の体に意識を向けることができ、運動の効果を考え、指示された運動の効果を考えながら運動を試みていた。	自分や他者の体に意識を向けることができ、指示された運動の効果を考える努力が窺えた。	指示された運動をとりあえず実施していた。	自分や他者の体に意識を向けることはなく、運動の実施もできなかった。
授業に対する主体的な実践への取り組み	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け、実践力のある指導者としての自覚が出来上がりつつあった。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常にみられ、実践力を身に付けるための努力が窺えた。	不明点を質問するなど前向きな姿勢が窺えた。	不明点を質問したりすることは少ないなど、積極性に乏しく受動的であった。	自分から進んで授業に参加する姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	体つくり運動 （科目ナンバリング：HSS522069　　）				
授業担当者 （所属・職名）	是枝　亮（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　　是枝　亮　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『体つくり運動-授業の考え方と進め方-改訂版』		東洋館出版社	２０１３		
2	『中学校学習指導要領解説　保健体育編』	文部科学省	東山書房	２０１７		
3	『高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編』	文部科学省	東山書房	２０１８		
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明 ・体つくり運動とは何か	シラバスを読んでおくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
2	体ほぐしの運動① ・基礎運動① 「柔軟体操、ストレッチング」	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
3	体ほぐしの運動② ・基礎運動② 「ペアグループでの柔軟体操、ストレッチング」	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
4	体ほぐしの運動③ ・一人での発育発達の観点を取り入れた各運動（歩、走、跳）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
5	体ほぐしの運動④ ・複数での発育発達の観点を取り入れた各運動（歩、走、跳）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
6	体ほぐしの運動⑤ ・器具を使用した各運動（ボール、フープ、ナワ、棒、シャトル等）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
7	体力を高める運動① ・柔軟性向上の運動（ストレッチングの基本）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
8	体力を高める運動② ・筋力向上の運動（自体重負荷）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
9	体力を高める運動③ ・巧みさ向上の運動	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
10	体力を高める運動④ ・持久力向上の運動	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
11	体力を高める運動⑤ ・総合的体力向上の運動（レペテーション、サーキット）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
12	体力を高める運動⑥ ・総合的体力向上の運動（レペテーション、サーキット）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
13	体力を高める運動⑦ ・有酸素運動（エアロビック）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
14	模擬授業①（指導者として）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
15	模擬授業②（指導者として）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	講義全体をふりかえり、まとめておくこと（４５分）
16	課題に対する解説・フィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問事項を整理しておくこと（９０分）	解説・フィードバックを受けて学習内容の理解を深めること（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	技法・材料研究 （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安田　祐造（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	２号館１階	
単位数	2　（単位認定責任者：　安田　祐造　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	50年近く画業に専念するなかで経験した課題を具体的に解説しながら指導に当たる。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照してください。				

概要

履修目標

洋画の技法として、油彩やエッグテンペラのみにとどまらず、この授業では他のテンペラや水彩などについても学修する。さらに支持体についてもより高度なものの製作方法を身につける。それぞれの技法や材料及び支持体製作についての知識や技術を身につけることにより、各々の履修生の感性や個性をより一層的確に表現することを目標とする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

油彩やエッグテンペラ、その他のテンペラ、水彩等の技法、それらの用材の特徴や使用法と管理の仕方などに習熟すること。また、新たな支持体づくりについても関心を高めること。そして各々の履修生が絵画制作をとおして自らを見つめる態度を養成することを目標とする。

授業全体の内容と概要

油彩やエッグテンペラとそれ以外の様々な技法や材料、新たな支持体について学修し、個々の履修者の判断で、表現の意図に照らし最も相応しい技法や絵具や展色剤などを用意し、それらの特徴を活かした制作を行えるようにする。また、客観的評価を得て自らの表現力を検証する意味で公募展にも挑む。

授業の方法

自らが選択した技法で自己表現する実技形式の授業で、自らが主体的に設定したテーマに則り表現した作品を創り上げることを課題とする。実習や視聴覚機器を活用するだけでなく、美術館や公募展の作品鑑賞等にも積極的に取り組む。授業担当者や他の履修生のみならず外部の人々からも批評や助言を得られるように環境を整え、より確かな自己実現に寄与させようとするものである。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

この授業を履修するに当たっては、間もなく卒業し社会に出ることを前提として、以後美術をとおして何ができるかを模索するものでもあることを十分に認識したうえで履修すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は２２回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
支持体について	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴を十分に理解し製作することができた。	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴を理解し製作することができた。	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴をほぼ理解し製作することができた。	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴をある程度理解し製作することができた。	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴を理解することなく十分なものを製作することができなかった。
彩色材料について	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴を十分に理解し、制作にそれを十分に活かすことができた。	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴を理解し、制作にそれを活かすことができた。	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴をほぼ理解し、制作にそれをほぼ活かすことができた。	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴をある程度理解し、制作にそれをある程度活かすことができた。	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴を理解することなく、制作にそれを活かすことができなかった。
描写について	モティーフの面やバルールをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法を十分に取り入れられた。	モティーフの面やバルールをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法を取り入れられた。	モティーフの面やバルールをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法をほぼ取り入れられた。	モティーフの面やバルールをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法をある程度取り入れられた。	モティーフの面やバルールをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法を取り入れられなかった。
自らについて	自らの感性や個性について十分に意識した制作を行えた。	自らの感性や個性について意識した制作を行えた。	自らの感性や個性についてほぼ意識した制作を行えた。	自らの感性や個性についてある程度意識した制作を行えた。	自らの感性や個性について意識した制作を行えなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	技法・材料研究 （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安田　祐造（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	２号館１階	
単位数	2	（単位認定責任者：　安田　祐造　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	50年近く画業に専念するなかで経験した課題を具体的に解説しながら指導に当たる。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照してください。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション、シラバスについて、授業改善アンケートについて、科目を俯瞰して『身に付く力』についての説明 公募展について　Ⅰ	予めシラバスに目をとおし、出品予定の公募展についても下調べをしておく。（４５分）	シラバスの中身に従い、自らの制作についての計画を立てる。（４５分）
2	オリエンテーション シラバスについて、公募展について　Ⅱ	自らの感性や表現の意図に相応しい公募展について下調べをしておく。（４５分）	どの公募展を目指すかを決め、新作のテーマやモティーフについて検討する。（４５分）
3	支持体製作　（支持体をどの様にどれだけの大きさのものにするかは任意選択） 様々の基底材の特徴について	自らの新作の構想をまとめるに当たり、十分に教師や他の学生の意見や助言を取り入れる。（４５分）	構想を取りまとめ下絵を作成する。（４５分）
4	支持体製作 布や紙の貼り方、基底材の組み立てと接合について	自らの作品の描法に相応しい支持体を検討する。（４５分）	ことに紙や布を使用する場合、満足のいかない状態にある場合は、手直しを行う。（４５分）
5	支持体製作 地塗り材の処方と地塗り作業について	描法に相応しい地塗り材を予め決める。（４５分）	支持体製作の進捗を確かめる。（４５分）
6	支持体製作 地塗り作業について	描法に相応しい地塗り材の塗り方を決める。（４５分）	構想を下絵としてまとめ上げる。（４５分）
7	支持体製作 地塗り面の研磨と仕上げについて	描法に相応しい地塗り面の仕上げ方について決める。（４５分）	下絵の転写の仕方について検討する。（４５分）
8	下絵の支持体への転写 その方法と転写作業について	下絵の転写の仕方について決める。（４５分）	次回からの彩色の仕方について計画を立てる。（４５分）
9	下描き（下描きの有無、その材料は任意選択） 描法に応じた様々な方法について　Ⅰ	各々の描法に応じた材料や用具を、各々自らが準備する。（４５分）	本時での制作を振り返り、進捗を確かめる。（４５分）
10	下描き 描法に応じた様々な方法について　Ⅱ	これまでの制作で、修正すべき点などを明らかにする。（４５分）	本時の制作を省みて、足りない点や過ぎた点についての修正を行う。（４５分）
11	本制作　A　（制作のための描法－技法－は任意選択） 大まかな色面把握について　Ⅰ	大まかな色面把握ということについて予習する。（４５分）	網部に捉われて基本的な骨格を見失っていないかを検討する。（４５分）
12	本制作　B 大まかな色面把握について　Ⅱ	足りない点や過ぎた点について検討する。（４５分）	他の学生の制作を参考として、自らの制作の進め方について検討する。（４５分）
13	本制作　C 大まかな色面把握　Ⅲ	明度、彩度、色相のそれぞれの差異に目をやり、自らの制作の進捗を検討する。（４５分）	本時の制作を省みて、足りない点や過ぎた点についての修正を行う。（４５分）
14	本制作　D 大まかな色面把握　Ⅳ	上描きを繰り返しながら制作を進めることを念頭に、初期段階から細部に捉われすぎないように注意する（４５分）	今一度、色の三属性のそれぞれの要素について大まかに捉えられているかを確かめ、必要に応じて修正を行う。（４５分）
15	本制作　E 上描きによる細部の表現について　Ⅰ	局部的に細密に描写するのではなく、常に全体的に、次第に細部に目をやるように注意する。（４５分）	全体に目をやり、全体的にかつ段階的に描き込みが行われているかを確認する。（４５分）
16	本制作　F 上描きによる細部の表現について　Ⅱ	色の三属性のそれぞれの要素は、周囲の色との関係から変化して見えることを再確認する。（４５分）	ことに、写実的な描写を行う場合には、まず明度について、構想したものとの間に隔たりが生じていないかを検討する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	本制作　G 上描きによる細部の表現について　Ⅲ	色の明度の観点から、足りない点や過ぎた点がないかを確認する。（４５分）	同様に、彩度や色相についても、周囲の色の影響も考慮し、構想したものとの間に隔たりが生じていないかを検討する。（４５分）
18	本制作　H 上描きによる細部の表現について　Ⅳ	過ぎた点については、必要に応じて、削ったり拭ったりして後戻りすることを検討する。（４５分）	削除したり加筆したりする場合、描画材料により、溶剤や用具について慎重に検討する。（４５分）
19	中間発表	これまでの自らの制作を振り返る。（４５分）	中間発表会で寄せられた他者の意見や助言や感想について取りまとめる。（４５分）
20	中間発表	他の学生の制作について、各々の感性や表現の仕方など、それぞれの良さを見つけ出すように努める。（４５分）	他者の意見や感想などを糧として、これからの制作の仕方について計画を立てる。（４５分）
21	本制作　I さらなる描き込みについて(質感表現を主に)　Ⅰ	ことに、明度に着目し、質感表現について検討する。（４５分）	明度差－コントラストーやタッチにより質感が変化することに着目して検討する。（４５分）
22	本制作　J さらなる描き込みについて(質感表現を主に)　Ⅱ	それぞれの色相の明度を見極めて、質感が十分に表現されつつあるかを検討する。（４５分）	色合いのある色面の明度について着目し、古今の作品などを参照する。（４５分）
23	本制作　K さらなる描き込みについて(陰影表現を主に)　Ⅲ	明部と暗部のそれぞれの明るさの差を見極められるように努める。（４５分）	次第に作品の構成要素が増加し複雑化するが、部分と部分だけでなく部分と全体との関係についても、隔たりが生じていないかを検討する。（４５分）
24	本制作　L さらなる描き込みについて(陰影表現を主に)　Ⅳ	確かな陰影表現により、空気感が表現できるように努める。（４５分）	陰影の部分と明部との関係について、明度だけでなく、彩度や色相についても検討する。（４５分）
25	本制作　M さらなる描き込みについて(色彩調和を主に)　Ⅳ	かたちや立体感などを追い求めるのと同時に、表現の意図に合った色彩調和について目をやる。（４５分）	美しい調和だけでなく、良い調和とはどういうことかについて検討する。（４５分）
26	本制作　N さらなる描き込みについて(色彩調和を主に)　Ⅳ	かたちを損なうことのないように色彩調和を求める。（４５分）	立体感や奥行き感を損なうことなく、色彩調和をはかるための要点は何かについて検討する。（４５分）
27	本制作　O 仕上げに向けて　Ⅰ	さらに全体を見渡して、部分どうしや全体とのバランスや調和について検討する。（４５分）	仕上げに向け、かたちや色についてだけでなく、質感の表現についても検討する。（４５分）
28	本制作　P 仕上げに向けて　Ⅱ	立体感や空気感が表現できているかを検討する。（４５分）	明部と暗部について、かたちや色彩調和を損なうことなく、足りない点や過ぎた点について修正を行う。（４５分）
29	本制作　Q 仕上げに向けて　Ⅲ	構想や表現の意図が作品に反映されているかの検討を行う。（４５分）	構想や表現の意図に照らし、的確な色彩表現が行えているかを検討する。（４５分）
30	本制作　R 仕上げに向けて　Ⅳ	色彩調和について、全体調整を行う。（４５分）	発表を前に、さらに全体に目をやり、自らの構想に照らし調整を行う。（４５分）
31	合評　A	これまでの制作活動を振り返り良い点や足りない点などについて検討する。(４５分)	他者の意見や助言や感想を参考とし、自らの作品についての自己評価を行う。（４５分）
32	合評　B　授業改善アンケートの実施、科目を修了して『身に付く力』についての検証、そしてこれまでの取り組みをもとに、今後の学生たちの制作や生き方にフィードバックさせる。	他者との感性や価値観の相違、多様性などを認め、社会生活のあり方についての考えをまとめる。（４５分）	合評会での他者の意見や助言を参考に今後の制作の仕方について検討する。(４５分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	器械運動 （科目ナンバリング：HSS522070　　）				
授業担当者 （所属・職名）	廣田　修平（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　廣田　修平　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	2014年以降、地域スポーツクラブにて児童・生徒に器械運動の指導を継続的に行なっている。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

自己の能力に適した課題をもって器械運動を行い、その技能を高め、技がよりよくできるような指導方法を身につけるため、器械運動の基礎技術の習得を目指す。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

当該種目の歴史・文化的に形成された意義や独自の技術、ルールを理解し、集団や社会に応じて実践できる力を養う。
各種目で修得した技術を発表する能力を養う。

授業全体の内容と概要

器械運動(マット、鉄棒、とび箱)で行われる基本技の技術構造を理解することで、自己の習熟度を高めるとともに、技の指導に関する基本的な知識を得る。また、新たな技を学習することによって「できないものができるようになる」ということの意義を再認識する。

授業の方法

授業は実技中心に行う。安全性を重視しながら基本技術を習得し、出来ない生徒への指導方法や補助方法についても学ぶ。また、レポート課題や中間課題評価や最終課題評価も実施する。中間課題評価や最終課題評価は、マット運動、鉄棒、跳び箱の実技を行う。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

運動のできる服装（上履き必須）。ピアス・ネックレス等は身に付けないこと。携帯電話は持ち込まないこと。
上記のことについて厳守。守れない学生は授業に参加できない。又、授業中の私語、迷惑行為、授業中断等の態度・行為「例えば、授業中に寝る・授業に関係のない行為、協調生に欠ける・授業に集中できない」このような学生は場合によっては退席させ、その時間の授業は欠席とみなします。トイレは授業前に済ませること。やむをえず退席を希望の場合は許可を得ること。許可なく授業途中の退席は欠席とみなす。点呼時に着席していない場合は遅刻とみなす。遅刻２回で一回の欠席とみなす。１０分以上の遅刻は欠席とみなす」但し、バスや列車が原因で遅れる場合は遅延証明書を提出すること。中間課題評価や各種目の最終課題評価は必ず受講すること。受講できない学生は、評価の対象となりません。課題提出を課された場合は期日厳守。病欠等の場合、診断書等を提出すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業回数の１１回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。
遅刻は１５分以上で欠席とみなす。遅刻２回で欠席１回とみなす。
授業に対する意欲・態度・技術の上達等を総合的に判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	０%	0%	30%	20%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
器械運動の基礎技術の習得	器械運動の基礎技術が優れたレベルで一通り身に付いた。	器械運動の基礎技術が、十分なレベルで一通り身に付いた。	器械運動の基礎技術が、自己の能力に適したレベルで身に付いた。	器械運動の基礎技術が、最低限度身に付いた。	器械運動の基礎技術が身に付かなかった。
技術習得に向けた思考力と実践力	技術習得の過程で、自ら試行錯誤し、実践できていた。また、周囲の学生に対しても自らの考えを助言や指導という形で表現できていた。	技術習得の過程で、自ら試行錯誤し、実践できていた。	技術習得の過程で、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	技術習得の過程で、考え方や解決に対する努力は認められるが、なかなか定着していなかった。	取り組みにおける考え方や努力が不十分であった。
授業に対する主体的な実践への取り組み	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け、実践力のある指導者としての自覚が出来上がりつつあった。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常にみられ、実践力を身に付けるための努力が窺えた。	不明点を質問するなど前向きな姿勢が窺えた。	不明点を質問したりすることは少ないなど、積極性に乏しく受動的であった。	自分から進んで授業に参加する姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	器械運動 （科目ナンバリング：HSS522070　　）				
授業担当者 （所属・職名）	廣田　修平（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　　廣田　修平　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	2014年以降、地域スポーツクラブにて児童・生徒に器械運動の指導を継続的に行なっている。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『マット運動』	金子明友	大修館書店	１９８２		
2	『鉄棒運動』	金子明友	大修館書店	１９８４		
3	『教師のための運動学』	金子明友ほか	大修館書店	１９９６		
4	『中学校学習指導要領解説　保健体育編』	文部科学省	東山書房	２０１７		
5	『高等学校学習指導要領解説　保健体育編』	文部科学省	東山書房	２０１８		

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス・シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明 授業全体の概要と授業のねらいを理解する。	シラバスを読んでおくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
2	マット運動　接転技群「前転」系の学習① ・マット運動の前転（開脚前転含む）に必要な基本技術を理解し、その技術を身につける。	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
3	マット運動　接転技群「前転」系の学習② ・マット運動の「前転」系の発展技である「伸膝前転」や「倒立前転」に必要な基本技術を理解し、その技術を身につける。	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
4	マット運動　接転技群「後転」系の学習① ・マット運動の後転に必要な基本技術を理解し、その技術を身につける。	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
5	マット運動　接転技群「後転」系の学習② ・マット運動の「後転」系の発展技である「伸膝後転」や「後転倒立」に必要な基本技術を理解し、その技術を身につける。	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
6	マット運動　「倒立」及び「側方倒立回転」の学習 ・マット運動の「倒立」及び「側方倒立回転」に必要な基本技術を理解し、その技術を身につける。	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
7	基本技の評価と教員採用模擬試験の練習① ・教員採用模擬試験を通して基本技術の確認を行う。	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
8	基本技の評価と教員採用模擬試験の練習② ・教員採用模擬試験を通して基本技術の確認を行う。	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
9	鉄棒運動　後方支持回転技群「後方支持回転」の学習 ・鉄棒運動の後方支持回転に必要な基本技術を理解し、その技術を身につける。	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
10	鉄棒運動　前方支持回転技群「前方支持回転」の学習 ・鉄棒運動の前方支持回転に必要な基本技術を理解し、その技術を身につける。	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
11	鉄棒運動　懸垂振動技の学習 ・鉄棒運動の懸垂振動技に必要な基本技術を理解し、その技術を身につける。	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
12	マット運動　発展技「前方倒立回転とび」　鉄棒運動　発展技「け上がり」の学習① ・マット運動「前方倒立回転とび」及び鉄棒運動「け上がり」に必要な基礎技能の理解とその習得。また少人数のグループで指導方法を検討・実施する。	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
13	マット運動　発展技「前方倒立回転とび」　鉄棒運動　発展技「け上がり」の学習② ・マット運動「前方倒立回転とび」及び鉄棒運動「け上がり」に必要な基礎技能の理解とその習得。また少人数のグループで指導方法を検討・実施する。	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
14	とび箱運動　切り返し系運動の学習 ・「開脚とび」などの切り返し系運動の基礎技能獲得と指導方法学習。	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
15	とび箱運動　回転系運動の学習 ・「台上前転」などの回転系運動の基礎技能獲得と指導方法学習。	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	講義全体をふりかえり、まとめておくこと（４５分）
16	最終まとめ、フィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問事項を整理しておくこと（９０分）	解説・フィードバックを受けて学習内容の理解を深めること（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	前期集中	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	自然地理学Ⅰ （科目ナンバリング：GGR122127, ）				
授業担当者 （所属・職名）	鈴木　正章（社会福祉学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階　非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　鈴木　正章　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

自然地理学の地理学における位置とその対象が地球の地表面の岩石圏・水圏・大気圏である。本講義では、地形学を中心に自然地理学の理解を深める。また、地表面を把握するためのツールとしての地形図を使った作業を通して地表空間の地形の理解し身に付け、すなわち地表面の凹凸がどのような成因で形成されるのか、その結果としてどのような地形が形成されるのかを理解することができる。

授業の位置づけ

社会福祉学科ののＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

地表空間にはどのよう地形が観られるのか、国土地理院発行の1：25,000の地形図の等高線から地形が判読できるようになる。また、その地形がどのような営力でできているのか理解できるようになる。

授業全体の内容と概要

自然地理学の地理学における位置、その系譜を講述し、地形図の作業を通して地表空間を理解する。また，地形の形成要因からどの結果としてどのような地形がつくられるのかを講述する。

授業の方法

①授業の具体的な形態：講義形式、②進行方法：おもにパワーポイントと板書、③使用する教材：配布資料及びビデオ、④課題に対する説明：地図作業を課題として予定しているので、赤色と青色の色鉛筆の用意、⑤要望への対応等：集中講義期間中随時対応します。　⑥不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①受講者数の制限：なし、②受講条件：なし、③履修上必要な知識・学力等：本学の学生であれば全て可、④遅刻・欠席等のルール等：クラブ等でやむ負えなく欠席する場合には、届けを出して承認を得ること、⑤受講の心構え：受講を集中講義であるため、日毎に出される課題を復習として着実に取組むこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(社会・地理歴史)必須科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１０回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	１５%	１５%	４０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
地形図の作業（谷・尾根線及び断面図の作成）を通して地表空間に展開する地形の理解	地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線を正確に記入ができ、地形断面図することができた。さらに、等高線から地形が読み取ることができた。	地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線を正確に記入ができ、地形断面図することができた。	地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線を正確に記入できた。	地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線を記入できた。	地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線を記入できなかった。
現在の地表空間に広がる地形がどのような営力で形成されてきたのか、その理解	地形を形成する営力について説明でき、さらにそれらの営力がどのような地形を形成するのか説明できた。なおかつそれぞれ地形が地表空間において理解でき、地図上で読図できた。	地形を形成する営力について説明でき、さらにそれらの営力がどのような地形を形成するのか説明できた。なおかつそれぞれ地形が地表空間において理解できた。	地形を形成する営力について説明でき、さらにそれらの営力がどのような地形を形成するのか説明できた。	地形を形成する営力について説明できた。	地形の形成する営力について説明できなかった。
人々の生活や生産活動の基盤になる地表空間にはどのような地形が分布し、それらの地形の形成過程や形成要因の理解	人々の生活や生産活動の基盤になっている地表空間がどのような地形や地盤でできているのか、それらの地形の空間的配置、形成過程及び形成要因を説明できた。	人々の生活や生産活動の基盤になっている地表空間がどのような地形や地盤でできているのか、それらの地形の空間的配置及び形成過程を説明できた。	人々の生活や生産活動の基盤になっている地表空間がどのような地形や地盤でできているのか、さらにそれらの地形の空間的配置が説明できた。	人々の生活や生産活動の基盤になっている地表空間がどのような地形や地盤でできているのかを説明できた。	人々の生活や生産活動の基盤になっている地表空間がどのような地形や地盤でできているのかを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	前期集中	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	自然地理学Ⅰ （科目ナンバリング：GGR122127, ）				
授業担当者 （所属・職名）	鈴木　正章（社会福祉学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階　非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　鈴木　正章　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『配布資料』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 講義内容と授業計画のガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明	本授業のシラバスの熟読しておくこと。（９０分）	地理学とはどのような学問なのかインターネットで調べてまとめる。（９０分）
2	地理学とその方法	地理学の系譜についてインターネットなどで調べておくこと。（９０分）	地理学と地図の歴史をまとめる。（９０分）
3	地形図の理解Ⅰ（道具としての地図の種類と用途）	身の回りにどのような地図があるのか調べてみる。（９０分）	地理調査に使用する地図にどのようなものがあるのかまとめる。（９０ 分）
4	地形図の理解Ⅱ（等高線から地形を読む）	国土地理院発行の地形図に盛り込まれている情報にどのようなものがあらかじめ確認しておくこと。（９０分）	地形図に盛り込まれている等高線からどのような地形を読み取れるか習熟すること。（９０分）
5	地形図の理解Ⅲ（谷尾根線や地形断面図の書き方）	地形図に含まれる高さ（標高）を表す地図記号を探しておくこと。（９０分）	地形図の等高線や高低差を表わす地図記号を読み断面図や谷尾根線が描けるよう練習しておくこと。（９０ 分）
6	地形を形成する営力Ⅰ	地形形成営力について調べておくこと。（９０分）	地形形成営力にはどのようなものがあるのか整理しておくこと。（９０分）
7	地形を形成する営力Ⅱ	マスムーブメントについて調べておくこと。（９０分）	マスムーブメントにはどのようなものがあるのか整理しておくこと。（９０分）
8	地形を形成する営力Ⅲ	河成作用について調べておくこと。（９０分）	河成作用について整理をしてまとめておくこと。（９０分）
9	地形を形成する営力Ⅳ	浸食輪廻とは何か調べておくこと。（９０分）	浸食輪廻のプロセスについて整理しておくこと。（９０分）
10	氷河地形	氷河の作用について調べておくこと。（９０分）	氷河の作用について調べておくこと。（９０分）
11	平野の地形Ⅰ（構造平野・ケスタ地形）	浸食平野のことについて調べておくこと。（９０分）	浸食平野についてまとめておくこと。（９０分）
12	平野の地形Ⅱ（丘陵・台地）	堆積平野のことについて調べておくこと。（９０分）	浸食平野と堆積平野の違について整理しておくこと。（９０分）
13	平野の地形Ⅲ（扇状地・氾濫原平野）	河川が形成する平野の地形について調べておくこと。（９０分）	河川が作る地形についてまとめておくこと。（９０分）
14	平野の地形Ⅳ（三角州・海岸地形）	海岸線で観られる平野の地形について調べておくこと。（９０分）	河口付近や海岸付近で観られる地形について調べておくこと。（９０分）
15	沖積平野の形成過程	氷河性海面変動と河岸段丘について調べて置くこと（９０分）	沖積平野の形成と過去の海面変化の関係について調べておくこと。（９０分）
16	まとめ及び講評 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 （まとめのテスト） 授業改善アンケートの実施	これまで授業のまとめをしてくこと。（９０分）	これまで授業のまとめをして整理しておくこと。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築積算 （科目ナンバリング：BSM324030　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐々木　哲之（建築学科・特任教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　佐々木　哲之　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計事務所に勤務していたころ，設計物件に対する積算業務を行っていた。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築積算は建築物を造るために必要な費用を算出し，かつ予測することにある。近年の建築をめぐる社会経済情勢の変化が激しい中，建築物のコスト管理はますます重要になっている。そこで国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「建築数量積算基準」，「建築工事内訳書標準書式」に基づく積算数量の正確な計算方法を習得する。

授業の位置づけ

建築学科のＤＰ３，ＤＰ４，ＤＰ５に対応する。

到達目標

建築投資のコスト面を支える建築積算の意義を知り，建築生産の中で，数量の算出がいかに重要な役割を担っているかを理解できる。さらに，建築数量積算基準を習得し建築資材などの数量算出と積算ができる。

授業全体の内容と概要

建築工事の各工法の理解度を高め，使用材料の数量積算を行う。現場で使われている道具，材料など細部にわたりプロジェクターなどにより説明を行う。建築産業を支える建築積算の意義と役割並びに建築工事費の構成を学ぶ。

授業の方法

テキストに加えて，プロジェクターによる画像，図表で解説するので，ノートに講義内容と資料を整理すること。また各単元ごとに演習課題出題し，提出してもらう。課題返却後，それを解説する。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施し，欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

講義にはテキスト，ノート，電卓は必ず持参し，講義内容と資料を整理すること。４回目以降は演習課題を実施し，課題提出の評価配分は高いので遅刻，欠席には注意すること。
３０分以上の遅刻は欠席とする。また，遅刻３回で欠席１回とみなすので注意すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	４０%	０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築積算に関わる基礎的知識について	知識を十分に習得しており，それを応用でき，説明・解説ができた。	知識を十分に習得しており，それを応用できた。	知識を十分に習得していた。	基礎的な知識を理解できていた。	基礎的な知識が不足していた。
土工事・地業工事の数量積算に関わる知識や計算について	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用でき，説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計算ができ，さらにそれを応用できた。	知識を習得して計算ができ，さらにそれを十分ではないが応用できた。	知識を習得して計算ができた。	知識が不足し計算ができなかった。
躯体工事の数量積算に関わる知識や計算について	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用でき，説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計算ができ，さらにそれを応用できた。	知識を習得して計算ができ，さらにそれを十分ではないが応用できた。	知識を習得して計算ができた。	知識が不足し計算ができなかった。
仕上げ工事の数量積算に関わる知識や計算について	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用でき，説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計算ができ，さらにそれを応用できた。	知識を習得して計算ができ，さらにそれを十分ではないが応用できた。	知識を習得して計算ができた。	知識が不足し計算ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築積算 （科目ナンバリング：BSM324030　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐々木　哲之（建築学科・特任教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　佐々木　哲之　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計事務所に勤務していたころ，設計物件に対する積算業務を行っていた。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『基準にもとづく建築積算入門』	赤堀弘	彰国社	2013	978-4-395-00921-3	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『建築数量積算基準・同解説』	日本建築積算協会	建築コスト管理システム研究所	2017	4-8028-8979-8	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して「身につく力」の説明　　建築産業を支える建築積算の意義と役割	シラバスにより次回の部分を予習すること（90分）	授業内容を復習すること（90分）
2	コストプランニング，コストコントロール，施工発注方式・請負契約	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分）
3	建築工事費の構成	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分）
4	積算数量：設計数量，所要数量，計画数量	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分）
5	建築数量積算基準―１　土工・地業の数量積算	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分）
6	建築数量積算基準―２　躯体の定義と区分，計測・計算の共通事項	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分）
7	建築数量積算基準―３　コンクリート・型枠の計測・計算	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分）
8	建築数量積算基準―４　コンクリート・型枠の計測・計算	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分）
9	建築数量積算基準―５　鉄筋の数量積	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分）
10	建築数量積算基準―６　鉄骨の数量積	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分）
11	建築数量積算基準―７　仕上げの定義と区分，計測・計算の共通事項	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分）
12	建築数量積算基準―８　仕上げ各部分の計測・計算	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分）
13	市場単価と分掛り単価事	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分）
14	科目別構成比と部分別構成比	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分）
15	事例分析：部分別数量と躯体の数量分析 授業改善アンケートの実施	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分）
16	定期試験（60分）及び解説（30分）をし，フィードバックする 科目を修了して「身につく力」についての検証	これまでの授業範囲を見直し予習すること（90分）	試験内容を振り返り，特に専門用語を復習すること（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・１年		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	陸上競技 （科目ナンバリング：HSS522071　　）				
授業担当者 （所属・職名）	戸佐　晃一（経営学科・特任教授）・石井　祐治（経営学科・特任講師）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　戸佐　晃一　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

記録の向上や競技の楽しさや喜びを味わい、各種目特有の技能を身につけることが出来るようにする。また、計画的な練習法や競技法を工夫できるようにするほか、競技会の企画・運営に関しても身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

陸上競技に自主的に取り組む。ルールやマナーを大切にする。自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫出来るようにする。

授業全体の内容と概要

陸上競技における走競技種目、躍競技、投てき競技種目の特性を理解し、基本的な技術を習得する。

授業の方法

陸上競技場を中心に授業を進める。陸上競技のＤＶＤを視聴することで競技の特性や特徴などの理解を深める。技能習得場面ではグループワークを通して課題の発見や指摘をし合い、ディスカッションではＩＣＴ機器の活用をするなどして正しい技術を習得できるように進めていく。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

注意事項及び詳細に関しては、7月中にガイダンスで説明。
大学近郊の陸上競技場を利用し、集中授業として実施予定。
怪我等で見学をする場合は診断書の提出をしてもらう場合もある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

１3回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	３０％	５０％	２０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
短距離競技の理解と実践	短距離競技の理解と実践が良くできた	短距離競技の理解と実践がほぼできた	短距離競技の理解と実践がある程度できた	短距離競技の理解と実践ができた	短距離競技の理解と実践ができなかった
跳躍競技の理解と実践	跳躍競技の理解と実践が良くできた	跳躍競技の理解と実践がほぼできた	跳躍競技の理解と実践がある程度できた	跳躍競技の理解と実践ができた	跳躍競技の理解と実践ができなかった
投てき競技の理解と実践	投てき競技の理解と実践が良くできた	投てき競技の理解と実践がほぼできた	投てき競技の理解と実践がある程度できた	投てき競技の理解と実践ができた	投てき競技の理解と実践ができなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・１年		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	陸上競技 （科目ナンバリング：HSS522071　　）				
授業担当者 （所属・職名）	戸佐　晃一（経営学科・特任教授）・石井　祐治（経営学科・特任講師）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　戸佐　晃一　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ステップアップ高校スポーツ2024』	荒木達雄他	大修館	２０２４	9784469365634	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身につく力」の説明） 授業改善アンケート結果反映の説明（戸佐　晃一）	事前にシラバスを読んで確認しておく（４５分）	ガイダンスの内容を理解しておく（４５分）
2	短距離走Ⅰ（戸佐　晃一）	短距離走の確認をしておく（４５分）	短距離走を理解しておく（４５分）
3	短距離走Ⅱ １００m走（各種スタート法と正しい走り方）　（石井　祐治）	短距離走の確認をしておく（４５分）	短距離走を理解しておく（４５分）
4	短距離走Ⅲ １００m走（スタートダッシュ・中間疾走・フィニッシュ・タイムトライアル）（石井　祐治）	短距離走の確認をしておく（４５分）	短距離走を理解しておく（４５分）
5	ハードル走Ⅰ （ハードリングとインターバル・安全配慮）　（戸佐　晃一）	ハードル走の確認をしておく（４５分）	ハードル走を理解しておく（４５分）
6	ハードル走Ⅱ （スターティングブロックを使用してのスタート、インターバル５歩走～３歩）（石井　祐治）	ハードル走の確認をしておく（４５分）	ハードル走を理解しておく（４５分）
7	ハードル走Ⅲ （タイムトライアル）（石井　祐治）	ハードル走の確認をしておく（４５分）	ハードル走を理解しておく（４５分）
8	跳躍競技Ⅰ （走り幅跳び：助走・歩数・踏切・安全配慮）　（戸佐　晃一）	跳躍競技の確認をしておく（４５分）	跳躍競技を理解しておく（４５分）
9	跳躍競技Ⅱ （走り高跳び：助走・歩数・踏切・安全配慮）　（戸佐　晃一）	跳躍競技の確認をしておく（４５分）	跳躍競技を理解しておく（４５分）
10	跳躍競技Ⅲ （走り幅跳び・高跳びトライアル） （石井　祐治）	跳躍競技の確認をしておく（４５分）	跳躍競技を理解しておく（４５分）
11	投てき競技Ⅰ （砲丸投げの基本動作、グライド、構えからつきだし・安全配慮）（戸佐　晃一）	投てき競技の確認をしておく（４５分）	投てき競技を理解しておく（４５分）
12	投てき競技Ⅱ （砲丸投げトライアル）（石井　祐治）	投てき競技の確認をしておく（４５分）	投てき競技を理解しておく（４５分）
13	リレー種目（バトンパスの方法とテークオーバーゾーンの走り方）（石井　祐治）	リレー競技の確認をしておく（４５分）	リレー競技を理（４５分）
14	リレー種目（４×１００mのタイムトライアル）　（石井　祐治）	リレー競技の確認をしておく（４５分）	リレー競技を理解しておく（４５分）
15	まとめ（競技会の企画・運営など）　（戸佐　晃一）	競技会の企画・運営などを確認しておく（４５分）	競技会の企画・運営などを理解（４５分）
16	フィードバック 科目を修了して「身につく力」の検証 授業改善アンケートの実施　（戸佐　晃一）	授業内容全体を振り返り確認しておく（４５分）	授業内容を理解しておく（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義,演習	必修・選択	選択
科目名称	施工管理技士演習Ⅱ （科目ナンバリング：SEM324059　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	１　（単位認定責任者：　小笠原　健　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士事務所ならびに特定建設業者である民間企業での勤務経験を活かし、実践的かつ現実的な講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

１級建築施工管理技士(学科)試験の合格に必要な知識を修得し、学科試験に合格できる学力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のＤＰ3、ＤＰ4，ＤＰ5に対応する。

到達目標

国家資格である「１級建築施工管理技士」の学科試験に合格できる学力を備えることができる。

授業全体の内容と概要

使用テキストに沿って「１級建築施工管理技士学科試験」項目の講義および演習問題の実施・解説を行い、建築施工管理について修得する。

授業の方法

授業は配布する各章の過去問題をテスト形式で実施し、次回にその解説を行う。事前学習と各章の小テストの解説によって理解を深める。
不測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎回の事前準備学習として教科書の読み込みを行い、当日の過去問題の小テストに備え、講義後はその復習に努めるものとする。
やむを得ない事情で欠席する場合には、必ず連絡をすることとし、無断欠席は認めないものとする。
この講座の履修条件として、施工管理技士演習Ⅰの講座を履修していることとする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上とし、定期試験にて成績評価を行う。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
１００%	０%	０%	０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
１級建築施工管理技士の学科試験に必要な知識を修得できる。	１級建築施工管理技士技士（学科）試験の合格に必要な知識を修得できていた。	１級建築施工管理技士（学科）試験の合格に必要な知識をおおむね修得できていた。	１級建築施工管理技士（学科）試験の合格に必要な知識を最低限修得できていた。	１級建築施工管理技士（学科）試験の合格に向けて取り組む意志があった。	１級建築施工管理管理技士（学科）試験の合格に必要な知識を修得できていなかった、または、取り組む意志がなかった。
共生社会の実現ならびに貢献できる人材として、建築の基礎力を養うことができる。	建築が社会で果たす役割を理解し、基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、ある程度の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、最低限の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解していた。	建築が社会で果たす役割を理解していなかった。
建築技術者としての問題意識を持ち、その問題解決の意識を持つことができる。	建築についての問題意識を持ち、問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、ある程度の問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、どのような問題が存在しているかを理解していた。	建築についての問題意識を持ち、問題解決の必要性を理解していた。	建築についての問題意識を持たなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義,演習	必修・選択	選択
科目名称	施工管理技士演習Ⅱ （科目ナンバリング：SEM324059　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1　（単位認定責任者：　小笠原　健　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士事務所ならびに特定建設業者である民間企業での勤務経験を活かし、実践的かつ現実的な講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『令和５年度　１級建築施工管理技士学科テキスト』		建築資料研究社	２０２３		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業の進め方について説明 授業改善アンケート結果に関する説明（小笠原　健）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
2	施工計画－問題・解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
3	施工管理・工程管理・品質管理１－問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
4	施工管理・工程管理・品質管理１－解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
5	品質管理２－問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
6	品質管理２－解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
7	安全管理・応用能力－問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
8	安全管理・応用能力－解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
9	法規１－問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
10	法規１－解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
11	法規２－問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
12	法規２－解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
13	模擬試験－問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
14	模擬試験－解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
15	定期試験－問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
16	定期試験－解説 授業に係る講評・解説によるフィードバック、授業改善アンケートの実施	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ （科目ナンバリング：SWS122030　　）				
授業担当者 （所属・職名）	・杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）・櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）・大島　康雄（社会	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2　（単位認定責任者：　大島　康雄　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	ソーシャルワーク、ケアワークの実務経験がある教員が実践現場の具体的事例を踏まえながら事前・事中・事後の実習指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードなどを参照すること				

概要

履修目標

ソーシャルワーク各領域（高齢、障がい、児童、地域・行政）の現場実習を通じて、ソーシャルワーク各領域における利用者理解、現場理解、職種理解、他職種・他機関との連携、地域における共生、今後の社会福祉行政の課題について学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

専門知識、相談援助技術及び関連知識を実際に活用し、福祉ニーズを抱える人々に対する相談援助業務に必要となる資質、技術、倫理、課題把握能力など、総合的なジェネリックソーシャルワークに対応できる能力を習得する。相談援助実習の事前訪問を含め、個別の実習計画を作成する。

授業全体の内容と概要

２年次において「相談援助実習指導Ⅰ・Ⅱ」及び「相談援助演習Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得し、実習生としてふさわしい態度と意欲のある学生（面接を行う）に対し、「相談援助実習指導Ⅲ・Ⅳ」及び「相談援助実習」は開講される。「相談援助実習指導Ⅲ・Ⅳ」と「相談援助実習」は３つの授業に分かれているが、一体のものと理解すべきである。「相談援助実習指導Ⅲ」は事前指導、「相談援助実習」は現場実習、「相談援助実習指導Ⅳ」は事後学習と考える。

授業の方法

高齢、障がい、児童、地域・行政の各々の実習領域に分かれて授業を展開する。授業内容は担当教員に一任されているが、各領域の職場・職種・ソーシャルワークについての事例・法規・制度が中心となり、使用する教材は各教員が用意する。年間を通しての課題として実習終了後のレポート提出、報告書の提出課題を義務付ける。学生の要望・課題には、可能な範囲で随時対応する。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各領域実習担当教員の指示を厳守すること。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程、スクール（学校）ソーシャルワーク資格課程、子育て支援ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	０%	０%	３０%	４０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
事前学習における各領域の利用者理解ができている。	実習領域の利用者の特性を説明でき、個々の利用者の自己実現に必要なＳＷの視点と連携について説明できる。	実習領域の利用者の特性を説明でき、個々の利用者の自己実現の視点を説明できる。	実習領域の利用者の特性について説明でき、且つ、それに必要なＳＷの視点を説明できる。	実習領域の利用者の特性について説明できる。	左記の内容が何一つできていない。
事前学習における実習領域の関係法規と制度の特徴が理解できている。	実習領域の関連法規と制度の特徴を説明でき、且つ、地域行政との関連をも説明できる。	実習領域の関連法規の特徴、及び関連制度について説明できる。	実習領域の関連法規と制度の関係を説明できる。	実習領域の関連法規を説明できる。	左記の内容が何一つできていない。
実習領域における具体的ソーシャルワーク技法を理解している。	実習領域におけるソーシャルワークの具体的技法を説明でき、それを実習中にどのように活用するかを説明でき、且つ、自分の実習計画に昇華できる。	実習領域におけるソーシャルワークの具体的技法（面接、記録、コミュニケーション、他職種連携、地域連携）が説明できる。	実習領域におけるソーシャルワークの具体的技法を説明でき、それを実習中にどのように活用するかを説明できる。	実習領域におけるソーシャルワーク技法のうち、利用者と具体的にかかわる技法を説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ実習指導Ⅱ （科目ナンバリング：SWS122030　　）				
授業担当者（所属・職名）	・杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）・櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）・大島　康雄（社会	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2　（単位認定責任者：　大島　康雄　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	ソーシャルワーク、ケアワークの実務経験がある教員が実践現場の具体的事例を踏まえながら事前・事中・事後の実習指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードなどを参照すること				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。授業改善アンケートの結果反映。 身につく力・・・各自が希望した実践実習領域に関する知識。	２年時の講義の復習（９０分）	配布プリントの読み込み（９０分）
2	事前学習（利用者理解②）	前回プリントの読み込み（９０分）	前回プリントの読み込み（９０分）
3	事前学習（利用者理解③）	前回プリントの読み込み（９０分）	前回プリントの読み込み（９０分）
4	事前学習（関連法規・制度理解①）	前回プリントの読み込み（９０分）	前回プリントの読み込み（９０分）
5	事前学習（関連法規・制度理解②）	前回プリントの読み込み（９０分）	前回プリントの読み込み（９０分）
6	事前学習（関連法規・制度理解③）	前回プリントの読み込み（９０分）	前回プリントの読み込み（９０分）
7	事前学習（ソーシャルワーク技法①）	前回プリントの読み込み（９０分）	前回プリントの読み込み（９０分）
8	事前学習（ソーシャルワーク技法②）	前回プリントの読み込み（９０分）	前回プリントの読み込み（９０分）
9	事前学習（ソーシャルワーク技法③）	前回プリントの読み込み（９０分）	前回プリントの読み込み（９０分）
10	事前学習（他職種・他機関連携①）	前回プリントの読み込み（９０分）	前回プリントの読み込み（９０分）
11	事前学習（他職種・他機関連携②）	前回プリントの読み込み（９０分）	前回プリントの読み込み（９０分）
12	事前学習（他職種・他機関連携③）	前回プリントの読み込み（９０分）	前回プリントの読み込み（９０分）
13	事前学習（地域連携①）	前回プリントの読み込み（９０分）	前回プリントの読み込み（９０分）
14	事前学習（地域連携②）	前回プリントの読み込み（９０分）	前回プリントの読み込み（９０分）
15	事前学習（地域連携③）	前回プリントの読み込み（９０分）	前回プリントの読み込み（９０分）
16	実習計画作成と修正 身につく力の検証・・・希望実習領域んと施設に関するレポート 添削、講評・評価・	前回プリントの読み込み（９０分）	前回プリントの読み込み（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技Ⅰ(ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ) （科目ナンバリング：HSS522073　　）				
授業担当者 （所属・職名）	天野　雅斗（経営学科・准教授）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	1　（単位認定責任者：　天野　雅斗　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、バレーボール教材を活用した教育方法について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学校教育においてバスケットボールを教材を扱うのに相応しい、態度・能力・指向性のある人材を目指す。そのため、授業において履修者自身のバスケットボールの上達はもちろんのこと、他者との関わり方や実施環境への配慮といった要素についても留意できるよう指導能力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP３、DP４、DP５に対応する科目。

到達目標

バスケットボールの基礎技術を履修者自身が習得する。競技の特性やルール、ゲームの作戦・攻防におけるチーム内の役割を説明できる。健康・安全に留意でき、適切な授業目標を設定し、達成させられるような教員としての指導能力を身につける。

授業全体の内容と概要

バスケットボールの基礎技術の習得及びゲームを中心に授業を進める。

授業の方法

基礎的練習およびゲーム等の中で、履修者自身がバスケットボールの基礎技術の習得・上達することを目標の中心に据えて授業を展開していく。その過程の中で、他者からの、また他者に対する指導や助言を経て、履修者自身による指導や授業実施へと結びつけられるようにする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

実技科目のため、運動できる服装および屋内履きを用意すること。
その他注意事項及び詳細に関しては、オリエンテーションで説明する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１１回以上。
授業に対する意欲・態度・技術の上達等を総合的に判定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
３０%	0%	0%	0%	６０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
バスケットボールの技術習得	バスケットボールの技術が高い水準で身に付き、ゲーム等、複合的な場面で十分発揮することができた。	バスケットボールの技術が高い水準で身に付き、練習といった基本的な場面で十分発揮することができた。	バスケットボールの技術が身に付いており、発揮できる場面もあった。	バスケットボールの技術が最低限度のレベルで身に付いている。	バスケットボールの技術が身に付かなかった。
役割の認識およびその展開	チームやグループにおいて、戦術的な提案や技術指導に関わる進言が、主体的にできた。	チームやグループにおいて、戦術的な提案や技術指導に関わる進言が出来る場面があった。	チームやグループにおける、戦術や技術についての発言に対し、自己の役割を認識した上で、意見を述べることができた。	チームやグループにおける役割や、戦術的な自己の働きを認識することができた。	チームや練習のグループ・ペアにおいて、役割を発揮することができなかった。
他者との主体的なコミュニケーション	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを常にとることができた。	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを十分にとることができた。	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを自らとることがあった。	他の履修者とコミュニケーションがとれた。	他の履修者と十分なコミュニケーションがとれなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技Ⅰ(ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ) （科目ナンバリング：HSS522073　　）				
授業担当者 （所属・職名）	天野　雅斗（経営学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1	（単位認定責任者：　　天野　雅斗　　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、バレーボール教材を活用した教育方法について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ステップアップ高校スポーツ』	大修館書店編集部	大修館	２０２４		
2	『ステップアップ中学体育２０２４』	大修館書店編集部	大修館	２０２１		
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） ガイダンス、レクリエーション 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認　（４５分）	ガイダンス内容の理解（４５分）
2	バスケットボールの構造把握・スキルチェック	基本技術の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
3	基本技術①　ドリブルシュート	基本技術の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
4	基本技術②　ジャンプシュート	基本技術の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
5	基本技術③　パス・コンビネーション	基本技術の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
6	オフェンス①　１対１での攻め方	習得した技術の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
7	オフェンス②　アウトナンバー	習得した技術の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
8	ディフェンス①　マンツーマンディフェンス	習得した技術の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
9	ディフェンス②　ゾーンディフェンス	習得した技術の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
10	戦術練習①　ハーフコートでの攻防	基本戦術の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
11	戦術練習②　オールコートでの５体５	基本戦術の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
12	ゲームにおける展開・戦術の組み立て	ゲーム展開の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
13	課題練習、ゲーム形式	ゲーム展開の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
14	課題練習、ゲーム形式	ゲーム展開の確認（４５分）	試験課題の確認（４５分）
15	実技試験	試験課題の確認（４５分）	試験の出来の　　振り返り（４５分）
16	まとめ 授業の講評をし、フィードバックする 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	授業全体の振り返り（４５分）	身に付いた事の確認（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技II(ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ) (科目ナンバリング：HSS522074　　)				
授業担当者 (所属・職名)	天野　雅斗（経営学科・准教授）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	1　(単位認定責任者：　天野　雅斗　)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、バレーボール教材を活用した教育方法について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学校教育においてバレーボール教材を扱うのに相応しい、態度・能力・嗜好性のある人材を目指す。授業において履修者自身のバレーボールの上達はもちろんのこと、他者との関わり方や実施環境への配慮といった要素についても留意できるよう指導能力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP３、DP４、DP５に対応する科目。

到達目標

バレーボールの基礎技術を履修者全員が習得する。競技の特性やルール、ゲームの作戦・攻防におけるチーム内の役割を説明できる。健康・安全に留意でき、適切な授業目標を設定し、達成させられるような教員としての指導能力を身につける。

授業全体の内容と概要

バレーボールの基礎技術の習得及びゲームを中心に授業を進める。

授業の方法

基礎的練習およびゲーム等の中で、履修者自身がバレーボールの基礎技術の習得・上達することを目標の中心に据えて授業を展開していく。その過程の中で、他者からの、また他者に対する指導や助言を経て、履修者自身による指導や授業実施へと結びつけられるようにする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

実技科目のため、運動できる服装および屋内履きを用意すること。その他注意事項および詳細に関しては、オリエンテーションで説明する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上。授業に対する意欲・態度・技術の上達等を総合的に判定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
30%	0%	0%	0%	60%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
バレーボールの技術習得	バレーボールの技術が高い水準で身につき、ゲーム等の複合的な場面で十分発揮することができた。	バレーボールの技術が高い水準で身につき、練習といった基本的な場面で十分発揮することができた。	バレーボールの技術が身についており、発揮できる場面もあった。	バレーボールの技術が最適限度のレベルで身についている。	バレーボールの技術が身につかなかった。
役割の認識およびその展開	チームやグループにおいて、戦術的な提案や技術指導に関わる進言が主体的にできた。	チームやグループにおいて、戦術的な提案や技術指導に関わる進言ができる場面があった。	チームやグループにおける、戦術や技術についての発言に対し、自己の役割を認識した上で、意見を述べることができた。	チームやグループにおける役割や、戦術的な自己の働きを認識することができた。	チームや練習のグループ・ペアにおいて、役割を発揮することができなかった。
他者との主体的なコミュニケーション	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを常にとることができた。	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを十分にとることができた。	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを自らとることがあった。	他の履修者とコミュニケーションがとれた。	他の履修者と十分なコミュニケーションがとれなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技Ⅱ(ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ) (科目ナンバリング：HSS522074　　)				
授業担当者 (所属・職名)	天野　雅斗（経営学科・准教授）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	1　(単位認定責任者：　天野　雅斗　)			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、バレーボール教材を活用した教育方法について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ステップアップ高校スポーツ』	大修館書店編集部	大修館書店	２０２４		
2	『ステップアップ中学体育２０２４』	大修館書店編集部	大修館書店	２０２１		
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）、ガイダンス、レクリエーション 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認（４５分）	ガイダンス内容の理解（４５分）
2	バレーボールの構造把握、スキルチェック	基本技術の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
3	基本技術① オーバーハンドパスの習得・指導	基本技術の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
4	基本技術② アンダーハンドパスの習得・指導	基本技術の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
5	基本技術③ ボールヒット（サーブ）の習得・指導	基本技術の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
6	基本技術④ スパイクの習得・指導	基本技術の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
7	応用技術① 実践的な場面におけるオーバーハンドパスの活用について	習得した技術の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
8	応用技術② アンダーハンドパスにおけるレセプション・ディグの実際	習得した技術の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
9	応用技術③ ブロックの習得・指導、ディフェンスにおけるチーム戦術の提示	基本戦術の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
10	バレーボールにおける複合的練習① オフェンス（コンビネーション攻撃）	基本戦術の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
11	バレーボールにおける複合的練習② ディフェンス（トータルディフェンス）	基本戦術の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
12	ゲームにおける展開・戦術の組み方	ゲーム展開の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
13	課題練習、ゲーム形式	ゲーム展開の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
14	課題練習、ゲーム形式	ゲーム展開の確認（４５分）	試験課題の確認（４５分）
15	実技試験	試験課題の確認（４５分）	試験の出来の振り返り（４５分）
16	まとめ 授業の講評をし、フィードバックする 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	授業全体の振り返り（４５分）	身についたことの確認（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	1		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	図学 （科目ナンバリング：AEA221141　　）				
授業担当者 （所属・職名）	赤木　良子（建築学科・准教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　赤木　良子　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計・インテリア実務設計経験 一級建築士、インテリアコーディネーター資格保有		
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。				

概要

履修目標

図学、つまり図形幾何学とは、3次元の立体を2次元の平面上に表現したり、2次元の平面情報から3次元の立体を再構成する技術である。 これは美術・デザインにおける表現手段の基礎的な技術の一つであり、製図の基礎として位置付けられる。 本実習ではこの表現技術について修得し、基本的な作図と立体表現ができるようになることを目標とする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

基礎的な立体と平面の関係性の把握。
作図に必要な道具を使って水平・垂直・長さ・線の太さ・破線等を美しく正確に作図表現できる。

授業全体の内容と概要

まずは基本となる図形の書き方を定規やコンパスなどを用いて描く。
製図の基本的な仕組みや、立体を平面上で表現する基礎的な方法を学び、自分なりの表現技術の基礎を作る。

授業の方法

教科書、補足資料、パワーポイント、板書などに内容に応じて用いる。
授業形態は講義および、講義に対応した課題をその場で実施する。
アクティブラーニングとしては、自身で課題を製作するため、それ自体がアクティブそのものである。
学生同士で相談などしても良い。
課題に対するフィードバックは適宜行う。
基本的に授業は対面で実施するが，不測の事態が起きた際に，授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

【必要な道具（以下）】各自で準備のこと。（推奨商品リストを配布します）
製図用シャープペンシル（芯の太さ0.5、濃さB以上推奨）必須。そのほか、0.3,0.7などの太さがあっても良い。
定規（15cm，できれば30cmも）、三角定規、三角スケール、コンパス、カッターナイフ、スケッチブック（クロッキー帳でも良い）
その他通常の文具。
正当な理由なき１０分以上の遅刻に関して、遅刻２回を１回欠席とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

１１回以上の出席と全課題作の完成・提出を必須とする。
（先述のように正当な理由なき１０分以上の遅刻に関して、遅刻２回を１回欠席とみなす。）

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基礎的な立体と平面の関係性の把握ができている。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
作図に必要な道具を的確に使うことができる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
基本的な図面の表現ができる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	1		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	図学 （科目ナンバリング：AEA221141　　）				
授業担当者 （所属・職名）	赤木　良子（建築学科・准教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2	（単位認定責任者：　　赤木　良子　　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計・インテリア実務設計経験 一級建築士、インテリアコーディネーター資格保有		
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『建築図法　立体・パース表現から設計製図へ』	佐藤健司	学芸出版社	2019	9784761527211	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス：シラバスの説明、「授業改善アンケート」結果反映の説明、授業の進め方、科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスを読んでおくこと（９０分）	課題の復習（９０分）
2	自己紹介作品	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
3	描画演習	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
4	課題１（装飾）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
5	課題１（装飾）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
6	課題２（装飾）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
7	課題２（装飾）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
8	中間講評によるフィードバック	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
9	課題３　立体表現１	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
10	課題３　立体表現１	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
11	課題４　立体表現２	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
12	課題４　立体表現２	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
13	課題５　立体表現３	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
14	課題５　立体表現３	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
15	課題５　立体表現３	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
16	総評によるフィードバック・授業評価アンケート 科目を修了して「身に付く力」についての検証	未提出課題等の仕上 （９０分）	全体の復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17		¥	
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技Ⅳ(ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ) (科目ナンバリング：HSS522076　　)				
授業担当者 (所属・職名)	米野　宏（経営学科・准教授）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	1　(単位認定責任者：　　米野　宏　　)			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	本授業の経験年数は５年以上となる。また、中学・高等学校の教員免許更新講習においてソフトボールの講習を担当した経験も活かし授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

ソフトボールの基礎からゲームに至るまでの技術や方法を実践し、競技特性やルールを学ぶ。また、中学・高等学校の体育実技に於いて、健康・安全に留意できる指導能力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

ソフトボールの基本技術や練習方法を学び、自主的にゲームが運営できるように導く。また、ゲームを通じてルールや審判法を習得する。

授業全体の内容と概要

前半は、ソフトボールの歴史や競技の特性を概説するとともに、攻撃や守備の基本動作の理論と練習方法を習得し、徐々に応用技術や実践的練習方法へと展開する。後半は試合形式の練習やゲームの中でルールや審判法も学ぶ。また、少人数での特殊なゲームも体験する。

授業の方法

ソフトボールの実技及びゲームは、野球場で行う。雨天時は、基本的に室内練習場で行うが、ビデオ視聴を利用する場合は、教室で実施する。
授業内での準備運動では不十分な場合は、早めに到着し、自主的に実施する。基本技術の習得には個人差が生じます。未熟な技術を自覚できた場合は、熟練者に手伝ってもらい、技術の向上に努める。　不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

ソフトボールまたは野球のユニホームを着用するのが望ましいが、屋外での運動にふさわしい物であれば構わない。金具の付いたスパイクシューズは危険なので使用禁止。ジョギングシューズで構わない。グローブは数に限りがあるので、できるだけ個人で用意するのが望ましい。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	３０％	６０％	１０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ルールと審判法の理解	ルールや審判法を熟知し、競技の特性や歴史的な知識も備わった。	ルールや審判法を熟知し、試合を進行させることができた。	ルールや審判法をある程度は知っていて、試合を進行させることができた。	ルールや審判法をある程度は知っているが、周りのアドバイスを受けながら試合を進行させることができた。	ルールや審判法をほとんど理解していなかった。
守備の基本技術と動きの理解	送球と捕球の基本動作に正確性とスピードがあり、理想的な動きを理解し、模範的な動きを示すことができた。	送球と捕球の基本動作に正確性とスピードがあり、理想的な動きを理解した。	送球と捕球の基本動作にやや正確性とスピードに欠けるが模範となる動きを理解できた。	基本動作にやや正確性とスピードに欠けるが正しい動きは理解できた。	基本動作の正しい動きを理解できなかった。
打撃の基本技術と攻撃の理解	打基本動作に充分な正確性と強さがあり、理想的な動きを理解し、模範的な動きを示すことができた。	打基本動作に正確性と強さがあり、理想的な動きを理解できた。	基本動作にやや正確性とスピードに欠けるが模範となる動きを理解できた。	基本動作にやや正確性とスピードに欠けるが正しい動きは理解できた。	基本動作の正しい動きを理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技IV(ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ) （科目ナンバリング：HSS522076　　）				
授業担当者 （所属・職名）	米野　宏（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1	（単位認定責任者：　　米野　宏　　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	本授業の経験年数は５年以上となる。また、中学・高等学校の教員免許更新講習においてソフトボールの講習を担当した経験も活かし授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） （授業改善アンケート結果反映の説明） ソフトボールの歴史	シラバスを読んで確認する。（４５分）	資料は保管し、ノートで確認する。（４５分）
2	基本技術（送球・捕球）	シラバスを確認し、準備をする。（４５分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（４５分）
3	基本技術（ゴロ捕球・飛球の捕球）	シラバスを確認し、準備をする。（４５分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（４５分）
4	基本技術（打撃）	シラバスを確認し、準備をする。（４５分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（４５分）
5	応用技術（攻撃・守備・走塁）	シラバスを確認し、準備をする。（４５分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（４５分）
6	戦術に関する理解と実践（攻撃、走塁）	シラバスを確認し、準備をする。（４５分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（４５分）
7	戦術に関する理解と実践（守備）	シラバスを確認し、準備をする。（４５分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（４５分）
8	審判法とゲームの進行（実技テスト兼ねる）	シラバスを確認し、準備をする。（４５分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（４５分）
9	審判法とゲームの進行（実技テスト兼ねる）	シラバスを確認し、準備をする。（４５分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（４５分）
10	審判法とゲームの進行（実技テスト兼ねる）	シラバスを確認し、準備をする。（４５分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（４５分）
11	審判法とゲームの進行（実技テスト兼ねる）	シラバスを確認し、準備をする。（４５分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（４５分）
12	多人数での実戦練習とゲームの工夫（１０人制のゲーム）	シラバスを確認し、準備をする。（４５分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（４５分）
13	多人数での実戦練習とゲームの工夫（１０人制のゲーム）	シラバスを確認し、準備をする。（４５分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（４５分）
14	少人数での実戦練習とゲームの工夫（６人制のゲーム）	シラバスを確認し、準備をする。（４５分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（４５分）
15	少人数での実戦練習とゲームの工夫（６人制のゲーム）	シラバスを確認し、準備をする。（４５分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（４５分）
16	ふりかえり、達成度のチェック 授業改善アンケートの実施 最終回において講評をし、フィードバックする 科目を修了して「身に付く力」についての検証	シラバスを確認し、準備をする。（４５分）	学んだことを再確認する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	造形論 （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	浩而　魅諭（デザイン学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　浩而　魅諭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	細密画家、復元画家（バレオアーティスト）、野生動物画家（ワイルドライフアーティスト）、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師が、その経験と実績を活かし、実践に即した授業を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が美術，デザインの専門家に必要な基礎的素養としての造形解釈について理解し、それを活かし自己表現を創造できる。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP１、DP３、DP４に対応する。

到達目標

学生が造形に対する感覚的、論理的理解ができ、それをレポートにまとめる事ができる。
学びを活かし、造形を意識した作品のエスキースを作る事ができる。
プレゼンテーションで自己の思いを他者に伝える事ができる。

授業全体の内容と概要

全16回の授業に於いて、芸術家（と作品）を4名紹介する。それらから学んだ気づきをまとめる課題。学びを活かしたエスキース作りの課題。講評会に於いてフィードバック。

授業の方法

授業は口頭、板書、DVDなど視聴覚を適宜用いて展開する講義形式。毎回の授業の要点を各自が自筆ノートにまとめる。課題としてレポート提出。
学生が、プレゼンテーションとしての口頭での発表。実技課題として各自が制作したエスキースの確認とアドバイスによる双方向授業を行う。
講評会、プレゼンテーションにおいてフィードバックとしてコメントをする。
不測時に於ける授業や補講などでオンラインによる授業を行う場合がある。但し、高等学校教諭一種免許状（工芸）の科目として履修している学生は除く。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

用具｛F6（A3)のスケッチブック、鉛筆、色鉛筆（またはインクマーカー）、ペン｝を毎時間持参。
準備学習・事後学習を必ず行う事。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（工芸）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	３０%	４０%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
主体性を持って協働して学修出来たか。	発言や態度、姿勢、レポートや課題全てにおいて主体性を持って協働して十分学修出来た。	発言や態度、姿勢、レポートや課題全てにおいて主体性を持って協働して学修出来た。	発言や態度、姿勢、レポートや課題全てにおいて主体性を持って協働してやや学修出来た。	発言や態度、姿勢、レポートや課題全てにおいて主体性を持って協働して最低限学修出来た。	発言や態度、姿勢、レポートや課題全てにおいて主体性を持って協働して学修出来なかった。
各回のテーマに対して対象としたものの解説と、エスキースの内容が充実している。	口頭での発表やレポート形式で記述で対象としたものが何であるのかの解説と、エスキースに自らの“発明”“発見”的な要素のある内容が含まれていることが、十分に目標に達成していた。	口頭での発表やレポート形式で記述で対象としたものが何であるのかの解説と、エスキースに自らの“発明”“発見”的な要素のある内容が含まれていることが、概ね出来ていた。	口頭での発表やレポート形式で記述で対象としたものが何であるのかの解説と、エスキースに自らの“発明”“発見”的な要素のある内容が含まれていることが、不十分ではあるが出来ていた。	口頭での発表やレポート形式で記述で対象としたものが何であるのかの解説と、エスキースに自らの“発明”“発見”的な要素のある内容が含まれていることが、最低限出来ていた。	口頭での発表やレポート形式で記述で対象としたものが何であるのかの解説と、エスキースに自らの“発明”“発見”的な要素のある内容が含まれていることが、全く出来ていなかった。
レポートとしての構成，内容，および、基本的な記述の形式が正しく表現されている。	特に、基本的な参考文献、図版出典の表記の方法が正しく表現されているかについて、十分に目標に達成していた。	特に、基本的な参考文献、図版出典の表記の方法が正しく表現されているかについて、概ね出来ていた。	特に、基本的な参考文献、図版出典の表記の方法が正しく表現されているかについて、不十分ではあるが出来ていた。	特に、基本的な参考文献、図版出典の表記の方法が正しく表現されているかについて、不十分ではあるが出来ていた。	特に、基本的な参考文献、図版出典の表記の方法が正しく表現されているかについて、全く出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	造形論 （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	浩而　魅論（デザイン学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　浩而　魅論　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	細密画家、復元画家（パレオアーティスト）、野生動物画家（ワイルドライフアーティスト）、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師が、その経験と実績を活かし、実践に即した授業を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス、授業の進め方、単位認定について、シラバスの説明、準備学習・事後学習について　当該科目を修了して身につく力について	シラバスの確認(90分)	自分の最も好きな形選択(90分)
2	造形とは　形とは　「自分の最も好きな形」の発表	自分の最も好きな形、なぜ惹かれるのかどこに惹かれるのかを考える(90分)	授業内容継続(90分)
3	造形とは　形とは　　ディスカッション	授業内容継続（90分）	授業内容継続(90分)
4	レオナルド・ダ・ヴィンチ１	授業内容継続（90分）	レオナルド・ダ・ヴィンチについて調べてまとめる（90分）
5	レオナルド・ダ・ヴィンチ２	授業内容継続　レオナルド・ダ・ヴィンチについて調べてまとめる（90分）	授業内容継続　レオナルド・ダ・ヴィンチについて調べてまとめる（90分）
6	レオナルド・ダ・ヴィンチ３	授業内容継続　レオナルド・ダ・ヴィンチについて調べてまとめる（90分）	授業内容継続　レオナルド・ダ・ヴィンチについて調べてまとめる（90分）
7	レオナルド・ダ・ヴィンチ４	授業内容継続　レオナルド・ダ・ヴィンチについて調べてまとめる（90分）	授業内容継続　レオナルド・ダ・ヴィンチについて調べてまとめる（90分）
8	レオナルド・ダ・ヴィンチ５　レポート作成	授業内容継続（90分）	授業内容継続（90分）
9	アントニ・ガウディ　レポート作成	授業内容継続　アントニ・ガウディにつて調べてまとめる（９０分）	授業内容継続　アントニ・ガウディにつて調べてまとめる（９０分）
10	エミール・ガレ　レポート作成	授業内容継続　エミール・ガレについて調べてまとめる（９０分）	授業内容継続　エミール・ガレについて調べてまとめる（９０分）
11	剣持勇　レポート作成	授業内容継続　剣持勇について調べてまとめる（９０分）	授業内容継続　剣持勇について調べてまとめる（９０分）
12	エスキース制作	造形について蓄積した知識を自らの作品に反映させる方法を考える（９０分）	授業内容継続（９０分）
13	エスキース制作	授業内容継続（９０分）	授業内容継続（９０分）
14	エスキース完成　プレゼンテーション資料作り	授業内容継続（９０分）	プレゼンテーションの準備（９０分）
15	講評会　（フィードバック）プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備（９０分）	プレゼンテーションの準備（９０分）
16	講評会（フィードバック）プレゼンテーション 授業改善アンケートの実施	プレゼンテーションの準備（９０分）	学んだことを振り返る（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの理論と方法(専門)Ⅳ （科目ナンバリング：SWS123041　　）				
授業担当者 （所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　西野　克俊　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

①精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を理解する。
②精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解する。
③精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解する。
④精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について理解する。
⑤個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をミクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解する。
⑥精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ3、ＤＰ4、ＤＰ5に対応する。

到達目標

ソーシャルワークの展開に必要な知識や手法等を理解する。

授業全体の内容と概要

①ソーシャルアドミニストレーション、コミュニティワークについて学ぶ。
②ソーシャルアクションについて学ぶ。
③各分野における精神保健福祉士の実践展開について学ぶ。
「SDG３．すべての人に健康と福祉を」の関連科目

授業の方法

①授業形態は講義形式で行う。
②テキスト及び配布資料を使用し、ポイントとすべき箇所は説明、板書を行う。
③質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。
④確認テストを実施し、解答回収後解説を行う。
⑤Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①教科書は必ず持参すること。
②必要な資料等は適宜配布する。
③２０分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。
④不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	０%	１０%	３０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識をおおむね理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できなかった。
思考力・考察力	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開についておおむね考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できなかった。
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことをおおむね説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの理論と方法(専門)Ⅳ （科目ナンバリング：SWS123041　　）				
授業担当者 （所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　西野　克俊　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ソーシャルワークの理論と方法［精神専門］』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版株式会社	２０２１	9784805882573	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映及び科目を終了して『身に付く力』についての説明 ソーシャルワークについて	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
2	コミュニティワークについて①（精神保健福祉分野におけるコミュニティワークの意義）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
3	コミュニティワークについて②（地域における精神保健福祉の向上）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
4	ソーシャルアクションについて①（基本的視点・体制整備）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
5	ソーシャルアクションについて②（政策提言・政策展開）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
6	多職種連携について①（意義・目的・留意点など）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
7	多職種連携について②（チームビルディング・チーム形態と特徴）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
8	多職種連携について③（連携における精神保健福祉士の役割）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
9	ソーシャルアドミニストレーションについて①（概念・意義）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
10	ソーシャルアドミニストレーションについて②（組織と精神保健福祉士の関係性）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
11	ソーシャルアドミニストレーションについて③（実践モデル・組織運営管理の実際）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
12	実践展開について①（学校・教育分野）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
13	実践展開について②（産業分野）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
14	実践展開について③（司法分野）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
15	実践展開について④（災害・その他）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
16	試験（６０分の試験終了後、３０分でフィードバックを行い、科目を修了して『身に付く力』についての検証） 授業評価アンケートの実施	試験のための学習（９０分）	試験の振り返りを行うこと（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｺﾝﾃﾝﾂﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ （科目ナンバリング：DES223050　　）				
授業担当者 （所属・職名）	上坂　恒章（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　上坂　恒章　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業のおけるコンピュータスキルの実務経験を活かし，実践的な授業に取り組む。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生がコンピュータを用いwebデザインの基礎の学び，表現手法を修得する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

Webプログラミングの基礎とコンテンツデザインの手法をマスターし，実際のコンテンツ制作の基礎，応用まで可能なスキルを修得することができる。

授業全体の内容と概要

コンセプト設定，情報の構造化，ページデザイン，インターフェース，画像処理手法等の講義とHTML，CSSのコーディングを学び，その成果を作品として制作し発表する。

授業の方法

授業では，テキスト及び配布したプリントの内容をプロジェクターにより投影し解説する。各項目ごとの課題に対してそれぞれが解決しながら学習する。提出された課題のプレゼンテーションを行い、評価をフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

「デジタルデザインⅠ、Ⅱ」の知識が必要なので、履修済みであること。
コンピュータを利用するため，遅刻・欠席すると次の授業の理解が厳しくなるので注意すること。
WEBデザイナー検定（CG-ARTS）の積極的な受検を推奨する。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施することができる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	５０％	２０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
インターネットやWebデザインに関する知識の理解	学習した内容から範囲を広げて、自ら学び、理解を深めていた。	学習した内容を理解していた。 検定に合格できるレベルに達している。	学習した内容を概ね理解していた。	学習した内容を最低限理解していた。	学習した内容を理解していなかった。
Webコーディングの理解	HTML5やCSS3を完全に理解し、自ら更に理解を深めていた。	HTML5やCSS3を理解し、検定に合格できるレベルに達している。	HTML5やCSS3をお概ね理解していた。	HTML5やCSS3を最低限理解していた。	HTML5やCSS3の理解できていなかった。
Webサイトの制作	学んだ知識、技術を更に深めて、意図したとおり、Ｗｅｂサイトを制作することができる。	Ｗｅｂサイトを制作することができる。	Ｗｅｂサイトを概ね制作することができた。	Ｗｅｂサイトを最低限制作することができた。	Ｗｅｂサイトを制作することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｺﾝﾃﾝﾂﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ （科目ナンバリング：DES223050　　）				
授業担当者 （所属・職名）	上坂　恒章（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　上坂　恒章　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業のおけるコンピュータスキルの実務経験を活かし，実践的な授業に取り組む。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『入門Webデザイン　第四版』	画像情報教育振興協会		2022	9784903474663	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ・シラバスの説明，コンテンツデザインとは 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスを読み、コンテンツの意味を調べておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
2	インターネットとWeb	テキストの該当部分読んでおくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
3	Webサイトのしくみ	テキストの該当部分読んでおくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
4	情報の構造化とアクセスルート，画面構成	テキストの該当部分読んでおくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
5	Webページを実現する技術の基礎（HTMLの基本構成）	プリントを予習すること（90分	授業の内容を復習すること（90分）
6	Webページを実現する技術の基礎（画像表示、リンク処理）	プリントを予習すること（90分	授業の内容を復習すること（90分）
7	Webページを実現する技術の基礎（表組処理）	プリントを予習すること（90分	授業の内容を復習すること（90分）
8	Webページを実現する技術の基礎（文字の装飾）	プリントを予習すること（90分	授業の内容を復習すること（90分）
9	コンセプトメイキング	テキストの該当部分読んでおくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
10	レイアウトデザイン	テキストの該当部分読んでおくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
11	オリジナルWeb制作　1	レイアウトのラフを完成させること（90分）	Web制作（90分）
12	オリジナルWeb制作　2	Web制作（90分）	Web制作（90分）
13	オリジナルWeb制作　3	Web制作（90分）	Web制作（90分）
14	オリジナルWeb制作　4	Web制作（90分）	Web制作（90分）
15	オリジナルWeb制作　5 プレゼンテーション	プレゼン用レジュメの準備をすること（90分）	フィードバックするので、自己評価をすること（90分）
16	作品講評 授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」についての検証	全授業の振り返りを行う（90分）	作品講評の内容を振り返り自己評価を行う（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	上坂　恒章（デザイン学科・非常勤講師 ）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	2　（単位認定責任者：　上坂　恒章　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業におけるコンピュータスキルの実務経験を活かし、実践的な授業に取り組む。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

コンピュータを用いてデザインの基礎の学び、表現手法を修得する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

Adobe社Illustratorを使用し、学生が作品制作のスキルを修得できる。

授業全体の内容と概要

基本機能からレイヤー、グラデーション、テキスト処理など、演習を通して学ぶ。

授業の方法

授業では，各ステップに渡った内容のプリントを配布し、PCの操作によりプロジェクターに投影し解説する。ステップごとの課題に対してそれぞれを解決しながら学習する。提出された課題をプレゼンテーションを通して評価しフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

デザイン学科デザイン専攻は推奨し、アート専攻のみ選択履修可能である。
積み重ねの学習となるため、欠席しないようにすること。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	５０％	３０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
PCの基本的操作スキル	パーソナルコンピュータ（PC)を、十分適切に使うことができ、更に学習を深めることができた。	パーソナルコンピュータ（PC)を、適切に使うことができた。	パーソナルコンピュータ（PC)を概ね使うことができた。	パーソナルコンピュータ（PC)を最低限使うことができた。	パーソナルコンピュータ（PC)を使うことができなかった。
ソフトウエアの操作スキル	学習したコンピュータソフトを十分使うことができ、応用することができる。	学習したコンピュータソフトを適切に使うことができた。	学習したコンピュータソフトを概ね使うことができた。	学習したコンピュータソフトを最低限使うことができた。	学習したコンピュータソフトを使うことができなかった。
学習したソフトを利用した作品の制作と表現	自分が表現したい作品を満足に制作でき、他者に十分伝えることができる作品となっている。	自分が表現したい作品を制作でき、他者に伝えることができる作品となっている。	自分が表現したい作品を概ね制作でき、他者に伝えることが概ねできる作品となっている。	自分が表現したい作品を最低限制作でき、他者に伝えるための最低限の作品となっている。	自分が表現したい作品を制作できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	上坂　恒章（デザイン学科・非常勤講師 ）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	2　（単位認定責任者：　上坂　恒章　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業におけるコンピュータスキルの実務経験を活かし、実践的な授業に取り組む。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『授業時に指示』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『入門CGデザイン』					
2	『Adobe　Illustrator　CC解説書』					
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 PC（Macintosh）の基本操作及画面の基本 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	PCについての語句を調べておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
2	アートボード及び図形、線の基本	プリントを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
3	ペンツールの修得	プリントを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
4	色彩基本、イラストレータの基本	プリントを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
5	パスファインダ、ブレンドについて	プリントを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
6	テキスト処理①	プリントを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
7	テキスト処理②	プリントを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
8	トリムマーク、紙面のデザイン	プリントを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
9	マップの作成	プリントを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
10	グラデーションの作成	下絵を完成させること（90分）	デジタル作品の制作を行うこと（90分）
11	デジタル作品の制作1	デジタル作品の制作を行うこと（90分）	デジタル作品の制作を行うこと（90分）
12	デジタル作品の制作2	デジタル作品の制作を行うこと（90分）	デジタル作品の制作を行うこと（90分）
13	デジタル作品の制作3	デジタル作品の制作を行うこと（90分）	デジタル作品の制作を行うこと（90分）
14	デジタル作品の制作4	デジタル作品の制作を行うこと（90分）	デジタル作品の制作を行うこと（90分）
15	プレゼンテーション	レジュメの準備をすること（90分）	フィードバックするので、自己評価をすること（90分）
16	作品返却　講評　まとめ 授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」についての検証	全授業の振り返りを行う（90分）	作品講評の内容を振り返り自己評価を行う（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科SP・３年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技VI(ｻｯｶｰ) (科目ナンバリング：HSS522078　　)				
授業担当者 (所属・職名)	木島　敦（経営学科・非常勤講師）　小助川　真木 （経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階スポーツ課		
単位数	1　(単位認定責任者：　木島　敦　)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	サッカー指導に関する経験・業績を有する教員が、その経験を基に実践的な授業を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、スポーツ課で対応。				

概要

履修目標

基本からゲームに至るまでの技術や方法を実践し、自らの技術向上のみならず作戦を生かした攻防を展開しゲームが出来るよう指導能力を身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

競技の特性やルールを学び理解するとともに、練習場などの安全を確かめ、健康・安全に留意できる教員としての指導能力をつける。

授業全体の内容と概要

サッカーの基礎技術の習得及びゲームを中心に授業を進める。

授業の方法

実技を中心とし競技の特性を生かしたグループワークから課題解決し（模擬授業を含む）、確認テスト等でより深くサッカー理解を深める。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①服装はトレーニングウエア等を着用。
②グランドでの実技はアップシューズで行う。
③雨天の場合は体育館で行う。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	３０%	２０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基本技術の理解と習得　ドリブル・パス・シュート・ヘディング・ボールコントロール	試合形式の中で高いレベルで正確にできた。	試合形式の中でおおむね正確にできた。	技術練習の中では一定的達成していた。	技術練習の中では達成していた。	技術練習の中でも達成していなかった。
個人戦術に関する理解と実践　守備・攻撃	試合形式の中でも高いレベルで理解できていた。	試合形式の中でもおおむね理解できていた。	導入練習の中ではおおむね理解できていた。	導入練習の中では一定的理解できていた。	導入練習の中でも理解できていなかった。
指導の実践	設定と導入が目標を越えたレベルを達成できた。	設定と導入が目標レベルをおおむね達成できた。	設定と導入が目標レベルを一定的達成できた。	設定と導入が理解できていた。	目標レベルを達成できていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科SP・３年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技VI(ｻｯｶｰ) (科目ナンバリング：HSS522078　　)				
授業担当者 (所属・職名)	木島　敦（経営学科・非常勤講師）　小助川　真木 （経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階スポーツ課	
単位数	1　(単位認定責任者：　木島　敦　)			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	サッカー指導に関する経験・業績を有する教員が、その経験を基に実践的な授業を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、スポーツ課で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） サッカーガイダンス　授業の進め方 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスの確認（４５分）	シラバスの再確認（４５分）
2	基本技術の理解と習得 ①ドリブル・パス	試合映像確認 （４５分）	ドリブル・パスの練習（４５分）
3	基本技術の理解と習得 ②シュート・ヘディング	試合映像の確認（４５分）	シュート・ヘディングの練習（４５分）
4	基本技術の理解と習得 ③ボールコントロール	試合映像の確認（４５分）	ボールコントロールの練習（４５分）
5	基本技術の確認	ドリブル・パス・ヘディングシュートボールコントロールの練習（４５分）	試合映像の確認（４５分）
6	応用技術の理解と習得	基本技術の確認練習（４５分）	応用技術の確認練習（４５分）
7	戦術に関する理解と実践 ①守備における基本と原則	試合映像の確認（４５分）	試合映像による守備における基本と原則の確認（４５分）
8	戦術に関する理解と実践 ②攻撃における基本と原則	試合映像の確認（４５分）	試合映像による攻撃における基本と原則の確認（４５分）
9	戦術に関する理解と実践 ③攻撃における戦術	試合映像の確認（４５分）	試合映像による守備・攻撃における戦術の確認（４５分）
10	レフリングとチーム運営	試合映像の確認（４５分）	試合映像によるレフリングとチーム運営の確認（４５分）
11	試合形式によるレフリーの実践	試合映像の確認（４５分）	試合映像によるレフリーの確認（４５分）
12	試合形式による基本・応用・戦術の理解と実践・守備	試合映像の確認（４５分）	試合映像の確認（４５分）
13	試合形式による基本・応用・戦術の理解と実践・攻撃	試合映像の確認（４５分）	試合映像の確認（４５分）
14	試合形式による基本・応用・戦術の理解と実践・守備と攻撃	試合映像の確認（４５分）	試合映像の確認（４５分）
15	試合	試合映像の確認（４５分）	試合映像の確認（４５分）
16	実技試験 フィードバック 授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」についての検証	基本・応用のトレーニング（４５分）	試合映像の確認（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｺﾝﾃﾝﾂﾃﾞｻﾞｲﾝ （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	堤　美穂子（デザイン学科・特任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　堤　美穂子　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験をもとに、社会や生活に役立つ広義のデザインについて指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

かたちのデザインのみならず、身近なモノやコトに込められた人間の意図を読み解き、社会のために役立つ、または自身の生活に役立つ広義のデザインを理解する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

デザインを人間の創意工夫として広く捉え、生活力・思考力・社会課題に向き合う力としてのデザインを獲得する。

授業全体の内容と概要

授業では、モノやコトにあるデザインの構造を分析しながら、目に見えない意図のデザインを発見する。次に、外的および内的な問題意識からはじまるデザインを学び、社会や自分の様々な問題にデザイン力をもって向き合うよう試みる。

授業の方法

最初、色や形・空間といったデザインに埋め込まれた「意図のデザイン」についてレクチャー。次に、かたちだけでなく、時間・記憶・コレクション・編集、コミュニケーション・ディレクション・言葉など、あらゆる「コト」に施されたデザイン性に気づき、広く社会でどのようにデザインが活用されているかについても見ていく。都度、ワークショップ形式で議論を行うことで、一人ひとりが身近な事象について思考をめぐらせ、知識化できるよう促す。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

自分および他者に敬意を払った態度で授業に臨む。他の学生とともに学ぶことへの責任を果たす。常に学ぶことを面白がろうと努力する。理解できなかったことがあれば、その場で積極的に質問する。
毎回授業後にリフレクションを提出（成績評価に反映）、次の授業までに教員からのフィードバックを読んでくる。
不測の事態が発生した際には、オンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	１００％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
「かたちのないデザイン」について理論を理解し、自分の身の回りのあらゆるモノやコトに埋め込まれた意図のデザインを自ら読み解くことができている。	理論を十分に理解し、自分の身の回りのあらゆるモノやコトに埋め込まれた意図のデザインを自ら読み解くことができた。	理論を十分に理解し、自分の身の回りのあらゆるモノやコトに埋め込まれた意図のデザインを学友とともに読み解くことができた。	理論を理解したが、自分の身の回りのあらゆるモノやコトに埋め込まれた意図のデザインを読み解くまでには至らなかった。	理論の理解が不十分で、自分の身の回りのあらゆるモノやコトに埋め込まれた意図のデザインを読み解くまでには至らなかった。	理論の理解ができず、自分の身の回りのあらゆるモノやコトに埋め込まれた意図のデザインを読み解くことができなかった。
「生活力としてのデザイン」について理論を十分に理解でき、社会や自分の周辺または自らに問いを見い出し、デザインでアプローチすることで、何らかの成果をあげられている。	理論を十分に理解でき、社会や自分の周辺または自らに問いを見い出し、デザインでアプローチすることで、何らかの成果があった。	理論を十分に理解でき、社会や自分の周辺または自らに問いを見い出し、デザインでアプローチすることができた。	理論を理解でき、社会や自分の周辺または自らに問いを見い出すことができた。	理論の理解が不十分で、社会や自分の周辺または自らに問いを見い出すまでには至らなかった。	理論を理解できず、社会や自分の周辺または自らに問いを見い出すこともできなかった。
ワークショップにおける気づき・他者の共感を得ようとする表現力が養われている。	自分が考えるかたちのないデザインについて積極的に発言し、自らの気づきを他者と共有することで、共感を得ることができた。	自分が考えるかたちのないデザインについて発言し、自らの気づきを他者と共有することで、理解を得ることができた。	自分が考えるかたちのないデザインについて発言し、自ら気づきを得ることができた。	自分が考えるかたちのないデザインについて発言したが、自ら気づきを得ることはできなかった。	自分が考えるかたちのないデザインについて発言できず、自ら気づきを得ることもできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｺﾝﾃﾝﾂﾃﾞｻﾞｲﾝ （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	堤　美穂子（デザイン学科・特任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　堤　美穂子　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験をもとに、社会や生活に役立つ広義のデザインについて指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『芸術教養シリーズ18 時間のデザイン―経験に埋め込まれた構造を読み解く』	中西 紹一	幻冬舎	2014		
2	『芸術教養シリーズ20 編集学―つなげる思考・発見の技法』	紫牟田伸子	幻冬舎	2014		
3	『コミュニティデザイン』	山崎亮	学芸出版社	2011		
4	『文化とコミュニケーション　構造人類学入門』	エドマンド・リーチ	紀伊國屋書店	1981		
5	『幸福を見つめるコピー完全版』	岩崎俊一	東急エージェンシー	2018		

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス～シラバスの説明 「モノに埋め込まれたデザインの意図を読み解く」 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスを一読し、身近なモノのデザインをじっくり見ることを試みる（45分）	シラバスを一読し、身近なモノのデザインをじっくり見ることを試みる（45分）
2	「モノに埋め込まれたデザインの意図を読み解く」 事例・グループ分け・ワークショップ・発表	シラバスを一読し、身近なモノのデザインをじっくり見ることを試みる（45分）	リフレクションの記載。授業の内容を復習すること（45分）
3	「かたちのないデザイン」① 関係のデザイン（企業ブランディングを例に）	フィードバックの確認。身近なモノ・コトのデザインをじっくり見て自分なりの考えを持つよう心がける（45分）	授業の内容を復習すること（45分）
4	「かたちのないデザイン」①身近な関係のデザイン グループ分け・ワークショップ・発表	身近なモノ・コトのデザインをじっくり見て自分なりの考えを持つよう心がける（45分）	リフレクションの記載。授業の内容を復習すること（45分）
5	「かたちのないデザイン」② 時間・記憶のデザイン（伝統行事・イベント）	フィードバックの確認。身近なモノ・コトのデザインをじっくり見て自分なりの考えを持つよう心がける（45分）	授業の内容を復習すること（45分）
6	「かたちのないデザイン」②身近な時間・記憶のデザイン グループ分け・ワークショップ・発表	身近なモノ・コトのデザインをじっくり見て自分なりの考えを持つよう心がける（45分）	リフレクションの記載。授業の内容を復習すること（45分）
7	「かたちのないデザイン」③ コレクター・ディレクター（蒐集・編集・制作指揮・人と人をつなぐ）	フィードバックの確認。身近なモノ・コトのデザインをじっくり見て自分なりの考えを持つよう心がける（45分）	授業の内容を復習すること（45分）
8	「かたちのないデザイン」③身近なコレクション・ディレクション グループ分け・ワークショップ・発表	身近なモノ・コトのデザインをじっくり見て自分なりの考えを持つよう心がける（45分）	リフレクションの記載。授業の内容を復習すること（45分）
9	「かたちのないデザイン」④ 言葉（コピーライティング）を例に）	フィードバックの確認。身近なモノ・コトのデザインをじっくり見て自分なりの考えを持つよう心がける（45分）	授業の内容を復習すること（45分）
10	「かたちのないデザイン」④炎上する言葉 グループ分け・ワークショップ・発表	身近なモノ・コトのデザインをじっくり見て自分なりの考えを持つよう心がける（45分）	リフレクションの記載。授業の内容を復習すること（45分）
11	「社会課題とデザイン」 （コミュニティデザイン事例）	フィードバックの確認。自分が日頃感じている世の中に関する違和感を見つけてくる（45分）	授業の内容を復習すること（45分）
12	「社会課題とデザイン」 身近な社会課題の発見とデザインの可能性 グループ分け・ワークショップ・発表	自分が日頃感じている世の中に関する違和感を見つけてくる（45分）	リフレクションの記載。授業の内容を復習すること（45分）
13	「自分の内面の課題とライフデザイン」 （ライフデザイン事例）	フィードバックの確認。自分がなりたい未来をめざすとき課題となりそうな自分の特性について考えてくる（45分）	授業の内容を復習すること（45分）
14	「自分の内面の課題とライフデザイン」 自分の内面的な課題とデザインの可能性 ペアリング・1対1で議論・発表	自分がなりたい未来をめざすとき課題となりそうな自分の特性について考えてくる（45分）	リフレクションの記載。授業の内容を復習すること（45分）
15	「自分の内面の課題とライフデザイン」 個人発表(全2シート（シート1/自分の課題、シート2/課題に対してデザインで導き出した解)	フィードバックの確認。自分の課題について発表用の資料を準備する（45分）	授業の内容を復習すること（45分）
16	講評～フィードバック 授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」についての検証	自分の課題について発表用の資料を準備する（45分）	リフレクションの記載。授業全体を振り返ること（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助演習Ⅰ （科目ナンバリング：SWS122044　　）				
授業担当者 （所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）、大島　康雄（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　　上原　正希　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

１．精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。
２．精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。
３．精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。
４．精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。
５．精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ3、ＤＰ4、ＤＰ5に対応する。

到達目標

１．ソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。
２．精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。

授業全体の内容と概要

１、２年次のソーシャルワーク演習で学んできた、自己覚知（自己理解と他者理解）、基本的なコミュニケーション技術（言語的技術（質問、促し、言い換え、感情の反映、繰り返し、要約等）、非言語技術(表情、態度、身振り、位置取り等）、基本的な面接技術（面接の構造化、場の設定(面接室、生活場面、自宅等)、ツールの活用（電話、e-mail 等））、ソーシャルワークの展開過程（ケースの発見、インテーク・アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケア）、ソーシャルワークの記録（支援経過の把握と管理）、グループダイナミクスの活用（グループワークの構成(グループリーダー・コリーダー・グループメンバー）、グループワークの展開過程(準備期・開始期・作業期・終結期）、プレゼンテーション技術（個人プレゼンテーション、グループプレゼンテーション）について、精神保健福祉分野の教材を活用して復習する。
「SDG3. すべての人に健康と福祉を」の関連授業。

授業の方法

１．個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を中心とする演習形態により行う。
２．教科書および配布資料を使用し、ポイントとなるべき箇所は説明、板書を行う。
３．質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。
４．Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１．教科書は毎回持参すること。
２．演習は、自分で考え実践すること、また、仲間と協同して取り組むことが重要であることから、積極的な発言や参加を求める。
３．講義、演習を含めた形態とするが、施設見学や外部講師等による講義等も実施予定である。学生である前提に社会人としてのマナーを意識し、日頃の自らの言動に気を付けて行動すること。
４．不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は１１回以上。成績は、レポート（５０点）、平常点（５０点）で総合して評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
①精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎について具体的	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎についておむ	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎につい	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎につい	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎について関係するキーワードを理解しておらず、
②精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるように具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようにおおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようにおおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようにおおむね具体的に説明・記述できた。	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できることについて関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
③精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるように具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようにおおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるように具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようにおおむね具体的に説明・記述できた。	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようにおおむね具体的に説明・記述できず、説明・記述が不十分だった。
④精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるよ	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかけ	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかけ	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民に	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民に
⑤精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。	関係するキーワードを用いて精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義についておおむね具体的に説明・記述できた。	精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助演習Ⅰ （科目ナンバリング：SWS122044　　）				
授業担当者 （所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）、大島　康雄（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　　上原　正希　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ソーシャルワーク演習【精神専門】』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	２０２１	978-4-8058-8258-0	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション、シラバスの説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	本演習で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
2	自己覚知（自己理解と他者理解）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
3	基本的なコミュニケーション技術①（言語的技術（質問、促し、言い換え、感情の反映、繰り返し、要約等）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
4	基本的なコミュニケーション技術②（非言語技術(表情、態度、身振り、位置取り等）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
5	基本的な面接技術①（面接の構造化）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
6	基本的な面接技術②（場の設定(面接室、生活場面、自宅等)）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
7	基本的な面接技術③（ツールの活用（電話、e-mail 等））	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
8	ソーシャルワークの展開過程①（講義）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
9	ソーシャルワークの展開過程②（事例検討：医療）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
10	ソーシャルワークの展開過程③（事例検討：地域）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
11	ソーシャルワークの記録①（講義）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
12	ソーシャルワークの記録②（実習日誌の作成）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
13	グループダイナミクスの活用①（グループワークの構成(グループリーダー・コリーダー・グループメンバー））	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
14	グループダイナミクスの活用②（グループワークの展開過程(準備期・開始期・作業期・終結期））	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
15	プレゼンテーション技術（個人プレゼンテーション、グループプレゼンテーション）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
16	授業改善アンケートの実施 まとめ 授業全体の解説 科目を修了して『身に付く力』についての検証 授業全体のフィードバック	１５回分の内容を復習する。 科目が修了するにあたり『身に付く力』について自分で検証をしておくこと(９０分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。 科目が修了して『身に付く力』について自分で振り返ること(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾋﾞｼﾞﾈｽﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ論 （科目ナンバリング：MAN424016，MAN524018　　）				
授業担当者 （所属・職名）	猪尾　紀幸（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　猪尾　紀幸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	中小零細企業への経営コンサルティングを実施している経営の専門家として、ビジネスプランにおける市場性と実現性を重視した実践的な講義を展開する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応				

概要

履修目標

本講義は、学生が経営における専門知識を広範に活用して創業計画を作成することを目的としている。

授業の位置づけ

経営学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

本講義は、①事業計画の重要性を理解する。②企業（経営者）がとるべき戦略について理解する。③経営に関する専門用語についての意味や概念を理解する。以上の３つを理解した上で、創業計画書を作成することができることを到達目標としている。科目を修了して、自分で事業を起こすために必要なことを身に付けることを期待する。

授業全体の内容と概要

本講義は、創業計画書の作成を通して、事業コンセプト、企業理念、ビジョン、ビジネスモデル、ターゲット、市場の概念、マーケティングなど、事業計画の重要性と事業計画策定の肝を学ぶ。講義の後半は、創業計画の作成に傾注し、最終的には、ビジネスプランをプレゼンテーションしてもらい評価とする。

授業の方法

本講義の前半は、パワーポイント及び配布物資料で講義を進める。１枚のパワーポイントを掲示して、一連の解説が終了した後、一定の時間、学生がノートを書く時間を取る。講義の後半は、アクティブラーニングを活用し、講師とディスカッションしながら、創業計画を作成してもらう。最終的には、創業計画の内容をパワーポイントを使いプレゼンテーションする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

本講義は、積極的に経営を学びたいという意欲ある学生の受講を期待する。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（商業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。
課題（創業計画）を提出した学生。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
創業計画書の作成に対応した文章表現力	創業計画書の各項目に対して、自分で調べた内容がわかりやすく書かれていた。	創業計画書の各項目に対して、自分で調べた内容が書かれていた。	創業計画書の各項目に対応する内容が書かれていた。	創業計画書の内容が最低限、読み手に伝わた。	創業計画書の内容が読み手に伝わらなかった。
創業計画書に対応したプレゼンテーション力	ビジネスプランの内容をについて、身振り手振りを加え、制限時間内に相手に伝わる発表ができた。	ビジネスプランの内容を聞きやすい言葉で制限時間内に発表することができた。	ビジネスプランの内容を時間内に発表することができた。	最低限、ビジネスプランの内容を発表することができた。	そもそも人前で発表ができなかった。
創業計画における総合的な実現性	オリジナリティがあり、戦略、財務計画までもが現実的な内容であった。	ある程度、オリジナリティのあるビジネスで市場性が高かった。	既存のビジネスに追従しつつも、差別化戦略が明確であった。	既存のビジネスに追従する内容でああった。	創業計画書が完成していなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾋﾞｼﾞﾈｽﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ論 （科目ナンバリング：MAN424016，MAN524018　　）				
授業担当者 （所属・職名）	猪尾　紀幸（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　猪尾　紀幸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	中小零細企業への経営コンサルティングを実施している経営の専門家として、ビジネスプランにおける市場性と実現性を重視した実践的な講義を展開する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ＭＢＡビジネスプラン』	グロービズ経営大学院	ダイヤモンド社	2010年	9784478014745	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明（講義全体の概要，講義のやり方，評価方法,科目を修了して「身に付く力」の説明含む）、授業改善アンケート結果反映の説明	必ずシラバスを読んでから，初回ガイダンスを受講すること。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
2	起業・創業とはどういうことか？　ビジネスプラン　キャリアプランの意味	起業家と呼ばれる人材を事前に調べること。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
3	創業・事業計画のから何がわかるのか？　何のために計画を策定するのか？	創業者・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
4	企業理念、ビジョンとは？　端的な言葉が人を動かす	創業者・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
5	市場と顧客の概念、ターゲットとは？	創業者・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
6	ビジネスモデルと業態　どんな儲け方をするのか？	創業者・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
7	マーケティングの基本的な考え方	創業者・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
8	マーケティング分析のフレームワーク（４Ｐ、３Ｃ分析など）	創業者・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
9	マーケティング分析のフレームワーク（ＳＷＯＴ分析、ＳＴＰ分析など）	創業者・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
10	ビジネスプラン作成【ビジョン・コンセプトの設定】	自分の作成するビジネスプランを決めること。（９０分）	ビジネスモデルを考え創業計画書を作成する。（９０分）
11	ビジネスプラン作成【ターゲット・商品の設定】	自分の作成するビジネスプランを決めること。（９０分）	ビジネスモデルを考え創業計画書を作成する。（９０分）
12	ビジネスプラン作成【営業戦略を考える―販路・販売手法―】	ビジネスモデルを考え創業計画書を作成する。（９０分）	ビジネスモデルを考え創業計画書を作成する。（９０分）
13	ビジネスプラン作成【運営組織・生産体制を考える】	ビジネスモデルを考え創業計画書を作成する。（９０分）	ビジネスモデルを考え創業計画書を作成する。（９０分）
14	ビジネスプラン作成【損益計算書・資金繰り計画】	ビジネスモデルを考え創業計画書を作成する。（９０分）	ビジネスモデルを考え創業計画書を作成する。（９０分）
15	プレゼンテーションの基本　伝えるではなく→伝わることの重要性	プレゼンテーションの準備をする。（９０分）	ビジネスモデルを考え創業計画書を作成する。（９０分）
16	ビジネスプランのプレゼンテーションの後、講評してフィードバックする。課題提出、授業改善アンケートの実施。科目を修了して、「身に付く力」の検証	プレゼンテーションの準備をする。（９０分）	フィードバックを受けて自分のビジネスプランを見直す。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助演習Ⅱ （科目ナンバリング：SWS122045　　）				
授業担当者 （所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）、大島　康雄（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　　上原　正希　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

１．精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。
２．精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。
３．精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。
４．精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。
５．精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ３、ＤＰ4、ＤＰ5に対応する。

到達目標

１．ソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。
２．精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。

授業全体の内容と概要

ソーシャルワーク演習を踏まえ、精神保健福祉士による実践の専門性を習得するために、事例検討を中心に進める。具体的には、事例に登場する精神保健福祉士が勤める職場と支援対象となるクライエントを理解したうえで、問題の発生経過や支援経過をたどりながら、自分が精神保健福祉士として支援する立場になった時の状況をどう捉え、どのような社会資源を活用しながら支援を展開していくのか、個人ワークやグループワークを通して検討を行う。
「SDG3．すべての人に健康と福祉を」の関連授業。

授業の方法

１．個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を中心とする演習形態により行う。
２．教科書および配布資料を使用し、ポイントとなるべき箇所は説明、板書を行う。
３．質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。
４．Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１．教科書は毎回持参すること。
２．演習は、自分で考え実践すること、また、仲間と協同して取り組むことが重要であることから、積極的な発言や参加を求める。
３．講義、演習を含めた形態とするが、施設見学や外部講師等による講義等も実施予定である。学生である前提に社会人としてのマナーを意識し、日頃の自らの言動に気を付けて行動すること。
４．不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は１１回以上。成績は、レポート（５０点）、平常点（５０点）で総合して評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
①精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎について具体的	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望をの的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎についておむ	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望をの的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎につい	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望をの的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎につい	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望をの的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎について関係するキーワードを理解しておらず、
②精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるように具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようにおおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようにおおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようにおおむね具体的に説明・記述できた。	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できることについて関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
③精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるように具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようにおおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるように具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようにおおむね具体的に説明・記述できた。	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようにおおむね具体的に説明・記述できた。
④精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるよ	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかけ	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかけ	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民に	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民に
⑤精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。	関係するキーワードを用いて精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義についておおむね具体的に説明・記述できた。	精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助演習Ⅱ （科目ナンバリング：SWS122045　　）				
授業担当者 （所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）、大島　康雄（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　　上原　正希　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ソーシャルワーク演習【精神専門】』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	２０２１	978-4-8058-8258-0	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション、シラバスの説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	本演習で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
2	ソーシャルワークの課題を通じた演習①（個人に対する相談援助の理解）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
3	ソーシャルワークの課題を通じた演習②（グループにおける相談援助の理解）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
4	ソーシャルワークの課題を通じた演習③（コミュニティソーシャルワークの理解）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
5	支援の場に応じた相談援助の理解①（精神科医療機関）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
6	支援の場に応じた相談援助の理解②（精神科医療機関）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
7	支援の場に応じた相談援助の理解③（精神科医療機関）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
8	支援の場に応じた相談援助の理解④（障害福祉サービス事業所）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
9	支援の場に応じた相談援助の理解⑤（障害福祉サービス事業所）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
10	支援の場に応じた相談援助の理解⑥（障害福祉サービス事業所）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
11	支援の場に応じた相談援助の理解⑦（行政機関）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
12	支援の場に応じた相談援助の理解⑧（行政機関）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
13	支援の場に応じた相談援助の理解⑨（教育機関）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
14	支援の場に応じた相談援助の理解⑩（司法）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
15	支援の場に応じた相談援助の理解⑪（産業・労働）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
16	授業改善アンケートの実施 まとめ 授業の解説 授業全体のフィードバック 科目を修了して『身に付く力』についての検証	１５回分の内容を復習する。 科目が修了するにあたり『身に付く力』について自分で検証をしておくこと（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。 科目が修了して『身に付く力』について自分で振り返ること（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助実習Ⅰ （科目ナンバリング：SWS123050　　）				
授業担当者 （所属・職名）	大島　康雄（社会福祉学科・准教授）、西野　克俊（社会福祉学科・准教授）、畠山　明子（社会福祉	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2　（単位認定責任者：　西野　克俊　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実践経験がある教員がその経験を活かして、基礎能力・技術等を実践的に指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

① ソーシャルワーク実習を通して、精神保健福祉士としてのソーシャルに係る専門的知識と技術の理解に基づき精神保健福祉現場での試行と省察の反復により実践的な技術等を体得する。
② 精神疾患や精神障害、メンタルヘルスの課題をもつ人びとのおかれている現状に関する知識をもとに、その生活実態や生活上の課題についてソーシャルワーク実習を行う実習先において調査し具体的に把握する。
③ 実習指導者からのスーパービジョンを受け、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
④ 総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ3、ＤＰ4、ＤＰ5に対応する。

到達目標

精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

授業全体の内容と概要

①障害福祉サービス事業所や行政機関等、及び精神科病院等の医療機関の実習を通して、次に掲げる事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者による指導を受けるものとする。
②実習体験と考察を記録し、実習指導者によるスーパービジョンと、ソーシャルワーク実習指導担当教員による巡回指導及び帰校日指導等を通して、実習事項について個別指導や集団指導を受ける。

授業の方法

①各機関により、実践的な知識、経験の習得を目的とした学び。
「SDG３．すべての人に健康と福祉を」の関連科目

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①精神保健福祉援助実習指導Ⅰを修了していることを前提とする。
②精神保健福祉援助演習Ⅰ・Ⅱを修了していることを前提とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低実習時間は６０時間以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	０%	１００%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を概ね理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できなかった。
思考力・考察力	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について概ね考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できなかった。
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを概ね説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助実習Ⅰ （科目ナンバリング：SWS123050　　）				
授業担当者 （所属・職名）	大島　康雄（社会福祉学科・准教授）、西野　克俊（社会福祉学科・准教授）、畠山　明子（社会福祉		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　西野　克俊　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実践経験がある教員がその経験を活かして、基礎能力・技術等を実践的に指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新　精神保健福祉士養成講座８　ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習［精神専	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	２０２１	978-4-8058-8259-7	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体・住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 科目を修了して『身に付く力』についての説明	自己学習と目標設定（９０分）	１日の振り返り・記録作成（９０分）
2	利用者理解と相談支援ニーズの把握及び相談支援計画の作成	自己学習と目標設定（９０分）	１日の振り返り・記録作成（９０分）
3	利用者やその関係者（家族・友人・近隣住民等）との相談支援関係の形成	自己学習と目標設定（９０分）	１日の振り返り・記録作成（９０分）
4	利用者やその関係者（家族・友人・近隣住民等）への権利擁護及び相談支援（エンパワメントを含。）とその評価	自己学習と目標設定（９０分）	１日の振り返り・記録作成（９０分）
5	施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定の遵守と組織の一員としての役割と責任への自覚	自己学習と目標設定（９０分）	１日の振り返り・記録作成（９０分）
6	地域社会で果たす役割の考察と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発場面の観察	自己学習と目標設定（９０分）	１日の振り返り・記録作成（９０分）
7	施設・機関や所属地域における精神保健福祉向上のための課題発見と政策提言に関する考察	自己学習と目標設定（９０分）	１日の振り返り・記録作成（９０分）
8	精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務の意味の考察と実践フィードバック、科目を修了して『身に付く力』についての検証	自己学習と目標設定（９０分）	１日の振り返り・記録作成（９０分）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助実習Ⅱ （科目ナンバリング：SWS123051　　）				
授業担当者 （所属・職名）	大島　康雄（社会福祉学科・准教授）、西野　克俊（社会福祉学科・准教授）、畠山　明子（社会福祉	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2　（単位認定責任者：　西野　克俊　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実践経験がある教員がその経験を活かして、基礎能力・技術等を実践的に指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

① ソーシャルワーク実習を通して、精神保健福祉士としてのソーシャルに係る専門的知識と技術の理解に基づき精神保健福祉現場での試行と省察の反復により実践的な技術等を体得する。
② 精神疾患や精神障害、メンタルヘルスの課題をもつ人びとのおかれている現状に関する知識をもとに、その生活実態や生活上の課題についてソーシャルワーク実習を行う実習先において調査し具体的に把握する。
③ 実習指導者からのスーパービジョンを受け、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
④ 総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ3、ＤＰ4、ＤＰ5に対応する。

到達目標

精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

授業全体の内容と概要

①障害福祉サービス事業所や行政機関等、及び精神科病院等の医療機関の実習を通して、次に掲げる事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者による指導を受けるものとする。
②実習体験と考察を記録し、実習指導者によるスーパービジョンと、ソーシャルワーク実習指導担当教員による巡回指導及び帰校日指導等を通して、実習事項について個別指導や集団指導を受ける。

授業の方法

①各機関により、実践的な知識、経験の習得を目的とした学び。
「SDG３．すべての人に健康と福祉を」の関連科目

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①精神保健福祉援助実習指導Ⅰを修了していることを前提とする。
②精神保健福祉援助演習Ⅰ・Ⅱを修了していることを前提とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低実習時間は６０時間以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	０%	１００%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を概ね理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できなかった。
思考力・考察力	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について概ね考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できなかった。
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを概ね説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期集中	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助実習Ⅱ （科目ナンバリング：SWS123051　　）				
授業担当者 （所属・職名）	大島　康雄（社会福祉学科・准教授）、西野　克俊（社会福祉学科・准教授）、畠山　明子（社会福祉	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2　（単位認定責任者：　西野　克俊　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実践経験がある教員がその経験を活かして、基礎能力・技術等を実践的に指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新　精神保健福祉士養成講座８　ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習［精神専	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	２０２１	978-4-8058-8259-7	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体・住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 科目を修了して『身に付く力』についての説明	自己学習と目標設定（９０分）	１日の振り返り・記録作成（９０分）
2	利用者理解と相談支援ニーズの把握及び相談支援計画の作成	自己学習と目標設定（９０分）	１日の振り返り・記録作成（９０分）
3	利用者やその関係者（家族・友人・近隣住民等）との相談支援関係の形成	自己学習と目標設定（９０分）	１日の振り返り・記録作成（９０分）
4	利用者やその関係者（家族・友人・近隣住民等）への権利擁護及び相談支援（エンパワメントを含。）とその評価	自己学習と目標設定（９０分）	１日の振り返り・記録作成（９０分）
5	施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定の遵守と組織の一員としての役割と責任への自覚	自己学習と目標設定（９０分）	１日の振り返り・記録作成（９０分）
6	地域社会で果たす役割の考察と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発場面の観察	自己学習と目標設定（９０分）	１日の振り返り・記録作成（９０分）
7	施設・機関や所属地域における精神保健福祉向上のための課題発見と政策提言に関する考察	自己学習と目標設定（９０分）	１日の振り返り・記録作成（９０分）
8	精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務の意味の考察と遵守 フィードバック、科目を修了して『身に付く力』についての検証	自己学習と目標設定（９０分）	１日の振り返り・記録作成（９０分）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｱｸﾞﾘﾋﾞｼﾞﾈｽ論 （科目ナンバリング：MAN423037　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石山　玄幸（経営学科・准教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2　（単位認定責任者：　石山　玄幸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

概要

履修目標

本講義は、食料生産に関連する農業という産業の成立ちから、その特殊性・必要性について学んだ上で、農業関連ビジネスの発展過程と今後について学ぶことを目的としている。科目を修了して、農業経済に関する基礎知識を身に付けることを期待する。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3に対応する。

到達目標

本講義終了時の達成目標は、以下の３つである。①農業における必要性・特殊性を述べることができる。②農業関連ビジネスとは何かを述べることができる。③今後の農業関連ビジネスの展望について述べることができる。

授業全体の内容と概要

本講義は，農業に関連するビジネスについて学ぶことを目的としているため、農業という産業の必要性・特殊性を基本として、農業政策・農業市場・農産物の流通等、農業経済学の側面からアプローチする。そのため、本講義は農業に関する専門的な知識がなくても理解できる内容としている。

授業の方法

本講義は、パワーポイント及び配布物資料で進める。１枚のパワーポイントを掲示し、一連の解説が終了した後、一定の時間、学生がノートを書く時間を取る。また、本講義では、アクティブラーニングを活用し、グループワークやディスカッションを行う。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

本講義ではノートの作成を義務付ける。筆記用具やノートを持参しない者は受講を認めない。評価方法の「その他」１０％は講義ノートの評価とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
９０％	０％	０％	０％	０％	１０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
アグリビジネス論に係るレポート・試験に対応した文章表現力	講義で学んだ以上の内容を含み、論理性の優れた文章を書いていた。	講義で学んだ内容を理解した上で、論理的な文章を書いていた。	講義で学んだ内容を理解した上で、自分の言葉で書いていた。	講義で学んだ内容が書かれていた。	読み手に内容が伝わらなかった。
農業の必要性・特殊性についての理解	講義で学んだ農業の必要性・特殊性を具体的な事例を使い、論理性に優れた説明ができた。	講義で学んだ農業の必要性・特殊性を具体的な事例を使い説明できた。	講義で学んだ農業の必要性・特殊性を全て理解していた。	最低限、講義で学んだ農業の必要性・特殊性を１つ理解していた。	農業の必要性・特殊性を全く理解していなかった。
アグリビジネスの理解	アグリビジネスの発展過程と今後の展望を信憑性の高い自分の言葉で述べることができた。	アグリビジネスの発展過程と今後の展望を述べることができた。	アグリビジネスの発展過程を含め説明できた。	アグリビジネスとは何か最低限の説明ができた。	そもそもアグリビジネスについて理解していなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｱｸﾞﾘﾋﾞｼﾞﾈｽ論 （科目ナンバリング：MAN423037　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石山　玄幸（経営学科・准教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2　（単位認定責任者：　石山　玄幸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『農業のしくみとビジネスがしっかりわかる教科書』	山口亮子・窪田新之助	技術評論社	２０２０年	9784297113636	
2	『アグリビジネス進化論』	有限会社トーマツ・農林水産ビジネス推進室	プレジデント社	２０１７年	9784833451178	
3	『アグリビジネス論』	中野一新	有斐閣ブックス	１９９８年	4641085943	
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	「アグリビジネス論」ガイダンス　シラバスの説明（講義の進め方，評価方法,科目を修了して「身に付く力」の説明含む),授業改善アンケート結果反映の説明	必ずシラバスを読んでから，初回ガイダンスを受講すること。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
2	産業としての農業	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
3	農業の必要性・特殊性	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
4	農業協同組合の仕組み①	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
5	農業協同組合の仕組み②	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
6	農業政策について①	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
7	農業政策について②	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
8	農業市場について①	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
9	農業市場について②	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
10	農産物の流通について①	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
11	農産物の流通について②	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
12	アグリビジネスの定義	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
13	アグリビジネスの事例①	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
14	アグリビジネスの事例②	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
15	アグリビジネスの事例③、授業改善アンケートの実施	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
16	定期試験とフィードバック。科目を修了して「身に付く力」の検証	定期試験に向けた準備をしておくこと。（９０分）	定期試験のフィードバックを受けて、アグリビジネス論を総括すること。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	職業指導（M） （科目ナンバリング：ESS323056，SOE423051　　）				
授業担当者 （所属・職名）	岩立　顕一郎（経営学科・専任講師）	研究室等所在	１号館3階		
単位数	2　（単位認定責任者：　岩立　顕一郎　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	北海道の地域金融機関に勤務し、金融支援やマネジメント業務に従事する他、キャリアコンサルタントとして活動した経験に基づき、自己理解及び職業理解を深める内容を取り上げる。		
オフィスアワー	初回講義で説明。または研究室前の掲示等を参照。				

概要

履修目標

経済環境の変化により、企業・業界のビジネス環境は大きく変化している。
また、個人の就業環境や勤労観も変化しており、企業に努めつつ副業を行ったり、フリーランスとして活躍したりするチャンスも増えている。
本講義では、業界・企業分析を通じて、職業を学び、「働くこと」に対する意識向上を身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

・様々な業界・業種の特徴を学ぶ。
・企業分析の手法を習得する。
・自分なりの職業観・勤労観を自覚する。

授業全体の内容と概要

本講義では、「職業観・労働観の醸成」と「業界・企業分析」という2本柱に基づいて、職業について学ぶ。
講義の序盤は、総論部分として、職業やキャリア教育について学習する。
講義の中盤では、業界分析、経営分析および財務諸表分析の手法について学習し、実践する。
講義の終盤では、これまでの総仕上げとして、業界分析と企業分析を組み合わせた総合分析について学ぶ。
本授業科目は、「SDG８ 経済成長と雇用」の関連授業である。

授業の方法

本講義は、テキストの解説のみならず、受講者自らが実践的に分析を行う機会を設ける。
日経新聞の記事や上場企業の財務諸表を用いて、実社会との関わりを意識して講義を進める。
授業では、リアクションペーパーを毎回配布し、その回答内容は、次回以降の授業で取り上げる。
不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

実践的に分析する機会を設けるので、出席を重視する。出席確認は、授業で毎回配布するリアクションペーパーの提出をもって行う。
また、業界・企業分析に際しては、受講者が積極的・能動的に取り組む姿勢を求める。財務分析の際には、計算が必要となるので、計算機の持参を推奨する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（商業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。出席確認は、授業で毎回配布するリアクションペーパーの提出をもって行う。
「平常点」は、リアクションペーパーの回答内容で評価する。
「レポート」に関しての具体的な提出時期は、授業内で説明する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	７０％	０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
様々な業界・業種の特徴を理解する。	特定の業界と、それに関連する業界について総合的に説明できる。	様々な業界・業種の特徴を十分に理解している。	自分の関心ある業界・業種を理解するのみならず、関連する業界・業種についても、関心を抱いている。	自分の関心ある業界・業種の特徴を最低限理解している。	業界・業種の特徴を理解できなかった。
企業分析（経営・財務諸表分析）の手法を習得する。	企業分析を行い、対象企業について詳細に説明できる。	企業分析の手法を駆使して、対象企業の特徴を十分に把握できる。	企業分析の手法を駆使して、対象企業の特徴をある程度把握できる。	企業分析に使用される指標の意味を最低限理解している。	企業分析に使用される指標の意味を理解できなかった。
自分なりの職業観・勤労観を自覚する	「働くこと」に対して意識が向上し、自分の将来目標に向けて、具体的に取り組み始めた。	「働くこと」に対して意識が向上し、自分の将来について考えるようになった。	職業観・勤労観について自覚し、「働くこと」に対して意識し始めた。	職業観・勤労観について最低限自覚できた。	職業観・勤労観を自覚できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	職業指導（M） （科目ナンバリング：ESS323056，SOE423051　　）				
授業担当者 （所属・職名）	岩立　顕一郎（経営学科・専任講師）	研究室等所在	１号館3階		
単位数	2　（単位認定責任者：　岩立　顕一郎　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	北海道の地域金融機関に勤務し、金融支援やマネジメント業務に従事する他、キャリアコンサルタントとして活動した経験に基づき、自己理解及び職業理解を深める内容を取り上げる。		
オフィスアワー	初回講義で説明。または研究室前の掲示等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『学部生のための企業分析テキスト―業界・経営・財務分析の基本（改定版）』	高橋聡・福川裕徳・三浦敬　編著	創成社	2024年		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（講義の進め方、アンケートによる受講者の意向調査） シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）	シラバスとテキストの序文を読んでおく（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
2	働く目的	事前配布資料を予習する（９０分）	配布資料の内容を復習する（９０分）
3	キャリア教育・職業選択理論	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
4	業界・業種の概要①	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
5	業界・業種の概要②	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
6	業界分析の実践	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
7	職業興味と自己理解	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
8	経営分析の概要	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
9	財務諸表分析の概要	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
10	財務諸表分析の実践	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
11	特別講演	事前に指示した内容を調べておく（９０分）	講演の内容を復習する（９０分）
12	就職活動	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
13	業界・企業の総合分析①	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
14	業界・企業の総合分析②	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
15	まとめ講義	これまでの内容を復習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
16	課題に対する解説とフィードバック 授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」の検証	これまでの内容を復習する（９０分）	授業で取り上げた解説の内容を復習する（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年、社会福祉学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｺﾐｭﾆﾃｨ心理学 （科目ナンバリング：CLP123058，CLP423047，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	吉澤　英里（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　吉澤　英里　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が，コミュニティ心理学の理念と目標を理解し，コミュニティ心理学的介入方法について理解する。さらに，学生が，いくつかのコミュニティ活動の事例について見聞きしながら，実際のコミュニティにおける問題解決への心理学的アプローチの可能性について考察する。

授業の位置づけ

経営学部のDP３、DP４、DP５に対応する科目
社会福祉学部のDP３、DP４、DP５に対応する科目

到達目標

①コミュニティ心理学で扱われる理論や専門用語の内容を理解する。
②実際のコミュニティ活動を通した問題解決の事例を，心理学の知見を援用しながら他学生へ説明する。
③コミュニティ心理学に関するテーマについて，調べ，整理し，スライド資料を用いて発表する。

授業全体の内容と概要

コミュニティ心理学の理念・目的に基づき，人が環境に適応するための援助だけでなく，個人を取り巻く環境改善への介入・援助の方法について学ぶ。さらに，従来の臨床心理学的なアプローチに加え，社会心理学的アプローチの可能性についても考察する。
「ＳＤＧ３．すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

前半は板書とパワーポイント（スライド資料），配布印刷物等を活用しながら，講義形式で行う。前半の最後に授業内課題を実施し，知識の定着を図る。後半は履修生によるプレゼンテーションを実施する。質問には口頭およびチャット形式で随時対応する。授業の最後にアンケート形式で要望や質問・コメントを集める。集めた要望や質問に対しては、次の授業回で全体に向けてフィードバックをする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業の運営・進行を著しく妨害するような行為（私語，大学で認められたもの以外の飲食，携帯電話・スマートフォンの使用，代返　等）が認められた場合，総合評価から大幅に減点することがある。
プレゼンテーション発表の枠は、６枠×３回であり、その中で全履修者の発表を終わらせる必要がある。そこで、履修者の人数が多い（概ね20名以上）の場合、グループでの発表になることがある。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	９０％	０％	０％	１０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
専門知識の理解	専門知識を非常に理解できた。	専門知識をかなり理解できた。	専門知識をやや理解できた。	最低限の専門知識を理解できた。	最低限の専門知識を理解できなかった。
専門知識の応用	提示された社会問題の原因や解決策を挙げることができ，その理由を詳しく説明できた。さらに，コミュニティ心理学の知識の枠組みを元に，自ら社会問題の原因や解決策を提示することができた。	提示された社会問題の原因や解決策を挙げることができ，その理由を説明できた。さらに，コミュニティ心理学の知識の枠組みを元に，自ら社会問題の原因や解決策を提示することができた。	提示された社会問題の原因や解決策を挙げることができ，その理由を説明できた。	提示された社会問題の原因や解決策を挙げることができた。	提示された社会問題の原因や解決策を挙げることができなかった。
プレゼンテーション	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を９割以上できた。	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を８割程度できた。	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を７割程度できた。	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を６割程度できた。	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を満たすことができなかった。
授業への積極的参加	授業へ非常に参加できた。	授業へかなり参加できた。	授業へやや参加できた。	授業へ最低限の参加ができた。	授業へ積極的に参加できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年、社会福祉学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｺﾐｭﾆﾃｨ心理学 （科目ナンバリング：CLP123058，CLP423047，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	吉澤　英里（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　吉澤　英里　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『授業内で適宜紹介する』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス及び授業改善アンケートの結果反映，本科目のコミュニティの定義、科目を修了して『身に付く力』についての説明）	コミュニティについて調べる（９０分）	本授業で扱うテーマを確認する（９０分）
2	コミュニティ心理学の歴史と特徴	関連する文献を読む（９０分）	授業内容を振り返る（９０分）
3	コミュニティ心理学の理念と心理学者の役割	関連する文献を読む（９０分）	授業内容を振り返る（９０分）
4	コミュニティ心理学の理論とモデル	関連する文献を読む（９０分）	授業内容を振り返る（９０分）
5	予防プログラム	関連する文献を読む（９０分）	授業内容を振り返る（９０分）
6	危機介入とコンサルテーション	関連する文献を読む（９０分）	授業内容を振り返る（９０分）
7	ソーシャルサポートとセルフヘルプ	関連する文献を読む（９０分）	授業内容を振り返る（９０分）
8	コミュニティ感覚と市民参加	関連する文献を読む（９０分）	授業内容を振り返る（９０分）
9	授業内課題（コミュニティ心理学の基礎知識の確認）	これまでの内容を振り返る（９０分）	疑問点をまとめる（９０分）
10	プレゼンテーション①（テーマ，発表順の決定，準備）	関連する文献を読む（９０分）	発表テーマに関する資料を収集する（９０分）
11	プレゼンテーション②（準備，ディスカッション）	発表テーマに関する資料を収集する（９０分）	スライド資料をまとめる（９０分）
12	プレゼンテーション③（準備，ディスカッション）	プレゼンテーションの準備をする（９０分）	発表された内容を振り返る（９０分）
13	プレゼンテーション発表とディスカッション①（第１グループ） 授業内課題へのフィードバック	プレゼンテーションの準備をする（９０分）	発表された内容を振り返る（９０分）
14	プレゼンテーション発表とディスカッション②（第２グループ）	プレゼンテーションの準備をする（９０分）	発表された内容を振り返る（９０分）
15	プレゼンテーション発表とディスカッション③（第３グループ）	これまでの内容を振り返る（９０分）	疑問点をまとめる（９０分）
16	プレゼンテーション予備日および自他相互評価、科目を修了して『身に付く力』についての検証、授業改善アンケートの実施	これまでの内容を振り返る（９０分）	疑問点をまとめる（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地域情報論 （科目ナンバリング：LIH422046，LIH522045　　）				
授業担当者 （所属・職名）	猪尾　紀幸（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　猪尾　紀幸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	地方地域の中小零細企業への経営コンサルティングを実施している経営の専門家として、経営と地域活性化の視点から地域情報論について具体的で実践的な講義をする。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応				

概要

履修目標

地域は、情報の一方的な受け手ではなく、自らの地域情報を発信することにより地域への関心を高め、地域活性化を推進することが求められている。地域情報発信の意義、効果、方法についての基礎知識を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

地域活性化という観点から見た地域情報について理解し、地域内外に対する地域情報発信の意義、効果、方法について理解し見識を持つ。

授業全体の内容と概要

地域情報の例、地域情報発信の意義、効果、方法についての講義を行う。
「SDG 11.住み続けられるまちづくりを」の関連科目。
「SDG 8.働きがいも経済成長も」の関連科目。

授業の方法

プロジェクターでの投影や板書を行い、双方向授業を活用しながら講義を進める。必要に応じて資料を配布したり、調査学習を行う。毎回の授業では授業に関する振り返りを簡潔に「振り返りシート」に記入し提出する。振り返りシートの内容をもとに次回授業冒頭でフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

本講義は【授業態度】を重視する。【授業態度】においては、授業中の居眠り、私語、携帯電話・スマートホン等の操作は指示された場合を除き厳禁とし、再度の注意を受けたものは退室を命じ欠席扱いとする。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。
課題を提出した学生。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
情報管理（文献・情報検索）	一観点に対して図書館等の文献調査から得た資料を基に必要な情報を整理（短文等）できた。	一観点に対して図書館等の文献調査から得た複数の資料を閲覧し必要な情報を取得できた。	一観点に対して図書館等の文献調査から得た複数の資料（3つ以上）を入手できた。	図書館等の文献調査ができた。	図書館等の文献調査ができなかった。
ICTスキル・情報リテラシー	PC等を活用して適切な体裁で図表や写真等を用いた効果的な論文やレポート、プレゼンテーション資料の作成、データ分析、授業内外で効果的にICTを活用、必要な情報・データへ適切にアクセスでき批判的視点で評価・取捨選択・統合して使用できた。	PC等を活用して適切な体裁で図表や写真等を用いた論文やレポート、プレゼンテーション資料の作成でき、ICTを活用した。必要な情報・データへ適切にアクセスでき批判的視点で評価・取捨選択・統合して使用できた。	PC等を活用して図表や写真等を用いた論文やレポート、プレゼンテーション資料を作成できた。必要な情報・データへ適切にアクセス・統合して使用できた。	PC等を活用して論文やレポート、プレゼンテーション資料を作成できた。必要な情報・データへ適切にアクセスし使用できた。	PC等を活用できず、指定の体裁で論文やレポート、プレゼンテーション資料が作成できなかった。必要な情報・データにアクセスできなかった。
情報整理	文献や電子資料の情報整理を研究テーマの背景・問題点・実験方法等のカテゴリーに分けることができる観点ごとにまとめ、それらのリスト（規格統一表記）作成した。	文献や電子資料の情報整理を研究テーマの背景・問題点・実験方法等のカテゴリーに分けることができる観点ごとにまとめた。	文献や電子資料の情報整理を研究テーマの背景・問題点・実験方法等を別にまとめた。	文献や電子資料の情報整理を研究関連としてまとめた。	文献や電子資料の情報整理を行っていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地域情報論 （科目ナンバリング：LIH422046，LIH522045　　）				
授業担当者 （所属・職名）	猪尾　紀幸（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　猪尾　紀幸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	地方地域の中小零細企業への経営コンサルティングを実施している経営の専門家として、経営と地域活性化の視点から地域情報論について具体的で実践的な講義をする。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。（９０分）	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。（９０分）
2	地域情報論・総論① （経営的観点からみた地域活性化）	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。（９０分）	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。（９０分）
3	地域情報論・総論② （地域活性化と地域情報）	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。（９０分）	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。（９０分）
4	北広島市の概要① （地域の歴史、文化）	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。（９０分）	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。（９０分）
5	北広島市の概要② （地域の産業、企業）	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。（９０分）	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。（９０分）
6	北広島市の地域情報の例① （地域の特産品）	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。（９０分）	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。（９０分）
7	北広島市の地域情報の例② （地域のビジョン）	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。（９０分）	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。（９０分）
8	北海道の他地域情報の例① （移住推進地域）	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。（９０分）	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。（９０分）
9	北海道の他地域情報の例② （観光推進地域）	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。（９０分）	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。（９０分）
10	情報発信手法① （メディアミックス）	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。（９０分）	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。（９０分）
11	情報発信手法② （トリプルメディア）	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。（９０分）	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。（９０分）
12	情報発信手法③ （ＩＴ普及と消費者行動の変化）	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。（９０分）	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。（９０分）
13	情報発信手法④ （インターネット、ホームページ、ＳＮＳ）	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。（９０分）	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。（９０分）
14	情報発信手法⑤ （その他の手法）	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。（９０分）	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。（９０分）
15	情報発信手法⑥（注意点、商標権、著作権）	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。（９０分）	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。（９０分）
16	講義全体のまとめ、課題提出 授業に係る講評・解説によるフィードバック　科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	学習内容に基づき課題を作成	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	スクールソーシャルワーク演習 （科目ナンバリング：SWS122054　　）				
授業担当者 （所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　上原　正希　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学校教育現場にスクール（学校）ソーシャルワーカーが存在する意義・役割、スクールソーシャルワークの広範な専門性について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３、DP４、DP5に対応する。

到達目標

１．今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性に理解・説明できる。
２．発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について理解・説明できる。
３．スクールソーシャルワークについてジェネリックおよびスペシフィックな視点での広範な知識・技術、支援方法について理解・説明できる。

授業全体の内容と概要

１．学校教育現場にスクール（学校）ソーシャルワーカーが存在する意義・役割について、いじめ・不登校・学習保障・保護者対応・児童虐待への対応など、具体的な事例に基づいて、演習形式でスクールソーシャルワークの広範な専門性について理解する。
２．「ＳＤＧｓ３．すべての人に健康と福祉を」「ＳＤＧｓ4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

１．授業形態は「演習」形式である。
２．テキストを使用し、ポイントとするべき箇所は説明,板書を行う。
３．適宜質問を促し、質問に対応する。
４．不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１．教員や学生が板書した内容や演習で話し合った内容、フィードバックなどもある授業であるので、しっかりとノートに写し、毎回の授業後にノートの整理をする。
２．適宜質問に対応する。
３．自然災害等などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。
４．スクールソーシャルワーカー等のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。
５．大学のペーパレス化に伴い、教科書は必須ですので絶対に購入してください。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スクール（学校）ソーシャルワーカー資格課程課程

評価方法・基準

評価前提条件

１．教科書は必ず持参する。
２．必要な資料等は適宜配布する。
３．出席回数は最低７回なければ試験を受験することはできない。
４．その他について、出席状況、演習における話し合いの態度や発言するなどの取り組みで評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
【知識】今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性に理解する。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性について非常に理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性についておおむね理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性について理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性について一部理解ができなかった。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性について理解ができなかった。
【知識】発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について理解する。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について非常に理解できた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割についておおむね理解できた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について理解できた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について一部理解ができなかった。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について理解ができなかった。
【知識】スクールソーシャルワークについてジェネリックおよびスペシフィックな視点での広範な知識・技術、支援方法について理解する。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について非常に理解できた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割についておおむね理解できた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について理解できた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について一部理解ができなかった。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について理解ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｽｸｰﾙｿｰｼｬﾙﾜｰｸ演習 （科目ナンバリング：SWS122054　　）				
授業担当者 （所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1	（単位認定責任者：　　上原　正希　　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『よくわかるスクールソーシャルワーク』	山野則子など	ミネルヴァ書房	2016年	9784623078349	価格　/ 3,080（本体 / 2,800）
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜紹介する。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ・シラバスの説明 ・前年度実施した授業改善アンケートの結果反映の説明 ・科目を修了して『身に付く力』についての説明 学校教育現場にスクール（学校）ソーシャルワーカーが存在する	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
2	事例検討：スクールソーシャルワークと『いじめ・不登校・非行』への対応	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
3	事例検討：スクールソーシャルワークと『自殺防止』への対応	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
4	事例検討：スクールソーシャルワークと『発達障害・精神疾患』への対応	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
5	事例検討：スクールソーシャルワークと『児童虐待』への対応	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
6	事例検討：スクールソーシャルワークと『性的マイノリティ』への対応	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
7	スクールソーシャルワークと『保護者対応-いじめ・不登校・非行・発達障害・貧困など』への対応	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
8	事例検討：スクールソーシャルワークと『災害に備えた学校づくり』への対応 授業改善アンケートの実施	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
9	スクールソーシャルワークと『新たに求められていること』への対応～演習に取り組んできた事後エッセンス～ 授業改善アンケートの実施 授業全体の解説 授業全体のフィードバック	科目が修了するにあたり『身に付く力』について自分で検証をしておくこと(９０分)	科目が修了して『身に付く力』について自分で振り返ること(９０分)
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期集中	授業形態	講義,演習,実習,実技	必修・選択	選択
科目名称	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ論 （科目ナンバリング：S0F422055，S0F522050　　）				
授業担当者 （所属・職名）	由水　伸（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　由水　伸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かしてコンピュータプログラミングに必要な知識について講義を行う。		
オフィスアワー	講義時間以外は随時来室可（会議等で不在時を除く） 詳しくは研究室前の掲示ボード等を参照してください。				

概要

履修目標

コンピ　ューターとプ　ログ　ラムに関する基本的な知識を身に付け、問題解決のための基礎的なアルゴ　リズ　ムやプ　ログ　ラムの開発手順について理解を深める。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

(1)プ　ログ　ラミング　言語の種類と用途が　わかる。
(2)アルゴ　リズ　ムとプログラミングの関係を理解する。
(3)Microsoft Excelのマクロ言語VBAを使い、業務の自動化を考えることができる。

授業全体の内容と概要

プ　ログ　ラム言語の各種概念の理解と課題の作成を通して、問題解決のアルゴ　リズ　ムを考える力を養い、プ　ログ　ラミング　技法の基礎を学ぶ　。本講義ではExcel上のマクロ言語VBAを使って授業を進める。
「SDGs 9.産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連授業。

授業の方法

１、２、１４回目は講義形式で行う。
３から１０回目まではコンピューターを使い、基本的なアルゴリズムを例示し、プログラム作成、動作確認を行う。
１１から１３回目で、各自オリジナルのプログラムを設計し作成する。
１５、１６回目は成績判定のための修了課題を作成する。
実習中は教員および学生同士で対話しながら質問やアドバイスを受けながら進める。
なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・受講にあたり、情報システム論の単位を取得しておくことが望ましい。
・受講者数は教室の機器台数より上限４５名となる。
・講義内容には前後の相関性があるので欠席しないこと。
・欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は１１回以上。
３０分以上の遅刻、早退は欠席とみなす。
課題については授業中に毎回評価・採点し、最終評価に加算する。
修了課題はプログラミング実技である。
Ｓ評価は原則として全授業出席者に限られる。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
問題解決のためのアルゴリズム　ムを組み立て、フローチャートなど　の方法で　図式化て　きる。	問題解決のためのアルゴリズムを自分で考え、図式化やプログラミングができる。また、他人のプログラムを分析し、的確なアドバイスが行えるようになった。	問題解決のためのアルゴリズムを自分だけで考え、図式化やプログラミングができるようになった。	問題解決のためのアルゴリズムを他者からのアドバイスを受けつつ、自分で考え、図式化しプログラミングができるようになった。	問題解決のためのアルゴリズムを他者からのアドバイスを受けることで完成し、図式化やプログラミングができるようになった。	問題解決のためのアルゴリズムを他者からのアドバイスを受けても考え出すことができない。
アルゴリズムの基本形の理解	条件分岐や繰り返しを使って、ソート、検索、ファイル処理などの基本となる形を、悩むことなく速やかに自分のプログラム中で利用できるようになった。	条件分岐や繰り返しを使って、ソート、検索、ファイル処理などの基本となる形を、自分のプログラム中で利用できるようになった。	条件分岐や繰り返しを使って、ソート、検索、ファイル処理などの基本となる形を、書籍、メモネットなどの情報を利用してプログラミングできるようになった。	条件分岐や繰り返しを使って、ソート、検索、ファイル処理などの基本となる形を、他人の支援を受けながらなんとかプログラミングできるようになった。	他者の支援を受けてもアルゴリズムを理解できず、プログラミングもままならない。
プ　ログ　ラム言語の特徴を生かしたシステム開発とプ　ログ　ラミング　ができる。	複数のプ　ログ　ラミング言語を用途によって使い分け、動作が　正確て　、無駄な処理が　なく、可読性や拡張性、保守性に優れたプ　ログ　ラミング　かたて　きるようになった。	プ　ログ　ラミング　言語の特徴を生かし、動作が　正確て　、可読性が　高く、保守性に配慮したプ　ログ　ラミング　ができるようになった。	プ　ログ　ラミング　言語の特徴を生かし、動作が　正確なプログラミングができるようになった。	プ　ログ　ラミング　言語を理解し、動作するプ　ログ　ラミング　ができるようになった。	プ　ログ　ラミング　そのものがて　きず、動作するプ　ログ　ラムの作成かて　きない。
Microsoft Excelのマクロ言語VBAの理解	オブジェクト、プロパティ、メソッドなどVBAの特徴を理解し、効率的で実用的なプログラムを書くことができる。また、他者に説明し支援できるて　きるようになった。	オブジェクト、プロパティ、メソッドなどVBAの特徴を理解し、効率的で実用的なプログラムを書くことができる。また、他者に説明し支援できるて　きるようになった。	オブジェクト、プロパティ、メソッドなどVBAの特徴を理解し、効率的で実用的なプログラムを書くことができる。また、他者に説明し支援できるて　きるようになった。	オブジェクト、プロパティ、メソッドなどVBAの特徴を理解し、効率的で実用的なプログラムを書くことができる。また、他者に説明し支援できるて　きるようになった。	オブジェクト、プロパティ、メソッドなどVBAの特徴を理解し、効率的で実用的なプログラムを書くことができる。また、他者に説明し支援できるて　きるようになった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期集中	授業形態	講義,演習,実習,実技	必修・選択	選択
科目名称	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ論 （科目ナンバリング：S0F422055，S0F522050　　）				
授業担当者 （所属・職名）	由水　伸（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　由水　伸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かしてコンピュータプログラミングに必要な知識について講義を行う。		
オフィスアワー	講義時間以外は随時来室可（会議等で不在時を除く） 詳しくは研究室前の掲示ボード等を参照してください。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）、授業改善アンケート結果反映の説明 総論、コンピューターとプログラムの歴史	プログラミング言語の種類歴史について（９０分）	講義内容の整理と確認（９０分）
2	アルゴリズムとフローチャート、プログラミング	アルゴリズムについて（９０分）	講義内容の整理と確認（９０分）
3	Excelとマクロ Excelのマクロ開発環境の構築 マクロのサンプルを通した、全体像の理解	コンピュータにおける文字、数値の取り扱い（９０分）	Microsoft Excelの操作練習（９０分）
4	オブジェクト・プロパティ・メソッドの理解	オブジェクト、プロパティ、メソッドについて予習（９０分）	授業で行なった事例プログラムの作成と動作確認（９０分）
5	変数と計算処理、処理と条件分岐	整数、浮動小数点とは（９０分）	授業で行なった事例プログラムの作成と動作確認（９０分）
6	繰り返し処理、Loop文（WhileとUntil）、For～Nent文、For～Each	IF文とSelect文（９０分）	授業で行なった事例プログラムの作成と動作確認（９０分）
7	指定された課題に沿ったプログラミング（基本的指導） 出題された課題を、教員の解説を聞きながら、完成させる	オブジェクトと操作可能なプロパティ、メソッド（９０分）	授業で行なった事例プログラムの作成と動作確認（９０分）
8	指定された課題に沿ったプログラミング 出題された課題を、自らの力で完成させる	Do while と Do Untilの使い方（９０分）	授業で行なった事例プログラムの作成と動作確認（９０分）
9	応用編：さまざまなプロパティとメソッドの使い方	ExcelにおけるWorkSheetの取り扱いについて（９０分）	授業で行なった事例プログラムの作成と動作確認（９０分）
10	基本的なアルゴリズムの学習　データーの検索 線形探索（リニアサーチ）と二分探索（バイナリサーチ）とプログラミング	7回目の授業の復習（９０分）	授業で行なった事例プログラムの作成と動作確認（９０分）
11	基本的なアルゴリズムの学習　ソート技法 バブルソート、クイックソートなどのデーター並べ替えの技法と特徴、プログラミング	VBAにおける文字列の扱いについて（９０分）	授業で行なった事例プログラムの作成と動作確認（９０分）
12	ファイル処理 テキストファイルの読み込み、書き出しのプログラミング	ソート技法とその特徴（９０分）	授業で行なった事例プログラムの作成と動作確認（９０分）
13	図形オブジェクトの扱い 画像や図形の表示、位置指定、サイズ変更のプログラミング	検索技法とその特徴（９０分）	授業で行なった事例プログラムの作成と動作確認（９０分）
14	修了課題作成（指定された内容に従い、プログラム課題を作成する）	日本語（漢字）文字コードについて（９０分）	授業で行なった事例プログラムの作成と動作確認（９０分）
15	修了課題作成（指定された内容に従い、プログラム課題を作成する）	Excelで扱える画像形式について（９０分）	修了課題作成（９０分）
16	修了課題完成（指定された内容に従い、プログラム課題を完成し提出する） 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	修了課題作成（９０分）	総復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会的養護Ⅰ （科目ナンバリング：CHS122071　　）				
授業担当者 （所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　杉本　大輔　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること				

概要

履修目標

以下について理解することで、児童福祉施設における援助者としての保育士の役割や援助のあり方について必要なことは何かを考える。
①現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。
②子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。
③社会的養護の制度や実施体系等について理解する。
④社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。
⑤社会的養護の現状と課題について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３、DP４，DP５に対応する。

到達目標

①現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解することができる。
②子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解することができる。
③社会的養護の制度や実施体系等について理解することができる。
④社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解することができる。
⑤社会的養護の現状と課題について理解することができる。

授業全体の内容と概要

①現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について学ぶ。
②子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について学ぶ。
③社会的養護の制度や実施体系等について学ぶ。
④社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について学ぶ。
⑤社会的養護の現状と課題について学ぶ。

授業の方法

授業は、配布資料を活用しながら説明を行う。講義中、テーマを提示し思考・考察、小グループによる意見交換・討論、発表の場面を設定する。毎回、講義開始時に前回の講義に関する質問事項や理解不足に対する点に対してフィードバックを行う。レポートについても解説によるフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

次回の講義でフィードバックを行うので、受講カードにその日の講義の理解についての記述を求める。子どもの健やかな成長とより良い育ちを支援する保育士に必要な事柄を理解するとともに、自らの将来のあるべき保育士像を構築しながら受講することを求める。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	７０%	０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について	現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について、理解を深めた。	現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について、ほぼ理解を深めた。	現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について、やや理解を深めた。	現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について、理解することができた。	現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について、理解することができなかった。
子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について	子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について、理解を深めた。	子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について、ほぼ理解を深めた。	子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について、やや理解を深めた。	子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について、理解することができた。	子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について、理解することができなかった。
社会的養護の制度や実施体系等について	社会的養護の制度や実施体系等について、理解を深めた。	社会的養護の制度や実施体系等について、ほぼ理解を深めた。	社会的養護の制度や実施体系等について、やや理解を深めた。	社会的養護の制度や実施体系等について、理解することができた。	社会的養護の制度や実施体系等について、理解することができなかった。
社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について	社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について、理解を深めた。	社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について、ほぼ理解を深めた。	社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について、やや理解を深めた。	社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について、理解することができた。	社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について、理解することができなかった。
社会的養護の現状と課題について	社会的養護の現状と課題について、理解を深めた。	社会的養護の現状と課題について、ほぼ理解を深めた。	社会的養護の現状と課題について、やや理解を深めた。	社会的養護の現状と課題について、理解することができた。	社会的養護の現状と課題について、理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会的養護Ⅰ （科目ナンバリング：CHS122071　　）				
授業担当者 （所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　杉本　大輔　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバス確認、授業改善アンケート結果反映の説明） 身につく力・・・社会的養護に関係する法令、期間、人材についての知識。	社会的養護とは（９０分）	ノート整理、疑問点の解消（９０分）
2	社会的養護の歴史的変遷	社会的養護の歴史的変遷（９０分）	ノート整理、疑問点の解消（９０分）
3	社会的養護の基本①子どもの人権擁護と社会的養護	子どもの権利擁護（９０分）	ノート整理、疑問点の解消（９０分）
4	社会的養護の基本②社会的養護の基本原則	社会的養護の基本原則（９０分）	ノート整理、疑問点の解消（９０分）
5	社会的養護の基本③社会的養護における保育士等の倫理と責務	保育士等の倫理と責務（９０分）	ノート整理、疑問点の解消（９０分）
6	社会的養護の制度と法体系	社会的養護の法体系（９０分）	ノート整理、疑問点の解消（９０分）
7	社会的養護の仕組みと実施体系	社会的養護の実施体系（９０分）	ノート整理、疑問点の解消（９０分）
8	社会的養護の対象	社会的養護の対象（９０分）	ノート整理、疑問点の解消（９０分）
9	家庭養護と施設養護	家庭養護と施設養護（９０分）	ノート整理、疑問点の解消（９０分）
10	社会的養護に関わる専門職	社会的養護に関わる専門職（９０分）	ノート整理、疑問点の解消（９０分）
11	社会的養護の現状と課題①社会的養護に関する社会的状況	社会的養護に関する社会的状況（９０分）	ノート整理、疑問点の解消、レポート作成（９０分）
12	社会的養護の現状と課題②施設等の運営管理	施設等の運営管理（９０分）	ノート整理、疑問点の解消、レポート作成（９０分）
13	社会的養護の現状と課題③被措置児童等の虐待防止	被措置児童等の虐待防止（９０分）	ノート整理、疑問点の解消（９０分）
14	社会的養護の現状と課題④社会的養護と地域福祉	地域福祉とは（９０分）	ノート整理、疑問点の解消（９０分）
15	まとめ（事例研究）授業改善アンケートの実施	文献学習（９０分	ノート整理、疑問点の解消（９０分）
16	試験の実施。６０分の試験の後、３０分の添削、開設を行う。 身につく力の検証・・・上記試験及びレポートの添削	文献学習（９０分）	文献学習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習Ⅳ(言葉) （科目ナンバリング：CHS122081　　）				
授業担当者 （所属・職名）	太田　俊一（社会福祉学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	1　（単位認定責任者：　　太田　俊一　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

この科目は、以下の２つを授業の目的とする。
１．学生自らが「学生主体の学び」を意識し、養護と教育にかかわる保育の内容が，それぞれに関連性を持ち，総合的に保育を展開していくための知識技術，判断力を習得する。
２．子どもの発達を「言葉」の領域から捉え，子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶことで、スチューデントスキル・スタディスキル・アカデミックスキルを習得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2025・2024年度）
社会福祉学科のDP１、DP３、DP４に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

「言葉」の領域を学ぶことにより，子ども理解を深めながら保育内容を理解し、具体的に演技したり述べることができる。

授業全体の内容と概要

保育における領域「言葉」を学修する。「SDG4： 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、板書とパワーポイント、グループ学習を取り入れ、意見を出し合う場を多く設定する。
最後に「言葉」「表現」に関するまとめとして発表を行い、お互いに評価しあう。
なお、レポートや課題・作品提出の際にはコメントをつけてフィードバックする。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

課題の内容及と提出方法及び課題・平常点の評価は加点方式とし、授業時間に説明する。
遅刻の場合、入室はできるが２０分以上の遅刻は欠席扱いとする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は６回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	４０%	１０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
領域「言葉」に関する知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	領域「言葉」の側面から具体的なな援助技術を深く理解できた。	領域「言葉」の側面から具体的なな援助技術をおおむね理解できた。	領域「言葉」の側面から具体的なな援助技術を理解できた。	領域「言葉」の側面から具体的なな援助技術をやや理解できた。	領域「言葉」の側面から具体的なな援助技術を理解できなかった。
領域を意識した「言葉」に関する思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	総合的な保育内容の展開について十分に考察できた。	総合的な保育内容の展開についておおむね考察できた。	総合的な保育内容の展開について考察できた。	総合的な保育内容の展開についてやや考察できた。	総合的な保育内容の展開について考察できなかった。
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	総合的な保育内容の展開について学修したことをわかりやすく説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことをおおむね説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことを説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことをやや説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことを説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習Ⅳ(言葉) （科目ナンバリング：CHS122081　　）				
授業担当者 （所属・職名）	太田　俊一（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　　太田　俊一　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『保育者のための言語表現技術』	古橋和夫	萌文書林	２０１９	9784893473493	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　授業改善アンケートの結果反映の説明 子どもの言葉と育ち 科目を修了して『身に付く力』についての説明	指定した教科書を事前に読むこと（９０分）。	１回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
2	保育所保育指針における「言葉」の理解 乳幼児期の言葉の発達	指針「言葉」を事前学習しておく（９０分）。	２回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
3	子どものことばと保育者-どう捉え、どう関わるか-	環境保育について事前学習しておく（９０分）。	３回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
4	うたや触れ合いを楽しむ（わらべうた、うた遊び）	語彙について事前学習しておく（９０分）。	４回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
5	絵や劇、物語とことばの豊かな世界を楽しむ①（児童文化財）	発達過程を理解しておく（９０分）。	５回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
6	絵や劇、物語とことばの豊かな世界を楽しむ②（児童文化財）	発達過程について事前学習しておく（９０分）。	授業終了時に示す課題を作成する（９０分）。
7	絵や劇、物語とことばの豊かな世界を楽しむ③（児童文化財）	ここまでに学んだことを整理しておく（９０分）。	７回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
8	特別な配慮が必要な子どもの関わり 提出されたレポートの評価と解説をフィードバック 授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	「言葉」の意義を事前学習しておく（９０分）。	これまでの授業で理解した点を整理する（９０分）。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	子どもの食と栄養 （科目ナンバリング：EHS122075　　）				
授業担当者 （所属・職名）	湯浅　頼佳（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　湯浅　頼佳　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

本学の「初年次教育」として位置付ける本授業を受講し、スチューデントスキル、スタディスキル、 アカデミックスキル等を修得することにより、大学生として生活面や学習面等で必要となる多様な能力を身に付ける。
１．健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。
２．子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。
３．食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化とのかかわりの中で理解する。
４．家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。
５．特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科の　ＤＰ3、ＤＰ4、ＤＰ５に対応する。

到達目標

・大学生に求められる一般常識や態度を学習面、生活面で活用できる。（スチューデントスキル）
・小児期の栄養と食生活は生涯にわたる健康と生活の基礎であり小児期から成人にいたる一貫した食生活の意義を理解し、また、保育との関連の中で小児に適切な食事が提供できること　との意義と保育における食生活が心の健康にも影響すること、食生活が家族の健康や生活地域との密接な関係があること、食生活を通じて生活全般や環境の望ましい姿を理解する。(アカデミックスキル)

授業全体の内容と概要

小児期の成長・発達は，最も著しい時期である。とくに小児期の栄養は，生涯を通じての健康の基盤を確立するためにも重要である。小児期の身体発育や運動機能・精神的発達などを充分に理解し，適正な栄養のあり方を学び，実習を行う。
「ＳＤＧs３．すべての人に健康と福祉を」の関連科目。

授業の方法

授業は板書を中心に、パワーポイントや視聴覚教材(DVD・ブルーレイ)も取り入れながら講義形式で行う。
調理実習も伴うので必要に応じでグループワークやグループ学習も実施し、その都度発生した疑問・質問などにはフィードバックとして解説を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・実習を含む科目（グループで実習）なので欠席は極力さけること。単位認定に必要となる出席回数は１１回以上とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

定期試験，レポート，出席，その他（授業態度、平常点（活動状況等）を下表の基準で評価する。単位認定に必要となる出席回数は１１回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
８０%	５%	０%	０%	１０%	５%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能(理解力)	食生活の意義や栄養に関する基本的知識を十分に理解できた。	食生活の意義や栄養に関する基本的知識を概ね理解できた。	食生活の意義や栄養に関する基本的知識を理解できた。	食生活の意義や栄養に関する基本的知識を多少理解できた。	食生活の意義や栄養に関する基本的知識を理解できなかった。
汎用的機能(思考力)	子どもの発育・発達と食生活の関連について十分に理解し深く考察できた。	子どもの発育・発達と食生活の関連についてに理解し概ね考察できた。	子どもの発育・発達と食生活の関連について十分に理解し考察できた。	子どもの発育・発達と食生活の関連について十分に理解し多少考察できた。	子どもの発育・発達と食生活の関連について考察できなかった。
態度・志向性(意欲)	授業を休まず出席できた。(１６回)	授業を概ね休まず出席できた。(１５回)	授業を休むことがあるが出席できた。(１４～１３回)	授業を休みがちだが出席できた。(１２～１１回)	評価前提条件を満たす事ができなかった。(１０～０回)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	子どもの食と栄養 （科目ナンバリング：EHS122075　　）				
授業担当者 （所属・職名）	湯浅　頼佳（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　湯浅　頼佳　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『子どもの食生活　第6版 栄養・食育・保育』	上田玲子	ななみ書房	2022	9784903355986	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション及びシラバスの説明 本学ディプロマ・ポリシーの説明 この科目を履修し終了した時に「身に着く力」の説明授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読む。子どもの食生活に関係した話題を調べる。（９０分）	シラバスの確認をする。授業後にノート整理を含めた復習を行い、自身の修得目標達成度を測定する。「身に着く力」について考察する。（９０分）
2	子どもの健康と食生活の意義－子どもの心身の健康と食生活・子どもの食生活の現状と課題	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。（９０分）	授業後にノート整理を含めた復習を行い、自身の修得目標達成度を測定する。（９０分）
3	栄養に関する基本的知識（１）栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。（９０分）	授業後にノート整理を含めた復習を行い、自身の修得目標達成度を測定する。（９０分）
4	栄養に関する基本的知識（２）食事摂取基準と献立作成・調理の基本	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。（９０分）	授業後にノート整理を含めた復習を行い、自身の修得目標達成度を測定する。（９０分）
5	子どもの発育・発達と食生活（１）乳児期の授乳・離乳の意義と食生活	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。（９０分）	授業後にノート整理を含めた復習を行い、自身の修得目標達成度を測定する。（９０分）
6	子どもの発育・発達と食生活（２）幼児期の心身の発達と食生活	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。（９０分）	小テストの振り返りを行う。授業後にノート整理を含めた復習を行い、自身の修得目標達成度を測定する。（９０分）
7	子どもの発育・発達と食生活（３）学童期の心身の発達と食生活・生涯発達と食生活	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。（９０分）	授業後にノート整理を含めた復習を行い、自身の修得目標達成度を測定する。（９０分）
8	食育の基本と内容（１）食育における養護と教育の一体性	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。（９０分）	授業後にノート整理を含めた復習を行い、自身の修得目標達成度を測定する。（９０分）
9	食育の基本と内容（２）食育の内容と計画及び評価・食育のための環境	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。（９０分）	授業後にノート整理を含めた復習を行い、自身の修得目標達成度を測定する。（９０分）
10	食育の基本と内容（３）地域の関係機関や職員間の連携・食生活指導及び食を通した保護者への支援	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。（９０分）	授業後にノート整理を含めた復習を行い、自身の修得目標達成度を測定する。（９０分）
11	家庭や児童福祉施設における食事と栄養	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。（９０分）	授業後にノート整理を含めた復習を行い、自身の修得目標達成度を測定する。（９０分）
12	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。（９０分）	小テストの振り返りを行う。授業後にノート整理を含めた復習を行い、自身の修得目標達成度を測定する。（９０分）
13	調理実習（１）	調理実習に必要な要件について調べておく。（９０分）	授業後にノート整理を含めた復習を行い、自身の修得目標達成度を測定する。うまく行かなかった点や反省点を次回に繋げる様考える。（９０分）
14	調理実習（２）	調理実習に必要な要件について調べておく。（９０分）	調理実習についてレポートを作成し、自身の修得目標達成度を測定する。（９０分）
15	まとめ(授業最終回において講評し、フィードバック実施、第1回目にあげた「身に着く力」について検証を実施)	小テストについて確認しておく。子どもの栄養について理解したことをまとめる。（９０分）	受講後の考察をレポートにまとめる。試験範囲についてノートを整理する。「身に着く力」について再度考察する。（９０分）
16	授業改善アンケートの実施及び定期試験実施 ６０分の試験終了後、残りの３０分で解説を実施	試験準備（９０分）	試験の振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	障害児保育Ⅰ （科目ナンバリング：SNE122092　　）				
授業担当者 （所属・職名）	坂上　俊樹（社会福祉学科・非常勤教員）		研究室等所在	１号館1階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　坂上　俊樹　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題（障害児保育）について指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応				

概要

履修目標

共生社会の創造のために以下の５つの観点で幅広い教養を身に付ける
１．障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。
２．様々な障害について理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について学ぶ。
３．障害のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかかわりのなかで育ち合う保育実践について理解を深める。
４．障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。
５．障害のある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP４、DP５に対応する。

到達目標

障害児保育を支える理念、障害の理解と保育における発達の援助、障害児保育の実際、家庭及び関係機関との連携、障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題について具体的に述べることができる。
「ＳＤＧs４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業全体の内容と概要

障害児保育を支える理念、障害の理解と保育における発達の援助、障害児保育の実際，家庭及び関係機関との連携、障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題について学修する。

授業の方法

教科書の輪読、パワーポイント及び配布資料で講義形式とし、教科書の内容の確認、ロールプレイや質疑応答の時間を設けるなどで基礎知識の定着を図る。また、DVD で具体的な実践場面を視聴し内容をレポートにまとめ知識の伸展を図る。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・具体的な指導場面の指導事例を元に、ロールプレイで体感したり、障害児保育にかかわる実践事例のDVD 教材を視聴した後に事例に基づいたレポート作成を求めるので、授業を欠席することのないよう留意すること。
・教科書を必ず持参すること。
・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１1回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	２０%	０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
障害児保育Ⅰの理解	障害児保育Ⅰについて、学修した知識・技能を基盤に、さらに学修を深めようとすることができた。	障害児保育Ⅰについて、必要な知識・技能を理解することができた。	障害児保育Ⅰについて、一定程度の理解ができた。	障害児保育Ⅰについて、一部理解することができた。	障害児保育Ⅰについて、理解できなかった。
障害児保育Ⅰの思考・判断・表現	障害児保育Ⅰについて、積極的に思考・判断し、自ら表現を工夫して活動することができた。	障害児保育Ⅰについて、思考・判断し、自ら表現することができた。	障害児保育Ⅰについて、思考活動に取り組み表現しようとすることができた。	障害児保育Ⅰについて、思考しようとすることはできた。	障害児保育Ⅰにかかわる思考・判断・表現について必要な取り組みができなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心を持って参加することができた。	授業への関心を示すことはできた。	授業への積極的な参加ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	障害児保育Ⅰ （科目ナンバリング：SNE122092　　）				
授業担当者 （所属・職名）	坂上　俊樹（社会福祉学科・非常勤教員）		研究室等所在	１号館1階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　坂上　俊樹　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題（障害児保育）について指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『障がいのある子どもの保育・教育の実践』	中山智哉・濱田尚志・末成妙子	学文社	2022年	978-4-7620-3121-2	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ～授業改善アンケート結果反映の説明とシラバスの説明、障害児保育Ⅰの概要 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを確認しておくこと （９０分）	「障害」についての概念を確認する （９０分）
2	障害の理解と保育における発達の援助（１）肢体不自由児、視覚・聴覚障害児等の理解と援助	教科書の「障害のある子どもの保育の実際」を事前に読んでおくこと （９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
3	障害の理解と保育における発達の援助（２）知的障害児の理解と援助	教科書の「障害のある子どもの保育の実際」を事前に読んでおくこと （９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
4	障害の理解と保育における発達の援助（３）発達障害児の理解と援助①（ADHD－注意欠陥多動性障害、LD－学習障害等）	教科書の「障害のある子どもの保育の実際」を事前に読んでおくこと （９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
5	障害の理解と保育における発達の援助（４）発達障害児の理解と援助②（PDD、自閉症スペクトラム等）	教科書の「障害のある子どもの保育の実際」を事前に読んでおくこと （９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
6	障害児保育の実際（１）保育課程に基づく指導計画の作成と記録及び評価	教科書の「障害のある子どもの保育の実際」を事前に読んでおくこと （９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
7	障害児保育の実際（２）個々の発達を促す生活や遊びの環境	教科書の「保育実践の基礎知識」を事前に読んでおくこと （９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
8	障害児保育の実際（３）子ども同士のかかわりと育ち合い	教科書の「保育実践の基礎知識」を事前に読んでおくこと （９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
9	障害児保育の実際（４）職員間の協働	教科書の「障害のある子どもの保育の実際」を事前に読んでおくこと （９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
10	家庭及び関係機関との連携（１）保護者や家族に対する理解と支援	教科書の「家族への支援と保育者の役割」を事前に読んでおくこと （９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
11	家庭及び関係機関との連携（２）地域の専門機関等との連携及び個別の支援計画の作成	教科書の「施設・専門機関の地域ネットワーク」を事前に読んでおくこと （９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
12	家庭及び関係機関との連携（３）小学校等との連携	教科書の「施設・専門機関の地域ネットワーク」を事前に読んでおくこと （９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
13	障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題（１）保健・医療における現状と課題	教科書の「障害のある子どもの保育の今後の課題」を事前に読んでおくこと （９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
14	障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題（２）福祉・教育における現状と課題の概要、ＤＶＤの視聴	配布した資料を事前に読んでおくこと（９０分）	ＤＶＤ視聴時のメモを元に整理すること （９０分）
15	障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題（２）福祉・教育における現状と課題 「授業改善アンケートの実施」	教科書の「障害のある子どもの保育の今後の課題」を事前に読んでおくこと （９０分）	配付資料に基づき復習しておくこ（９０分）
16	定期試験「６０分の試験終了後、残り３０分で解説をし、フィードックする」 科目を修了して『身に付く力』についての検証	指定した教科書や講義内容について整理しておくこと（９０分）	試験の結果を見直す(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科 4年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	WEBﾃﾞｻﾞｲﾝIII （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	山腰　雅樹（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　山腰　雅樹　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	制作現場における実務を行っている教員がその知識と経験を活かし、今日の現場で通用する技術や知識を実践を通して指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

WEB制作における基本的な概念・手法を学び、実践的な基礎力を身につけることが目的であり、社会から求められる多様なWEB展開に応える為の知識・技術を習得する為の科目である。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

WEB制作環境とコンテンツ制作における概念や文法を理解し、基本的な知識・技術を習得する。

授業全体の内容と概要

制作現場で利用される代表的な制作ツールを用いた演習を通してHTMLやCSS等の基礎的な知識・技術について習得する。

授業の方法

授業ではパワーポイント資料やマークアップコード等をディスプレイに表示して解説を行い（必要があれば資料を配布）演習を行う。
また、質問や不明点等は演習中に実演も交えながら個別に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

Adobe CCライセンス必須。
欠席した場合は次の授業までに制作内容を補完しておくこと。
コンピュータを利用する為、遅刻・欠席すると次の授業の理解が厳しくなるので注意すること。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施することができる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	100%	0%	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
WEB制作環境の理解・構築	WEBサイト制作を行う為の環境を理解し、制作に必要なツールをデータに応じて適切に使い分けて起動することができた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解し、制作に必要なツールの設定を行い、起動することができた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解し、制作に必要なツールを入手することができた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解できた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解できなかった。
WEB制作ツールの知識・技能	WEBサイト制作を行う為のツールを理解し、デザインやマークアップに応じて適切に使い分けて操作を行うことができた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解し、必要なツールを操作することができた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解し、必要なツールを起動することができた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解できた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解できなかった。
マークアップの知識・技能	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解し、デザインに応じて適切に構造を組み立て、問題なくデザインを表現することができた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解し、構造を組み立ててWEBサイト上でデザインを表現することができた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解し、構造を組み立てることができた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解できた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科 4年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	WEBﾃﾞｻﾞｲﾝIII （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	山腰　雅樹（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2	（単位認定責任者：　山腰　雅樹　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	制作現場における実務を行っている教員がその知識と経験を活かし、今日の現場で通用する技術や知識を実践を通して指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 制作ツールのインストール・設定 HTMLの基礎知識 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスを読んでおくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
2	HTML基礎演習	PC内の制作環境に不備がないことを確認しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
3	CSSの基礎知識 CSS基礎演習①	HTMLの基本について再確認しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
4	CSS基礎演習②	CSSの基本について再確認しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
5	マークアップ基礎演習①	HTMLとCSSの演習内容について再確認しておくこと（90分	授業の内容を復習すること（90分）
6	マークアップ基礎演習②	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと（90分	授業の内容を復習すること（90分）
7	デザインツールの基礎知識① ※Illustrator、XD、Figma	インターネット上で公開されているサイトを確認し、代表的なレイアウトイメージを把握しておくこと（90分	授業の内容を復習すること（90分）
8	デザインツールの基礎知識② ※Illustrator、XD、Figma	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと（90分	授業の内容を復習すること（90分）
9	ページ制作演習①	前回までの制作データを整理しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
10	ページ制作演習②	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
11	ページ制作演習③	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
12	ページ制作演習④	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
13	課題演習（ポートフォリオページ制作）①	前回までの制作データを整理しておくこと・該当資料を確認しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
14	課題演習（ポートフォリオページ制作）②	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
15	課題演習（ポートフォリオページ制作）③	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
16	課題演習（ポートフォリオページ制作）④ フィードバック 授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」についての検証	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと（90分）	演習内容を振り返り知識を定着させること（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科 4年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	WEBﾃﾞｻﾞｲﾝIV （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	山腰　雅樹（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　山腰　雅樹　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	制作現場における実務を行っている教員がその知識と経験を活かし、今日の現場で通用する技術や知識を実践を通して指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

WEB制作における基本的な概念・手法を学び、実践的な基礎力を身につけることが目的であり、社会から求められる多様なWEB展開に応える為の知識・技術を習得する為の科目である。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

WEB制作環境とコンテンツ制作における概念や文法をより深く理解し、制作現場に即した実践的な知識・技術を習得する。

授業全体の内容と概要

制作現場で利用される代表的な制作ツールを用いた演習を通してHTMLやCSS、jQuery等の実践的な知識・技術について演習を通して習得する。

授業の方法

授業ではパワーポイント資料やマークアップコード等をディスプレイに表示して解説を行い（必要があれば資料を配布）演習を行う。
また、質問や不明点等は演習中に実演も交えながら個別に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

Adobe CCライセンス必須。
欠席した場合は次の授業までに制作内容を補完しておくこと。
コンピュータを利用する為、遅刻・欠席すると次の授業の理解が厳しくなるので注意すること。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施することができる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	100%	0%	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
WEB制作環境の理解・構築	WEBサイト制作を行う為の環境を理解し、制作に必要なツールをデータに応じて適切に使い分けて起動することができた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解し、制作に必要なツールの設定を行い、起動することができた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解し、制作に必要なツールを入手することができた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解できた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解できなかった。
WEB制作ツールの知識・技能	WEBサイト制作を行う為のツールを理解し、デザインやマークアップに応じて適切に使い分けて操作を行うことができた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解し、必要なツールを操作することができた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解し、必要なツールを起動することができた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解できた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解できなかった。
マークアップの知識・技能	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解し、デザインに応じて適切に構造を組み立て、問題なくデザインを表現することができた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解し、構造を組み立ててWEBサイト上でデザインを表現することができた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解し、構造を組み立てることができた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解できた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科 4年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	WEBﾃﾞｻﾞｲﾝIV （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	山腰　雅樹（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2	（単位認定責任者：　　山腰　雅樹　　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	制作現場における実務を行っている教員がその知識と経験を活かし、今日の現場で通用する技術や知識を実践を通して指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 WEB制作にまつわる環境の基礎知識 サーバ・ドメインの基礎知識 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスを読んでおくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
2	jQueryの基礎知識 jQuery基礎演習①	PC内の制作環境に不備がないことを確認しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
3	jQuery基礎演習②	jQueryの基本について再確認しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
4	アニメーションの基礎知識 アニメーション演習①	HTMLとCSSの基本について再確認しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
5	アニメーション演習②	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと（90分	授業の内容を復習すること（90分）
6	レスポンシブWEBデザインの基礎知識 メディアクエリ基礎演習	CSSの基本について再確認しておくこと（90分	授業の内容を復習すること（90分）
7	SASSの基礎知識 SASS基礎演習	CSSとメディアクエリの基本について再確認しておくこと（90分	授業の内容を復習すること（90分）
8	ページ制作演習①	前回までの制作データを整理しておくこと（90分	授業の内容を復習すること（90分）
9	ページ制作演習②	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
10	PHPの基礎知識 PHP基礎演習①	前回までの制作データを整理しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
11	PHP基礎演習②	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
12	課題演習（サイト制作演習）①	前回までの制作データを整理しておくこと・該当資料を確認しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
13	課題演習（サイト制作演習）②	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
14	課題演習（サイト制作演習）③	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
15	課題演習（サイト制作演習）④	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
16	課題演習（サイト制作演習）⑤ フィードバック 授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」についての検証	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと（90分）	演習内容を振り返り知識を定着させること（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	子育て支援 （科目ナンバリング：CHS122095　　）				
授業担当者 （所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　杉本　大輔　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードなどを参照すること				

概要

履修目標

以下について理解し、事例研究やロールプレイ等を通して自己覚知を行う。
①保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開について理解する。
②保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３，DP４，DP５に対応する。

到達目標

①保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開について理解することができる。
②保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術について理解することができる。

授業全体の内容と概要

①保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に学ぶ。
②保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に学ぶ。

授業の方法

授業は、演習テーマに基づき思考・考察・意見交換・討論・発表等の一連の活動を行う。小グループでの話し合い、事例分析・ロールプレイング等に基づく各自の感想、意見、振り返りを毎回述べてもらう。グループ発表、個人発表等に対してコメントを述べフィードバックを行う。レポートについても解説によるフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

演習テーマに基づき小グループでの話し合い、ロールプレイング等を行うので主体的に参加して欲しい。専門職としての自己を成長させるための時間として活用して欲しい。そのためにも「準備学習」については、示したテーマに係るこれまでの学びを踏まえて整理すること。「事後学習」については、その日取り組んだ演習内容を記録し専門職を目指す者としての自己覚知を重視すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	３０％	０％	０％	７０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保育相談支援の特性について	保育相談支援の特性について、理解を深めた。	保育相談支援の特性について、ほぼ理解を深めた。	保育相談支援の特性について、やや理解を深めた。	保育相談支援の特性について、理解することができた。	保育相談支援の特性について、理解することができなかった。
保育相談支援の展開について	保育相談支援の展開について、理解を深めた。	保育相談支援の展開について、ほぼ理解を深めた。	保育相談支援の展開について、やや理解を深めた。	保育相談支援の展開について、理解することができた。	保育相談支援の展開について、理解することができなかった。
保育士の行う子育て支援の内容について	保育士の行う子育て支援の内容について、理解を深めた。	保育士の行う子育て支援の内容について、ほぼ理解を深めた。	保育士の行う子育て支援の内容について、やや理解を深めた。	保育士の行う子育て支援の内容について、理解することができた。	保育士の行う子育て支援の内容について、理解することができなかった。
保育士の行う子育て支援の方法及び技術について	保育士の行う子育て支援の方法及び技術について、理解を深めた。	保育士の行う子育て支援の方法及び技術について、ほぼ理解を深めた。	保育士の行う子育て支援の方法及び技術について、やや理解を深めた。	保育士の行う子育て支援の方法及び技術について、理解することができた。	保育士の行う子育て支援の方法及び技術について、理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	子育て支援 （科目ナンバリング：CHS122095　　）				
授業担当者 （所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　杉本　大輔　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードなどを参照すること				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバス確認、履修による「身に付く力」の説明を含む）、子育て支援の特性①子どもの保育とともに行う保護者の支援 授業改善アンケート結果反映の説明	保護者の支援について（４５分）	演習の記録と自己覚知（４５分）
2	子育て支援の特性②日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成	信頼関係の形成について（４５分）	演習の記録と自己覚知（４５分）
3	子育て支援の特性③保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解	多面的な理解について（４５分）	演習の記録と自己覚知（４５分）
4	子育て支援の特性④子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供	多様な機会や場の提供について（４５分）	演習の記録と自己覚知（４５分）
5	子育て支援の展開①子ども及び保護者の状況・状態の把握	クライエントの状況・状態の把握について（４５分）	演習の記録と自己覚知（４５分）
6	子育て支援の展開②支援計画と環境の構成	支援計画について（４５分）	演習の記録と自己覚知（４５分）
7	子育て支援の展開③支援の実践・記録・評価・カンファレンス及び職員間の連携・協働	職員間の連携・協働について（４５分）	演習の記録と自己覚知（４５分）
8	子育て支援の展開④社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働	社会資源の活用について（４５分）	演習の記録と自己覚知（４５分）
9	子育て支援とその実際（内容・方法・技術）①保育所等における支援	保育所等における支援（４５分）	演習の記録と自己覚知（４５分）
10	子育て支援とその実際（内容・方法・技術）②地域の子育て家庭に対する支援	地域の子育て家庭に対する支援（４５分）	演習の記録と自己覚知（４５分）
11	子育て支援とその実際（内容・方法・技術）③障害のある子ども及びその家庭に対する支援	障害のある子どもの家庭に対する支援（４５分）	レポート作成（４５分）
12	子育て支援とその実際（内容・方法・技術）④特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援	特別な配慮を要する子どもの家庭に対する支援（４５分）	レポート作成（９０分）
13	子育て支援とその実際（内容・方法・技術）⑤子ども虐待の予防と対応	子ども虐待の予防と対応（９０分）	演習の記録と自己覚知（４５分）
14	子育て支援とその実際（内容・方法・技術）⑥要保護児童等の家庭に対する支援	要保護児童等の家庭に対する支援（４５分）	演習の記録と自己覚知（４５分）
15	子育て支援とその実際（内容・方法・技術）⑦多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解、まとめ（授業改善アンケートの実施）	多様な支援ニーズを抱える子育て家庭（４５分）	事例研究（４５分）
16	課題（レポート）対する解説を行いフィードバックする。レポート提出により身につく力の検証を行う。	事例研究（４５分）	事例研究（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	病弱教育 （科目ナンバリング：SNE122111　　）				
授業担当者 （所属・職名）	千葉　聡美（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　千葉　聡美　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験から、その経験を活かして具体的な実践例を中心に各特性等の理解を図り、さらに教育実習にも必要な内容を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

病弱教育の教育課程及び支援の方法を理解し、教育課程の枠組みを踏まえ、個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成する意義と方法を理解する。病弱・身体虚弱教育に必要な基本的な知識と健康や病気の状態に応じた指導の在り方等の知識を修得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ3、DP４、DP５に対応する。

到達目標

病弱・身体虚弱児教育の教育課程、指導内容・方法等についての基礎的知識を具体的に述べることができる。

授業全体の内容と概要

病弱・身体虚弱児の健康や病気の状況に応じた教育課程や指導内容・方法、医療機関との連携、医療的ケアの在り方等について構成する。
「SDG3　すべての人に健康と福祉」「SDG４　質の高い教育をみんなに」の関連授業。

授業の方法

各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。授業ではパワーポイント及び配布物（レジメ）で実施し、資料にて説明した後、グループワーク等でグループ協議を行う。また具体的な事例のＶＴＲ教材視聴後のレポート提出を行う。レポート等については、コメントにてフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

○２０分以上の遅刻は欠席とし、遅刻３回で欠席１回とみなす。
○不測の事態が生じた際は、授業や補講等をオンライン及びオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（特別支援）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	２０%	０%	０%	２０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
病弱教育の基礎的な知識・技能の習得	知識・技能についての基礎的内容について高い関心をもって理解し、さらに深めることができた。	知識・技能の基礎的内容について関心をもって理解し、学修できた。	知識・技能の基礎的内容についてほぼ学修できた。	知識・技能について不十分ながら理解することができた。	知識・技能の基礎的内容について理解できなかった。
病弱教育に関する思考・判断・表現	テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して積極的に表現できた。	テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで意欲的に表現できた。	テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで取り組みができた。	テーマの受け止め方が不十分で思考・判断に課題がみられ，表現できなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が低いが参加できた。	授業への態度に課題があり，参加できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	病弱教育 （科目ナンバリング：SNE122111　　）				
授業担当者 （所属・職名）	千葉　聡美（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　千葉　聡美　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験から、その経験を活かして具体的な実践例を中心に各特性等の理解を図り、さらに教育実習にも必要な内容を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本 2020』	ジアース教育新社	ジアース教育新社	２０２０	978-4-86371-543-6	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス説明とオリエンテーション 科目を修了して『身に付く力』についての説明 授業改善アンケート結果反映の説明	教科書から「病弱教育」についての課題を整理する（９０分）	課題についてノートに整理し、シラバスで確認すること。（９０分）
2	病弱教育の歴史的変遷	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
3	病弱教育の特別支援学校・特別支援学級	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
4	教育課程と学習指導要領（１）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
5	教育課程と学習指導要領（２）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
6	個別の教育支援計画と個別の指導計画	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
7	教科指導	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な語句や内容の整理とレポートの作成（９０分）
8	自立活動	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
9	病弱教育におけるICTの活用	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
10	病気等の状態に応じた指導と配慮	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
11	重度重複児の指導	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
12	訪問教育	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
13	保護者との連携	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
14	多職種連携と医療的ケア	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
15	進路指導と自立 授業改善アンケートの実施	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な語句や内容の整理とレポートの作成（９０分）
16	定期試験（６０分の試験終了後、残りの３０分で解説しフィードバックする。） 科目を修了して『身に付く力』を自己検証	講義内容の重要事項について整理しておくこと（９０分）	試験の結果を見直す（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	知的障害教育Ⅱ （科目ナンバリング：SNE123108　　）				
授業担当者 （所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　藤根　収　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、特別支援教育（知的障害教育）について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

特別な支援を必要とする知的障害児の教育課程及び指導・支援の方法を理解し、知的障害児の教育を効果的に行うために必要な基本的知識と障害の状況等に応じた指導のあり方等の実践的な知識を習得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ3、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

特別支援学校学習指導要領等を基準として，知的障害教育における教育課程の編成やカリキュラム・マネジメントの考え方、個別の指導計画や個別の教育支援計画を作成する意義と活用方法等を理解する。また、知的障害教育における自立活動の指導や各教科等の授業づくりにあたって、効果的な指導を行うために必要な指導内容・方法や児童生徒理解の方法等についての基礎的知識を理解する。

授業全体の内容と概要

毎回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。また、知的障害教育に係わる教育課程の編成や個別の指導計画の作成、授業づくりの仕方、各種検査の理解について、具体的な事例や演習方式も取り入れながら行う。
「ＳＤＧs４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業ではパワーポイント及び配布物(レジメ)で実施し、資料にて説明した後、グループワーク等で、テーマに関する事項に関して、思考・考察、意見交換、討議、発表等の一連の活動を行うなどして理解を深める。また、実践事例のVTR教材視聴の事例に基づくレポート提出を行う。なお、レポート等にはコメントにてフィードバックする。
ＩＣＴに関連して、授業についての質問などは、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。
不測の事態が起きた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は欠席とし、遅刻３回で欠席１回とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（特別支援学校教諭）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	２０%	０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知的障害教育の専門的な知識・技能の習得	専門的な内容について高い関心をもって理解し、さらに深めてようとすることができた。	専門的な内容について、関心をもって理解し、学修することができた。	専門的な内容を学修することができた。	専門的な内容について一定程度理解することができた。	専門的な内容について理解できなかった。
知的障害教育に関する思考・判断・表現	テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して積極的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで意欲的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで表現できた。	テーマに基づき、一部思考・判断し、個人やグループで表現できた。	テーマの受け止めが不十分で、思考・判断・表現が十分にできなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が一定程度みられた。	授業への参加態度・姿勢が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	知的障害教育Ⅱ （科目ナンバリング：SNE123108　　）				
授業担当者 （所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2	（単位認定責任者：　　藤根　収　　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、特別支援教育（知的障害教育）について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本　2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『特別支援教育の授業案づくり』	太田正己	黎明書房	2016	978-4-654-01929-8	
2	『特別支援教育の学習指導案と授業研究』	肥後祥治　ほか	ジアース教育新社	2013	978-4-86371-213-3	
3	『特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編（小学部・中学部）』	文部科学省	開隆堂出版	2018	978-4-304-04230-0	
4	『教育の情報化に関する手引』	文部科学省		2019		
5	『教育の情報化に関する手引（追補版）』	文部科学省		2020		

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ～授業改善アンケート結果反映の説明とシラバスの説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明、知的障害教育について～	教科書から「知的障害教育」についての課題を整理する。（９０分）	課題についてノートに整理し、シラバスで確認すること。（９０分）
2	知的障害教育の基礎知識。関係する法令・制度等（教育基本法や学校教育法、学習指導要領等）の理解について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
3	特別支援学校学習指導要領のポイントとカリキュラム・マネジメントについて	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
4	特別支援学校や特別支援学級における教育について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
5	知的障害教育の歴史的変遷～戦前・戦後の教育、学習指導要領等の変遷等について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
6	教育課程（1） ～教育課程編成上の基本事項と指導の形態について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
7	教育課程（2） ～各教科等の指導における授業づくりについて	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
8	教育課程（3） ～各教科等を合わせた指導における授業づくりについて	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
9	教育課程（4） ～自立活動の指導と個別の指導計画の作成について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
10	教育課程（5） ～学習指導案の作成と教材・教具の工夫、ＩＣＴの活用等	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
11	知的障害に関する理解（1） ～児童生徒理解と就学相談等の実際	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
12	知的障害に関する理解（2） ～発達検査の理解と活用	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
13	知的障害に関する理解（3） ～社会生活能力検査の理解と活用	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
14	知的障害に関する理解（4） ～知能検査の理解と活用	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
15	まとめと今後の課題　～講評、フィードバック～ 科目を修了して「身に付く力」についての検証、授業改善アンケートの実施	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な語句や内容を整理するとともにレポートを作成する。（９０分）
16	定期試験（６０分の試験終了後、残りの３０分で解説する。）	教科書等で講義内容を整理する。（９０分）	試験の結果を見直す。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	発達障害等教育総論 （科目ナンバリング：SNE122114　　）				
授業担当者 （所属・職名）	堀川　厚志（社会福祉学科・特任教授）	研究室等所在	２号館８階		
単位数	2　（単位認定責任者：　堀川　厚志　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政機関に勤務経験のある教員が、特別支援教育に必要な今日的課題等について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

重複障害の概要及び限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等の心理、病理、認知特性や行動特性等の基礎的な知識を理解するとともに、その特性等に応じた教育内容、方法等の対応に必要な基本的な知識、配慮事項等を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３、DP４、DP５に対応する科目

到達目標

重複障害の概要及び限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等の心理、病理、認知特性や行動特性等の基礎的な内容がわかり、指導上の基本的な配慮事項等がわかる。

授業全体の内容と概要

重複障害の概要及び限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等に関する定義、原因、医学的診断、状態の把握（アセスメント、心理検査）、認知特性、行動特性等について、教育的な望ましい対応の視点から説明する。
「SDGs４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、プレゼンテーションソフトによるスライド資料の提示と資料配布による講義形式を主とする。
一授業の前半には、前時使用の資料を使用し、内容の振り返りと確認を実施する。
資料中に課題を用意し、少人数によるグループワークやペアワークを実施する。
内容によっては、Webサイトを検索を通して内容を探究する。
一授業の終了前には、内容の確認小テストを実施し、重要ポイントなどを確認する。
Microsoft Forms等のオンライン調査ツールを活用し、小テストなどを実施するなどして、理解度を把握し指導する。
学生の不明点等については、チャットなどを活用して迅速に解決できるようにする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業内容に関するプレゼン資料の補足説明や、レポート課題の出題、重要部分の小テストを実施するので、欠席をしないようにすること。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
事前相談を受け、学生の希望する修学サポート内容と授業及び評価の成立要件等を調整し、修学サポートを実施する。

資格指定科目

教職課程（特別支援）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上とする。
中間で提示課題に沿ったレポートの提出は、単位取得に必須条件とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	３０%	０%	０%	１０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
重複障害及び限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等の心理や生理、病理、行動特性等の基本的な内容の理解	限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等の心理や生理、病理、行動特性等を十分に理解し、さらに深化させたり、発展的な学修ができた。	限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等の心理や生理、病理、行動特性等を十分に理解できた。	限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等の心理や生理、病理、行動特性等を一定程度、理解できた。	限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等について部分的に理解できた。	限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等の心理や生理、病理、行動特性等を理解できなかった。
基本的内容及び指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応に関する思考力、判断力、表現力の向上	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について、的確かつ発展的に整理し、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について整理し、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について整理し、思考力、判断力、表現力を高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について整理し、部分的に思考力、判断力、表現力を高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について整理し、思考力、判断力、表現力を高めることができなかった。
授業への参加意欲や学修に向かう姿勢・態度	授業には意欲的に参加し、自ら発言するなど、常に積極的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、積極的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、部分的に積極的に取り組むことができた。	授業に参加し、ときどき積極的に取り組むことができた。	授業に参加し、積極的に取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	発達障害等教育総論 （科目ナンバリング：SNE122114　　）				
授業担当者 （所属・職名）	堀川　厚志（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　堀川　厚志　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政機関に勤務経験のある教員が、特別支援教育に必要な今日的課題等について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本2020』	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2	『新版子どもの発達障害事典』	原　仁	合同出版	2019	978-4-7726-1382-8	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション （シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」の説明、重複障害、発達障害等の概要について）	シラバスを読む （９０分）	内容を振り返る （９０分）
2	重複障害と発達障害等の理解について	状態像を調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
3	重複障害と発達障害等の定義と診断基準について	定義と診断基準を調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
4	重複障害と発達障害等の行動の特徴と原因等の変遷について	行動の特徴と原因論を調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
5	重複障害及び自閉スペクトラム症等の状態像とその理解について	高機能自閉症等について調べる（９０分）	重要事項を整理する （９０分）
6	重複障害及び限局性学習症の状態像とその理解について	学習障害について調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
7	重複障害及び注意欠如多動症の状態像とその理解について	注意欠陥多動性障害について調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
8	知的障害と重複障害等について	知的発達の遅れについて調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
9	知的障害児及び重複障害児への学習支援について	知的障害児について調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
10	発達障害児の学びと状態状態の変化について	二次的な障害について調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
11	限局性学習症の子への教育的な対応について	望ましい対応ついて調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
12	注意欠如多動症の子への教育的な対応について	望ましい対応ついて調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
13	自閉スペクトラム症（高機能自閉症、アスペ症候群症候群）等の子への教育的な対応について	望ましい対応ついて調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
14	自閉スペクトラム症（アスペルガー症候群）の子への教育的な対応について	望ましい対応ついて調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
15	アセスメントと実態把握等について 科目を修了して「身に付く力」の検証、授業改善アンケートの実施	アセスメント等について調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
16	定期試験 （５０分間の筆記テスト、終了後１５分間の解答解説の実施）	全内容を整理する （９０分）	全内容を振り返る （９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	講義,演習	必修・選択	選択
科目名称	特別支援教育実習(事前指導)(4年) （科目ナンバリング：SNE123116　　）				
授業担当者 （所属・職名）	木村　浩紀（社会福祉学科・特任教授）、千葉　聡美（社会福祉学科・特任教授）	研究室等所在	２号館８階（木村）・２号館７階（千葉）		
単位数	1　（単位認定責任者：　木村　浩紀　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員が、その経験を活かして教育実習について事前指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

特別支援教育の趣旨や内容を理解するとともに、特別支援学校教諭一種免許状取得のために必要な教育実習の意義を理解する。模擬授業等の演習では、教育実習を見据え、学校現場で教壇にたつ教師の役割を意識して学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

特別支援学校教育の概要や教育実習について理解し、障害のある子どもの教育活動や授業づくりに必要な基礎的な知識、技能、態度を身に付ける。

授業全体の内容と概要

特別支援学校教育の概要および授業の実際について理解できるとともに、学校の教育活動全般についても具体的な理解を図るようにする。
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業はパワーポイント等の配布物資料で実施するとともに、学生自らが考えた授業設計や指導案づくり、模擬授業等を実際の学校現場に近い内容で実施する。演習後にはコメントにてフィードバックする。また、夏季休暇等を活用して学校現場の見学や公開授業研究会等に参加させ、レポート提出を行う。なお、指導案やレポートにはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

1　常に障害のある子どもの前に立って指導する姿を想定して授業に臨むこと。
2　４年生での特別支援学校の教育実習（事前･事後指導）の単位取得に必修科目であること。
3　普段から障害児のある子どもの生活や教育に関する新聞記事やテレビ情報を収集すること。
4　学習指導案作成にかかわる情報の収集に努め、教育実習に備えること。
5　下記の授業以外に特別支援学校の参観や研究授業等に参加するようにすること。
6　模擬授業を行う際には、授業者以外は生徒役を実践して授業案の作成・授業展開等について学ぶこと。
7　不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（特別支援）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要になる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	１０％	０％	０％	８０％	１０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
特別支援教育の基礎的な知識・技能の理解	知識・技能に関する基礎的内容について高い関心をもって理解し、さらに深めてようとすることができた。	知識・技能に関する基礎的内容について、関心をもって理解し、学修することができた。	知識・技能に関する基礎的内容を学修することができた。	知識・技能に関する基礎的内容について一定程度理解することができた。	知識・技能に関する基礎的内容の理解ができなかった。
授業づくりに対しての思考・判断・表現	自ら授業づくりを構想し、創意工夫を凝らした指導案作成と模擬授業に積極的に取り組んだ。	自ら授業づくりを構想し、指導案作成と模擬授業に積極的に取り組んだ。	自ら授業づくりを構想し、指導案作成と模擬授業に取り組んだ。	指導案作成と模擬授業に取り組んだ。	指導案作成と模擬授業への取り組みが十分にできなかった。
授業や模擬授業への取り組み姿勢	非常に積極的に取り組むことができた。	積極的に取り組むことができた。	関心をもって取り組むことができた。	関心をもって取り組もうとした。	取組態度・姿勢が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	講義,演習	必修・選択	選択
科目名称	特別支援教育実習(事前指導)(4年) (科目ナンバリング：SNE123116　　)				
授業担当者 (所属・職名)	木村　浩紀（社会福祉学科・特任教授）、千葉　聡美（社会福祉学科・特任教授）	研究室等所在	２号館８階（木村）・２号館７階（千葉）		
単位数	1　（単位認定責任者：　木村　浩紀　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員が、その経験を活かして教育実習について事前指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本　2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	２０２０	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『特別支援学校学習指導要領』	文部科学省	海文堂出版	２０１８	978-4-303-12424-3	
2	『教育実習完璧ガイド』	宮崎　猛　小泉博明	小学館	２０１５	978-4-09-105015-1	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション 「シラバスの説明」「身に付く力」 「授業改善アンケート結果反映の説明」」「講義の進め方」	教育実習に臨む心構えを発表する準備をしてくること。（９０分）	オリエンテーションの重要事項を整理すること。（９０分）
2	特別支援学校の教育実習の意義や目標 教育実習の実際　（挨拶、服務規律、注意点）	事前に意義や目標を調べておくこと。（９０分）	授業内容の概要と課題等を整理すること。（９０分）
3	実習のスケジュールと心構え 実習日誌の書き方、文章の書き方	事前に内容を確認し、調べておくこと。（９０分）	授業内容の概要と課題等を整理すること。（９０分）
4	学習指導案の作成Ⅰ ・学習指導案の構成と要素 ・学習指導案の記入の方法	事前に内容を確認し、調べておくこと。（９０分）	授業内容の概要と課題等を整理すること。（９０分）
5	学習指導案の作成Ⅱ ・学習指導案の記入の実際	事前に内容を確認し、調べておくこと。（９０分）	授業内容の概要と課題等を整理すること。（９０分）
6	学習指導案の作成Ⅲ ・各自で作成	事前に内容を確認し、調べておくこと。（９０分）	授業内容の概要と課題等を整理すること。（９０分）
7	模擬授業の実際Ⅰ　（各教科を合わせた指導）	対象児童生徒を想定して模擬授業の準備をしてくること。（９０分）	模擬授業の振り返りと課題等を整理すること（９０分）
8	模擬授業の実際Ⅱ（各教科等を合わせた指導）	対象児童生徒を想定して模擬授業の準備をしてくること。（９０分）	模擬授業の振り返りと課題等を整理すること（９０分）
9	模擬授業の実際Ⅲ（各教科等を合わせた指導）	対象児童生徒を想定して模擬授業の準備をしてくること。（９０分）	模擬授業の振り返りと課題等を整理すること（９０分）
10	模擬授業の実際Ⅳ（各教科等を合わせた指導）	対象児童生徒を想定して模擬授業の準備をしてくること。（９０分）	模擬授業の振り返りと課題等を整理すること（９０分）
11	学習指導案の作成Ⅳ ・各自で作成	事前に内容を確認し、調べておくこと。（９０分）	授業内容の概要と課題等を整理すること。（９０分）
12	学習指導案の作成Ⅴ ・各自で作成	事前に内容を確認し、調べておくこと。（９０分）	授業内容の概要と課題等を整理すること。（９０分）
13	模擬授業の実際Ⅴ（各教科等を合わせた指導）	対象児童生徒を想定して模擬授業の準備をしてくること。（９０分）	模擬授業の振り返りと課題等を整理すること（９０分）
14	模擬授業の実際Ⅵ（各教科等を合わせた指導）	対象児童生徒を想定して模擬授業の準備をしてくること。（９０分）	模擬授業の振り返りと課題等を整理すること（９０分）
15	模擬授業のまとめと今後の課題 ・振り返りレポート	模擬授業の反省点等を明確にして発表できるよう準備してくること。（９０分）	授業内容の概要と課題等を整理すること。（９０分）
16	事前指導のまとめ（フィードバックと身に付く力の検証） ＊学校視察 授業改善アンケートの実施	講義等の内容を整理しておくこと。（９０分）	講義内容を整理すること。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際経営論 （科目ナンバリング：MAN423025，MAN523027　　）				
授業担当者 （所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）	研究室等所在	２号館６階		
単位数	2　（単位認定責任者：　信濃　吉彦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

国際経営の歴史的変化、全体像、国際経営の成果、課題について学ぶ。国際企業の社会的責任や役割、
グローバル企業として成長していく為の資質を考え身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

国際経営についての基礎的知識の修得。

授業全体の内容と概要

国際経営について座学で学び、実際の動きや将来の課題等について調査学習を行い全員で最善策を考える。

授業の方法

板書、PCを用い、講義形式・学生参加型授業を行う。　定期試験の解説等のフィードバック（テストリヴュー）を実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

本科目は出席を重視する。テキスト、ノート、筆記用具を持参しない学生は欠席とする。中間テストはこれを行わない。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（商業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

成績評価には試験日を含めて最低１１回以上の出席が必要です。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	２０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
参加型授業への取り組み姿勢	大いに意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表も多く積極的だった。	意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表に努め積極的だった。	ある程度意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。やや積極的だった。	あまり意欲・関心・興味が感じられなかった。無難に授業を消化していた。やや積極性に欠けていた。	全く意欲・関心・興味が感じられなかった。遅刻・欠席が目立った。積極性に欠けていた。
知識	試験の成績９割以上。用語・理論共によく理解していた。	試験の成績８割以上。用語・理論を理解していた。	試験の成績７割以上。用語・理論をある程度理解していた。	試験の成績６割以上。用語・理論の理解が浅かった。	試験の成績６割以下。用語・理論の理解ができていなかった。
思考力・表現力	思考力に長けている。表現方法も豊かで自分の考えを正確に伝えることができていた。	思考力・表現能力共に良。自分の考えを適切に伝えることができていた。	思考力・表現力共に普通。自分の考えを伝えることができていた。	思考力・表現力共に若干弱かった。自分の考えを伝えるのに苦労していた。	思考力・表現力共に弱い。自分の考えを正確に伝えることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際経営論 （科目ナンバリング：MAN423025，MAN523027　　）				
授業担当者 （所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　信濃　吉彦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『「はじめての国際経営」』	中川　功一，林　正　他	有斐閣ストゥディア	2015	9784641150171	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業全般、評価方法についてガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 国際経営とは何か　① 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読むこと。（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
2	国際経営とは何か　② 海外進出の理由	指定されたページを読み予習する。（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
3	海外直接投資の理論	指定されたページを読み予習する。（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
4	多国籍企業による国際競争の歴史　① 多国籍企業の栄枯盛衰	指定されたページを読み予習する。（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
5	多国籍企業による国際競争の歴史　② 第二次世界大戦前後	指定されたページを読み予習する。（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
6	多国籍企業の組織デザイン　① 組織デザインから見えること	指定されたページを読み予習する。（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
7	多国籍企業の組織デザイン　② 多国籍企業の戦略と組織	指定されたページを読み予習する。（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
8	海外子会社の経営　①	指定されたページを読み予習する。（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
9	海外子会社の経営　② 海外子会社が担う多様な役割	指定されたページを読み予習する。（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
10	国際マーケティング　① マーケティングとは何か	指定されたページを読み予習する。（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
11	国際マーケティング　② 国際マーケティングのプロセス	指定されたページを読み予習する。（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
12	ものづくりの国際拠点展開　① 単独海外生産拠点の設立・運営	指定されたページを読み予習する。（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
13	ものづくりの国際拠点展開　② 国際生産ネットワーク	指定されたページを読み予習する。（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
14	国際的な人的資源管理　① グローバル人材の時代 ノートセチェック	指定されたページを読み予習する。（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
15	国際的な人的資源管理　② 海外駐在員のマネジメント ノートチェック＆授業改善アンケートの実施 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	指定されたページを読み予習する。（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
16	総合評価　定期試験６０分、総評他３０分	総復習を行い試験に備える。（９０分）	必ず振り返りを行う。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目 展開科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	産業社会論 （科目ナンバリング：SOC422043，SOC522042　　）				
授業担当者 （所属・職名）	山本　一彦（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　山本　一彦　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

近代産業社会はどのように成り立ってきたのか、その構造と特質はどのようなものか、また、現代の産業社会の変化について考察する力を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

産業社会に関する理論や実態について単に知識を習得するだけでなく、高度産業化の過程をわれわれの日常生活との多面的な関わりでとらえ、批判的に考察する姿勢を持てるようになることが目標となる。

授業全体の内容と概要

まず、産業革命によって近代産業社会が生み出されたこと、近代化と産業化の関係と矛盾などについて学ぶ。次に、産業化は社会をどのように変えたかを理解し、２０世紀半ば以降の第三世界の産業化にも触れる。そして、現代の産業社会の変化はわれわれの生活に何をもたらしているかを探り、新しい生産世界について展望し、考察する。

授業の方法

授業は現代のさまざまな事例を素材としながら講義形式で行ない、必要な場合には資料を配布する。単元・項目によっては受講者の見解を知るための小文を提出してもらい、授業で概要を発表してフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

さまざまなテーマについて自ら考える「主体的・能動的」な姿勢での受講を求める。本試験・追再試験結果が保留の場合、レポート課題の提出が必要。再試験合格の場合、評価はＣとする。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
９０%	０%	０%	０%	０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識	定期試験における基礎事項該当部分で９０%以上の正答があった。	同部分で８０%以上９０%未満の正答であった。	同部分で７０%以上８０%未満の正答であった。	同部分で６０%以上７０%未満の正答であった。	同部分の正答が６０%に満たなかった。
思考力・判断力等	脱工業化概念を軸にして、現代産業社会の構造的特質を充分に考察できていた。	左記の事項について概ね考察できていた。	左記の事項について広く一般的水準の考察に達していた。	左記の事項についての考察が最低限の水準に留まっていた。	考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。
高度産業社会への分析力・主体性等	近代産業社会が脱工業化社会・脱産業社会へ変化してきたことに伴うさまざまな社会的問題への充分な主体的分析ができていた。	左記の事項について概ね考察できていた。	左記の事項について広く一般的水準の考察に達していた。	左記の事項についての考察が最低限の水準に留まっていた。	考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目 展開科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	産業社会論 （科目ナンバリング：S0C422043，S0C522042　　）				
授業担当者 （所属・職名）	山本　一彦（経営学科・特任教授）	研究室等所在	２号館８階		
単位数	2　（単位認定責任者：　山本　一彦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	※科目ガイダンス‥‥全体概要、目的とねらい、履修上の注意、評価方法、シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）、前年度授業アンケートの結果概要説明	シラバス内容の事前確認（９０分）	目的とねらいについての復習・確認　（９０分）
2	Ⅰ．近代化と産業社会の成立 ‥‥インダストリアリズムの誕生	産業社会とは何かに関する事前考察　（９０分）	近代化における産業化・工業化についての復習・理解（９０分）
3	Ⅱ．産業社会の構造 ‥‥基礎社会の衰耗、エンプロイー化 市場化、組織化	産業化・工業化が社会に何をもたらしたかの事前考察（９０分）	産業化・工業化による社会変動についての復習・理解（９０分）
4	Ⅲ．高度産業社会への移行 １．脱工業化社会の到来 （１）産業構造・職業構造の変化	現代産業社会の特質に関する事前考察　（９０分）	脱工業化・脱産業化の意味と趨勢についての復習・理解（９０分）
5	Ⅲ．高度産業社会への移行 １．脱工業化社会の到来 （１）産業構造・職業構造の変化	現代の産業構造・職業構造の特質に関する事前考察（９０分）	産業・職業の構造変化による働くことの変化についての復習・理解（９０分）
6	Ⅲ．高度産業社会への移行 １．脱工業化社会の到来 （２）知識集約化	高度産業化段階における知識集約化に関する事前考察（９０分）	知識集約社会・知識基盤社会についての復習・理解　（９０分）
7	Ⅲ．高度産業社会への移行 １．脱工業化社会の到来 （３）資本主義の文化的矛盾	現代産業社会の問題点についての事前考察　（９０分）	解決すべき問題の復習・確認（９０分）
8	Ⅲ．高度産業社会への移行 ２．生産の高度化と労働・職業の変容 （１）グローバリゼーションと産業・地域	グローバリゼーションとはどのような過程かについての事前考察（９０分）	グローバリゼーションによる産業・地域社会の変化についての復習・理解（９０分）
9	Ⅲ．高度産業社会への移行 ２．生産の高度化と労働・職業の変容 （２）産業官僚制と日本的経営システム	近代社会の官僚制とは何かについての事前考察（９０分）	近代組織が官僚制的であることの復習・確認　（９０分）
10	Ⅲ．高度産業社会への移行 ２．生産の高度化と労働・職業の変容 （２）産業官僚制と日本的経営システム	産業活動における企業組織と官僚制に関する事前考察（９０分）	産業官僚制とは何かについての復習・理解　（９０分）
11	Ⅲ．高度産業社会への移行 ２．生産の高度化と労働・職業の変容 （２）産業官僚制と日本的経営システム	日本的経営システムの特質についての事前考察（９０分）	日本的経営システムの非官僚制的側面についての復習・理解（９０分）
12	Ⅲ．高度産業社会への移行 ２．生産の高度化と労働・職業の変容 （２）産業官僚制と日本的経営システム	日本的経営システムが迫られている変化についての事前考察（９０分）	日本的経営システムに対する評価の変遷と環境変化についての復習・理解（９０分）
13	Ⅲ．高度産業社会への移行 ２．生産の高度化と労働・職業の変容 （３）就業者のネットワーク	日本的経営システムが迫られている変化についての事前考察（９０分）	働く者の連帯とネットワークのあり方に関する復習・理解（９０分）
14	Ⅳ．新しい「生産世界」へ ‥‥産業主義を超えて	産業社会を超える社会のあり方についての事前考察（９０分）	インダストリアリズムとは何であったかの復習・再確認・理解（９０分）
15	※総括と試験概要説明、授業アンケート実施 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	ノートの整理と重要事項のチェック（９０分）	評価に関する確認・理解 試験対応のための復習・理解（９０分）
16	※試験および解説 ６０分の試験終了後、残りの３０分で解説	試験対応準備（９０分）	解説内容の確認・理解（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	人文地理学Ⅰ （科目ナンバリング：HUG122125, ）				
授業担当者 （所属・職名）	塩崎　大輔（社会福祉学科・専任講師）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	2 （単位認定責任者： 塩崎　大輔 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

本授業は地理学の基礎を学ぶことによって人と土地との関係を考えるという地理学的なモノの見方を身につける。また地域と災害の関係を地理学的に学ぶことで、地域や教育に活用できるスキルを身につけることを目的とする。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ3、ＤＰ４、ＤＰ4に対応する。

到達目標

１．人文地理学の基礎を理解し、基本的な知識を説明できること。
２．災害関連情報を収集し、活用するスキルを身に付ける。

授業全体の内容と概要

地理学とは土地と人との関係を議論する学問である。高等学校教育までの地理教育は「どこ」に「なに」があるのかを知識として学んできた。この授業ではそこから一歩先に進み「なぜ」そこにあるのかを考える力を養うことを目的とする。
本講義は地理学の中でも人文地理学の基礎を解説する。地理学は学際的な分野と言われ、その研究対象は幅広い。そこでまず地理学の中でも農業、工業、商業、都市、開発という各分野の概説を日本の事例を中心に解説し、これまでの地理学の成果を学んでいく。
「ＳＤＧs４．質の高い教育をみんなに」および「ＳＤＧs１１．住み続けられるまちづくりを」の関連科目。

授業の方法

授業は講義形式で行い、スライド資料及び映像資料を使用して行う。また授業中・授業後に適宜、課題に沿った作業・レポート作成を行う。その過程で国土地理院地理院地図や地域分析ソフトRESASといった、WebGISの活用方法を解説する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業内で適宜連絡する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（社会・地理歴史）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	５０%	０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
人文地理学の理解	レポート課題において、９割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、８割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、７割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、６割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、６割以上の得点を取ることができなかった。
多面的多角的な視点	右の記述を高いレベルで実現できた。	人文地理的要因（工業・商業・都市・観光・開発等）を深く理解することができた。	人文地理的要因（工業・商業・都市・観光・開発等）を理解することができた。	人文地理的要因（工業・商業・都市・観光・開発等）をやや理解することができた。	人文地理的要因（工業・商業・都市・観光・開発等）を理解することができなかった。
災害情報の活用	災害情報を地理的に理解し、高いレベルで活用することができた。	災害情報を地理的に理解し、活用することができた。	災害情報を地理的に理解することができた。	災害情報を地理的にやや理解することができた。	災害情報を地理的に理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	人文地理学Ⅰ （科目ナンバリング：HUG122125,　　）				
授業担当者 （所属・職名）	塩﨑　大輔（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　塩﨑　大輔　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業の内容・進め方・評価の仕方ガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	事前にシラバスを読んでいること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
2	地理学概説①　地理学の成り立ち	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
3	地理学概説②　系統地理学と地誌学	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
4	立地論	レポート課題等を作成すること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
5	工業地理学	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
6	都市地理学	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
7	商業地理学	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
8	観光地理学	レポート課題等を作成すること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
9	開発地理学	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
10	地図の歴史	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
11	地理学とフィールドワーク	レポート課題等を作成すること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
12	地理学と災害	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
13	北海道における災害リスク	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
14	地域防災とハザードマップ	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
15	これからの地理学	レポート課題等を作成すること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
16	まとめ、課題（レポートなど）の解説 授業改善アンケートの実施 全体を講評し、フィードバックする 科目を修了して『身に付く力』についての検証	事前にテキストの範囲を読んでおくこと。（９０分）	まとめの振り返り。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク演習(専門)III （科目ナンバリング：SWS124028　　）				
授業担当者 （所属・職名）	・大島　康雄（社会福祉学科・准教授）・櫻井　美帆子(社会福祉学科・准教授)・杉本　大輔（社会福	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　大島　康雄　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

１．ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てて理解する。
２．社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を理解する。
３．支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。
４．地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。
５．ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。
６．実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。
７．ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ・Ⅱで学んだ内容や技術を基礎に、実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３，DP４，DP５に対応する。

到達目標

１．ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てて理解できる。
２．社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を理解できる。
３．支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解できる。
４．地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解できる。
５．ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解できる。
６．実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解できる。
７．ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ・Ⅱで学んだ内容や技術を基礎に、実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解できる。

授業全体の内容と概要

１．ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てて学ぶ。
２．社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力について学ぶ。
３．支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に学ぶ。
４．地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に学ぶ。
５．ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に学ぶ。
６．実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に学ぶ。
７．相談援助演習(専門)Ⅰ・Ⅱで学んだ内容や技術を基礎に、実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に学ぶ。
８．「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

１．授業形態は演習形式で、適宜、グループワークやディスカッションを含む。
２．適宜、質疑応答を交える。
３．不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
４．ソーシャルワーカーのお話を聞く授業等もある。
５．大学のペーパレス化に伴い、資料はなるべく少なく対応する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１．必要な資料等は適宜配布する。
２．配布資料は必ず持参すること。
３．授業は８回であり、５回は出席すること。
４．自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。
５．ソーシャルワーカーや学生・教員のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程，精神保健福祉士国家試験受験資格課程、保育士課程科目（選択）

評価方法・基準

評価前提条件

１．出席回数は最低５回なければ単位の認定はできない。
２．その他については、８０%は出席４０%、演習における話し合いの態度や発言の取り組み態度４０%で評価します。２０%は授業内で作成した作成物で評価します。
３．成績評価分布の目標について「S」は履修者の１０%以内とし、「A」と「S」を含めて履修者の４０%以内とする。
但し、履修者が１０人未満の授業科目は、授業形態等を考慮し、成績評価の割合の対象外とする（絶対評価と相対評価を併用する）。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	２０%	０%	%	８０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ソーシャルワークにおける自己理解、他者理解の重要性を理解する－実習経験をふまえー	自己覚知の概念、自己開示の実践、他者理解における実践理論を言語で明確に説明できた－実習経験をふまえー	自己覚知の概念、他者理解における実践理論を言語で明確に説明できた－実習経験をふまえー	自己覚知の概念、自己開示の実践を言語で明確に説明できた－実習経験をふまえー	自己覚知の概念を言語で明確に理解できた－実習経験をふまえー	左記の専門用語を一つも説明できなかった－実習経験をふまえー
ソーシャルワークにおける面接技法を理解する－実習経験をふまえー	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスと重要タームをマイクロカウンセリング技法の用語を用いて説明できた－実習経験をふまえー	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスの重要タームを説明できた－実習経験をふまえー	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスを説明できた－実習経験をふまえー	面接における身体技法を実践できた－実習経験をふまえー	左記の専門タームおよび実践技法を一つも説明及び実践できなかった－実習経験をふまえー
ソーシャルワークにおけるアセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価について理解する－実習経験をふまえー	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価について明確に言語で説明でき、且つ各々の矢｜区別りをロールプレイングで実践できた－実習経験をふまえー	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価における各々の役割をロールプレイングで実践できた－実習経験をふまえー	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、評価、モニタリングの理論と重要性を言語で明確に説明できた－実習経験をふまえー	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価の重要性を説明できた－実習経験をふまえー	左記の用語の説明およびロールプレイング実践を一つもできなかった－実習経験をふまえー

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ演習(専門)III (科目ナンバリング：SWS124028　　)				
授業担当者 (所属・職名)	・大島　康雄（社会福祉学科・准教授）・櫻井　美帆子(社会福祉学科・准教授)・杉本　大輔（社会福	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　大島　康雄　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途指示します』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途指示します』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケートの結果反映にについて。シラバスの説明。 科目終了時に身につく力・・・ジェネリック・ソーシャルワークの視点、特に、ミクロ・メゾ・マクロ・エクソ・クロノからのソーシャルワーク事象の観察視点の実践力。	資料を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
2	ソーシャルワークの展開過程～児童分野のミクロの事例を用いて－実習経験をふまえー	資料を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
3	ソーシャルワークの展開過程～児童分野のメゾ・マクロの事例を用いて－実習経験をふまえー	資料を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
4	ソーシャルワークの展開過程～地域分野・高齢分野のミクロの事例を用いて－実習経験をふまえー	資料を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
5	ソーシャルワークの展開過程～地域分野・高齢分野のメゾ・マクロの事例を用いて－実習経験をふまえー	資料を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
6	ソーシャルワークの展開過程～障害分野のミクロの事例を用いて－実習経験をふまえー	資料を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
7	ソーシャルワークの展開過程～障害分野のメゾ・マクロの事例を用いて－実習経験をふまえー	資料を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
8	ソーシャルワークの展開過程～児童分野，地域分野・高齢分野・障害分野をソーシャルワークのグローバル定義を用いて－実習経験をふまえー 身につく力の検証・・・ソーシャルワーク各分野における実践事例について、ジェネリック・ソーシャルワークの視点を用いてレ	資料を事前に読んでおくこと（９０分）	全てのノート整理・全ての自己の言動の振り返り（90分）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神医学と精神医療Ⅰ （科目ナンバリング：PSS123034　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊東　隆雄（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　伊東　隆雄（社会福祉学科・非常勤講師）　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健指定医、精神科専門医として、大学病院や総合病院精神科での豊富な臨床経験に基づいて、授業を展開する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

精神医学の歴史や現状を理解する。脳および神経の解剖と生理を理解する。さらに、代表的な精神疾患を理解し、精神を病む人間存在を支援するための福祉の理念を論じる。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

１．精神医学，精神医療の歴史を説明する。２．脳および神経の生理・解剖の基礎を説明する。３．代表的な精神障害について説明する。

授業全体の内容と概要

精神保健福祉士の業務に必要な精神医学の知識の理解、とくに主要な精神疾患の症状，経過，治療等についての理解を深める。
「ＳＤＧ３．すべての人に健康と福祉を」の関連科目

授業の方法

講義形式で各授業を進行する。教科書の概説および毎回、関連する資料を配布し説明する。適宜グループワークやディスカッションを行い理解を深める。授業の冒頭において、前回のまとめを行う。わからない部分については質問を受けつける。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

必ず予習をして、積極的に質問して、わからないことをその場できちんと理解してほしい。授業の冒頭で前回のまとめを行う。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１０回以上。
筆記試験で規定の成績を得たもの。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
１００％	０％	０％	０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
精神医学の歴史についての理解が目標のレベルを達成しているか。	精神医学、精神医療の歴史を、批判的に考察して、支援のあり方について説明できた。	精神医学、精神医療の歴史から、支援のあり方を説明できた。	精神医学、精神医療の歴史の詳細を説明できた。	精神医学，精神医療の歴史の概要を説明できた。	精神医学，精神医療の歴史を説明できなかった。
脳や神経の解剖学と生理学の理解が目標のレベルを達成しているか。	脳の解剖学と生理学について理解し、精神症状との関連を説明できた。	脳の解剖学と生理学について理解し、精神疾患の病態を説明できた。	脳の解剖学と生理学についての基本的な知識について説明できた。	脳の解剖学についての基礎的な知識を説明できた。	脳の解剖学について説明できなかった。
代表的な精神疾患についての理解が目標のレベルを達成しているか。	代表的な精神疾患の原因、診断、治療および福祉的支援のあり方について説明できた。	代表的な精神疾患の原因、診断、治療の詳細について説明できた。	代表的な精神疾患の診断と治療の概要について説明できた。	代表的な精神疾患の概要について説明できた。	代表的な精神疾患について説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神医学と精神医療Ⅰ （科目ナンバリング：PSS123034　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊東　隆雄（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2	（単位認定責任者：　　伊東　隆雄（社会福祉学科・非常勤講師）　　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健指定医、精神科専門医として、大学病院や総合病院精神科での豊富な臨床経験に基づいて、授業を展開する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新精神保健福祉士養成講座第1巻　精神医学と精神医療』	日本精神保健福祉士養成校協会＝編集	中央法規出版	２０２１年	978-4-8058-8252-8	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション　シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 「科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
2	精神医学、精神医療の歴史	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
3	脳および神経の生理・解剖	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
4	精神医学の概念	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
5	精神障害の成因と分類	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
6	診断法①　診断の手順と方法	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
7	診断法②　精神症状と状態像	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
8	診断法③　心理検査と身体的検査	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
9	代表的な精神障害①　症状性を含む器質性精神障害（老人性認知症を含む）	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
10	代表的な精神障害②　精神作用物質使用による精神および行動の障害	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
11	代表的な精神障害③　統合失調症，統合失調型障害および妄想性障害	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
12	代表的な精神障害④　気分（感情）障害	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
13	代表的な精神障害⑤　神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
14	代表的な精神障害⑥　生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
15	まとめ	講義全体でわからないことがあれば質問をまとめておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
16	定期試験 ６０分の試験終了後，残りの３０分で解説しフィードバックをする 授業改善アンケートの実施、科目を修了して『身に付く力』についての検証	試験に備えて講義全体のふりかえりを行うこと（９０分）	試験および解説を受けて講義全体をふりかえり理解を深めること（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助演習III （科目ナンバリング：SWS122046　　）				
授業担当者 （所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）、大島　康雄（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　　上原　正希　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

１．精神保健福祉士に必要な専門的知識・技術・実践ができる。
２．記録や報告書等の作成能力を高め，実践現場で通用する社会性・主体性を身につけて実践できる。
３．福祉実践者として自己覚知を深め，対象者理解と地域での生活支援について理解できる。

授業全体の内容と概要

１．　総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例を体系的に学ぶ。
２．個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を中心とする演習形態により学ぶ。
３．「SDG３．すべての人に健康と福祉を」の関連科目

授業の方法

１．個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を中心とする演習形態により行う。
２．教科書および配布資料を使用し、ポイントとなるべき箇所は説明、板書を行う。
３．質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。
４．Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。
５．基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１．教科書は毎回持参すること。
２．演習は、自分で考え実践すること、また、仲間と協同して取り組むことが重要であることから、積極的な発言や参加を求める。
３．講義、演習を含めた形態とするが、施設見学や外部講師等による講義等も実施予定である。学生である前提に社会人としてのマナーを意識し、日頃の自らの言動に気を付けて行動すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は１１回以上。成績は、レポート（５０点）、平常点（５０点）で総合して評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を概ね理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できなかった。
思考力・考察力	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について概ね考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できなかった。
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを概ね説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助演習III （科目ナンバリング：SWS122046　　）				
授業担当者 （所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）、大島　康雄（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　　上原　正希　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新　精神保健福祉士養成講座７　ソーシャルワーク演習［精神専門］』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	２０２１	978-4-8058-8258-0	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（授業内容・シラバスの説明） 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	復習・資料整理を行うこと（９０分）
2	退院支援、地域移行・定着支援に関する考察	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	復習・資料整理を行うこと（９０分）
3	退院支援、地域移行・定着支援に関するロールプレイ	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	復習・資料整理を行うこと（９０分）
4	地域精神保健に関する考察	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	復習・資料整理を行うこと（９０分）
5	地域精神保健に関するロールプレイ	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	復習・資料整理を行うこと（９０分）
6	精神科リハビリテーションに関する考察	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	復習・資料整理を行うこと（９０分）
7	精神科リハビリテーションに関するロールプレイ	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	復習・資料整理を行うこと（９０分）
8	インテーク・アセスメント・プランニング関する考察	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	復習・資料整理を行うこと（９０分）
9	インテーク・アセスメント・プランニングに関するロールプレイ	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	復習・資料整理を行うこと（９０分）
10	インターベンション・モニタリング・エバリュエーションに関する考察	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	復習・資料整理を行うこと（９０分）
11	インターベンション・モニタリング・エバリュエーションに関するロールプレイ	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	復習・資料整理を行うこと（９０分）
12	ケアマネジメントに関する考察	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	復習・資料整理を行うこと（９０分）
13	ケアマネジメントに関するロールプレイ	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	復習・資料整理を行うこと（９０分）
14	チームアプローチに関する考察	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	復習・資料整理を行うこと（９０分）
15	チームアプローチに関するロールプレイ	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	復習・資料整理を行うこと（９０分）
16	まとめ（具体的習得知識・技術） 授業全体解説 科目を修了して『身に付く力』についての検証 授業全体のフィードバック	授業を振返り学習内容をまとめておくこと 科目が修了するにあたり『身に付く力』について自分で検証をしておくこと（９０分）	復習・資料整理を行うこと。 科目が修了して『身に付く力』について自分で振り返ること（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ （科目ナンバリング：SWS123048　　）				
授業担当者 （所属・職名）	大島　康雄（社会福祉学科・准教授）、西野　克俊（社会福祉学科・准教授）、畠山　明子（社会福祉	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2　（単位認定責任者：　西野　克俊　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実践経験がある教員がその経験を活かして、基礎能力・技術等を実践的に指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

① ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習の意義について理解する。
② 精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。
③ ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。
④ 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
⑤ 具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

授業全体の内容と概要

①障害福祉サービス事業所や行政機関等、及び精神科病院等の医療機関理解のための個別指導及び集団指導を受ける。
②精神保健福祉における精神保健福祉士の倫理・責務・義務理解のための個別指導及び集団指導を受ける。
「SDG３．すべての人に健康と福祉を」の関連科目領域

授業の方法

①個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を中心とする演習形態により行う。
②教科書および配布資料を使用し、ポイントとなるべき箇所は説明、板書を行う。
③質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。
④Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。
⑤基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①精神保健福祉援助実習指導Ⅰを修了していることを前提とする。
②テキスト及び配布資料を使用し、ポイントとすべき箇所は説明、板書を行う。
③Microsoft　Teams/Formsの諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	０%	１００%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を概ね理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できなかった。
思考力・考察力	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について概ね考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できなかった。
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを概ね説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ （科目ナンバリング：SWS123048　　）				
授業担当者（所属・職名）	大島　康雄（社会福祉学科・准教授）、西野　克俊（社会福祉学科・准教授）、畠山　明子（社会福祉	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2　（単位認定責任者：　西野　克俊　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実践経験がある教員がその経験を活かして、基礎能力・技術等を実践的に指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新　精神保健福祉士養成講座８　ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習［精神専	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	２０２１	978-4-8058-8259-7	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映及び科目を終了して『身に付く力』についての説明	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと。（９０分）
2	ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導における個別指導及び集団指導の意義	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと。（９０分）
3	精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む。）に関する基本的な理解	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと。（９０分）
4	精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む。）に関する基本的な理解	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと。（９０分）
5	実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的な理解	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと。（９０分）
6	精神疾患や精神障害のある当事者の語りに触れる体験	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと。（９０分）
7	精神疾患や精神障害のある当事者の語りに触れる体験	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと。（９０分）
8	精神疾患や精神障害のある当事者の語りに触れる体験	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと。（９０分）
9	精神疾患や精神障害のある当事者の語りに触れる体験	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと。（９０分）
10	現場体験学習及び見学実習	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと。（９０分）
11	現場体験学習及び見学実習	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと。（９０分）
12	現場体験学習及び見学実習	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと。（９０分）
13	実習先で必要とされる精神保健福祉士としてのソーシャルワークに係る専門的知識と技術に関する理解	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと。（９０分）
14	実習先で必要とされる精神保健福祉士としてのソーシャルワークに係る専門的知識と技術に関する理解	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと。（９０分）
15	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと。（９０分）
16	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解 科目を終了して『身に付く力』についての検証 授業評価アンケートの実施、実施した授業のフィードバック	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本政治史 （科目ナンバリング：POL122120　　）				
授業担当者 （所属・職名）	後藤　啓倫（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　後藤　啓倫　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

近現代日本政治外交の歴史的展開に関する基本的な知識を身につけ、説明することができる。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

①近現代日本の政治外交史に関する基礎事実を理解することができる。
②事実に基づいて日本政治外交史の展開を説明することができる。
③現代日本政治外交の論点を歴史的に考察することができる。

授業全体の内容と概要

本授業では、近現代日本政治外交の歴史的展開について解説する。とくに、戦争や植民地支配に関する事実と背景を、東アジア諸国との相互関係に配慮しながら解説していく。近代日本の政治と東アジア諸国との関係を学ぶことで現在の日本を取り巻く国際環境の成り立ちを理解するとともに、自国だけでなく他国の立場からもみた歴史を学ぶ。
「SDGs10.人や国の不平等をなくそう」、「SDGs16.平和と公正をすべての人に」の関連授業。

授業の方法

授業は講義形式で行う。書き込み式のレジュメを配布して補足の説明を行う。
書き込む内容は板書またはパワーポイントで示す。
教科書を使用しないので講義をしっかり聴いてメモをとること。
毎回の感想・質問等を記入するリアクションペーパーを配布し、次回授業時にフィードバックを行う。
TeamsやFormsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業中の私語、スマホの使用は厳禁。受講マナーを守ること。
正当な理由のない２０分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻３回で欠席1回とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（社会・地理歴史）の選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
近現代日本の政治外交史に関する基礎事実を理解することができる。	近現代日本の政治外交史に関する基礎事実を高いレベルで理解することができた。	近現代日本の政治外交史に関する基礎事実を正確に理解することができた。	近現代日本の政治外交史に関する基礎事実をある程度理解することができた。	近現代日本の政治外交史に関する基礎事実を理解することができた。	近現代日本の政治外交史に関する基礎事実を理解することができなかった。
事実に基づいて日本政治外交史の展開を説明することができる。	事実に基づいて日本政治外交史の展開を高いレベルで説明することができた。	事実に基づいて日本政治外交史の展開を正確に説明することができた。	事実に基づいて日本政治外交史の展開をある程度説明することができた。	事実に基づいて日本政治外交史の展開を説明することができた。	事実に基づいて日本政治外交史の展開を説明することができなかった。
現代日本政治外交の論点を歴史的に考察することができる。	現代日本政治外交の論点を高いレベルで歴史的に考察することができた。	現代日本政治外交の論点を十分に歴史的に考察することができた。	現代日本政治外交の論点をある程度歴史的に考察することができた。	現代日本政治外交の論点を歴史的に考察することができた。	現代日本政治外交の論点を歴史的に考察することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本政治史 （科目ナンバリング：POL122120　　）				
授業担当者 （所属・職名）	後藤　啓倫（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　後藤　啓倫　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						なし。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						適宜紹介する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおくこと（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
2	日本の近代化	授業中に示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
3	近代日本と東アジア国際秩序	授業中に示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
4	日清戦争と日露戦争	授業中に示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
5	韓国併合	授業中に示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
6	日本の植民地支配	授業中に示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
7	対中21カ条要求をめぐる日本と中国	授業中に示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
8	近代日本の政党政治	授業中に示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
9	ワシントン体制と日本	授業中に示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
10	満洲事変	授業中に示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
11	日中戦争	授業中に示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
12	アジア太平洋戦争	授業中に示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
13	戦時下の人々	授業中に示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
14	終戦過程	授業中に示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
15	授業のまとめ 授業改善アンケートの実施	授業中に示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
16	定期試験（試験６０分の試験終了後、残りの解説３０分で解説をし、フィードバックする） 科目を修了して『身に付く力』についての検証	試験の準備（９０分）	試験のふり返り（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本文化史 （科目ナンバリング：HIS122122　　）				
授業担当者 （所属・職名）	及川　琢英（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　　及川　琢英　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

人と猫との関わり合いという切り口を通して、日本の文化、人間社会のあり様を考察する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ３、ＤＰ４、DP5に対応する。

到達目標

１．テーマに沿った文献や資料を提示することができる。
２．文献を批判的に考察することができる。
３．考察した内容を適切に表現できる。

授業全体の内容と概要

１．人と動物との関わり合いの歴史について考察する。
２．日本独特の文化とは何かを考える。

授業の方法

受講者にはテキスト読解を担当してもらい、質疑応答を行う。またリアクションペーパーを書いて提出してもらい、次回にそれに対するコメントを行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎回配布する資料をしっかりと読み、読み切れなかった箇所に目を通して、次回の授業に臨むこと。
毎回のリアクションペーパー提出を持って出席に代える。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（社会・地理歴史）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	６０％	０％	０％	４０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
文献・資料の取り扱い	授業で配布された資料を整理し、 自分で文献や資料を広く入手するとともに、テーマに沿って適切に提示できていた。	授業で配布された資料を整理し、自分で文献や資料を図書館のみならず、広く入手して提示できていた。	授業で配布された資料を整理し、自分で文献や資料を図書館などで入手して提示できていた。	授業で配布された資料を整理できていた。	授業で配布された資料を整理できていなかった。
文献の批判的考察	テーマに沿って、資料を取捨選択して提示し、複数の観点から分析を行ったうえで、考察がなされていた。	テーマに沿って、資料を取捨選択して提示し、批判的な分析を行ったうえで、考察がなされていた。	テーマに沿って、資料を取捨選択して、適切な考察がなされていた。	テーマに沿って、資料を提示し、考察がなされていた。	テーマに沿った資料を提示しての考察がなされていなかった。
考察内容の表現	指示された枠組みに基づいて記述がなされ、資料の提示、記述を工夫するとともに、さらなる課題なども提示できていた。	指示された枠組みに基づいて記述がなされ、資料の提示、記述も工夫され、説得力があった。	指示された枠組みに基づいて記述がなされ、資料の提示も適切になされていた。	指示された枠組みに基づいて記述されていた。	指示された枠組みに基づいて記述されていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本文化史 （科目ナンバリング：HIS122122　　）				
授業担当者 （所属・職名）	及川　琢英（社会福祉学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　及川　琢英　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『猫が歩いた近現代』	真辺将之	吉川弘文館	2021		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション、シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』ついての説明	シラバスを読んでおく（９０分）	基礎的事項の確認（９０分）
2	猫の世界史1	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
3	猫の世界史2	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
4	江戸時代の猫	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
5	明治初期の認識	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
6	文筆家と猫	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
7	猫絵	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
8	猫の需要	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
9	猫獲り	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
10	虐待と愛護	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
11	震災と戦争	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
12	猫食い	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
13	猫文化	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
14	生活の変化	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
15	猫ブーム	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
16	猫の現代、授業改善アンケートの実施 フィードバック 科目を修了して『身に付く力』についての検証	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会思想史 （科目ナンバリング：SOC122121　　）				
授業担当者 （所属・職名）	後藤　啓倫（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　後藤　啓倫　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

ヨーロッパ社会に登場した思想の特徴と歴史的展開に関する基本的な知識を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

①ヨーロッパの社会思想に関する基礎的な概念を理解し、説明することができる。
②ヨーロッパ社会思想の歴史的な展開を説明することができる。
③現代社会について社会思想の概念を用いて考察することができる。

授業全体の内容と概要

社会とはどのようなもので、どうあるべきなのか。私たちは人生のどこかでこの問いに直面するだろう。この授業では、これからの社会を考えていくための思考の基礎体力を養うことを目標に、主にヨーロッパの社会思想家たちの考えを歴史的に学ぶ。思想家たちがどのような歴史的文脈のなかで、なぜ社会のことを考えたのかを振り返ることは、自分自身のあり方を振り返るきっかけとなるはずである。
「SDGs1.貧困をなくそう」、「SDGs10.人や国の不平等をなくそう」、「SDGs16.平和と公正をすべての人に」の関連授業

授業の方法

授業は講義形式で行う。書き込み式のレジュメを配布して補足の説明を行う。
書き込む内容は板書またはパワーポイントで示す。
教科書を使用しないので講義をしっかり聴いてメモをとること。
毎回の感想・質問等を記入するリアクションペーパーを配布配布し、次回授業時にフィードバックを行う。
TeamsやFormsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業中の私語、スマホの使用は厳禁。受講マナーを守ること。
正当な理由のない２０分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻３回で欠席1回とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（社会・地理歴史）の選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ヨーロッパの社会思想に関する概念を理解し、説明することができる。	社会思想に関する基礎的な概念を高いレベルで理解し、説明することができた。	社会思想に関する基礎的な概念を正確に理解し、説明することができた。	社会思想に関する基礎的な概念をある程度理解し、説明することができた。	社会思想に関する基礎的な概念を理解し、説明することができた。	社会思想に関する基礎的な概念を理解し、説明することができなかった。
ヨーロッパ社会思想の歴史的な展開を説明することができる。	ヨーロッパ社会思想の歴史的な展開を高いレベルで理解し、説明することができた。	ヨーロッパ社会思想の歴史的な展開を正確に理解し、説明することができた。	ヨーロッパ社会思想の歴史的な展開をある程度理解し、説明することができた。	ヨーロッパ社会思想の歴史的な展開を理解し、説明することができた。	ヨーロッパ社会思想の歴史的な展開を理解し、説明することができなかった。
現代社会について社会思想の概念を用いて考察することができる。	現代社会について社会思想の概念を用いて高いレベルで考察することができた。	現代社会について社会思想の概念を用いて十分に考察することができた。	現代社会について社会思想の概念を用いてある程度考察することができた。	現代社会について社会思想の概念を用いて考察することができた。	現代社会について社会思想の概念を用いて考察することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会思想史 （科目ナンバリング：SOC122121　　）				
授業担当者 （所属・職名）	後藤　啓倫（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　後藤　啓倫　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						なし。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						適宜紹介する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおくこと（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
2	社会思想史とは何か	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
3	民主主義とは何か	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
4	ソクラテス・プラトン	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
5	アリストテレス・ヘレニズム	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
6	ユダヤ教とキリスト	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
7	キリスト教の発展	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
8	中世ヨーロッパの社会思想	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
9	ルネサンスと宗教改革	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
10	ベーコン・デカルト	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
11	カント	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
12	ホッブズ・ロック・ルソー	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
13	アダム・スミス・マルクス	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
14	現代の社会思想	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
15	授業のまとめ 授業改善アンケートの実施	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
16	定期試験（試験６０分の試験終了後、残りの解説３０分で解説をし、フィードバックする） 科目を修了して『身に付く力』についての検証	試験の準備（９０分）	試験のふり返り（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	福祉士試験対策基礎講座Ⅰ （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）・杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　上原　正希　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

１．社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について理解する。
２．社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について理解する。
３．社会保障、心理学と心理的支援、社会学と社会システム、社会福祉の原理と政策、ソーシャルワークの基盤と専門職の5科目の重要な部分について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３、DP４、DP５に対応する(2025年度)。

到達目標

１．社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について理解することができる。
２．社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について理解することができる。
３．社会保障、心理学と心理的支援、社会学と社会システム、社会福祉の原理と政策、ソーシャルワークの基盤と専門職の5科目の重要な部分について理解することができる。

授業全体の内容と概要

１．社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について学ぶ。
２．社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について学ぶ。
３．社会保障、心理学と心理的支援、社会学と社会システム、社会福祉の原理と政策、ソーシャルワークの基盤と専門職の5科目の重要な部分について学ぶ。
４．「ＳＤＧ３．すべての人に健康と福祉を」「ＳＤＧ4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

１．授業形態は基本は「講義形式」であるが、グループで話し合うなどの作業を行うこともある。
２．国家試験に大切な重要カ所、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行う。
３．適宜質問を促し、質問に対応する。
４．自然災害等などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もあるが、しかし保育士養成課程学生については対面での実施となる。
５．ソーシャルワーカーなどの、お話を聞く授業等がある場合もある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１．教員や学生が板書した内容や演習で話し合った内容は、しっかりとノートに写し、毎回の授業後にノートの整理をする。
２．適宜質問に対応する。
３．自然災害等などの状況により、オンライン授業やオンデマンドなどに変更になる場合もある。しかし保育士養成課程学生については対面での実施となるため補講等を実施する。
４．ソーシャルワーカー等のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。
５．大学のペーパレス化に伴い、教科書は必須ですので絶対に購入してください。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

１．教科書は必ず持参する。
２．必要な資料等は適宜配布する。
３．出席回数は最低１０回なければ試験を受験できない。
４．その他については、出席状況３０%の評価である。
５．成績評価分布の目標について「S」は履修者の１０%以内とし、「A」と「S」を含めて履修者の４０%以内とする。
但し、履修者が１０人未満の授業科目は、授業形態等を考慮し、成績評価の割合の対象外とする（絶対評価と相対評価を併用する）。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	０%	０%	０%	３０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について理解することができる。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について、理解を深めた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について、ほぼ理解を深めた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について、やや理解を深めた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について、理解することができた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について、理解することができなかった。
社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について理解することができる。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について、理解を深めた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について、ほぼ理解を深めた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について、やや理解を深めた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について、理解することができた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について、理解することができなかった。
社会保障、心理学と心理的支援、社会学と社会システム、社会福祉の原理と政策、ソーシャルワークの基盤と専門職の5科目の重要な部分について理解することができる。	社会保障、心理学と心理的支援、社会学と社会システム、社会福祉の原理と政策、ソーシャルワークの基盤と専門職の5科目の重要な部分について、理解を深めた。	社会保障、心理学と心理的支援、社会学と社会システム、社会福祉の原理と政策、ソーシャルワークの基盤と専門職の5科目の重要な部分について、ほぼ理解を深めた。	社会保障、心理学と心理的支援、社会学と社会システム、社会福祉の原理と政策、ソーシャルワークの基盤と専門職の5科目の重要な部分について、やや理解を深めた。	社会保障、心理学と心理的支援、社会学と社会システム、社会福祉の原理と政策、ソーシャルワークの基盤と専門職の5科目の重要な部分について、理解することができた。	社会保障、心理学と心理的支援、社会学と社会システム、社会福祉の原理と政策、ソーシャルワークの基盤と専門職の5科目の重要な部分について、理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	福祉士試験対策基礎講座Ⅰ （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）・杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　上原　正希　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途指示します。』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途指示します。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（授業改善アンケート結果反映及びシラバスの説明） 国家試験の現状について 科目を修了して『身に付く力』についての説明	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
2	福祉士試験共通対策基礎講座～社会保障　前編	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
3	福祉士試験共通対策基礎講座～社会保障　後編	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
4	基礎力テスト（社会保障編） 基礎力テストのフィードバック	テスト勉強をしておくこと（９０分）	テストの振り返りを行うこと（９０分）
5	福祉士試験共通対策基礎講座～心理学と心理的支援　前編	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
6	福祉士試験共通対策基礎講座～心理学と心理的支援　後編	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
7	基礎力テスト（心理学と心理的支援） 基礎力テストのフィードバック	テスト勉強をしておくこと（９０分）	テストの振り返りを行うこと（９０分）
8	福祉士試験共通対策基礎講座～社会学と社会システム　前編	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
9	福祉士試験共通対策基礎講座～社会学と社会システム　後編	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
10	基礎力テスト（社会学と社会システム） 基礎力テストのフィードバック	テスト勉強をしておくこと（９０分）	テストの振り返りを行うこと（９０分）
11	福祉士試験共通対策基礎講座～社会福祉の原理と政策　前編	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
12	福祉士試験共通対策基礎講座～社会福祉の原理と政策　後編	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
13	基礎力テスト（社会福祉の原理と政策） 基礎力テストのフィードバック	テスト勉強をしておくこと（９０分）	テストの振り返りを行うこと（９０分）
14	福祉士試験共通対策基礎講座～ソーシャルワークの基盤と専門職　前編	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
15	福祉士試験共通対策基礎講座～ソーシャルワークの基盤と専門職　後編	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
16	基礎力テスト（ソーシャルワークの基盤と専門職） 基礎力テストのフィードバック 授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	テスト勉強をしておくこと 科目が修了するにあたり『身に付く力』について自分で検証をしておくこと（９０分）	テストの振り返りを行うこと 科目が修了して『身に付く力』について自分で振り返ること（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			